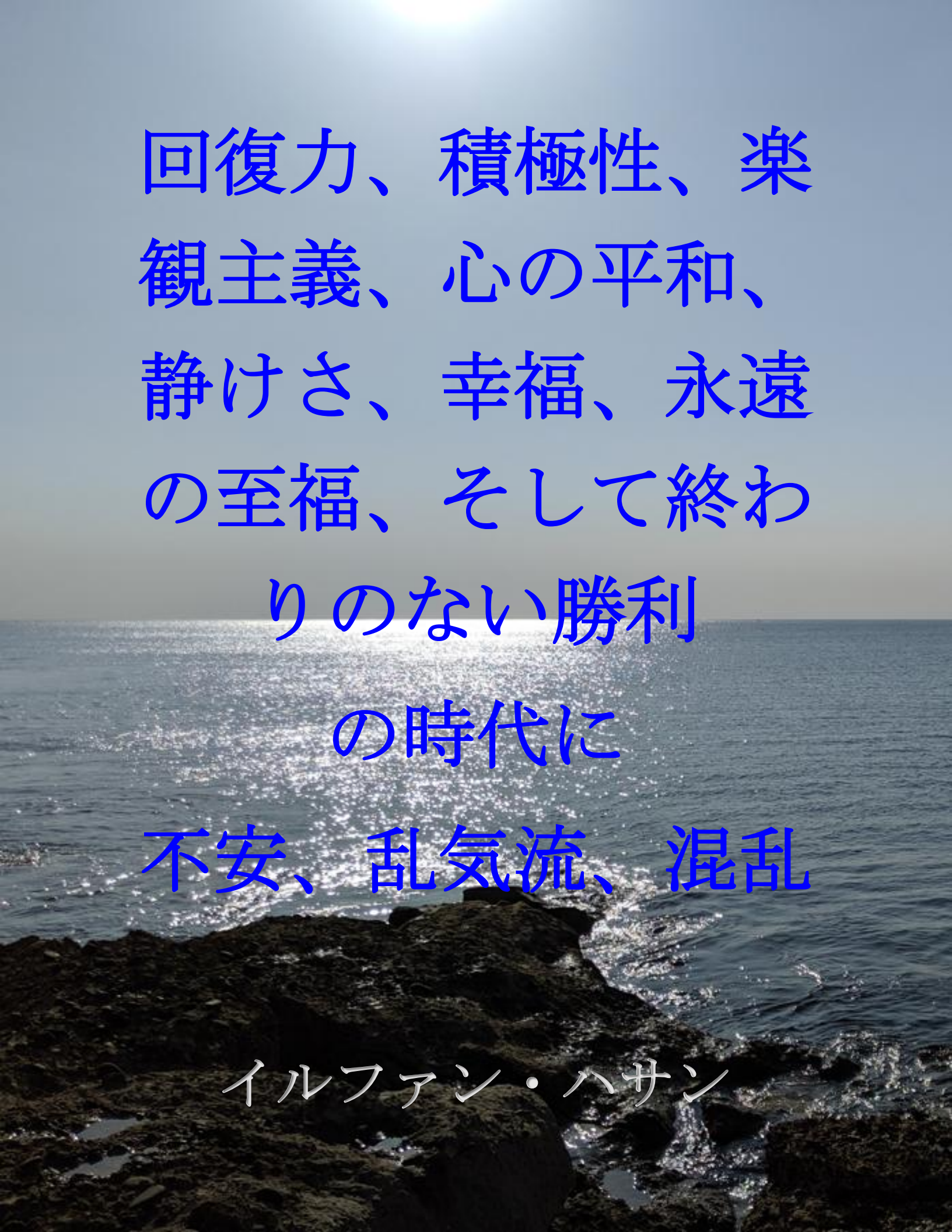

回復力、積極性、楽観主義、心の平和、静けさ、幸福、永遠の至福、そして終わりのない勝利
の時代に
不安、乱気流、混乱
イルファン・ハサン

回復力、積極性、楽観主義、心の平和、静けさ、幸福、永遠の至福、エンドレス・トライアンフの時代に不安、乱気流と混乱

人類文明全体の最も偉大な思想家であり復活者の一人であるイマーム・アブ・ハミド・ムハンマド・アル・ガザリ(西暦1058-1111年)
の時代を超越した著作から編集、翻訳、説明されています。

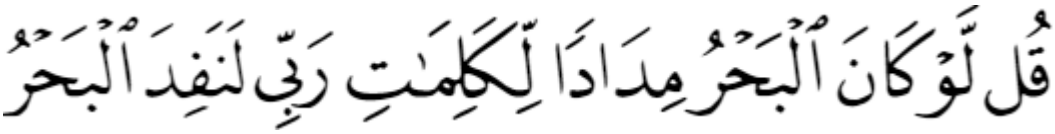
© 2021 イルファン・ハサン

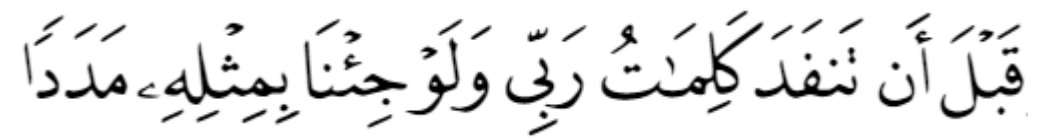
米国議会図書館登録番号: TXu 2-273-620

ISBNコード:9798543692042

全著作権所有。 この本のいかなる部分も、著者または出版社の書面による許可なしに、電子的、機械的、コピー、録音、またはその他のいかなる形式または手段によっても、複製、検索システムへの保存、または送信することはできません。

この作品は、イマーム・アブ・ハミド・ムハンマド・アル・ガザリ(西暦1058-1111年)の時代を超越した作品と、ある程度はマウラナ・ジャラルディン・ルミ(西暦1207-1273年)の作品から著者による編集、要約、翻訳、説明です。 完全なソース参照は参考文献に提供されています。 著者は、重要な点と用語を明確にするために、角括弧と括弧内に提供されたすべての説明を追加しました。 すべてのアラビア語の単語と用語は英語に音訳され、斜体にされ、翻訳されています。


قُل لَّوْ كَانَ ٱلْبَحْرُ مِدَادًا لِّكَلِمَٰتِ رَبِّى لَنَفِدَ ٱلْبَحْرُ


قَبْلَ أَن تَنفَدَ كَلِمَٰتُ رَبِّى وَلَوْ جِئْنَا بِمِثْلِهِۦ مَدَدًا

「『もし海がわが主の言葉を書くための墨になるなら、たとえわがそのようなものを補足として持ってきたとしても、わたしの主の言葉が尽きる前に海は枯渇するでしょう』と言ってください。」

(難解な精神的知識と経験の底知れぬ海の広大さについてのクルアーン。18章109節)

内容

要約 9

前書き 14

パート 1: 自分の内なる現実を知ることは、今日の人類が直面している危機、紛争、課題を解決するための道を開きます 15

自分自身を知る 23

神を知る 43

あなたの中の宇宙 47

世界を知る 58

死後の世界を知る 66

パート2:内面の破壊的な特性–個人、社会、そして国家全体に害を及ぼし、危険にさらす否定的な内面の資質 83

第1章 - 魂の神秘を知る 自己認識、照明、悟りのスピリチュアルな旅の必須事項 85

用語の意味と目的 自己 (*ナフス*)、ソウル(*ルー*)、ハート (*カルブ*)と知性(***'Aql***) 85

心の軍団(*カルブ*) 90

心の内なるしもべ(*カルブ*)とその簡単に理解できる例 93

人間の心臓の特徴(*カルブ*) 96

心臓の総合的な特徴(*カルブ*)とその例 103

知識との関係における心の類似性 – 心の磨かれた鏡と、そこに映る真実の光 109

明らかにされた知識と習得された知識の違いを身近な例で説明 122

ほのめかしによるサタンの心の支配(*ワスワース*) - 暗示の意味とサタンの支配の理由 126

サタンの心への入り口 139

心のほのめかし、迷信、危険、意図 160

その点で心臓と心臓の種類の急激な変化 166

第2章 - 魂の浄化、照らされた内なる資質の獲得、魂の内なる闇と病気の治癒のための精神的な闘い 173

善良な高貴な性格の卓越性と悪い忌まわしい性格の害 174

善良な高貴な性格と悪い忌まわしい性格の現実 180

霊的な努力と闘争による性格と内面の資質の変化 184

美しい内面の性格、気質、資質の手段と源(*フスン・ウル・クルク*)は節度であり、すべての極端を避けています 190

道徳、マナー、内面、性格、気質の文明の獲得方法の詳細な解説 195
魂の病気と健康の兆候 200
自分の欠点を見つける方法 203
欲望と欲望を拒絶することによって心の病気を治す、そして神の法則から伝わる証拠と証拠 206
善良な道徳、マナー、性格、内面の気質、資質のしるし 214
子どもの教育と育成、道徳、マナー、性格、内面の性質、資質の文明化と美化 219
スピリチュアルな旅に乗り出すための条件、スピリチュアルな闘争の始まり、スピリチュアルな道におけるスピリチュアルな探求者の段階的な進化についての詳細 228
第3章 - 低次の自己からの2つの圧倒的な基本的な欲望の支配を破る 240
飢餓の卓越性と暴食の非難 242
空腹の恩恵と暴食の害 245
飢餓に関連する判決、卓越性、人間状態の違い 256
食べる量を減らし、欲望を捨てることの害 259
陰部の欲情 261
第4章 - 無制限の発言の取り返しのつかない害 263
舌の大きな危険性と沈黙の卓越性 265
舌や言葉の誤用による害 269
第5章 怒り、怒り、辛辣さ、嫉妬によって引き起こされる災難 316
怒りと怒りの非難 317
怒りは霊的な努力によって根絶または軽減できますか? 319
怒りの原因 321
扇動後の怒りの治療法 323
忍耐の卓越性 326
恨みの現実と結果、そして許しと優しさの卓越性 329
許しの卓越性と善の上回る 331
優しさと寛大さの卓越性 333
嫉妬の非難、その現実、そしてその治療手段 335
嫉妬の原因 338
嫉妬を治す薬 346
第6章 世俗的な生活、所有物、権力への執着、そしてそれを人生の目的にする 350
世界に耽った後の世界の害から守る 359

人間にとっての世界の現実と本質 363
世界の現実と耽溺は、人間が没頭すると、自分自身、宇宙の創造主、そして自分自身の終わりを忘れてしまう 367
第7章 ケチと物質的な所有物への愛の害 375
富の害と富を愛することへの不承認 377
富の賞賛と批判の間の対立解決 379
富の害と利益 380
貪欲の治療と満足感を育む薬 383
けちさの非難 390
利他主義の現実とその卓越性 392
けちの治療法 395
第8章 名声と賞賛を求めることの害 404
名声と人気を求めることの非難 406
真の完璧さ 416
低次の自己では賞賛を愛し、批判を嫌う 418
名声への愛の治療法 421
賛美の愛のための治療 424
批判と非難の嫌悪の治療法 426
第9章 - 誇示と誇示の害 430
誇示の非難 430
誇示の現実とその発生の事柄 437
この病気で誇示し、心臓を治すための薬 441
行動による誇示の治療 444
誠実さと誠実さのしるし 447
第10章 傲慢さと自惚れの害 451
傲慢さの害 452
謙虚さの卓越性 454
傲慢さが表れるもの 458
傲慢さの治療法と謙虚さの獲得方法 467
自己うぬぼれとその害の非難 479
独善の原因とその治療法 481
高慢と軽率さの非難 488

パート 3: 内なる建設的で回復力のある特性 - 回復力、積極性、楽観主義、内なる平和、幸福、永遠の至福、そして永遠の成功を植え付けるポジティブな内面の資質は、個人的および集団的な人間の永遠の成功をもたらします 494

第11章 – 自分の過ち、過ち、行き過ぎを認識し、悔い改め、許しを求め、犯した過ちを償う 495

悔い改めの現実と定義 497

悔い改めの受け入れは、その条件の充足にかかっています 501

軽罪はどのようにして大罪になるのでしょうか? 509

悔い改めの医学と罪への固執を癒す方法 516

第12章 逆境、試練、苦難に直面したときの忍耐、そして祝福と人が持つすべての良いものへの感謝による回復力 522

忍耐の説明 523

忍耐の現実と意味 526

しもべはすべての州で忍耐を必要としています 531

忍耐の薬とそれに対する助けを得る方法 534

感謝の説明 538

感謝に値する祝福 548

なぜ人々は感謝の気持ちを持たないのか 557

第13章 – 人ができるすべての過ちに対する断固たる抑制として神を恐れ、積極性と楽観主義の道具として神に希望を持つ 567

希望の現実、その卓越性、希望のための薬とそれを得る方法 568

恐怖の現実 575

恐怖と希望の支配、または両方の中程度のレベルが優れていますか? 581

不吉な結末に対するグノーシス主義者の恐怖 585

第14章 神の前での絶対的な困窮の謙虚さを教え込み、貧困に耐え、世俗と物質主義的な執着からの禁欲 589

神の前での物質的および精神的な貧困または絶対的な貧困の現実と霊的旅行者の内面の状態 590

神の前での貧困の卓越性、または物質的および精神的な貧困の卓越性 594

世俗からの禁欲の説明 599

禁欲の卓越性 602

第15章 人間が直面するあらゆる事柄に対する神の一致、全能、絶対的な力を悟り、神への信頼を育む 610

神への信頼の卓越性 611
心の持ち主とペンの会話 615
神への信頼の状態と行動 623
伝染病における神への信頼に関するウマルの事件(神が彼を喜ばれますように) 627
第16章 – 神との愛、憧れ、親密さ、そして神の意志と命令を受け入れることは、心の平和、静けさ、幸福を育むための必須事項です 631
愛の現実、その原因、そして神のしもべに対する愛の意味 635
神は愛に値する唯一の方です 642
神聖なグノーシスと神聖なビジョンの喜び 654
神への憧れ 664
第17章 利己的な動機を一切持たない純粋な意図、あらゆる事柄への誠実さ、真実への献身を教え込む 671
卓越性と意図の現実性 673
卓越性、現実性、誠実さの程度 678
卓越性と真実の現実 688
第18章 – あらゆる欠点、否定性、悪徳に自分自身を課すための自己省察と自己評価 696
自己検査の説明(*ムラカバ*)および自己評価(*ムハサバ*) 696
熟考の現実とその程度 704
第 19 章 – 深い内なる反省と熟考は、内なる平和と精神的な変革の不可欠である 714
深い内面の反射(*タファクール*)と審議(*タダブール*) 714
5度の反射 718
第20章 自分の死と世俗的な人生の終わりを熟考し、決して見失わず、永遠の命に備える 728
世界旅の締めくくりに向けた準備 729
本の終わりに、神の憐れみの広がりを嬉しい知らせとして言及する 741
第21章 時間、場所、状況に関係なく、心の平和、静けさ、幸福を見つけるために自分自身を解放するための知恵 746
第4部:ルミの三王子寓話を通して、内なる存在の完成と人生の目的の実現への精神的な道 754
結論 825
さらに勉強におすすめの本 827
書誌 832

要約

今日、人類は不安や混乱に浸り、周囲の計り知れない課題や混乱に直面しながら、日常生活におけるさまざまなプラスの影響や現れとともに、内面と外面の平和を模索しています。 忍耐、導き、真実、知恵は、現代の危機や課題の危険な海を乗り越えるために必要です。 しかし、普通の個人が直面するあらゆるレベルでの多数の課題は、非常に消耗し、消耗しているため、解決策を見つけるための知的、心理的、精神的なリソースが残っていません。 トンネルの終わりに光が見え、物事を前向きに好転させるためのガイダンスは、多くの人が利用できないか、この「情報化時代」が逆説的にもたらした大規模な混乱、ヒステリー、否定性、偽情報によって難読化されています。 情報化時代は啓蒙の時代を迎えるはずであり、今日蔓延している啓蒙の時代の幕開けではないはずだった。

現状や現状を見ると、経済・技術の発展によって物質的繁栄が盛んにあっても不安の時代に生きているか、政治的・社会的紛争や戦争が続いているため、社会の混乱に悩まされ、混乱の時代に生きていることに気づきます。 飢餓、病気、不正、貧困、経済的困難、または混乱の状態、つまり不安と混乱の状態の間の状態であり、すべての人にとって経済的機会が限られており、社会的混乱のレベルは低いが、それでも大規模な混乱や紛争はありません。 私たちがどのような状態にあるかに関係なく、社会経済的、政治的、地理的、文化的状況と文脈の現在の状態に応じて、私たちは積極性、楽観主義、心の平和、静けさ、幸福、成功を持って生きることができる均衡状態を探していることに気づきます。 私たちが置かれている不安、混乱、混乱を克服するために、このポジティブな内面状態を達成するには、これらのネガティブで望ましくない状態を克服することにつながる実際の要因をより深く調べる必要があります。

この論文の目的は、思考、感情、言葉、行動、存在における回復力、楽観主義、積極性の形で、否定性、絶望、憂鬱、落胆に対する代替案を説明することです。 内面と外面の両方の態度のこの変化の結果、内なる平和、静けさ、幸福、そして人生とその課題に対する時代を超越した見方がもたらされ、このまさにこの地上の存在から始まり、時間と空間の制約を超越して、人間を不滅にする永遠の人生へと永遠の幸福と無限の勝利が吹き込まれます。

思考、感情、言葉、行動における否定的なものは、敵意、葛藤、無慈悲な破壊、戦争、不安、憂鬱、内なる精神的および肉体的な病気につながりますが、ポジティブな内面の状態、思考、感情、言葉、行動は内なる平和と静けさにつながり、その結果、すべての人の生命、自由、繁栄、健康、幸福を促進します。 これは、私たちが魂の奥深くに埋め込まれたポジティブなエネルギーの貯蔵庫を利用し、まず自分自身の利益のために、次に私たちが影響を与えると決めたすべてのものの利益のために、それらをポジティブなチャネルにリダイレクトするときに起こります。 この自己エンパワーメントは、個人および集団の内なる平和、繁栄、幸福を促進し、それが永遠の至福につながるために不可欠です。 これは、人の内なる存在の原材料を、計り知れない価値、輝き、輝きを備えた貴重な宝石に変える錬金術です。 では、なぜそれを実現するために自分が持っているこの唯一の人生において、真の人間の可能性と価値以外のものに落ち着くのでしょうか? そうしないと、逃した機会や実現していない可能性に対する永遠の後悔と絶望につながります。

この論文は、自己認識とスピリチュアルな照明の道の説明から始まり、次に自己認識とスピリチュアルな照明を妨げる内なる破壊的な性質の説明が続きます。 これに続いて、私たちの魂の奥深くに埋め込まれたポジティブなエネルギーの貯蔵庫を解き放ち、各個人が人間の成果の頂点に押し上げる要因の説明が続きます。 この本は、すべての人に、「悪い」ことやネガ

ティブであることを再考し、代わりに「良い」ことやポジティブになることを試み、そうすることの害と利益をそれぞれ自分の目で確かめるよう勧めています。 それは、内なる宝物をむやみに破壊し、その人の周りに感じられる影響を伴う自分自身の幸福への無関心に相当する否定的、意地悪、卑劣、邪悪であることを避けるようにすべての人に勧め、代わりに、ポジティブで、楽しく、楽観的で、善良であり、両者の違いを理解し、人間の達成の頂点に到達することを学ぶよう勧めます。 この論文は、完璧、悟り、永遠の幸福、そして無限の成功への道を開き、その結果を妨げるものすべてをブロックするのに役立ちます。 すべての人間は、この人生が提供する最高のものに値するものであり、この論文は、まずそれを可能にする道を説明し、次に自分の人生を担当し、それをより良い方向に好転させることによって、課題や機会に立ち向かうよう挑戦することで、それを可能にするのに役立ちます。

この不安、混乱、混乱の時代の病気の治療法を提示するために、私たちは、イスラム文明だけでなく人類文明全体の外的再生に影響を与える、精神性、自己認識、内面の改革、内面の変革の最も優れた指数の一人であるイマーム・アブ・ハミド・ムハンマド・アル・ガザリ(西暦1058-1111年)の知恵と時代を超越した宝物を引き出します。 一般にガザリとして知られている – 彼は人類の利益のために時代の終わりまでそれを説明しました。 ガザリの見事な洞察力と知恵によって推進されたこの解説は、人間の内面の現実と人生の真の目的、そしてそれらが永遠の幸福と無限の成功、つまりすべての人間が心の奥深くで望み、大切にする目標とどのように結びついているかを説明することから始まります。 その知識と洞察力を身につけると、根絶しなければならない内面の破壊的な特徴、続いて、不安、混乱、混乱に満ちた現代の課題に効果的に対処し、その結果、永遠の幸福と無限の勝利を達成し、その過程で回復力のある現世の人生をマークするために、根絶しなければならない内なる破壊的な特徴を説明し続けます。 ポジティブさ、楽観主義、心の平和、静けさ、真の幸福、そして衰えることのない永遠の成功。

この本は、無力な人々への救いとなり、苦しみに耐えられない苦しみに苦しんでいる人々への援助となり、絶望、憂鬱、悲しみ、欲求不満、内なる空虚という形で内なる苦しみに浸っている人々への救済となり、暗闇に囲まれている人々への光となり、人生の真実、目的、意味を探求する人々へのガイドとなるでしょう。 そして、より良くなり、自分自身、家族、地域社会、国、そして世界のために物事を好転させたいと願う人々のための道です。

この論文は、ガザリの時代を超越した知恵の宝物と全人類のための永遠の真実に基づいており、私たちの魂からネガティブな傾向をすべて取り除き、ポジティブなエネルギーを吹き込み、平和、永遠の幸福、そして無限の成功の状態を与えることで、心の平和と至福への道を示しています。 この過程で、人は自分の人生の本当の意味と目的を発見します。 自分の人生の真の目的を発見し、その目的の影響に取り組むことは、世俗的な生活の困難や苦悩から、人の心、心、魂を、永遠の幸福とあらゆる逆境に対する無限の勝利を吹き込む霊的な領域に連れて行きます。 どの社会も、内外を大混乱に陥れる人間の最も暗い衝動から免れることはできませんし、神の光の代わりに、宗教がそれらの暗い衝動を利用するためにあまりにも頻繁に利用されてきました。 今日私たちが世界に求める平和は、私たち自身の心から始まります。 この論文で広く使用されているガザリの「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」は、人間の隠された暗い衝動を明らかにし、挑戦し、それらの暗い衝動を満たし満足させるための宗教の使用に挑戦し、代わりに、 神の光を宗教と人間の心にもたらし、内なる普遍的な平和を告げます。

一人ひとりが、自分の内面の現実と、自分がここにいる人生の目的を理解することは非常に重要です。 そうして初めて、私たちは自分の周りのすべての状況や出来事を、良いか悪いか、楽しいか不快か、管理しやすいか難

しいかにかかわらず、正しい視点で考え、物事の現実を理解し、私たちが置かれている状況に関係なく、人生をより良い方向に変えるための是正措置を講じることができます。 これは、私たち全員が心の奥底で望む回復力、心の平和、静けさ、幸福を育みます。 自己認識と内なる啓発を求めるこの努力の報酬は、個人的に有害な内面の病気を捨て、個人的に有益な内なる資質を教え込むことの報いは、この世俗的な生活から始まり、努力家を永遠の幸福の人生に不滅のものにする、永遠の幸福と無限の勝利に他なりません。 それが本書の最初の3部で使用されているアプローチであり、第1部は人間の現実と人生の本当の目的を知ることを扱い、第2部は内なる破壊的な性質と暗い内なる衝動とそれらを根絶する方法を理解することを扱い、第3部は善だけを与える最も原始的な肯定的で崇高な内なる資質を扱い、それらをすべて追い出すためにそれらを教え込む方法を詳しく説明します内なる闇。 これらの著作に浸透する知恵の光は、暗闇、否定性、有害な衝動、内心の奥底の絶望を払拭し、代わりに私たちの生活を改善したい、または粉々になった人生を再建したいという願望に取って代わって、回復力、積極性、楽観主義、心の平和、静けさ、幸福、永遠の至福、そして無限の成功を植え付けます。 その結果、魂の奥底から発せられる光は、そのために努力者の周りのすべてを包み込みます。 この光の強度が増し、広がるにつれて、周囲の暗闇は消え去り、私たちの内なる存在、コミュニティ、国家、そして世界を照らし、神秘的で驚くべき方法ですべての人の周囲の物事を変えます。 理想主義的に聞こえるかもしれませんが、この本は可能性の芸術を示しています。 その過程で、人類がこれまでに生み出した最も偉大な賢者であり教師の一人である時代を超越した知恵の宝物を通じて、不可能に思えることを可能にする道を照らします。

知恵と導きの神聖な光が、永遠の至福と永遠の勝利の不滅の存在へと、この儚く儚い儚い世俗的な存在の嵐の海の海岸の平和と安全を探し求め、あなたの存在の船の航海者となりますように。

前書き

最も慈悲深く、最も慈悲深い神の御名において

この論文は、人間の真の目的と価値を理解することから始めます。 それを知って、物事を正しい視点で見るために必要な洞察を身につけ、それは自分の人生をより良い方向に変えるために必要な、内なるすべてのネガティブなものを根絶し、内なる空虚さを前向きな姿勢と内なる気質で埋めるために必要です。 この変容は人間の心と魂から始まり、この内なる光が強まるにつれて、それは外に出て、コミュニティ全体、国家、そしてひいては世界を変革します。 したがって、自分の存在の現実と人生の目的、そしてそれが永遠の幸福と無限の勝利にどのように結びついているかを知ることが不可欠です。 次に、この大切な目標から私たちを妨げる要因と、その達成を促進する要因を知る必要があります。 これは、現在の不安、混乱、混乱の状態に関係なく、回復力、積極性、楽観主義、内なる平和、静けさ、永遠の幸福、そして無限の勝利という難攻不落の状態への旅を完了するために、避けるべき障害と教え込む必要のある高貴な内面の資質についての貴重な洞察を私たちに与えてくれます。

パート 1: 自分の内なる現実を知ることは、今日の人類が直面している危機、紛争、課題を解決するための道を開きます

ガザリは、ペルシア語で書かれた著書「キミヤ・エ・サアダット」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革者」の中で、永遠の幸福と現実と人生の目的を次のように説明しています[1]。

天の星、雨の雫、木の葉、砂漠の砂粒、天と地の原子に相当する無数の無限の感謝と賛美は、神だけのものであり、その固有の属性は神の唯一性であり、威厳、偉大さ、殿下、卓越性は神の独特の特徴であり、崇高な属性です。 陛下の完璧さに気づいている人間はいません。 彼のグノーシスの現実において、彼以外には誰も道を持っていません。 むしろ、神のグノーシスの現実に到達できないことを認めることは、神の親しい人々や友人のグノーシスのクライマックスであり、神の賛美と賛美歌において無能を認めることは、天使と預言者による神の栄光のクライマックスです。陛下の最初の光線に驚かされることは、知的な人々の知性のクライマックスです。 神の美しさの近さを求めて驚きに襲われることは、神秘的な道の旅人と精神的な旅人のクライマックスです。 その基礎は、グノーシスの希望を離れ、自分自身の卑劣な自己の欲望を離れることです。 神のグノーシスの問題において完全性を主張することは、類似性と類似性を考えることです。 すべての目は、彼の存在の美しさを目撃することに目がくらむことに分かち合っています。 彼の素晴らしい働きと創造物を見ることによって、必要なグノーシスはすべての知性によって実る果実です。 自分の存在の偉大さを熟考できるような人はいってはなりません。 神の素晴らしい働きに、その現実が何であるか、そしてそれが誰の力を顕現しているのかについて、一瞬でも無関心なままであってはならないような心はあってはなりません。 それは、すべてが間違いなく神の力のしるしであり、神の偉大さの光であることを認識できるようにするためです。そこにあるすべての驚異と驚異は、神の知恵から生まれ、すべての美の反映は神のみの創造物です。 そこにあるものは何でも、それは神からのものであり、神によるものです。 むしろ、それはすべて、彼です。 現実のように、神以外には何も存在しません。 むしろ、すべての存在は、神の存在の光の反映です。

おお、親愛なる愛する人よ! 神が遊び、虚栄心、怠惰な追求のために人間を創造したのではないことをよく知ってください。 むしろ、人の責任とそこに横たわる危険は、あたかも人が永遠ではないかのように、どちらも途方もないものですが、確かに人は永遠に生きることです。 つまり、人が常に来た(または永遠から生きていない)場合、人は永遠に存在するでしょう。 肉体は粘土でできた構造物として取るに足らないものですが、魂の現実は神聖であることはすごく愛らしいものです。 その起源は、動物、獣、悪魔、およびそれらの不純物の性質と混ざり合っていますが、苦難にさらされると、その不純物が浄化され、神の近接能力を獲得します。 最低の中の最悪であり、最高中の最高であることがその機能です。 その最低潮は、動物、獣、悪魔のレベルに陥ることで、怒りと欲望の罠に巻き込まれることです。 その頂点は、それ(魂)が天使の地位に到達し[つまり、霊的な領域へ]到達し、欲望と怒り[およびその現れであるすべての否定性]のもつれを脱ぎ捨て、代わりに彼らを囚人にし、彼らの主人であり王になることです。この王権の地位が獲得されると、人は神の崇拝と奴隷に値するようになります。この崇拝の能力は天使の属性であり、人間の階級の完全さである。 神の美の愛を味わったとき、人は神の光を奪われた瞬間を過ごすことはできません。 果てしなく続く美しさと恵みの光景は、人の楽園になります。 目、胃、肉欲の楽園は、人にとって取るに足らないものになり、無価値になります。 人間の基礎は生まれたばかりの初めに不完全で取るに足らないものであるため、真鍮と銅を精製して金にする錬金術が極めて難しいように、苦難と治療なしには完成を達成することはできません。 誰もがそれを特定することはできません。 同様に、人間の基礎を獣や動物の習慣の不純物から浄化し、天使のような[霊的]浄化をもたらし、それによって永遠の至福を達成するこの錬金術。 この錬金術(つまり変化の変革剤)を達成するのは非常に困難であり、誰もがそれを知っているわけではありません。 この論文を書く目的は、実際には永遠の至福の錬金術であるこの錬金術の要素を述べることです。 このため、私たちはこの本を「*Kimiya-e-Sa'adat*」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革者」と名付けました。 「錬金術」という名前は、この本にとてもふさわしいです。 その理由は、銅と金には黄色と重さ以外に違いがなく、この錬金術(銅を金に変える)によって、この世で金持ちになる以外に目的がないからです。 世俗的な生活は数日間です。 世俗的な富はそれ自体では何もありません。 牛の習性と天使の属性には大きな違いがあります。 この錬金術の果実は、永遠の至福[そして永遠の成功]です。 その期間に終わりはありません[それは永遠であり、永遠にそこにあり、人間を不滅にする]。 その祝福の種類には終わりがありません。 不純物がその純度と明晰さに侵入して干渉することはできません。 この本は実際には錬金術です。 これ以外(つまり、この本「*Kimiya-e-Sa'adat*」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革の媒介者」で提示されている教えと説明)は、錬金術として他のものを名指しすることは、寓話的なものにすぎません。

おお、親愛なる愛する人よ!銅やその他の基本元素を金に変える錬金術は、すべての老婦人の小屋に見られるわけではなく、非常に裕福な人々や王の宝物の中に見られることを知っておく必要があります。 同様に、永遠の至福[と永遠の勝利]の錬金術もどこにでもあるわけではありません。 むしろ、それは神の宝の中に見出されます。 天にあるこの神聖な宝は、天使たちと地上にある存在であり、[神の]真の預言者の浄化された心です。 預言者の法廷以外の場所でこの錬金術を探す者は誰でも道に迷い、最終的にはだまされ、だまされるでしょう。 人は無駄な空想しか得られないでしょう。 審判の日に人の貧しさが明らかになり、被造物全体がその人の偽造(偽の)コインを知るようになり、すべての人の誤った方向の知性が正気になるでしょう[そして、人生のすべてで気づかなかった現実と真実を知るようになります]。 人は[神の]宣言の呼びかけを聞くでしょう。

لَّقَدْ كُنتَ فِي غَفْلَةٍ مِّنْ هَٰذَا فَكَشَفْنَا عَنكَ غِطَآءَكَ فَبَصَرُكَ ٱلْيَوْمَ حَدِيدٌ

「あなたは確かにこのことを無視し、無知でした。 私たちはあなたからベールを取り除いたので、今日のあなたの視力は鋭くなります(以前はあなたから隠されていたものが、今ではあなたの鋭い焦点にあるように)。」 (クルアーン、第50章、22節)

すべての慈悲深い方(つまり神)の中で最も慈悲深い方の憐れみと祝福の中で最大の憐れみの一つは、神がこの錬金術の処方箋(材料と作り方)を神の創造物(世界の人々)に教えるために、この錬金術の処方箋(材料と製造)を世界に送ったことです。 そして、心の現金硬貨を苦難の金床に入れ、心の硬さと濁りを引き起こす悪い道徳から心を改め直す道と、良い道徳と崇高な資質で心を飾る道を教え、それらを[世界の]すべての人々に教えるように言いました。 したがって、神はご自分の栄光と主権によってご自身を賛美されたので、預言者[特に彼の使徒預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)]を派遣するというご自分の属性を宣言し、それを被造物に対する神の恩恵として言及してこう言われました。

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِ ٱلْمَلِكِ ٱلْقُدُّوسِ ٱلْعَزِيزِ ٱلْحَكِيمِ ١

هُوَ ٱلَّذِى بَعَثَ فِى ٱلْأُمِّيِّـۧنَ رَسُولًا مِّنْهُمْ يَتْلُوا۟ عَلَيْهِمْ ءَايَـٰتِهِۦ وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ ٱلْكِتَـٰبَ وَٱلْحِكْمَةَ وَإِن كَانُوا۟ مِن قَبْلُ لَفِى ضَلَـٰلٍ مُّبِينٍ ٢

「神、王、神聖な方、力強く、賢い方のために、天と地にあるすべてのものを讃えなさい。 文字のない人々の中に、彼らの中から使徒[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)]を送り出し、彼らに啓示を唱え、[魂の内なる浄化によって]彼らを浄化し、彼らに聖書と知恵を教えたのは神です。 そしてそれ以前は、彼らは無知のままでした。」 (クルアーン、第62章、1-2節)

[アラビア語の]単語「*ユザッキヒム*」(「心と魂の内なる浄化によって、すべての形と現れのすべての不純物と濁りから彼らを浄化する」という意味)は、動物の性質であり、神の使徒[預言者ムハンマド](神の祝福と平安あれ)が動物を解放する[またはプロセスを通じて浄化する]のと同じ非難されるべき[固有の]特性と性質を指します彼の崇高な教えと精神的な完璧さによる内なる浄化と精神的な変容の]。[アラビア語]の「*ユアリムル・キタアバ・ワル・ヒクマタ*」[上記の同じ節で「そして彼らに本と知恵を教える」という意味]は、彼が天使の属性の服で彼らを飾っていることを指します。 そして、これがまさにこの錬金術(つまり、完全な内的および精神的な変容の変容剤)の目的であり目的であり、人間は[人間の幸福に有害な]すべての有害で求められていないもの(つまり、魂のすべての内面の欠陥と有害な否定的な傾向)から浄化され、浄化され、[内なる霊的]完全性の属性で飾られるべきであるということです。 すべての錬金術の中で最も偉大で最も優れた錬金術は、世界(世俗性、物質主義、利己的な欲望、そしてすべての非難されるべき、卑劣で否定的な性質)から顔をそらし、神の使徒(神の平安と祝福あれ)に教えられたように全能の神に注意を払うべきであるという錬金術です。

وَٱذْكُرِ ٱسْمَ رَبِّكَ وَتَبَتَّلْ إِلَيْهِ تَبْتِيلًا

“*ワドクルスマ・ラビカ・ワ・タタタル・イライヒ・タブティーラ*”

「そして、あなたの主の御名を覚えて、完全な献身をもって(主に)身を捧げなさい。」 (クルアーン、73章、8節)

[アラビア語] 「*タブティーラ*」[上記の節]は、全能の神以外のすべてのものから切り離され、全能の神の前に完全に身を委ね、全能の神の特権に身を委ねることを意味します

。 これは、この錬金術[永遠の幸福と終わりのない成功]の簡単な説明です。 その詳細は非常に長く、無限です。 しかし、そのタイトルは四つのことを知ることであり、その本質的な要素は四つの取引を知ることであり、それぞれの本質的な要素には十の基本原則があります。

[この永遠の幸福と無限の成功の錬金術の]4つのタイトルは次のとおりです。

(1)自分自身を知ること、

(2) 神を知り、

(3)世界の現実を知ること、

(4)来世の実在を知ること。

上記の4つのことを知ることは、事実上、*イスラム教*を知る(つまり、神の意志に服従する)という称号です。 しかし、*イスラーム*の本質的な要素の問題は4つあります。

2つの本質的な要素は、外側の自己(*「ザヒル」*)に関係し、2つの要素は内なる自己(*「バティン」*)に関連しています。

外側の自己に関連する2つの重要な要素は次のとおりです。

(1) 神の命令に従うこと。 これらは[外側の]礼拝行為(*「イバダ」*)と呼ばれます。

(2) 自分の移動や生計の問題において、それらを視野に入れておくこと。 これらは[社会的]取引(*「ムアマラート」*)と呼ばれます。

内なる自己(*「バタン」*)*に関連する2つの重要な要素*は次のとおりです。

(1) 怒り、けちさ、傲慢、高慢、独善など、すべての悪い[内なる]道徳から心[または魂]を清めること。 これらの[悪い、低い内面の性格特性または]道徳は、信仰の道として「

ムリカート」(否定性、内面の悪徳、または魂の破壊的な特徴)および「*アカバート*」(人々が強盗の犠牲者になる暗くて狭い場所)と呼ばれます。

(2) 忍耐、感謝、愛、希望、神への信頼などの善良な[内なる]道徳で心[または魂]を飾ること。 これらの道徳は「*ムナジヤート*」(救い、幸福、真の[永遠の]幸福、そして[永遠の]成功をもたらす魂の肯定的な特徴またはすべての高揚した内面の性格特性)と呼ばれます。

[神への]崇拝について言及されている[4つの]本質的な要素のうちの最初の要素は、10の基礎で構成されています。 彼らです:

(1) アール・アル・スンナ*の信仰の問題(* つまり、預言者ムハンマド[彼に神の平安と祝福あれ]にまでさかのぼり、彼を通して全能の神にまでさかのぼる、あらゆるレベルでの途切れることのない伝達の連鎖と認定された学問に依存する本物の伝統的な方法論に従っている人々)、

(2) 知識を求めることに関しては、

(3) 清潔さ(または外見の純度)の問題において、

(4) (神への)祈りに関しては、

(5) ザカート(または義務的な貧困期日または慈善活動)の問題において、

(6) 断食に関しては、

(7) *ハッジ*(または神と地上における神の慈悲の象徴であるメッカの*カバ*への巡礼)の問題では、

(8) 聖クルアーンを朗読することに関して、

(9) 神を偲び、祈り、嘆願すること、そして

(10) 連祷を手配することに関して[物質的にも霊的にも、自分のすべての必要のために神を呼び起こす]こと。

[すべての人々との]相互取引に関する第二の本質的な要素にも、10の基礎[または原則]があります。

(1)食事のマナー

(2)結婚のマナー、

(3) 貿易と職業のマナー、

(4) 合法的なものを求めるマナー[そして違法を控える]方法、

(5) 交際のマナー、

(6) 隔離のマナー、

(7) 旅行および旅行のマナー、

(8) リサイタル(「*サマ*」または神への愛と憧れに関連する献身的なリサイタル)と[結果として生じる霊的な]エクスタシーのマナー、

(9) 善を禁じ、悪を禁じるマナー

(10) 支配者と被支配者のマナー。

「ムリカート」(または魂の破壊的な悪)に関連する3番目の本質的な要素にも、10の基礎[または原則]があります。

(1) [内なる]自己規律のマナー[および低次の自己の基本的な欲望を抑制するための精神的な練習(「*ナフ*」)]、

(2) 食べ物や肉欲の快楽への過度の耽溺に対する治療法、

(3) 過度の会話と舌の悪を治すマナー、

(4) 怒り、傲慢さ、誤った尊敬を治す方法、

(5) 世の愛を癒すマナー、

(6) 財産[および富]への愛を治す方法、

(7) 華やかさと尊敬の治療方法(自己美化と自己誇大化)、

(8) 誇示と偽善を治す方法、

(9) 傲慢さと独善を治すマナー、および

(10) プライドと不注意を治すマナー。

「ムンジヤート」(または救いと幸福をもたらす魂の高貴な内面の資質)に関連する4番目の本質要素にも、10の基礎[または原則]があります。

(1) 悔い改め[犯した過ちから神に悔い改め、神の赦しを求める]、

(2) [逆境を乗り越える]忍耐と[神の祝福と恩恵に対する神への]感謝、

(3) [神への]恐れと[神への]希望、

(4) 貧困[または神の前で絶対的な困窮の状態]と禁欲主義、

(5) [善] 意図、誠実、誠実さ、

(6) 献身と自己説明責任、

(7) [霊的] 熟考 (または「*ムラカバ*」または自分の心に対する神の視線を熟考する、内省と批判的な自己評価)、

(8) 神の一致[または一体性]と神への信頼、

(9) 神への愛、そして

(10) 死とその記憶(または物事を正しい視点で捉えるために、自分自身の避けられない死と世俗的な存在の終わりについて熟考する)。

これは、「Kimiya-e-Sa'adat*」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革のエージェント」という本の本質的な要素と基本のリストです。* 私たちは 4 つのタイトルと 40 の原則を明確に説明し、この本が理解しやすいものになるように、難しいフレーズや複雑さにふけることをペンで控えます。 それは、研究をしたい、または複雑さを深く掘り下げたい人は誰でも、「*Ihya al-'Uloom ad-Deen*」または「神への道の知識の復活」、「*ジャワヒル・アル・クルアーン*」、「*クルアーンの宝石*」などのアラビア語の本を参照して研究する必要があるからです。 この本の目的は、[この永遠の幸福と永遠の勝利の錬金術]を一般の人々に説明することです。

次に、ガザリは、この錬金術の 4 つの称号 (または要件) と 40 の原則、または永遠の幸福と無限の勝利の変革の主体について素晴らしい説明を提供します。 永遠の至福の錬金術の同じ40の原則の詳細な説明は、ガザリによって4巻の知恵の大要「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の中で非常に詳細に提供されています。 ガザリ

は、上記の著書「キミヤ・エ・サアダット」または「錬金術または永遠の幸福と無限の成功のための変化の変革エージェント」の紹介の後、錬金術または永遠の至福の変革エージェントの4つの要件の詳細を提供します。 永遠の至福と無限の成功を達成するための最初の称号または要件、つまり「自分自身を知る」についての説明の中で、ガザリは次のように書いています[2]。

自分自身を知る

親愛なる愛する人!自分自身を知ることが神様の認識の鍵であることに注意してください。 したがって、神によって次のように規定されています。

مَنْ عَرَفَ نَفْسَهُ فَقَدْ عَرَفَ رَبَّهُ

「自分自身を認識した者は、自分の主を認識したのです」。

سَنُرِيهِمْ ءَايَٰتِنَا فِى ٱلْءَافَاقِ وَفِىٓ أَنفُسِهِمْ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُ ٱلْحَقُّ

「われわれは、これが真理であることを彼らにはっきりと明らかにするまで、宇宙の果てに、そして彼ら自身(魂)の中に、われわれのしるしを彼らに示すであろう。」(クルアーン、41章、53節)。

親愛なる愛する人! この世界全体で、あなた自身の「自己」(ナフス)ほどあなたに近いものはありません。 したがって、もしあなたが自分自身の存在、つまり自分自身を認識しようとしないなら、他に何を探しようとするでしょうか? もしあなたが「私たちは自己を考え、認識している」と考えるなら、そのような知識は何の役にも立たないので、あなたは確かに間違っています。 それは、いかなる状況においても、グノーシス(「マリファ」)、つまり至高の主であり宇宙の主人(つまり神)を認識しようとする人間の試みへの鍵になることはできません。 なぜなら、このように、動物でさえ自分自身を知

っているからです。 彼らもまた、頭、口、手、足、肉など、体の目に見える部分を認識することができますが、あなたは、お腹が空いたときに食事をとったり、怒っている人と喧嘩をしたり、肉欲の衝動があなたを圧倒したりするほど、他の自己を知っています。 あなたは結婚を結びます。 したがって、あなたとこれらの動物の違いは何ですか? 実際、あなたが知っておくべきことは、あなたが何であるかについて、あなたはどこから来て、どこへ行くのかということです。 あなたがここ(この世に)来た理由は何ですか? あなたは主によってどのような目的で創造されましたか? 要するに、何があなたにとって良いことで、何があなたにとって悪いのでしょうか?

鳥や獣でさえ、サタンのいくつかの特徴に加えて、あなたが持っている資質に恵まれています。 しかし、あなたと天使たちが同等であるあなたの性格には特徴があります。 では、あなたの一時的および永続的な特徴は何ですか? あなたの起源、本質は何ですか? ですから、自分自身についてのこれらの重要な「基本」を理解しない限り、祝福された者の地位を達成することはできません。

これらの性質のそれぞれには、栄養を与え、維持し、成長を促進する独自の「食べ物」があり、その結果、善と賞賛に値する行動が促進されます。 動物の改善は、観察するように、食べたり飲んだり、健康で強くなることにあります。 したがって、あなたも動物であるなら、あなたは毎日彼らのやり方に従い、お腹をいっぱいに満たし、肉欲を最大限に満たすべきです。

暴行と殺害は、ジャングルの動物の主な特徴です。 悪、その影響、悪行、裏切りは悪魔のしるしであり象徴であるのに対し、彼らはそうするのが当然です。 ですから、自分もこれらの悪魔の一人だと思うなら、彼らの足跡をたどって心を喜ばせるべきです。 一方、動物や獣とは異なり、神の素晴らしさを求めることは天使の魂の糧です。 そして、もしあなたが天使たちの出身であるなら、彼らと同じように、神の栄光を見つめようと努めるべきであり、そうすれば、あなたは不道徳な官能的な快楽や仲間の人間に対する傲慢な怒りから解放されるべきです。

そのとき、自分の中に真実を探求するために、あなたの中に精神を植え付けてください。 あなた、動物、猛禽類、獣との間に神によって創造された均一な性質は、あなたも獣のように残虐になるためではなく、共通の利益のためであることを理解できるように

、献身的にそうしてください。 動物、鳥、獣はあなたに仕えるために作られています。

神の識別力と知識者は、この状態を「神の道にいて、神の前にいる」ことを「*ジャニブ・エ・イラヒヤ*」と呼んでいます。 人々(つまり、庶民)はそれを楽園と呼んでいます。 したがって、神によってあなたに植え付けられた偉大で高潔な本質的価値に完全に生きて、神のグノーシス(「*マリファ*」)を獲得できるようになることがあなたの義務です。 実際、人は最も不幸な人であり、「*ディーン*」(神への道)の価値を知っているにもかかわらず、たまたまそれから遠ざかっています。

親愛なる愛する人!もしあなたが心から自分の内なる自己を洞察したいのであれば、神があなたに2つのもの、すなわち、外側の構造、目に見える体と、「*ナフス*」(自己)、「*カルブ*」(ハート)、または「*ルー*」*(魂)*と呼ばれる内なる自己を生み出したことを知ってください。 しかし、それらは「*バティン*」(内なる存在)の目を通して、つまり、目に見える、自明ではない他の自己によって見ることができます。 まさにこの真実性が主要なものであり、不可侵の基盤であり、存在の主要な意味です。 他のすべてのものはそれに従属しています(つまり、心に)。 したがって、私たちが心を込めて話すとき、私たちは本当に真実を意味します。 「魂」(*「ルー」*)と呼ばれることもあります。 「*ナフ」と呼ばれることもあります。* 心臓である「*カルブ*」とは、動物や死者でさえ持っている人体の左側にある肉の塊を意味するものではありません。 この「*カルブ*」、つまり心臓は、人類にとって本当に否定できない事実です。 それは、明らかにされているものの、人間の目では熟読できない、ユニークで本物の、そして主要な真実です。 それは「シャハーダ」と呼ばれる[見える、または見える]領域に関係します。 それは崇高な領域です。 そこから善良さが、その素晴らしさのすべてで現れます!

この肉の塊、心臓は、体の騎士です。 体の残りの部分は、その軍隊であるか、その命令に従属します。 心は王であり、この部隊の指揮官です。 その主な義務は、神の「*マリファ*」またはグノーシスの達成、つまり、この目的のために神が人間の心に与えた固有の特性による神の崇高な慈悲の認識と獲得です。 それは神の愛の中で鼓動します。 それは常に声高に声を上げて、神だけが崇拝されるに値するという賛美を唱えています。 絶えず抑揚しているのは、神だけが、ご自分の民に憐れみを与えたり、罰を課したりする力を持っています。 報復と報酬は神の特権にすぎず、神だけが祝福したり禁止

したりすることができます。 したがって、「*マリファ*」または神のグノーシスを所有するために心から努力することが、この目標への鍵です。

おお、親愛なる愛する人よ!あなた自身は卓越したかけがえのない宝石であるため、それを評価する必要があることを理解する必要があります。 天使のような親族関係がある。 最も高い天頂はその天国です。 それは神の究極の崇高な目標への道を歩む高貴な旅人です。 人生を巡るこの短い旅の中で、それは貿易や農業、その他の職業にとどまり、常に[最終的かつ最終的な目的地に向かって]旅を続けます。

親友！自分の中に一瞥を投げかけない限り、心についての真実を理解することはできないことを理解してください(「*カルブ*」)。 心を測りついたら、その後はその軍隊、つまり無敵の力を探す必要があります。 次に、「*マリファ*」(または神のグノーシス)と「*サーダ*」(永遠の幸福と永遠の成功)の間のつながりを認識してみてください。 心の壮大さは、単なる休眠インフラである木のフレームのような表面的な身体と比較して、そのように否定することはできません。 それは何もありません。 それは死者のようなものです。 「*カルブ*」、つまり心とは、魂の真実性(「*ルー*」)を意味します。 魂がなければ、体は死んで死体です。 しばらく目を閉じて、以前は完全に目に見えていた自分の肉体的な存在についてのすべての考えを追放し、自分自身、魂の探求に夢中になると、人は自分の探求を見つけるでしょう。 実際、本当の探求は心の探求です。 それはまた、来世の1つに通知します。 反対のことがない限り、人は同時に心の内在性に気付くでしょう。

「ハート」とは何ですか? ハートの特徴は何ですか? 神の律法は、その学術的な議論を許していません。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)と彼の高貴な仲間たちは、クルアーンで神によって次の聖句が宣言された問題を取り上げていません。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلرُّوحِ ۖ قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ أَمْرِ رَبِّى

「そして、彼らは魂についてあなたに尋ねます。 魂はわたしの主の命令です。」 (クルアーン、第17章[イスラエルの子ら]、85節)

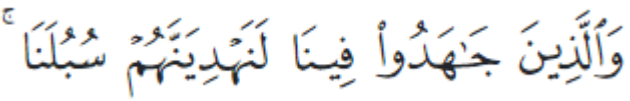
أَلَا لَهُ ٱلْخَلْقُ وَٱلْأَمْرُ ۗ

「見よ、彼の創造物(『*ハルク*』)であり、彼の命令(『*アムル*』)である。」 (クルアーン、第7章、54節)

「*ハルク*」*の領域*、*創造物と*「*アムル*」*の領域では*、叙階は互いにまったく異なります。 「*Khalq*」(創造)、寸法測定の要素、量と質量が差し迫っています。 辞書では、「*ハルク*」(または創造)という意味は推定を指します。 しかし、人間の心は分裂を受け入れないので、この試練を受けることはできません。 心が分割可能であれば、その前提はうまくいき、それによって、それは一度に、ある問題に関して賢者でも完全な初心者でもかまいません。 したがって、人が「*アリム*」(学者または知識のある人)であると同時に「*ジャヒル*」(無知者)であることは考えられません。 対極に、魂(「*ルー*」)は神によって創造されましたが、同様に完全に不可分であり、質量のコード、測定、または定量化とは何の関係もありません。 「*アムル*」(命令)は神の意志であり、顕在化し、最優先です。

また、魂を遠く、古く、広がるものだと考える人はすべて間違っています。 制限されたスパンが、どうして制限と権威の対象にならないのでしょうか? 魂が真に本物で優れているとき、どうして肉体、肉体が魂を支配できるのでしょうか? したがって、魂はどのようにして「アーダ」またはスパンになり得るのでしょうか?

同様に、魂を肉体と呼んだ人々は、自己矛盾しており、それ自体が欺かれています。 確かに、体は断片に分解できますが、前述のように分割できない魂は崩壊できません。 この問題についてより細かい点を提起すると、動物の魂は最後の不安の中で払拭されるはずですが、私たちが心と呼ぶ本当の魂は、神のグノーシスの壮大な会場です("マリファ」)が、動物にはこの[第二の魂]が欠けています。 魂は肉体でもスパンでもありませんが、純粋な天使の宝石であり、その評価は困難であり、持ち出されたり増幅されたりすることは許されません。 規定のパラメータ内でのみ、それについて公正な知識を得ることができます。



「わたしのために(わたしの道で)努力する者たち、わたは必ず彼らをわたしの道に導くであろう。」 (クルアーン、29章、69節)

وَمَا يَعْلَمُ جُنُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَ

「あなたの主の軍隊を知りたいのは、彼以外には誰もいません。」 (クルアーン、74章、31節)

上記のクルアーン聖句は、心が来世のために特別に割り当てられていることを明確に示しています。 神の祝福への憧れがその目的です。 これらの祝福は神のグノーシスに依存しています。 人は自分の製品によって物事の作者または生産者についてのアイデアを得る。 人間の洞察力は、人間が彼らとその価値を判断するのに役立ちます。 崇高な創造主の世界の驚異の作品は、それぞれが独自の長所で独創的でユニークですが、人間の外的および内的識別能力の洞察力によってのみ、その絶妙な魅力を評価し、賞賛することができます。 対照的に、知覚と浸透の表向きの性質は主に身体機能ですが、心の実際の目的は「*マリファ*」または神のグノーシスであり、表面的には達成できません。したがって、身体の感覚能力は縄(つまり「動物の魂」)であるのに対し、身体は縄と乗り手の両方(つまり、本物の魂または「人間の魂」)の両方を支持し、担い手です。 したがって、結合フレーム(つまり体)は、水、粘土、熱で構成される心臓の前提条件です。したがって、それほど強くはありません。 人間の基本的な進化の要素である獣のような要素、火や水のような要素のおかげで、内面と外側の欲求のために、内面(*「バティン」*)と外側(*「ザヒル」*)に必要な食べ物が不足しているため、それは死の危険にさらされています。 そのため、食べる食べ物や飲む水を自然に欲しがります。 当然のことながら、この2つの力が、一方では[人間の生命とその幸福を脅かす]物理的な敵と戦い、他方では[これらやその他の内なる悪徳が魂の生命と幸福を脅かす]貪欲と怒りと戦う必要性をずっと感じてきました。 これらは内なる力です。 したがって、最初に魂の本質が来て、次にその軍隊が来て、その後、内なるこれらの邪悪な力に対する「闘争」(つまり、神の道での霊的な努力)が来ます。 したがって、最初に魂の本質[人間の身体の器官と感覚の生命にのみ貢献する「動物の魂」とは対照的に、「人間の魂」としても知られています)、次にその軍隊または軍隊、そしてその後、これらの邪悪な内なる力(つまり、悪や否定的な傾向)に対する「闘争」または闘争が来ます。

目に見えないものを見て、身体と内面の両面の目に見えない敵を追い求めることはできないので、これらの身体の感覚器官と内なる感性が必要になりました。 【人間の感覚】見る、嗅ぐ、味わう、触れる、聞くことは、体の基本的な感覚器官です。 それぞれが特異な任務を遂行しています。 そのうちのどれか一つがうまくいかないと、この世の物事や事柄(つまり、世俗的な生活)が妨げられ、来世が影響を受けます。 これらの内

なる力と外なる力は、心の支配下にあります。 神は、その最高の知恵によって、彼らが人間の体の世話をできるように、その崇高な喜びに従って、彼らを心に従属させました。 それは、心が報酬を受け取り、獲物を手に入れ、[グノーシスの神聖な恩恵で]祝福され、その結果、来世への取引を達成するためです。 これらの善の力は、天使たちが行うように、非常に顕著な献身をもって奉仕し、深い喜びの中で神に従うことに深い誇りを持っています。 彼らは決して神の望みに反して行動しません。 心臓に関する詳細はかなり長いです。

親愛なる愛する人! 例を引用すると、体は都市のようで、手と足はこの都市の労働者のようなものです。 欲望はその原動力(つまり、扇動者)です。 怒りは市の警察署長のようだ。 心はその王であり、理由はその首相です。 王は政府を運営するために彼ら全員を必要としていますが、強力な動機付けである欲望は邪悪で挑発的です。 一方、賢明な首相のような知性は、政府の資金が流用されたり、奪われたりしないように、常に反対します。 警察署長のような怒りは、常に不安定で、反動的で、限界を超えています。 このような状況下では、それらすべてに勝る王は、すべてのことをしっかりと評価し、首相(つまり知性)に相談し、事態が制御不能になることを許しません。 それは、欲望と怒りがそれぞれの役割を[範囲内で]果たしており、悪の芽を摘むことが王の最大の義務であることを明確に示しています。 それが心の位置です。

肉体を守るために全能の神から食べ物と水が与えられてきました。 このように、彼らは体のしもべです。 身体は、感覚、つまり感覚の識別力の主体の重荷を保持し、負担するように創造されたため、身体のしもべとして機能します。 これらの感覚または感覚的能力は、神の驚くべき畏敬の念を抱かせる創造物の識別と真の感謝のために、事実を学び、同化する理由の番犬です。 知性は、その側として、彼らの松明を掲げ、輝く道の探しとして、人間が神聖な美しさの独特の素晴らしさ、つまり神がこの宇宙で無から進化し、設計したものの中で、卓越した神の美しさを至福の気持ちで味わうことを可能にするガイドとして機能することを目的としています。 したがって、これが(つまり、神聖な美しさを目撃すること)が「心のエデン」であるならば、知性(または「*Aql*」)はそのしもべです。 人間の心がこのように魅了され、神の栄光に魅了されるとすぐに、人は祝福された神のしもべになります。 これは、次の聖句(クルアーンより)に描かれています。

وَمَا خَلَقْتُ ٱلْجِنَّ وَٱلْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ

「私(つまり神)は、私を崇拝するためだけに*ジン(*地上に存在する超自然的な目に見えない生き物)と人間を創造しました。」 (クルアーン、第51章、56節)

神は人間に支配する心とその王国を与えました。 彼は人に軍隊を提供しました - 軍隊、そのための力、そして壮大さのより高い領域に上がらせるために乗るための資金でもありました。 ですから、この崇高な地位の崇高な恵みにふさわしいと願うなら、全能の神への誓いを守り、謙虚なしもべのように神に従おうとするなら、心と魂を尽くして神を崇拝し、そのために定められた道を歩むべきです。 このような状況下では、王の玉座に身を置き、神の臨在の中にいることを究極の目的とすべきです。 人は自分の心に従い、善行を行い、来世を自分の本当の恒久的な住居の国と見なさなければなりません。 したがって、人はこの世界を儚いものとして、人生の旅、神との最後の出会いのための一時的な通路として扱うべきです。 身体は乗馬、手と足は使用人、知性は首相であり、世俗的な事柄の監督者であると考えるべきです。 人は怒りを厳密な裁判官と受け止め、神から与えられた五感を諜報機関として活用すべきです。 同様に、このようにして得られた証拠をふるいにかけ、行く手を阻むすべての邪悪な落とし穴や危険から身を守るために心を使うべきです。 知性である首相も同様に、すべてがその領域内にあり、その軍隊、軍隊がそれに対して反乱を起こさないことを監督するように仕組まれるべきです。 自分の担当が平和の安息の地であり続けるように、そのような計画をチョークで描かなければなりません。 これにより、人は神から至福の恵みと豊かな報酬を受けるに値することが保証されます。 そのため、人はすぐに神によって信者に約束された成功の冠をかぶることになります。 そうでなければ、すべてを失った人の中に一人が数えられます。 そのような惨めな人は任務に追い込まれ、報復は自分の運命となるでしょう。

したがって、各人は内なる存在、魂の力と直接関係していると推測する必要があります。 この目的のために、人は特別な資質と特性に恵まれています。 悪い資質や特徴は人を台無しにし、良い資質や特徴は幸運な人の高台に引き上げます。 多岐にわたりますが、これらの気質(または内面の資質)のうちの4つは、人間の主要なカテゴリーとして扱うことができます。

1)[野生の野蛮人]獣の特徴、

2) 天使の資質、

3) 悪魔の悪徳、

4)動物の特徴。

たとえば、人間の貪欲は人を不浄な衝動にさらしますが、動物も持っている、食べたり、飲んだり、自然な性的本能を満たすことに頼ったりするような通常の衝動は、両方に共通のままです(つまり、人間と動物の間)。 一方、肉体的な騒乱によって敵を攻撃し、引き裂くという人間の[野蛮な]獣のような性質は、制御不能な怒りによって刺激され、深刻な口論、ささいな喧嘩、そして容認できないものを誹謗中傷し虐待します。

対照的に、人間の知性、知恵は、神を喜ばせるために、善を行い、悪を未然に防ぐという根本的な目的を持って、熾天使の行為を行うよう促します。 そのような人は、人々の教育(認識と啓発)を促進し、さまざまな方法で彼らを助け、一般的に仲間の人間のための奉仕の天使です。 人は神の真理を高く評価し、無知と悪い行動を[誰に対しても、間違っていて]望ましくないと考えています。

このように、これらの性格の特定の傾向は、悪党のような猟犬のような傾向、豚のようなやり方、悪魔の悪徳、天使の習慣で広く象徴することができます。 たとえば、犬は見た目が醜いわけではありませんが、習慣的に手に負えない傾向があります。 時々、同種に吠え始めるほどです。 同様に、豚は生き物の中で最も醜いわけではありませんが、汚れたものや汚れたものに対する潜在的な熱狂のために、一般的に忌まわされています。 豚という言葉そのものが厳しい言葉であり、忌まわしい言葉です。 サタンと犬も同様の立場にあります。 人間にもこれらの特徴があります。 これが「悪魔の資質」の意味です。 その反対は「天使の資質」です。 これらの用語は、それぞれ悪魔的であるか、天使のようになることを意味します。

だからこそ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「悪魔は事実上、一人一人の中に存在している。 私も彼と無縁ではありませんが、慈悲深い神は私を彼の上に重ね合わせ、圧倒してくださいました。 彼(つまり悪魔)は[私に対して]無力です」。

同様に、人間は、欲望と放蕩の豚、そして殺戮と激しい怒りの呪いを克服しようとする命令と義務の下にあります。 したがって、人間は邪悪で悪質なものすべてに対抗すべ

きです。 間違いなく、そうする人は、そのような優れた行動によって生じる神からのそのような報酬で栄誉を受けるでしょう。 同様に、性格の悪い醜い習慣は、人を不運に導き、神による[当然の]罰に導くでしょう。

そのような人の状態を視覚化することができます。 人は、犬、豚、またはサタンの前に手錠をかけられて立っていることに気づくでしょう。 信者が不信者に引き渡された場合、その人に与えられる扱いは明らかであることは当然です。 そして、天使が豚、呪い、または悪魔に引き渡された場合、彼の状態は信者の状態よりも悪くなるでしょう。 完全にがっかりし、悔しいことに、世俗的な怒りの特性で呪われた人間は、自分が恐ろしい猟犬やオオカミの姿をしていることに気づき、欲望の餌食になった人は、審判の日に自分自身が豚の姿になっているのを見るでしょう。 夢の中でオオカミが同じように誰かに見られた場合、それはその人が暴君であることを意味します。 豚の場合、汚れて劣化していると推測できます。 人が彼らや彼らのようなものから遠ざかれば離れるほど、その人の一般的な態度と内面は、その人の行動にますます適合するようになります。

内なる自己の命令を与える人について知ったので、自分の内なる自己に目を向け、彼らのうち誰があなたに最も影響を与えたのか、そしてあなたがどこにいるのかを自分自身で評価してみてください。 あなたの行為や行為が、あなたを作ったり傷つけたりする対応する性格特性をあなたの中に生み出すことに注意してください。 実際、善からは善以外は何も生まれません。 同様に、欲望の豚に従順であれば、冒涜、恥知らず、貪欲、お世辞、汚さ、そして他の人の邪悪さを喜ぶ習慣が似ているでしょう。 しかし、豚を抑制することに成功し、豚を克服することに成功すれば、満足感、優雅さ、知恵、敬虔さ、無私無欲などの資質を身につけることができます。

もしあなたが恐怖と恐怖の猟犬に追い抜かれた場合、あなたの中に発達する有害な[内なる]特性は、軽率で結果を無視すること、不純さ、自慢、傲慢さ、自分の欠点をむやみに誇示し、他人を嘲笑し拷問し、他人との喧嘩や口論を起こすものになります。 それにもかかわらず、この破壊の犬に勝てば、忍耐、上品さ、許し、安定、勇気、静けさ、聖潔さ(内なる純粋さ)などの追加の資質を獲得するでしょう。

同様に、もしあなたが悪魔に従うなら、悪魔と豚を助け、教唆し、その邪悪な計画で人々を誤解させ、トラブルを起こし、不正行為、不純物などに訴えることを主な任務としているなら、あなた自身が悪魔からこれらの悪魔的な性質を受け継ぐことになります。しかし、もしあなたが彼の狡猾さにとらわれず、知性と善の力を強化し続けることで彼を打ち負かすことができれば、知恵、グノーシス(「*マリファ*」)、知識、深い賢明さ、能力、そして美しい内面と外面の態度(「*フスン・ウル・クルク*」または「*フスン・アル・イクラク*」)を獲得するでしょう"). これらの高貴な特性は、あなたの絶え間ない仲間であり、ガイドとなるでしょう。 彼らは、あなたの幸運の種を蒔き、あなたの良い思い出を永遠に根付かせます。

対照的に、悪行は罪または悪徳と呼ばれます。 対照的に、善行は「*イバダ*」または神への崇拝と呼ばれます。 ハートは、光る鏡や磨かれた鏡のようなものです。 邪悪な道は雲と暗闇のようなものです。 悪い性格は心の鏡を汚し、暗くします。 そのような性格を持つ人は、神の臨在や神の証しという良性の祝福を得ることはできません。 人は神の慈悲の崇高な見方の祝福を受けることはできません。 まことに、高尚な性格の誠実さは光のようなものです(「*ヌール*」)。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

اتْبِعِ السَّيِّئَةَ الْحَسَنَةَ تَمْحُهَا

「悪い影響を取り除くために、悪い行いに次ぐ善行を行うべきです」。

つまり、悪い行いの直後に善行を行うべきです[無知、不注意、または間違った影響下で自分が何をしているのか気づかずに行われた]。 悪から清められて来る人だけが祝福されるでしょう。 審判の日には、人間の心は明るいか暗くなるかのどちらかになります。 輝く顔(心の内面の美しさを表す)を持つ人だけが祝福されます。

إِلَّا مَنْ أَتَى ٱللَّهَ بِقَلْبٍ سَلِيمٍ

「健全な心で神のもとに来る者を除いて。」 (クルアーン、第26章、89節)

創造の初めから、人間の心は半透明の心が作られている鋼のようにしっかりしています。 安全に守られ、汚されることが許されない限り、宇宙全体がその中に見えることがあります。 全能の神は次のように定められました。

كَلَّا ۖ بَلْ ۜ رَانَ عَلَىٰ قُلُوبِهِم مَّا كَانُوا يَكْسِبُونَ

「いいえ、確かに、彼らが稼いでいるものは彼らの心に錆びを引き起こしました」。 (クルアーン、第83章、14節)

親愛なる愛する人! 人間も獣、悪魔、動物の特徴や特徴を持っているのに、なぜ天使のような性質は自分の財産であり、他のものは一時的なものなのか、と言うかもしれません。 人間が天使の性格を持つように創造され、実際には他のものとは何の関係もないことをどうやって確認できるでしょうか? その答えは、人間が「*アシュラフル・マフルカット*」、つまり神のすべての創造物の中で最も優れたものとして創造されたという反論の余地のない事実にあります。 したがって、人は動物や獣よりも優れています。間違いなく、神がそれぞれのものに与えられた地位は、それに対する神の優しさの集大成です。 たとえば、馬はロバが体重を運ぶだけなのでロバよりも優れていますが、馬は騎士の完璧な指揮に合わせて戦いで勇敢に疾走しますが、馬は独自の得意分野として、ロバと同じように体重を運ぶこともできます。 したがって、それらの間には顕著な違いがあります。 馬がこれらの資質とより優雅な態度を持っていなかったら、その身長もあらゆる意図と目的においてロバのそれにまで低下していたでしょう。

同様に、自分たちは食べたり飲んだり、肉欲の欲求を満たすようにさせられたと考える人もいます。 この種の人々は、そのような不運な追求に人生を無駄にしています。 自分たちは敵や仲間の人間を軽蔑し、貶め、圧倒するためだけに生まれてきたと信じている人もいます。 勝者か敗者か、不可抗力は、アラブ人、トルコ人、クルド人[または他の人種や民族]であろうと、彼らに対する優位性を獲得するために適用されます。 明らかに、これらのイデオロギーは両方とも間違っています、なぜなら、前述の食べたり飲んだり、性的抱合だけをする生活は欲望の要素に落胆しているからです。 動物にもそのような欲望があります。 ラクダは大量の食物と水を消費する品質でよく知られていますが、豚は過剰な肉欲能力を持っています。 では、なぜ人間は彼らよりも地位が高いとみなされるのでしょうか?

また、他人を克服し、征服しようとする衝動は、気性の高まりと怒りによるものです。この自然現象は、放牧動物や森の野生動物にも存在します。 したがって、なぜ人間は彼らよりも優れているのでしょうか? [人間と動物の]違いと区別はどこにあるのでしょうか? 答えは一目瞭然ですが、それにもかかわらず(つまり、人間が動物と共有する低レベルの資質)、それに比べて人間が持つ救いの資質は、人間はすべての創造物の中で、知性に恵まれており、それによって自分のスプリームマスターである神も認識しているということです。 また、神の手仕事、神の創造的な天才を自発的に評価し、賞賛することを可能にします。 また、致命的な敵、怒り、貪欲を打ち負かすのにも役立ちます。 これら(つまり、怒り、貪欲、その他の低次の自己の基本的な性質の欠如)は、天使の特徴です。 彼らの資質そのものが、鳥、獣、動物の[レベル]を超えて上昇させます。したがって、人間は創造されたすべてのものよりも優れており、それらよりも顕著な優位性を持っています。 それらはすべて、自分の手招きで呼ばれています。 一人は、すべての被造物の中で最も優れています(「*アシュラフ・アル・マフルカット*」)。

وَسَخَّرَ لَكُم مَّا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِ جَمِيعٗا مِّنۡهُۚ

「そして、神は天にあるものも地にあるものも、すべて神から来たものをあなたがたに服従させました。」 (クルアーン、第45章、13節)

このように、人間の偉大さは、規定された美徳に優れている限り、その人の誠実さの偉大さにあり、すべての功績の中で最大のものは「*マリファ*」または神のグノーシスです。 残りの特性はそれに比べて見劣りしますが、無数の高貴な動機付けの力(能力)が栄光のために人間に与えられてきました。 このように、人間が死ぬと、欲望や怒りなどの邪悪な顕著な特徴も死ぬことは考えさせられます。 [死後および死後の人間の]残っているのは、神の「マリファ」またはグノーシスでセラフィックな方法で装飾された高品質の「宝石」です。 それは人の絶え間ない仲間です。 この宝石は、常に謙虚にうつ伏せになり、常に神の前にひれ伏して礼拝する天使たちの友人でもあります。

فِي مَقۡعَدِ صِدۡقٍ عِندَ مَلِيكٖ مُّقۡتَدِرِۭ

「真実の座に、全能の王の前で。」 (クルアーン、第54章、55節)

あるいは、人間が死ぬとき、その人の遺体は暗く盲目のものであり、その人の悪徳のせいで暗く、汚れているが、かつては一人のエゴを落ち着かせ、満足させていた怒りや傲

慢さが欠如しているため、盲目である。 その結果、その後、以前の地域から受け継がれたこの卑劣な領域に住むことになります。

وَلَوْ تَرَىٰٓ إِذِ ٱلْمُجْرِمُونَ نَاكِسُوا۟ رُءُوسِهِمْ عِندَ رَبِّهِمْ

「あなたは、主の前で頭を下げた犯罪者を見るでしょう。」 (クルアーン、32章、12節)

それは、その結果、サタンとともに「シジン」(死後の世界で最も卑劣で最も悲惨な存在の領域)*に送られるとき、そのような状態になることを意味します。* 「*Sijjeen*」という用語の解釈は、すべての人に知られているわけではありません。 したがって、神は次のように定められました。

وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا سِجِّينٌ

「それで、あなたは『シジン』が何であるかを知っていますか?」 (クルアーン、第83章、8節)

心の世界の驚異は無限です。 身体のすべての器官と比較して、心臓が持つ崇高な地位、真の敬虔さの台座は、心臓自体が新しいという事実によるものですが、ほとんどの人はそれに気づいていません。 心の壮大さとその敬虔さには、次の 2 つの主な理由があります。

1) 「」のため*イルム*」または知識、および

2) 「*クドラ*」または力と能力。

知識による偉大さは、2つの原因によるものです:1つはすべての人に知られており、自明であり、もう1つは隠されていて微妙です。 誰もそれを理解できません。 知識とその複雑さをすべて吸収する心の能力と力は、その範囲内にあります。 分割できませんが、数秘術、算術、医学、占星術、神の法則などを簡単に読んで理解できます。 それは、砂漠の砂のように心の中に収められたあらゆる形態の教育を網羅しています。 そ

の絶え間ない動きと賢明さにより、地球から空まで、東から西までの距離をあっという間にカバーします。 地上にありますが、広大な地平線の遠くまで測定し、銀河系のすべての星や星座、そしてそれらの間の距離を認識しています。 タックルで水から魚を取り出し、空から地上に鳥を撃ち落とし、ラクダ、馬、象などの動物に自分の命令に従います。 身体の5つの感覚的知覚は、その天職です。 それらすべてが自分の心に向けられていることは明らかです。 それらは霊的な領域(魂の領域)での識別への扉であり、心の中に[魂の領域に向かって]扉が開かれています。 一方、ほとんどの人は物質世界(物質領域)だけを気にし、これらの身体的感性が知識の獲得への唯一の道であると考えています。

実際、この2つの扉はかなり小さいですが、心の中には多くの門があり、さまざまな種類の知識と教育を受けるために開かれています。 2つの前提のうち、最初の前提、つまり、眠りについて夢を見ると、これらの感覚器官は休眠状態になりますが、心の扉は開き、その結果、魂の領域と「*ロー・マフフード*」または「保存されたタブレット」(つまり、過去の知識を含む神の記録の本)が、 現在と未来)、人は運命づけられたもの(神はすでに気づいている)を見始めたり、将来何が起こるかを知るようになったりします。 時々、解釈を求めるべき来るべきことの兆候が得られます。 これは、原則として、目を覚ましている人が「*マリファ*」またはグノーシスにふさわしいと考えられているという事実にもかかわらずです。 しかし、一般的に言えば、これらの感覚機関によって「*アラム・アル・ガイブ*」(目に見えない未知の領域)のこれらのことを知るようになる可能性は低いことに気づきます。

これらの夢の主題について何気なく考えることはできませんが、心はきれいに磨かれた鏡のようなものであり、保存されたタブレット(「*ロー・マフート*」)は、物理的な存在の領域にあるすべてのものの絵が描かれた鏡のようなものであると言えば十分です(「*アラム・マウジューダット*」)。 私たちがいる領域は、見ることができます。 きれいに磨かれた[心の]鏡をこれらの複製品の前に置くと、それらははっきりと見えます。 したがって、心がきれいに磨かれた鏡のようなものであり、これらの感覚の刺激を[存在の物理的な領域から]そらすことから自分自身を切り離すとき、人は保存されたタブレット(「*ロー・マフフート*」)に近づくのも不思議ではありません。 心がそのような真の感覚で満たされている限り、心は精神的な領域でエクスタシーに満ちて歩き回ります(「*アラム・ルハニ*」)。 しかし、夢の中では、これらの感覚は止まりますが、そのイメージや思考は残ります。 一方、「*アラム・ミタール*」(想像力の領域)では、感情や思考は、時にはかなりぼんやりと想像することができます。 人間が死ぬと、ついにベールが

剥がれます。 [物理的な領域からの]知覚や感覚は残っていません。 物質(つまり、物事の真実、現実、現実性)が透明になります。 その後、故人は次のように告げられます。

فَكَشَفْنَا عَنكَ غِطَآءَكَ فَبَصَرُكَ ٱلْيَوْمَ حَدِيدٌ

「今、われはあなたからあなたのベールを取り除き、今日、あなたの視力は鋭い。」 (クルアーン、第50章、22節)

ある人はこう答えます。

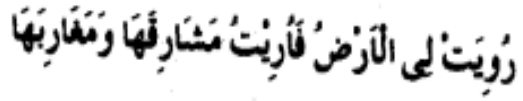
رَبَّنَآ أَبْصَرْنَا وَسَمِعْنَا فَٱرْجِعْنَا نَعْمَلْ صَٰلِحًا إِنَّا مُوقِنُونَ

「私たちの主よ!私たちは見聞きました。わたしたちを[この世に]戻せよ、わたしたちは義な行いをするであろう。私たちは今、[物質の現実について確信を持って]確信しています。」 (クルアーン、32章、12節)

心の扉が「アラム・アル・マラクト」、つまり天使の領域*に向かっていることの第二の証拠は*、慎重な思考や敬虔な不安、またはこれからの海峡に対する恐怖を免れる人は誰もいないということです。 そのような考えは感覚から発せられるのではなく、心から生まれます。 これらの予想される危険の起源と原因はわかりません。 この分析により、すべての知識が感覚器官から発せられるわけではないことが確認されます。 さらに、心は実際には「アラム・ルハニ」または魂の領域に関係しており、この[物質的]世界には関係していません。 明らかに、これらの感覚器官はこの世界のために作られました。 人間がこの世の世俗的な考えを取り除かない限り、これらの感覚器官はまったく役に立たない次の世界にスムーズに進むことはできません。

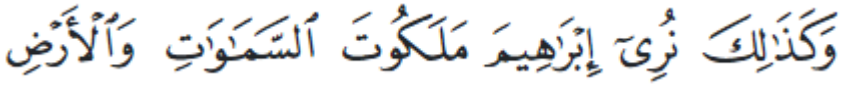
ですから、人間が深い眠りにつくか死なない限り、魂の領域への心の扉は開かないと誤解してはなりません。 懸命に働き、傲慢な怒りを克服し、自分自身、つまり自分の魂を悪から浄化し、目を閉じ、人里離れた場所に座り、すべての世俗的な考えを根絶し、舌で言葉を発さず、そのすべての繊維が「アッラー、」と心と魂を魂の領域に最も献身的に取り込むなら、 アッラー」(つまり、神の唯一の個人名ですが、「神」は、神がもたらしたすべてのものの主人、創造者、維持者、提供者である至高の存在を指す一般的な言語固有の方法です)は、心の鼓動ごとに、自分自身と神以外の世界全体を完全に認識しなくなるまで、心の中の祝福の扉が開き、開いたままになります。 覚醒状態では

、他の人が眠っているときに何をするかがわかります。 天使たちの美しい魂が絵のように美しい形で降りてきます。 人は神の預言者を見始め、彼らから恩恵を受けるでしょう。 この世と次の「マラクート」の天の生き物、つまり超越的な天使が彼に見えるでしょう。 幸運な人は、自分の想像をはるかに超えた奇妙なビジョンや超自然的なものを目撃するでしょう。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)のこの言葉は、そのような人についてです。 それは、そのようなことが眠ったり死んだりしなくても可能であることを解明しています。



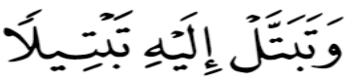
「地球全体が私に示されたので、私はその東と西を見ました」。

聖クルアーンからの次の聖句もこの問題に関係しています。



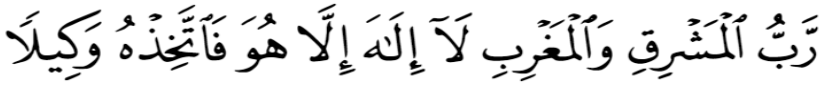
「こうして、われは預言者アブラハムに天と地の王国を示された。」 (クルアーン、第6章、75節)

預言者の確かな信念と健全な判断は似ていました。 それは感覚とは何の関係もなく、むしろ、その堂々とした成果は、神の大業における彼らの懸命な努力の成果でした。 神は次のように宣言されました。



「そして、(最大限の誠実な献身をもって)敬虔に神に身を捧げなさい。」 (クルアーン、73章、8節)

実際、そのような場合、神はすべてを正してくださいます。 彼だけがすべての有能者です。



「東と西の主よ。神以外に神はいないのですから、彼を[あなたのすべての事柄の]管理人として迎えなさい。」　(クルアーン、第73章、9節)

ですから、あなたが神に頼り、神の中にのみ依存するとき、神以外のすべてのものとのすべての[あなたの]つながりを切り離すなら、あなたは何も心配する必要はありません。

وَٱصۡبِرۡ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَٱهۡجُرۡهُمۡ هَجۡرٗا جَمِيلٗا

「そして、彼らの言うことを(嘘、人を傷つけること、攻撃、申し立て、虐待、批判に関して)辛抱強く耐え、優雅に見捨ててください。」 (クルアーン、73章、10節)

このような卓越した美徳は、不屈の努力と、神に永遠に忠実であるという不屈の努力の激しい運動に表れています。 人間の心を浄化します。 人は、人々の敵意や、世俗的な心配や渇望の誘惑的な罠に対するあらゆる恐怖を乗り越えます。 そのような努力の末に達成されたそのような知識の誇り高き所有者であることは、特別な祝福を受けた人々、つまり「*クリ*」、または神の友人であり親密な人々にとってうらやましい幸運です。 1つは高い台座に設置されています。 それにもかかわらず、明らかな理由から、神の預言者の地位は彼らにとって高いです。

しかし、そのような[崇高な霊的]状態の獲得は神の預言者にのみ適用されると誤解されてはなりません。 実際、すべての人はそれ自体でそれを行うことができます。 たとえば、鉄は、その基本的な本質的な性質のために、世界のあらゆるものの顔を見ることができる磨かれた鏡に成形できないかもしれません。 後で汚され、汚される可能性があることは別の問題です。 当然のことながら、世俗的な貪欲と誘惑はそれに多くのダメージを与え、[心の]磨かれた鏡を汚します。 悪は非常に脅威です[それは、もはや真実と神の光を映し出すことができない心の磨かれた鏡を覆い、変形させる]。

人間は、現実と真実の表面的な理解にとらわれるべきではありません。 [代わりに、]人は、自分の召命において、自分の学問には「*マリファ*」または神のグノーシスがあることを認識する必要があります。 これが[真の]知識の意味です。 それにもかかわらず、

知識自体は心よりも狭く、小さいです。 心臓は体の乗り手です(その逆ではありません)。 ハートの目的は、ライダーがその乗り物に乗ることです。 馬(つまり、体)は騎手(つまり、心臓)のためのものであり、馬(つまり体)の騎手(つまり心臓)のためのものではありません。

あなた自身ほどあなたに近いものはないが、あなたはそうしていないことを理解してください。 自分のことを知らず、他人を知っていると主張する人は、自分を養うことができないが、都市の貧しい人々や貧しい人々を食卓に座らせると公言する貧乏人のようなものです。 そのような主張はとんでもない。

この説教の目的は、自分の心がどれほど偉大で特権的であるかを理解することです。 神はあなたにこの途方もない祝福を与えましたが、あなたには隠しておられました。 もしあなたがそれを探求せず、それを無駄にし、怠慢なままにしておくなら、それはあなたにとって大きな損失と嘆きの問題となるでしょう。 したがって、真実、つまりこの偉大な神の贈り物の美徳を獲得するために懸命に努力することがあなた方の義務です。 この世の通常の追求でその探求を失うのではなく、その集大成[と究極の目的]を求めて、あなたがこの世と来世で見られ、尊敬されるようにしてください。 つまり、神はあなたに、その後も不安定さがなく、その後も弱さがないように強さを得ることができ、神聖な美しさの近さがあなたのうらやましい運命となるような「*マリファ*」またはグノーシスで聖別されるかもしれません。 あなたは、それを遅らせるものは何もないはずのほどの至福に恵まれているかもしれません。 あなたがそのように達成できる真の地位は、あなたのパフォーマンスと、それに値するために獲得できる能力によって異なります。

これは非常に重要です。 そうでなければ、物事を分析すれば、暑さ、寒さ、飢え、渇き、病気、苦しみの謙虚さの中にいることほど大きな悲惨さはないことがわかるでしょう。 人が楽しんでいることは、時には人にとって有害になることもあります。 自分にとって有益かもしれないと思うことは、心配、ストレス、緊張に満ちているかもしれません。 したがって、慎重に行動する必要があります。

尊敬される人は、私たち[一般的に]知っていますが、その人の知識、力、業績、強い意志、根性、そして良いプロフィールによって名誉ある人物です。 同時に、人の知識、

学習、教育に関する限り、瞑想的な目を向けると、その人はすべての中で最も無知であること、つまり、脳の静脈が1つでも歪んでいると、狂ったり、死んだりする危険があることに気づくでしょう。 その原因や治療法はわかりません。 さらに、その治療薬は目の前にあるかもしれませんが、まさにこの薬が自分の病気の治療法であることに気づいていないかもしれません。 自分の力に関しては、ハエを殺すことさえできないほど無力です。 さらに言えば、ライオンが神によってそうするように定められた場合、人はライオンによって殺されます。 スズメバチが刺されると、落ち着きがなくなります。 同様に、人は自分の握力を失い、たとえ少量の銀を失ったとしても、それについて非常に心配し、落ち着きがなくなります。 ですから、しばらく食べ物を一口も食べずに行かなければならない場合、人はバランスを崩しますか? したがって、誰が人間よりも弱いのでしょうか? ハンサムさや一般的な態度の美しさについて言えば、泥の山の上に革張りのテントを過度に伸ばすことに例えることができます。 また、2日間お風呂に入らないと悪臭がし始めることも周知の事実です。人々から避けられ、一般的に公の場で恥をかかされるだけでなく、他のいくつかの複雑な問題が発生する可能性があります。 汚れた物質は常に自分の中に残り、一日に何度も洗っているので、人間ほど汚いものはありません。

かつて、非常に尊敬されている聖人でありグノーシス主義者であるシェイク・アブ・サイード(神が彼を喜ばれますように)が、ス ーフィー(神の近さを達成するために内なる変容のために精神的な道を歩む人々)と一緒にどこかに行っていたというたとえ話が引用されています。 彼らはある場所に着くと、そこにいる人々が人間の排泄物を掃除する仕事をしているのを見ました。 道には悪臭を放つ土が散らばっていた。 誰もがそれを見てびっくりし、鼻をふさぎ、あちこちに逃げましたが、 *シェイク* (スピリチュアルガイド)はそこに立ったままで言いました。この汚物の山が私に何を言っているか知っていますか?」 彼らは「何?」と尋ねました。 彼は答えた、「昨日まで、私は果物やお菓子などの形で市場に出ていたということです。 人々は私に惜しみなくお金を使っていました。 私は一晩彼らのお腹の中にいた後、この不快な臭いの腐敗に変わりました。 私はあなたから逃げるべきですか、それともあなたは私から逃げるべきですか?」

事実、人間はこの世界では弱く、不完全で、無力です。 それにもかかわらず、審判の日には本格化するでしょう。 このような状況下で、「*キミヤ・アス・サーダ*」または「永遠の幸福と無限の勝利の錬金術または変容者」を保持すれば、人は動物の地位を超えて天使の地位に到達するでしょう。 しかし、もし人がこの世と世俗的な欲望の餌食になったら、犬や豚は一匹よりも優れているでしょう、なぜなら、彼らは消滅し[そし

て永遠に消え去る]からですが、人間は神の報復と、世俗的な生活で行った自分自身の悪行による苦しみに沈んだままになります。 それは、人間が自分の地位の広大さと崇高さを認識しているなら、それに応えられなかった場合に生じる可能性のある害と損失を同時に思い出さなければならないことを意味します。 そのような物事の棚卸しを行うことが、神の「マリファ」またはグノーシスへの鍵です。 これらすべては、人が自分の自己を認識するのに十分であるはずです。

神を知る

ガザリは、彼の著書「キミヤ・エ・サアダット」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革エージェント」の中で、永遠の幸福と真の永続的な成功の錬金術(または変容剤)の素晴らしい説明を続けており、この永遠の至福の錬金術(または変容剤)の4つのタイトル(または要件)のうちの2番目である「神を知る」ことを説明しています。 永遠の至福の変革主体の第二の要件である「神を知る」を説明する中で、彼は次のように書いています[3]。

親愛なる愛する人! [預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の前]に定められた[神の]書物には、神が次のように布告されたと述べられています。

اَعْرِفْ نَفْسَكَ تَعْرِفْ رَبَّكَ

「自分自身を認識しなさい。そうすれば、あなたは自分の主を知るでしょう。」

また、この格言は、ハディース(預言者の語り話)と預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の仲間の時代と論文以来、非常によく知られています。

مَنْ عَرَفَ نَفْسَهُ فَقَدْ عَرَفَ رَبَّهُ

「自分自身を認識した者は、自分の主を認識したのです。」

人間の心は[磨かれた]鏡のようなものです[その上に付着したほこりが取り除かれ、磨かれた鏡としての機能を妨げるものが表面から取り除かれている場合]。 それに目と注意を集中する人は、神を認識するようになります。 重要なのは、この鏡を見ずに無駄に自分自身を賞賛し続ける人々がいるため、彼らは主を知るには程遠いということです。 繰り返しになりますが、答えは「マリファ」(グノーシス)その正しい調和における神の。 したがって、正しい視点で心の現実を知ることは、心の2つの顕著な側面が必要です。 それは[普通の]人々の理解を超えているため、理解するのは非常に困難です。 したがって、ブローチしない方が良いでしょう。 もう一つは、全能神について自分自身で、つまり、自分の中に宿る特別な特徴を通して、全能神を理解しようと努めるべきであるということです。 つまり、至高主の恵みと創造物の美しさが、全宇宙の広大な広がりに広がっていること、そして神が自分の体の王国とその器官において人間の心に親切に与えてくださったものの研究を掘り下げるべきです。 人はそもそも自分の起源について、最初は単なる無実体であり、今では「存在」であることを十分に熟考しなければなりません。 それは聖典(クルアーン)で宣言されています。

هَلْ أَتَىٰ عَلَى ٱلْإِنسَٰنِ حِينٌ مِّنَ ٱلدَّهْرِ لَمْ يَكُن شَيْـًٔا مَّذْكُورًا ﴿١﴾

إِنَّا خَلَقْنَا ٱلْإِنسَٰنَ مِن نُّطْفَةٍ أَمْشَاجٍ نَّبْتَلِيهِ فَجَعَلْنَٰهُ سَمِيعًۢا بَصِيرًا ﴿٢﴾

「人間には、人が言及されるべきものでなかった時代が来たのでしょうか? 私たちは混ざり合った精子の滴から人間を創造しました。それから試してみて、私たちは一つの聞き、見ました。」 (クルアーン、第76章、1-2節)

人は、その謙虚な出自から、知性、聴覚、視覚、味覚、触覚、言語など、後に授けられた資質さえ含まない、単なる不純な水の一滴であることに気付くでしょう。 また、耳、目、舌、手足、頭、静脈、組織、骨、脊椎なども含まれていませんでした。 要するに、人の遺伝的存在は、この白っぽい水滴のみで構成されており、その初期の形でした。

これらの線に沿った熟考は、人間がそのような高い高みに登る可能性にもかかわらず、人は自発的に、そして自分自身の進化によって生まれたわけではないことをさらに教えてくれるでしょう。 人は自分自身を生産しませんでした。 1つは他の誰かによって作成されました。 自分の得意分野では、一本の孤独な髪の毛を作ることさえできません。 人はまったく無力です。 結局のところ、人は自分の本質の中にあり、一滴の汚れた水にすぎませんでした。 では、自分を創造する資質はどのようにしてその人に帰せられるのでしょうか? 言うまでもなく、そのような内省は、自分の存在と創造主の現実への啓発を人に与えます。 宇宙における神の創造物の優雅な素晴らしさはさておき、自分の体の優れた有機体、それぞれが独自の性質と機能を持つさまざまな機能を調べるとき、創造主である全能の神の素晴らしさと比類のない巧みさに気付くでしょう。

人は多くのことについて主に感謝しなければなりません。 神はまた、卓越した魂とハンサムな体を授けられました。 人の美しい横顔だけでも、深い感謝の気持ちを込めて神の前に頭を下げるはずです。 したがって、人は「*ジャマル*」または美しさと「*カマル*」または卓越性と恵みの両方を他ならぬ神のみから与えられたことを幸運に思います。 結局のところ、そうでなければ何でしょうか? ほんの一握りのほこりだけです! 神は目的なしに何も創造されませんでした。 人体解剖学のあらゆる部分は不可欠であり、規定された方法で実行する特別な義務があります。 これらのコンポーネントはそれぞれ、(それに固有の特定の機能のために)専門的に製造、計画、およびプログラムされています。 欠けているものや欠けているものは何もありません。 憲法全体は非常に完璧であるため、いかなる方法でも優れているわけではありません。 たとえば、顎の歯を見てください。 正面のものは尖っていて鋭く、食用を適切に切って突き刺すのに役立ちます。 それらの近くにある他のものは、かなり広く、グルーヴィーで、平らになっているので、細かい消化可能な粒子に粉砕することができます。 舌の下の部分は、こうして形成された食物の一口を湿らせ、喉を簡単かつ安全に通過できるように展性を高めます。 同様に、人間の手のひらには5本の指があります。 4本の指も似ています。 しかし、親指はそれらからある程度の距離を置いています。 それらよりも短く、少し厚いです。 それは、それら一人一人と調整して協力し、また、良い把握と取り扱いのために、すべての指を集合的に一緒に働く能力を持っています。 次に、各指には3つの毛穴がありますが、親指には2つの毛穴があります。 人間はこれらの毛穴を自由に動かしたりねじったりすることができます。 片手で曲げることで、手のひらをカップ状にすることができます。 両手の毛穴をつなぎ合わせてねじることで、中空プレートとして使うことができます。 同様に、これらの毛穴と手のひらを閉じることで、敵と戦うために一種のボクシンググローブに変えることができます。 一方、手のひらをまっすぐにした大皿としても利用できます。 したがって、これらの指の位置、サイズ、または

量についての議論は、無駄な練習になります。 とても見事に作られました! これらすべてのものと宇宙の最高建築家は、最高の裁判官です。 神は自分が進化したすべてのことについてすべて知っています。

人間のニーズや欲求は無限です。 創造主の創造物も無限です。 人間は着る服、住む家、その他多くのものを必要としています。 雨、空気、熱、寒さ、食料を育てる土地などの自然要素も同様に生み出されています。 錫、鉄、青銅などの必須金属も同様に、さまざまな目的や産業向けの道具や道具を作るのを助けるために人間に提供されています。 これらすべてのものと他の多くのものは、人々が手に入れ、そこから利益を得、快適な生活を送るために存在します。 それでは、人間は、至高の優しさで(誰も気づかず、求めることなく)このすべてを一人のために行ってくださった神の全能の臨在を最終的に感じるほど好奇心を持つべきではないでしょうか? 人間の心は、神の愛と礼拝によって豊かになるべきではないでしょうか。 *ハディース・クッシ*(その源を神に帰したとされる預言的な語り)によると、預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)は次のように述べています。

سَبَقَتْ رَحْمَتِي عَلَى غَضَبِي

「私の憐れみは私の怒りに勝った。」

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)によると、「人類に対する神の慈悲と優しさは、乳を飲む赤ちゃんを溺愛する母親の慈悲と優しさをはるかに超えています。」

比較的低いスケールで、単純だが善良な人間は、そのようなことに「*マリファ*」または神のグノーシスを見ます。

一. 一滴の水のささやかな起源から自分自身の創造物で。
二. 体の器官の不気味な特徴に。
三. 神が自分の欲求と必要をすべて備えてくださることにおいて。
四. 自分の体質の美しさに。 神によって創造された美的事物は、人に魅力的で魅力的な外観を与えます。

神はそのような人を好み、その人に「マリファ」またはグノーシスを祝福します。 そのような自己の評価は、神のグノーシスへの鍵となります(「マリファ」)。

あなたの中の宇宙

人間は、自分が知らないことを理解しようと努めます。 人は、自分が持っている内面と外面の資質によって神を理解しようと最善を尽くします。 人の努力は称賛に値しますが、その地位がどれほど高貴であっても、人間の理解力と能力は限られているという事実は変わりません。 これに関連して衰えることなく研究することは、間違いなく人生における地位を高めるでしょう。自分の心と「ナフ」(または自己)がこのプロセスにどんどん洗練されればなるほど、神への大きな愛によって、その結果、人は神に相対的に近づきますが、最終的には「神だけが神を全体的に知っている」という真実を理解するでしょう。

たとえば、人間の心である「ナフ」または自己は、実際には定量化することはできません。 寸法はありません。 それは不可分です[したがって、時間と空間の次元の定量化、限界、制限の制約を上回っています]。 色はありません。 要するに、それは何よりもそのような考慮事項です。 そのような場合、どのようにしてそのようなものの形を判断できるでしょうか? 形や方位がわからないそのようなものをどうやって視覚化できるでしょうか? したがって、それはそれに応じて識別できる人間のいかなる性質とも一致しません。

人間には感じても理解できないものがたくさんあります。 たとえば、愛と痛みは感じることができますが、それらは見たり思い浮かべたりすることはできず、形、色、大きさもありません。 問題はかなり複雑です。 人間が感じるさまざまな識別力や状態は、感覚のさまざまな構成要素に関係します。 たとえば、声は耳に似ていることがわかっています。 色は目で見て評価されます。 舌は味を認識し、鼻は匂いを嗅ぎます。 贖いの共通要素である知性はそれと関係があるかもしれません。 帰納的論理の本は、おそらくある程度は問題に関連しているかもしれませんが、まったく別のクラスの主題である心とその特別な資質には確かに関係ありません。

神はどこにでもおられます。 しかし、神の臨在は、他の場所を排除して、特定の場所に限定することはできません。 彼の存在と命令はいたるところに感じられます。 魂は、体のどの器官とも単独で感じることはできません。 手、足、頭、または体の他の部分にあるとは言えません。 これらの身体器官は前述のように分割できますが、心と魂は分割できません。 論理的には、分割できないものは、分割可能なものには含まれません。

しかし、心と魂は体のどの器官とも関係がないと言っても、それがそれらに影響を与えないという意味ではありません。 実際のところ、体のすべての部分はそれに従属しており、心、魂、または「*ナフ*」または人間の自己の直接の支配下にあります。 この文脈では、宇宙全体が宇宙とすべての存在の王である全能の神の直接の支配下にある限り、人間の魂は王です。

魂という主題は非常に繊細で微妙です。 それに関するあらゆる議論と議論にもかかわらず、それはユニークでしっかりと守られた秘密です。 したがって、一定の限界を超えて打ち出すことはできません。 例えば：

إِنَّ اللَّهَ خَلَقَ ادَمَ عَلَى صُوْرَتِه

「まことに、神はアダム[したがって彼から生まれた全人類]をご自分の姿で創造されました。」

ここで、神が一番よく知っていると言う以外に選択肢はありません。

私たちはこれまで次のように判断しました。

一. 神は全能です。 最高の卓越性という彼の偉大な神聖な資質の恩恵は、彼に現れています。
二. 彼は遍在していますが、存在は他の場所を排除して、ある場所に限定されているとは見なされません。
三. 自己を知ることが、彼のグノーシス、つまり「*マリファ*」の鍵です。
四. 人間の本当の目的と目的は、彼のグノーシスまたは「*マリファ*」を達成することです。

さて、その方法を理解したいと思います。 彼は至高の支配者であり、人間の王国の至高の王です。 解明すべき謎はたくさんあります。

一. 天使たちに命令を下し、彼らの謙虚な従順を下す神。
二. 上の天からの彼の叙階と、下の地からの彼らの嘆願の遵守。
三. 星や星座の絶え間ない動き。
四. 神によって(天から)生き物が生き残るために生計を立てるための栄養を与えること。

これらは、彼のグノーシスに関連する説得力のある質問です。 これらの問題などは、いわゆる「神の慈悲の行為」の範囲内にあります。

この論文では、私たちは彼のグノーシス(「*マリファ*」)につながる多くのコースを決定しました。 さて、私たちは彼の神聖な行動のグノーシス(「*アファール*」)について知りたいと思います。 言い換えれば、人間が肉体の王国を支配する方法を知らなければ、すべてのマスターのマスターである彼がどのようにして全宇宙を支配しているのかを理解することはできません。 したがって、再び、人間が自分の「自己」を知り、その人のそれぞれの行為がこの視点で導かれない限り、謎を解くことはできないという必然的な結論に達します。

たとえば、紙に「ビスミラ」*(アラビア語で「最も慈悲深く、最も慈悲深い神の名において」)を書き留め*ようとすると、あなたの心は最初にそうしたいと願い、次に心臓(つまり、「心臓」とも呼ばれる体の左側にある物理的な器官ではなく、本当の心臓)がこの趣旨でかき混ぜ、脳にそれを実行するように命じます。 人間の「カヤル」の場所である脳の最初の敏感な部屋、つまりそれについての思考の呼び起こしがそれを行います。 思考の概念が考案されます。 それは脳によって脳の筋肉に与えられ、脳の筋肉はそれを体に広げて伸ばします。書く指が向けられ、静脈とその組織がこの趣旨のメッセージを受け取り、次にペンを持ち、受け取った刺激に従って言葉を刻みます。 他の感覚器官も助け、教唆し、「*ビスミラ*」と書かれています。 したがって、取引全体がそうするという基本的な「意志」のために行われたと推測することができます。 同様に、すべての始まりや始まりにおいて、この「意志」または「*イラダ*」は本質的です。 それが神に帰属する場合、この「意志」は神の「至高の意志」と呼ばれます。

人間の意志が最初に自分の心から発せられ、そこから[身体の]他の方面に到達する限り、同様に、神の最高の意志とその影響は、最初に「*アルシュ*」、つまり神の全能の支配から始まり、次に他の立場と人々に到達します。 さらに、この意志の概念が、人の心、魂の繊細で細い繊維を介して人間の脳に到達する独創的な方法。同様に、神の意志のこの不可侵の宝石、神の「*イラダ*」または「意志」は、神によって「*アルシュ*」(または「神の全能の支配」)から「*クルシ*」、つまり「至高の神の卓越性の天の座」に伝えられます。 この卓越した宝石は、彼の天使または「***Ruh al-Quds***」(聖霊)に現れています。 脳の支配が人間の心に従属しているのと同じように、同様に、神の命令の影響は、即時の服従と服従のために、神の叙階の従属領域を通じて「クルシ」に伝えられます。 前の章で説明したプロセス全体は、心に「*ビスミラ*」(「最も慈悲深く、最も慈悲深い神の名において」)を心に書くという考えの出現から始まり、その最終的な実行は、同様に「*ジャウハール・タリフ*」または「神の不気味な意志」によって雄大な方法で開始され、銀河系の星や他の星座を作動させます。 彼らに希望する役割を割り当てます。 その結果、その固有の可能性に基づいて、それらの放射線(光線)によって大気がかき混ぜられ、暑さ、寒さ、秋などの気象条件が生まれます。

また、ペンがインクを動かして散らばった言葉を吸収し、前取りして「*ビスミラ*」という統一された形を与えるように、同様に、熱、寒さ、水、ほこりがそれらの化合物を動かし、それらの相互作用によって構成された有効な形を集めて物質にさまざまな形を与え、熱と塵がそれらを融合させ、乾燥がそれらを結合させます。

ペンが書こうと動くと、書こうと考えられたものは何でも、そのビジョンが定式化され、最終的には書き留められた言葉の中で形になります。 同様に、上記の化合物の固有の価値が動き出すと、その後、天使の代理によって、動物やその他の植物の形態は、上記の「*ロー・マフフード*」(すべての創造物と存在、およびそれらに関連するすべての出来事の完全な記録を含む保存されたタブレット)と呼ばれる記録に従って視覚化されます。 「*アルシュ*」(単に「玉座」ですが、実際には神の全能の支配権です)、「*ロー・マフフード*」(保存された石板)、「*クルシ*」(至高の神の卓越性の天の座)の崇高さを考慮して、多くの人々は太古の昔から神は天の「*アルシュ*」に住んでいると考えています。 クルアーンにおける[預言者]ヨナ(*スーラ・ユヌス*)の章には、次のように述べられています。

ثُمَّ ٱسْتَوَىٰ عَلَى ٱلْعَرْشِ ۖ يُدَبِّرُ ٱلْأَمْرَ ۖ

「それから[神]は王位の上に建てられ、事件を管理されました。」 (クルアーン、10章、3節)

「カシュフ」または精神的な除幕*に恵まれた人々について言えば*、彼らの言葉には価値があると言えます。

إِنَّ اللّٰهَ خَلَقَ ادَمَ عَلٰى صُوْرَتِه

「まことに、神はご自分の姿でアダムを創造されました。」

ということわざにあるように、「王の本当の価値を知っているのは王だけである」ことに注意してください。 もしあなた自身が自分の領域の王でなかったら、そして神があなたに慈悲の一見を祝福してくださらなかったら、あなたは決して神のグノーシス(「*マリファ*」)に近づかなかったでしょう。 したがって、あなたを創造し、あなたの領域の王権を戴冠させてくださった全能の王に感謝してください。

あなたの「*アルシュ*」(玉座)は動物の魂です(「動物の魂」は、人間の存在の最も優れた部分である「人間の魂」とは別のものです)。 その源は心にあります。 あなたの「*イスラフィル*」(審判の日にラッパを吹いてすべての人を生き返らせる天使。魂が生き返ると、人間の存在のあらゆる側面を若返らせ、復活させ、再活性化する可能性を秘めています)は神によって造られました。 あなたの「*クルシ*」(座席)も同様に思考から構築されています。 目、耳、感覚要素は天使のようなものです。 脳は天蓋のようなものです。 あなたの知覚的な構成要素でできたそのドームは、あなたの空です。 あなたの心からすべての基本概念を一掃した後、それはあなたの体のすべての部分に君臨する王として設置されました。 あなたのために多くのことをした後、あなたは一瞬たりとも自分自身やあなたの王国を無視してはいけないと言われました。 そうでなければ、この怠慢は神の命令を無視することに等しく、神の前でのあなたの立場に深刻な危険をもたらすでしょう。

فَإِنَّ اللّٰهَ خَلَقَ آدَمَ عَلٰى صُوْرَتِه فَاعْرِفْ نَفْسَكَ يَا اِنْسَانُ
تَعْرِفْ رَبَّكَ

「そしてまことに、神はアダム(全人類の父、ひいてはすべての人間の父)をご自分の姿に似せて創造されました。 ですから、人間よ、自分自身を知りなさい! あなたがたは、あなたの主を知るであろう。」

人間の王国の概念は、全宇宙に対する全能者の王権と王国の概念から小型化されて導き出されます。 それ自体、この概念には次の強調が含まれています。

一. 自分の王国を構成する体のさまざまな器官の重要な資質と召命の学習に関する人間自身の自己の知識。
二. 神のグノーシス、天使に対する神の慈悲深い注意に関する神の王国の知識、ひいては天使同士の関係、そして高貴な「*アルシュ*」(神の玉座)、天と「*クルシ*」(至高の神の卓越性の天の座)との関係は、大きな功績を持つユニークな知識の側面でもあります。

抜け目のない人は、自分の無謀な無知の収穫を刈り取るだけの怠慢な愚か者に対して、それらに無関心で不注意なままでいることは決してありません。 「博物学者」や「占星術師」の中には、残念ながら、この主題の限られた教育に頼ることにあまり理解していない人もいるため、最終的な結果、すべての結果を星の効果に帰する傾向があります。 彼らの信念は非常に独断的で、あまりにも歩行者であるため、この錯覚に関しては、彼らの状態は、ペンが無気力に進んでいるため、ペンが[紙の]表面に黒い痕跡を作っているような印象を与えるかもしれない紙の上を這うアリの状態に例えることができます。 紙の上を這う別のアリは、より高い視力を持っているため、手(ペンを握っている)が紙にマークを付けているという信念をさらに広げる可能性があります。 これは博物学者の例です。 彼らの[誤った]信念の明らかな誤謬は、彼らの信条には、他のすべての事実に関係なく、すべての人間が星の影響を取り返しのつかないほど受けているという信条の中にある。 factの反意語は fancy または farceです。 そうなると、占星術師は、これらの星も、天と星、そして宇宙とその向こうにあるすべてのものの最高指導者である神によって定められた天使たちに従っていることを簡単に忘れてしまいます。 彼らの把握は物質的なものだけに限定されています。 彼らは、すべての物質的な世俗的な考察よりも優れた霊的分野の完全な初心者である。 物質的(または物質的)領域の星は、

霊的領域の輝かしい光(*「アラム・ルハニ」*)よりも輝きが劣ります。 彼らは魂が肉体を支配していることを知りません。 その逆は真実ではありません。 彼らは自分のノウハウと知識を誇りに思っていますが、その不条理さの中で、彼らは魂の霊的領域の道の祝福を欠いているままで、そこでは、内なる存在の多くの明るい星(*「バタン」*)が神と「*メラジ*」(霊的な上昇または神の道への上昇の栄光、または上昇する高みの栄光、 預言者ムハンマド[彼に神の平安と祝福あれ]に授けられたように)。 したがって、神は聖典(クルアーン)で次のように宣言されました。

وَكَذَٰلِكَ نُرِىٓ إِبْرَٰهِيمَ مَلَكُوتَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ

「こうして、われは預言者アブラハムに天と地の国を示した。」 (クルアーン、第6章、75節)

預言者アブラハム(彼に神の平安あれ)はこう答えて叫びました。

إِنِّى وَجَّهْتُ وَجْهِىَ لِلَّذِى فَطَرَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ

「私は自分の顔(つまり、私の全存在、つまり内側と外側の両方)を、天と地を創始した方に向けます。」 (クルアーン、第6章、79節)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)もこう言っています。

اِنَّ لِلّٰهِ سَبْعِيْنَ اَلْفَ حِجَابٍ مِنْ نُوْرٍ لَوْ كَشَفَهَا لَاَحْرَقَتْ سُبْحَاتُ وَجْهِهٖ كُلَّ مَنْ اَدْرَكَ بَصَرُهٗ

「まことに、神には七万の純粋な光のベールがあります。 もし神がそれを明らかにしていたら、神の顔の光は、神を見つめるすべての人を燃やしたでしょう。」

医学の知識を持つ人々は、同様に、物事の熱い効果または冷たい効果に基づいて実践の多くを行っています。 それは彼らの職業の実践においてある程度支援してきました。 太陽を明るく熱くし、土星を乾燥して冷たくし、水星をさらに熱くする創造主の贖いの性質には、その目的がないわけではありません。 しかし、貧しい占星術師は、天文学的な千里眼において、太陽を地球に最も近い位置に置く創造主の創意工夫や、昼と夜の

変化、さらに言えば、空のすべての星や星座が神の至高の意志に義務を負う謙虚な服従を理解できません。 そのような人は、彼らの物理的な存在と既知の特性に関して、彼らの霊的美徳に信憑性を与えることを省略しています。 半球のこれらすべての星が神の意志と命令に服従し、従属していることを知っていた場合にのみ、その物理的側面を盲目的に信じることはなかったでしょう。

ٱلشَّمۡسُ وَٱلۡقَمَرُ بِحُسۡبَانٍ

「[神の命令で]太陽と月は定められた進路をたどります。」 (クルアーン、第55章、5節)

وَٱلشَّمۡسَ وَٱلۡقَمَرَ وَٱلنُّجُومَ مُسَخَّرَٰتِۭ بِأَمۡرِهِۦٓ

「そして、太陽、月、星は神の命令に従います。」 (クルアーン、第7章、54節)

利用され、制御され、働かされるものは征服されたと見なされます。 人間の臓器が人間に対して行うように。 それぞれに実行する機能が割り当てられています。 星もまた、神の命令を果たす神のしもべです。 同様に、脳が人体の他の器官に、神から人間に与えられた識別能力と連携して行動するように指示するのと同じように、星もまた、この目的のために神から割り当てられた天使を通して、規定されたパフォーマンスに夢中になり、その監督者と原動力の役割を果たします。 実際、これらの天使は、規定された領域内の多くのものの生きた先駆者である。

表向きの原因とその結果、つまり結果は、それほど重要ではありません。 無条件の偶然は、暗闇の中で象を一部ずつ痴漢し、全体を考えるよりは誤った判断に基づいてそれぞれ異なる名前を付けた伝説の盲目たちにその立場に例えられるほど、物事を信じさせるためにすべてある。 同じことがこの占星術師、透視能力にも当てはまり、同様に奴隷を主人、王と誤って見なしています。 まさにこのことが聖クルアーンに明快に描かれています[預言者アブラハム(神の平安あれ)の言葉を通して]。

لَآ أُحِبُّ ٱلۡأٓفِلِينَ

「私は(日没時の太陽のように)沈むものが好きではありません。」 (クルアーン、第6章、76節)

月と太陽は無知な人々によって神であると推測されます。 命令された者は、正気が勝つまで指揮官と呼ばれます。 天球には12個の「*ブルージ*」、つまり乗り物があります。 それは、高貴な王が「ワジール」(大臣)とともに栄光の恵みの部屋に座っていることに例えることができます。 彼の周りには、見晴らしの良い場所に「*ワジール*」(王の大臣)のエリート補佐官が座っており、それぞれにドアがある12の著名な平和の天国に座っています。 7人の従順だが機敏な騎兵が、「ワジール」の助手の呼びかけに応じて各ドアの周りを徘徊し、受け取った召喚に注意深く耳を傾けている。 その即時の実施のために、これらの騎兵から少し離れたところに4人の男が徒歩で立っており、弓を用意してこれらの騎兵を注意深く観察し、特定のグループの人々を縄で縛り付け、最高司令部の前に彼らを連れて行くことで受けた指示を果たします。 その後、彼らは罰を受けるか、報酬が与えられます。

したがって、「*アルシュ*」(「神の全能の支配」)は、事柄を担当する著名な大臣(*「ワジール」*)、つまり高い天国でお気に入りの天使の区別の住居です。 これは、占星術師が想定した星の半球のマウントとは対照的です。 これらの千里眼は、医師がさまざまな症状によってさまざまな病気を解読するのと同じように、空のチェス盤上のポーンと道具のさまざまな位置にさまざまな意味を割り当てます。

ذَٰلِكَ مَبْلَغُهُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ

「これは彼らの知識の完全な達成です。」 (クルアーン、第53章、30節)

しかし、神の憐れみがそのような病人を襲うとき、上記の従者が一人の世話をし、述べたように一人は救われます。 預言者の道も同じように星がちりばめられており、「*ワリ*」(聖人、グノーシス主義者、または神の親密な人)もまた、人の治癒において奇跡を起こします。

اِنَّ الْبَلَاءَ مُوَكَّلٌ بِالْاَنْبِيَاءِ ثُمَّ الْاَوْلِيَاءِ ثُمَّ الْاَمْثَلُ فَا الْاَمْثَلُ

مَرِضْتُ فَلَمْ تُعِدْنِيْ

「まことに、預言者は試練や苦難を経験し、次に神の親しい人(「*ワリ*」)、次に彼らの好きな人たち(しかし、すべて神の前での霊的な地位に応じて、地位は低い)です。 です

から、私が体調が悪いときは、私の健康を求めないでください。」 (*預言者ムハンマドのハディースまたは伝統[彼に神の平安と祝福あれ])*

また、非常に病気に見えるが、病気ではない人もいます。 実は、彼らは神様の愛によってそのような状態に陥った人々であり、彼らがとても崇拝しているので、病気に見える人々です。 確かに、愛はとても自己消費的です!

さて、「スバン・アッラー」*(すべての不完全さと欠点の上にある神に栄光あれ)*、「アルハムドゥリラ」(すべての賛美は神にあれ)、「ラ・イラハ・イラッラー( )」(神以外に神はいない)、そして「*アッラーフ・アクバル*」(神は偉大である[どの創造物とも比較できないほど高揚している])という用語の意味を理解する必要があります。」または神のグノーシス。

派生では、あなたが自分の「自己」(*「ナフス*」)、つまりあなたの中の敬虔さと美徳を認識するようになると、あなたは神の卓越した最高の敬虔さと美徳を知り、それによって「*スバンアッラー*」(神に栄光あれ)を理解するようになります。 あなたが自分の領域の王であることによって神の王権を認識し、すべてが神に従属しているので、全宇宙における神の壮大な至高性の真理を同化するとき。 そうして初めて、「*アルハムドゥリラ*」(すべての賛美は神にあれ)の意味を理解するようになったと考えることができます。 まことに、すべての賛美と感謝は、彼と彼だけによるものです。

最後になりましたが、「*アッラーフ・アクバル*」の意味を理解する必要があります。 それは単に「神は偉大である」という意味ではありません。 それはそれ以上の意味があります。 それは単に神が他の人よりも偉大であることを意味するだけではありません。 彼はすべての中で最も偉大な方です。 しかし、イエスと他の誰との間にも比較することはできません。 彼はあらゆる理解を超えています。 彼は無限に至高です。 彼はすべてを超え、包み込んでいます。 彼は全能で、全知で、遍在し、最も慈悲深い方です。 私たちは、神の創造的な天才と聖なる御名から、神と彼の多くのユニークで素晴らしい資質と力を知るようになります。 神はあまりにも偉大で比類のない方なので、私たちは神を説明したり、その祝福を列挙したりすることはできません。

神の敬虔さは人間の敬虔さとは異なります。 あり得ない。 神の偉大な属性を説明する言葉をまったく見つけることができず、そうすることで、神はすべての創造物の創造主であるため、まったく適切ではない言葉や表現を神に帰します。 では、どうすれば彼らは神のようになることができるのでしょうか? 同様に、神は私たちを赦してくださいますが、私たちが支配する人間の王国と、神の統治が明らかになっている神の王国を比較するとき、私たちはそれらが似ているという意味ではありません。 それは、私たちがどれほど無能であるか、人間がどれほど無力であるか、そして神がどれほど栄光であるかを示しています。 例えば、子供が国家を支配することの魅力について私たちに尋ね、理解してもらうと、それはバットやボールで遊ぶのと同じだと答えます。 私たちは以前にもそう言いましたが、神だけが神を完全に知っており、他の誰も知らないことを繰り返します。 この状況下で人間にとって採用する最善の方法は、次のことです。

一. 彼のグノーシス(「*マリファ*」)を自分の能力を最大限に探して夢中になりましょう。
二. 神の慈悲に集中し、神の神聖な*資質と創造物の中に*神の光(「ヌール」)、*神の美しさ*(「ジャマル」)、*神の力*(「クドラ」)を探すこと。
三. 神の優しさに感謝すること。
四. 心と魂のあらゆる繊維を尽くして神を崇拝すること。
五. 神の戒めに従うこと。

私たちは皆、神から来たので、神のもとに戻ります。

إِلَيْهِ الْمَرْجِعُ وَالْمَصِيرُ

「神への帰還であり、最後の手段です。」

あなたが神を愛し、敬い、礼拝すればするほど、あなたは[神によって]祝福されるでしょう。 彼は誠実で、献身的で、謙虚で、愛情深く、感謝する人が好きです。 そのような高貴な行いは必ず[神によって]報われます。

أَنَا بُدُّكَ اللَّازِمُ فَالْزَمْ بُدَّكَ

「私は(つまり神)あなたの必要な必然性ですから、あなたの必然性をしっかりと握りしめてください。」

心の芯からの彼の記憶(「*ディクル*」)は、すべての[卑劣な]欲望を自分の魂から切り離し、[すべての]卑劣な行為をあきらめ、彼の崇拝に完全に浸ることによってのみ強化することができます。 誠実な心は平和で清潔です。 信者(「モミン」)の壮大さはそこにあります。

قَدْ أَفْلَحَ ٱلْمُؤْمِنُونَ

「信者たちは[真の、究極の、永続的で、永遠の成功を収めて]成功しました。」 (クルアーン、23章、1節)

神はまた、次のように指定しました。

قَدْ أَفْلَحَ مَن تَزَكَّىٰ ﴿١٤﴾ وَذَكَرَ ٱسْمَ رَبِّهِۦ فَصَلَّىٰ ﴿١٥﴾

「自分自身を浄化し、主の御名を思い出し、主に誠実な献身をもって祈る人は、確かに成功するのです。」 (クルアーン、第87章、14-15節)

世界を知る

アル・ガザリは、彼の著書「キミヤ・エ・サアダット」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革エージェント」の中で、永遠の至福の錬金術(または変革エージェント)の4つのタイトル(または要件)のうちの3番目である「世俗的な生活の世界と現実を知ること」を説明することで、永遠の幸福と*真の永続的な成功の錬金術(または変革剤)の素晴らしい説明を続け*ています。 永遠の至福の変容主体の第三の要件である「世俗的な生活の世界と現実を知ること」を説明する中で、彼は次のように書いています[4]。

親愛なる愛する人! この世界は、人間が次の世界への旅を旅する道です。 それは「*マリファ*」または[神の]グノーシスの広大な砂漠の終わりと足がかりにあるオアシスです。 この世(「*ドゥニャ*」)と次の世(「*アキラ*」)、または来世は2つの条件です。 1つの状態は、死ぬ前までの人間の人生と時間に関係します。 来世は死後すぐに始まります。 この世[そして世俗的な人生]は、人間が来世に備えるためのものです(「*アキラ*」)。 この人生の目的は、来世で良い立場に立つために、ここに滞在するための収入として善行の宝物を集めることです。 人間は創世においてかなり弱く不完全に創造されてきましたが、同時に神の命令に従うことによって、「*カマル*」または完璧さと卓越性を達成し、天使のような資質を獲得し、神の栄光を見ることができるような天才(ユニークな能力)に恵まれています。 これは、その人の存在の総計です。 これが約束された「楽園」です。

神のグノーシス(「*マリファ*」)の鍵は、人間が人に対する神の大きな優しさに感謝し、神の無数の恵みに感謝し、神の創造物の絵のように美しい美しさを認識することにあります。 人間の知覚は、神が生み出す魅惑的なものを味わい、味わい、自然の周りに広がる計り知れない美しさの独特の素晴らしさを目にさせます。 耳は心地よい音や音楽を鑑賞し、手は愛情のこもった感触の温かさを感じさせます。 人間が生きている限り、人はこれらすべてを楽しみ、[求めなくても人に与えられた計り知れない恵みを神に]感謝することができます。 人が死ぬと、人は、もはや残っていないこれらの知性[収集]エージェント(つまり感覚)の自由に提供されるサービスを失います。 したがって、人間は人生において2つのものを必要としています。

1. 自分の心を殺すものから自分の心を守ること。 人は自分の心に食べ物[と栄養]を与えなければなりません。

2. 自分の体を傷つけ、殺すものの有害な影響から体を守ること。 同様に、食べ物をそれに与えるべきです。

以前の談話で、私たちは心の食べ物が神の愛とグノーシス(「*マリファ*」)であることを確立しましたが、これは、それぞれのものの食べ物は、その内部の自然な特性に基づいて、それが本当に好きで、望んでいるものであるという格言に基づいています。 また、栄養と持続性も必要です。 さらに言えば、体のケアも心のためです。 なぜなら、体は最終的に滅びるが、心は[死後も永遠に]生きるからである。 この点に関して簡単な例を挙げることができますが、ラクダ(昔の交通手段として)が神の道を歩む「*ハジ*」また

は巡礼者(神の聖なる家への*巡礼*、つまり地上における神の慈悲の象徴)のためのものであるように、体は心のためのものです。 それに乗って「*カバ*」(メッカの神の聖なる家)に到着します。 その逆は真実ではなく、つまり、巡礼者はラクダのためではなく、ラクダは巡礼者のためのものです。 当然のことながら、巡礼者はラクダが「*カバ*」(巡礼者の目標であり意図した目的地)に到達するまでラクダに餌を与えます。 この理由での怠慢や遅延、怠慢は、[意図した目的地に到達するという]目的に損害を与えることになります。

この問題をさらに分析すると、人体には次の3つのものが必要です。

a) 食べ物

b) 服

c) 家。

言い換えれば、食べるには食べ物が必要であり、身を覆う必要があるには衣服が必要であり、家は体を危害から守るために暑さと寒さの猛攻撃から守られることができる聖域の場所です。 要するに、これら3つのものは、身体、つまり肉体的存在の基礎、基本的な前提条件です。 しかし、人間が食べ過ぎると死ぬこともあります。 家や衣服の欲求も、自分の生存のために人間に植え付けられています。 この性質の過剰な要求は有害である可能性があります。 ここで理論的根拠、常識が人を救い、身体のこれらの要求に過度に耽溺するのを防ぎます。 すべての道徳的価値観が含まれている、またはそれらが派生する善の原則、それらに勝る最高または最高の善は、心です。 その食べ物は高貴です。 心が食べる食べ物が多ければ多いほど、魂にとって良いのです。 その結果、心は神の愛と探求によってよく栄養を与え、そのニッチを見つけ、乗り物の手綱を手に持った騎士のように体に乗ります。 ですから、私の友人に注意を払い、その手綱を緩めないでください。 あなたが体の欲望を完全にコントロールできるようになると、貪欲、不正行為、不浄で誤解を招く衝動が抑制されます。

世界は、次の3つの主要なカテゴリーで構成されています。

1) あらゆる種類の植物、鉱山、動物など、地球上に見られるもの。 土地の表面自体が人間の居住、農業などの基礎を形成します。

2)鉄、鋼、青銅などの鉱物は、人間がさまざまな目的で必要とする道具、道具、その他の器具の製造に使用されます。

3)人間は動物に乗り、その肉を食べ、他の食べ物を食べて自分の存在を維持します。

他にも多くの複雑さがあります。 日常生活の中で、手足を保ち、何よりも心を忙しくさせているのは残念なことです。 それは、その本当の目的を忘れ、世俗的な貪欲、陰口、怒り、および同様の邪悪な追求に関与することにより、心の終焉につながる可能性があります。

同様に、金細工師(金属用)、織物、建築の3つの職業も最も重要です。 これらの職業は、何らかの形で相互に関連しているだけでなく、その副業とも積極的に関連しています。 綿花摘みが綿花農園から綿花の花を摘むように。 キャスターは綿毛をふるいにかけます。綿紡績業者がそれらを糸に紡ぎ、最終的に綿織り職人が織り上げてさまざまな種類の生地に織ります。 これらの服は縫い付けられ、仕立てられます。 鉄細工師は、仕立て、縫製、縫製を行うための道具を作ります。 このようにして、異なる職業の人々が互いに協力します。

それぞれが他方に依存しています。 当然のことながら、複雑な問題と職業上の嫉妬が始まります。 仕立て屋は、織物を織り手に、大工や鉄鍛冶屋が順番に製造した機械装置で紡績する紡績業者に事実上依存するようになりますが、自分自身も仕立てるために独自の道具や装置を必要とし、そのためにも鉄細工のサービスが必要です。 この複雑なギブアンドテイクのシステムは、複雑さと競争をもたらし、そのためには、この問題に関係する他の要因とともに、3つの主要なことが不可欠です。

1) 政治的、言い換えれば、戦術的洞察力と政治家としての手腕。

2) 監視機器と政府。

3) “*イルム・アル・フィク*」または宗教に定められた規則や規制に従った法律と行動規範の知識。

結局のところ、このインフラは、前述の3つの人間の前提条件、すなわち食べ物、衣服、家、または居住地の実現と達成のためのものです。 残りは彼らに従います。 これらの基本的な人間の要件は、身体に関係します。 体は心、魂のためのものです。 巡礼者(「ハジ」)がラクダに乗ってカーアバ(巡礼者の最終目的地、地上における神の慈悲の象徴であるメッカの象徴的な神の家)に到達しなければならないように、魂は体に乗らなければなりません。 人間の場合、人の目標はそれと同義であり、つまり「マリファ」または神のグノーシスの目標を達成することです。 カーアバの[最終目的地]に到達するという目標を念頭に置く代わりに、前述の巡礼者が旅行中にラクダの世話と世話をずっと費やす時間を無駄にした場合、自分の重大な過失[最終的な目標と目的地に到達することを妨げる]責任を負うのは自分自身だけです。 親愛なる愛する人! そこから教訓を学びましょう。 人生の本当の目的と目的を犠牲にして世俗的な事柄に巻き込まれないでください。 人生の怠惰な職業[と無駄な追求]で世界で無駄な時間は、あなた方に多大な代償を払うでしょう。 この人生の旅は、実際には来世への旅であることを忘れないでください(「アキラ」)。 この世界のカリスマ性はとても魅力的です。 取り込まれないでください。 人生の誘惑を乗り越えてください。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「世界は『ハルートとマルート』(有名な伝説の魔術師)よりも偉大な魔術師である」と正しく述べています。 [世界の]現実は次のように要約できます。

一. この世界があなたにかけた魔法の最初の呪文は、この世界とそのすべての魅力が常にそこにあると感じさせることですが、実際にはその逆です。 時間は儚く、幸せな瞬間に時間を数え切れないほど、かなりだるいではありますが、継続的に前進します。 過ぎ去る時間、世界の足跡は影のようです。 それはいつも静止しているように見える影のように休眠しているように見えます。 後で、影は元の場所にはなく、代わりに元の位置からゆっくりと、気づかないうちに移動し、遠ざかっていることに気づきます。 確かに、世界は動いています。 時間も潮も待っていません。 したがって、足元に草が生えないように注意してください。 得た瞬間は失われませんが、失われた瞬間は決して得られません。 このままでは、人生は短い。 それでは、それを最大限に活用してみてはいかがでしょうか。

二. この世界の魔法の第二の例は、この世界の魔法があなたを大切な友人として扱い、世俗的な愛と善意の贈り物を惜しみなく贈るふりをし、あたかも忠実な同志のように、常にあなたと一緒にいるかのように扱うことです。 それは、その命令によるあらゆる誘惑的な策略によってあなたを魅了し、あなたがその注目の最も崇拝される唯一の対象であるとあなたに頼らせようとします。 しかし、その後

、それがあなたを窮地に陥らせると、あなたは動揺し、迷子になります。 あなたはあなたの人生に衝撃を受けます。 何が起こるかというと、気まぐれな自然を愛する美しい人のように、それは突然あなたを去り、その絹のような足枷を他の誰かに織り込み、そのような簡単な獲物を危険な応接室に連れて行き、人を死と荒廃を味わわせるということです。

かつてイエス(*イザ*[神の祝福と平安あれ]またはイエス・キリスト)は、「*カシュフ」(霊*的領域からの現実が覚醒した状態で示される霊的状態)の状態で、そのような頻繁に結婚する女性(それは世界の現実の体現者)を見て、彼女に何人の夫と結婚したか尋ねたと述べられています。 彼女は数え切れないと答えた。 イエスは再び彼女に尋ねた、「彼らは死んだのか、それともあなたは彼らと離婚したのか」。 彼女は彼ら全員を殺したと答えました! イエスは、この悲惨な返事を聞いて、「あなたの呪文に陥った人々を哀れに思ってください。 彼らは前任者に何が起こったかを見ましたが、それでも彼らはあなたの美の呪文に足を踏み入れ、死に至り、時間内に教訓を学ばなかったのです。」

三. この文脈における3番目の例は、魅力的なベールで顔を覆い、ゴージャスな衣服で身を飾り、派手なファッションで横顔を飾り、珍しい貴重な宝石を身に着けて、彼女に目を向けた人がすぐに彼女に恋をするかもしれないという例です。 これが世界が人間に対してどのように振る舞うかです。 それは、その魅力的な美しさと歓喜で、人が知恵を失い、その鎧に呆然とするような呪文を唱えようとします。 それは、その困難さに関するすべての考えと考察を打ち砕きます。 人間は人生が大変で真剣であることを忘れています。 ファム・ファタールになりすました老婦人がベールを外し、代わりに醜い顔を見たとき、失礼なショックになると、気付くのが遅すぎることがあります。

四. 4番目の例は、宇宙の進化から経過した期間、この宇宙が存在しなかった期間、そしてこれからその終わりまで残された期間を誰かが計算しようとすると、そうすることは不可能であり、そうすることさえ正気の限界を超えていることに気付くでしょう。 簡単に言えば、人が知っているのは、自分の世界が「ゆりかごから墓場まで」であるということだけであり、つまり、ゆりかごは人生の旅の始まりであり、この世界を通る旅の始まりであり、墓はその終わりです。 その間には、年、月、日、そして最後に呼吸するいくつかの停留所があると言えます。 長距離をカバーするものもあれば、小さなものもあります。 人間の世界での寿命が長くても小さくても、人の寿命は現実では短いのに、この重要な点を完全に忘れてしまいます。 人は永遠に生きるかのようにここに住んでいます。 次の息すらわからないにもかかわらず、自分の欲求を感じたり、不足したりしないように、今後10年間のことを計画しているのは、なんと皮肉なことでしょう。 その日を見るために生きていけないかもしれません!

五. 人生の快楽に耽溺しすぎることは、貪欲な食いしん坊にとって過食が害を及ぼすのと同じくらい、人間の来世(「アキラ」)にとって有害です。 大食いは、濃厚で甘い食べ物、または熱くて辛くて脂っこい食べ物に飛びつき、そのような重くて

不要な食べ物で胃に負担をかけることの結果を気にせず、それを放蕩にむさぼり食います。 その結果、嘔吐し始め、動きが緩くなります。 一瞬の味覚と快楽のために、人の過剰さは、そのような屈辱、苦しみ、恥をかかせます。 そのような重い食事の後の排泄物でさえ、気分が悪くなり、不快です。 したがって、この世での欲望と放蕩にふければ耽るほど、来世では堕落することが観察されています。 息の最後のけいれんの最後の時間に、人間は家のお金、金、銀、庭、使用人、メイドを測れば測るほど、それらとの分離の苦しみはさらに深刻になります。 それどころか、貧しい人は後悔しません。 そのような痛みの苦しみは、すでに悪化している状態に拍車をかけるだけであり、悪行に対する「アダブ」または[神の]報復で最高潮に達します。

六. 人生のもう一つの並外れた要因は、この世の事柄が差し迫っていることです。 それらは普通の雑用のように見え、日常的で難しくありません。 他のすべての概念や考慮事項に気づかず、人間はそれらに完全に夢中になります。 車輪の中に車輪があり、その中に車輪があることに気づいていません。 あることが別のことにつながり、人生が無駄になります。 イエス(*イザ*またはイエス・クリス[神の祝福と平安あれ])は、この世の探求者は、海の岸に唇をくっつけ、喉の渇きを衰えることなく癒すことに熱心に夢中になっている人のようなものだと言いました。 喉の渇きが増しているようだ。 飲めば飲むほど、飲みたくなる。 結局、彼はこの無駄な追跡で喉が渇いて満足できないまま死んでしまいます。 これが[この世とその所有物に対する]欲望の呪いです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、そのような人について「水に浸かっても濡れないことはあり得ない」と述べています。 この世界に対してこれほど顕著な熱狂を持っているこの種の人は、間違いなくそれによって汚されるでしょう。

七. この世界についての7番目の例は、非常に裕福なホストのところに行くゲストのところに行くようなもので、レセプションの質が優れているために大勢来たゲストを惜しみなく扱う習慣があります。 1つは、銀のストーブで燃える黒檀と琥珀の香りのよい雰囲気の中で、絶妙なデザインと装飾の金と銀の大皿で豪華な料理を提供します。 賢明なゲストは、たまたま自分の性質を理解し、感謝の気持ちを持ってそれに参加し、それに自分の香りを少し加え、優雅にホストから別れ、お互いを満足させます。 一方、貪欲な客は、もてなしの後、立派なホストから貴重品を奪おうとし、その過程でホストの使用人に捕らえられ、恥をかかされます。 人間の欲望とその堕落した欲望は好色です。 この世界を旅するこの旅において、自分自身が正当に獲得した所有物は、荷物として持ち運べる自分自身の真の所有物です。 このゲストハウス(または現代のホテル)では、合法的で真実なものからのみ恩恵を受けることができます。 貪欲は人には何の役にも立ちません。

八. 世界の次の例、つまり、その魅力的な性質の例は、人間が[魅惑の状態で]その中に迷い込むようなものです。 来世を完全に忘れてしまうほどです。 たとえば、船に乗っている人々のグループ。 途中で島に到着し、そこでしばらく外に出て、短い休息、個人の衛生管理、清めをします。 船長は、船はすぐに出発しなければならないので、すべてのニーズに迅速に対応し、すぐに船に再乗船する必要

があると告げます。 賢明な人は迅速にそうしますが、怠惰な他のグループはあちこちに散らばり、視界から消え、不必要に島を巡り、その場所の風光明媚な美しさ、動植物、色とりどりの貝殻を楽しみます。 彼らが戻ってくると、船の快適な場所はすべて占領されていることに気づきます。 したがって、彼らは暗くて薄汚い隅に座らなければなりません。 彼らの後に続く次のグループの人々は、これらの巻き貝を大量に持ってきます。 彼らは、同様の無駄な小旅行のために、前任者よりも悪い場所を手に入れます。 彼らはあまりにも混乱し、船上に座る場所がほとんど見つかりません。 さらに、彼らは首に巻かれたこれらの美しい貝殻の荷物を運ばなければなりません。 2日後、これらの殻は汚れて悪臭を放ち始めます。 さらに悪いことに、スペースが不足しているため、この負担を払拭することさえできません。 同様に重いのは、彼らの恥と悔い改めです。 最後の怠惰なグループは島の探索に夢中になり、気まぐれな船長の迅速な集合の呼びかけにまったく気づかず、船を逃し、荒野で死んでしまいます。

一言で言えば、彼らの最初のグループは信者のグループに似ており、最後のグループは、神、神の聖なる預言者(神の祝福と平安あれ)と審判の日を忘れた人々のような不信者のグループです。

استحبوا الحياة الدنيا على الآخرة

「彼らは来世よりもこの世の愛を好みました。」

仲介する2つのグループは、より良い判断と規定された行動方針に反して間違いを犯した罪人です。 彼らは現世と来世で苦しんでいます。 彼らは悪行に対して神の報復を受けます。

これは世界そのものを非難するものではないことに注意してください。 結局のところ、世界は神によって創造されたものであり、したがって目的がないことはできません。この世のあらゆるものは悪くない。 たとえば、「*イルム*」または知識自体と「*アマル*」(規定された行動に従った行動の実行)は、それ自体が重要な2つの美徳です。 あまりにも多く、二人とも表向きはこの世にいますが、実際には来世まで人間に同行します。たとえば、神の「*マリファ*」またはグノーシスの知識とその達成は、人間の存在の集大成です。 「*アマル*」、つまり自分の行動や善行には、それなりの積極的な永続的な効果、つまり、悪を捨て、神への献身的な崇拝によって魂を養うことから生じる魂の純粋さと敬虔さがあります。 神を絶え間なく永遠に思い出すことは、人間の永遠の報酬です。

وَٱلْبَٰقِيَٰتُ ٱلصَّٰلِحَٰتُ خَيْرٌ عِندَ رَبِّكَ

「しかし、永遠の義の行いは、あなたの主との報いの方が優れています。」 (クルアーン、18章、46節)

「ディクル」の*甘美さ、喜び*、つまり神への記憶は絶妙です。 私たちはイエスを崇拝し、この世でその魅力を楽しんでいますが、実際にはそれはこの世とは関係ありません。 それは来世の祝福です。 人間が死ぬとすぐに終わるこの世の喜びもあります。 しかし、神の愛と礼拝の喜びは永遠に生き続けます。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

الدنيا ملعونة وملعون مافيها الاذكر الله وما والاه

「世界と世俗的な資産はアナマティックです。 しかし、人が神を思い出すのを助け、助けるものは祝福されています。」

世界とその多くの特徴に関するこの論文は、現在の談話の目的には十分です。 その帰結やその他の関連事項は、神のご意志があれば、やがて議論されるでしょう。

死後の世界を知る

アル・ガザリは、彼の著書「キミヤ・エ・サアダット」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革者」の中で、永遠の幸福と真の永続的な成功の錬金術(または変容剤)の驚くべき説明を続けており、この永遠の至福の錬金術(または変容剤)の4つのタイトル(または要件)のうちの最後のもの、つまり「死後の世界の現実を知ること」を説明しています。 永遠の至福の変容者のための4番目の要件である「死後の世界の現実を知ること」を説明する中で、彼は次のように書いています[5]。

親愛なる愛する人!死の現実を知らなければ、来世が何を意味するのかを理解することはできないことを忘れないでください。 死の現実性は、人生に直接的な関係を持ちます。 人生の真実性は、言い換えれば、自己の知識(「*ナフス*」)に等しい魂の意義を理解しようとすることにあります。 すべての意図と目的において、魂と自己は同義語です。 私たちはすでに、人間は完全なインフラストラクチャと魂を備えた物理的なフレームの形で創造されたという結論に達しています(「ルー」)。 魂は乗り手であり、体は乗り物であることを繰り返します。

魂は、肉体に関係なく、その形、価値に応じて楽園または地獄にいます。 それは聖別されるか、非難されるかのどちらかです。 肉体のない人間に対する神の恩恵によって吹き込まれた心のかけがえのない資産は、「魂の楽園」と呼ばれています。 そのような魂を持つ神の祝福された人は、来世で美しい宮殿、庭園、その他無数の喜び(クルアーンと預言の教えに従って、目も見たこともなく、心も想像したことのないもの)で報われるでしょう。 それとは対照的に、肉体のない自分自身の悪行のせいで、苦しみと苦しみの苦しみにある魂は、「魂の火」と呼ばれます。 その住まいは地獄でしょう。 とげのある生け垣やサソリが[そこで]仲間になります。 この主題に関する詳細は、この作品の付随巻(私の本の)「*Ihya al-Uloom ad-Deen*」または「神への道の知識の復活」で提供されています。 私たちがここで触れた死についてあまり知っている人は多くありません。人々は死のテーマよりも天国と地獄にこだわることを好みます。 「*ハディース・クドシ*」(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝承)には、彼が神から伝えた次のように述べられています。

اعدت لعبادی الصالحین ما لا عین رأت ولا اذن سمعت

ولا شکر علی قلب بشر

「わたしの義なるしもべたちのために、わたしは、いかなる目にも見ることも、耳にも聞こえず、誰の心にも起こらなかった[そのような喜び]を用意しました。」

さらに、人間の心には、目に見えないものの神秘を見る天(または精神)領域に向かって開かれた窓があります(「*ガイブ*」)。 それは伝聞によってそれらを知るようになるのではなく、実際にそれらを見て、来世での祝福の状態、または来世で非難される状態を見ます。 それは、医師が行うように、健康であるか病気であるかの2つの条件の顕著な違

いを鮮明に識別します。 それは、病気のときに適切な薬を服用すること、そして医師が禁じたことをやめることによって、医師が定めた予防に従うという美徳に完全に生き返ります。 このプロセスは、体の祝福(「*サーダ・バダニア*」)と呼ばれます。 逆に、食べ過ぎて医師に注意を払わないような甘やかしは悪いことであり、体の病気と呼ばれます(「*シャカワツ・バダニア*」)。 実際的な観察により、心、アダムの子孫の魂、つまり人間には、美徳と卑劣さの両方があることがはっきりとわかります。 高潔さの報いを得るための「治療法」は、神への崇拝とグノーシス(*「マリファ」*)にありますが、呪い、卑劣な毒は、無知の愚かさと卑劣な行為に含まれています[高貴な目的は高貴な手段によってのみ達成でき、卑劣な目的は卑劣な手段の唯一の結果であるため]。 この知識を身につけることは、偉大な知恵を身につけることです。 自らを「*ウレマ*」または学者と呼んでいる人々の多くは、この知識について学んでいないだけでなく、その反対者であり否定者でもあります。 確かに、何かを知っている人は傾き(*「アリム」*)になり、それを知らないことで無知になります。 しかし、そこにはあります。 彼らは物質的な楽園か地獄についてしか知りません。 彼らにとって、来世は伝聞に限定されるか、「よく従う」ことに盲目的に従うことに限定されています。 言うまでもなく、私たちは健全な議論に基づいて、この主題の研究と研究における事実をアラビア語で書き留めました。

このような状況下では、内面(*「バタン」*)*または魂が純粋で偏見のない知的で抜け目のない人は、来世について完全に暗闇の中にいるかなりの数の人々とは異なり、来世の裁きに至る正しい道をその初期の真実の中に見つけるだろう*と付け加えることしかできません。

死の真実を理解するには、人間には2種類の魂があることを知っておく必要があります。 「*ル・ハイワニ*」は肉体的な、動物の魂を意味します。 もう一つは「*ルー・インサニ*」と呼ばれ、人間の天使の魂の起源からの魂です。 動物の魂の源、デルタ、泉は、人間の左上にある[物理的な]「心臓」と呼ばれる肉の塊です。 次の明確な機能があります。

一. それは、中程度の性質の物理的結合の繊細で素朴な発熱から成ります。
二. 発熱または軽熱は、それ自体がかなり中程度であり、[物理的]心臓の静脈から発せられ、脳や体の他の部分に到達します。
三. 脈動しています。

一言で言えば、これは媒体と運動の責任を担い、指揮している動物の魂です。 それが脳に到達すると、その暖かさは減少し、緩和されます。 目はそれを透視し、耳は聞くことができます。 それは徐々にすべての感覚にまで広がります。 魂はランプに例えることができます。 家に届くと、置かれた周囲の壁がライトアップされます。 同じように、このランプが周囲を照らすように、家の中でその周囲の部分を照らすように、神は至高の慈悲において光を与え、この魂とすべての感覚器官によって目で見る力と耳で聞く能力を与えます。

一方、静脈が影響を受けてねじれたり結び目になったりすると、麻痺したり、無気力になったり、休眠状態になりやすく、医師はこの結び目が開いて何らかの形で取り除かれるように最善を尽くします。 言い換えれば、魂はランプの炎のようなもので、心は芯であり、食べ物は油です。 オイルがなければ、ランプはダウジングされます。 食べ物、つまり油がなければ、魂の穏やかな気質は停止し、死に至ります。 オイルはあるのに芯にオイルを多く使用している場合は、不良品になっていることを意味し、まったく機能しない段階に達する可能性があります。 これが最終的に心臓に起こることです-それはその食物を受け入れて同化することができなくなります。 同様に、ランプが覆われている場合、芯や油があっても消えてしまいます。 同様に、動物は重傷を負うと死にます。

磨かれた鏡の例を見てみましょう。 きちんとした清潔さを保っている限り、投影されたものはすべて受け入れ、非常に満足のいく形で反映します。 ただし、汚れたり、変色したり、ほこりで覆われたりすると、そうすることはできません。 そこにあるものの絵や外観が見えないのは、そこにないからではなく、鏡が汚れすぎてイメージを反射できなくなったからです。

同様に、動物の魂の中で、それをかき混ぜることを可能にする媒体の能力と手足の感性は、その固有の節度の自然な気質と、その繊細で素朴な熱性によるものです。 しかし、この寛容な性質の特徴が失われるとすぐに、その節制は失われ、原動機として機能する力は機能しなくなります。 したがって、この神のユニークな祝福は失われます。 身体の臓器は機能を停止し、人間は死亡したと宣言されます。 全能の神から割り当てられた、私たちには「*マリク・ウル・マウト*」または「死の天使」として知られる天使の仕事が始まります。 そのような問題の認識は彼に最もよく知られています。 私たちは

伝聞で彼を「*マリク・ウル・マウト*」または「死の天使」として知っていますが、彼の本当の誠実さはほんの数人の知識にあります。

しかし、人間の死の問題は異なります。 上記の動物の魂に加えて、人間は「*ルー・インサニ*」または「人間の魂」または「心」と呼ばれる魂の中に別の魂(*「ルー*」)を持っています。 この魂は、前述の肉体的または有機的な魂とは異なり、はるかに高い次元にあります。 人間の魂は分裂を受け入れません。 その重要性と重要性は、神の「*マリファ*」またはグノーシスを含んでいるという事実によって視覚化できます。 まことに、神も唯一無二です。 彼の「*マリファ*」またはグノーシスの分割も支持できません。 したがって、神の「*マリファ*」またはグノーシスがいかなる身体形態にも制限されるという概念は、冒涜に等しい。

親愛なる愛する人! 議論のために、人間の中にある芯、その炎、光の存在を前提とするとしたら、ランプの物理的構成要素、つまりその構造と芯を動物の形に帰することしかできず、その光をそのように暗示することもできないでしょう。 人間の「人間の魂」に合致する。 前者は過渡的ですが、後者は過渡的ではなく、つまり、物理的なランプの光がランプの影響を受けるため、これは明らかです。 ランプが粉々になると、その光は消えます。 しかし、人間の本当の魂(つまり「人間の魂」)は、人の「動物の魂」が滅びることはありますが、消滅したり消滅したりすることはありません。 ある意味、人間の動物の魂は、その上に鞍を乗せ、疾走する本当の魂の山です。 それはまた、自分の利益のためにそうするための手段であり、装置でもあります。 したがって、この乗り物(つまり動物の魂)が滅びると、人間はその使用を失います。 同様に、それがないときと同じように、人はより多くの自信を獲得し、より自立し、自立するようになります。 特にこの時期には、人間は一生懸命働いてきたので、すでに何らかの功績と注目に値する地位を達成しているので、それは人にとって最も重要ではありません。 この栄光に権威の刻印を押すために、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)も「死は信者への贈り物である」とも言っています。

状況は、狩猟用具や道具を持って野原にいるハンターの状況と似ています。 議論のために言っておきますが、自分がわざわざ来た獲物を手に入れることに成功したとしても、その過程で装備を失ったとしても、それでも良い状況にあります。 あるいは、獲物を手に入れる前に狩猟用具を紛失した場合、その状態は悔しさに悪化し(目的を達成できなかったため)になります。 同じことについて、そこには深い教訓があります。 その

ような人は、自分の手で自分の失敗に遭遇します。 来世の報復が人を追い越し、数え切れないほどの苦しみをもたらします。

特定の手足が麻痺している場合があります。 手足が機能しなくなることがあります。これらの楽器の使用を失ったばかりであることを覚えておく必要があります。 治らないものは耐えなければなりません。 したがって、マスターエージェントである人間が生きている限り、これらの器官の重要性は二の次です。 真実は、現実は彼らの中ではなく、背中、胃、頭の中でもありません。 さらに言えば、たとえ自分の体、体のすべての器官が機能しなくなり、しもべになることをやめ、自分の支配下にとどまらなかったとしても、動物の魂は人間の魂と同じではないため、人の内在性は可能です。 ただし、再強調する必要がある2つの側面があります。

一. [生命と呼ばれる]あるタイプの存在では、身体の積極的な参加が不可欠です。 空腹、喉の渇き、睡眠などは、物理的な形がなければ起こらず、機能せず、人間が死ぬと死ぬ現象です。
二. 他の存在[「人間の魂」または「*ルー・インサニ*」のみ]では、肉体の存在はありません。 この存在は、*神の美(*「ジャマル・イラヒ」)、神の卓越した素晴らしさと卓越した栄光の追求のグノーシス(「*マリファ*」)のグランプリです。美しく、当惑し、とても楽しく魅了され、至福は最高のエクスタシーの中で呆然と立っています。 これらは、神が聖典(クルアーン)で言及されている永遠の祝福(「***Baqiyat us-Salihaat***」)です。 これらの「祝福された者、承認された善の永遠の祝福」は、人間の魂が常に満足し続けるべきである神の比類のない報酬です。神のエリート、選ばれた人々は、自分自身の中でこの資質を最優先に持っており(「*ナフ*」)、それが自動的に彼らを絶えず上昇し続ける高い台座に引き上げます。 逆に、怠慢、無知、愚かさは、その裏側であり、それは荒廃し、魂の盲目に等しいものです。

وَمَن كَانَ فِي هَٰذِهِۦٓ أَعۡمَىٰ فَهُوَ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ أَعۡمَىٰ وَأَضَلُّ سَبِيلٗا ٧٢

「そして、この世で盲目な者は、来世でも盲目になり、さらに[真理の]道から迷うでしょう。」 (クルアーン、17章、72節)

人間におけるこれら2種類の魂の違いを理解しようとしない限り、死を理解することはできません。

動物の魂は物理的な経過の順序にあり、粗雑なものは、前に述べたように、主にかなり蒸気の遺伝学に関係しています。 胆汁、線維症、およびその他の排泄物が結合してその化合物を形成します。 それらの基本要素は、水、火、ほこり、空気です。 したがって、それらの相互作用によって特徴付けられる結果として生じる均一性または変動は、関連する熱、寒さ、湿気、乾燥に起因します。 その結果、医学的知識またはその実践者である医師は、その重要性を完全に理解したままです。

しかし、彼らは、患者の身体を治療する際に、人間の本当の魂である「人間の魂」に乗れる身体の物理的な枠組みを無意識に作ろうとしていることを知りません。 本質的に天使のような「*ナフス・アル・ムトマイナ*」、つまり心の平和と完全な満足のレベルに達した人間の洗練された魂には、壮大な特徴があります。 人間の人生の旅は、自分の意志によるものではありません。 人は、この落とし穴の道の真の価値を示し、ゴールポストに見事に到達し、この困難な[世俗的な人生の]困難な通過で勇敢に立ち向かう努力と苦難の報酬を得るために、そうするように定められています。 神はこう言われます。

قُلْنَا ٱهْبِطُوا۟ مِنْهَا جَمِيعًا ۖ فَإِمَّا يَأْتِيَنَّكُم مِّنِّى هُدًى فَمَن تَبِعَ هُدَاىَ فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٣٨﴾

「私たちはこう言いました。『あなたたち全員をここから降りてください(つまり、神の臨在の中の楽園から。これはアダムとエバに宛てられたものでした。わたしからの導きがあなたに来るであろうので、わたしの導きに従う者は誰でも、彼らに恐れはなく、悲しむこともないでしょう。』 (クルアーン、第2章、28節)

慈悲深い神も次のように付け加えています。

إِذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلَٰٓئِكَةِ إِنِّى خَٰلِقٌۢ بَشَرًا مِّن طِينٍ ﴿٧١﴾

فَإِذَا سَوَّيْتُهُۥ وَنَفَخْتُ فِيهِ مِن رُّوحِى فَقَعُوا۟ لَهُۥ سَٰجِدِينَ ﴿٧٢﴾

「神は天使たちにこう言われました。『私は粘土から人間を創造するつもりです。だから、私が人間を形作り、人間に息を吹き込んだとき、私によって創造された魂は...』」(クルアーン、第38章、71-72節)

この聖句では、これら 2 つの魂の違いについて微妙に言及しています (「*Ruh*」)。 1つは塵に起因し、そこにある言葉は自然界におけるその節制の意味を与えるために使用されてきましたが、「*Nafakhtu fehe min Roohi*」または「私は自分の魂に息を吹き込んだ」は「彼自身の自己」への繊細な指針です。 それは脱脂綿の松明を作って火をつけて病気の細菌を根絶するようなものです。

主な要因は、人のガイド、司会者、監視者として機能する「人間の神の法と行動規範」であることを覚えているかもしれません。 結局のところ、私たちは再び同じこと、つまり人間の存在の本質、つまり神の「*マリファ*」またはグノーシスを得るために自分自身の自己を認識することの本質にたどり着きます。 自分自身をどのように理解し、認識するかが、神の「マリファ」またはグノーシスを手に入れようとする方法の鍵です。 同様に、これらの魂についての真実を理解することは、来世の知識を得ようとすることです。

信仰の基本的な基盤(「*ディーン*」または神への道)は、他の前提条件の中でも特に、神と神が定めた「審判の日」への明確な信仰にあります。 そこには、私たちが触れることを許されていないその隠遁地に秘密のレコンディテが横たわっています。 また、その奥深くには「*マリファ・トゥル・ハク*」と「*アキラ*」、つまり至高の主と来世の約束された主の真実が隠されているように、簡単に理解したり、取り上げたりすることもできません。 したがって、あなたはその知識と理解を得るために努力することで、完全に入り込み、あなたの知恵を使い果たすかもしれません。 その研究はあまりにも不気味で、不気味で、複雑であるため、それについて最も聞いたことのない人々が畏敬の念を抱き、呆然とし、そのアルファやオメガさえも受け入れることを拒否し、思考の不敬さとまったく価値のない無益な活動に基づいて、それは不可能であると叫ぶほど、計り知れないものに近づいています。 預言の伝統も聖クルアーンも、この問題に[明示的に]関係ありません。 では、どうやってあえてそうできるのでしょうか? だからこそ、人々はそれを聞くことができないのです。 したがって、預言者たちは次のように述べています。

كلموا الناس على قدر عقولهم

「知性(および精神的能力)のレベルに応じて人々に話しかけてください。」

だからこそ、預言者の中には、人々が理解できないかもしれない全能の神の特徴に触れないように、人々が理解できなくなると、彼らにとって有害なものを信じることを拒否するので、神から知らされた人もいたのです。

人間の本当の魂(「人間の魂」)についての真実が詳細に記述されています。 「動物の魂」は、人間の体の手足が不活性で生命がなくなると死にます。 「人間の魂」は[生死に関わらず]顕在化したままです。 したがって、人間の復活、裁きの日、復活という用語は、派生において「無」の後に人間が再びそのように存在することを意味するものではありません。 むしろ、それは、以前に行われた形、新しい体を与えられ、その後、必要な特性と資質で再び改修されることを意味します。 それは[体と魂の両方が創造された最初の創造と比較して]神にとって非常に簡単なことです。

彼らは、善行が魂の純粋さと壮大さをもたらすことを認識する必要があります。 なぜそのような非国教徒が認めなければならないのかは、理解を超えています。 したがって、神のエリートである聖人(グノーシス主義者)は、この世界を旅する中で自分たちを考えていることを論理的に学ぶ必要があります。 そのような人は、この道を旅し、自分の利益のために商品を取引し、損失を未然に防ぐために不採算の材料を集め、実際には、最終目的地、つまり来世に向かう途中で、自分が行った良い取引を運んでいるのです。 人は知っています:

إِنَّا لِلَّهِ وَإِنَّآ إِلَيۡهِ رَٰجِعُونَ

「私たちは神に属しており、神は私たちの最終帰還(目的地と帰郷)です。」 (クルアーン、第2章、156節)

したがって、人は常に移動中であるという自分の状態に完全に生きたままです。 実際の国はこの世界ではありません。 このように、人はこの道を進み、滞在中にさまざまな停留所(停留所)やマイルストーンで最後の商品を集め、目標に到達したとき、永住権のある国である来世で、これまでに手に入れたものに対して公正な価格で取引されることを十分に認識しています。

魂の旅には 4 つの異なる駅またはマイルストーンがあります。 魂は人間の現実ですが、肉体はそうではありません。 魂には安息の地もあります – 魂が生まれた場所は本当

の故郷または国であり、旅の中でこの世界にやって来ており、原点に戻るまでに多くのマイルストーンがあります。 魂の旅におけるすべてのマイルストーンは、哲学的な熟考で見れば、それ自体が世界です。 それらは次のとおりです。

1. 最初のマイルストーンは「アラム・マフサート」または「感覚と感性の領域」です。

2. 2番目のマイルストーンは、「アラム・タハイユラット」または「[思考とアイデアの]概念の領域」のマイルストーンです。

3. 3番目のマイルストーンは、「アラム・マウフマート」または「識別できない者の識別の領域」のマイルストーンです。

4. 4番目のマイルストーンは、「アラム・マクラート」または「秩序、達成、自己認識の領域」です。 このマイルストーンの中で、人は自己、または自分自身の現実と真実に気づきます。

次の例で、それらのステータスを理解してみましょう。

一. 人が「アラム・マフサート」*または「感覚と感性の領域」にとどまるか*、いる限り、人は本能的に燃える炎の周りをホバリングする蛾のようなものです。 蛾には目がありますが、考えたり覚えたりする知性はありません。 燃える炎に対する蛾の魅力は、暗闇を回避し、光への愛に燃え上がるというその本質的な特性についてことわざです。 バランスのとれた思考と安全の力を持っていないため、照明の出口を探す中で、燃えている炎をその開口部と誤って考え、その結果、最終的には白熱の炎に落ちて死んでしまいます。 もし蛾が推論能力に恵まれていたら、羽に最初の暖かい輝きを感じた後、炎に近づくことはなかったでしょう。 この[知性の]欠如により、蛾はいかなる計算の地位にも達しません。 たとえば、対照的に、他の動物は傷ついたときに何かを避けようとします。 棒を見るだけで、彼らは危険から逃げます。

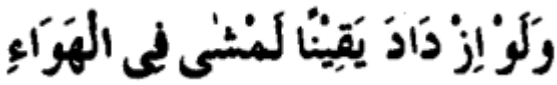
二. 「アラム・タハイユラット」*または「[思考とアイデアの]概念の領域」の第二段階では、人間は牛と心の弱い動物の領域に住んでいます。*

三. 第三の領域は、前述の「アラム・マウフマート」または「識別できない者の識別の領域」です。 このレベルでは、人間はヤギや馬と同等になり、いわば、第二段階の心の弱い動物とは対照的に、この段階では、オオカミやライオンに目を向

けた瞬間、自然の衝動、つまり命からがら逃げようとする努力によって、敵を認識し、危険を回避しようとします。 これまで見たことがないかもしれませんが。 ある中には、強力な牛、ラクダ、キリンを恐れないようにと告げていますが、それらはそれらよりも大きいサイズです。 この本能は、神によって自然に[そして本質的に]根付いています。 しかし、これらの動物はそれほど知的ではなく、つまり、第 4 段階で自分自身の世話をする能力があると考えられるレベルに達していません。

四. 第4段階は、「アラム・マクラート」、または前述した「秩序、達成、自己認識の領域」です。 第三段階まで、人間は無名の領域にとどまります。 人間が人間であるという地位、すなわち人間の栄光の領域に入るのは、実はここからである。 推測や迷信が完全に排除されたこの段階では、そのようなことが見られます。

「アラム・マフスサート」または「感覚と感性の領域」では、人間はこれから起こることを避けて、正しい視点で物事を評価し、評価し始めます。 ここでは、見たとおりに物事を要約します。 物事には実体、識別があります。 それらを正しく分類しようとすると、一般的にそうすることに成功します。 当然のことながら、「マシュサート」、つまり「感覚と感性の領域」の世界では、人間の集中力は、地球の上を歩いているように、自分の感覚の識別力によって人に伝わる感情に基づいています。 しかし、最後の第4段階では、水の上を歩くなど、それ以上のことができる能力も暗示しています。 これは人間の上昇の段階であり、「アラム・マクラート」または「秩序、達成、自己認識の領域」です。 ここではっきりと比較すると、歩き回る人は、魂に受け入れられ、水の上を歩くことができることを活かす、異なる性質の事実の真実に基づいている可能性があります。 これは、預言者や神の「クリス」、つまり親密な友人や聖人の卓越した地位であり、空中を歩いているようなものです。 人々は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に、イエス(神の祝福と平安あれ)やイエス・キリストは水の上を歩けるのかと尋ねました。 彼はこう答えた。



「[しかし、イエスは水の上を歩いた。]もし彼の確信がもっと固いなら、彼は空中を歩いていたでしょう。」

それは、そのようなことが「アラム・イドラク」または「考えられる、または可能な領域」にあることを示しています。 このように、人間には、最初の段階から最後の段階

まで身長のはしごを登り、人間を「メラジ」または達成と栄光の頂点に導く天使のような特性を獲得する多くの段階があります。 *聖クルアーンに述べられているように、「アスファルス・サフィリーン」(最低の最低)の最下層から「アーラ・イリエン」*(最高の最高)の頂点までのこの上昇には多くの危険があります。

إِنَّا عَرَضْنَا ٱلْأَمَانَةَ عَلَى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱلْجِبَالِ فَأَبَيْنَ أَن يَحْمِلْنَهَا وَأَشْفَقْنَ مِنْهَا
وَحَمَلَهَا ٱلْإِنسَٰنُ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ ظَلُومًا جَهُولًا ﴿٧٢﴾

「私たちは天と地と山に信頼を捧げましたが、彼らはそれを運ぶことを拒否し、それを恐れました。確かに不当で無知な人間がそれを持っていたのです。」 (クルアーン、第33章、72節)

人間の上昇には、動物や石の最低の地位から天使の台座の地位まで、さまざまな段階があります。 これは、「ジャマダート」の地球上にあるものや石、成長、植生に危険がないためです。 彼らは知りません。 逆に、「アーラ・イリエン」、つまり高みの最高位は、その栄光の頂点に駐屯しています。 聖クルアーンに刻まれているように、彼らがそこから降りてくることは不可能です。

وَمَا مِنَّآ إِلَّا لَهُۥ مَقَامٌ مَّعْلُومٌ

「私たちは皆、そこには既知のステーションを持っています。」 (クルアーン、第37章、164節)

動物は「アスファルス・サフィリーン」の中にあり、最も低いです。 したがって、彼らにとって進歩はありません。 しかし、(霊的はしごの)中間段にいる人間は危険にさらされています。 人は動物の深みに沈むことができ、最も低いレベルに沈むことができます。 天使のレベルの高さまで高く舞い上がることもあります(「マライカ」)。 したがって、「アシュラフル・マフルカート」、またはすべての創造物の中で最高のものであるという重大な責任を担う能力、能力は、[人間の][真の]本質の問題です。 それは、最高の人間、つまり「アシュラフル・マフルカート」、またはすべての創造物の中で最高の人間だけが、その挑戦を受け入れることができることを意味します。

したがって、この論文の意味と目的は、物事をより深く調べることであり、単に表面的に見えるものを表面的に見るのではなく、それらが実際に何であるかを確認することです。 人間の人生の旅の目的についてのこの言説は、知恵の言葉を拾い上げ、その本質的な価値に集中したい人にとって、それ自体が考えさせられるものです。 この性質の作品は多くありませんし、それを理解したい、または理解できる人もあまりいません。 したがって、この件に関する現在の対話で十分であるはずです。

賢明でもなく、神の律法に従わない人もかなりいます。 そのような人々は、「アキラ」または来世の状態について低迷していることに気付く人々です。 むしろ、彼らはそれについて疑問を抱いています。 実際、世俗的な欲望が彼らを支配するとき、来世に反論するのは彼らにふさわしいことです。 彼らはそうし、自分自身を守るために言い訳をします。 悪魔は、その悪行、そのすべての魅力と援助で彼らを支配し、審判の日の罰は人々を恐怖に陥れるために作られた空想的な幻覚であると考えるように彼らを教唆します。 義人への楽園の約束に関しても、彼らはそれを単なるカリスマ的なショーマンシップ、つまり人間を乾燥した退屈な生活の苦難に陥らせるために進化した精神的なファンファーレの空想として烙印を押さえています。 したがって、彼らは神の律法の信奉者を見下します。

一部の人々は、ぼろきれ(謙虚なスーフィー、精神的な旅行者、または精神的達成の道を歩む努力家*の服装)を着て、そのような考慮事項を何よりも優先するふり*をします。 そのような見せかけは彼らをほとんど助けません。 また、彼らには何の功績もありません。 実際、そのような詐欺師は、彼らに騙されて、彼らを理解できない何らかの霊的地位の人々と見なす他の愚か者と同じくらい自分自身に害を及ぼします。 実際には、彼らにはそれを裏付ける論理や議論がありません。 そのような人々はどうして彼らに本当の隠された価値を持つことができるでしょうか? 彼らは何も袖にしていない。 このような状況下では、12万4,000人の預言者、当時のすべての賢者、すべての学識ある学者(「*ウレマ*」)、聖人(神の友人であり親しい人、または「*アウリヤ*」)がすべて間違っており、彼らだけが正しいとしたら、彼らの無知と傲慢さに照らして、この主題にこれ以上付け加えるものは何もないと、明確な言葉で告げられるべきです。

もしかしたら、あなたが間違っているのかもしれないと言う人もいるかもしれません。 したがって、あなたは来世と神の罰についての真実を理解することができませんでした(*"アダブ*」)、魂の拷問、私たちの感覚的知覚の支配による「魂」の戒律そのもの、五

感で経験できないものを受け入れること、そのような薄っぺらな根拠での間違えは具体的ではない。 そのようなうぬぼれを持つ人は、特に「2つが1つ以上であることを知っているのと同じように、言われる必要はない、私は『魂』など存在しないことをよく知っている。 それは永続性を持たず、いかなる状況においても、肉体的な喜びや痛みを魂の喜びや痛みと結びつけて考えることはできません。」 神がこう言われたのはそのような人々です。

وَإِن تَدْعُهُمْ إِلَى ٱلْهُدَىٰ فَلَن يَهْتَدُوٓا۟ إِذًا أَبَدًا

「ですから、彼らを指導に呼んでも、それでも彼らは決して指導を受けることはありません。」 (クルアーン、18章、57節)

「魂と来世の真実性についてあなたが私に語ろうとしていることについて何の手がかりもないのに、なぜ私は残りの人生を敬虔な小屋で過ごし、世界が私に与えてくれる喜びから不必要に自分自身を抑制しなければならないのでしょうか?」と主張するとします。 いずれにせよ、私はこれらの問題を知りません。」 そんな時、答えは「これだけ受け入れたのだから、神の法と導きに従わないのですか? それは、物事に気づいていないときは、リスクを冒してはいけないという論理に基づいています。 皿から食べようと手を伸ばしたところ、蛇が口を入れたところだと言われたとしたら、すぐに食事をやめます。 この言葉は間違っているかもしれませんが、どんなに美味しくても、あなたの慎重さは決して食べ物を食べさせません。 同様に、あなたが病気で命の危険にさらされており、癒しのお守りを書いている人が、お守りを用意できるように少量の銀を渡すように頼んだとしたら、あなたは反対の不安[と留保]にもかかわらず、この要求に応じるでしょう。 また、透視能力が月があれこれの段階に達したら、治療のために苦い薬を服用すべきだと言われた場合。 その空想にもかかわらず、あなたはおそらく、自分の健康のために、ある人が正しいかもしれないという理由で、その人のアドバイスに従うでしょう。」

では、12万4,000人の預言者、数十人の賢者、学識のある学者(「*ウレマ*」)、聖人や神の親しい人(「*アウリヤ*」)が間違っていて伝聞であるのに、いじめや占い師が正しいのに、どうしてできるのでしょうか? これは、人間が自分の立場を再考するように誘導するはずです。 これらの人々が正しいなら、なぜ私が来世を否定しなければならないのか、彼らの言うことを聞かず、盲目的に世俗的な快楽にふけることで、あの世で取り返しのつかないほど荒廃するかもしれないという根拠に基づいて、そうするように促され

るかもしれません。 では、なぜ私は今(維持できない私の耐えられない立場から)離れてはいけないのでしょうか?

仮に、全世界がライ麦トウモロコシでいっぱいになり、スズメが1000年に1匹のライ麦トウモロコシを拾う任務を割り当てられたとしても、ライ麦トウモロコシが永遠に出会えるかどうかは議論の余地があります。 では、なぜここから審判の日まで来世の罰のリスクを冒すのか、考えるべきです。 人々はボートや船で航海し、自給自足のために商品を売るために苦労します。 なぜ人間はそれをしてはいけないのでしょうか? 敬虔さ、根性、忍耐力は、努力家に良い配当をもたらします。

アリ(神の喜びあれ)[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の偉大な仲間であり、いとこ]は、宗教的な議論で無神論者に、「あなたが言っていることが正しいなら、あなたは救われ、私たちは救われるでしょうが、私たちの言っていることが正しいなら[そしてあなたが言っていることが間違っている]なら、私たちだけが救われ、あなたは永遠の神の報復に直面するでしょう」と言いました。 アリ(神の喜びあれ)は賢者でした。 彼はこの議論をこれほど強力に進めることができなかった。 彼がそう言ったのは、自分が言っていることに疑いがあったからではなく、無神論者の考え方を考慮して、自分の発言の前提を非常に強力に組み立てたからです。

したがって、私たちは、来世を犠牲にして世俗的な事柄で自分の時間を怠惰に(無駄に)したままの人は、という結論に達します("アキラ」)、来世は危険にさらされています。 ここで提起された強力な議論の強さと提供された例に照らして、反対者はリスクを冒さず、土地(堅固な根拠)にいることが適切です。

وَالسَّلَامُ عَلَى مَنِ اتَّبَعَ الْهُدَىٰ

「そして、導きに従う者に平安がありますように。」

私たちは、神、自己(「*ナフス*」)、*現世と来世のグノーシス*(「マリファ」)*に関する言説を要約しました。* 神のご意志を持って、私たちは今、*永遠の幸福と永遠の成功のための*40の必須要素(「アラカン」またはステップ)を説明します。

こうして、ガザリは、彼の偉大な著書「キミヤ・エ・サアダット」または「永遠の幸福と無限の成功のための錬金術または変化の変革エージェント」の中で、錬*金術または永遠の至福と永遠の成功の変革エージェントの4つの称号(または要件)の素晴らしい説明を終えました。* 次に、彼は永遠の幸福と永遠の成功の40の原則について次のように紹介しました[6]。

私たちはすでに次のことについてある程度詳しく説明しました。

一. 神の*グノーシス(*「マリファ」)、
二. 自分自身を知る(「*ナフス*」)、
三. 世界の現実を知ること(「*ドゥニャ*」)、そして
四. 来世の現実を知ること(「*アキラ*」)。

神の承認と祝福を得る秘訣は、神を真に誠実に礼拝し、従順に従うことにあります。したがって、人間は次のことを行うように注意する必要があります。

一. 人は神の最も謙虚で従順なしもべであり、神を崇拝するだけでなく、善良な人間の態度、人格、良い態度も持っていなければなりません。 その人の一般的な行動は、自分自身だけでなく、他の人(人種、宗教、肌の色、国籍、文化、信念、その他同様のものに関係なく、すべて神の仲間のしもべである)にアピールするようになります。

二. これは人の外見に関する限りです。 しかし、それだけでは十分ではありません。 また、自分の行動が神の法と導きの範囲内にとどまるように社会で行動する必要があります。 そうすれば、そのように認識されるようになります。

三. 前述のことは、他の人が見る外見上の行動を構成します。 今、私たちは自分の魂[または内なる現実]にたどり着きます。 このように、悪とその荒廃(それが自分の内なる存在に及ぼし、外なる存在に不吉な影響を与える)から自分の心を守ることは人間の義務です。

四. 人は上記の「してはいけないこと」に気を配るだけでなく、その「すべきこと」、つまり、自分の心、魂を悪から守った後、同時に魂を良い高潔で高貴な内面の資質で飾り、飾らなければなりません。

したがって、魂にとって邪悪で有害なものを魂に許さないという「してはいけないこと」に従い、善で純粋なことすべてを行い、魂の美しい内面の資質を発達させるという「すべきこと」を追求することによって、人は魂の幸福を助長する食べ物を魂に与えることになります。 こうして、人は「*ムフリカット*」または内なる悪の致命的な影響(すべての否定性と有害な傾向、特性、気質、内なる存在の状態)から救われ、魂を浄化し、美化し、飾る魂の「*ムンジヤット*」または内なる[崇高な]性質によって強化され、その魂はそれを正当に誇りに思うでしょう。 これら 4 つの重要な要素 [永遠の幸福と永遠の成功をもたらす錬金術または変化の変革の主体] は、それぞれ 10 の部分に分かれており、次のとおりです。

この時点で、ガザリは永遠の至福と永遠の成功の 40 の原則 (またはステップ) の説明を開始します。 この40の原則のうち、20の原則は私たちの外的な生活を営むことに関連しており、20の原則は私たちの心と魂を変えて私たちの人生を好転させるという観点から私たちの内なる生活に関連しています。 この解説の次の2つの部分では、私たちの内なる生活と内なる変容に関連する20の原則が、ガザリの知恵の大要「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」における素晴らしい解説から凝縮された形でここで提示されます。

人間の現実と人間の人生の真の目的、そして永遠の幸福と無限の成功の達成を扱ったこの論文の最初の部分は、今や終わりを迎えます。 さて、この論文の第2部が始まります。

パート2:内面の破壊的な特性–個人、社会、そして国家全体に害を及ぼし、危険にさらす否定的な内面の資質

これまでの議論で人間の内面の現実と人生の本当の目的を説明した後、私たちは内なる破壊的な特徴、つまり魂の奥深くに埋め込まれている低次の自己からの否定的な内面の特徴の説明に着手します。 これらの特性は、今日の私たちの内なる存在、社会、コミュニティ、国家、そして世界を悩ませる苦しみにつながるため、個人、社会、国家全体、そして世界の幸福にとって完全に破壊的です。 人間の内面の現実をさらに探求する次の2つの章の後、次の8章では、これらの内面の破壊的な特徴を詳しく調べて理解し、それらを根絶するための治療法を概説します。 ガザリは、最後の著書で深い真実を解明し、太古の昔から人類の歴史全体において世界で起こったすべての苦難、混乱、破壊、大失敗は、太古の昔から人類の歴史全体において、そして時代の終わりまで起こるであろうすべての苦難、混乱、破壊、大失敗は、人間の低次の自己によって起こったし、これから起こるだろうと書いています(*ミンハジ・アル・アビディーン*または「崇拝者のための最良の道」、第3章「[内なる完成の道における]四峡の障害」))だからこそ、低次の自己の破壊性は、内なる存在において最大限の真剣さをもって根絶する必要があるのです。 この本の後半では、内側から発せられる破壊性を打ち負かし、内なるポジティブな力が繁栄し、個人、社会、そして全

世界の可能性を最大限に引き上げるために取らなければならない道を明らかにしています。

第1章- 魂の神秘を知る 自己認識、照明、悟りのスピリチュアルな旅の必須事項

ガザリの最高傑作*「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四半期の最初の本*は、心と魂の驚異と神秘、それらがネガティブなものに閉じ込められる方法、そして思考の善と前向きの道を歩むために彼らを保護し、育てる方法を扱っています。 感情、言葉、行動、そして存在。 この驚くべき目を見張るような主題の説明は、すべての人を内なる平和、静けさ、そして真の幸福を達成する手段に導くでしょう。 ガザリの解説は、次のように要約された形でここで提示されています[7]。

自己(nafs)、*魂*(ruh)、*心*(qalb)、*知性*('aql)という用語の意味と目的

これら 4 つの用語は、内面の破壊的および建設的な特性、資質、特性、傾向、気質、気質に関連する議論で豊富に使用されることを明確にしておきましょう。 学者の中では、この4つの用語の本当の意味を熟知し、その意味の違い、限界、含意などについて正しい知識を持っている人はほとんどいない。 そのため、これらの用語の意図に間違いが犯されます。 これらの用語については、[魂の驚異と神秘を説明する]私たちの意図と目的に関連する方法で次のように説明します。

最初の用語 – ハート (*Qalb*): 「ハート」は 2 つの意味で使用できます: 胸の左側にある肉片。 真ん中に黒い血が入った隙間がある独特の肉で、魂の泉であり、生命の手段です。 しかし、その形、形、状態の説明は、議論の目的とは結びついていません。 それが医師の話題です。 人間以外にも動物にもそれがなく、死んだ体も生きている体もそれを持っているので、宗教的および精神的な問題はそれとは関係ありません。 この本では、この「心」という用語がどこで使われても、それは肉片であり、目に見える領域

に属することを意味するため、その物理的な形、形、状態を意味するものではありません。 人間だけでなく、動物も目で知覚できます。

この用語の第二の意味は、「心」は体内の肉体的な心に関連する神聖な霊的繊細さであり、まさにこの繊細さが人間の現実であるということです。 それは知覚する人です。 それは[神に]扱われ、懲らしめと結果にさらされるものです。 知性は、この繊細さ[「心」]が肉体的な心と持つつながりを知覚することができません、なぜなら、このつながりは、次元が身体と持つものと同じであり、それらの性質や道具の所有者と道具の持ち主と、道具の使用者や住居との住人との[内面の]性質と同じだからです。 この類似性、関係性、つながりは、2つの理由から説明されません。 第一の理由は、それが霊的に明らかにされた知識(*ウルーム・アル・ムカシャファ*)に関連しているのに対し、この本の目的は啓示された知識の説明(*ウルーム・アル・ムアムラ*)であるからです。 第二の理由は、それを説明するには、魂の秘密からカーテンを剥がす必要があるからです。 それは非常に秘密であるため、預言者の舌からそれに関して何も明らかにされたり述べられていません[つまり、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)を含む預言者の誰も、魂の秘密について何も明らかにしていません]。 預言者ではない人が(たとえ聖人であったり、霊的に完成した個人であったとしても)それに関して何かを言う権利は何ですか? この本で「心」という言葉が使われている場所はどこでも、それは以前に言及された神の霊的繊細さを指すことになります(人体の肉体的な心臓ではありません)。 この微妙さ[「心」と呼ばれる]の状態と性質を説明します。 その現実と構成についての議論は私の目的ではありません。

第二項 – 魂 (*ruh*): また、2 つの意味があります。 第一に、「魂」は肉体の心臓の内部空間に存在する微妙な物質の名前であるということです。 この中心から、魂は静脈や動脈を介して全身に広がります。 魂が体の中に広がり、体の部分に生命の光を与え、五感に特有の感覚能力を与えることは、家に置かれたランプと、そこからの光が家の中に広がるのに似ています。 この類似性は、「魂」がランプの役割を果たし、生命は光に似ており、体を流れる魂はランプが周囲に広がり、光を浸透させるのに似ていることを証明しています。 「魂」という用語のこの意味は、医師の用語に従っています。 言い換えれば、魂は微妙な発熱性または軽い熱性であり、それ自体の起源はかなり穏やかで、[肉体的]心臓の静脈から発せられ、それ自体の熱性から形成されます。 この[魂の]意味は、この議論には関係ありませんが、むしろ身体の病気の治療法を管理する医師にとって興味深いトピックです。 心の病気(つまり、内なる霊的病気)を治す宗教の医師(スピリチュアルマスター)は、この意味には関心がなく、代わりに魂は人間の知覚的な

繊細さであると言います。 この微妙さの説明は、心の説明にも提供されています。次の聖句は同じ意味を示しています。

قُلِ ٱلرُّوحُ مِنۡ أَمۡرِ رَبِّي

「彼らに(預言者ムハンマドよ)魂は私の主の命令から来ていると伝えてください。」 (クルアーン、17章、85節)

それは非常に神秘的で神に関連する微妙な存在であるため、ほとんどの知性はその現実と構成を理解するのに欠けています。

第 3 項 – 自己 (*Nafs*): この用語の意味は、他のさまざまな用語とも共有されています。この用語の2つの意味は、この説明の目的に近いです。 一つは、「自己」(*ナフス*)とは、人間の怒り、怒り、肉欲の快楽の力の集合体である存在であるということです。 この意味は、*スーフィー*(精神的な完全性、照明、そしてその結果として神の親密さとグノーシスを求める精神的な道を歩む努力家)の間で最も普及しています。 だからこそ、彼らは*自己*(*ナフ*)に対する内なる霊的闘争(*ムジャハダ*)と、肉欲の欲望をコントロールし、飼いならすことが不可欠であると言います。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、以下の彼の言葉で同じことを意図しています。

اعدى عدوك نفسك التي بين جنبيك

「あなたの最大の敵は、あなたの中にいる人(つまり、あなた自身)です。」 (ハディース[預言の教え]コレクションから引用 *イブン・アッバースの権威によるバイハキ [神が彼を喜ばれますように])*

自己の第二の意味(*ナフス*)は、以前に述べた神の霊的繊細さにも関係しています。 実際、その意味によれば、これが人間の現実であり存在です。 しかし、この自己は、さまざまな状況でさまざまな内面の性質に染み込んでいます。 したがって、それが神の従順によって平和になり、その反対と疑いが消えたとき、それは「平和な自己」(***Nafs al-Mutma-inna***)と呼ばれます。 神は「平和な自己」に次のような言葉で語りかけました。

يَٰٓأَيَّتُهَا ٱلنَّفۡسُ ٱلۡمُطۡمَئِنَّةُ ٢٧ ٱرۡجِعِيٓ إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرۡضِيَّةً ٢٨

「おお、平和な自己よ! あなたが主を喜ばせ、主があなたを喜ばれている状態で、あなたの主のもとに戻りなさい。」 (クルアーン、第89章、27-28節)

先ほど述べた自己の意味は、神への帰還[と神の導き]、つまり[神への]隷属の栄光を表すのではなく、その意味の中に、サタンに触発され、扇動された神の導きに対する反逆と拒絶が見られます。 自己のもう一つの状態は、奴隷と崇拝の完全さを欠いているが、その欠点を自責するということです。 この状態の自己は「非難する自己」(***Nafs al-Lawwama***)と呼ばれます。 神はこう言われます。

وَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلنَّفۡسِ ٱللَّوَّامَةِ

「私は、非難する自己(自分の欠点や悪を自責する)によって誓います。 *ナフス・アル・ラウワマ*]." (クルアーン、第75章、2節)

自己のもう一つの状態は、肉欲の快楽や悪に対する卑劣な欲望の流れと圧力を止めることに無力であり、卑劣な降伏でそれに身を委ねることです。 その状態にある自己は、「邪悪なインスピレーションの自己」(***Nafs al-Ammaratu bi as-Su)***と呼ばれます。 クルアーンは、預言者ヨセフ(ユスフ)(神の平安あれ)とエジプトの支配者との事件で、その状態にある自己について言及しています。

وَمَآ أُبَرِّئُ نَفۡسِيٓۚ إِنَّ ٱلنَّفۡسَ لَأَمَّارَةُۢ بِٱلسُّوٓءِ

「私は純粋さを認めず、自分の『自己』を無実だと考えている。なぜなら、低次の自己は[人間の心の中に]悪を鼓舞するだけだからです。」 (クルアーン、12章、53節)

本質的に、「自己」(*ナフス*)は、悪、低水準の欲望、肉欲の傾向(*ナフス・アル・アンマラトゥ・ビ・アス・スー*)に傾倒しているときは悪であり、平和で[神の戒めと導きに満足し、あらゆる形や形のすべての悪と否定性を避ける]ときは善で賞賛に値します(*ナフス・アル・ムトマ・インナ*)。

<u>第 4 項 – 知性 (*'Aql*):</u> この用語も複数の意味で使用されます。 これらの意味のうちの2つは、この本の目的に近いものです。 第一に、「知性」は、物事の現実の知識の名前

であるということです。 この場合、知性は知識の[内的]特性に結びついており、その住処は心です。 時々、「知性」は、心の特徴である知識の所有者(*ムドリク・アル・ウルム*)を指します。 この意味の場合、「知性」は、前の3つの用語の説明で前述したのと同じ神の霊的繊細さです。 「知性」の2つの意味の説明については、知る者や知識のある人が直接存在し、目に見えるという現実を誰もが知っており、知識の特性がそのようなものの中に深く根付いていることを理解してください。 品質や特性は、その所有者以外のものです。 したがって、「知性」は、知識と呼ばれるこの特性を指す場合もあれば、その特性の所有者を指す場合もあります。 預言的なナレーション(預言者ムハンマドのハディース[神の祝福と平安あれ])は、次のように同じ意味を指します。

「神が最初に創造したのは知性でした(*'Aql*)”.

ここで言及されている特性は、知識はそれ自体では存在せず、言及されているのは本体(スパン)であるため、知識にはなり得ません。 なぜ、理解の住処が最初に必要であり、次にこの住処の特徴である知識が創造されるのか、それとも両方を一緒に創造する必要があるのか、なぜ最初に肉体が創造されるのでしょうか? また、知識の特性に対処することはできません。

この[4つの重要な用語の議論]の結果は、これら4つの用語のインポートは類似しているだけでなく、類似していないということです。 これら4つの用語の現実に精通している人は、これらの用語に違いがないことを知っています。 この点を説明するためには、この4つの用語の意味の類似点と相違点を説明する必要がありました。

クルアーンとハディース(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の預言的な語り)が「心」という用語を使用している場所はどこでも、それらは物事の現実を知覚する能力を指しています。 この能力は人間の中に存在します。 「心」という言葉は、この知覚能力が肉体的な心と特別な関係を持っているため、この能力を指し、ほのめかすために使用されます。 この能力は全身に関係し、身体のすべての部分を利用してそれぞれの仕事をしますが、身体の部分に直接関係しているわけではなく、肉体的な心の手段を通じてのみ関係しています。 これは、人体の肉体的な心臓が、この神聖な霊的繊細さの住まいであり、知識が豊富で、首都であり、この山の乗り手であることを意味します。これは、肉体的な心がこの神聖な霊的繊細さ[「心」または「魂」と呼ばれる)の王国であ

り、それが座り、肉体の王国全体を支配する玉座であることを意味します。 肉体的な心は、この繊細さの支配の出発点です。 この結論から言うと、「心」と呼ばれる神聖な霊的繊細さが肉体的な心や体と結びついているのは、神が「*アルシュ*」(または「神の全能の支配」)や「*クルシ*」(または神聖な玉座または「至高の神聖な卓越性の天の座」)と結びついているのと同じです。

心の軍団(*カルブ*)

神はこう言われます。

وَمَا يَعْلَمُ جُنُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَ

「あなたの主の軍隊は、彼以外に知る人はいません。」 (クルアーン、74章、31節)

この聖句は、神以外の誰にもその数を知らない神の軍隊について言及しています。 これらの軍隊は、心、魂、その他さまざまな無数の宇宙に存在します。 私たちの議論のテーマは心なので、心の軍隊についていくつか言及します。

ハートには2つの軍隊があります: 1つ目は外目で見ることができ、2つ目は知性の目を通して知覚できるものです(*'Aql*)。 心は王のようで、その軍隊は王の大臣や召使いのようなものです。 外目で観察できる軍隊には、手、足、目、耳、舌、その他体のすべての臓器が含まれます。 これらすべての身体器官は、外部であろうと内部であろうと、心のしもべであり[心の命令に従い、心に仕えるため]心の服従の義務を負っており、心はそれらを望むように使用し、彼らの義務は心への奉仕と服従であり、心に反抗したり、心の欲望や願いに反して行動したりすることはできません。 たとえば、目を開くように命じられると開き、閉じるように命じられると閉じます。 足が動くように命じられると動き、舌が話すように命じられると、足は話します。 すべての臓器がそうです。 彼らの従順は、いくつかの理由から天使が神に従順であることに似ています。 したがって、天使は、その創造の目的が[神の]従順であり、この目的から逸脱することはできません。 天使が置かれている状態は次のとおりです。

لَّا يَعْصُونَ ٱللَّهَ مَآ أَمَرَهُمْ وَيَفْعَلُونَ مَا يُؤْمَرُونَ

「彼らは神の戒めから逸脱せず、言われたことを実行します。」 (クルアーン、第66章、6節)

しかし、天使の服従と身体器官の服従には一つの違いがあります:天使は自分の服従の知識を持っていますが、身体の器官にはそれがありません。 目を開けるように言われると、目は開きますが、自分の存在にさえ気づいていませんし、王とその支配である心に従順に開いていることも知りません。

心が乗馬と、神の現実への霊的な旅(ガザリが以前に述べたように、人生の目的である「*マリファ*」または神のグノーシスに到達するための*スルクまたは霊的闘争*)のための準備を必要としているのと同じように、同様にヘルパーとしもべが必要です。 これがまさにそれが作られた旅です。 神はこう言われます。

وَمَا خَلَقْتُ ٱلْجِنَّ وَٱلْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ

「そして、私は *ジン(* 地上に存在する超自然的な目に見えない生き物)と人間を、私の崇拝のためだけに創造しました。」 (クルアーン、第51章、56節)

心の乗り物は体であり、知識はこの[霊的]旅のための備えであり、この備えを獲得する方法は正しい善行を行うことです。 [神のしもべ、つまり人間]がこの世にとどまらず[そして世俗的な生活を送らなければ]神に到達することは不可能です。 最も遠い目的地に到達するには、最も近い目的地の[マイルストーン]に到達することが不可欠です。 それが、世界が「来世の農地」と呼ばれる理由であり、世界は[真理に向かって]導きの目的地の一つである。 目的地に近いことから「世界」と呼ばれています。 したがって、次の目的地に到達するには、この[最も近い]目的地から食料を調達する必要があります。 肉体は[神の臨在または神のグノーシス][究極の]目的地に到達するための乗馬の地位を持っているため、肉体を守り、守ることが不可欠です。 体の保存と保護は、健康と幸福に有利な食物を与え、有害または致命的な可能性のある食物から身体を防ぐことによって行われます。 食料を獲得するには2つの軍隊が必要です:1つ目は内部の食欲(欲望または空腹)であり、2つ目は食料を獲得するために使用される手やその他の身体器官などの外部の軍隊です。

まさにこの理由のために、欲望は心の中に生み出され、この欲望を満たすために外的な身体器官が与えられてきました。 同様に、破壊的なものから身を守るために、2つの軍隊が[人間に]与えられています。 1つ目は「怒り」と呼ばれる内面にあり、2つ目は手と足で構成される外面にあります。 人間は怒りの意味を実行するためにそれらを使用します。 体内にこれらの臓器が存在することは、兵士が武器や戦争の道具を持っているようなものです。 また、食料に対する欲求や欲求は十分ではなく、人間は食料の状態を知る必要があり、そのため、内軍と外軍が必要です。 外側の軍隊には、聴覚、見る、嗅ぐ、触れる、味覚などの五感が含まれ、内側の軍隊には、これらの五感の知覚が欠けていないわけではないことが含まれます。 心のしもべや助け手については、多くの議論を行うことができます。 この議論は非常に詳細に指向されているため、[本の]ボリュームでさえ十分ではありません。 私は感謝の書[この本「神への道の知識の復活」(第12章)にそれについて何かを書こうとしました。 真実の探求者(*サリク*)はそれで満足すべきです。

心のしもべには3つのタイプがあります。最初のタイプ[心のしもべ]は、利益を得るため、または害を撃退するためのいずれかへの欲望を植え付ける人々です。 最初の例は欲望(空腹など)であり、2番目の例は怒りです。 このタイプの使用人は「インテント」とも呼ばれます。 2番目のタイプには、目的の達成または意図の完了のために手足(または身体器官)の動きを引き起こす使用人が含まれます。 それは「力」または「能力」(*クドラ*)と呼ばれ、体のすべての臓器とあらゆる動脈と静脈に広がります。 2番目のタイプには、スパイのようなものの現実を認識し、それらについての知識を得る使用人が含まれます。 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚の能力はそれに関連しています。 これらの力はそれぞれの臓器に広がります。 このタイプは「知識と知覚」と呼ばれます。 このような内なるサーヴァントとともに、指でつかむ力や目で見る能力など、道具と原因の役割を担う外サーヴァントがいる。 他の力や器官も同様に推測し、理解することができます。

私たちの議論の焦点は、物理的な領域(つまり目に見える)に関連しているため、外側の器官ではなく、目で見たり観察したりすることができない内なるヘルパーやしもべについて議論し、これらを「知覚と理解の力」と呼びます。 次に、これらの知覚力には2つのタイプがあります:いくつかは外臓に存在し、聴覚、見る、味覚、触覚、嗅覚の五感であり、いくつかは脳の静脈に存在し、それらも5つです。 物を見て目を閉じたとき、見たものの絵が心の中に残り、それを「想像」と呼びます。 そして、この絵はその物

体の記憶と関連付けられ、それを「記憶」と呼びます。 記憶に残されたものを熟考し、あるものを他のものと結合し、忘れられていたものを思い出し、そのものの絵やイメージが心に再び現れ、思考の中にすべての感覚の知覚を集めるとき、それは記憶、熟考、共有感覚と呼ばれます。 もし神が暗記、熟考、記憶、想像、思考の力を創造していなかったら、手や足に意図された力以外の力が欠けているのと同じように、脳にはそれらが欠けていたでしょう。 これらの力は本質的に内側にあるため、彼らの住まいも内側にあります。

これらはさまざまな種類の心の軍団です。 それらを理解し理解することは、先見の明に依存します。 知識が不足している人にこれらを理解させるには、詳細が必要です。 そのため、初心者でも理解できるように、これらのタイプに光を当てるためにいくつかの例が使用されます。

心の内なるしもべ (*qalb*) とその簡単に理解できる例

怒りと欲望、心の二人のしもべが心に完全に従い、心に従属するとき、それは霊的な道において大きな助けになります。 ハートは彼らをスピリチュアルな旅の最高の仲間であり、無私無欲で誠実なヘルパーだと考えています。 時々、この二人のしもべは不服従と反逆に執着し、心に従う代わりに、心に服従を強要し、心を破壊する原因になります。 しかし、心にはこれら以外にも他のしもべや助け手がおり、欲望や怒りが反逆に傾いているなら、心は失望してはならず、代わりに、彼らに対して他のしもべの助けを求めるべきです。 時々、怒りや欲望がサタンのグループに加わります。 もし心が神の軍団に助けを求めず、代わりに怒りと欲望の軍隊が自己(*ナフス*)を支配することを許すなら、それは破滅と途方もない喪失への道を順調に進んでいるでしょう。 ほとんどの人はこの状態にあり、彼らの知性は欲望や欲望に従属し、その満足のための言い訳を求めています。 代わりに起こるべきだったのは、欲望と欲望が彼らの知性に従属するはずだったということです。 この重要な点は、次のようにいくつかの類推を通じて詳しく説明されます。

最初の例え: 人間の自己、つまり前述の何度も言及されている神の霊的繊細さが、その国と首都の王に似ていると仮定しましょう。 体はその支配の中心であり、首都[都市]です。 身体器官は王室の杖に似ています。 パワー・オブ・インテリクトは、その誠実な助言者であり、知的で忠実な牧師です。 アンガーはそのボディーガードであり、都市の裁判官であり、敵から王を守ることは王室の義務に含まれています。 欲望(または欲望)は、都市の人々に食べ物を提供する責任がある、行儀の悪い、気性の悪い使用人です。 この人は常習的な嘘つき、欺瞞的、欺瞞者、そして悪であり、誠実に見えるかもしれませんが、その誠実さの見せかけの裏には致命的な毒があります。 誠実な顧問や大臣(つまり知性)の意見や計画に反対することは、その性質であり習慣であり、知性に反対しない瞬間は一度もありません。 この場合、王が大臣の提案や計画に基づいて行動し、大臣と相談し、統治の最善の利益のためには、この邪悪な召使いを避けることで、王に近づかないことを示すことができます。 また、市の審判官(すなわち怒り)に、この邪悪なサーヴァントとその追従者を注視し、間違った行動にふけるなら処罰するよう指示する。 このような状況で、このシンハが反乱を起こすことができず、王に従属して依存し、政府が正義と規律を持って運営されることが期待されます。 同様に、自己(*ナフス*)が知性に助けを求め続け、時には怒りのボディーガードを通して欲望に打撃を与える場合。そして時には、怒りの強さと支配力を減らすために欲望(または欲望)に助けを求めると、そのすべての力と能力は[平衡状態で]適度にとどまり、そのマナーと性格は良いままになります。 もしそれがこの[節度の]道から逸脱するなら、それは神がこう言われる人々の中にいるでしょう。

أَفَرَءَيْتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ وَأَضَلَّهُ ٱللَّهُ عَلَىٰ عِلْمٍ

「あなたは、低次の自己から自分の欲望を自分の神とし、神が彼の知識にもかかわらず彼を誤った方向に導いた人の状態を見たことがありますか?」 (クルアーン、45章、23節)

وَٱتَّبَعَ هَوَىٰهُ ۚ فَمَثَلُهُۥ كَمَثَلِ ٱلْكَلْبِ إِن تَحْمِلْ عَلَيْهِ يَلْهَثْ أَوْ تَتْرُكْهُ يَلْهَث

「彼は自分の卑劣な欲望(と欲望)に従い始めたので、彼の状態は犬のようになり、殴ると喘ぎ、放っておくとまだ喘ぎます。」 (クルアーン、第7章、176節)

クルアーンは、欲望の欺瞞から身を守る者について次のように述べています。

وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ وَنَهَى ٱلنَّفْسَ عَنِ ٱلْهَوَىٰ ﴿٤٠﴾

فَإِنَّ ٱلْجَنَّةَ هِىَ ٱلْمَأْوَىٰ ﴿٤١﴾

「主の前に立つことを恐れ、自己(*ナフス*)卑劣な欲望と欲望から、楽園は人の住まいとなるでしょう。」 (クルアーン、第79章、40-41節)

怒りと欲望を互いに押し付け合う状態と、この[内なる闘争]によって得られる利益は、神の意志で自己を懲らしめるための霊的闘争に関する章にリストされます。

第二の例え: 身体は都市であり、知性、つまり人間の知覚の力はその支配者であり、外部と内部の感覚はその助手であり兵士であり、身体器官はその主体であり、欲望と怒りとして解釈できる悪に傾倒している低次の自己(*ナフス・アル・アンマラ*)は、欲望と怒りとして解釈され、その敵であり、すべての臣民を殺すために[知性の]政府を乗っ取ることを望んでいると仮定しましょう。 この場合、体は都市の支配者が敵と戦うために直接立ち会う戦場に似ています。 それが戦いを支配し、敵を逃げさせれば、この闘争は宮廷で賛辞と賞賛を受けるでしょう。 神はこう言われます。

فَضَّلَ ٱللَّهُ ٱلْمُجَٰهِدِينَ بِأَمْوَٰلِهِمْ وَأَنفُسِهِمْ عَلَى ٱلْقَٰعِدِينَ دَرَجَةً

「神は、家に座っているだけで[あまり何もしない]人々と比較して、自分自身と富のために努力する人々の地位を高め、高めました。」 (クルアーン、第4章、95節)

しかし、それ(つまり知性)が勇敢に行動せず、敵(つまり低次の自己)に敗北した場合、それは不幸な行為であり、過失の重大な結果に苦しむことになります。

預言的なナレーション(*ハディース*)は、次のように同じ努力を指します。

رجعنا من الجهاد الاصغر الى الجهاد الاكبر

「私たちは小さな努力(コミュニティの存続そのものを脅かす侵略軍に対する正当な自衛と自己保存のために戦われた戦い)から、より大きな努力(邪悪な傾向を打ち負かすために自分自身を征服する精神的な闘い)へと戻りつつあります。」

3番目の例え:知性が狩猟の意図を持って去るライダーであると仮定しましょう。 欲望と欲望はその馬であり、怒りはその犬です。 ライダーが狩猟の専門知識を持ち、馬を訓練し、犬を飼いならした場合、このライダーは目的を達成できるでしょう。 ライダーは狩りを無事に終えて家に帰ると確信を持って言えます。 2番目のシナリオは、ライダーがこの芸術に気づいておらず、馬は反抗的で、犬は狂っているということです。 そのような人について、無事に戻ることは期待できません。 無事に家に帰るだけで十分すぎるほどです。 騎手の知識と専門知識の欠如は人間の無知のようなもので、馬の反抗心は欲望の支配のようなもので、犬の狂気は怒りの支配のようなものです。

人間の心臓の特徴(*カルブ*)

ここまで述べてきたことは、人間だけでなく動物にも所有されています。 たとえば、欲望、怒り、内的および外的感覚は、人間と同様に動物にも存在します。 これは、ヤギがオオカミを見て、オオカミを攻撃したいと思っていることを理解し、心から逃げることを認識するほどです。 これは人間に特有のものではなく、知性を持たない動物でさえ、この能力を利用し、それを通して自分の利益と害を知覚します。 ここでの目的は、人間に特有の事柄を取り入れることであり、そのために人間は他の被造物よりも優位性と卓越性、そして神との親密さと親密さを享受しています。

人間の心に関連する事柄は、第一に知識、第二に意図の2つだけであることを知っておこう。 ここでの知識とは、世俗的、あの世の、知的現実の知識です。 これらの事柄や現実は感覚では知覚されず、動物は人間と知覚する能力を共有していません。 さらに、論理と理性も知性に特有のもので、一人の人間が同時に2つの場所にいることは不可能だと判断できるからです。 限られた数の人しか見たことがありませんが、この原則は世界中のすべての人に適用できます。 したがって、この原則をすべての人に適用することは、知性にのみ関係できる追加の問題であることを私たちは知っています。 獲得した知識と外部の知識がそのような状況である場合、個人的な観察を通じて得られた知識は、その原則にもっとふさわしいものです。 人間がどんな事柄の最終的な終わりを見て、そこに何か良いものを見出すと、その事柄に似たものが呼び起こされ、それを手に入れようとする熱意が生まれます。 これは、動物にも存在する「欲望」や「欲望

」と呼ばれるものではありませんが、欲望の意図とは逆です。 欲望と意図の違いは、病気の間、欲望があらゆる種類のおいしい食べ物に傾くという一例で明らかになりますが、知性はそれを有害であると考えてこの耽溺を止めます。 この禁止は欲望からではなく、知性から来ています。 もし神が知性に訴え、人間がそれらに作用する意図を創造していなかったら、知性の創造の目的は消え去っていたでしょう。

これは、人間の心の知識と意図が、動物や小さな子供にさえ見られない2つの問題であることを示しています。 代わりに、この特性[善悪、有害、有益を識別するのに役立つ知識と知性]は、欲望、怒り、外側と内面の感覚が最初から存在しているにもかかわらず、思春期以降に彼らに植え付けられます。

この知識を習得するための2つの段階: 子供は思春期後にこの特性[知識と知性]を獲得することを私たちは知っています。 この取得または取得には2つの学位があります。 第一段階は、基本的な知識を持っていること、つまり、不可能を不可能であり、可能な限り可能であると考えることです。 この場合、基本は認識しているが、観察された知識を持っていないと言われます。 しかし、基本的な知識に関しては、書道には詳しくないが、墨、ペン、文字などの書道の道具には精通している書道家のような、観察された知識の習得に近いと言えます。 そのような人は書道家とは言えませんが、確かにこの芸術に近いと言えます。

第二の学位は、経験、熟考、能動的な学習を通じてこれらの知識の豊富さを獲得し、いつでも好きなときにその恩恵を受けることができるという意図で、この知識を記憶の貯蔵庫に保存することです。 そのような人は、現時点では書いていないかもしれないが、書道の知識に精通しており、好きなときに書くことができる熟練の書道家のようなものです。 これは人間の最大の[階級]の程度です。 この程度には無数のランクがあります。 知識の量、多かれ少なかれ、仕事、調査方法の違いは人それぞれ異なるため、状態は人それぞれです。 一部の心は、スピリチュアルな目覚めやインスピレーション(*イルハム*)とスピリチュアルな啓示(*カシュフ*)を通じてこれらの知識を知覚します。 一部の心は、指導と学習を通じてそれを獲得します。 非常に知的で学習が速いため、最も難しいことを数秒で理解できる人もいます。 一部の人々は、非常に鈍く、学習が遅いため、繰り返し、熟考し、熟考しなければ何も理解できません。 学者、賢者、預言者、聖人の階級は、この知識においてすべて異なります。 最高ランクに限っては知識の輪が途方もなく広いので限界も終わりもない。 その中で最も高い地位は預言者に属し

、全能者の恵みによって、何の努力も学びもせずに、現実のほとんどまたはすべてが預言者に明らかにされます。 この幸運と真の成功(サーダ)は、人を神に近づけます。 この親密さは、場所や距離の近さではなく、霊的な意味、現実、内面の特徴の観点からの親密さです。 この親密さ[そして神との親密さ]でランクを上げ、このスピリチュアルな旅の駅にとどまることは、スピリチュアルな旅行者にとってマイルストーンです。 このスピリチュアルな旅には、ランク、学位、地位に制限はありません。 すべての旅人は、通過したマイルストーンは認識していますが、将来のマイルストーンについては認識していません。 しかし、預言者の実在は預言者以外の誰にも知られていないにもかかわらず、私たちが預言者や預言者を信じているのと同じように、目に見えないものへの信仰によって彼らを信じます。 胎児の胎児が授乳中の赤ちゃんの状態を知らず、授乳中の赤ちゃんが物事を理解し始めた年長の子供の状態を知らず、そのような子供は、大人の知的な人の状態や、自分(成長した知的な人)が身につけた知識を知らないのと同じように。 同様に、洞察力のある人や知的な人は、神が聖徒や預言者にどのような祝福(および霊的な賜物)を与えてくださったのか、どのような秘密(普通の人には知られていない目に見えない領域からの現実)が彼らに明らかにされたのかを知りません。 神はこう言われます。

مَّا يَفْتَحِ ٱللَّهُ لِلنَّاسِ مِن رَّحْمَةٍ فَلَا مُمْسِكَ لَهَا ۖ

「神が慈悲と祝福の扉を開けるとき、それを閉めることができる人は誰もいません。」(クルアーン、第35章、2節)

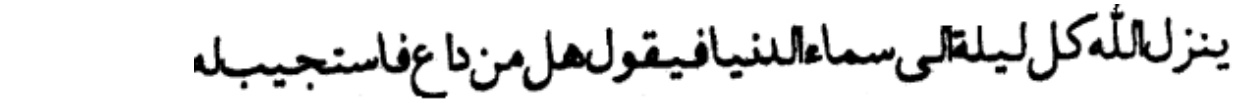
この神の慈悲と祝福は、神の寛大さと恩恵から[何の差別もなく]全人類に共通しており、そこにはケチはありません。 しかし、これは、ハディース(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の語り話または伝承)に述べられているように、そのような降臨のために開かれ続けてきた神の慈悲と寛大さのそよ風の到来を待っている心に現れています。

لن لربكم في أيام دهركم لنفحات ألا فتعرضوا لها

「あなたがたの人生の日々には、神の憐れみと祝福の風がたくさんあります。 あなたは彼らに目を光らせるべきです(準備ができていて最初に彼らを受け入れることができるときに彼らが受け入れられるので)。」

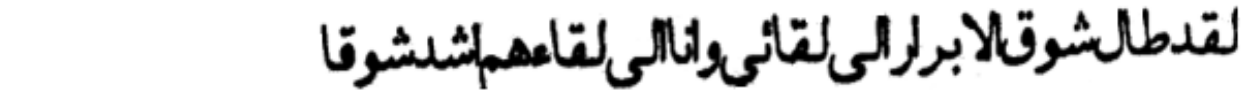
「このそよ風を待ち、気をつけなさい」とは、非難されるべき邪悪な性質やマナーによって心に蓄積される濁り、不純物、汚れから心[と魂]を清め、浄化する必要があること

を意味します。 これについては後ほど詳しく説明します。 この神の寛大さと寛大さは、次のハディース(預言者ムハンマド[彼に神の平安と祝福あれ]の語り)で言及されています。



「神は毎晩地上の天(つまり、七つの天の中で最も低い天)に降りてきて、『私が与えることができるように私に懇願する人がいるでしょうか?』と言われます。」 (ナレーション: ハディース コレクション *ブハリ* そして *ムスリム* アブ・フライラとアブ・サイードの権威により[神が二人を喜ばれますように])

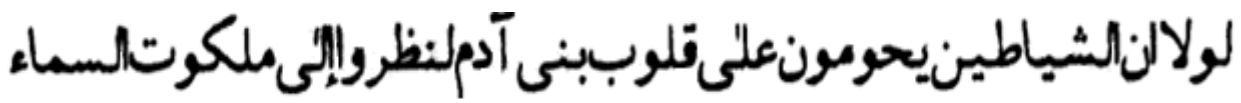
ハディース・クッシ(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統で、神が引用されている)に従って、同じ神の慈悲を次のように宣言しています。



「敬虔な義人は私と会うことを心待ちにしており、私は彼らに会いたいともっと望んでいます。」 (ナレーション: *ハディース*集 *マスナド・アル・フィルダウス* アブ・アル・ダルダの権威 [神が彼に喜ばれますように])

「スパンで私に近づく者は、手で近づきます。」 (ナレーション: *ハディースは*、アブ・フライラの権威に基づいて*ブハーリ*と*イスラム教徒*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

これらの伝統から、心が[霊的]知識[と知恵]の[内なる]光を欠いているのは、創造主であり賜予者(神)側の妨げやケチによるものではなく、むしろ、悪、濁り、汚れ、神以外の執着のために心がこれらの[内なる霊的]光を奪われていることが学ばれます。 ハートは器のようなもので、水で満たされている限り、空気は流れ込みません。 同様に、神のグノーシス(*マリファ*)の光は、神以外に耽溺した心には入りません。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「もし悪魔がアダムの子ら(つまりすべての人間)の心の周りを徘徊していなければ、彼らは[彼らの内面の純粋さ、清らかさ、霊的卓越性のために]天の支配を目撃したでしょう。」 (ナレーション: *アブ・フライラの権威に基づくハディース・コレクション・ムスナド・アフメド*)

要約すると、人間の専門性と独特の特徴は知識と知恵によるものであり、すべての知識の中で最も優れたのは、神の存在(*ダート*)、資質(*シファト*)、行動(*アファール*)の知識です。 この知識には人間の完璧さの秘密があり、この完璧さは、その人の最高の幸福、無限の勝利、そして永遠の幸福(*サーダ・アバディヤ*)にかかっています。 これにより、人間は神の近くと近くで生き、神の臨在を達成することができます。 身体は自己(ナフス)の乗り物(または輸送手段)であり、自己は知識の住処であり、[神の]知識(神のグノーシスまたは*マリファ*)は人間の人生の真の目的であり、その人の際立った資質です。 まさにこの目的のためだけに作られたものです。 馬がロバと同じように、ロバと同じ巨大な重量を運ぶ力と強さを持っているが、壮大さ、美しさ、スピードにおいて馬よりもはるかに優れているのと同じように、人間をロバや馬よりも優れたものにする特定の資質があり、これらの際立った資質は、神のすぐ近くにいる天使の資質に属します。 人間は天使と動物の間の創造物であり、食べ物と栄養の観点からは植物です。感覚、動き、能力、行動の点で、人は動物です。そして、外観と構造の点では、1つは壁に描かれた画像です。 [人間の]知識の質と、物事や物事の現実の認識は、人を動物と区別します。 自分の身体器官と感覚を知識と行動の[求め]に使う人[その知識に従って、すべての知識の中で最も優れたものはグノーシスの状態を与える神聖な知識であることを心に留めて]、天使に似ているだけでなく、天使のカテゴリーに含まれ、「神の天使」と呼ばれるに値する人(*マラク・ラバニ*)神が預言者ヨセフ(神の祝福と平安あれ)の美しさを目撃した女性たちを造られたのと同じように、次のように告白します。

مَا هَٰذَا بَشَرًا إِنْ هَٰذَآ إِلَّا مَلَكٌ كَرِيمٌ

「これは人間ではなく、神の天使です。」 (クルアーン、12章、31節)

肉体的な楽しみを思考や行動の中心(つまり、人生の目的)とし、それらに完全に夢中になる人は、放牧と食べる以外の目的を持たない牛のように、動物のカテゴリーに入る。その場合、人は牛のように愚かで、豚のように貪欲で、犬のように怒り、ラクダのように辛辣で、チーターのように傲慢で、キツネのように欺瞞的であり、これらすべての特徴と動物的な性質の具現化であるなら、その人は呪われた悪魔(*シェイタン・アル・ラジーム)になります。*

感謝と感謝の書で説明されているように、神との親密さと親密さのために使用できない外部器官や内部感覚(または能力)は一つもありません。 自分の臓器を(正しい目的のために)正しく使う人は成功を収め、(神の戒めに)従わない人は大きな損失を被り、屈辱を受けます。 幸福の完成と成功と幸福の完全とは、神との出会いを自分の人生の目的とし、来世を自分の真の家として、現在の世界を一時的なマイルストーンまたはステーションとして、身体を自分の乗馬として、身体の器官[と感覚]を自分のしもべとして、そして知覚と理解の能力を自分の住まいとして[肉体的]心の中央部分とすることです。 王として、脳の前部にある思考と想像力の能力を考慮し、感覚からのニュースが1つに届き、記憶の能力に常駐し、それら(つまり、感覚からのニュース)を[宝物を守る]会計係のように保護するため、王の使者として。 舌はその表現または代弁者であり、活動機関はその行為者であり、五感はその王国のスパイであり、これらの感覚のそれぞれはニュースの検索と供給のために任命されています。 目の責任範囲は色の世界、耳は音の世界、鼻は匂いの世界に関係しています。 これらの感覚はすべて、それぞれの世界からのニュースを蓄積し、熟考と思考の能力に供給します。 メッセンジャーである熟考と思考の能力は、これらのニュースを記憶の能力である王国の会計係に伝えます。 記憶の能力はニュースを王に引き渡し(知覚と熟慮の能力)、国家の事務を運営するのに役立つニュースを選択し、目の前の旅を完了するのを助け、国家の敵を倒し、道の盗賊に対処します。 臓器[と感覚]に責任を知らせ、それらを果たすのを忙しくさせることは、大きな幸福であり成功であり、その中には神の[計り知れない]祝福に対する感謝があります。 [責任を果たすために]臓器[と感覚]を怠慢に保ち続ける人は、不運で屈辱的な敗者です。 そのような者は、敵に対して彼らを雇い、敵を讃え、神の軍団を辱めたために与えられた神の軍団や軍隊を無駄にしたように、神の恩恵を否定する者です。 結局のところ、人は来世で厳しい罰と恥辱を受けるに値します。 私たちは来世の恥辱と神の報復から神の避難を求めます。 アーメン。

[上記]の例えは、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の仲間であり助け者であったカーブ・アル・アハバール(神が彼に喜ばれますように)の伝統を通して裏付けられています。 彼は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の妻であり、預言の伝統の偉大な伝達者であるアイシャ(神が彼女を喜ばれますように)にこう言ったと言いました。 王が善良なら、彼の臣民も善良でしょう。」 彼女はこう答えた。 預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)からこのように聞いたことがあります。」 (この伝統は、アブ・ナイエムは「預言医学」のアブ・ナイエム、「マスナド・アット・タシーン」のアット・タバラニ、そして「シャアブ・アル・イマン」のバイハキは、預言者の仲間であり助力

者であるアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいています。 アリ(神が彼に喜ばれますように)[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の仲間であり助け手であった]は、心の例えを描いて次のように言いました。 彼らの中で最も神に愛され、神に最も好まれるのは、最も柔らかく、最も純粋で、最もしっかりしているものです。 心の柔らかさ、純粋さ、堅固さは、それが兄弟にとって柔らかく、その確信において明確で純粋であり、神の道(*ディーン)において堅固*であるということです。」

ウバイ・ビン・カーブ(神が彼を喜ばれますように)[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の仲間であり助け手であった]は、次の聖句を説明しています。

مَثَلُ نُورِهِۦ كَمِشْكَوٰةٍ فِيهَا مِصْبَاحٌ

「神の光のたとえ話は、あたかもニッチがあり、その中にランプがあるかのようです。」 (クルアーン、24章、35節)

「それは、信者とその心の[内なる]光のたとえ話であり、このたとえ話です。

أَوْ كَظُلُمَٰتٍ فِى بَحْرٍ لُّجِّىٍّ

「あるいは、広大な深海の暗闇の深みのようなものです。」 (クルアーン、24章、40節)

偽善者の心のようなものです」。

ザイド・ビン・アスラムは「保存されたタブレット」(*「ロー・マフフート」*;保存された石板には、クルアーンで信者の心として言及されているすべての創造物と存在、およびそれらに関連するすべての出来事の完全な記録が含まれています[有名な聖人でグノーシス主義者]サール・アル・トゥスタリは、心を「*アルシュ*」(単に「玉座」ですが、実際には神の全能の支配)や「*クルシ*」(至高の神の卓越性の天の座)に例えました。

心臓(カルブ)の総合的な特徴とその例

人間の創造と構成は、4つのものの集合体であることを知らせてください。 したがって、人は獣的、動物的、悪魔的、神聖な4種類の性質と特徴を持っています。 怒りと怒りが人を支配するという点では、敵意、恨み、殴打、言葉による虐待、呪いなどの獣のような行為を犯す原因となります。欲望と肉欲が人を支配するという点では、人は貪欲、貪欲、放蕩、嫉妬などの動物的な行為を犯します。 クルアーンに述べられているように、神の命令であるという点では:

قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ أَمْرِ رَبِّى

「(ムハンマドよ!)魂は私の主の命令によるものです。」 (クルアーン、17章、85節)

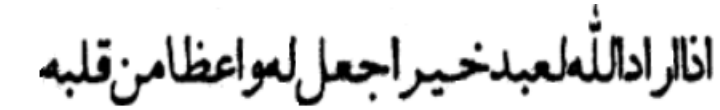
人は主権を主張し、傲慢さ、他者に対する優越感、特徴や個性の特異性を好み、(神への)隷属、謙虚さ、服従を嫌います。 同様に、人はすべての知識に気づくことを好み、知識との関連は人にとって愛され、無知との関連は人にとって嫌われます。 すべての現実を理解し、すべての被造物に対する優位性を理解するという特徴は、主権の特徴である[それは人間にはふさわしくなく、神にのみふさわしい]が、[神への]奴隷と奴隷状態の特徴ではないにもかかわらず、人は物事の現実を理解し、知識とグノーシスを獲得したと主張します。 人間は獣や動物と怒りや欲望の特徴を共有しているにもかかわらず、識別力を持っているため、悪魔的な性質という追加の特徴があります。 サタンは頭からつま先まで悪であり、人間は自分の識別力を邪悪な方法で使用し、自分の目的を達成するために詐欺と欺瞞を使用し、善の住処(つまり人間の存在)に悪の種を蒔きます。 これらは悪魔の特徴であり、それらの人々でさえ、神性、悪魔的、獣性、動物的な性質の要素を持つ悪魔の特徴を共有しています。 これらすべての四つの性質の中心は、人間の皮膚の中に豚、犬、悪魔、賢者がすべて集まっているような心です。 豚は欲望と放蕩の象徴です。 悪い内面の性質を持つこの不純な動物は、その色と外見のために悪いのではなく、むしろその貪欲と欲望のために悪いです。 それは怒りの具現化である犬の状態でもあります。 特定の動物は、動物だから嫌われるのではなく、獣姦や敵意などの極端な動物的な性質を持っているために嫌われます。 同様に、人間の内面の存在(バタン)は、獣の獣姦、敵意、怒り、豚の貪欲と欲望を持っています。 野獣は殺戮を犯すように怒りを扇動し、豚は放蕩を犯すように貪欲を扇動し、サタンはこれら[邪悪な性質]の両方を互いに絶えず戦い続けます-時には怒りに対して貪欲を扇動し、時

には貪欲に対抗するために怒りを扇動し、同時に、これらの性質から生まれる生来の本能を称賛します。

知性は賢い人として解釈されます。 その仕事は、サタンの欺瞞と詐欺を撃退し、その深い洞察力と[理性、良識、理解の]澄んだ光を用いて、サタンのほのめかしを消滅させ、犬の怒りで豚の欲望を打ち負かすことです。 同様に、知性は犬に豚を押し付けて、犬の獣姦を終わらせ、犬の知恵と戦略を通じて犬(怒り/怒り)を抑制し、従順に保つ必要があります。 それ(知性)がそうすれば、肉体の王国は公正でバランスのとれたシステムを維持し、臓器は意図した義務を果たし続けるでしょう。 しかし、賢い人(知性)が努力に失敗し、サタンに立ち向かい、豚と犬を征服することができなければ、この三者は一人を支配し、努力しても解放されず、一生彼らのしもべであり、従順になるような鎖にしっかりと閉じ込められるでしょう。 ほとんどの人は、まさにこの投獄(真の解放と自由からは程遠い)で人生を送っています。 これらの人々が偶像崇拝を批判の対象にし、それを嘲笑するのは驚くべきことです。 怠慢と不注意の厚いベールが彼らの目から取り除かれると、彼らは自分自身の従順と神以外の崇拝を目撃するでしょう。 時には豚の前でひれ伏し、時には犬の前に手を組んでお辞儀をして立っています。 彼らの欲望を満たすことは彼らの信仰であり、彼らの呼びかけを待つことが彼らの行動です。 そのような人々の前で現実が物理的な形で具現化されるなら、彼らは偶像崇拝者との間に何の違いもないことを自分の目で目撃するでしょう。 彼らはそのような動物を崇拝することによってサタンの承認を得ます(邪悪な傾向と低次の自己の要求)。 豚や犬に人間から自分自身への奉仕を強制するよう扇動するのはサタンです。 実際のところ、豚や犬の手招きに従った人々は、サタンの欺瞞の網に閉じ込められているのです。

神のすべてのしもべ(つまり人間)は、自分の動きと静けさ、言葉と沈黙に注意深く目を光らせ、内なる洞察の目を開いておく必要があります。 自分の内なる状態で正義と公平さを持ってそれを行うことができれば、人は神の従順に一日を過ごしているのか、それとも低次の自己を崇拝して一日を過ごしているのかを知るでしょう。 低次の自己を崇拝する人々が、主人を奴隷にし、支配者を征服者にしたこの抑圧は、どれほど大きいことでしょう。 支配権とリーダーシップの権利は知性に属していましたが、豚、犬、サタンはそれをすぐに奪い取り、征服し、投獄しました。 知性がリーダーシップを奪われると、これら 3 つの [卑劣な] 特性の服従が実を結び、そのような特性は心に定着し、その最終目的は破壊と屈辱に他なりません。

欲望と放蕩の豚への服従は、恥知らず、卑劣さ、浪費、けち、見栄え、名誉毀損、不道徳、貪欲、欲望、お世辞、嫉妬、敵意、憎しみ、その他の卑劣な[そして否定的な]特性がそれらから生まれます。 怒りと怒りの犬に服従すると、過度の辛辣さ、自惚心、独善、自己中心的、傲慢、自己誇大、嘲笑、軽蔑、邪悪な意図、残酷さへの欲求、その他の邪悪な特性がそれらから生まれます。 怒りと欲望の神々への服従は、実際にはサタンへの服従であり、その結果、上記の否定的で卑劣な内面の特徴が生まれ、さらに、詐欺、欺瞞、言い訳、頑固さ、不正直、わいせつ、その他さまざまなような悪い内面の特徴を煽る結果になります。 状況がそれとは逆で、これらすべての悪とその原因の源泉が神の資質の知恵と啓発的な影響に従属するようになると、知識、知恵、確信、物事の現実の理解、物事への深い洞察、先見の明と知恵の力による他者よりも卓越するという神の資質、 知識の完成度と心の他の[崇高で肯定的な内なる]性質による他者との差別化の権利が心を包み込みます。 欲望や怒りへの服従や服従はもはや必要ありませんが、代わりに、欲望の豚をその限界に閉じ込めておくことによって、無邪気さ、品位、満足感、静けさ、世俗性からの禁欲、物質主義的な貪欲などの優れた内面の資質が生まれます。 *ズード*)、単純さ、敬虔な畏敬の念、神への畏敬の念と畏惧、内なる満足と幸福、謙虚さと内気さ、美しい肉体的および外見、美しい内面の気質、性格とマナーが心に染み込みます。 怒りの犬を鎖に縛り付けておくと、勇気、優しさ、[精神の]偉大さ、忍耐、低次の自己の抑制[暴走して自分自身や他人に危害や困難を引き起こすこと]、忍耐、忍耐、品位、そして同様の崇高な内面の資質が心に生まれます。 心は[磨かれた]鏡のようなものです[ほこりに覆われたり、魂の内なる悪や否定性で汚染されたりする前の元の形]。 怒り、欲望、サタンの従順は、この鏡の美しさと明瞭さに悪影響を及ぼし、人間は自分の姿をはっきりと見ることができません。 [魂の]賞賛に値する美しい内なる性質は、この鏡の輝きと輝きを高め、[神の]神聖な美しささえもその栄光をその中に完全に表すほどです(これは「*マリファ*「または神のグノーシス、その獲得が人生の真の目的である)と[内なる霊的闘争の目的として真理と永遠の真実を明らかにするという点で]求められている物質の現実。 次 *ハディース* (預言者ムハンマド[彼に平安あれ]の預言的伝統または言葉)は、そのような清く、明晰で、照らされた心をほのめかしています。



「神が[神の]しもべに良いことを意図するとき、神は心の中に[正しいこととすべての事柄において善を鼓舞するために]忠告者を創造します。」 (ナレーション: *ハディース* 徴収 *アブ・マンスール・アド・デイラミ* 預言者ムハンマドの妻の権威により、ウム・サラマ[神が彼女を喜ばれますように])

別の預言的なナレーション(*ハディース*)では、心に訓戒者を持っている人は、神はそのような心を守るために守護者を任命すると述べています。 そのような心は神の記憶の中心であり、そのような神の記憶を通して静けさを見出します。 神はこう言われます。

أَلَا بِذِكْرِ ٱللَّهِ تَطْمَئِنُّ ٱلْقُلُوبُ

「まことに、心は神を偲ぶことに平和と静けさを見出します。」 (クルアーン、13章、28節)

非難されるべき邪悪な道徳とマナーは、煙や塵が鏡の明瞭さと輝きを曇らせるように、心に悪影響を及ぼします。 心の鏡は罪の闇とともに暗くなります。 この闇は、しもべ(つまり人間)と神との間に引き寄せられる一種のベールです。 まさにこのベールは「シール」(*タバ*)と「錆」(*ラーン*)と呼ばれています。 クルアーンはそのような心について次のように述べています。

كَلَّا ۖ بَلْ ۜ رَانَ عَلَىٰ قُلُوبِهِم مَّا كَانُوا۟ يَكْسِبُونَ

「それは物質の現実ではありませんが、[代わりに]彼らの[間違った邪悪な]行動のために錆が彼らの心に定着しました。」 (クルアーン、第83章、14節)

أَن لَّوْ نَشَآءُ أَصَبْنَٰهُم بِذُنُوبِهِمْ ۚ وَنَطْبَعُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَسْمَعُونَ

「もし私たちが望んだなら、われは彼らの罪のために彼らを滅ぼし、彼らの心に封印をつけたであろう。彼らは耳を傾けない(事柄の現実を心で理解し、認識する)。」 (クルアーン、第7章、100節)

別の聖句では、[自分の幸福のための真理とアドバイス]に耳を傾けないことは、心を封印するものとして解釈されます。 別の場所では、傾聴は神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏敬の念、畏惧を持つことを条件としています(*タクワ*)。 神はこう言われます。

وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَٱسْمَعُوا۟ ۗ

「神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を持ち、耳を傾けなさい。」 (クルアーン、第5章、108節)

وَاتَّقُوا اللَّهَ ۖ وَيُعَلِّمُكُمُ اللَّهُ ۗ

「神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、恐れを持ちなさい。そして、彼はあなたに知識を与えてくださる方です[そして、あなたが以前は気づいていなかった、物質的であれ非物質的であれ、あなた自身の利益となる事柄についてあなたに教えてくださいます]。 (クルアーン、第2章、282節)

罪(邪悪な、不道徳な、有害な、否定的な、自傷行為を引き起こす行為)が増えると、心は封印され、真理を理解することができず、自分の[内なる否定的な]状態を改革する能力を奪われます。 来世の問題は人にとって重要ではなく、世俗的な華やかさと輝きが人にとってすべてになり、人は世俗的な所有物や富に貪欲になり、その達成に全力を費やし、来世についての勧告は心に影響を与えることなく風のように耳を通り過ぎ、自分の過ちを正し、罪から悔い改める能力は奪われます。

クルアーンとハディース(預言的なナレーション)で*言及されている心の闇は* 、実際にはそのような心の状態を指します。 マイムーン・イブン・ムフラン(神が彼に憐れんでくださいますように)(有名な賢者であり聖人)は言いました:「[神の]しもべが罪を犯すと、人の心に黒い点が現れます。 [その後]それを控え、心の誠実な悔い改めで神に悔い改めると、この点は消され、心は[その罪を犯す前の状態]に戻ります。 もし人がその罪に戻ったり、他の種類の罪を犯したりすると、その点の暗さと大きさの両方が増し、この黒い点が心全体を包み込むまで増大します。 まさにこの暗闇が心の錆です[その結果、心が密閉され、ポジティブさや光が心に届くのを妨げます]」。 預言者ムハンマド[彼に平安あれ]は言いました。

قَلْبُ الْمُؤْمِنِ أَجْرَدُ فِيهِ سِرَاجٌ يَزْهَرُ وَقَلْبُ الْكَافِرِ أَسْوَدُ مَنْكُوسٌ

「信者の心は清く[照らされ、啓発される]ランプが灯され、[すべてのポジティブなものへの変容のための霊的努力のために、その明晰さと輝きを通して光を発する]。不信者の心は暗く、ひっくり返っている[霊的な努力の欠如とネガティブなものへの満足のために、 下向きの傾向]」と述べています。 (ナレーション: *ハディースは*、予言者の仲間であるアブ・サイード[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいて*ムスナド・アフマドとアット・タバラニ*を収集しています)。

[神の戒めに従うことによって]神に従い、低次の自己(ナフス)の欲望に反対することは、心を磨く役割を果たし、罪はそれを(心を)暗い夜のように暗くします。 罪を犯した後に義行をしても心は暗くなることはありませんが、鏡が熱い息にさらされ、きれいにされ、再び熱い息にさらされて表面に傷がつくように、その光は弱まります。 預言者ムハンマド(彼に平安あれ)は、4種類のハートについて言及しました。

القلوب اربعة‘ قلب اجرد فيه سراج يزهر‘ فذالک قلب المؤمن‘ وقلب اسود منكوس فذالک قلب الكافر‘ وقلب اغلف مربوط على غلافه فذالک قلب المنافق‘ وقلب مصفح فيه ايمان ونفاق‘ فمثل الايمان فيه كمثل البقلة يمدها الماء الطيب‘ ومثل النفاق كمثل القرحة يمدها القيح والصديد فاى المادة غلبت عليه حكم لها وفى رواية ذهبت به

「ハートには4つのタイプがあります。1つのタイプのハートは清潔で、その中にランプが灯されています[照らし、光を放ちます]。 これが信者の心です。 心が暗く、ひっくり返った場合の1つのタイプ。 これが不信者の心です。 あるタイプの心臓は覆いで包まれ、その開口部は閉じられています。 これが偽善者の心です。あるタイプの心には、信仰と偽善の両方が共存しています。 そのような心への信仰の例えは、純粋な水を通して育つ緑[と植物]のようなものであり、偽善の例えは、その中の分泌物と汚れた物質のためにますます化膿する傷のようなものです。 どんな物質が支配的であっても、そのような心を支配するでしょう。」 (ナレーション: *ハディースは*、予言者の仲間であるアブ・サイード・アル・クドリ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいてム*スナド・アフマド*とアル・タバラニ・サギール*を集めています*)。

神はこう言われます。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ إِذَا مَسَّهُمْ طَٰٓئِفٌ مِّنَ ٱلشَّيْطَٰنِ تَذَكَّرُوا۟ فَإِذَا هُم مُّبْصِرُونَ

「まことに、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、意識、畏怖を持つ者は、サタンから[心の]説得を受けると、神の思い出に従事し、すぐにそれに驚いてしまいます(サタンが彼らに何か悪いことをするように説得しようとしていることをよく知っており、彼らは心の中で一瞬たりともそのことを考えることさえ許しません)。」 (クルアーン、第7章、201節)

この聖句は、心の生活、知恵、慎重さ、そして[高いレベルの意識と]認識は神を思い出すことによって達成され、*タクワ*(敬虔な畏敬の念、畏敬の念、意識、神への畏れの念、畏れの念、畏れの念)の[内なる]性質を持つ人々だけが神の記憶に従事することを明らかにしています。 神の記憶は、*途方もない成功であり、主との出会いの手段*である霊的な啓示(カシュフ)につながります(つまり、グノーシスまたは「*マリファ*」、その達成が人生の本当の目的です)。

知識との関係における心の類似性 – 心の磨かれた鏡と、そこに映る真実の光

知識の座と住まいは心であることを知っておく必要があります。 言い換えれば、すべての器官と能力のシステムを動かすのは神の霊的繊細さです。 すべての器官はこの繊細さに奉仕し、それに従属しています。 物事や知識の実際の性質との関係において、心の類似性は、目に見える物体や理解できるものとの関係における鏡のようなものです。 目に見えるすべての物体と外観のイメージは、[心の]鏡に見られます。 同様に、既知のすべての物体の現実性が心に刻印されます。 鏡が別個の物体であるように、目に見える物体の外観は別個の物体であり、鏡に映る物体は別の問題であり、心にも同じ区別が存在し、鏡と同様に、心には3つのものがあります。第一に心、第二に物事の現実または本質、そして第三に心に現れる物事の現実の反映です。 心は知る者です。現実と物事の本質がそこに入ります。 既知の事実は対象であり、知識はこれらの既知の事実を心に反映する名前です。 剣をつかむには 3 つのものが必要なのと同じように、手など、握るもの。剣など、握られるもの。そして、剣を手に置いて剣と手をまとめる行為を握る行為と呼ばれ、理解できるもののイメージが心に存在することも理解と呼ばれます。 同様に、理解できる、または知られているもののイメージを心に反映することは、知識と呼ばれます。 時には、現実や事実が存在し、心も存在しますが、知識や理解の獲得はありません。 なぜなら、知識は心に入り込む現実の名前だからです。 剣と手が別々に存在するのと同じように、それが起こるためには手が剣に到達してそれを握らなければならないため、握ったり握ったりすることはできません。 握ることと知識の違いは、握るとき、剣は手に入りますが、現実は心に入らないということです。 一人の人が火の知識を持っていますが、それは火そのものが心の中に存在することを意味するものではありません。 代わりに、火の現実は、その外的な存在と外観に似た心の

中にあると言われます。 したがって、心が鏡に例えられるのは、何も[物理的に]鏡に入らず、代わりに物体の反射やイメージがその現実の存在と調和して鏡に現れるからです。

心と鏡の類似性と類似性: 心を鏡と比較したほうがよいでしょう。 その理由の1つは、上記のことです。 2番目の理由は、いくつかの理由により、(物体の)画像が鏡に映らないことです。 同様に、特定の状況下では、心の鏡は物事の現実の知識を奪われます。 物体の画像が鏡に映らない理由は5つあります:第一に、その形成に欠陥があるため、たとえば、それは単なる粗鉄片である可能性があり、その物質に欠陥があるか、またはその形状が正しくない可能性があります。 第二に、何らかの欠陥が忍び込んだり、錆びたり、輝きや透明度が低下したりした可能性があるためです。 第三に、画像が反射するはずの物体の方向から背を向けられたり、遠くに移動したりしたため、たとえば[反射すべき]物体が鏡の後ろに移動したためです。 第四に、鏡と物体の間にベールまたはカーテンが引かれています。 第五に、鏡に画像を見る必要がある物体の方向を知らないため、鏡の位置と方向の前に配置してその画像を反射する必要があります。

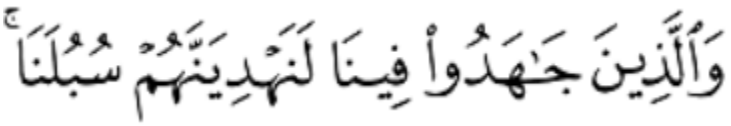
これが心の鏡の状態です。 真実と現実のすべての事柄が、その中に明らかにすることができます。 しかし、多くの心はこれらの知識を理解していません。 それには同じ5つの理由があります。 第一に、心臓には本質的に欠陥がある可能性があり、たとえば、子供の心臓にはこれらの現実を明らかにする能力がありません。 第二に、心は罪の濁り(間違った、否定的で非難されるべき考え、感情、言葉、行い)と欲望の汚れで汚れ、汚染され、その結果、その明晰さ、清らかさ、純粋さ、輝きが失われます。 真実は暗い心の中で明らかにされません。 現実は、その暗闇とその上に積み上げられた汚物に比例して、その中で現れなくなります。 預言的なナレーション(*預言者ムハンマド[彼に平安あれ]のハディース)は、同じ現実を指しています。*

من قارف ذنبا فارقه عقل لا يعود اليه ابدا

「罪を犯した人の知性は、二度と戻らない人から分離し、物事の現実を認識できなくなります。」

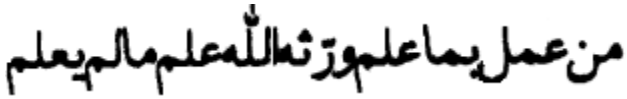
それは、決して消えることのない罪による濁った悪が心に現れ、それを償うことができないことを意味します。 罪を犯した後、義行と善行を行うと、罪が心に及ぼす影響が終わると言うのは正しいが、心は罪を犯す前と同じ元の状態に戻ることができるだろう

か? 決してそうではありません! 現実には、その人が正しい行いだけをしていたら、心は明るくなり、清らかになっていたでしょう。 増光した光度の損失は、間違いなく、補償できない損失です。 錆びた鏡を処理して磨くと輝きを取り戻しますが、処理された鏡は錆びたことのない鏡と透明度と輝きを比較できますか? いずれにせよ、神に従順し、欲望の傾向や低次の自己の卑劣な欲望に従う傾向に反対することは、心の明晰さと清らかな状態をもたらし、罪の濁り[と影響]を取り除きます。 神はこう言われます。



「私たちの道で努力する者たち、私たちは必ず、そして確実に彼らを私たちの道に導きます。」 (クルアーン、29章、69節)

神の使徒、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「神は、自分が知っている知識に基づいて行動する人に、自分が知らない知識を与えます。」 (このナレーションは預言的伝統のコレクションで報告されています *アブ・ナイム・フィル・フリヤ*は、預言者の仲間であり助力者であるアナス[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいています。

第三の理由は、心が求められている現実に直面することから遠ざかっている可能性があることです、たとえば、神の戒めに従っている敬虔で正しい人がいて、そのために明晰な心を持っていますが、真実の探求者ではないため、その心には真実が反映されません。 そのような人は、肉体的な崇拝行為に全力とエネルギーを費やし、[世俗的な快適さのために]経済的手段を蓄積するため、神の主権(*ルブビヤ*)、支配、隠された神の真理と現実について熟考することは、人が慣れ親しんでいるもの(または求めるもの)ではありません。 真実と神聖な現実は、そのような心に現れたり反映したりすることはありません[それはそれらを求めさえせず、代わりに他の物質的、世俗的、非霊的な事柄に従事しているからです]。 むしろ、それらの問題だけが、一般的に熟考するものに明らかにされます。 たとえば、自分の行動や行為の欠点や欠点、低次の自己の欠点について熟考すると、それらに関連する現実が心の中で明らかになります。 [自分の生計に関係する]経済問題の複雑さについて熟考すると、これらの複雑さは心の中で明らかにされ

ます。 では、正義の行いや肉体的な礼拝行為に限定することが、真実(霊的領域からの永遠の真実、真理、現実)を垣間見るのを妨げるベールや障害になるとしたら、なぜ低次の自己の欲望や欲望、世界や世俗への執着や絡み合いが現実の解明の妨げにならないのでしょうか?

第四の理由は、真実を明らかにする道の障害となるベールです。 たとえば、自分の欲望や情熱をコントロールしている人が、従順で崇拝的な[神の]しもべであっても、熟考や熟考にもかかわらず、現実の理解を奪われていることがあります。 この剥奪は、先祖を[盲目的に]従うために幼い頃から心に根付いた信念によるものであり、盲目的に受け入れてきた教義の厳密な解釈に反対して、心に何かが明らかにされるのを防ぎます。この信念は今や、それに反する、または正反対のあらゆる事柄に対する頑固なつまずきとなっている。 これは、多くのスコラ神学者、知識人、知識を持っているが宗教的偏見と偏見を持つ人々、そして天と地の支配に思想と熟考を集中させる宗教改革の人々(*スラハ*)でさえ、現実と真実の理解を欠いている。 彼らは、心と精神にしっかりと根付いた独断的な信念に盲目的に従うため、(たとえそれが真実であっても)自分に反対するものを受け入れる能力を失います。 同様に、これらの独断的な信念は、真実を理解し認識する道のりにおいて障害やベールとなります。

第五の理由は、求められている知識がどこから得られるかについての無知です。 [初心者または初心者]の学生が、求めているものに関連する既知の知識を最初に取得せずに、未知の知識を得ることは不可能です。 したがって、関連する既知の知識を持っているだけでは十分ではなく、むしろ、知識を持つ人々によって信頼できると見なされる特別な順序で配置する必要があります[論理的な推論が行われるように]。 未知の知識を求める知識を捉えることは、既知の知識の上に投げられた網(演繹のプロセスを通じて特定の方法で配置)を通して可能です。 すべての知識の前には、男性と女性の組み合わせから子供が生まれるのと同じように、特定の順序で組み合わされた2つの知識が組み合わさって[以前は知られていなかった]3番目の知識が生まれる必要があります。 また、知識が互換性があり、自然な親和性で互いに密接に結びついていることも必要です。したがって、誰かが馬とラクダの結合から子馬を手に入れたいと思った場合、そのためにはオスとメスの馬が必要であり、ラクダは[異なる種であるため]そのニーズを満たすことができないため、失望するでしょう。 同様に、すべての知識には2つの特別な原則があり、それらの結合には特別な方法論があり、正しい方法論に従うことだけが望ましい知識をもたらします。 これらの原則とそれらを組み合わせる方法の無知は、知識と理解を妨げるものです。 したがって、鏡の例えで述べたように、鏡にイメージを求め

る目的の物体の方向を知らないと、鏡にイメージが表示されず、目的が達成されません。 たとえば、誰かが鏡に自分の首を見たいのに、鏡を顔の前に置いた場合、明らかに首は探している鏡に映っていません。求められなかった顔のイメージがその中に現れます。 同様に、鏡を首の後ろに置いても首は見えず、代わりに鏡が視界から消えてしまいます。 首を見るには、2番目の鏡が必要であり、もう片方の鏡(首の後ろに置かれた)が見えるように目の前に置く必要があります。 その場合、首の反射が最初の鏡に当たって、その反射が2番目の鏡に当たるので、首が見えます。 そのような困難は知識の追求に直面し、むしろはるかに複雑な問題に直面しています。 このような複雑さに遭遇できるような人々は地球上には存在せず、それが現実や知識の多くが認識されない理由です。 これらは、心によって真理と[永遠の霊的]現実を理解する道の障害となるいくつかの理由であり、そうでなければ、すべての心[または魂]は、それが神の命令であり、[その神聖な起源により]主として高貴であり、[その神聖な起源により]宇宙およびその先のすべての物質とは明らかに区別されるため、本質的に現実を知覚することができます。 心[または魂]の卓越性、区別、優位性は、以下の神の声明から判断できます。

إِنَّا عَرَضْنَا ٱلْأَمَانَةَ عَلَى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱلْجِبَالِ فَأَبَيْنَ أَن يَحْمِلْنَهَا وَأَشْفَقْنَ مِنْهَا وَحَمَلَهَا ٱلْإِنسَٰنُ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ ظَلُومًا جَهُولًا ﴿٧٢﴾

「まことに、われは天と地と山々に信頼を捧げたが、彼らはそれを負うことを拒否し、それを恐れたが、人間はそれを負うことを約束した。 確かに、一人(人間)は不当で無知でした。」 (クルアーン、第33章、72節)

この聖句は、天、地、山などの高尚で広大で強い[神の]創造物と明確に区別される人間の特別な特徴に言及しており、[他のすべての創造物がそうするのにふさわしくないと考えられたときに]神の信頼を負う資格のある人です。 この[神の]信頼は、一神教または一体性(*タウヒード*)と神のグノーシス(経験的な霊的知識または*マリファ*)です。 すべての人は、この[壮大な神の]信頼の重みに耐えることができるのは生来的かつ本質的ですが、前述の理由により、この信頼を実現する勇気を失い、もはやこの信頼の重みに耐えることができなくなります。 これに関連して、神の使徒である預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は次のように述べました。

كل مولود يولد على الفطرة فأبواه يهودانه وينصرانه ويمجسانه

「すべての子供は『*フィトラ*』(神の意志、神の現実、永遠の普遍的な真理と完全に一致し、人間が明らかに与えられているという神の信頼、つまり一神教と神のグノーシス

)に基づいて生まれます。その後、両親はユダヤ人、キリスト教徒、 またはマギアン(世界に存在する多様な宗教的およびイデオロギー的伝統をほのめかし、したがって、自分自身の宗教的、イデオロギー的、文化的、地理的、知的文脈の型に人を形作る)」。 (このナレーションは予言的なナレーション集によって報告されています *サヒー・ブハーリ*と *サヒー・ムスリム*は、預言者の仲間であるアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいています。

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はさらに、「アダムの子ら(つまり人間)の心の上に悪魔が浮かんでいなければ、彼らは天の支配を目撃していただろう」と述べました。 これは、心と[天の]支配の間のベールとなるこれらの障害の多くへの言及です。誰かがアブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼を喜ばれますように)[預言者の仲間であり助け手でした]に、神がどこにいるのか、そして神が天にいるのか地にいるのかについて尋ねたところ、「神は信じるしもべの心の中におられます」と答えました。 *預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)のハディース(ナレーションまたは伝統)*があります。

لم يسعني أرضي ولا سمائي ووسعني قلب المؤمن اللين الوادع

「[神は言われた。]わたしの地も天もわたしを閉じ込めることはできなかったが、わたしのしもべの優しく穏やかな心には、わたしを収容する能力がある」。

別の預言的なナレーション(*ハディース*)は次のとおりです。

قيل يا رسول الله من خير الناس؟ فقال كل مؤمن مخموم القلب؟ فقيل وما مخموم القلب؟ فقال: هو التقي النقي الذي لا غش فيه؟ ولا بغي ولا غدر ولا غل ولا حسد

神の使徒、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)は、「人々の中で最も優れたのは誰ですか?」と尋ねられました。 彼は「『*マフムム・アル・カルブ*』であるすべての信者」と答えた。 彼は「『*マフムム・アル・カルブ*』とは何を指しているのか?」と尋ねられた。 彼は答えました:「神を恐れ、清められた心[そして、すべての内なる汚れ、否定性、悪から清められた]、その中に虚偽や欺瞞の汚れ、裏切りや反逆、不正直や信頼できないこと、恨みや嫉妬はありません[したがって、心は清く、すべての悪、否定性、傷がありません]。」

それが、ウマル(神が彼を喜ばれますように)が言った理由です:「私の心が神を見るたびに、ベールは『*タクワ*』(敬虔さと敬虔な畏敬の念、神への畏敬と畏れの念)のために取り除かれました。」 なぜなら、神と自分の心の間の誰かのためにベールが取り除かれると、目に見える物質世界と天の支配、または目に見えない世界の支配を目撃し、楽園が見え、その一部が天と地の幅である楽園が見えるからです。 他の楽園に関する限り、それは範囲が広く、羅針盤が広範囲に及ぶため、天と地の広い広がりには収まらないにもかかわらず、まだ制限されています。 しかし、心が目撃する楽園は、その長さと広さに限界がなく、神の王国(*アラム・アル・ムルク*)と天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)の目に見えない領域の支配の楽園です。 しかし、その心に入ってくる部分は限られていますが、神の知識の観点から見れば、それは無限で膨大な領域です。神の王国(*アラム・アル・ムルク*)と天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)の2つの領域が一緒に言及される場合、それらは存在するすべてのものを包含する主の臨在と呼ばれます。 これは、神の主権が万物を包含しているからです。 神以外に存在するものはすべて、神の行動、支配、しもべのどちらかです。 これらの存在から人間の心に現れるものは、一部の人にとっては楽園ですが、真理の人々にとって、それは楽園ではなく、それに値する手段であり、楽園における人間の支配の現存は、その人の知識の範囲に比例します。 言い換えれば、神の属性と、人に明らかにされた神の行動について人が知っていることは、その限りにおいて、楽園は人にとって広大になるでしょう。 従順と礼拝の行為の目的は、心の表面が鏡のように清められ、清められ、その中に濁りや汚れが残らないことです。 心を浄化する目的は、信仰の光とグノーシス(*マリファ*)の輝きが心に浸透することです。 次の2つの聖句は、同じ信仰の光とグノーシス(*マリファ*)*の照らしと啓発について言及しています*。

فَمَن يُرِدِ ٱللَّهُ أَن يَهۡدِيَهُۥ يَشۡرَحۡ صَدۡرَهُۥ لِلۡإِسۡلَٰمِۖ

「神が導きたいと願う人は誰でも、その人の心を*イスラム教*に広げます(この言葉の本当の意味では、神の意志への服従と、信仰の真の光と神聖なグノーシスが魂にもたらす魂の純粋さと照明を指します)。」 (クルアーン、第6章、125節)

أَفَمَن شَرَحَ ٱللَّهُ صَدۡرَهُۥ لِلۡإِسۡلَٰمِ فَهُوَ عَلَىٰ نُورٖ مِّن رَّبِّهِۦۚ

「神が心を開き、神に身を委ねる意欲を持って広く広げられた人、そのような人は、その人の維持者(つまり神)から流れる光によって照らされています[そのような人は、心の盲目で耳の聞こえない人に例えられますか?]」 (クルアーン、39章、22節)

照明と信仰の程度: この照明と信仰[そして神への確信]には3つの段階があります。第一の程度は、純粋に盲目的な模倣である素人の信仰です。 第二の段階は、論理的推論と混ざり合ったスコラ神学者の信仰です。 第三の段階はグノーシス主義者の信仰であり、それは確実性[そして信仰の確信]の光ではっきりと見ています。

これらの[信仰の]程度を明確にするために、例が[ここで]引用されています。 例としては、家の中でザイドの存在を確認するには、3つの方法で行うことができます。1つの[方法]は、虚偽や嘘に起因していない信頼できる人を通して、彼の存在の知らせを受け取ることです。 あなたはそのような人物がもたらした知らせに満足し、ザイドが本当に家の中にいるという確信を育みます。 これは、信徒や一般の人々の信仰の一例であり、それは[単なる盲目的な]従者に基づいています。 子供が識別力を獲得するとき(そして自分で人生を理解できるようになるとき)は、神の存在、知識、力、その他の神の属性、預言者の使命、彼らがもたらした神の戒めについて、両親や教師から聞いたことをためらうことなく受け入れるのです。 そのような信念は彼らの心に根付き、[深く]根付いているため、彼らに反対するものは彼らの心をよぎることさえありません。 これは、彼らが両親や教師の信憑性について良い意見を持っており、彼らからのニュース(または情報)をためらうことなく受け入れ、信じるからです。 そのような信仰は来世での救いの原因ですが、そのような信者は「右手の人々」(*「アシャブ・アル・ヤミン」*または神の受け入れを得る資格のある普通の敬虔で正義の人々)の程度とカテゴリーにとどまり、神の親密な人々(*ムカラビーン*)には含まれていません[最高の程度は霊的完全性を持っています。 神(***Taqarrub***)との親密さのためには、神秘的な啓示、深い内なる霊的洞察、そして確信の光による心の拡大で心を照らす必要があるからです。 これらの[高貴な]特徴は、個人からの聞き取りから記憶された[教義に関連する]ことに誤りが生じる可能性があることに加えて、盲目的に従うことに基づく信仰には見られません。

ザイドが家にいることを知る2番目の方法は、彼が家にいて、あなたが家の境界壁の外にいる間、あなた自身が彼の声を耳で聞くことです。 彼の声を聞くと、誰かが[信頼できる]ザイドの家にいることを話すよりも、その声が外見と形を主張し、その声が特定の人のものであると心に思い浮かべるので、より[家にザイドの存在]が確認されます。この信仰には愛と証拠が混ざり合っていますが、声が互いに似ていることがあり、ある人が見せかけで別の人の声を真似ることがあり、聞き手が 2 つの声を区別できず、だまされる可能性があるため、間違いの可能性が依然として存在します。 なぜなら、人

はそのようなこと[そのようなことやそのような模倣の目的を]考えたことがなかったからです。

[たとえば、ザイドが家にいるという確信を育む]3番目の方法は、家の中に入ってザイドを自分の目で見ることです。 これは真のグノーシス(*マリファ*)または真の経験的知識であり、確信を持った観察です。 このグノーシス(*マリファ*)または経験的知識は、神(*ムカラビーン*)や聖人、または真実の人々(*シディキーン*)の親密な友人や友人の知識に似ており、彼らは[個人的な]観察の後に信じているからです。 このように、彼らの信仰は信徒やスコラ神学者(*ムタカレミーン*)の信仰を包括していますが、観察の増加により、間違いの可能性が残らないほど信仰が強まります。 しかし、グノーシス(*マリファ*)または神のすべての友人(*ムカラビーン*)と聖人または真実の人々(*シディキーン*)の霊的経験的知識は同じレベルではなく、代わりに[神との親密さ、親密さ、霊的な暴露、確信]の程度に違いがあります。 これらの学位とランクの違いの説明は、ザイドの例から再び取ることができます。 ある人は、日光の下で家の中庭でザイドをよく見ています。 2人目の人は、部屋の中、遠くから、または日が暮れた夕方に彼を見ます。 一人称の認識は依然として正しいにもかかわらず、一人称の観察は二人称の観察よりも完璧ですが、顔の特徴の細部や隠された特徴は観察されません。 神に啓示された真理と[霊的]知識を見る程度の違いは、この種のものです。 [霊的]知識の達成の違いは、あたかもある人はザイド、アムル、バクルを見るか、別の人はザイドだけを見るかのようです。 前者の知識は、後者の知識よりも間違いなく優れています[前者に知られていることは豊富であり、それが霊的な経験的知識との関係における心の状態であるため]。

学習(*Ta'allum*)と霊的インスピレーション(*Ilham*)の違い - スコラ神学者と霊的道の旅人の違いの現実:

型破りな知識が心に浸透することは、さまざまな方法で起こります。 この知識は、いつの間にか入れられたかのように心に集まることもあれば、議論や学習によって獲得されることもあります。 前者の知識は「霊的目覚めまたはインスピレーション」(*イルハム*)と呼ばれ、後者は「獲得した知識」と呼ばれます。 以前の知識には2つのタイプがあります:1つ目は、受信者がこの知識の源を知らず、それはスピリチュアルな目覚めまたはインスピレーション(*イルハム*)または「心への贈与」(*Nufikha fil Qalb*)と呼ばれます。 第二に、この知識が伝えられる媒体が知られていること、つまり、その知識を心

に宿す天使が見え、それを「神の啓示」(*ワヒ*)と呼んでいることです。 第一は聖人やグノーシス主義者、第二は預言者と関連しており、学習と証明を通じて得られた知識は学者に特有のものです。

現実とは、人間の心が物事の現実を明らかにする能力を持っているということです。 心臓がこの能力を失う場合、それは前述の5つの原因によるものです。 これらの原因は、心の鏡と、永遠から決定されたすべての事柄が刻まれた「保存されたタブレット」(*ロー・マフーテ*)との間のベールになります。 保存された石板の鏡から心の鏡に真実が現れることは、ある鏡からのイメージが別の鏡に現れるようなものです。 そのような障害によってこれらの現実から心が奪われることは、2つの鏡の間にベールが入ってくるようなものです。 ベールが手のようなもので剥がれるのと同じように、保存されたタブレット(*ロー・マフーテ*)と心の鏡の間のベールは、神の慈悲のそよ風によって取り除かれ、保存されたタブレット(ロー・マフーテ)にある現実がその中に現れ始めます。

これは夢の中で時々起こり、将来の出来事が夢の前に起こります。 ベールの完全な除去は死時に起こります。 死はそのような現実であり、すべての隠された事柄がそれによって明らかになり、現実を認識するためのすべての障害が取り除かれます。 その結果、知識の複雑さの照明が目に見えない領域から現れます。時には一瞬の稲妻のように、時には継続的かつ永続的ですが、それはめったに起こりません。 学習(*Ta'allum*)と霊的な目覚めやインスピレーション(*Ilham*)の間には、知識と知識が存在する場所(つまり、心)という点で違いはありません。 もし違いがあるとすれば、それはただ、霊的な目覚めやインスピレーション(イルハム)でベールが取り除かれ、学習では[知識の]獲得の手段が使用され、ベールが取り除かれる必要があるのは、自分のコントロールの下にあるものではないということです。 同様に、神の啓示(*ワヒ*)と霊的な目覚めまたは霊感(*イルハム*)の唯一の違いは、霊感の賜物は後者には見られず、神の啓示に見られることです。 知識が神の啓示(*ワヒ*)によって獲得されるか、霊的な目覚めやインスピレーション(*イルハム*)によって獲得されるかにかかわらず、すべての場合において天使を通して達成されます。 神はこう言われます。

وَمَا كَانَ لِبَشَرٍ أَن يُكَلِّمَهُ ٱللَّهُ إِلَّا وَحْيًا أَوْ مِن وَرَآئِ حِجَابٍ أَوْ يُرْسِلَ رَسُولًا فَيُوحِيَ بِإِذْنِهِۦ مَا يَشَآءُ

「神が[直接]話しかけるような地位を持つ人間はいませんが、霊的な目覚めやインスピレーション(*イルハム*)を通して、またはベールの向こうから、または神の意志や望みどおりにメッセージを伝える天使を送ることによって[3つの方法で]話します。」 (クルアーン、42章、51節)

ここで説明する必要があるのは、*スーフィー*(神の認識につながる自己改革のための精神的な道を歩む旅行者や努力家)は、精神的な目覚めやインスピレーション(*イルハム*)に関連する知識に傾いているということです。 だからこそ、彼らは従来の学習に時間を費やさず、作家の本を読んだり、ことわざや証拠に議論したりせず、代わりに、人は霊的に努力すべきであり、したがって、すべての否定的で卑劣な(否定的で低く、非難されるべき)内なる資質を消し去るべきだと言います。[霊的な道の]そのようなすべての障害に終止符を打った後、人は神に完全な注意を向けるべきです。 これが達成されると、神ご自身が心の守護者となり、[霊的]知識の照らしの提供者となります。 神の慈悲の影が人の上にあり、光が人の心を照らし、心の拡大が達成され(霊的な照明を達成するために)達成され、心の鏡のベールが消え、神の事柄の現実のイメージがその上に降り注ぐでしょう。 [神のしもべ、つまり普通の人]は、真理を受け入れる能力を養うために、心を浄化する責任しかありません。 確固たる決意と真実の追求は、勇気を保ち、神の憐れみによる成就を待つでしょう。 預言者や聖人の前に明らかにされ、その結果として彼らが受ける内なる啓発は、教え、学び、本を勉強することに耽溺しているためではなく、代わりに、彼らは世界からの切り離し(*ズード*)、邪悪な考えの源を取り除き、その理由は彼らがズードを採用するためです(世俗性からの切り離し)そして、完全な決意、勇気、意図を持って、神だけに注意を向けてください。 神の人になる人は誰でも、神は彼または彼女の人になります。

スーフィーの間では 、神の人になるには、[霊的な道における]世俗的な障害から完全に切り離され、心を空にし[霊的な闘争に利用できるように]心を空にし、親戚、子供、財産、国、知識、名声、権力から注意をそらし、そのような状態を心に植え付けて、物事の有無が平等になるようにする必要があります。 自分自身を隔離し、必要かつ必要なものと連祷文だけに頼り、*クルアーンやハディースの*本(預言的な語り)の意味を熟考しても心の焦点を乱さないほど、神以外のすべての心を空っぽにしなさい。 むしろ、神以外に自分の心に何も浮かび上がらないように努力すべきです。 自分の舌に「*アッラー、アッラー」という唯一の言葉が残っているとき*(「アッラー」は言語に関係なく神の唯一の個人名であり、「神」は、すべての言語が「神」を表す独自の一般的な用語を持っているため、存在するすべてのものの創造者、維持者、提供者である存在をほのめかす英語固有の総称です)私的にも公的にも、 この言葉は、たとえ舌が動かなくても、心がそれを唱えているように見えるほど、心が完全に存在して発せられますが、それは[内なる霊的]状態に達し、この言葉の効果が舌から消去され、心が[代わりに]その[神聖な]記憶に[しっかりと永続的に]確立されるときです。 心からでも文字と言葉の形は

消え、心と意味が互いに不可欠になるかのように、常にそこに永久にとどまるということ。 [神の奴隷、つまり人間]は、そのようなレベル[霊的変容]に到達する可能性と特権を持っています。 また、この[内なる霊的]状態を永続的にするために、神以外のものの考えや促しを撃退できる可能性もあります。 しかし、人は神の恵みと慈悲の引っ張りと吸収をコントロールすることはできませんが、神の恵みを自分自身に引き寄せる能力が発達します。 [霊的達成の]このレベルに達した後、[神の]奴隷は、これらの開口部が預言者や聖人に与えられたのと同じように、彼らも預言者や聖人にも与えられるという神の恵みの開口部を待つ必要があります。 この場合、もし人が真の意図、正しい決意、忍耐の美しさを持ち、欲望や欲望を控え、世俗的な執着や心配事が心を通り抜けるものが何もなければ、真実の光が心の中で輝き始めます。 時には遅れることもありますが、それが原因でがっかりする必要はありません。 ゆっくりと徐々に、これらの[内なる霊的]光が心にとどまり始めます。 時には、彼らが滞在する時間があまりにも短く、渇きを感じることもあります。 時には長く滞在することもあります。時々、(霊的な光の)光が次々と心を照らします。 これに関して、領シス主義者は、創造物とその性格特性(イクラク)の違いが想像しにくいように、想像すらできないほど程度とレベルがあまりにも多い。

この議論の結果、心に命を吹き込み、心を浄化することは(すべての濁り、濁り、否定性から)しもべ(つまり、一人ひとり)の責任であるということです。 その能力を高め、辛抱強く取り組むことも個人の義務の一つです。 外の教えの宗教学者(*ウレマ・アル・ザヒル*)も、ほとんどの預言者、聖人、グノーシス主義者が同じ霊的状態を持っているため、それに反論しません。 しかし、彼らはこの道と方法を難しいと考えています。 彼らの意見では、この道をたどる結果と成果には長い待ち時間があるそうです。 このパスで設定された条件に従うのは簡単ではありません。 第一に、世俗的な責任、執着、問題をすべて忘れることは困難です。 たとえそれが霊的な厳しさと懲らしめによって起こったとしても、心の中の小さな不安や[悪魔的な]説得が心の平和と静けさを台無しにするため、それは長くは続かないかもしれません。 預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]は言いました。

قلب المؤمن اشد قدرا في غلياتها

「信者の心は、鍋の沸騰よりもさらに沸騰します(つまり、心は常に流動的な状態にあり、変化しやすい)」。 (このナレーションは予言的なナレーション集によって報告されています *ムスナド・アフメド*とハキムは、預言者の仲間であるミクダッド・ビン・アル・アスワド[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいている。

預言者はまたこう言っています。

قلب المؤمن بين اصبعين من اصابع الرحمٰن

「信者の心は、最も慈悲深い方の指の間の二本の指の間にとどまります(つまり、神は常に心の状態をコントロールし、いつでも心の意志で心を変えることができます)」。(このナレーションは、預言者の仲間であるアブドゥッラー・ビン・ウマル[神が彼を喜ばれますように]によって報告されています)。

この霊的な闘いの間、気質は不快になり、知性は低下し、健康は低下し、さまざまな種類の身体の病気が忍び寄ります。 [低次の]自己を浄化するための霊的厳しさよりも先に知識を求めなければ、心は数多くの種類の邪悪で否定的な考えで満たされ、自己は生涯にわたってそれらに絡み合い、何の成功も得られずに過ぎます。 多くの*スーフィー*(スピリチュアルな道の努力家)はこの道を歩み、その後、20年経っても[スピリチュアルな道で]一歩も前進することなく、1つの[邪悪な、否定的、破壊的な]考えに絡み合ったままになりました。 その時点で、彼らは、もし知識を身につけていたら、20年は無駄にならなかっただろうし、その思考の影響(この霊的進歩の悲惨な状態の原因)は、習得した知識のおかげで初日に明らかになっていただろうことに気づきます。 これは、知識の道を通じて精神的な努力の谷に足を踏み入れることが信頼できるだけでなく、その目的に近いことを示しています。 外的知識の学者(スコラ神学者)は、*スーフィー*の類似性は、*フィク(外的、目に見える、肉体的な崇拝行為の知識)を学ばず、預言者(神の祝福と平安あれ)がファキ* になるこの外的知識を習得しなかったと主張する人々に似ているという意見を持っています(外部の宗教的知識の学者および実践者)は、神の啓示とインスピレーションを通じて、したがって彼ら(つまり、*スーフィー*)も、霊的な実践における粘り強さと永続性を通じて、そして同じ源[神の啓示とインスピレーション]を通じて、同じ外部の知識(Fiqh)も獲得するでしょう。). 同じ種類のばかげた卑劣な考えに巻き込まれた人は、自分自身を抑圧し、人生の貴重な瞬間を無駄にするのに忙しいです。 そのような*スーフィー*(つまり、本物の*スーフィー*ではなく、自分が霊的な道を歩んでいると誤って考えている自己欺瞞的な人にすぎない人)は、土地を耕すこともせず、いかなる種類の仕事も生計を立てる職業に触れず、宝を手に入れるという希望を抱いている人のようなものです。非常に低い。 結論として、*スーフィー*(スピリチュアルな道を旅したいと願う人)は、まず知識を獲得し、学者の言葉の本当の意味を理解し、次に、宗教の外見的な教えの学者(スコラ神学者)が欠けている[内なる霊的]知識を待つことが正当化されるということです。 そのような知識が、[持続的かつ粘り強い]霊的な努力と厳

しさの後に[礼拝の外側の行為と神の服従の知識を獲得し、誠実に行動した後]明らかにされるのは驚くべきことではありません。

明らかにされた知識と習得された知識の違いを身近な例で説明

心の驚異や神秘を知覚することは、[人間の]感覚の範囲外です。 心でさえ、感覚を通して知覚できるものではありません。 さらに、感覚を通して知覚されないものは、感覚の領域から例を引用しない限り、知性はそうする能力が不十分であるため、本質的に弱い知性では理解できません。 一般の人に説明するために、ここでは感覚の領域から例を挙げています。

最初の例: ある土地に貯水池が掘られたとします。 水を流すには2つの方法があります。 1つの方法は、その周囲に水路を作り、水源から水路に水門を開けて、貯水池に水が溜まるようにすることです。 2番目の方法は、貯水池の浅い部分を深く掘り、水自体がそこから噴出することです。 2番目の方法で得られる水は、より純粋で長持ちし、豊富で豊富になる可能性があります。 この例に照らして、心は貯水池として、知識は水として、五感は水路として解釈されるべきです。 心の知識へのアクセスは五感を通して行うことができるので、どんな観察があっても、知識で満たされる心に入ってきます。第二の方法は、五感が知識の獲得に使われないように、これらの水路を隠遁によって閉じ、知識の泉が内側から発せられるほど心の貯水池を深く掘ることです。 これは、心が細心の注意を払って浄化され、ベールが取り除かれて[霊的な現実を明らかにする]ときにのみ起こり得ます。

「知識が心にさえ存在しないのに、どのようにして心から発せられるのか?」という質問については、その答えは心の驚異と神秘に属します。 外的な知識の観点から見ると、この質問に対する答えとして、[目に見える領域からの]物事の現実は、むしろ[神聖な現実]に近い天使の心に根付いているという、この質問に答えて言えるのはこれだけです。 家を建てる前のように、技術者はその設計図と詳細設計を準備し、それに合わせて家を建て、同様に天地の創造主も、初めから無限の永遠まで存在するすべてのものの設計図と詳細設計を準備しました。 このマスタープランは、保存されたタブレット(*Loh Mahfoodh*)に保存されています。 世界で起こっていることは、それに従って起こっています。 このマスタープランが心を反映するのは突飛なことではありません。 したがって、何かが一度存在し、後で存在しなくなるとき、それでも知覚と想像力によっ

て、その形と外観を想像することができます。 例えば、目に見える領域を見た後に目を閉じると、大地や空の形や姿が知覚と想像の中に入り、見ているように感じられます。 天と地が存在しなくなり、それらを見た人だけが残ったと仮定すると、人は想像力と思考の中でその絵を奪われることはありません。 この思考は心に影響を与え続け、物事の現実は[以前のある時期]思考と知覚に存在していた心に現れ続けます。 心に浮かぶものは何でも、保存された石板(ロー・マフフース)に存在する地図に沿った、その物体の実際の外見的な形と外観に似た想像上の形と外観に従っています。

存在の種類: 存在には 4 つのレベルがあることを上から学びます。 存在の最初の[レベル]は、保存されたタブレット(*ロー・マフフード*)にあるものです。 この存在は、物理的な存在よりも優れています。 存在の第二段階は、この[世俗的な]生活にある本当の存在です。 存在の第3レベルは想像上のものであり、思考と知覚の中にあるものです。 現実の存在後、思考と想像に姿と形が現れる存在をいう。 存在の第4段階は知的存在であり、想像上の存在の後に心に入ってくる外観と形です。 この4つの存在のうち、霊的なものもあれば、肉体的なものもあります。 スピリチュアルな存在にもバリエーションがあり、他のものよりもスピリチュアルなものもあります。 これらすべての事柄は、神の知恵の驚異であり、神秘です。 神は目をとても小さく創造されましたが、その小さなサイズにもかかわらず、その中に広大な天と地を集めることができます。 問題が1つに到達しない限り、人はそれに気づかないというルールです。 したがって、もし神が世界の創造物の模範、形、外観を創造していなかったら、あなたはそれらに気づかなかったし、それらについての知識も持っていなかったでしょう。 これは、あなたの主が目と心にこれらの驚異の膨大な宝物を与えてくださった、力の完成とすべてのものに対する絶対的な支配の小さなサンプルです。 戒めを得るために、ある心は洞察力を欠き、ある目は視覚を欠いており、一部の心は自分自身の[内なる]自己の欠点を知らないほど気づかないほどで、心が持つべき[霊的領域から]驚異や神秘の知らせを得るほどです。 また、彼らはこれらの謎について知らず、これらの謎に気づいていません。

これらの冒頭の挨拶の後、ここでの主な目的に戻ります。 ここで議論されたのは、心の中に何かが存在することは、感覚によって、また保存されたタブレット(***Loh Mahfoodh***)によるものである可能性があるということです。 太陽の形が、時にはそれを見て、時には水に映るのを見て目に入ってきて、その反射が実際の太陽に似ているのと同じように、同様に、心臓と保存された石板(*ロー・マフーテ*)の間のベールが持ち上げられると、物事の現実がそこに反映され始め、彼らの知識が心に入ってきます。 その場合、心はもはや[知識]を推論し、感覚から恩恵を受ける必要はなくなります。 この

方法による知識の出現[と夜明け]は、地球から[源泉から]発せられる水が貯水池を満たすのと似ています。 時々、心は感覚を通して獲得するような思考で忙しいです。 これらの考えは保存されたタブレット(*ロー・マフーズ*)の障害となるため、そのような考えが貯水量を満たし、その下部を満たしても、その底から取り除かれることはありません。

心の2つのドア: ハートには2つのドアがあります。 1つのドアは天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)に向かって開き、もう1つのドアは物質的な領域または目に見えるものの領域からニュースを得る五感に向かって開きます(*アラム・アル・ムルク・ワ・アス・シャハダ*は、神の全能性と力の出現の領域としても知られています)。 どちらの領域も密接な関係にあります。 五感への扉を開くことに関してはよく知られていますが、天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)や保存された石板(*ロー・マフフート*)への扉を開くことは信じがたいことではありません。 夢の状態と、その状態での驚異をどのように目撃するかを見てください。 感覚は夢には関与していませんが、夢の中で未来の出来事や過去の出来事を見る人もいますが、この扉は神聖な記憶においてユニークな人にのみ開かれます。 それは、彼らが神を思い出すことに夢中になり、神以外の[何物にも誰にも]関心が残らないことを意味します。 ある預言的な伝統の中で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「

سبق المفردون' قيل ومن هم المفردون يا رسول الله' قال المتنزهون
بذكر الله تعالى' وضع الذكر عنهم اوزارهم فوردوا القيامة خفافا

ひたむきな人々(*ムファリドゥーン*)は、(神への霊的な道において他の誰よりも)優れており、進歩している」と述べています。 預言者はこう尋ねられました:「おお神の使徒よ!ひたむきな人々は誰ですか?」 彼は答えました:「[神の誠実で敬虔な]記憶(ディクル)によって[神の誠実で敬虔な内なる霊的浄化]によって浄化された人々。 神の偲びは彼らの罪の重みを軽くし、裁きの日には、彼らは軽くなって来るでしょう。 (このナレーションは *ハディースは、予言者の仲間であるアブ・フライラの権威に基づいて*、イスラム教徒のサヒーと ハキムを集めています[神が彼を喜ばれますように])

この後、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は神から次のように述べました(*ハディース・クドシ*)。私が誰に顔を向け、彼らに何を与えたいのか知っていますか? 彼らへの私の最初の贈与は、私が彼らの心に私の光を入れ、私が彼らの状態について知っているように、彼らは私についてのニュースを伝え始めることです。」 この知らせは、先ほど述べたのと同じ内なる扉(神の全能性と力の出現という目に見えない領域に直面す

る心の)から入ってきます。 一方では預言者や聖人の知識と、他方では学者や賢者の知識の違いは、予言的な知識は天使の領域に面している心に開かれる扉から来ることです('*アラム・アル・マラクート*)知恵の知識は、物質的な領域に向かって開かれる感覚の扉から入るということです('*アラム・ザヒル*). この例を通じて、2つの領域の違いが明らかになりました。 目に見えない領域の神秘と驚異(*アラム・アル・ガイブ・ワ・アス・シャハダ*は、神の全能性と力の出現の目に見えない領域としても知られています)に関する限り、それらはあまりにも多いので、人間の推定の輪の中でさえ推定することさえできません。

2番目の例:この例を通して、学者の知識とグノーシス主義者(またはアウリヤとしても知られる聖人または神の親しい者)の知識の違いを明確に説明したいと思います。 学者は知識の実体を獲得し、それを自分の心に引き寄せようと努め、*アウリヤ*(グノーシス主義者、聖人、または神の親しい人)は、心の浄化、改革、磨き、生き生きとすることに忙しくしています。 伝統にあるように、ローマ人と中国人は自分たちの建築と芸術的能力を惜しみなく賞賛し、それぞれのグループは王の前で相手に優れていると主張しました。 国王は、両方のグループの専門家に才能を発揮する機会を与えることを考えました。 二人とも、それぞれの芸術的才能を表現するために建物の一部を与えることが決定しました。 一方では中国人がアートワークを、もう一方ではローマ人への手紙が演奏されます。 2つの部分の間にはカーテンがあり、各グループが他のグループの仕事に気づかないようにします。 両者ともこの任務を与えられた。 ローマ人は無数の素晴らしい色を持ち込み、中国人は色なしで建物の自分たちの部分に入り、彼らに渡された部分を磨き始めました。 ローマ人が自分たちの仕事が終わったと発表すると、中国人も自分たちの仕事も終わったと出た。 王は、色や絵の具を必要としない[中国人の]芸術作品の種類に驚きました。 彼らは国王に、建物の2つの部分の間のカーテンを撤去するよう命じるよう要請した。 カーテンが開かれると、ローマの芸術作品の色彩の輝きが輝き始め、中国人が建物の壁を磨きすぎて、壁がきれいに磨かれた鏡のように美しく磨かれたため、その光沢と輝きは倍増しました(ローマの芸術作品の美しさを反映した)。 これは、*アウリヤ*(聖人、グノーシス主義者、神の親しい者)の状態であり、彼らは[このたとえ話の]中国人のように、心の浄化、復活、改革に多大な努力を費やし、学者や賢者が従来の学習手段を通じて知識と印象を獲得することにもっと集中している間、心は真実の[神聖な光]で照らされます。

知識を獲得する手段が何であれ、[神の]知識の光を持つ心には絶滅はありません。 知識は死で終わるわけではなく、死が心の純粋さや清らかさに影響を与えたり、心に混濁が

入ったりすることはありません。 したがって、ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)[最も偉大な*アウリヤ*とグノーシス主義者の一人であった]は、信仰の住処(つまり、心)は土に飲み込まれないと言いました(つまり、神の現実を信仰する心の人生は死で終わるわけではありません)。 知識、それを受け入れる能力と能力、そして心の純粋さと清らかさは、信者(モミン)にとって必要です。 死後の世界での永遠の幸福と無限の成功(*サーダ*)は、それなしでは想像すらできません。 また、この永遠の幸福と無限の成功には程度の差があります。 富の所有者がすべて裕福と呼ばれるのと同じように、*サーダ*(永遠の幸福と無限の成功)のすべての所有者は「*サイード*」(永遠の幸福と無限の成功という途方もない恵みの所有者)と呼ばれます。 しかし、10万*ディルハム*(金貨の形をした過去の古い通貨)の所有者は、100万*ディルハム*を持っている人と同等になるのでしょうか? これは、永遠の幸福と無限の成功についても同じです[この途方もない恵みの所有者は全員同じ程度の幸福を持っているわけではありません]。 あるものは最高の程度にあり、あるものはそれより低いものがあり、あるものはそれより低い程度にあります。 これらの程度の永遠の幸福は、さまざまな程度のグノーシス(*マリファ*)と信仰(*イマーン*)によるものです。

アブ・スレイマン・アル・ダラニ(過去の偉大なグノーシス主義者)は、「心の類似性は、周囲に多くの閉ざされたドアがあるドームのようなものです。 彼らの間に開かれる扉は、そこを通して心が働きます。」 このことを通して、私たちは心の扉の中で、その扉の1つが天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)とより高い霊的領域に向かって開かれていることを知っています。 この扉は、精力的で持続的な霊的闘争、神への畏れ、そして低次の自己の欲望や耽溺を控えなければ開きません。 だからこそ、ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、より高い[普遍的な永遠の]真理に関する事柄が彼らに明らかにされるので、神の敬虔な奴隷から言われたことは何でも覚えておくべきだと手紙で指揮官たちに指示したのです。 一部の学者は、神の手は賢い者(霊的知恵の人々)の口にあり、彼らは真理だけを口にしていると言います。 あるグノーシス主義者は、神は神の前に謙虚さをとる人々にいくつかの秘密を明らかにすると主張できると言いました。

ほのめかしによるサタンの心の支配 (*waswaas*) - ほのめかしの意味とサタンの支配の理由

ハートは、多くのドアがあり、すべてのドアを通して内面の状態が絶えず行き来するドームに似ています。 その例はたくさんあります。 例えば、ハートは四方八方から矢が狙われ続ける標的のようなものであったり、さまざまな映像が次々と反射され、一瞬たりとも怠惰に過ぎない鏡のようなものであったり、周囲に建てられた様々な接続水路から水を受け取る貯水池のようなものだ。 心臓へのさまざまな影響の継続的な出現は、外部感覚と内部感覚の両方を通じて発生します。 だからこそ、思考、欲望、怒り、その他の[内面の]性格特性は、これらの同じ影響と状態の名前です。 心の絶え間ない変化は常に起こっています。 物体が感覚を通して知覚されると、その影響が心臓に見られます。 同様に、豊富な食べ物と気質の力が欲望を煽る場合、心は影響を受けます。 心の考えは変化し続け、ある考えから別の考えへと動き続けます。 これが心の変化の意味です。 熟考と記憶の結果として心に生まれる影響は「危険」(*カワティル*)と呼ばれます。 心が知覚する知識は、「熟慮」や「記憶」によって言及されており、それが新しいものであろうと、以前から知られていて、現在言及されているものであろうと。 [知覚]危険(*カワティル*)は、人間が危険を怠ったときに心臓に課せられるため、そのように呼ばれます。 これらの危険は意図を扇動し、[人間]は思考が心をよぎった後にのみ意図、決意、行動計画が生まれるからです。 行動はこれらの危険から生まれ、これらの危険によって始まります(*カワティル*)。 危険は欲望を扇動し、欲望は決意を扇動し、決意は意図や行動計画を扇動し、意図は身体の手足を扇動します[心の中で考えたり知覚された危険に従って行動したりします]。

2種類の危険 - 神の霊感(*イルハム*)とほのめかし(*ワスワアス*): 欲望を扇動する危険には2つのタイプがあります。 第一の危険は、悪(*シャール*)、言い換えれば人生の最終的な結果と永遠の命(*アーキバ*)にとって有害な事柄に人を誘うようなものです。 第二の危険は、死後の世界での利益と善の源である善で高貴な事柄(カイル)に人を誘うようなものです。 このように、2つの異なる危険(*カワティル*)があり、どちらも異なる名前を持っています。 良い危険(*カーティル・マフムダ*)は「神のインスピレーション」(*イルハム*)と呼ばれ、非難されるべき危険(*カーティル・マドムマ*)は「ほのめかし」(*ワスワサ*)と呼ばれます。 これらの危険はつかの間のもの、または偶発的なもの(*ハワディス*)であり、それらにとって創造者(偶発的な存在または*ハーディス*)は不可欠です。 危険の種類は異なるため、その違いは、その原因と原因も異なることを示しています。 神の神聖な知恵と道(*スンナ*)は、原因と結果の順序で絶え間なく浸透し、続いています。 原因がそうであるように、結果もそれと同じでしょう。 したがって、部屋に火をつけ、その光を通して部屋の壁が照らされ、天井が煙で黒くなると、天井の黒さは光に起因しません。 同様に、心の暗闇と照明にはさまざまな原因があります。 [第二の]危険の原因は善の招き手である「天使」と呼ばれ、[第一の]危険の原因は悪の招き手である「サタン」と呼ばれます。 善を受け入れる能力を心に生み出す繊細さと謙虚さは「*タウフィーク*」(善を行うための神の可能化)と呼ばれ、悪魔のほのめかしを受け入れることを可能に

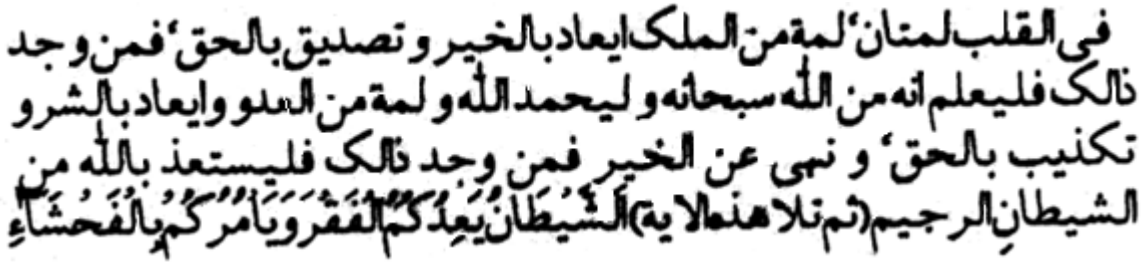
するものは「*カドラン*」(不幸の深みと下向きの霊的軌道のどん底に沈む)と呼ばれます。 意味の違いにより、用語が異なります。

天使とサタン:「天使」とは、神が善を広めるために創造された創造物、知識の光、真理を明らかにし、善を約束し、善と高貴なものを命じることを指します。 エンジェルは、これらの定められた任務に[神の手に]魅了されています。 「サタン」(*Shaytan*)とは、上記のすべてのことにおいて天使とは正反対の被造物を指します。 言い換えれば、サタンは悪を約束し、悪と悪を招き、善を行う傾向のある人を恐れるように創造されました。 このことから、ほのめかし(*ワスワサ*)は神の霊感(*イルハム*)とは対照的であり、サタンは天使とは対照的であり、不幸の深さと下向きの霊的軌道のどん底に沈むこと(*カドラン*)は、善を行うための神の能力(*タウフィーク*)とは対照的であることがわかります。 次の詩は同じことを指しています。

وَمِن كُلِّ شَيْءٍ خَلَقْنَا زَوْجَيْنِ

「そして、私たちはすべてを2人ペアで創造しました。」 (クルアーン、第51章、49節)

それは、唯一無二の全能の雄大な主を除いて、すべての創造物がペアになっていることを意味し、誰も彼と競争しておらず、彼は真実であり、すべてのペアの創造主です。 天使もサタンも、心を自分の方に引き寄せるのに忙しいです。 したがって、伝承によれば、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は次のように述べています。



「心の中には2つの親密さがあります。1つは、善を約束し、真実を確認することを仕事とする天使との親密さです。これを知っている人は誰でも、これが神からのものであることを知り、このことについて神に感謝すべきです。 第二に[心の]親密さは、真理を拒絶し、善を禁じることを仕事とするサタンのそれです。このことを知っている人は誰でも、呪われた者であるサタンから神の避難所を求めるべきです。」 この後、預言者は次の聖句を暗唱しました。『そしてサタンはあなたを貧困を恐れさせ、悪と恥ずべき[そして放蕩な]行為をするように命じます」。 (このナレーションは *ハディース*は、預言者の仲間であるアブドゥッラー・イブン・マスード[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ティルミディ*と*ナサイ*を集めています)。

ハサン・アル・バスリ(偉大なグノーシス主義者)は、[意図と決意の]2つの考えが心の周りを回っていると言いました。 一つは神から来たもので、もう一つは敵から来たものです。 神が自分の考えに立ち止まる人を憐れんでくださいますように。 それが神からのものであるならば、人はそれに基づいて行動すべきであり、それが敵(つまりサタン)からのものであるならば、人はそれに対して闘いを起こすべきです。 【フォロー中】ハディース (預言的伝統)は、これらの[競合する]考えと対立する考えの間の闘争を指摘しています。

قلب المؤمن بين اصبعين من اصابع الرحمٰن

「信者の心は、慈悲深い[神]の指から二本の指の間にある」。

神は、肉、血、骨でできた指を持つことよりも高められています。 代わりに、ここでの指は、人間が指を通して素早く働き、物を回転させ、指と一緒に動かすのと同じように、神も天使とサタンを征服した後、天使とサタンを使って[彼らの]仕事をするという事実を指します。 両方(天使とサタン)は、指が物体を動かしたりひっくり返したりするために[あなたの意志に]服従するのと同じように、心を回転させ、ひっくり返すように征服されています。 ハートは、その本質的な性質において、天使とサタンの両方の影響を等しく受け入れることができ、一方が他方よりも優先されます。 しかし、低次の自己からの欲望に従うか、それに反対すると、一方の側(天使またはサタン)が他方よりも優先されます。 したがって、人間が怒りと欲望の意味に基づいて行動するなら、サタンは低次の自己からの欲望の手段を通じて人を支配し、心はその巣、インキュベーター、サポーターになります。 これは、低次の私の欲望がサタンの放牧牧草地だからです。 欲望に支配されず、欲望と勇敢に闘い、天使の性格特性を身につければ、そのような人の心は天使の安息の地であり、目的地となるでしょう。 欲望、怒り、貪欲、貪欲、そして長期にわたる[容赦ない]欲望に宿る心は、あらゆる状況において悪魔のほのめかしの標的となるでしょう。 予言的なナレーションは次のように述べています。

ما منكم من احد الا وله شيطان' قالوا وانت يا رسول الله؟ قال وانا الا ان الله اعاننى عليه فاسلم فلا يامرالا بخير

「『悪魔(*シェイタン*)があなた方一人一人に任命されている』。 預言者の仲間たちは尋ねました。 預言者(神の祝福と平安あれ)は答えました。 しかし、神は彼に対して私を助けてくださり、彼は*イスラム教徒*になりました(神の意志と命令に従属しています)。彼は私に良いこと以外は何も言わない』」と語った。 (このナレーションは *ハディース集 サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブドゥッラー・イブン・マスード [神が彼を喜ばれますように] の権威に基づいて)。

サタンは欲望を支配と操作の道具として使います。 神に助けられて欲望を助けられ、適切な範囲内を除いて再び表面化しないほど欲望が人に従属するようになった人は、悪を呼び寄せる者であり続けることはなく、サタンもそれを自分の[邪悪な]目的のために利用する方法を持っていません。 サタンは、心が世界[と世俗性]の記憶と低次の自己(ナフス)からの欲望に支配されているときに、心にほのめかしを植え付ける能力を持っています。 もし心が神の記憶に向けられるなら、サタンは[神の記憶が支配的なこの人から]離れる以外に選択肢がなく、ほのめかし(*ワスワス*)を広める能力が残されていません。 その時、天使がやって来て、善を命じます。 このようにして、天使と悪魔の軍隊は激しい闘争に巻き込まれています。 この戦闘状態は、心が征服され、2つの[軍隊]のうちの1つに従属するまで続きます。 その場合、心は[天使とサタンの中から]勝利者の休息の住処と地位になります。 [敗北した]敵がそこを通り過ぎた場合、それはその所有者および勝者としてではなく、攻撃者として通り過ぎます。 [人類の]心のほとんどが、その操作と陰謀のために悪魔に征服されたことは、悲しみと大きな悲しみをもって[断言されるべき]です。 これらの征服され、奴隷化され、征服された心[大多数の人間に属する]は、[卑劣で極悪非道な]悪魔のほのめかし(*ワスワア*)の住処となっています。 彼らは来世よりも世界(世俗的な生活と野心)を優先してきました。 悪魔の軍隊が[心を支配する]理由は、低次の自己からの欲望に従うことです。 彼らの(つまり、心の)神への帰還は、悪魔の支配と支配が取り除かれ、心が低次の自己からの欲望から空っぽになり、[代わりに]神の記憶に住み、満たされた場合にのみ起こり得ます。 天使たちは神の記憶を通して心の谷に降りてきて、サタンは軍隊や仲間たちを率いてそこから逃げるしかありません。

ジャビル・イブン・ズバイダトゥ・アル・アドヴィは、「私はアラ・イブン・ジヤド(神が彼に憐れんでくださいますように)(偉大なグノーシス主義者)に、心に生まれた悪い考え(悪魔のほのめかし)について不平を言いました」と言いました。 「その類似性は、泥棒が家に侵入するようなものです。 家に何かがあれば、泥棒はそれを持ち去り、何もなければ失敗して(手ぶらで)戻らなければなりません。」 この例を通して、アラ・イブン・ジヤドは、サタンは低次の自己からの欲望のない心には入らないことを伝えました。 したがって、全能の神はこう言われました。

إِنَّ عِبَادِى لَيْسَ لَكَ عَلَيْهِمْ سُلْطَٰنٌ

「[神はサタンに]あなたは私の特別なしもべをコントロールできないでしょう。」 (クルアーン、17章、65節)

低次の自己の欲望[衝動と命令]に従属する人は、神のしもべではなく、むしろ[低次の自己からの]欲望のしもべです。 神は別の場所で[クルアーン]でこう言われました。

أَفَرَءَيْتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ

「あなたは、低次の自己に対する欲望から神を造った人の状態を見たことがありますか。」 (クルアーン、45章、23節)

この聖句では、低次の自己から自分の欲望に従属する人々は、彼らから神を造った(つまり、彼らは自分の欲望をあたかも神であるかのように崇拝する)ことを非常に明確に知らされています。

サタンからの保護の道: アムル・ビン・アル・アース(神が彼を喜ばれますように)は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)にこう言いました。サタンは私と私の[神への]祈りの間に入ってきます(言い換えれば、私が祈りの中でクルアーンを唱えるとき、サタンは私の心と心を神以外のものに巻き込みます)。」 彼はこう答えた。

ذالک شیطان یقال له خنزب، فاذا احسسته فتعوذ باللّٰه منه واتفل عن یسارک ثلاثا

「それは『キンザブ』と呼ばれるサタンです。 それを感じたら、神から神の避難所を求め、左に三度唾を吐きかけなさい。」 (このナレーションは、*預言者の仲間であるアムル・イブン・アル・アースの権威に基づいて*、ハディース集『サヒー・ムスリム』によって報告されています)。

アムル・イブン・アル・アス(神が彼を喜ばれますように)は、この方法に従ったとき、苦情は解決されたと言いました。 これらの伝統から、サタンから身を守る方法はただ一つ、それは神の記憶(*ディクル*)であることを学びます。 この記憶により、サタンの魂は心の底から揺さぶられ、彼はすべての陰謀に失敗します。 神の記憶によってサタンが逃げるのに理にかなっている知的な理由は、他の何かが心に入ったときにのみ、心にはサタンのほのめかしがなくなるということです。 なぜなら、ある考えが心に浮かんだとき、以前からそこにあったものはとどまらないからです。 したがって、心を他のもので占めることは、悪魔のほのめかしを終わらせますが、ほのめかしが心の中で新しい考えの形で生まれる可能性もあります。 神の記憶は、サタンがその存在下で何もできない唯一のものです。 すべてのものの治療はその逆を通して行われるというのがルールです。 サタンのほのめかしの反対は、*サタンから身を守るために次のように言うように、自分の力と力のふりを否定することによって*、神(イスティアーダ)と神の記憶に避難することである。

أَعُوذُ بِاللّٰهِ مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيمِ وَلَا حَوْلَ وَلَا قُوَّةَ إِلَّا بِاللّٰهِ الْعَلِيِّ الْعَظِيمِ

「私は呪われたサタンから神の避難所を求めています。 神、高貴な神、至高なる神以外に力と力はありません。」

神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を持ち、神の記憶が支配的であるサタンから身を守ることができるのは、彼らだけです。 サタンは陰謀で彼らを圧倒しようとしますが、彼らは神の記憶の力で彼を打ち負かします。 神はこう言われます。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ إِذَا مَسَّهُمْ طَٰٓئِفٌ مِّنَ ٱلشَّيْطَٰنِ تَذَكَّرُوا۟ فَإِذَا هُم مُّبْصِرُونَ

「神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を抱いている人は、サタンからほのめかしが来ると、すぐに神の記憶に従事し、この邪悪な出来事に驚いて目覚めます。」(クルアーン、第7章、201節)

以下の聖句の説明では:

مِن شَرِّ ٱلْوَسْوَاسِ ٱلْخَنَّاسِ

「[私は]悪魔のほのめかしの悪から神に避難します。」 (クルアーン、第114章、4節)

ムジャヒド(クルアーン解釈を専門とする預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・アッバス[神が彼を喜ばれますように]の偉大な弟子)は、サタンは心に影を落とすと言いました。心のある人が神の名を覚えているとき[「アッラー」は神の唯一の個人的な名前ですが、「神」は神を指す言語固有の総称であり、すべての人間の言語には「神」を表す独自の同等の総称があります]その後、彼(サタン)は後退し、縮んで座り、人間が彼に気づかず、注意を払わないとき、彼(サタン)は心に広がり続けます。 神の記憶とサタンのほのめかしの間の矛盾は、昼と闇の間、あるいは昼と夜の間の矛盾があまりにも大きいため、一方が来ると、もう一方は存在しなくなります。 次の神聖な[神聖な]聖句は、同じ矛盾に言及しています。

ٱسْتَحْوَذَ عَلَيْهِمُ ٱلشَّيْطَٰنُ فَأَنسَىٰهُمْ ذِكْرَ ٱللَّهِ ۚ

「サタンは彼らを完全に支配し、神を思い出すことを忘れさせました。」 (クルアーン、58章、19節)

アナス・ビン・マリク(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

ان الشيطان واضع خرطومه على قلب ابن آدم فان هو ذكر الله تعالى خنس وان نسي الله تعالى التقم قلبه

「サタンはアダムの子(人間)の心に尻尾を置きました。 神を思い出すと、彼(サタン)は立ち去り、神を忘れると、彼(サタン)は人(人間の)心を飲み込みます。」 (このナレーションは、*ハディース集イブン・アビ・アッドゥニャ、アブ・ヤラ、 イブン・アディによって報告されています*)。

イブン・ワッダ(神が彼に憐れみあれ)は、人間が40歳になっても罪を悔い改めないとき、サタンは顔に手をかぶせてこう言います。 欲望や誘惑が人間の血肉に散りばめられているように、サタンも血管の血とともに循環し、心を四方八方から取り囲んでいます。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ان الشيطان يجري من بني آدم مجرى الدم فضيقوا مجاريه بالجوع

「サタンは人間の体内で血を流しています。したがって、空腹を伴う彼の通路を絞り込む(つまり、断食と、贅沢で過剰な食べ物や飲み物に関連する欲望に耽溺しないことを通して)」と述べています。

[サタンの]通路を絞り込むようにというアドバイスは、飢えが欲望に終止符を打つことになり、サタンが欲望を通して体に入り、血中を循環し始め、特に欲望の中心は心臓だけであるため、特に心臓の周りを四方八方から循環し始めるからです。 サタンが四方八方から攻撃しているという証拠は、高貴な神がサタンの舌を通して語ったこの聖句にあります。

لَأَقْعُدَنَّ لَهُمْ صِرَٰطَكَ ٱلْمُسْتَقِيمَ ﴿١٦﴾

ثُمَّ لَءَاتِيَنَّهُم مِّنۢ بَيْنِ أَيْدِيهِمْ وَمِنْ خَلْفِهِمْ وَعَنْ أَيْمَٰنِهِمْ وَعَن شَمَآئِلِهِمْ ۖ

「私はあなた(おお神よ)によって誓います。私は彼ら(人間)のためにあなたのまっすぐな道(正しい導き)に座り、それから彼らの正面から、また彼らの背中から、彼らの右側から、そして彼らの左側からも彼らを攻撃します。」 (クルアーン、第7章、16-17節)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の言葉によれば、[悪魔の]ほのめかしは、彼の説得を通して心に生じる[人間が直面するさまざまな事柄に関連する]不安です。 預言的なナレーション(ハディース)で言及されているように、すべての人間には悪魔がいると述べられているように、これらの不安を免れる人は誰もいません。[人間とサタンとの付き合い方に]違いがあるとすれば、それはサタンに敵対する人もいれば、サタンに従属する人もいる程度にすぎない。

サタンとは何でしょうか? ここで、サタンの性質について、「サタンは微妙な体を持っているのか、それとも体がまったくないのか」、「もしサタンが体であるなら、彼はどのようにして人間の体に入り、(血流を通して)静脈を循環するのか?」などの疑問を提起する人もいます。 サタンの本性と現実は、外的な知識とは関係ありません。 そのような質問を提起する人の類似性は、ヘビが体に侵入し、ヘビを取り除くことを心配する代わりに、その形、色、長さ、幅についての話にふける人です。 これは純粋な無知

です。 サタンはあなたの敵であり、彼の敵意は開いた本のように明らかです。 あなたは勇敢な闘争を繰り広げ、彼と戦うのに忙しいはずです。 彼はあなたの体、心、血管の中に隠れていました。 彼を外に出すことを心配すべきだ。 崇高な神は、彼の書物(クルアーン)の中で何度も[人間に対する]敵意について言及しています。 彼は言った:

إِنَّ ٱلشَّيْطَٰنَ لَكُمْ عَدُوٌّ فَٱتَّخِذُوهُ عَدُوًّا ۚ إِنَّمَا يَدْعُوا۟ حِزْبَهُۥ لِيَكُونُوا۟ مِنْ أَصْحَٰبِ ٱلسَّعِيرِ

「まことに、サタンはあなたの敵ですから、彼をあなたの敵として受け止めなさい。 彼は自分のグループを[悪と悪に]呼びかけて、人々が地獄の住人になるようにします[それが、可能な限り多くの人間を地獄に連れて行くという彼の唯一の使命です]。」 (クルアーン、第35章、6節)

أَلَمْ أَعْهَدْ إِلَيْكُمْ يَٰبَنِىٓ ءَادَمَ أَن لَّا تَعْبُدُوا۟ ٱلشَّيْطَٰنَ ۖ إِنَّهُۥ لَكُمْ عَدُوٌّ مُّبِينٌ

「おお、アダムの子らよ!(つまり、時間の始まりから終わりまでの全人類)私はあなた方に、サタンを崇拝しないように忠告したのではないでしょうか(卑劣で、邪悪で、否定的で、あなたの個人的および集団の幸福に害を及ぼすすべてのことについてのサタンの指示、邪悪な促し、ほのめかしに従うことによって)? まことに、彼はあなたの公然と公言した敵です。」 (クルアーン、36章、60節)

人間はこの敵から身を守るべきであり、この敵がどこから来たのか、血統や肌の色は何なのかを尋ねるべきではありません。 もし尋ねる必要があるなら、この敵はどのように攻撃し、どのような種類の武器を持っているのか、そして敵(全人類)を征服するためにどのような戦略をとっているのかを尋ねるべきです。 これは、敵(サタン)の武器は低次の自己からの基本的な欲望であり、まさにこれらの欲望を通して彼に注入された力を通して、彼は肉体の王国と統治の奥深くに入ると以前に説明されました。 ほのめかしと邪悪な促しの戦略を通して、彼は信仰の弱い人々を打ち負かします。 サタンの攻撃をかわすための戦略も説明されており、サタンの精神と野望を挫折させ、戦場から脱出を強要する武器についても言及されています。 庶民は庶民であり、学者(スコラ神学者)でさえそれ以上のことを知ることは許されません。 サタンの存在と性質の現実を認識することは、グノーシス主義者(*「アーリフィーン」*または聖人であり神の知識者)のものです。 これらの人々は、難解な知識(*「イルム・アル・ムカシャファ」*または精神的な啓示の知識)に夢中になっています。

心の中で起こる*通過する思考(カワティル)*の種類:それらは3つのタイプがあります:第一に、良いものを招待し、呼びかける思考。 そのような考えは、ためらうことなく、*イルハム*または神のインスピレーションと呼ぶことができます。 第二に、悪[または否定的で憂鬱で有害なもの]に誘う過ぎ去る思考です。 そのような考えは、間違いなく悪魔のほのめかしと説得(*ワスワサ*)と呼ぶことができます。 第三に、神の霊感とサタンのほ

のめかしの間にあるもので、サタンの欺瞞の一形態は悪を善として提示することであるため、天使からのものなのかサタンからのものなのかは確実に言えません。 この2つを区別するのは非常に困難です。 ほとんどの人はこの欺瞞の餌食になり、それによって破壊されます。 たとえば、サタンは学者(スコラ神学者)にアドバイスの仕方でこう言います。無知が彼らを絶滅に追いやり、無頓着が彼らを破滅に近づけています。 彼らは地獄の端に近づき、神の怒りが彼らを包み込もうとしています。 あなたはこれらの神のしもべたちを憐れみ、貴重なアドバイスと学術的な説教を通して彼らを滅びから救おうと思いませんか? 神はあなたに、明確な洞察力、深い理解、そして他人の苦しみを感じる心などの[偉大な]資質を与えてくださいました。 あなたのスピーチは魅力的であり、あなたの[説教の]表現スタイルは人気があり、あなたの言葉には信仰の光があります。 なぜあなたは神のこれらの[計り知れない]祝福に恩知らずなのでしょうか? あなたが恩知らずのせいで[神から]罰せられ、最終的に神の不快感を買い、おそらく知識を広め、人々を神に招く能力が罰としてあなたから奪われることが起こらないように。」 サタンは、このようなアドバイスや他の同様のアドバイスを何度も絶えず忠告するので、学者の心はそれらに影響されずに放置されることはありません。 このポニットで、サタンは、アドバイスをし、人々を神僧化する人が容姿端麗で、身なりが良く、よく話すまで、心に影響を与えるものは何もないと告げて、人を欺きます。 人はこの[悪魔的な]欺瞞に陥り、そこから誇示、傲慢、独善、名声と権力への欲求が生まれ、この人以外の誰もが卑劣で劣っているように見える立場に徐々に連れて行かれます。 サタンが善を装ってこれほど多くの悪の源を作り出し、これらの助言はすべて、学者が密かに人を破滅に引きずり込んでいる間、学者への誠実さに基づいているように見えるかを考えてみてください。 この哀れな[無知な]学者や説教者は、心は[大衆の間で]名声と人気のための闘いに忙しいにもかかわらず、言葉で知恵の真珠を広めており、自分の目的は良いと考えています。 人は自分の努力が実を結び、来世で何らかの地位を得るだろうと考えています。

伝承によると、呪われたサタンは人間の姿でイエス(神の祝福と平安あれ)のところに来て、「*ラ・イラハ・イル・アッラー*」または「神以外に神はいない」と言うように頼みました。 イエス(神の祝福と平安あれ)は答えました:「この[神についての証しの]言葉は真実ですが、あなたが私に言わせたからといって、私はそれを言うつもりはありません。」 イエスが拒否した理由は、良いことさえ行おうとするサタンの説得には落とし穴や罠がないわけではなく、善によるサタンの罠は計り知れないものであるということと同じです。 彼らを通して、あらゆる状況下で公然とした悪を好まず、さらに罪を犯すことに同意しないすべての学者(スコラ神学者や説教者)、崇拝者、世俗的な禁欲者、霊的旅行者、寛大な人々が破壊されます。 サタンの欺瞞のいくつかの例は、傲慢さと自己うぬぼれについての本の第3巻[ガザリの*最高傑作*「*Ihya al-Uloom ad-Deen*」または「神への道の知識の復活」]で紹介されますが、神が私に命を与えてくださるなら、私は同じテーマについて「Talbees Iblis」というタイトルの本を書く予定です」(悪魔の説得と罠)。 あらゆる場所、国、国において、すべての人が悪魔の説得と罠の犠牲者です

。 特に、彼(サタン)は、[宗教的]信念や神学の思想学派(マダヒブ)について人々を罠にかけることで、あらゆる限界を超えています。 今や善と義は儀式的な問題にすぎません。 人間は、自分のあらゆる思考と意図を立ち止まり、(行動を起こす前に)すべての良い面と悪い面を調べ、その考えと意図が悪魔のほのめかしなのか、それとも神の霊感なのかを判断し、できるだけ立ち止まって熟考と評価の能力(精神的および知的能力)をすべて使用する必要があります。 神が言われたように、洞察と畏敬の念、畏敬の念と畏れの深さ(*タクワ*)は、次のように述べています。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ إِذَا مَسَّهُمْ طَٰٓئِفٌ مِّنَ ٱلشَّيْطَٰنِ تَذَكَّرُوا۟ فَإِذَا هُم مُّبْصِرُونَ

「サタンから考え[またはほのめかし]が起こるたびに、[神の正しいしもべ]は神の思い出に従事し、それに驚いて[実際に自分に何が起こっているのか]目を開きます。」 (クルアーン、第7章、201節)

言い換えれば、このような状況下で、彼ら(義人は)自分の心を探り、内なる光が彼らを無知の闇から連れ出します。 「*カシュフ*」(覚醒状態での精神的な明らか)と洞察(*バセラ*)により、すべての複雑さと秘密が解きほぐされます。 神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧心(*タクワ*)を欠いた人は、低次の自己からの欲望に圧迫され、サタンの欺瞞を善(*カイル*)と見なし、無意識のうちに破滅の道を歩み始めます。 クルアーンはそのような人々について次のように述べています。

وَبَدَا لَهُم مِّنَ ٱللَّهِ مَا لَمْ يَكُونُوا۟ يَحْتَسِبُونَ

「彼らは、想像を超える神からの事柄に出くわすでしょう。」 (クルアーン、39章、47節)

サタンの欺瞞についての知識を習得することは、すべての個人に個人的に義務付けられています: 外部の問題に関する知識(エキゾテリックな知識または「*イルム・ムアムラ*」)において、重要なことは、低次の自己(*ナフス*)の欺瞞とサタンの狡猾さを認識し、知らされることです これはすべての個人に義務付けられていますが、人々はこの義務を果たすことに注意を払わず、怠慢であり、さらに進むような知識を習得するのに忙しいですサタンに[人々に対する]首を絞め続ける機会を提供するほのめかしや促し(サタンからの*ワスワス*)を扇動する。 彼らは、そのような知識の習得に関与することで、彼の敵意と彼から身を守る方法を忘れています。 大量のほのめかしや促しを取り除く唯一の方法は、そのような考えの扉を閉ざすことです。 そのような思考や知覚された危険の扉(または「*カワティル*」と呼ばれるものは、人間が内なる警戒と防御を下ろし、それらを怠ったときに心に押し付けられるため、そのように呼ばれます)は、外向きの五感と内面の欲望と世俗的なもつれです。 小さな家で孤独を過ごすことは、五感の通路を遮断します。 親戚や富から距離を置くと、欲望や世俗への愛が減ります。 この状況

では、[内側と外側の扉がすべて閉ざされたとき]、思考の扉だけが開いたままになりますが、神の記憶の守りで守ることができます。 時々、これらの考えは警備員を通り過ぎて心に忍び込むことができます。 そうなると、この「泥棒」との激しい闘いが必要だ。 この[激しい内なる霊的]闘争は決して終わることはなく、代わりに人生の最後の息まで続きます。 なぜなら、生きている人は、常に待ち伏せした状態で[熱心に]見守り、機会が来るとすぐに攻撃するサタンから決して免れることができないからです。 この敵(サタン)に対して常に警戒することが不可欠です。 時には、霊的な闘争を通じてこの敵を征服し、打撃を与えることもありますが、この敗北は永久的なものではなく、一時的なものにすぎません。 サタンは機会を得るとすぐに再び攻撃します。 血が静脈を循環している限り、サタンとの闘いを続けることが不可欠です。 心の「聖域都市」の扉は、生涯を通じてサタンのために常に開かれており、決して閉まることはありません。 これらは、欲望、怒り、嫉妬、貪欲、貪欲の扉であり、すぐに説明されます。 都市の入り口が開いていて、敵が警戒しているとき、都市は[霊的な]闘争と警戒によってのみ守ることができます。 ある人はハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれますように)に尋ねました。サタンは眠るのか?」 彼は答えた:「もし彼が眠ったら、私たちは少しの平和と安らぎの瞬間を過ごすのではないでしょうか?」 信じるしもべはサタンから逃れることはできませんが、サタンを打ち負かすことはでき、サタンの力を弱めることでサタンから身を守ることができます。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ان المؤمن ينضى شيطانه كما ينضى احدكم بعيره فى سفره

「信じるしもべは、あなたがラクダと一緒に旅をするとき、サタンをやせ衰え、弱くします」。 (このナレーションは、*ハディース集ムスナド・アフマド*によって、預言者の仲間アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて報告されています)。

アブドゥッラー・ビン・マスード(神が彼を喜ばれますように)は、信者のサタンは弱いと言いました。 カイス・ビン・アル・ハッジャジ(偉大なグノーシス主義者)は、「私のサタンは、私があなたの中に入ったとき、私はラクダのようだったが、今では鳥のようだと言いました」と言いました。 私はその理由を彼に尋ねました。 彼は「あなたは神の記憶によって私の体を溶かし続けています」と答えました。 とにかく、神(タクワ)に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧の人々にとって、サタンの扉を閉め、注意深く見守ること、言い換えれば、外の扉を閉め、罪と悪に誘う明確な道を緩和することは難しくありません。 しかし、彼らもまた、サタンの複雑な方法に騙され、サタンから身を守ることができません、サタンが密かに彼らを誘い、悪への善行の扉から導くという学者(スコラ神学者)や説教者について前述で説明しました。

挑戦の巨大さは、サタンが心に入るための扉はたくさんあるのに対し、天使が入る扉は一つしかないということです。 この超越的な天使の扉は、サタンの無数の扉の前では疑わしいものになります。 これらの扉(心への入り口)に関して、人間は暗い夜のジャン

グルを旅する旅人のようなもので、無数の困難で困難な道が現れる特定の場所に立ち止まり、どの道を選べばよいのか困惑し、目的地に到達するのを助けます。 無数の不明瞭な道の中から正しい道を選択するには、2 つの方法で行うことができます。第二に太陽の光で。 この問題において、敬虔な畏敬の念、神への畏敬の念と畏怖、知性と洞察力、[神の]書と預言の道(*スンナ*)の知識を持つ心は、太陽の光に相当します。 太陽の光が目的地への正しい道を見つけるのを容易にするのと同じように、同様に、[神の]書と預言の道(*スンナ*)の知識の光は人を目的地に導きますが、そうでなければ、サタンの道は無数であり、それらから身を守ることは非常に困難です。 アブドゥッラー・イブン・マスード(神が彼に喜ばれあれ)は、かつて預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が[棒で地面に]線を引き、「これが神の道です」と言ったと語っています。 その後、彼はその[最初の]線の左右にさまざまな線を引き、「これらも道ですが、それぞれの道には悪魔がいて、人々にその道を歩むように誘います」と言いました。 その後、彼は次の聖句を暗唱しました。

وَأَنَّ هَٰذَا صِرَٰطِى مُسْتَقِيمًا فَٱتَّبِعُوهُ ۖ وَلَا تَتَّبِعُوا۟ ٱلسُّبُلَ

「そして、これはまっすぐで確固たる私の道です[神にまっすぐ導くので、何の欠陥もありません]。 ですから、この道を歩み、他の道を歩まないでください。」 (クルアーン、第6章、153節)

彼(神の祝福と平安あれ)は、さまざまな線をまっすぐな道の周りに引かれた道と呼びました(*シラト・アル・ムスタキーム*)。 この預言的な物語から、サタンの道の豊富さを知ることができます。 これらの道の中から、サタンが学者(スコラ神学者)、敬虔な人々、低次の自己からの欲望をコントロールした人々、そして罪の生活を控える人々を、それを通して欺くことによって招き入れる道があります。 さて、これらの[欺瞞の]道の中から、人間が無意識のうちに、そして気づかないうちに歩み始める道が言及されます。 この事件は予言的なナレーション(*ハディース*)で言及されています。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、イスラエルの子供たちの修道士(世俗的な欲望をすべて否定しながら孤独な状態で神の崇拝を行う人)について言及し、その都市でサタンが少女の首を絞め殺し、彼女の治療はその修道士にあるという考えを家族の心に植え付けました。 彼らは彼女を僧侶のところに連れて行きましたが、僧侶はきっぱりと拒否しましたが、僧侶が彼女を治さざるを得なくなるまで粘り強く主張しました。 その後、サタンは僧侶の心に淫行の考えをほのめかし始め、淫行するまで淫乱を扇動し、彼女は妊娠しました。 その後、サタンは評判の悪さと恥辱への恐怖を植え付け、修道士の心に彼女の殺害をほのめかして[彼の犯罪の]秘密を隠し、その後、どういうわけか彼女の家族に彼女の自然死を保証することができました。 これはまさに彼がしたことです。 その後、サタンは僧侶に対する行動を続け、僧侶が恥辱を恐れて彼女を妊娠させた後、彼女を殺したと少女の家族の心に植え付けました。 彼らは僧侶のところに来て、彼女について尋ねました。 モンクは、サタンが少女が病気で亡くなったと心に植え付けたのと同じ答

えをしましたが、彼らは彼を信じず、彼を逮捕したいと考えていました。 その後、サタンは僧侶に、起こったことはすべて彼自身の計画によるものであり、彼が彼女を絞め殺した人であり、彼女の両親を説得して彼女を彼(僧侶)のところに送った人であり、彼(僧侶)を扇動して淫行して彼女を殺した人であり、今、彼(僧侶)が彼に敬意を払うことによってその状況から抜け出すのを助けることができる人です。 モンクは彼に、どうすれば彼(サタン)に従うことができるか尋ねました。 サタンは彼に、彼の前に二度ひれ伏すことで状況から抜け出すことができると言いました。 その後、モンクはサタンの前にひれ伏しました。 サタンは「私があなたのためにできることは何もありません。私はあなたについて何を知っていますか?」 神はそのような人々について次のように言われました。

كَمَثَلِ ٱلشَّيْطَٰنِ إِذْ قَالَ لِلْإِنسَٰنِ ٱكْفُرْ فَلَمَّا كَفَرَ قَالَ إِنِّى بَرِىٓءٌ مِّنكَ

「サタンの類似性は、サタンが最初に人間に[神を]信じないように言うことです。 そして、人が不信者になると、サタンは『私はその人(人間)とは何の関係もない』と言います。」 (クルアーン、第59章、16節)

サタンがいかにして僧侶に欺瞞を強要し、彼の命令に従うことで莫大な罪(*カバイル*)を犯させたかを考えてみましょう。 もし彼が[サタンの]癒しのアドバイス[と説得]に従って行動しなかったら、彼は淫行をして殺人を犯すことはなかったでしょう。 表向きは、治療へのアドバイスは良いものであり、その中に悪が埋め込まれるとは誰も想像できませんでした。 それにもかかわらず、サタンの戦略は、善と高貴な努力の道を通して悪を見つけることであり、一度悪の道に乗せると、すべての救いの道が閉ざされるまで、悪から悪へと引きずり込み、人間はそうする気もないまま悪の道を歩み続けることを余儀なくされます。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、次の言葉で同じことを意味しています。

من حام حول الحمى يوشك ان يقع فيه

「放牧地(牧草地)の周りを回る人は、(うっかり)そこに入ってしまう危険があります[したがって、悪に近づかないようにして、そこに落ちる可能性を避ける必要があります]。」 (このナレーションは、*ハディース集のサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*によって、予言者の仲間であるナウマーン・ビン・バシール[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて報告されています)。

サタンの心への入り口

心は要塞のようなもので、サタンはそれに入り込み、それを占領し、自分の所有物にしようとする敵のようなものです。 敵から要塞を守る方法はただ一つ、要塞への進入を可能にする入り口と通路を守ることだ。 これらの入り口にさえ気づいていない人が、どうしてそれを守り、敵がそこから入るのを防ぐことができるでしょうか? したがって、このことから、サタンから心を守ることは必須であり、むしろそれはすべての正気で成人の人に個人的に義務付けられており(*Fard 'Ayn*)、個人的に義務的である手段であるものはすべて義務的であることがわかります。 これは、サタンが自分の入り道を知らずに[心に]入るのを防ぐことができないからです。 そのため、これらの道を知ることも必要です。 これらの入り口や経路は、外部の感覚では知覚できるのではなく、むしろ個人の内面の性格特性や資質です。 サタンはまさにこれらの特徴を[心に]入る手段として使います。 これらの特徴は数が多いため、サタンの軍隊の大規模な集まりがある場所では、いくつかの入り口のみが次のように言及されます。

怒りと欲望: 知性は、心の 2 つの大きな入り口、つまり怒りと欲望を通じて消散します。サタンの軍隊は、知性の軍隊が弱まると[心]を攻撃します。 人間が怒りの餌食になると、サタンは子供がボールで遊ぶように、人間をもてあそびます。 伝承によると、サタンは預言者モーセ(ムーサ[神の祝福と平安あれ]としても知られる)に会い、こう言いました。神はあなたを預言者の地位に任命し、神と話す名誉を与えてくださいました。私も神の創造物です。 私は[神がサタンにアダム(彼に平安あれ)の前にひれ伏すように命じたとき、神に不従順な罪を犯し、悔い改めたいと思っています。 どうか私に代わって神にとりなし、私の悔い改めを受け入れてください。」 モーセ(彼に平安あれ)は彼(サタン)のためにとりなしをすると約束しました。 その後、モーセはシナイ山に行き、神に語りかけました。 その後、彼が[山から]降りたとき、神は彼にこう言われました。信頼を返してください!」 モーセ(彼に平安あれ)は言いました。 あなたのしもべイブリス(サタン)は、自分が犯した罪を後悔し、悔い改めています。 彼の悔い改めを受け入れてください」。 神の啓示がモーセに来ました(彼に神の平安あれ)。 あなたの嘆願は受け入れられました! イブリス(サタン)に、アダム(彼に平安あれ)の墓の前にひれ伏し、後悔の意を表明するように伝えてください。 モーセ(神の平安あれ)は、この神の戒めをサタンに伝えました。 サタンは怒りに燃え上がり、まったくの傲慢さでこう言いました:「アダムが生きていたとき、私はアダムの前にひれ伏したのではなく、彼が死んだとき、私は今、彼の前にひれ伏すでしょうか? しかし、私に代わって神にとりなしをしてくださったことに感謝し、その[好意]のおかげで、あなたは今、私に対して権利を持っています。 その権利を果たすために、あなたが私を三回思い出すなら、私はあなたを傷つけることはできないとあなたに言います:第一に、私の魂はあなたの魂の中にあり、私の目はあなたの目の中にあるので、怒りのとき。 私は体のあらゆる静脈を血液のように循環しているので、怒りのときは必ず私に注意を払ってください。 人間が怒りを抱くと、私は鼻に息をかき、その人は自分が何をしているのかに気づかなくなります。第二に、戦争の時に、人間が戦線で敵と戦いたいとき、私は自分の家、妻、子供たちを思い出させ、戦争で戦うという考えを捨てさせ、戦争から逃げさせるからです。 第三

に、マフレム以外の女性(母親、義母、祖母、娘、孫娘、姉妹、姪、叔母といった禁止されている関係の出身ではないため、彼と結婚できる可能性のある女性)と決して二人きりに座らないでください。 私は男性と女性の心の間のメッセンジャーとなり、お互いの心の中でお互いについてほのめかします。 二人とも罪の艱難に巻き込まれるまで、私はそれを続けます(*フィトナ*)」。

貪欲と嫉妬: サタンは、怒り、欲望、貪欲という 3 つの場面を通じて、3 つの内なる性質を指摘しました。 これは、戦争からの逃れが世俗的な所有物や富への貪欲によるものであり、亡くなったアダム(彼に神の平安あれ)にひれ伏さないのは嫉妬によるものであり、それはサタンにとって[心への]大きな入り口でもあるからです。 ある聖人(グノーシス派)は、サタンに人間に対する支配を見せてほしいと頼みました。 彼は言った:「私は人間を怒りと欲望の状態に閉じ込め、彼らを完全にコントロールします」。 サタンが修道士の前に現れ、「アダムの子(人間)のどの資質があなたにとってより役に立ちますか?」と尋ねました。 彼はこう答えた:「怒りの強さ。 したがって、人間が怒りの激しさで動揺するとき、私は子供が足でボールを蹴るように、向きを変えて蹴り回します。」 これはサタンの言葉でもあります:「アダムの子(人間)は、人が幸せなとき、私は心の中にとどまり、怒っているときは頭の中に飛び込むので、どうして私をコントロールできるでしょうか」。 貪欲や貪欲も、人を盲目で耳が聞こえなくなるため、サタンの大きな入り口です。 その後、人は良いアドバイスに耳を傾けることができず、善の道を見ることもできません。 預言的なナレーションはこう言います。

حبك الشئ يعمي ويصم

「何かへの愛はあなたを盲目で耳が聞こえません。」 (このナレーションは *ハディース* 徴収 *アブ・ダウド* 預言者の仲間であるアブ・アル・ダルダ[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいて)。

洞察の光を通してのみ、人間はサタンの入り口に気付くことができます。 貪欲と貪欲の闇が洞察の光を征服するとき、サタンはその機会を最大限に利用し、人にとって有害で致命的なすべてのものに対する欲望と貪欲を人の心に置きます。 伝承によると、大洪水が来たとき、預言者ノア(ヌー[神の平安あれ]としても知られる)は、彼の国のすべての信仰を持つ人々とすべての動物のペアと一緒に彼の船に乗り込みました。 彼は船に座っている見知らぬ老人を見ました。 彼は彼に自分が誰なのか尋ねた。 彼は言った:「私はあなたの仲間の心を奪いに来ました。 彼らの体はあなたとともにありますが、彼らの心は私とともにあります。」 預言者ノア(神の平安あれ)はこう言いました。 ここを出ましょう！ ここにはあなたの居場所はありません」。 彼は答えた、「私が人々を滅ぼすには5つのことがあります。 私はあなたに3つを教えますが、2つは言いません」。 [預言者ノア(彼に神の平安あれ)]神の啓示が来ました。 彼があなたに言いたい3つのことは、あなたには必要ありません。 彼があなたに何を隠しているのかを彼から見

つけてください。」 預言者ノア(神の平安あれ)は彼にこの2つのことについて尋ねました。 彼はこう答えた:「貪欲と嫉妬。 この二つは決して私を欺くことはなく、決して人々を滅ぼすことに失敗しません。 私が呪われ(神の慈悲から取り除かれて)「呪われたサタン」の称号を与えられたのは嫉妬であり、それは貪欲であり、アダムは一本の木を除いて楽園のすべてが彼に許され、私はその欲望を彼の心に置き、彼をそこから救ったのです。」

満腹感: たとえそれが許容され(ハラール)純粋 *であっても、満腹まで食べることは*、欲望に活力を与え、若返らせる効果があり、欲望はサタンの武器であるため、サタンにとって[心への]大きな入り口となります。 伝承によると、サタンは預言者ザカリヤの息子である預言者ヨハネ(ザカリヤ[神の祝福と平安あれ]の息子ヤヒヤとしても知られる)の前に現れ、罠(ロープでできた)罠を持っていました。 預言者ヨハネ(神の祝福と平安あれ)は彼に尋ねました。 彼は答えた:「これらは欲望と放蕩の罠です。 私はこれらでアダムの子供たち(人間)を捕らえます。」 彼は「私にも何か罠はありますか?」と尋ねました。 彼はこう答えた。 あなたがお腹いっぱい食べるとき、私はあなたに[神への]祈りを困難にします。」 彼は「他に何か何かありますか?」と尋ねました。 彼は「それ以外に何もない」と答えた。 彼は「神に誓います。今日以降はお腹いっぱい食べません」と言いました。 サタンはこう答えました:「私はまた、[あなたのような]*イスラム教徒*(つまり、神を完全に服従し、神の意志に身を委ねた状態で神を信じ、神に仕える人)には、決して有益なことを言わないことを誓います」。 お腹いっぱい食べることには6つの害があると言われています。第一に、神への恐れは心に残らない。第二に、他人を自分自身として考え(自分のように満腹感)し、飢えの苦しみを感じないため、仲間の人間や神の創造物に同情を感じません。第三に、礼拝は重荷であると感じます。第四に、知恵の言葉を聞いても、その人の心は謙虚さに溶けず、耳を傾け、受け入れることができるようになります。第五に、人が知恵やアドバイスのことを言うとき、それは他の人には何の影響も与えません。第六に、さまざまな[肉体的および霊的]病気がそこから生まれます。

華やかさとキラキラ:華やかさ、キラキラ、目立った消費、富の誇示、魅力を見つけることもサタンの入り口です。 このディスプレイ、華やかさ、きらめきは、服装、物質的な所有物、住居で起こります。 サタンは、人間の心の中に華やかさと輝きを見せたいという願望を見ると、それをさらに煽り、大きな建物の夢を見せ、家の周りの壁は高く、家はまばゆいばかりでよく装飾され、衣服は美しく、乗り物や交通手段は高価で装飾されているべきだと説得します。 そのような欲望が心に完全に根付くとき、サタンは、これらの欲望が心から離れることはなく、ある欲望が別の欲望を生み出し、あるものを手に入れると、死が来て、この世を離れるためにすべてを捨てなければならないまで、別のものを手に入れるという心配につながることを知っています。 サタンの低次の自己からの欲望のやり方も、信仰にとって危険です。 時々、欲望の炎は崇拝者に不

信仰の道を歩ませる(*「クフル」*または神への拒絶)。 神が私たちを低次の自己の欲望から守ってくださいますように!

人々からの貪欲と期待: 他人からの貪欲と期待も、サタンにとって[心への]重要な入り口です。 貪欲[と他人からの期待]が心を支配するとき、サタンは人に人を説得し、人為的で誇示し、期待と貪欲を抱く人々の前で誇示するように絶えず説得します。 期待を寄せ、自分の神となり、期待を抱く人は、たとえそれが嘘、欺瞞、誇示、説得の手段であっても、常に望む人の心の中に居場所を作ろうと努力するほどです。 この最も低いレベルは、人が期待している人を誇張して賛美し、人を怒らせないという理由で、人を善に勧め、悪から止める働きをすることを躊躇することです。 ある時、サタンはアブドゥッラー・イブン・ハンザラ(神が彼を喜ばれますように)の前に現れて言いました。私はあなたにアドバイスするつもりですので、それを覚えておいてください。」 アブドゥッラー・イブン・ハンザラは、「あなたからのアドバイスは必要ない」と言いました。 サタンは言った、「まず聞きなさい。良いことなら受け入れ、悪いことなら拒否しなさい。 おおハンザラの息子よ! 神以外には、貪欲と貪欲が埋め込まれた質問を誰にもしないでください。 また、しもべが自分自身をコントロールできなくなったとき、私はその人をコントロールすることができるので、怒りの中で自分をコントロールしてください。」

性急さと忍耐力の欠如: これら2つの資質または性格特性は、サタンの入り口でもあります。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

العجلة من الشيطان والاناة من الله

「性急なこと(または慎重に検討せずに何かを急ぐこと)はサタンからのものであり、熟考するために立ち止まるのは神からのものです。」 (このナレーションは *ハディース徴収 ティルミディ* 預言者の仲間であるサール・ビン・サード[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいて)。

神はこう言われます。

خُلِقَ ٱلْإِنسَٰنُ مِنْ عَجَلٍ

「人間は急いでいる[傾向]を持って創造されてきました。」 (クルアーン、21章、37節)

وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ عَجُولًا

「人間には急ぐ傾向があります。」 (クルアーン、17章、11節)

神は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に命じられました。

وَلَا تَعْجَلْ بِٱلْقُرْءَانِ مِن قَبْلِ أَن يُقْضَىٰٓ إِلَيْكَ وَحْيُهُۥ

「あなたにやってくる神の啓示が完了する前に、急いでクルアーンを唱えないでください。」 (クルアーン、20章、114節)

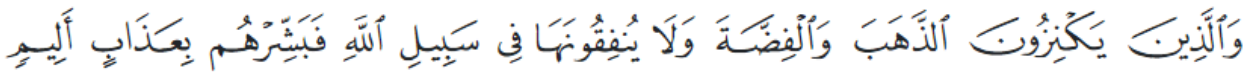
神が急いで禁止する理由は、すべて知識と研究、調査で行われなければならず、調査のためには一時停止と熟考が必要であるのに対し、急いでは一時停止と調査が許されないからです。 サタンは急いでいるとき、人間がそれに気づかないような方法でその悪を人間に押し付けます。 伝承によると、イエス(神の祝福と平安あれ)が生まれたとき、すべての悪魔(*シャヤティーン*)は指導者のイブリスのところに行き、「今日、地上のすべての偶像は倒れたように見られました」と言いました。 イブリスは「何か新しいことが起こったことは確かだ。 私は地球に見に行くつもりです」。 イブリスは地球を歩き回ったが、何も見られなかった。 ある場所で、彼は生まれたばかりの赤ん坊を取り囲む天使たちを見ました。 イブリスは[悪魔の]国に行き、彼らにこう言いました。 今日まで世界で起こったすべての妊娠は、私はそれらに気づいており、出産は私の存在下で起こりました。 しかし、不思議なことに、私はこの女性の妊娠について知らず、出産についても知りませんでした。 今、アイドル崇拝に絶望してください。 しかし、神のしもべ(人間)が急いでいる瞬間にほのめかしなさい[そうすれば、あなたは彼らを乗り越えるでしょう]」。

富と物質的な所有物:*ディルハム*と*ディナール*(金と銀の通貨)、物質的な所有物、財産、所有する土地はすべて、サタンにとって[人間の心への]大きな入り口です。 必要以上の物質的な所有物を所有する人の心は、サタンの住まいであり、必要な物質だけを所有する人は自由な心を持っています。 人が100ディナールを手に入れると、さまざまな欲望が心に生まれます。 その中でも最大のものは、さらに100個を獲得することであり、それは終わりのないサイクルです。 人が何も持っていないとき、欲望も貪欲も必要性もありませんでした。 100ディナールを手に入れると、さらに900ディナールが困窮しても、自分は金持ちだと考えるようになりました。100ディナールを手に入れると、あと900ディナールがあれば家を買っていただろうと考えました。 家の後、家庭用品の表面を手に入れる必要性に続いて、着替えや快適な生活の問題が続き、このニーズの連鎖は拡大し続けています。 存在するものに対しては、存在しないものが不可欠になります。 心配が終わる前に、別の心配が始まり、この欲求の連鎖は地獄で終わります。 タビット・アル・バナニ(神が彼に憐れんでくださいますように - 有名なグノーシス主義者であり聖人)は言いました:「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が[40歳で]預言者として与えられたとき、イブリス(悪魔の指導者)は彼のグループにこう言いました。『今日、新しい出来事が起こりました。 行って何が起こったのか見てみましょう」。 すべての悪魔が地球に広がりましたが、何も見つからず、失敗して帰ってきました。 イブリスは彼らにこう言いました。 行って見てみます』と言いました。 彼は戻って弟子たちにこう言いました:「神はムハンマドに預言者としての地位を与えました。さあ、

彼の友人や仲間を追いかけて[神の導きから彼らを思いとどまらせてください]」。 悪魔は地球に向き直り、失敗して戻ってきて言いました。 私たちが彼らに間違いを犯させると、彼らは祈りのために立ち上がり、それが彼らの過ちに対する[神の]許しをもたらします。」 イブリスは「待って、辛抱強く待ってください。 すぐに彼らは世界を支配するでしょう、そうすれば私たちは確実に私たちの考案に成功するでしょう」。

かつてイエス(神の祝福と平安あれ)が岩の上に頭を乗せて[地面に]横たわっていたという伝承があります[それを枕として使用して、彼の貧困と謙虚さを示しています]。 サタンは通り過ぎて冗談を言いました:「おおイエスよ!あなたは世界に傾倒しすぎていますか?」 イエスは頭の下から岩を拾い上げてサタンに投げつけ、「この石とこの世の他のすべてのものは、あなただけのためです」と言いました。 このことから導き出される結論は、石でさえこの世からの物質的な所有物であり、サタンは石を使って[人類を間違った道に導く]働きをすることができるということです。 たとえば、ある人は早朝に起きて*タハジュド*の祈り(非常に功徳があり、霊的な進歩に役立つ夜明け前の祈りで、日没から夜明けまでの夜が3つの部分に分かれる夜の3番目の部分に行われます)そして、祈りのひれ伏した場所の近くで石を見つけます。 このような状況では、サタンは必ず、石の上に頭を乗せて少し横たわろうという考えを心に抱かせるでしょう。 この横になることは睡眠の前兆となり、その結果、*タハジュド*の祈りを祈ることができなくなります。 もし石がそこになかったら、枕を持つことを考えなかったでしょうし、横になって眠りにつく必要もなかったでしょうし、*タハジュド*の祈りを奪われる必要もなかったでしょう。 [前述の通り、]この一つの石でさえも多くの被害を受けており、絹で作られた快適なベッドと枕を持ち、家に快適さを求めるすべての品物を持っている人々の状態を一瞥しました。 そのような人は、神の礼拝の味を楽しむことさえできるでしょうか? 心の中には常に快適さへの欲求が存在します。

貧困とけちさへの恐怖: これら2つの卑劣で否定的な性質は、サタンが[人間の心に入る]2つの大きな入り口でもあります。 けちさと貧困への恐怖は、神の道に費やすことを妨げ、自分の所有物を買いだめして保持するように説得する、そのような否定的な破壊的な[内面]特性の2つです。 クルアーンは、そのような人々に痛みを伴う結果を予言しています。



「金と銀を買いだめし、それらを神の道に(人類社会の経済的幸福を促進する慈善活動や人類のための有益な取り組みに)使わない人々は、彼らに痛みを伴う刑罰の知らせを与えます。」 (クルアーン、9章、34節)

カイタマ・ビン・アブドゥル・ラーマン(神が彼を喜ばれますように - 偉大な預言者の仲間)は、サタンは次のように主張していると述べました。 第一に、誰かの財産を不当に奪うこと。第二に、適切な機会や必要性のない支出。第三に、支出する必要がある場

所に支出しないことです。」 スフヤン・アル・タウリ(偉大な聖人でありグノーシス主義者である神が彼を憐れんでくださいますように)は、「サタンには貧困への恐怖よりも効果的な戦術はありません。 人が貧困を恐れ始めると、虚偽や間違ったことへの傾向が生まれます。 人は真実を離れ、低次の自己からの欲望を好み、自分の主に対する意見が低いという罪を犯します。 けちは貪欲を生み、貪欲は人間の足の鎖となり、市場や商品を稼ぐ場所から出ることができません。 これらの市場はサタンの巣であり、休憩所であり[人は物質主義的になり、霊的な考慮事項やそこでの高貴で無私の事業に気づかない傾向があるからです]」。 アブ・ウママ(神が彼を喜ばれますように - 予言者の仲間)は言いました:「イブリス(悪魔の指導者)がこの世に来たとき、彼は神に懇願しました。『おお神よ!あなたは私をあなたの憐れみから遠ざけ、この地上に投げ出されました。 ここに私のために家を作ってください』と言いました。 神は「バスルームはあなたの家です」と言われました。 彼は「私に仲間がいる場所を指定してください」と頼みました。 神は「市場と通りはあなたの仲間の場所である」と言われました。 彼は「私のために食べ物と栄養を指定してください」と尋ねました。 神は答えました、「その食べ物は、私の名が[それを食べる人々によって]取られていないあなたの糧です」。 彼は言った:「食べ物は任命されました。水も飲んでもいいですか?」 神は「酩酊剤と麻薬はあなたの飲み物です」と答えました。 彼は「招待者を許可してください」と尋ねた。 神は「楽器からこの目的を達成しなさい」と命じられました。 彼は「読み書きについてあなたのコマンドは何ですか」と尋ねました。 神は「[善を招かない]詩を読んで、体に刺青を入れなさい」と答えました。 彼は「物語を教えてください」と尋ねた。 神は「嘘はあなたの物語です」と答えました。 彼は「狩猟用の網(罠)を私に与えてください」と頼みました。 神はこう答えました:『異性に欲情することは、あなたがネットである(つまり、不道徳で非倫理的な方法で追求された場合)』」。

宗教的偏見: ここで宗教的偏見と呼ばれているのは、異なる学派(および宗教)を持つ人々が互いに対抗する傲慢さと偏見です。 この基礎は真実ではなく、低次の自己からの欲望です。 人々は(宗教的およびイデオロギー的な違いの問題において)敵を憎み、彼らを見下します。 これは、すべての崇拝者(または宗教者)と罪人を同様に破壊するほどの悪です。 人々を批判し、欠点を見つけることは、多くの動物的な性質の中から動物的な性質に属します。 サタンがこの非難すべき特性を良いものとして提示すると、すでにそれに近い人間の気質がそれを採用し、人はそれに完全に従事し、サタンに従っているにもかかわらず、自分が宗教闘争に巻き込まれているという考えに満足を感じます。 宗教的および宗派的な違いの状態は、 [たとえば] 人はアブ・バクル(神が彼を喜ばれますように - 偉大な預言者の仲間です)への愛に偏見を取り入れたが、この愛は純粋ではなく、代わりにハラム(禁止されているもの)、嘘、敵意、辛辣な不和[混乱につながる]と混ざり合っています。 アブ・バクル(神が彼を喜ばれますように)が[今日]そのような人を見たら、彼はその人を友人ではなく敵と宣言するでしょう。 なぜなら、彼(アブ・バクルの)友人は、彼の道に従い、彼の高貴な資質と性格を採用し、無駄な話を止める人だからです。 アブ・バクルのやり方は、無駄なことを言わないように小石を口に入

れていたというものでした。 役に立たない、不必要なことを言うこの人(アブ・バクルを愛していると主張する人)に、アブ・バクルへの愛と友情を主張する権利があるのでしょうか(神が彼を喜ばれますように)? [人々の宗教に基づく紛争、争い、憎しみは、そのように解釈できます]

第二の人は、彼(アリ)の行動や高貴な性格に少しも近づいていないにもかかわらず、アリ(神が彼を喜ばれますように - 偉大な予言者の仲間です)への愛において誇張の限界をすべて超えています。アリ(神が彼を喜ばれますように)は、統治中(キラファ)の治世中に1ディルハム未満のドレスを着ていましたが、彼の愛の偽りの主張者は、禁じられた(ハラム)お金で作られる絹の服(宗教法則に従って男性には禁じられています)を着て歩き回っています。 裁きの日、アリ(神が彼を喜ばれますように)は、そのような人を友人ではなく敵と見なすでしょう。 友人の最愛の子供を家に連れて行き、殴り、髪の毛を引っ張り、体を傷つけながらも、それでも子供の親にとって誠実な友人であり、大いに愛していると主張し続ける人は、友情において誠実であると宣言できるでしょうか。 これが、正しく導かれた四人のカリフ(アブ・バクル、ウマル、ウスマーン、アリ[神が彼ら全員を喜ばれますように])と高貴な預言者の仲間(神が彼ら全員を喜ばれますように)を愛していると主張し、宗教が彼らにとって最も愛されているものであるにもかかわらず(カリフやその他の高貴な預言者の仲間)、宗教を破壊することに関与し、彼らは自分の人生よりも宗教を優先した人々の状態です。 所有物、家族、親戚。 これらの人々は、欲望のハサミでそれをバラバラに切り裂き、預言者の仲間への愛を主張することを決してやめませんが、実際には、神とその友人の共同の敵である呪われたサタンに従う神の律法に罪を犯しています。 この現実は、彼らが「友人」の前で罰せられる審判の日に[非常に]明確になります。 審判の日のことは忘れて、もし彼らが預言者の仲間たちの自分たちに対する見方や、この世で彼らが好きな人々のタイプを知るようになったら、彼らは自分の状態を見て大きな恥をかかされ、これらの偉大な敬虔な人々の名前を汚い舌に載せる勇気がなくなるでしょう。 サタンはまた、アブ・バクルとウマルへの愛で誰かが死んでしまったら(神が二人を喜ばれますように)、地獄の火は彼に近づくことさえないだろうと、これらの[さまざまな預言者の仲間の]信奉者を説得します。 サタンは、もし彼らがウスマーンとアリへの愛で命を犠牲にするなら(神が二人を喜ばれますように)、彼らは[彼らの世俗的な行動について神に]何の責任も負わずに天国に行くだろうと他の人に保証しますが、実際には、その日には誰の愛と親密さも何の役にも立たず、[この世の生活における]自分自身の[善と正義の]行いだけが有益になります。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、最愛の娘ファティマ(神が彼女を喜ばれますように)にこう言いました。

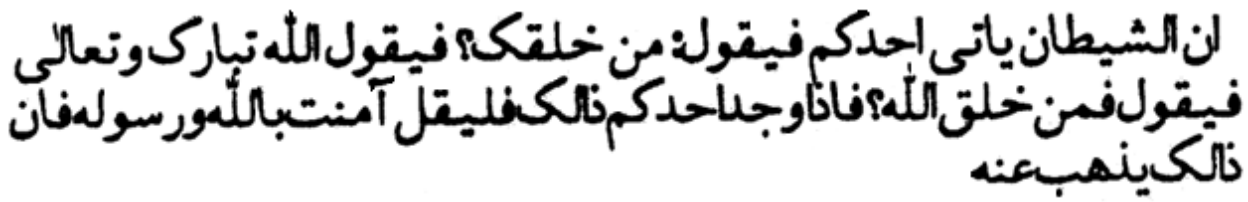
اعملی فانی لا اغنی عنک من اللہ شیئا

「行動(高貴な善行)を行なさい。なぜなら、私はあなたを神からの何からも守ることができないからです。」 (このナレーションは、*ハディース*集の *サヒー・ブハーリ*と *サヒー・ムスリム*によって、預言者の仲間であるアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて報告されています)。

これは、ここで言及した低次の自己からの欲望に従う例です。 同じことが、イマーム・シャファイ、アブ・ハニファ、マリク、アフメドの伝統的な思想流派(行き過ぎ、逸脱したイデオロギーを防止し、伝統的な理解への遵守を通じて節度を確保することを目的とした伝統的なイスラム方法論の一部として、1000年以上にわたってコミュニティの一般的なコンセンサスによって広く受け入れられている)に偏見を持ち、偏見を進める人々にも当てはまります(神が彼ら全員に憐れんでくださいますように)を見るほど偏見を進めています。他の学派の考え方を下ろすことは確実になります。 誰もが自分のイマームの真実性を主張します が、自分の高貴な性格には従いません。 審判の日に、これらの偉大な*イマーム*は信者にこう尋ねます:「私たちの思想の学派は行動で構成されており、ことわざではなく、ことわざも行動のためのものでした。それなら、あなたが行動を避けながらことわざを重要視し、私たちの方法論と性格に反対し、私たちの学派の信奉者であると誤った主張をする理由は何ですか?」 これはサタンにとって大きな入り口であり、サタンが[心に]到着するための大きな道です。 多くの学者(スコラ神学者)は、このようにサタンの手によって滅亡に至りました。 彼らは神を恐れず、世界に対する貪欲と傾向を抱いており、宗教に対する洞察力が弱く、その背後にある原動力は誠実さではなく、人々から献身と尊敬を得たいという願望です。 だからこそ、彼らは宗教的偏見に関わっており、この偏見を良いものだと考えているのです。 彼らはこの偏見が悪魔の行為であることを知りませんが、悲しいかな、これらの人々は悪魔の欺瞞や陰謀に気づかず、代わりに悪魔の計画を実際に実行することに関与しています。 一般の人々は学者(スコラ神学者)を批判し始め、宗教の原則は忘れ去られ、宗教法(***Fiqh***)の複雑さにおける意見の違いが重要視されるようになりました。 これらのスコラ神学者は、他の神学者とともに自分自身を破壊しました。 神が私たちの悔い改めと彼らの悔い改めを受け入れてくださいますように。 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ - 偉大なグノーシス主義者であり聖人)は、サタンからのこの引用について言及しました:「私はムハンマドの国民と信奉者(ウンマ)に、装飾され装飾された方法で罪を提示しましたが、彼らは悔い改めによって私の背中を折りました。 その後、私は彼らが悔い改めないそのような罪を彼らの前に飾りました。 これらの罪は、低次の自己(*ナフス*)からの欲望です」。 サタンは真実を語った。 人々は、これらの問題において自分が罪に向かっていることさえ知らないのに、どうやって悔い改めるのでしょうか? サタンの大きな欺瞞は、自分の義務を忘れて、代わりにスコラ神学や信念の[複雑さ]に関連する

問題に存在する[意見の]違いに巻き込まれることです。 アブドゥッラー・イブン・マスード(神が彼を喜ばれますように - 預言者の仲間)は、神の偲び(ディクル)に忙しい人がいたら、サタンがやって来たと言いました。 彼は彼らが[神の記憶の]集まりを離れ、彼らを止めるつもりでしたが、彼の野望を成功させることはできず、神を偲ぶ人々は彼の戦略のすべてを挫折させました。 その後、彼は近くに座っている世俗的な会話をしている人々を扇動して問題を引き起こすことを余儀なくされました。彼らは会話の過程でお互いに喧嘩し始め、お互いを殴ったり傷つけたりし始めました。 神の追悼の集まりから、何人かの人々が立ち上がって他のグループの人々を止め、戦わないように頼みました。 ここでサタンの目的は、戦いを引き起こすことではなく、神の記憶を止め、それをする人々を去らせたかったのです。

一般の人々と哲学の議論: サタンの方法の 1 つは、一般の人々に、自分たちが苦手な知識に参加するよう扇動し、彼らが [掘り下げる] 余裕のない問題について熟考するよう勧めることです。 たとえば、神の存在とその神聖な性質についての知識、そして同様に、彼らの弱い知性では知覚できない他の同様の事柄です。 この状況では、彼らは自分自身の弱くて限られた知性を見たり、知識の欠如を見たりせず、代わりに宗教を疑い始め、神についてのそのような考えが彼らの心に生まれ、彼らを宗教の領域から排除し、代わりに、宗教の不信と革新の輪に入れたり(*ビダ*)、または宗教の目新しさや異質な考えを受け入れたりします。 彼らは信仰という貴重な商品を失ったことさえ知らず、代わりにそれに満足し、自分の心に起こったことは何でも真の理解と洞察であり、それは彼ら自身の知性と過剰な知性によって達成されたと考えています。 これらの貧しい人々は、最も無知な人が自分の知性を非常に信頼している人であり、最も知的な人は自分の知性が不足していると考え、学者[および学識のある人]に尋ね続ける人であることさえ知りません。 アイシャ(預言者の妻であり、一流の学者であり教師であるアイシャ)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)からこれを引用しています。



「サタンがあなた方の一人にやって来て、『誰があなたを創造したのか?』と尋ねます。 ある人は「神」と答えます。 そして彼は「誰が神を創造したのか?」と尋ねます。 もしあなたがたの誰かがこのような状況に遭遇したら、「私は神とその預言者を信じています」と言うべきです。 このように言うことで、(悪魔の)ほのめかしは終わるでしょ

う。」 (このナレーションは、*ハディースコレクションのアフメド、バザール、アブ・ヤリ、サヒー・ブハーリ、サヒー・ムスリムによって報告されています*)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、ほのめかしは学者ではなく一般の人々に起こるため、ほのめかしを治すことについての知的議論を許可しませんでした。 普通の人々は信仰を新たにし、礼拝や経済活動に従事し、知識を学者に残すべきです。 普通の人は、神とその道について根拠のないことを言うことで不信に至る可能性があります。 真の知識を深く理解せずに何かを言うことは、泳ぐことを知らずに波に身を投じるようなものです。 その結果が自分自身の破滅に他ならないことは明らかです。 信仰や宗教に関するサタンの欺瞞は、見積もることさえできないほど多いです。 彼らについて言及されているのは、これらの欺瞞の一例です。

否定的で悪い意見を抱く： サタンの欺瞞の扉の一つは、[仲間の]イスラム教徒[および他のすべての人]について悪い意見を持つことです。 神はこう言われます。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱجْتَنِبُواْ كَثِيرًا مِّنَ ٱلظَّنِّ إِنَّ بَعْضَ ٱلظَّنِّ إِثْمٌ

「おお、信じる者よ!悪い意見のいくつかは罪であるため、悪い意見の多くを避けてください。」 (クルアーン、49章、12節)

自分の兄弟(または姉妹)に対して悪い意見を抱く人は、必ずサタンの欺瞞の犠牲者になります。 サタンは、その人が抱いている悪い意見を煽り、その人に対して陰口を言ったり、その人に対する責任を果たさなかったり、その人に対して怠惰を示したり、その人を見下して自分を自分よりも優れていると考えるように説得します。 これらすべての条件は、自分自身が破壊するものです。 それが、神の律法が[人々]に非難の場を避けるように命じた理由です。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

اتقوا مواضع التهم

「非難の場を避けてください(内面と外面の平和の状態を維持するために誤解や対立を避けるために認識を管理する必要があるため、間違った方法で認識されないようにするため)」。

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)自身が非難や疑惑を避けるために使われていました。 だからこそ、アリ・ビン・フセインは、サフィヤ・ビント・ハイ・ビン・アフタブ(神が彼女を喜ばれますように - 地元のユダヤ人部族長の娘であった預言者の妻)からこれを語っています。 私は彼を訪ねてきました。 私は[偶然にも]月経中になりました。 夕方になると、私は(家に)戻り始めました。 預言者(神の祝福と平安あれ)も私と一緒に歩き始めました。 途中、アンサール(メディナ市の人々)の中から二人の男に出くわしました。 彼らは預言者に平和の挨拶(サラム)を迎え、道を歩きました。 預言者は彼らを呼んで、「これはサフィヤ・ビント・ハイです」と言いました。 彼らは答えました:「おお神の預言者よ!私たちはあなたについて良い意見を持っています(つまり、あなたについて悪いことは何も考えられないので、あなたはあなたが妻と一緒にいたことを私たちに説明する必要さえありませんでした)」。 預言者は言いました:「[あなたは真実を言っていますが]サタンは人間の血管を循環し、他の人を非難し、疑うように促し、彼らの間に不和と対立をまき散らします。 私は、彼があなたの心の中であなたを思いとどまらせるかもしれない[または疑惑と非難の線に沿って何か悪いことをほのめかす]かもしれないと考えていました[したがって、私が一緒にいた女性について、私は説明する必要があると感じました]」。 (このナレーションは ハディース集 ***Sahih Bukhari*** と ***Sahih Muslim***)

預言者(神の祝福と平安あれ)が、彼らの宗教と来世の改善を守ることにどれほど気を配っていたかを考えてみてください。 また、疑いと非難を招くことができる場所を避ける方法を教え、学識のある人でも自分の状態について怠惰を見せてはならないと教えて、追従者にどれほど優しさを見せたか。 神(タクワ)に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏れ心、畏れ心、そして神の律法に従うことで知られる人は、人々がその人について悪い意見や否定的な意見を持たず、必ずしもその人について良い意見を抱くだろうと考えるべきではありません。 人がどれほど知識と神を恐れることに優れていても、人は一人を一方向だけ見るわけではありません。 ある人は良いと考える人もいれば、ある人は悪いと考える人もいます。 むしろ、ある人を悪く思う人の数は、その人を良く思う人の数を上回っています。 他人の悪い意見や邪悪な人々の非難から身を守ることが不可欠です。 彼らには悪い意見が予想されます。 他人に対して悪い意見を持ち、欠点を見つけるのに忙しい人を見たら、その人が内なる自己の悪[と否定性]に関わっていることを知ってください。 他人の悪い意見は、自分の内なる悪[と否定性]の反映であり、すべての人を自分の[悪と否定的な]存在のイメージで見たいと思っています。 信者は、兄弟(または姉妹)の行動の言い訳を見つけます。 偽善者には、陰口以外のことをする能力はありません。 信者の心はすべての人に対して清く明確です[そして、開かれた心で彼らに会い、考えます]。

これは、サタンが[人間の心に]入り込むことについての短い議論でした。 これらの入り口は、推定できないほど多いです。 私の意見では、ここに書かれていることや、ここで言及されている入り口が何であれ、他のすべての[サタンが人間の心に入る]入り口はそれらから推測できます。 しかし、人が持っている多くの否定的な内面の特徴は、これらの特徴のすべてがサタンの武器であり、サタンの扉の中から[人間の心への]扉です。

サタンから身を守る方法: この質問はここで尋ねることができます:「サタンの陰謀から身を守るための治療法は何ですか? 神を偲び、『*ラ・ハウラ・ワ・ラ・クワタ・イラ・ビラ*』や『神以外に力も力も力もない』と言うことは、神に対する保護となるでしょうか?」 心を癒すことは、サタンが心に入り込み、心を汚染するすべての入り口が閉ざされた場合にのみ可能であることを知っておく必要があります。 言い換えれば、心はすべての否定的で卑劣な内面の破壊的な性質から浄化されるべきです。 内なる破壊物から心を浄化することは、広範なトピックです。 [現在の]本「*イヒヤ・ウルム・アッディーン*」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の唯一の目的は、[人間の心の]内なる破壊的な性質の治療法を定めることです。 そのような内なる破壊的な特性はすべて、次のページで見るように、独自の章(徹底的な扱いのために)必要であるため、心がこれらの内なる破壊的な否定的な悪の性質から清められ、浄化されるなら、サタンは心に足を固める機会を得られないことをここで言及するだけで十分です。 彼にできることは、通り過ぎることだけです。 神を思い出すことは、彼の行く手の障害になります。 神への記憶は、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏怖の光(*タクワ*)で啓発され、非難されるべき否定的な内面の特徴の汚染から浄化されたときに、心に効果をもたらします。 そうでなければ、神の記憶は単なる思考または心の中の一瞬の状態としてのみみなされ、それに対する統治や支配は持たないでしょう。 それは心のチェス盤に対するコントロールを簡単に強固にします。 神はこう言われます。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ إِذَا مَسَّهُمْ طَٰٓئِفٌ مِّنَ ٱلشَّيْطَٰنِ تَذَكَّرُوا۟ فَإِذَا هُم مُّبْصِرُونَ

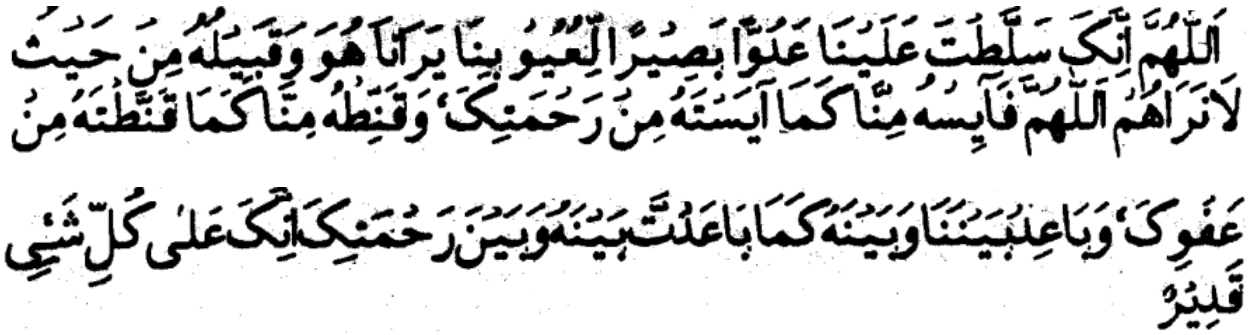
「神(*タクワ*)*に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏れ心を持つ人は*、サタンから危険(否定的な邪悪な考え)が心に入ってくると、すぐに神の思い出にとどまり、すぐに目が開きます。 (クルアーン、第7章、121節)

この聖句では、神を恐れる人に対して特別な区別がなされています。 サタンの模範は、空腹の犬の模範のようなものです。 パンや肉がない場合は、押しのけることができますが、手に肉があり、犬もお腹が空いている場合は、押しのけても消えず、代わりに肉に飛び乗ってしまいます。 サタンは、自分の食べ物がないところで、心から一人の叱責を聞いて逃げます。 しかし、彼の食べ物がある心は、確かにそれらを攻撃し、舌で叱るだけでは十分ではありません。 欲望に支配された心は、神の記憶の現実が入ってくることを許さず、その心はサタンの安息の地になります。 彼は、欲望を持っているために、低次の自己からの欲望や内なる破壊的な性質を欠いた神を恐れる人々の扉をノックしませんが、彼らが神の記憶を無視し、怠慢しているのを見ると、彼らをノックします。 しかし、神の記憶に戻ると、そのような心から逃げ出します。 神の記憶による彼の脱出の証拠は、 悪魔のほのめかしの時に神の避難を求めるよう命じるクルアーンとハディース(預言的伝統)です。 たとえば、次のような詩があります。

فَٱسْتَعِذْ بِٱللَّهِ مِنَ ٱلشَّيْطَٰنِ ٱلرَّجِيمِ

「呪われた者であるサタンから神の避難所を求めなさい。」 (クルアーン、16章、98節)

アブ・フライラ(神が彼を喜ばれますように - 預言者の仲間)は言いました:「かつて、信者と不信者と一緒にいる悪魔(サタンの信奉者)が出会った。 二人はお互いの安否を尋ねた。 不信者のサタンは太りすぎで、体に過剰な脂肪がありましたが、信者のサタンは虚弱で、弱く、心配で、ホームレスでした。 不信者のサタンは彼に尋ねました:「なぜあなたは自分自身をそのような状態にしたのですか? なぜこんなに弱くて痩せているのですか?」 彼は答えました、「私は、食べるときに神の名で始まる人と一緒にいます。(その結果)私はお腹が空いたままです。 水を飲むとき、人は神の御名から始まり、私は喉の渇きに怯えています。 服を着るとき、人は神の名を名乗るので、私の体は露出したままです。 [多くの文化で慣習されているように、髪の根元を強化するために]髪に[髪の]オイルを入れると、神の名を名乗るので、私の髪は乾いて乱れたままです。」 不信者のサタンは彼に後悔の念を表明し、「私はあなたの仲間のように何もしない人に押し付けられています。 人の飲食、着替えにおいて、私はその人の対等なパートナーです」。 ムハンマド・ビン・アル・ワサイ(偉大なグノーシス主義者であり聖人である神が彼に憐れみあれ)は、サタンから身を守るために毎日このような嘆願をしていました。



「おお神様! あなたは、私たちの過ちをよく知っているそのような敵を私たちに押し付けました。 彼と彼のグループは、私たちが彼らを見ることができないように私たちを見ています。 おお神様!あなたが彼らにあなたの憐れみを絶望させたように、彼らを私たちに絶望させてください。 あなたが彼をあなたの赦しに絶望的にしたように、彼を私たちに対して絶望的にしてください。 あなたが彼らとあなたの憐れみの間に作り出したように、彼と私たちの間に非常に多くの距離と分離を生み出してください。 まことに、あなたはすべてのことができます。」

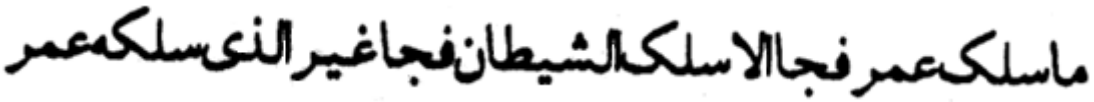
ムハンマド・アル・ワサイ(神に憐れみあれ)は、「ある時、 *マスジド*(モスクや神を崇拝し、栄光を讃える場所)に向かう途中でサタンに会い、サタンが私に尋ねました。『あなたは私を知っていますか?』 私は「いいえ」と答えました。 彼は言った:「私は *イブリス* (サタンまたは悪魔の指導者)です」。 私は彼に、そのように途中で私に会った目的について尋ねたところ、彼はこう言いました。 私はあなたに決して抵抗しません」。 私は答えました:「もし誰かがこの嘆願を学びたいと願うなら、私はその人が学ぶのを妨げません。 行って、あなたの心が望むことは何でもしてください」。 アブドゥル・ラーマン・イブン・アビ・ライラ(神が彼を喜ばれますように - 預言者の仲間)は言いました:「サタンは、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が祈っている間、手に火の火花を持ってやって来ました。 彼は嘆願から離れ、神に避難することを求めませんでした。 ある時、大天使ガブリエル(*ジブラエル* [神の平安あれ])がやって来て、次のような嘆願を唱えるように言いました。

「私は、地に入るもの、地から出て天に昇るもの、天から降りてくるもの、昼と夜の試練や苦難から、誰も超えることのできない神の言葉によって神に避難を求めます。 慈

悲深い方よ、善に満ちた[夜と昼の]出来事を除いて、夜と昼の浮き沈みと苦難から!」 (この伝統は、イブン・アビ・アド・ドゥニャの著書「*Maka-id ash-Shaytan*」、イマーム・マリクによる[*ハディース*集]ム*ワッタ*による[予言者の仲間]ヤヒヤ・イブン・サイードの権威について、およびイブン・アブドゥル・バールによる[予言的な仲間]イブン・マスード[神が彼に喜ばれますように]

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)がこれらの言葉を唱えると、サタンの炎は消え、彼は地面に顔を倒しました。 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ、偉大なグノーシス主義者であり聖人)は、大天使ガブリエルが預言者のところに来て、「*ジン*があなたを欺きたいので、寝るときに[神の]玉座の聖句(*アヤット・アル・クルシ*[クルアーン、第2章、255節]と呼ばれる)を唱えなさい」と言いました。

予言的な伝統によると、



「ウマルが進む道は、サタンはその道から逃げて別の道に行きます」。

その理由は、これらの高貴な人々の心にはサタンの食べ物がなく、言い換えれば、欲望が彼らの心を通り抜けなかったからです。 もし誰かが、ウマルから離れたときの神の記憶を通して、サタンが一人から離れることを望んでいるなら(神が彼を喜ばれますように)、それは不可能です。 この期待を抱く人は、薬を服用しているが、予防(薬を服用することに逆効果となる有害なものから)を避ける人のようなものです。 胃が有害で不健康な食べ物で満たされている状況で、薬はどのように役立つのでしょうか? たとえ薬が体のさまざまな部分に移されて有益にしても、そのような食べ物の[有害な影響]を取り除く時間はありません。 神の記憶は薬のようなもので、 *タクワ* (神への敬虔な畏敬の念、畏怖は、内面であれ外面であれ、間違った邪悪な事柄に従事するのを止める)は予防です。 この予防の結果、心には低次の自己からの欲望や欲望が欠けているはずです。 ですから、神以外の何もない心に神の記憶が起こると、薬が空腹に入ったときにサタンはその心から逃げ出し、病気や病気が逃げ出します。 神はこう言われます。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَذِكْرَىٰ لِمَن كَانَ لَهُۥ قَلْبٌ

「そこには、(洞察力のある)心を持つ人にとって大きな教訓があります。」 (クルアーン、50章、37節)

神は別の場所でこう言われます。

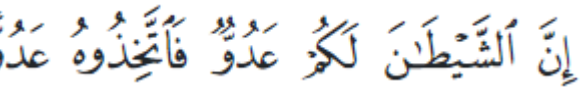
كُتِبَ عَلَيْهِ أَنَّهُۥ مَن تَوَلَّاهُ فَأَنَّهُۥ يُضِلُّهُۥ وَيَهْدِيهِ إِلَىٰ عَذَابِ ٱلسَّعِيرِ

「誰(すなわちサタン)について、誰(サタン)も神と関係を保とうとする者は誰でも、彼(サタン)は人を迷わせ、地獄の罰の道を示すと書かれています。」 (クルアーン、22章、4節)

サタンの[間違った、否定的で邪悪な]行動を助ける人は、たとえ舌で神を覚えているとしても[そして、外見的には道徳的で宗教的な善良な人のように見えるかもしれない]としても、サタンの友人および味方と呼ばれるでしょう。

舌による神の記憶だけでは十分ではありません: ハディース*(預言的なナレーション)*が、*神の記憶(ディクル)*がサタンを人から追い払うと言っていると*言っていると言*い、それはいかなる制限や条件についても言及しておらず、これらすべての特定の詳細はスコラ神学者によって発明され、預言的なナレーションはその[特定の]情報を伝えていません。 舌による神の記憶だけでは効果がないという反論に対する答えは、外部の議論を提供するのではなく、自分自身を見つめるよう勧めるということです。 あなたに伝えられるニュースや情報は、目撃するのと同じレベルではなく、私の主張が妥当かどうかがわかります。 神の記憶と崇拝の目的が祈り(*礼拝*または毎日の必須の祈り、および神へのオプションの超エロガティブな祈り)であることは誰もが知っています。 祈るときは、自分の心の状態を一瞥してください。 サタンは、あなたの心を無数の場所、つまり道路、路地、市場、娯楽施設などに連れて行き、さまざまなものを通してあなたの思考を動かし、あなたが完全に忘れていたことさえ思い出させるほど、無数のことを思い出させます。 そこから真に霊的な恩恵を引き出すことができるようにすること、その最も重要なのは、神との深い内なるつながりの教え込みと、その結果としての神のグノーシスです]。

サタンは、祈りの状態であなたの心を攻撃するに違いありません。 [中で何が起こるか]神の記憶と崇拝の他の行為は、祈り中に直面する[前述の状況]から推測できます。 祈りは、心の賞賛に値する資質と欠点を明らかにする心の基準です。 世俗的な欲望の中心となった心の祈りは受け入れられません。 そのような祈りはサタンを撃退するものではなく、予防のない薬が良いことよりも害を及ぼすのと同じように、むしろ[サタンからの]ほのめかしや説得が増加する可能性を促進します。 サタンを排除したい場合は、まず*タクワ*(内面であれ外面であれ、間違った邪悪な事柄に従事するのを止める神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧)の予防を採用し、その後、神の記憶(ディクル)の薬を使用します。 サタンは、かつてウマルを恐れていたように、あなたを恐れるでしょう(神が彼を喜ばれますように)。 ワハブ・ビン・ムナッビ(神が彼に憐れみをあげてくださいますように - 聖人でありグノーシス主義者)は、「神を畏れ、サタンに従うという点では内面ではサタンの友人であるにもかかわらず、外側はサタンを悪いと呼んではいけません」と言いました。 ある聖人は、「人々が恩人(神)の恩恵を知りながらも不従順で、呪われたサタン(サタン)の反逆を知っているにもかかわらず従順するのは驚くべきことです」と言いました。 あなたが嘆願をし、神が「私を呼びかけてください、私はあなたの呼びかけに応えます」と言ったにもかかわらず、それが受け入れられないのと同じように、サタンは、あなたの神聖な記憶にもかかわらず、あなたから撃退されません。 それは、そこには[神に受け入れられる]嘆願の条件が存在せず、ここには神の記憶の条件が存在しないからです。 誰かがイブラヒム・ビン・アダム(偉大な聖人でありグノーシス主義者である彼に神が憐れんでくださいますように)に同じ質問をしました:「神が[クルアーンで受け入れること]を約束したにもかかわらず、なぜ私たちの嘆願は[神に]受け入れられないのですか?」 彼は「それはあなたの心が死んでいるからです」と答えました。 彼らは「私たちの心を死に至らしめた原因は何ですか?」と尋ねました。 彼は答えた、「あなたの八つの性質は心の死を引き起こしました。第一に、あなたはあなたに対する神の権利を知るようになりましたが、神の権利を果たしていません。第二に、あなたはクルアーンを読んでいますが、その限界[内側と外側の両方で許容される行動と許容されない行動と行動]に従って行動しません。第三に、あなたは神の使徒(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ])を愛していると主張しますが、彼の道[神への義と献身]に従っていません。第四に、あなたは死を恐れているが、それに対する準備をしていないと言います。第五に、神はこう言われます。



「まことに、サタンはあなたの[本当の]敵ですから、彼をあなたの敵として受け止めなさい」。 (クルアーン、第35章、6節)

しかし、あなたは罪を犯すことによって彼に友情の手を差し伸べました(神の限界に対する違反)。第六に、あなたは地獄への恐怖を表明しますが、地獄への入り方を確実にする行動を実行します。第七に、あなたがたは天国を望んでいるが、そこに連れて行ってくれる[善い、正しい]行いをしない。第八に、ベッドから立ち上がるとき、あなたは自分の欠点を背後に置き、他人の欠点を見つけることに関与します。 これらすべての特性は、神の不快の原因です。 彼らの前では、あなたの嘆願が受け入れられることを期待することは無駄です。」

ウハイブ・イブン・アル・ウォード(グノーシス主義者であり聖人である神が彼に憐れみあれ)は、「サタンがかつて預言者ヤヒヤ(神の祝福と平安あれ)(ヨハネとしても知られる)の前に現れ、『あなたにアドバイスをしたい』と言ったことを知りました。 彼は言った:「私はあなたのアドバイスを必要としません。 しかし、人間について何か教えてください(つまり、どのような人間を扱っているのか)?」 彼は言った:「人間には3つのタイプがあります。 ある種の人々は、私たちに対して非常に厳しいものです。 私たちが彼らのところに行き、彼らを罪深い状況に巻き込み、私たちのコントロール下に置くと、彼らは罪を犯した後すぐに悔い改めを求め、このようにして私たちの努力をすべて台無しにします。 私たちは再び一生懸命働き、彼らは同じことを再び繰り返します(つまり、彼らは自分の過ちを悔い改めます)。 私たちの状況はあまりにも奇妙なので、彼らに絶望することも、彼らと思い通りに進むこともできません。 第二のタイプの人間は、子供の手にあるボールのようなもので、好きなように回転させることができます。 これらの人々は、私たちの努力に対して完全な報酬を与えてくれます。 第三のタイプの人々はあなたと同じです – 敬虔な性格で、無邪気で、罪から遠く離れています。 私たちはそれらを克服することはできません」と述べています。

人間の前に物理的に現れるサタン: ここで疑問が生じます:「サタンは、他の人の前に現れないのに、どのようにして[一部の]人々の前に物理的に現れるのか、そして彼が現れるとき、それは彼の本当の姿なのか、それとも比喩的な姿なのか? それが彼の本当の姿だとしたら、それはさまざまな姿で現れ、2つの場所で2つの異なる姿で彼がどのように見られ、2人の人が彼を2つの異なる姿で見ているのか?」 その点で、悪魔や天使は本当の姿を持っていますが、誰もがその本当の姿を目撃できるわけではなく、代わりに預言者の光で見ることができるということを述べる必要があります。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、大天使ガブリエルの本当の姿を二度だけ見ました - 一度は彼自身が彼に本当の姿を見せるように頼み、彼(ガブリエル)はそうすることを約束し、[メッカの]ヒラ山に元の姿で現れ、西から東への地平線全体が彼の存在で満たされました

。二度目は、預言者が昇天(*ミラジ*)*の夜、シドラト・アル・ムンタハ*(イスラム教の信仰によれば、被造物が通過できない境界である第七の天の終わりを示すロテの木)に元の姿で現れ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が彼を見ました。 一般的に、預言者は彼を人間の姿で見てきました。 ガブリエルはしばしばダヒヤ・カルビ(神が彼を喜ばれますように - 彼の美貌で知られていた預言者の仲間)の形で来ました[*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*のコレクション*の預言者のナレーションまたはハディース*によると]。

心(スピリチュアリティ)のほとんどの人々は、*ムカシュファ*(スピリチュアルな除幕)を持っており、彼らの本当の姿の模範が彼らの前に現れます。 したがって、サタンは覚醒状態で彼らの前にやって来ます。 彼らは彼を見たり聞いたりします。 この実際のフォームの例は、実際のフォームの代替になります。 多くの義人は夢の中でこの状況に遭遇します(覚醒の状態とは対照的です)。 スピリチュアルなベールの人(*カシュフ*)は、外部の感覚の使用がスピリチュアルなバリアの妨げにならない人です。 言い換えれば、夢を通して他の人に知られていることは、目覚めた状態で彼らによって見られます。 ウマル・ビン・アブドゥル・アジズ(神が彼に憐れみあれますように)は、ある男がサタンが住む人間の心の中にある場所を教えてほしいと神に祈ったと語っています。 その後、彼は夢の中で人体を透明なガラスとして見、その中にあるものを外から見ることができます。 彼は、肩関節と耳の間の左肩にカエルの姿をしたサタンを見ました。 彼は細くて長い幹を持っていて、それを人間の心臓に挿入し、それを通してほのめかしていました。 その人が神を思い出すと、サタンは心からトラックを取り除きます。 この観察は覚醒中に起こることがあります。 そのため、霊的なベールを剥がした人の中には、犬の姿をしたサタンが死骸の上に横たわり、人々をそこに招き入れるのを見た人もいます。 死骸は世界の一例です。 このタイプの証しは、元の形式の代替です。 これは、心には二つの側面があることを以前にも述べました。 片側は「*アラム・アル・マラクート*」または天使の領域に面しており、こちら側は神の啓示(*ワヒ*)、神の霊感(*イルハム*)、霊的なしるしや暗示(*イシャラート*)の入り口です。 [心の]第二側は「*アラム・アル・ザヒル*」、つまり見える領域に面しています。 しかし、両側が互いに付いているので、天使界に面した方の影響は、目に見える領域に面している方で見られる。

目に見える領域全体が知覚可能であるため、目に見える領域にあるものは、知覚された形や外観で見られます。 知覚では、外部の感覚を通して自分の心に浮かび上がる形が、その真の[本質的な]性質に合致していない可能性があります。 したがって、人は明らかに美しく見えますが、その人の外見の美しさが内面の美しさと一致している必要はあ

りません。 人は内側から醜い人になることができます。 目に見える領域は、(現実とは対照的に)現実の知覚にすぎません。 しかし、天使の領域の輝きと輝きを通して思考に現れる形と外観は、[常に]その真の本質に従属し、それに従っています。 したがって、内側の醜いものは、外側では悪いように見えます。 そのため、サタンは犬、カエル、豚の姿で現れ、天使は良い姿で現れるのです。 この[美しい]形は[内なる]意味によるものであり、内なるものの真の姿です。 夢の中で誰かを犬や猿として見ると、その人の内なる悪について議論し、ヤギとして見ると、その人が気さくであることについて議論する理由です。 これが夢の解釈の状況です。 この問題は心の秘密に関係しており、実践的なスピリチュアリティについての知識では言及する必要はありません。 ここでこの話題を取り上げる唯一の理由は、サタンと天使が心の人々に、睡眠中の例や類推として、時には彼らの真の現実として現れるという確信を発展させるためです。 内なる現実に似た例や類似の形が見られることがよくあります。 形は例や類推ですが、目で目撃するのは現実ですが、霊的なベールをかぶった人だけがそれを見ることができ、周囲の人はそれを見ることができません。 眠っている人は夢を見ることができるのに、周りの人は夢を見ることができないのと同じように。

心のほのめかし、迷信、危険、意図

心臓の作用は、身体の器官によって作用されるまでに多くの段階を経ます。 心に最初に浮かび上がるのは「*カーティル*」または思考と呼ばれます。 たとえば、心は、見たいと思えば振り返ることで見える人の考えを思い浮かべます。 第二に、見たいという欲求が刺激され、つまり、気質の欲望が活発になります。 この欲望は、まず[自分の心や気質の]傾向と呼ばれる思考から生まれ、最初の思考は「低次の自己の語り」(*ハディース・アル・ナフス*)と呼ばれます。 第三に、この傾向に対する心の許可、たとえば、その人を見るように心の命令。 時には、心の傾向はありますが、恥や恐怖などの特定の障害により、心が見ることができません。 これらの障害はためらいによって取り除かれ、知性は決定を下します。 この行為を信念と呼びます。 第四に、人はどちらが決意または意図と呼ばれるかを見極めるという確固たる決意を持っています。 この意図の基礎は時々弱いですが、心が最初の考えに完全に集中すると、この決意は固く、意図は強く、決意は揺るぎません。 時には、意図が固いにもかかわらず、後悔のために行動を起こすことができない場合、時には怠慢のために行動に集中できず、時には自分の願望にもかかわらず意図の実際的な実行を妨げる障害が生じます。

行動を実行する前の心の 4 つの状態: 結論として、行動を実行する前の心には、低次の自己のナレーション (*Hadeeth al-Nafs*)、心の傾向、信念、決意の 4 つの状態があるということです。 [最初の]思考または「低次の自己からの語り」に関する限り、それは人間の制御の外にあるため、それに対する説明責任はありません。 同じことが心臓の傾きにも当てはまりますが、この状態も自分のコントロールの及ばないからです。 これら2つの状態は、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の言葉の中で、私の国のための心の問題は赦されたことを意味します。 「低次の自己からの語り」とは、心に浮かび上がる、行動するつもりがないという考えを指します。 意図と決意は、「低次の自己からの語り」で言及されるものではありません。

心の3番目の状態は「信念」と呼ばれ、言い換えれば、心は特定の行動を実行することが許容されると判断します。 この信念は、意識的(意図的に採用される)または潜在意識的(自分の欲望なしに無意識のうちに心に入る)のいずれかです。 意識的な人には[神の]計算と説明責任がありますが、潜在意識には存在しません。 心の第四の条件は、説明責任と清算を受けやすい行動を実行する意図と決意です。 何らかの理由でその行動を実行できない場合、その行動をやめたのは恥によるものなのか、それとも神への恐れによるものなのかがわかります。 もし、神に対する恥や恐れが、意図した行動を実行することを妨げたなら、罪を実行することを決意することは罪であり、罪深い意図を実行することをやめ、自分の低層的な自己からの欲望と闘うことは、正しい行為である[神の受け入れに値する]正義の行為であるため、その人のために1つの正しい行為が書かれるでしょう。 もし人が罪を犯そうとし、低次の自己の主張によって征服されるのであれば、これは神の回避や無頓着を表すのではなく、低次の自己と闘うことによって罪の意図を裏返すことは確かに素晴らしいことです。 もし人がサタンに従うことによって罪を犯す意図があるなら、自分の[内なる]傾向に反対して罪を犯さないようにする[したがって、悪と悪に対する内なる霊的闘いを行う]人は、善行に値するものになります。 しかし、もし人が何らかの障害のために[悪を犯すという]意図を実行できなかった場合(自分の低次の自己を止め、それでも悪を犯したいと願うことなく)、心の意図が自分のコントロール下にあるため、その人のために一つの悪行が書かれることになります。 これについて論じている預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のナレーションは次のとおりです。

قالت الملائكة عليهم السلام، رب ذاك عبدك يريد ان يعمل سيئة و هو ابصر به
فقال: ارقبوه فان هو عملها فاكتبوها له بمثلها و ان تركها فاكتبوها له حسنة و انما
تركها من جرائي

「天使たちは神にこう言います。『おお神よ!このあなたのしもべは罪を犯したいと思

っています。 [神は誰よりも自分の状態を知っていますが]彼はこう言います。 自分の意図を実行するなら、自分の行為に相当する悪行を一つ書きます。 もし人が自分の[悪の]意図に基づいて行動をとることを控えるなら、その人はわたしのせいでこの罪を捨てたので、自分の口座に善行を一つ書きなさい』」。 (この伝統は、 *サヒー・ムスリム* [預言者の仲間]アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて)

別の預言的なナレーションは次のように述べています。

انما يحشر الناس على نياتهم

「人々は(裁きの日に)彼らの意図に基づいてよみがえられるでしょう」。 (この伝統は、 *サヒー・ムスリム* ウム・サルマとアイシャの権威により[神が彼らを喜ばれますように])

この伝統は、何かをする意図を立てて、それを実行する前に死ぬとしたら、その人はその意図で死に、たとえその罪を犯さなかったとしても、その意図でよみがえることを示しています。 この問題は、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の次の伝統によって明確に説明されています。

اذا التقى المسلمان بسيفيهما فالقاتل والمقتول في النار، فقيل يا رسول الله، هذا القاتل فما بال المقتول؟ قال لانه اراد قتل صاحبه

「『2人のイスラム教徒が剣を伸ばして(お互いを殺すための戦いで)対峙すると、殺人者も殺害者も地獄に行くだろう』。 預言者は尋ねられました:「おお神の預言者よ!殺人者が地獄に行くのは理にかなっているが、なぜ殺された(被害者)が地獄に行くのか?」彼は答えた:『それは彼も相手を殺すつもりだったからだ』」。 (この伝統は、 *ハディース集 サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム* [預言者の仲間] アブ・バクラ [神が彼を喜ばれますように] の権威に基づいて)

この説明の後、神が心の意図を考慮していないとは考えられません。 これに関連して、覚えておくべき原則は、すべての意図と決意は計算の対象となるということです。 この説明は、人間の制御と能力を超えた問題に対する計算と説明責任がないことも証明しています。 心のさまざまな行動に違いを持たず、心に入ってくるものすべてを「低次の自己からの語り」または「思考」と呼ぶ人もいます。 彼らのこの意見は有効ではありません。 傲慢、独善(または自己誇大)、誇示、嫉妬など[個人および集団の幸福に極めて有害である]心の行動であり、[クルアーンからの]聖句と預言的なナレーションがそれらに対する清算と説明責任があることを証明しているのに、なぜ心の[さまざまな]行動に対する清算が行われないのでしょうか。 問題の真実は、[神のしもべ、つまり人間]の能力の範囲内にあるすべての行動が清算と説明責任の対象となるということです。 したがって、意図せずに*マレム*以外の女性(神の法則によれば結婚できる可能性があ

る)女性に一瞥が当たった場合、それに対する計算はありませんが、二度目の視線が意図的かつ故意に投げかけられるのであれば、それは[神の]計算の対象となります。 これが心の思考の状態です。 むしろ、この計算は、心が本物である[つまり、心は人間の基礎であり現実である]ので、まず心から行われるべきです。

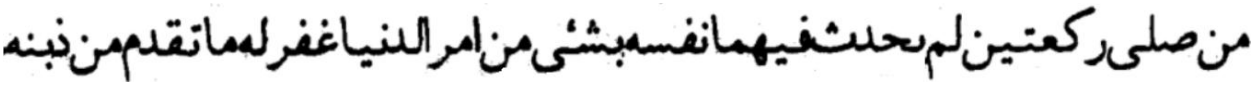
ほのめかしの種類:ほのめかしにはいくつかの種類があります。

第一の種類 – 真実と正義への招待: [ほのめかしの]一種は、サタンが真実を疑わせるためにそれを[心に]植え付けるということです。 たとえば、彼は誰かに「人生は長く、願いを長く抑えることは多くの忍耐を必要とする困難な仕事だから、世俗的な快楽を離れるべきではない」と言うでしょう。 この時点で、神のしもべ、つまり人間が神の途方もない権利、崇高な報酬、苦痛な罰を考慮し、人生は長くても死後の世界に比べれば、それは実に取るに足らないものであり、すべての世俗的な快楽は、表向きは忍耐的では難しいが、地獄の火に比べれば、 全然難しいことではありません。 この二つのうちの1つは不可欠である:もし人が世俗的な快楽を追い求めないことに忍耐する苦しみに耐えれば、地獄の苦しみに耐える必要はなく、もし世に忍耐を働かなかったら、来世の苦難に直面する必要がある。 それにもかかわらず、神の約束、警告、信仰と確信の活性化を思い出し、思い出させることは、地獄の火が罪に対する忍耐よりも簡単だとは言えず、罪を犯すことは地獄に行かないとは言えないため、サタンを逃がせざるを得ません。 たとえそのような主張をしたとしても、信じるしもべは、神の書(神の命令と理性の光)への信仰のために、そのような約束を信頼しません。 同様に、もし彼が、あなたほど神のグノーシスを持っている人はいない、あなたの崇拝にそのような例がなく、あなたが神の前で高い地位を持っているという自惚れをほのめかすなら。 この時点で、しもべは、グノーシス、崇拝、[神の前で]高い霊的地位、行動したすべての器官、グノーシスを獲得したすべての行動はすべて神の創造物であり、神が富に与えられたものであり、それらには個人的な卓越性がないと考えるべきです。 このような考えの後には、独善、自惚、自画自賛、虚栄心の余地は残されず、サタンはこれらが神の創造物ではないとは言えないため、屈辱的な敗北を受けます。 たとえ彼がそう主張したとしても、しもべのグノーシスと信仰は決してそれを信じることを許さないでしょう。 この種のほのめかしは、神の記憶を通して、信仰とグノーシスの光の所有者、および神を知る者(グノーシス主義者)の心から完全に根絶されます。

第二の種類 – 燃える情熱と欲望: 第二の種類のほのめかしは、サタンが欲望をかき立てるということです。 これも2つのタイプがあります。 一つは、しもべが欲望が罪であることを確信して認識していることです。 第二に、支配的な推測を通じてそれについて知っているということです。 確信がある場合、サタンは欲望を扇動することをやめることはありませんが、この扇動を効果的に行うことはできません。 それが確実ではなく推測である場合、サタンの扇動は効果的である可能性があります。 この場合、そ

れを根絶するには霊的な闘争が必要になります。 この種のほのめかしは、神の記憶の時点で完全には終わりませんが、支配することもできません。

第三の種類 – 通りすがりの思考: 第三の種類のほのめかしは、祈り中に起こる隠された事柄の思いや思い出にすぎません。 したがって、人が神の記憶(ディクル)に従事すると、これらの過ぎ去る思考はしばらくの間終わり、その後戻ってきて、また終わります。時には、過ぎ去る思考の出現は絶え間なく継続的であり、思考と神の記憶が同じ連鎖の2つの輪であるように見えます。 これは、あたかも心が両方のための2つの別々の空間を持ち、両方が同時に共存できるかのように、[クルアーン]の朗読の意味と同時に、通り過ぎる思考が同時に来るほどに起こります。 そのようなほのめかしを完全に断ち切ることは困難ですが、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)が言ったので、不可能ではありません。



「自分の低次の自己(*ナフス*)が世俗的な事柄について話さないように、2回の祈りを捧げる人は、それまでの罪はすべて赦されるでしょう。」

もし心にほのめかしを持たないことが不可能だったら、預言者(彼に平安あれ)はそれについて言及しなかったでしょう。 それはすべての心に当てはまるわけではありませんが、他の考えが浮かび上がらないほど神の愛がそれを支配している心によってのみ想像できます。 真の恋人が心の中に愛する人の考え以外に他の考えを持っていないのと同じように、同様に、誰かが敵のことを心配しているなら、その人は自分の考えや[敵]が自分を傷つけるという考えに夢中になりすぎて、祈りの最中にさえ消えず、祈りのサイクルのたびに祈った回数や暗唱したことを思い出しません。 この[そのような考えに夢中になり、夢中になる]は、目を開けて通り過ぎる人を見ているにもかかわらず、誰かが通り過ぎても気づかないほどです。 世俗的な事柄への没頭は、地獄への恐怖と楽園への渇望がそのような没頭を助長するようなものになる可能性があります[その場合、神の愛がどれほど夢中になるかを想像できます]。 しかし、信仰が弱いため、このような状態は一般的ではありません。

[この議論の]結論は、サタンを一瞬だけ取り除くことは可能ですが、生涯を通じては不可能であるということです。 もし誰かがサタンのほのめかしや扇動から安全で守られたとしたら、それは預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の高貴な人格だったでしょうが、伝承によると、祈りの最中に、彼の服の模様やデザインに目が落ちたとき、彼は祈った後、その服を捨ててこう言いました。

شغلني عن الصلاة اذهبوا به الى ابي جهم

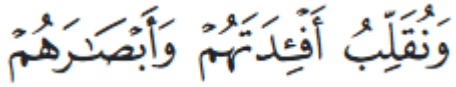
「この[ドレス]は私を祈りから引き起こしたので、アブ・ジャーム(ドレスを贈った預言者の仲間)に持ち帰ってください。」

同様の事件が金の指輪で起こり、預言者(彼に平安あれ)がそれを捨てました(アブドゥッラー・イブン・アッバース[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*ナサイ*によって語られた*ハディース*)。 ドレスと金の指輪のデザインパターンによる[預言者(彼に平安あれ)が神に完全に集中するのを妨げる祈りの間]注意力と焦点が分散されたのは、サタンのほのめかしの行為でした。 金の指輪に関する事件は、神が男性に金を禁止する前に起こったことを思い出してください。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が金の指輪を身に着けていたのは、当時(その後禁止される前)に許可されていたからです。 彼がそれを外したのは、それが世俗的な財産や所有物に関連するほのめかしとほのめかしを生み出していたからです。

必要以上の所有物を所有している限り、サタンは、たとえその余分な所有物が*ディルハム*または*ディナール*(それぞれ古い金と銀の通貨)にすぎないとしても、間違いなくその人をほのめかしに巻き込むでしょう。 その場合のほのめかしの形は、サタンが自分の保護について心配し、不安にさせ、他の人がその存在を知らないように、または人々が自分の優位性を受け入れるような方法でそれを明らかにするために、それをどこに使うべきか、どのように隠すかについてアドバイスするというものです。 これらや他の同様のほのめかしは、人を心配させ続けるでしょう。 貪欲の爪で物質的な富の死骸を掴んだ後、サタンから救われることを望む人は、蜂蜜に落ちてハエがその上に座らないことを期待している人のようなものです。 これは単なる一つの扉ではなく、ほのめかしの重みを背負ったサタンの軍隊が絶えず絶え間なく出入りする無数の扉です。 ある賢者(賢者)は、サタンは罪の道を通して人にやって来ると言いました。 この道が閉じられると、彼は助言の道を採用し、神の導き(ビダ)から逸脱する事柄に人を巻き込みます。 その道が閉ざされている場合、サタンは人を[自ら課した]苦難、窮屈、過激主義の道に導き、禁じられていないことさえ自分自身に禁じてしまう(*ハラム*)ことさえあります。 もしその道を閉ざすと、サタンは清め(*武都*、つまり正式な祈りの霊的状態に入るために必要な身体の浄化)と祈りについての疑いと不安に人を巻き込みます。 もし人がその道さえも閉ざすなら、サタンはその人に善行を容易にする。 人々が敬虔で、忍耐強く、無邪気で、道徳的正直さの持ち主であると考える人に近づき始めると、サタンは人を独善、自己賞賛、自己誇大、虚栄心(*ウジュブ*)に巻き込み、それで人を破壊します。 ここでサタンは、もしそれを逃しても獲物が彼の[狩猟]網に閉じ込められることはなく、代わりに天国に直行することを知っているので、これが彼が逃したくない最後の機会であるため、彼の力と力で彼が持っているすべてを費やします。

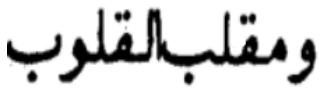
その点で心臓と心臓の種類の急激な変化

前述したように、心はさまざまな対照的な性質に囲まれています。 四方八方から矢の嵐が撃たれる標的のようなものです。 あるものがそれに影響を与えた場合、別の何かがやって来て、その影響を消散させます。 サタンはそれを低次の自己の欲望に引き寄せます。 エンジェルはそれを反対方向に引っ張る。 あるサタンがそれをある悪に引き寄せ、別のサタンがそれを別の悪に引き寄せます。 同様に、ある天使がそれをある善行に呼びかけ、別の天使がそれを別の善行に呼びかけます。 その心は、時には二人の天使の間、時には二人のサタンの間、そして時には天使とサタンの間の闘争に巻き込まれます。 そこには平和な瞬間はなく、夢中になっていないときはまったくありません。 次の詩は、同じ心の状態をほのめかしています。



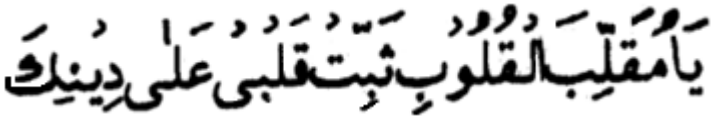
「そして、われは彼らの心と視界をそらす」。 (クルアーン、第6章、110節)

それは、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が、心の驚異の中で神の素晴らしい創造に気づいており、この肉片が常に儚く、儚く、常に変化する状態にあることに気づいていたからです。 だからこそ、彼はよくこう誓っていたのです。



「私は心のチェンジャー(つまり神)によって誓います」。 (この伝統は、*[預言者の仲間]アブドゥッラー・イブン・ウマル[神が彼を喜ばれますように]の権威に関する*サヒー・ブハーリ)

彼はよく次のような嘆願をたくさんしていました。



「おお、心を変えるおお!私の心をあなたの道にしっかりとしてください。」

人々は彼にこう尋ねました:「おお神の使徒よ!あなたも自分の心について不安がありますか?」 彼は答えました:「

وما يومنني والقلب بين اصبعين من اصابع الرحمٰن يقلبه كيف يشاء

心が慈悲深い方(神)の二本の指の間にある間、私は何のために恐れを知らぬようになるのでしょうか。彼はそれを望むようにひっくり返すことができますか?」

心の変わりやすさとその中にある神の神秘は、常に心を見守り、常に熟考状態にある人々によってのみ知覚できます。

変化可能性と安定性の観点から見た3つのタイプの心: 善か悪かの安定性、またはその2つの間に躊躇しているままであるという点で、心には3つのタイプがあります。

神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、恐れの光で満たされた心(*タクワ*):一つの心は、神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧の光(*タクワ*)に満ちており、すべての卑劣で卑劣な内面の特徴から浄化されています。 そのようなタイプの心は、目に見えない領域の宝庫と天使の領域(アラム・アル・マラクート)から良い考えを受け取ります。 知性は、その機微、複雑さ、秘密、利点を認識するために彼らを熟考します。 洞察の光(*バセラ*)が何か良いものを良いものとして明らかにすると、知性はその重要性を決定し、それに基づいて行動するように心を説得します。 天使[神の光を心にもたらす責任がある]が心の本質が浄化され、浄化されているのを見ると、知性と健全な推論の光がそれを照らし、神への恐れの光の光を照らす[自分自身と他人にとって否定的で卑劣で有害なものすべてに対する道徳的抑制として作用]がいたるところに落ち、神聖なグノーシスのランプが燃えています。 間違いなく、そのような心は天使が降りて滞在する天使の住まいであり、天使は目に見えないものの軍隊を助け、神が言うように、正義とそれを育む行為が生来の第二の天性になるまで、多くの善の正しい行いに行動する人を助けます。

فَأَمَّا مَنْ أَعْطَىٰ وَاتَّقَىٰ ٥ وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَىٰ ٦

فَسَنُيَسِّرُهُۥ لِلْيُسْرَىٰ ٧

「ですから、[主の顔を求めて慈善活動で]与え、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧心を持ち、正しいこと(神への道)の真理を信じた者は、そのような人に安らぎを創造します。」 (クルアーン、第92章、5-7節)

そのような心は、隠された多神教のような[微妙な悪]でさえ目から隠されたままではいられないという神聖な主権の宮廷からの豊富な照明を持っており、それは暗い夜を這う暗黒のアリよりも微妙です[したがって、卑劣なものや否定的なものに対する感受性は、それに対する前衛としての役割を果たします]。 サタンの欺瞞はそのような心には効果がありません。 彼は洗練された話で欺き、欺こうと最善を尽くしますが、[神のしも

べ、つまり義人]はそれに少しも注意を払いません。 そのような心は、*内なる破壊的な性質*(ムリカートまたは心と魂の破壊をもたらす致命的な内面の性質)を根絶した後、救いと縁起の良い内なる性質(*ムンジヤート*)で飾られます。 これらの救いの内なる資質には、神への感謝(求めなくてもすべての人に与えられた無数の祝福に対して)、忍耐[より高いレベルの霊的認識に人を駆り立てるすべての逆境に対して]、敬虔な畏敬の念、神への畏敬の念と恐れ(*タクワ*)、神からの楽観主義と希望(*リジャ*)、霊的な貧困(あらゆる状況下での神のファクルまたは貧困)、 物質主義の禁欲(*ズード*)、神への愛(マハーバ)、神の命令への満足(*リダ*)、神への熱意と愛情、そして神と一緒にいたいという願望(*ショーク*)、神への信頼(*タワクル*)、神の愛を教え込むために物質的および精神的に神が創造した驚異と神秘への深い熟考(*タファックル*)、神の崇拝、服従、そして人生の本当の目的を達成するための精神的な道での努力における自分自身の欠点に自分自身を課すこと(*イフティサーブ*)など。 神の注意はそのような心にあり、それが以下の聖句で言及されている心です。

أَلَا بِذِكْرِ ٱللَّهِ تَطْمَئِنُّ ٱلْقُلُوبُ

「まことに、心は神の記憶の中に静けさ[と内なる平安]を見出します。」 (クルアーン、13章、28節)

يَٰٓأَيَّتُهَا ٱلنَّفْسُ ٱلْمُطْمَئِنَّةُ ﴿٢٧﴾ ٱرْجِعِىٓ إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرْضِيَّةً ﴿٢٨﴾

「おお、永遠の平和と静けさの中にとどまる安らぎの魂よ!あなたが主を喜ばせ、主もあなたを喜ばれるような状態で、あなたの主のもとに帰りなさい。」 (クルアーン、第89章、27-28節)

低次の自己からの欲望に満ちた心: 2 番目のタイプの心は、最初のタイプの心とは反対です。 言い換えれば、それはより低い自己からの欲望に満ちており、非難されるべき習慣[と傾向]で汚染されています。 この心の扉は、サタンには開かれ、天使には閉ざされています。 このタイプの心における悪の始まりは、低次の自己からの欲望を想像することから起こり、その後、罪や悪にふけることをためらうことから起こります。 心は知性である支配者と相談します。 知性はすでに低次の自己の奴隷であり、非常に熟達し、それに執着しているので、知性はそれに有利に決定し、[間違っていて、卑劣で、有害であると考えられている事柄について]正当化のための手段を提供します。 このようにして、より低いベースセルフ(*ナフス*)は、罪を助ける心を捉え[そしてそれを完全にコントロールします]。 人の心は低次の自己からの欲望に開かれ、貪欲の闇がいたるところに広がり始めるのは、知性の軍隊がすでに抵抗の力を失い、その完全な支配を低次の自己(本質的に悪と悪に傾倒している)に明け渡しているからです。 サタンの支配の輪はさらに広がり、(目立った消費、欺瞞と詐欺、偽りの希望を通じて)外的な贅沢に心を絡み込み、罠にかけ、他の事柄をほのめかします。 その結果、信仰の支配[あらゆる

行き過ぎに対する防波堤として機能する道徳的正しさにつながる神と神の導き]は弱まり、確信の光の灯り[人を正義に導く神の導きの真実性において]消えます。 言い換えれば、神の約束、天国と地獄、そして来世への信仰と確信は終わりを迎えます。 低次の自己からの欲望は、四方八方から心を取り囲み、信仰と確信のランプを消す煙のようなものです。 知性は、人の目が煙で満たされているかのような状態になり、見る能力を失います。 [物質的、非物質的、肉欲的など、さまざまな種類の]欲望の支配は、心から考え、熟考する能力、洞察力を奪い、心(心)は[人生の正しい道について]導きに気づかず、たとえ戒め者が何か良いことについてアドバイスしたいとしても、それを理解することさえできません。 次の聖句は同じ心をほのめかしています。

أَرَءَيْتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ أَفَأَنتَ تَكُونُ عَلَيْهِ وَكِيلًا ﴿٤٣﴾

أَمْ تَحْسَبُ أَنَّ أَكْثَرَهُمْ يَسْمَعُونَ أَوْ يَعْقِلُونَ ۚ إِنْ هُمْ إِلَّا كَٱلْأَنْعَٰمِ ۖ بَلْ هُمْ أَضَلُّ سَبِيلًا ﴿٤٤﴾

「おお預言者よ! あなたは、低次の自己から自分の欲望から神を作った人の様子を見たことがありますか? では、あなたはそのような人を見守って、(自傷行為から救うことができますか? それとも、そのような人々のほとんどが耳を傾け、理解していると思いますか?[いや、むしろ]彼らは牛と同じように、むしろ[正しい]道からさらに逸脱している[何が正しいか、何が悪いか、何が有益か有害か、幸福なものと破壊的なもの、有害なものと有益なものを見る能力さえ欠けている]」。 (クルアーン、第25章、43-44節)

لَقَدْ حَقَّ ٱلْقَوْلُ عَلَىٰٓ أَكْثَرِهِمْ فَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ

「彼らのほとんどが(真実を)信じないことが証明されています。」 (クルアーン、36章、7節)

سَوَآءٌ عَلَيْهِمْ ءَأَنذَرْتَهُمْ أَمْ لَمْ تُنذِرْهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ

「[預言者よ!何の違いもありません]あなたが彼らに警告するかどうかにかかわらず、彼らは[真実を]信じないでしょう。」 (クルアーン、第2章、6節)

心の中には、すべての種類の欲望において同じ状態を持っている人もいれば、特定の欲望に巻き込まれる人もいれば、いかなる欲望にも近づかない人もいます。 たとえば、一般的な罪から遠ざかる人もいますが、美しい顔を見ると、自分自身をコントロールできず、知性を置き去りにして、それに関連する悪事に巻き込まれます。 権力、名声、地位(より高い社会的地位を示す)に飢えている人もいて、それを手に入れる機会が訪れると、それを狂ったように追いかけます。 自分の過ちを聞くことができず、侮辱に耐えられない人もいます。 誰かが一言でも言うと、彼らは怒りで激怒します。 神への畏れ(*タクワ*)と清潔さ(*タハラ*)を守り続ける人もいますが、お金を扱うとなると、神を畏れると神の高揚の衣服をすべて粉々に切り裂き、犬が骨をぶつけるように富と財産に落

ちます。 これらすべての罪は、*低次の自己(*ナフス)からの頑固な間違った愚かさ(ハワ)の煙に包まれた心によって犯され、内なる洞察の輝きが減少し、内気[またはあらゆる形態の放蕩と卑劣さに対する道徳的抑制として機能する謙虚さ]と信仰が去り、これらの人々はサタンの目的と目的を完成することに従事します。

欲望と信仰の間にある心: 第三のタイプの心には、頑固な間違った愚かさから生まれた思考や、悪に誘う低次の自己からの欲望があります。 同時に、信仰から(永遠の真実を)考えが届き、信仰を善と正義へと誘います。 すべての欲望を持つ低次の自己は、邪悪な考えに傾倒し、欲望を扇動し、快楽と快適さを求めることの卓越性を語ります。 知性は正義の思考を助け、欲望を批判し、この[熟考されている問題]は無知の働きであり、結果を気にせずに悪に陥った動物や野獣の行動に似ていることを低次の自己に告げます。 自己が知性のアドバイスに傾いている場合、サタンは低次の自己を追いかけることを放棄し、知性を追いかけ、それが欲望に結びついた要因を強化する方法です。 サタンは知性にこう告げます:「なぜあなたは理由もなく自分自身を締め付けるのですか? なぜ欲望を脇に置いたのですか? あなたの同時代人の中に、自分の欲望に反対し、自分のニーズを放棄する人がいますか? 彼らは世俗的な快楽の分け前を得ており、あなたの運命には、窮屈[そして良い生活からの抑制]しかありません。 あなたが剥奪され、不幸で、トラブルに悩まされている間、彼らは幸運です。 世界中の人々はあなたをからかい、私が歩むように言った道をたどり、大きな地位(と名声)を獲得した他の人の例を挙げます。 彼らの足跡をたどってみませんか? あれこれの学者があれこれのことをするのを見ないのですか、そしてもしそれが悪いことだったら、なぜ彼ら(聖なる宗教的な人々)は[そもそも]それをしたのでしょうか?」 [この力強く、一見論理的で説得力のある説得の結果として、]低次の自己はサタンに傾きます。 まさにこのとき、天使は低次の自己の道を遮り、「現在の喜びを得るために、すべての事柄の最終的な結果と結論に気づかなくなる人は、破壊される。 あなたは、数日間しか続かないこれらの[儚い世俗的な]快楽に頼って、天国の永遠の祝福と喜びを離れるつもりですか? 地獄の苦しみは、欲望を抑制することに忍耐を持つよりも簡単だと思いますか? 人々に従わず、サタンに騙されてはいけません。 他人の罪は、あなたの罰の痛みを軽減することはできません。 もしあなたが、激しい夏と熱波の時期に快適で涼しい家を手に入れたなら、あなたはまだ[儚い世俗的な快楽を楽しむのに忙しい]人々と一緒にいるでしょうか、それとも太陽からの熱の強さで体が溶けず、熱い空気の吹き風が体を炎症させない家を好みますか? この世(地上の存在)におけるあなたの状態は、太陽の熱に耐えられないようなものです。 あなたはその中に立つことさえできませんが、何が地獄への恐怖を妨げているのかはわかりませんか? 地獄の熱は太陽の熱よりも少ないのですか?」 このアドバイスにより、自己は天使に傾くようになります。 要するに、天使とサタンの間の争いと闘争は続き、この争いの中で、人は人生の節目をカバーします。 時には、サタンの性質が支配的になり、低次の自己は完全にサタンに傾き、彼の仲間や助力者になります。それは慈悲深い方(神)のグループを避け、これらすべての行動は、あらかじめ定められた運命によって封印された身体器官を通して行われ、[これらの行為は]人を神から遠ざ

けるものです。 天使の領域からの[高貴な]資質が支配的であるとき、自己はサタンの罠に巻き込まれず、彼の欺瞞を消滅させます。 人は来世の問題において怠惰を示さず、代わりに慈悲深い方(神)のグループに敬意を表し、そのような行動は神の受け入れと承認をもたらす身体器官によって行われます。 これもまた、あらかじめ定められた運命に従って起こります。 「信者の心は慈悲深い方(神)の二本の指の間にある」という[前述の]預言的な物語は、二人の敵の間で進行中の同じ争いをほのめかしています。 そのような心は、永続的に[2つの]グループのいずれかに傾いているのではなく、代わりに、革命と変化の行為がそのような心の中で続いています[それらは善と悪の勢力の間の困難な闘争と戦いの戦場であるため]。

[神の戒めに対する]服従と違反の行為はすべて、目に見えないものの宝庫から物理的な存在の領域に現れ、心は目に見えない超越的な天使の領域の宝庫からの宝物であるため、心はそれらをもたらす手段になります。 心の人々は、この外見を利用して[神が定めた]運命を深く理解します。 天国のために創造された者には[神の]従順の手段が与えられ、地獄のために造られた者には不従順の手段が与えられ、悪い友人たちとの付き合いが与えられ、彼らの心の中に悪魔のほのめかしが創造されています。

サタンは、神の憐れみと寛大さに言及することによって、人々を非常に過度に馬鹿にします。 彼はまた、人生はたくさん残っているので、罪を犯し続け、悔い改めなさいと告げます(長い人生の終わりに向かって)。 彼はまた、神を恐れる人々には事欠かない、そしてあなたが彼らのやり方に反対すれば、悪いことは何も起こらないと彼らに告げます。 クルアーンは、彼の[虚偽で誤解を招く]約束を正確に描いています。

يَعِدُهُمْ وَيُمَنِّيهِمْ ۖ وَمَا يَعِدُهُمُ ٱلشَّيْطَٰنُ إِلَّا غُرُورًا

「サタンは彼らに約束をし、彼らを貪欲にさせ、サタンは彼らに偽りの約束をするだけです。」 (クルアーン、第4章、120節)

悔い改めを約束し、許しの希望を呼び起こし、そのような言い訳と計略で人々を滅ぼすという意味だ。 人々はサタンの欺瞞に影響され、サタンの議論を受け入れ、神が言われたように、永遠の運命の指示によって心が締め付けられます。

فَمَن يُرِدِ ٱللَّهُ أَن يَهْدِيَهُۥ يَشْرَحْ صَدْرَهُۥ لِلْإِسْلَٰمِ ۖ وَمَن يُرِدْ أَن يُضِلَّهُۥ

يَجْعَلْ صَدْرَهُۥ ضَيِّقًا حَرَجًا كَأَنَّمَا يَصَّعَّدُ فِى ٱلسَّمَآءِ

「ですから、神が導きたいと願う人には、神の意志(イスラム教)に服従するように心を広げ、神が[神の導きと永遠の真理の道から]迷いに導きたいと願う人には、あたかも天に登っているかのように心をひどく締め付けます。」 (クルアーン、第6章、125節)

إِن يَنصُرۡكُمُ ٱللَّهُ فَلَا غَالِبَ لَكُمۡۖ وَإِن يَخۡذُلۡكُمۡ فَمَن ذَا ٱلَّذِي يَنصُرُكُم مِّنۢ بَعۡدِهِۦۗ

「神があなたを助けてくださるなら、誰もあなたを支配することはできません。もし神があなたを助けてくれないなら、その後、誰があなたを助けることができるでしょうか? そして、信者は神のみを信頼すべきです。」 (クルアーン、第3章、160節)

これらの聖句から、神だけが導きを与え、道を間違える方は神だけであることがわかります(したがって、神と自分の行動に対する神の不快につながるすべてのものを避ける必要があります)。

يَفۡعَلُ مَا يَشَآءُ وَ يَحۡكُمُ مَا يُرِيدُ

「神はご自分の望むことを行い、ご自分の望むことを決定します。」

誰も神の命令を避けることはできませんし、神の決定を拒否することもできません。神は天国とそれに値する人々を創造し、彼らに[神の]従順の道を歩ませました。 また、地獄とそれに値する人々を創造し、彼らに不従順の道を歩ませ、天国と地獄に値する人々のしるしをしもべたちに告げ、次のように発表しました。

إِنَّ ٱلۡأَبۡرَارَ لَفِي نَعِيمٖ ١٣ وَإِنَّ ٱلۡفُجَّارَ لَفِي جَحِيمٖ ١٤

「敬虔で義人は祝福と慰めの中にあって、まことに卑劣な者は地獄に入るでしょう。」 (クルアーン、第82章、13-14節)

神は高貴で至高です。

لَا يُسۡـَٔلُ عَمَّا يَفۡعَلُ وَهُمۡ يُسۡـَٔلُونَ

「彼は自分の行いについて質問されることはなく、他の人は自分の行いについて質問される可能性があります。」 (クルアーン、21章、23節)

心の驚異に関するこの簡単な説明で十分であり、このトピックについてそれ以上に言うことは、エキゾテリックな知識(外部の問題に関する知識または*イルム・アル・ムアムラ*)との関係では適切ではありません。 ここで言及されたことの目的は、外部性(この知識の外的な輸入)と争われることを望まず、外殻よりも髄(内なる本質)を好み、現実の[内なる]複雑さに熱心な人々を、外的な知識(*ウルム・アル・ムアムラ*)の秘密と複雑さに精通させることでもあります。 この短い説明が、彼らの渇きを癒し、彼らにとって有益であることが望まれます。

第2章- 魂の浄化、照らされた内なる資質の獲得、魂の内なる闇と病気の治癒のための精神的な闘い

ガザリの最高傑作*「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の2冊目の本*は、魂の病気を治し、その目的を達成するために精神的な厳しさを乗り越えて努力することを扱っています。 それは、個人および集団レベルで災害を回避し、個人レベルと集団レベルの両方で人類を再び高揚させるために必要な変革をもたらすために、すべての人間にとって個人的な義務として、魂をより高いレベルの洗練、認識、精神的な上昇、そしてグノーシス(マリファ)に押し上げます。 この本は、次のように要約された形でここで紹介されています[8]。

人格の美しさは、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の[本質的で生来の]資質と特徴であり、霊的に完成された人々、聖人、グノーシス主義者、神秘主義者(シディキーン)の最も優れた行動であることを知らせてください。 実際には、それは宗教の半分です。 それは、神を恐れる人々と敬虔な崇拝者の霊的努力の成果です。 悪い道徳、マナー、性格は致命的な毒であり、その運命には屈辱、落胆、評判の落としが伴います。 彼らは人を神から遠ざけ、サタンに近づけます。 これらは地獄への入り口です。

美しい道徳、マナー、内面の気質、気質、状態、性格(*イクラク・アル・ハサナ*)は、楽園への大きく開かれた扉であり、神の親密さと親密さのための手段です。 悪い道徳、マナー、性格(*イクラク・アル・カビタ*)は心の病気や病気です。 肉体の病気は世俗的な命を奪い、心と魂の病気は来世の[永遠の]命を終わらせます。 体の病気と心や魂の病気との間に明らかな関係はありませんが、医師が身体の病気を治し、無数の規則や規制を策定し、その観点から診断が行われ、薬が処方されていることがわかります。 人間がこの人間の体の病気を治すことに関連して努力するとき、人は心と魂の病気を治すことにも努力すべきです。 そのような病気には、すべての心臓には何らかの病気があり、治癒しないと破壊的になり、その結果、他の多くの病気が生まれるため、すべての人間が学ぶために必要な方法論(診断と治療、およびそれに必要な知識)もあります。 したがって、これらの病気についての知識を得て、その原因を発見し、その治療法に精通することが重要です。 コーランの次の節では:

قَدْ أَفْلَحَ مَن زَكَّىٰهَا

「まことに、幸福と真の成功に到達し、それを浄化した人(つまり、そのすべての病気の魂)は得たのです。」 (クルアーン、第91章、9節)

つまり、心臓の治癒です。

وَقَدْ خَابَ مَن دَسَّىٰهَا

「そして、(神の導きに対する違反、道徳的堕落、内面の堕落、否定的で卑劣さで)魂を台無しにした人は、奪われ、失敗したのです。」 (クルアーン、91章、10節)

この聖句は、[心の病気や病気]を治すことを怠ることについて言及しています。 この本では、心臓のいくつかの病気とその治療状態について簡単に説明します。 すべての病気は、魂の破壊的な性質のみを扱っているガザリの「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」のこの[第3]巻の残りの本で個別に説明されます。 ここでの目的は、道徳、マナー、内面の性格の卓越性を習得し、それを獲得する方法に光を当てることです。 しかし、その前に、身体の病気の治療法が例として言及されます[または霊的な病気を治すための例え]。この議論に散りばめられ、美しい道徳、マナー、性格の卓越性がその現実とともに説明されます。 さらに、断固とした[精神的な]努力を通じて、良い道徳、マナー、性格特性が採用される(教え込まれ、達成される)ことができると説明されます。 良い性格特性を獲得する方法と手段について説明します。 文明と人格の洗練、そして[それを達成するための]霊的努力の方法とともに、心の病気が認識される兆候や兆候が言及されます。

善良な高貴な性格の卓越性と悪い忌まわしい性格の害

詩と預言のナレーション: 神は最愛の預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)を賛美し、次のように彼への恵みを表明しました。

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ

「まことに、あなたは高貴で崇高な性格の崇高な次元にいます。」 (クルアーン、68章、4節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

هوان تصل من قطعكو تعطى من حرمكو تعفو عمن ظلمك

「人格の美しさは、(親戚から)あなたとの関係を断ち切る人々とつながり、親切で思い

やりがあり、あなたを奪う人に与え、あなたを抑圧する人を許すことです。」 (この伝統は、 *イブン・マルダウィヤは*[預言者の仲間]ジャビル、アナス、カイス・ビン・サード・ビン・ウバダ[神が彼らを喜ばれますように]の権威に基づいて)

彼はまたこう言いました。

انما بعثت لاتمم مكارم الاخلاق

「私は、善良な性格、道徳、マナーの完成と完成のために[神によって]定められてきました。」 (この伝統は、 *ムスナド・アフマド*, ハキム そして *バイハキ* [預言者の仲間]アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて)

اثقل مايوضع فى الميزان يوم القيامة تقوى الله و حسن الخلق

「審判の日に行い(ミーザン)の*天秤に置かれる最も重いもの*は、神への畏れと善良な性格、道徳、マナー、内面の気質、気質です。」 (この伝統は、 *アブ・ダウド*と *ティルミディ*は[預言者の仲間]アブ・アル・ダルダ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて)

ある男が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねました。悪い前兆(つまり、すべての良いものからの剥奪)とは何ですか?」 彼は「性格、道徳、マナーが悪い」と答えた。 (この伝統は、 *ムスナド・アフマド*は[預言者の妻]アイシャ[神が彼女を喜ばれますように]の権威で)

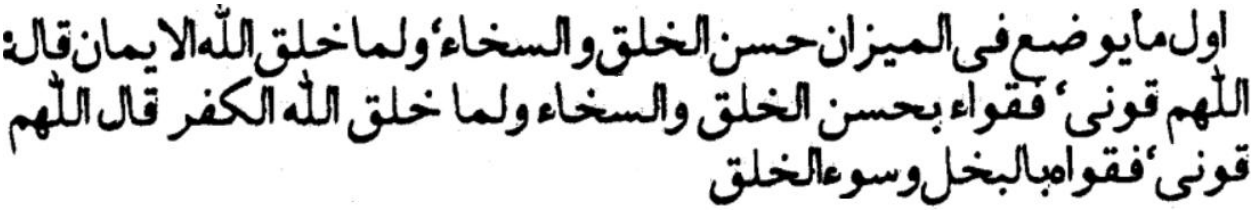
一人の男が預言者のところに来て、アドバイスを求めました。 彼はこう答えた。

اتق الله حيث كنت' قال: زدنى' قال اتبع السئة الحسنة تمحها' قال: زدنى قال: خالق الناس بخلق حسن

「どこに住んでいても、敬虔な畏敬の念、畏敬の念、そして神を恐れなさい」。 彼はさらにアドバイスを求めた。 預言者は「たまたま何か悪いことをしたり、罪を犯したりしたら、善行が罪を消し去るように、善行と高貴なことを行ってください」と答えました。 彼はさらにアドバイスを求めた。 預言者は「良い道徳、マナー、人格を持って人々を扱いなさい」と答えました。

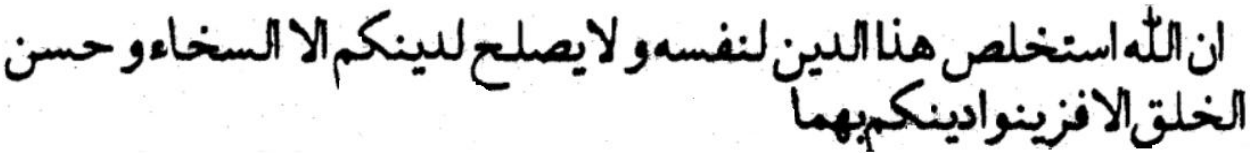
彼は尋ねられました:「おお神の使徒よ! すべてのアクションの中で最高のものは何ですか?」 彼は「美しい道徳、マナー、性格」と答えた。

アブ・アル・ダルダ(神が彼を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言うのを聞いたと言いました。


اول مایوضع فی المیزان حسن الخلق والسخاء ولما خلق اللّٰہ الایمان قال:
اللّٰھم قونی، فقواہ بحسن الخلق والسخاء ولما خلق اللّٰہ الکفر قال اللّٰھم
قونی، فقواہ بالبخل وسوء الخلق

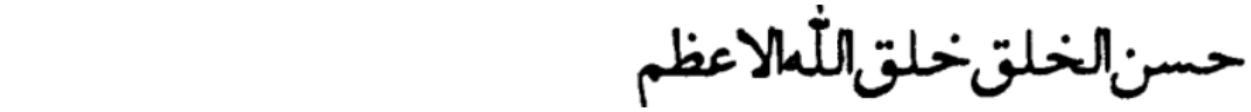
「(審判の日の)行為(ミーザン)*の尺度では*、美しい道徳、マナー、性格(*フスン・ウル・クルク*)と寛大さ(*サハ*)が最初に置かれます。 神が[神への]信仰を創造されたとき、それはこう尋ねました。私に力を与え、強めてください!」 神は美しい道徳、マナー、性格(*フスン・ウル・クルク*)と寛大さ(*サハ*)によってそれを強めました。 神が神への不信仰と拒絶を生み出したとき(*クフル*)、それはこう尋ねました。私に力を与え、強めてください!」 神はそれにケチ(*ブクル*)と忌まわしい道徳、マナー、性格(*スー・ウル・クルク*)の力を与えた」。 (ハフィズ・イラク、偉大な*学者 この本イマーム・ガザリの「神への道の知識の復活」でハディースの出典を調査し、提供したハディースまたは予言的なナレーション*は、このハディースの出典の参考文献を見つけることができなかったと述べましたが、*ハディース*集はアブ・ダウドとティルミディを収めています同じ語り手(アブ・アル・ダルダ[神が彼を喜ばれますように])からの予言的伝統を語っています:「行為の規模において、美しい道徳、マナー、性格ほど重いものはありません」)

預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)はこう言いました。


ان اللّٰہ استخلص ھذا الدین لنفسہ ولا یصلح لدینکم الا السخاء وحسن
الخلق الا فزینوا دینکم بھما

「神はご自身のためにこの宗教を浄化し、あなたの宗教(*ディーン*または神への道)にとって、寛大さと美しい道徳、マナー、性格ほどふさわしいものはありません。 注意!この2つの資質の両方であなたの宗教を美しくしなさい」。 (この伝統は、[*預言者の仲間*]アブ・サイード・アル・フドリ[*神が彼を喜ばれますように*]*の権威に基づく*ダル・カトニとカラ・エティ)

予言的なナレーションは次のように述べています。


حسن الخلق خلق اللّٰہ الاعظم

「美しい道徳、マナー、人格は、至高の神の[神聖な]性質です」。 (この伝統は、 *タバラニ・アウサット* [預言者の仲間]アンマル・ビン・ヤシル[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて)

預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)はこう言いました。

انكم لن تسعوا الناس باموالكم فسعوهم بيسط الوجه وحسن الخلق

「自分の富や財産を通じて人々に対して広がりを持つことができないなら(つまり、あなたの寛大さで人々のニーズを満たすのを助ける経済的余裕がない場合)、笑顔と美しい道徳、マナー、性格を持って彼らと広がりを持ち(人々に対して寛大になりなさい)。」 (この伝統は、 *ハディース*が[預言者の仲間]アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*バザール、アブ・ヤラ、タバラニ* を収集)

バラ・ビン・アージブ(神が彼に喜ばれますように)は、「預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)は、最もハンサムで容姿端麗で、人々に対する道徳、マナー、性格、態度が最も良かった」と述べました。 (この伝統は、 *ハディース コレクション カラエティ*)

アブ・マスード(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)が次のような嘆願をしていたと語っています。

اَللّٰهُمَّ حَسَّنْتَ خَلْقِيْ فَحَسِّنْ خُلُقِيْ

「おお神様! あなたは私の外見を良くしてくださったので、私の内面の性格も良くしてください(つまり、美貌と邪悪で卑劣な内面が組み合わさっても役に立たないので、美貌だけでは十分ではありません。人を本当に美しくするのは、美しい道徳、マナー、性格、内面の性質とともに、美貌です。 つまり、美しい心と魂)です。」 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *カラエティ*)

アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)が、次のような嘆願を豊富かつ豊富に行っていたと言いました。

اَللّٰهُمَّ اِنِّيْ اَسْاَلُكَ الصِّحَّةَ وَالْعَافِيَةَ وَحُسْنَ الْخُلُقِ

「おお神様! 私に健康、平和、安全(この世とあの世のあらゆる害から)そして美しい道徳、マナー、人格を与えてくださいます(これらの祝福の組み合わせは神から与えられた祝福の完成です)」と述べています。 (この伝統は、 *ハディース コレクション カラエティ*)

ウサマ・ビン・シャリーク(神が彼に喜ばれますように)は言いました:「かつて、私は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)を訪ねたとき、砂漠のアラブ人が[神の]しもべに与えられた最高のものについて彼に尋ねていました。 彼は答えました:『美しい道徳、マナー、性格、そして内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)』」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション イブン・マジャ*)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

ان احبكم الى واقربكم منى مجلسا يوم القيامة احسنكم اخلاقا

「審判の日には、優れた道徳、マナー、性格、内面の気質を備えた、私にとって最も愛され、最も身近な人々となるでしょう。」

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から語りました。

ثلاث من لم تكن فيه او واحدة منهن فلا تعتدوا بشى من عمله' تقوى تحجزه عن معاصى الله او حلم يكف به السفيه او خلق يعيش به بين الناس

「この3つ、あるいはそのうちのどれかも持っていない人は、自分の行為のどれもを信頼しません。神への不従順を防ぐ敬虔さ、畏敬の念(*タクワ*)。忍耐、寛容な気質、寛大さ、自制心(*ヒルム*)は、愚かな人と[戦う]のを防ぎます。そして、人々の中で人生を送る良い道徳、マナー、性格、内面の気質(*クルク*)」。 (この伝統は、 *ハディースは*、ウム・サラマの権威に基づいて*カラ・エティとタバラニ・カビール*を収集しています[神が彼女を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、美しい道徳、マナー、性格、内面の性質の質を次のようにさらに語りました。

من سعادة المرء حسن الخلق

「美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)は、永遠の幸福と無限の成功のための[変化の]変革の主体の一つです(*サーダ*)個人のために」。 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *カラエティ*)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はかつてこう言いました。

ان المسلم المسدد ليدرك درجة الصائم القائم بحسن خلقه وكرم مزينه

「神が善を行う能力を与えたイスラム教徒は、その美しい道徳、マナー、性格、そしてその人の優しい内面の気質によって、断食し、一晩中神を崇拝する崇拝者の地位を達成します。」 (この伝統は、 *ハディース集 ムスナド・アフメド*アブドゥッラー・ビン・アムルの権威による [神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はかつてこう言いました。

ان العبد ليبلغ خلقه عظيم درجات الاخرة و شرف المنازل واله لضعيف فى العبادة

「[神のしもべ、つまり人間]は、たとえ[神の]崇拝に弱いとしても、良い道徳、マナー、性格、内面の気質を通じて、[神の前で]偉大な[霊的]地位と地位を達成するでしょう。」 (この伝統は、 *ハディースは*アナス・ビン・マリクの権威に基づいて*カラ・エティ*と*タバラニ*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

سوء الخلق ذنب لا يغفر وسوء الظن خطيئة تضوح

「悪い道徳、マナー、性格、卑劣な内面の性質は許されない罪であり、他人に対して悪い意見を持つことは、他の罪を生む罪です。」 (この伝統は、 *ハディース集 タバラニ・サギール* [預言者の妻] アイシャ [神が彼女を喜ばれますように] の権威について)

ジュナイド・バグダディ(神が彼に憐れみあれ)は、「知識と[正しい]行動が不足しているにもかかわらず、人間を精神的なレベルに引き上げる4つの資質があります。第一は寛容、第二は謙虚、第三は寛大さ、第四は美しい道徳、マナー、性格、内面の気質です。 この4つの資質は信仰の完全さです。」 カッタニ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました:「*タサウフ*(知識、実践的方法論、精神性の状態)は、*アクラク*(美しい道徳、マナー、性格、内面の気質)の名前です。 *アクラク*で偉大な者は、タサウフ でも*偉大です*。」 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「美しい道徳、マナー、性格、内面の気質を持つ人々に会い、行動で彼らから遠ざかりなさい」と言いました。 ヤヒヤ・ビン・ムアド(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「悪い道徳、マナー、性格は、その前では豊富な善行が有益ではない悪です。 良い道徳、マナー、性格はそのような美徳であり、その存在下では豊富な欠点は有害ではありません。」 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「貴族(カラム)とは何ですか?」と尋ねられました。 彼は答えた:「貴族はクルアーンで次のように言及されています。

إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِندَ ٱللَّهِ أَتْقَىٰكُمْ

「まことに、あなたがたの中で神の目に見てより高貴なのは、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を抱いている人です。*タクワ*)'". (クルアーン、49章、13節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「すべての建物には基礎があり、イスラム教の基礎は美しい道徳、マナー、性格、内面の気質です」と言いました。 アッタ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました:「美しい道徳、マナー、性格、内面の気質によって達成された[霊的な]高みを達成した人。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)以外には、美しい道徳、マナー、性格、内面の気質において完璧を達成した人は誰もいませんでした。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の足跡をたどり、美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)を育む人々は、神に近づいています。」

善良な高貴な性格と悪い忌まわしい性格の現実

美しい道徳、マナー、性格、内面の気質の現実: [関連する] 単語には、*Khalq* (外見の良さ) と *Khulq* (内面の性格と気質の良さ) の 2 つがあります。 これらの単語は両方とも一緒に使用されます。 例えば、このような人は容姿も性格も良く、いろいろと言われています。 つまり、容姿も良く、道徳、マナー、態度、性格、内面性も良いということです。 この人は内面の美しさだけでなく外見の美しさも持っています。 そのような声明では、*Khalq* は外見を意味し、*Khulq* *は*内面の外見を意味し、これは人間が体と魂の組み合わせであるためです。 体は目で観察でき、魂は洞察(*Baseerah*)または内なる目で知覚されます。 体と魂には、どちらも状態と外観があります。 この外観は、楽しいものでもあり、醜いものでもあります。 洞察(*バセラ*)または内なる目によって知覚される魂は、目で知覚される肉体よりも優れており、高いです。 したがって、神は魂をご自身に帰し、その偉大さを次のように表現しました。

إِنِّي خَٰلِقُۢ بَشَرًا مِّن صَلْصَٰلٍ مِّنْ حَمَإٍ مَّسْنُونٍ ﴿٢٨﴾

فَإِذَا سَوَّيْتُهُۥ وَنَفَخْتُ فِيهِ مِن رُّوحِى فَقَعُوا۟ لَهُۥ سَٰجِدِينَ ﴿٢٩﴾

「私は音のする粘土から人間を創造しようとしています。 ですから、私がそれを創造し終え、その中(つまり、人間の外側の形である肉体)に私からの魂を入れたとき、あなた方[天使よ]は皆、その前にひれ伏してひれ伏しました(私の意志と人間を創造するという神聖な目的に服従し、自分の魂の高尚さに服従するため、 神の秘密と、本質的に固有の神聖なグノーシスの形で、精神的な達成の頂点に到達する可能性による)。」 (クルアーン、15章、28-29節)

この聖句では、体は粘土に、魂は神に帰されます。 ここで魂(*Ruh*)と自己(*Nafs*)は同じものを指しており、魂の代わりに自己という言葉が使われる場合、混乱はあってはなりません。 それでは、*クルク*(内面の性格と性向)の説明を聞いてみましょう。 *クルク*は、行為が容易に実行される自己の固有の固有の状態の名前です。 この[自己の]状態から生まれた行いが、神の律法(*シャリーア*)と知性に従って善であるならば、それは美しい道徳、マナー、性格、内面の気質と呼ばれ、行いが悪い場合、それは悪い道徳、マナー、性格、内面の気質と呼ばれるでしょう。

この定義では、行為が簡単かつ楽に実行されるようにする自己の固有の本質的な状態の条件は、[慈善行為に]費やし、困っている人々を助けるために努力したり、力や闘争などによって怒りをコントロールしたりすることは、*クルク*(内面の性格と気質)は、何の

努力もせずに(良いか悪いか)行為を通じて表現するものであるため、寛容ではないからです。

ここには4つの問題があります:第一に、行いが良いか悪いか、第二に、人は善行か悪行かのどちらかを行うことができるかどうか、第三に、その現実を知ること(つまり、行いが善か悪か);第四に、美か醜かのどちらかに傾き、どちらか一方が容易になる自己の中に固有の内在状態の存在。 *クルク* (内面の性格と気質)は第四の意味に関連しています - 言い換えれば、それは人間がケチや寛大さのような[否定的または肯定的な活動]に積極的に従事する固有の内在状態[自己の中に深く根付いた]ものです。

内面の美の4つの要素: 外見の美が単に美しい目を持っているという名前ではなく、目、鼻、耳、唇、頬など、すべての器官のバランスと比率を美と呼び、これらすべての美しさを通して、美しさの完成[と完成]がもたらされます。 同様に、内面の美しさにも4つの要素があり、[内面の美しさを持つために]4つの要素すべてに美しさが必要です。 これら[4]つの要素すべてがバランスが取れていて比例しているなら、人間は内面の美しさの点で完全であると言われるでしょう。 これら4つの要素は、知識の力、怒りの力、欲望の力、正義の力、つまり、最初の3つの力をバランスと節度の状態に保つ力です。

知識の力の卓越性と美しさは、それによって人間が発言における虚偽と真実、信念における真実と虚偽、行動における美と醜さを区別できるようになることです。 この力がそのようなレベルに達すると、その果実は知恵(ヒクマ)の形で与えられます。 美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*イクラック*)の現実は、神がこう言われる知恵です。

وَمَن يُؤْتَ ٱلْحِكْمَةَ فَقَدْ أُوتِىَ خَيْرًا كَثِيرًا ۗ

「そして、知恵を与えられた者は、計り知れない善の源を受け取ったのです。」 (クルアーン、第2章、269節)

怒りと欲望の力の卓越性は、この2つが知恵の方向、つまり知性と神の法則に基づいて作用することです。 バランスと正義の力の目的は、怒りと欲望の力を知恵に従属させ、服従させることです。 知性は助言者であり親切なヘルパーのようなものであり、バランスと正義の力は知性からのアドバイスの実行者です。 怒りは知性の方向を受け入れる能力を持つ力です。 その類似性は、訓練が必要な狩猟犬のそれのようなもので、その後、ハンターからのヒントがなければ、前進も後退もしないようになります。 欲望は、狩猟に出かけるために乗った馬のようなものです。 馬は訓練され文明化され、

時には野生的で反抗的です。 バランスと正義の力によって、欲望はコントロールされ、そうでなければ狩り[永遠の幸福と永遠の成功]ではなく、人間自身が狩られることになります。

この四つの要素を、節度のレベルで[内面の美]を所有する人は、美しい道徳、マナー、性格、内面の性質を持つ人になります。 [内面の美しさの]いくつかの要素を適度に持っていて、不均衡で不節度なもの(つまり、これらの要素が少なすぎたり多すぎたりするような極端な場合)を持っている人は、穏健なものに関して良い性格と呼ばれます。 その例は、顔に美しい目を持っている人のもののようなものですが、他のことは良くありません。 この場合、目に関しては美しく、他の臓器に関しては醜いと呼ばれます。 怒りの力の美しさとバランスのとれた節度は勇気と呼ばれます。欲望の力のバランスのとれた節度と美しさは、無邪気さ(*'Iffa*)と呼ばれます。 怒りの力がバランスのとれた節度のレベルを超える場合、それは過度の怒り(*タフール*)と呼ばれます。バランスの取れた節度のレベルを下回っている場合、それは臆病者と呼ばれます。 同様に、バランスのとれた節度のレベルを超える欲望の力は「悪の扇動者」(*シャール*)と呼ばれ、バランスのとれた節度のレベルを下回る欲望の力は停滞(*ジャムード*)と呼ばれます。 両極端の中間で必要なバランスのとれた節度のレベルは、勇気と無邪気さです。 スペクトルまたは両極端の両端にあるもの、言い換えれば、不足または過剰は目的ではなく、代わりに、それら(極端)は非難され、卓越性(*ファダーイル*)と呼ばれる代わりに、奇形(*ラダイル*)と呼ばれます。 正義の力(*'Adl*)には[バランスのとれた節度のレベルにあるため]欠乏性や過剰性はなく、その反対は抑圧です。 正義が存在しないと、抑圧は消えます。 知識のバランスのとれた節度のレベルは知恵(*ヒクマ*)と呼ばれ、それを間違った目的に使用することは、バランスの取れた節度のレベルから外すことです。その使用法が過剰に向かっている場合、それは悪と欺瞞と呼ばれ、その使用法が不足に向かっている場合、それは愚かさと呼ばれます。 知識の中間レベル(バランスのとれた節度)は知恵と呼ばれます。 これらの詳細は、善良な性格 (イクラク) の基本原則と構成要素が、知恵、勇気、無邪気、正義の 4 つであることを示しています。

知恵とは、善悪を区別できる自己の状態(*ナフス)を指し*、自分の能力の範囲内にあるすべての事柄です。 正義とは、怒りと欲望を支配し、それらを知恵に服従させる自己の状態(*ナフ)*を指します。 勇気とは、怒りの力が知性の力に服従し、彼らの許しなしに行動したり、行動を控えたりした状態をいう。 無邪気さとは、欲望と欲望を規律正しくし、知性と神の法則に従属させることができる力を指します。 すべての良い資質と性格特性の起源と源泉は、これら4つの原則です。 たとえば、次の賞賛に値する内面の資

質は、知性の力のバランスの取れた節度から生まれます:物事を通して考えることによる賢明な意思決定、心の鋭さ、物事に対する賢明な視点、低次の自己の隠れた害の認識、そして事柄と行動の微妙さ。 この[知性の]力の過剰は、不正、[他人に危害を加える]工夫、欺瞞、狡猾さに対する内なる否定的な性質を生み出します。[知性の力]の欠如は、経験(専門知識とノウハウ)の欠如、愚かさ、愚かさ、[物事の現実についての]認識の欠如、強迫観念(強迫観念的な行動)などの病気を引き起こします。 経験不足とは、ある問題では経験があっても、別の問題ではまったく経験がないため、想像力の思考プロセスが健全であるにもかかわらず経験がないことを意味します。 愚かさと執着の違いは、愚かな人の目的は正しいが、目的を達成する方法を知らないことです。 強迫観念とは、採用する価値のないものを採用することです。 勇気のバランスの取れた節度は、高貴さ、大胆さ、自分自身を厳しく見守る、忍耐、忍耐、怒りの抑制、尊厳、冷静など、これらの美しい内面の資質を育みます。 勇気の欠如は、侮辱、屈辱、恐怖、安っぽさ、劣等感、勇気の欠如、士気の低下を引き起こします。 無邪気さのバランスのとれた節度は、寛大さ、謙虚さと内気さ、忍耐力、他人の欠点を無視すること、満足感、神への畏れ、繊細さ、高い勇気と士気、広い心と寛大さ、そして貪欲さの欠如を育みます。 無邪気さのバランスのとれた節度の限界を超えることは、貪欲、貪欲、恥知らず、悪に対する内面の気質、浪費と浪費、誇示、他人を侮辱し、お世辞、嫉妬、恥辱、貧しい謙虚さを貶めるなどの内なる病気と否定的な破壊的な性質を生み出します。

この結論から言うと、美しい性格、資質、内面の性質には、知恵、勇気、無邪気、正義という4つの原則があります。 他のすべての道徳、マナー、内面の性格特性、および資質は、これら 4 つの主要な資質の枝です。 これら4つの原則[道徳、マナー、内面の性格特性と資質の卓越性]において、バランスの取れた節度の完成は、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)以外の誰にも与えられませんでした。 彼の後に来た人々は、この卓越性と完璧さにおいて彼に近づいていません。 人がこれらの資質において預言者に似て模倣する限り、人はその程度まで神に近づき、これらの資質において預言者から遠い人は、その程度まで神から遠ざかるでしょう。 これらすべての美しい道徳、マナー、内面の性格特性、資質を体現している人は、すべての行動において他の人に従われ、参照され、従うに値します。 それらがなく、代わりに彼らの反対の具現化である人は、町から追放され、人々によってボイコットされるに値します。 悪や悪をやめることによってサタンから距離を置くのと同じように、そのような人も同様に距離を置くべきです。 道徳、マナー、内面の性格特性、資質の卓越性を体現し、天使の資質に近い人がリーダーシップと模倣に値するのと同じように、同様に、悪魔の資質との関連のために、神の憐れみから捨てられ、避けられるに値する人。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、*イフラク*(美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質、資質)の完成

と完成のために派遣されました。 これらの資質は、クルアーンが信者の資質の一部として言及したものです。

إِنَّمَا ٱلْمُؤْمِنُونَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ ثُمَّ لَمْ يَرْتَابُوا۟ وَجَٰهَدُوا۟
بِأَمْوَٰلِهِمْ وَأَنفُسِهِمْ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلصَّٰدِقُونَ

「完全な信者とは、神とその預言者を信じ、その後[神の導き]を決して疑わず、[物質的な]所有物と自分自身を使って[神の近くに到達するための誠実な努力を]神の道に努力した人々です。 これらは真実の者(*サディクーン*、 つまり神のグノーシス、友情、親密さに値する人々)です。」 (クルアーン、第49章、15節)

何の疑いも躊躇もせずに神とその使徒を信じることは、確信の力の行為であり、確信の力は知性と知恵の完成の果実です。 物質的な所有物に努力することは寛大であり、この努力は欲望と欲望がコントロールされているときに起こり得ます。 自分自身と努力することは勇気であり、この努力は知性の条件とバランスの取れた節度の範囲内で怒りの力を使って行われます。

霊的な努力と闘争による性格と内面の資質の変化

[誤った]信念を誤って見ている人は、努力(すべての否定的で有害な傾向や資質を心と魂から取り除くことによって、より良い人間になるために内なる霊的変容を達成するための精神的な努力)を負担と困難にする[または不可能でさえある]と考えています。 彼らは、自分の内面を浄化し、変容させ、自分の人格を構築し、それを文明化することに忙しくすることを望まない。 彼らは自分の性格の欠点や害を及ぼす傾向を考慮しておらず、自分自身の個人的な欠点、欠陥、否定的な傾向によるものです。 代わりに、彼らは性格、道徳、マナーはそのままであり、自分の内面は変えられないため、変容は不可能であると主張しています。 彼らは自分たちの主張を支持する2つの議論を提示した。まず、 *クルク* は人の内面の形と外見の名前であり、 *ハルク* は人の外面の形と外見の名前です。 外見や形を変えることはできません。 たとえば、背の低い人は身長を伸ばして背を伸ばすことはできず、背の高い人は背を低くすることはできません。 醜い人は美しくなることはできず、美しい人は醜くなることはできません。 内側の形と外観

は、外側のものとして解釈されるべきです。 彼らが持っている第二の議論は、美しい性格は欲望と怒りを排除することを意図しているということですが、私たちは経験と試練を通じて、欲望と怒りは生来の人間の本性の一部であり、それらは決して終わらず、それらを追いかけることは無駄な努力であり、無駄な努力に人生を浪費することであることがわかりました。不可能。 以下では、これらの議論の両方に対する答えを提供します。

最初の議論への答え:それは、もし性格の変化と変容が不可能であったなら、説教、助言、訓練、教育は必要なかったでしょうし、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)も言わなかったでしょう。

「道徳、マナー、性格、資質を良いものにしてください」。 (この伝統は、 *ハディース集 アブ・バクル・ビン・ラル・フィ・マカリム・アル・イクラク* ムアドの権威 [神が彼を喜ばれますように])

道徳、マナー、性格、内面の性質、資質の変化と変容は、人間だけのものではなく、動物の資質さえも変化します。 タカを見てください、野生ではありますが、人間に慣れています。 訓練後の狩猟犬は、飼い主の命令で獲物を追いかけ、捕まえて食べずに飼い主に提示することができます。 同様に、野生の馬は訓練後に従順になります。 これらはすべて、性格の変化の例ではないでしょうか? これに関連する問題の現実は、完全な存在と欠陥のある存在の2種類があるということです。 完成された存在とは、その存在に関して完全なものであり、人間にはそれらの減少または増加を引き起こす力がないため、それらの減少も増加もありません。 たとえば、空、星、体の外側と内側の部分、動物とその[内側と外側の]部分などです。 欠乏存在とは、まだ存在が完全ではない存在です。 完璧に達する条件があれば、完成に到達することができます。 たとえば、ナツメヤシの種は果物でも木でもありませんが、その組成は、植えられて水をやれば、この種子は木になる可能性があるため、木になる可能性があります。 しかし、誰かがこの種子を直接果物に変えたいと思った場合、それは果物になる可能性がないため不可能です。 種の状態が人間の特権の影響を受け、ある状態から別の状態に変化するような状態である場合、どうして怒りと欲望の力が変容しないのでしょうか? しかし、これらの力を完全に根絶することは、私たちのコントロールの範囲内ではありません。 霊的な厳しさと練習、そして霊的な努力によって、私たちはこれらの力をコントロールすることはできますが、それらを終わらせることはできません。 私たちはまさにそうする

ように[神に]命じられており、これが神(*ウースル・イル・アッラー*、つまりグノーシスと神の親密さ)の後世における私たちの救いのまさに手段です。 しかし、[人間の]気質は多彩または異なり、変化を受け入れてすぐに変化する気質もあれば、それを遅く受け入れる気質もあります。 気質の違いには2つの理由があります:1つ目は、変容が望まれる特性が、生きている限り存在しているため、気質にしっかりと根付いていることです。 欲望、怒り、傲慢の特徴の変容はすべて可能ですが、変容するのが最も難しいのは、生まれたときからそうである欲望と欲望の特徴です。 だからこそ、小さな子供でも欠けているわけではありません。 怒りは通常7歳以降に生まれ、その後初めて識別力が生まれます。 第二に、特定の性格特性は、それとその意味に基づいて豊富に行動し、それを継続的に良いと見なすことにより、第二の天性になっているということです。

人間の4つの段階: これに関連して、人間には4つの段階があります。 第一段階は、人が生まれたのと同じ状態で生きており、真実と偽り、善と悪を区別せず、自分の本性に関しては、あらゆる種類の信念を欠いているということです。 そのような人の治療は簡単で、短期間で健康になることができます。 そのような患者は、スピリチュアルなガイド(*ムルシド*)と内なる触媒を必要としており、そのような触媒が人をスピリチュアルな努力へと駆り立てるようにします。 そのような人の道徳、マナー、内面の気質、性格はすぐに良くなる可能性があります。 第二の段階は、悪を悪と考えるが、善行をする習慣がないということです。 その代わりに、サタンは人を悪行に巻き込み、そのような人は自分の欲望や欲望に従属し、真理の道から逸脱しているにもかかわらず、自分の欠点に気づいています。 そのような人の変容は、改心には2つの段階があるため、第一級の[人]よりも難しいです。第一に、人の悪い習慣を断ち切る必要があります。第二に、人は善行に慣れる必要があります。 人の改革は、そのような人が霊的な厳しさと努力に積極的に備えているという条件で可能です。 第三度は、悪い道徳や性格特性を善だと考え、悪や悪の行為は人にとって必要であり、そのような道徳や行動で育てられてきたということです。 そのような人を治すことは不可能であり、そのような人の[内なる霊的]変容は期待できません、なぜなら、誤った導きの理由が1つあれば、それは取り除くことができるからです。 第四度は、自分自身が悪に巻き込まれており、[その上]他の人が自分と同じようにしているのを見たいと願い、他人を破壊することを誇りに思うことです[道徳的にも精神的にも、最終的にはあらゆる意味で完全な破壊につながります]。 そのような人は非常に困難なレベルにあり、人の誤った方向性は何層にも重なっています。 そのような人の改革は不可能であり、考えられません。

これら 4 つの段階またはカテゴリーでは、一人称は単に無知であり、2 人称は無知で見当違い、3 人称は無知で見当違いで悪に陥りがち (*ファシク*)、4 人称は無知で見当違いで、悪に陥りやすく、危害や苦難に招き入れる人です。

2番目の議論への答え: 敵対者は、霊的練習の目的は、たとえそれが不可能であっても、欲望と怒りの力を根絶することであると主張しています。 私たちは、これらの力の根絶が目的ではなく、むしろ欲望の力の創造が有利であり、人間におけるその存在が必要であると主張します。 ですから、食べたいという欲求がなければ、人は滅びます。 交尾したいという欲求が残らなければ、人類は終焉を迎えます。 怒りが存在しなくなると、有害なものから身を守ることができず、滅びます。 目的は、これらの力を根絶することではなく、過剰と不足から保護し、バランスの取れた節度のレベルに導くことだけです。 たとえば、怒りの目的は、無謀につながる過剰な量の怒りが残っておらず、臆病さがあってはならず、代わりに怒りの力が知性と神の法則に従属することです。 神はこう言われます。

وَٱلْكَٰظِمِينَ ٱلْغَيْظَ وَٱلْعَافِينَ عَنِ ٱلنَّاسِ ۗ

「そして彼らは怒りを抑え、人々を許す人たちです。」 (クルアーン、第3章、134節)

この聖句では、怒りを抑える人々が称賛されています。 そもそも怒らない人を指す言葉ではない。 これは、怒りと欲望の根絶が不自然なことであり、これが神の律法の目的ではないことを示しています。 神の法則の目的は、[怒りと欲望の]2つの力を、知性がそれらを征服し、支配し始めるようなバランスのとれた節度のレベルに導くことであり、知性を支配するレベルには至らないことです。 これが、内面の性格特性と気質の変容の目的です。 時々、欲望[または欲望]は、知性ではそれを撃退できないほどの激しさで人間を攻撃します。 しかし、霊的な努力があれば、バランスの取れた節度に導くことは可能です。 テストと経験がそれを証明し、疑いの余地はありません。道徳、マナー、内面の性格特性の問題においては、過剰や不足の極端ではなく、バランスの取れた節度が必要であるというクルアーンからの証拠は、次の聖句です。

وَٱلَّذِينَ إِذَآ أَنفَقُوا۟ لَمْ يُسْرِفُوا۟ وَلَمْ يَقْتُرُوا۟ وَكَانَ بَيْنَ ذَٰلِكَ قَوَامًا

「そして、彼らが支出するとき、彼らは浪費家でもケチでもなく、むしろ彼らの支出は両極端の中間(つまり、中程度のレベル)にあります。」 (クルアーン、25章、67節)

この聖句は、無謀な支出とケチの[極端な]レベルの中間のレベルである寛大さを指します。 さらに、神はこう言われます。

وَلَا تَجْعَلْ يَدَكَ مَغْلُولَةً إِلَىٰ عُنُقِكَ وَلَا تَبْسُطْهَا كُلَّ ٱلْبَسْطِ

「手を首に縛ったり、完全に開いたままにしたりしないでください(つまり、守銭奴でも浪費家でもないで、両極端の真ん中にとどまってはいけません)。」 (クルアーン、17章、29節)

食べたいという欲求の節度にも重点が置かれています。 神はこう言われます。

وَكُلُوا۟ وَٱشْرَبُوا۟ وَلَا تُسْرِفُوٓا۟ ۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلْمُسْرِفِينَ

「食べたり飲んだりし、[節度の]限界と限界を超えないようにしてください。 まことに、神は[節度の限界を超えて極端に]行く人々を好まないのです。」 (クルアーン、7章、31節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

「最善の問題は(あらゆる形態の極端主義や過激主義を避け、バランスの取れた節度という形で)中間にある」。 (この伝統は、 *ムトラフ・ビン・アブドゥッラーの権威に基づくハディース集バイ*ハキ[神が彼を喜ばれますように])

バランスの取れた節度のレベルでの物事の賞賛に値すること、好み、求めの背後には[神の]秘密があります。 この秘密の調査は、来世の永遠の幸福と無限の成功(*サーダ*)は、神が言うように、世俗性のすべての執着や不純物から心を浄化することにかかっているということです。

إِلَّا مَنْ أَتَى ٱللَّهَ بِقَلْبٍ سَلِيمٍ

「[救い、永遠の幸福、成功は]健全な心(つまり、世俗の執着や不純物を含むすべての汚

れから清められた心)を神にもたらす人のためのものです。」 (クルアーン、第26章、89節)

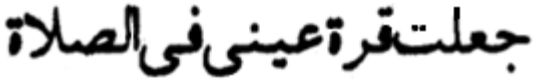
けちさと無謀な支出はどちらも不純物と世俗への執着に属します。 心臓には、これらの四肢の両方が欠けているはずです。 言い換えれば、心は物質的な所有物を[物質主義的な考え方で]蓄積することに傾くべきではなく、それをすべて使うことに傾くべきではありません、なぜなら、使いたいという貪欲な人は、それ(物質的な財、所有物、お金)がどこから来るのか、どこに使うのかなど、心の焦点と執着を持つからです。 一方、守銭奴の心はもっぱら買いだめに集中します。 心臓の安全は、両方の[極端]を根絶することは不可能であるため、両方の[極端]が欠けていることであり、それがバランスと節度の状態である理由です。 その状態では、これらの[ネガティブな]性質は両方とも存在しません。 そのため、熱がお湯から出て冷たくならないときを「ぬるま湯」と呼びます。 この寛大さは、過剰な支出とけちさの節度です。 勇気とは、過度の攻撃性(暴力)と男らしさのなさ(臆病さ)の間の節度の質です。 無邪気さは、貪欲(欲望)と停滞の間の節度のポイントです。 他のすべての内面の資質と性格特性は、この[説明]から推測されるべきです。

あらゆる性格特性と[人間の]資質において、過剰と欠乏の両方が非難され、客観的にはバランスの取れた節度が求められます。 教師やスピリチュアルガイドは、生徒の前で怒りやけちさの害を明らかにすべきであり、これらの[破壊的な]性質をほんの少しでも許すと、さらに多くの言い訳を見つけることになるため、いかなる例外も許すべきではありません。 しかし、少しでも許可しない場合、より少ない量に落ち着き、それ以上の量を求める傾向がなくなる可能性があり、そうすることでバランスの取れた節度のレベルを達成することができます。 より少ない許可は、より多くの許可の言い訳になります。 だからこそ、スピリチュアルな道の学生や探求者には、この2つの力を残すことさえ許さず、代わりに根絶すべきだと言われてきました。 知的能力の低い人はそれに騙され、怒りは自分の権利であり、ケチも自分の権利だと考えるので、この秘密はここに書かれるべきではありませんでした。 [同様に、他の人間の資質と内面の性格特性におけるバランスと節度の必要性は、すべての人間の内面の性格特性と資質を網羅する広範な議論であるため、この議論から推測できます]

美しい内面の性格、気質、資質の手段と源(*Husn ul-Khulq*)は、あらゆる極端を避けた節度です

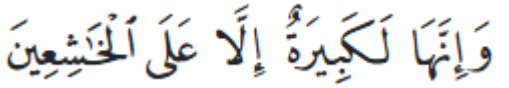
美しい内面の性格特性と資質の核心は、知性の力は適度であるべきであり、知恵(適度なレベルの知性)は完成されるべきであり、欲望と怒りの力は節度のレベルにあるだけでなく、神の法則と知性に従属し、従順であるべきであることであることを、あなたはもうよく理解しています。 この[レベルの]モデレーションは、2つの理由によって獲得されます。 第一の理由[または手段]は、個人に対する神の恵みと憐れみであり、人は生まれた日から善良な性格を持ち、知性を完成させているという[認識]です。 欲望と怒りは一方を支配するのではなく、代わりにどちらも知性と神の法則に従属しています。 そのような人は、学者になるために外的な教育を必要としず、文明的で礼儀正しい人になるために外的なマナーの教えを必要としません。 代わりに、そのような人は、イエス(神の祝福と平安あれ)、ヨハネ(神の祝福と平安あれ)、そしてすべての預言者の最後の預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のような、生まれながらの学者であり、礼儀正しい人です。 人の性質と気質の中に、学習と努力から獲得される[高貴な内面の]資質を持っていることは、突飛な問題ではありません。 最初から誠実で大胆で、与える子供もいます。 一部の子供たちは、最初から嘘つき、臆病者、欺瞞的、守銭奴です。 しかし、これらの特性は、時にはそれを持っている人々と付き合うことによって、そして時には[周囲の他の人に見たものをエミュレートするなど、さまざまな学習手段を使用して他の人から]学ぶことによって生まれます。 第二の理由[または手段]は、霊的な厳格さ、努力、練習によって、美しい内面の性格特性、気質、資質を獲得することです。 言い換えれば、望ましい内面の性格特性または品質が達成されるように、より低い自己から仕事を強制することによって。 たとえば、寛大になりたい人は、寛大な人々に従い、彼らと同じように富を費やすべきです。 この[努力]は、低次の自己が習慣としてそれを習得するまで、そして寛大さが気質と内面の気質の一部になるまで続くべきです。

同様に、傲慢さに支配され、謙虚になりたい人は、謙虚な人々の行動に従い、努力と精神的な闘争を続け、この内なる性格特性が習慣になり、謙虚さが低次の自己にとって容易になるまで、低次の自己を謙虚に傾けるように努めるべきです。 それは、すべての善良で賞賛に値する内面の性格の資質と特性を獲得するための同じ方法です。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



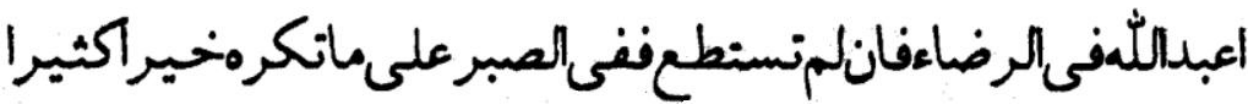
「私の目の冷たさは祈りの中にある」。 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *ナサイ* アナスの権威により[神が彼を喜ばれますように])

預言者は、この正義の行いが彼の習慣であり、第二の天性になったため、祈りの中で目の冷たさを感じました。 低次の自己が礼拝に困難を感じ、禁止を放棄することの難しさを感じるまで、害は残り、永遠の至福の完成は達成されません。 しかし、苦難や苦痛の感情を抱えて善行を忍耐することは、忍耐力の欠如よりも優れていますが、欲望と内なる傾向を持って行うことよりも優れているわけではありません。 神はこう言われます。



「心に謙虚さを持っている人を除いて、本当に祈りは難しいです。」 (クルアーン、第2章、45節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「*リダの状態で神を礼拝しなさい*(神の御心を喜び、それが良くも悪くも、神があなたのために選んでくださったものに喜びを感じてください)。 [この霊的状態の高尚さのために]それが不可能な場合、嫌いなものに忍耐強く、(霊的な宝庫の貯蔵庫であるため)計り知れない利益があります。」 (この伝統は、 *ハディースコレクション タバラニ・カビール*)

*それはサーダ(永遠の幸福と終わりのない勝利を予感させる幸運)*の完成ではなく、時には*リダ*(神の命令を完全に受け入れ、それを喜ぶ)と内なる傾向で[正しい]行為が行われ、それを行うことに喜びを見出し、時にはその逆です。 代わりに、あらゆる瞬間、あらゆる場面で同じ状態にある必要があります。 むしろ、年齢が上がるにつれて、欲望と愛情、内なる傾向、神の愛、神の命令への憧れと受け入れが増すはずです。

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、*サーダ*(永遠の幸福と無限の勝利を予感させる幸運)について尋ねられたとき、次のように答えました。

طول العمر في طاعة الله

「それは、神への従順と崇拝の中で長生きすることです」。 (この伝統は、*アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威によるハディース集アブ・マンスール・アッド・デイラミ*[神が彼を喜ばれますように])

預言者(神の祝福と平安あれ)や聖人が死を嫌っていたのは、預言者の語りによれば、「世界は来世の耕作地(農地)である」からです。 人が命を持っている限り、その程度まで神の崇拝の量であり、その程度まで神からの報酬と報酬も同様です。 自己は清浄なものから浄化されたものへと変化し、内なる性格特性と資質は強いものから強いものへ、そして良いものから優れたものへと進歩します。 それ以外に、礼拝の目的は心に影響を与えることであり[神の崇拝は礼拝のためだけではなく、心と魂を育み、神の現実の入り口に到達できるようにし、力を与えるためであるため]、それは礼拝に絶え間ない忍耐と粘り強さがあるときに起こります。

これらの美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質の目的は、世俗的な愛が心にとどまらず、神への愛が心にしっかりと根付くこと、帰郷と神との出会い以外に愛されるものは何もないこと、神に到達できる方法で物質的な所有物を費やすことです。 怒りと欲望はどちらも、神の法によって概説された方法に従って使用され、またグノーシスと神の親密さの状態で神に到達する手段となるために、[従属状態で]人間の処分に委ねられてきました。 その後、人はそのような行為に満足し、楽しいと感じるべきです。 誰かが祈りに慰めを見出したり、その中に目の冷たさを感じたり、神の崇拝が良いように思えたりする場合、自己の[良い]習慣がさらに不思議で奇妙なものが現れる理由になる可能性があるため、これは驚くべきことではありません。 王や裕福な人々は、常に悲しみと痛みに悩まされています。 一方、負けた後もまだ幸せで、それに喜びを見出している貧しいギャンブラーを見てください、そしてそれがなければ、人生は非常に困難になるでしょう。 ギャンブルは富の損失を引き起こし、家や家族は破壊され、生活の快適さは奪われ、法執行機関への説明責任への恐怖が剣のように彼らの上にぶら下がっています。 それでも、しばらく(ギャンブル)をプレイすると慣れてしまい、試しても抜け出せないため、この依存症を取り除くことはできません。 鳩を飛ばす人は、このスポーツに夢中になっているので、ハトが大好きで、ハトがオープンスペースで飛ぶのを

見ることに興味があり、ハトに賭けることがお気に入りの娯楽であるため、一日中太陽の下に立って太陽光線の厳しさを感じません。 昼も夜も恐ろしい罰で罰せられ、投獄の苦難に直面しているにもかかわらず、間違った行為をやめず、自分の娯楽(本質的に犯罪的な)ことを誇りに値すると考え、喜んですべての罰に直面する性格の悪い人々の状態も同様です。 彼らの[犯罪行為に対する情熱と狂気の程度]は、たとえ泥棒が殺されたとしても、盗品をどこに隠したかを明かさず、(犯罪の)パートナーを特定することもない。 その理由は、彼らは自分たちの仕事を[人間の努力の]卓越性と完璧さと考え、過度の暴力を勇気と考え、これらの活動に慣れすぎて[逮捕、裁判、罰]に直面することを控えていないからです。 これらの罰は彼らにとって慰めの源です。 誰もが忙しく、自分の状態に夢中になり、支配者や指導者であれ、用務員や理髪師であれ、自分の努力や職業を誇りに思っています。 これらすべての事柄は、同じ仕事への粘り強さと忍耐の結果として浮き彫りになり、同じような気質と説得力を持つ人々に同じ事柄が観察されると、これらの事柄はさらにしっかりと根付くようになります。

いずれにせよ、人間の自己が虚偽[そして間違った]ことに喜びを見出し、悪に傾くことができるのであれば、なぜ真実に喜びを見出せず、なぜ善と正義に傾けることができないのでしょうか? 現実には、生来の[人間の]本性は悪いことや内なる破壊的な性質に傾いていません。 土を食べたいという欲求や傾向がある人のようなものです。 この傾向は自然な傾向と呼ぶことができますか? 知恵、神への愛、神聖なグノーシス、崇拝に対する人の傾向は、食べたり飲んだりすることに対する傾向のようなものです[これは純粋な自然現象です]。 食べ物を食べる傾向が生来の[人間の]性質の一部であるのと同じように、同様に、神への愛、グノーシス、崇拝への傾向は、心の生来の性質の必然的な結果です。 これは、心[または魂]が神の命令であり、欲望と欲望の意味合いに対するその傾向は一時的なものである可能性がありますが、永続的で生来自然なものではあり得ないためです。 心[または魂]の本当の栄養は、知恵、神聖なグノーシス、そして神聖な愛です。 障害によって、それがその真の生来の性質の意味から逸脱した場合、それは胃に問題を発症し、胃の栄養は食物によるものであり、人間の生命はそれに依存しているにもかかわらず、食べ物への欲求が残っていない人のようなものです。 この例から、心が神以外の[物事や事柄]に傾いている限り、その心(心や魂)は病気になることは明らかです。 しかし、神以外の愛が神のためであるならば、それは何も悪いことではなく、むしろそのような愛は真の生来の[人間]本性の一部でもあります。

この説明は、霊的な努力と闘争によって、美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質を[明示的に]獲得できることを疑いの余地なく証明しています。 言い換えれば、闘争と

努力でそれらを獲得し、それらに固執し続けると、最終的にはこれらの内面の資質と性格特性が生来の第二の天性になります。 これは、心臓と身体の手足の間の奇妙なつながりであり、心臓に生まれる性質が何であれ、それらは必然的に手足に影響を与え、心臓からの信号を受け取ると動き始めるからです。 同様に、手足によって行われる行動は心臓に影響を与えます。 この心臓と手足の[相互]影響の連鎖は続いています。 例を通してこの現実を理解するのに役立ちます。 誰かが書道の芸術の専門知識を身につけたいとします。 それを習得する方法は、熟練した書道家の例を模倣し、文字や単語をそのまま書くことです。 書道が習慣になり、美しい文字が以前は多大な努力で形成されていたのと同じように、今では簡単に形成され始めるまで、この練習を長期間続ける必要があります。 同様に、誰かがスコラ神学者(***Faqeeh***)になりたいのであれば、スコラ神学者に従うべきです。 つまり、スコラ神学(Fiqh)に関連する問題(事項や知識のポイント)を継続的に繰り返し、リハーサルして暗記し、その影響が心に届き、学んだことに従う真のスコラ神学者になる必要があります。 同様に、寛大で、神を畏れ、寛容で、寛容で、謙虚になりたい人は、寛大さ、神への畏れ、寛容、寛容、謙虚さの装飾品を真に授けられた人々の足跡をたどるべきです。 この従うことは、最初は多大な努力を払って行われますが、後で、従っているこれらの行動は習慣となり、その人の気質や内面の性質にしっかりと根付いていきます。 これはまさに美しい道徳、マナー、内面の性格、特性、気質を身につけるための戦略です。

ここで覚えておくべきことは、スコラ神学の学生が休みを取ったからといって目的が達成できないのと同じように、同様に、一日勉強して繰り返してもスコラ神学者になるわけではないということです。 同様に、義行によって心を浄化し、完成させ、美化しようとする人は、一日の努力によって自分の目的を達成することはできず、罪の日がこの目的の障害になることもありません。 1つの大きな罪は永遠の喪失の原因ではないという学者の声明は、同じことを意味します[自責の念、悔い改め、償いによる神の赦しの扉は常に開かれているからです]。 しかし、一日の休憩は別の一日の休憩の理由になる可能性があり、それが続くと気質の怠惰につながり、低次の自己が何もしないことに慣れてしまう可能性があります。 神が私たちをそれから守ってくださいますように[私たちの霊的状態を改善するという問題における怠惰の結果が、永遠の喪失、剥奪、悲しみにつながるように]。 このような人々の状況は、小さな罪をあまり重要視せず、それを小さなものと考え、[将来の]悔い改めで低次の自己を欺く人々の状態であり、これは悔い改める機会を得られず、死の鉄の手に捕らえられるほどです。 彼らの心は、罪に固執したために暗くなっており、もはや悔い改めることができません。 アリ(神が彼を喜ばれますように - 預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の仲間)は言いました:「心の信仰の始まりは、白い点[神の光の粒子]から始まります。 信仰が高まるにつれて、この

点の照明と大きさも大きくなり、心全体が[神の光の輝きで]照らされます。 偽善は暗い点(心の黒い斑点)から始まります。 偽善が増すにつれて、この粒子の暗さと、人の知覚可能な存在におけるその存在も、心[と魂]全体が暗くなるまで増大します。」

この詳細な説明から、美しいマナー、道徳、内面の性格特性、気質(*イクラク*)は、時には[人の性質に]生得的であり、[その個人への神の賜物と寛大さとして]人間の自己に自然に見出され、時には努力によって獲得する必要があることが証明されています。 この習得は、最初は努力と苦痛を伴って行われますが、後に同じ美しいマナー、道徳、内面の性格特性、気質が習慣になり、気質の一部になります。 これらも気質はコピーが得意で、良いものでも悪いものでもすべての事柄(気質)が吸収されるため、良い人を観察し、その足跡をたどることによって身につけられます。 気質、習慣、教育の3つすべてに[良い性格の一部]を持っている人は、非常に高いレベルの卓越性にあります。 そして、気質に欠陥があり、内面の気質や悪に対する傾向のために悪を好み、悪い友人や仲間もいる人は、極度の屈辱と神からの距離にあります。 他のすべての人々は、これら2つの段階の間[スペクトルの両端]の[霊的]程度にあります。 クルアーンはこう言います。

فَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُۥ ۷

وَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُۥ ۸

「原子の重さに相当する善を行う者は[来世で]それを見るでしょう。原子の重さに相当する悪を行う者は[また]それを見るでしょう。」 (クルアーン、第99章、7-8節)

وَمَا ظَلَمَهُمُ ٱللَّهُ وَلَٰكِن كَانُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ

「そして神は彼らを[少しも]抑圧しませんでしたが、彼らは[世俗的な生活で行った不義で邪悪で間違った行いによって]自分自身を抑圧しました。」 (クルアーン、16章、33節)

道徳、マナー、内面、性格、気質の文明の獲得方法の詳細な解説

身体と自己: 内面の性格特性の節度は健康の指標であり、節度からの逸脱は病気の指標であることを以前に学びました。 それは、体の気質の節度とバランスが健康のしるしであり、健康からの逸脱が病気の兆候であるのと似ています。 議論されている主題に関連して、身体の例を使用できます。 健康と身体的幸福をもたらすために身体の病気を取り除く努力がなされるのと同じように、同様に、内面の破壊的な特性(精神的、心理的、感情的、知的幸福に有害な性格特性、内面の資質、気質)が自己から取り除かれ(*ナフス*)、美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質で装飾されます。 人間の身体システムにおける本当の目的はバランスと節度です。 食物の欠陥とそれに関連する欲求は、胃の欠陥を引き起こす可能性があります。 同様に、人間の内なる自己の本当の目的もバランスと節度です。 この内なる自己のバランスと節度は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の有名な伝承(*ハディース*)で、すべての子供は穏健な気質と真の生来の性質(すべての善に傾倒している)を持って生まれますが、後に両親が彼または彼女を自分の型に形作るというほのめかされています。 ハディースの言葉は次のとおりです。

كل مولود يولد على الفطرة وانما ابواه يهودانه او ينصرانه او يمجسانه

「すべての子供は真の生来の性質[神が全人類を創造したので、人はすでに神への信仰、真理と正義への献身、善と前向きなものすべて、すべての人との平和と調和、そして内なる光と永遠の真理の夜明けにつながるグノーシスの状態を通じて自分の天の起源に到達したいという切望を持っている素因を持って生まれます]、しかし、両親はその人をユダヤ人に改宗させます。 キリスト教徒とマジアン(世界に存在する多様な宗教的およびイデオロギー的伝統をほのめかし、したがって、自分自身の宗教的、イデオロギー的、文化的、地理的、知的文脈の型に人を形作る)」。 (この伝統は、 *ハディース*集 *サヒー・ブハーリ*と *サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブ・フライラの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

体が健康であれば、医師は健康を維持する方法を熟考し、病気の場合、医師は体を健康状態に戻すのに苦労します。 同様に、人は浄化され、礼儀正しく、文明化された自己を守るように努めるべきであり、卓越性と純粋さの特徴を欠いている自己に植え付けようと努めるべきです。 身体の物理的システムのバランスのとれた節度を衰弱させ、破壊する要因の治療がそれらの反対によって行われるのと同じように、同様に、自己の病気の治療もそれらの反対によって行われます。 たとえば、無知は教育によって治され、ケチの病気は寛大さによって、傲慢は謙虚さによって、欲望は痛みや不快感を引き起こすかもしれないが、欲望の洪水の前に障害を設けることによって治されます。 身体

の病気の治療法が、薬の苦しみに耐え、自己の欲望(治癒に役立たない)を抑圧することによって行われるのと同じように、同様に、自己(または魂)の病気は、精神的な闘争(ムジャハダ)の苦しみと硬さに辛抱強く耐えなければ取り除かれません。 代わりに、人間の魂が肉体を離れる死の時に肉体の病気の終わりが起こるが、魂の病気は死後も永遠に残る[魂は決して死なないので]ため、心の病気はさらにこの闘争を必要とします。 熱から生まれた病気は、冷たい性質の薬では治らず、病気の強さや弱さを適量よく考慮して処方されています。 医師はさまざまな薬の量に関する基準を設定し、その基準に照らして病気に見合った適切で有益な量で処方します。 これらの基準を守らないと、病気は減少するどころか増加します。

魂(または自己)の病気の状態も同様です。 スピリチュアルガイドは、魂の病気の治療法が反対のものによって投与される場合、同様の基準に従う必要があります。 医学の基準は、病気の[レベルと性質]に応じて設定されます。 スピリチュアルガイドは、スピリチュアルな患者に耐えられないほど多くのスピリチュアルな練習や厳しさの負担を負わせるべきではありません。 さらに、スピリチュアルガイドは、病気の性質が正しく決定されるまで治療法を処方すべきではありません。 医師は、治療の投与に関連して、病気の評価に従って治療法と薬を処方することが義務付けられています。 同じ薬ですべての病気を治そうとすると、患者の死以外の何も起こりません。 同様に、スピリチュアルガイドは、スピリチュアルな道の[すべての]学生の改革に同じ方法を採用すべきではありません。 もしそうすれば、自分の霊的な患者の心を破壊することになります。 スピリチュアルガイドは、まず自分の生徒(スピリチュアルな完成の道を歩む者)の病気を診断し、生徒の具体的な状況を見直し、年齢と現在の状態を考慮し、スピリチュアルな闘争の厳しさと激しさにどれだけ耐えることができるかを確認することが義務付けられています。 これらすべての問題を慎重に検討した後、スピリチュアルガイドはスピリチュアルな練習を処方する必要があります。

学生(霊的完全の道を歩む者)が[霊的道の]初心者であり、神の律法による[許容される人間の行動と行動の]限界に気づいていないのであれば、まず、外側の[身体の]清潔さ(個人の衛生と浄化)、祈り、外側の礼拝行為を行う正しい方法を教えられるべきです。 もし生徒が違法な(ハラム)物質的な所有物の[取得と所有]に関与し、罪を犯した場合、その人は[教師またはスピリチュアルガイドによって]阻止され、罪の生活を禁じられ、阻止される必要があります[否定的で有害な思考、感情、傾向の内なる罪を含む]。 外的な存在が外的な罪の汚れや汚れから浄化され、[神の]崇拝の行為の光で悟りを開いたとき、スピリチュアルガイドは、外的な状態の兆候を通して生徒の内面を吟味し、その人の

道徳、マナー、性格、傾向、習慣、心の病気を分析する必要があります。 学生が必要以上に物質的な所有物を持っている場合、スピリチュアルガイドはそれを受け取り、慈善活動で分配し、心の中に物質的な所有物への傾向が残らず、神だけに集中できるようにする必要があります。 同様に、学生(霊的完成の道を歩む者)がプライド、傲慢、優越感を支配的に持っている場合、これらの[内なる破壊的な特徴]は屈辱なしには消えず、物乞いほど屈辱的なものはなく、この病気が[自分の内なる存在から]完全に根絶されるまで物乞いを続ける義務があるはずです。 プライドと傲慢さは、心臓の最悪の病気の一つです。 もし生徒が、体と服装の極度の清潔さ(*ナザファ*)を支配しているという考えを持っているなら、その人はそれに傾倒しているかもしれないので、家を掃除させたり、汚れた場所をほうきでほうきで掃除したり、(ストーブからの)煙に対処しなければならない台所の仕事を与えたりする必要があります。 服に目立った消費を採用し、常に美しい服を求める人々は、一日中自分自身を美しくするのに忙しいので、彼らと[もうすぐ]花嫁との間に違いはありません。 さらに、自分自身を崇拝する人と、石や偶像を崇拝する人に違いはありません。

[神の奴隷、つまり人間]が神以外の[何かまたは誰か]を崇拝するたびに、その人の心は神に覆われます(人と神の間にカーテンや障壁が引かれます)。 ドレスの清潔さや許容性以上のものを心配する人は、自分自身の崇拝者です(*ナフス*)。 霊的な闘争の微妙な点の中には、(霊的道の)学生や探求者が内なる破壊的な悪の1つを控えない場合、その人の焦点と方向性は、その否定的な性質から、より低い程度の別の否定的な性質に向けられるということです。 たとえば、子供は最初に学校でバットとボールのゲームにふけり、次にスポーツから良い服に傾き、次に良い服と自己装飾への誇りから政治的地位と名声を求め、最後に来世の人生に傾きます。 名声と権力への欲求を突然裏返す心が傾いていないのであれば、名声と権力のレベルを下げるように説得され、この[内なる破壊的な]性質から徐々に思いとどまらせるべきです。 同様に、スピリチュアルガイドが学生の中に食べ物への貪欲を見つけた場合、断食と食べる量を減らすことを堅持させ、おいしい食べ物を準備し、それを他の人に与える責任を負わせるべきですが、自己(*ナフ*)がそれに慣れ、忍耐の力が生まれ、貪欲が終わるほど自分自身を食べないようにする必要があります。 同様に、学生が若く、結婚を望んでいるが、[夫が妻を養う義務があるため、経済的に結婚生活を支えることができない場合]、断食をさせられるべきです。 断食によって強い欲求が減らないことがあります。 その場合、探求者(霊的旅人)は、水だけで[他の食べ物は使わずに]断食を[決められた時間に]破り、パンを食べないように求められるべきです。 2日目はパンで断食を破らなければなりませんが、欲望の強さが終わるほど肉やその他のカレーや料理は使用しないでください。 最初は空腹ほど良い治療法はありません。

スピリチュアルガイドが探求者の中に怒りの支配を見出すなら、忍耐、忍耐、沈黙を持つように命じられ、マナーの悪い人々と一緒に働くように頼まれ、彼らによって与えられた痛みに忍耐を行使することによって忍耐に慣れるように彼らに仕えるように求められるべきです。 ある聖人(スピリチュアルマスター)が、ほとんどの場合、マナーが悪く、厳しく、失礼な言葉を使うのが習慣だった人々のために肉体労働者として働いていたことについて語られています。 彼は彼らによって与えられたすべての痛みを忍耐強く耐え、(彼らの悪行に対する)怒りを抑えていました。 最初はこれを行うのは困難でしたが、後に忍耐力が第二の天性として彼にしっかりと根付くようになり、彼の名前は庶民の忍耐の模範として受け入れられるようになりました。 一部の聖人は自分自身に弱さと臆病さを感じました。 彼らは、天候が寒く、波が乱れ、乱れているときに海面を旅することによって、[これらの望ましくない性質]を自分自身で治しました。 一部の聖徒は最初は遅く、一晩中頭を下げて立って自分自身を治し、その激しさに動揺し、[礼拝で]足で立つことに同意しました。 川にお金を入れることで、富や物質的な所有物への愛を心から取り除いた人もいます。 彼らは、慈善活動にお金を配るよりも川にお金を預けることを好みました。

これらの例は、心臓の病気を治す方法を示しています。 ここでの目的は、すべての病気の薬を説明することではありません。 薬と治療法については、次のページで説明します。 このとき、目的は、すべての[霊的]病気の治療は、その反対に作用することによって可能であることを説明することだけです。 神は御書の中で、たった一文で治療法を説明されました。

وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ وَنَهَى ٱلنَّفْسَ عَنِ ٱلْهَوَىٰ

فَإِنَّ ٱلْجَنَّةَ هِىَ ٱلْمَأْوَىٰ

「[清算の日に]自分の主の前に立つことを[この世で]恐れ、低次の自己からの[すべての]欲望から自分自身を抑制した人(ハワまたは頑固な間違った愚かさ)[物質的および非物質的(霊的)生活における個人的および集団の幸福に有害である]、天国はそのような人の[最終的な]目的地となるでしょう。」 (クルアーン、第79章、40-41節)

霊的闘争において本当で最も重要なことは、自分がやろうと決めたことをやり遂げることです。 したがって、すべての欲望を拒絶する決意をし、その道で何らかの困難に遭

遇した場合、その人はこれらの困難や障害を克服する勇気を保ち、その決意を果たすためにこれらの困難と闘うことによって、真の霊的闘争です。 もし人が自分の決意(あらゆる逆境に立ち向かって霊的な道を前進する)を果たさなければ、自己はそれに慣れてしまい(つまり、決意を反故に)、人は破壊されるでしょう[人生の真の目的を達成し、永遠の幸福と上向きの霊的上昇による無限の勝利の達成を逃し、代わりに、 それによる永遠の喪失と悲しみにつながる下向きの軌道をたどる]。 もし神が禁じているのなら、自分の決意を裏切るなら、「自己省察と自分の欠点と悪徳のすべてに挑戦する」(第18章)の章で説明されているように、自分自身を罰すべきです。 もし人が自分自身を罰しなければ、(その怠惰さと霊的に前進する決意を裏返すために)、低次の自己が[そのような人]を支配し、これまで行われたすべての霊的闘争が無駄になります。

魂の病気と健康の兆候

すべての身体器官は特定の目的のために作られていることを知らせてください。 それが作成されたアクションがそれによって実行されない場合、または痛みと困難を伴って実行された場合、臓器は健康を失ったと言われます。 手の病気(または変形)は、握る能力を失うことです。 目の病気は、見る能力を奪われることです。 同様に、心(または魂)の病気は、それが創造された特定の任務を遂行できなくなり、[心の特定の任務]は、神の知識、知恵、神聖なグノーシス、神聖な愛、神聖な崇拝であり、神聖な記憶に喜びを見出し、人のあらゆる欲望よりも神を優先し、この[目的]を達成するために自分のすべての欲望と器官から助けを得ることです。 それゆえ、神はこう言われます。

وَمَا خَلَقْتُ ٱلْجِنَّ وَٱلْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ

「私は創造していません *ジン* そして、わたしの崇拝以外の人間も。」 (クルアーン、第51章、56節)

いずれにせよ、すべての臓器にはそれに特有のいくつかの利点があります。 心の独特の作用は、神の知恵とグノーシスです。 人間の特別な性質は、食べたり、飲んだり、見たり、交尾したりする力も動物に存在するため、動物と区別されるものです。 人間の際立った性質は、物事の現実を認識することであり、これは万物の起源、その発明者であり創造者であるという事実です。 誰かが物事の知識を持っているが、その発明者を知らず、認識していない場合、その人はその物事の現実にさえ気づいていないと言われます。 知ることのしるしは愛です。 神も神を愛することを知っている人は、愛のし

るしは、この世の何物も神よりも優先されないということです。 心の中に神以外の何かの愛がある人は、そのような人の心は病気であり、パンを食べるのではなく、土を食べることに慣れている胃のようなものです。 そのような胃は病気と呼ばれます。 これらは心臓の病気の兆候であり、この説明から、神が守ってくださったものを除いて、すべての心臓が病気であることがわかっています。

一部の病気は非常に目立たないため、患者はそれらに気づいていません。 心臓の病気の状況はそのようなものであり、患者はこれらの病気にさえ気づいていません。 だからこそ、人は彼らに怠慢を行使します。 病気の状態を知ると、薬の苦味に忍耐力を行使する勇気を失うでしょう。 それは、心の病気の薬が欲望や欲望に対抗しており、それを行うことの苦痛は、死の苦しみの中で経験するよりも苦痛だからです。 忍耐力を行使する能力があったとしても、(魂の病気を)正しく治療できる専門の医師は見つかりません。 心臓の病気の医師や治療者は[宗教的な]学者である可能性がありますが、彼ら自身の心は[そのような]病気に関与しています。 自分を治すことができないとき、どうやって他人を治すことができるでしょうか? その点で、心臓の病気は悪化し、不治の病になりました。 心臓の病気を治す知識は、これらの病気を理解する人々も、それらを治す人々も残っていないため、絶滅しました。 人々は完全に世俗的な愛に没頭し、外見は崇拝であり、内面は誇示と誇示である行為に耽っています。 これまで、実際の病気の兆候が言及されていました。 次に、治癒の結果として獲得された健康の兆候に耳を傾けてください。

これに関連して、治療する必要がある病気は目に留めておく必要があります。 たとえば、その病気が[人の霊性、霊的道、霊的野心を消し去る本質的な能力のために]破壊的であり、神から遠く離れるものを生み出すケチである場合、その治療法は富と物質的な所有物を費やすことによって行うことができます。 しかし、時には支出の限界を超え、病気でもある無駄な支出に陥ることもあります。 望ましいレベルは、(すべての両極端の間で)節度です。 支出において、中間レベルは、無駄な支出とケチの両極端の中間にある目標です。 節度のポイントと2つのことの中間を見つけたいのであれば、その方法は、何らかの内なる性質によって存在した行動を一瞥することです。 その行動が簡単で楽しいように思えるなら、(その行動に結びついた)内なる性質が自己(ナフス)よりも支配的であることを知っておくべきです。 たとえば、貧しい人や価値のある人に富を費やすことが、富を蓄積して蓄えることよりも忌まわしいのであれば、ケチという内面の特徴が自己よりも支配的であることを知っておく必要があります。 その場合、権利に値する人々に支出し、返還するための手配をする必要があります。 [低次の]自己が

価値のない人にお金を使うことに喜びを見出し、その支出が貯蓄よりも簡単であるように思えるなら、このことから、無駄な支出が自己よりも支配的であることが理解できます。 その場合、無駄な支出から富を節約し、止めることに頼るべきです。 自己(*ナフ*)はそのように監視され、守られるべきであり、どの行動が自己にとって難しいか、どの行動が簡単であるかを見て、気付くべきです。 この警戒と保護は、富や物質的な所有物への欲求と傾向が終わるまで続くべきであり、自己は支出に興味がなく、買いだめにも傾いていません。 代わりに、必要なときに停止し、必要なときに使用する水のようになります。 さらに、貯蓄よりも支出を優先すべきではありません(またはその逆も同様です)。 この程度[すべての事柄においてバランスのとれた節度、あらゆる極端を避けて]到達した心は、すべての破壊的な悪と否定的な内面の性格特性から浄化され、浄化されたままになります。

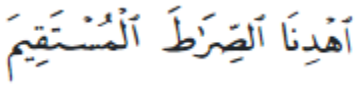
[神聖なグノーシスの状態で]神に到達するには、この世のすべての罠や絡みから心を切り離すことが不可欠であり、[神の]命令がこの世からの旅(つまり死)を前進させるようになったとき、心は何の[物質的]にも傾いたり、[この世からの旅は非物質的であるため]いかなる手段にも焦点を合わせたりしません。 この[神との執着の]状態では、自己が神の臨在に戻ることは、その主を喜ばせ、主もそれを喜ばれる自己(*ナフス*)の微妙な[存在]の回帰になります。 預言者(*アンビヤ*)、聖人とグノーシス主義者(*シディキーン*)、殉教者(*シュハダ*)、義人(*スラハ*)のクラスに数えられる自己です[彼らは、非物質的で超越的な精神領域での業績という点で、この順序で人間の最上位の4つのカテゴリーに属し、最高の永遠の幸福と無限の勝利の達成者です]。 神はそのような自己に次のような言葉で語りかけました。

يَٰٓأَيَّتُهَا ٱلنَّفْسُ ٱلْمُطْمَئِنَّةُ ﴿٢٧﴾ ٱرْجِعِىٓ إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرْضِيَّةً ﴿٢٨﴾

「おお、平和な自己よ! あなたが主を喜ばせ、主があなたを喜ばれている状態で、あなたの主のもとに戻りなさい。」 (クルアーン、第89章、27-28節)

2つの極端なレベルの中間レベルは非常に微妙です。 むしろ髪の毛より細く、剣より鋭いと見るのが良いだろう。 この世俗的な人生でこの困難な道をしっかりと歩み続ける人々は、*シラート*橋(地獄に架かる狭い橋で、その反対側には髪の毛よりも細く、剣よりも鋭く、預言者の教えで説明されているように、審判の日にすべての人がその橋を渡らなければなりません)を安全に渡るでしょう。 これは、人間がこのバランスの取れた節度の中間の道(*シラト・アル・ムスタキーム*)のどちらか一方に傾いているため、心はそれが傾く側に関連付けられているからです。 神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念

、畏怖を持つ人々(*ムッタキーン*)は、バランスの取れた節度(*シラト・アル・ムスタキーム*)から遠く離れているというよりも、中間の道に近づいている人々です。 毎日*17回、義務的な毎日の祈りで唱えられる*[スーラ・アル・ファティハとして知られるクルアーン*]の冒頭の章であるバランスの取れた節度*(シラト・アル・ムスタキーム)の中間の道で忍耐力を維持することの難しさを考慮して、この祈りは義務付けられました。



「[おお神よ!]私たちをまっすぐな道(バランスの取れた節度の中間の道)に導いてください(*シラト・アル・ムスタキーム*)." (クルアーン、第1章、6節)

バランスのとれた節度というまっすぐな道を歩むことは非常に困難ですが、できるだけそれに近づくことを怠ってはいけません。 もし、正確にバランスのとれた節度を達成できないなら、永遠の救いは正しい行いにのみ依存し、正しい行いは美しい道徳、マナー、内面の資質、性格、性質から生まれるということを、非常に明確に理解する必要があります。 この点で、すべての[神の]しもべは、自分の資質、道徳、マナー、内面の性格特性、性質を[常に]調べて、欠点があれば取り除くことができるようにする必要があります。

自分の欠点を見つける方法

神が誰に対して善を行おうとおられるとしても、神は自分の過ちを知らせます。深い内面の洞察を持つ人は、自分自身に隠された欠点を持っておらず、欠点に気付くと、それを治すのは簡単になりますが、ほとんどの人は自分の欠点に気づいていません。 他人の小さな欠点は見えても、自分の中の大きな欠点は見えないような状況です。 自分の欠点を認識するには、次の 4 つの方法があります。

最初の方法:自己の欠点とその隠された破壊的な可能性に気づいているそのようなスピリチュアルガイドの集まりに参加する必要があります。 人はそのような霊的指導者に耳を傾け、霊的闘争に関する指示に従って行動すべきです。 これが、*スピリチュアルガイド*(ムルシド)と探求者(*ムリード*)と教師と生徒の状態です。 スピリチュアルガイドは求道者に知らせ、教師は生徒に自分の内面の欠点や欠点を知らせ、それらを取り除く

方法を提案します。 今の時代、この方法で行動する人を見つけることはめったにありません。

第二の方法: 誠実で、忠実で、知的で、神を意識している友人を探し、自分自身の監督者として任命し、そのような友人が自分の内面の状態や行動に目を光らせ、自分の外側や内面にどんな欠点が見られたとしても、それについて警告する必要があります。 神の道の偉大な先人学者たちはこの方法に従った。

ウマル(神が彼に喜ばれますように - 預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]と第2代カリフの助け手であり仲間)は、「私の過ちを私に知らせてくれる人を神が憐れんでくださいますように」とよく言っていました。 ある時、サルマン・アル・ファルシ(神が彼を喜ばれますように - もう一人の預言者の仲間)が彼のところに来て、「私について何か悪いことを聞いたことがあるなら、私が自分自身を改心できるように教えてください」と尋ねました。 サルマン(神が彼に喜ばれますように)は返事を言い訳しようとしましたが、ウマル(神が彼に喜ばれますように)が主張すると、彼は彼にこう言いました:「あなたのダイニングマットの上には2つの皿(食品)があり、2着の服があります、1つは夜用、もう1つは昼用です」と言いました。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は尋ねました:「それ以外に何か知るようになりましたか?」 サルマン(神が彼を喜ばれますように)は「いいえ」と答えた。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「この2つの問題については満足してください[私は食事に1つの食べ物しか食べず、服は1着しか持っていないので、どれも真実ではありません]」。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、フダイファ(神が彼を喜ばれますように)に自分の欠点について尋ね、彼に尋ねました。 私にも偽善の兆候が見られますか?」 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、その威厳[世界の広大な地域を支配した恐れ知らずの指導者として]そして高い地位[偉大な精神的達成者として]にもかかわらず、[自分の欠点について]自分自身を責め、人々に自分の欠点について話すようストレスを与えていたことを考えてみてください。

知性が大きく、[霊的]地位が高い人は、わずかな程度(これも霊的闘争によって取り除くことができる)以外は、独善や自己うぬぼれ(*ウジュブ*または自己誇大化、すべてについて自分自身を正しいと高く考える)という病気に感染することはありません。 そのような人は、自己が善良で純粋であるのではなく、間違っており、その悪行を監視されるに値するものとして考え続けるでしょう[ウマル(神が彼を喜ばれますように)の例はその好例です]。 今の時代では、譲歩せずに自分の欠点を知らせてくれる友人を見つけるのは

困難です。 ほとんどの友人はお世辞を好み、欠点を専門知識(または誇りに思う良いこと)と呼ぶことに何の問題も見せず、それを[良い友達になることによって]友情の権利を果たすと考えます。 嫉妬深い気質を持ち、欠点を誇張して話す友人もいます。 誠実で無私無欲で真の友人の存在はまれです。 だからこそ、グノーシス主義のダウド・タイー(神が彼に憐れみあれ)はそのような人々から身を隠したのです。 何人かの人々は彼に「なぜ人々と会わないのですか?」と尋ねました。 彼はこう答えた:「自分の欠点を教えてくれない友人と会ったらどうすればいいでしょうか?」

ディーン(神への道)*を愛する人は* 、他の人が自分の欠点を指摘してほしいという最大の願望を持っています。 [自分の過ちを知らされた結果として]この世で[認識された]屈辱は、来世の[実際の]屈辱[魂の奥深くにこれらの過ちを抱くことで影響がある]に比べれば非常に小さいです。 しかし、今の人々の状況は逆です。 そのような友人は、私たちの欠点を知らせ、それについてアドバイスしてくれる敵のリストの一番上の位置にいることに気づきます。 これは、自分の過ちが指摘されると気分を害し、怒るという、私たちの信仰の弱さの表れです。 悪い道徳、マナー、内面の性格特性、資質、気質の類似性は、ヘビやサソリの類似性に似ています。 これらの致命的な生き物があなたの服に侵入し、誰かがあなたにその害について知らせ、それらから身を守るようにアドバイスしたり、その状況でそれらから身を守る方法を教えたりした場合、その人はあなたの敵になるでしょうか? 絶対にだめです！ 私たちはそのような人に感謝し、サソリの毒の影響が1日か2日は残りますが、悪い道徳、マナー、内面の性格、資質、気質の影響は死後も残ります。 では、私たちが助言者であり、好意者を敵とみなし、そのような人が指摘した欠点を根絶しないのはどういうことでしょうか? 代わりに、私たちはその人の欠点を見つけ始め、そのような人が将来私たちにあえてアドバイスしないようにします。 私たちの善意の人(私たちの過ちを知らせてくれる)を敵と考えるのは、過度の罪[と悪行]のために心が暗くなり、かたくなになった人々によって行われます。 これは信仰の弱さの行いです。 おお神様! 私たちに正しさと導きの道を示し、私たちの欠点を知らせ、それらを根絶する力を与え、私たちの欠点を知らせてくれる人々に感謝できるようにしてください。 アミーン!(アーメン!

第三の方法: 敵の目は欠点しか見ておらず、彼らの舌は[認識された敵の]欠点しか言わないので、敵を通して自分の欠点の知識を身につけるべきです。 これについて私が考えたのは、お世辞を言うのが好きな友人と比較して、欠点を指摘したり、欠点を見たり、欠点を語ったりする敵からより多くの利益を得ることができるということです。 普段は友達が褒めてくれて、目は良いことしか見ていなかったし、舌は上手に話すだけだ

からだ。 人間は生来の性質において敵を拒絶し、敵から来るすべてのものを嫉妬から来るものと考えるのは事実です。 しかし、洞察力のある人々は敵も利用します。

第四の方法:人は人々と交流し、彼らの中にどんな欠点が見つかったとしても、彼らを前面に置き、それが自分自身の中に見つかった場合は、自己(*ナフ*)を任務に導くべきです。 信者は[預言者の語り話で述べられ、確認されている]信者の鏡です。 誰もがイスラム教徒の兄弟[または姉妹]の鏡に映った自分の姿を見て、自分の欠点を通して自分の欠点を見つけ、欲望に従うことに関しては、気質は一般的に互いに近いことを考慮する必要があります。 一方に存在するもの、その一部または全体は、他方にも存在します。 これらの原則に照らして、人は自分の欠点を見つけ、その心を清めなければなりません。 この方法が良いエチケットと内なる浄化を教え込むために採用されれば、エチケットのガイドや教師が不要になるため、すべての人の改革は自然に起こるでしょう。 誰かがイエスに「誰があなたに*アダブ*(道徳、マナー、エチケット)を教えたのか」と尋ねました。 彼はこう答えた:「誰も私に*アダブ*(道徳、マナー、エチケット)を教えてくれませんでした。無知者の無知は私にとって悪いことのように思えたので、私はそこから自分自身を切り離しました」。 これは、卓越した人格、洞察力、神聖なグノーシス、知性などの資質を備えた教師(スピリチュアルガイド)を見つけられず、自分自身の文明と浄化を終えた後、今では神のしもべ(つまり、仲間の人間)の教育と文明に忙しく、慈悲をもって彼らに助言し、彼らを良い道に導く人々の方法です。 そのような[霊的]教師の付き添いを持つ人は、まるで[魂の]内なる病気のあらゆる治療法が利用できる歩く病院を所有しているかのようです。 人は、自分の[内なる]病気を治し、人を破滅から救ってくれるそのような教師と付き合い続けるべきです。

欲望と欲望を拒絶することによって心の病気を治す、そして神の法則から伝わる証拠と証拠

上記の詳細を熟考すれば、洞察の扉が開かれ、知識と確信の光によって、魂の病気と治療法が明らかになります。 しかし、瞑想によって病気とその治療法を知ることができない場合でも、信仰の程度は別であり、知識の程度はそれとは別のものであるため、この方法に従い、目に見えないものへの信仰(*イマン・ビ・アル・ガイブ*)を通してそれらを確認する必要があります。 知識は信仰の後に達成されます。 神はこう言われます。

يَرْفَعِ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ مِنكُمْ وَٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ دَرَجَٰتٍ

「神は、あなたがたの中で信仰を持つ人々、知識に恵まれた人々の[名誉と神聖な親密さと親密さの]ランクを高めてくださいます。」 (クルアーン、58章、11節)

したがって、(神の臨在の状態において)神に到達する唯一の道は、欲望[および低次の自己からの欲望]に反対することであると正当化を求めずにこのことを確認した人は、信仰を信じる人々の地位を獲得し、この[神聖な]秘密の現実に到達した人は、信仰とともに知識を与えられた人々の中にいます。 神は信仰の人々と知識の人々の両方に善を約束されました。 神はこう言われます。

وَكُلًّا وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلْحُسْنَىٰ

「そして、神は両者に善を約束されました。」 (クルアーン、第4章、95節)

神の律法からの証拠: 欲望を捨てることが神に到達する(神の臨在に到達する)唯一の方法であるという現実は、[神の書物 – クルアーン]の聖句、預言的伝統(ハディース)、そして学識のある学者の言葉によって証明され、証明されています。 神はこう言われます。

وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ وَنَهَى ٱلنَّفْسَ عَنِ ٱلْهَوَىٰ ﴿٤٠﴾

فَإِنَّ ٱلْجَنَّةَ هِىَ ٱلْمَأْوَىٰ ﴿٤١﴾

「主の前に立つことを恐れ、卑劣な欲望や頑固な間違った愚かさから自己を抑制した人(ハク)、そのような者の最後の住まいは天国となるでしょう。」 (クルアーン、第79章、40-41節)

أُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ٱمْتَحَنَ ٱللَّهُ قُلُوبَهُمْ لِلتَّقْوَىٰ

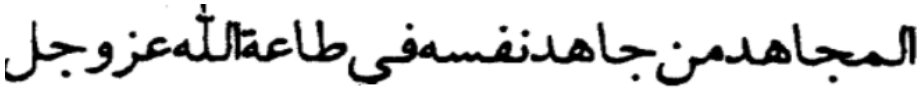
「これらの人々は、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏怖のために神が心を浄化した人々です(タクワ)." (クルアーン、49章、3節)

その説明は、神が彼らの心から低次の自己からの欲望への愛を取り除いたということです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

المؤمن بين خمس شدائد، مؤمن يحسده، ومنافق يبغضه، وكافر يقاتله، وشيطان يضله، ونفس تنازعه

「信者は五つの苦難の真っ只中にいます。別の信者は一人に嫉妬し、偽善者は一人に敵意を抱き、不信者は一人と戦い、サタンは一人を誤解させ、自己(*ナフス*)は一人と論争する」。 (この伝統は、 *ハディース集 マカリム・アル・イクラク アナスの権威* [神が彼を喜ばれますように])

この預言的伝統は、自己は論争の敵であり、それに対する[霊的な]闘争が必須であることを教えています。 ナレーションによると、神は預言者ダビデ(ダウド)(神の喜びあれ)に「おおダビデ! そのような心の知性は欲望と結びついており、彼ら(心)は私と結びついているはずだから、あなたの仲間を低次の自己からの欲望を簡単にすることを恐れさせてください。」 イエス(神の平安あれ)は、「将来(つまり楽園)に約束されたもののために[現在の]現在の欲望や欲望を捨てる人に喜ばしい知らせが来ますように」と言われました。 彼はさらにこう言いました。

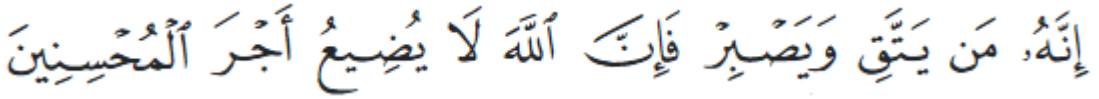


「[神の道を歩む]努力家とは、神に従うことで、低次の自己[とその欲望]に対する[霊的な]闘争を行う人です。」 (この伝統は、 *ハディースは、ファダラ・ビン・サイード[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいてティルミディとイブン・マジャを集めています*)

聖人とグノーシス主義者のことわざ: スフヤン・アル・タウリ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「私は自己を治すことほど難しい治療法を見つけられませんでした。 自己は時には有益であり、時には有害です。」 アブ・アル・アッバス・ムサリ(神の憐れみあれ)は、よく自分にこう言っていました:「あなたは王子のように世界を楽しんだり、崇拝者のように霊的な闘争をしたりしません。 あなたは私を天国と地獄の狭間で投獄するつもりですか? 恥じることはありませんか?」 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)は、「野生の馬と比較して、自己は馬を必要としている(野生の飼いならされていない馬よりも暴れているからです)」と言いました。 ヤヒヤ・ビン・ムアド(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「霊的闘争の剣で自己と戦いなさい。その剣とは、食べる量を減らし、睡眠を減らし、必要なときだけ話し、人々から受けた困難に忍耐することです。 欲望と欲望は、食べる量を減らすことで終わり、睡眠を減らすことで意図が純粋になり、話すことを減らすことで試練や苦難から救われ、人々から受けた痛みや苦難に忍耐力を行使することで、目的と目的地に到達することに成功します。 人にとって最も難しいことは、痛みや苦しみの時の忍耐と逆境の時の忍耐です。 したがって、欲

望や欲望が自己に生まれたり、無駄な話の快楽や甘さが強まったりすると、そのとき、食べる量を減らすという剣を睡眠の少なくする鞘から沈黙の手から取り出し、自己が抑圧から立ち止まるように致命的な一撃を加える必要があります。 そしてそこから来る苦難は冷め、心は欲望と欲望の汚れから清められ、清められます。 もしそのような扱いが自己に与えられれば、それは浄化され、浄化され、照らされ、軽くなり、正義の野原がその道となり、[神の]服従の谷がその通路となり、平原を衰えることなく疾走する馬のように、または庭の王のように散歩するように、これらの野原や谷を走るでしょう。」

ヤヒヤ・ビン・ムアド(神が彼に憐れみあれ)もよく言っていました:「人間には3つの敵がいます。世界、サタン、そして自己です。 禁欲(耽溺すること)によって世界(または世俗性)から身を守り、サタン[とその説教と説得]に対抗することによってサタンを支配し、欲望と欲望を捨てることによって自己を征服しなさい」。 ある賢明なスピリチュアルガイドはこう言いました:「自己に支配されてきた人は欲望の囚人であり、足は欲望に鎖でつながれ、もはや知性に導かれず、彼ら(欲望と欲望)は人をつかみ、好きなところに連れて行き、心に何の利益も与えることができません。 知識と知恵を持つすべての人々は、この世の[物質的]祝福に別れを告げずに来世(つまり天国)の祝福は達成されないことに同意します[この世の非物質的(霊的)祝福はこの世からのものではありません]」。 アブ・ヤヒヤ・ワラク(神が彼に憐れみあれ)は、「心の地に恥の種を蒔いた欲望と欲望にふけることで臓器を喜ばせる者は誰でも」と言いました。 ウォハイブ・イブン・アル・ウォード(神が彼に憐れみあれ)は、「パン以外のものはすべて、低次の自己の欲望から来る」と言いました。 彼はさらに、「この世の欲望と欲望を愛する者は、来世の屈辱に備えるべきである」と言いました。 預言者ヨセフ(ユスフ)(彼に神の平安あれ)がエジプトの宝物の責任を負わされ、エジプトの1万2000人のエリートの壮大な行列を率いて道を歩んだとき、ズライカ(エジプトの大臣の妻で、彼が若い頃に預言者ヨセフ[彼に平安あれ]に恋をし、何十年にもわたる投獄の後、後に彼と結婚しました。 エジプトの宝物の責任者として解放され、任命された)は彼にこう言った。貪欲と欲望は王を奴隷にし、忍耐と敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏敬の念と畏惧(*タクワ*)は奴隷を王にしました。」 預言者ヨセフ(彼に平安あれ)は、神の次の言葉に従って、それは真実であると言いました。



「まことに、神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏れの心の状態で罪を捨て、忍耐強い

人なら、神はそのような善行[と誠実な努力]をそのような善行者のために無駄にしません。」 (クルアーン、12章、90節)

ジュナイド・バグダディ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「ある夜、私は目が覚めて祈りにふけろうとしましたが、慣れ親しんだ[内なる]喜びを得ることができませんでした。 眠ろうとしましたが、眠れず、起き上がろうとしましたが、座れませんでした。 これに無理やり外に出てみると、道端に毛布に包まれた男が横たわっていた。 私の足音を聞くと、彼は私に自分のところに来るように頼みました。 私は彼に言いました:『あなたはあなたの到着について私に知らせませんでした!』 彼は「あなたの心を私に傾けてくださるよう神に祈った」と語った。 私は言いました:『神はあなたの祈りを聞いてくださったので、さあ、あなたの目的を教えてください』と言いました。 彼は言った、「おお、アブ・アル・カシム!教えてください、[低次の]自己の治療法は何ですか?」 私は言いました:「自分の欲望に反対するとき、自己はそれによって痛みと拷問を感じますが、これはまさにその治療法であり薬です。」 彼は言った:「おお、自己よ! 聞いてください! 私はあなたに同じ返事を七回もしましたが、あなたは私の言うことを聞かなかった。 今、ジュナイドは同じことを確認している。 彼の言うことさえ聞かないのですか?』 誰かがウマル・ビン・アブドゥル・アジズ(神が彼に憐れみあれますように)に尋ねました。 彼は「静かにしたいとき」と答えた。 彼は「いつ黙っていればいいの?」と尋ねた。 彼は「話したいときに」と答えた。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は、「楽園に行きたい人は、この世の欲望から遠ざかるべきだ」と言いました。 マリク・ビン・ディナール(神の憐れみあれ)はよく市場に行き、何か良いものを見て、それを買おうと心が傾いたとき、自分自身に慰めを与え、忍耐を持つように忠告し、よくこう言いました。 私はあなたの素晴らしさと偉大さのために、あなたをそれを禁止します[あなたが最高の精神的な高みに登る可能性のために]」。

学者の全会一致の決定: すべての学識ある学者と知恵のある人々は、来世で永遠の幸福と無限の勝利(サーダ)を獲得する方法はただ一つであり、それは、頑固な間違った愚かさ(ハワ- エゴイズムと、すべてについて正しいという自己欺瞞的な信念から発せられる)と貪欲から遠ざかり、欲望や欲望に従うのを止めるという全会一致の決定を持っています。ローワーセルフ。 この点で、この決定を信じ、それに基づいて行動することが義務付けられています。 霊的闘争の結果と要約は、自己は、衣服、結婚、飲食、住居など、人生に不可欠な、墓場にいる人には合わないものを、必要な場合にのみ利用するということです。 これらの物の必要な量の限界を超えるということは、人がこれらのものを愛し、死後、この世に戻ってきたいと思うことを意味し、来世の報いと報酬の分け前を持たないその人だけがこの世に戻ってくることを望むことができます。 この世の交際は病気であり、この病気を取り除く方法はただ一つ、それは、人の心が神の愛、グノーシス、記憶、熟考に完全にふけり、この耽溺の障害にならない範囲でのみ、世

俗的なもの(手段)に満足し続けることです。 この状態は、神の恵みと祝福によって、そして神から与えられた力と力によってのみ起こります。

4つのタイプの人々:この本当のスピリチュアルな練習に到達できない人は、確かにそれに近い程度に到達するように努めるべきです。 この点で、4つのタイプの人々がいます。 心が神を思い起こすことに完全に没頭するような人もいます。 経済的必要性を除いて、彼らの注意は世界には向けられていません。 これらの人々は、*シディキーンのカテゴリー*に属します(グノーシス派としても知られる預言者、または真理に献身し、霊的な闘争の結果として神のグノーシス、友情、神との親密さを達成した人々の次に高いカテゴリー)。 この[高い霊的]地位は、高尚な長期にわたる霊的闘争と、長い間欲望と欲望を放棄した後にのみ達成されます。 2番目のタイプには、世界のあらゆる瞬間に心が沈んでいる人々(世俗性または物質的な存在)が含まれます。 たとえ彼らが神を覚えていたとしても、それは舌の上だけで、心はそれとは何の関係もありません。 彼らは[永遠の命のために働いておらず、完全にこの世の物質的な生活に焦点が当てられていたため]、滅びに向かう人々のカテゴリーに含まれています。 3番目のタイプの人々には、*ディーン*(神への道または神の導き)と世界の両方に従事している人々が含まれますが、*ディーン*は心を支配しています。 彼らは神の報復を受けるでしょうが、神の関心が心を支配する程度に見合った、すぐにそれを取り除くでしょう。 4番目のタイプの人々には、*ディーン*(神への道)と世界の両方に従事しているが、心の中では世俗的な関心事が神の関心事を支配している人々が含まれます。 これらの人々は比較的長い期間神の罰を受けることになりますが、世界が彼らの心を支配していたとしても、*ディーン*(神への道や神の導き)も奪われていなかったため、最終的には神の罰に直面した後、神の罰から抜け出します。 神の記憶の力が彼らの救いの源となるでしょう。

許されるものからの喜び: 許されるものから喜びを得ることは許容され、神から遠ざかることはないと考える人もいます。 彼らのこの考えは間違っています。 現実[または問題の真実]は、世俗的な愛をすべての罪の根源と呼び、その意見ではすべての正しい行いがこの愛の中で無駄になる人々に明らかにされました。 自分の必要を超えて許容されるものを持つことは、たとえそれが許されるとしても、世俗性に含まれており、創造主から遠ざかります。 イブラヒム・アル・カワス(神が彼に憐れみあれ)はこう言いました:「あるとき、私はリカム山に住んでいて、木にザクロが生えているのを見ました。 食べたかったので木から1つ摘み取ったら酸っぱい。 私はそれを捨てて、道を歩き回りました。 道に横たわっている男性が何度もミツバチに刺されているのを見ました。 彼は私に「おおイブラヒムよ!」と呼びかけました。 私は驚いてこう答えました:「あなたは誰で、どうやって私を知っているのですか?」 彼は言った:「神を知る者(神聖なグノーシスを持っている者)は、そのような者から隠されるものは何もない」。 私はこう言いました:『あなたは敬虔な聖人です。 神があなたのためにミツバチとミツバチによってもたらされる痛みを駆除してくださるように、神に祈ってみませんか』と。 彼は答えました、「あなたもまた敬虔な聖人です。 なぜあなたはザクロの欲望を心から取り

除くように神に祈らなかったのですか? ミツバチに刺された痛みは、この世にしかありません。 欲望や欲望によって引き起こされた苦しみは、死後もあなたから離れません。」 それに対する返答が思いつかず、続行しました。」 サリ・アル・サカティ(神の憐れみあれ)は、「40年間、私の心はナツメヤシの蜜にパンを浸して食べたいと願っていますが、私はこの提案を心から受け入れていません」と言いました。

許容される事柄を控える:自己の改革は、許される事柄の快楽に耽溺することを妨げるまでは不可能です。 それは、人は許容される事柄の快楽を超え、許されない事柄に耽溺する傾向があるからです。 たとえば、自分の舌が陰口や無駄な話に耽らないようにしたいのであれば、神の記憶の言葉と霊的なニーズに関連する事柄だけを発すべきです。 たとえそれが許されるかもしれないとしても(ムバ)、言葉(話すこと)の欲望が終わり、舌が真実(道徳、倫理、正直さを遵守した言葉を発する際の感性)に慣れるまで、残りの事柄については沈黙を守るべきです。 この場合、話すことさえ[神の]崇拝になり、沈黙も崇拝になります。 目の状態もそうです。 良いものをすべて見ることに慣れているなら、いつか悪いものも見るようになるでしょう。 これは、合法で許容されるものへの欲望を引き起こすものが、禁じられた間違ったものへの欲求も生むからです。 この点で、欲望は1つであり、それを禁じられた(ハラム)から止める義務があります。 必要なものだけで満足することに慣れないと、欲望が人を圧倒し、当初は許容されたものと関連していたこの欲望は、その限界を超えて禁じられた(ハラム)に達します。 これは許容される(ムバ)の害の中で最も小さく、それ以外にも多くの害があります。 これらの害の中には、自己(ナフ)が世俗的な快楽に満足し、自分自身の平和と静けさを求め、彼らの(つまり、世俗的な快楽)の酩酊に酔いしれすぎて、自分自身に気づかず、自分自身を忘れてしまうことです。 この幸福とその結果としての酩酊は、人の血管と存在のすべてに広がり、神への記憶、来世の責任への恐怖、審判の日の恐ろしい出来事を心から取り除く致命的な毒です。 この状態は「心臓の死」と呼ばれます。

自己を鍛える:心の人の中には、自分の心を試したところ、世俗的な快楽の幸せの中で、心は反抗的で[神の導きに]不従順で、神の記憶から逸脱していることに気づきましたが、悲しみの状態では、彼らは従順で、澄んでいて、神の記憶に動かされています。 彼らはこのことから、永遠の悲しみと[世俗的な外的]幸福の手段(食べ物、飲み物、衣服、富、名声、社会生活、物質主義、目立った消費など)から遠ざかっている状態が救いの原因であると結論付けました。 したがって、彼らは自分自身(ヌフス)に、*許可されている(ハラール)か禁止されているか(ハラム)かにかかわらず、あらゆる形態の欲望や欲望に忍耐力を行使することに慣れさせ*ました。 彼らは、許容される欲望に対しては[神の]説明責任があり、許容されない欲望に対する[神の]報復があり、[許容されるものと許されないものの間のグレーゾーンにある]疑わしい欲望が非難の原因となることを知っていました。 報復は明白な報復ですが、説明責任と非難も[隠された]報復の一形態です。 これらの浄化された魂は、許可された(ハラール)ことさえ遠ざかることによって、責任の[神の]報復から自分自身を救おうとし、投獄と欲望の支配から自分自身を解放し

、したがって、両方の世界(この世界とこれ以降の世界)の永遠の解放と支配を自分自身に与えました。 彼らは内なる平和、満足感、そして神の記憶に順応し、自分自身を[神の]服従に慣らすために、鷹に行われるのと同じ方法で自分自身を扱いました。 つまり、タカは最初は暗い部屋に保管され、その目は空中を飛ぶことに慣れないように縫い付けられています。 その後、肉を与えて主人に慣れ、主人を認識し始め、呼ばれると主人に向かって走ってくる。 自己の状態(*Nafs*)も同様です。 自己は、耳が不必要な話に耳を傾け、目が不必要なものを見、舌が不必要な言葉を発し、それらから[臓器]を守るなど、孤独と禁欲によって、それらの[間違った]習慣に気づかないまで、その主(神)に慣れません。 この段階を通過した後、自己は神の記憶と栄光の栄養で養われ、主と所有者に魅了され、慣れ、すべての世俗的なもつれや執着が解消されます。 これはスピリチュアルな旅行者(ムリード)の自己にとっては厳しいことですが、絶え間ないスピリチュアルな努力を通じて彼らに慣れると、同じ孤独が自己に喜びを与え、同じ無執着がその誘惑[と豊かさ]の源を提供します。 この点で、霊的な旅人は乳を断ち切った赤ん坊のようなものです。 最初は、2年間ミルクが唯一の食事だったため、赤ちゃんはミルクを奪われてよく泣きますが、今では突然、赤ちゃんはそれを奪われました。 そのため、赤ちゃんは泣いたり、発作を起こしたり、何も食べたり飲んだりしませんが、ミルクの考えさえ存在しなくなるまで、徐々に他の栄養を摂取し始めます。 赤ちゃんが嫌いな食べ物が受け入れられ始めます。

乗っている動物の状態も同様です。 最初は、サドルを締めたり、手綱を締めたり、取り付けたりするのは非常に困難です。 乗馬動物は乗り手を悩ませますが、乗り手が賢くそれを行い、乗馬用具に慣れさせれば、その反抗は服従に変換されます。 最初は捕まって鎖とロープで縛られるが、徐々に規律が整い、ライダーがどこを離れても縛られてもそこから動かない。 鳥や飼いならされた動物が規律され、手綱が整われるように、自己も規律されています。 自己の懲戒とは、世俗的な祝福や喜びによる幸福を抑制され、それらを見たり使用したりすることを禁じられ、死後に役に立たないすべてのものから拘束され、来世で人の助けを借りることができず、[人生の本当の目的の最終目的地に向かって]途中の駅に立ち往生させてしまうようなものを愛しても意味がないと言われています。 自己が、この世からどんなに愛されているものであっても、必ずこの世から分離するだろうというこの現実の確信を育むとき、これらの儚く一時的なものに執着するのではなく、墓の中でも人と一緒にいて、その恐怖を取り除く神の記憶のような永遠で永続的なものに執着するようになります。 しかし、自己は数日間(つまり、短い世俗的な存在)忍耐を働かせた後、この確信を発達させます。 永遠の命に比べると、世俗的な命は数日しか続きません。 [最終目的地]での滞在の永遠の安らぎと快適さのために、数日間旅行の苦難に耐えようとしない人や、何年も平和な生活を送るために数か月または数年新しいスキルを学ぶことをいとわない知的な人は見つかりません。 永遠に比べれば、世俗的な人生は、人の一生に比べれば一日のようなものでもないことがわかります。 (終わりのない永遠のいのちに比べると)数日に相当するこの人生に苦難、

痛み、苦しみが負われるのに、なぜそれらは永遠のいのちのために負えないのでしょうか?

霊的闘争と練習の方法: この方法は、すべての個人にとって別個であり、むしろ、すべての人が自分の気質(自分の内面の状態)に応じて霊的闘争と練習の方法を知らされていると言う方が正しいです。 しかし、これはすべての人にとって同じであり、世俗的な手段からのものが幸福をもたらすものは何でも、人はそこから切り離されるべきです(つまり、心の内なる切り離しを通して)。 たとえば、物質的な所有物、富、名声から幸福を得る人は心から愛を取り除くべきであり、楽しい話やスピーチの印象から幸福を得る人はそのような考えを捨てるべきであり、政治権力、支配、統治、評判、そして学生の豊富さから幸福を得る人は、そのような考えから心を切り離すべきです。 もし彼らがこれらのことを奪われたことで不幸で、悲しみ、心配しているなら、クルアーンがそのような人々について次のような宣言をしたことを理解してください。

وَرَضُوا۟ بِٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَٱطْمَأَنُّوا۟ بِهَا

「そして、彼らは世俗的な生活と闘い、それに耽溺するようになった[物事の全体的な計画では有害であるにもかかわらず、それが彼らの満足の源となったほど]。 (クルアーン、10章、7節)

これらの世俗的な手段は、精神的な旅行者(ムリード)にとって致命的な毒となります。 人は孤独を彼らから切り離し、人々から離れた後、孤独を迎えるべきであり、自分の心を守ることで、あらゆる瞬間が神の記憶と熟考に従事し、この[神聖な]記憶と熟考に侵入するすべての欲望、欲望、ほのめかしに目を光らせるべきです。 そのような欲望、欲望、ほのめかしの根を取り除くか、これらのほのめかしや欲望の出現をもたらす手段を根絶する必要があります。 人は生涯を通じて、この自己責任と熟考を続け、それらを除去し、根絶するこのプロセスを続けるべきです。 自己の[霊的な]闘争と[浄化]の努力は、死によってのみ終わります[永遠の幸福と無限の成功をもたらすこの人生の真の目的を達成するために、すべての否定性を排除し、すべての肯定性に満ちたより良い人になるためであるこの精神的な闘争を真に気にかけている真の決意の精神的な旅人にとって]。

善良な道徳、マナー、性格、内面の気質、資質のしるし

自分の(内なる)欠点に気づかず、自分の些細な霊的闘争を[霊的]旅の最後の目的地と見なし、淫らさから遠ざかることを霊的闘争の頂点と見なす人もいます。 彼らは、自分自身を鍛え、道徳、マナー、内面の性格、気質を良いものにし、それ以上の霊的闘争も必要とせず、霊的な道で努力する必要もないという誤解を招く印象に陥ります。 その

ような人々の自己満足を取り除くためには、善良な道徳、マナー、内面の性格、気質の兆候をリストすることが不可欠です。 簡単に言えば、良い道徳、マナー、内面の性格、性質は信仰であり、悪い道徳、マナー、内面の性格、性質は偽善であることを理解する必要があります。 クルアーンには、信者と偽善者の資質が列挙されています。 それらはすべて、良い道徳、マナー、内面の性格、気質の結果と結果です。 神はクルアーンの中でこう言われています。

وَعِبَادُ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلَّذِينَ يَمۡشُونَ عَلَى ٱلۡأَرۡضِ هَوۡنٗا وَإِذَا خَاطَبَهُمُ ٱلۡجَٰهِلُونَ قَالُواْ سَلَٰمٗا ﴿٦٣﴾

وَٱلَّذِينَ يَبِيتُونَ لِرَبِّهِمۡ سُجَّدٗا وَقِيَٰمٗا ﴿٦٤﴾

「慈悲深い方の特別なしもべは、謙虚に地上を歩む人々であり、無知な人々が彼らに無知を語ると、彼らは『平和!』と言います。[彼らが耽溺することを控え、そのようなすべての説得や誘惑を押し返す無知と悪を払拭するため]そして[さらに]彼らは夜をひれ伏し、主の前に立って過ごす人々です[畏敬の念、畏敬の念、献身の状態で、主の顔、近さ、親密さを求めて]。 (クルアーン、第25章、63-64節)

これらの聖句は基準です: 自分の内面の状態が疑わしいようになった人は、これらの聖句に照らして自分自身を評価するべきです。 これらの資質の存在は、良い道徳、マナー、内面の性格と気質のしるしであり、それらの欠如は悪い道徳、マナー、内面の性格、および気質のしるしです。 これらの資質のいくつかがあり、欠如しているものがある場合は、存在するものを保護し、存在しないものを達成し、教え込むよう努めるべきです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、信じるしもべの数え切れないほどの資質に言及し、それらを通して、善良な道徳、マナー、内面の性格、気質の卓越性を指摘しました。 彼はかつてこう言いました。

لا يؤمن احدكم حتى يحب لاخيه ما يحب لنفسه

「自分が好きなことを兄弟(または姉妹)のために好きになるまで、誰も信者(神を信じる人)になることはできません。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション サヒー・ブハーリ* そして *サヒー・ムスリム* アナスの権威に基づいて[神が彼を喜ばれますように])[ここでの「兄弟」という用語は、すべての人間を指し、したがって、自分の関心事の中で全人類に入り込み、それを自分の世話と思いやりに値するものにします。

من كان يؤمن بالله واليوم الآخر فليكرم ضيفه

「神を信じる者は、審判の日に自分の客を敬うべきです。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション サヒー・ブハーリ* そして *サヒー・ムスリム* アブ・シャリー・アル・カザイーの権威により[神が彼を喜ばれますように])

別の伝統では、「[神を信じ、審判の日に]隣人を敬うべきである」と書かれています。 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・フライラの権威に基づいて *サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム*を収集します[神が彼を喜ばれますように])

別の伝統では、次のように書かれています。

فليقل خيرا اوليصمت

「[神を信じ、審判の日に信じる者は]良いことを言うか、黙っているべきです。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション サヒー・ブハーリ* そして *サヒー・ムスリム* アブ・フライラの権威により[神が彼を喜ばれますように])

ある場所では、道徳、マナー、内面、性質(*イクラク*)を信者と宣言した。 彼は言った:

اكمل المؤمنين ايمانا احسنهم اخلاقا

「信者の中で、道徳、マナー、内面の性格、気質において最も優れた信仰において最も完全な人はいます(*イクラク*).”

彼はかつてこう言いました。

اذا رأيتم المئومن صموتا وقورا فادنوا منه فانه يلقى الحكمة

「信者が静かで威厳があると思われるなら、そのような信者に近づきなさい。なぜなら、その人は知恵について[神から]教えられているからです。」 (この伝統は、 アブ・カラドの権威に基づく *ハディース集イブン・マジャ* [神が彼を喜ばれますように])

彼は言った:

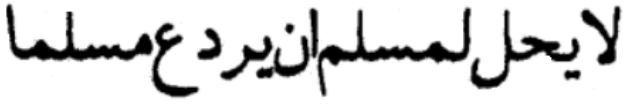
من سرته حسنته وساءته سيئته فهو مئومن

「自分の善行を善と見なし、悪を悪と見なす人は信者です。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション ムスナド・アフメド*、*アット・タバラニ* そして *ハキム* アブ・ムサ・アル・アシュアリの権威により[神が彼を喜ばれますように])

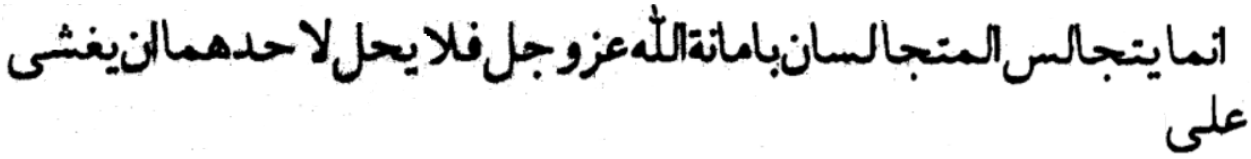
لا يحل لمئومن ان ينظر الى اخيه بنظرة توذيه

「信者にとって、自分の兄弟を危害を加えるような目で見ることは許されません(つまり、禁じられています)。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アル・ムバラク・フィ・アズ・ズフド*)

彼はさらにこう言いました。

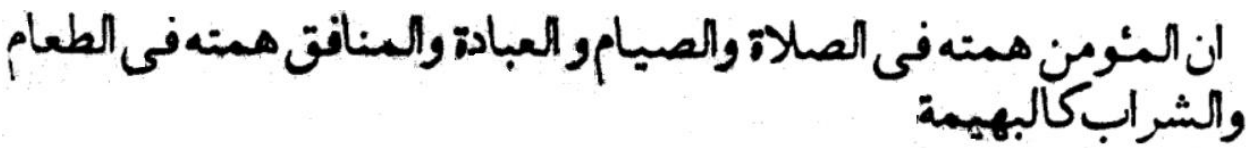

لا يحل لمسلم ان يردع مسلما

「イスラム教徒がイスラム教徒を叱責することは[すら]許されない(つまり、禁じられている)。」


انما يتجالس المتجالسان بامانة الله عز وجل فلا يحل لاحدهما ان يغشى على

「二人は神の信頼を持って一緒に座っています。 だからこそ、自分の兄弟について、明かされることを嫌うかもしれないことを他の人に明かすことは許されません。」

一部の[賢明で学者]は、善良な道徳、マナー、内面の性格、気質のしるしとして、内気で謙虚さがあり(ハヤ)、誰にも害を及ぼさず(つまり、仲間の人間)、正義で浄化されている(心と魂の内なる純粋さで)、誠実で、善行を豊富に行い、間違いが少ない、 無駄な話を避け、威厳があり、忍耐強く、感謝し、寛容で、親切で、思いやりがあり、親切です。悪口を言ったり、悪口を言ったり、背中を噛んだり、陰で文句を言ったり、衝動的で、敵意を抱いたり、けちさや嫉妬をしたりしません。神のためだけに不承認で愛します。 ある時、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、信者と偽善者のしるしについて尋ねられ、次のように答えました。

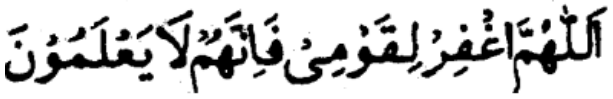

ان المؤمن همته في الصلاة والصيام والعبادة والمنافق همته في الطعام والشراب كالبهيمة

「信者の願望と努力は祈り、断食、そして[神の]礼拝にあり、不信者の願望と努力は牛のように食べたり飲んだりすることにあります。」

学識ある先人たちの言葉: ハティム・アル・アスム(神が彼に憐れみあれ)は言った:「信者は熟考に没頭し、教訓を引き出す(自分の周りで起こった出来事や過去の出来事から自分自身や他人に)引き出します。偽善者は貪欲で長生きへの希望に没頭しています[正しいことをすることに先入を告げる]。信者は神以外のすべての人に絶望している[なぜなら、神は利益と害を及ぼすことができる唯一の方であり、すべての人とすべてが神の意志に従属し、私たちの生活と私たちの周りのすべての出来事は、神が定めた目的のために神の意志に厳密に従っており、その知恵はほとんどの人またはすべての人に見られ

るかどうかわからない]一方、不信者は神以外のすべての人を恐れているからです。 信者は自分の信仰を[わずかな物質的および世俗的な利益のために]売らず、[代わりに]自分の物質的な所有物と人生を[永遠の幸福を得るために神の奉仕に]費やしますが、偽善者は富の前で自分の信仰を重要視しません。 信者は善行をした後でも涙を流します(神への恐れと、自分の善行の欠点は標準に達していないかもしれないので)、偽善者は罪を犯した後でも微笑みます[そのような人は、自分の悪行は自分自身と神の前での地位に害を及ぼす悪影響をもたらさないという誤った思い込みの下にあるからです]。 信者は[善の]種を蒔きますが、[神に受け入れられないかもしれない自分の行動の欠点のために]結果を恐れていますが、不信者は[善の]種を蒔かず、それらを無駄にし、それでも良い期待を抱いています。 信者は正しいことを戒め、悪を戒め、神の創造物の改善と改革のために働きますが、偽善者は悪を広めます。

良い道徳、マナー、内面の性格、気質を持っているかどうかの最初のテストは、他人の悪い行動、態度、マナーに忍耐強くいることです。 他人から悪い道徳、マナー、内面、気質を疑っている場合は、これらの特性を持っていることを理解してください。 良い道徳、マナー、内面の性格、気質とは、他人が与えた苦痛に直面しても忍耐強く、苦労しても寛容であり続けることの名前です。 かつて預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、ナジュランからの厚いショールで身を覆い、アナス・ビン・マリク(神が彼を喜ばれますように)と一緒にどこかに行っていました。 彼らはベドウィン(一般的に無礼で乱暴で未開と見なされていた砂漠のアラブ人)に出くわし、ショールの端をつかんで強く引っ張ったため、預言者の首に巻かれたショールが締め付けられて窒息してしまいました。 ベドウィンは尋ねました:「おおムハンマド! 神があなたに与えてくださったものから、私に少しください!」 預言者(神の祝福と平安あれ)は彼を見て微笑み、ベドウィンに何かをあげてほしいと頼みました。 (この伝統は、 *ハディースは*、アナス・ビン・マリク[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を集めています)。 クライシュの部族(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]が属していた)が彼を苛立たせ、殴ったとき、彼は不平を言う代わりに、次のように懇願しました。



「おお神様!彼らが知らない私の国を許してください」。 (この伝統は、 *ハディース* コレクション *イブン・ヒバン*そして *バイハキー* サール・ビン・サードの権威により[神が彼を喜ばれますように])

このような素晴らしい道徳、マナー、内面の性格、気質のおかげで、クルアーンは預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]を次のように称賛しました。

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ

「間違いなく、あなたは優れた道徳、マナー、内面の性格、気質の偉大さにいます。」

ユスフ・ビン・アスバト(神が彼に憐れみあれ)[偉大な聖人でありグノーシス主義者]は言いました:「善良な道徳、マナー、内面の性格、気質には10の兆候があります。[他人]に反対することはめったになく、[人々との付き合いにおいて]正義の美しさを活用すること、復讐をしないこと、邪悪なことを嫌悪すること、謝罪や言い訳を受け入れること、自分自身を非難すること、他人の欠点とは対照的に自分自身の欠点に目を光らせること、 老若男女を問わず、すべての人に温かさと愛情を持って接し、(社会的スペクトルの)低い人でも高い人でも、柔らかく優しい会話をする」と語った。 誰かがサール・アル・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれ)[偉大な聖人でありグノーシス主義者]に尋ねました。 彼は答えた:「その最低限度は、復讐をせず、他人が引き起こした痛みを忍耐強く耐えず、抑圧者を憐れみ、[神]に許しを求めることです。」 このような出来事[やことわざ]から、これらの聖なる人々の自己は、絶え間ない霊的厳格さによって節度のレベルに達し、欺瞞、不正直、敵意、嫉妬などの特性から浄化され、あらゆる状況下で神の[定められた]運命に満足し、感謝していたことがわかります。 この程度に自己が到達することは、美しい道徳、マナー、内面の性格、気質の最高の基準です。 悪い道徳、マナー、内面の性格、気質の極みは、神の命令と決定に腹を立て、神が定めた運命と戦っていることです(つまり、神の命令に対する焦りや不平を抱くことなく、忍耐強く、神の意志に感謝しながら、忍耐強く、継続的に努力しながら、自分が置かれている悪い状況を変えるために努力する必要があります)。 それにもかかわらず、これらは美しい道徳、マナー、内面、気質のいくつかの兆候です。 内面にこれらの兆候がない人は、自分が良い道徳、マナー、内面の性格、気質を持っていると信じ込まされるべきではありません。 自分自身(*ナフス*)は病気であり、神の親密な人々(*ムカラビーン*)*と真実に完全に献身する人々*(*シディキーン*)*が持つ高度な美しい道徳、マナー、内面の性格、気質に到達できるように、霊的な努力と厳しさによってそれを治すべきです。*

子どもの教育と育成、道徳、マナー、性格、内面の性質、資質の文明化と美化

子どもを訓練するための効果的な方法を採用することは非常に重要であり、必要です。それは、子供は親の手にある神の信頼であり、子供の心は素晴らしく、清潔で、素朴な鏡のようなもので、いかなる種類の印象や形もありませんが、あらゆる種類の印象や影響の影響を受け入れることができ、何にでも傾くことができるからです。
したがって、良い習慣が子供に教え込まれ、知識を教えられれば、そのような優れた栄養(育成)を得た後、子供は今世と来世の真の成功を達成します。
この[成功]において、子供の親と教師は[子供を育てた神からの]報酬の分け前を得る権利があります。

そして、子供に悪い習慣が教え込まれ(育てられ)、動物のように妨げられずに(無人/自由に)放置されている場合、子供はマナーが悪くなった後、破壊されます。
[そのような過失の]罪の重荷は、自分の(子供の)保護者と世話人にかかっています。
高貴な神はこう言われました。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ قُوٓاْ أَنفُسَكُمۡ وَأَهۡلِيكُمۡ نَارٗا

「おお、信じる者よ! あなた自身とあなたの家族を地獄の火から救いなさい。」
(クルアーン、第66章、6節)

そして、父親が子供をこの世の火から救うとき、最優先事項として、子供を来世の火(地獄の火)から救うことが父親の義務(義務)であり、これを行う唯一の方法は、子供にマナーと文明を教え、最高の道徳を教育し、悪い仲間や友人から子供を守り、その欲望を許してはいけないということです肉体的な美化、華やかな服装、装飾品、肉体的な安らぎ、安らぎを求めることが心に定着するため、そうでなければ、子供は成長した後、これらの卑劣なものを欲しがり、求めることに貴重な人生を無駄にし、それらによって永遠に滅ぼされるでしょう。
代わりに、父親には幼い頃から厳重に監視し、世話をする義務があります。

許可される(ハラール)食品の必要性と重要性:子供の育成と授乳のために、[母親がいない場合、またはこの目的のために別の取り決めがなされている文化では]、違法な食品から得られるミルクであるため、合法的な(*ハラール*)食品を食べる、
その代わりに、子供が違法な(ハラム)源から来るミルクで育てられると、悪が子供の繊維(意識/心理/内面)そのものに浸透し、そのために子供の気質は悪魔的な(悪の)行為に傾きます。
そして、子供が良いことと悪いことを区別できると[親が]感じたら、子供の完全な育成が始まるべきです。
この[子供の人生の段階]は、内気さ(ハヤ/謙虚さ)の最初の兆候の出現によって示されます、なぜなら、子供が自分自身の尊敬と名誉に気づき、恥ずかしがり屋を感じ始め、恥ずかしがり屋のために特定のことをし始めるとき、これは知性の光が一人に現れた結果にすぎません。
この[知性の光の出現]は、あることを良いものとして考え始め、あることを悪いものと考え始め、特定の行為について恥ずべき思いをし始めるほどに起こり、この内気さ(ハヤ)の認識そのものが、神、高貴な者による子供への大きな恩恵です。
そしてそれは、道徳的価値観と心の純粋さの節度を主張する(明確に示している)明確なしるしです。
代わりに、(子供の)善と悪の認識のこの意識は、思春期を迎えると、この子供が完全な知性を持つという自然(つまり神)からの喜ばしい知らせであると考えるべきです。
だからこそ、内気な(*ハヤ/謙虚*さ)を持つ子供は、決して自由(解放)のままにしてはなら

ず、その代わりに、内気さ(ハヤ)と(善悪の見極め)を生かして、十分な訓練を提供する必要があります。

食事のマナーの説明:
子供を支配する最初の悪い欲求は、もっと食べたいという欲です。したがって、食事のエチケットを教えることが非常に必要です。
たとえば、[エチケットは]右手だけで食べ物を食べること、最初に「*ビスミラ*」(「私は神の御名によって始める」)を唱えること、(皿の)正面から食べること、他の人が始めるのを待ってから食べること、(他の人が最初に始めるとき)食べ物を見つめ始めないこと、食べている他の人を見つめないこと、
不必要に急いで食べないこと、食べ物を適切に噛むこと、食べ物を口に含み続けず(または急いで)、食べ物を口に入れず(徐々にそうすべきです)、食べ物で手や衣服を汚さないこと。
時には、カレーが必需品だと思わないように、子供にパンだけを与えて、それなしではやっていけないことさえあるべきです。
同様に、一方(親または保護者)が子供の前で、食べ過ぎることの望ましくないことを語る必要があります。
子供には食べ過ぎた子供についていけないように言い、食べる量が少なく、よく訓練された子供は子供の前で褒めるべきです。
子供の注意は、友人(基本的な生活必需品をより必要としているかもしれない)のニーズに応えることによって、他の人(恵まれない)のために食べ物を犠牲にすることに向けられるべきです。
[上質な]食べ物をあまり気にせず、シンプルな食べ物で満足するように子供に習慣を身につける必要があります。

服装のエチケットの説明:同様に、カラフルでシルクの服の代わりに、シンプルで地味な服への愛と欲求を子供の心に育む必要があります。
そのような服を着ることは適切ではなく、敬虔な人々はそのような服装を嫌うことを心にしっかりと印象づけるべきです。
そのようなこと(忠告)は、一般化された方法で時々子供に伝えるべきです。
そして、子供が絹のようなドレスや明るい色のドレスを着ているのを見たとき、子供の前で[そのような服装に対する]不承認を表明し、子供の心に[そのようなドレスに対する]望ましくないことを植え付ける必要があるのは親の義務です。
親は、繁栄に慣れ、快適さ(快適なライフスタイル)を求め、誇らしげな服装をしているすべての子供たちと子供に会わないように子供を保護する必要があります。
彼ら(親)はまた、そのような耽溺の方法(快適さを求める、誇らしげな服装など)について子供に物語を語るすべての人々の付き合いから子供を守る必要があります。
最初の成長(育成)中に[そのようなことに]放置された子供は、成長した後、一般的にマナーが悪く、嘘つき、泥棒、物語をつく人、非妥協的(頑固)、邪悪な話をする人、皮肉な人、狡猾な人、欺瞞者、愚か者になります。

これらすべての悪から子供を守る唯一の源は、良い教育と訓練であり、その後、子供は学校に入学して、クルアーンとハディース(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統)を学び、神の正義の奴隷の状態、伝記、伝統についての知識を習得し、幼い頃から、
聖徒たちの愛(神が彼ら全員に憐れみをあげてくださいますように)が心に定着します。
さらに、ロマンチックな詩やロマンス志向の詩人から子供を守り、そのような詩は心の生活と知覚[または表現]の繊細さのしるしであると考える作家から遠ざかってください。

善を説得し、悪を戒める方法:
子供が良い資質を示したり、賞賛に値する行動を示したりするときはいつでも、父親は子供を褒め、子供を幸せにし、他の人の前で子供を褒めるような贈り物を与える必要があります。
その後、子供が[賞賛に値する資質や行動に]反対のことをした場合、それに気づいていないことを示すのは適切であり、[父親は]子供を侮辱したり屈辱を与えたり、欠点を強調したりすべきではありません。
代わりに、父親[または親]は、特に子供自身が過ちを隠蔽し隠そうとする場合、子供が目の前でそのようなことをする勇気を持っているとさえ思っていることを子供に知らせるべきではありません。
それは、時々(子供の)間違いを明らかにすることが、子供がより大胆になり、ゆっくりと徐々に子供が自分の欠点が明らかになることさえ気にしなくなる原因だからです。
このような賢明な予防策を講じた後でも、子供が再び同じ[悪い]ことをした場合、内密に叱責するのが適切であり、悪行の過ちを子供に明らかにし、「気をつけろ!
二度とこのような悪いことをしないでください。
神は禁じられています、これを誰かに発見されたら、あなたは人々の前で屈辱を受けることになります」と述べています。

過度の叱責の害:しかし、それは子供に非難や叱責に耳を傾ける習慣を作り、間違いを犯す勇気を高めるので、子供が過度に叱責されないことを心に留めておく必要があります。 そしてゆっくりと徐々に、戒めの価値は子供の心から減少します。
同様に、父親は子供と話すとき、(子供の心の中で)畏敬の念と畏敬の念を保ち、めったに叱責しないようにし、子供が頑固なときは母親が父親を恐れさせ、子供が悪いことをするのを厳しく止める必要があります。

睡眠のエチケット:
怠惰を引き起こすため、日中は寝ないように子供に言われるべきですが、夜の睡眠を止めるべきではありません。
ただし、子供の身体器官が強くなり、体が損なわれないように、子供が快適さなしでは生きることができないように、子供が柔らかいベッドで寝るのを止める必要があります

。
代わりに、硬いベッドで寝たり、シンプルな服を着たり、簡単な食べ物を食べたりする習慣を子供に植え付ける必要があります。
子供は、それが悪いことを知っているので、秘密裏に何かをすることを止めるべきです。 それを無視すると、子供は悪いことをする習慣を身につけます。

同様に、日中に歩いたり運動したりする習慣は、無気力で怠惰にならないように子供に植え付ける必要があります。
ただし、子供が頭、膝、太ももなどを露出しないように細心の注意を払う必要があります。
さらに、子供は歩きすぎたり、手を緩めたりしてはいけませんが(これは怠惰の表れです)、代わりに、子供は手を体に近づけ、活動的であるべきです。

傲慢さとプライドの禁止:
子供は、両親の所有物、食料品、衣服、さらには筆記具やインクなど、あらゆるものに誇りを示すことを禁止されるべきです。
代わりに、謙虚さ、敬意、名誉を持って仲間の子供たち全員に接し、純粋な(清潔で文明的な)会話をする習慣を一人に教え込むべきであり、他の子供たちから何かを奪うことを許されるべきではありません。
裕福な両親の子供であれば、名誉と地位は与えることであり、奪うことではなく、代わりに[他人から]奪うことには、卑さ、屈辱、堕落の[特徴]があることを説明する必要があります。
貧しい親の子供であれば、貪欲で他人から何かを奪うことは自分自身の侮辱と屈辱の原因であり、尻尾を振り続け、待っていて、一口の食べ物に貪欲になるのが犬の特徴であることを教えるべきです。
同様に、子供は金や銀を嫌うようにさせられ、ヘビやサソリへの愛よりもこれらのものへの愛を恐れさせるべきです。
それは、金と銀への愛と貪欲が、(ヘビやサソリの)毒によって引き起こされる害よりもはるかに多くの害を子供や大人に与えるからです。

人々と集まって会話する際のエチケット:子供は、公の場で唾を吐かないこと、鼻をほじってはいけないこと、誰の前であくびをしないこと、誰にも背を向けないこと、あぐらをかいて座らないこと、手のひらをあごの下に置いたり、手で頭を支えたりして座らないように教えるべきです。
言い換えれば、子供には正しい座り方も教えられるべきです。
子供は話しすぎないように抑制されるべきであり、これらはすべて恥ずべきことであり、礼儀正しい子供の仕業ではないことを心に明確に印象づけるべきです。
さらに、子供の頃から悪口を言う習慣を身につけないように、子供が真実または虚偽の悪口を言うことを完全に禁止する必要があります。

同様に、子供は最初に会話を始めるのを止めるべきであり、[質問]に答えるためだけに話すべきであり、それも[尋ねられた]質問に比例するべきであるというこの習慣を子供に植え付けるべきです。
誰かが子供に話しかけているときは、非常に注意深く耳を傾け、立ち上がって年上の人のためにより多くのスペースを作り、彼らの前に適切なマナーを持って座るべきです。
子供は無駄な話、下品な話、罵り、非難、言葉による虐待を止めるべきであり、仲間の子供たちの邪悪な性質は必然的に子供に[悪い意味で]影響を与えるため、これらのことをする人々と会うことを禁止されるべきです。
そして、子供たちの[適切な]訓練の本当の秘密は、悪い仲間から子供たちを守ることに内在しています。

忍耐と忍耐:
また、教師が子供をしつけるとき、子供は叫んだり叫んだり、誰かのサポートを求めたりしてはならず、代わりに忍耐と忍耐を行使する必要があります。
子供にこのことを理解させるためには、忍耐力を行使することは勇敢な者のやり方(特徴)であり、叫び、叫び、泣くことは尊厳に欠ける者の仕業であると伝えるべきです。

運動の重要性と利点:
学業を終えた後、子供は学校の疲れを取り除き、リラックスできる良いスポーツをすることを許可されるべきです。
しかし、子供が遊びすぎて、遊びそのもののせいで疲れてしまうようなことを許されるべきではありません。
なぜなら、子供が遊ぶのを完全に止め、勉強のプレッシャーにさらし続けることは、心を死にさせ、知性を無効化して役に立たなくし、人生を惨めにしてしまうからです。

年長者を尊重するエチケット:
親戚であるかどうかにかかわらず、子供が親、教師、そして自分より年齢の年齢の良いすべての人に服従することを教えることが非常に重要です。
そして、敬意の目で彼らを見て、彼らの前でプレーを放棄するように言われるべきです。
子供が思春期に達すると、清潔さ(個人衛生)と純粋さに怠惰を許されるべきではなく、祈りを逃したために無視されるべきではありません。
ラマダン(断食の月)の特定の日には、子供は[思春期に入る前に]数日断食させられ、絹から遠ざけられ、金と銀を身に着けないようにする必要があります。
必要に応じて、子供に神の限界(境界)と神の法則を説明し、窃盗、違法な収入と食べ物、信頼の背反、不正直、恥知らず、そして思春期に子供の気質(性格)に生まれるすべての邪悪なことを恐れさせる必要があります。
子どもの幼少期からの育ちがこうなれば、思春期を迎える頃には、その秘密や知恵をはっきりと理解できるようになります。

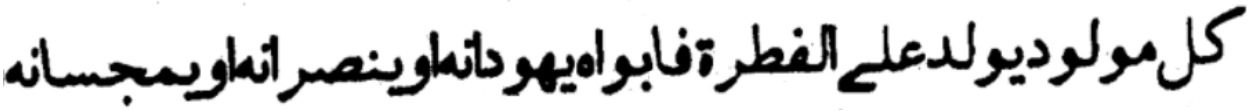
[小児期または青年期の]この段階では、許可されている(*ハラール*)食品が何であれ、それは薬のようなものでもあり、その唯一の目的は、人間がそれらを食べた後、高貴な神に従順になることができるようにすることであると説明する必要があります。

世界の無常性:
また、世界自体が[私たちの人生の]目的ではなく、[世界]は非現実的で永続性がなく、終わりがあることを[子供の]心に明確に印象づけるべきです。
死はこれらの[物質的な]祝福に終止符を打ち、世界は私たちが[永遠の命に向かって]通過している場所にすぎません。
それは満足のいく場所ではなく、落ち着く場所でもありません。
しかし、来世の世界は平和と静けさの真の駅であり、静けさと満足の場所であり、死は常に、世俗的な生活を終わらせるために待ち伏せしています。

インテリジェントなのは誰ですか?
実際には、知的な人は、来世の永遠の命のために、この死すべき世界からの頼り(来世への旅に必要な備え)と善行を提供し、神、高貴な方、そして楽園の無限の祝福の前で高い地位に受け入れられる人です。
子供の最初の育ちが良かった場合、思春期には、この議論は自己(*ナフス*)にとって喜ばれ、効果的であることが証明され、石に刻まれた[消えない]碑文のように心臓に刻まれ、子供にとって良い前兆となるでしょう。

それとは反対に、もし子供の精神的(知的)発達が間違った線に沿っていたら、悪、恥知らず、食べ過ぎたいという欲求、立派なドレスへの貪欲、誇示と装飾、派手さ、傲慢さ、プライドなどの性質が一人の中に生まれ、人の心はこの事実(つまり、世俗的な人生の無常性と来世の人生のために働く必要性)を乾いた壁のように受け入れることを拒否するでしょう乾燥した土壌を受け入れることを拒否します(つまり、そのような教えは子供の心にくっつきません)。
要約すると、これらは最大限に注意する必要がある最初の事項です。

子供の本性と親の義務:
子供の心の構成は、善と悪、正義と悪の両方の影響を受け入れることができるようなものであるため、子供の[心]を善または悪に傾けるのは父親と母親の責任です(ガザリはこの問題で選択を与えていません。
しかし、その代わりに、親に子供を善に傾けるよう促すと、親の過失により子供は自動的に悪に傾くことになります)。
預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「すべての子供は、真の生来の性質[神が全人類を創造したため、人はすでに神への信仰、真理と正義への献身、善と前向きなものすべて、すべての人との平和と調和、そして内なる光と永遠の真理の夜明けにつながるグノーシスの状態を通じて自分の天の起源に到達したいという切望を持っている傾向がある状態で生まれます]が、両親は人を改宗させますユダヤ人、キリスト教徒、またはマジアン(世界に存在する多様な宗教的およびイデオロギー的伝統をほのめかし、したがって、独自の宗教的、イデオロギー的、文化的、地理的、知的文脈の型に人を形作る)」と述べています。 (この伝統は、 *ハディース集 サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブ・フライラの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

良い育ちによって最高の結果を達成した歴史的証拠:
シェイク・サール・ビン・アブドゥッラー・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれ)は、「私が3歳のとき、私は夜に起きて、母方の叔父ムハンマド・ビン・サワル(神の憐れみあれ彼に)。
ある時、彼は私にこう言いました、「あなたはあなたを創造した高貴な神を思い出すのではありませんか?」 私は『どうすれば神を思い出すべきか?』と尋ねました。
彼は言った、「夜、[寝る前のベッドで]脇腹を変えるときは、舌を動かさずに、心の中でだけ次のことを三回唱えなさい。

アッラーフ・マイヤ、アッラーフ・ナジルン・イライヤ、アッラーフ・シャヒディ

神は私とともにいて、神は私を見守っておられ、神は私の前にいます。」

私はそれを数晩続け、それから彼にそのことを伝えたところ、彼は『今、毎晩同じことを7回やってください』と言いました。
私はそうして、そのことを彼に伝えたところ、彼は「さあ、これを11回やってください」と言いました。
私もそうし、その結果、その味と甘さを心の中で感じるようになりました。
[毎晩]これに基づいて行動して一年が経過したとき、彼は言いました、「私があなたに教えた記憶は、あなたはそれをよく覚えて、死ぬまでそれに基づいて行動し続けるべきです。 これは、この世とあの世であなたにとって利益の源となるでしょう。」
私はそれを数年間続け、私の最も内側の奥底でその味(深い衝撃)を感じ始めるまで続けました。 そしてある日、彼はこう言いました。
神よ、神が誰かと一緒にいて、神が[一瞬一瞬]見守っている人、その人の前にいるとき、その人は高貴な神に逆らうことができるでしょうか? 注意！

決して神に逆らってはならないし、神に逆らってはならない!」
そのため、私は隠遁生活を始めました。
それから彼は私を学校に通わせようとしましたが、私はこう言いました、『私は(神への)私の注意が分断される危険を感じています。
しかし、もしあなたが先生から、私がしばらく彼と一緒に勉強するという約束を得ることができれば、私はすぐに戻って神の思い出に従事するでしょう。」

その後、先生のところに行き、6、7歳の頃にはクルアーン全体を暗記しました。
私はいつも断食をしており、12歳になるまでは大麦パンが私の主な食べ物(食事)でした。
この間、私が13歳のとき、私は特定の宗教問題について学ぶ(調べる)必要性があり、その後、この問題について学者に尋ねるために、(イラクの)ブスラに行くことを許可してほしいと家族に頼みました。
したがって、私はブスラに来て、そこの学者にこの問題について尋ねましたが、誰も私を満足させませんでした。
その後、私はアバダンに行き、シェイク・ハビーブ・フムザ・ビン・アブドラ・アバダニ(神が彼に憐れみあれ)の前にいて、同じ宗教的な問題について尋ねたところ、彼は私に満足のいく答えをくれました。 その後、私は*彼の[本]「*Mulfoozat al-Qudsiya*」から霊的な利益(ファイド*)を得るために長い間彼の前にとどまり続け、彼から[霊的な]マナーを学び続けました。
それから私は故郷のトゥスターに戻り、食事を配分して、1*ディルハム*(古い通貨)相当の大麦を粉砕し、パンをそれから作ってくれました。
毎晩、*スフール*(断食を始める前の夜明け前の食事)の時に、私はカレーを一切使わずにパンから*アオキア*(現在の1オンスに相当する古い測定単位)を1つ食べていました。
したがって、1*ディルハム*(非常に少量)は、私にとって一年分の[食料]に十分でした。

私は(この件に関して)進歩し、三晩後に断食を破り(つまり、彼は三日夜連続断食していました)、次に五晩後、そして七晩後、そして徐々に二十五晩まで達しました。
私はこの20年間、この状態を続けました。
その後、長年にわたって世界をツアーし、Tustarに戻りました。
私はほぼ一晩中礼拝し、祈っていました。」

イマーム・アフマド(神が彼に憐れんでくださいますように)は、「彼(つまり、シェイク・サール・トゥスタリ[神が彼に憐れみあれ])が[食事のパンと一緒に]カレーを使用したという証拠は一度も受け取っていません」と言いました。
[ガザリ(神が彼に憐れみあれ)は、シェイク・サール(神が彼に憐れみあれ)が幼い頃から行った激しい精神的な運動と肉体的持久力の並外れた偉業という点で、私たちもこのように子供たちを育てるように、この伝統について言及しませんでした。
ガザリがこれについて言及する目的は、子供の適切な育成のために親が適切な手配を行えば、子供は人間の可能性の頂点に到達できるという点を強調することです。

スピリチュアルな旅に乗り出すための条件、スピリチュアルな闘争の始まり、スピリチュアルな道におけるスピリチュアルな探求者の段階的な進化についての詳細

心を通して来世を確信を持って観察し、来世の一員となり、来世のために闘い、来世への信頼を蓄積し、来世に通じる道を歩み、世俗的な喜びや祝福を心に重要視することはないことを知っておく必要があります。 誰かが真珠を持っていて、貴重な宝石に目が落ちた場合、その真珠は心から離れ、真珠の代わりに宝石を手に入れたいと願う人になります。 来世も神との出会いも望まない人は、神と終わりの日への信仰の欠如のために、貴重な宝石よりも優れた小さな真珠を呼ぶ人のようなものです。 この愚かさは、宝石の現実ではなく、宝石だけに目を向けている人によってのみ行うことができます。そのような人は明らかに小さな真珠を貴重なものとして考え、宝石の重要性をまったく理解しません。 それにもかかわらず、霊的な闘争と霊的な道(スルク)を横断することなく神に到達することは不可能であり、それは意図なしには不可能です。 意図の道を阻む最大の障害は、信仰が欠けていることです。 記憶されている方(神)への信仰は欠けています。 霊的指導者と[正しく導かれた宗教的]学者は、真理の道を示し、この世界は価値が小さく、永続性はなく、来世の命は確かに重要であり、永続性、永続性、永遠性を持っているだけであり、人々は[人生の真の目的と意味、そしてそれを達成するための道]の無注意に耽っていることを仲間の人間に告げるべきです。 欲望と欲望に浸り、彼らの本当の利益と害に気づかず、夢を見ている状態に完全に酔いしれています。 そのような学識ある学者は、彼らを眠りから目覚めさせ、欲望や欲望から遠ざけ、彼らの怠慢と不注意[真の目的、人生の意味、永遠の至福と終わりのない成功への道]について事前に警告できる人は見つかりません。

もし人がたまたま無頓着の眠りから目覚めたなら、そのような人は不信仰と偽善の暗闇から抜け出す方法を見つけることができず、自分の無知のために[自分の人生の]あらゆる分岐点や場所でつまずき、転倒します。 そのような人が学者に[自分を取り巻く暗闇から抜け出し、真の内なる光と平和の人生へ]道について尋ねるなら、彼ら自身が卑劣な欲望と欲望の奴隷であり、低次の自己(ナフ)からの欲望の囚人であるため、彼らは答えることができません。 意図の弱さ、道への不慣れ、そして[いわゆる]学者の誤った導きは、神への道に旅人、霊的旅行者、努力家が欠けている原因です。 客観的な[人生の意味とそれを達成するための道]が視界から隠され、自分の[真の]目的[と人生の目的]に導くためのガイドが消え、[内なる]自己が頑固な間違った愚かさ(ハワ)と欲望に支配され、[真実、導き、内なる照明の]探求者が無頓着に耽溺するとき、どうやって道を見つけることができるでしょうか? もしそれが[万が一]見つかり、それに向かって一歩を踏み出したとしたら、道を歩む方法さえ知らないのに、どうやって目的地にたどり着くでしょうか?

スピリチュアルな旅に乗り出すための条件: もし人が知的で、自分自身で、あるいは誰かの説得によって、来世への意図を立てるなら、それに向かって一歩を踏み出す前であっても、スピリチュアルな旅に乗り出すための条件を見つける必要があります。 スピリチュアルな旅に乗り出す前に、次の条件を満たす必要があります。

何よりもまず、スピリチュアルな旅に乗り出すための条件は、自分自身と真実の間に見つけたベール(隠蔽し、難読化するもの)をすべて取り除くことです。 人々は[自分自身と真実]の間に多くのベールが根付いているため、真実を体験することを奪われています。 神はこう言われます。

وَجَعَلْنَا مِنْ بَيْنِ أَيْدِيهِمْ سَدًّا وَمِنْ خَلْفِهِمْ سَدًّا فَأَغْشَيْنَاهُمْ فَهُمْ لَا يُبْصِرُونَ

「そして、われは彼らの前に障壁を置き、彼らの後ろに障壁を置き、それによって、われは彼らを四方八方から取り囲んだ。それゆえ、彼らは[真実の光を見ることができず、これは真実を求めることに対する彼ら自身の無頓着さと彼ら自身の間違った行動のために]行われたのです。」 (クルアーン、第36章、9節)

ベールの種類: スピリチュアルな探求者と真実の間には、4つのベール(真の人生の目的、内なる照明、永遠の幸福、無限の成功の達成につながる人生の正しい道を妨げ、難読化する障害)があります:富、名声への欲求、[さまざまなイデオロギーの]盲目的な追随、そして罪。 富のベールは、(霊的な道の)探求者の所有物から消え、自分の必要の範囲内でのみ残ります。 たとえディルハム(古い通貨)が自分の必要を超えた探求者の手元に残っていたとしても、その人の心はそれに注意を払い続け、*ディルハム*は心を支配し、神に傾くことはできません。 名声のベールは、探求者が名声や権威の場所から離れ、謙虚さと謙虚さを習慣にし、匿名の生活を好み、名声の原因に執着せず、人々の嫌悪感を引き起こす種類の行動を[神の法と品位の範囲内で]行うときに取り除かれます。 盲目的に従うベールは、神の法と議論の異なる学派に対する偏見のある考え方を脇に置いて(同様に、異なる宗教的伝統に対して)、神以外に神は存在せず、ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が神の使者であることを確認することによって取り除かれます。 これらの言葉の真実性と真実性を実際に表現するには、神以外の崇拝に値すると考えられるすべてのものとすべての存在からすべての関係を断ち切ること、特にこの「神」は非常に重要視され、そのすべての命令が従い、そのすべてのしぐさが頭を下げることによって服従するため、[自分自身の]自己(*ナフまたは*エゴ)との[すべての関係を断ち切ること]が必要です。 もし、神の一体性と唯一性についてのこの声明が、そのように証明されるなら、盲目的な追随から発せられるすべての信念は無効になるでしょう。 これは、(人々との)議論や議論ではなく、霊的な闘争と努力(*ムジャハーダ*)によって達成されます。 偏見と不寛容が人を支配しており、[その結果]自分の[長年保持され、大切にしてきた]信

念に反するものに耳を傾けようとしないなら、それは盲目的に従うことの絞め殺しであり、この絞め殺しから抜け出すのは非常に困難です。 特定の学派(神の法則の)厳密な信奉者であることは、探求者であることの条件ではなく、代わりに、あらゆる学派の崇拝者であり、信奉者は、スピリチュアルな旅に乗り出す道をたどることができます。 罪のベールは、人が[自分のすべての過ちから神に]悔い改め、過去のすべての罪に対する後悔と後悔を表明し、[権利を奪うことによって]抑圧されたすべての人の権利を取り戻すまで取り除かれません。 自分の罪を悔い改めることなく、*霊的な照明と啓蒙(ムカシャファ)*を通して、神(*ディーン*)への道の秘密と内なる知恵を知らされたいと願う人は、クルアーンがアラビア語[言語]であるにもかかわらず、アラビア語を学ばずにクルアーンの意味と意図を理解したい人のようなものです。 クルアーン一節の意味もアラビア語を学ばなければ理解できず、その秘密や機微、知恵を理解することはそのためにさらに難しい。 同様に、霊的な努力の谷に足を踏み入れる前に、神の法の教えに従うことが不可欠です[神の崇拝の行為とすべての仲間の人間との社会的取引を通じて外的な生活を営むこと]。 外的な生活を営むために神の法則を完全に遵守することは、神の秘密の扉を開き、永遠の真実の泉が湧き出ることにつながります。

完成されたスピリチュアルガイドの必要性:これら4つの条件をすべて遵守し、富と名声の欲望を避ける人は、汚物で汚れた後、清め(*ウードゥー* - 祈りを行うために必要な条件である肉体的な浄化の行為)を行った後に清められた人のようなものです。 しかし、この資格だけでは祈りを行うのに十分ではありません。 代わりに、時には会衆のリーダー(*イマーム*)が必要であり、そのリーダーシップの中で祈りを行うことができます。 同様に、これら4つの条件を満たし、それに基づいて行動するだけでは十分ではありませんが、導きのまっすぐな道(曲がりくねった道、逸脱した道、落とし穴のない道を歩むように導き、歩ませることができる教師またはスピリチュアル*ガイド(スカイク*)も必要です。 神(*ディーン*)への道は非常に複雑で困難であり、四方八方が多数の悪魔的な(邪悪な)道に囲まれています。 誰(スピリチュアルガイド)も見つからない場合、サタンがリーダーシップと導きを求めて名乗り出て、人をまっすぐな導きの道から逸脱させ、自分の道に導こうとする可能性があります。 [霊的]ガイドなしで危険な道を歩むことは、[霊的]死の旅に出ることと同じです。 そこまで自分に自信を持ち、自ら道を歩み始める人は、道に生えている植物のようなものです。 彼らの人生は短く、彼らの人生はいつでも終わる可能性があります(潜在的に有害な人生の間違った道を歩むために)。 たまたま生き残ったとしても、彼らは[スピリチュアルな道で、ひいては外的な人生における前向きで有益な行動に影響を及ぼす]実を結ぶことができません。

これら4つの条件が満たされた後、最も重要なことは、完成されたスピリチュアルガイド(*シェイク・アル・カミル*)の存在であり、その存在は、自分の仲間に完全な信頼を持ち、道の落とし穴を気にすることなく従う盲目の人のように、自分の信頼を命じます。 これは、スピリチュアルガイドに身を委ね、ガイドが言うことを[神の法の範囲内で-真のスピリチュアルガイドは、怖い法の神の命令に決して反せず、それを最高の尊敬の念

に抱く]スピリチュアルな探求者(ムリード)の状態であるべきであり、たとえスピリチュアルガイドが間違いを犯したとしても、この確信を持っています。 それは人に害を及ぼすことはなく、人にとって有益であることが判明するでしょう。 スピリチュアルガイドの間違いは、[スピリチュアルガイドが自分の推測や思考をガイドとして使用せずに]一人でスピリチュアルな道を歩み、正しい[スピリチュアル]道を選択することにチャンスをつかむよりも優れています[完璧なスピリチュアルガイドがいると、スピリチュアルな道で一歩前進し、何歩も後退することが妨げられるからです]。

スピリチュアルガイドの義務:スピリチュアルな探求者が誰かを[スピリチュアルな道の]ガイドとリーダーにするとき、ガイドは[スピリチュアルな探求者]に[効果的なスピリチュアルな教え、導き、助けの観点から]安全な聖域を提供し、高速道路の強盗や強盗の足が届かないような強力な要塞でスピリチュアルな探求者を保護するための手配をする義務があります。 このような安全な聖域と要塞には、孤独、静けさ、空腹、覚醒という4つの壁があります[人々と一緒にいるのとは対照的に、絶え間ない急いで動く状態にあり、満腹で満たされ、霊的な道の大きな障害であるため、長時間眠っています]。 スピリチュアルな探求者の目的は、心の改革[魂の精製と浄化としても知られるため、心を押さえつけている足かせを打ち破り、存在の高次の領域に上昇させ、濁りから清らかさに上昇させ、永遠の幸福と無限の勝利へと、世俗のストレスと物質的な領域での認識された失敗から無限の勝利へ]神のビジョン[の目で]するようにします。魂]が可能になり、人は神の近くに到達します。 この目的を達成するには、上記の4つのことが必要です。 空腹は心臓への血液の流れを減らし、それが心臓に明晰さを加え、この明晰さが心の光です。 飢えは心の硬さを軽減し、謙虚さ、思いやり、柔らかさがその中で生まれ、それが精神的な啓示(*ムカシャファ*)の鍵となりますが、硬さはそれへのベールです。 血の流れが減ると、欲望と欲望に満ちた血管がその通路であり、これらの血管の血液を通して全身を循環するため、血の流れが減少すると、[人類の][人類の][本当の]敵、つまりサタンの通路が狭くなります。 イエス(神の祝福と平安あれ)は仲間たちにこう言われました。 サール・ビン・アブドゥッラー・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれと言いましたように)は、「*アブダル*(聖人とグノーシス主義者の最高のカテゴリーの1つ)は、飢え、覚醒、沈黙、孤独の4つのものによって作られています」と言いました。 空腹が心の悟りと啓発に及ぼす影響は否定できない事実です。 経験がそれを証明しています。 詳細は「2つの欲望を破る」(第3章)の章で説明します。

目覚めはまた、心に清らかさ、輝き、そして光をもたらします。 この光が飢えによって生み出された光に加わるとき(光の上に光を当てる)、心は神聖な美しさを映し出す明るい星や磨かれた鏡のようになり、その中で来世の崇高な度合いの目撃、そして世俗的な存在の取るに足らないこと、屈辱、落とし穴が起こります。 この証言の後、霊的探求者の目には世俗性の重要性は残らず、人は来世[人間の魂が存在のレベルから別のレベルへと進む旅における永続性と永遠の最終目的地である]に完全に集中するようになります。 睡眠は心を硬くし、死に至らしめますが、必要性に応じたものであれば、隠

された領域の秘密がその中に明らかになります。 *アブダル*(非常に高い精神的資質を持つ聖人やグノーシス主義者)の資質には、彼らの栄養は空腹であり、最も必要なときだけ眠り、神の記憶と熟考から得られる疲れを取り除くのに役立つニーズに従ってのみ話すと書かれています。 静けさと沈黙は心を強め、綿密さ(*ワラ*)と神への畏れ(*タクワ*)*につながります*。

心の扉である目と耳が閉じられ、心の関与を妨げるものは何もないとき、孤独の完全な恩恵が達成されます。 体内の心臓の類似性は、四方八方からの汚れた水がそこに落ちた貯水池のようなものです。 霊的な闘争と努力の目的は、汚れた水を[貯水池、つまり心臓に]運ぶすべての水路を閉鎖し、貯水池を深く掘り、外部の水源を必要とせず、代わりに水自体が貯水池の底から湧き出るようにすることです。 貯水池を水中で自給自足させるには、汚れた水の貯水池を完全に空にする必要があり、これは貯水池に通じるすべての水路が閉じられている場合にのみ発生します。 [汚れた水が貯水池に流れ込むために]水路を開いたままにして、純粋で新鮮な水を貯水池に貯めたいのであれば、それはまったく不可能です。 [不純物や汚れを心に導く]心の経路は感覚です。 感覚を止める方法は、暗い家の中で孤独を受け入れることであり、暗い部屋が利用できない場合は、頭に布をかぶせてそこに座るべきです。 人は孤独の中で真実の声に耳を傾け、神の摂理の威厳を目撃します。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、まさにこの状態[預言者としての地位が始まる前の孤独と霊的な熟考]において、この真実の声に到達し、語りかけられました。 この説明の結果は、飢え、覚醒、静けさ、孤独のこれら 4 つの性質がスピリチュアルな旅行者の避難所であるということです。 人は、これら[4 つの]手段を通じて、[神に通じる][霊的]道のダコイトや強盗から身を守ることができます。

スピリチュアルな道(*スルク*)*への努力の始まり*:これらすべての条件を満たした後、スリチュアルな道(スルク)で努力する道に足を踏み入れ、前進するために越えなければならない道には困難な峡谷(または峡谷)がたくさんあることを認識する必要があります。 神への道の峡谷は、世俗的な欲望を植え付ける心の[否定的で邪悪な内面]性質に他なりません。 これらの峡谷の中には、渡るのが難しい巨大なものもあれば、横断しやすい小さなものもあります。 これらの峡谷を横断するための[正しい]順序は、簡単な峡谷を横断し、次に最初の峡谷よりも少し難しい峡谷を横断し、次により難しい峡谷を横断することです[というように]。 これらの特質は、富、名声、[創造主ご自身ではなく神の]創造物、罪への傾向など、霊的闘争の初めに越えたのと同じ障壁の秘密であり兆候です。 これらの障壁の兆候が[自分自身の]外側の存在から切り離されたのと同じように、同様に[自分自身の]内なる存在からも根絶されるべきです。 しかし、これには長い霊的闘争が必要です。 私は以前にもこれを書いたことがありますが、本当の霊的闘争は[低次の自己の]欲望と欲望の対立です。

スピリチュアルな旅行者の心が欲望や欲望から空っぽになり、スピリチュアルな努力に反対するものが心に何も残っていないとき、スピリチュアルガイド(*ムルシド*または*シェイク*)は、スピリチュアルな旅行者(たまたま学生またはムリードのガイドである)の心を継続的に監視し、過度の外側の献身や連祷(*アウラド*). 代わりに、[宗教的]義務の行為(*ファライド*)と預言的行為(*スナン*)[宗教的義務のレベルを下回り、預言者の敬虔な行為と崇拝の義務を超えた敬虔な行為と献身を模倣していると見なされる]ことに満足するように忠告されるべきです。 せいぜい、スピリチュアル・ガイドは、すべての記憶と連祷の要約である記憶、つまり、心が神以外のすべてを空っぽにしたとき、スピリチュアルな旅行者に至高の御名「アッラー」を思い出させるべきです(つまり、神の唯一の個人名ですが、「神」は主人である至高の存在を指す一般的な言語固有の方法です。神がもたらしたすべてのものの創造者、維持者、提供者)。 しかし、心が霊的な道の他の障害(*'Ala'iq*)に傾いている限り、この記憶をさせられるべきではありません。 だからこそ、シブリ(神が彼に憐れみあれ)は、彼の生徒に「今週の金曜日から次の金曜日の間に、あなたの心に神以外の何かが起こったら、来週の金曜日に私を訪ねて来ないでください」とよく言っていました。 この種の綿密さは、霊的な道を横断し、神の愛を達成するという真の意図の支配なしには達成されません。 心は神以外の考えさえも心に起こらず、真の恋人になり、ある熟考以外に他の熟考が残らないとき、心は神以外のものを欠いています。 スピリチュアルな旅行者がそのような内なる状態に到達した場合、スピリチュアルガイドはそのような人が孤独に隅に座ることを許可し、許可された(*ハラール*)食べ物を持ってくる人を任命する必要があります。 神(ディーン)への道の基本は、許可された食べ物を食べることであるため、食べ物が許されることが不可欠です[賄賂、恐喝、窃盗、詐欺などの違法で非倫理的な手段、または違法に稼いだお金や神聖な法律で禁止されている種類のものなど、許可されていない食べ物とは対照的です]。

一人に孤独の許可を与えた後、スピリチュアルガイドは、「*アッラー、アッラー*」(「アッラー」は神の唯一の個人名です)、「*スバンアッラー*」(すべての不完全さ、欠点、誤り、そしてすべての欠陥、卑劣で否定的なものの上におられる神に栄光あれ)など、心と舌の両方を完全に耽溺させたまま*にする神聖な記憶(ディクル*)を行うように指示する必要があります。 等。 舌の動きが止まるほどこの記憶に忍耐力を行使し、意図的な動きなしに舌の上で舌の上で続けられているように見えるでしょう。 この連祷は、[この神聖な記憶に対する]舌の残された影響が存在しなくなり、[至高の御名の]言葉の形だけが心に残る程度まで続くべきです。 その後、[この霊的な努力における絶え間ない努力によって]言葉の形さえも心から消去され、その意味の現実だけが残る段階が到来します。 これは、意味が常に心に残り、決して消えないような方法で起こり、その存在下では、他の意味の考えさえ心に生じません。

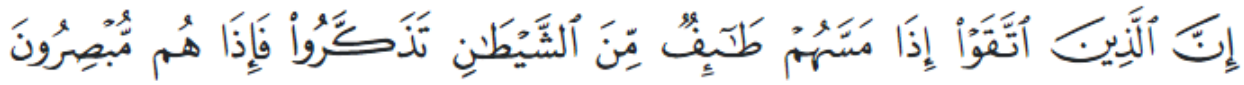
心が何かにふけるとき、それが何であれ、それ以外のことをする余地は残されません。したがって、心が神の記憶に忙しく、神が自分の目的であると同時に求められている方であるならば、心は神以外のすべてを欠くことになります。 この段階に到達した後、

スピリチュアルな旅行者(*サリク*または*ムリード*)は自分の心を厳密に監視し、自分の存在にも関係も、他の誰か[または何か]にも関係のない、心の中の他のものの想像さえ許さないように努力する必要があります。 なぜなら、心がどちらかの側に傾くと、たとえそれが一瞬起こったとしても、それは大きな損失となるためです。 この種の損失は避ける必要があります。 ほのめかしに関する心の状態は、外部のほのめかしを取り除き、[神の記憶の]1つの発話に心を集中させると、それもまた、「この発話は何ですか?」、「それはどういう意味ですか?」、「なぜそれは[神の]崇拝なのか?」などのほのめかしの源になるということです。 このほのめかしは扉や心配を開け、サタンは新しく考案されたほのめかしで[心に]入ります。 それらには、信仰の安全から不信仰の破壊へ、預言的な道(*スンナ*)の光から、新たに考案された事柄や信仰の革新(*ビダ*、つまり、信仰の純粋で独創的で真実な教えからの逸脱であるため、信仰に有害な事柄)へと人を連れて行くほのめかしが含まれます。 霊的な旅人が[信仰へのそのような侵害から身を守ることに]積極的であり、そのようなほのめかしをもたらす道を厳しく監視しているなら、害を及ぼす危険はありません。

2 種類のほのめかし: スピリチュアルな旅行者が遭遇するほのめかしには、2 つのタイプがあります。 いくつかのほのめかしは、神がそれらから完全に自由であると確実に言えるものです(それらは神の威厳と美と相容れないため)が、サタンは依然としてそれらを心に植え付けようとします。 サタンのそのような陰謀から身を守る方法は、神の記憶に従事することです。 神はこう言われます。

「サタンから邪悪な考えを抱き始めたら、神に避難しなさい。 まことに、彼はすべてを聞き、すべてを知っておられます。」 (クルアーン、第7章、200節)

彼はさらにこう言いました。



「まことに、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧心を持つ人は、サタンからの危険(邪悪で害を及ぼす、否定的な考え)に遭遇すると、すぐに神の記憶に従事し、突然目が開きます(内なる霊的認識の状態で、それは人にとって有害なものに対する障壁と保護としても機能します)。」 (クルアーン、第7章、201節)

2番目のタイプには、ためらいと疑いがあるようなほのめかしが含まれます。 神が彼らから解放されていると確信して彼らについて言うことはできません。 そのようなほのめかしに遭遇した場合、スピリチュアルな旅行者は自分で決定を下すのではなく、スピリチュアルガイドの意見を尋ねるべきです。 それだけでなく、無気力であれ活力であれ、何かへの傾向であれ、(スピリチュアルな道をたどろうとする)意図の真実性であれ

、自分の心の状態をスピリチュアルなガイドと共有する必要があります、要するに、[心の]すべての[内面]状態はスピリチュアルガイドと共有され、[治療が必要な心の内面の状態]の治療法を処方することができます。 また、スピリチュアルな旅行者(*ムリード*またはスピリチュアルな道の生徒)の[内面]状態を深く監視し、[スピリチュアルな旅行者の]知性と先見性に従って[ネガティブでダメージを与える内面の状態の治療に関して]決定を下さなければならないスピリチュアルガイド以外の誰ともこれらを共有しないことも必要です。 もしスピリチュアル・ガイドが、瞑想と内省を許すことで、スピリチュアルな旅行者が自動的に真実に気づくようになると理解するなら、その道に乗せられ、現実を明らかにする神の光が神から現れるように、この[スピリチュアルな]熟考の永続性を維持するように言われるべきです。 しかし、スピリチュアルな旅行者が自分自身や真実が自動的に明らかにされない方法を見つけることができないと認識される場合、スピリチュアルガイドは疑いを軽減し、その人が耐えることができる現実を一人に知らせ、アドバイスし、その人の基準(精神的および精神的能力)を考慮する必要があります。 いくつかの議論を提示します。 スピリチュアルガイドは、[スピリチュアルな]事柄を理解させるために過度に強調すべきではなく、この[神の臨在への霊的上昇の]道は非常に困難で致命的な危険を伴っているため、言ったりアドバイスしたりする必要があることは何でも親切かつ簡単に行うべきです。 一部のスピリチュアルな旅行者は、神の記憶と熟考のスピリチュアルな活動中に有害な思考に囲まれ、その結果、現実をスピリチュアルに明らかにする能力を失います。 その結果、彼らは無駄な道をたどり始め、破滅に近づいていきます。 これは大きな損失です。 心が自由に神の記憶に従事できる人は、それに対する障害も存在せず、それでも時には同様の有害な考えに巻き込まれます。 スピリチュアルな旅行者は、危険に悩まされた船の乗客のようなものです。 逃げれば、その人は[霊的]道の王になります。 逃げることができなければ、人は[人生の目的を達成するための霊的上昇と、その結果としての永遠の幸福と無限の勝利のための闘いに負けるという点で]破壊されます。

従うこと(*タクリード*または知識を持つ他の人に従う*こと)を通じて、外的な崇拝行為に関連する基本的な信仰と信念を獲得した後*、人は[神の崇拝と他者への奉仕に関連する]正しい行為に従事する必要があります。 他の方法で行動することには多くの危険があります。 そのため、スピリチュアルガイドが自分の生徒(スピリチュアルな旅行者)の[内面]状態を見つけるために自分の洞察[と直感]を使用することが不可欠であると考える人もいます。 もし人が知的ではなく、外的な事柄(内面的な霊的な事柄ではなく、外的な礼拝行為に関連する)についての信念を持っているなら、神の記憶に巻き込むのではなく、外的な礼拝行為と絶え間ない*アクラド*(連祷)に関わるか、神の記憶と熟考に身を捧げた人々に仕えることに関わって、彼らの祝福も得られるようにすべきです。 常に神の記憶に従事している間、スピリチュアルな旅行者は[単なる外見的な崇拝のレベルを超え、外的な行為で他の人に従う]良い内面の状態を経験し、奇跡のような並外れた偉業さえも起こり始めます。 これらの内面の状態と並外れた偉業は、(自分の霊的資質が低く、霊的な道の初心者であるために)にふさわしくないスピリチュアルな旅人を、

独善、自惚れ、誇示、幸福(自分の誤った評価や意見において自分が他人よりも優れていることについて)に従事する原因となります。 これらの条件と状態は、霊的な努力の障害であることを覚えておく必要があります。 スピリチュアルな旅人がそれらに注意を払い、自分自身がこれらの状態に没頭するようになると、スピリチュアルな道が中断され、むしろスピリチュアルな旅人がスピリチュアルな道を歩むのをやめるのではないかと恐れられます。 人生のすべてにおいて、海全体の水でさえ満たすことができない喉の渇いた人のようにいる方が良いです(自己満足は霊的な進歩と完成を妨げ、逆転させるため)。

霊的旅行者の資本は、被造物との関係(つまり、心の執着)を終わらせることです[神の、つまり、神以外のすべてのものとの関係(つまり、神以外のすべてのものとの愛着)は、それらの無常と実際の力の欠如による最終的な失望と幻滅につながるため]、神(創造主)への執着、そして孤独[これを心の華やかさとして耽溺として可能にするために、 この世のきらびやかさと栄光は、すべての霊的な野心を殺します]。 ある[霊的]旅行者はこう言いました:「私は *アブダル* (非常に高い霊的成就を持つグノーシス主義者)に調査の道について尋ねました。 彼は「あなたは旅行者がどこかに住んでいるように世界に住んでいます」と答えました。 私は彼に「私の心がいつも神と共にとどまる行為を教えてください」と尋ねました。 彼は答えました:「創造物を見ることは[魂の]闇であるので、創造物を見ないでください」。 私は「それは必要です」と答えました。 彼は答えた:「彼らの話は心を硬くするから聞かないでください」。 私は『それも必要だ』と言いました。 彼は「恐怖を引き起こすので、彼らと一切関わらないでください」と答えました。 私はこう言いました:「私は彼らの中で人生を過ごすので、それも必要です。 どうして彼らと何の関係も持たないのですか?」 彼はこう答えた。 彼らと一緒に暮らすことは破壊です」。 私は「この病気も去るつもりはありません」と答えました。 彼は言った:「あなたは無頓着で無知な人々を見て、無知の話に耳を傾け、役に立たない人々(精神的な野心が低く、またはまったくなく、一緒にいるのが役に立たない人々)と取引し、それでもあなたの心を神にとどめたいと思っていますか? それは決して不可能だろう』」と述べた。

最高レベルの霊的闘争: 最高レベルの霊的闘争は、霊的な旅人 (*ムリード*) が、自分の心が神とともにあらゆる瞬間に存在していることに気付くことであり、このレベルは、自分の心が神以外のすべてから空っぽになるまで達成できず、それは長い [そして断固たる] 霊的闘争なしには不可能です。 人間の心には、神を偲ぶ以外に何も残らないとき、神の摂理の威厳が明らかにされ、真実の光がその上に明かされ、説明できない高次の[霊的]領域のすべての微妙さが明らかになります。 それにもかかわらず、霊的な旅人(ムリード)に特別な神の恵みがあり、上記の事柄から何らかの事柄が明らかになった場合、人はそのような霊的状態を守るべきです。 このような[高い]霊的状態に到達した後、多くの高速道路強盗は人の道(霊的道の進歩と上昇)を妨げます。 [人の霊的な旅を妨げる]最大の高速道路強盗は、そのような[内なる霊的]状態を[一般大衆に]忠告やアドバイ

スとして語り始め、説教や公の場での演説を熱心に望むようになることです[霊的な道の最終目的地は今到達し、高い内面状態の形で自分の内なる霊的成果を一般と共有する時が来たという誤った思い込みと妄想状態を発達させるにつれて公共。 これは多くの場合、彼らを助けたいという考えで行われますが、実際には、低次の自己(*ナフ*)は快適さ、名声、名声、名誉、そしてその結果としての歓喜と物質的な利益を求めています[自分の精神性に悪影響を及ぼします]。

この趣味は、低次の自己(Nafs)に言葉では言い表せない喜びを提供します。 これは[実際には]喜びではなく、酩酊です。 人間は、自分の利益と害にまったく気づかない状態で、この娯楽に完全に夢中になっています。 それだけでなく、説教をより効果的で受け入れられるものにするために、[素晴らしく印象的な]言葉の選択、[カラフルな説教の芸術]にふけり、知識を誇示したいという衝動を満たすために、クルアーンとハディース(預言のナレーション)から物語、例、証拠を探し、それらを聴衆に提示します。 時々、サタンはこれを頭に浮かべます:「あなたのこの働きは偉大で途方もないものです。 あなたのスピーチは死んだ心に命を与え、無注意のベールは[人生の本当の目的とそれを達成するために必要な霊的努力に向かって]消えています。 あなたは神と神のしもべの間の仲介者であり、何らかの利益や下心のために神の創造物を善に招いているのではなく、単に真実と誠実さの精神でこれを行うだけです。」 このサタンの欺瞞は、霊的旅行者と同時代の誰かが[神への]招待と教えという同じ義務を果たしているときに明らかになり、その人も雄弁能力のために人々の間で人気があります。 そのような人に対する嫉妬の感情がスピリチュアルな旅行者の心に生まれるなら、その人の説教は純粋な喜びのためであり、人々の向上や神の報酬と報酬のためではないことを理解する必要があります。 もし人の目的が敬虔であったなら、その人は同時代の説教者に対して嫉妬することはなかったでしょう。 その代わりに、(人々を真実、正義、人生の真の目的に導くという崇高な事業のために)追加の人のサポートがあれば幸せだったでしょう。 それは、正体不明の死者の死体を見つけて、埋葬の責任が肩にかかっているようなものです。 この義事に協力してくれる人を見つけたら、それは幸せの場所でしょうか、それとも嫉妬の場所でしょうか? 同様に、無頓着で無気力な人々は、たとえ彼らの体が歩いたり動いているように見えても、実際には[生きている]魂を欠いていたとしても、[実際には]死んでいます。 学識のある学者や[永遠の]真実への招待者は、死んだ魂に命を吹き込みます。 真理への呼びかけ者が他の招待者の助けと交際を得る場合、それは悲しみの原因ではなく、慰めの原因ですが、世俗的な学者や説教者はそれを慰めとは見なさず、むしろそれを互いの領土や領土の境界への干渉と解釈します。 スピリチュアルな旅行者は、神聖なグノーシスの谷に足を踏み入れた人々を待ち伏せするサタンの罠であるため、これを避けなければなりません。 世俗への愛が人間の気質を支配しているため、人々はこの罠に陥ります。 高貴な神はこう言われます。

بَلْ تُؤْثِرُونَ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا

“…代わりに、あなたはこの世の命(つまり、永遠の命ではなく、儚い地上の存在)を好みます。」 (クルアーン、第87章、16節)

神はまた、神が啓示した以前の国々の本や巻物にもその言及が見られるように、悪[および否定的な傾向や傾向]が以前から[人間の]気質を支配していたとも言いました。 神はこう言われます。

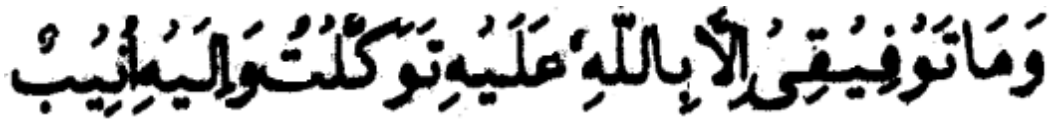
إِنَّ هَٰذَا لَفِى ٱلصُّحُفِ ٱلْأُولَىٰ ﴿١٨﴾ صُحُفِ إِبْرَٰهِيمَ وَمُوسَىٰ ﴿١٩﴾

「これは、神が啓示した以前の書物、アブラハムとモーセの巻物にも存在します。」 (クルアーン、第87章、18-19節)

これは、霊的な旅人の霊的な闘争、努力、訓練の簡単なスケッチです。 どの[否定的で有害な]内面の特徴を根絶すべきか、どのように[それを達成するか]、そしてどの[崇高な]内面の特徴を心に飾るべきかについて、詳細な手順は後続の章で説明されます。

すべての人間の[内面の性格]特性の中で最も支配的で圧倒的なものは、胃、陰部、舌の欲望です。 彼らの後には、彼らを支えるのは怒りの[特性]です。 これらの欲望に慣れ、慣れた後、人間の心の中で世俗への愛が高まり、富と名声への欲求が生まれます。 この欲望の子宮を通して、傲慢、独善、自己誇大の芽が生まれ、人間はそれらから解放されることさえ想像できないほどに閉じ込められます。 人は、支配、威信、権力の手段を持つ宗教の側面だけが好きです。 問題の深刻さと繊細さを考慮して、これら 2 つの章の最後に、心と魂の破壊をもたらす破壊的な否定的な内面の性質 (*ムリカート*) について説明します。 この議論は、次の8冊の本[または、この作品の次の8章に対応する本の4巻のうちの3巻からの「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の章]で取り上げられます。 まず、胃と陰部の欲望。第二に、舌の危険。第三に、怒り、恨み、嫉妬。第四に、世俗性とその欺瞞の詳細を非難する。第五に、富、物質的な所有物、ケチへの愛。第六に、誇示[自己と自己中心的な特性の表れに関連]と名声への愛。第七に、傲慢さと自惚れ。そして8番目:自己欺瞞的な状態。 この8冊の本を通して、私たちの目の前にある目的は、「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第3巻から達成されます。 前の2つの章のうちの最初の章(ガザリはそれらを本と呼んでいます)では、心はすべての破壊的な内なる性質(*ムリカート*)の源であり、住居であり、内なる資質を与える救い、縁起の良い、生命と成功(*ムンジヤート*)であるため、心の内面の特徴と性質、または説明を解明しました)[永遠の幸福と無限の勝利に導く]。 2冊目の本(または現在の章)は、人の内面の性格特性と気質(イクラク)を文明化し美化する方法論を提供し、完全な回復のための

治療法が心[または魂]の病気や病気に処方されました。 この議論は短いですが、次の章で詳細について説明します。



「神以外に善行を可能にする者はいません。私は神に全幅の信頼を置き、あらゆる助けと必要を求めて絶え間なく神に戻ってきます。」

第3章- 低次の自己からの2つの圧倒的な基本的な欲望の支配を破る

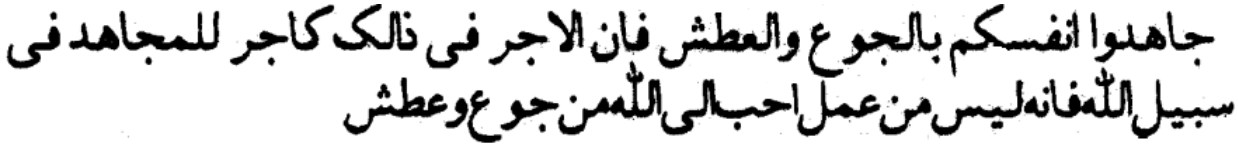
*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の3冊目の本*は、食べ物への耽溺と肉欲への耽溺という2つの圧倒的な欲望を打ち破ることを扱っています。 これら 2 つの欲望は、その強迫観念、健康を危険にさらし、人生の本当の目的に対する無注意と怠慢を吹き込み、精神的な努力や努力の余地をほとんどまたはまったく残さないため、圧倒的です。 スピリチュアルな旅は、肉欲的な快楽や肉体的な追求に耽溺するため、完全に妨げられ、自己中心ではない前向きな努力の余地がほとんど残されません。 肉欲の快楽への制御不能な衝動は、他者への共感に基づいた前向きな利他的な努力の余地をほとんど残しません。 むしろ、自己中心的な強迫観念は、利己主義と、目に見える明らかな衰弱させるすべての影響に人を導きます。 世界のさまざまな精神的伝統において、飢えは精神的な取り組みの道具として使用され、旅行者にとって道を楽にしてきました。 ガザリは、私たち自身の精神的な努力を促進し、それが不幸な人々、財産を奪われた人々、苦しみに悩まされている人々への積極的な利他的な努力と共感を促進するためのツールとして、部分的な飢餓と食料の抑制の優位性を改めて強調しています。 卑劣な欲望を抑制することによって魂の明晰さと心の感受性が発達すると、人は自分の存在のあらゆる神経、繊維、原子に他人の痛みと苦しみを感じます。 他人の病気は自分の病気になり、他人の悲しみは自分の悲しみになり、他人の問題は自分の問題になり、他人の痛みと苦しみは自分の痛みと苦しみになります。 人はもはや利己的で、自己中心的で、心の固いままではならず、内側から発せられる衰えることのない力によって崇高な努力に駆り立てられます。 これにより、スピリチュアルな道でのアセンションが促進されます。 「[低次の自己からの]2つの[圧倒的な基盤]欲望の支配を破る」と題されたこのガザリの本は、次のように凝縮された形でここで紹介されています[9]。

アダムの子ら(つまり全人類)にとって、最も致命的で破壊的な欲望は胃の欲望であることを知ってください。 このため、アダムとエバ[それぞれ全人類の父と母](両方に平安あれ)は天国から追放され、この世に送られました。 苦しみ、悲しみ、飢え、病気、悲劇は、逆説的にも、私たちが神の臨在の陰で本当の天の起源に戻る道を見つけるのを助けるために存在します]。 彼らは特定の木の実を食べることを禁じられていましたが、欲望が彼らを圧倒し、結局は禁じられた木の実を食べました。 この[神の命令への]不従順の結果として、それまで隠されていたすべての欠点(恥の問題)が明らかになりました。

胃 - すべての欲望、欲望、圧倒的な衝動の源泉: 現実には、胃はすべての欲望の源であり、すべての害の起源であり、源です。 胃の欲望は肉欲の快楽への欲望を煽ります。 お腹がいっぱいになると、過度の肉欲の快楽にふけることを考えます。 食べ物や交尾への過度の欲求は、名声や物質的な所有物(富)への欲求を生み出します。 名声と富は、結婚と高級レストランの数の増加の源となる 2 つのものです。 富の豊かさと名声の過剰は、傲慢さ、[さまざまな物質的なものをめぐる]競争で他人を凌駕したいという欲求を生み出し、[物質的な所有物、名声、権力において]自分よりも優れている者に対する嫉妬の感情を生み出し、胎内から誇示、自慢、プライド、およびそのような悪が生まれます。 その結果、辛辣さ、敵意、恨みの感情が爆発します。 そうすると、人は反逆、不従順(神の導きと命令への)反乱、反乱に夢中になり、悪と放蕩に没頭します。 これらはすべて、食べ物を満腹に食べることの傲慢さと酩酊であるため、胃を空に保たないことの結果と成果です。 もし人が自分自身(*ナフス*)を飢えで屈辱させ続け、サタンの通路(全身の血液循環のための静脈)を厳重に警備し、監視していたら、(良識、礼儀正しさ、公益、神の命令の規範に反抗する)ことに訴えることはなかったでしょう。 代わりに、人は神に従い、傲慢、誇示(自己中心的で利己的な自己誇示)、不従順(神の命令への)反逆の道を歩むことはなかったでしょう。 人は世俗的な快楽に溺れたり、永遠の(来世)よりも現世の(世界)を好むという間違いを犯したり、猟犬が獲物に襲いかかるように世俗的な所有物や富に襲い掛かることもなかったでしょう。 それにもかかわらず、胃の欲望の害は非常に危険で致命的であるため、神のしもべ(すべての人間)にその危険性とそれから身を守る方法について知らせることが不可欠です。 性的欲望は胃の欲望に従属しているので、同じ状況です。 この議論は、神から与えられた援助と能力を得て、いくつかのセクションで完了します。 最初のセクションでは、飢餓の卓越性と暴食の非難が説明され、[飢餓の]利点について言及されます。 その後、食べる量を減らし、食事を遅らせることで胃の欲を根絶しようとする精神的な努力の方法が解明されます。 飢餓の[利益]に関連して、人々の状態の違いについて言及します。 その後、陰部の性欲について話し合います。 後で、霊的な旅人が結婚する必要があるかどうかが説明されます。 その後、胃、陰部、目の欲望に反対する人々の卓越性が言及されます。

飢餓の卓越性と暴食の非難

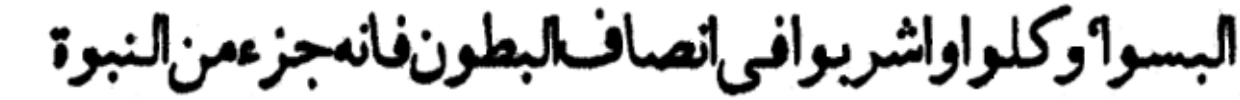
飢えの卓越性に関する[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の]伝統は次のとおりです。



「飢えと渇きとともに自分自身(ナフ*)と霊的な闘いと努力をしなさい*。なぜなら、それは神の道で[生命、自由、財産、平和を守るために外部の侵略に対して][正当な]自己防衛に従事することと同じ神の報いがあるからです。 それは、飢えと渇きほど神に愛される行為がないからです。」

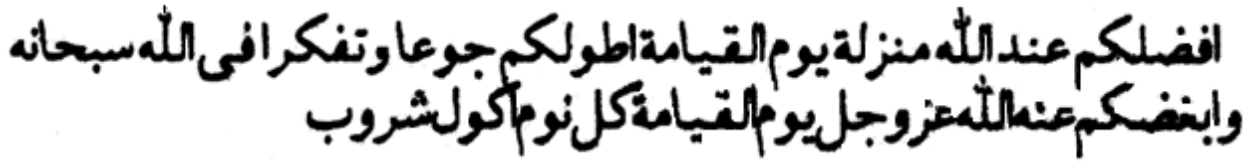
アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から次のように語っています。

「天の天使は、お腹を満たす人に近づきません[人生の目的に気づかず、それを達成するために努力しなければならない状態に耽溺していることを示します]。



「(カバーする必要があるものを覆う服を着て)ドレスアップし、お腹を半分空にして食べたり飲んだりしてください。これは預言者の一部だからです。」

「黙想は礼拝の半分であり、少量の食べ物を食べることは完全な礼拝です。」



「審判の日、最高位の人は、頻繁に空腹を保ち、神を豊かに熟考していた人です。 審判の日には、その人は、よく眠り、食べ、飲んでいた神の目には低いものになるでしょう。」

لاتميتوا القلب بكثرة الطعام والشراب فان القلب كالزرع يموت اذا كثر عليه الماء

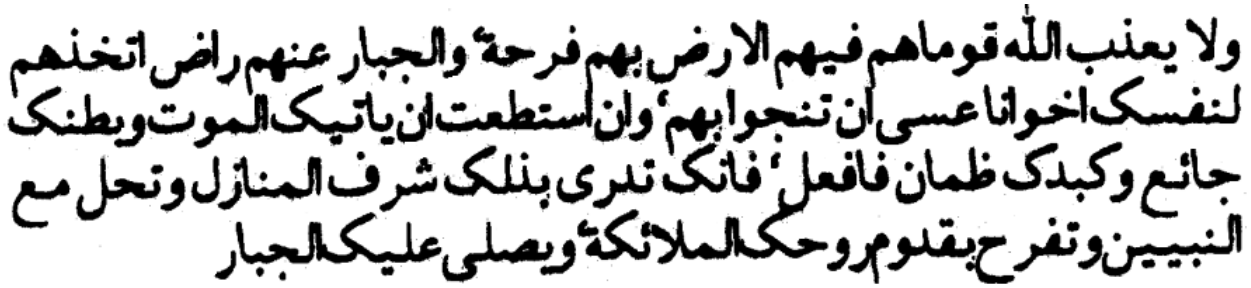
「食べ物や飲み物を豊富に食べて、あなたがたの心を死にさせないでください。 これは、心臓が農地のようなもので、過剰な水で灌漑されると破壊されるためです。」

ماملا ابن آدم وعاء شرا من بطنه' حسب ابن آدم لقيمات يقمن صلبه' وان كان لابد فاعلا فثلث لطعامه' وثلث لشرابه وثلث لنفسه

「アダムの子(つまり人間)は、胃よりも悪い道具を満たしていません。 背中をまっすぐに保つことができるアダムの息子には、数口で十分です。 満腹にする必要がある場合は、胃を3つの部分に分ける必要があります-1つの部分(胃の3分の1)は食べ物、1つの部分は水、1つの部分は呼吸用です(つまり、胃の3分の1は空のままにして呼吸を楽にし、身体の健康にプラスの医学的影響を与えるために過度の飲食を避ける必要があります)。」 (この伝統は、*預言者の仲間であるミクダム[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*、ハディース*集ティルミディ*で語られています)

ウサマ・ビン・ザイドとアブ・フライラ(神が彼らに喜ばれますように)によって語られた預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の長い伝統の中で、次のように述べています。

ان اقرب الناس من الله عز وجل يوم القيامة من طال جوعه وعطشه وحزنه في الدنيا الاحفياء الاتقياء الذين ان شهدوا لم يعرفوا وان غابوا لم يفتقدوا تعرفهم بقاع الارض وتحف بهم ملائكة السماء نعم الناس بالدنيا ونعموا بطاعة الله عز وجل افترش الناس الفرش الوثيرة' وافترشوا الجباه والركب' ضيع الناس فعل النبيين واخلاقهم وحفظوها' هم تبكى الارض اذا فقدتهم ويسخط الجبار على كل بلدة ليس فيها منهم احد لم يتكالبوا على الدنيا تكالب الكلاب على الجيف' اكلوا العلق ولبسوا الخرق شعثا غبرا يراهم الناس فيظنون ان بهم داء وما بهم داء' ويقال قد خولطوا فذهبت عقولهم وما ذهبت عقولهم' ولكن نظر القوم بقلوبهم الى امر الله الذى اذهب عنهم الدنيا فهم عند اهل الدنيا يمشون بلا عقول عقلوا حين ذهبت عقول الناس' لهم الشرف في الاخرة يا اسامة' اذا رايتهم في بلدة فاعلم انهم امان لاهل تلك البلدة'



「審判の日には、(神との関係や立ち方に関する事柄において)もっと飢え、喉が渇き、後悔していたであろう人々は、神に近づくでしょう。 これらの人々は、非常に隠れた*ムッタクーン*(神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧心がしっかりと根付いた人々)であるため、彼らがそこにいる場合、誰も彼らに気付かず、彼らが離れていれば、地球のあらゆる粒子が彼らに精通しており、天使が彼らを取り囲んでいるとしても、誰も彼らを探すことはありません。 この人たちは世界で最高です。 [その他]人々は柔らかく快適なベッドに横たわり、額をひれ伏し、ひざまずいて[神への崇拝と献身の行為]をします。 [その他]人々は預言者の高貴な道と[高貴な]人格を無駄にし、[魂の奥深くで預言者を養子にすることによって]彼らを守ってきました。 彼らが[地上の存在から]去るとき、地球は彼らのために泣き、神の怒り(不快)は彼らの誰もいない都市に降り注ぎます。 彼らは犬が死骸に陥ったように、世俗に騙されません。 彼らは必要最低限の食事をし、古くて破れた服を着て、乱れた生活をしています。 彼らを見る人々は、実際には病気がないにもかかわらず、おそらく彼らは何らかの病気に苦しんでいるという意見を形成します。 [鋭く鋭い]知性を持っているにもかかわらず、彼らを愚か者(愚か者)と呼ぶ人もいます。 しかし、彼らは世俗的な人々が目を向け、神が彼らから遠ざけた知性を持っていません。 世俗的な人々は、知性が他の人から離れたとき(過度の欲望や感情的、心理的、その他の苦痛のために)知性を保持しているにもかかわらず、知性(そしてこの世で快適に生きるために必要な知性)を持たずに歩き回っているのかもしれないと考えています。 おおウサマ! 名誉と卓越性は、来世のそのような人々のためのものです。 どの都市でも彼らを見かけたら、それをその都市の平和の勅令と考えてください。 神はそのような人々がいる国を苦難に陥らせません。 地球は彼らに満足しており、神は彼らを喜ばれています。 彼らをあなたの兄弟にしてください、おそらくあなたも彼らを通して救いを得るかもしれません。 死の時が来たときに、胃が空腹になり、腎臓が喉が渇いたときに、これができるなら、そうしてください。 あなたは来世の段階で区別を獲得し、預言者と一緒に暮らし、天使たちはあなたの魂の到着を喜ぶでしょう(その天の起源に戻る)、そして神はあなたに慈悲を注ぐでしょう。」 (この伝統*は、ハフィズ・イラク[すべてのハディースを認証した偉大なハディース(預言者ムハンマドの預言的伝統)学者*)のハディース認証に従って、カティーブによってキタブ・ウス・ズードによって、そしてイブン・アル・ジャウジによってイブン・アル・ジャウジによって語られていますガザリの著書「神への道の知識の復活」で言及されています)

イエス・キリスト(神の祝福と平安あれ)は弟子たちや助手たち(*ハワリユン*)にこう言われました:「お腹を空かせ、体を裸にしなさい(謙虚さからシャ*リーア*(神の律法)に従って覆わなければならない部分を強制的に覆うことを除いて]、あなたの心が神を[肉体の目ではなく心の目で]目撃する力を発達させてください」。 同様の伝統は、タウスが語る預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)からもたらされました。 律法(預言者モーセ[彼に神の祝福と平安あれ]に啓示されたもう一つの神の本)には、肥満は[神からの]無注意と過度の食べ物への耽溺の表れであるため、神は肥満の学者を好まないという伝統があります。 それは特に[宗教]学者にとって悪い習慣です。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の別の伝承には、次の言葉があります。

ان الشيطان يجرى من ابن آدم مجرى الدم فضيقوا مجاريه بالجوع والعطش

「サタンはアダムの子ら(人間)の血管を[血液循環を通じて]流れています。 飢えと喉の渇きによって彼の通路を狭くしてください。」 (この伝統は*ハディース*集『*イブン・アビ・アッドゥニャ』に語られています*)

アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)[預言者の妻]は言いました:「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は決して食べ物を満腹に食べませんでした。 時々、私は彼の空腹の跡を見て泣き、彼のお腹に手を当ててこう言いました。 少なくとも体力を与え、空腹感を解消できる量を食べるべきです」。 彼はよくこう答えていました。 私の非常に決意の強い兄弟預言者[アダム、ノア、アブラハム、イシュマエル、イサク、ヤコブ、ヨセフ、ダビデ、ソロモン、モーセ、ヨハネ、イエス(彼ら全員に神の平安と祝福あれ)のような過去の預言者たちは、これよりもはるかに大きな試練、苦難、苦しみに忍耐を費やしました。 彼らがこの世を去り、主の臨在に来たとき、彼らは途方もない[神から与えられた]報酬と限りない名誉と高貴な地位を受け取りました。 私は、数日間の短い人生の快適さを[享受]するために、明日(神の前で)彼らよりも低い学位を獲得するかもしれないことを恥じています。 私にとって、来世での分け前を減らすよりも、数日間辛抱強く苦難に耐える方が良いですし、友人や兄弟(過去の偉大な預言者)と一緒にいる以外には何も好きではありません。」 アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)は、「この会話から一週間も経たないうちに、彼は主に出会った(この一時的な存在から神の臨在の永遠の住まいに亡くなったとき)」と言いました。

空腹の恩恵と暴食の害

空腹の卓越性に関して生じる疑問は、「なぜ胃を痛める行為にこれほど多くの卓越性があるのでしょうか? [飢えのような]痛みや苦しみに身をさらすことが良いことだったと

したら、棒で自分を殴ったり、嫌いなものを食べたりするなど、他の形のそれを行うことができたでしょう。 しかし、そのようなことは許されないのがわかりますが、なぜ胃を剥奪することが善行であると宣言され、すべての善行の基礎となったのでしょうか?」 この質問に対する答えは、空腹は薬のようなものであるということです。 もし、薬によって健康になり、薬の苦味や不快さによって健康になったと推測し、すべての苦くて不快なものが有益であると結論付け、したがってすべての苦くて不快なものを食べ始めると、薬の苦味は健康を得るのに効果的なものではなく、医師だけが知っている特定の性質を持っていると言われるでしょう。 空腹の場合も同様です。 [宗教的]学者はその利点に精通しています。 神の法における飢えの素晴らしさを信じながら空腹を続ける人は、飢えの恩恵を知っているかどうかに関係なく、恩恵を得るでしょう。 しかし、信念のレベルから知識のレベル(およびそれに伴う確信)に進歩したい個人のために、飢餓の利点が説明されます。 空腹の10の利点は、ここで次のように個別に説明されています。

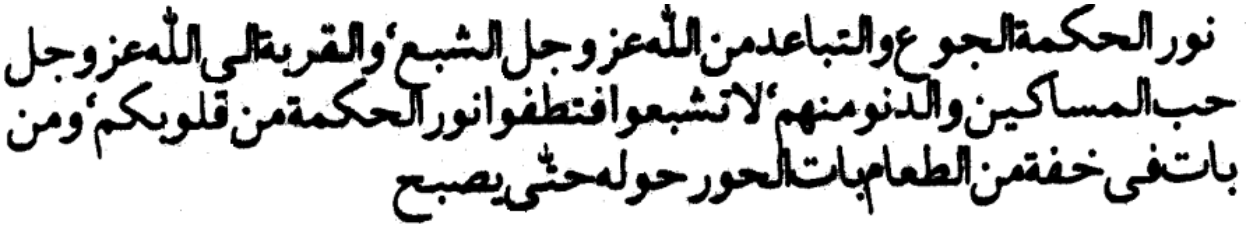
最初の恩恵 – 心の純粋さ、明晰さ、清らかさ (*Safa al-Qalb*): 心の純粋さ、明晰さ、清明さには、内なる先見の明の完璧さと、物事の現実を見抜く能力が含まれます(*Baseerah*)。 暴食は心の鈍さを引き起こし、心の照明は減少し、心は暗くなり、酩酊剤のような蒸気が脳に広がり、熟考の余地を残さない方法で脳を包み込み、心は何も知覚できず、思考と理解のすべての能力が低下します。 食べる量が増える子供は、記憶力の低下を経験し、心が曇り、知性が鈍さに置き換わります。 アブ・スレイマン・アル・ダラニ(神が彼に憐れみあれ)[有名なグノーシス主義者で聖人]は言いました:「飢えは、低次の自己(*ナフス*)[あらゆる卑劣で否定的で有害で卑劣な傾向、特性、内面の特徴に傾倒している]屈辱を与え、心にまろやかさを生み出し(心の頑固さ、冷酷さ、傲慢さ、利己主義とは対照的に)し、天の知識(神聖なグノーシスの状態に伴う知識)の継承者になることができるようになるので、飢えを取り入れてください。 *マリファ*)」と書かれています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

احيوا قلوبكم بقلة الضحك وقلة الشبع وطهروها بالجوع تصفو وترق

「笑うことも食べることも減らして心を生かし、空腹で心を浄化してください。 それらは清潔で柔らかいままであり続けるでしょう[それがスピリチュアルな道での上昇を助けるでしょう]。

シブリ(神が彼に憐れみあれ)(有名な聖人でグノーシス主義者)は、「ある日に神のために(純粋に)空腹を保つたびに、それまで知られていなかった知恵と学問の新しい展望が私の心に開かれた」と言いました。 礼拝の本当の目的は、*神の知識とグノーシス(マリファ)と霊的現実(ハカイク)*の霊的な啓示(*カシュフ*)に導く熟考の達成であり、暴食はこの道[霊的完成と達成への]最大の障害であることを明確にしましょう。 飢えは神の知識

とグノーシス(*マリファ*)の扉を開き、それが[神の臨在の中]天の楽園への扉となります。 この点で、飢えは楽園の扉を叩く役割をする。 *ルクマン*(神が彼に憐れみあれ)(預言者ダビデ[神の祝福と平安あれ]の時代のイスラエルの子らの有名な聖人)は息子にこう言いました。お腹がいっぱいになると、瞑想の力は眠りに落ち、知恵は愚かになり、手足には[神の]崇拝のための能力とエネルギーが残っていません。」 バヤジド・アル・ブスタミ(神が彼に憐れんでくださいますように)(有名な聖人でグノーシス主義者)は、「[神の]しもべが空腹のとき、知恵は心から雨のようにたくさん発せられます」と言いました。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。


نور الحكمة الجوع والتباعد من الله عز وجل الشبع والقربة الى الله عز وجل
حب المساكين والدنو منهم لا تشبعوا فتطفوا نور الحكمة من قلوبكم ومن
بات في خفة من الطعام بات الحور حوله حتى يصبح

「知恵の光は飢えによるものであり、神から遠ざかる理由は暴食です。 神の近さと親密さ*(クルブ)*は、貧しい人々を愛し、彼らに近づくことです。 お腹いっぱい食べてはいけません、心の中の知恵のろうそくを消してしまうでしょう。 軽い胃を持つ人は、朝まで[肉眼では見えない]天の仲間に囲まれています。」 (この伝統は、*預言者の仲間であるアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて、ハディース集*アブ・マンスール・アッド・デイラミに語られています)

第二の恩恵 – 心の柔らかさと柔和さ: 心は空腹によって柔らかくなり、神の記憶で喜びを見出す能力がその中で生まれます。 多くの場合、神の記憶は心の存在とともにありますが、そこには喜びはなく、心はそれによって動かされず、あたかも心と神の記憶の間にベールがあるかのように、「*カサワ*」または「心の硬さと鈍感化」と呼ぶことができます。 時々、心の中には非常に多くの柔らかさと柔和さがあり、神の記憶に途方もない喜びを見出します。 この喜びを達成する最も明白な理由は、[空腹状態]の胃の空虚さです。 ジュナイド(偉大な聖人でありグノーシス主義者である彼に神が憐れんでくださいますように)は、「食べ物に耽溺することを望んでいると同時に、神との親密な会話の甘さを望んでいる人もいます」と言いました。 アブ・スレイマン・アル・ダラニ(神が彼に憐れみあれ、偉大な聖人でありグノーシス主義者)はよくこう言っていました。お腹がいっぱいになると、心は失明し、濁ります。」 この詳細から、熟考のしやすさと、神またはグノーシス(*マリファ*)についての知識と親密さを持つことと、そこに喜びを見出すことは別のことであることは明らかです。

第三の恩恵 – 心の謙虚さとまろやかさ: 飢えの第三の恩恵は、それが謙虚さとまろやかさを生み出し、傲慢さと多幸感(世俗的な快楽についての)終わりを迎えることです - どちらも神に対する反逆と無頓着の源です。 ローワーセルフ(*ナフス*)は、空腹以上のもので穏やかになったり屈辱を受けたりすることはありません。 お腹が空いたとき、人は

自分の主の名を名乗り[神の記憶の状態で、完全に困窮して神のもとに戻り]、主に従い、[神の前で謙虚で柔和であり続け、その結果、周りの他の人全員に対して正しいことをするようになります]。 空腹の時は体力が弱まり、パン一口も水も飲めないため、生活が窮屈になる。 人間が自分の屈辱と弱さを目撃しない限り、そしてそれまで、人は[自分の間違った行動に責任を負わせるために]主の偉大さ、威厳、圧倒的な影響力を告白しません。 人間の永遠の幸福と終わりのない成功(*サーダ*)は、屈辱と無能力の目で自分の低次の自己(*ナフス*)を目撃することにあります。そして、神の栄光と全能の力の目で神を目撃し、常に神に飢え、困窮し続け、この困窮と動揺に喜びを見出します。 だからこそ、この世の宝物が預言者ムハンマド(神の全能によって)預言者ムハンマド(神の祝福あれ)の前に置かれたとき、彼はこう言いました。

لابل اجوع يوما واشبع يوما فاذا جعت صبرت و تضرعت واذا شبعت شكرت

「いいえ(欲しくない)! 代わりに、ある日は空腹のままで、別の日は食事をします。 お腹が空いたままのとき、私は忍耐強く、あなたの前で泣きます(おお神よ![陛下と力に服従してお辞儀をし、あなたを完全に困窮している状態で]そして[その日]私が食事をするとき、私はあなたに深い感謝を表明します!」 (この伝統は、 *ハディース コレクション ティルミディ*)

胃と陰部はどちらも地獄への扉であり、地獄に通じる道は大食いを通ります。 [神の前で]謙虚さと柔和さは楽園への扉であり、楽園への道は飢えを通り抜けます。 地獄への扉を一つ閉ざす人は、楽園と地獄が東と西の方向と同じように真向かいにあるので、確かに楽園への扉を開きます。 一方から距離を置くと、一方が他方に近づきます。

4番目の利益 – 神の報復を思い出し、困難や苦しみに直面している人々の状態から教訓を引き出す: 4番目の利益は、(自分の悪行に対する)神の罰を忘れず、何らかの苦しみに苦しんだ人々を思い出すことです。 満腹の人が空腹を忘れてしまうことがあります。 知的な人とは、苦しみに陥っている人を見て来世の苦しみを思い出す人です。 喉が渇いているので、審判の日に審判の場で人々が喉の渇きに苦しむことを想像すべきです。 飢えているので、地獄の住人の飢えを想像する必要があります。お腹が空いて喉が渇くと、とげのある木を食べ、膿と血を飲みます。 来世の罰とその痛みや苦しみは、神への畏れ[つまり、あらゆる形態の悪や不正行為からの抑止力]を扇動し、罪から身を守るために慎重に歩むため、[神の]しもべ(つまり人間)の目から決して消えてはなりません。 屈辱や経済的困難、いかなる種類の苦しみにも囚われていない人、または何らかの病気に苦しんでいない人は、来世の罰を無視し、無視するようになります。 また、明日の裁きの日に[自分のすべての行いについて]説明責任があるという心のどこにも残っておらず、神への畏れが人の心を支配するわけでもありません。 ですから、神のしもべは、何らかの心配や試練に悩まされる方が良いのです。 そうでない場合は、少なくともある程度の心配と試練は観察中に残るはずです。 痛みを引き起こすすべての

試練と心配の中で最大のものは、空腹の心配です。 人は何でも耐えることができますが、空腹は耐えられません。 飢えには、来世の罰を思い出すこと以外にも無数の恩恵があります。 預言者や聖人(グノーシス主義者や神の親しい者)が直面する試練や苦難の秘密は、これらの苦難によって、来世は常に彼らの前にとどまり、来世を妨げられることなく思い出し、想像し続けることで、彼らの霊的階級が進歩する[神への霊的上昇を引き起こす]ということです。 誰かが預言者ヨセフ(彼に神の平安と祝福あれ)に尋ねました:「エジプトの宝庫の鍵があなたの手にあるのに、なぜあなたは空腹のままですか?」 彼は答えた:「お腹いっぱい食べると、飢えた人(貧しい人や貧しい人)を無視してしまうのではないかと心配しています」。 飢えや貧しい人々を思い出し、その結果として彼らを助けざるを得ないことも、飢えが人々に対する優しさと憐れみの感情や感情、そして彼らを養いたいという願望を育むため、飢えの無数の利点の 1 つです。 満腹した人は、飢えた人の痛みをどのように認識するでしょうか?

5番目の利益 – 欲望の根絶と悪に駆り立てる低次の自己の征服(*ナフス・アル・アンマラ*):これが最も重要な利益です。 すべての罪[と悪行]の基礎は、食べ物によって助けられる欲望と人間の能力(身体器官と内面能力の両方)です。 食物摂取量が減ると、欲望と貪欲が弱まり、体力も弱まります。 幸運の完成度(*サーダ*または永遠の幸福と無限の成功)は、人が低次の自己(*ナフス*)を支配することであり、不運の完成度(高さ)は、低い自己が支配することです(*シャカワ*または永遠の悲しみ、天罰、終わりのない失敗)。 野生の反抗的な馬が水と飼料を奪うことで飼いならされるのと同じように、同様に反抗的で非妥協的な低次の自己は飢えにさらすことによって征服されます。 馬が反抗的で、たくさん食べたり飲んだりすると、その反抗は減るのではなく、むしろ増加します。 低次の自己(*ナフ*)の状態も同様で、より[そして豪華な]食べ物、特にそれが好きで望んでいる食べ物は、より反抗的で不従順になります。 誰かが賢者(グノーシス主義者で神に親しい)に尋ねました:「あなたは非常に弱く、人生のデリケートな段階に入っています。 (食べ物で)体を育ててみませんか?」 彼はこう答えた。 この体はすぐに誇りに思うようになり、手綱が少しでも緩むと、新しいいたずらをし始めます。 私はそれを[食べ物で]育てないので、それが反抗して私を破滅に陥らせないようにします。 そのために罪に巻き込まれるよりも、寛大さを示さずに厳格に対処する方が良いです。」 ドゥン・ヌーン・アル・ミスリ(神が彼に憐れみあれ - 有名なエジプトの聖人でグノーシス主義者)は、「お腹いっぱい食べるたびに、私は何らかの罪に巻き込まれたり、その考えが心に浮かんだりしました」と言いました。 アイシャ(預言者ムハンマドの妻、神が彼女を喜ばれますように)は、「預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の死後、最初の革新(*ビダ*、または確立された信仰の原則に反し、それによって認可されない新しい問題)は、満腹感(人々がお腹いっぱい食べる)という形で現れました。 人々の胃がいっぱいになると、彼らの低胞胎(*ヌフス*)は反逆を起こし、彼らの手綱は来世の[方向]から世俗へと引っ張られます。」 これは[飢餓の]唯一の利益ではなく、代わりに、この1つの利益には無数の潜在的な利益が埋め込まれており、むしろそれを「利益の宝庫」と呼んだほうがよいでしょう。 それは、飢えが神の宝庫からの宝物と呼ばれてきたからです。 空

腹の最小の利点は、陰部の欲望も話すことへの欲望も残らないことです。空腹の人の心はあまり話したくない。 このようにして、人は嘘、陰口、わいせつ、陰で不平を言うなどの言論の害[過剰と猥褻]から保護されます。 お腹がいっぱいの人はユーモアを思い浮かべます。 人を侮辱することによって(つまり、彼らの尊厳を改ざんすることによって)ユーモアのセンスを満たすことは明らかです。 人々は舌の収穫を刈り取って地獄に落ちます。 姦淫の悪は明らかです。 空腹の人もその悪から守られます。 お腹がいっぱいになると、欲望が頭に浮かび上がり、陰部をコントロールできなくなります。 神への恐れ(*タクワ*)が彼らの欲望の実現の障害となる場合、目の姦淫を避けることは困難になります。 目を閉じると、心をコントロールすることはできません。 多くの多彩な形の[好色な]ほのめかしは、それを動揺させ続け、卑猥で淫らな考えを取り除くのが非常に困難になります。 時には、これらの考えは、[神への]祈りと嘆願の[手段によって]達成される平和と静けさを破壊するでしょう。 ここでは、舌や陰部の害を例として挙げています。 そうでなければ、七つの器官すべての罪の原因は、暴食によって達成されるのと同じ力です。

6番目の利点 – 力と起き続ける能力: 食べる量を減らすと、起き続ける力が生まれます。 食べる量が多い人は水を飲む量が多くなり、それが眠気を引き起こします。 そのため、一部のスピリチュアルガイドは弟子たちにこう言いました。 あまり食べないでください! もっと食べれば、もっと飲むようになり、飲むと、より眠り、眠りが増えると、より多くの喪失を経験するでしょう。 70人のグノーシス主義者は、より多くの水を消費するとより多く眠り、より多くの睡眠をとると人生がより無駄になるという[主張]に同意し、早朝の祈り(霊的進歩に功績のある*タハジュド*の祈り)は[過度の睡眠の結果として]行われず、気質に怠惰と心の硬さを生み出します。 人生[または生涯を持つ]は非常に貴重な宝石であり、人間の本当の資産(資本)はまさにこの人生であり、それを通して来世のためにビジネスと貿易を行います。 睡眠は死に似ています。その過剰は生命の資本を減少させます。 睡眠が支配されているにもかかわらず、早朝の祈りを捧げることができれば、その甘さを味わうことはできません。 要するに、[過度の]睡眠は多くの害をもたらし、暴食は睡眠を生み出し、空腹はそれを終わらせます。

7番目の利点 – 礼拝の粘り強さの容易さ: 暴食は、食べるのに時間がかかるため、過度の礼拝の妨げになります。 時には、食料品を買いに出かけ、必要に応じて調理しなければならないこともあります。 食後、手洗い、食中・食後に水を飲むには時間がかかります。 この貴重な時間のすべてが、神の記憶、嘆願、その他の礼拝行為に使われることができれば、それは途方もない恩恵の源となるでしょう。 人生のあらゆる瞬間は、時間の市場でその価格を設定することができないほど絶妙な宝石です。 それを無駄にするよりも、来世に残る宝物を買ったほうがいいでしょう。 この商取引は、神の記憶と従順に自分の時間を使うことによって完成します。 大食いに慣れている人は、清らかな状態(祈りなどの特定の礼拝行為に必要な清めの状態)にとどまらないという不安に悩まされ、頻繁に水を飲み、用を足すために礼拝から出なければならないため、礼拝

にすべての時間を費やすこともできません。 空腹に慣れている人でも簡単に断食を実践できるため、大食いに慣れている人は簡単に断食できません。 断食、神の崇拝のための永続的な孤独、永遠の純粋さ(または多くの礼拝行為の前提条件である清めの状態)、食べ物の入手に費やす時間を礼拝に充てることは、不注意な人だけが無視できる大きな利点です。 クルアーンはそのような人々について次のように述べています。

وَرَضُوا۟ بِٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَٱطْمَأَنُّوا۟ بِهَا

「彼らはこの世の生活に満足し、それに満足するようになった[あたかも物質主義的で快楽主義的な生活がそこにあるすべてであり、特に非物質的でより高い精神的な領域では、その上やそれを超えるものは何もないかのように]。 (クルアーン、10章、7節)

يَعْلَمُونَ ظَٰهِرًا مِّنَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَهُمْ عَنِ ٱلْءَاخِرَةِ هُمْ غَٰفِلُونَ

「彼らはこの世の生活の外側の側面(存在の物理的な領域)についてしか知らず、来世には注意を払いません。」 (クルアーン、第30章、7節)

アブ・スレイマン・アル・ダラニ(有名なグノーシス主義者であり聖人である神が彼を憐れんでくださいますように)は、暴食の6つの害について言及しました。 「お腹いっぱい食べる人は、6つの試練と苦難に巻き込まれます。親密な神の会話の甘さを失い、知恵のポイントを覚えておらず、自分のお腹がいっぱいになると、自分のお腹も満腹であると他人について同じように推測するので、心の中に他人への優しさを保持しません。 そのような人にとって[神の]崇拝は困難になり、欲望は増大し、最大の損失は、すべての信者が神の崇拝の住居に引き寄せられ、そのような信者がレストランに引き寄せられることです。」

8番目の利点–健康: 食べる量が少ない人は健康を維持します。 食べる量が多いと胃や静脈に悪い食物物質が蓄積し、さまざまな病気を引き起こすため、ほとんどの病気は大食いの結果として発生します。 病気になった場合、礼拝することも、平和的に神の記憶をすることもできず、常に落ち着きがなく、動揺したままであり、人生の喜び(平和、静けさ、目的のある生活)が台無しになります。 病人は外科的処置、薬、医師を必要としており、このニーズはお金なしでは満たされません。 暴食は、体と心の両方を心配し、弱く、無気力な状態にさせます。 もう一つの心配は、お金なしでは不可能な(過剰な食物摂取によって引き起こされる自傷行為や病気に対する)医学的治療を受けるためにどこからお金を調達するかということです。 もし人が忍耐力を働かせて(好きなあらゆる種類の食べ物を過剰に食べたいという衝動に駆られて)、少量の食べ物で満足していたら、これほど多くの心配事に対処することはなかったでしょう。 [過去の]賢明な医師は、「病気の可能性が残らない薬は、[真の]欲求が生まれるまで食べないことと、[食べたい]欲求がまだ残っているときに[食べ物から]手を上げることです」と言いました

。 預言者ムハンマドの以下のアドバイス(神の祝福と平安あれ)が、この本の人々(つまり、ユダヤ教またはキリスト教の伝統から)の哲学者に言及されたとき:

ثلث طعام، وثلث شراب، وثلث النفس

「(食事をするとき)食物摂取量は、胃の中で占めるスペースが3分の1を食べ物用、3分の1を水用、3分の1を呼吸しやすくするために空けておくようにする必要があります。」

哲学者はそれに完全に驚き、「このことわざほど食べ物について正確で有益なものはありません。 間違いなく、これは賢明なことわざです。」

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

البطنة اصل الداء والحمية اصل الدواء وعودوا كل جسم ما اعتاد

「病気の本当の[起源]は暴食であり、本当の医学は予防です。 体に適した扱いをしてください(つまり、体は、過剰な食物摂取、不健康な食べ物や飲み物、薬物、酩酊剤など、体に有害なものにさらされるべきではありません)」

個人的には、その哲学者は上記の予言的なナレーションにもっと驚いただろうと思います。 イブン・サリムは、「正しいエチケットを持って小麦パンを食べれば、決して病気になることはない」と言いました。 彼は「エチケットを持って食べるとはどういう意味ですか?」と尋ねられました。 彼は「お腹が空いたと感じたら食べ、満腹になる前に食べるのを止める」と答えた。 一部の専門医師は、大食いを非難しながら、「胃に入る最も有益なものはザクロであり、胃に入る最も有害なものは塩ですが、過剰な量のザクロを食べることと比較して、少量の塩分摂取は有益です」と述べました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の伝承には次のように書かれています。

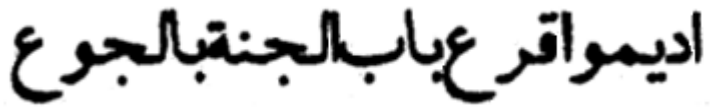
تصوموا تصحوا

「断食を守れば健康になります。」 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *タバラニ・アウサット* 預言者の仲間アブ・フライラの権威に基づいて[神が彼を喜ばれますように])。 イスラム教では、断食とは、夜明け(まだ暗い日の出のかなり前の時間)から日没までのすべての食べ物、飲み物、夫婦関係を非常に基本的なレベルで完全に避けることであり、より高いレベルでは、さらにすべての道徳的悪徳[嘘、浮気、喧嘩、わいせつ、不正直、および思考におけるあらゆる形態の有害で有害な行動など)を避けることです。 感情、言葉、行動]。

このことから、断食し、空腹を保ち、食べる量を減らすことで、体を治すだけでなく、心を治す薬(復活、若返り、浄化、強さのための)薬があることが知られています。 [断

食と食事の減らしによって]身体が抑制されれば、心も反逆(あらゆる形態の否定的で有害で有害な行動)や不服従(そもそも人類の幸福と利益のために存在する神の命令に対する)に傾きません。

9番目の利点–支出の削減:食べる量が少ない人は、少量の富と所有物で十分です。 胃は大食いのためのすべての闘争の中心であり焦点であり、胃の地獄を満たすために、あらゆる種類の工夫と計画を行い、あらゆる種類の屈辱を蓄積し、合法(*ハラール)手段が十分でない場合、違法で禁止された(*ハラーム*)手段*を採用します。 違法な手段で稼ぐことには罪があり、許される手段で稼ぐことには屈辱、心配、困難が生じる可能性があります。 なぜなら、収入は貪欲なしには生まれないからです。なぜなら、どこを見ても貪欲が埋め込まれているからです。 貪欲は極度の屈辱です。 信者は、費用が削減される人です。 ある賢者はこう言いました:「私はしばしば自分の必要をあきらめることで満たします。 これは心に大きな満足感を与えます。」ある賢者は、「自分のニーズを満たすためにローンを借りる必要があると感じたとき、私はその欲求を放棄することに同意させることによって、自分自身(*ナフス*)からローンを借り、私自身が私に素晴らしいローンをくれます」と言いました。 イブラヒム・ビン・アダム(神に憐れみがありますように)は、仲間たちにさまざまな必需品の値段を尋ね、ある品目が高価だと言ったら、それを捨てて安くするように言っていました。 サール・ビン・アブドゥッラー・アル・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「たくさん食べる人は、3つの状況で悪いです。崇拝者の中にいると、もっと食べると怠け者になります。特定の職業に熟練した人の中にいると、苦難から身を守ることはできません。もし人がいくらかの収入を得たとしても、人は(その精神的な願望と状態を守ることによって)自分の心で正義を行うことができないでしょう」。 それにもかかわらず、世界(富と物質的な所有物)への貪欲を持つことがその破壊の本当の原因であり、この貪欲は胃と陰部のために生まれ、陰部の欲望の本当の原因は胃です。 食べる量が減れば、陰部の欲望も、世の欲も残りません。 世界(富と物質的な所有物)への貪欲は地獄の扉です。 この扉が閉まると、楽園への扉が開かれる。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「飢えによって天国の扉をノックし続けなさい」。

一つのパン(薄いピタパンのようなもの)で満足する勇気を持っている人は、すべての欲望を控えることができます。 この満足感には、自己と意識の解放と自由、人々が所有しているものからの忘却(そして、害を及ぼし、利益をもたらすという点でできるもの)、内なる慰め(心の平和と静けさ)、神を崇拝する能力、そして来世のための取引に従事する能力があります。 そのような人々は次の聖句でほのめかされています。

لَّا تُلْهِيهِمْ تِجَٰرَةٌ وَلَا بَيْعٌ عَن ذِكْرِ ٱللَّهِ

「彼らは、世俗的な取引(世俗的な滞在と儚い存在の中で生き残るために必要な売買、その他の世俗的な関与)のために、神の記憶からそらされることはありません。」 (クルアーン、24章、37節)

これらの人々は、世俗的な事柄に執着していないからです(つまり、世俗的な生活に必要なすべてのものに支払うにもかかわらず、世俗的なもつれや寝台に心を執着していない)ために、神の記憶に注意を払わず、怠慢ではありません。 この世に困窮している人(つまり、世俗的な事柄に心を執着し、魂を犠牲にして世俗的な事柄に完全に没頭している人)は、実に無頓着で、気づかない[永遠の幸福と無限の勝利につながる人生の本当の目的]に気づいていません。

10番目の利益 – 慈善活動と困っている人々への支出: 食べる量を減らすことの利点の1つは、使用されていない食品を孤児や貧しい人々に慈善活動として提供できることです。 慈善活動に慣れており、困っている人々への支出に慣れている人は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のさまざまな高貴な伝統で言及されているように、自分の慈善活動の影に隠れることになります。 もっと食べることで何が得られますか? [過剰]消費後の食べ物は人間の排泄物となり、廃棄物の宝庫に預けられ、慈善活動で与えられた食べ物は神の宝庫に預けられます。 人間の富と残った[物質的な]所有物は、神の道で費やされたものにすぎません。 それ以外では、消費されたものはすべて、(食べ物の形で)消費されたか、[衣服の形で]着用されたかにかかわらず、絶滅します(終わりを迎えます)。 ハサン・アル・バスリ(偉大なグノーシス主義者であり聖人である神が彼に憐れみあれ)は、クルアーンから次の聖句を朗読しました。

إِنَّا عَرَضْنَا ٱلْأَمَانَةَ عَلَى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱلْجِبَالِ فَأَبَيْنَ أَن يَحْمِلْنَهَا وَأَشْفَقْنَ مِنْهَا وَحَمَلَهَا ٱلْإِنسَٰنُ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ ظَلُومًا جَهُولًا

「私たちはこの信頼を天と地に提示しましたが、彼らはその責任を受け入れることを拒否し、それを恐れるようになりましたが、人間はこの責任を自分で引き継ぎました。 1人(つまり人間)は[間違いなく]抑圧的で無知です。」 (クルアーン、第33章、72節)

そして彼は言った、「神は星で飾られた七つの天に、この[神の]信頼の重荷を背負うように頼み、こう言われました。『あなたはこの信頼とそれに含まれるものを喜んで背負いますか?』 彼らは「この信託には何があるのですか?」と尋ねました。 彼は答えました:「悪を行えば罰が受けられ、善を行えば[優れた]報いが見られます」。 天は「私たちはこの信頼を背負うことができません」と答えました。 その後、この信頼が地球に提供されましたが、地球も拒否しました。 高い山々が求められ、彼らはまた、この信

頼を担う上での自分たちの無能さと欠点を表現することに平和があると考えました。 人間が[この世に来る前の魂の領域で]それについて尋ねられたとき、人は自分自身(*ナフス*)を抑圧し、この神の戒めの背後にある知恵に気づかなかったため、この責任を受け入れました。 神よ!私たちは今、人間の抑圧と無知を目の当たりにしています。 人々は富の代わりに信仰を売り、墓を狭くしたり狭めたりする代わりに(つまり、来世での人生を台無しにする)代わりに、家の広さ[と素晴らしさ]を増やすために豊富な量を稼ぎ、ディーンを作る代わりに動物(伝統的に誇り、名声、社会的地位の源であった乗り物)を太らせます(神への道と神との関係)薄い。 そのような人々は、朝と夕方に王(名声と権威を持つ強力で影響力のある人々)のところに行き、[その結果]自分自身を抑圧します。 自分の心の中では、物質的な所有物や富への欲求が高まっており、他人の心には名声への欲求があります。 人は、[神の法で]許容されるものの区別や[神の法で]禁じられていることの実現を考慮せずに、[豪華で多様な]食事への欲求を持って歩き回ります。 消化不良や腸チフスを引き起こす場合、使用人はそのような状態を緩和する薬を持ち込むように要求されます。 誰かがこの愚か者に尋ねるべきです:『食べ物と味への欲求のために、あなたが世話をすることがあなたの[道徳的]義務である孤児、未亡人、貧しい人々に何が起こったのですか?」

この詳細の目的は、必要な量の食料だけを消費し、残りは来世の貯蔵庫に預けられるように慈善活動で与えるべきであるという点を家に持ち帰ることです。 ある時、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は肥満の男性を見て、彼の腹に指を当てて[肥満の望ましくないことをほのめかしています-その原因は大食い、体調不良、健康と内なる精神性への有害な影響です])そして言いました:「この食べ物があなたの胃ではなく、他の人の胃の中にあったら、もっと良かったでしょうあなたのために(肉体的にも精神的にも)」と言いました。 (この伝統は、*ハディース*が*ムスナド・アフメド*、*ハキム*、*バイハキ*を預言者の仲間ジャダ・アル・ハトミの権威に基づいて集めている[神が彼を喜ばれますように])

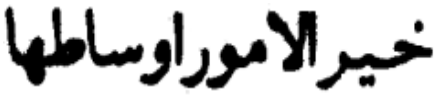
ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)はこう言いました。私たちは、食べるものがほとんどないそのような人々を見てきましたが、もし彼らがそれを食べていたとしても、それは彼らにとって十分ではなかったでしょう。 彼らはまだ、神のために、そのわずかな量さえも自分では食べず、他の人もその中に含めると言いました。

これらは飢餓の10の恩恵であり、すべての恩恵が無数の[他の]恩恵を構成します。 これらすべての利点の結果は、飢えが来世の宝であるということです。 そのため、多くの賢明な学者は、飢えは来世への鍵であり、世俗性からの禁欲への扉であり、暴食は世俗性への鍵であり、貪欲への扉であると言っています。 この主題は、飢えの卓越性と満腹感[と大食い]の非難について言及されたナレーションと伝統を通しても証明されています。 これらの利点を認識した後、この主題の詳細とその本当の意味についての知識は、確信 (*Yaqeen*) と深い洞察 (*Baseerah*) に基づいて行われます。 これらの利益についての知識を持っていないにもかかわらず、飢えを優れていると考えるなら、人は[物

質の現実を理解せずに]従うことによって信仰のレベルに到達するでしょう(*タクリード*)。

飢餓に関連する判決、卓越性、人間状態の違い

節度のレベルまたは中間の道を達成することが、以下の*ハディース*(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統)で言及されているように、すべての問題と*イクラク*(美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質、資質)の目的であることを知らせてください。



「何よりも良いのは、節度が行使されるか、中間の道が取られることです。」

両側[またはスペクトルの両端]または両極端、言い換えれば、[すべての事柄におけるもの]の過剰または不足は両方とも非難されます。 飢餓の卓越性に書かれていることから、飢餓の過剰が目的であることが理解できますが、実際にはそうではありません。 むしろ、知恵に満ちた神の法の秘密は、人間の気質が極端に傾いており、[内的および外的]混乱の種を含んでいる事柄では、それらの事柄は、神の律法の目的が気質に逆らって[人をより良い人間にするために]行いを起こすことであることを理解できるように、非常に誇張(強調)して禁止されるような性質のものです。 学者(宗教的知識と理解に精通している人)だけが、[有害な事柄から]禁止する誇張の目的は、節度または[すべての極端を欠いた]中間の道に[引き上げる]ことであることを理解しています。 これは、暴食が人間の気質を支配し、人々が極端なレベル(食物摂取の過剰)に達していることを学者だけが知っており、ますます飢えの卓越性を言及する方が適切であり、[人間の]気質が[食物消費に関連するこの問題で]節度のレベルに達するように、人々は誇張して暴食を止めるべきだからです。 [人間の]気質を終わらせることは不可能ですが、節度や中間道のレベルに持っていくことは可能です。 したがって、誰かが気質に逆らって過度に支出した場合、神の律法はこの行為を非難します。 たとえば、神を崇拝するために夜更かしすることや断食の無数の卓越性は、*ハディース*(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統)で言及されていますが、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、絶え間なく断食し、一晩中起きている人がいることを知ったとき、彼は彼らにそうすることを禁じました。 原則についてのこの議論の後、食事における優れた適度な方法は、胃の重さを引き起こしたり、空腹感を引き起こしたりしないだけを食べることであることを知っておく必要があります。 食べる目的は、生命を維持し、礼拝のための体力を身につけることです。 胃の重さも礼拝の妨げとなり、胃が空っぽになると心も忙しくなります。 空腹の苦痛を消し去る程度に食べるべきですが、食べ物の影響も不明です。 このように食べると、人間は空腹の苦しみや食べ物の重さを乗り越えているため、

天使に似せます。 それらに従うことは、人間を創造の目的である卓越性と完璧さのレベルに導くことしかできません。 このレベルの節度の片側には暴食があり、もう片側には空腹があります。 どちらも致命的です。 節度の道を歩むために両方から身を守ることには、生命の存続があります。 その類似性は、火の輪の真ん中に取り残されたアリのようなものです。 どちらを向いても、円は四方八方から熱く、その小さな炎がその小さな命を終わらせる可能性があるため、死があります。 しかし、アリが中央にとどまり、どの方向にも行かなければ、火から離れたままで命を守ることができます。 欲望が四方八方から人を取り囲んでいるとき、そのような人間の状態です。 天使は欲望から遠く離れています。 それらの類似性を獲得する唯一の方法は、節度のレベルがすべての側面から等しい距離にあるため(円の真の中心に留まるため)、欲望から距離を置くことです。 したがって、それ(節度)が求められており、節度のレベルはあらゆる側面から等しい距離にあり、その証拠はハディース(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統)に見出されているため、「何よりも、節度が行使されるか、中間の道が取られることである」と、コーランの次の聖句によって検証されています。

وَكُلُوا۟ وَٱشْرَبُوا۟ وَلَا تُسْرِفُوٓا۟ ۚ

「食べたり飲んだりし、節度の限界を超えて行き過ぎを犯さないでください。」 (クルアーン、7章、31節)

空腹と満腹感の節度: 人間が空腹の苦しみと暴食の重さを感じるまで、[神の]崇拝に集中することはできません。 礼拝と熟考を容易にするためには、空腹のままでも満腹のままでもいないことが必要です。 人間の自己(*ナフス*)は、最初は反抗的で、欲望が好きで、節度の限界から遠ざかっているため、過剰と不足の中心点に持ち込むことは困難です。 最初は、物事からそれを禁じることには誇張があります。 たとえば、空腹と暴食の中間レベルに引き上げるために、最初にすべきことは、野生の反抗的な馬が最初に空腹で喉が渇き、さらには殴られてコントロールできるように、空腹を保ち続けることで自己に困難を引き起こすことです。 この段階を通過した後、馬は制御され、主人の希望に従属するようになります。 馬が反抗心から離れて従順になると、馬を空腹にさせ、喉が渇き、肉体的な苦難にさらし続ける必要はありません。 スピリチュアルガイドは、弟子たち(スピリチュアルな道を歩む志望者と旅行者)にも同じ扱いを与え、ガイドが自分ではしないことをするように言う。 たとえば、人は彼らに空腹のままですべての欲望を捨てるように言いますが、ガイド自身は空腹のままでいるわけでも、すべての欲望から完全に切り離されたりするわけでもありません(多くの欲望は神の法の範囲内で正当です)。 時々、ガイドは食後に果物を食べたり、他の味や欲望を楽しんだりするのは、自分自身が従順であり[神の命令に従順であり]、それ以上の精神的な練習や訓練を受ける必要がないからです。 しかし、自己(*ナフス*)は神の崇拝において貪欲、欲望、反抗、怠惰に支配されているため、飢えはそれにとってより良いものであり、それはその痛みを感じ続け、謙虚になり、それを通して節度のレベル、つまり食物摂取の節度に

達します。 スピリチュアルな道の旅人の中で、空腹を抑えているのはグノーシス主義者と自己欺瞞的な愚か者の2人だけです。 グノーシス主義者は、自己が導きのまっすぐな道を進んでいるので、空腹のままでいる必要はなく、真実の道を歩むとき、飢えに苦しむ必要はありません。 愚か者は、自分はグノーシス主義者であり、自己は霊的な努力や訓練を必要としないという推測を持っているので、空腹のままでいるわけではありません。 これは大きな欺瞞であり、ほとんどの人がこの目の欺瞞に関与しています。 自己を完全に規律することは大きな困難です。 一般に、人々はグノーシス主義者の霊的状態を取り上げ、これが正しいかどうかに関係なく、自分の状態はそのようなものであり、グノーシス主義者のように[ただ][そのような崇高な霊的状態を達成するための]手段に気づかず、それらの手段を採用しません。

スピリチュアルガイドは、弟子(スピリチュアルな道の始まりにいるスピリチュアルな旅行者)の前で、秘密(さまざまなスピリチュアルな教えの背後にあるスピリチュアルな事柄や内なる知恵に関連する)について言及すべきではありません。 代わりに、できるだけ空腹になるように指示する必要があります。 [食物摂取の]節度のレベルについて彼らを教育することは、彼らが(初心者の学生であるため)節度からある程度逸脱してしまうため、適切ではありません。 彼らは、(弟子たちが求められていることよりも少ないことをするため)節度のレベルに到達しやすくなるように、多くの飢えを行使するように指導されるべきです。 弟子(霊的旅行者)は、霊的に完成された人(グノーシス主義者)は霊的な厳しさや自己の訓練を必要としていないと言われるべきではありません[そのような人はすでにそれを経験しており、高い霊的程度を達成しているからです]。 もし彼らにそう言われたら、サタンは彼らの心の中で、彼らが非常に高いレベルのグノーシスと霊的完全性に達しており、霊的指導者(シェイク)から知らされたように、もはや霊的な厳しさを必要としていないとほのめかすでしょう。 イブラヒム・アル・カワス(グノーシス派、聖人、霊的指導者である神が彼に憐れんでくださいますように)は、弟子たちにどんな霊的な厳しさを指示しても、弟子たちが教えられていると思わないように、彼自身がそれを実行するというルーチンを持っていました[彼自身はそれらを必要としていませんでしたが、弟子たちに、自分が必要としていないのと同じように、彼らも必要としないという誤解を招く印象を与えないようにするために実行しました]、彼らが彼らが教えられていると思わないようにしましたスピリチュアルガイド自身がしないことをすること。 この考えは、弟子(スピリチュアルな旅行者)が霊的な努力に嫌悪感を抱くように導く可能性があります[サタンがあらゆる段階で、あらゆる状況において、人々を正しい導きの道から積極的に思いとどまらせようと努力しているため、スピリチュアルガイドの偽善を誤解を招くように認識することによって]。 スピリチュアルガイド(*シェイク*または*ムルシド*)は、レスラーが運動したり、生徒にさまざまなレスリングの動きを教えたりするために弱く振る舞い、ノックアウトされるのと同じように、自分の[スピリチュアル]ランクから降りる必要があることがあります。 自己を鍛えるためには、身体の運動に比べて優しさと繊細さがより必要です。 霊的な努力と厳しさは、(霊的な旅人にとって)大きな試練の根拠です。 預言者や聖徒はそのような試練や苦難を経

験してきました。 そのため、この問題には注意と注意を払わなければなりません。 ウマル(神が彼を喜ばれますように - 後に偉大な世界の指導者となった偉大な預言者の仲間)は、息子のアブドゥッラーが毎日パンと一緒に肉を食べていることを知ったとき、激怒して彼にこう言いました。 ある日は肉入りのパンを食べ、ある日は牛乳入りのパンを食べ、ある日はギー(乳ベースの脂肪)入りのパンを食べ、ある日は油入りのパンを食べ、ある日は塩入りのパンを食べ、ある日は他に何も入っていないパンを食べるのです。」 このことから、これが節度のすべてであることがわかっています。 肉を食べ、欲望にふけることに永続性と規則性を実践することは、過剰に相当します[したがって、食べることに関連する問題における過激主義]。 それらを完全に放棄することは不足であり、時々食べて時には食べないことは節度です。

食べる量を減らし、欲望を捨てることの害

欲望を放棄し始める人は、2つの害の標的になることを知っておく必要があります。 これらの害は、好きな食べ物を食べるよりも危険です。 1つの害は、自己が欲望を残すことができないことです。 スピリチュアルな旅人は彼らから離れたいと思っていますが、自分自身(*ナフス*)はそれを許しません。 スピリチュアルな旅人は、低次の自分の欲望を満たすために、自分の好きなものを人から隠してこっそり食べます。 これが隠された多神教(*スカーク・アル・カフィ*)です。 このような状況が発生した場合は、自分の願望を明らかにする必要があります。 この啓示こそが、自分の[内面]状態の真実性のすべてです。 自分の欠点を秘密にし、自分の卓越性を[他人に]見せることには、2つの害があります。 心から悔い改めるまで、神の不快は取り除かれません。 神のために欲望を捨て、自分が欲望に関わっていることを示す続けるのは、グノーシス(マリファ)の完成です。 これは、人の目から見て卑劣になるためです。 ある聖人は、以前はとてもシンプルな食べ物を食べていたにもかかわらず、人々がそのようなものを食べていると思わせるために、おいしい食べ物を買って家の目立つ場所に置いていました。 人々が彼を聖人だと思わないようにするため、聖人として考えて近づかないようにするためだった。 *ズード*(世俗性からの禁欲)の完成性は、自分が禁欲ではなく、代わりに欲望に巻き込まれていることを示すために、それに反して行動することです。 これは、グノーシス主義者または霊的に完成された個人(*シディキーン*)の行動であり、彼らは自分自身に2つの重荷を課すことによって2つの真実を組み合わせ(*ナフ*)し、2回忍耐を行使したからです - 1回は好きなものに別れを告げたとき、2回目は人々が彼らの外側の状態を見て彼らを非難し、批判したとき、 世俗性と禁欲をしない行為は、聖人やグノーシス主義者であることに伴う名声や崇拝を避けるために意図的にその印象を作り出したものです]。 そのような人々について次のように言われています。

أُولَٰئِكَ يُؤْتَوْنَ أَجْرَهُم مَّرَّتَيْنِ

「そのような人々は、神の報いの倍を受け取るでしょう。」 (クルアーン、28章、54節)

彼らの状態は、みんなの前で贈り物を差し出されたら受け取ったが、後で密かに返すようなものです。 そのような人は、2つのことによって苦しむでしょう:第一に、誰の前でも何かを与えることで屈辱を受けるためです(他人から物を奪うことには卑劣さがあるため)。第二に、同じものが必要としているにもかかわらず、密かに返したためです。 霊的旅人(*サリク*)がこの階級に到達できなければ、自分の過ちを公表し、欲望から離れることができないことを表明することを控えるべきではなく、自分の過ちを明らかにすれば、人々はその過ちの中でそのような人に従うだろう、そして人々を改革するために自分の過ちを隠しておく方が良いというサタンの欺瞞にだまされるべきではありません。スピリチュアルな旅行者や探求者は、自分自身の[内なるスピリチュアル]改革が人々の改革よりも重要であることを理解する必要があります。 人を改革する立場で自分の過ちを隠す目的は、誇示や誇示(*リヤ*)だ。 そのような人は、他人を改心させるという口実でサタンに従うのに忙しいです。 現実には、そのような人は、人々が自分を避けることを恐れて、自分の欠点を明らかにしたくありません。 そのような人は、自分自身の改革も他人の改革も望んでいません。

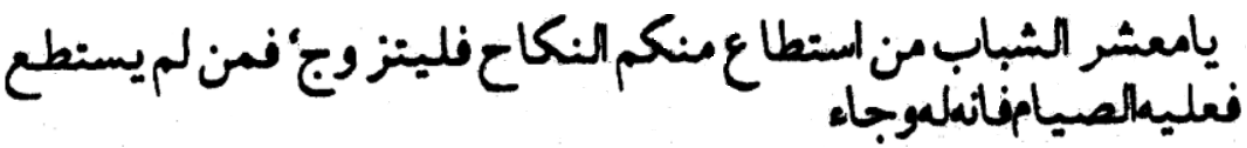
第二の害は、霊的な旅人や探求者は実質的に欲望を捨てることができますが、人は[世俗性から]禁欲している(*ザヒド*)として有名になるのが好きで、人々が自分を「罪のない」と呼ぶと喜ぶことです。 この探求者は、(食べ物に関連する)弱い欲望を捨てましたが、はるかに大きな欲望、つまり名声の追求と名誉と名声への欲求に関与しています。 これは秘密の欲望であり、それに関わっている人は、自分がそれに関わっていることを知るのはかなり遅くなります。 この欲望を根絶することは、食べ物への欲望を終わらせることよりも重要で必要です。 見せびらかしから遠ざかっているが、食べ物への欲望に巻き込まれている人は、食べ物への欲望を捨てて名声への愛にふける人よりも優れています。 アブ・スレイマン(神が彼に憐れみあれ)は言った:「あなたが放棄した食べ物が目の前に来たら、そこから少量食べてください。しかし、[もっと食べることによって]自己の欲望を満たしないでください。 そうすれば、自己の欲望、つまり食べ物への欲望と名声と名声への欲望(世俗性を控えること)の両方が終わるでしょう。」 食べ物への欲望を捨て、見せびらかしたいという欲望にふける人は、サソリから逃げて蛇のそばに避難する人のようなものですが、蛇は[サソリよりも]人にとってより致命的です。 同様に、見せびらかすことは食べ物への欲求よりも有害です。

陰部の欲情

交尾への欲求は、2つの利益のために人間に[神的に]創造されたことを知っておく必要があります。 利点の1つは、人間が交尾の喜びから来世の喜びを推測できることです。もしこの快楽が長く続いていたら、それはすべての肉体的な快楽の中で最も強いものだったでしょう。 人々は永遠の幸福を達成するためにインセンティブと説得を必要としており、この必要性は、感じることができる痛みや感じて知覚できる喜びが永遠の幸福への手段として採用されるときに完全に満たされます。

交尾の第二の利点は、人類の存続です。 これら 2 つの利点ですが、自分自身をコントロールせず、この欲望を節度のレベルにまで持たないと、世俗的な成功と信仰の両方を失う可能性があるため、多くの害も組み込まれています。 伝承では、預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)が集会に座っていたとき、サタンが[人間の姿で]来たと語られています。 頭にはたくさんの色が輝いている帽子をかぶっていた。 この集まりに到着した後、彼は帽子を脱いで挨拶した。 預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)は彼に言いました。彼は「私は*イブルス*(サタン)です」と答えました。 預言者モーセはこう言いました。なぜここに来たのですか?」 彼は言った:「あなたは神の前で素晴らしい地位と地位にあるので、私はあなたに挨拶を捧げるために来ました」。 預言者モーセは「なぜあなたはさまざまな色で作られた帽子をかぶっていたのですか?」と尋ねました。 彼は「私は人間の心を奪い、この帽子を通して彼らを欺く」と答えた。 預言者モーセは、「あなたは人間のどのような行動によって彼らを征服することができますか?」と尋ねました。 彼は答えました:「人間の心に傲慢さが生まれ、自分の小さな行動(善行)を大きなものと考え、自分の罪を忘れてしまうとき。私は3つのことについて事前に警告します:1つは、見知らぬ(結婚可能な可能性のある)女性と二人きりにならないことです、その場合、私は個人的に弟子を一人も送らずに彼らの間に入り、*彼らをフィトナ*(不適切な行動による試練と苦難)に巻き込ませます。 2つ目は、約束を果たすことです。 第三に、義務的および自発的な慈善活動のために取っておいたお金は、すぐに分配することです。 私もそのような機会に急いで到着し、慈善活動を行わない意図を変えるような言い訳をします。」 その後、サタンはこう言って去りました。モーセは今、人間が苦しんでいることを知っています。」 サタンの軍隊の半分は欲望であり、半分は怒りです。 まさにこの軍隊(欲望と怒りの両方からなる)を通して、サタンは心を征服します。異性への欲望の中で、すべての欲望の中で最も偉大な欲望。

陰部の欲望の 3 つのレベル: 食べ物の欲望と同様に、この欲望にも過剰、不足、節度の 3 つのレベルがあります。 過剰とは、この欲望が知性を追い越し、性的満足を求める以外の目的が残っていないことです。 人はそれに没頭し、来世の道を忘れ、それが人の信仰を支配し、悪に巻き込まれます。 この欲望の過剰は多くの悪を生み出します。 たとえば、この能力を高める薬が心配になります。 それは、野獣やヘビに囲まれて、彼らが怠慢になって逃げ出すと、自然な本能に従って自分自身を攻撃するように目覚めさせるようなものです。 人は、この欲望の過剰を満たすために、奴隷状態を受け入れるほどあらゆる種類の屈辱に苦しみます。 人間が他のすべての被造物に従うように創造されたにもかかわらず、人は自分の知性と悟りの死体をこの欲望の足に置いています。 人間は、自分の情熱や欲望の奴隷となり、それらに仕えるためにあらゆる手段を講じるように創造されたわけではありません。 これは他に目的のない心臓の病気です。 人は初期段階で欲望から守ることができます。 いったんそれが強くなり、完全に定着すると、それを根絶することは非常に困難になります。 富、名声、財産、子孫への愛も同様で、彼らの愛は完全に定着した後も消えません。 これは、さまざまなスポーツへの興味、のんびりとした追求[およびその他の追求、強迫観念、依存症]が、目の前の世のものや信仰を重要視しない程度に起こります。 これらのことは、常に人を動揺させ、落ち着きをなくします。 最初の段階で欲望の火(真実の道から逸脱し、霊的な願望を消散させる強迫観念や依存症)を消す人は、馬がドアから入らないようにしたくない人のようなものです。 したがって、ドアに顔を向けるたびに、人は手綱を握り、引き離します。 火が燃え上がり始めた後に火を消そうとする人は、最初は馬がドアから入ることを許し、馬が入ったら尻尾をつかんで引き抜こうとする人のようなものです。 そのとき、馬は抵抗して反抗しないでしょうか? 2つの状況の間にはどれほど大きな違いがあるのでしょうか? したがって、初期段階では注意と注意を払うことをお勧めします。 病気が重症化すると、それを治すには多大な努力と苦労が必要です。 また、男らしさを失う能力を失うことも非難されるべきである。 節度のレベルとは、欲望に従属するのではなく、その代わりに、欲望が知性と神の法則に従属し、その指示に従うことです。 この欲望の過剰は、飢えと結婚によって癒すことができます。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「おお若者よ! あなた方の中で誰が結婚できるかは誰でも結婚すべきであり、(人生の状況のために結婚の責任を果たせないために)結婚できない人は断食すべきです、なぜなら、そのような人にとって断食は人を休眠状態にする方法だからです(断食は自分の情

熱と欲望を抑えるための内なる自制心を養うのに役立つので、肉体的な親密さへの欲求という点で)断食するのです。」

目の姦淫に対する保護の卓越性: 姦淫から身を守る機会があるにもかかわらず、身を守る人の近くには、目の姦淫から身を守る人があります。 姦淫の出発点は目であることを知っておく必要があります。 その保護はより重要です。 目が[見てはいけないもの]を見るのを止めるのがより難しいので、人々はこれについて怠慢になり始め(不道徳で見るのが不適切であると解釈されるものを見るのから目を守る)、それは大したことではないと考え始め、すべての害の出発点は目であるにもかかわらず、その罪は重要であるとは考えていません。 目的や意図が関与していない場合、一目見た目は[神的に]許されますが、二目見た目については計算と説明責任があります[それは通常、意図と目的を持って行われます]。 それは、その視線が心に欲望の種を蒔くからです。 しかし、目が保護され、[あらゆる種類の不適切なもの]を見るのを防ぐことができれば、心臓は多くの害から守られたままになります。

第4章- 無制限の発言の取り返しのつかない害

*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の4番目の本*は、無制限の発言とこの能力の不謹慎な使用によって引き起こされた災難を扱っています。 個人、社会、国家全体に危害が加えられ、紛争がまき散らばり、権威ある人々が敵と認識された相手に対して舌を放つと、敵意や戦争にさえつながります。 その結果、国全体が終わりのない紛争に巻き込まれます。 個人レベルでは、無制限で軽率な話し合いは、人々の間の関係を悪化させ、断絶させ、友情が敵意に変わり、相互の憎しみにつながり、制御不能に陥る可能性があります。 自由な発話は話し言葉に限定されません。 出版された資料の形で書かれた言葉は、内面と外面の平和を破壊する危害を加え、紛争をまき散らすのにより強力です。 したがって、舌の収穫はあらゆるレベルで致命的で破壊的になる可能性があります。 ガザリは、無制限の発言の害、無制限の発言を余儀なくされる理由、そして人々と国家間の平和、尊敬、調和を促進するためにこの病気を治す方法について掘り下げてい

ます。 魂の中にポジティブさ、調和、平和を植え付け、精神的な完璧さを獲得するための取り組みは、潜在的なネタバレとなるこの人間の能力を抑制することに大きく依存しています。 「舌の[誤用]の害」というタイトルの本で、非常に重要なこのトピックのガザリの見事な扱いは、次のように要約された形でここに提示されています[10]。

舌 - 大きな祝福: 舌は神の祝福からの大きな祝福であり、[神の]創造物の繊細さからの繊細さです。 その大きさは小さいかもしれませんが、その[神の命令への]従順は計り知れず、罪もまた計り知れません。 信仰(*イマーン*)と不信仰(*クフル*)の両方の現実が舌を通して表現されます。 最初に言及されたもの(信仰)は[神の]従順の頂点であり、次に言及されたもの(不信仰)は[神の]不従順の極みです。 存在するかどうか、創造主か創造物か、想像的か現実か、推測か迷信かにかかわらず、すべてのものが舌に上がって[そしてそれによって表現され]、それを肯定するか否定するかのどちらかを行います。 真実であろうと偽りであろうと、知識の領域内にあるすべてのものは、舌を通して詳しく説明されます。 これは、舌を他のすべての[身体]器官と区別するような特徴です。目の範囲は色と形に限定され、耳の管轄範囲は音にすぎず、手は物理的な存在を持つものにのみ伸ばすことができ、すべての[身体]器官の状態も同様です。 タングは、その中でも唯一、広くて広大な管轄区域を持っています。 舌が善の場で走ることができるのと同じように、同様に悪の場で舌を打ち負かす人は誰もいません。 そのため、それを制御することが不可欠です。 自分の舌をコントロールできない人は、舌が言いたいことを何でも言わせ、悪い結末に連れて行きます。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

ولا يكب الناس في النار على مناخرهم الا حصائد السنتهم

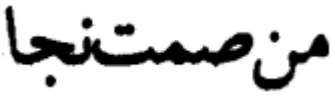
「人々は、舌から蒔いた収穫を刈り取るために、鼻で地獄に投げ込まれるでしょう。」

神の法(シャリーア)の手綱を舌にかけ、預言*的な道(スンナ)の鎖を掛け、来世だけでなく世俗的な事柄にも有益なことを話す必要がある場合にのみ舌を解放する舌の悪から身を守ることができるのは、その人だけです。* さらに、始まりと終わりが悪い結果をもたらす可能性のあるすべてのものでそれを抑制します。

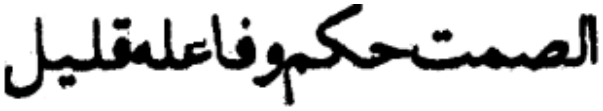
しかし、何を話すのが良いのか、何が悪いのか、どこが舌を解放して話すのが良いのか、どこが悪いのかを知ることは非常に困難です。 たとえそれが知られていたとしても、それに基づいて行動することはさらに困難です。 人間のすべての器官の中で、(一般的な普遍的な人間の良識に関連する神の命令に対する)不服従の数が最も多く、舌で起こります。 移動に困難もないし、移動に疲れや怠惰もないからだ。 人々は、舌がサタンの武器庫の中で最も効果的な武器であるにもかかわらず、舌の害から身を守るために怠惰を行使し、舌が[個人、コミュニティ、国家の間に不和、無政府状態、混乱、公然とした戦争をまき散らすための]最も効果的な武器であるにもかかわらず、舌を取るに足らないものと見なして無視します。 サタンは舌によって神のしもべを打ち負かし、彼らに誤った道を歩むように強制することができます。 次のページでは、神から与えられた能力によって、舌の害を個別に詳細にリストし、すべての害の限界と結果、およびそれらから身を守るための戦略について言及します。 舌の害は全部で20種類あります。 それらを説明する前に、舌の[誤用]の危険性と沈黙の卓越性について最初に言及します。

舌の大きな危険性と沈黙の卓越性

舌の危険性は大きく、舌から身を守る唯一の方法は沈黙であることを知っておく必要があります。 したがって、神の律法は沈黙を称賛し、その信奉者に[不必要に話さないことによって]沈黙を保つよう説得してきました。 だからこそ、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



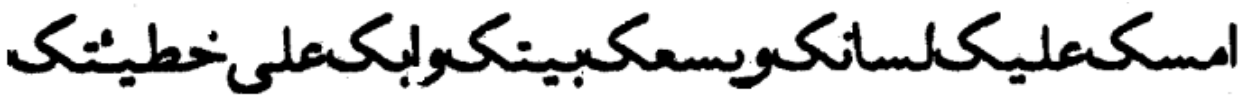
「沈黙を保った人は救い(神の赦しと受容を得るために不可欠な神の前での地位を含む、多くの危害や危険からの解放と保護)を達成しました。」 (この伝統は、 *ハディース徴収 ティルミディ* 預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威により[神が彼を喜ばれますように])



「沈黙は知恵ですが、それに基づいて行動する人はほんのわずかです。」 (この伝統は

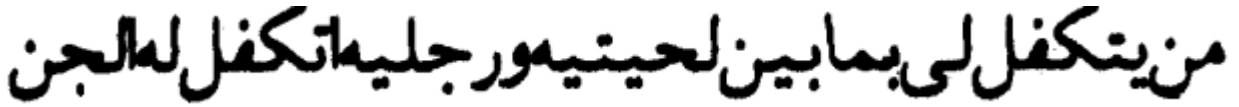
、 *ハディース* 徴収 *アブ・マンスール・アド・デイラミ* 預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威により[神が彼を喜ばれますように])

ウクバ・ビン・アミール(神が彼を喜ばれますように)は、私が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねたと言いました。 彼は言った:

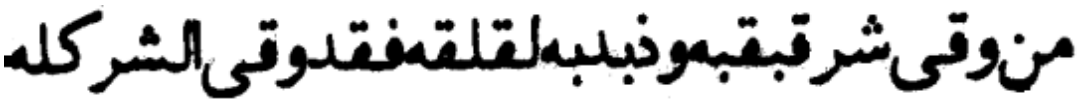


「自分の舌を守り、コントロールしてください。あなたの家はあなたにとって十分であり、あなたの過ちや不正行為に涙を流してください。」 (この伝統は、 *ハディース* コレクション *ティルミディ*)

サール・ビン・サード・アル・サーディは、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から次のように語っています。



「両耳(舌)と両足の間にあるもの(陰部)の貞操を私に保証する者、私はそのような者に楽園を保証します。」 (この伝統は、 *ハディース* コレクション *Sahih Bukhari*)



「胃、陰部、舌の悪から身を守った人は、あらゆる種類の悪から守られ続けました。」 (この伝統は、 *ハディース集 アブ・マンスール・アッド・デイラミ* 預言者の仲間アナス・ビン・マリクの権威について [神が彼を喜ばれますように])

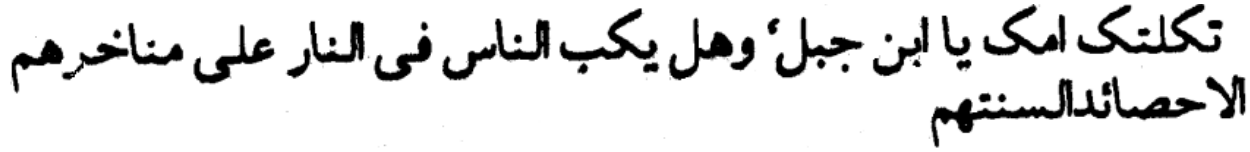
これらは3つの臓器です。その欲望は民の滅びをもたらす。 したがって、胃と陰部の欲望について詳しく説明した後、舌の[誤用]の害について詳しく説明する必要があることに気づきました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、人々が天国に行くことについて尋ねられました。 彼はこう答えた。

「神(*タクワ)に対する[敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏敬の念*]と美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*イクラク*)」

彼は「何が人々を地獄に導くのかも教えてください」と尋ねられました。 彼はこう答えた。

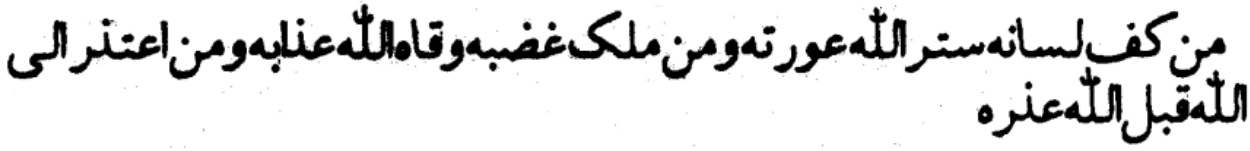
「口と陰部という2つの中空のせいです。」 (この伝統は、 *ハディースは、預言者の仲間であるアブ・フライラの権威に基づいて*ティルミディとイブン・マジャを集めています[神が彼を喜ばれますように])

この *ハディース* (預言的伝統)では、「口」は舌の住処であるため、舌の害を指すこともあり、胃を口として指すこともあります。 ムアド・ビン・ジャバル(神が彼を喜ばれますように)は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねました。 私たちが言うことに対しても説明責任が課せられるのでしょうか(それが何であれ、何かを言うだけでは大したことではないはずですから)?」 それに対して、彼はこう答えた。



「おお、イブン・ジャバルよ! あなたのお母さんがあなたのために泣いてくださいますように! 人々は舌の収穫を刈り取るために逆さまに地獄に入れられるでしょう。」 (この伝統は、 *ハディースは、預言者の仲間であるムアド・ビン・ジャバルの権威に基づいて*ティルミディ、ハキム、イブン・マジャを集めています[神が彼を喜ばれますように])

アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の言葉を語っています。



「[役に立たない邪悪な発言から]舌を止める者、神はそのような人の過ちを隠し、怒りをコントロールする者(たとえ人が正当化され、そうする権利があると感じているときでも、怒りを人々に発散したり激しく非難したりするのを)制御する者、神は[自分の悪行に対する]報復から人を守ってくださる。 彼は言い訳を受け入れます。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッ・ドゥニャ* 預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

イエス・キリスト(神の祝福と平安あれ)は、人を天国に導く行動を知らせるように求められました。 彼は「絶対に話さないでください」と答えた。 質問者は「それは不可能だ」と答えた。 そして彼は、「話す必要があるなら、良いこと以外は何も言わないでください」と言いました。 ベドウィン(遊牧民の砂漠のアラビア人)が預言者ムハンマド

(神の祝福と平安あれ)のところに来て、天国に通じる行動について尋ねました。 彼はこう答えた。

اطعم الجائع واسق الظمان وامر بالمعروف وانه عن المنكر فان لم تطق فكف لسانك الا من خير

「飢えた人に食事を与え、喉の渇いた人に水を与え、正しいことを命令し、悪を勧めなさい。それができないなら、舌が善以外のことを言うのを止めなさい」。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニヤ*)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

اذا رأيتم المؤمن صموتا وقورا فادنوا منه فانه يلقن الحكمة

「信者が静かで威厳があるのを見ると、そのような人が知恵を[神に]教えられているので、近づきなさい」。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・マジャ* 預言者仲間アブ・カラドの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

イエス・キリスト(神の祝福と平安あれ)はこう言われました。 9つは沈黙に関係し、1つは人々からの逃避に関連しています。」

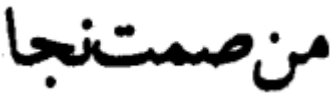
沈黙の優位性の理由: 話すことには多くの害があります。 間違い、嘘、陰口、話、誇示、淫ら、誇示、自己誇大、喧嘩、無駄な話、自画自賛、誇張、危害を加えること、人の欠点を引き出すなどの害は、他ならぬ舌に関係しています。 舌を動かすのに痛み、労力、疲れはありません。 代わりに、話すことには楽しさがあります。 自分の気質が人に話すように説得し、サタンもまた[心のほのめかしを通して]それを押し付けます。 [不必要に、そして過度に]話すことに慣れている人々は、機会があるかどうかにかかわらず、舌で話すのを止めることはめったにありません。 代わりに、彼らは結果に関係なく話し続けます。 それにもかかわらず、話すことには多くの危険があり、沈黙の中にあらゆる危険からの安全があります。 したがって、その優位性と卓越性ははるかに大きいです。 沈黙には数え切れないほどのメリットがあります。 勇気は集められ、思考は散らばらず、(沈黙の結果として)威厳を保ちます。 人には、熟考、神の記憶、崇拝の時間があります。 人は、この世で話すことの間違った結果と、来世におけるその説明責任を取り除きます。 神はこう言われました。

مَّا يَلْفِظُ مِن قَوْلٍ إِلَّا لَدَيْهِ رَقِيبٌ عَتِيدٌ

「人は、近くにいる監視者が[それを記録する]準備ができているような言葉を発しません(これは、すべての人間の近くにいる二人の天使のことを指します。一人はすべての

善行を書き留め、もう一人は自分のすべての悪行をその人に対する人間の行動のそれぞれの記録に書き留めます。 これらの登録簿は、その人に対する最終的な裁きのために、裁きの日に神の前に作成されます)」。 (クルアーン、第50章、18節)

ここには、沈黙を保つことの素晴らしさに関する優れた議論があります。 音声には4つのタイプがあります。 最初のタイプには害しかありません。 2番目のタイプには利点しかありません。 3番目のタイプには利点と害の両方があります。 4番目のタイプはどちらも利益も害もありません。 害を及ぼすだけのスピーチの種類に関する限り、それに近づかず、沈黙を保つことが不可欠です。 同じ指示が、害が利益を上回る場合、利益と害の両方を含む言論にも適用されます。 利益も害もないタイプは役に立たず、それにふけることは時間を無駄にすることであり、それは最高の損失であるため、それに対して沈黙したほうがよいでしょう。 現在、4番目のタイプだけが残っています[これは、利点しかないタイプです]。 こうすることで、品詞の4つのうち3つがなくなり、1つの部分だけが残り、その中に危険と害の可能性が存在します。 時には、誇示、人工、装飾、陰口、自己誇大、その他の悪が、話し手が気づかないような方法でスピーチに忍び込みます。 だからこそ、有益な話や会話をしている人でさえ、危険をもてあそんでいる人のようなものです。 舌に関連する害の機微を理解している人は、これに関連して、預言者ムハンマドの以下の言葉(彼に神の祝福と平安あれ)が、この主題に関する最終的な言葉の地位を保持していることを認めざるを得ないでしょう。

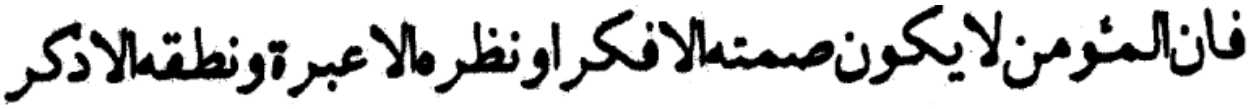


「沈黙を保った人は救い(神の許し、受容、親密さを達成するために不可欠な神の前での地位を含む、多くの危害や危険からの解放と保護)を達成しました。」 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *ティルミディ* 預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威により[神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、非常に意味のあることを一言で語る能力を[神に]授けられ、貴重な知恵の宝石を与えられました。 彼の祝福された舌から発せられるすべての言葉には、計り知れない意味と知恵の海が込められています。 この底知れぬ海の底から真珠を潜って摘み取ることは、選ばれた学者(神への畏れ、真実への絶対的な献身、そして魂の最大限の純粋さでそれに従う誠実さのために知識にしっかりと根付いている人々)の仕事だけです。 預言者の言葉の深い内なる知恵を理解することは、すべての人(学者であろうとなかろうと)の範囲内にあるわけではありません。

舌や言葉の誤用による害

舌の最初の害 – 無駄な話: 陰口、お話をする、嘘をつく、論争など、今述べたすべての害から自分の言葉を守り、許されることだけを言い、それを言っても話し手や聞き手に害を及ぼすことはありません。 舌によって発せられる許される無害なことの中には、発する必要がないものもあります。 これらは役に立たず、有益でないものです。 それらには時間の無駄だけでなく、来世の説明責任や、優れたものを置き去りにして劣ったものと交換する行為もあります。 これは、話し手が話す代わりに、神の存在(ダート)と神の資質(シファト)を熟考することに心と精神を傾けていたら、それは人にとってより良いものだったからです。 この熟考の結果として、神の祝福の扉が開かれ、心が拡大(明晰さ、照明、清らかさ)を受けた可能性が非常に高かったのです。 話す代わりに、神の栄光を讃え、神の神聖さと一体性を神の記憶の中で表現していたなら、それは人にとってより良いものだったでしょう。 たとえそのような言葉を一つ発したとしても、その結果として天に宮殿が建てられるほどの言葉がどれほどあるでしょうか。 宝物を手に入れることができるのに、代わりに石を集め始める人は、それは不幸以外に何と呼ばれるでしょうか? これは、神の記憶を放棄し、代わりに役に立たない有益でない行為に忙しくなる人の例です。 たとえそうすることで罪を犯していないとしても、莫大な利益を得られず、自分が従事している仕事が何の利益ももたらさないことは、より少ない損失でしょうか? 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

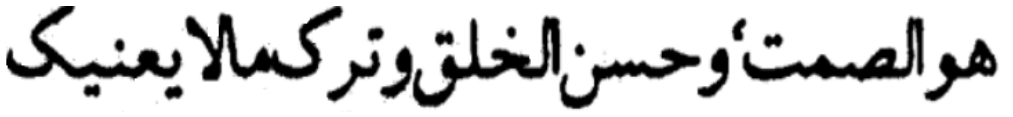


「信者の沈黙は熟考であり、視覚は教訓を導き出し、言葉は神の記憶です。」

個人の本当の資産は時間です。 もし人が無駄な努力に時間を使い、この資産を来世の貯蔵庫として保存しなかったとしたら、損失以外に何が得られるでしょうか? したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

「役に立たないものを放棄することは、自分のイスラム教の美しさの表れです。」 (この伝統は、 *ハディースは、預言者の仲間であるアブ・フライラの権威に基づいて*ティルミディとイブン・マジャを集めています[神が彼を喜ばれますように])

無駄なことをする人は、審判の日の責任を免れることができませんが、これも罰の一形態です。 アブ・ダール(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)が彼に尋ねたと語っています。 彼は答えました:「おお神の使徒よ! はい、教えてください」と語った。 彼はこう答えた。



「その[行為]は沈黙、善良な道徳、マナー、内面の気質であり、無駄な[行動や発言]を放棄することです。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニヤ*)

預言者の仲間であるイブン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「私が最も愛していることは5つあります。1つは、役に立たない、有益でない話をしないことです。なぜなら、それは不必要で余分であり、常に罪の危険があるからです。 第二に、たとえ誰かが有益な話をしたとしても、機会や機会なしに行われた有益な話でさえ、時には苦悩の源になることがあるので、まず有益な話の機会があるかどうかを確認する必要があるということです。 第三に、寛容な人と議論することは人を怒らせることであり、愚かな人と議論することは自分自身を苦痛にさらすことだからです。 第四に、自分自身が言及されたい方法で兄弟について言及すべきであるということです。 第五に、何をするにしても、この行為が善であれば報われるが、それが悪で悪であれば罰を受けるという確信を持って行うべきである」と述べています。 無駄な話はさまざまな理由で行われます。 話し手は、不必要なことを尋ねる欲を持っている場合もあれば、物事を広める習慣がある場合もあれば、聞き手を自分の方に引き寄せたい場合もあります。聞き手に恋をしていて、会話を長引かせて、聞き手を長い間自分自身に傾け続けることがあります。 時々、娯楽として(さまざまな人々についての)物語が語られることもあります。 これらすべての治療法は、人の前で死を考え、話されたすべての言葉に責任を負うと考えることです。 私の呼吸は私の財産であり、舌は[他の世俗的な利益という点で貴重なものを捕まえるための]私の網です。 自分の資産を無駄にし、ネットを未使用のままにしておく(または間違ったことに使用した)ことは賢明ではありません。 これは、無駄な話の知識ベースの治療法です。 それの実際的な治療法は、孤独を受け入れるか、時には有益な事柄からさえ舌を止めて、無駄なことを言わないことに慣れることです。

第二の害 – 過度の会話: 過度の会話も望ましくない行為です。 無駄な話だけでなく、必要性の限界を超えた有益な話も含まれます。 有益なスピーチは短くすることができます。 簡潔に話す能力があるにもかかわらず、1つの言葉ではなく2つの言葉を使う人は、たとえそれが罪がなくても、それが[公の場での]スピーチや強調として意図されていても、過剰な話し手とみなされます。 アタ・イブン・アビ・ラバ(聖人でありグノーシス主義者である神が彼に憐れみあれ)は言いました:「あなたの前には、無駄な話を嫌う人々がいました。 彼らにとって、神の書、預言者の道、正しい悪を勧め、悪を禁じること、そして最も重要な世俗的なニーズに関連する話を除いて、彼らは他のすべての話を過剰だと考えました。」 どの話や会話が過剰で、どれが不要なのかは限界がないので見分けがつかない。 しかし、クルアーンは、神が言われるように、有益で必要な話に限界を設けています。

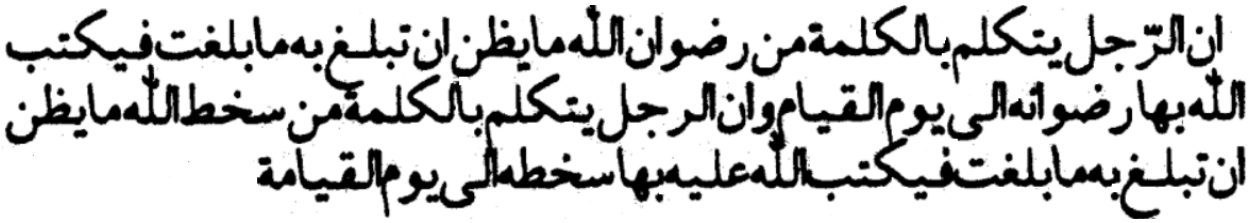
لَّا خَيْرَ فِي كَثِيرٍ مِّن نَّجْوَىٰهُمْ إِلَّا مَنْ أَمَرَ بِصَدَقَةٍ أَوْ مَعْرُوفٍ أَوْ إِصْلَاحٍ بَيْنَ ٱلنَّاسِ

「一般の人々の議論のほとんどには何の意味もありません。 しかし、他人を説得して慈善をしたり、正しい行いをしたり、人々の間に相互の和解と改革をもたらす人もいます。」 (クルアーン、第4章、114節)

千の注意を払って誰かを褒めるときも、事実に反して誇張された言葉が口から出てくることがあります。 たとえその賛美が事実であっても、サタンが不必要なことを言わせる危険性があります。 ムジャヒド(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「人間が発するすべての[単一の]言葉は、父親が息子に特定のものを買うと言った範囲で書き留められ、記録されます。それは実際にそうする意図ではなく、彼にとって嘘として記録されるでしょう。」 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)は言いました。 あなたの証書の登録簿が開かれ、そこにあなたの証書を書き留めるために二人の天使が任命されました。 今、あなたが何をしたいかは、あなたが多かれ少なかれ、あなたのすべての行為が記録され、審判の日には、この行為の登録簿は、あなたに有利か不利かにかかわらず、大きな証拠となるでしょう。」 伝承によると、預言者ソロモン(神の祝福と平安あれ)は、ジンの一人をどこかに送り、他の数人のジンを後ろに送り、彼がどこへ行き、何をしたのかを知らせました。 彼らは戻ってきて、市場に行き、そこに着いた後、空を見つめ、下の人間を見たと言いました。 それから彼は首を横に振って前に進みました。 預言者ソロモンはこれに驚いて、それについて尋ねました。 彼は答えた:「天使たちが頭の上に座りながら人間の行為をどれほど早く書き留めるかに驚きました。そして、人間がいかに早く[誤りに]導かれてしまうかに驚きました」。 イブラヒム・タイヤミ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「信者は、それが自分にとって有益か有害かを話す前に見ます。 人はそれが有益である場合にのみ話し、そうでなければ沈黙を保ち、悪と罪に傾倒している人は何も考えずに話します。」 賢者は「集まりで話すのが好きなら沈黙をとるべきであり、沈黙するのが好きなら話すべきだ」と言いました。 ザイド・イブン・アビ・ハビブ(神が彼に憐れみあれ)は言った:「学者にとっての試練は、聞くことと比較して話すことにあります。なぜなら、人は[真実の]省略、[私利私欲を念頭に置いて]説得し、スピーチの装飾(装飾)の危険にさらされる可能性があるからです。」 イブラヒム・ビン・アダム(神が彼に憐れみあれ)は、「人間は富と言論の過剰によって破壊される」と言いました。

第三の害 – 間違っていることについて言及する: 間違っていることは、罪に関連する話と呼ばれます。 たとえば、異性の美しさや身体的特徴についての[話や会話]、ロマンチックな物語を語り、罪の集まり、裕福な人々の行き過ぎ、支配者の悪行を描写し、これらすべての事柄は間違っており、それらに耽溺することは禁じられています(ハラム)。 不必要な話は[神の法則では]禁止されているわけではなく、嫌われているだけで推奨されていませんし、同様に過度の話も禁止されていませんが、嫌われていますが、邪悪な話は禁止の範囲内にあります。 しかし、不必要な話題をたくさん話す人は、間違った話に耽溺しそうだと言えます[したがって、それは避けたほうがいい]。 今日の娯楽トー

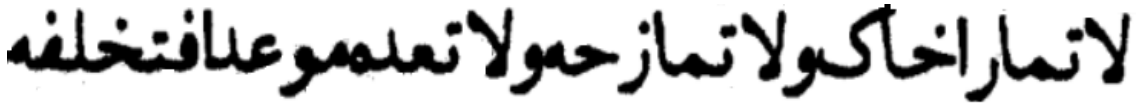
クは特別な趣味であり、人々はそのために特別な集まりを手配します。 これらの集まりのトピックは、何かが間違っている、誰かが嘲笑される、誰かの過ちが暴露される、誰かの過ちが捜索される、誰かが陰謀を企てるなどです。 実際、そのような集まりには罪がないわけではありません。 これらは非常に多くの種類の罪であるため、列挙するのは簡単ではありません。 それらを取り除く方法は、話し合いや会話において、宗教的(および霊的闘争に関連する)問題や必要な世俗的なニーズに自分自身を限定することです。 邪悪な事柄について言及することは危険な命題であり、それに慣れる人は、たとえそれを些細なことだと考え、その危険性に気づいて理解していないとしても、破壊されてしまいます。 しかし、審判の日には、些細なこととみなされた罪が、その人に多くの破壊をもたらしたことが明らかになります。 ビラル・ビン・アル・ハルト(神が彼に喜ばれますように)、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から語られています:



「人は神を喜ばせる言葉を言い、そこではそこから重要な神の承認を受けていないかもしれないと考えます。しかし、神は裁きの日までその言葉に対する神の承認を書かれました。 時々、人は神を不快に思う言葉を言い、神はそれを不快に思わないだろうと思っていますが、その一言のせいで、神は裁きの日まで神の不快を書きます。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・マジャ と ティルミディ*)

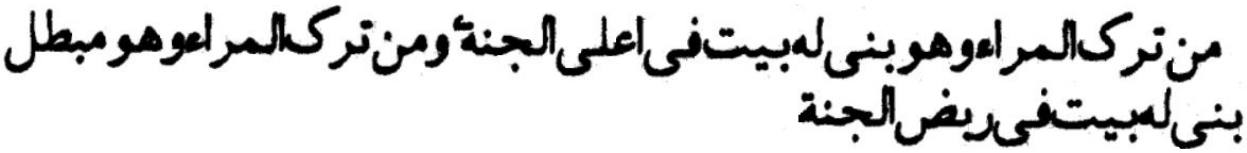
邪悪で間違った話は、陰口、物語、欠点探しとは別のタイプであり、禁止事項について言及することを扱っており、そうする宗教的な必要性はありません。 これには、(宗教問題における)革新への言及、逸脱したイデオロギーへの言及、さらには預言者同伴者間の相互の違いへの言及(不和をまき散らし、宗派主義を促進するために行われる)ことさえ含まれます。

第四の害 – 人々の会話を遮断し、議論する: 人々が話しているときに話を切ることは禁じられています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「兄弟が話しているときに)手錠をかけたり、失礼な冗談を言ったり、守れない約束をしたりしないでください。」 (この伝統は、 *預言者の仲間アブドゥッラー・イブン・アッバースの権威に基づくハディース集ティルミディ* [神が彼を喜ばれますように])

「会話を断ち切るのはやめてください。なぜなら、会話には理解できる知恵がなく、その害から遠ざかることもできないからです。」 (この伝統は、 *ハディース集 タバラニ* 預言者の仲間アブ・ダルダの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])



「正しい(または真実の側に立っている)間、人々の会話を遮断して去る人は、そのような人のために天国の最高レベルに家が建てられるでしょう。そして、間違っている(または虚偽の側に立っている)人々の会話を遮断して去る人は、そのような人のために天の真ん中に家が建てられるでしょう。」

国々は、論争[と議論]のために[神の]導きの光を受けた後、誤った方向に導かれてきたと言われています。 アナス・ビン・マリク(神が彼を喜ばれますように)は、「人々との会話や論争を断ち切ると心が硬くなり、そのために敵意の種が心に植えられる」と言いました。 ビラル・ビン・サード(神が彼を喜ばれますように)は、「独断的で、喧嘩好きで、自分の意見にこだわる人を見たら、そのような人は来世を失う運命にあることを知ってください」と言いました。 アブ・アル・ダルダ(神が彼を喜ばれますように)は、「常に人々と喧嘩したり論争したりするだけで、そのような人は罪人になるのに十分です」と言いました。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「三つのことについて知識を習得したり、三つのことのために知識を得るのを妨げたりしてはなりません。 知識を身につけてはいけない3つのことは、論争(そして人々との議論)、プライド、そして誇示です。 知識を得るのをやめてはいけない3つのことは、知識を求めることの恥ずかしさ、知識を得ることを控えること、そして無知に満足することです。」 イエス・キリスト(神の祝福と平安あれ)は、「嘘をつく人は、自分の美しさが終わりに近づいていることに気づき、人々とよく議論する人は、自分の尊厳が傷つくことに気づき、心配する人は病気になり、道徳とマナーが悪い人は、神の罰に巻き込まれる」と言われました。

人を切り離すことの定義: その定義は、誰かの会話に欠点を見つけ、その欠点が言葉、意味、意図にあるかどうかにかかわらず、それに基づいてそれに異議を唱えることです。 この点で、どんな会話を聞いても、それが真実であればその真実を証明し、間違っている場合は、宗教的な問題でない限り、黙っていなければならないことを心に留めておく必要があります。 単語の誤りは、単語が文法規則に反しており、単語の伝達において正しい単語の順序に従っていないことを話者に伝えることによって発見されます。 このような言葉の間違いは、さまざまな理由で発生します。 時には、人々はその言

語にあまり慣れていないとき、あることを言いたいのに別のことが口から出てくることもあります。言葉の間違いの理由が何であれ、批判を正当化する理由はありません。言葉の意味は、「あなたはこんなやこれや間違ったことを言った、あなたはこんな意見を間違えた、あなたの考えや意見は正しくない」などと言うことで反論の対象になります。 意図は、「あなたが言っていることは事実に基づいていますが、あなたの意図は事実の表現ではなく、むしろ別のものです」と言うことによって批判されます。 そのような場合、沈黙を保つことが義務付けられています。 しかし、質問の目的が知識と利益の獲得であり、敵意と批判の機会を見つけることではないのであれば、それは何も悪いことではありません。 議論の目的は、相手を沈黙させ、相手の無知、欠点、欠点を発表して、屈辱を受け、人々がそのような人を嘲笑することです。 [そのような邪悪な目的の]兆候は、もし異議申し立てが真実のためであるならば、他の適切な方法を使用する代わりに、相手を侮辱し、自分の優位性が自分よりも表現される方法を採用しているということです。

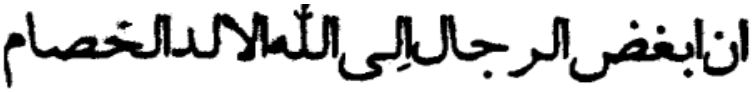
論争から遠ざかり、会話を断ち切る方法: 両方から身を守る方法は、許される事柄でも沈黙を保つことです。 この二つの悪は、相手を卑下し、自分の優位性を確立しようとする目的のために生まれる。 これらは、コントロールするのが難しい低次の自己の欲望の 2 つです。 自分の優越感の表現は独善のカテゴリーに属し、それは自分自身を高く偉大だと考える反応です。 しかし、力と偉大さは神のみの属性であり、神だけにふさわしいものです。 同様に、誰かを欠陥があり、卑しいと見なすことは、野獣が他の獣を引き裂いて傷つけるのが好きなので、動物的な気質を持っていることを示しています。 これら 2 つの邪悪な性質は非常に非難され、有害です。 議論したり、会話を断ち切ったりすることは、これらの[卑劣で否定的な]性質を助長します。 論争の的となる議論や批判にふけり続ける人は、これら 2 つの破壊的な内面の資質に成長のための栄養を提供し続けるでしょう。 争いと人々の会話を断つことは、どちらも忌まわしい範囲を超えており、むしろそのために他人が傷ついた場合、どちらも罪です。 議論の余地のある議論や批判に関する限り、痛みを引き起こさないとは誰も言えません。 口論された人は激怒し、同じように応えようとし、二人とも犬のように喧嘩を始めます。 それぞれが、頭を上げることさえできないほど、相手を傷つけ、屈辱を与えたり、人々が相手の知性の欠如を確信したりできないほどの反応をしたいと考えています。 これは病気であり、その治療法は、優越感を持つように導く傲慢さと、それを表現する大胆さを根絶することであり、同様に、この獣のような感情は、他人を見下ろすように刺激するものを粉砕することができます。

その治療法の詳細については、傲慢さと自惚れの非難に関する章(第10章)で説明します。 ここでは、その病気の原因を取り除くことで、どんな病気も治すことができると言われるのはこれだけだ。 人々の会話を断ち切って論争をする理由は、傲慢さ、プライド、獣性です。 これらの原因を取り除かない限り、病気は治りません。 何かを連続して行うと、それが習慣化され、第二の天性になり、それを取り除くことが難しくなりま

す。 イマーム・アブ・ハニファ(神が彼に憐れみあれ)は、ダウド・アル・タイ(神が彼に憐れみあれ)に、隠遁と孤独の理由を尋ねました。 彼は「私は孤独にとどまるので、他の人と戦わないという闘いをすることができます」と答えた。 イマーム・アブ・ハニファは、「これは精神的な闘争ではなく、人々の集まりに行き、彼らの話に耳を傾け、沈黙を保つことである」と述べた。 ダウド・アル・タイは、それに基づいて行動し、これほど懸命に努力する精神的な努力は他にないと感じたと語った。 これは現実でもあり、特に自分の間違いを正すことができる場合、誰かが間違ったことを言うのを聞いて黙っていることは非常に難しいです。 だからこそ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、真実と正しいことを知り、間違ったことについて沈黙を保つことは自分自身にとって非常に難しいため、正しい真実にいる人に天の喜ばしい知らせを与えました。 特に、正しいことを表現したいという欲求は、宗教や信条に関する事柄において支配的です。 議論はすでに人の気質の一部であり、正しい信念を示すことで神からの報酬があると思うと、心はその神の報酬と報いに貪欲になります。 このようにして、神の法と人の気質の両方が、これらの論争の的となる議論を助けます。 しかし、これらの議論や議論が神の報酬の源であると考えること自体が間違いです。

人間にとって、仲間の宗教家に何も言わない方が良いです。[ビダとしても知られる宗教問題において]革新に関与している人を見つけたら、そのような人を私的に諭すべきです(憤りや頑固さにつながる公の場でそれを行うのとは対照的に)。 公の場での討論会は、あらゆる信仰や信念を持つ人々が、それぞれの信仰の真実性を証明し、反対者を沈黙させることに成功したと考えるために、公の場での討論を標準として受け止めるでしょう。 そうすることで、(宗教的な事柄における)革新を[あきらめるのではなく]心にしっかりと根付くでしょう。 もし、アドバイスが革新に携わっている人の心に望ましい効果をもたらさず、そのような人には真理を受け入れる能力が残っていないとわかったら、人は自分自身の改革に忙しく、相手を放っておくべきです。 議論に慣れている人、そして人々はそのような人を賞賛し、尊敬と名誉を持って見ます、そして、これらの破壊的な内面の性質は人の心にしっかりと根付き、強化され、それらを取り除くのは非常に困難になります。 したがって、誰かの心の中に、怒り、傲慢、誇示、独善、支配欲などの内なる悪徳が蓄積されると、それらと闘うことは非常に困難になります。 そのような性質の1つと闘うことは困難であり、それらすべてと一緒に闘わなければならないことがどれほど難しいかは想像できます。

第五の害 – 敵意と敵意: これも非難されるべき[内面の]特性です。 敵意や敵意も論争の余地がありますが、その目的は誰かの財産や権利を奪うことです。 伝統は、この卑劣な内面の特徴や性質を非難してきました。 アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。



「神の目から見ると、人々の中で最悪なのは、喧嘩好きで敵意や敵意に陥りやすい人です。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション Sahih Bukhari*)

ある賢者は、「敵対行為や敵意は神(ディーン)への道を破壊するので避けなさい」と言いました。 神を畏れ、敬虔な人は他人と喧嘩しないと言われています。 バシャール・イブン・アブドゥッラー(神が彼に憐れみあれ)は言った:「敵対行為と敵意ほど悪いものはありません。 それは人の信仰と神への道を破壊し、人の品位と尊厳を傷つけ、人生の喜びを終わらせ、心は神の記憶と熟考に従事する代わりに、敵対行為と敵意の心配に囚われます。」 ここで言えるのは、誰かがそれを与えようとしない別の人のために権利を持っているなら、それを得るために努力すべきだと言えます。 非難されるべき紛争または敵意とは、虚偽に基づくもの、または知識なしに行われたものであり、たとえば、弁護士が真実がどこにあるかを知らずに当事者を支援し始めます。 同様に、その紛争や敵意も、自分の正当な権利が要求されるが、それに落ち着かず、目的が自分の権利の達成ではなく、相手に危害を加えることであるため、最大の敵意と敵意を示す非難の対象となります。 その論争や敵意は、自分の権利を表現し、自分の主張を強化するために必要ではないにもかかわらず、傷つける言葉を使用することを含む非難の対象となります。 その争いや敵意も、表向きは自分の権利を得るためのものだが、実際には相手に対する屈辱と侮辱であり、その原動力は恨みと敵意である非難の対象である。 そのような紛争や敵意の行為はすべて非難されるべきです。 抑圧された人が、敵意、誇張、恨み、危害を加えたいという願望を持たずに、神の法の道に従って自分の主張を明確にするなら、自分の権利を得る他の方法がなければ、これは禁止されません。 争うことなく自分の権利を獲得できるのであれば、その道を歩まない方が良いです。 それは、議論において、舌を節度の範囲内に収めることが難しいからです。 さらに、議論は心に恨みを生み、怒りの火が強まり、怒っているとき、神の法則に従うことは期待できません。 紛争の最中に、その理性が心から消え、請求者の心に残された唯一の目的は、相手を打ち負かし、それを達成するためにあらゆる可能な手段と戦術を採用することです。 彼らはお互いに苦痛を与え、お互いの尊厳を打ち砕くことに満足しています。 論争を始めたのは、これらすべての犯罪を犯した人です。 細心の注意を払えば、これらの犯罪から遠ざかることは可能ですが、心を平和に保つことは非常に困難になります。 争いが続く限り、心は[神に]祈る時も何とか相手を服従させようという考えをするほど心配するでしょう。 論争は混乱と悪を扇動します。 議論や議論はどちらも悪を生み出すため、同じ状態です。 舌と心の両方が紛争の影響や影響から守られるように、悪の扉を閉めたほうがいいですが、これは難しい問題です。

議論、論争、議論の最も悪いことは、お互いに会話する美しさは美しい共存の重要な要素であり、神の報いに値するにもかかわらず、お互いにうまく話す伝統が終わることです。 神はクルアーンの中でこう言われています。

وَقُولُواْ لِلنَّاسِ حُسْنًا

「そして、美しい方法で[すべての]人々と話します。」 (クルアーン、第2章、83節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「もし神の創造物の誰かがあなたに挨拶と挨拶(*サラーム*)を捧げるなら、たとえその人がマギアンであっても、あなたもその挨拶と挨拶を返すべきです。 それは神がクルアーンでこう言われているからです。

وَإِذَا حُيِّيتُم بِتَحِيَّةٍ فَحَيُّواْ بِأَحْسَنَ مِنْهَآ

『誰かが挨拶と挨拶であなたに挨拶するとき、あなたは[また]その挨拶と挨拶をさらに良い言葉で返すべきです。」 (クルアーン、第4章、86節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)も、「ファラオが私に良いことを言っても、私も彼に良いことを返します」と言いました。

アナス・ビン・マリク(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

ان فی الجنۃ لغرفا یری ظاھرھا من باطنھا وباطنھا من ظاھرھا اعدھا اللہ تعالٰی لمن اطعم الطعام والان الکلام

「天国には、外から見た内側の眺めと内側から見た外の眺めが非常にはっきりと見える住居があります。 神は、[すべての人、特に困っている人に]食べ物を提供し、[すべての人々との]会話に柔らかさを採用する人々のために、そのような家を用意してくださいました。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション ティルミディ*)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)もこう言いました。

الکلمۃ الطیبۃ صدقۃ

「良い言葉とは、(神の道における)慈善です。」 (この伝統は、 *ハディース 徴収 サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブ・フライラの権威に基づいて[神が彼を喜ばれますように])

[他者と]良い会話をするのにケチを行使すべきではありません。 おそらく、神はそうすることで神の報いを与えるかもしれません。 この議論はすべて、喧嘩、論争、議論とは正反対の美しいスピーチと会話をすることであり、これら 3 つのカテゴリーの話はすべて嫌われ、苦痛で、扇動的です。 神が私たちが良い会話で人々を扱い、邪悪な会話から遠ざかることができるようにしますように。

6番目の害 – スピーチにおける装飾と人工性: 人前で話すことを志す人の多くは、自分の話を装飾する習慣があります。 彼らは長い導入部と冒頭を工夫し、韻や大きな言葉で装飾します。 この人工性と装飾は非難されるべきです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の預言的なナレーションには次のように書かれています。

انا واتقياء امتي براء من التكلف

「私と私の国の神を恐れる人々は、(言葉の)人工性や装飾から遠く離れています。」

別の伝統では、彼はこう言いました。

ان ابغضكم الي و ابعدكم مني مجلسا الثرثارون المتفيهقون المتشدقون في الكلام

「あなた方の中で、私(預言的な方法)から最も悪く、最も遠いのは、軽薄な話し方、過剰な話し方、言葉の装飾[および人工性]を採用する人々です。」 (この伝統は、 *ハディース コレクション ムスナド・アーメド*そして *ティルミディ* 預言者の仲間アブ・タラバの権威により[神が彼を喜ばれますように])

ファティマ(預言者の娘である神が彼女を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと言いました。

شرار امتي الذين غذو بالنعيم يأكلون الوان الطعام ويلبسون الوان الثياب و يتشدقون في الكلام

「私の国[または信者](ウンマ)の中で最悪の人々は、快適さと贅沢の中で育ち、あらゆる種類の食べ物を食べ、あらゆる種類のドレスを着て(目立った消費に耽溺していることの表れです)、会話に装飾と人工性を採用している人々です。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アド・ドゥニャとバイハキ・フィ・アル・シュアブ*)

あるとき、彼はそれを3回繰り返しました。

واهلك المتنطعون

「気をつけて! 誇張は台無しです。」 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブドゥッラー・イブン・マスードの権威により[神が彼を喜ばれますように])

会話は、聞き手が理解できるようなものでなければなりません。 会話やスピーチの目的は、他の人に理解させることであり、それ以外は役に立たず、神の法が非難した人工性と不自然さなどに含まれています。 しかし、宗教的な説教で一般的な韻は、過剰や誇張がないことを条件に免除されます。 説教と訓戒からの説教者の目的は、聞き手が

心の中で、正しい行いをしたいという動機と願望に火をつけることです。 この点で、言葉の効果は否定できません。 しかし、一般的な会話では、重み(言葉)、韻、暗示、意味合いは必要ありません。 だからこそ、日常の会話で説教スタイルを採用することは、まったくの無知です。 この人工性と不自然さのきっかけは、誇示(リヤ)であり、この災難に巻き込まれた人は、人々が自分の雄弁さや雄弁さに感銘を受け、そのような人に対する賞賛を表明することを望んでいます。

第七の害 – 淫らさ、下品さ、わいせつな呪い: これも [神の律法では] 非難され、禁じられています。 淫らと猥褻の起源は、内なる悪と卑さです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

اياكم والفحش فان الله تعالى لا يحب الفحش ولا التفحش

「淫らさや下品さから身を守りなさい。 神は、わいせつ、下品、わいせつを好まないのは間違いありません。」 (この伝統は、 ハディースは、*予言者の仲間であるアブドゥッラー・ビン・ウマルの権威に基づいて*ナサイとハキムを集めています[神が彼を喜ばれますように])

別の伝統では、彼はこう言いました。

ليس المؤمن بالطعان ولا اللعان ولا الفاحش ولا البذى

「過ち発見者、天罰の実行者、淫らで卑猥な話し方、過度の話し方は信者にはなれません。」 (この伝統は、 預*言者の仲間アブドゥッラー・ビン・マスードの権威に基づく*ハディース*集ティルミディ*[神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)もこう言いました。

الجنة حرام على كل فاحش يدخلها

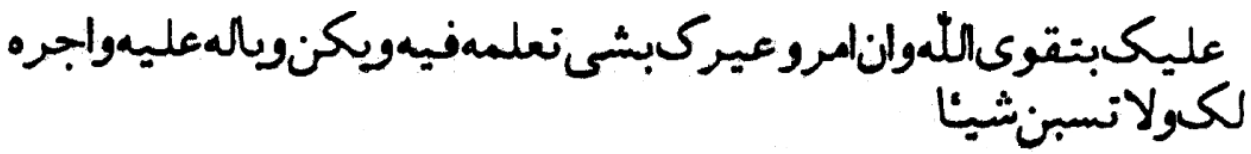
「すべての卑猥な話をする人は天国に入ることを禁じられています」。 (この伝統は、*ハディース* 徴収 *イブン・アビ・アド・ドゥニャ* 預言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威により[神が彼を喜ばれますように])

アフナフ・ビン・カイス(神が彼に憐れみあれ)は言いました。 それはスケベとマナーの悪さ、道徳と内面の気質です」。

恥ずべきことを露骨に言及することは、卑猥で下品です。 たとえば、陰部の名前を取り、交尾に関連する事項を説明します。 性格が悪く、騒ぎをまき散らす傾向がある人は(たとえそれが道徳、礼儀正しさ、一般的な人間の良識に関連する問題であっても)、それに関連する露骨で卑猥な表現を開発し、ためらいや恥ずかしさなくそれらを使用し

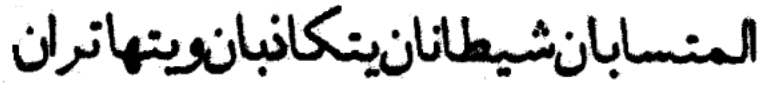
ますが、敬虔で気さくな人はそのような表現を使わないように身を守ります。 代わりに、そのような問題(正当な必要性のために言及する必要がある)では、彼らはほのめかしや曖昧な言葉で話します。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「神は内気さを持っています。 彼は慈悲深く、罪を赦し、ほのめかしで[本質的に露骨なこと]について言及します。」 したがって、クルアーンは交尾を伴う接触を意味します。 「来る」、「触れる」、「交際」などの言葉は交尾をほのめかしています[夫婦関係に関連する規則を説明するコーランで使用されています]。 それらにはスケベさや猥褻さはありません。

人々は「交尾」に自制せず、代わりにそれを解釈し、暗示するために、聞いているだけで恥ずかしいような表現や言葉を発明し、反発感や嫌悪感を引き起こしました。 これらの言葉の中には、他の言葉よりも下品ではないものもあります。 この点で、習慣は国や地域によって異なります。 いずれにせよ、下品でわいせつな言葉の程度が低いものは嫌われ(*Makruh*)、極端な程度は禁止されています(*Haram*)。 2つの程度の間の言葉は、(神聖な律法で嫌われている、または禁止されているという点で)疑いの余地がないわけではありません。 これらの言葉は交尾だけに関連するものではなく、性質の悪い人々は、交尾とは関係のない言葉でも猥褻な言葉を吐きます。 人間の排泄物に関連する言葉はこの性質のものであり、明示的に使用すべきではありません。 同様に、ハンセン病、皮膚疾患などの欠陥、または何らかの病気を患っている人がいる場合、それは明示的に言及されるのではなく、ほのめかしによって言及されるべきです。 病気について明示的に言及することはわいせつであり(特に病気に苦しんでいる人がそれを開示したり言及したりすることを好まない場合)、舌の害の中に含まれます。 卑猥で下品な話のきっかけは、習慣[長い間実践した後に心に染み込む]と、淫らで下品なことに慣れている罪と不道徳の人々との付き合いの両方です。 あるベドウィンが預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところに来てアドバイスを求めたところ、こう答えた。



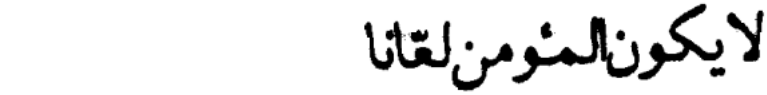
「神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏怖を持ち続けてください。 誰かがあなたの中に何か[悪い]ことに気づき、あなたを非難するなら、あなたはそのようなものに何か[悪い]ものを見た後、その見返りにその人を非難すべきではありません。 【このように行動すると】責任はそのような人に残り、あなたは神の報酬を得るでしょう[あなたの忍耐、自制、そして現物で報復しないことに対して]、またあなたは何も[または誰か]を呪ってはいけません。」 (この伝統は、*ハディースは、予言者の仲間であるアブ・ジャリ・アン・ナジーミの権威に基づいて*イブン・アフマドとタバラニを集めています[神が彼を喜ばれますように])

ベドウィンは「このアドバイスの後、私は悪いことを決して言わなかった」と言いました。 アヤド・ビン・ハマール(神が彼を喜ばれますように)は尋ねました。私より地位が低い人(社会階層化において)私を呪う人、私がそのような人に報復しても害はありませんか」。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は答えました。



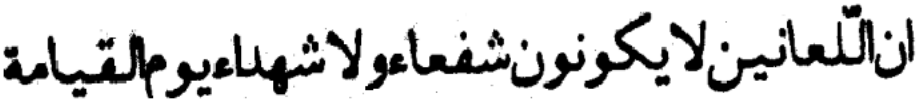
「虐待者(虐待を開始した一方と、同様に報復するもう一方)は、お互いを改ざんし、反論し、お互いに対する中傷を仕掛ける二人の悪魔です。」 (この伝統は、 *ハディース集ア ブ・ダウド・タヤリシと ムスナド・アフマド*)

第八の害 – 神の慈悲の断絶を願う (*ラナ*): 神の慈悲 (ラナ) からの断絶を願う [その結果、四方八方から災難が降り注ぐ] それが人間、動物、石のいずれであっても、非難されるべきです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「信者はラナ(神の慈悲からの切り離しを望む)*を実践する人ではありません* 。」 (この伝統は、 預*言者の仲間アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威に関するハディース集 ティルミディ*[神が彼を喜ばれますように])

フダイファ(神が彼を喜ばれますように)は、「お互いに神の慈悲からの断絶を望んでいた国は、神の報復に値するようになった」と言いました。 ある伝承では、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「[習慣的に][他人]が神の憐れみから切り離されることを望む人々は、審判の日にとりなし者でも証人でもありません。」 (この伝統は、 *ハディース集 サヒー・ムスリム* 預言者の仲間アブ・アル・ダルダの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

ラナ*の意味は* 、人を神から遠ざけ、遠ざけることです。 この言葉を使うのは、不信仰や抑圧など、神から遠ざかる資質を持っている人に当てはまります。 その場合、「神の呪い(*ラナ*)が抑圧者に降り注いでいますように」、「神の呪いが真実を拒否する者(虚偽の側に立つ者)に降り注いでいますように」などと言うことは許されます。 誰かが神の憐れみから遠ざかったり、遠ざかったりすることを願うことには危険があります。 これはデリケートな状態であり、神が誰かから親密さを奪ったと主張することは、神以外に誰も気づいていない隠された領域の問題であり、神が預言者[ムハンマド](神の祝福

と平安あれ)に知らせるなら、彼も気づくことができます。 神の憐れみからの距離と剥奪を生み出す特質は、不信仰(*Kufr*)、確立された宗教的原則と教えの革新(余談)(*Bid'a*)、そしてあからさまな罪(*Fisq*)の3つです。 特定の罪人が神の憐れみから奪われることを望むことは、大きな混乱と危険があるため、許されません。 サタンは人々を悪に扇動する者であり、彼を呪うことに害はないので、誰かが罪にふけっているのを見た後、サタンが神の慈悲から奪われることを祈る方が良いでしょう。 預*言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったように、適切な調査なしに不*信仰(Kufr*)とあからさまな罪*(Fisq)をイスラム教徒に帰することは間違っています。

لا يرمي رجل رجلا بالكفر ولا يرميه بالفسق الا ارتدت عليه ان لم يكن صاحبه كذلك

「もし人が誰かを不信仰で告発し、その人がそうでなければ、この不信仰と罪の告発は告発者に戻ってくるでしょう。」 (この伝統は、 *ハディースは*、預言者の仲間アブ・ダールの権威に基づいて*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*を収集しています[神が彼を喜ばれますように])

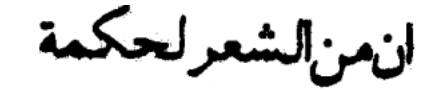
アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「神は習慣的に人々を大量に呪う人を強く嫌われる」と言いました。 神に危害を加えるために祈り、嘆願することは、神の慈悲(ラナ)の断絶を願うことに近いです。 また、抑圧者について、神がそのような人を病気にしたり、病気から健康を与えなかったり、そのような人を死に至らしめたりすると言うのも良くありません。 *ハディース*[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の伝承]は次のように述べています。

ان المظلوم ليدعو على الظالم حتى يكافئه ثم يبقى للظالم عنده فضلة يوم القيامة

「抑圧された人は、抑圧者を傷つけるための嘆願をすることで復讐します。そうすれば、裁きの日には、抑圧者に過剰なものだけが残されます。

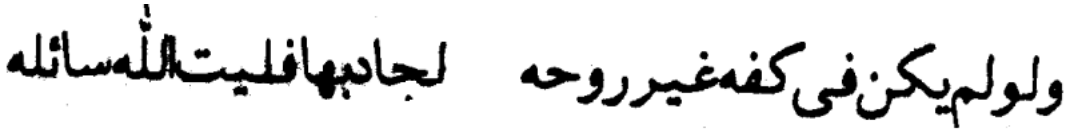
Ninth Harm – 音楽と詩: このトピックは、献身的なリサイタルとスピリチュアルなエクスタシーの本 (*Kitab Adab us-Sama' wa al-Wajd - ガザリの最高傑作「*Ihya al-Uloom ad-Deen」または「神への道の知識の復活」*の第 2 巻または四分の一の 8 番目の本*。ガザリの最高傑作の第1巻[神の崇拝の行為とその背後にある内なる知恵について]と第2巻[仲間の人間との社会的関係について]は、この本には含まれていません)どの音楽が許可され、どの音楽が許可されないか。 ここではその議論を繰り返す必要はありません。 詩に関する限り、良い詩(目的のある教育的な)詩は良い詩であり、悪い詩(人々を間違ったことやわいせつな行為に扇動する)は悪い詩です。 しかし、詩に専念して趣味に

するのは良くない。 あるグノーシス主義者は詩の一節について尋ねられ、彼は「詩を離れて、神の記憶(ディクル)に従事してください」と答えました。 それにもかかわらず、詩の詩を言ったり作ったりすることは(ハラムに)禁じられていません。 ただし、神の法の限界を超えるものがあってはならないという条件がなければならない。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



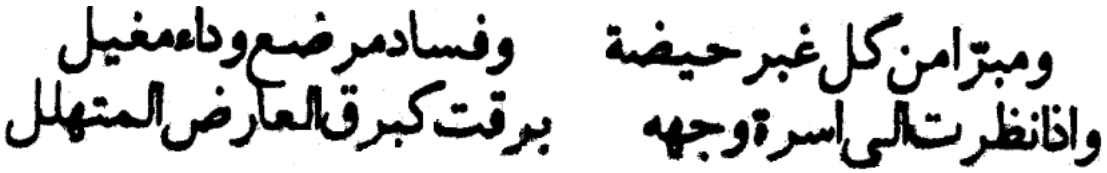
「間違いなく、詩のいくつかの詩は知恵に満ちています」。

詩の詩は通常、賞賛と非難のトピックで構成されています。 それらには嘘の大きな余地があります。 しかし、あからさまな非難も、あからさまな賞賛も嫌がらない。 賞賛には多少の緩みがあるため、多少の誇張はできます。 たとえば、これらのタイプの詩の詩は、*嘘が混ざり合っているため*、禁止されている(ハラム)と呼ぶことができます。



「もし彼が魂以外に何も持っていなかったら、それさえも使っていたでしょう。求める者は、神も畏れるべきです。」

この詩の詩で賞賛されている人が寛大でないのであれば、この詩はまったくの嘘です[神の律法によって禁止されています]。 しかし、賞賛されたものが実際に寛大であれば、この誇張は許容され、詩の詩の美しさと呼ばれるでしょう。 このような誇張された詩の詩は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の前で何度も朗読されましたが、彼はそれらを禁止しませんでした。 アイシャ(預言者の妻、神が彼女を喜ばれますように)は次のように語っています:「あるとき、彼女は車輪(綿やその他の繊維を紡ぐために使用される小型で持ち運び可能な手回し車輪)を回していて、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が靴を縫っていました。 目を上げて彼を見ると、額に汗のしずくが太陽の光に照らされてきらめき、星のように輝いているのが見えました。 私はその美しい光景に驚き、唖然としました。 彼は私が驚いて自分を見ているのを見て尋ねました。 なぜそんなに驚いた顔をしているのですか?」 私は言いました:『おお、神の預言者よ! 額についた汗の雫が星のようにキラキラと輝いています。 もしブ・カビール・フドリ(預言者以前の時代の有名なアラブの詩人)があなたを見ていたら、彼はあなたを彼の詩の詩の現れと呼んだでしょう。」 預言者(神の祝福と平安あれ)は尋ねました:「ブ・カビール・フドリは何と言っていますか?」 私は彼に次の2つの詩を話しました。



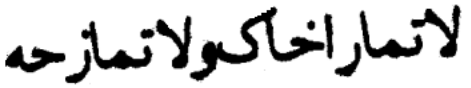
賞賛される人は、月経の不純さ、看護の弱さ、あらゆる病気の退廃から解放されます。

そのような人の顔の細部を見ると、雲の中の稲妻のようにまばゆいばかりです。

預言者(神の祝福と平安あれ)は、これらの詩的な詩を聞いたとき、仕事をやめ、私の額にキスをしてこう言いました。

「神があなたに良い報いを与えてくださいますように、おおアイシャ! 私が今この瞬間にあなたに満足しているほど、あなたは私に満足したことはなかったかもしれません』」と語った。 (この伝統は、 *ハディース コレクション Bayhaqi Dalail al-Nabuwwa*)

10番目の害–ユーモア: これも禁止され、嫌われていますが、少量であれば害はありません。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

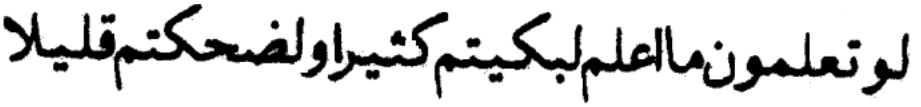


「兄の会話を切ったり、冗談を言ったりしないでください」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション ティルミディ*)

この点で、会話を遮断したり口を挟んだりすることを禁止する理由は、実際には会話している人への侮辱や不快感を含んでいるため、理にかなっていると異議を唱えることができますが、ユーモアでは誰にとっても侮辱や不快感はなく、それは心の良さと良い娯楽の表れです。 では、なぜ禁止されているのでしょうか? 答えは、娯楽を過剰にしたり、それを粘り強く続けたりすることも禁止されているということです[それは人生の目的に対する無注意と思いとどまらせにつながるため]。 忍耐の意味は、心がスポーツとユーモアに永遠に夢中になるということです。 スポーツは許されるが、それを忍耐することは禁じられている。 その過剰と誇張は笑いの増加を引き起こし、過剰な笑いは心の死を引き起こし、その人の威厳のある畏敬の念は[その結果]終わりを迎えます。 時には、そのために心に敵意が生まれることもあります。 笑いにこれらの傷がなければ、それは悪いことではありません。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

「私にはユーモアがありますが、真実以外には何もありません」。

ユーモアや娯楽の場でさえ、彼は自分の舌から真実だけを口にしたのが彼の特徴でした。 他の人々は、世俗性からの禁欲(*ズード*)と神への畏れ(*タクワ*)の程度がどれほど大きくても、ユーモアに足を踏み入れると嘘から身を守ることができません。 彼らの目的は、それがどのように行われるかに関係なく、人々を笑わせることです。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「もっと笑う人は、威厳のある畏敬の念を失います(*ハイバ*)。ユーモアにふける人は、人々の心の中で尊敬を失います。何かをたくさんする人は、それで認められます。よく話す人は、しばしば間違いを犯します。より多くの間違いを犯し、内気さと謙虚さを失う人(*ハヤ*)。内気さと謙虚さを失った人は、心の死を引き起こしました。さらに、過度の笑いは来世からの無頓着を示しています。」預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「私が知っていることを知れば、泣くことは増え、笑うことは減るでしょう」。 (この伝統は、*ハディースは*、予言者の仲間であるアナス・ビン・マリクの権威に基づいて*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*を集めています[神が彼を喜ばれますように])[彼がこれを言ったのは、神の完全な親密な者として、神のグノーシス、神の臨在、および関連する神が明らかにした事柄が彼の魂に重くのしかかっており、ユーモアの余地を残さなかったからです。 しかし、重大な事柄が彼の内面に重くのしかかっているにもかかわらず、彼は時々笑い、仲間の人間の利益のために外見上は人間の正常性を維持し、彼らのために神の道を照らし続けることができたのが彼の特徴でした。

アッタ・アル・スラミ(神が彼に憐れみあれ)は、人生の40年間を笑わずに過ごしました。 ウハイブ・イブン・アル・ウォード(神が彼に憐れみあれ)は、*イード*(断食月の後の祝賀と感謝の日)を笑う人々を見て、「もし神が彼らを赦したなら、これは神に感謝する人々の道ではありません。もし彼らが神に赦されなかったら、これは敬虔な畏敬の念を持つ人々の道ではありません。 神への畏敬の念と恐れ」。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように - 預言者の仲間)は、「罪を犯した後に笑う人は、泣きながら地獄に入るだろう」と言いました。 ここで言及する必要があるのは、望ましくない笑いには声があることです。 [声を伴わない]笑顔は望ましくない、または禁止されているわけではありません。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、かつてそのように微笑んでいました。 カシム・マウラ・ムアウィヤは、ベドウィン(砂漠のアラブ人)が赤いラクダに乗って預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところにやって来て敬礼したと語っています。 彼が預言者に近づき、何かを尋ねようとすると、ラクダは動揺して彼を[ある程度の距離まで]連れ去りました。 [彼と一緒にいた]預言者の仲

間たちは、これを見て笑い続けました。 結局、ベドウィンはラクダを制御できず、ラクダから落ちて死亡した。 仲間たちは「ラクダが乗り手を転落させて殺された」と言いました。 預言者(神の祝福と平安あれ)は、「彼は死んだが、あなたの口は彼の血で満たされている」と言いました。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アル・ムバラク・フィ・アズ・ズフド*)

自分の威厳のあるオーラと畏敬の念を傷つける笑いは禁止されています。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「[たくさん]笑う人は[身長と威厳が]軽くなります」。 サード・ビン・アル・アース(神が彼を喜ばれますように)は息子に忠告してこう言いました。威厳のある人と冗談を言わないでください、彼はあなたに嫌悪感を抱くでしょう。また、(性格の低い)卑劣な男と冗談を言ってはいけません、なぜなら彼はあなたに勇気づけられ、大胆になるからです。」 ウマル・ビン・アブドゥル・アジズ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「神を恐れ、ユーモアを避けなさい。なぜなら、ユーモアは心に辛辣さを生み、悪に導くからです。 クルアーンを議論のテーマにし、そのための集まりを設けてください。 これがあなたに重くのしかかっているなら、良い会話をし、良い人々について言及してください。」 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は人々に尋ねました:「なぜユーモア(ミザ)がユーモアと呼ばれるのか知っていますか?」 彼らは否定的に答えた。 「それは[語源]『アザ』に由来しており、それは『離れて遠ざかる』という意味で、それによって真実から遠ざかるため、『ユーモア』(ミザ)と名付けられた」と彼は言いました。 一部のグノーシス主義者は、何事にも何らかの果実があり、ユーモアの果実は敵意であると言っています。 一部のグノーシス主義者は、「ユーモアによって知性が消滅し、人は友人から離れてしまう」と言いました。

11番目の害 – 嘲笑: 誰かを嘲笑することも、他人に苦痛を与えるため、好感の持てる行為ではありません。 神はこう言われました。

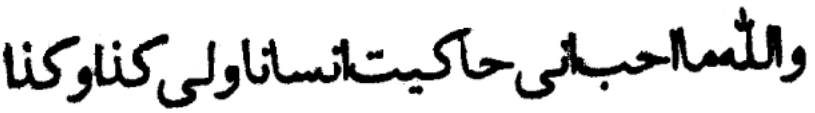
يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا يَسۡخَرۡ قَوۡمٞ مِّن قَوۡمٍ عَسَىٰٓ أَن يَكُونُواْ خَيۡرٗا مِّنۡهُمۡ

وَلَا نِسَآءٞ مِّن نِّسَآءٍ عَسَىٰٓ أَن يَكُنَّ خَيۡرٗا مِّنۡهُنَّۖ

「おお、信じる者よ!ある国(またはコミュニティ、または人々のグループ)が別の国を笑うべきではありません。 笑われている人の方が、笑っている人よりも優れているのかもしれません。 また、女性が他の女性を笑うべきではありません。 彼ら(笑われている人)は彼ら(笑っている人)よりも優れているかもしれない」と語った。 (クルアーン、49章、11節)

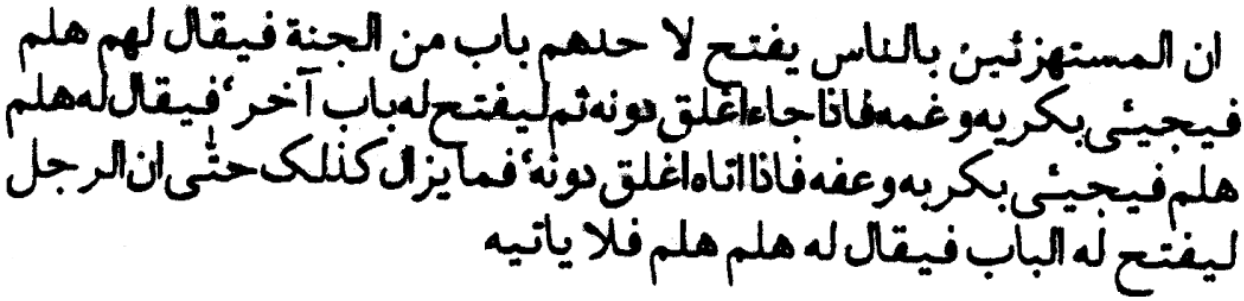
嘲笑の意味は、誰かを侮辱し、侮辱する意図で、誰かの欠点に言及し、聞き手が嘲笑されている人を笑うような方法でることです。 嘲笑は、言葉、ジェスチャー、ほのめ

かし、誰かの行動を真似することで行うことができます。 それが後ろで行われた場合、それは陰口であり、誰かの前で行われた場合、それは嘲笑と皮肉であり、陰口ではありませんが、それよりも劣りません(犯罪の重大さの観点から)。 アイシャ(預言者の妻である神が彼女を喜ばれますように)は、かつて預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言った誰かを嘲笑したと言いました。



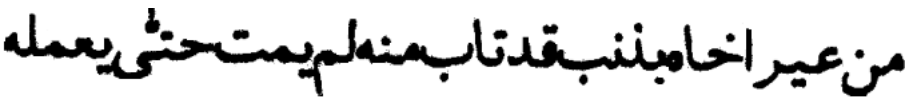
「神よ!私は他の人間を嘲笑するのは好きではありません。」 (この伝統は、 *ハディース集ア ブ・ダウドと ティルミディ*)

信者をからかったり、自分の過ちや奇形を笑ったりすることは罪の一つです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の伝承の中で、私たちは他人を嘲笑する人々の死後の世界での最終的な終わりについて次のように知らされています。



「[審判の日]、嘲笑する者のために楽園への扉が開かれ、彼らは入るように言われるでしょう。 彼らが悲惨で苦しみの状態でドアにたどり着くとき、ドアは彼らのために閉ざされるでしょう。 その後、2番目のドアが開き、中に入るように求められます。 彼らは悲惨さと痛みとともにその扉にたどり着くでしょうが、それは彼らのために閉ざされるでしょう。 これは、彼らが中に入るように求められる段階が来るまで起こり続けるでしょうが、彼らは来ません(ドアが何度も閉められた後、入ることを許されたことに失望したため)」。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニヤ*)

ムアド・ビン・ジャバル(神が彼を喜ばれますように)は預言者から次のように語っています。

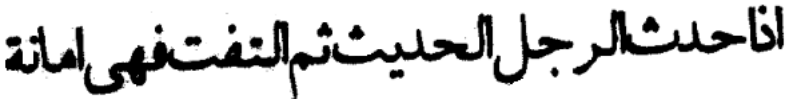


「悔い改めた罪について兄弟を嘲笑する者は、同じ罪を犯す前に死ぬことはありません」。 (この伝統は、 *ハディースコレクション ティルミディ*)

これらすべての[神聖な]伝統の結果は、他人を侮辱し、侮辱し、嘲笑することは[神の律法では]許されないということです。 [クルアーン]の一節は、あなたが悪いと思ってい

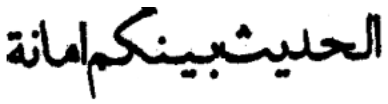
る人たちが、あなたよりも優れている可能性があるという理由さえ示しています。 誰かを笑うことは、それが痛みを引き起こす状況では禁止されていますが、笑われることに満足している場合は、それはユーモアに含まれます。 ユーモアの詳細については、前のページで説明しました。 ここで言及する必要があるのは、禁じられている嘲笑(ハラム)は誰にでも苦痛を与えるものであるということです。 例えば、会話中に誰かが間違った文章や言葉を発して笑ったり、誰かの訛りや会話スタイルを嘲笑したり、手書きが悪い人にそのような人はとても上手に書くと言ったり、背の高い人が背の低い人を笑ったり、 大柄な人が痩せた人を笑ったり、誰かの喪失を笑ったり、そのような嘲笑や皮肉はすべて[神聖な(神聖な)法則で]禁じられています。

12番目の害 – 秘密と機密事項を明らかにする: 誰かの秘密や機密事項を暴露することも、友人や知人の権利の痛みや侵害を引き起こすため、[神の法則では]禁止されています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「男性が何かを言って去った場合、それは信託です(共有に同意しない限り、秘密にされなければなりません)」。 (この伝統は、 *ハディースは、預言者の仲間ジャビルの権威に基づいてアブ・ダウドとティルミディを集めています*[神が彼を喜ばれますように])

別の預言的伝統は次のように述べています。



「あなたの相互の会話や(秘密裏に行われる)事柄は、(秘密にされなければならない)信頼です。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニヤ*)

ハサン(神が彼を喜ばれますように)は、「秘密にしたい兄弟(または姉妹)の問題を開示することは、不誠実であり横領です」と言いました。 誰かの秘密を漏らすことは不正(背任)であり、誰かに危害を加える場合は禁止され、誰にも害がなくても浅はかさの表れです。

13番目の害 – 偽りの約束: 約束をする際には舌が最優先であることを知っておく必要がありますが、低次の自己(*ナフ*)はそれを守らず、それを果たそうとせず、約束違反を引き起こします。 これは偽善の表れです。 神はこう言われました。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَوۡفُواْ بِٱلۡعُقُودِۚ

「おお、信じる者よ! 約束を果たせよ」 (クルアーン、第5章、1節)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は約束を贈り物と呼びました。 (この伝統は、*ハディース集 タバラニ・アウサット* 預言者の仲間カバス・ビン・アティームの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように] 他のいくつかのコレクションで言及されていることに加えて)。 贈り物が取り戻されないのと同じように、約束を破ることも正しくありません。 神は特に、クルアーンの中で預言者イシュマエル(神の祝福と平安あれ)の質について言及し、彼は約束と約束をしっかりと守りました。 アブ・フライラ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと語っています。

ثلاث من كن فيه فهو منافق وان صام وصلى وزعم انه مسلم اذا حدث كذب و اذا وعد اخلف، واذا ائتمن خان

「3つのものが存在すると、断食し、祈り、自分がイスラム教徒であると主張しているにもかかわらず、人は偽善者になります。 [まずはそれです]話しながら嘘をつき、約束を果たさずに約束をし、信頼を託すと裏切り者で不誠実です。」 (この伝統は、 *ハディース集 Sahih Buhkari と Sahih Muslim*)

この特徴付けは、約束をした後、約束を果たさないつもりの人のためのものです。 約束を果たそうとしているが、後に何らかの障害が起こり、その結果、それを果たすことができない人は、たとえ偽善の形をとっていても、この特徴付けには入らず、偽善者とは呼ばれません。 だからこそ、実際の偽善から身を守ることが不可欠であるのと同じように、偽善の見かけや痕跡さえも避ける必要があります。 [合法的な]必要性がなければ、約束を果たすことを自分自身に言い訳すべきではありません。

14番目の害 – 嘘と悪口: これは最悪の過ちであり、大きな罪でもあります。 アブ・バクル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の伝承を語っています。

اياكم والكذب فانه مع الفجور وهما في النار وعليكم بالصدق فانه مع البر و هما في الجنة

「嘘をつくことから身を守りなさい。それは悪行と嘘の両方を伴い、悪を犯す人は地獄にいる。 正義の行為に伴う真理を採用し、どちらも天国にいるのです。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・マジャ と ナサイ*)

ハサン(神に憐れみあれ)は、「外側と内面、言葉と行動、そして[心]に出入りするものの違いは偽善と呼ばれ、この違いと偽善の基礎は嘘にある」と言いました。 預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)は言いました。

كبرت خيانة ان تحدث اخاك حديثا وانت له به كاذب

「大きな信頼違反と不誠実な行為(キヤナ)は、兄弟が真実だと思うことを兄弟に言うのに、実際には嘘をついていることです。」 (この伝統は、 *ハディース集 ブハリ・フィ・アル・アダブ・アル・ムフラドと アブ・ダウド*は、預言者の仲間であるスフヤン・ビン・オサイードの権威に基づいて書かれています。

アブドゥッラー・ビン・マスード(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

لا يزال العبد يكذب ويتحرى الكذب حتى يكتب عند الله كذابا

「しもべは常に嘘をつき、そのような人が神によって嘘つきとして書かれるまで、嘘を広める努力をします。」 (この伝統は、 *ハディース集 Sahih Buhkari と Sahih Muslim*)

神はクルアーンの中でこう言われています。

إِنَّمَا يَفْتَرِي ٱلْكَذِبَ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ ۖ

「嘘をでっち上げるのは、神の聖句を信じない人たちです。」 (クルアーン、16章、105節)

アナス(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から、「私から6つのことを受け入れてください。私はあなたに楽園を約束します」と言ったと語っています。 仲間たちは「その6つのことは何ですか?」と尋ねました。 彼は答えた、「あなたが話すときは、嘘をついてはいけません。約束したら、それを反故にしてはならない。信頼を破らないでください。[不適切なものを見ることから]視線を下げてください。あなたのプライベートを守ります。そして、あなたの手が[他人に危害を加えるのを]止めてください」。 (この伝統は、 *ハディース集 ムスタドラク・ハキムと カラ・エティ・アラ・マカリム・アル・イクラク*)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、かつて嘘をついた証人の証言を受け入れることを拒否したという伝承があります(この伝承は、預言者の仲間であるムサ・イブン・シャビー[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて、*ハディース集イブン・アビ・アッ・ドゥニャ*に語られています)。 アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は嘘と虚偽以上の特徴を嫌わなかったと語ってい

ます。 したがって、彼が誇張した仲間について知ったとき、彼の心に曇りが沈み、自分の罪を改めて神に悔い改めたことを知るまでは晴れませんでした。 預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)は神に懇願しました。 あなたの奴隷の中で、正しい行いの点で誰が優れていますか?」 答えは、「舌が嘘をつかず、心が悪行の考えを抱かず、陰部が姦淫や淫行にふけらない奴隷」でした。 ルクマン(神が彼に憐れみあれ - 預言者ダビデ[彼に神の祝福と平安あれ]の時代のイスラエルの賢者)は息子に忠告し、「虚偽は鳥の肉のようにおいしいが、小さな嘘は話し手を破壊する」と忠告した。 預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)から、真理を賛美して次のような言葉が報告されています。

اربع اذا كن فيك فلا يضرك ما فاتك من الدنيا صدق الحديث، وحفظ الامانة، وحسن خلق وعفة طعمة

「もしあなたが**4**つの特徴を持っているなら、あなたが世俗的な所有物から持っていないものは、あなたに害を及ぼさないでしょう[つまり、これらの特徴は、あなたをこの世とあの世で大きな高みに登るのに十分です]:言葉の誠実さ、信頼を守ること[物質的か非物質的かにかかわらず、他者から託された]、良い性格と気質、 そして合法的なものだけを食べる」。 (この伝統は、 *アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威に基づく*ハディース*集カラ・エティ* [神が彼を喜ばれますように])

嘘には、問題について完全な調査を行っていないスコラ神学者からの宗教勅令(*ファトワ*または拘束力のない宗教的意見または法令)も含まれます。 また、引用の目的は自分の知識、卓越性、優位性を表現することであるため、信憑性が認定されていない預言的伝統を[引用]することも含まれます。 だからこそ、「*ラ・アドリ*」や「わからない」と言うのは個人的な侮辱だと考える人もいるのです。 適切な調査なしに勅令を発令したり、預言的なナレーションを引用したり*することは[*神聖な律法では]禁じられています(ハラム)。

15番目の害 – 陰口: 神はクルアーンで陰口を非難し、それを死んだ兄弟の肉を食べることに等しいと宣言しました[人食いはすでに忌まわしく禁止されており、それが自分の亡くなった兄弟に関係する場合、嫌悪感と嫌悪感は途方もなく拡大されます。 このように陰口を描くことは、人間の相互作用に風土病と思われるこの行為の嫌悪感、反発感、禁止を家に持ち帰る神の方法です]。 神はこう言われます。

وَلَا يَغْتَب بَّعْضُكُم بَعْضًا ۚ أَيُحِبُّ أَحَدُكُمْ أَن يَأْكُلَ لَحْمَ أَخِيهِ مَيْتًا فَكَرِهْتُمُوهُ ۚ

「そして、誰も他人に陰口を言ってはいけません。 あなたがたのうち、死んだ兄弟の肉を食べるのが好きな人はいますか? [いいえ]あなたはそれを嫌っています!」 (クルアーン、49章、12節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

كل المسلم على المسلم حرام دمه وماله وعرضه

「イスラム教徒の血、財産、名誉など、すべてのものは、他のイスラム教徒には禁じられています(これらは神聖なものであり、神聖な法律では不可侵であるため)」。 (この伝統は、 *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づく*サヒー・ムスリム [神が彼を喜ばれますように])

陰口を言うことは、さらに言えば、他のイスラム教徒や他の人間の名誉を侵害するものです。 別の預言的伝統は次のように述べています。

لا تحاسدوا ولا تباغضوا ولا يغتب بعضكم بعضا وكونوا عباد الله اخوانا

「お互いに嫉妬したり、敵意を抱いたりしてはならない。また、あなた方の何人かが他の人を陰口を言ってはいけません。 [代わりに]神の真のしもべとなり、お互いの兄弟になりなさい[神の真のしもべは、相互の嫉妬、敵意、陰口、その他の同様の否定的な特徴によって現れるような、低次の自己の卑劣で卑劣な特徴に焦点を合わせることは神から離れるのが当然ではないからです]」。 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・フライラとアナスの権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を集めています[神が彼らを喜ばれますように])

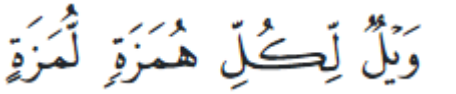
預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

لا تحقرن من المعروف شيئا ولو أن تصب من دلوك في اناء المستقي، وأن تلقى اخاك ببشر حسن، وان ادبر فلا تغتابنه

「[この世の]どんな良いことも、たとえそれが[井戸から汲み上げた]喉の渇いた人の鍋に水を注ぎ、笑顔で[または親切な方法で]兄弟(または他の人間)と会い、人がいないときに陰口を言わない[または、この場合の良いことのように]あなたと離れているような[小さな]ものであっても、取るに足らないものとは考えないでくださいあなた自身が他の人間に何か悪いことを犯したり、有害なことを犯したりするのを防ぐことです]」と述べています。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アブ・アド・ドゥニヤ*)

伝承によると、神は預言者モーセ(彼に神の祝福と平安あれ)に「陰口を悔い改めた後に死ぬ者は、他の誰よりも先に楽園に入るでしょう。そして、悔い改めずに死ぬ者は、最

初に地獄に入るでしょう」と明らかにされました。 預言者の仲間たちは優雅に会っていましたが、対照的に、偽善者たちは表向きは仲良く会っていましたが、裏では陰口を言っていました。 神はクルアーンの中でこう言われています。



「[人々の]過ちを陰で選ぶ者には災いがある。」 (クルアーン、第104章、1節)

ある聖人は、「私たちは、祈りと断食を[神の]崇拝とは考えず、むしろ人々を不名誉にすることを崇拝行為として控えると考えた敬虔な先人たちの中から偉大な人々を見てきました」と述べました。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「友人の欠点を列挙しようとするときは、まず自分の欠点を思い出してください。 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれますように)は、人類にこう言っていました。 自分の中にある過ちを理由に人々を悪いと呼ぶのをやめ、まず自分の中にそれを改革するまで、あなたは[神への]信仰の現実を理解し、認識することはできません。 あなたが自分の[低次の]自己の改革に忙しくなると、それだけで十分な関心事になり、他人の欠点を一瞥する自由な時間は得られません。 神の最も愛するしもべはそのような人々です。」 マリク・イブン・ディナール(神が彼に憐れんでくださいますように - 偉大な聖人でありグノーシス主義者)は言いました:「イエス・キリスト(神の祝福と平安あれ)は、弟子や仲間たちと一緒に死んだ犬のそばを通り過ぎました。 誰かが言いました:「この[死んだ]犬にはたくさんの悪臭が漂っています」。 彼は言った:「その歯はなんて白いのでしょう!」 したがって、彼は彼らが[死んだ]犬を陰口を言うことを禁じ、神の創造物の優れた性質について言及するようアドバイスしました。」 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「神の記憶(ディクル)に従事してください。そこには[内なる霊的]癒しがあります。人々について言及したり、覚えたりしないでください、そこには[内なる霊的]病気があります[人々は陰口を言ったり、中傷したり、嘲笑したり、憎んだり、彼らに関連する他の同様の内面の病気にかかりやすくなるため]」。

陰口の意味とその限界: 陰口の定義は、それを聞いたら悪いと思うような方法で言及されるということです [そして、そのように話されたくない]。 この言及が身体的奇形や道徳的悪徳に関連しているかどうか、自分の言葉が標的にされているのか、自分の行為に関係しているのか、自分の名前や血統[または人種]で過ちが選ばれているのか、信仰に関連する問題なのか、世俗的な問題なのか。 体の奇形は、盲目、曲がった目、禿げた、背が低い、背の高い、暗い、または黄色がかったと呼ぶか、またはその存在が悪いと考えられている内面の特徴と関連付けることです。 自分の血統の欠点を見つけることは、父親を奴隷、罪人、卑しい人、靴修理工、または嫌われる(*マクル*)職業に属していると呼ぶことによって行われます。 気性が悪い、ケチな、傲慢な、派手な、短気な、臆病者、弱い、謙虚な、拒絶された、またはそのような道徳的悪徳にふけっていると呼ぶことによる道徳的欠陥。 自分の信仰や宗教の欠点を見つけることは、泥棒、嘘つき、酔っぱらい、不誠実、抑圧者、祈りや断食などの神の崇拝の行為に怠け者、(正式

な祈りで)お辞儀やひれ伏しを十分に行わない人、または陰口や悪口を控えて断食を守らない人(これらの悪徳は、達成する行為であるはずの断食を台無しにするため)と呼ぶことによって行われます霊的浄化]。 世俗的な事柄の欠点を見つけることは、独占欲が強く、おしり屋で、貪欲で、眠気があり、奇妙な時間に眠り、座ってはいけない場所に座るなど、マナーが悪い、失礼で、人々の権利を拒否する、と呼ぶことによって行われます。 服の欠点探しは、袖が広すぎる、シャツが広すぎる、服が汚くて汚れているなどと言って行われます。

宗教的な事柄について人々に何かを言うことは、神が嫌がったことの非難なので、陰口にはならないと言う人もいます。 もし人が罪人であり、その罪のためにそのように呼ばれるなら、それは何も悪いことではありません。 この議論は間違っています、なぜなら、仲間たちは、過ちを見つけたり、侮辱したりする目的で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)にそのような悪について言及したのではなく、むしろ彼らの目的は、宗教的な事柄や命令に精通することであり、預言者の集まり以外の集まりでそれらについて言及する必要がなかったからです。 陰口を言う結果は、聞いたら気分が悪くなるようなことを言うことであるという学術的なコンセンサス(*Ijma'*)があります。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、陰口をそのように定義しており、もし人がそのような方法で他の人について言及した場合、その人は陰口の罪を犯し、主に不従順であると呼ばれ、自分の[死んだ]兄弟の肉を食べる者となるでしょう。

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は仲間たちに尋ねました。 彼らは「神とその預言者が最もよく知っている!」と答えました。 彼は、「言及されるのが嫌いな兄の事柄について言及するのは、陰口だ」と述べた。 仲間たちは、「言及されたもの(本質的に悪く、言及されることを嫌う)が実際に自分の中に存在したらどうなるでしょうか?」と尋ねました。 彼はこう答えた:「もしそれが[実際に]彼の中に存在するのであれば、それが[まさに]陰口のすべてであり、そうでなければ[それが彼の中に存在しない場合]、それは[根拠のない]非難です[これははるかに悪い]です」。 (この伝統は、 *ハディース集　アブ・フライラの権威に基づく*サヒー・ムスリム [神が彼を喜ばれますように])

陰口は口頭だけで行われるのではなく、代わりに、ジェスチャー、ほのめかし、または明確または不明明確な[身体]動作によって、他の人の過ちを明らかにするすべての行為が陰口を構成します。 陰口に関連して、明確に表現され、曖昧に表現された言葉、行動、ほのめかし、ジェスチャーなど、すべてが禁止され(ハラム)、違法です。 [陰口の禁止について]同じ[神の]戒めが誰かの真似にも当てはまります、たとえば、[足の障害のために]足を引きずる人の真似は、陰口よりも悪いです。 裏口は、スピーチと同様に重要な表現手段でもあるため、書面でも行うことができます。 著者[またはあらゆる形や形の執筆媒体の作家]が、自分の文章の中で誰かの名前に言及し、自分の欠点を列挙した場合、正当な理由で行われた場合を除き、それは依然として陰口です。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が他人の行為を嫌ったとき、彼は、あれやこれやの人があれやこれやするなんて言うのではなく、「人がそのようなことをしたのに何が起こっ

たのか?」と言いました。 (この伝統は、 アイシャの権威に基づく*ハディース*集アブ・*ダウド*[神が彼女を喜ばれますように])

学者やスコラ神学者による陰口:最悪の陰口は、学者やスコラ神学者(聖職者または*ウレマ*)による陰口であり、彼らは善良な人として振る舞うことで自分の目的を表現する傾向があり[聖なる人々であるが、それにもかかわらず、独善的な方法で神と宗教の名の下に他の人々をスワイプする]、そして人々(一般の人々と信徒)は彼ら(つまり、 学者)は、そのような学者が同時に2つの罪を犯していることを知らないので、無知のために陰口を言いません - 1つは陰口を言う罪と、もう1つは[自分の罪や過ちのために他の人を貶めることによって彼らの宗教性と敬虔さ]を誇示する罪です。 したがって、ある人が彼らの前で言及されるとき(自分の過ち、罪、または道徳的正直さと正直さの欠如について)彼らはこう言います:「神が私たちを王(または強力な政治エリート)を訪問する試練に私たちを置き、世界を求める屈辱から私たちを救ってくださったことに感謝します。」 あるいは、祈りの形で「神が私たちをそのような恥知らずと屈辱から救ってくださいますように」と言うでしょう。 彼らの目的は他人の欠点を明らかにすることですが、そのために、時には[神の]感謝の言葉を使い、時には[神への]祈りや嘆願の形を使いますが、彼らの目的は祈りでも神への感謝でもありません。 時々、彼らは陰口を言う前に誰かを褒めます。 たとえば、「あれやこれやの人はとても良い人です。そのような人はどれだけ[神の]崇拝をしているのに、その人だけでなく、私たちは皆、忍耐と満足の欠如という悪い特徴に関わっています」と言うでしょう。 どうやら、これには彼ら自身の非難があるようですが、ここでの目的は、自分自身の低次の自己を非難することではなく、他の誰かの過ちを明らかにすることです。 しかし、そのためにここで採用されているスタイルは、リスナーに謙虚さと誠実さを納得させ、義人の一人に数えられるようにすることです。 そのような「学者」は、陰口を言ったり、誇示したり、自己を浄化したと主張したりするという三つの罪を[そうすることで]組み合わせ、言い換えれば、自分自身を義人の一人に数え、自分自身を義人の中に数え、独善的な傲慢さの自己欺瞞的な状態に帰し、その結果、内なる霊的闘争と変容を妨げ、愚かさから、自分自身が陰口から浄化されたと見なします。

サタンはそのような人々を非常に簡単に追い詰めます。 これらの人々は正しい知識を欠いており、[彼らの]低次の自己(*ナフ*)は彼らを欺き続けます。 時々、彼らは仲間についての陰口に耳を傾けることに注意を払い、「神にすべての完璧さ(神には間違いや欠陥がないので)! これはとても奇妙です!」 ここでは、神の御名は、神の素晴らしさと栄光の表現や告白としてではなく、彼ら自身の内なる悪の表現として受け取られています。 時々、陰口として使われる表現は、「私たちは友人のあれこれの悪い状態に深く悲しみ、悲しんでいます。 神が彼または彼女に慰めを与えてくださいますように」。 この悲しみと嘆願の分かち合いは、思いやりの[真の]感情によって行われるのではなく、むしろ自分自身の優位性を表現する目的によって行われます。 もし嘆願が本当に意図されていたのであれば、彼らは公の集会で祈るのではなく、祈りの後に孤独に祈りを捧

げたでしょう。 同様に、本当に悲しんだら、不慣れな人々の前でこのような表現をしなかっただろう。 時々彼らはこう言います。 あれこれの人は大きな苦しみに悩まされています。 神が私たちと彼または彼女に悔い改める能力を与えてくださいますように!」 表向きは嘆願ですが、神は彼らの内なる悪をよく知っており、彼らの心が何で満たされているかを知っています[神は心に埋もれた秘密と魂の奥底に潜む微妙な悪を知っているように]、しかし、彼らは無知から、この嘆願によって、 彼らは報酬(*タワブ*)の代わりに[神の]罰(*アダブ*)を受ける権利を持つようになりました。 陰口を聞いて驚きを表現することも、陰口を助長するため、陰口です。 陰口を聞く人は、舌でそれを止めるまで、陰口の罪のパートナーです。 もし、それを止める勇気と力がないなら、それを心の中で悪いことだと考えるか、立ち上がってその集まりを離れるか、話題を変えようとすべきです。 そのような状況では、聞き手からの計算はありません。 心に耳を傾けたいという願望を持ちながら、舌を禁じるなら、それは偽善です。 判断の基準は心です。 人は、心の中で罪を悪いと考えるとき、罪から守られるでしょう。 心の中でそれを禁止することに関しては、それを明示的に禁止し、言及されたものを擁護する必要があります。

陰口の理由: 陰口の理由は無数にありますが、それらはすべて 11 の理由の範囲内にあります。 そのうち、[最初の]8つは素人に関連しており、[最後の]3つは著名な(非普通の)人々に関連しています。

第一の原因 - 敵意と恨み: 心の怒りの火に火をつける出来事が起こり、それが起こったとき、[この言及]が怒っている人によって行われたか他の誰かによって行われたかにかかわらず、怒りを引き起こした人の過ちに言及することによってのみ消えます。 表向きは怒りをコントロールできるが、恨みや敵意が心に残っているため、恨みや敵意が心に残ると、陰口の永続的な基盤が築かれるため、怒りよりも悪い恨みが心に残ることもあります。 このことから、敵意と恨みはどちらも陰口の原因であることがわかります。

第二の原因 - 他人と同意する: 言い換えれば、友人や仲間に同意し、検証し、彼らがそれをしているのを見て、彼らを助け、同意する必要性を感じながら、自分自身もそれにふけることです。 したがって、集まりの人々が誰かの名誉と嘲笑で遊ぶとき、その人がそれに参加することを拒否したり、同意しなかったり、話題を変えたり、立ち去ったりすると、彼らは動揺し、そのような人を憎み始めるだろうと考えます。 この考えで、人はそれらに同意し、それが社会的取引と均質性の重要な基盤であると考えています。 時々、仲間が怒りから誰かに陰口を浴びせることもあります。 人は当たり障りのない態度から彼らのように怒っているふりをし、自分自身が陰口に巻き込まれ、この行動を通じて、至福、悲しみ、不安、安らぎなど、あらゆる状況で友人と一緒にいることを示します。

第三の原因 - 注意と先制: 時々、人は自分が誰かに監視されていると推測し、そのような人は重要な [または強力な] 人の前で誰かに対して陰口を言ったり、特定の問題でその人に不利な証拠を提出したりします。 これらの不安と不安のために、人は積極的にそのような個人を陰口にしたり、標的にしたりして、その人が言うことが期待されていることを緩和し、[積極的に]そのような個人の信用を傷つけ始めます。 また、最初は別の人について正しいことを言うことで、その人について正しい情報を提供するという評判を築くことができ、後でその人に対して虚偽や噂を広めて、(嘘を広めたと疑われることなく)「嘘をつくことは、私の性質と私が以前にこの人について言ったことに合わない、 真実であることが判明し、私が今言っていることも真実です。」 そのような事前の計画と予防策により、恐れられている人はあえて反対の話をしなくなり、たまたまそうした場合、重要視されず、信じられないため、人は安全になると考えています。

第四の原因 - 不正行為からの免除: 時々、陰口は罪から免除されることを示すことを目的としています。 この点で、間違ったことをしているのは自分だけではないと主張します。 もし自分の免除が意図であったのであれば、他の人に言及することなく、自分自身の理由(間違ったことをした)に言及すべきです。 自分の主張は、他の人を含めることで強くなるので、(陰口を通じて)別の人を含めることになります。

第五の原因 - プライドと自慢の表現: これは、他人の欠点を見つけることで自分の優位性を示すことによって行われます。 たとえば、これやこの人は無知で、理解が間違っており、言葉が弱くて役に立たないという発言をします。 そのような批判の目的は、他の人よりも自分自身の優位性を示し、自分が他の人よりも多くの知識を持ち、理解力があり、自分のスピーチが優れていることを証明することです。 この批判は、人々が自分と同じように他人を尊重することを妨げ、相手が社会で目立つ地位を獲得するのを防ぐためです。

6番目の原因 - 嫉妬: 嫉妬は、人々が羨望の対象を賞賛し、愛し、尊敬しているのを見て、人を陰口に駆り立てることがあります。 人はそれを容認できず、これらの祝福が羨ましい人から奪われ、人々が羨望されている人を憎み、不名誉にし始めることを望んでいます。 この目的を達成するために、人は羨ましい人の欠点を指摘し始めます。 嫉妬は敵意や恨み以外の状態であり、他の人が誰かに対して過剰な行為を犯し、復讐を象徴するときに現れます。 嫉妬にはそのような要素はありません。 時には、自分の慈悲深い友人や親しい仲間さえも羨ましがり始めます。

7番目の原因 - 冗談:言い換えれば、誰かの欠点が[社交的な]集まりに興味を持ち、参加者から笑いを誘い、楽しい時間を過ごすために持ち出されるのです。

8番目の原因 - 軽蔑: 陰口は、他人を軽蔑し、屈辱を与える行為として行われることがあります。 これが傲慢な人の特徴です。 相手がいるかどうかに制限はありません。 自分の前に座っている人を、自分がどれほどの屈辱を与えているのか、自分が他人の立場だったらどうなったのか、考えもせずに非難して嘲笑する人もいる。

著名人に関連する陰口の原因:この3つは非常に微妙で複雑です。 それらは純粋な悪ですが、サタンは、これらの原因はすべて善であるか、その中に何らかの善があるが、サタンはそれらに悪を混ぜているという貪欲を彼らに植え付けます。

第一の原因 - 驚き: 宗教的な人が間違いを犯すことがあるので、驚きの表現としてこう言います。 彼または彼女はそれをすべきではなかった」と述べた。 宗教家の間違いが驚きの原因であることは事実ですが、その発言をする人は驚きを表現する際に名前を挙げるべきではありません。 サタンは、この宗教的感情を、人を挑発して名前を言わせ、罪に巻き込むことによって、陰口に変えました。 同様に、これを言うことは陰口にも含まれます:「そのような醜い人を愛したり、教育を受けた人がこれや無知な人に行くのは、これやこれの人にとって驚くべきことです」。

第二の原因 – 共感と同情の感情: 言い換えれば、人は誰かの状態を悲しみ、その人が何か悪いことに巻き込まれているのを見ると、「そのような人の現在の状態は私を動揺させました。 あの人の状態を残念に思います」。 後悔の主張は正しく、賞賛に値するが、名前を挙げると悪いことになり、良い感情が陰口の原因となった。 イスラム教徒の過ちを後悔し、その人に共感と同情を感じるのは良いことですが、サタンは人を挑発して名前を挙げさせ、それゆえに悪を良いものに混ぜ合わせます。

第三の原因 – 神のための憤り: 誰かがわいせつな行為に関与しているのを見たり、その人について悪いことを聞いたりすると、信仰の推進力により憤りを引き起こす可能性があります。 もし憤りが生じ、名前を言って表現された場合、この行為は神の報いを奪われるだけでなく、逆に陰口の原因にもなります。 善を説得し、悪を戒めることに対する憤りは良いことですが、それが特定の人に対して表現される必要がある場合は、他の人が[それが誰のためのものであるか]に気づかないように行う必要があると考えるべきです。 名前を挙げる必要がある場合は、憤りを表明すべきではありません。 これらは平信徒だけでなく学者たちも気づかず、驚きと慈悲、憤りが神のためなら名前を言及しても害がないと考える微妙な点であり、これは間違った推測だ。

陰口の治療法: すべての有害な内面の傾向、資質、卑劣な習慣は、[習得した知識に従って] 知識と行動の組み合わせによって治すことができます。 知識だけではこれらの病気を治すのに十分ではなく、行動だけでも十分ではありません。 それぞれの病気の薬は、その病気の原因とは逆です。 まず、陰口の理由を見つける必要があり、それについては前のページで多くのことが書かれています。 舌の陰口を止める方法は、ブリーフと細かい方法の2つがあります。

陰口を治す簡単な方法: 陰口を言うと、陰口を言うことで神の不快感を得て、審判の日にその結果として善行が無駄になるという確固たる信念を持っているということです。十分な善行がなければ、犠牲者の罪は陰口を言う人の[行いの]説明に移されます。さら

に、人は人食い人種に似て、自分の兄弟に対して[関係、信仰、人間性、つまりあらゆる個人]に対して陰口を言うことで、死んだ兄弟の肉を食べます。 この屈辱はどれほど大きいのでしょうか? 行いの記述に善行と悪行の両方があるが、悪行の規模が重い場合、この人は地獄に行きます。 人の2つの体重が等しいとします。 悲しいことに、この人の一つの罪は、陰口による悪行の天秤を傾け、地獄に行くに値する人になりました。

[預言者の]伝統や、恐怖から陰口を言うことについて与えられた警告を見ると、舌は陰口をすることにさえ同意しないでしょう。 この戦略は、陰口を言う前に自分自身を一瞥するのにも役立ちます。 おそらく、他人の欠点を拾い上げ、その結果として罪を犯すのではなく、自分の中に欠点を見つけて、それを軽減することを心配することができるでしょう。 自分の中に欠点を見つけたら、自分自身の低次の自己(*ナフス*)を非難し、非難する必要があります。 なぜ他人を非難する必要があるのでしょうか(自分の中に欠点があり、それが欠けている人はめったにない場合)? 自分の中の欠点を取り除くことができないのと同じように、他の人もそうできなかったかもしれないと考えるべきです。 これは、過ちが[それが存続することを許すという点で]自分自身の選択によるものであり、それが生まれながらに存在する場合(したがって、自分自身の選択によるものではない)場合、それを非難することは創造主を非難することになります。 男が賢者を「おお醜い男よ!」と呼んだように、彼はこう答えた。 美しさか醜さかが私の力の中にあったら、私は自分の顔を良くしたでしょう。」 自分の魂に欠点が見つからないなら、罪を避ける能力を与え、過ちの中の大きな欠点である陰口に巻き込まれなかったことを神に感謝すべきです。 この問題を[深く]調べれば、欠点のない人はいません。 神の存在だけが何の欠点[や傷]もありません。 自分自身にすべての欠点がないと考えることは、純粋な無知であり、愚かな考えであり、それ自体が大きな欠点です。 陰口から身を守ることに関して、役立つことの1つは、自分自身を他人として推論(解釈)すること、つまり、「私が私に対する陰口を言って悲しむのと同じように、他の人も私が彼らに対する陰口を言って悲しむだろう」と考えるべきです。 私が私に対して陰口を言うのが快くないのと同じように、他の人も彼らに対して陰口を言うことを喜ぶでしょうか?」

詳細な治療方法: 詳細な治療方法は、陰口を扇動する理由を調べることです。 あらゆる病気の治療は、その[根本]原因を根絶することによって可能です。 陰口の原因と扇動要因は以前にも述べました。 したがって、陰口の原因が[誰かに対する]怒りである場合、「もし私が怒ってそれをコントロールできなければ、神は陰口を禁止し、私は神に従わず、神の戒めを重要ではないと考えていたので、神は私の陰口のために私を不快に思うでしょう」と[自分に納得させること]によって治されるべきです。 陰口を言う2番目の原因は、同調すること(または仲間と調和していること)、つまり、友達と良いスポーツになるために陰口をすることです。 もし人が被造物の承認を受け、それが高貴な神(すべての創造主であり所有者である)を不快にさせる結果になったとき、それがどのよ

うな利益になるかを考えるべきでしょうか? 神以外の喜びを求めながら主を不快にさせるほど愚かな人がいるでしょうか?

陰口を言う第三の原因は、純粋さを自分自身に帰すること、言い換えれば、罪や不正行為を他人のせいにし、それらからの自分自身の免罪を表現し、自分自身の純粋さを列挙することです。 神の不快感の前では、人々の不快感は意味がないと考えるべきです。 そうすれば、陰口によって神の不快感は確かですが、自分自身の免罪が望まれる人々の承認は、それによって保証されません。 この世の尊厳は、得られるかどうかはあるが、来世の屈辱と喪失は、陰口の結果として必ず得られるものである。 足跡をたどることは、神の意志に従順で神の戒めに従う人々にのみ許されます。 神の戒めに違反する者は、この世俗的な生活でどれほど高い地位にあっても許されません。 陰口を言う原因が、他人に対する自分の優越感を表現することであるならば、神の前で私が持っていた地位が、この陰口によって消え去ったことを熟考することによって、それを治すべきです。 もし人がまだ世俗的な報酬と名誉を得ているなら、その価値は何でしょうか? また、人々は自分の言うことを信じるかもしれないし、信じないかもしれないので、人がそれを理解できるかどうかさえ定かではありません。 もし彼らが信じなければ、残された尊厳は無駄になり、嘘つきだと考え始めるでしょう。

嫉妬による陰口は神の報復を二倍にします - 第一に、衰退するに違いない世俗的な祝福に嫉妬することによるものであり、第二に、嫉妬していた人を陰口にしたことによる来世の報復がそれに加わったことです。 これは、この世と信仰の両方の喪失を伴います。 陰口のもう一つの害は、自分の善行が陰口をされた人に移され、自分の悪行が陰口を言う人に移されることです。 陰口を言う動機が嘲笑であるならば、人は他人を辱めることによって神の前で屈辱を蓄積していることを理解する必要があります。 自分の最後の最後を見て、審判の日にどれほどの恥と屈辱を負わなければならないかを見れば、地獄に足を踏み入れ、嘲笑された人の罪の重荷を自分の肩に負わせてください。 このように考えると、神への恐れが心に生まれ、他人を嘲笑する勇気さえなくなります。 ある人は、他の人を嘲笑するという自分の愚かさのために、他の人よりも嘲笑に値し、その結果、審判の日の屈辱に身を委ねることになります。

罪のために誰かを憐れむことは称賛に値する感情ですが、サタンはこの義の行いに嫉妬し、その人の義行を憐れんだ人に移すような言葉を発させることで、人を惑わそうとしています。 そうすれば、[罪や悪行に巻き込まれた]他人の喪失は補償され、自分自身は補償できない損失に巻き込まれ、自分自身を憐れむに値するようになります。 神のための不快感は、陰口を伴ってはなりません。 神のために他人に不快感を抱くとき、サタンは、陰口にふけることで得られると期待される神の報いを奪われることを望んでいます。 驚きの状態も同様です。 他人の状態に驚きを表明すると、陰口に巻き込まれます。 第二に、誰も驚くに値するものではなく、代わりに、他人の信仰や世俗的な事柄に驚きを表明して宗教を失い、世俗的な報復に値するようになった自分自身(*ナフ*)に驚くべきです。 驚きを言い訳して他人の隠された過ちのベールを剥がし、公の場に暴露

するからだ。 同様に、自分の欠点が暴露され、屈辱が生じます。 これらすべての病気の治療法は、知識と[神の]グノーシスです。 舌は、信仰が強く、神[グノーシス]の真の理解を持っている人のために、陰口から保護されます。

心からの陰口の禁止:幻滅したり、他人の低い意見を抱いたりすることは、悪く、邪悪で、失礼な話のように[神の律法で]禁じられています。 言い換えれば、他人の欠点を語ることが許されないのと同じように、同様に、心の中で他人について間違った考えを持ち、他人に幻滅することは許されません。 幻滅とは、意図的に他人を悪いと考えることを意味します。 しかし、それが意図せず起こった場合、それは[神に]赦され、むしろ疑いも赦されます。 禁じられているのは、他人に対して悪い意見や低い意見を抱くことであり、それは心の傾向や意図(他人について悪い考えを抱く)に関係します。 この幻滅はクルアーンでは禁じられています。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱجْتَنِبُواْ كَثِيرًا مِّنَ ٱلظَّنِّ إِنَّ بَعْضَ ٱلظَّنِّ إِثْمٌ

「おお、信じる者よ!一部の推測は罪であるため、ほとんどの推測は避けてください[幻滅、否定性、憎しみ、そしてそれらのようなものにあなたを導き、それがあなたを物質的および精神的に破壊的な道に導くため]。」 (クルアーン、49章、12節)

幻滅したり、他人の低評価を抱いたりすることは禁止されていますが、それは目に見えないものからの秘密を知る者(つまり神)だけが心の秘密に精通しているからです。 だからこそ、いかなるしもべ(神のしもべ、つまり人間)が、他人について心の中に間違った(否定的な)考えを抱くことは許されません。 しかし、間違ったことが明らかになり、反論や含意の余地が残されなくなると、自分自身の直接的な知識と観察によって間違った考えが心に落ち着く可能性があります。 しかし、信頼できる情報源から観察したことも聞いたこともない悪の考えが心に入ってくるのは、サタンからのものです。 そのようなほのめかしを心に植え付けるのはサタンであり、罪人(または悪に傾倒している人)が伝える知らせは信頼できず、サタンは罪人[および悪事を犯す者]の長であるため、それは声高に反論する必要があります。 神はこう言われます。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِن جَآءَكُمْ فَاسِقٌۢ بِنَبَإٍ فَتَبَيَّنُوٓاْ أَن تُصِيبُواْ قَوْمًۢا بِجَهَٰلَةٍ

「おお、信じる者よ! 罪人(または常習的な悪事を犯す人、または悪に傾倒する人)があなたに知らせをもたらした場合は、誤って国(または人々のグループ)に危害を加えないように、それを徹底的かつ完全に調査してください。」 (クルアーン、49章、6節)

これは、サタンがもたらした知らせ(他人に対する間違った考えに関する心のほのめかし)を確認することは許されないことを示しています。 幻滅や他人に対する悪い意見を抱くことが心に入り込んだ場合、それを終わらせる方法を考えなければならず、他人の

内面の状態がそれから隠されており、幻滅を引き起こしている出来事は、善と悪の両方の可能性を持つ可能性があり、善の可能性を残して悪を好む必要はありません。 幻滅はその兆候から認識され、その兆候は、以前は誰かを愛していたが、今は憎み始め、以前はその人に対してもてなしと敬意を払っていたが、今では(その人と接する際の)幸福が残っていないということです。 この心の変化から、一方が他方から幻滅しつつあることを理解すべきです。 治療法は、もし悪い推測が心に入ってきたら、それを留まらせて[心に]定着させたり、それを体の手足を通して表現したりしてはならないということです。 心に定着する幻滅の現れは、人が嫌悪感と憎しみを表現し始めることであり、手足を通して表現することは、心の幻滅に従って行動し始めることです。 いずれにせよ、サタンはほんの少しの口実を口実に、他人に対する幻滅を心に抱かせ、それとともに、悪を知覚する上でどれほど知的で賢明であるか、そして実際には神の光で知覚していないにもかかわらず、信者は神の光で見ていると確信させます。 代わりに、人はサタンの欺瞞の闇で知覚します。 しかし、信頼できる信頼できる人が何かについてあなたに知らせ、あなたの推測がその人を確認する方向に傾いている場合、そのような人を拒絶した場合、それは真実性による拒絶ではなく、情報を提供し、確認に値する真実の人に対する幻滅の現れとなるため、[幻滅に対する道徳的責任から]免除されます。 誰かに対して良い意見を持つために、ある人が他の人に幻滅することは決して適切ではありません。 しかし、情報提供者は、ニュースが伝えられている人に対して敵意を抱いておらず、嫉妬していないことを確認する必要があります。 このような状況に遭遇した場合、立ち止まって、被告人を嘘つきでも真実でも考えず、その代わりに、密告者によってそのニュースが伝えられた人の[内面]状態は、以前から隠されており、現在も隠されていると考えるべきです。

もしあなたがイスラム教徒に幻滅したなら、あなたはその人に対するもてなしと敬意を高め、(その人のために)神に善のために嘆願すべきです。 そうすれば、あなたの心は[幻滅から]クリアになり、サタンはあなたに失望し、あなたから手を離し、あなたが善のために嘆願し始め、その人に対してもっと敬意を示し始めるのではないかという恐れから、他人の悪い意見をあなたの心に入れようとしなくなります。 信頼できる証言や個人的な観察を通じて、イスラム教徒の悪を知るようになったら、サタンの影響下に入って陰口を言うのではなく、他の人がそれに気づかないように助言すべきです。 もしあなたが忠告するなら、あなたが他人の欠点を知るようになったこと、そして神があなたを戒め者として、説教者として遣わされ、他の人に[正しい]道を示す能力を与えたことを喜ぶ必要はなく、また、自分の偉大さや他人の卑劣さを心の中で考えるべきではありません。 むしろ、自分の喪失を知った後に動揺するように、相手の状態について後悔すべきです。 その意図は、その過ちが相手に残らないことです。 あなたのアドバイスを必要とせずに、相手が自分で正しい軌道に乗れるように努力するか、他の誰かが相手に利益をもたらすアドバイスを提供するように努めるべきです。 この方法で行動すれば、1つではなく、3つの報酬を得るでしょう:1つ目は、助言したこと、2つ目は相手

の状態を後悔したこと、そして3つ目は、あなたが他の人の宗教のために提供した助けです。

陰口の例外: [神聖な律法における] 陰口の禁止には 6 つの例外があり、つまり、次の 6 つの状況ではそれを行うことが許可されます。

一. まず、抑圧の是正[抑圧者の抑圧について当局に苦情を申し立てる形で]、
二. 第二に、悪を軽減するため、そして罪を取り除くために[助ける力を持つ人から]助けを得るため[そしてそれは自分自身の罪である可能性があります]、
三. 第三に、[神学者や法学者から、実際の出来事や他者に関する不満を語ることによって]法的意見を得るため、
四. 第四に、ムスリムが他人の悪から防ぐこと[彼らが宗教の装いを着て間違ったイデオロギーに傾いているのを見た場合]、
五. 5番目は、人々の間で広まっている名前[不快に思えるかもしれないが、名前が知られるようになった人は気にしない]、
六. 6番目は、他人の公然とした罪[公然と犯し、それを誇りに思っている人]です。

16番目の害 – 物語: 危害やトラブルを引き起こす可能性のある他人のゴシップや秘密の事柄を物語または広めることは、舌の害の1つです。 神はこう言われます。

وَلَا تُطِعْ كُلَّ حَلَّافٍ مَّهِينٍ ﴿١٠﴾ هَمَّازٍ مَّشَّآءٍۭ بِنَمِيمٍ ﴿١١﴾

「そして、偽りの誓いに慣れていて、安っぽい(威厳のない)人で、価値がなく、よく嘲笑し、物語を担う人の言うことを聞いてはいけません。」 (クルアーン、第68章、10-11節)

一節後、神はこう言われます。

عُتُلٍّۭ بَعْدَ ذَٰلِكَ زَنِيمٍ

「気性が荒く、邪悪な人です。」 (クルアーン、第68章、13節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

لايدخل الجنّة نمّام

「物語の担い手は天国には行かない」。 (この伝統は、 *ハディース*がアブ・フダイファの権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを*収集[* 神が彼を喜ばれますように])

アブ・フライラ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

احبكم الى الله احاسنكم اخلاقا الموطئون اكنافا يالفون ويؤلفون وان ابغضكم الى الله الحثاؤن بالنميمة المفرقون بين الاخوان الملتمسون للبراء العشرات

「あなたがたの中で神に最も愛されているのは、マナー(道徳、マナー、内面と外見の性質)においてあなたが最も優れている人々、心が柔らかく、愛し、[他人から]愛されている人々です。あなたがたの中で最も嫌われているのは、兄弟の間に不和をまき散らし、罪のない人々の過ちを求める物語を伝える人々です。」 (この伝統は、 *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づく*タバラニ・アウサット [神が彼を喜ばれますように])

物語の定義は、特に何かが明らかにされた人がそれを気にしている場合、またはそれを聞いた人が嫌いな場合、その啓示が悪い何かを明らかにすることです。 文字や暗示は舌の代わりであるため、啓示が舌によって行われた必要はありません。 さらに、物語が[誰かの]悪い言葉や行動、または欠点に関連している必要はありません。
Talebearing とは、嫌われているものの表現 (または啓示) です。 他人の望ましくない事柄や状態に出くわしたとき(誰かがそれを暴露した結果)、人は沈黙をとるべきです。 しかし、意図がイスラム教徒に利益をもたらすことであるか、罪を取り除くことであるかについては、話すべきです。 たとえば、誰かが不当に誰かの所有物や財産を奪っているのを見た場合、被害者の権利を保護するために証言をし、そのような人が自分の財産を奪ったことを知らせる必要があります。

物語の背後にある原動力は、その発言や関連事項が暴露された人を傷つけたり、ニュースを持ち込んだ人に愛を表現したり、無駄な事柄に巻き込まれると物語に夢中になるので、単に楽しい時間を過ごすことです。 誰かが人の前で「あなたについてこんなことを言っている、あなたに対してあれこれやしている、あなたを傷つけるためにあなたに対して陰謀を企てている、あなたの敵の友人である、またはあなたを滅ぼそうとしている」など、他のことを言ったら、人は六つのことに基づいて行動する必要があります。 第一に、物語の持ち主は罪人(*ファシク*)であり、そのような人の証言は受け入れられないので、そのような人を信じるべきではありません。 神はこう言われます。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِن جَآءَكُمْ فَاسِقٌۢ بِنَبَإٍ فَتَبَيَّنُوٓا۟ أَن تُصِيبُوا۟ قَوْمًۢا بِجَهَٰلَةٍ

「おお、信じる者よ! 悪に傾倒している人があなたにニュースを持ってきたら、それを

徹底的に調査してください。 幸いにも、あなたは無知(本当の問題を知らず、下心を持った人々の嘘にだまされる)ために、国家[または人々のグループ]に危害を加える可能性があります。」 (クルアーン、49章、6節)

第二に、神はこう言われたので、[物語を伝える人]が物語を語ることを禁じ、[それに反対する]助言し、そのような行為の悪を明確にすべきです。

وَأْمُرْ بِٱلْمَعْرُوفِ وَٱنْهَ عَنِ ٱلْمُنكَرِ

「そして、良い行いを諭し、悪い行いを勧めなさい。」 (クルアーン、第31章、17節)

第三に、人は神のために物語を担う人に対して嫌悪感を持つべきであり、そのような人は神に嫌われており、[この非倫理的な行為のために]神に嫌われている人を嫌う義務があるからです。 第四に、兄弟(または姉妹)が不在で[彼または彼女に対して悪言がなされたとき]幻滅してはなりません。 神はこう言われました。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱجْتَنِبُواْ كَثِيرًا مِّنَ ٱلظَّنِّ إِنَّ بَعْضَ ٱلظَّنِّ إِثْمٌ

「おお、信じる者よ!一部の推測は罪であるため、ほとんどの推測は避けてください[幻滅、否定性、憎しみ、そしてそれらのようなものに導き、それがあなたを破壊的な道に導くため]。」 (クルアーン、49章、12節)

第五に、神がそれを禁じているので、目の前でリハーサルされたことを聞いたときに、より多くの情報を見つけることに興味を持つべきではありません。 彼は言った:

وَلَا تَجَسَّسُواْ

「そして、お互いをスパイしてはいけません[または、人々が明らかにされたくない他人のプライベートな事柄や望ましくない事柄を探ろうとする無駄な好奇心を抱いてはいけません]。 (クルアーン、49章、12節)

第六に、たとえば「あれやこれやの人(物語の持ち主)が、あんな人(望ましくない事柄が暴露されている人)について私にこう言った」と言うことを禁じているのと同じ事柄に巻き込まれるべきではありません。

ウマル・ビン・アブドゥル・アジズ(神の憐れみあれ)は、ある男が彼のところに来て、別の人について何かを言い始めたが、彼は彼にこう言ったと言いました。 もしそれが嘘であることが判明したら、あなたはこの[クルアーン]の聖句に「もし罪人が知らせを持ってあなたのところに来たら、それを徹底的に調べなさい」と言っているようになり、もしそれが本当なら、あなたは[クルアーン]の「そのような人は、嘲笑し、物語を言う軽薄な人である」という聖句のようになるでしょう。 第三の状況は、私があなたを許すということです。」その男は言った、「おお、信者の指導者よ! 許してください、

私は間違いを犯しました、そして二度とこの間違いを犯すことはありません。」 伝承によると、賢者の友人が彼に会いに来て、別の友人について何かを話し始めました。賢者は言った、「あなたは何日も経ってから来て、来るとすぐに三つの罪を犯しました。第一に、あなたは私と私の友人の間に敵意を植え付けました。第二に、あなたは私の静かで空虚な心と精神を苦痛と落ち着きのなさで満たしました。第三に、あなたは自分自身の誠実さ[と信頼性]を傷つけた」と述べた。 ハサン(神が彼に憐れみあれますように)はよく言っていました:「他人について語りをする者は、他の誰かにあなたに対して語りをするでしょう」。 それは、物語の持ち主が嘘をつく、陰口を言う、いたずらをまき散らす、不誠実、欺瞞、偽善、嫉妬、イスラム教徒[または誰か]の間に不和をまき散らすなどの重大な罪を犯したため、信じられ、真実と見なされるに値しないという事実をほのめかしています。 そのような人は、神から維持するように命じられた[愛、友情、調和、平和的共存の]絆に終止符を打ち、代わりに地上(世界)に無政府状態と混乱(*ファサド*)を広めることに熱心です。 神はこう言われます。

وَيَقْطَعُونَ مَآ أَمَرَ ٱللَّهُ بِهِۦٓ أَن يُوصَلَ وَيُفْسِدُونَ فِى ٱلْأَرْضِ

「彼らは、神が[無傷]に保つように命じられた[相互愛、友情、調和、平和共存の]絆を断ち切り、[代わりに]世界に混乱を広げます。」 (クルアーン、13章、25節)

別の聖句で、神はこう言われています。

إِنَّمَا ٱلسَّبِيلُ عَلَى ٱلَّذِينَ يَظْلِمُونَ ٱلنَّاسَ وَيَبْغُونَ فِى ٱلْأَرْضِ بِغَيْرِ ٱلْحَقِّ

「責任は、人々に残酷さと抑圧を解き放ち、(彼らの有害な行動に対して)権利も正当化もない世界で反抗的な人々にのみあります。」 (クルアーン、42章、42節)

たとえ物語を伝える人が真実であっても、そのような人は他人の尊厳に気を配らず、[私的な事柄を]隠すために行動しなかったため、その人は謙虚さを欠いているわけではありません。 一部の人々は、物語は嘘、嫉妬、偽善で構成されており、これら 3 つの特徴は屈辱 [そして物語の持ち主にとっての卑さ] の要素であると言います。 要約すると、物語の持ち主の悪は巨大であり、それから身を守る必要があります。

17番目の害 – 二面性のある態度または偽善: 異言の偽善もまた、巨大な[罪]です。 二重話者は、2人の敵間の敵意を大いに利用します。 そのような人が誰に会っても、その

人の誠実さと支持を保証し、相手の悪口を言います。 2人の対戦相手と会って、両方に有利な発言を控えることはめったにありません。 これは本当の偽善です。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

تجلون من شر عباد الله يوم القيامة ذا الوجهين الذى يأتى هؤلاء بحديث وهؤلاء بحديث

「審判の日には、ある人に何かを言い、別の人に何かを言っていた、非常に悪い状態にある二面性の人が発見されるでしょう」。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッ・ドゥニャ* アブ・フライラの権威による [神が彼を喜ばれますように])

アブ・フライラ(神が彼を喜ばれますように)は、「二面性のある人は神の目には信頼できない」とよく言っていました。 2人の異なる人物と二面性のある会議をするのは偽善であることは誰もが同意しています。 もし、二人の対立者がお互いに抱いている反対を称賛し、(彼らとの別々の会合で)二人に自分の支持を保証するなら、これは二面性の態度です。 同様に、誰かを面から褒めながら、その人がいないときに自分の欠点を指摘し始める場合、これも両面的な態度です。 沈黙を採用するか、正しい人だけを称賛する方が良いし、この賞賛は、たとえ相手の前で行われたとしても、顔でも背後でも同じである必要があります。 アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、エリートや権威の前では、彼らと一緒にいないときは言わないことを言うことを人々から知らされました。 彼は言った:「預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の時代、私たちはそれを偽善だと考えていました」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション タバラニ*)。 勇気があれば、違法なことや悪口をやめるべきです。 能力がない人は沈黙し、心の中では悪いと考えるべきです。

18番目の害 – 賞賛: 場合によっては、賞賛さえ許されないことがあります。 誰かの過ちを語る限り、それは陰口の[禁止に関して]戒めの下にあります。 褒めることには6つの害があります。 そのうちの4つは賞賛された人に関連しており、2つは賞賛された人に関連しています。

賛美する人に関連する4つの害: 第一の害は、賛美する人があまりにも誇張して嘘になることです。 第二の害は、褒めらかしが褒め言葉に含まれることがある、言い換えれば、褒め言葉は本当であっても、褒めた人は心には愛がないにもかかわらず、褒められた人への愛を示したいと思っているか、単に誇示として愛を表現しているだけの褒められた人の特徴について心の中で納得していないことです。 このようにして、人は偽善者になります。 第三の害は、調査していない、または特定の知識や情報を持っていないことを時々言うことです。 ある男性は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の前で誰かを称賛し、彼は彼にこう言いました。

ويحك قطعت عنق صاحبك، لو سمعها ما افلح ثم قال ان كان احدكم لا بد مادحا
اخاه، فليقل احسب فلانا ولا ازكي على الله احدا حسيبه الله ان كان يرى
انه كذلك

「あなたは仲間の首を折ってしまいました(ことわざで言えば、顔を褒めることは、人をほくそ笑んだり、誇り高く傲慢になったり、自己誇大や、魂の病気であるように自分の霊性を損なう他の同様の内面の破壊的な性質に巻き込まれるため、非常に破壊的になる可能性があることを暗示しています)!もしそれを聞いても、人は救いを得ることはできません[あなたの賛美の結果として魂の病気を発症したでしょう]。 もしあなたが兄弟を称賛する必要があるなら、「私はこのように考えており(確実性ではなく推測をほのめかしています)、神が彼の[本当の]知識者である[そして、神が個人の内なる存在のあらゆる繊維を知る者であるように彼の内なる現実]として、神の前で彼の純粋さを証明しません」と言います。 この[骨抜きの]賛美[問題の真実を知ることが神に帰される]ことは、その人がそのようなものであることを[確実に]知っているときに行われるべきです。」 (この伝統は、*ハディースは*、アブ・バクラの権威に基づいて*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

この害は、証拠(証拠)によって知られている明確な特徴に関連しており[したがって、それらについては確信の要素があります]、たとえば、特定の人は神を畏れ、正しく、[世俗性から]禁欲し、慈善を与える人であると言うことです。 これらの特性が隠されていることは明らかであり、それらは個人の内面に関連しており、私たちはそれらを[確実に]知る方法を持っていません。 しかし、「夜明け前の夜明け(*タハジュド*)の祈りを捧げる人を見たり、巡礼をして慈善を施す人を見た人を見た」と言うのは正しいが、これらの事柄は確実で直接守られているからだ。 正義と神が定めた運命を受け入れることは、その人の内なる存在に関連する問題であり、自分の内なる存在に関連するテスト(試練と苦難)なしにそれらについての知識を持つことは不可能であるため、誰かを正義と呼んだり、神の運命(カダ)に同意したりすることも正しくありません。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、ある男が他の人を褒めるのを聞いたので、彼に尋ねました。 彼は「いいえ!」と答えました。 彼は再び尋ねました、「あなたは朝と夕方の隣人ですか?」 彼は再び「いいえ!」と答えました。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「私は神に誓います!私の意見では、あなたは彼のことを知らない。 あなたは知識も調査もせずに彼を称賛しています。 人の[内面の]特徴は、旅行、取引、親密さの中で常に明らかになりますが、あなたは旅行中の彼の仲間でも、隣人でも、売買に関連して彼と取引をしたこともありません。 何を根拠に彼を褒めているのですか?」 第四の害は、たとえそれが[神聖な神の律法において]違法であるにもかかわらず、賛美をもって賛美する人が抑圧者や悪行者に幸福の機会を与えることです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ان الله تعالى يغضب اذا مدح الفاسق

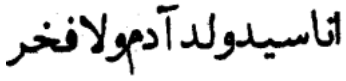
「まことに、悪を行う者が称賛されると、神は不快に思われる」。 (この伝統は、 *ハディースは、アナス・ビン・マリク[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいてイブン・アビ・アド・ドゥニャとバイハキを集めています*)

ハサン(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「抑圧者の長寿を祈った人は、この世で神に不従順な継続的な行為が長く続くことを願っています。 抑圧者や悪行者は非難と否定に値するため、そのような人は悲しみ、抑圧や悪を控えます。 そのような人は賞賛に値しない」。

賞賛されたものに関連する2つの害:第一の害は、賞賛と感謝が心の中に傲慢(*キブル*)と自惚れ(間違っているかどうかにかかわらず、*ウジュブ*または自分自身を高く評価している、そしてそれは謙虚さの正反対です)の誕生を引き起こすことです。 これらの内なる性質は両方とも致命的で破壊的です[人の内面と精神性にとって、ひいては外的な身体的危害につながる可能性があります]。 第二の害は、人が褒められることに満足するようになり、この誤解が心にしっかりと根付くことです。 この軽信や自分自身への高い評価は、人を[義と善の]行いを行うのを怠惰にし、独善[または自惚れ](*クジュブ*)の病気に感染させ、今は[義と善の]行いをする必要はないという心の認識を生じさせるでしょう。 だからこそ、上記の伝統では、賛美する人について、「あなたはあなたの賛美によってあなたの友人をうまく扱わず、首を折った。それを聞いても、救いを得ることはできません。」

ムトラフ(神が彼に憐れみあれ)は、「他人の舌から自分の賞賛を聞くたびに、私は自分の目には卑くなり、私の自己(*ナフス*)は私に屈辱を負った」と言いました。 ジヤダ・イブン・アビ・ムスリム(神が彼に憐れみあれ)は、「自分の賛美や賛辞に耳を傾ける者は誰でも、サタンはそのような人を高慢と自慢に巻き込むが、信者はそこから救われる」と言いました。 イブン・アル・ムバラク(神が彼に憐れみあれますように)は言いました:「ムトラフとジヤダの両方の言葉は正しいが、ジヤダが言ったことは庶民の心の絵であり、ムトラフの言葉は[霊的]エリート(*アクリヤ*または聖人やグノーシス主義者)の現実である。言い換えれば、庶民は賞賛の結果として誇りを持ち、エリートは謙虚になる」。 褒められた人は義行を怠惰になったり、褒められたりして独善と傲慢さが生まれるが、どちらも殺人が肉体を死に至らしめるように魂を死に至らしめる致命的な病気だ。 賞賛された人が前述の害から保護されているのであれば、それは何も悪いことではなく、そのようなタイプの賞賛は良いことです。 だからこそ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、彼のさまざまな仲間を称賛しました。 預言者の仲間たちは、その

ような賛美によって、彼らの心に誇り、自慢、独善、傲慢の感情が生まれるような、非常に高い性格を持っていた。 代わりに、彼らは神に感謝し、さらに謙虚で卑下していました。 だから、自分の舌で自分を褒めるのは、それに誇りがあるから良いことではない。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「私はアダムのすべての子孫(つまり、太古から終わりまで、地上の最初から最後の人まで)の指導者であり、それには誇りはありません。」 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・サイード・アル・フドリ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ティルミディとイブン・マジャ*を集めています)

言い換えれば、彼は自分の資質を数え、誇りを表現していた他の人のように、プライドや自慢からそれを言っていたのではありません。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の誇り(この文では「幸福」という言葉が使われています)[誇りと自慢の要素なし]は、神との近さと親密さによるものであり、人類の指導者であることや、何よりもまず[神が誰かまたは何かを創造する前に][神に]創造されたことによるものではありません(これは、創造の秘密を解き明かす神秘的な教えの一つです。あらゆる時代のグノーシス主義者が理解しているように、神の照明で照らされたとき、魂の目で理解されます)。ムジャヒド(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「天使はアダムの子供たち(つまり、すべての人間)に同行します。 イスラム教徒が自分の兄弟について良い意味で言及すると、天使は「神があなたもそうしてくださいますように!」と言いますが、悪い意味で言及すると、天使は「おお、人間よ! あなたの欠点は隠されています、そこで止まって、あなたの欠点を暴露してあなたを辱めなかったことに神に感謝の意を表してください。」

賞賛される者の責任: 賞賛される人は、自分の賞賛をほくそ笑んではならず、傲慢さ(*キブル*)や自己誇大(*ウジュブ*)のほこりが心の表面に落ちることを許してはなりません。これは、この世を離れる瞬間が非常に繊細で危険であり、誇示やその他の正義の行いの破壊的な性質が待ち伏せしていると賞賛の時に考えたときにのみ起こり得ます。一瞬のうちに、すべての正しい行いは完全に無駄になる可能性があります。 褒められた人は、褒められた人が気づいていない自分の欠点を吟味すべきであり、そうでなければ決して褒めなかったでしょう。

19番目の害 – 言葉の間違いを伴う怠慢:言葉や会話の微妙な間違いによる怠慢も、特に神の存在と属性に関係し、宗教に関係しているものを[舌の]大きな害であり、そのような言葉は学者や雄弁な人によって正しく発せることができます。 知識と雄弁さを欠いた人々のスピーチには間違いがないわけではありません。 しかし、神は話し手の無知によるそのような間違いを許してくださいます。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、ある男が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところに来て、「神とその預言者が望むことは何でも起こるべきだ」と言い始めたと語っています。 預言者はこう答えました。

اجعلتني لله عديلا بل ماشاء الله وحده

「あなたは私を神のパートナーにしているのですか? [私は神の奴隷であり使者であり、神性における神のパートナーではありません。代わりに、『(神性において)パートナーを持たない神が望むものは何でも』と言うべきです」。 (この伝統は、 *ハディース集 ナサイと イブン・マジャ*)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「あなた方の中には、『犬がいなかったら、夜に私たちの家で盗難があっただろう』と言って犬をパートナーにするような方法で、神とのパートナーを帰属させる人もいます」と言いました。

ウマル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

ان الله تعالى ينهاكم ان تحلفوا بآبائكم من كان حالفا
فليحلف بالله وليصمت

「神はあなたが先祖の名で誓うことを禁じています。 誓う必要がある人は、神に誓うか、沈黙を保つかのどちらかです。」 (この伝統は、 *ハディース集 Sahih Bukhari と Sahih Muslim*)

これらはいくつかの例です。 スピーチで犯した間違いは、たとえそれらに対する説明責任があるにもかかわらず、一般の人々が見ていない間違いから推測できます。 これらの間違いを理解することは不可能です。 これまで述べた舌の害について熟考すると

、舌を自由にしておくことに安全はないことが明らかになり、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)のこの言葉は知恵に満ちています。

من صمت نجا

「沈黙を守った者は救いを得た」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション ティルミディ*)

これは、舌の[誤用]によるこれらすべての害が致命的であり、自己(*ナフ*)を危険にさらす可能性があるためです。 雄弁さ、知識、神への畏れ、内なる霊的熟考の能力を持っている場合を除いて、話すことには危険しかないため、沈黙を保つことで、個人はこれらの破壊や危険から守ることができます(*ムラカバ*)。

20番目の害 – 素人の質問: 素人は神の属性(神の資質)についてあらゆる種類の質問をし、神の言葉や手紙や言葉について尋ねるため、これは大きな害でもありますが、信徒が持つ唯一の権利はクルアーンからの神の戒めに従うことです。 それは、行動や行為が自己(*ナフ*)に負担をかけ、舌と心が無駄な議論の味を感じるからです。 だからこそ、そのような人々は、知識の扉をノックするのが見られましたが、知識には少しも適していません(つまり、知識があるふりをしているのに、少しも知識がないのです)。 サタンは彼らを挑発し、「あなたがたは学者であり、(知識において)祝福と卓越性の持ち主であり、価値のある意見を持っているので、それを[公共の利益のために]表明すべきである」と説得します。 時々、サタンはこれらの自称「学者」から、純粋な不信感であり、彼らが発したナンセンスにさえ気づかない言葉を引き出します。 素人にとって、これらの知的議論は、特に神の存在(*Dhat*)と属性(*Sifat*)に関連する罪よりもさらに危険です。 彼らの仕事は、議論、議論、躊躇することなく、クルアーンに啓示されていることを信じ、神の崇拝に従事することだけです。 自分の心では理解できない微妙な知識のポイントについて話す人も、他のトピックについて優れた話し手を持っているにもかかわらず、素人のようなものです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ذرونی ما ترکتکم فانما هلک من کان قبلکم بکثرة سئوالهم
واختلافهم علی انبیاءهم ما نهیتکم عنه فاجتنبوه وما امرتکم
به فاتوا به ما استطعتم

「私があなたに知らせていないことは、私に任せてください。なぜなら、あなた以前の人々は、かつてはたくさん質問し、預言者と意見が異なっていたために破滅したからです。 私があなたに控えるように頼んだこと、それから離れるように頼んだこと、そして私があなたに命じたことは、あなたができる限りのことをしてください。」 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・フライラの権威に基づいて*サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム*を収集します[神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はさらにこう言いました。

يوشك الناس يتساءلون حتى يقولوا قد خلق الله الخلق،
فمن خلق الله؟ فاذا قالوا ذلك فقولوا قل هو الله احد الله الصمد
حتى تختموا السورة ثم ليتفل احدكم عن يساره ثلاثا و
يستعذبا لله من الشيطان الرجيم

「(過度の)質問の過程で、人々は『神が創造物を創造したなら、誰が神を創造したのか?』と言い始めるように私には思えます。 もし人々が彼らに「神は唯一であり、神は何も、誰も必要としていない」と伝え、誠実の章(クルアーンから、つまり神の統一について説明する第110章から)全体を暗唱するように頼むなら、あなた方のうちの一人が左に三回唾を吐きかけ、呪われた者であるサタンから神の避難を求めるべきです。」 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・フライラの権威に基づいて*サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム*を収集します[神が彼を喜ばれますように])

[不必要な質問をしないことの重要性は、キズルと預言者モーセ(彼に平安あれ)の物語によっても強調されています(クルアーン、18章、60-82節)]キズル(彼に平安あれ)は預言者モーセ(彼に平安あれ)に、彼自身がそれについて言及するまで何も質問しないよう連れて行く前に、彼を連れて行きました。 預言者モーセ(彼に平安あれ)が驚いた状態で船の底に穴を開けた理由を尋ねると、彼は約束を思い出させました。 預言者モーセ(彼に平安あれ)はそれについて謝罪しましたが、それは3回起こりました。 結局、キズル(彼に平安あれ)は預言者モーセ(彼に平安あれ)との別れを告げました。

宗教に関連する秘密(内なる知恵)や微妙な事柄について尋ねる素人は、困難な状況につながる可能性があるため、大きな害を及ぼします。 したがって、素人がそのような質問をすることを止め、禁止することが義務付けられています(それは彼らが行うべき仕

事をすることを妨げるので)。 彼らの仕事は神の戒めに従うことですが、彼らはそれをせず、代わりに必要のないこと(気を散らしたり障害を引き起こしたりする無駄な質問や議論)に巻き込まれました。 そのような人は神の清算に値します。

第5章 怒り、怒り、辛辣さ、嫉妬によって引き起こされる災難

ガザリの最高傑作*「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の5*冊目の本は、人間の本性に深く根付いた低次の自己のあまりにも身近な病気、つまり怒り、怒り、敵意、嫉妬の病気を扱っています。 個人と仲間の人間との関係や国家や社会間の関係において、魂のこれらの内なる破壊的な性質によって引き起こされる大混乱はすべて自明です。 ガザリは、自己の奥深くに埋め込まれたこれらのネガティブな力の台頭の背後にある理由を深く掘り下げ、最終的にその破壊的な性質を根絶するための治療法を処方します。 ガザリによるこの本の内容は、次のように要約された形でここに提示されています[11]。

怒りは輝く火の火花です。 それはクルアーン章の次の一節が明らかにされた火です。

نَارُ ٱللَّهِ ٱلْمُوقَدَةُ ٦ ٱلَّتِى تَطَّلِعُ عَلَى ٱلْأَفْـِٔدَةِ ٧

「それは神によって灯された火であり、(人間がその害を認識し、自分の利益のためにそれを克服しようと努力できるようにするためのテストとして)[狂ったままにしておくと]心に届くでしょう。」 (クルアーン、第104章、6-7節)

この火は灰の中の火花のように心の奥深くに隠されています。 火の石をこすりつけると火が現れるように、同様に傲慢の火の火の石を少しでもこすると怒りの火が燃える。知恵の人々(*バセラ*)と霊的な啓蒙(*ムカシャファ*)は、人間の一脈がサタンにまで伸びているという確信の光を持ってこの現実を認識してきました。 極度の怒りの発作を受ける人は、自分がサタンに近いと主張する人です。 [謙虚さを象徴する]塵の素晴らしさは、落ち着き、落ち着いて、威厳を保つことにあり、火の素晴らしさは[邪魔になるものを広げて燃やす]点火し、活発であり続けることにあります。 したがって、人間が怒りに征服されている場合は、そのような人は自分の構成にほこりが少なく、火が多いこと

を理解してください。 敵意と嫉妬はどちらも怒りの結果であり、どちらも非常に破壊的です。 それらは破壊を広げる原因であり、混乱と騒動の原因であり、心は彼らの所在であり中心です。 心臓は肉片であり、健全なときは[人間の]体の管理全体が正しく機能し、欠陥があるときは体のシステム全体が機能しません。 このことから、3つすべてが破壊的であることがわかります。だからこそ、私は、霊的な道を歩む旅人や努力家に、彼らの本質的な破壊性を知らせ、これらの悪い特徴が彼らの心に根付いている場合に備えて、彼らを根こそぎにして治療することができるように、彼らがそれらから身を守ることで前進できるようにすることが適切かつ適切であると考えました。 悪について知らせることも、悪に気づいていない人が悪に巻き込まれるので必要です。 悪に対する予防戦略に気づかない限り、悪に気付くだけでは十分ではありません。 この本の次の章[「怒り、怒り、辛辣さ、嫉妬の害」と呼ばれる]では、怒り、怒り、辛辣さ、嫉妬の害について説明し、それらから身を守るための戦略について説明します。

怒りと怒りの非難

神はこう言われます。

إِذْ جَعَلَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ فِى قُلُوبِهِمُ ٱلْحَمِيَّةَ حَمِيَّةَ ٱلْجَٰهِلِيَّةِ فَأَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ وَعَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ

「不信者が心の中で敵意と怒りに場所を与え、その敵意と怒りも無知から生まれたとき、神は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)と信者の心に静けさと寛容を降らせました。 それは紛争をさらに激化させ、制御不能に陥り、関係する人々や国家に不利益をもたらすだけです。 (クルアーン、48章、26節)

アブドゥッラー・ビン・マスード(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が「あなたたちは誰が強くて力強いと思いますか」と尋ねたと語っています。 私たちは「レスリングで負けない者」と答えました。 同氏はこう述べた:「そうではありません。 強くて力強いとは、怒りの時に自分の[低等な]自己(ナフ)を[激しく攻撃したり危害を加えたりすることから]コントロールする人(つまり、怒りを抑え、辛抱強く耐える)人です。」 (この伝統は、 ハディースコレクション *Sahih Muslim*)

アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)がこう言ったと語っています。

من كف غضبه ستر الله عورته

「怒りを抑える者、神はそのような人の過ちを隠してくださり、恥辱と屈辱を引き起こす公の知らしさから」。 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニヤ*)

あるグノーシス主義者は息子にこう言いました。知性(明晰な理性思考と健全な精神状態)は、怒りの時に[所定の位置]にとどまりません。 最も知的な人には、最も怒りが少なくなります。 怒りがこの世のためであるならば、それは詐欺であり欺瞞であり、来世のためであるならば、それは寛容と知恵です。」 怒りは知性の敵であるとも言われています。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は説教の中で、「あなた方の中から、貪欲、低次の自己からの欲望、怒りを控える人は救いを得るでしょう」とよく言っていました。 あるグノーシス主義者は、「[自分自身の]欲望と怒りに従属する人は、この2つの悪い内面の特徴がそのような人を地獄に押しやる」と言いました。

怒りの現実: 神は動物[および人間のようなすべての生き物]を、その内的および外的原因によって終焉を迎えるように創造されました。 神は動物の身体的構成に従って栄養を創造し、その中に動物がニーズに応じて食べるように栄養への欲求を創造し、それによって自分自身が絶滅するのを防ぎました。 剣やその他の武器などの危険に関しては、外的要因や原因が存在します。 神は人間の中に、自分の身を守るために使用し、これらの害から守ることができる力を創造しました。 神は火から怒りの力を創造されました。 自分の希望に反する何かに出くわしたり、自分の目的から妨げられたりすると、その火が点火し、炎が激しくなり、心臓の血がエネルギーになり、[心臓]のすべての静脈に広がります。 火の炎が上向きに立ち上がったり、鍋の沸騰が上向きに上がったりするように、ガラスの中の物体のように血の赤みを表現する肌の柔らかさと明晰さによって、個人の顔と目が赤くなります。 これは、(物理的、政治的、物質的、社会経済的権力の観点から)地位の低い人に腹を立て、自分が復讐できると知っているときの状態です。 より高い地位の人に腹を立てて復讐することができなければ、血は広がるどころか外皮から心臓に集まり、憂鬱と悲しみの原因になります。 それがこの状態で顔が青ざめる理由です。 同じランクの人に腹を立てると、これらの状態の両方が外見的に表現されます-顔は時々赤くなり、時には青白くなります。 これが摂動の状態です。

目に見える怒りの兆候: 外側に現れる怒りの兆候は、顔の色が変化し、体が震え始め、手足の行動に秩序とバランスが残らず、泡が口から流れ出し始め、目が赤くなり、鼻が腫れて縮み始め、顔が醜くなることです。 怒った人が怒りの時に自分の顔を見ると、自分の目には縮小(屈辱)され、自分の醜さを恥じて怒りがすべて消えてしまうでしょう。 怒りが体に悪影響を及ぼし、顔が醜くなった場合、それが内面にどれほどひどい影響を与え、どれほどの外形を損なうかを考えるべきです。 外側の存在は、内なる存在のタイトルであり、鏡に映ったものです。 まず、内面の存在が劣化し、次にこの劣化が外見に向かって移動します。 外観の変化は、内部の変化の成果であり、結果です。 怒りが舌に与える影響は、個人が呪いをしたり、非常に汚い言葉を使い始めたりするの

で、敏感でまともな人がそれを聞くと、恥に襲われます。 怒りの状態になく、怒りが消え、自分の怒りの状態を思い出し、ナンセンスで下品な言葉を発し、下品な言葉を正しく発することができず、文章の論理的な順序を保つことができず、代わりに、何の意味も持たないほとんどの言葉を発するなら、自分自身はそれらを発することを恥じるでしょう。

怒りの節度: 怒りをまったく持たないことも望ましくありません。 その怒りは、知性と神の道(*ディーン*)に従属するものであり、自己主張が必要なとき(たとえば、あからさまな虐待、残虐さ、抑圧が見られる状況では)現れ、忍耐が必要なときには来ません。 それを節度の範囲内に収めるのは、*神がしもべたちに責任を負わせ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)によって次の言葉で称賛された*忍耐力(イスティカマ)です。

خير الامور اوساطها

「最良の問題は、節度の範囲内にあるもの(人生のあらゆる問題において極端や過激主義を避ける)です」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション バイハキ*)

臆病者が勇敢になったときでさえ決して怒らない人は、自分自身を治すべきです。 同様に、怒りが[節度、道徳、倫理、善良な態度の]限界を超えている人も、過度の怒りと中程度の怒りを区別できるようになるまで、治療法を必要としています。 言い換えれば、怒りは、不在(または不足)と過剰の両方で治癒する必要があります。 良い状態とは、クルアーンによって「忍耐のまっすぐな道」(*シラト・アル・ムスタキーム*)(クルアーン、第1章、6節)として説明されている節度の状態であり、この「忍耐のまっすぐな道」は髪の毛よりも細く、剣よりも鋭い[すべての両極端の間のバランスと節度の道は繊細で固執するのが難しいことを示しています。 人間の気質が穏健の中間の道から、人間の存在のあらゆる問題において極端な傾向と立場へと方向転換するにつれて]。 節度の状態に到達できない人は、絶望に屈するのではなく、できるだけ節度に近づくように努めるべきです。 すべてを良い方法で行うことができない人が、すべてを悪い方法で行う必要はありません。 悪の中には他の悪に比べて軽いものもあれば、他の善よりも優れているものもあります。 だからこそ、できるだけ善を行い、悪を防ぐことに寄り添うべきです。 善を行う成功と能力(*タウフィーク*)は神のみによるものです。

怒りは霊的な努力によって根絶または軽減できますか?

愛するものがひったくられたり、盗まれたり、破損したりした場合、人は必然的にそれに腹を立てます。 好きなものには3つのタイプがあります。 第一種類には、食べ物、住居、衣服、健康など、すべての人に必要なものが含まれます。 誰かが体を傷つけたり傷つけたりするために殴った場合、体(または外の存在)を守ることが不可欠であるた

め、そのような人に対して怒りを持つべきです。 自分の生存に不可欠なものが破壊されることを好む人は誰もいませんし、そのような不利益に対して怒りを持つべきです。 人が愛する2番目のタイプのものには、名声、権力、豊富な富、使用人、乗り物など、人間にとって必須ではないものが含まれます。 しかし、人々は[伝統的に]習慣と無知のためにそれらを不可欠であると考えており、それらのいずれかを失うと、悲しみと悲しみの激しさが非常に大きくなり、その結果、彼らの喪失と、その喪失を引き起こしたと認識した人々に対して怒るほど彼らを愛してきました。 人が愛する第三の種類には、ある人にとっては不可欠で、他の人にとっては不可欠ではない事柄が含まれます。 たとえば、本は学者にとって不可欠であり、だからこそ学者は(専門分野として)本が大好きなので、本を引き裂いたり、燃やしたり、沈めたりすると怒ります。

[怒りを抑えるための]霊的な努力は、人が愛するこれら3種類のものにどのような影響を与えるのでしょうか? 最初の種類では、霊的な闘いは怒りを根絶するために行われるのではなく、代わりに心がもはや怒りに従属せず、表向きは神の法と知性が好む範囲でのみそれを使用するように行われます。 これは、霊的な闘争(*ムジャハーダ*)と、寛容と寛容が第二の天性になるまで、しばらくの間、それに対処する際に忍耐と忍耐を用いて試みることによって可能になります。 心から怒りを完全に取り除くことは、人間の気質が要求することではなく、不可能ですが、その強さを終わらせ、その強さを減らすことは可能であり、内面に動揺がなく、外側には、誰も怒りの現状を見てもわからないほどの効果をもたらすはずです。 それは困難な霊的闘争ですが、不可能ではありません。 努力を続ければ、(怒りを抑える状態に到達する)失敗の理由はありません。 同じことが第三の種類のものにも当てはまりますが、最初の種類のもの(すべての人間にとって普遍的に不可欠なもの)のように、一部のものにとって不可欠なものもあります。 霊的な闘争の結果として、両方のタイプのものに同じ効果が見られます。

第二のタイプのものに抱く怒りは、これらのものへの愛を心から取り除き、自分の故郷が墓であり、最終的な住処は来世であり、この世界は来世の住まいに到達するための架け橋にすぎないと自分自身に納得させることによって、霊的な闘争によって完全に根絶することができます。 あるいは、世界は、次の旅と、自分の恒久的な目的地である次の駅に進むために必要な頼り(食料)を集めるために、しばらく滞在する[途中降機]駅にすぎません。 それ以外(つまり、次の旅のために集められた食料)は、墓でも来世でも何の利益もない人に負担がかかります。 人は世俗的な所有物から無関心と切り離し、その愛を心から取り除くべきです。 自分の犬への愛情がなければ、誰かが犬を殴っても怒ることはありません。 それは、怒りが愛[および何かへの執着]に従属することを示しています。 このようなことに対する霊的闘争の目的は、怒りを完全に根絶することです。 しかし、それが起こることは非常に困難であり、むしろ怒りを弱めたり、その意味に基づいて行動を起こさなかったりする方が簡単です。 たとえそれが達成されたとしても、人は満足することができます。 神の全能性と一体性(*タウヒード*)に支配され、すべてを神の力と特権の中にある神の贈り物と考える個人は、[神の]創造物に怒ること

はありません[神はすべての事柄の究極の処分者であり、それが良いか悪いかにかかわらず、何も届かないことを知っているので、 神の許可がない限り]、人は、被造物自体には独自の特権を持たず、ペンが作家の手に征服されるのと同じように、それらはすべて神の力と全能によって征服され、征服されているという信念を持っているからです[したがって、書いているのはペンではなく作家であり、ペンは作家が望むことをしているだけです]。 このことから、怒りは神の唯一性と全能性(*タウヒード)の支配の結果として根絶され、神(*フスン・アル・ドゥン)に対して良い意見を持つこと(フスン・アル・ドゥン)(*たとえそうは見えなくても、神は人にとって良いことだけをしてくださるという信念)を持つことも、何が起こっても理解しているので、この点でも効果的であることがわかります。 神から来ており、神が人に何をしても、空腹や喉の渇きを保つこと、怪我をすること、あるいは誰か(または何か)によって命を落とすことであれ、良いことです。 この信念の後、血を抜いた人に誰も怒らないのと同じように、怒る理由は残りません(健康の維持と与える目的で行われると信じられている医学的な理由から)。

この議論の結果は、世界を心から完全に取り除くという怒りの火から身を守る方法はただ一つであるということです(ガザリが「世界」という言葉を使う場所はどこでも、彼は人間存在の本質である心を破壊する世俗的な執着や心のもつれに言及しています。 そして、ガザリが世界は永遠の幸福と無限の勝利を達成するための手段であると繰り返し述べているように、彼は世界そのものについて言及しているわけではありません)。 それは、[真理の道を歩む]探求者(霊的旅人)がこの世の害(つまり、世俗的な執着や心のもつれ)に気づいている場合にのみ可能です。 世俗性の非難の説明は、これらの害が解明される場所で間もなく発表されます。 ここでは、心にこの世の愛がなくなった人は、怒りの理由のほとんどから守られるようになるということを知らせるだけで十分です。 完全に排除できない理由は弱めることができますが、それらを弱めると怒りが弱まる可能性もあります。 私たちは、この努力[怒りを根絶または弱める]努力において、正しいこととその結果としての成功(*タウフィーク)を行う能力の美しさを神に求めます。

怒りの原因

これは、病気を治す方法は、その物質と原因を根絶することであることは、今ではよく知られています。 ヨハネ(ヤヒヤ[神の祝福と平安あれ])はイエス(神の祝福と平安あれ)に尋ねました。 彼は「あなたの怒り」と答えた。 ヨハネは「なぜ怒りが起こるのか、そしてその栄養の原因は何ですか?」と尋ねました。 イエスは答えた:「傲慢さ、衝動性、名誉と名声への欲求。 怒りの強さを高める要因は、傲慢さ、嘲笑、誇張、挑発、会話の中断、厳格な主張、物質的な所有物や名声への貪欲などです。」 これらはすべて、悪くて破壊的な道徳、マナー、気質、内面の気質の管轄下にあり、神の律法で非難されています。 これらの理由が存在すると、怒りを取り除くことは不可能になります

。 だからこそ、怒りの原因の中から1つまたは複数ある場合、それらは反対の原因によって対処され、軽減される必要があります。 したがって、傲慢さは、*自分の低級な自己(*ナフス)の非難を通じて謙虚さ、独善、自己誇大*(ウジュブ*)を植え付けることによって取り除かれるべきであり、プライドは、他の人も人間であり、他のしもべと同様に神のしもべであるという信念によって取り除かれるべきです - [世界の]すべての人々は実際には同じ父親の息子と娘です[そして]母、つまりアダムとイブ]は後に[地理的、文化的、言語的、人種的、部族的、宗教的、民族的境界線に沿って互いに]引き離され、彼らの間に[統合と調和を妨げる]違いの壁が現れましたが、人間性においてはすべて平等です。 プライド(この文脈で使用される言葉は、その人の内なる幸福と喜びの意味であり、「プライド」そのものではありません)は、内なる卓越性[善良で、健康で、建設的で前向きな道徳、マナー、気質、内なる気質であり、その人の内なる存在と真の現実、つまり心と魂の特徴である]にあるべきです。 自惚れ、傲慢、プライドは、悪い内面の悪の根源であり基盤となる破壊的な悪であり、それらが欠けていなければ、あなたは他の人よりも絶対に優れていません。 プライドはあなたには合いません。 あなたが誇りに思っている他の人と比較して、どのように、どのような点であなたよりも劣っていますか? あなたが鼻、耳、目を持っているのと同じように、それらは同じ器官を持っており、同じ父親(アダム[彼に平安あれ])の子孫であり、あなたもその子孫です[したがって、彼らはあなたの兄弟姉妹です]。 ユーモアは、信仰の実践に関連する深刻な問題[卑劣で卑劣な内面の資質、気質、傾向を根絶し、生涯にわたる勇敢で粘り強い闘争を必要とする高い道徳、マナー、資質、気質、気質に置き換えるための道徳的正しさと霊的闘争を要求する]ことに関与することで根絶され、無駄な努力(他人を嘲笑したり見下したりするなど)にふける時間さえ得られなくなります。 人は、内なる卓越性(*ファダーイル*)、善良な道徳、マナー、内面の気質(*イフラク・アル・ハサナ*)、宗教的知識[これらの高貴な目標に導き、魂の洗練と浄化をもたらし、まず人間を調和させ、人間らしくし、次に人間を近づけ、グノーシスである人間の達成の頂点に導く(*マリファ*)は、これらのことが人を死後の世界での永遠の幸福と無限の成功(サーダ)に連れて行ってくれると信じています。 嘲笑に関しては、私が他人から嘲笑の対象になることで苦しむのと同じように、他の人も私に嘲笑されることに悩まされなければならないので、誰も嘲笑されるべきではないことを覚えておく必要があります。 欠点を見つける習慣は、自分の舌から悪い言葉を発さないことによって放棄することができます、そうでなければ[悪い欠点を見つける方法で]話しかけられた人も舌を保持します。話しかけられた人が、さらに厳しいことを言うことになる可能性があります。 貪欲の激しさを根絶することは、私たちが本当に必要としているものだけで満足することによって可能です(現実的でさえないかもしれない知覚されたニーズとは対照的に)。 満足感と不必要なものへの気づきに尊厳がありますが、[誰かまたは何か]を必要としていることには屈辱があります。

これらの[否定的で非難されるべき]内面の特徴、気質、傾向、マナー、気質の中から、いかなる特性に対しても治療することは簡単ではありません。 代わりに、苦難と激しい内なる霊的闘争に耐える必要があります。 この内なる霊的闘争の目的は、まず、こ

れらすべての邪悪な内面の特徴、気質、傾向、マナー、気質、卑劣な習慣の害に精通し、心がそれらに嫌悪感を抱き、その悪が透き明瞭になることです。 その後、人はこれらの卑劣で邪悪な内面の特徴、気質、傾向、マナー、気質の反対に行動し、それらが第二の天性になるまで、そして習慣になり、行動するのが難しくなくなるまで、粘り強く行動し続ける必要があります。 怒りを取り除くためには、自己(*ナフ*)がこれらの内なる悪を浄化することが不可欠です。

無知な人は別の理由で怒りを抱きます。 これらの哀れな人々は、無知と理解の欠如から、怒りを表わすことには男らしさ(大胆さと大胆さ)と勇気があり、怒らない人は「男」と呼ばれるに値しないと考えています。 そのような人々は、怒りを自尊心、高い願望、尊厳と解釈し、自己が怒りに傾き、それを良いと考え始めるまで、怒りに良い名前を付けます。 怒りを自尊心と勇気と呼ぶのは無知であり、むしろそれは心の病気であり、知性の欠陥の表れです。 その議論は、病気の人は健康な人よりも怒るのは、そのような人は心が弱いからだということです。 礼儀正しく正義の人よりも、礼儀正しく性格の悪い人は怒りの餌食になります。 それゆえ、一粒の食料のために卑しい者が、一粒の穀物のために守銭奴は怒る。 これらの無知者に治療を施す方法は、彼らに義人の寛容、寛容、許し、寛大さの伝統を伝え、彼らが怒りを抑えていたことを伝えるべきです。 そのような伝統は、預言者、聖人、グノーシス主義者、賢者、学者、優れた指導者からも来ていますが、反対の伝統は無知者や愚か者からも来ています。

扇動後の怒りの治療法

これまでの議論の結果は、怒りの原因を押しのけ、その本質的な理由を根絶して、間違った方法での怒りが決して起こらないようにするべきだということです。 ここでの目的は、怒りが生じた場合に何をすべきかを説明することです。 人はその意味に基づいて行動すべきでしょうか、それとも忍耐力を持ち、自己(*ナフ*)が怒りの意味に基づいて行動するのを防ぐべきでしょうか? 後者は知性の表現であり、それは偉大な精神的な努力であり、その集大成は知識と行動を通してあることは明らかです。

知識による怒りの根絶: 次の6つの問題は、[怒りの根絶に関連する]知識の核心です。 **第一に**、怒り、許し、寛容を抑制することの優位性と卓越性について、過去の出来事や伝統について熟考し、熟考し、その結果、これらの卓越性を達成したいという願望の目覚めです。 この欲求は、人が復讐することを抑制し、怒りの火を消します。 マリク・イブン・アウス・イブン・アル・ハッタンは、かつて[カリフ]ウマル(神が彼を喜ばれますように)誰かに腹を立て、(彼が犯した犯罪のために)判決を命じたと語っています。 その男はこう言いました。 [クルアーンから]この聖句を考えてください。

خُذِ ٱلْعَفْوَ وَأْمُرْ بِٱلْعُرْفِ وَأَعْرِضْ عَنِ ٱلْجَٰهِلِينَ

『赦しを実践し、善行を行い、無知を避けるよう人々に勧めなさい』」 (クルアーン、第7章、199節)

この伝統の語り手は、ウマル(神が彼を喜ばれますように)がこの聖句を繰り返し読み、その意味について熟考していたと述べています。 それが彼の日課だった。 クルアーンの意味と理解を非常に熟知していたにもかかわらず、彼はクルアーンについて熟考し続けました。 したがって、この聖句は彼に熟考を促しました。 その結果、男性は猶予を受け、そこから抜け出した。

第二に、人は自分の低次の自己(*ナフ*)に[神の正義による自分の悪行に対する]神の報復を恐れさせ、神は人が他の人に対して持っている力よりもはるかに大きな力を持っていることを伝えるべきです。 もし私が他の人に怒りをぶつけようとすると、審判の日に(神の)許しと憐れみをより必要とする審判の日に、神の怒り(他人に対する私自身の不正や行き過ぎに対する)の怒りを避けることができないかもしれません。 神が啓示したいくつかの聖典には、神がこの啓示を送ったと刻まれています。 あなたが怒るとき、わたしを思い出してください、わたしは[あなた自身の悪行のせいで]あなたがたを不快に思ったとき、あなたを思い出し、[彼ら自身の行き過ぎと良識と公平さの限界に対する違反のせいで]滅びる運命にある人々の中にあなたを含めません。」 賢者(賢者)はイスラエルの子らの王たちに必ず同行していたと語られています。 王が怒るたびに、賢明な仲間は「貧しい者を憐れみ、自分の死を恐れ、来世を思い出しなさい」と書かれた羊皮紙を王の前に掲げていました。 キングはこの文章を読んで落ち着いていました。

第三に、敵意と復讐の影響、そして敵意の結果としての苦しみと困難について、私が怒る相手が私の敵となり、私に迷惑をかけようとすることを心配する必要があります。 しかし、世俗的な配慮、苦しみ、困難のために怒りを抱かないことにも、世俗的な生活を心のこもった状態に保ちたいという欲望と願望があるため、危険がないわけではありません。 これは確かに来世の行為ではなく、怒りに欲望を押し付けているのです。 怒りと同じように、欲望も悪です。 だからこそ、世のため(楽しい世俗生活)のために怒りを抑えても、(神から)一つの報酬も得られないのです。 世俗的な心配事が心と体の平和を妨げているなら、それを取り除くことは確かに神の報酬をもたらすでしょう。

第四に、人が怒っているとき、人は自分の外見の醜さを想像すべきです[怒りは人を醜く見せる主な要因であるため]。 怒りの時に人の顔が歪むように、私自身の顔も歪んでいたでしょう。 このようにして、怒りの嫌悪感が心に生まれます。 また、怒る人は狂犬や獰猛な野獣に似ており、寛容で寛容で怒りにくい人は、預言者、聖人、賢者に似ていると考えるべきです。 そのとき、犬、獣、邪悪な人に似せたいのか、預言者や学者に似せたいのか、この選択を自分の低次の自己(*ナフ*)に提供する必要があります。 もし

自己(*ナフス*)が一粒子分の良識と信仰をその中に存在させるなら、それは確かに学者や預言者に従う傾向があり、(怒りの狂気の中で)犬に似たくは決してないでしょう。

第五に、復讐に誘い、怒りを抑えるのが難しいように思える理由について熟考する必要があります。 怒りは理由もなく来るわけではないので、明らかに理由はあるでしょう。 例えば、その理由は、サタンが人に復讐を扇動し、「怒りを抑えて復讐をしないと、人々はあなたに無能で敗北したと宣言し、侮辱し、侮辱し、あなたを卑劣と見なすだろう」という考えを心に植え付けているからかもしれません。 それが理由であるなら、人は自分の低次の自己(ナフス)にこう言うべきです、「あなたは世俗的な生活の屈辱と恥辱を好まず、それを避けるために復讐する傾向がありますが、審判の日に、人があなたの手をつかみ、あなたから復讐を奪い、あなたはそれができないでしょう。何か。 あなたは人々の目には衰えることを恐れていますが、預言者、聖人、天使の目には衰えることを恐れていません。 怒りは神のために取り除かれるべきですが、あなたは[仲間の]人間に何を必要とするのでしょうか? 屈辱と名誉は彼らの手の中にあるのでしょうか? 誰かがあなたを抑圧しても、この抑圧は審判の日に抑圧者にとって大きな屈辱の源となるので、復讐してはならない。 神から支払われるべき報酬が誰であれ、立ち上がるべきと宣言される審判の日に立ち上がるのが好きではありませんか?

第六に、「私の怒りは、なぜあることが私の願いや欲望に従って起こらなかったのか、なぜそれが神の意志と意図に従って起こったのか、[私の本当の信念は]本当に表れているのです。 どうして私の目的が神の目的よりも優れているのでしょうか? 神が望まれる場合にのみ起こります。 私の怒りと短気さの結果、私はこれに対する罰に直面し、神の報復を受けることになるでしょう。」

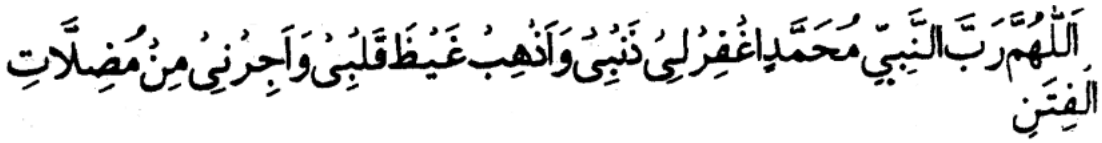
行動による怒りの扇動の根絶:たまたま怒ったら、舌でこう言うべきです。

أعوذ بالله من الشيطان الرجيم

「私は呪われた者であるサタンから神の避難所を求めます」。

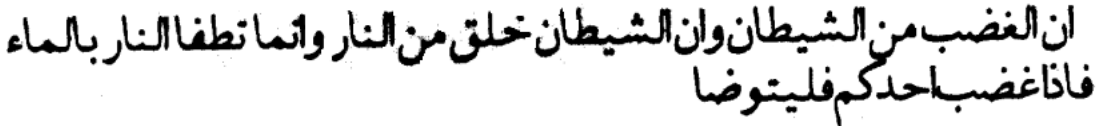
預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、怒るときにそのように言うようにアドバイスしました。 (この伝統は、 *ハディース*がスレイマン・イブン・サードの権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を収集[神が彼を喜ばれますように])

[預言者の妻]アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)が怒ったとき、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は[愛情のしるしとして]彼女の鼻をつかんで言いました。[神に嘆願して]このように言ってください。



おお神様! ムハンマドの主よ! 私の罪を赦し、心の怒りを取り除き、誤った導きに導く試練や苦難から私を守ってください。」 (この伝統は、 *ハディース集 Ibn as-Sunny fi al-Youm wa al-Layla*)

この嘆願(祈り)は怒りの時に行うことをお勧めします。 この後も怒りが残っている場合は、集まりを変え、立っている場合は座り、座っている場合は横になり、自分が創造された場所の地球に近づく必要があります。 *ナフス*). 怒りの原因は熱であり、熱は動きによって引き起こされるため、座ったり横になったりすると心が静かになるという便宜(知恵)があります。 動きが止まると熱が消え、怒りも終わります。 この戦略で怒りが終わらない場合は、予言の伝統で語られているように、火は水で消すため、清めを行うか、冷水でお風呂に入る必要があります。



「怒りはサタンから来ており、サタンは火から生み出され、火は水によって消えます。どちらかが怒ったら、清め(武都)を行わなければなりません。」 (この伝統は、 アティヤ・アル・サディ*の権威に基*づくハディース*集アブ*・ダウド[神が彼を喜ばれますように])

別の預言的なナレーションは、怒りの時に[神に]ひれ伏すことをほのめかしていますが、その状態では、人間はすべての場所の中で最も謙虚な場所(つまり、地面)に最高の[身体]器官(額と頬)を置くからです。 このときのひれ伏しの知恵は、謙虚さと謙虚さが心に生まれ、怒りを煽る心からプライド、傲慢、優越感が消え去るということです。

忍耐の卓越性

寛容、優しさ、穏やかさ(*ヒルム*)は、怒りを抑えるということは、忍耐を強制的に実践することを意味するため、怒りを抑えるよりも優れています。 つまり、怒りを抑えてくれる人がそもそも怒った人だ。 これは困難な段階であり、より厳しい霊的練習ですが、[怒りを抑える]絶え間ない努力は、強制的に忍耐を実践する必要をなくし、代わりに徐々に怒らないことに慣れていきます。 怒りが来ても、それを落とすのに何の困難も感じません。 これは本質的な[自然な]忍耐であり、この忍耐は、人が完全な知性を持ち、知性が支配的であり、怒りの力も知性に従属することを意味します。 このことか

ら、怒りを抑えることが忍耐の初期段階であり、自然に内在する忍耐がその集大成であることがわかりました。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

انما العلم بالتعلم والحلم بالتحلم ومن يتخير الخير يعطه ومن يتوق الشر يلقه

「知識は学習によって達成され、忍耐は[不快な事柄を容認することによって]意図的な良心的な努力によって寛容になることによって[達成]されます。 善を意図する者は[神の寛大さと寛大さによって]善を与えられ、悪から身を守る者は悪から守られるでしょう。」 (この伝統は、 *ハディース*がアブ・アル・ダルダの権威に基づいて*タバラニとダラクタニ*を収集[神が彼を喜ばれますように])

アブ・フライラ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

اطلبوا العلم واطلبوا مع العلم السكينة والحلم، لينوا لمن تعلمون ولمن تتعلمون منه، ولا تكونوا من جبابرة العلماء، فيغلب جهلكم علمكم

「知識を身につけ、知識とともに、威厳のある静けさと寛容を模索する。 生徒と教師を穏やかで優しく扱いましょう。 あなたの無知があなたの知識を支配するように、厳しく短気な学者の中にいないでください。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・アズ・サニー・フィ・アル・リヤダトゥル・ムタアレミン*)

この中では、傲慢さと優越感が怒りを生み出し、これらのまさに内面的な特徴が寛容と優しさを妨げることが知らされています。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、次のような言葉で祈っていました。

اَللّٰهُمَّ اَغْنِنِیْ بِالْعِلْمِ، وَزَیِّنِّیْ بِالْحِلْمِ، وَاَکْرِمْنِیْ بِالتَّقْوٰی، وَجَمِّلْنِیْ بِالْعَافِیَةِ

「おお神様! 知識で私を豊かにし、寛容と優しさで私を飾り、あなたに対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念と恐れで私を威厳を与え、健康と安全で私を美しくしてください。」

アブ・フライラ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

ابتغوا الرفعة عند الله، قالوا وماهي يا رسول الله! قال تصل من قطعك، وتعطي من حرمك، وتحلم عمن جهل عليك

「神とともに偉大さを模索する」。 人々は「神の前で高い地位に就く原因となるものは何ですか?」と尋ねました。 彼は答えた:「あなたの[親族関係]を断ち切る者と[親族関係]を保ち、あなたを奪う者には与え、無知であなたを扱う者には寛容と優しさを持って接してください」。 (この伝統は、 *ハディース集ハ キム と バイハキ*)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の時代に、ある男が祈りました。 (物質的な貧困のために)慈善活動で与えることができるものは何もありませんが、私に苦しみを与えた人を許すことができ、それが私に有利な慈善活動になります。」 神は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に、この嘆願によって彼を赦されたという啓示を送りました。 (この伝統は、 *ハディース集 Abu Na'eem fi as-Sahaba と Bayhaqi fi al-Shu'ab*)

ある時、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は仲間たちに尋ねました。 仲間たちは「アブ・ダムダムとは何者で、私たちが彼とは違うという彼の特別な特徴は何ですか?」と尋ねました。 「彼は以前の国から来た人で、朝起きてこの嘆願をしていました。『おお神よ! 今日、私は私を抑圧する人々に慈善活動で私の尊厳と名誉を捧げます。」

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

ثلاث من لم تكن فيه واحدة منهن فلا تعتدوا بشئ من عمله تقوى تحجزه
عن معاصي الله عز وجل وحلم يكف به السفيه وخلق يعيش به في الناس

「3つのことは、それらが1つの中に存在しなければ、その人の行動を重要とは見なさないようなものです。神の不従順を防ぐ敬虔な畏敬の念、畏敬の念と畏惧(*タクワ*)、愚かさを防ぐ寛容(*ヒルム*)、そして人々の中で人生を過ごす良い内面の性格特性(*イクラク*)です。」 (この伝統は、 *ハディース集 ウム・サルマの権威に基づくタバラニ [神が彼女を喜ばれますように])*

怒りの観点からの人々のさまざまな状態: 怒りの観点から人々のさまざまな状態があります。 怒りを抑えることができないが、すぐに元の状態に戻る人もいれば、怒りを表に出さず、敵意と恨みを心に永遠に残す人もいます。 よく考えてみると、怒りには4つのタイプの人がいます:第一に、すぐに火がつくがすぐに消えてしまう草のようなものです。第二に、遅く発火し、遅く消火する石炭のように。第三に、遅く発火してすぐに消火する濡れた木材のように、この状態は無関心からでなければ非常に良い状態です。第四に、すぐに火がつき、遅く消えるもののように、そのような人々は非常に邪悪です。 まったく怒らないのも良いことではない。 イマーム・シャファイは、「(怒りを引き起こすはずのことで)怒らせようとしても怒らない者はロバであり、宥和した後もなだめられない者はサタンである」と言いました。 アブ・サイード・アル・フドリ(神が彼

に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています。

الا ان بنی آدم خلقوا علی طبقات شتی فمنهم بطی الغضب، سریع الفی و منهم سریع اغضب سریع الفی، فتلک بتلک، ومنهم سریع الغضب بطی الفئی الا وان خیرهم البطی الغضب السریع الفی وشرهم السریع الغضب البطی الفی

「覚えておいてください、アダムの子孫(神の祝福と平安あれ)(つまり、すべての人間)は[内面の性格特性、気質、気質、傾向の観点から]さまざまなグループで創造されました。 遅く怒ってすぐに落ち着く人もいれば、すぐに怒ってすぐに落ち着く人もいますが、このようにして、ある[すぐに怒るような悪い性質]は、別の[すぐになだめるような良い性質]で補われます。すぐに怒って遅くなだめる人もいます。 覚えておいてください、彼らの中でも良い人は、遅く怒るがすぐになだめる人であり、彼らの中で最悪なのは、遅く怒って遅くなだめる人です。」

怒りが人間の心と精神に影響を与えることが証明されているため、統治当局は、怒りの状態では必要の限界を超える傾向があるため、罰しないことが不可欠になります。 さらに、怒りをぶつけることは、自分の怒りを激しくぶつけることは、怒りの状態では、自分の怒りのために誰かを標的にするまで、なだめられ、平和になることはありません。

恨みの現実と結果、そして許しと優しさの卓越性

自分の弱さのために怒り、復讐することができなくなると、それを抑制せざるを得なくなります。 同じ怒りが心の中で恨みや悪意に変わります。 恨みの意味は、誰かに対する憎しみと敵意が永遠に心の中に生まれるということです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

المؤمن لیس بحقود

「信者は恨みや悪意を欠いており、したがって、誰に対しても恨みや悪意を抱かない純粋な心の人です」。

怒りは恨みと悪意をもたらし、その結果、次のような結果と結果をもたらします。

最初の結果は嫉妬であり、それは悪意があなたの心の中に、相手が持っている富や祝福が何であれ、奪われたいという願望を生み出すことを意味します。他の人が何らかの祝福を持っている場合、あなたはそれによって苦しみ、悲しみ、その人が困難に陥った場合、あなたは喜ぶようになります。 これは偽善者の行動(特徴)であり、その非難は間もなく解明されるでしょう。 **2つ目の**結果は、嫉妬心が過剰になり、他人の苦労を笑ったり、からかったりすることです。 **第三の結果は**、たとえその人があなたに会いたいと望んでいても、その意図を持ってあなたのところに来たとしても、あなたが他の人を見捨て、すべての関係を壊すことです。 **4番目の**結果は、あなたが人を侮辱し、屈辱を与えることです。 **第五の結果は**、あなたが[神の律法では]言うことさえ許されない人について言うこと、たとえば、嘘をついたり、陰口を言ったり、自分の秘密[または世間の目から隠したい私的な事柄]を明かしたり、欠点を見つけたりすることです。 **6番目の**結果は、侮辱し、嘲笑するという考えで真似することです。 **7番目の**結果は、あなたが1つの身体的危害、つまり殴打(暴力)と身体的虐待を引き起こすことです。 **8番目の**結果は、あなたが自分の権利を返さず、ローンを所有している場合、それを返済せず、親族関係の権利を果たさず、没収されたものを返さないということです。 これらすべての結果と結果は[神の律法で]禁止されています(ハラム)。 悪意と恨みについてあなたができる最低限のことは、前述の8つの害から身を守り、神の不従順の責任を負わず(これら8つの結果のいずれかまたはすべてにふけることによって)代わりに、それを間違っていると考え、[心から]悪いと考えることです。 【心の中で悪意を悪く思っているが、それでも】以前のように楽しく話さず、自分の必要に気を配らず、集まりで一人と一緒に座らず、一人と一緒に神の思い出をせず、自分の利益のために助けず、一人のために祈ったり、一人を称賛したりせず、正しい行いを励ましたり、同情したり悲しみを分かち合ったりしません。 そうすれば、この小さな悪意は、あなたのディーン(神への道)の学位を低下させ、たとえあなたがこの悪意の[レベル][その8つの結果に基づいて行動しない]に対して神の報復を受けるに値しないとしても、大きな祝福と神の報いを達成する上での障害となるでしょう。 それゆえ、アブ・バクル(神が彼を喜ばれますように)が、親戚のミスタ(以前は経済的に援助していた)には何も与えないと誓ったとき、彼は娘(預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の最愛の妻でもあった)に対する中傷に巻き込まれた人々の一人でした。アイシャ(神が彼女に喜ばれますように)は、 しかし、以下の[クルアーン]の節が[預言者への神の啓示によって]啓示されたとき、

وَلَا يَأْتَلِ أُوْلُوا۟ ٱلْفَضْلِ مِنكُمْ
وَٱلسَّعَةِ أَن يُؤْتُوٓا۟ أُو۟لِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْمَسَٰكِينَ وَٱلْمُهَٰجِرِينَ فِى
سَبِيلِ ٱللَّهِ ۖ وَلْيَعْفُوا۟ وَلْيَصْفَحُوٓا۟ ۗ أَلَا تُحِبُّونَ أَن يَغْفِرَ ٱللَّهُ لَكُمْ

「そして、あなたがたのうちに[霊的な]卓越性と卓越性を持ち、[世俗的な]財産を持っ

ている人々は、貧しい親戚や貧しい人、そして神の道をたどる人々に与えないと誓ってはなりません。 彼らは[代わりに]彼ら[彼らの過ちや過ち]を許し、[それらによって引き起こされた傷]を無視すべきです。 神があなた自身の過ちや欠点を赦してくださることを愛しませんか? まことに、神は赦し、憐れみ深いお方です。」 (クルアーン、24章、22節)

この聖句を聞いて、アブ・バクル(神が彼を喜ばれますように)は、「間違いなく私たちは神の許しを望んでいます」と言いました。 その後、彼はミスタを以前と同じように扱い始めました(経済的に彼を助けることによって)。 (この伝統は、 *ハディースは*、アイシャの権威に基づいて*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*を集めています[神が彼女を喜ばれますように])

恨みや悪意によって[誰かに対する]良い態度を変えるのではなく、代わりに、可能であれば、自分の低次の自己(ナフス)との霊的闘争とサタンを倒すために、自分の美しい行いと[悪意の標的である人に対する]扱いを増やすべきです。 そのような行為は、聖人とグノーシス主義者(*シディキーン*)[人類が達成できる最高の地位]のランクであり、信者の優れた行動(*ムミネン*)の一つです。 それは、悪意を抱いている人は、3つの状態のいずれかを持つことができるからです:第一に、悪意を抱く人の権利を不足や過剰なしに果たすこと、これが正義です。 第二に、悪意を抱いている人を許し、卓越性、親族関係の保ち方で扱うことです - これは優れています。 第三に、残酷さから悪意を抱いている人から物を奪うことは、抑圧です。 この最後の国家と階級は卑劣で邪悪なものに属し、2番目の状態と階級は聖人とグノーシス主義者に属し、最初の国家と階級は正義の人に属します。

許しの卓越性と善の上回る

許しとは、自分自身の[正当な]権利を放棄する、言い換えれば、復讐や罰金を科さないことを意味します。 神はこう言われます。

「そして、あなたの許し(そしてあなたが正当に権利があるものを手放すこと)は、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏怖に近いものです。*タクワ*).” (クルアーン、第2章、237節)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は言いました。

ثلاث والذى نفسى بيده لو كنت حلافا لحلفت عليهن، ما نقص مال من صدق فتصدقوا ولا عفا رجل عن مظلمة يبتغى بها وجه الله الا زاده الله بها عزا يوم القيامة، ولا فتح رجل على نفسه باب مسالة الا فتح الله عليه باب فقر

「もし私が物事を誓う人だったら、それについて誓っただろうという3つのことがあります。1つは、財産は慈善によって減少しないということです。第二に、誰かが神の承認を得るために自分の権利を放棄した場合、神は審判の日にそのような栄誉を与えます。第三に、もし人が自分自身のために[他人に自分の必要を満たすように頼む]扉を開くなら、神はその人に貧困の扉を開いてくださるのです。」 (この伝統は、*アブ・カブシャ・アル・アンサリ[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*、*ハディース集*のティルミディ、アブ・ダウド、サヒー・ムスリムに語られています)

それは預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)の別の伝承で語られています。

التواضع لا يزيد العبد الا رفعة فتواضعوا يرفعكم الله، والعفو لا يزيد العبد الا عزا فاعفوا يعزكم الله، والصدق لا تزيد المال الا كثرة فتصدقوا يرحمكم الله

「謙虚さは、[神の]しもべに[この世俗的および他の世俗的]昇格(より高い霊的地位)を与えるものです。だからこそ、謙虚さを取り入れてください、神はあなたに昇格を与えてくださいます。 許しはしもべに名誉を与えるので、許せば神はあなたに名誉を与えてくださるのです。 慈善は財産(物質的な所有物)を増やすので、慈善を捧げれば、神はあなたを憐れんでくださるでしょう。」 (この伝統は、 *ハディース集 イスファハニ・アル・タルギーブ・ワ・アル・タルヒーブと アブ・マンスール・アル・デイラミ アナス*の権威による [神が彼に喜ばれますように])

ウクバ(神が彼を喜ばれますように)は次のように語っています:「ある日、私は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところに来ました。 私が最初に彼の手を握ったのか、彼が私の手を握ったのかは覚えていません。 彼は私にこう言いました。

يا عقبة! الا اخبرك بافضل اخلاق اهل الدنيا والآخرة صل من قطعك وتعطى من حرمك، وتعفو عمن ظلمك

「おお、ウクバ! この世とあの世の人々の最も優れた性格特性について教えてあげるべきではないでしょうか? あなたと会わない人は、そのような人と会います。あなたを奪う者は、そのような人に与えます。あなたを不当に扱い、抑圧する者、あなたはそのよ

うな人を許してください!』(この伝統は、*ハディース集のタバラニ、バイハキ、 イブン・アビ・アル・ドゥニャで語られています*)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、イエス(神の祝福と平安あれ)が尋ねたと言いました。

يارب اى عبادک اعزعليک، قال الذى اذا قدرعفا
الاخلاق

「『おお、わが主よ!あなたのしもべの中で、誰があなたにとってより大切な人ですか?」神は『復讐する能力があるにもかかわらず、赦す者』と明らかにされました」。 (この伝統は、*アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]*の権威に基づいて、*ハディース集*Khara-eti Marakim al-Ikhlaqに語られています)

優しさと寛大さの卓越性

優しさや寛大さは良い特徴であり、それに対抗するのは攻撃性と厳しさです。 後者の特性はどちらも怒りと悪気質から生まれますが、優しさは美しい道徳、マナー、気質、内面の気質、平和な性質から生まれます。 攻撃性は怒りから生まれることもあれば、貪欲の激しさと支配から生まれることもあります。 人々は、貪欲の激しさと気質のバランスが失われると、考え、理解する能力を奪われます。 しかし、優しさは美しい道徳、マナー、気質、内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)の成果であり、その[高貴な内面の状態]は、怒りと欲望の力が節度の範囲内に保たれるときに達成されます。 だからこそ、予言的なナレーションは優しさを過度に称賛してきたのです。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

يا عائشة انه من اعطى حظه من الرفق فقد اعطى حظه من خير الدنيا والآخرة
ومن حرم حظه من الرفق فقد حرم حظه من خير الدنيا والآخرة

「おおアイシャ![神の寛大さによって]優しさを与えられた人は、この世の人生と来世の両方の善を与えられ、優しさを奪われた人は、この世の人生と来世の善を奪われました。」 (*この伝統は、アブドゥル・ラーマン・ビン・アビ・バクル・アル・マレーキ[神が彼を喜ばれますように]の権威により、ハディース集『アフメド』と*『アル・アケリ・キタブ・アル・ドゥアファ』に語られています)

ان اللّٰه ليعطي على الرفق مالا يعطي على الخرق واذا احب اللّٰه عبدا اعطاه الرفق مامن اهل بيت يحرمون الرفق الا حرموا محب اللّٰه تعالٰى

「神は優しさと優しさ(*リフク*)で多くのものを与えますが、無知と厳しさで与えることはありません。 神がしもべ(人間)を愛するとき、神はそのような唯一の優しさを与えてくださいます。そして、優しさを欠いた家庭の人々もまた、神の愛を奪われます。」 (この伝統は、*ハディース*集の*タバラニ・カビール*で、ジャレール[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて語られています)

ان اللّٰه رفيق يحب الرفق ويعطي عليه مالا يعطي على العنف

「神は優しくて親切です。優しさを愛し、優しさに多くのものを与えてくださるので、厳しく与えることはありません」。 (この伝統は、*アイシャ[神が彼女を喜ばれますように]の権威に基づいて*、*ハディース集サヒー・ムスリム*に語られています)

يا عائشة ارفقي فان اللّٰه اذا اراد باهل بيت كرامة دلهم على باب الرفق

「おおアイシャ! 神が家庭(個人または家族)を尊重するつもりであるとき、神は彼らに優しさの道を示しているので、優しさを取り入れてください。」 (この伝統は、 *ハディース* 徴収 *アハメド*アイシャの権威により[神が彼女を喜ばれますように])

من يحرم الرفق يحرم الخير كله

「優しさを奪われた者は、すべての善を奪われた」。 (この伝統は、 *ハディース*コレクション *ジャレールの権威に基づくイスラム教徒 [神が彼を喜ばれますように])*

ايما والى ولى فرفق ولا رفق اللّٰه تعالٰى به يوم القيمة

「政治的権威となり、一般大衆を親切に扱った者、神は審判の日にそのような者を親切に扱うでしょう」。 (この伝統は、 *ハディース*集 アイシャの権威に基づく *サヒー・ムスリム* [神が彼女を喜ばれますように])

الرفق يمن والخرق شؤم

「優しさは途方もない祝福であり、厳しさは悪い予兆です(邪悪な影響をもたらすだけです)」。 (この伝統は、 *ハディース集 アブドゥッラー・ビン・マスードの権威に基*づくタバラニ・アウサット [神が彼を喜ばれますように])

嫉妬の非難、その現実、そしてその治療手段

嫉妬は恨みと敵意の結果であり、同じ内なる悪(否定的な特性、傾向、気質)の家族に属します。 むしろ、嫉妬はそれ自体が怒りの構成要素(結果)である恨みの一分野であると言えます。 嫉妬から発せられる枝は数え切れないほどたくさんあります。 嫉妬の非難には多くの[預言的]伝統があります。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

الحسد يأكل الحسنات كما تأكل النار الحطب

「嫉妬は、火が木を焼くのと同じように善行をむさぼり食います(つまり、誰かに嫉妬を抱いた後、神の崇拝、慈善、人々への奉仕などの善行は何も残りません)」。 (この伝統*は、アブ・フライラの権威に関する*アブ・ダウド[神が彼に喜ばれますように]とアナスの権威に関する*イブン・マジャ*[神が彼に喜ばれますように])*のハディース集で語られています)*

ある予言的な物語では、嫉妬とその結果と原因が禁じられています。 それは言います:

لا تحاسدوا ولا تقاطعوا ولا تباغضوا ولا تدابروا وكونوا عباد الله اخوانا

「おお、神のしもべたちよ、お互いに嫉妬したり、(些細な問題や誤解のために親族関係や友情の関係を断ち切って)お互いに会うのをやめたり、相互に敵意を抱いたり、お互いに顔をそむけたりしてはならない。互いに兄弟[姉妹]になりなさい!」 (この伝統は、*ハディース集のサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムに語られています*)

ثلاث لا ينجو منهن احد الظن والطيرة والحسد وساحدثكم بالمخرج من ذلك اذا ظننت فلا تحقق واذا تطيرت فامض واذا حسدت فلا تبغ

「誰も欠けていないものは3つあります。推測、他人に対する悪い考え、嫉妬です。 それらを取り除く方法をお伝えします。 推測が心に浮かんだらそれを正しいとは思わず、悪い考えが心に浮かんだら[注意を払わずに]仕事に忙しくし、嫉妬が生まれたらそれを望まないでください(つまり、嫉妬の考えの結実)」。 (この伝統は、*アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて、ハディース集*イブン・アビ・アル・ドゥニャに語られています)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はさらにこう言いました。

انه سيصيب امتي داء الامم قالوا وما داء الامم؟ قال الاشر والبطر والتكاثر والتنا
فس في الدنيا والتباغض والتحاسد حتى يكون البغي ثم الهرج

「私の国(ウンマ)は間もなく他国の病気に感染するでしょう」。 仲間たちは「国家の病気は何ですか?」と尋ねました。 彼は答えた:「傲慢さ、贅沢の表現、世俗的な手段(富)の達成における相互競争、相互の敵意、相互の嫉妬、[これらすべて]は、[最初に]反乱があり、その後混乱が広がる程度です」。 (この伝統は、*アブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて、ハディース集*のイブン・アビ・アル・ドゥニヤとタバラニに語られています)

ستة يدخلون النار قبل الحساب بسنة قيل يا رسول الله! من هم؟ قال: الامراء
بالجور والعرب بالعصبية والدهاقين بالتكبر والتجار بالخيانة واهل
الرستاق بالجهالة والعلماء بالحسد

「清算[および審判の日の責任]の一年前に、6種類の人々が地獄に入るでしょう」。 「おお神の使徒よ!あの人たちは誰なの?」 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう答えた:「抑圧のために政治的に強力になり、アラブ人は国家主義的な偏見による人種差別(*'Asbiyah*)のために(アラブ人は、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)によって人類に伝えられたこの神の命令の中で適切な例とされていますが、)、この伝統の趣旨はすべての人に適用されます、つまり、あらゆる人種、民族、民族の人々のグループによって実践されるあらゆる種類の人種差別は、彼らを地獄によって具体化される神の嫌悪に導きます)、傲慢さによる農民、不誠実によるビジネスマン、無知による村人、嫉妬による宗教学者」。 (この伝統は、*アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威によるハディース集アブ・マンスール・アル・デイラミ*[神が彼を喜ばれますように])

預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)が神と会話するためにシナイ山に行ったとき、神の玉座の陰に一人の男を見たと[伝承で]語られています。 彼はその人をうらやましく思い、神に自分の名前を教えてくださるよう懇願した。 神は言われました:「あなたは彼の名をどうしますか、代わりに私たちは彼の行いについてあなたに話します。 彼は誰にも嫉妬せず、両親に逆らわず、物語を運ぶこと(良いことであれ悪いことであれ、話されたくない、知られたくない人々の事柄を他人に伝え、意図せず、または意図的に悪意を持って伝えること)をしませんでした。」 預言者ゼカリヤ(神の祝福と平安あれ)は、神がこう言われたと言いました:「嫉妬深い人は私の祝福の敵であり、私の決定に腹を立て、すべての被造物の主、維持者、チェリッシャーとして、神の知恵から全人類に神の恩恵を分配することに不満を抱いています。神の分配に対する不快感と怒りは、仲間の人間への嫉妬が実際に伴うものです]」と述べています。

嫉妬は[神の]祝福と神の賜物のために実践されることを知っておく必要があります。 神が[ご自分の]しもべに報いるとき、別の人はそれに関して2つの状態を持っています。 第一に、人はその祝福を嫌い、その没落を望んでいます。 これが嫉妬の状態です。 このことから、嫉妬の定義は、(それに恵まれた他の人に対する)祝福を嫌い、その堕落を望むことです。 第二に、人はその没落を望んでいないし、(それに恵まれた他の人に)その継続に反対するわけでもなく、自分自身のためにもそれを達成したいと思う。 これは「*ギブタ*」、または他人が持っている自分自身の祝福を望むこと(その衰えや他の人からの除去を望まずに)と呼ばれます。 これは実際には神の律法で許容されています]。 嫉妬は、無政府状態と混乱をまき散らし、人々の間の不和を促進し、彼らに害を及ぼすために嫉妬を利用する邪悪な人に嫉妬を与えた場合を除いて、あらゆる状況で禁じられています。 そのような祝福の[誤用]に嫌悪感を表明し、その没落を望むのは正しいことです、なぜなら、この場合、その衰落に対するあなたの嫌悪感と願望は、そのようなものが祝福だからではなく、むしろそれが無政府状態と混乱を[蒔く]手段として利用されてきたからです。 無政府状態や混乱を恐れなければ、人はそれらに悲しむことも、彼らが奪われることを望むこともないでしょう。 [他の人に]与えられた祝福を悪いと考えるということは、神がいくつかのことにおいて他のしもべよりも神のしもべを好んだという神の決定を悪いと考えることを意味します。 それは、嫌悪や嫌悪の言い訳の根拠として使用できないほど現実であり、神の律法は、人が神の戒めに干渉し、自分の欲望の基準に基づいてそれを判断することを許しません。 たとえそれがあなたに害を及ぼさないにもかかわらず、富があなたの目のとげのようなものである他の信者を慰めの中で見ることができないという罪よりも大きな罪はあるでしょうか。 クルアーンには嫉妬を強く非難しています。

إِن تَمْسَسْكُمْ حَسَنَةٌ تَسُؤْهُمْ وَإِن تُصِبْكُمْ سَيِّئَةٌ يَفْرَحُوا بِهَا

「あなたが良い状態であれば、それは彼らにとって悲しみの原因となり、あなたが苦しんでいる状態であれば、それは彼らにとって喜ばしいことです。」 (クルアーン、第3章、120節)

イスラム教徒が、神への信仰(*イマーン*)、祈り(*サラート*)、義務的な慈善活動(*ザカート*)など、神の法で義務付けられている特定の祝福を持っている場合、これらの祝福の達成を望む義務があります。 それらを望まないということは、禁じられている(ハラム)[これらの義務的な神の崇拝行為を行わない]罪に同意することを意味します。 これらの祝福が、善行や超愛行などに富を費やすなどの卓越性(*ファダーイル*)に関係する場合、それらの競争とそれらを望むことは非常に賞賛に値します。 もし、その恩恵を受けることが許される祝福があるなら、その中の競争とそれを望むことも許される。 許容の正当化は、人が平等を望み、その祝福を悪いとは考えずにその祝福に参加することです。 したがって、ここには 2 つのことがあります: 第一に、その祝福を受けた人を尊重すること [そしてその破滅を望まないこと]。第二に、同じことを望む人は、その中に取り残

されています。 しかし、[単に]許される事柄について他者との平等と競争を望むことは、この種のことは神への信頼(*タワクル*)と神の命令(*ラダ*)の受け入れに反し、神の不従順にはならないものの、より高い霊的程度への道の障害となるため、自分の卓越性を低下させます。

嫉妬の程度: 嫉妬には[その厳しさと不快感の点で]程度があります。 第一の段階は、たとえ[自分自身のために]その祝福を得られなくても、他人からの祝福の没落を望むことです。 このレベルの嫉妬には、最も邪悪な人々だけが関与しています。 第二の嫉妬とは、他人からの祝福の没落を望み、自分自身のためにその祝福、例えば美しい配偶者、立派な家、大きな名声、社会的地位を得ることです。 第三度は、特定の祝福を望むのではなく、他の人が持っているのと同じような祝福を望んでいるということです。 したがって、一人がそれを達成できなかったとき、人は両者が平等になるように、相手からの堕落を望み始めます。 第四度は、人が他の人が持っている祝福を望んでいるが、それを達成できなかった場合、他の人からの祝福を望まないということです。 この最後の学位は、祝福が世俗的な事柄に関係する場合は許され、霊的な事柄に関係する場合は賞賛に値します。 第三度には善と悪の両方の側面があります。 2度は3度よりも軽いです。 第一級は、あらゆる状況において非難されるべきです。 他人からの祝福の没落を望まないことは良いことですが、他人が持っている祝福を所有したいと思うのは良くありません。

嫉妬の原因

嫉妬の理由はたくさんありますが、全体としては、7つの原因に依存すると考えることができます。まず、敵意。第二に、名誉への欲求。第三に、傲慢さ。第四に、驚き。第五に、目的を失うことへの恐怖。第六に、権力(支配)と名声への愛。第七に、魂の内なる悪とケチ。 時々、他人は自分の敵であり、誰も敵を快適に見るのが好きではないため、他人に祝福が与えられるのを見たくないことがあります。 時々、プライドと傲慢さのために祝福に恵まれた人々の自己誇大と自己賞賛は、他の人が自分に対して何の区別も持たせたくない人にとって耐えられなくなり、したがって、嫉妬を抱き始め、祝福が他の人から取り除かれ、両者が平等になります。 嫉妬深い人の心は、他人に対して傲慢さを持っていることがありますが、他の人が持っている何らかの区別(祝福)のために、それを表現することはできません。 時には、祝福があまりにも大きく、地位が[他の人にとって]非常に高く、その祝福と地位を持っていることが驚く理由になることがあります。 時には、他の人が持っている祝福のために、他の人が自分の目的の妨げになるのではないかという恐怖があります。 時々、人は支配と権力を達成できなかったために他人に嫉妬することがあります。 これらの理由がない場合もありますが、自分

の内なる悪と魂のケチのために他人に嫉妬します。 さて、これらの[嫉妬の]原因のそれぞれの詳細に耳を傾けてください。

第一の原因 - 敵意と恨み: この嫉妬の原因は、他の原因よりも厳しいものです。 自分の目的に苦しみを与えたり、障害を置いたりした人は皆、苦しみを引き起こしたり障害を置いたりする人の敵対者となり、そのようなものを悪いと考え、恨みと怒りが復讐を促します。 復讐する能力がない人は、他の人に復讐してもらいたいのです。 これは、敵が心配や悩みに悩まされている場合、それを自分の高い地位と神との親密さの象徴として解釈し、敵が自分の希望に反して祝福や何らかの[高い社会的]地位を獲得した場合、それは自分の失敗と敵の勝利を引き起こした神廷で受け入れられないものとして解釈されるほどです。 この結果、嫉妬と敵意はお互いにとって不可欠であり、密接に関係しているということです。 神への畏れと慎重さは、そのような嫉妬が心の中に居場所を持たせたり、それを悪いものと見なしたりしてはならないことを要求します。 嫉妬は[魂の]致命的な[内なる]病気です。 神はこう言われました。

إِن تَمْسَسْكُمْ حَسَنَةٌ تَسُؤْهُمْ وَإِن تُصِبْكُمْ سَيِّئَةٌ يَفْرَحُوا۟ بِهَا ۖ

「あなたが良い状態にあるなら、それは彼らにとって悲しみの原因です。そして、もし災いがあなたに降りかかるなら、彼らはそれを喜ぶ。」 (クルアーン、第3章、120節)

وَدُّوا۟ مَا عَنِتُّمْ قَدْ بَدَتِ ٱلْبَغْضَآءُ مِنْ أَفْوَٰهِهِمْ وَمَا تُخْفِى صُدُورُهُمْ أَكْبَرُ

「彼らはあなたに危害を加えることを望んでいます。敵意は彼らの口から明らかであり、彼らが心に隠しているものはそれよりもはるかに多いのです。」 (クルアーン、第3章、118節)

嫉妬から生まれた敵意(区別と権力を持つ国家や人々のグループのレベルで)は、通常、流血、戦争、殺戮に終わります。 人は、物語を語ったり、侮辱したり、陰口を言ったりする悪にふけると、嫉妬の的である人からの祝福の没落を企てることに人生のすべてを費やします。

第二の原因 – 名誉や名声への欲求: 嫉妬は、自分と同等であると認識されている人の名誉や区別を [何らかの独特の資質、能力、またはスキルによる] 受け入れないことによって引き起こされることがあります。 言い換えれば、嫉妬深い人は、何らかの祝福を得た後、他の人が自分に対して区別を表明することを望んでいません。 たとえば、(

社会的地位において)自分と同等の人が高い地位や富、知識を得た場合、その人が自分に対してプライドや傲慢さを表明し始めるのではないかという嫉妬深い恐れは、たとえ傲慢になりたくなくても、他の人が自分に対して傲慢になることを望んでいません。人は他人の平等には同意しますが、自分の優位性には同意しません。

第三の原因 – 傲慢さ: 嫉妬の原因は、嫉妬深い人が他人を屈辱的で、卑しく、劣っていると考え、そのような人が自分に仕えている間、自分の支配下にとどまり、積極的に自分の命令を実行する準備ができていることを望んでいることです。 偶然にも、他の人が祝福を見つけた場合、嫉妬深い人は、その祝福によって相手が変わるかもしれないという恐怖に動揺し、一方を非難し始め、自分の命令に従うことを拒否し、一方と平等を主張し、「今、私は他方に対して傲慢だが、他の人は私に対して傲慢になるかもしれない」と考えて、一方に対する自分の優位性を宣言します。 この恐怖は人を嫉妬に駆り立てます。 これらはまさに[メッカの]不信者が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に対する嫉妬、つまり名誉と傲慢への欲求の理由でした。 彼らは、この孤児の少年がどうして私たちの指導者になれるのか、そしてどうして彼らが彼に服従することが可能であるのか、それは彼らの言葉でした[そもそも孤児と貧困という非常に謙虚な出自を持つ全人類への神の使者としての彼の霊的権威において]。 クルアーンは彼らの考えを次の言葉に反映しています。

وَقَالُوا۟ لَوْلَا نُزِّلَ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانُ عَلَىٰ رَجُلٍ مِّنَ ٱلْقَرْيَتَيْنِ عَظِيمٍ

「なぜこのクルアーンは、この二つの町の偉人に降りて(神に啓示されなかったのですか)?」 (クルアーン、43章、31節)

言い換えれば、「もしあなたが著名な人だったら、私たちはあなたに従うことに反対しませんでした」。 同様に、[アラビアを実質的に支配していた]クライシュ族は、非常に軽蔑してこう言っていました。

أَهَٰٓؤُلَآءِ مَنَّ ٱللَّهُ عَلَيْهِم مِّنۢ بَيْنِنَآ ۗ أَلَيْسَ ٱللَّهُ بِأَعْلَمَ بِٱلشَّٰكِرِينَ

「『彼らは、神が祝福を授け、他のすべての人よりも優れていた[謙虚で、卑しく、貧しい]人々(つまり、異教のメッカで生き残るために奮闘している初期のイスラム教徒)ですか?」 神は感謝のしもべが誰であるかを知っているのではないでしょうか。 (つまり、神が霊的な祝福を授けることを選んだのは神の決定であり、神の祝福は、過剰な富と権力によって物質的な意味で判断することはできません。 代わりに、神は感謝のしも

べが誰であるかを知っており、明らかに低い社会的地位、政治的権力の欠如、物質的な貧困に関係なく、神の親密さ、近さ、崇拝、真理への導き、内なる霊的啓発という霊的な祝福のために神が選んだのは彼らです)。 (クルアーン、第6章、53節)

4番目の原因 – 驚き:高い[社会的および/または精神的]地位や地位にある人、または良い状態にある人を見て驚くことも、嫉妬の原因になる可能性があります。 クルアーンはこう言います。

وَلَئِنْ أَطَعْتُمْ بَشَرًا مِّثْلَكُمْ إِنَّكُمْ إِذًا لَّخَاسِرُونَ

「もしあなたがあなたたちのような人間に従い始めたら、間違いなくあなたは迷うでしょう。」 (クルアーン、23章、34節)

5番目の原因 – 目標を失うことへの恐怖: これは、単一の目的を目指して努力している人にのみ固有のものです。 したがって、人は自分の目的を達成するのに役立つすべての祝福について、他の人に嫉妬します。 【例】このタイプの嫉妬には、財産と名誉の獲得は両親の承認に依存しており、誰もがその財産の唯一の所有者になるために両親の承認を勝ち取りたいと思っているため、2人の兄弟(または兄弟)が両親の心をつかむためにお互いに嫉妬することが含まれます。 同じ教師の2人の生徒の状態は、教師への最大限の奉仕によって[知識と教育の形で]最大の利益を達成するための2人の生徒のそれぞれの努力である。 王(または政治的権威)の仲間や仲間の相互憎しみと敵意は、誰もが名声と富を得る手段である王との親密さを達成したいからです。 同じ都市の説教者は、それぞれが一人で人気を博し、最大限の富を集めることができるため、お互いに嫉妬しています。

6 番目の原因 – 名声と権力への欲求: 嫉妬は名声と権力への欲求が原因である場合があります。 たとえば、ある芸術やスキルにおいて比類のない人で、人気を保つために他の誰も同じ専門知識を習得しないことを望んでいる場合、人々はその人を賞賛し、その人にお世辞を言い、その人を世界で唯一無二のものと見なし、大きな称号を与えざるを得なくなります。 そのような人の物質的な目的は、人々の間で賞賛と人気を得ること以外にありません。 言い換えれば、人は自分の芸術、スキル、または専門知識を通じて富を集めたり、他の目的を達成したりしたくありません。 したがって、そのような人は本質的にお世辞を好み、人々がそのスキルにおいてその人に依存し続けることを望

んでいます。 他の人が同じスキルで何らかの専門知識を身につけた場合、人は嫉妬し、[同じスキルで]他の人の名声と平等を苦痛に感じ、他の人が死ぬことを望み、他の人が参加した祝福の没落を望み、その中で自分の独自性を終わらせます。 たとえば、勇気、知識、崇拝、スキル、美しさ、富などは、人が所有している場合、プライドの原因であり、それらの唯一の所有者である場合、そのプライドには限界がありません。 嫉妬の原因には、名誉への欲求、傲慢さ、目的を失うことへの恐怖は含まれず、代わりに、芸術やスキルにおいて持つ独自性が[他の誰もその分け前を得ずに]その人に残りたいという願望だけです。

第七の原因 – 内なる悪または自己の堕落: 低次の自己の堕落と、正義の行いに関する心のケチは、嫉妬の大きな理由です。 権力を望まず、傲慢さを持たず、富を求めず、目的を失うことを恐れない人を簡単に見つけることができます。 それにもかかわらず、他の人の状態が彼らに言及されたり、他の人が神から与えられた特定の祝福を享受していることを知るようになったりすると、蛇は彼らの心の上を転がります(つまり、彼らはそれを絶対に嫌うでしょう)。 ある人が今、悩みに悩まされ、目的を達成できなかったり、経済的に困難に直面していると聞くと、そのような内面の堕落した人々は心の底から喜ぶでしょう。 そのような人々は、誰も成功しないことを望み、神からの報酬が他の人に降り注ぐのを見て、あたかも他の人が宝庫から奪った後にこれらの報酬を与えられたかのように、非常に動揺し、悩まされます。 「*バヒール*」(守銭奴)は自分の所有物にけちな人であり、「*シャヒー*」(心が狭い人)は他人の所有物にけちな人(つまり、そのような人は、自分のポケットから何も費用がかからなくても、他人のためにうまくいかない)と言われています。 そのような人々は、あたかも神の祝福の中でケチであるかのようで、自分に対して何の敵意も接触もない人々を嫉妬している。 この表向きの原因は、[低次の]自己(ナフス)の堕落に他なりません。 それは人の第二の天性となった内面の堕落の反応です。 嫉妬の他のすべての原因は一時的なものであり、この原因は固有の堕落であるため根絶できないため、その治療は非常に困難です。 それは一時的な原因のために存在しないため、その根絶は困難です。

これらは嫉妬を引き起こすいくつかの原因です。 時々、これらすべての原因が一人の人に同時に見出され、その場合、嫉妬は大きく、非常に大きな力で推進されるため、努力と欲望にもかかわらず、心に隠すことができず、代わりに公然とした敵意に頼ります。 多くの場合、これは本質的に嫉妬深い人々の状態です。

熟考してみると、嫉妬のこれらすべての原因は、世界への愛(世俗性や物質的な人生観)によるものであることは明らかです。 それとは反対に、来世には事欠かず、来世に関連するものには大きな容量と広がりがあります。 来世の似姿は、その輪が際限なく広いため、知識の似姿に似ています。 何百万人もの人々が特定のことについての知識を習得しても、誰もがそれを最大限に活用し、それを最大限に楽しむため、それは少しも減少しません。 したがって、神のグノーシス(*マリファ*または神の知識と親密さ)と神の属性、天使、預言者、天と地の支配に関する知識を獲得した人は、この知識とグノーシスにおいて他の誰にも嫉妬しません - 他の人が同じものを獲得したとしても、どれだけ多くの人がグノーシス主義者になっても[自分の知識とグノーシス]が減少することはありません。 代わりに、真のグノーシス主義者の状態は、グノーシス主義者の数が増えるにつれて、霊的な幸福が増すようなものです。 したがって、神の道(ディーン)の真の学者の間には、彼らの目的が神のグノーシス[そしてそれに伴う神の知識、親密さ、親密さが彼らの霊的な度を高める]であり、海岸のない底知れぬ海であり、その中に不足はなく、すべてのダイバーは自分の努力に応じて真珠を底から引き出すことができるからです。 彼らはグノーシスと神の親密さを達成したいと考えており、それも不足していませんが、そうではないため、一部の人々はそれを手に入れ、休息はそれを奪われたままです。 神の近くで最も楽しい祝福は、神のビジョンの祝福です[この世やあの世の他の楽しみとは比べものにならない]-それに対する障害や抵抗はありません-代わりに、[それを達成する]すべての人々が平等に神のビジョンを楽しむでしょう。

しかし、もし[宗教]学者の目的が知識を通じて富と名声を得ることであるならば、彼らは必然的にお互いに嫉妬を抱くでしょう。 なぜなら、富は物質的で肉体的なものであり、それが片手に渡れば、他の誰かの手にはそれがなくなるからです。 名声とは、心の所有者になることを意味します - 人の心がある学者への尊敬と献身に満ちているとき、それは必然的に別の学者への尊敬と献身から遠ざかるでしょう - たとえその人がまだ[他の学者への]献身を持っていたとしても、それは大したことではありません。 これは確かに嫉妬の原因になります。 知識と富の違いは、富が片方の手を離れるまで、もう一方の手には届かないのに対し、知識は学者の心にしっかりと根付いたままで、教育や教育によって減少しないことです。 代わりに、それは減少することなく学生の心に伝わります。 富と財産は物理的なものであるため、ある時点で終わりを迎えます。 人間が地球全体の所有者になった場合、その後も所有できるものは何も残りません。 それとは反対に、知識には限界や終着点がなく、それを縛って制限することもできません。

この議論の結果は、神の威厳、壮大さ、壮大さ、主権、そして天と地の支配の中で熟考し、熟考することに自分自身を慣れている人は誰でも、この熟考は非常に楽しく、おいしいものになり、他の喜びはそれに匹敵するものがないということです。 だからこそ、相手が自分と同じ程度の神聖なグノーシスであっても、人は誰に対しても嫉妬しません。 その中で自分の喜びを損なうものは何でしょうか? まったく何もない! 人はそれ[熟考と熟考が神のグノーシス、親密さ、親密さにつながる]ことにさらに執着するでしょう。 神の支配の驚異と素晴らしさを熟考する人々が経験する喜びは、楽園の園、その果物、花を外の目で目撃する人々の喜びよりも大きいです。 グノーシス派の楽園は神のグノーシスです。 この楽園は決して絶滅しません。 グノーシス主義者は、青々とした緑の木々からおいしい果物を永遠に摘み取り、この高貴で甘美な栄養で魂に栄養を与えます。 これらは神の言葉で次のように説明されている果物です。

لَّا مَقْطُوعَةٍ وَلَا مَمْنُوعَةٍ

「[神の寛大さと寛大さから与えられるそのような果実は]決して終わりを迎えることはなく、人は決してそれらから拘束されることはありません。」 (クルアーン、56章、33節)

قُطُوفُهَا دَانِيَةٌ

「その果実は低く垂れ下がっているでしょう[最高の満足のために、完全に簡単に摘み取る準備ができています]。 (クルアーン、69章、23節)

グノーシス主義者が外の目を閉じても、魂で楽園を目撃し、その庭園を見学することができます。 グノーシス主義者が多数いると仮定すると、彼らの間に相互嫉妬の問題はありません。 これが[世界の]生活における彼らの状態です。 このことから、来世でベールが取り除かれ、最愛の人を目撃する栄誉に恵まれたときに何が起こるかを推測できます。 このことから、楽園には「嫉妬」という悪は存在しないことが分かっています。 このことから、楽園の住人になる人々は、楽園にはいかなる種類の不足も狭窄も、障害もないため、ここでも嫉妬を抱かないことも知られています。 楽園は神のグノーシスを達成するための手段であり、神聖なグノーシスの道において他の人にとって障害となることはありません。 したがって、楽園の人々が嫉妬を抱く必要はない - 彼らはこの世でもあの世でも嫉妬をする必要はない - 人間を高いものの最高のもの(*'Aala 'Illiyeen*)から低いものの最も低いもの(*Asfal us-Safileen*)に堕落させるのは、そのような非難されるべき特性である[世俗的な生活に意味と反響を及ぼす霊的な程度]。

また、嫉妬は限られた目的に関係していることも、これらの詳細から証明されています-ある人がそれらを達成すると、別の人はそれらを奪われます。 だからこそ、人々は空の装飾を楽しむことでお互いに嫉妬するのではなく、庭園はこの広大な地球のほんの一部であり、その幅広さのすべてである地球は空に比べて非常に取るに足らない、低いものであるにもかかわらず、庭園を散歩しながらお互いに嫉妬し合っていることがわかります。 空はとても広いので、世界中のすべての人が同時に空を見始めれば、誰もが十分であり、誰もが自分の観察力に応じてそれを楽しむことができます。

もしあなたが真の内なる洞察(*バセラ*)を持ち、自分自身に対して親切で慈悲深い(*ナフス*)なら、あなたは努力のない祝福と消滅のない喜びを求めるべきであり、そのような喜びは神の存在または実体(*ダート*)、[神聖な]性質(*シファート*)と[神聖な]行動(*アファール*)の祝福(グノーシス)に属します). もしあなたが神のグノーシスを望んでいないし、それを味わいたくもない、あるいはあなたの欲望が弱いなら、洞察力のない子供には支配や[政治的]権威への欲求がないので、あなたはそれから免除されます。 同様に、神のグノーシスの[計り知れない霊的]喜びは、[クルアーン]の以下の節が啓示された人々だけが理解できます。

رِجَالٌ لَّا تُلْهِيهِمْ تِجَارَةٌ وَلَا بَيْعٌ عَن ذِكْرِ ٱللَّهِ

「彼らは、売買(つまり、生計手段や世俗生活における生活と生存手段を維持または獲得するあらゆる形態)を理由に、神の記憶を思いとどまらせない[確固たる決意と決意を持つ]人々です。」 (クルアーン、24章、37節)

強烈な欲望の段階(*ショーク*)は、それを味わった後にやってきます。 [神のグノーシス]を味わったことさえない人は、それを求める人でさえなく、理解することさえできないでしょう。 そのような個人は、最終的に他の剥奪された魂とともに[世俗的な生活の真の目的とその結果としての永遠の幸福と永遠の成功を達成するための貴重な機会を利用せずに、手ぶらで自分の真の起源と故郷に戻ることによる計り知れない剥奪と喪失の深淵]に落ちます。

嫉妬を治す薬

嫉妬は心の最大の病気の一つであり、心の病気の治療は知識と行動によってのみ可能です。 あなたにとってこの嫉妬の病気についての有益な知識は、嫉妬はこの世でもあの世でも有害であることを知ることですが、この害は嫉妬を抱いている人にのみ与えられ、あなたが嫉妬している人[または人々の集団]には何も悪いことは起こらないでしょう。 彼または彼女の世界も宗教も破壊されることはなく、代わりに、そのような人はあなたの嫉妬から利益を得るでしょう。 もしあなたが洞察力によってこのことを知っているなら、あなたは自分自身(*ナフス*)の敵にもならず、その本当の敵の友人にもならず、嫉妬の罠に陥ることは確実に避けられるでしょう。

神への道に対する嫉妬の害: 神への道(ディーン)に対する嫉妬の害は、神が神の恵みをしもべに分配することに嫌悪感を表明し、神が隠された(秘密の)知恵によって神の支配権に確立された神の正義(対象)に指を動かすと、神の不快感を達成することです。 これは[神の分配に反対し、人々が持っているものに嫉妬すること]重大な犯罪です。神の唯一性(*タウヒード*)と神の永遠の真実への信仰(*イマーン*)の範囲内で、これほど大きな罪はありません。 それ以外は、あなたは信者に悪を願ったのに、あなたは良いことを願うべきでした。 あなたは預言者や友人、そして神の親しい人々(*アウリヤ*)のグループから遠く離れています - これらの人々は神のしもべ(人類)の友人であり、誠実です。 嫉妬は、火が木を飲み込むように義と義の行為を食い尽くし、夜が昼を食い尽くすようにそれを消滅させるため、心の悪です。

嫉妬が世俗的な生活に及ぼす害: この世界における嫉妬の害は、嫉妬している人に祝福が降りかかるたびに、あなたが絶えず痛みに苦しむことです。 蛇は、嫉妬の標的となっている人が安らぎを感じているとき、あなたの血が沸騰し、これらの祝福の没落を戦略化し始めると、あなたの心を転がします(憎しみの寓話)。 あなたがそれについて何もできないと感じたとき、あなたは悲しみ、後悔、後悔、恥の化身になります - このようにして、あなたは自分のために心配や苦難を蓄積するだけですが、あなたの嫉妬の対象である人には悪いことは何も起こりません。 あなたが死後の復活、審判の日の説明責任、[神の説明責任の後]報酬と罰について確信を持っていないと仮定すると、それでも[あなた自身の個人的な常識と]知性は、心の悲しみと痛み以外には嫉妬を何も達成できないため、嫉妬を控えることを要求します。 来世の激しい罰について確信しているなら、それを控えるために最善を尽くすべきです。 知的な人について、物質的な利益な

しに神の不快感を買うのは、やや奇妙に思えます。 嫉妬から何の利益があるでしょうか? 心に対する継続的な罰と痛みの損傷、喪失、蓄積という形で起こるのはその逆だけです - 神への道(*ディーン*)と世俗的な生活(*ドゥニャ*)の両方が破壊され、手ぶらのままになります。 嫉妬している人を一瞥して、その人の状態を見てください! あなたの嫉妬はそのような人に何か損害を与えていますか? 考えてみると、否定的な答えが返ってきます。 その人が持っている祝福は嫉妬によって衰退するのではなく、代わりに神が彼らに運命づけられた時まで残るので、その世俗的な生活(*ドゥニャ*)も神への道(*ディーン*)も損なわれません。 神はこう言われます。

وَكُلُّ شَيْءٍ عِندَهُۥ بِمِقْدَارٍ

「すべては神によって一定の尺度で配分され、任命されます。」 (クルアーン、第13章、8節)

ある預言者は、かつて抑圧的な国を統治していた皇后について神に懇願しました。 それは彼に明らかにされました、「永遠から神が運命づけられてきたものに変化する可能性はなく、彼女は必ず彼女に運命づけられたどんな高揚と祝福も受けるでしょう。 彼女に運命づけられたこの時代が過ぎ去るまで辛抱強く待ってください[この時代の後に、あなたの忍耐と忍耐への報酬として、あなたにとってより良い時代の前触れとして新しい時代が幕を開けるように]」。 この[例]から、祝福は嫉妬によって消えず、嫉妬の対象である人は何の損失にも直面しないことが学び、嫉妬のせいで祝福が消えてしまうと考えるなら、それは無知の極みであり、自分自身(*ナフス*)との敵意に等しいということです。 もし、あなたの嫉妬のせいで、すべての被造物の祝福が取り除かれ、あなた自身の祝福があなたに対する他人の嫉妬によって取り除かれないことがあなたの願望であるならば、この願望も純粋な無知です。 それは、あなたが他の人よりも好まれる専門性を持っていないからです。 嫉妬が誰の祝福も根絶しないほど、それは非常に偉大な神の祝福です。 あなたはこの大きな祝福に対して神に感謝すべきですが、悲しいかな、あなたは自分の行動によってそれに感謝していません。

嫉妬の対象となる人の利益に関する限り、この世でもあの世でも利益を得ることは明らかです。 神(*ディーン*)や宗教への道への道の利点は、嫉妬の対象である人があなたのせいで抑圧されるということです、特にあなたの嫉妬があなたの心から舌に出てきたり、あなたの何らかの行動を通じて明らかにされたとき、たとえば、あなたが陰口をしたり、自分の尊厳に指を離したりするとき、 呪うか、殴る(危害を加える)か。 これらはす

べて、あなたが嫉妬の対象となっている人に贈る贈り物であり、言い換えれば、あなたはその人に[嫉妬の]程度まであなたの善行を渡し、審判の日にその人に会うとき、あなたの口座には後悔と剥奪以外に何も残らないでしょう - あなたは世俗的な生活であったように、そこで祝福を奪われるでしょう。 あなたは彼または彼女の祝福の崩壊を望んでいましたが、それらは無傷のままでした。 さらに、あなたの善行の祝福を自分の善行の記録に移した人は、この人は祝福を受け、あなたは不幸を受けるでしょう。 それに加えて、あなたは人類の敵であるサタンに幸せになる機会を与えました。 なぜなら、サタンは、あなたが敵だと認識している人々、つまり知識、敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏敬の念と恐れの資質を持つ人々を愛し始めて、あなたが彼らの神の報いの分け前を受け取ることを恐れているからです。 サタンは、あなたが善を奪われたのと同じように、あなたも善への愛を奪われることを望んでいます。 砂漠のアラブ人が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねました。 ある人は、たとえその人が義人の中からではないにもかかわらず、その集団を愛しているのです。」 彼はこう答えた。

المرءمع من احب

「人は愛する人(または人々のグループ)と一緒にいるでしょう」。 (この伝統は、 *ハディースは*、アブドゥッラー・ビン・マスード[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を集めています)

嫉妬はそれ自体が罪です。 意見の相違、真実を受け入れることの拒否、敵から復讐するために舌や手の下品さを使う自由など、それによって生み出されるものを調べる必要があります。 これは、以前の国家を滅亡させた病気です。

知識に基づく嫉妬の治療法は、それが口頭であろうと行動であろうと、嫉妬の趣旨に反して行動することです。 したがって、嫉妬が嫉妬の犠牲者を非難するように促すなら、その人を褒めようと努めるべきです。 嫉妬が敵に対して傲慢になるのであれば、敵の前では謙虚さを保ち、必要なときに謝罪する準備をしておく必要があります。もしそれが[敵として認識された人]に与えたり報酬を与えたりするように促すなら、たとえ自分自身を強制し、心を強制しなければならないとしても、それは何も悪いことではありません。 嫉妬の対象となる人がこれらのものを見ると、幸せがもたらされ、愛し始め、そのような人からの愛があるとき、嫉妬する人も見返りに愛することを余儀なくされます。 相互愛は調和を生み出し、嫉妬を根絶します。 謙虚さ、賛美、[他人の]祝福に幸せを表現すると、祝福された人の心が引き寄せられ、その努力をしている人に傾き(嫉妬はあるが、魂の中でそれに対抗するため)、しもべのようになり、親切に接し、よ

く扱い始める。 この(嫉妬の的だった人からの)行動の素晴らしさは、嫉妬を抱いた人に戻ってきて、最初は卓越性を追求したが、後にそれが習慣や気質になった人の心を喜ばせます(自然で楽に物事を行う第二の天性)。 サタンの欺瞞は、あなたが嫉妬の標的である人に謙虚さと賞賛をもって対処すれば、あなたは弱く、卑しく、偽善者で恐れているとみなされるだろうというこの道からあなたを思いとどまらせるべきではありません。 サタンはこのように欺いて人間を滅ぼします。 敵を自然に扱うか強迫的にするかにかかわらず、敵をうまく扱うことで敵意の根幹を根絶し、両側の愛に置き換え、嫉妬の苦痛と罰から解放される。

これらは嫉妬の薬であり、その利点は否定できません。 しかし、心は味が苦いと感じますが、苦い薬の方が有益です。 薬の苦味に忍耐力を働かない人は、治癒の甘さを見出しません。 この苦い薬に耐えることは、知識に基づいた実践的な治療法について熟考し、神の命令を受け入れ、神の報いを求める者であることが、その人の永遠の幸福と無限の成功(サーダ)に導かれることを理解するとき、簡単になります。 この世の何も私の希望に反して起こってはならないし、[私の欲望]に反する何かが私自身の自尊心と尊厳に反すると考えるのは、純粋な無知です。 この[誤った]考えが心にしっかりと根付くと、その結果、自分の[認識された]敵全員の死を望み、(自分自身に対する)わずかな反対も残らないようになるでしょう。 さらに、それは不可能であり、すべてが自分の欲望に従って起こることを望んでいますが、それは不可能であり、人は[すべてが自分の欲望に従って起こるようにする]失敗すると敵に嫉妬し、これの最終的な結論は完全な屈辱と卑劣になります。 この屈辱を避けるには、第一に、あなたが望むことが起こること、第二に、何が起こってもあなたの願望になる、という2つの方法があります。 最初の方法は自分のコントロールの下になく、努力する余地はありませんが、2番目の方法では精神的な努力が機能します。 激しい霊的努力によって、人の心は意図や願望を失い、神の意志に従属する可能性があります。 この[2番目の]方法を習得することは、知的で賢明な個人にとって[内なる平和、静けさ、幸福、永遠の至福、そして無限の勝利を達成するために]不可欠です。

第6章 世俗的な生活、所有物、権力への執着、そしてそれを人生の目的にする

世俗的な生活に心を執着し、それを本物、最大のもの、または唯一の重要なものと考えることは、すべての道徳的および倫理的な制約や考慮事項を脇に置き、物事の全体的な計画において些細で取るに足らない問題のために、それのためにずっと戦う道を開きます。 この思考プロセスは、個人レベルと国家全体の集団レベルの両方にあります。 個人レベルでは、人生において何が現実で重要かについての視点が曇り、内面と外面に強いストレスを引き起こします。 これにより、ラットレース、限られた資源をめぐる激しい競争、そして、時間という最高の資本を消費する無駄な努力で個人の人生全体を消費する不必要な闘争が保証されます。 一方、世俗的な生活への切り離しは、すべてを正しい視点に置き、自分の心、体、知性、魂を、人生の限られた時間である最大の資本を消費する無駄な取るに足らない努力に消費されることから解放することにつながります。 世俗的な生活への執着からの切り離しは、内なる平和、静けさ、自分自身との平和、そしてすべての仲間の人間との平和を育みます。 *スーフィー*の賢者は、「世界と世俗的な生活を偉大だと考えるとき、私は宇宙の単なる原子にすぎないと感じます。 しかし、私が世俗的な人生を小さなものと考えるとき、世界は宇宙の原子であり、私はこの宇宙の主人であることに気づきます!」 この分離は、内外に平和を吹き込む、より高い意識レベルに人を駆り立てる解放的な力です。 人はケチを実践する代わりに分かち合うことを学び、無知ではなく思いやりをし、利己主義とは対照的に無私無欲を学びます。 ガザリは、世俗的な生活への執着の背後にある理由、それによって引き起こされる害、そして心、体、知性、魂を解放してより高いレベルの意識を追求するこの病気の治療法を詳しく説明します。 ガザリの*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の6冊目の本は、これを扱い、それに対する治療法を処

方しています。 ガザリによるこの本の内容は、次のように要約された形でここに提示されています[12]。

世俗性は神の敵であり、神の友人の敵であり、神の否定者や敵対者の敵でもあります。それは神のしもべ(つまり、すべての人間)が正しさと正しい導きの道を歩むことを許さないため、神の敵です。 それは、ベッドで飾られた彼らの前に現れ、生命と美しさに満ちていることで彼らを誘惑しようとするので、それは神の友人や親密な人々(グノーシス主義者と聖人)の敵であり、彼らはその欺瞞の網に閉じ込められます。 その罠から解放されるためには、彼らは忍耐の苦いドラフトを飲み込まなければなりません。 神の否定者や反対者との敵意は、彼らと友達になり、彼らがしっかりと神の支配下に来るまで緑の牧草地を見せ、彼らがそれを確信するようになると、彼らを屈辱で包み込むことによって、彼らを欺瞞の網に閉じ込めたということです。 彼らは来世の屈辱と恥を取り除くことができないでしょう。 彼らはこの世を去るとき、永遠の至福と永遠の無限の勝利を奪われ、その分離の痛みに苦しむでしょう。来世の苦しみに見舞われるとき、彼らは後悔の声を上げて助けを求めますが、世界(本書の「世界」は「世界」そのものを意味するのではなく、世俗性や世俗的な執着を指すものであり、その後の議論のために常に心に留めておく必要があります)は彼らを救ってくれません。

それが神の友人でも、神の友人(グノーシス主義者、聖人、神の親しい者)でもないほど、この世の(世俗的な執着の)悪と苦しみの状態であるとき、さらに当惑するのは、それが神の敵の友人でさえないということであり、そのとき、私たちはその現実に気づき、その創造のための[神の]知恵を見つけることが不可欠になります。 たとえそれが創造主と被造物の敵であるとしても。 そして、悪がどのように欺くのか、そして悪を広めるためにどのような方法(不安、混乱、混乱)を採用しているのかを見る必要があります。次の章では、まず世俗の害を神の聖句、預言的な語り、伝統から説明し、その現実を例によって明らかにし、次に、人々が世俗的な行動に巻き込まれると、なぜ神の記憶を怠り、怠慢になるのかについて、世俗的な行動についての詳細が提供され、続いて世俗的な執着の治療法について説明します。

クルアーンは数え切れないほどの場所で世俗性を非難しており、聴衆はそれを避け、慈悲深い主に向けるように命じられてきました。 平安あれ、預言者を派遣する目的は、神のしもべ(人々)を世俗的な執着から思いとどまらせ、来世の道を歩ませることです。預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

「世の愛(世俗的な執着や絡み合い)は、すべての罪の根源である」。 (この伝統は、 *ハディース コレクション イブン・アビ・アル・ドゥニャ* そして *バイハキ*)

ان الدنيا حلوة خضرة وان الله مستخلفكم فيها فناظر كيف تعملون ان
بني اسرائيل لما بسطت لهم الدنيا ومهدت تاهوائى الحلية والنساء والطيب والثياب

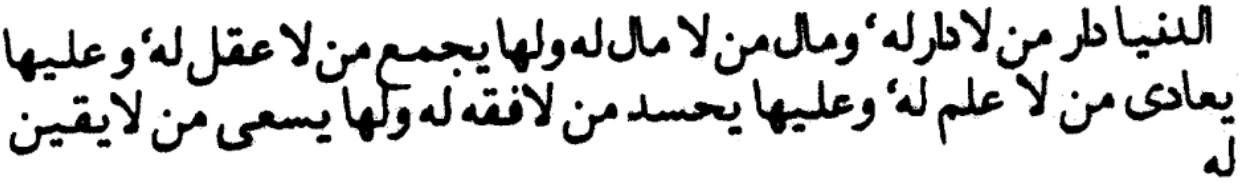
「世界は甘くて緑豊かです。神はあなたをその中で神の代理として、あなたがどのような行動や行為をするかを見るためにください。 イスラエルの子供たちのために世界が拡大されたとき、彼らは宝石、女性、香水、衣服に驚かされました。」 (この伝統は、*ハディースは*、アブ・サイード・アル・フドリ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ティルミディとイブン・マジャ*を集めています。 そのナレーションには、*イブン・アビ・アル・ドゥニャ*がハサン[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて語ったイスラエルの子供たちについての部分はありませんでした)

イエス(神の祝福と平安あれ)はこう言われました:「世界をあなたの所有者にしないでください。それはあなたをその奴隷にするでしょう。 あなたの宝物は、それを無駄にせず、守ってくれる人との信頼として保管してください。 世俗的な宝物の所有者は、常に盗難を恐れています。 自分の宝を神に持っている人は、いかなる種類の恐れもありません。」 かつて彼はこう言いました:「弟子たちよ! 私はあなたのために世界をひっくり返しました。 私の後を追って拾わないでください。 人間がこの世のために神に不従順になるのは、この世の悪の中からですが、この世を去るまで来世は得られません。来世を望むなら、世界が単なる通路であるかのように生き、そこに住まわないようにし、すべての罪の根源は世界の愛であることを知ってください。 時には、欲望の瞬間が長い間悲しみの原因になることがあります。」 イエス(神の祝福と平安あれ)もこう言われました。 来世の探求者は、彼らが彼らの栄養を完全に獲得できるようにするために、世界によって求められます[神は神の命令によってすべての個人にすでに配分されています]。 世界の探求者は、人が死んで首に乗り始めるまで来世に求められます。」 預言者ダビデ(二人に神の祝福と平安あれ)の息子である預言者ソロモンが軍隊とともに崇拝者を訪ねたという伝統があります。 彼の右と左にはジン と 人間が列をなし、鳥が上から彼を覆っていた。 崇拝者は言った:「ダビデの子よ! 神はあなたに大きな支配権を与えました。」 預言者ソロモン(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました:「信者の行動からロザリオ1本分の神の記憶は、ダビデの子に与えられたすべての世界よりも優れています。 それは、ダビデの子が所有するものは終わりを迎え、神の記憶は[永遠に]続くからです。」 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

الهاكم التكاثر يقول ابن آدم مالى مالى وهل لك من مالك الا ما اكلت
فافنيت اولبست فابليت او تصدقت فابقيت

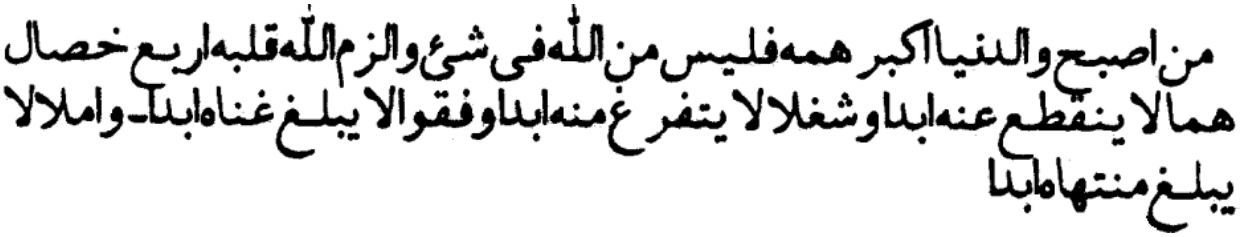
「過剰な貪欲さが、あなたを[神の]怠慢と無頓着にさせました。 アダムの子(人間)はこう言います。私の富!」と言ったが、たとえあなたが食べたもの、それを身に着けて古くしたもの、慈善活動で寄付したものであるにもかかわらず、私はそれを保存することができた。 (この伝統は、 *ハディース集 アブドゥッラー・イブン・アル・シャキールの権威に基づく*サヒー・ムスリム [神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)もこう言いました。


الدنيا دار من لا دار له، ومال من لا مال له ولها يجمع من لا عقل له، وعليها يعادى من لا علم له، وعليها يحسد من لا فقه له ولها يسعى من لا يقين له

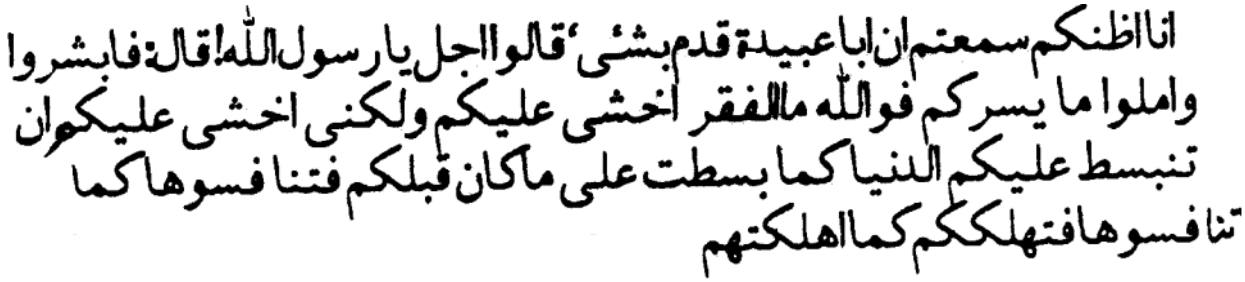
「世界は家を持たない人の家です。[霊的卓越性から]何の所有物も持っていない人の物質的な所有物。 世界を蓄積する人は、知性を持たない者であり、知らないものをめぐって争い(議論)し、知性を持たない者と嫉妬を実践し、確信がないからといってそれを求めて努力し続ける者です。」 (この伝統は、 *ハディース集 ムスナド・アフメド アイシャの権威* [神が彼女を喜ばれますように])

預言的なナレーションはこう言います。


من اصبح والدنيا اكبر همه فليس من الله في شئ والزم الله قلبه اربع خصال هما لا ينقطع عنه ابدا وشغلا لا يتفرغ منه ابدا وفقرا لا يبلغ غناه ابدا وامالا لا يبلغ منتهاها ابدا

「その[内面の]状態が、世界(世俗的な物質主義的な野心と目標)が[人生の]最大の目的になるような人、そのような人は敬虔さを欠き、神はそのような人の心に必要な4つの特徴をとります。決して分離しない悲しみ、休息を許さない絶え間ない[世俗的な活動への]従事、貧困(十分ではないという感覚)は豊かさに達することのできない[十分であることに満足するところまで]、 そして決して叶わない長い希望」。 (この伝統は、 *ハディースは、*アブ・ダール[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*タバラニ・アウサットを、アナス・ビン・マリク[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*イブン・アビ・アル・ドゥニャを集めています)

マリアの息子イエス(二人に神の祝福と平安あれ)は言われました:「この世の人にとって、死を確信しているにもかかわらず、この世に騙され、すべてを置き去りにして死ぬのは驚くべきことです。世は屈辱を負いますが、人はそれを恐れず、それに頼っています。大きな不幸は、だまされる人々、つまり、世が見たくないものを見せ、彼らを[この世の]愛するものから引き離す人々に与えられるものです。 後悔は、世界を目的とし、その行動が罪である人々にとって、罪のせいでどれほど屈辱を受けるかです。」 預言者モーセ(彼に神の祝福と平安あれ)に神の啓示がもたらされました。 あなたはこの抑圧者の住居(世界)と何の関係がありますか? この住居は確かにあなたのものではありません。 それをあなたの思考や想像力の中心(焦点)にしないでください。 そこからあなたの心を取り除き、それがあなたの家であるというあなたの知性をそこから遠ざけてください。 しかし、誰かがこの住居で正義に振る舞うなら、それはそのような人にとって良い家になるでしょう。 私は抑圧された人々のために復讐するまで、抑圧者を常に見守っています。」 預言者の伝統では、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)がアブ・ウバイダ・イブン・アル・ジャラ(神が彼を喜ばれますように)をバーレーンへの旅に送ったと語られています。 彼が戻ってきたとき、彼はいくつかのお金(当時流行していた金貨と銀貨の形で)を持ってきました。 アンサリの仲間たち(メディナとその周辺の元々の住民)は、アブ・ウバイダ・イブン・アル・ジャラ(神が彼を喜ばれますように)が戻ってきたことと、彼がいくらかのお金を持ち帰ったことを聞きました。 彼らは皆、預言者と一緒に早朝の祈りに参加しました。 彼が祈りを終えて[家に]帰るとき、彼らは彼の邪魔をしました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は彼らを見て微笑み、こう言いました。



「アブ・ウバイダが何かを持ってきたと聞いたことがあると思います。」 仲間たちは「はい、神の使徒よ!」と答えました。 彼は言った、「神があなたから苦難を取り除いてくださったという喜ばしい知らせがあります。 神よ! 私はあなたが貧しくなることを恐れていませんが、あなたの前の人々がそうであったように、あなたのために世界が拡大し、あなたが[世俗的な利益のために]互いに競争し始め、世界(世俗性)が彼らを破壊したようにあなたを破壊するのではないかと恐れています。」 (この伝統は、*ハディースは*、アムル・バドリの権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を収集しています[神が彼を喜ばれますように])

イエス(神の祝福と平安あれ)はこう言われました。 世界も海の波のようなものです、それをあなたの住まいとは思わないでください。」 イエスの仲間たち(神の祝福と平安あれ)は、行動した後、神の愛に値するアドバイスを彼らに与えてほしいとイエスに頼みました。 彼は「世界を愛するのをやめてください、神があなたを愛し始めるでしょう」と答えました。 アブ・ダルダ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと語っています。

لو تعلمون ما اعلم لضحكتم قليلا ولبكيتم كثيرا ولهانت عليكم الدنيا ولاثرتم الاخرة

「もしあなたが私が知っていることを知っていたら、あなたは笑うことが減り、泣くことが増え、世界はあなたにとって小さくなり、来世を好むでしょう。」 (この伝統は、*ハディース集ティルミディとイブン・マジャ*)

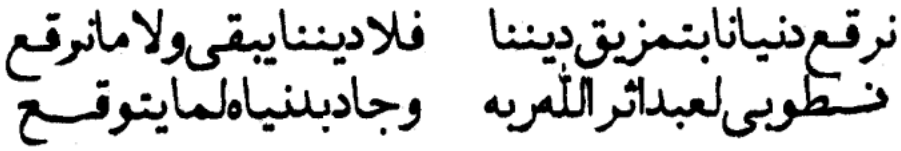
その後、アブ・ダール(神が彼を喜ばれますように - 世俗性を放棄したことで有名な予言者の仲間)は、自分自身からこう付け加えた:「もしあなたが私が知っていることを知っていたら、あなたは泣き叫びながら山に向かい、すべての所有物と富を捨てて逃げ出し、極度の必要性なしにはそれらを使用しないでしょう。 しかし、来世はあなた方の心から消え去り、世俗的な所有物や財産に対する貪欲は[あなた方の心の中]に常に存在しています。 あなたが行うべき[義の]行いは、世のためであり、あなたがたは何も知らない者のようになっている。 あなた方の中には、悪を犯す前に結果についてまず考えない牛よりも悪い人もいます。 神(ディーン)への道で兄弟愛の関係につながっているにもかかわらず、お互いの愛も誠実さも実践しないことに何が起こったのでしょうか? あなたの内なる悪は、あなたの目的に違いを生み出し、あなたの道を分離させました。 もしあなたがた全員が義に同意していたら、あなたたちは皆、お互いを愛したでしょう。 あなたがたは、世俗的な事柄ではお互いに誠実であるが、来世に関する事柄ではお互いに誠実ではないことがあなたに起こったこと。 あなたが愛する人たちは、来世に関連する事柄で彼らを助けません。 これらはすべて信仰の弱さの表れです。 もしあなたがこの世の確信を持っているように、来世の善と悪に確信を持っていたら、あなたはあらゆる事柄において善を助けてくれる来世のために奮闘したでしょう。

もしあなたが、遠いもの(来世の生活)よりも近くにあるもの(来世の生活)を愛していると言うなら、世界はあなたの目の前にあり、来世はあなたの目から隠されているので、

現在あるものは愛され、存在しないものは愛されていません。それに対する反応は、あなたがまだ来ていない(期待されている)もののために、存在する世俗的なものを離れているのを見るということです。一生懸命働いたり、目の前にないものでも、手に入れるという一縷の希望があり、そのためにさまざまな苦労や悩みを背負っています。 何が信仰の完全さを構成するのかについて確信を持っていないので、あなたは良い人ではありません。 もしあなたが預言者[ムハンマド](彼に神の平安と祝福あれ)によってもたらされた神の律法に疑問があるなら、私たちのところに来てください、私たちはあなたに話し、信仰の光で、あなたの心を満足させる[霊的]現実をあなたに示します。 神よ、あなたは知性に欠陥のある人々ではないので、私たちはあなたが[善悪を区別する道徳的責任から]免除されていると見なします。 世俗的な事柄では、あなたの意見は確固たるものであり、世界のほんの一部を手に入れれば、あなたの幸福は限界がありません。この世からほんの少しでも失われたとき、あなたの悲しみの状態は見る価値があります - あなたの顔はあなたの心を反映し、あなたの舌はあなたの心の中にあるものを表現します。 あなたはそれを苦難と呼んでいます。 あなた方の中には、自分の宗教(ディーンまたは神への道)に別れを告げた人がたくさんいますが、あなた方の心は後悔しておらず、顔からも明らかではありません。 [あなたの心の中]には奇妙な鈍感さがあります。神はあなたを不快に思っているように私には思えます。 お互いに会うとき、失礼なことをすれば相手が同じように扱ってくれるのではないかという恐怖のため、無理やり幸せを表現します。 あなたは自分自身の死(人生の終わり)を忘れています。 私は、神が私をあなたから安らぎを与えてくださることを望みます(私をあなたから引き離してください)、代わりに、私が切望している人々(つまり、預言者ムハンマド[彼に神の平安と祝福あれ]、彼の高貴な仲間、そして彼らの足跡をたどる神の誠実な探求者)に私と一緒に参加することを望んでいます。 もし彼らが今日生きていたら、彼らはあなたからこれらのことを受け入れなかったでしょう。 もしあなたがた自身の中に善の要素があるなら、私はすべてを明確に説明しました。 神とともにそれを達成したいのであれば、その方法は難しくありません。 私は自分自身と自分自身のために、神の助けと援助を求めます。」

イエス(神の祝福と平安あれ)は弟子たちにこう言いました:「世の人々が小さな宗教で世界の安全と争われているのと同じように、あなたの宗教の安全で小さな世界に満足しなさい」。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「自分の内なる存在に6つの資質を植え付けた人は、楽園の達成によって現れる神の受け入れを獲得し、地獄によって現れる[神の不承認]から身を守るためにあらゆる手段を講じました。第一の資質は、神を認識した後、神に従いました。 第二に、サタンを認識した後に不従順にしたこと、第三に真理を認識した後に真理に従い、第四に偽りを認識した後に偽りを避けたこと、

第五に世俗を認識した後に拒絶したこと、第六に、来世を認識した後に来世を求めたことである。 ルクマン(彼に平安あれ – 預言者ダビデの時代の賢者[彼に神の平安と祝福あれ])は、息子に忠告してこう言いました。世界は多くの人が溺れた深海のようなものです。神を恐れる船でそれを旅し、信仰を旅の仲間にし、神を帆として信頼しなさい、おそらくあなたはこの方法で溺れるのを免れるでしょう、そうでなければ、私はあなたの生き残る他の方法を見当たりません。」 アブ・スレイマン・アル・ダラニ(神が彼に憐れみあれ)は、「愛を持って世界を求める人は、自分の欲望に従って得ず、愛を持って来世を求める人は、自分の意図と欲望以上のものを得る。それに終わりも限界もありません」と言いました。 アブドゥッラー・ビン・マスード(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「すべての人間はゲストであり、人が持っている物質的な所有物と富は何でも信託です。ゲストは去り、信託はその[真の]所有者[この地球と、その中と向こうに存在するすべてのものの相続人である神]の元に戻ります。」 イブラヒム・ビン・アダム(神が彼に憐れみあれ)は、彼の状態について尋ねられ、次の2つの詩で答えました。



「私たちは世界を築くために神への道(ディーンまたは信仰)を破壊しますが、道(信仰)も世界も残っていません。 喜ばしい知らせは、主への道を採用し、期待されたこと(来世の神の報い)のために世俗的な命を犠牲にした[神の]しもべたちのためのものです。」

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「神は世界を3つの部分に分けました。1つは信者のためのもの、1つの部分は偽善者のためのもの、もう1つの部分は不信者のためのものです。 信者はこの世から来世の道への信頼(備え)を取り、偽善者は[この世の]外側の装飾に注意を向け、不信者は[物質的な成果、権力、名声、豊かさの観点から]世俗的な成功を達成します。」

ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)は[カリフ]ウマル・ビン・アブドゥル・アジズ(神が彼に憐れみあれ)に手紙を書きました。 アダム(神の祝福と平安あれ)は罰としてこの世に送られたので、それ(その欺瞞と罠)から身を守りなさい。 おお、信者の司令官よ! それを放棄すること(つまり、あらゆる罠を伴う世俗性)は、来世の提供そのものであり、その中で人生を過ごし、不必要な欲求を放棄することは、まさに[個人にとって]贅沢です。 それは常にあらゆる瞬間を殺します。 それを尊重する人は、それによっ

て屈辱を受けます。 それを蓄積する人は、それによって困窮します。 それは、知らず知らずのうちに消費され、死の抱擁に至る毒のようなものです。 傷を治す人のように、この世で人生を生きてください。 言い換えれば、不注意が病気の重症化につながることを恐れて、治療中に患者に必要なすべての予防措置と予防をしっかりと守ってください。 患者は、病気の長期化を避けるために、薬の苦味と強度に耐えるように努めるべきです。 この永続的で、不誠実で、狡猾で、欺瞞的な世界から身を守りましょう。 それはその装飾に欺瞞を隠しています。 それは人々をその美しさの網に閉じ込め、それを達成したいという欲求を誘発し、その恋人たちはその混乱と苦難の中で追い詰められ、意識を失い、自分自身の最終的な目的を気にすることなく、完全にそれに属する(執着する)ことになります。 それは、美しさが光景を眩惑させ、心はそれを見てみたいと欲しがり、一目見ようと動揺する花嫁のようですが、それは恋人たちにとって最後の結末のメッセンジャーです。 その親密さを見つけた人は、破壊が自分の運命になります。 あああ！今、人々は過去からも現在からも教訓を得ていません。 神を認識する人もまた、この世に関するいかなるアドバイスにも耳を傾けません。 神を愛する人は、その一部を手に入れて(神の命令に反対して)反逆に夢中になり、来世を忘れて[来世に]夢中になり、間違いを避けることができない人がたくさんいます。 意識に戻ると、恥ずかしさと後悔が心を引っ張りますが、これは差し迫った死の時です - 一方では死の激しさに直面し、他方では恥と後悔の痛みに耐えています。 世界(世俗性)に傾倒している個人は、自分の目的を達成することも、いかなる困難からも自己(*ナフス*)を慰めることができず、何の備えも準備もなしに[最終的な故郷]に到着します。 おお、信者の司令官よ! それから身を守ってください。 あなたがそれにますます満足しているときは、世俗的な人々が何らかの幸福に満足すると、それは彼らを困難に包み込むので、特に注意してください。 その中で幸せでいる人は騙されてしまいます。 今日恩恵を受けている人は、明日は損失に耐えます。 世俗的な生活の広がりは、苦しみの前兆であり、その中での生存は絶滅で終わります。 そのすべての幸福は悲しみに満ちています。 そこから遠く離れる者は、戻らない。 そこに住んでいる人は、次に何が起こるかわからないので、それを待つこともできました。 人間はここに住んでいる間、2つの危険に囲まれています - 1つの危険は祝福が去ることであり、2番目の危険は苦難です。 もし神が世界の害について私たちに知らせてくれなかったとしたら、そして神が例によって現実を明らかにしなかったとしたら、怠慢な人を眠りから目覚めさせるのに十分です。 しかし、神は私たちを何の助けもなしに放置したのではなく、代わりに彼らに戒め者を遣わされました。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は、世界の宝庫への鍵を贈られました。もし彼がそれらを受け入れていたら、彼の階級は下がらなかったでしょうが、彼はそれらを受け入れることを拒否しました。」 (この伝統は、この手紙とハサン・アル・バスリ(神が慈悲してくださいますように)による返事で語られています。*イブン・アビ・アル・ドゥニヤ*)

世界に耽った後の世界の害から守る

世俗に浸った後、世俗の害から身を守ることは難しいだけでなく、むしろ不可能です。預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

انما مثل صاحب الدنيا كالماشي في الماء هل يستطيع الذي يمشي في الماء ان لا تبتل قدماه

「この世の人の類似性は、水の中を歩く人のようです。 水の中を歩いている人が足を濡らさないことは可能ですか?」 (この伝統は、 *ハディースは*アナスの権威に基づいて*イブン・アビ・アル・ドゥニャとバイハキ*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

この預言的伝統に照らして、「私たちの心は肉体と何のつながりもないので、私たちの体は世俗的な快楽にふけるだけで、私たちの心はそうではない」と言う人々の無知が明らかになります。 これは悪魔の欺瞞であり、これらの喜びから距離を置くと、喜びとの分離を悲しむからです。 これらの喜びが彼らの心と関係がないとしたら、この悲しみの意味は何でしょうか? 水の中を歩くことの意味が足が必ず濡れるということであるのと同じように、同様に、世俗的な快楽に耽るという意味は、心が必然的に影響を受け、これらの(肉体的な)快楽からの汚染物質の影響が必ず心に届くということです。 むしろ、心がこの世について少しでも考えているなら、それでも神の礼拝の甘さを奪われてしまいます。 イエス(神の祝福と平安あれ)は言われました:「私は真実をあなたに言います。病人が食べ物を楽しまないのと同じように、同様に世俗的な人も[神の]礼拝の甘さを味わわないのです。 また、馬が乗らなくなった馬が反抗的になり、気質が悪くなるのと同じように、人間の心も同様に、死の記憶と崇拝の苦難によって柔らかくならなければ、硬さと厳しさが生まれるということを真実に言います。 これはまた、容器が湿気から分離され、乾燥するまで、蜂蜜を蓄えることができず、同様に、心は欲望から切り離されたままで、貪欲に汚染され、快楽に汚染されないまで、知恵とグノーシスに満ちています。」

この世への耽溺と来世の怠慢のたとえ話: 来世に対するこの世の住人の怠慢のたとえ話は、離島に到着した船で旅行する人々のグループと、船の船長が彼らに必要を満たすために下船するように言うというものです。 それに加えて、危険な場所なので、その場

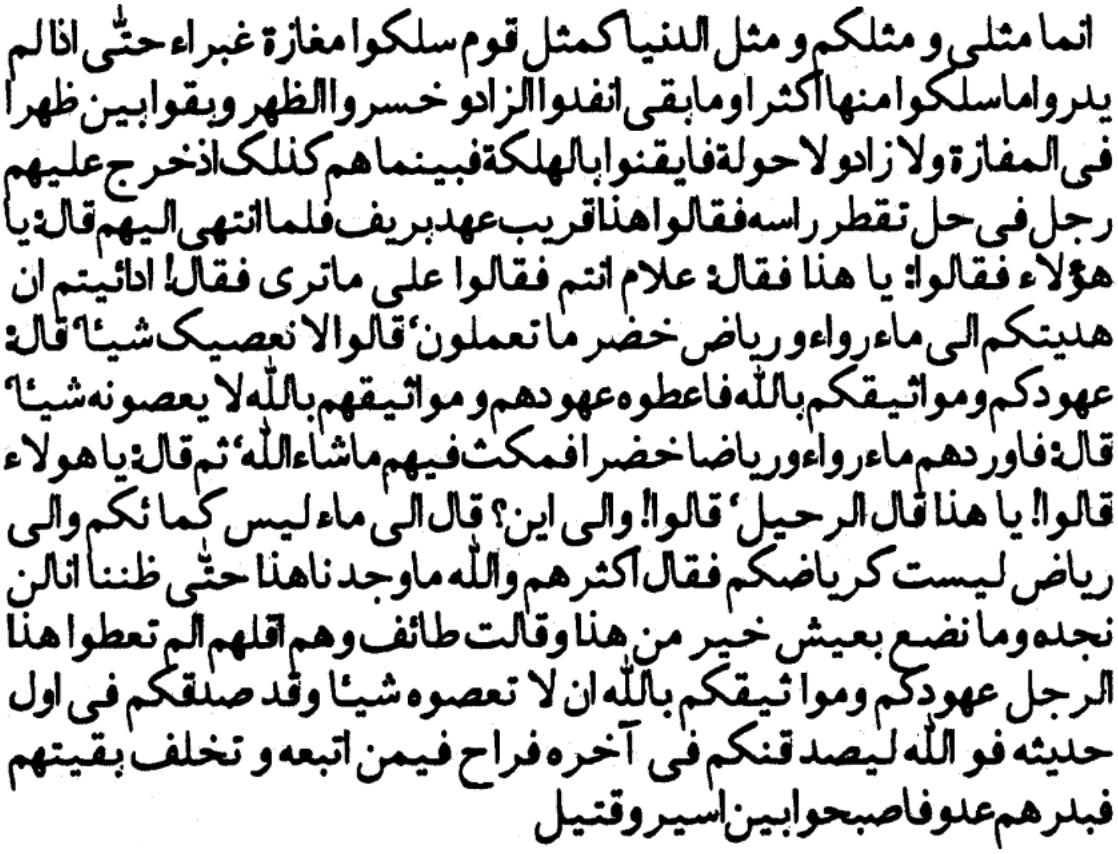
所に長く滞在するのは適切ではなく、急がなければ船は目的地に向かって出航するだろうと知らされます。 今、人々は島に下船し、解散します。 彼らの中には、自分のニーズを満たした後すぐに船に戻り、船上で広く、適切で、望ましい場所を見つける人もいます。 島に滞在する人もいます。 彼らは、素晴らしい景色、魅力的な花、壮大な庭園、美しい鳥のさえずり、島に属する宝石や鉱物に魅了されています。 しかし、船が出航することを恐れて、彼らはそこにあまり長く滞在することを許しません。 しぶしぶ船に戻るが、船の良い場所はすでに占領されており、取るしかない狭い場所を見つける。 何人かの人々が戻ってきました。しかし、彼らは島の宝石、美しい花、おいしい果物が大好きで、それらなしでは戻れませんでした。 彼らはこれらのもののいくつかを集めて持ち帰りました。 船内のスペースはすでに狭く、持ってきたものは収容できませんでした。 彼らは船の残りの狭い場所に座り、集めたものを頭に乗せることを余儀なくされました。 彼らは、これらのものを不必要に持ち込んだことを心の中で恥ずかしく思い続けました。 (乗客の中から)何人かの人々は、島の壮大な色とりどりの景色と以前の宝石に目がくらみ、心が魅了され、船のことをすっかり忘れて島の奥深くに入り、船長の声さえ聞こえないほどでした。 彼らは果物を食べ、花の匂いを嗅ぎ、甘美な庭園を巡ることに夢中になっていたので、たとえ船長の声が届いたとしても、彼らはそれを聞くことができなかったでしょうし、聞いたとしても注意を払うことはできなかったでしょう。 彼らは獰猛な獣に対する恐怖を心に抱いており、島には苦難、心配、苦難、服を細断する棘、体を傷つける木々、心を震わせる恐怖や恐ろしい音があり、戻りたいと思っても戻れないことを理解していました。 そんな考えに戸惑っている間、船に乗った人々の声が聞こえた。 彼らは急いで食料と宝石を積み込み、船に向かって行きましたが、その頃には船は錨を上げて下船し、出航していました。 これらの人々は失望し、落胆して海岸に立って、恐怖と恐怖で亡くなりました。 [残された]船長の呼びかけさえ聞くことができない人もいましたが、その中には獣の餌になった人もいれば、心配して当惑して歩き回って死んだ人もいました。 沼地に沈んで命を落とした人もいれば、ヘビに噛まれた人もいた。

次に、船の乗客の状態を聞いてください。 島で集めたものを持って船に乗り込んだ人の中には、荷物を頭に乗せて座り続けた人もいました。 船には座るスペースが足りず、その上、不要なものを置くスペースはさらに不足していました。 旅は長かった。 彼らが集めたものの最終的な結末は、花が枯れ、果実が腐り、宝石の色が変わり、脳が悪臭で崩壊し始め、どうすればよいのか、どうやって安全に持ち運べばいいのか、考えられなかった。 何も考えられないとき、彼らはすべてを海に投げ捨てましたが、その悪臭があまりにも大きな影響を与え、家に帰るのが困難になりました。 彼らが家に着いたとき、多くの人が病気になりました。 遅れて船に乗った人たちは、スペース不足で

少し心配したままでしたが、それでも無事に家に着いた。 船に時間通りに到着し、快適な場所を見つけた人々は、旅の間も平和に過ごし、無事に家に着きました。 これは、一時的な快楽に耽り、自分の焦点[人生の目的]と[天国の]起源[それが彼らの本当の最終目的地]をどれほど忘れている世俗的な人々の例です。 彼らは自分の最終的な終わりに気づいていませんし、(自分の行動の結果として)何が起こるかも認識していません。 富や物質的な商品を集めた後、自分を知的で賢明だと考える人々は、これらが世俗的な装飾品であり、死の時にはこれらのもののどれも一緒にいないことを理解しておらず、代わりに痛みと苦しみの源になることを理解していないにもかかわらず、どれほど悪いことでしょう。 死の前に、それらによって引き起こされる苦難は、それらを失うことへの恐怖とそれらが不足していることの悲しみに常に動揺しているため、神の避難所と保護の中にいる人々を除いて、心を泣かせざるを得ません。 ほとんどの人はそうです。

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は仲間たちにこう言いました:「私、あなた、そして世界のたとえ話は、砂漠を旅している一部の人々のたとえ話です。 彼らはあまりにも歩いたので、走った距離が(残りの距離よりも)長いのか、それとも残りの距離が長いのかを覚えていませんでした。 彼らの[旅の]準備はすべて終わり、彼らの勇気は消え去った。 食料も乗り物も失われた彼らは、不毛の砂漠にとどまり、死にかけているという確信を持っていました。 突然、彼らは、髪から水滴が滴り落ちている間、立派な服を着た男が彼らのところにやって来るのを見ました。 彼らは、この男は肥沃な地域から来たもので、その場所は確かに自分たちに近いと考えました。 彼が彼らに近づくと、彼は彼らの状態について尋ねました。 彼らは「私たちが耐えている苦しみがわかります」と答えました。 到着したばかりの男性はこう言いました:「もし私があなたを甘い水と緑豊かな庭に連れて行ったら、あなたはどうしますか?」 彼らは「私たちはあなたに従います」と答えました。 彼は言った、「神に誓い、約束を固めなさい」と言いました。 彼らは神に逆らわないと神に誓いました。 約束通り、彼は彼らを甘い水と緑豊かな庭の泉に連れて行き、数日間一緒に過ごしました。 その後、彼は尋ねました:「旅を進めることについてどう思いますか?」 彼らは「どこへ行くのですか?」と尋ねました。 彼は答えました:「この水よりも甘い水に向かって、そしてこの庭よりも緑豊かな庭園に向かって」。 ほとんどの人はこう答えました:「私たちがここで見つけたものは、おそらく他のどこにもそれ以上のものを見つけることができないでしょうし、ここで私たちが持っている快適な生活は、おそらくそれ以上のものを見つけることはできません。 だからこそ、私たちはあなたと一緒に行かないのです』と言いました。 「あなたは神に誓い、神に逆らわないと約束しませんでしたか?」と答えた人もいます。 今、彼が最初の約束を果たしたように、あなたの約束を果たせよ、彼は他の約束を果たす

でしょう。」 何人かの人々は彼と一緒に去り、残りは残って遅れをとった。 朝、敵軍が待ち伏せし、何人かを殺し、何人かは捕虜になった」。 (この伝統は、 *ハディース*がアブドゥッラー・ビン・アッバスの権威に基づいて*イブン・アビ・アル・ドゥニャ、アフメド、バザズ、タバラニ*を収集[神が彼に喜ばれますように])


انما مثلی و مثلکم و مثل الدنیا کمثل قوم سلکوا مفازة غبراء حتّٰی اذا لم یدروا ماسلکوا منها اکثر اوما بقی انفدوا الزاد و خسروا الظهر و بقوا بین ظهرا فی المفازة ولا زاد ولا حولة فایقنوا بالهلکة فبینما هم کذلک اذ خرج علیهم رجل فی حل تقطر راسه فقالوا هذا قریب عهد بریف فلما انتهی الیهم قال: یا هؤلاء فقالوا: یا هذا فقال: علام انتم فقالوا علی ماتری فقال! ادائیتم ان هدیتکم الی ماء رواء و ریاض خضر ما تعملون' قالوا لا نعصیک شیئا' قال: عهودکم و مواثیقکم باللّٰه فاعطوه عهودهم و مواثیقهم باللّٰه لا یعصونه شیئا' قال: فاوردهم ماء رواء و ریاضا خضرا فمکث فیهم ماشاء اللّٰه' ثم قال: یا هولاء قالوا! یا هذا قال الرحیل' قالوا! والی این؟ قال الی ماء لیس کمائکم والی ریاض لیست کریاضکم فقال اکثرهم واللّٰه ماوجدنا هذا حتّٰی ظننا انا لن نجده وما نضع بعیش خیر من هنا وقالت طائف وهم اقلهم الم تعطوا هذا الرجل عهودکم و مواثیقکم باللّٰه ان لا تعصوه شیئا وقد صدقکم فی اول حدیثه فو اللّٰه لیصدقنکم فی آخره فراح فیمن اتبعه و تخلف بقیتهم فبدرهم عدوفاصبحوا بین اسیر وقتیل

この預言的伝統は、2つのグループの人々について言及しています。 一人は神の命令に従う者であり、もう一人は神の命令に逆らいます。 彼らのところに来るのは預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)そのものであり、世界はキャラバンの人々が[長く困難な旅で]疲れて横たわる不毛の砂漠であり、それらの甘い水の泉と緑豊かな庭園は来世の泉と庭園です。

世俗的な快楽や追求への耽溺、そしてそれらからの分離の苦しみのたとえ話: 世俗的な富と所有物を持っている人々の類似性は、家を建ててそれを豊かに装飾し、人々を家に招く人です。 人が一人ずつ入ってきます。 家に足を踏み入れると、ホストは花や香水を詰めた金の大皿をゲストに差し出し、ゲストが花や香水の匂いを嗅いで前に進み、次に入ってくる人のために大皿を残しました。 しかし、ゲストがホストが大皿をゲストに贈り、ゲストがその大皿の所有者であると誤解し、大皿とその香水に心の愛着を抱く場合。 大皿がゲストから取り上げられると、ゲストは花や香水がただ楽しむためだけに贈られたものであり、その所有者にするために贈られたものではないことに気づき

ます。 この頃になると、ゲストの苦しみと悲しみ、絶望感は見どころがある。 この間違いは、ゲストがホストのこれらのエチケットや伝統に気づいていなかったために起こりました。 それとは反対に、ホストの伝統とエチケットに精通した別のゲストが入ってきて、大皿を持ってしばらく楽しんだ後、ホストに感謝の挨拶をし、陽気でオープンな心でホストに返しました。 これは、この世界が旅人に捧げられたゲストハウスであり、旅行者がここで[短い]立ち寄りをし、次の目的地に向けて食料を集めることができるように、この世界に対する神のこの古代のやり方に気づいている人々の状態です。 言い換えれば、旅行者がゲストハウス(またはモーテル)を利用するのと同じように、彼らもまた、(真の究極の目的地への旅のために)世界から恩恵を受け、そこ(つまり、世界と呼ばれるこのゲストハウス)を永久の住居とは考えず、それに心を執着しすぎて、別れる時が来ると、 [別れ、別れを告げ、去る]ことが難しくなります。 これは、世界、その苦しみ、そしてその害の例です。 私たちはこの問題に関して神に助けを求めます。

人間にとっての世界の現実と本質

世界のどの側面が有害であり、世界のどの側面を避けるべきであり、どの側面を避けるべきではないかを知るまで、世俗性の害についての知識を得るだけでは十分ではないことを覚えておく必要があります。 この点で、それ(世界の有害な側面)は真実の探求者の敵であり、真実への道の高速道路強盗であるため、それを判断することが不可欠です。 世界と来世は、あなたの心の2つの状態、つまり近くにある状態と遠い状態であることを知っておく必要があります。 最初の状態、つまり死前の状態は世界と呼ばれ、第二の状態、つまり死後の状態は来世と呼ばれます。 このことから、死ぬ前は、人間の必要性、欲望、快楽に関連するものが自分の世界であり、それらは3つのタイプがあることがわかっています。

最初のタイプ:来世であなたと一緒にいて、その果実が死後にあなたに明らかにされるものを含み、それらは知識と[善、敬虔、正義]の2つのものだけです。 ここでの知識とは、神の存在、属性(資質)と行動、天使、神が啓示した書物、[神が定めた]預言者、天と地の支配を知ることを指します。 行いとは、純粋に神の喜びのために行われる礼拝を指します。 時々、学者は知識に執着しすぎて、それが最も愛され、楽しいものになります。 人はそれよりも別の喜びを優先しません。 人は、知識のために、食べること、飲むこと、寝ること、そのすべてを忘れます。 知識に見出す喜びがそれらの[他の]ものには見られないから結婚するのではありませんが、非難されるべき世俗性について言及するとき、私たちはそれを[世俗的なものとして]数えるのではなく、むしろそれを来世のものの一つに数えます。 同様に、礼拝者は礼拝に執着し、礼拝に喜びを感じるため、礼拝を止められたら、おそらく最悪の罰となるでしょう。 ある賢者は「おお神よ!

私の墓の中でも祈り、頭を下げ、ひれ伏す力を私に与えてください。」 彼がこれを嘆願していたのは、祈りが彼にとって自発的な[内なる霊的]喜びの源になったからです。 この種の快楽は、この世俗的な生活で達成されるため、[異世的なものとともに]世俗的であると見なすこともできますが、非難されるべき世俗性として数えることはできません。 ある有名な預言者のナレーション[*ハディース*集では、*アナス(神が彼を喜ばれますように)の権威に基づいてナサイとハキム*]で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、祈りをこの世から愛した3つのものの一つに数えました。 それは、喜びを感じて観察することができ、祈りも感覚的で観察できるからです。 [神に]お辞儀をしたりひれ伏したりする動きを通して得られる喜びも世俗的な喜びですが、非難されるべき世俗性ではないので、私たちはそれに反対しません。

第二のタイプ: 罪から快楽を引き出す、無駄や傲慢のカテゴリーにある必要以上に許容されるものを楽しむなど、来世に何の利益も結果ももたらさない、まったく反対のタイプの味や快楽が含まれます。 たとえば、金と銀の山、馬(誇りの源でもある輸送手段)、家畜、使用人、宮殿、高価な服、おいしい食べ物などです。 それらを楽しむ[神の]しもべは、非難されるべき世俗から来ています。

第三のタイプ: 純粋に世俗的なものでも、来世に属さない喜びも含まれます。 代わりに、彼らは、自分のニーズに応じた食べ物、自分のニーズに応じた衣服など、来世に関連する行為を助け、人間が生存のために、または健康を達成するために必要な知識と行為[人生の真の目的とその結果としての永遠の幸福と無限の勝利を達成するために必要な]を達成するために必要なすべての喜びを含みます。 これらの喜びは最初のタイプとは異なりますが、最初のタイプを助け、それらに到達するための手段になります。 したがって、知識と善行を続けるために食べるなら、この[食べる]行為はこの世から来たものではなく、世俗的と呼ばれるに値しません。 しかし、もし食べる原動力が(料理の喜びにおける)儚い喜びであるならば、この喜びは世俗的な喜びであり、第二のタイプに数えられます。

死後も人間に残るもの: 死後、[神の]しもべに残るのは、世俗性からの汚染から浄化された心[そして、霊的な領域への舞い上がりを妨げた世俗的な絡み合いと執着]、神の記憶への執着と愛、そして心の浄化と清らかさの3つだけです。 【すべて】これらは、神の記憶と忍耐の豊かさによって達成され、神への愛はグノーシスを通じて達成され、グノーシスは絶え間ない熟考によって達成されます。 これら3つの性質はすべて、死後の人間の救いと永遠の幸福の手段です。

世俗的な欲望から心を浄化することは、神の報復と人間との間の障壁であるため、救いです。 神への執着と神の愛は、永遠の幸福への鍵です。 これら 2 つの性質は、神のビジョンと [最愛の者との] 出会いの喜びを人に与え、この大きな幸運は死後すぐに達成され、この状態は楽園で神のビジョンを達成するまで続きます。 墓は美しい楽園になりますが、墓の住人に最愛の人(つまり神)が一人しかいないのに、なぜそうであっては

ならないのでしょうか? そのような人がこの世にいたとき、いくつかの障害があったため、最愛の人に会うことはできなかったでしょう。 死はそれらの障害を取り除き、人はこの世の牢獄から解放されました - 人と最愛の人の間に障害として立っていた壁は取り除かれました。 今、人はあらゆる危害や危険から安全を確保しながら、喜んで来世に足を踏み入れるでしょう。 世界の探求者は墓場で罰に直面しますが、なぜそうすべきではないのでしょうか? 人の最愛の人はただ一つの[物体]であり、それが世界でした。 その最愛の人は人から奪われ、墓の壁は人と愛する人(つまり世界)の間の障害となりました。 死は絶滅(または人間の存在の終わり)の名前ではなく、代わりに、死は人と愛するものとの間に分離を引き起こし、神の法廷に提示されます。 このことから、来世の道を歩む旅人は、神の記憶と熟考に永遠に夢中になり、世俗的な欲望や欲望を根絶し、それらを手放す行為に細心の注意を払って遵守し、これらすべては健康なしでは不可能であり、それは食物によって達成されることが知られています。 [住むために]衣服と住まい。 これらのそれぞれを達成するかどうかは、[貿易や雇用など][世俗的な]手段に依存します。 したがって、自分の必要に応じて衣服、食べ物、住まいを手に入れる人は、世俗的と呼ばれるに値せず、むしろそのような人にとって、世界は来世の農地になります。 しかし、もし人が[低等な]自己(*ナフ*)の快楽のために、または放蕩のためにこれらのことを達成した場合、その人は世俗的な[人]となり、世俗的な快楽に関心を持つ人々の中に数えられるでしょう。

世俗的な快楽への耽溺の種類: 世俗的な快楽への耽溺には 2 つのタイプがあります。 その耽溺者が神の報復の対象となり、それは神が禁じられているもの(ハラム)への耽溺と呼ばれます。 2番目のタイプの耽溺は、耽溺者が高度な達成[および神の受け入れ]に到達するのを妨げ、代わりに[裁きの日に]長い説明責任を負わせます。 この免罪符の名前は「許容事項」(*ハラール*)です。 知恵と内なる洞察力を持つ人々は、説明責任を果たすために長期間滞在することも、神の報復の一形態であることを知っています[欲望ではなく、欲望を満たす場所である世俗的な生活の中で快楽にふけること、欲望を満たす場所は永遠の命です]。 たとえ説明責任がなくても、楽園での高位の地位の低下と、低次の自己の儚く、絶滅的で卑劣な欲望のために高い[霊的]地位を奪われた心の悲しみだけであっても、それ自体が罰にほかならない。

あなたは、この世でのあなたの状態から、[来世の]あなたのこの状態を推測することができます。 同時代の人や同等の地位の人々が[人間の達成と努力]のあらゆる分野で成功し、[あなたや他の人よりも]先を行っているのを見ると、これらの世俗的な地位と祝福が一時的なものであることを知っているにもかかわらず、あなたがどれほど剥奪されていると感じ、心が[あなたよりもうまくやっている他の人と比較して]取り残されることをどれほど心配するか。 不安や苦難が混ざり合っています。 彼らには永続性や生存性がありません。 世の祝福を得られなかったことで悲しみ、悲しんでいるとき、来世の野で同時代の人々があなたを上回り、言葉では表現できない偉大な永遠の幸福と永遠の成功を奪われたままになったとき、あなたはどうなるでしょうか? 来世で尋ねられた質

問に答えることは、屈辱、恐れ、危険、困難、待ちを伴い、これらすべての事柄は来世の成就を損ないます。 したがって、ウマル・ビン・アル・ハッタブ(神が彼を喜ばれますように)が喉が渇いたとき[そして水を求めた]とき、蜂蜜を混ぜた冷たくて甘い水のカップが彼に差し出されました。 彼はかなり長い間(一口も飲まずに)手に持ったカップを回転させ続け、それからプレゼンターに戻してこう言いました。

اعزلواعنی حسابها

「[裁きの日に神の前で]その責任から私を遠ざけてください」。

この結果、不足、豊富さ、許容、禁止はすべて不要であるということです。 神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を助ける量だけがこれから除外されます。 世俗的な祝福から遠ざかることは、その人のグノーシス(マリファ)の強さに比例します。 ある時、イエス(神の祝福と平安あれ)は眠るつもりで[地面に]横たわり、頭を岩の上に置きました。 サタンは人間の姿で現れ、「あなたは世界に傾いている」と言いました。 これを聞いて、彼は[地面に頭を置くために使っていた]岩を取り、それを捨てました[サタンに、この世からそれほど必要としていないことを行動で示しました]。 同様に、預言者ソロモン(神の祝福と平安あれ)は、地上の宝と世俗の支配への鍵を持っていたにもかかわらず、自分で大麦パンを食べ、他の人に素晴らしいおいしい食事を与えていました。 彼はこのように自分の低次の自己(*ナフス*)を征服し、制御しましたが、これは[多彩な豪華な]食事を得る能力を持ちながら忍耐力を行使することは激しい困難であり、精神的な努力であり、普通の人間の能力ではないため、困難な仕事でした。 それが、預言者ムハンマド(神の意志によって)世俗的な祝福が遠ざけられた理由であり、それが彼が何日も連続して空腹にしていた理由です。 (この伝統は、 *ハディースは*、アブドゥッラー・ビン・アッバース[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいてティルミディ*とイブン・マジャを集めています*)。 時々、空腹の苦しみの激しさのために、彼はお腹に石を結びつけていました。

預言者や友人、神の親しい人(聖徒)が絶え間ない苦難や苦難に直面している理由そのものが、彼らが来世で最大の分け前を持ち、来世での分け前が世俗的な喜びによって減らないからです。 それは、愛情深い父親が息子においしい食べ物を食べさせ、病気の治療を受けるよう強制するようなものです。 彼はケチや心の固さからそうしているのではなく、自分の幸福のために息子への愛と愛情に駆られてそうしています。 このことから、神のためであるものはすべて世界ではなく、神のためではないものはすべて世界(または世俗性)であることが明らかになりました。

世界の現実と耽溺は、人間が没頭すると、自分自身、宇宙の創造主、そして自分自身の終わりを忘れてしまう

世界とは、人間が存在し、享受し、その改善に従事しているものの名前であることを知っておく必要があります。 これらは3つの問題です。 この3つのもののうちの1つが世界(世俗性)と呼ばれるように感じることがあります。 神はこう言われます。

إِنَّا جَعَلْنَا مَا عَلَى ٱلْأَرْضِ زِينَةً لَّهَا لِنَبْلُوَهُمْ أَيُّهُمْ أَحْسَنُ عَمَلًا

「われわれは、その装飾の原因として、地上に多くのものを造った。それは、誰が善行を行うかを人々に試すためである。」 (クルアーン、18章、7節)

地球はベッド、住まい、駅(一時的な休息場所)のようなもので、その上にあるものには、服、食べ物、交尾が含まれます。 地球上にあるすべてのものの中で、それらはすべて、鉱物、植物、生物の3つのタイプに分けることができます。 人間は植物から食料や薬を手に入れたり、銅や鋼などの鉱物から道具や道具を作ったり、金貨や銀貨を鋳造したり、植物から作られた装飾品などの現金として保管したりします。生物には、人間と動物の2種類があります。 動物は肉、乗馬、装飾に必要です。 人間は、彼らの奉仕のために必要です[人間はあらゆることにおいて相互に依存しているため、数え切れないほどの問題における自分のニーズのために]、配偶者の場合のような交友関係、または目的は単に自分自身に心を傾けることです-言い換えれば、名声への欲求。 これらは「世界」(*ドゥニヤ*)と呼ばれるものです。 神はこれらすべてを次のように一節にまとめました。

زُيِّنَ لِلنَّاسِ حُبُّ ٱلشَّهَوَٰتِ مِنَ ٱلنِّسَآءِ وَٱلْبَنِينَ وَٱلْقَنَٰطِيرِ ٱلْمُقَنطَرَةِ مِنَ ٱلذَّهَبِ وَٱلْفِضَّةِ وَٱلْخَيْلِ ٱلْمُسَوَّمَةِ وَٱلْأَنْعَٰمِ وَٱلْحَرْثِ ۗ

「人々は、女性、息子、金銀の宝庫、マークされた馬、家畜、そして[人間が関わる農地やその他のさまざまな職業の]耕作から愛らしいものを愛することを楽しいと感じています。」 (クルアーン、第3章、14節)

この聖句では、女性と息子は人間を指し、金と銀は鉱物と宝石を指し、馬と家畜は動物を指し、耕うんは植物を指します。

しもべと世俗的なものとの関係: [神のしもべ、つまり人間]には、世俗的なものとの[関係]が 2 つの領域があります。 最初の領域は心とともにあり、それは人がそれらを愛し、それらを利用し、心がその囚人になる程度にその達成に自分の思考を先取りするということであり、次にこの領域では、傲慢さなどの世界に関連する心のすべての[望まし

くない否定的な]性質が入ります。 ケチ、嫉妬、誇示、名声への愛、他人の悪い意見、辛辣さ、賞賛への愛、自慢、優越感。 この領域を内なる世界と呼びます。 2番目の領域は、本質的に物理的な外部世界と呼ばれます。 言い換えれば、楽しむことを可能にするものの改善に体を夢中にさせ続けることです。 それらには、人々が関与し、忙しくしているすべての業界や職業が含まれます。

まさにこの2つの領域、つまり[前述のさまざまなことに対する]心の愛の領域と[さまざまな職業や産業における]耽溺の領域のせいで、人々は自分自身(*ナフ*)と人生の目的を無視し、忘れてきました。 彼らが自分自身、彼らの主を認識し、知り、世界の創造の背後にある秘密と知恵を知るなら、彼らは、私たちが世界と呼んだもの(人間、鉱物、動物、植物)が、あなたが乗っている乗馬の餌として創造され、来世への道を旅していることを理解し始めるでしょう。 この乗馬用マウントはあなたの体であり、体は食べ物、水、衣服、そして住居なしでは生きていけません。 ラクダがハッジ(人類が恩恵を受けるために地上に置かれた神聖な象徴的な神の家への巡礼)の旅で草、穀物、水なしでは生きていけないのと同じように。 人間は、この世に生まれてから、自分自身(*ナフ*)と人生の目的を無視してきました。 それは、巡礼者が[最終目的地に向かう]途中の駅に立ち寄り、ラクダにたっぷりと餌を与え、大切に世話をし、水浴びをし、装飾し、さまざまな種類の草を集め、冷たい水を手配し、このようにしてキャラバンは前進し、このラクダの囚人は後ろにとどまります。 この巡礼者はラクダに仕えるのに忙しく、この旅の目的の認識も、キャラバンが一人を置き去りにして前進し、この恐怖に満ちたジャングルが自分の墓になるのに、どのように旅を続けるかという認識も残っていませんでした。 野獣は一人もラクダも惜しまない。 知的な巡礼者は自分の目的だけを視野に入れており、ラクダに提供する奉仕の量は[ラクダを動かし続けるために必要な量のみであり、]同じ目的の一部であり、その目的の達成を達成するための手段となるでしょう。 乗馬の強さが残り、ライダーを最終目的地に連れて行くことができる範囲でのみ、乗馬に奉仕するのに忙しくなります。 来世の道を横断する知的な旅行者の状態も同様です。 必要な範囲でのみ体に奉仕します。 人が不必要にトイレに行かないのと同じように、同様に、人は不必要に体に奉仕しません。 私の意見では、食べ物を胃に入れることと、そこから取り出すことに違いはありません。 どちらも体のニーズです。 食べ物が不必要に体外に取り出されないのと同じように、同様に不必要に入れてはいけません。 人間を神と審判の日から遠ざけるものは胃です。 食べ物がより重要だからだ。 服装や居住に関する事案は、胃のそれに比べてそれほど難しくない。 大空の下で服を着ずに暮らすことはできますが、空腹や喉の渇きを続けることはできません。

人々がこれらのものが必要な理由を知れば、必要な(必要な)量だけで満足するでしょう。 世俗的な仕事に夢中になっている人々は、この世の現実や知恵に精通していないためにそうしているのです。 彼らは世俗的な仕事にひどく囚われて、自分自身の[真の]目的を忘れ、自分たちが従事している仕事だけを覚えています。 次に、世俗的な関与と

、人々がそれを必要としている理由と、それらに従事することで人生の目的をどのように忘れるのかについて説明します。

人間の3つのニーズ: 世俗的な関与には、人々が忙しくしているすべての業界や職業が含まれます。 これらの婚約が豊富にあるのは、人間が食料、衣服、住居の3つを必要としているからです。 食べ物は生き続けるためのものであり、暑さや寒さを払拭するための衣服であり、暑さ、寒さ、雨から身を守り、妻、子供、所有物を安全に保つための住居です。 崇高な神は、この三つのものから、いかなる産業や職業とも関係のないものを創造したわけではありません。 一方、これは動物の場合と同じではありません。 例えば、草を食べて料理をしなくてもいいし、暑さや寒さも体に影響を与えないので、服や住まいは必要ない。 彼らの服は皮膚と髪であり、彼らの住まいはジャングルと砂漠です。 彼らはオープンスカイの下で生活することができます。 人間はそうではなく、生活必需品としては、農業、放牧(家畜の)放牧、狩猟、織物、建設という5つの基本的な産業と職業が必要です。 建設とは、家を建て、衣服を織り、それに関連するものを紡ぎ、乗り物に乗って肉を得るための放牧、食料のための農業と耕作であり、狩猟とは、狩猟(魚や動物など)狩猟、鉱物、草、木材、天然資源など、神が創造したものを手に入れることです。

職業の区分: 農民は作物を生産し、羊飼いは動物を保護して繁殖させ、ハンター(または天然資源の探検家と採集家)は、それらを作成するために何もしなくても自然に存在するものを手に入れます。 そこには多くの業界やスキルが含まれており、それぞれに独自のツールが必要です。 これらの道具は、植物 (木) または鉱物 (鉄や銅など)、または動物の毛皮から作られています。 そのためには、職人技、鉄細工、革細工の 3 つの産業が必要です。 これらの職業はすべて工具製造に関連しています。 これらは基本的なスキルと職業です[そして他のすべてのものはこれらの基本的な職業から発せられています]。

人間の創造と集団的存在: 人間は、一人で人生を生きることができず、同種の人々と集団的存在を余儀なくされるように創造されてきました。 その理由は2つあります。 その理由の一つは、人類の生存のために、結婚生活における男女の結合なしには起こり得ない人類を前進させる必要があるからです。 第二の理由は、人はすべての仕事を自分で行うことができないからです。 食べたり、飲んだり、着たり、子育てをしたり、そのようなことは、他者との協力の必要性を実感させます。 子供は男性と女性の関係から生まれ、一人の人間だけでは、育成から衣食の提供まですべての責任を果たすことはできません。 さらに、配偶者と子供だけでは不十分であり、むしろ自分の人生を生きるためには、一人一人が異なる職業に就くように、多くの人がいることが大切です。 農業には鉄工と職人なしでは作れない道具が必要なため、農業に関連するすべての作業を一人で行うことはできません。 作物から食べ物を準備するためには、穀物を挽く人とパンを焼くためのパン屋が必要です。 同様に、まず綿を栽培してから、織りや縫製のための道具を作る必要があるため、誰も一人で衣服を作ることはできません。 道具

は多すぎて、一人だけではこれらすべての道具を自分で準備することはできません。 同様に、人間が一人で生きることは不可能であり、代わりに集団的存在が不可欠です。 この集団が砂漠や空の下の裸地にある場合、彼らは暑さ、寒さ、雨に苦しむでしょう。 彼らは泥棒や強盗の手によって悩まされるでしょう。 だからこそ、家を建てる必要が生じ、すべての家族が自分の家を持ち、そこで自分の所有物を持って安全に人生を過ごし、暑さ、寒さ、雨から身を守り、生計手段を守ることが必要になりました。 泥棒や強盗は頑丈な家に侵入し、住民を悩ませ、所有物や[生計手段]を略奪することができるため、家の周りに高い境界壁を建設する必要性が生じました。 この必要性が都市と集落の基礎を形成しました。 そして、人々が家や都市に集まり、相互に取引をすると、それは相互の争いを引き起こしました。 同様に、相互の違いも[この集団生活から]生まれました。 夫は妻に責任があり、父親は子孫に責任があります。 責任と後見は葛藤と紛争を生むが、それとは対照的に、動物に対する後見は弾圧が加わっても争いと抵抗する力すらないため、紛争を起こさない。 一方、女性は不当な扱いを受けると夫と口論し、夫に立ち向かうでしょう。 子供たちは親と口論することになります。 これは、家庭(または家族内)の状態です。 都市の人々は相互に取引をしており、その結果、違いや対立に直面します。 放っておけば、お互いに戦って殺し合う。 羊飼いや農民の状況も同様です。 牧草地、農地、小川、井戸などの共有された[天然]資源の恩恵を受け、そこから目的が達成されなければ、彼らの間には確実に相互の違いが生じるでしょう。 衰弱、病気、老齢などの理由で、農業や産業で働くことができない人がいます。 これらの人々が無力なままにしておくと、彼らは無駄になる(または破壊される)でしょう。 彼らの世話をする責任が[他の]全員に課せられたら、問題は解決しませんし、もし一人の人だけに課せられたとしても、なぜその責任を[一人で]負うのでしょうか。 これらの[やむを得ない]理由と障害のために、他の多くの産業が生まれました。 その一つが測定のスキルであり、それを通じて土地の量を測定することができます。 法執行機関という職業は、紛争の際に物事を正しく評価し、すべての正当な所有者が自分の権利を取得できるようにするために生まれました。 この職業に精通した人々は、武器で都市を守り、泥棒や敵から都市の住人を守ります。 1つのスキルは管理とガバナンスであり、その助けを借りて、都市住民の相互紛争は解決されます。 そのようなスキルの1つは、神の法則(***Fiqh***)であり、言い換えれば、被造物の生活に規律を植え付け、人々に神の限界に慣れ親しんで、すべての問題において神の法の範囲内にとどまり、論争にふけることがないようにするために使用される神の命令と法則に精通することです。 これらのスキルは市の行政に関連しており、その必要性は否定できません。 知識、識別力、指導力、その他の資質を備えた特定の人々だけが、これらのスキルで忙しくすることができます。

これらの人々がこれらのスキルや職業に携わっている場合、他のことは何もできないことは明らかです。 彼らは生計を立てる必要があり、都市住民は[行政のために]彼らを必要としています。 たとえば、都市のすべての人々が戦争に巻き込まれると、すべての産業が停止されます。 同様に、すべての兵士が生計を立てるために産業や職業に従事

すると、都市(および国)は[侵略する軍隊に対する防御策がないため]危険になり、住民の命は常に危険にさらされます。 そのため、特定の人が所有していない資金源(公共の利益に使用される公的資金)から、そのような人々の収入と生活のためにお金を使う必要性が生じました。 都市の住民は、都市を守るために、資源で彼らを助ける必要があります。 そのため、税金の必要性が生じました。 税金に関する問題から、他にも多くのニーズが生じました。 たとえば、耕作者や裕福な個人に公平に税金を課す人が必要でした。 それに加えて、徴収された税金を保管するための徴税人と会計係が必要でした。 タックス・ディストリビューターも避けられなかった。 これらすべてのニーズにより、資格のある個人に責任が委任されました。 税金を徴収し、公共の利益のために分配し、戦争時に兵士を使い、防御するための武器を与え、軍隊の指導者を任命し、国政を管理するために無数の人々を任命するなど、正義を持って行動する指導者が必要でした。 これらの人々(公職の任命者)は、公的責任を果たしながら他の職業に就くことができないため、給料を必要としています。 [行政に関連する]これらすべての取り組みには、税金などの手段を通じて獲得できる資源が必要です。

これについて熟考してください! 食べ物、衣服、住む場所の必要性は、他にも多くのニーズを生み出しました。 これが他のすべての世俗的な事柄の状態です。 [人間の必要と努力のために]1つのドアが開かれると、他の多くのドアが自動的に開き、この一連の出来事は、あたかも世界が深さに限界のない穴のようなものであるかのように終わりを迎えません。 人間がこの世の溝に落ちてそこから抜け出せないとき、2番目の溝に落ち、そこから3番目の溝に落ちます。 これらは、創造物の関与、[多彩な]努力、経済的苦境のいくつかの例です。 人々は昼夜を問わずこれらの活動で忙しいです。 誰もがお金を稼ぐことに夢中になり、それを人生の目的にしています。 人は自分の活動[およびさまざまな世俗的な関与]に夢中になっているため、自分の存在に対する感覚も、自分の人生の[本当の]目的の実現や死後の世界についての考察も残っていません。 すべての人は、この世のために絶え間なく闘い、当惑して歩き回っています。 世俗的な関与による濁りは、彼らの弱い知性と不完全な心を支配し、彼らの思考さえも混乱と堕落を免れていません。

世俗性に夢中になっている人々の種類: 世界に夢中になっている人々は、同じ考えを持っていないし、共通の目的を持っていません。 ある視点を持つ人もいれば、別の視点を持つ人もいます。 そのようなグループの1つは、彼らの目(洞察)が彼らの最後の終わりを一瞥する能力が残っていないほど、無注意と無知の厚いベールで目を覆っています。 私たちはこの世で生きるのに数日しかないと言われていますが、だからこそ、私たちは再び栄養を稼ぐことができるように、食事をし、食べて力を得るために一生懸命働く必要があります。 言い換えれば、彼らは稼ぐために食べるのです。 これは、修煉者、専門家、そして世俗的な快適さをあまり持たず、宗教における地位(多くの実践)も持たない人々の視点です。 彼らは夜はお腹いっぱい食べられるように日中は一生懸命働

き、夜は日中一生懸命働くことができます。 これはそのような旅であり、死で終わるだけの循環です。

自分の創作目的を知っていると主張する人もいます。 彼らは、神の律法の目的は人間に[正しい]行いをさせることではなく、世俗的な快楽からいかなる快楽も享受せず、代わりに、人間の達成(サーダ)の集大成は、人間が胃と陰部の欲望を満たすことであると言います。 これらの人々はまた、自分自身(ナフ)を無視し、肉欲の快楽やおいしい食べ物に夢中になっているため、他に何も覚えていません。 彼らは動物のように生活し始め、その上、欲望(楽しみと肉欲の快楽)が[人生の]本当の目的であると主張します。 そのような人々は、神の記憶と来世の考えに注意を払わない人々です。

一部の人々は、人間の成果(サーダ)の本当の集大成は富と宝物の豊かさであると信じています。 したがって、彼らは長い旅をして物質的な所有物[と富]を集めて夜の睡眠と平和を台無しにし、道のりのあらゆる困難を容認し、どんなに困難と屈辱であっても富のためにあらゆる種類のことをしました。 彼らは、彼らのケチさが何も使わず、資本の減少を引き起こすことを許さなかったため、必要な量を超えて食べることさえ好まないほど、ただ稼ぎ、蓄積することに従事し続けています。 これはあたかも富の蓄積が彼らにとって快楽の源となり、人生の最後の息まで、死が来るまでその快楽に夢中になり、その宝物はすべて土に埋もれたまま[または密かに保管していた場所]か、欲望と快楽の方法ですべてを費やした他の人々の手に渡ったかのようです。 彼ら自身は苦難以外に何も達成できず、来世の結果はそれに加えてあり、喜びは彼らの努力から恩恵を受けた他の人々によってのみ達成されました。 守銭奴(および買いだめ者)がどのように結末を迎えるかを人々が見ているにもかかわらず、気にしないのは驚くべきことです。

一部の人々は、人間の功績(サーダ)の本当の集大成は、賞賛されるべきであり[そして多くの名声を獲得する]ことであり、すべての人が彼らの素敵なドレス、真っ白でエレガントで装飾された外見を賞賛すべきだと考えました。 そんな人たちもお金を稼ぐために昼夜を問わず忙しいが、飲食(食べ物)に自制し、良い服や良い輸送手段を調達することに全財産を費やしている。 彼らは家のドアや外壁を[美しい]絵の具で輝かせて目を眩ませ、それらを見ている人々は家の所有者がとても裕福だと思い始めます。 この賞賛はまさに彼らの喜びであり、酩酊であり、まさにこの喜びのために、彼らは苦労して稼いだお金がどこに使われているのかを考えずに昼も夜も稼いでいます。

一部の人々は、人間の業績(サーダ)の本当の集大成は、誰もが謙虚さと敬意を持って尊敬し、敬意を払い、従順になる名声と地位を獲得することであると考えていました。 人々の支持を得るためには、ランク(高い社会的地位と権力)と名声(名声)が必要でした。 だからこそ、彼らは政府で役割を獲得し、実行される決定を下す立場に立つよう努め始めました。 少数の人々を支配し、彼らの服従を得ることが彼らの目的です。 このことは、人々の従うことをすべてと見なし、彼らの従順(またはあらゆる事柄において

従う)が神の従順、崇拝、来世の想像に気づかないようにした、ほとんどの無頓着な人々に存在します。

これらは[世俗性に夢中になっている]いくつかのタイプの人々です。 彼ら以外にも、70を超える宗派(人々のグループ)がいくつかあります。 これらのグループはすべて本質的に見当違いであり、他のグループを真実の道から誤解させます。 彼らがこの誤った導きに傾倒する本当の理由は、世俗的な生活において、彼らはおいしい食べ物、良い服、良い家を望んでいるからです。 食べ物、衣服、家の必要性は否定できませんが、3つの[もの]のそれぞれからどれだけの量が[人の真のニーズに]十分であるかも見なければなりません。 必要な量以上のものを求める必要性と欲求が彼らを非常に押し上げ、推進してきたため、世界が彼らの人生の唯一の目的となり、彼らは自分自身の最終的な目的を忘れるような方法でこの目的に向かって走りました。 食べ物、衣服、住居などの生活手段の必要性を理解し、その本当の目的に精通している人々は、創造の目的を無視するような仕事に夢中になることはありません。 彼らがどのような仕事をするにせよ、彼らはその目的とそれにおける彼らの分け前を知っています。 経済闘争の目的は、肉体が死なないように衣食によって肉体を守ることであり、それが創造された「崇拝」の目的が達成されることは明らかです。 この世で自分の分け前をあまり得られない人々は、来世に注意を向けるための世俗的な関与に気づかなくなります。 彼らの心の中では、神の記憶と彼ら自身の死(避けられない死という形で)の熟考が支配的であり、あらゆる瞬間に、彼らは来るべき人生の準備ができています。 必要性(必要性)の限界を超えた人々は、世俗的な行動や努力によって平和に暮らすことができません。 1つの[世俗的な]関与が2番目の[関与]を生み出し、この[関与の]連鎖は終わりがなくなります。 [世俗的な]関与の過剰さは、心配を増大させ、心と精神を不安に閉じ込めます。 心が常に世に耽溺し、心が世の影に覆われているそのような人が、どうして神を思い出すことができるでしょうか。 これが世界に夢中になっている人々の様子です。

この現実を認識する人々は世俗を避けますが、サタンは彼らを嫉妬し、避けることさえ彼らを誤解させます。 したがって、世俗性を避ける人々によって多くのグループが形成されてきました。 あるグループは、世界は勤勉と苦難の場所であり、来世は永遠の幸福と無限の成功の住まいであると考えていました(*サーダ*)。 ですから、来世に[無事に]到達した人は誰でも、この世で神の崇拝(イバダ)を行ったかどうかにかかわらず、永遠の幸福と無限の成功を受け入れました。 そのため、彼らは正しい道は、世俗的な苦しみを取り除くために、人間が自分自身を破壊することであると認識しました。 したがって、人々のグループは死を受け入れるために火に落ち、そうすることで世俗的な苦しみや悲しみを取り除くことができると考えています。 あるグループの人々は、自分の命を奪うことは無駄であり、代わりに人間の資質(自然)を根絶する必要があると考えています。 来世の人間の達成(*サーダ*)の集大成は、怒りと欲望を自己(ナフス)から完全に分離することにあります。 このグループは、人間性を根絶するために激しい霊的闘争を行いました。 自分自身に厳しく、霊的闘争中に亡くなった人もいれば、精神と感

覚を失い、病気になり、霊的闘争を続けることができなくなった人もいました。 霊的な闘争にもかかわらず、自分の人間性を根絶できないのを見て、神の法(道徳的、倫理的、霊的な教えに関する命令)に基づいて行動することは不可能であり、神の法は単なる欺瞞であり、根拠がないと考える人もいます。 その結果、彼らは無宗教性と神への拒絶の道を歩み始めました。 あるグループは、罪人の不従順は神の神聖な素晴らしさを損なうことも、義人への崇拝が神の偉大さと神聖さを高めるものではないため、すべての礼拝は神を必要としない神のために行われると考えました。 [この誤った信念を抱いた結果]彼らは欲望に戻り、すべてを正当なものとして宣言する道を歩み始めました(善か悪か、道徳的か不道徳か、倫理的か非倫理的か、正義か悪かに関係なく)。 彼らは神の律法とその命令をひっくり返し、すべてを正当なもの(そして公正なゲーム)と見なすことは、神の唯一性(タウヒード)への信仰の明確さと無精通さの証拠であるというこの堕落した推測に巻き込まれました。 あるグループは、神の崇拝の目的は、礼拝の努力によって神のノーシスに到達できるように、霊的な努力であると信じていました。 グノーシスに到達することは、目的が達成され、これ以上の精神的な努力の必要がなくなったことを意味します。 このようにして、これらの人々は霊的な闘争と崇拝を離れ、神のグノーシスが彼らを努力の限界から解放したと主張し始めました - 信徒だけが神の律法の命令に従う義務があります。 そのような見当違いの人々のグループは無数にあり、彼らの間違った信念は非常に多く、それらを書面で伝えるのは困難です。 これらのグループの中で、救いを得る唯一のグループは、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)と彼の高貴な仲間(神が彼ら全員を喜ばれますように)の方法に従うグループであり、言い換えれば、彼らは世界を完全に去ることも、欲望(ここで使用されている言葉は「人間の本性」の意味で)を完全に根絶することもありません - 彼らは世界から必要な部分だけを奪うでしょうそれは来世の道における頼りや備え(旅の途中で持っていく必要最低限の必需品)となり、神の法則に従う範囲から排除された欲望を残すでしょう。

正しい信念を持つ信者は、すべての欲望に従うべきではなく、すべての欲望を離れるべきではなく、節度の道を歩むべきです。 つまり、世のすべてを離れたり、世のすべてを成し遂げたりしてはならず、神が創造されたすべてのものの目的を理解し、その目的を守るべきです。 たとえば、神の礼拝のために力を得るために必要な量の食べ物を摂取する必要があります(礼拝の範囲は祈りや神の記憶に限定されず、むしろ、生計を立てることや娯楽を得ることなど、どんなに平凡な行為であっても、神のために、そして神に通じる道を前進させるために行われます。 神聖な崇拝の行為です)、泥棒や暑さや寒い天候の厳しさから人を守ることができる多くの家、体を覆い、天候の変化の中で人を守ることができる多くの衣服を達成し、心が肉体的な責任から解放されたときに、神に集中し、神の記憶と熟考に従事できるようになります。 自分の欲望(情熱と物質主義的な野心)が義と神への畏れの限界を超えないように厳しく監視しながら。 これらすべての事柄は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)によれば、彼の道を進んでいるように、高貴な仲間(神が彼ら全員に喜ばれますように)の道をたどる救いのグループに従

うことによって知ることができます。 これらの人々は節度の道を歩んでおり、前述で詳細に概説されている明確で明るい道の信奉者でした。 彼らは世界のためにではなく、神(ディーン)への道のために世界に到達し、隠者のライフスタイルを採用したり、世界の必需品に気づかなかったりしました。 彼らの問題には、過剰も不足もなく、むしろ、節度が神に愛されているように、欠乏と過剰の中間にある[あらゆる極端を避ける節度の]道でした。

第7章 ケチと物質的な所有物への愛の害

*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の7*冊目の本は、霊的な道の他の2つの障害を扱っています。 唯物論的な人生観は、自分が属するより広いコミュニティの共通の利益のための寛大さを妨げ、他者の正当な権利の奪いにつながる貪欲を助長します。 貪欲と物質主義に駆り立てられた利己主義の助長は、個人、社会、コミュニティを社会秩序の最下位にいる人々の苦しみから免疫を持たせ、ひいては持てる者と持たざる者の間の対立、不和、分裂を引き起こします。 ガザリはこれら 2 つの病気を診断し、スピリチュアルな道に対する悪影響を分析し、内なるスピリチュアルな卓越性を自由に追求できるように解放する治療法を処方します。 ガザリによるこの本の内容は、次のように要約された形でここに提示されています[13]。

世俗的な生活の試練と苦難:この世の試練と苦難は、枝から枝へと非常に広大であり、数え切れないほどあることを知っておく必要があります。 これらの中で最大のものは物質的な所有物であり、個人がそれに気づくことはなく、それが達成されたとしても、その害から身を守ることは非常に困難です。 それを奪われることは貧困であり、時には不信仰(*クフル*)に至ることがあり、裕福であることは(神の命令に対する)反逆の原因となり、その結果は損失しかもたらされません。 結論として、富には利点と害の両方があるということです。 その利点は救いの性質の一つであり、その害は破壊的な内面

の性質の一つです。 富には善と悪の2つの側面があります。 この二つを区別するのは非常に難しいため、慣習的な学者や欺瞞に陥った宗教エリートとは対照的に、知識にしっかりと根付いており、神(ディーン)への道について深い洞察を持っている学者だけが区別できます。 そのため、最後の章で説明したことは、特に富ではなく、世俗性に関連しているため、富と物質的な所有物の害を別々に言及することが不可欠です。 儚い、儚い喜びを「世界」と呼びます。 この点で、富も世界の構成要素であり、富だけを「世界」とは呼びません。 世界の1つの要素は名声と名声であり、1つの要素は胃と陰部の欲望であり、1つの要素は怒りに鎮められることであり、1つの要素は嫉妬であり、1つは傲慢と壮大さです。 人間が喜びを得るような要素や部分はたくさんあります。

富の試練: この本では、人間にとってより多くの試練と害があるため、物質的な所有物[と富]のみが議論のテーマになります。 物質的な所有物が欠けている場合、それは個人に貧困の質(霊的な意味での神の貧困も指す)を生み出し、それが存在する場合、それは個人に富の質を生み出します。 これらの状態はどちらも試行錯誤の状態です。 次に、物質的な所有物を持たない人には、満足感と貪欲という2つの資質が生まれます。 そのうちの1つ(貪欲)は非難に値し、もう1つ(満足)は望ましいものです。 貪欲な人にはさらに2つの資質もあります-1つは、他人の所有物を簒奪したいと思って監視することです。第二に、貿易、雇用、または産業で忙しくなるように促す物質的な所有物を手に入れたいという欲求です。 貪欲は最悪の性質の1つです。 裕福な人には、けちさと他人からの遠慮(ケチな性質のために他人に与えなければならない正当なものであっても)、そして支出という2つの資質もあります。 これらの資質の1つは望ましいものであり、もう1つは非難されるべきものです。 支出者には、無駄な支出と節度という2つの資質もあります。 その中でも節度は賞賛に値する。 これらすべては漠然と微妙であるため、それらを説明することが重要です。 これらの事項については、以下で説明します。 まず、富の害を説明し、次にその利点を説明します。 次に、その利点と害に関する詳細が提示されます。 これに続いて貪欲の非難が続き、その治療法が説明されます。 寛大さは寛大な人々の伝統で説明され、その後、ケチが非難され、守銭奴に関する伝統が提示されます。 その後、卓越性、そして自分よりも他人を優先する優越性について説明します。 けちさと寛大さに関する神の律法の限界が扱われます。 ケチの治療法が概説され、富に関する集団的責任の説明が行われます。

富の害と富を愛することへの不承認

神はこう言われます。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تُلۡهِكُمۡ أَمۡوَٰلُكُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُكُمۡ عَن ذِكۡرِ ٱللَّهِۚ وَمَن يَفۡعَلۡ ذَٰلِكَ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ

「おお、信じる者よ!あなたの物質的な所有物(富)と子孫によって、神の記憶に注意を払わないようにしてください。 そんなことをする者は敗者の一人になるでしょう。」 (クルアーン、第63章、9節)

إِنَّمَآ أَمۡوَٰلُكُمۡ وَأَوۡلَٰدُكُمۡ فِتۡنَةٞۚ وَٱللَّهُ عِندَهُۥٓ أَجۡرٌ عَظِيمٞ

「あなたの物質的な所有物(富)とあなたの子孫は、あなたにとって試練と試練の[原因]であり、神にとっては、(世俗的な責任を可能な限り最善の方法で果たしながら、優先順位を正しくし、人生の真の目的に集中し、努力し続けることに対する)途方もない報酬です。」 (クルアーン、64章、15節)

مَن كَانَ يُرِيدُ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا وَزِينَتَهَا نُوَفِّ إِلَيۡهِمۡ أَعۡمَٰلَهُمۡ فِيهَا وَهُمۡ فِيهَا لَا يُبۡخَسُونَ

「[善行の報いとして]この世の命とその華やかさと輝きを望む者、われはそのような人々にこの世での[善行]の報いを与え、この世に彼らにとっての不足[または物質的利益の減少]はありません。」 (クルアーン、11章、15節)

كَلَآ إِنَّ ٱلۡإِنسَٰنَ لَيَطۡغَىٰٓ ٦ أَن رَّءَاهُ ٱسۡتَغۡنَىٰٓ ٧

「人間は、自分自身を自給自足で裕福であると見なしているため、[良識、道徳、善行の]あらゆる限界を超えています。」 (クルアーン、第96章、6-7節)

أَلۡهَىٰكُمُ ٱلتَّكَاثُرُ

「富の豊かさは、あなたを[人生の本当の目的とそれに向かって努力するために必要な正しい行動]に注意を払わなくなりました。」 (クルアーン、第102章、1節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

ماذئبان ضاريان ارسلا في زريبة غنم باكثر افسادا فيها من حب الشرف
والمال والجاه في دين الرجل المسلم

「2匹の獰猛な(そして飢えた)オオカミがヤギの群れに侵入しても、富と名声(名声と権力)への愛のためにイスラム教徒の信仰に引き起こされるほどの混乱(損害)を引き起こすことはありません。」 (この伝統は、*ハディースは*、カブ・イブン・マリク[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ティルミディ*と*ナサイ*を集めています)

يقول ابن ادم مالي مالي وهل لك من مالك الا ما اكلت فافنيت او لبست
فابليت او تصدقت فامضيت

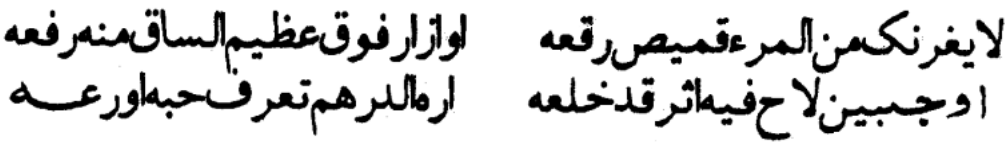
「アダムの子(人間)はこう言います。『私の富、私の富!』 あなたの富の中から、あなたがそれを食べて使い終えたもの、またはそれを着て[それを使って]古くしたもの以外に、本当にあなたのものはありますか?」 (この伝統は、*アブ・フライラとアブドゥッラー・ビン・アル・シャハイルの権威に基づく*ハディース・コレクション・サヒー・ムスリム[神が彼らを喜ばれますように])

اخلاء بني آدم ثلاثة واحد يتبعه الى قبض روحه والثاني الى قبره والثالث الى
محشره فالذي يتبعه الى قبض روحه فهو ماله' فالذي يتبعه الى قبره فهو اهله
والذي يتبعه الى محشره فهو عمله

「アダム(人間)の子供たちには3人の友人がいます。 まず、魂が捕らえられる(死する)まで彼らと一緒にいます。 2番目は墓(埋葬)まで1つと一緒にいます。 3番目は審判の日まで1つと一緒にいます。 魂が捕らえられるまで助けてくれるのは富です。 墓まで助けてくれるのは、友人、家族、親戚です。 審判の日まで助けられるのは、その人の[善行、正義、敬虔、高貴な]行いです。」 (この伝統は、*ハディース*が*ナウマン・ビン・バシールの権威に基づいてタバラニ・アウサット*、*タバラニ・カベイル*、*アフメド*を収集[神が彼を喜ばれますように])

イエスの弟子たち(彼に神の祝福と平安あれ)は彼に言いました。 その理由は何ですか?」 彼は答えました:「*ディルハム* と *ディナール* (昔は通貨に使用された金貨と銀貨)の重要性は何ですか?」 彼らは「私たちは彼らを良いとは考えていない」と言いました。 彼は答えた:「これらは両方とも私にとって小さな小石に等しい[だからこそ、物質主義からの切り離しによって水の上を歩くことができるのです]」。

ある[アラブ]詩人は[詩で]こう言っています。



「ワッペン(貧困のしるし)が付いた誰かの服(貧困のしるし)、足首から持ち上げられたズボン(神の命令に従うしるし)、額にひれ伏したしるし(神への敬虔な崇拝のしるし)にだまされてはいけません。 *ディルハム* (金貨またはお金)を見せれば、富への愛かそれへの禁欲のどちらかがわかります[なぜなら、物質主義からの禁欲は、その人の宗教性と精神性の真の指標であり、宗教性と敬虔さの外見上の外見ではないからです]」。

富の賞賛と批判の間の対立解決

神の律法は、それをサタンの戦術であり、すべての罪と悪の源と呼び、時にはそれを称賛し、さまざまな[神の]崇拝を達成する手段と呼びます。 これらの[一見]相反する聖句と伝統の間に、どうして対立の解決ができるのでしょうか? そのための方法(見かけ上の対立の解決)は、富の知恵、目的、害が理解されるまでは理解しがたいです。 その後、富はある理由で良く、別の理由で悪いという現実が明らかになります。 それは良いことで賞賛に値し、悪いことで非難されるべきです。 それは、富が純粋な悪でも純粋な善でもなく、むしろ善と悪の両方のための手段であり、両方を達成するための手段だからです。 神の感謝の章(ガザリの「神への道の知識の復活」の第4巻と本作の第12章)では、善と祝福の程度について説明しました。 ここでそれについて言及する唯一の意図は、賢明で神秘的な洞察力の所有者の目的は、永続的で永続的な[神の]祝福である来世の永遠の幸福と無限の成功(*サーダ*)であるということです。 この祝福を達成しようとしているのは、スピリチュアルで知的な人々だけです。

永遠の幸福と無限の勝利を得る手段:

この世では、来世の永遠の幸福と無限の成功(*サーダ*)は、次の3つの源なしには得られません。第一に、知識と良い態度、気質、気質、性格(イクラク)などの自己の卓越性(ナフ)。 第二に、健康や個人の幸福などの身体の卓越性です。 第三に、富や世俗的な資源など、[自己と体にとって]無関係な卓越性です。 これらの中で、[永遠の幸福と永遠の成功またはサーダを達成するための]すべての手段の中で最良のものは、自己の卓越性であり、次に肉体の卓越性が続き、最終的には肉体と自己の両方にとって無関係な卓越性であり、それらは人間のしもべであり、何も彼らに奉仕しないため、最も地位の低い富とお金が含まれます。 それらは[それらを通して]他のものを得るために望まれており、自分自身のために望まれているわけではありません。 これは、自己(*ナフス*)が永遠の

幸福と無限の勝利が望まれる非常に微妙な存在であり、知識、神聖なグノーシス、および高い性格特性に奉仕し、これらの性質が自己の本質的な内面の性質になるからです。その後、自己は身体、感覚、手足によって奉仕されます。 食べ物と衣服は体に役立ちます。 食べることは体を守るためであり、結婚は人類を守るためであると以前にも述べられています。 身体の目的は、自己の完成と完成をもたらすことです。魂の浄化、知識、善良な性格は、自己の庭に香りを漂わせることを目的としています。 この順序や秩序に気づいている人は、富の真の地位(富はすべての卓越性の中で最も小さいものであり、人間の存在のより高い目的と目的に奉仕するために存在している)をよく知っており、何がそれを良いものにしているのかを認識しているでしょう。 物質的な所有物は自己にとって重要ですが、自己は存在の本当の核です。 物の利点を理解し、その真の目的を知り、その真の目的を念頭に置いてからそれを使用する人は、その使用法が人にとってより良く、有益になります。 富が正しい目的のための手段になり得るのと同じように、来世の永遠の幸福と無限の成功と衝突し、知識と[正しい]行動の道を塞ぐ間違った目的や目的のための手段になることもあります。 同様に、富(物質的な所有物)は賞賛に値すると同時に非難に値するものであり、賞賛に値する目的に帰せられる場合は賞賛に値し、非難されるべき目的に帰せられる場合は非難に値します。 これは、預言者のナレーション(*ハディース*)で、自分の真のニーズよりも多くの物質的な所有物を手に入れる人は、実際には、気づかないうちに自分自身の破滅を求めていると述べられています。 なぜなら、人間の気質は欲望に傾いており、それに従うことに喜びを見出し、これらの欲望は人が真理の道を歩むのを妨げ、富はこれらの欲望を得るための大きな手段だからです。 だからこそ、[本当に]必要以上の富を奪っても危険がないわけではありません。 したがって、預言者は富や物質的な所有物の悪から神の避難所を求めてきました[間違った目的に使われた場合、人を間違った邪悪な道に誘い込むため]。 [神への]嘆願は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)によるものです。

اللّٰهم احينى مسكينا وامتنى مسكينا واحشرنى فى زمرة المساكين

「おお神様! 貧しい人として私を生かし、貧しい状態で私に死を与え、貧しい人々のグループの中で私を[審判の日に]よみがえらせてください。」 (この伝統は、 *アナス・ビン・マリクの権威に基づくハディース集ティルミディ*[神が彼を喜ばれますように])

富の害と利益

富には、蛇のように毒と解毒剤の両方があります。 解毒剤はその利点から来ており、毒はその害から来ています。 その害と利点の両方に精通している個人だけが、その毒から身を救い、その解毒剤から利益を得ることができます。 富の恩恵は、宗教的なも

のであると同時に世俗的なものでもあります。 世俗的な恩恵はよく知られ、有名なので言うまでもありません。 もしそうでなければ、なぜ人々は富のために自分自身を危険にさらし、破壊するのでしょうか? ただし、宗教的(精神的)の利点は言及する価値があります。

富の宗教的利益: それらは 3 種類あります。 まず、それは[神聖な]崇拝のためであれ、巡礼(ハッジ)などの崇拝の助けを得るためであれ、富(経済的手段)がなければ達成できないため、自分自身にお金を使うことです。 それは礼拝の原則の一つであり、貧しい人は[巡礼を行う]この卓越性を得ることができません。 礼拝の助けを得るには、食べ物、衣服、住居、結婚などは基本的な必需品であり、それらが満たされるまで心はそれらに夢中になり、神への道(ディーン)に関連する事柄に解放されることはありません。 だからこそ、自分の宗教のための助けを得るために、自分の[真の]ニーズに応じて世俗的な資源を得ること[そのために、世俗的な必要と責任が満たされ、心が霊的な努力のために解放される]ことも、この世の宗教的利益の一つです。 しかし、それは、世俗的な(肉欲的な)快楽に数えられるため、目立った消費、贅沢、物質的な楽しみ、そして自分の真のニーズを超えた量は含まれません。 第二に、他人に費やされる富には、慈善活動、おもてなし、名誉を守ること、得られたサービスに対する支払いの4種類があります。 慈善に関する限り、その神聖な報いは誰にも隠されていません。 それは、神の不快感を消すほどの善行です。 前の章では、慈善活動の卓越性が列挙されています。 おもてなしとは、裕福で義人をごちそうに招待し、プレゼントを贈るためにお金を使うことを指しますが、慈善は貧しい人々に与えられるため、これは慈善とは呼ばれません。 もてなしによる支出は、友人や兄弟を作る手段であるため、宗教的な利益を失うものではありません。 寛大さの資質で自分自身を飾ることによって、人は寛大な人々の中に含まれます[寛大さと利他主義は途方もない精神的美徳であるため]。 卓越性とおもてなしをもって人々に接するまで、人は寛大さと呼ばれるに値しません。 この行為は、神の大きな報いの手段でもあります。

自分の名誉を守るための支出も、宗教的な利益がないわけではありません。 たとえば、詩の中で誰かについて悪いことを言ったり、集まりで誰かをからかったりする詩人に何かを与えること。 同様に、自尊心や尊厳を失った人々の口をふさぎ、彼らの悪から身を守るために支出しています。 自分の名誉と尊厳を守るために支出することは、陰口を言う人が陰口の罪から救われ、自分のスピーチ[そしてさらに言えば書くこと]を通じて混乱(*フィトナ*)が広がらないという意味で、神の報いに値する、イスラム教徒は敵意を抱く罠にはまりません、そして陰口を言われている人、 神の法の境界に反する方法で復讐の感情に駆り立てられても、同じように反応しません。 人間は必需品のために無数のものを他人に依存しているため、他人からサービスを受けるために報酬を支払うことも神の報酬を欠いているわけではありません。 自分でやり始めると、多くの時間が無駄になり、来世の道を歩むことが難しくなり、神聖な記憶のための時間が残されなくなりますが、スピリチュアルな旅行者にとっての最高の地位は、まさにこの神聖な

記憶と熟考です。 富(経済的余裕)がない人は、自分の仕事をすべて自分で行うことは明らかです。 たとえば、作物(穀物)を購入し、粉砕し、調理し、家を掃除し、さらには必要な本のコピーを自分で準備する程度まで行きます。 他人を通して達成できるすべての仕事は、自分で行う必要があります。 これは途方もない欠点です。 裕福な人はそれから守られています。 たとえ裕福な人がすべてを自分でやり始めたとしても、[正しい]行い、知識、神の記憶、熟考を奪われたままになります。

第三に、富を費やすことによる宗教的または精神的な利益には、特定の個人ではなく、共通の公共の利益や奉仕に富を費やすことが含まれます。 たとえば、モスク(神を崇拝する場所)、橋、旅行者用のロッジ、診療所、学校、精神的な学習の場(*マダリス)を建設し、公共信託(ワクフ)を設立するために土地と財産を捧げ*ます。 これらは、死後も利益をもたらす支出です。 敬虔で正義な神のしもべは、そのような人々のために長い間祈りますが、これよりも正しい行いは何でしょうか。 富の宗教的な利益以外にも、富には多くの[明らかな]世俗的な利益があります。 たとえば、それを持っている人は、貧困の屈辱と貧困の傷から救われます。 人々は 1 つを尊重し、1 つを重要視します。 裕福な人が(もてなしに)費やすと、友人の輪が広がり、人々は兄弟関係を築くことを誇りに思い、困っているときに助けます。 敬虔で正義な裕福な人は、心の奥底から人々から尊敬されています。

富の害: 富の害には、宗教的な害と世俗的な害の 2 種類もあります。 宗教的危害には3つのタイプがあります。 一つは、富と物質的な所有物が人間を罪の道に導くのは、欲望が絶え間なく心を攻撃するためです。 [富の]剥奪と[貧困と困窮の状態から生じる]謙虚さによって、人は罪を犯すことに絶望している(できない)とき、その罪(罪や他人にとって邪悪なものや有害なもの)に対する動機(挑発)は心に生まれることさえないからです。 人が罪を犯す可能性があることに気付くと、罪を犯そうという挑発が心に生じます。 富の存在は、人の中に[罪、人間の規範の違反、抑圧など]能力を生み出すイネーブラーです。 この欲望に従って行動すると人は滅ぼされ、忍耐と自制心を行使すれば苦難に耐えるでしょう。 富の害(*フィトナ*)は、貧困の害(*フィトナ*)よりも大きいです。 [富によってもたらされる宗教や精神性への]第二の害は、富の存在が許される事柄における贅沢、贅沢、浪費につながる可能性があることであり、これが富の悪用の最初のレベルです。 これは、裕福な人は、預言者ソロモン(神の祝福と平安あれ)がしたように、大麦のパンを食べたり、粗い服を着たり、おいしい食べ物をすべて放棄したりすることはできません。 しかし、誰もがそれができるわけではなく、富のために広がり[そして生活の安らぎ]を持っている人は、確かに贅沢、贅沢、浪費、つまり、おいしいものを食べ、良い服を着て、自分自身(*ナフ)*をそれに慣れるでしょう。 贅沢、贅沢、浪費に喜びを見出すとき、それを思いとどまらせることは不可能でしょう。 むしろ、この慣れは、自分の贅沢、贅沢、浪費が合法(*ハラール*)手段によって満たされない場合、禁止されている(違法またはハラム)手段(贅沢で贅沢なライフスタイルを維持するために富を得るために)使用することを余儀なくされる程度にまで増加します。 頑固さ、嘘、偽善、そ

の他の悪い道徳や習慣が心に余地を残すことを許し、自分の世界の組織(設定と運営)が自分の希望どおりであり、自分の贅沢、贅沢、浪費が減少することはありません。 より多くの富を持ち、より人々を必要とし、偽善的な方法で物事を成し遂げ、彼らの承認を得るために神の不従順を止めることさえしない人。 被造物への必要性と依存は、友情と敵意の両方を生み出し、その結果、嫉妬、恨み、誇示、傲慢、嘘、物語、陰口、そして心と舌に特有のそのようなすべての罪が繁栄することを可能にします。 また、これらの罪が心臓や舌を越えて他の臓器に移る可能性も残っています。 これらはすべて、富と物質的な所有物の不吉な予感です。

第三の害であり、裕福な個人にはそれが欠けていないのは、富の蓄積と保護に耽った後、神の記憶を怠り、それを引き起こすものはすべて補償できない損失であるということです。 すべての礼拝の核心と目的は、神の存在と属性における神の記憶と熟考であり、それには解放された心を必要とするため、神の記憶の無頓挫は不治の病であり致命的な病気です。 [農業]土地を持っている場合、農業に関する問題で昼夜を問わず忙しく、時には会計をしたり、時には共同共有者と口論したり、時には水(農地への供給)や境界について意見の相違があり、時には徴税のために任命された役人と口論したりします。

建設業者や労働者に関連する問題に対処することもあります。 ビジネスマンは、ビジネスパートナーが利益の半分を受け取る権利があるにもかかわらず、仕事に平等に参加していないという悲しみに悩まされています。 パートナーが窃盗や不正に関与しているという告発を捏造しているのが見られることがあります。 家畜の飼い主の状態も同様です。 むしろ、あらゆる種類の所有物や富について、所有者は神の記憶の代わりに自分の所有物に関与し、その増加と安全を心配し、動揺しているというほぼ同じ状態にあります。 したがって、焦点は神の記憶と熟考にあるのではなく、代わりに、毎瞬間、それら(資産)を守ることについての心配に悩まされています。 世俗的な心配事や関与は数え切れないほどあり、限界はありません。 1日分の食べ物を持っている人は、これらすべての心配から保護され、これらすべての関与から安全です。 これらは富の宗教的害です。 これに加えて、裕福な人々は富を獲得するためにあらゆることをします。 富が達成されると、彼らはそれを守るために自分の存在の核心まで動揺します。 嫉妬深い人の嫉妬から身を守ることがその上にあります。 常に、多くの努力と苦難によって得られた富が無駄になるのではないかと心配しています。 このことから、富が毒であることは明らかです。 それは、それが生活手段と見なされ、余剰の富が神の道で慈善(無私の与え)として費やされる場合にのみ解毒剤です[神の喜びと近さを達成するため]。

貪欲の治療と満足感を育む薬

この薬は、忍耐、知識、行動の3つの成分で構成されています。 それらは一緒になって5つの問題を生み出します:第一に、行動。正確には、[行動は]経済問題の節度と[不必要な]支出の削減を構成します。 満足の名誉を望む人は、支出のために自分自身(*ナフ*)の扉を閉ざし、自分の[真の]ニーズにのみ費やすように努めるべきです。 それは、支出の輪が増え続ける人は満足できないからです。 個人が一人で(一人で暮らす)場合、粗い服と少ない食べ物で満足する必要があります。 可能であれば、食事からカレーを排除し、カレーなしで(パンだけで)食べることに慣れるべきです。 家族がいるなら、家族全員に普通の服と食べ物を用意するよう説得し、自分の欲求が減り、人生が節度を持って過ごされるので、少ない努力で少量のものをすべて手に入れることができるので、自分の色に色を塗るように努めるべきです。 これが満足の現実です。 費用にマイルドさを持つことは、同じことを指します。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

ان الله يحب الرفق في الامر كله

「確かに、神はすべての(すべての)事柄において(すべての人間が行使する)優しさと憐れみを愛しています。」 (この伝統は、 *ハディースは*、アイシャの権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを集めています[神が彼女を喜ばれますように])

ما عال من اقتصد

「穏健な人(人生のあらゆる事柄において節度を実践し、あらゆる形態の極端主義や過激主義に陥ることを避ける人)は決して貧しくなることはありません(つまり、そのような人は繁栄し、決して失望しません)」。 (この伝統は、 *ハディースはアブドゥッラー・ビン・マスードの権威に基づいてアフメドとタバラニを集めています*[神が彼を喜ばれますように])

ثلاث منجيات خشى الله في السر والعلانية والقصد في الغنى والفقر والعدل في الرضا والغضب

「3つのことは本質的に救いです。敬虔な畏敬の念、私生活と公生活の両方における神(*タクワ*)への畏敬の念と畏怖、裕福か貧困かにかかわらず節度、幸福か怒りかにかかわらず正義と公平さです。」 (この伝統は、 *ハディース集 バザズ、タバラニ、アブ・ナエム* アナス・ビン・マリクの権威による [神が彼を喜ばれますように])

الاقتصاد وحسن السمت والهدى الصالح جزء من بضع وعشرين جزا من النبوة

「節度、体格の美しさ、正義は、預言者としての20以上の要素(部分)の中から[集合的に]構成要素です」。 (この伝統は、 アブドゥッラー・ビン・アッバースの権威に基づくハディース集アブ・ダウド[神が彼を喜ばれますように])

第二に、当面、最低限の必需品に十分なものがあるのであれば、あまり動揺したり、将来について心配したりする必要はありません。 もし人が自分の希望や願望を短くし、貪欲であろうとなかろうと、(神の任命によって)自分に運命づけられた栄養は必ず得られるという信念を心にしっかりと根付かせれば、人は将来について心配することはありません。 人は貪欲や希望によって栄養を見つけるのではありません。 信者(ムミン)は、創造主である高貴な方の約束を信じるべきです。 神の叙階は次のとおりです。

وَمَا مِن دَآبَّةٍ فِي ٱلْأَرْضِ إِلَّا عَلَى ٱللَّهِ رِزْقُهَا

「地上には、その栄養が神の責任ではない生き物は一人もいません。」 (クルアーン、11章、6節)

貪欲はサタンの邪悪な活動の結果です。 彼は人間に貧困と飢餓を恐れさせ、間違った邪悪なこと(ムンキラット)[または、人間の良識、礼儀正しさ、公平さ、正義の規範に反する間違った邪悪なことの形で現れる、神の命令に対する違反]をするように動機付けます。 サタンは一人にこう言います:「富を蓄えて物を蓄えなければ、将来心配が起こり、病気になり、謙虚になる可能性があります。 その場合、あなたは人々に頼む(物乞いをする)という屈辱に直面し、物乞いの器を持ってあるドアから別のドアまで歩き回らなければなりません。」 このように、将来[特に老年期や困窮時]に予想される困難を恐れて、人は一生富を求める困難に耐えることになります。 サタンは、この闘いに忙しいそのような人を見て、ある人が言うことを笑います:「この愚か者は、未来への恐怖のために自分自身を非常に多くの困難にさらしており、[その結果]神の記憶に注意を払っていません。 自分が抱いている(自分の将来について)抱いている不安が起こるかどうか、人は何を知っているのでしょうか?」

人間の心の中の貪欲さは、神の計画(すべての人のための)完全な確信によって根絶することができます。 もしもべが、神が食料の分配において定められた運命と、神が立てた計画が真理であるという確信を持っていれば、もし人が自分の糧を成し遂げようと奮闘するなら、神が自分に定めたものを必ず手に入れることができるでしょう。 この理解があれば、貪欲の悪が心から離れない理由はありません。 代わりに、しもべは、クルアーンが言うように、神は想像すらできない場所から栄養を与えてくださることがしばしば起こることを常に覚えておくべきです。

وَمَن يَتَّقِ ٱللَّهَ يَجْعَل لَّهُۥ مَخْرَجًا ۝٢ وَيَرْزُقْهُ مِنْ حَيْثُ لَا يَحْتَسِبُ ۚ

「神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を持つ人にとって、神は想像すらできない源(つまり、神の助けとして非常に予期せぬ源から)そのような人に[すべての困難、試練、苦難から]抜け出す方法と栄養を与えてくださいます。」 (クルアーン、第65章、2-3節)

アブ・ハジム(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「私は世界を2つのものから成り立っていると考えています。1つは私のためのものであり、たとえ私がそれを手に入れるために天と地のあらゆる力を行使したとしても、それは私が時が来る前に手に入れることができないものです。 2つ目は他の誰かのためのもので、それは私が過去に受け取ったことのないものであり、将来受け取ることを期待しているものです。 それは、私のものが他人に届かないように守ってくれる存在(つまり神)は、他人のものが私に届くのを妨げる存在と同じ存在だからです。 では、この2つのタイプのために私の命を捧げても何の役に立ちますか?」 これは、サタンが人間の心に貧困と貧困について扇動し、病気や困窮を恐れさせるサタンのほのめかしの治療法です。 これは[病気とその治療法]を知る薬です。

第三に、満足には誰にも何も必要としないという尊厳があり、貪欲には[または他人に物乞いしたり頼ったりする]屈辱があることを知っておく必要があります。 この尊厳と屈辱を真に理解すれば、自己(*ナフ*)が満足に傾かない理由はなくなります。 [左]には、より多くのものを求める貪欲には、苦難と屈辱しか隠されていないことに疑いの余地はありません。 この苦難を知っている人は神以外にいません。 一方、特定の人が貪欲であることを誰もが理解しているため、貪欲は人間の目から隠されているわけではありません。 この屈辱に拍車をかけているのは、耐えなければならない来世の罰であり、自尊心は別々に失われ、人はもはや真理に従う能力を失います。 より貪欲な人は人々をより必要としており、この必要性のために、彼らを真実に誘うことも、間違いを犯したことを叱責することもできず、卑屈さが人の気質になり、欠点はもはや欠点ではなく、たとえ欠点を欠点として考えても、あえてそれを言うことはできません。 自分の信仰は理由もなく破壊され、来世もまた台無しになります。 胃の欲望よりも自尊心を好まない人は、非常に愚かで信仰が弱いです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

عز المؤمن استغناءه عن الناس

「信者の尊厳は、人々から*イスティグナ*にあります(つまり、誰にも目を向けたり望んだりせず、人々が持っているものに気づかず、自分のすべての希望と願望を自分のすべてのニーズのために神だけに置き、威厳と自尊心のある方法でそれらを満たすために人間として可能な限りの努力をします)」。 (この伝統は、*ハディースは*、サール・イブン・サード[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*タバラニとハキム*を集めています)

満足には自由と威厳のある自尊心があります。 だからこそ、誰かに気づかないままであれば、あなたはその人と同等になると言われています。そして、もしあなたが一人を必要としたなら、あなたはその人の捕虜になるでしょう。そして、あなたが誰かに好意を寄せれば、あなたはその人のリーダーであり、ガイドになるでしょう。

第四に、愚かで無知で無宗教な人々がどれほど裕福であるかというこの現実について熟考する必要があります。 一方、[神の]預言者、義で正しく導かれたカリフ、預言者の仲間、その直属の信奉者は質素な生活を送っていました。 この2つのグループを比較し、彼らの話に耳を傾け、彼らの人生を研究し、その選択を知性に与えて、どのグループを模倣し、似たいかを決めるべきです - [世界の]クズか、預言者と敬虔な人々か。 不足に対して忍耐力を行使することで、満足が容易になることが期待されています。 [神と、それに伴う敬虔さ、道徳的正しさ、正義の生活を信じる]人は、ロバが人間よりも多く食べるように、食べ物に贅沢さを取り入れることは賞賛に値するものではないと考えるべきです。 交尾の豊かさも、豚が人間よりもはるかに多くのことをするため、賞賛に値しません。 服装や乗り物に華やかさを採用することも、服装や乗り心地が良い無宗教の人々の間ではそのような人がたくさんいるため、賞賛に値しません。 もし人が満足し、少ないことで平和であるなら、それは間違いなく賞賛に値する、なぜなら、より少ないことで満足し、より少ないことで平和であることは、預言者や聖人の特徴(固有の性格特性)だからです。

第五に、富と物質的所有物の害に関するセクションで説明されているように、富と所有物を蓄積することの危険性について熟考する必要があります。 その上、盗難や紛失の危険性があります。 富や所有物を持っているとき、それが無駄になるのではないかという不安が心にあって、手ぶらのとき、心にはいかなる種類の悲しみもありません。 また、「私は500年間楽園に入ることが妨げられるだろう(富を所有しているため、審判の日が始まった後、それをどのように獲得し、費やされたかについての長い説明責任のために)そして、もし私が[富を得る上で]必要性の限界を超えた場合、私は裕福なグループの中に数えられ、貧しい人々のリストから除外されるだろうと考えるべきです(フカヲ)そして貧しい人々は、裕福な人々より500年早く楽園に入るでしょう[彼らが信仰と正義を持って、貧困、貧乏、逆境の中で忍耐強く、揺るぎないままであったため]」。 人は常に自分の劣っている人(物質的な所有物、富、社会的地位、権力の観点から)を見て、その結果、神の祝福に感謝し、十分ではないと文句を言うのではなく、道徳的正直さをもって賢く使い、自分よりも優れた人を見るべきではありません。 サタンは、[世俗的な華やかさ、輝き、富、権力、名声、名声の観点から]自分の上司を優れたモデルとして提示し、[従い、模倣し、嫉妬、憎しみ、敵意、そして自分自身に不利益をもたらす物質的なネズミ競争の悪循環に彼らを陥れます]そして言います(心の中でほのめかします)。 金持ちを見て、彼らがどのように人生を楽しんでいるかを見てください! 彼らは美味しくておいしい食べ物を食べ、素敵な服を着ています。」 宗教の問題では、サタンは取るに足らないものをモデルとして提示し、「なぜあなたは自分自身を制約

(制限と困難)に置くのですか? [宗教的な事柄において]あなたよりも多くの知識を持っているにもかかわらず、神を恐れず、常に神を恐れて震えているのを見てください。 すべての人は贅沢(良い生活を楽しんでいる)のに、なぜあなたは彼らと違うのですか? 」

これらは、満足の質(心と内面の性質)を教え込むのに役立つ5つの事項です。 彼らにとって、根本的な重要性は、忍耐と[世俗性に関連する問題について]希望を減らすことに属します。 忍耐を行使する一方で、数日の価値のあるこの世俗的な人生において、永遠の幸福と永遠の命の無限の勝利を達成するために忍耐を実践することが目的であるという確信を持つ必要があります。 それは、健康と肉体的な幸福を達成するために、薬の苦味に対して忍耐を実践する病人のようなものです。

寛大さの卓越性: 富や物質的な所有物を持っていない場合は、満足し続け、貪欲を控えるべきです。 富を持っているなら、利他主義(自分よりも他人を好む)で寛大で、他人をよく扱い、ケチから遠ざかるべきです。 寛大さは、[神の]預言者の性格特性から得られる[高貴な]性格特性の1つであり、救いの基盤からの基礎の1つです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、それを次の言葉で解釈しました。

السخاء شجرة من شجر الجنة اغصانها متدليته الى الارض، فمن اخذ بغصن منها قاده ذلك الغصن الى الجنة

「寛大さは楽園の木から生まれた木の一つです。 その枝は地面までぶら下がっています。 これらの枝の1つをつかむ人は、その枝が人を楽園に引き寄せるのです。」 (この伝統は、 *ハディースは*アイシャの権威に基づいて*イブン・ヒバン*を収集し(神が彼女を喜ばれますように)とアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*イブン・アディとダラクタニ*を収集します)

قال جبرئيل عليه السلام قال الله تعالى: ان هذا دين ارتضيته لنفسي ولن يصلحه الا السخاء وحسن الخلق فاكرموه بهما ما استطعتم

「ガブリエルは、神が[教えによって]こう言われたと言いました。『これは私が自分のために選んだ[神の]道(*ディーン*)です。 それは、寛大さと美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)によってのみ秩序を維持することができます。 可能な限り、これら[高貴な内面の資質]の両方によって[神またはディーンへの]道を尊重してください。』」と述べています。 (この伝統は、 *ハディース*集 *Daraqtani fil Mustajad* on the authority of Jabir [神が彼を喜ばれますように])

ماجبل الله تعالى وليا له الا على حسن الخلق والسخاء

「高貴な神は、*美しい道徳*、マナー、*性格*、*内面の気質*(フスン・ウル・クルク)、そして寛大さに基づいて、友人や親密な人(*アウリヤ*)を創造されました。」 (この伝統は、*ハディース集 ダラクタニ・フィル・ムスタジャド* アイシャの権威による [神が彼女を喜ばれますように])

خلقان يحبهما الله عزوجل وخلقان يبغضهما الله عزوجل' فاما اللذان يحبهما الله تعالى فحسن الخلق والسخاء واما اللذان يبغضهما الله فسوء الخلق والبخل واذا اراد الله بعبد خيرا استعمله في قضاء حوائج الناس

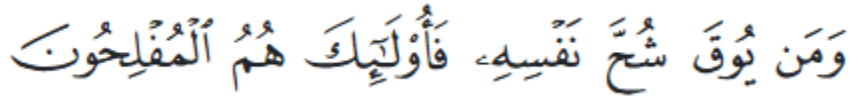
「2つの習慣は神がそれらを好むようなものであり、2つの習慣は神がそれらを嫌うようなものです。 それらは美しい道徳、マナー、性格、内面の気質(*フスン・ウル・クルク*)と寛大さであり、神が嫌うのは悪い道徳、マナー、性格、内面の気質(*ス・ウル・クルク*)とケチです。 神がしもべに良いことを望むとき、神はしもべを通して人々のニーズを満たします。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・ビン・ウマルの権威による ハディース集アブ・マンスール・アッド・デイラミ*[神が彼を喜ばれますように])

ある預言的なナレーションの中で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました:「私の国(*ウンマ*)*のアブダル(聖人とグノーシス主義者の高位のカテゴリー*)は、祈りと断食のために楽園に入るのではなく、むしろ心の純粋さ(否定的な考えを持たず、 誰に対しても憎しみ、怒り、嫉妬、敵意など、心の中の感情、気質、傾向、そしてイスラム教徒に対する誠実さ」。 (この伝統は、 *ハディース集 ダラクタニ・フィル・ムスタジャド* アナスの権威に基づいて [神が彼を喜ばれますように])

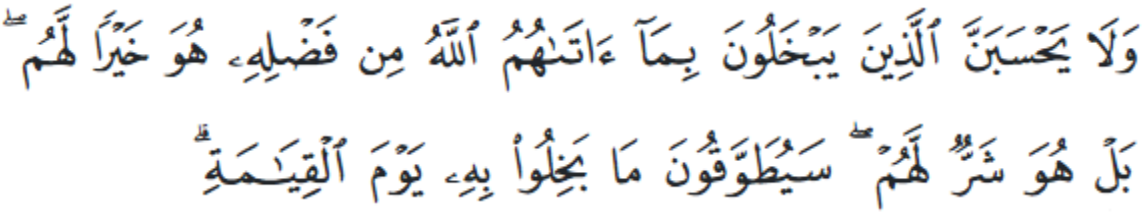
アブ・サイード・アル・フドリ(神が彼を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から次のように語っています:「神は、神のしもべ(すべての人間)のために、多くの形の*イフサン*を造られました(*イフサン*は単なる『善』ではなく、すべての人に対する思考、感情、言葉、行動において卓越しています)。 まず、彼らは*イフサン*を愛しているということです。 第二に、イフサンの実行者たちの愛は 、彼の創造物の心の中に置かれています。 第三に、神は*イフサンの探求者をイフサンの所有者に向け*ました。 第四に、神は、*イフサン*の行動者(つまり、*ムフシネン*、または考え、感情、言葉、行動に優れ、見返りを求めず、見返りを期待することさえせずに、最大限の誠実さで他人に善を行うために全力を尽くす人々)にとって、世界[と世俗的な生活]をとても簡単にしてくださいました。 地球とその住民に命を与える」。 (この伝統は、 *ハディースコレクション**Daraqtani fil Mustajad*)

けちさの非難

神はこう言われます。

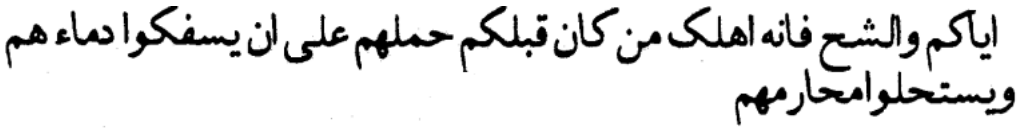

وَمَن يُوقَ شُحَّ نَفْسِهِۦ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ

「魂のけちさから救われた者は、救いを得る人です。」 (クルアーン、59章、9節)

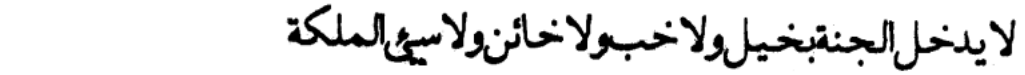

وَلَا يَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ يَبْخَلُونَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ هُوَ خَيْرًا لَّهُم ۖ
بَلْ هُوَ شَرٌّ لَّهُمْ ۖ سَيُطَوَّقُونَ مَا بَخِلُوا۟ بِهِۦ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ ۗ

「そして、神が神の恵みと寛大さから与えてくださったものにケチな者は、この[ケチ]が彼らにとって何の役にも立たないと考えるべきではありません。 審判の日には、ケチだったものでできた足かせをつけさせられるでしょう。」 (クルアーン、第3章、180節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。


اياكم والشح فانه اهلك من كان قبلكم حملهم على ان يسفكوا دماء هم
ويستحلوا محارمهم

「ケチから身を救いなさい。ケチは、彼らを流血を犯し、神が禁じられたこと(窃盗、強盗、略奪、欺瞞、詐欺、簒奪、不正、差別、抑圧によって人々の所有物とその正当な権利を不法に奪うなど)を許すと宣言したからです。」 (ナレーション: *ハディースは、*ジャビル[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*サヒー・ムスリム*を、アブドゥッラー・ビン・ウマル*[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて*アブ・ダウドとナサイを集めています)


لا يدخل الجنة بخيل ولا خب ولا خائن ولا سيئ الملكة

「ケチ、狡猾(欺瞞)、不誠実、マナーの悪い(気性の悪い)[人]は楽園に入ることはありません。」 (ナレーション: アブ・バクルの権威による*ハディース集ムスナド・アフメド*[神が彼を喜ばれますように])

ثلاث مهلكات شح مطاع وهوى متبع واعجاب المرء بنفسه

「3つのことは致命的で破壊的です。従うケチ、従う低層の自己(*ナフ*)からの欲望、そして自己うぬぼれ(自己誇大と常に正しいという考えで自分自身を高く考える)」。

اياكم والظلم فان الظلم ظلمات يوم القيامة واياكم والفحش فان الله لا يحب الفاحش ولا المتفحش واياكم والشح فانما اهلك من كان قبلكم الشح امرهم بالكذب فكذبوا وامرهم بالظلم فظلموا وامرهم بالقطيعة فقطعوا

「裁きの日には、残酷さと抑圧が暗闇に変わるので、抑圧から身を守り、神は下品な人も下品な人も好まないので、下品なことや放蕩を避けなさい。ケチはまさにあなたがたの前の人々を滅ぼしたものだからです。 それは人々に嘘をつくように命じ、彼らは嘘をつき、彼らに抑圧するように命じ、彼らは抑圧し、(家族の絆や親族関係の)関係を断ち切るように命じ、彼らは関係を断ち切ったのです。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・ビン・アムルの権威に基づくハディース集*ハキム[神が彼を喜ばれますように])

伝承によると、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)を訪ねてきた代表団のメンバーは、質問に答えて、彼らの[部族]指導者はジャド・イブン・カイスであると言いました。 預言者は尋ねました:「どのような根拠に基づいて、彼はあなたのリーダーシップにふさわしいと思いますか?」 「彼は私たちの中で最も裕福だが、ケチの非難から遠く離れていない」と答えた。 預言者は答えました:「それは大きな病気です。ケチよりも大きな病気があるでしょうか? 彼にはあなたのリーダーになる資格がありません。」 彼らは「では、誰を指導者に選べばいいのか?」と尋ねました。 預言者は答えました:「[これから]あなたの指導者はバシュル・イブン・アル・バラです」。[この伝統は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が、ケチな人は指導的役割にふさわしくないため、ケチな性格のために部族の部族の指導者を変更し、寛大な人に置き換えたことを示しています。 (ナレーション: *ハディース集　アブ・フライラの権威に基づくハキム [神が彼を喜ばれますように])*

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

خصلتان لا يجتمعان في مؤمن البخل وسوء الخلق

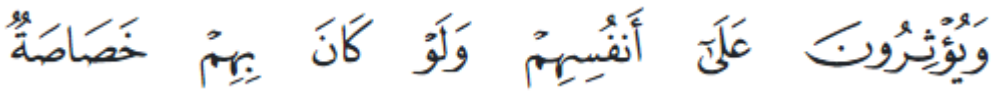
「[真の]信者には、けちさと悪い道徳、マナー、性格特性、内面の気質という2つの特徴が蓄積されません。」 (ナレーション: アブ・サイードの権威に基づく*ハディース集　ティルミディ* [神が彼を喜ばれますように])

イマーム・アブ・ハニファ(神が彼に憐れみあれ)は言いました:「守銭奴は公正で公正であることができない。なぜなら、そのような人は自分の公平な分け前と権利以上のものを奪ったり、損失を被るかもしれないという恐れから、自分の正当な分け前と権利以上

のものを奪おうとするからです。 そのような状態にある人は、正直であるとは信頼できません。」 預言者ザカリヤの息子預言者ヤヒヤ(ザカリヤの子ヨハネ - 二人に神の祝福と平安あれ)は、サタンを元の姿で見ました。 彼は彼に「人々の中で誰が一番好きで、誰が一番嫌いですか?」と尋ねました。 彼は「私はけちな信者が一番好きで、罪人だが寛大な人が一番嫌いです」と答えました。 彼はその理由を尋ねると、彼は答えました:「守銭奴は、その人の守銭を理由に人を誤解させる苦労から私を救ってくれます[それは人を不従順と神への不信の道を歩ませることによって人を誤解に導くので]、私は罪を犯しているが寛大な人が神がその寛大さを受け入れてくださることを恐れています[そして、そのような人を導きの道に導くかもしれません。 神の寛大さとそのような人への好意による正直さと改革]」。 それからサタンは、「ヨハネ以外の誰かが私にこの質問をしたら、私はそれに答えなかったでしょう」と言って立ち去りました。

利他主義の現実とその卓越性

寛大さとけちさにはさまざまなレベルがあります。 その点で利他主義は非常に高い度数を持っている。 利他主義の意味は、自分の必要にもかかわらず、自分の所有物とお金を他人に与えることであり、寛大さとは、自分の所有物とお金から、困っているかどうかにかかわらず、自分が必要としない誰かに贈ることです。 自分の必要にもかかわらず[慈善活動や他人を助ける]支出は困難な段階であり、この段階をうまく通過する人はほとんどいません。 最高の寛大さが、自分の必要にもかかわらず他人に与えることであるのと同じように、同様に、極端なケチの程度は、自分のニーズを満たす手段と手段を持っているにもかかわらず、(自分の正当なニーズのために)自分自身にお金を使うことさえありません。 国庫が富でいっぱいのけちな人が何人いるでしょうか、彼らは自分の治療に費やす勇気を振り絞ることができず、苦しみながら亡くなりました。 心は食べたいが、無料でもらえば食べても構わないが、使う勇気がない。 この2人の差はどれほど大きいのでしょうか? 美しい道徳、マナー、内面の性格特性、気質、資質(*フスン・ウル・クルク*)は、神が望む人には与え、それを奪う神の贈り物です。 寛大さには利他主義ほど大きな程度はありません。 神は預言者ムハンマド(彼ら全員に神の祝福と平安あれ)の仲間たちを次の言葉で称賛されました。



「彼らは、たとえ飢餓に苦しんでいても、自分自身も困っているにもかかわらず、自分よりも他人を好みます。」 (クルアーン、59章、9節)

アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)は言いました:「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、死ぬまで3日連続でお腹いっぱい食べることはありませんでした。 私た

ちが望むなら、お腹いっぱい食べることもできましたが、私たちは自分自身よりも他人を好みました。」 (ナレーション: *ハディース コレクション バイハキ*)

ある男が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のゲストになりました。 当時、彼の家にはそのゲストにサービスを提供するために使用できるものは何もありませんでした。 *アンサリ* (メディナ市の住民で、他の多くの住民とともに、迫害を避けるために逃げてきたメッカからの移民をもてなした)の仲間が預言者を訪ねて来て、預言者はその客を家に連れて行き、その時彼の家にあった食べ物を持ってきて提供し、妻にランプを消すように頼み、客は何も見えず、主人は[そして]と思うでしょう彼の家族]も食事をしており、彼は[空の]皿に手を伸ばして食べるふりをしていました。 ホストの仲間がそうし、ゲストはお腹いっぱい食べました。 朝、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、神は彼がゲストに対してしたことを気に入っていると彼に告げ、クルアーンこの一節を預言者に明らかにしました。

وَيُؤْثِرُونَ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ

「彼らは、たとえ飢餓に苦しんでいるかもしれないとしても、自分よりも他人を好みます。」 (クルアーン、59章、9節)(ナレーション: *ハディース コレクション サヒー・ブハーリ* そして *サヒー・ムスリム*)

それにもかかわらず、寛大さは神の資質(神の属性)からの資質の一つであり、利他主義は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が[生涯を通じて]維持した最高の寛大さであり、神は彼のこの偉大な資質と他のすべての高貴で崇高な資質を次の言葉で称賛しました。

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ

「そして間違いなく、あなた(おおムハンマド![すべての人類が自分の利益と幸福のために時の終わりまで見習わなければならない]崇高で崇高な性格の[台座]にあります。」 (クルアーン、68章、4節)

サール・ビン・アブドゥッラー・アル・トゥスタリ(有名な聖人でグノーシス主義者である神が彼に憐れみあれ)は、預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)が神に嘆願したと語った。ムハンマド(神の祝福と平安あれ)と彼の国(あなたの前に)の等級を私に示してください。」 [モーセ、イエス、そして預言者ムハンマド以前の多くの偉大な預言者は、預言者ムハンマドの出現について予言され、神が任命したさまざまな預言者に時々送られ、神の導きと道徳的正しさの道にとどまるのを助けるために、神が任命されたさまざまな預言者に時々送られてきました。この神の導きは預言者ムハンマドによって最高潮に

達しました。 時の終わりまで全人類に] 神はこう言われました。あなたはそのビジョンに耐えられないでしょう。 しかし、私は彼の偉大な程度(わたしへの近さ)から、私のすべての創造物の中で最高の程度を彼に与えたものの1つをあなたに示します。」 その後、預言者モーセの目からベールが取り除かれ、彼は天の驚異のビジョンを持つことができ、預言者ムハンマドの崇高な程度と、彼の目を眩惑させる神の近さと近さの程度の輝きを目の当たりにしました。 預言者モーセはこう尋ねました。ムハンマドはどのようにしてこの学位に到達したのでしょうか?」 神はこう答えました:「私が彼を特別に特徴づけた性格特性と資質によって、その資質は利他主義[彼が生涯にわたって持っていた卓越した]です。 おおモーセよ!人生で一度でも利他主義を示した人は、その人の責任を負うことを恥じるでしょうし、そのような人は何の考慮もなく楽園に入り、心が望むところならどこでも生きるようにします。」 伝承によると、アブドゥッラー・ビン・ジャファル(神の憐れみあれ)は、遠く離れた土地を視察するために旅をしました。 旅の途中、彼は立ち止まり、人々のグループ(部族)が所有する蘭に住みました。 その蘭で働いているエチオピアの[イスラム教徒]奴隷がいました。 そうしているうちに奴隷の食べ物が届いた。 その瞬間、犬が蘭の中に入ってきて、彼の近くに座りました。 奴隷は、それを食べる犬の前にパンを置いた。 彼はそれを食べた犬の前に二番目のパンを置きました。 それから彼は3番目のパンを犬に与え、犬も自分の食べ物がなくなるまでそれを食べました。 その一部始終を見ていたアブドゥッラー・イブン・ジャファルは奴隷に「毎日の食事は何ですか?」と尋ねました。 彼は「それはあなたが今見たものです」と答えた。 アブドゥッラーは驚いて尋ねました:「では、なぜあなたは自分の食べ物を犬に全部食べさせたのですか?」 奴隷は答えました:「実際のところ、私たちのこの蘭は犬が住む場所ではありません。 この犬は、食べる食べ物を見つけることを期待して、どこか遠くの場所からやって来ます。 この犬がお腹を空かせている間に食べるのが好きではありませんでした。」 アブドラは「じゃあ、一日中何をする(食べる)のですか?」と尋ねました。 彼は「私は飢える(お腹を空かせたまま)」と答えた。 アブドゥラは、自分より寛大な奴隷の寛大さ(利他主義)を心の中で批判していると思った。 アブドゥッラーはすぐにその蘭の所有者を呼び、奴隷と[蘭の世話をするために使用された]すべての道具とともにその蘭を彼から購入し、その奴隷を解放し、解放しました。 それだけでなく、彼はその蘭をその元奴隷に贈りました[奴隷の中での執拗な奉仕と、その上に利他主義の行為とともに忍耐強い忍耐力を持って行われたことで、神の前で自分の高い学位を認めた彼の自己犠牲と利他主義への感謝として]。

ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、予言者の仲間がヤギの頭を誰かに贈り物として送ったと語っています(頭は肉の消費に使用される家畜の中で最も取るに足らない、最も安価な部分です - 贈り物として送った人は、最初は自分のためにそれだけを手に入れ

る余裕がありましたが、貧困が蔓延しているためにそれを必要としていると思った他の人に贈ることにしました)。 受け取った仲間は、ある兄弟(預言者の仲間)がそれを必要としていると思い、それを彼に贈りました。 3人目はそれを4人目に贈り、7人に送られるまで続き、最初の人(最初に贈った人だったので、受け取るすべての仲間は、完全な利他主義の行為において、他の人をより困窮している受け取り手と考えていました)。

けちの治療法

けちさは富と物質的な所有物への愛から生まれますが、この愛には2つの理由があります。

富への愛がけちさにつながる第一の理由: 欲望と[物質主義的な]欲望への愛であり、富を得なければその達成は不可能です。 それはまた、人間がいつかこの一時的な住まい(世界)を離れることを知っていれば、けちなことにならないからです。 それは、一日、一ヶ月、または一年に十分な量が少なく、余分な資本を[すべての価値のある正しい努力、特に神への道に進める努力に]費やすことができるからです。 時には、人は長い希望を望んでいないが、自分の子供が長い希望の代わりとなり、自分の生存のためにそうするのと同じように、彼らの生存のために奮闘する。 だからこそ、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

الولدمبخلةمجبنةمجهلة

「[恐怖、不安、不安、そして自分の将来への計画]子供たちはけちさ、臆病さ、無知を生み出します。」 (ナレーション: *ハディース 徴収 イブン・マジャ* ヤリ・イブン・マーラの権威により[神が彼を喜ばれますように])

それに加えて、貧困への恐怖と(神の摂理と寛大さから来る)栄養の到着に対する信頼の欠如があると、ケチは激化します[たとえそれが他人の公正で正当な権利を侵害するとしても、あらゆる合法的、違法、倫理的、非倫理的な手段によって買いだめ、蓄積し、簒奪に至ります]。

富を愛する理由がけちさにつながる第二の理由:富を愛する理由は、その富をそれ自体で愛するかもしれないということです[そして、子孫の保存や老後の経済危機の回避など、他の目的のための手段としてではありません]。 多くの人は、日常的に支出すれば、残りの人生に十分な資本を持っているようなものですが、むしろ、支出した後でも十

分な資本が残るほど多くの資本を持っています。 彼らは子孫を奪われ、山の富を持っていますが、*ザカート*(価値の2.5%の金額で1年間続いた現金と金の貯蓄から貧しい人々に与えなければならない義務的な慈善活動、家畜、農産物、その他の資産も神の法に従って義務的な慈善活動の対象となります)を取得するためにお金を使う気さえないほど、自分の病気の治療。 代わりに、彼らは*ディルハム*と*ディナール*(昔に使用されていた金貨と銀貨の通貨)を愛しており、彼らとの存在と彼らを支配することを楽しんでいます。 彼らは[遅かれ早かれいつか]死ぬことをよく知っているにもかかわらず、彼らを地下に埋め、死後、この宝物はすべて失われるか、敵[または彼らと関係のない見知らぬ人]の手に渡ります。 それにもかかわらず、彼らはそれから食事をしたり、(自分の正当なニーズのために)少量を費やしたりすることさえ許しません。 これは心臓の巨大で致命的な病気であり、その治療は非常に困難であり、特に老年期には不治の病になります。 そのような人の類似性は、誰かを愛する人に使者として送り、その後(最愛の人の代わりに)使者を愛し始め、愛する人のことを忘れる恋人の類似性です。 富は、自分のニーズを満たす使者のようなものです。 だからこそ、人々は富を愛し、そこから喜びを得ており、喜びの手段も愛らしいものです。 その後、ニーズが忘れられ、富が本当の愛人になることがあります。 これは極度の誤った見当違いです。 金と石の違いを理解している人は、金(富)を通じて欲求が満たされ、欲求を満たした後に残るものが石に等しいことを知っている場合を除いては無知です。

さまざまな治療方法: さまざまな治療方法は次のとおりです。 すべての状態はその反対によって治療されることが知られています。 したがって、欲望の愛の治療法は、より少ないものと忍耐力で満足することによって行われます。 長生きへの希望を癒すには、死(自分自身の死とこの世を旅する終わり)と同時代人の死を豊富に思い出すことによって行われます。 富を蓄積したいという欲求を減らすことは、蓄積された富の無駄を観察することによってです[人々が死んだときに残し、すぐに他の人に引き継がれる]。 自分の子孫に対する心の傾きを治す方法は、創造主が一つの栄養を与えたのと同じように、子供が生まれたときにも同様に栄養が創造されるというこの信念によって行われます(すべての子供が神が人に運命づけた栄養を持ってくるのと同じように)。 父親の遺産から何も得られず、それでもより豊かな生活を送っている子供たちが何人いるでしょうか? そのような人は、子供がよく暮らせるように富を残しますが、富を得た後(特に相続によって)悪の道を歩み始めることも覚えておく必要があります。 誰かの子孫が敬虔で、正義で、神を畏れているなら、神は彼らに十分であり、彼らは父親の相続を必要としません。 もし彼らが悪を犯し、悪を犯す者であるなら、彼らの悪を助けるために遺産を残すことは正しくありません。 悪を抱えた人を助けることは、自分自身が罪を犯すようなものです。 心は、けちさを非難し、寛大さを称賛し、守銭奴に与えられた苦しみについて伝えられてきた伝統に目を光らせ、それらを熟考の対象にすることによって癒すことができます。 心は、富や物質的な所有物の目的に熟考を広げ、なぜそれらが創造されたのかを考えることによっても治癒することができます。 この質問に対する答えは、富と物質的な所有物が生活のニーズを満たすために創造されたというも

のだけです。 したがって、自分のニーズに必要なだけの富を費やすべきです。 他のすべては神の道で費やされ、来世の宝物としてこのように保管されるべきです[困っている人を助けるための人道的で慈善的で高貴な努力に費やされた富は、神の道で費やされたものとして不滅となり、神が計り知れない方法で人に報いるので、人の永遠の命の宝物になります。 想像を絶する、永遠の、素晴らしく、永遠の報い]。 これらは知識と神聖なグノーシスに属する薬です。

[高貴で人道的で慈善的な活動に]費やすことを強制することによってケチを軽減する:
ケチの特徴は、支出しなければ根絶されません。 愛する人を離れて別れることは自己にとって非常に厳しいものであっても、旅を通じて[愛の対象と]距離を置かなければ愛が終わらないのと同じように(*ナフス*)。 しかし、この苦難を一度耐えれば、離れていて遠く離れて心を慰める何らかの手段が生まれる。 同様に、ケチを軽減したい人は、[困っている人を助けるための慈善活動に]支出することで、自分の富や所有物から切り離すことを強制する必要があります。 ケチから身を守るための良い戦略は、自分自身を欺き、人々が寛大と呼ぶような名声と[社会的]尊敬を得るために寛大に費やすように説得することです。 最初は、この行為は誇示されますが、後で、それは人の気質の一部になり、名声や評判を望まずに心を費やしたいと思うでしょう。 この戦略で心が誇示の悪で汚染されるのは事実ですが、誇示を根絶することは、ケチを根絶するほど難しくありません。 名声と評判は、富の終焉後の心を慰める手段です。 幼児が鳥で気をそらすことで乳を離乳し、遊びに忙しくしてミルクを忘れてしまうのと同じように。 彼らがミルクに関心を持たなくなると、彼らも劇から除外されます。 他の邪悪な習慣は、一方が他方に課せられるという点で同じ状況にあります、たとえば、欲望は怒りの強度を下げるために押し付けられ、怒りは欲望に課せられ、その深刻さを軽減しますが、この戦略は、名声への愛と気質の誇示よりも支配的なケチの性質を持っているそのような個人に効果的です。 このようにして、強いものは弱いもの[習慣または品質]に置き換えられます。 しかし、ケチな人と同じように名声を愛する人なら、けちさを誇示で終わらせても意味がありません。 その人がケチさや誇示という支配的な性質を持っているかどうかの指標は、この人が誇示のために費やすのが難しいとは感じないということです。 もしそうなら、誇示(名声と評判)のために富のような愛するものを喜んで使うので、誇示が支配的であると言われるでしょう。 もし、見栄えのために使うのが難しいと感じたら、見栄えのために使おうとしないので、けちさが支配的であると言われるでしょう。

他の人を通してこれらの否定的な性質を根絶する例は、[墓に埋葬された]死体の構成要素が昆虫になることです。 これらの昆虫が食べるものが墓に何も残っていないとき、これらの昆虫は、最終的に2匹の大きな昆虫だけが残るまで、その数が[継続的に]減少するまで、お互いを食べ合います。 食べるものが見つからないと、お互いを攻撃し、支配的な一方が他方を消費します。 その後、優勢な昆虫は食べるものが見つからなかったために空腹で死にます。 同様に、邪悪な性質では、弱い性質が強い性質の餌にな

るのをやめる可能性があります。 これらの資質のために食べ物を止める意味は、彼らの要求に応じて行動しないことです。 このようにして、その品質自体が弱くなり、最終的には終わりが来ます。 たとえば、守銭奴の目的は、富が[支出で消えてしまう]のを止めることです。 たとえそれが非常に難しいとしても、富を費やすことによってその要求に反して行動すれば、けちさの性質は終わり、心は使いたいと思うようになり、気質に負担がかかりません。

ケチに対する知識ベースおよび行動ベースの治療法: ケチの知識ベースの治療法は、その害と寛大さの利点についての知識を得ることであり、行動ベースの治療法は、自分の気質(自分自身)に慈善活動に費やすことを強制することです。 時々、けちさの性質があまりにも支配的で圧倒的であるため、人を耳が聞こえず、目が見えなくなり、けちさの中に悪を見、寛大さに善を見なくなることがあります。 言い換えれば、人は理解と理解を得ることができず、それなしでは寛大さの精神が活性化されず、その結果、この[ケチの]性質が死ぬまで永遠に残ります。 薬を認識しない人は、治る人ではありません。

これが、この世のすべての富と物質的な所有物の状態です[それは、人の本当のニーズを超えている]。 世界(その最も重要な象徴は世界の富と物質的な所有物です)は、神の敵を地獄に追いやるため、神の敵の敵であり、神の友人や親しい人々の敵でもあります。 また、神のしもべ(人間)が神の道を歩むのを阻止するため、神の敵でもあります。 富の保護は、保護者[およびそれを保護するための他のさまざまな手段]によって行われるため、富の支出を必要とするため、それは自分自身の敵です。 実際のところ、世界(物質的な所有物)は、世界が終わりを迎え、何も残らないまで、世界を守るために費やされています。 物質的な所有物の害を認識している人は、それらに慣れず、その獲得を祝ったり、実際のニーズ以上のものを奪ったりしません。 必要最低限の必需品に満足している人は、自分の必要量の富と物質的な所有物を貯めることはケチではないので、ケチを実践しません。そして、必要のないもののために、人はそれを守って自分自身を苦難に陥るのではなく、それを[仲間の人間に利益をもたらす慈善的で有益な努力に費やし、このようにして永遠の幸福と無限の勝利を達成するためにそれを使用します]。

富と物質的所有物に関する人間の義務: 以下で説明するように、富はある意味で善であり、ある意味で悪です。 その類似性は、毒と解毒剤の両方を持っているヘビの類似性に似ており、その毒は致命的です[一方、その解毒剤は命を救います]。 同様に、富には毒と解毒剤の両方があります。 その毒を避けることができる人は、自分の義務(富とその獲得に関して)目を光らせている人です。

第一の義務: その目的についての知識を得て、なぜ神が富と物質的な所有物を創造したのか、そしてなぜ人間がそれを必要としているのかを探ろうとすることです。 それを知った後、人は自分のニーズに十分なものを稼ぎ、必要以上のものを保護せず、それに

値しない人に自分の富を与えることはありません(人はそれを、世俗的な生活の華やかさと輝きを増すだけの無駄な努力ではなく、高貴な価値のある努力にそれを使うでしょう)。

第二の義務:[恐喝、賄賂、高利貸し、窃盗などの神の法では]純粋に禁止されている収入源、または支配者から得た富など、大部分が禁止されている収入源を避けるために、収入源に目を光らせることです。 同様に、賄賂の痕跡が入った贈り物や、屈辱を伴う他人への頼み(または物乞い)など、自分の人格の純粋さを汚す望ましくないものも避けるべきです。

第三の義務: 個人の経済(経済的ニーズ)に必要な金額を考慮することです。 人は、必要なもの以上のもの(盲目的に物質主義的になり、貪欲になり、自分の霊性と霊的な努力を即座に殺すことを避けるために)手に入れるべきではなく、自分の必要量よりも少ない量を手に入れるべきではありません。 [人間]ニーズは、食べ物、衣服、住居の3つに関係しています。 それぞれに、普通、優秀、中程度(普通と優秀の中間にあるもの)の3つの学位があります。 人間がより少ないものに傾くまで、人は[自分の本当の]欲求の限界に近づき、それを超えると、終わりのない深い穴に落ちます。 これらの学位の詳細は、世俗性からの禁欲の書(第14章)で提供しました。

第四の義務: [高貴で慈善的な目的や自分のニーズに]費やす機会に目を光らせることです。 支出には節度があるべきです - [節度の]限界を超えた過剰さや制限があってはなりません。 合法的な手段で稼いだように、合法的な目的に費やすべきです。 [他人から]不当に[他人から]富や所有物を奪うことが罪であるのと同じように、同様に不当に使うことも罪です。

第五の義務:富や物質的な所有物を奪い、与え、止め、使う際に正しい意図を維持することです。 [法的および倫理的手段によって]物質的な所有物を手に入れるとき、その意図は神の崇拝においてそこから助けを得ることであるべきです。 物質的な所有物を置き去りにするとき、人は世俗性を禁欲する意図を持つべきです。 そうすれば、富の存在は害にはなりません。 だからこそ、アリ(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「もし個人が世のすべての宝の所有者になったが、その目的が神の喜び(リダ)を達成することに他ならないなら、その人は禁欲者(*ザヒド*)と呼ばれるでしょう。そして、もし人がすべての富を費やすが、神の喜びが目的ではないなら、 そうすれば、人は禁欲とは言えません」。 あなたのすべての動きと休息は、神のみのためであるべきです - それらは[神の]崇拝であるか、礼拝に役立つべきです。

シャツ、パジャマ、ベッド、鍋など、神(ディーン)*への道に役に立たないものは何もありません。* これらはすべて、人生に欠かせないものです。 自分の必要以上のものを保管するのではなく、他の神のしもべがそれらから恩恵を受けることができると考えるべきです。 だからこそ、誰かが自分の必要を持ってあなたのところに来て、あなたがそ

れを余分で必要以上のものとして持っているなら、あなたは[助けることを]拒否すべきではありません。

これらの原則に従う人は、ヘビから解毒剤を抽出するようなもので、それはその真の価値であり、その毒から身を守るものです。 そのような人は、豊富な富によって害を受けることはありません。 この区別は、宗教を完全に理解し、優れた知識を持っている人によって達成されます。 富を蓄積し、そのような人は富を所有した預言者の仲間(*サハバ*)のようなものだと考える人は、理解力を欠いている子供のようなもので、蛇使いが蛇を操っているのを見て、蛇使いが蛇を捕まえることができたのと同じように、自分も同じことができるだろうと考えて蛇を捕まえ始めます。 そのような子供は必ず死ぬでしょう。 それがこの二人(ある程度の富を持っている予言者の仲間と、自分を自分と同じだと思う普通の人)の違いですが、蛇に噛まれた人は明らかですが、富に噛まれた人は明らかではありません。

敬虔な先人たち(*サラフ・サリヒーン*)とは何だったのか、そしてあなたは何者なのかをお話しします。 預言者の仲間の中には、物乞いや求めを必要とせず、神の道で費やすことができるように富を持っていた人もいました。 彼らは合法的な手段で富を獲得しました。 彼らは許容される(*ハラール*)食べ物を食べ、適度に過ごし、それを来世での成功の手段にしました。 彼らは誰の権利も奪わず、ケチを実践せず、富と物質的な所有物のほとんどを神の道に費やし、中には[真に利他的な方法で]自分よりも他人のニーズを優先して、全富を慈善活動に費やした人もいます。 「あなたもそうですか?」と尋ねます。 そうではないことは明らかです。 あなたは敬虔な前任者と少しも似ていません。

預言者の仲間たちはどうでしたか? 預言者の仲間たちは、[霊的な豊かさを伴う]物質的な)貧困を愛するようなものでした。 彼らは貧困と飢餓の恐れを欠いており、自分たちの栄養について神を信頼していました。 彼らは自分の運命に満足し、[耐えざるを得なかった]苦難を受け入れました。 彼らは貧困の中で感謝の気持ちを表し、困難の中で忍耐を実践しました。 彼らは安らぎと安らぎの中で神に栄光を帰し、神のために謙虚になり、傲慢さ、優越感、豊富な物質的財産への誇りを恐れていました。 彼らは、自分たちにとって許される部分だけを世界から取り、自分たちの本当の(知覚された)必要性に見合った量を受け入れ、世界(世俗性)を拒絶し、忍耐強くその苦難に耐え、その苦い味を味わい、その快適さと祝福を拒否しました。 あなたはその人だと誓うことができますか? 世界が彼らのドアをノックしたとき、彼らは[神の道から逸脱することへの]恐怖に震え、自分たちが何らかの罪を犯し、その即時の罰が世界の形で与えられていると考えていたことがわかりました(物質的な成果)。 貧困が訪れると、彼らはそれを歓迎し、義人の道として受け入れました。 私たちは、朝、家で何かを見ると過度に悲しみ、何も見つからない場合は笑顔で一日を始めるという預言者の仲間について、この伝統を受け取りました。 誰かがそれに驚いて「人々は自分の家に富があるのを見て喜ぶが、あなたは悲しむ」と言ったら、彼らは「家族と一緒に何かを見て悲しむのは、私の家族

が預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の家族の道に従っていないからです」と答えていました。 何人かの預言者の仲間について、彼らが繁栄を経験したとき、彼らの悲しみの状態は見る価値があり、「世界(世俗性)は私たちと何の関係があるのか」と言っているのが見られたと語られています。 苦難が彼らに降り注ぎ、窮屈が家に足を踏み入れた場合、彼らは幸せになり、それを自分自身にとって良い前兆と考え、「今、私たちの主は私たちに慈悲の視線を投げかけてくださいました」と言っていました。 これらは敬虔な先人たち(*サラフ・サリヒーン*)の状態と特徴です。 彼らの観点から見ると、富の方が良いのか貧困の方が良いのかはよく判断できます。 さて、あなたは[神によって]誓い、あなたが同じ[内なる霊的]状態を持っていると断言できますか? あなたはこれらの聖なる神聖な人々に少しも似ていません。

お元気ですか。 今、私はあなたの状態を語り、敬虔な先人たちの条件や資質とまったく一致しないあなたの特徴に光を当てます。 あなたは富に反抗し、繁栄に誇りを持ち、安らぎと快適さに喜びを持って踊ります。 あなたは貧困を憎んでいますが、それは[神の]預言者にとって誇りの首都であったにもかかわらず。 あなたは彼らのプライドの資本を憎んでいます。 あなたは貧困を恐れて富を蓄積しますが、これは神に対する悪い意見を抱いており、神の約束に対する信頼の欠如の証拠です。 この一つのことは、私たちの預言者(神の祝福と平安あれ)が言ったにもかかわらず、あなたが世俗的な祝福、欲望、快適さ、欲望を満たすためだけに富を蓄積しているという、あなたの[差し迫った]不吉な終わりの正当な証人です。

شرار امتی الذین غذوا بالنعیم فربت علیه اجسامهم

「私の国の最悪の(悪になりやすい)人々は、贅沢な食べ物を食べ、それで体に栄養を与えられる人々です(つまり、彼らはこの世の快適さ、贅沢、良い生活に慣れており、神の受け入れと承認につながる霊的な道で優れた能力を発揮するために必要な努力や努力をまったく考慮していません)」。

ある学者は、審判の日に人々が敬虔な行いを探しに来るとき、彼らにこう言われるだろうと言いました。

أَذْهَبْتُمْ طَيِّبَٰتِكُمْ فِى حَيَاتِكُمُ ٱلدُّنْيَا وَٱسْتَمْتَعْتُم بِهَا

「あなたはすでにこの世で人生の良いことを達成しています(贅沢で贅沢な人生を送ったので、来世には何も残っていません)。」 (クルアーン、46章、20節)

不注意の眠りから起きなさい! この世の祝福によって来世の祝福を奪われると、それは大きな剥奪と悲しみ、苦難の場所になります。 また、富が豊富であるためにお互いに誇りを表現し、自分が優れていると考えるために富を蓄積します。 しかし、私たちは、過剰とプライドのために世界を蓄積する者は誰でも、神が不快に思うような状態で神と出会うというこの伝統を受け取りました。 しかし、悲しいかな、あなたは神の不快

を少しも気にしていません。あなたは自分の状態に没頭し、最終的な結末に気づいていません。 あなたは、主の近くに向かうよりも、この世に生きることの方が愛らしいと感じます。 あなたは神との出会いを好まず、神はあなたとの出会いを激しく嫌います。 この世のものがあなたに手に入らないなら、あなたの剥奪感は見る価値があります。 あなたの状態は、世界(世俗的な所有物)を蓄積するために宗教の制限から自分自身を解放し、それを達成したとき、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は言いましたが、あなたは幸せに揺れます。

من احب الدنيا وسرها ذهب خوف الآخرة من قلبه

「世界を愛し、それを達成したときに幸せな人は、来世への恐怖がそのような人の心から離れる」。

あなたが世俗的な事柄に関心を持っている程度は、来世に関連する事柄には同じ量の関心を持たない。 罪による苦しみは、あなたにとって、世界(華やかさ、きらびやかさ、栄光、富、物質的な所有物)を手に入れられないことによる苦しみほど大きくありません。 富の喪失を恐れるのと同じように、罪(間違った行い)を恐れません。 名声と権力を得るために全資本を費やすことはできますが、苦しんでいる人を助けることはできません。 尊厳と名誉を得るために創造物を幸せにすることはできますが、神の承認を得る時間はありません。 確かに、富はあなたの欠点を隠し、人々はあなたを批判しませんが、神はあなたの[本当の]状態を知っています。 しかし、あなたはいつ[あなたが実際にどうであるかについての]神の知識と認識を気にするのでしょうか? あなたはこの世の屈辱を容認しませんが、来世で直面する屈辱の準備はできています。 これらの[神の]しもべ(被造物)は、神よりもあなたがたに愛されています。 これが無知ではないとしたら、それは何でしょうか? あなたの内面は無数の汚れで汚れており、数え切れないほどの欠点の源ですが、あなたは自分の富を神の義のしもべの富のようなものだと考えています。 あああ！ あなたは敬虔な先人たちの[行動と性格]からどれほど遠いことでしょう。 神によって、彼らはあなたが許されないことに関わらないレベルまで、許されることに禁欲しました。 彼らは、あなたが大きな罪に対して抱くよりも、小さな間違いを恐れていました。 性格特性が彼らの性格特性(敬虔な先人)と一致しない[私たち]は、この世では彼らのようではなく、来世でも彼らの仲間になることはありません。 2つのグループの違いは非常に明白です。

もしあなたが自分自身を敬虔な先人たちの模範だと考えるなら、あなたはより少ないことに満足し、[許可され合法的な]物質的な所有物を禁欲し、神の道にできるだけ多くのことを費やし、利他的になり、貧困を恐れず、富への貪欲を憎み、より少ない[物質主義]と[その後の]困難に同意する必要があります。 貧乏に満足し、謙虚さを良いものと考え、傲慢さと高い地位の追求を軽蔑の目で見、自分の問題に強く取り組んでください。 心は導きを嫌うのではなく、あなたは神の義務と権利について自分自身に説明責任を負い、神の承認と受け入れの型であなたのすべての状態を形作ったでしょう。 この

状況では、あなたは[審判の日に]説明責任を負わされることはなく、神を恐れる者のカテゴリーに数えられることになります。

イエスの伝統からの富への貪欲の例: ジャレアは、ある男がイエスの仲間を養ったと語っています(神の祝福と平安あれ)。 二人とも小川にたどり着くまでどこかへ行きました。 二人ともその横に座って食事をしました。 パンが3つあったので、二人とも1つずつ食べ、3つ目が残った。 イエスは水を飲みに小川に行き、戻ってくると、三番目のパンがなくなりました。 彼は旅行仲間にそのことについて尋ねたが、同行者はそのことについての知識不足を表明した。 イエスは黙って旅を再開した。 彼らは雌の鹿と2頭の赤ちゃん鹿を見つけました。 イエスは鹿の赤ちゃんの一頭に来るように頼み、その鹿が来て、それを屠殺し、肉を調理し、それを食べて、旅の仲間にも提供しました。 するとイエスは鹿の子に「神の命令によって生きなさい!」と言われ、鹿は再び生き返りました。 彼は旅の仲間に話しかけ、「この奇跡をあなたに示した存在(神)に誓って、三番目のパンはどこに行ったのかを尋ねます。」と言いました。 彼は「わからない」と答えた。 その後、二人は目が見えるところならどこでも水で満たされた谷に到着した。 彼は手を握り、水の上を歩いてその谷を渡った。 彼らが乾いた土地に着くと、彼は再び彼に尋ねました、「この奇跡をあなたに示し、誰がそのパンを取ったかをあなたに誓うことによってあなたに尋ねます。」 彼は再び「わからない」と答えた。 旅は再開され、今度はジャングルに到着したときに立ち止まった。 イエスは土、レンガ、石を集めて、「神の命令によって、金になりなさい!」と言われました。 土、石、レンガの山が金に変わると、イエスはそれを三つに分けて、「一つは私のもの、一つはあなたのもの、もう一つは三番目のパンを取った人のもの」と言われました。 彼の旅の仲間はすぐに「三番目のパンを取ったのは私です」と言いました。 イエスは彼にすべての金を与え、彼から離れて出て行かれた。 その男は、二人の男が到着するまで、金の山を持ってジャングルに座っていた。 この富を見て貪欲になり、その男を殺してすべての富を奪おうとした。 彼は「私を殺さないでください。私たちは皆、この富において対等なパートナーになることができます。 まず、私たちのうちの1人が近くの村に食べ物を買いに行く必要があります。 食べたら、そのすべてを自分たちで分配します。」 来た二人のうちの一人は、食べ物を取りに行き、「食べ物に毒を混ぜたら、この二人は死んで、この富の唯一の所有者になるだろう」と心の中で考え始めました。 一方、[ジャングルで待っていた]二人は、彼が食べ物を持ってきたら彼を殺し、金を自分たちで均等に二つに分けることができるように陰謀を企てました。 3人目の男が村から食べ物を持ってきたとき、彼らは彼を殺し、そして彼ら自身も有毒な食べ物を食べて殺されました。 金の山はそこにとどまり、ハゲワシや犬が食べた金の周りには3人の死体が横たわっていた。 数日後、イエス様(神の祝福と平安あれ)がその場所を通り過ぎました。 それを見て、彼は旅の仲間たちに言いました、「ほら、これが世界の状態なので、気をつけてください!」

第8章 名声と賞賛を求めることの害

*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一の8冊目の本*は、名声と人気を求めることの害を扱っています。 これらの病気は非常に自己消費的であるため、人の人生を支配し、この論文の最初の部分ですでに概説した精神的な道から人をそらし、心の平和と静けさを奪います。 ガザリは、これらの病気とその起源についての貴重な洞察を提供し、心からそれらを根絶し、その結果、心の平和と静けさで満たす方法を処方します。 名声の追求は、自己への執着(*ナフ*)とその欠点への盲目とともに、エゴイズムとそれが生み出す傲慢さを促進し、自己改革のすべての可能性を消し去り、物事をより良い方向に好転させます。 賞賛を求めることも、人間の善良な行動から誠実さを奪い、利己的で利己的で自己誇大的で下心を傷つける有害な特性です。 これは、真の実体と意味を欠いた空虚なふりをしようとする人間の努力の価値を低下させます。 ガザリは、心の平和と静けさを妨げるこれらの内なる病気の治療法を提供します。 ガザリによるこの本の内容は、次のように要約された形でここに提示されています[14]。

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

إني أخوف ما أخاف على امتي الرياء والشهوة الخفية التي هي اخفى من دبيب النملة السوداء على الصخرة الصماء في الليلة الظلماء

「私は、自分の国で誇示することと(名声、名声、人気を求めること)の控えめな欲望を最も恐れています。 それらは、暗い夜に暗黒の岩の上を濃い黒いアリが這うよりも目立たない[それを見つけるのは非常に難しいため、魂の最も奥深くに埋もれて霊的な道を思いとどまらせる可能性のある魂のこれら2つの害から身を守るために細心の注意を払わなければなりません]」。 (ナレーション: *ハディース集 イブン・マジャとハキム シャダッド・イブン・アウスの権威に基づく* [神が彼に喜ばれますように])

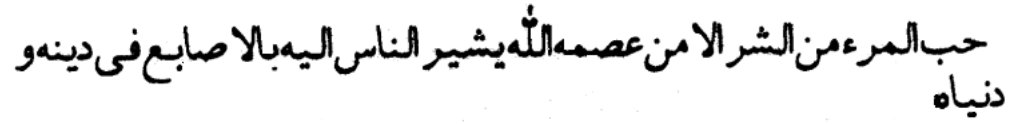
だからこそ、偉大な学者(スコラ神学者)でさえ、誇示と控えめな欲望の害についての知識を知らないのですから、学者でない崇拝者(信徒)や神を恐れる人々がその知識を持っていることをどうして期待できるでしょうか。 誇示は自己(ナフス)の内面の害の最後のものの一つであり、その控えめな欺瞞と特にそれらに関与している人々は、スコラ神学者、崇拝者、そして来世の道を歩むことを決意した人々です。 これは、これらの人々が困難な霊的闘争の後、低次の自己(*ヌフス*、つまり*ナフス*の複数形)を征服し、疑わしい事柄(禁じられたものや明白な事柄だけでなく、目に見えにくい事柄)から自己を守り、[清らかさと明晰さを持つように変容した魂の気晴らしや濁りなしに]神の崇拝に傾けるからです。 この状態では、彼らは[これまで行われた霊的な努力のせいで]身体の器官からあからさまな罪を犯すことができなくなります。

この苦難から少しでも解放されるために、彼らは自分の善行を示し、人々の間で人気と尊敬を得る以外に方法を見つけません。 この人気は彼らに喜びを与え、[本質的に困難な彼らの精神的な努力のために]抜け出すのが難しい困難の激しさを軽減します。 彼らは、自分の正義の行為を[公の場で]表現し、被造物(仲間の人間)に自分たちの崇拝と努力に気づいてもらいたいと願う人々です。 創造主の知識(彼らの崇拝行為や霊的な努力について)は十分であるはずですが、それだけでは十分ではなく、人々が彼らを称賛することに幸福を見出します。 彼らは、もし私たちが欲望や欲望を拒絶し、疑いのあることを控え、神の崇拝の厳しさをやめなければ、人々の舌は私たちを賛美することに忙しくなり、私たちの賛美を誇張し、彼らの目には私たちに対する尊敬と尊厳があり、私たちと会い、私たちを見ることを大きな名誉と誇りの源と見なすでしょう。 彼らは私たちの祈りを利用し、私たちの意見に従い、私たちに仕え、私たちに挨拶し敬礼することに先頭に立って、[社交的な]集まりで私たちを尊敬し、私たちを尊敬し、売買において私たちに譲歩を与え、集まりで私たちを[誰よりも]先に行かせ、食べ物、飲み物、服装において私たちを自分たちよりも優先し、謙虚であり続け、私たちに向かって頭を下げます。 そして、私たちの[下心と]目的に従属するでしょう。 低次の自己(*ナフス*)はそこから非常に多くの喜びを得るので、罪から離れることは難しくなく、礼拝の規則性は容易になります、なぜなら、低次の自己が[前述のすべての利益から]知覚した喜びがすべての快楽の核心であるためです。 この人は、私の人生は神のためであり、神の好みの方法で礼拝に忙しいと考えていますが、そのような人は、強くて健全な知性(真理と正しい理解にしっかりと根ざしている)以外の知性の知覚の外にある隠された欲望に耽っています。 そのような人は、心の誠実さをもって神に従い、神が禁じられたもの(ハラム)を抑制していると思っていますが、低次の自己は、神のしもべ(人間)の前で崇拝を

美化し、人々の偽りの賛美に幸福を見出すように、欲望や欲望に居場所を与えています。 これは、彼らの神の従順[と崇拝]の行為に対する神の報いを無効にし、彼らは正しい行いの祝福を奪われ、自分たちを神の親しいと思っていても、偽善者のリストに名前が書かれます。

名声と人気を求めることの非難

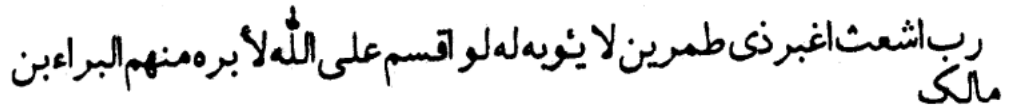
人気[名声を得てフォローしたいという欲求または欲求は]非難され、匿名性は好まれ、好ましいです。 アナス・ビン・マリク(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと言いました。



「神が守ってくださる者を除いて、人々が自分の宗教や世界(世俗的な地位、名声、何らかの能力、才能、権力、富による人気)について指で指を差し出すだけで、悪は十分です。」 (ナレーション: ハディース集 *Bayhaqi fi al-Shu'ab*)

バシャール(神が彼に憐れみあれますように)は言いました:「人気が好きで、そのせいで信仰(宗教)が破壊され、屈辱を受けなかった人を私は知りません。 名声を求める者は、来世の快楽には参加しません。」

匿名性の卓越性: 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「乱れた髪と埃まみれのショールを着た人がたくさんいますが、[彼らは貧しく、取るに足らないように見え、謙虚で、社会的地位が低いため、人々は世俗的な地位や地位がないためあまり考えていません]が、もし彼らが神に誓うなら、神は必ず彼らが誓ったことを[存在させる]でしょう。 神との親密さと親密さ]、バラ・イブン・マリク(預言者

の仲間)もその一人です。」 (ナレーション: *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づくサヒー・ムスリム* [神が彼を喜ばれますように])

アブドゥッラー・ビン・マスード(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと言いました。

رب ذى طمرين لا يؤبه له لو اقسم على الله لابره، لو قال: اللهم انى اسالك
الجن لاعطاه الجن ولم يعطه من الدنيا شيئا

「ショールを二枚持っている人の多くは、誰も彼らを大切にしないほどですが、もし彼らが何かについて神によって誓うなら、神は必ず彼らの誓いを果たします。 もし彼らがこの嘆願をするなら、『おお神よ! あなたの楽園をお願いします」、たとえ神が彼らにこの世で何も与えなくても、神は必ず彼らに楽園を与えてくださいます。」 (ナレーション: *ハディース集 イブン・アビ・アッド・ドゥニャ と アブ・マンスール・アッド・デイラミ*)

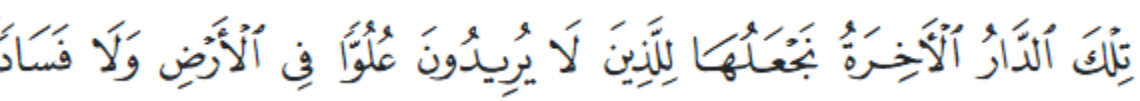
الا ادلكم على اهل الجنة كل ضعيف مستضعف لو اقسم على الله لأبره
واهل النار كل مستكبر جوّاظ

「楽園の人々が誰であるかをあなたに知らせるべきではありませんか? 神に誓うなら、神は必ず彼らの誓い(彼らが誓ったこと)を果たす弱くて謙虚な人であり、地獄の人々は皆傲慢で、未開で、失礼で、不快な人です。」 (ナレーション: *ハディース集 Sahih Bukhari と Sahih Muslim*)

フダイル(神が彼に憐れみあれますように)は言いました:「もしあなたが無名のままでいられるなら、必ずそうしてください。 名声と人気を見つけ、(世界中の人々から)賞賛を集める必要があるのでしょうか? あなたが神に愛され、愛されているなら、人々の目から嫌われても害はありません。」 これらの伝統は、名声の非難(望ましくない、落胆)と匿名性の卓越性(無名であること)に光を当てています。 名声と人気はそれ自体で求められるものではなく、代わりに権力と名声(社会的地位)の獲得が目的であり、権力と名声を好むことがすべての混乱の根源です。 名声と人気の追求は非難されますが、それを望み、求め、努力することなく、神の恵みによってのみそれを得るのであれば、それは非難されるべきではありません。 しかし、[精神的、感情的、心理的、霊的]弱い人にとってはトラブル(フィトナ)の原因になる可能性があります。 それにもかかわらず、確固たる性格の持ち主は、そのトラブルから守られるでしょう。 弱い人の例は、手足を動

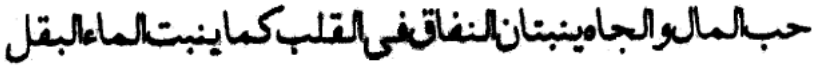
かす方法は知っているが、まだ泳ぐことを知らず、溺れそうな人の中にいる人の例のようなものです。 溺れようとしている人は、手足を動かす方法を知っている人を知らない方が良いです。 [その結果、]彼ら自身が溺れ、努力している人も溺れさせられます。 しかし、権力者にとって名声に害はありません、代わりに、溺れそうな人は、そのような泳ぎの達人をつかんで海岸に到達し、救いを得ることができるように、熟練した水泳選手に精通している必要があります。

権力と名声への愛の非難: 神はこう言われます。



「私たちは、特に地上での自己拡大(偉大さ)や混乱さえ望まない人々に来世の住まいを与えます。」 (クルアーン、28章、83節)

この聖句では、混乱と偉大さと栄光を求めることの両方に対する意図と願望が一箇所で一緒に言及されており、来世は意図と願望の両方を欠いている人々だけのためのものであると言われています[混乱を広め、偉大さを求めるため、これらは両方とも霊的な願望にとって致命的です]。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「富と名声への愛は、水が植物を育てるように、心の中で偽善を育てます」。

名声の意味とその現実: 名声と富は世界の 2 つの要素です。 世界の意味は、[物質的に]恩恵を受けることができるものの所有者になることであり、名声の意味は、尊敬、服従、従うことが望まれる心の所有者(捕虜と征服者)になることです。 裕福な人がお金の所有者になり、自分の目的を達成し、低次の自己(ナフ)の欲望と喜びを満たすことができるのと同じように、同様に有名人も心の所有者(捕虜と征服者)になった後、自分の利益と目的を達成するためにそれらを使用します。 富がさまざまな産業や職業によって得られるのと同じように、同様に、心は物事における美しい行動や慈悲の行為によって獲得されます。 心は知識と信念によって征服されます。 たとえば、誰かが特定の資質や能力を持っていると心に思いついた場合、その心はそれに征服され、その信念の力と強さ(他の人の資質と能力)に見合ったものになり、心はその人に従属するようになります

。 [求められた、または賞賛される]資質や能力は、それ自体が完璧である必要はなく、むしろ、崇拝者の心の中で完璧であると認識されるだけで十分です。 だからこそ、それ(崇拝者の心)は、現実では完璧ではない何かを完璧さとして認識し、心は賞賛される人に従属するのです。 それは、心の従属は状態(状態)であり、心の状態はその信念、知識、想像力に従属しているからです。 富や物質的な所有物に夢中になる気質が人々を支配したいのと同じように、同様に名声を好む人々は、自由な人間の首に奴隷制の束縛を掛けて、彼らが自分の心を完全にコントロールし、自分の[利己的な]利益を追求するためにそれを使うことができるようにしたいと思っています。 名声を求める人が求める奴隷制(支配)は、富を求める者が求める奴隷制よりもはるかに大きい。 裕福で権力のある人物が、選択肢が与えられれば一瞬たりとも服従しない人々を強制的に支配するからだ。 名声を求める者は、自分の自由意志と選択から[自由な]人々から奴隷を作り、人々がそのような人に[喜んで]幸せに従うことを望み、この服従と従順が彼らの第二の天性になることを望んでいます。 このことから、名声を求める人の目的は富を求める人の目的よりもはるかに大きいことがよくわかります。

それにもかかわらず、名声の意味は人々の心の中に居場所を持つことです。 つまり、卓越性、卓越性、完璧さの属性の中から、ある属性(内面的な特性となり得る資質)の存在について、心の中で確固たる信念を持つこと。 完璧さについてのこの信念の強さに比例して、次のものが[人々によって]過剰になり、それに比例して、名声を求める者が心を支配し、服従し、この心の支配と服従に比例して、名声とその結果としての幸福への愛が生まれます。 名声には果実や結果があり、たとえば人々の賞賛や限界を超えています。 誰かの完璧さを確信している人は、この信念を表現することに沈黙せず、[認識された]完璧さを称賛します。 名声と名声の果実の中から、名声の所有者に仕えることは、この信念を持つ人が、名声の所有者に奉仕することに身を捧げ、名声の所有者に服従し続けるように、名声の所有者に仕えることです。 同様に、名声の持ち主に対して利他的であること、意見の違いを示さず、最初に敬意し、挨拶し、敬礼し、集まりの主賓にし、すべての事柄において最優先にすることは、心の中に場所を与えられ、その人の完璧さが信じられたときに生まれる名声の果実の一つです。 崇拝、美しい習慣、外見の美しさ、血統、政治的権威、権力、または人々が完璧と見なすその他の側面。 これらすべての[個人的な]属性は心に余地を作り、その所有者は[人々の間で]尊敬を見出します。

なぜ名声はそんなに好まれるのですか? なぜ一部の人々がこれほど名声を好む傾向があるのかという問題に関する限り、名声を欠いている心はほとんどなく、激しい精神的

な努力なしには名声を取り除くことはできません。 名声とは、人々の心の所有者になることを意味します。 金と銀を所有することですべての目的を達成できるのと同じように、同様に、両方のもの(富と名声)を愛する原因は同じであるため、人々の心を所有し、征服することですべての目的を達成する能力を得ることができます。 だからこそ、心には富と名声への愛の両方がありますが、富よりも名声の方が好ましいため、名声への愛は富よりも大きいのです。

なぜ富よりも名声が好まれるのですか?名声は富よりも好まれるのには、次の 3 つの理由があります。

第一の理由:富によって名声を得るよりも、名声によって富に到達する方が簡単だからです。 したがって、世俗性を控える人(*ザヒド*)や、尊敬が心にしっかりと根付いたスコラ神学者(*アリム*)がいて、富を稼ぎたいと思っているなら、尊敬する心は、尊敬し愛するそのような人々に富を費やすことができるので、簡単にそうすることができます。 しかし、完璧さの特性を奪われた人が宝物を見つけ、そのような人が名声を奪われ、富によって名声を得ようとするとしたら、それは困難です。 このことから、名声によって富を得ることはできるが、富によって名声を得ることはできないことがわかっています。 この点で、名声はより愛されています。

第二の理由:富は盗まれたり、ひったくられたり、[政府]役人や抑圧者がそれを欲しがったりする可能性があるため、無駄になる可能性があるということです。 それらを保管するには、保護、警備、安全な保管場所が必要です。 実際、富には多くの害があります。 一方、あなたがハートの所有者になった場合、ハートには深く埋もれた宝物があり、盗むこともできず、強盗や略奪者もそれらにアクセスできないため、何の危害にも直面する必要はありません。 心の宝物はそれ自体で保護されており、その点で、名声は押収や盗難から自己保護されます。 しかし、心の宝物には、誰かが心の宝物を誤解させたり(幻滅させたり)、名声の持ち主を中傷したりして、[名声の人の完璧さの信念を崇拝者の心から]根絶できるかもしれないという危険が確かに存在します。 しかし、この危険に直面することはめったになく、第二に、それ(賞賛される人の完璧さの信念)はそれほど困難なく擁護することができ、[第三に]この信念は一般的に[心の中に]非常にしっかりと根付いているため、悪意のある人の努力は[通常]成功しません[たとえ信念が間違っていたり根拠がなかったりしても、人々は自分の信念をあきらめないため]。

第三の理由: ハートの所有権は無限であり、何の問題もなく増加するからです。 なぜなら、心が敬意に満ち、自分の知識と善行を信じるとき、異言はその人を賛美し、栄光を讃えざるを得ないからです。 人々自身がこの信念を持っており、それを他の人に表現し、他の人も同じ敬意を払う傾向があります。 だからこそ、人気や名声のような気質は、その人が一般的に言及されると、名声が都市から都市へ、国から国へと広がり、尊敬と名誉を求めて心を強要されるからです。 この[名声の]伝達の連鎖は伸び続けており、終わりも限界もありません。 これは富には当てはまりません。 裕福な人は、苦難と愛がなければ富を増やすことはできません。 名声は常に変化しており、どこにも止まりません。 富は一箇所にとどまり、増加する努力とともに増加します。 だから富は名声に劣る。 これらは富よりも名声を好むいくつかの高レベルの理由であり、さらに詳しく説明すると、無数の理由がある可能性があります。

富と名声への愛は、すべての人の心の中にあります。 その理由は2つあります。 1つの理由は明らかで、誰もが知っていますが、2番目の理由は隠されており、それがより大きな理由ですが、非常に微妙です。 頭が鈍い人や知性のない人は知らないと期待されていますが、理解力のある人でもその理由をよく知りません。 それは、この[微妙で偉大な]理性が、低次の自己(*ナフス*)の内なる静脈と人間の気質の秘密の要求から助けを得ており、この海に深く潜る人々だけがそれに精通しているからです。

最初の理由 - 恐怖の排除: この理由の結果、人間は未来への恐怖のために富に貪欲であるということです。 [自分の将来についての]悪い意見(不安)は、たとえ自分のニーズに十分な富を持っているとしても、人間を貪欲にさせます。 しかし、人間は長寿を望み、長生きを期待しているので、欲望に限界はありません。 自分の処分で持っている富が終わり、他人の前で困窮するかもしれないという恐怖が心に残っています。 この[思考]が心に浮かび上がると、恐怖が心を取り囲み、この恐怖は、事故で失われた場合に最初の富の代わりとなる別の富が利用できなくなるまで取り除かれません。 人は毎瞬間、これらの恐怖に悩まされています。 人生への強い愛情は、人が長生きするだろうと推定せざるを得ません。 それに伴い、寿命の延びに比例して、ニーズも増えると思い込んでいます。 また、「私の富は害と困難に悩まされており、いつでも無駄になる可能性がある」と想定する人もいます。 この考えは、ますます多くの富を手に入れることによってこの恐怖から身を守ろうとする人を恐れさせ、一部の富が無駄になった場合、第二の富が他の人の前で物乞いの手を伸ばす必要をなくすでしょう。 この恐怖は、人が決まった量の富に落ち着くことを許さず、代わりに、全世界の所有者になりたいと願う。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

منهومان لا يشبعان منهوم العلم ومنهوم المال

「貪欲な二人の人は決して満足しません。一人は知識に貪欲で、もう一人は富に貪欲です」。 (ナレーション: *アブ・マスードの権威に基づくハディース集タバラニ [神が彼を喜ばれますように])*

これは、名声を愛する理由とほぼ同じです。 遠く離れた国に住む人々の心に自分の高い尊敬と価値を確立したい人は、実際には、いつか祖国から離れて別の場所に住む必要があるかもしれない、あるいは何らかの理由でそれらの人々が祖国に来て住み始めるかもしれないという恐怖に巻き込まれています。 そのような状況では、彼らの助けは確かに必要になります。 それにもかかわらず、この可能性は存在し、遠くに住んでいる人々に助けを求めることは不可能ではありません。 だからこそ、その人の高い尊敬と価値が心に定着していれば、この事は非常に楽しくて楽しいものです。

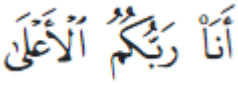
第二の理由: これはより強力な理由であり、その結果、魂は神の命令であるということです。 クルアーンは魂について次のように述べています。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلرُّوحِ ۖ قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ أَمْرِ رَبِّى

「彼らは魂についてあなたに尋ねます。 魂はわたしの主の命令によるものだと彼らに告げなさい。」 (クルアーン、17章、85節)

魂が「主」(神の命令に属する)であるという意味は、魂は霊的に明らかにされた知識(*ウルム・アル・ムカシャファ*)の秘密に関連しているということですが、その開示は許可されていません[グノーシス主義者は、神の知恵から、それに対する理解と感謝の欠如のためにそれに値しない大衆からその神聖さを保ちます。 そして、それを人類の最善のために確保すること、つまり、すべての知識の中で最高のものの一つであるこの途方もない重要性の知識を求めて努力する霊的に照らされた魂のために。 なぜなら、もしその開示が許されれば、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は確かに魂の現実を明らかにしただろうからです。 このトピックについてさらに議論する前に、魂は4種類の資質(気質の内面の特徴と性質)に傾いていることを知っておく必要があります。 [まず、]食べたり交尾したりするような動物的な性質。[第二に、]殺すこと、殴ること、痛みを引き起こすこと[そして苦しみを与える]などの獣のような性質。 [第三に、]欺瞞、狡猾さ、[人々を正しい導きと正直さの道から]思いとどまらせるなどの悪魔的な性質。 [

第四に、]傲慢さ、名誉、優越感などの神聖な資質。 これらの多彩な性質に心が傾倒する理由は、人間は説明するのに長いいくつかの原則で構成されているからです。 ここで人間には「主の命令」があると言えば十分であり、だからこそ、人は気質的に主権を好む傾向があります。 主権の意味は、完璧さの独自性と存在の忍耐です。 存在を分かち合うことは不完全さの表れだからです。 だからこそ、太陽の完璧さは、その存在の忍耐力にあります。 もし別の太陽がいたとしたら、当時は太陽が唯一無二で唯一であるとは言えなかったので、それは不完全だったでしょう。 神以外には存在しないから、存在において唯一無二の神です。 神以外に存在するものは何でも、神の全能性の表れであり、それ自体では存在せず、代わりに、それらの存在は神の存在によって存在します。 存在の共存は階級の平等を要求し、階級の平等は卓越性と完璧さの不完全さです。 完成された人は、自分の階級に模範(共同共有者)を持たない人だけです。 太陽の光は全世界を照らすので、それはその不完全さではなく、むしろその完璧さの表れです。 不完全さとは、同じ地位とランクを持つ別の太陽がそこにいて、2番目の太陽に気づかなかったときです。 神以外のすべての存在の状態も同様です。これらもまた、本物の太陽(神)から生命の光を見つけた後、その存在を維持しています。 これらすべての存在は、現実の存在(神)に従属しており、従属すべき存在ではありません。 しかし、領主権(*ルブビヤ*)は、存在においてユニークであることを意味します。 すべての人間は気質的に完璧でユニークであることを望んでいます。 だからこそ、一部のスピリチュアルガイド(聖人やグノーシス主義者)は、ファラオが次のように述べたときに詳しく説明したものを自分の内なる存在に持っていない人間はいないと言っています。



「私はあなたの主です、至高者です。」 (クルアーン、79章、24節)

しかし、人間には優越感や至高になる方法はありません。 人は完璧を望んでいますが、完璧になるのに十分な能力を持っていません。 神(ウブディヤ)への奴隷制(奴隷制)は、低次の自己(*ナフス*)に対して強力な力を持ち、領主権(*ルブビヤ*)は気質的に愛らしく、愛されています。 「魂は私の主の命令から来ていると彼らに告げなさい」という神の言葉でほのめかされている[神の]主性と[魂が持つ]このつながりにより、人間は完璧の頂点に達しませんが、完璧への愛と欲求は終わりず、人はその[単なる]想像力から喜びを得ます。 すべての生き物は、自分の存在とその存在の完璧さを愛し、自分の存在の終焉と[知覚され、想定される]完璧さの質を引き起こす死を憎みます。 もし存在が終わりを迎えないなら、それは完璧とみなされるでしょう。 だからこそ、人間は自分の気質の中で権威、優越感、支配力を好むのです。 しかし、個人が自分の意図や欲望から変化し、影響を与える力を持ち、それらのものが自分の望むことを彼らにすることが

できる人に服従している場合、それは物事に対する支配とみなされます。 このようにして、人間にとって、自分と共にいるものを支配することが愛されるようになりました。

存在の種類: 存在する存在にはいくつかの種類があります。 神の存在や属性のように、変化や影響を受け入れない存在もいます。 変化を受け入れる存在もいますが、天、星、天の支配、天使のような存在、*ジン*(地球上に存在する超自然的な目に見えない生き物)、悪魔など、(人間のような)創造物はそれらを制御できません。 3番目の種類には、人間が地球、鉱物、植物、動物の構成要素など、変化を引き起こすことができる存在が含まれます。 その中には、身体と同じように変化や衝撃を受け入れる人々の心があり、動物の体に存在する変化や影響の能力と同じように。

知識に基づく支配への欲求: [存在する]存在の区分は、地球に属するもののように人間に影響を与える能力を持つものもあれば、神、天使、天国(空と宇宙の向こうにあるもの、さらにはその向こうにあるもの)のように人間に影響を与える能力を持たないものもあるということです。 だからこそ、人間は天国(宇宙とその向こう)を支配できないので、知識によって支配を達成し、その秘密と機微を理解することを望んでおり、これも支配の一形態です。 それは、知識に包まれたものが知識に入り込み、学者がそれを支配していると言われるからです(物理的な支配はないが、知識のため)。 支配への欲求は、知識も支配の[方法]であり、支配も完璧さの一種であるため、人間は神、天使、宇宙、星、山、海の驚異と神秘に精通することを余儀なくされました。 知識の完成は人間に幸福を与えます。

最初のタイプ[知識に基づく支配]は、地上に存在するものに関連しています。 人は[地上のものに関して]知識が十分であるとは思いませんが、自分が望むように影響と変化の行為を実行できるように、支配と影響の支配を望んでいます。 地球上に存在するものには、体と魂の2つのタイプがあります。 体には、金、銀、物質的な所有物などが含まれます。 これらのことにおいて、人間は実際的な方法で変化し、影響を与え、好きな場所に保管し、望む人に与え、望まない人には与えないことを望んでいます。 物事に対する支配力と力を持つことを「能力」と呼び、能力は完璧です。 完璧さは主権の特徴であり、主権は人間の気質に愛されています。 だからこそ、人は、必要であろうとなかろうと、服、食べ、飲み、欲望の充足などの欲望を満たすために富を愛します。 人は体と魂に影響を与えますが、完璧さの信念なしには心は征服されない(または征服

されない)ため、心を征服することはできません。 しかし、怒りは完璧さの代わりになります。 怒りや権力の中にも喜びを見出すのは、これらにも支配と特権が関与しているからです。

第二のタイプ[知識に基づく支配]には、人間の自己(*ヌフス*)と心(*クルブ*)が含まれます。 地球上では、それらほど美しく貴重なものはありません。 それは、自己と心を支配し、それらを征服し、自分が望む変化を何でもできるようにしたいという人間の願望です。 この願望の理由は、心を征服し、心を変えることが支配の完成であり、それが神の主権(*ルブビヤ*)の資質と似ているからです。 なぜなら、愛がなければ心は征服されず、自分の完璧さについての信念がなければ愛は起こらず、すべての完璧さは神の属性に関連しているため愛され、愛され、神の属性は神の命令(魂)[主権に傾いている]と絡み合っているため、その人の気質に愛されるからです。 そして人間には、死によって消滅することも、土に食い尽くされることもないこの神の命令(魂)があります。 この[すべての人間の魂である神の命令]は、[神の存在、現実、光、導き、命令]とグノーシス、神の親密さ、そして近さの住まいです。 まさにこのもの(魂)は、人を神に連れて行くための手段であり、神のビジョンの原因です。

これまで書かれてきたことの結論は、名声の意味は心の征服であるということです。 心が征服された人は、心を支配し、支配することができ、支配は完璧であり、それは神の主権の属性です。 だからこそ、(人間の)気質は知識と力を愛しているのです。 富と名声は権力の理由です。 知識には限界がないので、あるものが知識とそれに対する力の枠の外にとどまるまで、それに対する欲求と熱意は満たされず、[人間の完全性の]不足を取り除くことはできません。 だからこそ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、知識に貪欲な人や富に貪欲な人について、決して満足しないと言っています。 したがって、ここで求められているのは完璧であり、完璧さは知識と力によって達成されることが証明されています。 その程度は無数にあります。 すべての人間は、自分が持っている完璧さの範囲で喜びと幸福を得ます。 これが、欲望が満たされているにもかかわらず、名声と富への愛が残る理由です。 言い換えれば、名声と富への愛は、必要が満たされても衰えません。 知識に関しては、人間は、たとえそれが目的を達成するのに有益でないかもしれないとしても、時には目的を達成するための障害になるとしても、それを愛しています。 しかし、人間の気質は道の苦難に耐え、その困難を克服し、知識の驚異で心を飾ります、なぜなら知識は知識の主体に対する支配の一形態であり、この支配は完璧であり、完璧さは神の属性(品質)であり、それが本質的に愛され、切望されている理由です。

真の完璧さ

神の存在と属性、神の行動、天と地、世界と来世における神の知恵、そしてそれらに属する事柄を重要度の正しい順序で知ることは、真の完全性です。 この完全性に恵まれた者は[神のグノーシス(マリファ)の状態において]神に近づき、この自己の完全性(ナフス)は死後も残り、クルアーンが次のように述べている[人を永遠の幸福と無限の成功に導く神聖なグノーシスの]輝かしい光となるでしょう。

يَسْعَىٰ بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَبِأَيْمَٰنِهِمْ يَقُولُونَ رَبَّنَآ أَتْمِمْ لَنَا نُورَنَا

「彼らの光は彼らの前と右に向かって彼らの前に広がり、彼らは祈るでしょう。『おお、私たちの主よ!永遠の状態にある私たちのために、この光(照明)を完成させてください』と言いました。」 (クルアーン、66章、8節)

つまり、このグノーシスは、世の中に知られていなかった知識も知られるような資本(資産)となるのです。 この類似性は、弱った光の付いた小さなランプ(芯と油の付いた)を持っている人が、それを使ってより強い光(照明)を持つ別のランプに火を灯すようなものです。 ランプさえ持っていない人は、別のランプを照らすことも、元の光を完成させることもできません。 グノーシス(神の知識、親密さ、神との親密さ)を奪われた人は、照らすランプを奪われた人のようなものです。 その例は次のようなものです。

كَمَن مَّثَلُهُۥ فِى ٱلظُّلُمَٰتِ لَيْسَ بِخَارِجٍ مِّنْهَا

「[グノーシスの状態で神の光に照らされている人は]暗闇に浸り、そこから抜け出すことができない人のようになり得るでしょうか?」 (クルアーン、第6章、122節)

代わりに、人がいる暗闇の類似性は、次のようなものです。

أَوْ كَظُلُمَٰتٍ فِى بَحْرٍ لُّجِّىٍّ يَغْشَىٰهُ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ سَحَابٌ ۚ ظُلُمَٰتٌۢ بَعْضُهَا فَوْقَ بَعْضٍ

「あるいは、彼らはあたかも深い海の暗闇の中にいるかのようで、大きな波に覆われ、

その上に別の波が上がり、その後[海]の上に暗い雲が立ち込め、その上にさらに暗闇が広がっている[したがって、そのような人は暗闇の層に包まれ、光を見ることも、この絶対的な暗闇から抜け出すこともできない]。」 (クルアーン、24章、40節)

このことから、グノーシス(*マリファ*または神の知識と親密さ)は、すべての善と永遠の幸福と無限の勝利(*サーダ*)の源泉であることを学びます。 他のものの知識の状況は、詩や系図の知識のように、それらのいくつかはまったく役に立たないということです。 中には、神聖なグノーシスを助けるようなものもあります。 魂の浄化の知識は、神のグノーシスへの導きと能力につながります。 これらすべての知識は、神聖なグノーシスの達成に向けたリソースのようなものです。 完全性は神聖なグノーシスにあり、神聖な属性と行動を認識することにあり、そこにはすべての存在の知識があり、すべての存在は実際には神聖な行為であるためです。 したがって、この世のあらゆるものを、それは神の意図、力、知恵と統合された神の行為であり、実際には[見つめ、理解]であるという視点で見る人は誰でも、神のグノーシスの構成要素です。

この説明は(これまでのところ)知識に関するものでした。 さて、権力について聞いてください。 [何かに対する]力という点では、神のしもべ(人間)は真の完全性を持っていません。 本当の力は神にのみ属します。 神の意図、力、動きのしもべから生まれた行為は、実際には、神がそれらを生み出してくださったために存在します。 この説明の要約は、知識の完成は死後も[神の]しもべのもとにとどまり、神に到達させるが、力の完成では、[神の]しもべの力の観点からは完全性は見られないということです。 しかし、力(身体的能力)は知識の完成度を達成するための手段です。 すべての身体器官、能力、能力は、その力によって、知識の完成の現実に到達させます。 これらの器官や能力に力を与えるには、富と名声が必要であり、その手段によって食べ物、衣服、住居を得ることができます。 もし、神聖なグノーシスを達成するためにそれらを使用しなかった場合、そのような個人が良い洞察力を持っていないことは明らかです。 彼らが持っている唯一の利点は、単に[いつか]終わるいくつかの喜びを得るためにそれらを使用することです。 これらの一時的な喜びを完璧だと考える人は、まったくの無知です。 ほとんどの人は、この無知の深い穴に落ちて滅亡しました。 彼らは、力によって身体に対する権威を獲得し、富を広大にし、人々の心の中で名声によって偉大さを達成することこそが完璧さのすべてであると考えています。 この無知が信仰になると、彼らはこれを愛らしいものとみなし、その達成に忙しくなり、それを追求している間に死に、人を神と天使に近づける真の完全性を無視します。 その完璧さは知識と自由の完全さです。 知識の議論は以前にも発表されました。 自由と解放の意味は、欲望と世界の苦しみ

から解放され、怒りによって扇動されるのではなく、欲望によって迷惑されることのない天使によって克服され、それらを克服し、制御することです。 欲望と怒りの影響を自己(*ナフ*)から根絶することは完璧であり、これは実際には天使の資質です。 神の完全性の属性の特徴は、それらに何の衰退も変化もないし、それらに何の影響もないということです。 この点で、個人が[世俗的な]障害[気を散らす、もつれ、欺瞞など]の影響や変化から遠く離れている限り、人は神に近づき、その程度まで天使に似ており、その程度まで神の前に地位を持つようになります。 これは、知識と力の完成とは別の第三の完全性です。

低次の自己では賞賛を愛し、批判を嫌う

低次の自己が賞賛を愛する理由: 低次の自己 (Nafs*) が経験するこの喜びには 4 つの理由があります。*

第一の理由: 最も強力な理由は、賛美によって、自分には完璧さに恵まれていることに気付かれるからであり、完璧さは愛され、愛されるものすべてを手に入れることに喜びを感じることは以前にも説明されています。 したがって、自己は自分の完成度に気付くたびに、それについて非常に喜びを感じ、言葉では言い表せない喜びを獲得します。 自分の完璧さの実現は、他の人が自分を褒めるときに起こります。 賞賛される資質や特性は、時には明白であり、時には疑わしいものです。 その特性が明らかで実現されれば、その賞賛から得られる喜びは比較的少なくなりますが、それは確かにあります。 たとえば、「あなたは背が高く、美しい顔色をしている」と誰かを褒めることは、たとえそれが明らかで感じられ、賞賛された人がそれらに気づいているとしても、常にこれらの特徴を認識しているわけではなく、むしろ、その特徴をやや怠慢にしています。 [誰かの褒め言葉によって自分がそのような特徴を持っていることに]気付くと、そこから[内なる]喜びが得られます。 もし人が疑わしい[賞賛に値する]特性や資質を持っているなら、その資質に対して受けた賞賛は、他のどんな喜びとも比較できない喜びをもたらします。 たとえば、「あなたは偉大な学者です」とか「あなたはとても神を畏れて義人です」とか「あなたはとても美しいです」と言って[誰かを褒める]ことです。 人間は自分の知識、敬虔さ、美しさの完璧さに疑問を抱き、その疑いをどうにかして消散させたいと願い、これらの特性が確実になり(人はこれらの資質において完璧さを持っているという確信を得る)、他の誰もそれらの特性に匹敵することはありません。 他の人

がこれらの特性について言及(賞賛)すると、人は[自分の中に存在することに]満足感と確信を得て、このようにしてこの喜びが強まります。 この喜びは、知識、敬虔さ、綿密さの美しさの秘密に気づいており、研究せずに何も発することを好まない知的で賢明な人によって賞賛されると、さらに増大します。 たとえば、教師が生徒の知性と理解力を賞賛した場合、生徒はそれを非常に喜んでいます。 考えたり理解したりせずに物事を言う習慣があり、知的で気づいていない他の人が惜しみなく賞賛すると、この喜びは減少します。 自分の非難(または批判)を嫌う理由は、誰かが指摘したことで、自己(*ナフ*)の欠点を知ることができるからです。 人は自分の欠点に気づく痛みを感じますが、この痛みは、知的で賢明な人が自分の欠点を指摘するとさらに強まります。

第二の理由:賛美は、賛美する人の心は賞賛される人によって征服され、そのような人は賛美される人の意志と欲望に従う者であり、崇拝者であり、従属するという事実を主張しているからです。 心を魅了し、征服することは人間に愛されています。 今、自分が心を所有していることに気付くとき、人は喜びを感じ、この喜びは、力と支配の広い網を持っている人の舌から賞賛が来るときに増大します。 なぜなら、そのような人の心を罠にかけることで、王や権威者、著名人のように最大限の利益を得ることが期待されるからです。 この喜びは、賛美する人が社会において何の重要性も持たず(社会的重要性も持たない)、自分の影響範囲に何も持たず、個人的に誰かに利益をもたらすことができる場合、非常に低いレベルにまで減少します。 そのような人の心を支配することは、取るに足らない卑劣なものを支配することと同じです。 非難したり批判したりする人の心は、人が所有しているわけではありません。 そこから生じる痛みは、多かれ少なかれ、非難者の社会的重要性が高いか低いかによって異なります。

第三の理由:自分の賞賛は、その人の心を賞賛される人に従属させるだけでなく、その賞賛が他の人に影響を与え、その心は賞賛される人に服従する可能性がある。 この点で、それらの人々の賞賛(賞賛コメント)は非常に効果的であり、その発言は注意深く耳を傾け、その賞賛と非難は信じられます。 そして、この賛美は、最大数の人がそれを聞くことができるように、大規模なオープンな集まりで行われなければなりません。 聴衆の数が多く、賛美する人の人格が重要であればあるほど、その賛美からの喜びは大きくなり、その程度まで、非難の痛みは低次の自己(*ナフス)にとって耐えられないものになります*。

第四の理由:賞賛される人は印象的な性格を持っていることが賞賛から学び、だからこそ、人々は自由意志によるものであれ、[やむを得ない内なる衝動や]力によるものであれ、そのような人を大量に賞賛することに落ち着きがありません。 印象的な性格を持つことは、ある種の支配と力を持っているため、人にとっての装飾でもあります。 この賞賛は、恐れから賞賛を余儀なくされる賞賛された人に対して良い考えを持っていなくても、喜びがないわけではありません。 この場合、人は他人の動揺と恐怖、そして自分の支配と権力によって喜びを得ます。 相手がどれほど弱く動揺しているかに応じて、一方はそれに比例した快楽を得るでしょう。

時々、これら4つの理由が、賞賛をする同じ人に蓄積されます。 その場合、(他人の褒め言葉から得られる)喜びは多岐にわたります。 これらすべての理由が一人の人に[同時に]組み合わさらなければ、賛美による喜びは比例して減少します。

上記の愛情の賛美の理由を治す: 第一の原因は、賞賛された人が自分の言葉が真実ではないという確信を持つことによって治すことができます。 例えば、誰かが「あなたは高貴な血統の出身で、寛大で、学者であり、悪を控えている」と褒められたり、話しかけられたり褒められたりした人が、その人がそうではなく、それとは正反対であることを知っていたら、その褒め言葉とともに心に生まれる喜びは終わりを迎えます。 誰かの心や舌を支配し、支配したときに達成される喜びだけが残ります。 もし人が、賛美する人が言っていること、彼または彼女の心には[実際には]その信念がなく、[それに加えて]私にも[賛美する人が言及した]それらの性質が欠けていることに気付くなら、第二の喜び(心を支配し、支配する)も終わります。 この後、ただ一つの喜びだけが残ります[それは、自分が人の舌をコントロールできることに気付くことによって得られる喜びです]。 言い換えれば、残る唯一の喜びは、賛美する人が私の恐れと畏敬の念のために私の賛美に舌を開かざるを得ないということに気付くことです。 真剣に褒めているのではなく、冗談として褒めているだけの人は、3つの理由のうち、どれも理由が残っていないため、すべての喜び(誰かの舌をコントロールする最後の残りの喜びを含む)は終わりを迎えます。 この説明から、なぜ低次の自己(*ナフ*)が賞賛から喜びを得て、非難に苦痛を感じるのか、もう理解できたでしょう。 これらの[賛美の]理由は、名声への愛、賞賛と非難への恐れを癒す方法を理解できるように言及されています。 それは、病気や病気の理由が理解されるまで、治療は病気の原因を終わらせるための別名であるため、その治療は不可能だからです。

名声への愛の治療法

名声への愛が心を支配し、被造物を喜ばせることに全力を尽くし、被造物との友情を築くのに忙しく、人の言動を聞いて自分の行動を見た後、ますます一人を尊敬する人々の言動に非常に気を配る人。 この問題は偽善の海であり、混乱の源泉です。 それは礼拝に怠惰を生み出し、時には心を罠にかけるために禁じられた不道徳なことを犯さざるを得なくなります。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、富と名声への愛と、二匹の[飢えた]獰猛なオオカミ(放たれるのは羊の群れ)に対する信仰への破壊に似ていました。 彼はさらに、水が植物を育てるのと同じように、富と名声への愛は偽善を育てると言いました。 偽善とは、外的な存在と内面の違い、言葉と行動の違いを意味します。 感謝と崇拝の程度を求めている人は、実際には欠けているような優れた習慣や特徴を示します。 これは純粋な偽善です。 名声への愛は致命的な病気です。 それを治療し、信者の心から根絶することは非常に重要です。 この病気は、富を愛する病気のように、心の核心に入り込み、内なる特性になります。 その治療法も知識と行動の組み合わせで構成されています。

名声を愛する知識に基づく治療法:名声を愛する病気に巻き込まれる原因を見つけることです。 その理由は、人々の魂と肉体をコントロールするためです。 たとえそれが達成されたとしても、その最終的な目的は[最終的に来る個人の]死にあります。 それは永遠に続く正義の行い[*アル・バキヤット・ウス・サリハート*]には数えられません。 むしろ、もし地上のすべての人々があなたの前にひれ伏し始め、その時も50年間あなたの足に額を置き続けるなら、ひれ伏す人もあなたが生き続けることもせず、あなたの最終的な終わりは、あなたの前に栄光と栄光と威信を持つ無数の人々に与えられたのと同じものになるでしょう。 [神と神に通じる高貴な霊的道]の信仰の祝福、つまり終わりのない永遠の命を離れることは、そのような儚く一時的なもの[人々の心の中での人気や崇拝のような]決して適切ではないからです。 真の完全性と[偽りの]想像上の完全さの現実に精通している人は、名声[と人気]を重要視しません。 その代わりに、来世に目を光らせている人は、塵の粒子に与えられるほどの重要性さえ与えません。 そのような人は、目の前で死を想像し、世界(世俗性)を卑劣なものと見なします。 [過去の]義人は来世にすべて焦点を合わせており、そのために彼らが行った仕事は、敬虔な畏敬の念、畏敬の念、そして神への畏れ(*タクワ*)でした。 彼らは、来世は神(タクワ)に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を持つ人々のためのものであり、彼らにとって名声と富ほど卑しいものはないということを[確信を持って]知っていました。 ほとんどの人の視力は

弱く、世界だけに集中しています。 彼らの目の光は、この神の言葉によって解明されているように、すべての事柄の現実と最終的な終わりを見ることには拡大しません。

「代わりに、あなたは世俗的な生活を好みます。たとえ来世は世界(世俗的な生活とその世俗的な生活)よりもはるかに優れており、(永遠の)ものです。」 (クルアーン、第87章、16-17節)

名声追求にこれほど関与している人は、世俗的な害や苦難を想像して心を癒すべきであり、言い換えれば、世界の有名人が遭遇する危険に目を光らせるべきです-名声、名声、地位の高い人は皆、友人を持ちながら、敵に事欠きません。 これらの人々は、常に危害を加える絶好のタイミングを狙っており、機会があればいつでも敵意を解き放ちます。 地位の高い人々自身も、自分たちが持っている地位を失ったり、尊厳と敬意を持つ心が変わったり(ひっくり返ったりする)のではないかという恐怖を常に抱いています。 心は、[好きで賞賛する人]を尊敬することと[嫌いで嫌悪する人]を避けることの間で苦しんでいます。 心に基礎を築いて建てられた建物は、海の波の上に建てられた宮殿よりも耐久性はありません。 心への譲歩、名声と名声の保護、嫉妬深い者の陰謀、敵による危害への抵抗などは、名声の喜びを苦しめる世俗的な害や苦難です。 名声追求に対する来世の罰はそれとは別のものです。 人は期待されるほどの世俗的な利益を得ることはできませんが、代わりに、名声を求めることに伴う非常に多くの困難が積み重なっています。 名声が好きな人は、先見の明(神秘的な洞察またはバセラ)を治すべきです。 先見の明(神秘的な洞察力)と信仰の強さに深さがある人は、世界(世俗性)に少しも注意を払いません。

名声への愛の実際的な治療法: この病気の実際的な治療法は、自分の名声をなくし、他人の心に留めておくために何かをし、人々が目に見てその名声を貶めるまで叱責されるようにすることです。 その結果、人気の感覚は払拭され、人は隠遁と匿名の生活に慣れ、神との人気とだけ戦うことになります。 人々の間で威信を失うような行為の中から行うことは、これだけが許されます。 王は敬虔な崇拝者に近づこうとしたという伝承があります。 崇拝者は、王が集まりに来たことを知ると、食べ物を持ってきてほしいと頼み、大きな一口を食べ始めました。 王様は彼がそのように食事をしているのを見て、彼に対する良い評価を保つことができず、その崇拝者は彼の目には卑下しました。 その後、彼は彼に近づき、[霊的な道で]彼の追随者になるという意図を放棄しました

。 崇拝者は安堵のため息をつき、王から自分を守ってくれた神に感謝した。 霊的な状態の人々は、これらの方法で自分自身を治すことがあり、(霊的な病気から身を守るという点で)心に有益であると考えています。 そのような方法に基づいて行動することによって、彼らは自分の内面の状態を正し、過剰なもの[または内なる存在の節度、バランス、調和からの逸脱]を排除します。

名声への愛を取り除く最善の方法: その最善の治療法は、人々から[社会的]隔離を[現代の手段であれ伝統的な手段であれ、必要や緊急性を除いて]無名になったり、誰も知らない場所に行くことです。 また、家に隠遁することは、村(または自治体)全体で有名になるので、その霊的な旅人が神に執着するためにすべての人々から隠遁することを採用したので、隠遁さえも人々の心に根付いた信仰の源となるでしょう[自分の敬虔さ、善良さ、高い霊的状態について]。 また、隠遁を実践している人は、名声への愛が心の中に残っていないと考える可能性もありますが、この愛は心の片隅に潜んでいるかもしれませんが、明らかに低次の自己(*ナフス*)は、その目的[有名になりながら隠遁を採用する]目的を達成することに満足しているようです。 しかし、人々がもはや自分のファンや崇拝者であり続けていない、あるいは誰かを陰口にしたり、悪いことを自分のせいにしたりするという確信を得た場合、その人の低次の自己(ナフ)の[内なる]満足は終わり、人々の心から自分自身についての間違った考えを取り除く方法を探すほど動揺するでしょう。 たとえ嘘をついたり、欺瞞に頼らざるを得なかったとしても。 この場合、この人が誇示として隠遁を採用していることは明らかですが、実際には、まだ名声と名声への愛を心に抱いています。 この愛は富への愛に似ていますが、名声によって引き起こされる試練が大きいため、さらに悪を生み出します。 自分のような人々からの貪欲(賞賛と畏敬の念)がある限り、人は心の中に自分の居場所を作ることに落ち着きを持たないままです。 しかし、自分の手で稼ぎ、他人の富に目を光らせなければ、すべての人がその重要性を失うでしょう。 東や西で離れた場所に住んでいる人々の心の考えを気にすることはなくなる、なぜなら人は彼らを見ることも、彼らに何の貪欲も期待することもできないからである。

人々からの貪欲[と期待]は、満足することによってのみ根絶することができます。 満足している人は、人々に対して気づいていない人であり、気づいていない人は、人々と心を忙しくせず、他の心に自分自身に対する賞賛と地位がある場合、人はそれをあまり重要視しません。 名声追求の放棄は、満足と貪欲の根絶なしには不可能です。 さらに、敬虔な先人たち(*サラフ・サリヒーン*)の状況を念頭に置いて、彼らは尊厳よりも謙虚さを好み、世俗的な富と比較して来世の神の報いを達成したということです。

賛美の愛のための治療

多くの人々は、他人への恐怖に悩まされ、他人の賞賛と賞賛への欲求にふけって苦しんでいました。 [その結果、]彼らの動きや行動はすべて、人々が彼らを称賛するように人々の希望に従っていました。 この問題は破壊的な特性によるものであり、その点で、その治療は義務付けられています。 治療法は、賞賛への欲求と非難への恐怖を引き起こす理由について熟考することです。

[賛美を愛する]第一の理由: 前述したように、崇拝者の[賛美の]発言は、賞賛された人に、自分には完璧さがあることに気づかせます。 この点で、人は崇拝者の賞賛を信じるのではなく、自分の知性に頼るべきであり、自分に帰属する資質が本当に存在するかどうかを心から問うべきです。 では、その人に帰される資質は、知識や神への畏れのように本当に賞賛に値するものなのか、それとも富や名声、世俗的な財物のように褒められるべきでもないものなのでしょうか? [賞賛される]資質が世俗的な手段に関連している場合、それに満足することは、すぐに乾いて風が運ぶ無精ひげになる草を見て喜ぶようなものです。 このような幸福は、知性の欠如に対する嘆きとなるでしょう。 人間が世俗的な富や所有物に満足するのはふさわしくありません。 それについて幸せになりたいのであれば、崇拝者による賞賛ではなく、その存在を喜ぶべきです。 それは、以前からそれを持っていたにもかかわらず、それは賞賛の後に存在したことを意味します[しかし、誰かがそれを賞賛した後にのみ幸せになりました]。

さらに、その性質が、知識や神への畏れについて喜ぶ権利があるようなものであるなら、その場合でも、すべての人[永遠の救いと幸福、または永遠の悲しみと天罰を達成するという観点から見る人]の最終的な目的は誰にも知られていないので、それについて喜ぶのは正しくありません。 この[賞賛に値する高貴な]資質が残るかどうかはわかりません。 知識と禁欲が神に近づくのは事実ですが、[世俗的な存在の]終わりの危険は常に存在します。 人生の悪い結末を恐れるなら、この世のものには満足しないでしょう。 代わりに、世界は悲しみと悲しみの場所であり、(無数の問題のために)幸福と満足の場所ではないことを理解するでしょう。 もしあなたが自分の人生に良い結末を望んでいるなら、崇拝者の賞賛に満足するのではなく、知識と[世俗性からの]禁欲という形であなたに与えられた神の寛大さと祝福に満足すべきです(*ズード*)。 それは、喜びが完璧さ

の実現の結果であり、完璧さ(もしそれが本当に存在するなら)その存在は、崇拝者の賞賛ではなく、神の恩恵によるものだからです。 賛美は、この神の恩恵に従属します。 だからこそ、褒められることはあなたの卓越性を高めないので、賞賛を喜ぶべきではありません。 誰かがあなたの敬虔さと世俗的な禁欲を称賛し、その賛美が現実とは何の関係もないことを知っているなら、そしてそれに大喜びするなら、それは絶対的な愚かさです。 神はあなたの気質の悪とあなたの内面の性格の汚れをよく知っており、これは単なる偽りの賛美であり、それに満足することは無知の極みです。 たとえ賛美する人が真実であっても、あなたはその賛美に満足すべきではなく、代わりに神があなたに与えてくださった恩恵と祝福に喜ぶべきです。 [あなた自身を]偽りの賞賛は、あなたにとって悲しみの源であり、幸福の源ではないはずです。

第二の理由: 賛美によって、賛美を積み上げる人の心の征服が明らかになるということです。 その目的は名声への愛の目的と同じであり、名声への愛の治療法は、人は人々からいかなる貪欲も持たず、神からの地位と感謝を求める者であり、この現実において、被造物(すべての人間)から地位と感謝を求めることが神から遠ざかるという確信を持つべきであると説明されています。 したがって、彼らの賞賛に満足すべきではありません。

第三の理由: 幸福の第三の理由は、賛美によって、賛美される人の栄光と支配的な人格が明らかになることです。 [実際には、]これも永続性のない一時的な特性です。 そんな儚いことに喜ぶのは意味がありません。 そのような賞賛は悲しみの理由であり、賞賛する人を悪いものと見なすべきです。 そのような賞賛は、苦難や大惨事に近づくので、不快に思うべきです。 あるグノーシス主義者は、「誰かの賞賛に満足した人は、サタンに自分の内なる存在に入る機会を与えた」と言いました。 別のグノーシス主義者は、「誰かの舌から自分が悪い人だと聞くのが好きではなく、代わりに自分が良い人であるという話を聞くのが好きなら、実際にはあなたは良い人ではない」という意見でした。 預言的な伝統の中で、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ألا لا تمادحوا فإنا رأيتم المادحين فاحثوا في وجوههم التراب

「気をつけて!お互いを褒め合ってはいけませんし、褒める人を見たら、顔にほこりをかぶせます(つまり、ことわざで言えば、そのような人々に信頼を与えるべきではなく、彼らの賞賛は、自分のエゴと独善を高めるという点で自分の精神性に有害であるため、無視され、公の場で拒否されるべきであることを意味します)」。

それが、預言者の仲間が賛美を非常に恐れ、その混乱(*フィトナ*または壊滅的な影響)とそれから生じる内なる喜びと満足を恐れ続けた理由です。 彼の賛美を聞いて、預言者の仲間はこう言いました。あなたのこのしもべは、あなたを不快にさせる何かで私に近づきたいと願っています。 私はあなたに、私が彼を不快に思っていることを証人にします。」 これらの[敬虔で義人]の人々が賛美に敵対的だった理由は、神が賛美を不快に思われるからです。 さらに、彼らはかつて、神は彼らの[真の内面]状態[と彼らの真の現実]に気づいており、彼らの欠点を[完全に]知らされているというこの永遠の認識を心に抱いていました。 だからこそ、誰かの褒め言葉は、自分の欠点を減らすことも、増えることもありません。 良い人は神に近い人であり、悪い人は神から遠い人です。 もし、褒められている人が神の目に悪い人で、その住処が地獄であるならば、誰かの褒め言葉を喜ばせるのは極度の無知です。 もしその人が楽園にふさわしいのであれば、他のしもべの賞賛を喜ばせても何も達成できないので、神の祝福と寛大さだけで幸せになるべきです。 人の不倫は[神のしもべ、つまり仲間の人間]の手に委ねられるものではありません。 栄養と死はすべて神の力と特権にあります。 この点が理解されれば、人はいかなる被造物からの賞賛も非難も気にしないでしょう。 賛美への愛が心から離れ始め、人は霊的な道の困難な遠征に体と魂を完全に耽溺するようになります。

批判と非難の嫌悪の治療法

人間が非難を嫌うのは、その反対の理由が褒め言葉を好む理由によるものだと以前にも述べました。 だからこそ、その治療法は、賛美への愛の治療法から理解できるのです。 この点に関して、簡単に説明すると、あなたを非難する人は3つの状態のいずれかを失っているわけではありません。 そのような人は、自分の発言が真実であるか、目的が誠実で愛であるか、あるいは非難において真実であるが、目的が誠実ではなく、代わりに危害を加えたいと思っているかのどちらかです。 最初のケースに関する限り、あなたは自分の非難を聞いて怒るべきでも、報復としてそのような非難を非難したりしても、誰かに敵意を抱いたり、そのような人を非難したりしてはなりません。 むしろ、あなたの欠点について知らせてくれる人は、実際にはあなた自身の破壊的な内面の資質を目撃させ、それらから身を守るようにアドバイスするので、あなたに対する好意を受け入れる方が良いでしょう。 あなたは、他人のあなたに対する批判を喜ぶべきであり、自分自身の非難されるべき[内面の特徴や]資質を取り除くために奮闘すべきです。 非難されたことを後悔したり、それを嫌ったり、非難した人を悪いと呼んだりすることは無知です。 批判者が単に敵意から、あなたに危害を加えるためにあなたを批判したの

であれば、そのときでさえ、あなたはそのせいで自分の過ちに気づいたので幸せになるはずです。 あなたはそれまでそれらに気づいていなかったか、それ以前に怠慢だったので自分の欠点を思い出させたか、あるいはそれ以前は良いと思っていたので、それがあなたの目には悪い性質を悪くしました。 これらすべての事柄は、あなたの永遠の幸福と永遠の成功(サーダ)の原因であり、そのための手段を手に入れたら、永遠の至福と永遠の成功を達成することを遅らせないでください。 これの類似性は、あなたが汚物で汚れた服を着て王の宮廷に行くつもりで、服に汚物があることに気づいていないということです。 さらに、この状態に入ると王様が非常に怒るということも知らず、この侮辱(行為違反)に対する模範的な罰であなたを罰しても不思議ではありません。 [この状態で]誰かがあなたにこう言ったら、「おお、汚い!おお、不潔な!服を片付けてください」、この口頭での事前警告は高く評価されているので、あなたは幸せになるはずです。 すべての邪悪で有害な道徳、マナー、性格特性、内面の性質は、来世での破壊の原因です。 人間は、敵があなたを非難し、非難の対象にするとき、敵を通して彼らの破壊的な道徳、マナー、性格特性、内面の性質を知るようになります。 あなたの運命にそのような敵がいるなら、あなたはそれを大切にすべきです。 敵が自分の敵意に熱心であれば、それは神への道にとって危険です[そして、誰かの敵意が自分の中に否定性を助長する可能性があるため、神に寄り添うことは危険です]が、それは[それでも]あなたにとって祝福です。 あなたはこの祝福を喜び、それを利用すべきです。 敵が自発的に、自分の敵意の火の中で(比喩的に言えば)灰に焼かれることを望んでいるとしても、あなたは何を気にしますか?

第三のケースは、非難者が嘘つきであり、あなたが神に免れられていることをあなたに告発しているということです。 少しも気にせず、報復手段として非難すべきではなく、代わりに3つのことに注意を払う必要があります。 第一に、あなたが関与していると宣言されている過ちが免れることです。 しかし、あなたが関わっているこのような過ちは他にもどれほどありますか、しかし神は[純粋な神の寛大さと寛大さから]それらに隠蔽のベールをかぶせました。 あなたは、人々にそれらについて知らせる代わりに、あなたが赦される一つの過ちが彼らに引き渡されたことを神に感謝すべきです。 第二の問題は、人々の欠点を見つけることは、あなた自身の罪や過ちの償いになるということです。 言い換えれば、人々はあなたの中に存在しない欠点を、あなたが実際に関与している他の多くの欠点をあなたに免除したのです。 あなたに陰口を言う者は誰でも、あなたに自分の正義と善行の贈り物を贈り、[陰口を言うと、陰口を言われた人の功績が引き継がれるので]、あなたを称賛する人は、あなたの背中に致命的な打撃を与えることを覚えておいてください。 背中の怪我を喜ばせ、財証の贈り物をもらって悲しんでいるのは、これらの善行があなたを神に近づけるにもかかわらず、この問題はどれ

ほど奇妙なことでしょう。 第三に、その哀れな人は、あなたに対して過ちを見つけることによって自分自身を傷つけているということです。 そのような人は、自分の信仰を傷つけ、神の目に自分自身を下げ、冤罪によって痛い罰を受けるに値するようになりました。 すでに[悪行に見合った]清算を受ける運命にあり、神の怒りがすでにそのような人に降りかかっている、そのような抑圧された人に対して、あなたが抑圧するのは適切ですか? なぜあなたはサタンに、自分の滅びと神の怒りを祈ることによって幸せになる機会を与えるのでしょうか? あなたはそのような人のために祈るべきです:「おお神よ!そのような者を改め、悔い改めを受け入れ、憐れみを施してください。」 これは、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が、ウハドの戦いで歯を折り、顔を傷つけ、叔父のハムザ(神が彼を喜ばれますように)を殺した人々のために次のような嘆願をしたときに行われました。

اَللّٰهُمَّ اغْفِرْ لِقَوْمِيْ اَللّٰهُمَّ اهْدِ قَوْمِيْ فَاِنَّهُمْ لَا يَعْلَمُوْنَ

「おお神様!私の国を許してください。 おお神様![彼らが無知から犯してきた過ちを]知らないように、私の国を導いてください」。 (ナレーション: *ハディース コレクション Bayhaqi Dala-il al-Nabuwwa*)

定めは、満足を実践し、人々の富からすべての貪欲を終わらせる人々にとって悪いことではないようです。 もしあなたが人[そして、彼らの賞賛や感謝を含む彼らが持っているもの]に気づかなくなったら、彼らがあなたに対してどれだけ悪口を言っても、それはあなたの心にあまり影響を与えません。 信仰の現実、つまり神への道(*ディーン*)は、富と名声への貪欲に終止符を打つ満足です。 欲が残っている限り、あなたは、あなたが欲しさや期待を抱いている人に、あなたの愛と高い地位を心に抱いて、あなたを褒めてほしいと思うでしょう。 あなたは自分のために心の中にスペースを作るのに忙しいでしょうが、それはあなたの信仰や神への道(ディーン)を破壊することなしには起こりません。

賞賛や名声を望み、礼拝で誇示するほど、できる限りのことをする人もいます。 人々の心を自分自身に傾け、自分自身を賞賛するように強制するために、彼らは宗教的に禁止されていること(ハラム)をすることさえ控えません。 そのような人々は[自己]破壊の道を進んでいます。 一部の人々は、崇拝をその手段として使用したり、禁じられたことを行ったりしないため、名声や賞賛を求めるために[宗教的に]許容されるものを使用するようなものです。 そのような人々は奈落の底にいます。 それは、言葉や行動に制

限を課すことができないからであり、だからこそ、賞賛を求めていつの間にかすべての限界を越え、自分自身を破壊してしまう可能性があります。 この点で、彼らは自分自身を破壊する人々と非常に親しいです。 感謝を望まず、感謝を求めようと努力しない人もいますが、褒められると心の中で幸せを感じます。 そのような人々が霊的な闘いを経験せず、賞賛に嫌悪感を表現することを余儀なくされなければ、彼らは内なる喜びのために第二のグループの人々に含まれる可能性があります。 もし彼らが霊的に努力し、賞賛とその破壊性を考慮して嫌悪感を表明し、心がそれを喜ばせる機会を与えないなら、そのような人々は霊的な努力の危険に囲まれることになります - 時には成功し、時には敗北する運命にあります。

褒め言葉を聞いても嬉しくない人もいれば、褒め言葉が自分に痕跡を残さないかのように苦しむ人もいます。 そのような人々は、完全に誠実ではないにもかかわらず、評価されます。 一部の人々は、褒めることに嫌悪感を表明するが、褒める人に腹を立てたり、褒めることを禁止したりするほどではありません。 これらの[賞賛に対する反応と態度の点で、さまざまなグループの人々]の中で最も高い程度は、賞賛は悪いものと見なされるべきであり、強制されるべきではない真の嫌悪感を示しなければならないということです[言い換えれば、内面的な満足感があるにもかかわらず、外見上は嫌いです]。 心の中では喜ばれながら、誠実に、そして真実に舌で動揺することは、純粋な偽善です。 そのような人は自分の誠実さと真実性を表現しますが、内面には誠実さも真実性もありません。 これらのさまざまな程度の[賞賛を嫌う]ことによって、賞賛を非難する人々の状態の違いも明らかになりました。 その第一の程度は嫌悪の表現があるべきであり、最後の段階は[自分自身の]非難に対して幸福を表現することです。 しかし、自分自身を批判することで幸せになれるのは、自分の低次の自己(ナフス)に敵意を抱いている人だけです。 この低次の自己は非常に反抗的で、無数の欠点があり、約束を破ることは有名で、その欺瞞は明らかです。 敵に与えられるような扱いを受けるに値する。 敵の過ちに耳を傾けることに満足するのは人間の本性の[弱点]です。 自分自身の低層的な自己(*ナフス*)の敵になったとき、人はその欠点に喜んで耳を傾け、それを非難した人に感謝すべきです。 この非難は、人の目には減少し、名声の害から守られるため、評価されます。 さらに、人間は多くの善行を行うことができません。 この(自分自身に対する)非難が人にとっての善行となり、根絶できない自分の過ちの償いになっても驚くことではありません。 もし霊的な旅人(*ムリード*)が、賞賛と非難が人の目に等しくなるこの仕事に一生を捧げるなら、この仕事は人に[他のことのために]猶予や中断を許さないでしょう。 スピリチュアルな旅人の永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の道には、危険で困難な峡谷がたくさんあり、ここもその峡谷の1つです。 これらの峡谷は、最も困難な精神的な努力(*ムジャハダ*)*を行わずに渡ることはできません。*

第9章- 誇示と誇示の害

ガザリの最高傑作*「イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一にある9*冊目の本は、誇示の害を扱い、物質的な所有物や優れた資質、才能、スキルの観点から、人が持っているあらゆる善を誇示しています。 これらの病気は非常に自己消費的であるため、この論文の最初の部分で概説されているように、人の人生を支配し、霊的な道から人をそらし、内なる平和と静けさを奪います。 ガザリは、これらの病気とその起源についての深い洞察を提供し、それらを心から根絶し、その結果、心を心の平和と静けさで満たす方法を規定します。 名声を求めるように、誇示はエゴイズムとそれに伴う傲慢さを促進し、自己への執着(*ナフ)*とその欠点への盲目とともに、自己改革のすべての可能性を殺し、物事をより良い方向に好転させます。 誇示は、良いことをすることに関連する事柄であっても、あらゆる事柄における誠実さを奪い、その結果、自分の善行の結果として生まれる光を心から空にします。 ガザリによるこの本の内容は、次のように要約された形でここに提示されています[15]。

誇示の非難

誇示[または誇示または大げさな誇示]は[神の法]で禁じられており、そのような行為は神の不快に値します。 神は[空虚なふりをせず、誇示する誠実なしもべを引用しながら]こう言われます。

إِنَّمَا نُطْعِمُكُمْ لِوَجْهِ ٱللَّهِ لَا نُرِيدُ مِنكُمْ جَزَآءً وَلَا شُكُورًا

「私たちは神の顔(神の受け入れ、親密さ、親密さの比喩)のためだけにあなたに食べ物を提供します。その報いも感謝も望んでいません。」 (クルアーン、76章、9節)

فَمَن كَانَ يَرْجُوا۟ لِقَآءَ رَبِّهِۦ فَلْيَعْمَلْ عَمَلًا صَٰلِحًا وَلَا يُشْرِكْ بِعِبَادَةِ رَبِّهِۦٓ أَحَدًۢا

「主との出会いを望む人は誰でも、正しい行いを行い、神の礼拝にパートナーを一切与えるべきではありません(被造物の喜び、承認、賛美を求めるために何かをすることは、被造物を神の礼拝に含め、神のレベルに引き上げることに等しい)。」 (クルアーン、18章、110節)

ある男が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねました。 どの行動が救いですか?」 彼はこう答えた:「[神の]しもべは、人々[または彼らから賞賛、感謝、賞賛、金銭的または物質的な利益、名声、譲歩などを得るという観点から彼らが提供しなければならないもの]を目的とする神の従順な行動をすべきではありません。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・ビン・アッバースの権威に基づくハディース集*ハキム[神が彼を喜ばれますように])

イエス(神の祝福と平安あれ)はこう言われました:「ある日に断食するときは、頭(頭皮)とあごひげに[髪の]油を塗り、脂っこい手を唇に当てて、あなたが断食していることに人々が気付かないようにしてください。 右手で[慈善を]与えるときは、左手がそれに気づかないような方法で与えなさい。 祈るときは、ドアにカーテンをかぶせてください[祈りの目的は神を崇拝することであり、人々の賞賛と賞賛を得るためにそれを公に見せかけることではないため、あなたが祈っていることに誰にも気づかれないようにします]。 神は[人間を含む被造物に]栄養を分配するように賛美を分配します。」 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

لا يقبل الله عزّ وجلّ عملا فيه مثقال ذرّة من رياء

「神は、粒子の価値がある誇示の行為を受け入れません」。

預言的なナレーションには、審判の日、神の影以外に何の日陰もなくなるとき、神の玉座の日陰に居場所を見つける人々の中には、左手がそれに気づかないほど右手で慈善を捧げた人がいると述べられています。 (ナレーション: *ハディースは*、アブ・フライラ[

神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを集めています)。 別のハディース(預言的な語り)によると、秘密の[正しい]行為は、公に行われた[正しい]行為よりも70倍優れています。 (ナレーション: アブ・ダルダの権威によるハディース・コレクション・バイハキ[神が彼を喜ばれますように])。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました:「審判の日には、派手な人が呼ばれるでしょう。『あなたの[善行]は無駄になり、あなたの神の報いは終わりました。 行って、あなたが[そもそも]行った人々からあなたの行為の報いを受け取ってください」。 (ナレーション: ハディース集 イブン・アビ・アッドゥニャ ジャバル・アル・ヤハサビ [神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて)。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました:「神は地球を創造されました。その後、地球はあらゆるものとともに震え、揺れ始めました。 その後、神は山を創造し、それを土地に釘として造りました。 天使たちは、神は山よりも硬いものは何も作らなかったとお互いに言いました。 その後、神は山を切り裂く鉄を創造されました。 そして、鉄を溶かす火を造られました。 その後、火を消すために水が命じられました。 その後、風が命じられ、水がひっくり返った。 その後、天使たちの意見が変わり、神に尋ねようと考えました。 彼らは「あなたの作品の中で最も難しいものは何ですか?」と尋ねました。 彼は答えた、「私はアダムの子(つまり人間)の心よりも硬いものは何もしていません。 右手で慈善を捧げるとき、それを左手から隠します(つまり、あらゆるレベルの誇示を避けるために完全に秘密裏に行われ、それには霊的変容のための勇敢な努力に伴う神に対する高いレベルの誠実さが必要です)」 (ナレーション: アナスの権威に関するハディース集ティルミディ [神が彼を喜ばれますように])

アブドゥッラー・ビン・ムバラク(神の慈悲あれ)は、ハリド・ビン・マダン(神の慈悲あれ)から、偉大な預言者の仲間であるムアド・ビン・ジャバルに、ハディース(預言者ムハンマドの伝統)を語ってほしいと語りました。 ムアド(神が彼を喜ばれますように)はそうすることに同意しましたが、彼は長い間泣きました。 そして彼はこう言いました。

「私は預言者(神の祝福と平安あれ)に会いたいと切望していることでしょう。 かつて私は預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)と一緒にいました。 彼はラクダに乗っていて、私を連れて彼の後ろに座らせました。 私たちが先に進むと、預言者は空を見上げてこう言いました:「すべての賛美は、神が適切と考えるように被造物に命じる神に向けられます」と言いました。 それから彼は私に向き直って言いました、「私はあなたに何かを言っています。もしあなたがそれを覚えていれば、それはあなたに利益をも

たらすでしょうが、もしあなたがそれを忘れれば、あなたは高貴な神の前で議論の余地はありません。 おおムアドよ! 天を創造する前に、高貴な神はすべての天に一人ずつ七人の天使を創造し、門の寸法に応じて、天の各門の警備員として一人の天使を任命しました。 二人の[守護]天使 *「キラマン・カティビーン」*(すべての人間の両肩に乗せられ、善悪を問わずすべての行いを記録する二人の天使)がしもべたちの行いとともに立ち上がるとき、彼らの中には太陽の光のような光があります。 彼らが第一天の[門]に到着すると、そこで警備として立っていた天使は、*「キラマン・カティビーン」*(すべての人間の守護天使)に、その行為を[神の]しもべ(つまり、行動が神に取られている人間)の顔に突き刺すように頼みます。 天使はこう言います:私は「陰口」の天使です。 主よ、神は私に、中傷者の行為を許してはならないと命じられました。

*「キラマン・カティビーン」*は、太陽の光のように輝くしもべのさらなる行為とともに、再び第二の天に昇ります。 天使はそこで彼らを止め、この行為による意図は世俗的な利益を得ることだったので、その行為をしもべの顔に突き刺すように頼みます。 [天使は彼らにこう言います:]私の神は、神以外の誰かのためにそれらを行った人の行為を認めないように私に命じました。 その後、天使たちは夕方までそのような人に「*ラナ*」(アラビア語の「*ラナ*」は神のしもべに憐れみを差し控えるよう祈ることを意味します)を送ります。

それから天使たちは、施し、断食、その他非常に高潔で価値があると考える善行など、しもべの他の[善行]を持って立ち上がります。 しかし、彼らが第三の天に到着すると、守る天使は彼らを呼び止め、行いを行う人の顔に行いを突きつけるように頼みます。 [守護する]天使は、自分が「プライド」の天使だと言います。 彼は主から、行いをする人が望んでいたように、(プライドと傲慢から)他の人よりも優れていることを示すことを許さないように命じられています。

*「キラマン・カティビーン」*は、星のように明るく輝くこの[神の]しもべのさらにいくつかの[善行]で再び立ち上がります。 これらには、祈り、「*ハッジ*」(巡礼)、「*タスビー*」(神の記憶と栄光)、断食などの美しい行為が含まれます。 彼らが第四天に着くと、守る天使は彼らを止め、行いを行いの人の顔に突き刺すように頼みます。 天使は彼らにこう言います:私は「自己うぬぼれ」の天使であり、実行者が自分の行為を自己うぬぼれで混入させたように、その行為を[神に]高く昇らせないようにと主から命じられています。

次に、天使たちは「*ハッジ*」(または巡礼)、神の道を歩むなど、花嫁のように太陽のように輝く他の正しい行いを飾ります。 彼らは彼らを第五の天国に連れて行きます。 [第五の天の門にいる]守護の天使は、『私は「嫉妬」の天使です」と言って彼らを止めます。 実行者は、神が憐れみによって恩恵を与えた人々に嫉妬し続けます。 この人は、神が[仲間の人間に]寛大に与えることを喜ばないのです。 私の主は私に、自分の行いを高く上げないように命じられました。

その後、天使たちは清め、完全な浄化、祈り、断食、「*ハッジ*」(または巡礼)などの行為をして第六天に上がります。 そこに駐屯した守護天使は、彼らを止めて「私は「慈悲」の天使です。 この人は誰にも慈悲を示したことがないので、しもべの顔に行為を突きつけてください。 ある人は、他の人が困難や不幸に陥っているのを見て喜んだ。 わたしの主は、自分の行いを[この罪を犯した者]が高くなってはならないと私に命じられました。

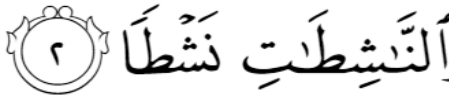
その後、「*キラマン・カティビーン*」は、慈善活動、祈り、断食、神の道への努力、「*タクワ*」(敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏れ心)など、この人のさらなる行為で第七天に昇ります。 これらの行為は、雷のクランプや雷のような大きな音を発します。 七番目の天の天使はこう言います:私は「名声と誇示」の天使です。 この人は、「ウレマ」(学者)や地位や尊厳のある人々の会社や集会で移動する行為を通じて名声を得るつもりでした。 私の主は、この人の行いを高く上げないように私に命じられました。

したがって、純粋に高貴な神のために行われたことのない行為は「*リヤ*」(誇示、誇示、または他人に好印象を与えるために行われる行為)であり、神はそのような行為を受け入れません。 その後、天使たちは、祈り、断食、「*ザカート*」(強制的な貧しい時期または慈善活動)、「*ハッジ*」(巡礼)、「ウムラ」(ミニ巡礼)、友好的な性格、沈黙、神への記憶などの善行で立ち上がります。 七つの天の天使たちは、すべてのベールが取り除かれる神聖な宮廷に到着するまで彼らを見送り、このしもべの行いはもっぱら神のために行われていることを神の前で証しします。

この瞬間、高貴な神はこう言われるでしょう。あなたがた天使たちは(外から)しもべの行いを世話しますが、私は彼らの心を世話します。 これらの行いによって、人はわた

しの喜びを求めるつもりはなく、わたしのためだけに行ったわけでもないことをわたしは知っている。 私はその人の行いによって本当に何を意図しているのかを知っています。 私の「ラナ」(私の慈悲からの剥奪)は、あなた方と人々を欺いたように、そのような人に当てはまります。 しかし、心の奥底に何が隠されているのかを私はよく知っているので、私を欺くことはできません。 たとえどんなにわたしから離れようとも、わたしから隠れたり、わたしの手から逃れたりすることはできない。 私は過去に何が起こったのか、そして将来何が起こるのかを完全に知っています。 私の知識は、亡くなった人も、これから来る人もすべて網羅しています。 私はすべての秘密とその詳細を完全に知っています。 誰も自分の行いによってわたしを欺くことはできない。 わたしのしもべは無知な者を欺くことはできるが、わたしは目に見えないものの知る者だからである。 それゆえ、私はそのような人に私の「ラナ」(私の慈悲からの剥奪)を送ります。 [七つの天の門を守る]七人の[守る]天使と三千人の天使は、皆、彼らの「ラナ」(神の慈悲を奪うために神に祈る)を一つに送ります。 すると、天の囚人たちは、そのような者には彼らの「ラナ」と、そのような欺瞞者に彼らの「ラナ」を送るすべての人々に」と言います。

これらすべての詳細を聞いた後、私(預言者から語っていたムアド[神が喜ばれますように])は泣き出して言いました。 この災いを取り除く方法は何でしょうか?」 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。完全な信仰と信念を持って預言者に従いなさい』。 ムアド(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「あなたは神の使徒であり、私はムアド・ビン・ジャバルです。 どうすれば救いを得ることができるでしょうか?」神の預言者(神の祝福と平安あれ)は言いました。あなたの行為が的を射ていない場合は、他人の悪口を言ったり、他人、特に兄弟や「*ハファズ*(クルアーン全体を暗記した者)。 あなたの兄弟や他の人々の事柄に干渉してはならない。 自分自身の邪悪な自己を下げさせてください(*ナフス*)、他人の名誉を傷つけることを控えてください。 イスラム教徒の兄弟たちの悪口を言って、自分自身を称賛してはならない。 他人を貶めて自分の優位性を確立しようとは決して考えないでください。 名声を得るために誇示に頼らないでください。 来世の事柄を完全に無視するほど、この世の事柄に忙しくしてはならない。 誰かがあなたと一緒に座っている場合は、第三者にこっそり話したり、ささやいたりしないでください。 あなたの行いがこの世と来世で台無しにならないように、人々の中でのあなたの優位性を他人に表現してはなりません。 あなたの集会では、恥知らず(下品)やわいせつさの話題について話すことを控え、あなたの不正行為を理由に人々があなたを避けるのを避けてください。 地獄の犬があなたを引き裂くのに、舌で他人の名誉を傷つけてはならない。 全能の神は聖クルアーンの中でこう言われました。


そして、彼らが骨から肉を引き裂くとき』。 (クルアーン、79章、2節)

それから私は言いました、「おお、神の使徒よ! これらすべての命令に基づいて行動する能力を持っているのは誰ですか?」 預言者(神の祝福と平安あれ)はこう言いました:「神が安らぎを与えてくださるしもべにとって、行動は簡単です。 自分が嫌いなことを他人も嫌う[そして、自分が好きなことを他人も好きだ。 このように最大限の誠実さを持って行う行動は、あなたに救いをもたらすでしょう]」と述べています。 (ハフィズ・イラクは、預言的な語り[ハディース]の偉大な巨匠であり、十万の預言的な語りを完全な伝達の連鎖で暗記した。 *ガザリの「イヒヤ・ウルム・アッ・ディーン」または「神への道の知識の復活」*に存在するすべての*ハディースのハディース*の認証であり、この預言的伝統の出典参照を「*キタブ・アズ・ズード・リ・イブン・アル・ムバラク*」または「イブン・アル・ムバラクによる卑劣な欲望の禁欲の書」および「*イブン・アル・ジャウジ・フィ・アル・マウドゥアト*」と呼んでいます)

ハリド・ビン・マダン(神が彼に憐れみあれ)は、ムアド(神が彼を喜ばれますように)は、このハディース(または預言的なナレーション)を暗唱したほど聖クルアーンを暗唱しなかったと言いました。 彼は *集会*でこのハディースについて頻繁に話しました。

伝統: ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、首を下げている男を見たと語られています。 彼は彼にこう言いました:「おお、首を下げたあなた! 首を持ち上げます。 謙虚さは首にあるのではなく、心にある」。 アブ・ウママ・アル・バヒリ(神が彼を喜ばれますように)は、モスクで誰かがひれ伏しているのを見て、[神の前での奴隷、貧困、謙虚さのしるしとして神に]こう言いました。 あなたは神の前で真の誠実さを持つでしょう]」と述べています。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「大げさな人には3つの兆候があります。一人でいると怠け者になります。人は人を見ると活動的になります。誰かが一人を称賛すると、その人はより多くの[正しい]行いをし、誰かがその人の悪口を言えば、その人は善行を減らします。」 ある男がサイード・イブン・アル・ムサイヤブ(神が彼に憐れみあれますように)に尋ねました:「私たちの中の一人は、善行を行った後、神の報いと感謝を望んでいます。 [このような]行動は正しいですか?」 彼は彼に尋ねました:「あなたは神の不快感を自分自身に受けたいですか?」 男性は否定的に答えた。 彼は答えました:「あなたがどんな善行をするときでも、神のためにそれを[

純粋に、排他的に]行い、それに誠実であり続けなさい」。 カタダ(神が彼を喜ばれますように)は言いました:「しもべが誇示すると、神はこう言われます。『私のしもべを見てください! そんな奴が冗談を言っているんだ!』 イブラヒム・ビン・アダム(神が彼に憐れみあれ)は、「名声を求める人は神を完全に信じているわけではない」と言いました。

誇示の現実とその発生の事柄

誇示とは、良い習慣や努力を示し、礼拝によって人々の心に感謝と名声を求めることを意味します。 この点で、4つのことがある。 一つは派手な人または崇拝者です。第二に、感銘を受けている人、つまり誇示が行われる人です。第三に、誇示が行われる特徴です。4つ目は、見栄えそのものです。

誇示が行われるもの: 派手な人は、身体、外見、言葉、行い、従者と外的なものの5つのことを誇示し、それを通じて人々の間で名声を求めます。 世俗性に没頭した人々は、この5つのことを通じて名声と地位を求めます。

信仰における身体による誇示: 身体による誇示の方法は、身体に弱さと青白さを取り入れて、この人が宗教的な事柄で非常に一生懸命働いており、来世への恐怖が自分を支配していると人々が思わせることです。 弱さは食べる量を減らすことを主張し、青白さは神の崇拝のために夜更かしすることを主張します。 同様に、乱れた髪は、宗教への気遣いと心配を主張し、常に礼拝で忙しいため、髪をとかす時間さえないと主張します。 この種の兆候が[公の場で]見られると、人々は自分の神聖さについて議論し、これが低次の自己(ナフ)を幸せにします。 これらと同様に、声を低く保つ、目の下にクマがある、唇の乾燥などがあります。 これらは、この人が常に断食をしていること、神の恐れが声を低くしたか、空腹が原因であることを示しています。 だからこそ、イエス(神の祝福と平安あれ)は、「あなたがたの断食をするときは、髪に油を塗り、とかし、目にアンチモンを入れ、脂っこい手で唇をこすり、人々があなたを断食していると思わないようにしなさい」と言われました。 同様のアドバイスは、預言者の仲間であるアブ・フライラ(神が彼を喜ばれますように)からも語られています。 これらの聖人は、誇示の罪を避けるために人々をこれらの方法に導きました。 サタンはまさにこれらの道に

よって[神の]敬虔なしもべを標的にします。 宗教的で精神的な人々はこのように自分の体を通して誇示を行い、世俗的な人々は健康な体、外見の美しさ、背が高く、バランスの取れた臓器、美しい肌を通して誇示します。

外見と服装の誇示: 髪を乱し、口ひげを剃る(またはトリミングする)[宗教的命令に従って]、頭を下げて歩く、ゆっくりと[落ち着きと威厳を持って]動き、額にひれ伏した跡を残し、粗くて粗い服を着る、ウールのローブを着、足首まで届く長いシャツを着、袖を小さく保ちます。 服を汚したり破ったりするこれらの行為はすべて、人々が預言的な道(*スンナ*)と神の正しいしもべの信奉者であると思わせるために、誇示のために行われます。 これには、*スーフィー*(スピリチュアルな旅行者)に似せてパッチ付きの青い服を着ることも含まれますが、スピリチュアルな道の現実からはあまり知らないことをよく知っています。 長いシャツにショールを巻いて、その端を目に垂らすことも、この外観で注目の的になり、道のほこりから目を守って道を歩いているという気配りを人々に感心の目で見てしまうため、誇示に含まれます。 また、無知な人がスコラ神学者(*ウレマ*)の服装を着て、人々が学者と考え、敬意と名誉を持って接するようにその外見を身に着けていることも誇示です。 その結果、彼らの中の[服装で誇示する]人々のすべてのグループは、たとえそれが[神の法則で]許されているとしても、その人気と名声を考えるものにおいて、より少なかれ多かれることに満足しないということです。 これが宗教的な人々の状態です。 世俗的な人々は、高価な服、良い乗り物、上質なショール、シャツ、ガウン、高価な商品によって誇示しています。 つまり、家にいるときは普通の服を着ているが、家を出ると上質な服を着て華やかに外出するので、金持ちだと思われる。

話し合いによる誇示: 宗教やスピリチュアルな道の人々は、アドバイスや説教を趣味として取り入れることで誇示しています。 彼らは知恵と慎重さのものを捏造し、[聖人や宗教家の]伝統を暗記して日常会話で使用できるようにし、受取人が敬虔な先人たち(*サラフ・サリヒーン*)の国家や伝統に対する熱狂的な知識と広範な愛着を告白できるようにします。 彼らは一般的な集会で神を偲び、唇を動かして、人々が彼らが非常に敬虔で、あらゆる瞬間に神の礼拝に忙しいと思わせるようにします。 彼らは善(義)を勧め、悪を禁じ、悪に対する怒りを表明し、人々が罪にふけっているのを見て計り知れない痛みを表明し、話すときに声を大きく低くし、クルアーンを感動的で感動的な方法で暗唱し、彼らの畏れと悲しみが明らかになるようにし、預言の語りを暗記し、その学者と会うと主張し、 預言的伝統の語り手のドアをノックし、誰かが彼らを語ると、彼らはその欠点を見つけ、その信憑性または欠如についてすぐに意見を形成し、人々がこの領域

の知識に感銘を受け、相手を征服するために長いスピーチをし、コーランと預言の伝統を参照して知識を表現します。 宗教的な人々にとって、話による誇示には無数の種類があります。 世俗的な人々は、詩や例を暗記して誇示し、言葉の流暢さと雄弁さに特に気を配り、裕福な人々に感動を与えるために独特の文章や畏敬の念を抱かせる言葉を暗記し、友情を表現して人々の心を自分に傾けます。

行動による誇示: [行動における誇示は、意図的に行われる場合、さまざまな方法で起こります。たとえば] 祈る人のそばで長時間立って祈りを捧げる、お辞儀をしたりひれ伏したり、首を下げたり、[礼拝以外のことに]注意を向けたり、静けさと威厳を示したり、手と足を合わせたり、謙虚さと祈りに耽溺するような行動をしたり、 等。 これらの派手な行動を行うことは、祈りに加えて、断食、巡礼、義務的な慈善活動(*ザカート*)、および努力(内側と外側の両方)である可能性があります。 同様に、歩き方や頭を下げるときの謙虚さの行為、会話における静けさと威厳、そしてそれらに似た同様の行動は、それらに誇示をもたらす可能性があります。 これは、派手な人は自分のニーズのために素早く前に飛び出しますが、宗教的な人に出くわすと、速度を変えてゆっくりと歩き始め、あごが胸に触れるまで頭を下げ、人々が性急で品位のない人と呼ばないように、徐々に歩みを踏み出します。 ですから、その[宗教的な]人が視界から消えると、人は再び急いで歩き始め、誰かを見ると、再び謙虚になります。 そのような人は、神を思い出すことによって謙虚さを身につけるのではなく、仲間の人間に好印象を与え、神の敬虔なしもべの中に一人を含めるためだけに謙虚さを身につけます。 比較的慎重な人の中には、他の人の前を歩く方法のように孤独に歩く人もいます。 彼らは、人前でペースを変える必要がないように、人前でのペースが一人のときのペースと逆であることを恥ずかしく感じています。 彼らはそうすることで見栄えを避けることができると考えていますが、この方法で自分の見栄えが増すことに気づいていません。 [これは、]以前は人の前で見せびらかしていましたが、今ではプライベートでも見せびらかしています。 世俗的な人々が行動によって誇示しているのは、彼らが誇大に歩き、歩くときに手を絶えず動かし、肩を飛び越えることです。 彼らは自分たちの威信と壮大さを示すためにこれを行います。

友人や知人との誇示:学者に会いに来て、この人がとても重要で、この学者やあれの崇拝者が知って会いに来たり、宗教において高い地位を持っていると言ってもらうことを望んでいます。 一部の人々は、王(国家当局)や王(政府)の高官と会い、一般の人々が宗教における自分の偉大さを告白することを望んでいます。 スピリチュアルガイド(*シュヨク*)にたくさん会い、彼らからスピリチュアルな恩恵を受けてきたことを証明するた

めに、スピリチュアルガイド(シュユク)について多数言及する人もいます。 彼らは、特に議論がある場合や、対戦相手を倒す必要がある場合に、彼らとの出会いに誇りを表明し、そこから霊的な利益を得ることに誇りを表明します。 そのような機会に、人々は、これこれの学者に会ったことがあり、これこれの学者からこのことを聞き、これこれの国を旅行し、非常に多くのスピリチュアルガイドや教師に仕えることで恩恵を受けたと主張する傾向があります。

これらは、派手な人々が誇示を実践する五つのことであり、そうする目的は[神の]創造物の中で名誉と地位を得ることです。 自分自身についての作品に対する良い意見に満足する人もいます。 そのため、多くの僧侶は礼拝所に行き、何年も出てこない。 多くの参拝者は山の頂上に登り、そこに長時間滞在し、降りてこない。 彼らの失踪は、人々が彼らに対して良い意見を持っているというこの信念に基づいています。 人々が自分に対してもはや良い意見を持たなくなったり、何らかの犯罪が自分に帰せられたりすると、彼らの心の平安はすべて破壊され、孤独を受け入れるために頼りにしていた自分自身についての良い意見に満足しなくなります。 さらに、彼らの内なる動揺は、神の前で[誤って帰せられたもの]が赦されたことを知っても終わらず、むしろ彼らの内なる動揺と悲しみは見る価値があります。 彼らは、人々の心の中での威信と地位を取り戻すために、何千もの言い訳をするでしょう。 彼らは富に貪欲ではありませんが、これはより大きな損失であるため、名声から逃れることはできません。 名声は、長くは続かないが、ほとんどの人が無知であるため、名声を求める無数の人々が見られる、現在達成されている完璧さのタイプである。

多くの人は、心の中での自分の地位に満足せず、代わりに、心の他に異言も彼らを賛美し、尊敬することを望んでいます。 遠く離れた場所で名声を得て、長距離を旅して会いに来てもらいたいと思う人もいます。 ある人は、自分の執り成しが受け入れられ、彼らのニーズが満たされ、一般の人々の間で名誉と信頼を得るために、王たちとの名声を望んでいます。 孤児、貧困者、寄付金(*ワクフ*)、または他人の個人財産であっても、それによって富を獲得し、蓄積したいと思う人もいます。 すべての派手な人々のグループの中で、これら[5]は、この5つの手段で派手を実践する最悪のグループです。

この病気で誇示し、心臓を治すための薬

見栄えは善行を無効にし、見栄えのする人を神の不快に値させることは、今では明らかになっています。 それは致命的な病気です、だからこそ、誰かがこの病気にかかった場合、それを達成するためにどれほど苦労し、それを達成するために必要な精神的な闘争であっても、それを取り除くための薬と治療法が必要です。 薬の苦味と辛味は回復の保証です。 これは、たとえそれが子供であっても、すべての個人が必要とする霊的な闘いです。 これは、子供が知性と理解力を奪われ、人々がしていることを見たことをするからです。 子供は、人々がお互いに愛装、見せかけ、人工的な行為をしているのを見ると、心の中に感情、見せかけ、人工的な愛が生まれ、すべての感覚を包み込みます。 この習慣の破壊性は、知性と識別力を獲得すると明らかになりますが、その頃には、この習慣は非常にしっかりと根付いているため、激しい精神的な闘争(ムジャハーダ)と極度の困難がなければ、それを根絶することは不可能です。 この結果、誰もがこの霊的な闘いを必要としているということです。 最初は苦労もありますが、最近は楽になります。 この病気を治すには2つの方法があります。 第一に、誇示の木を育てるその原理と原因が根絶されることです。 第二に、誇示の危険性(侵襲的な思考)が取り除かれることです。

第一の治療法 - 原則と原因の根絶: [誇示の]精神的な病気を治すこの方法は、[誇示の]原則と原因が知られているときに実用的になります。 この点で、誇示の基礎[と起源]は名声と名声への愛であることを覚えておく必要があります。 詳細に説明すると、誇示の根拠は3つあります:第一は賞賛の喜び、第二は非難から経験する悲しみの憎しみ、第三は人々の所有物に対する貪欲です。 これらは誇示の原因であり、誇示を若返らせます。 時には、褒められたいという欲求はなく、非難の悲しみを避けたいと思うことがあります。 たとえば、ケチな人は、神の道でますます多くのお金(慈善活動に費やされるお金など)を費やしている寛大な人々の間に閉じ込められます。 そのようなケチな人は、守銭奴と呼ばれないように慈善活動にいくらかのお金を費やします。 そのような人は賞賛を望んでおらず、ケチという評判の悪さを避けたいだけだった。 別の例は、勇敢な人々の間に閉じ込められ、勇敢者と呼ばれることを望まずに臆病者と宣言されるのを避けたい臆病者です。 同様に、夜中に起きて礼拝をし、人々が怠け者と呼ばないように夜に数サイクルの祈りを行う一部の礼拝者の中にたまたまいるのは個人です。 そのような人は非難を警戒し、賞賛を望みません。 時には、人は賞賛の喜びで忍耐強く、非難の痛みには忍耐できないことがあります。 したがって、人は困っている場合でも質問したり、知識なしに宗教勅令[ファトワ]を発令したり、何も知らなくても預言的

伝統[ハディース]の知識を主張したりせず、非難[または批判]を避けるためだけです。これらは、派手な人が派手さにふけるよう促す問題です。

誇示の具体的な治療法: 人間が何かを望むのは、利益や喜びがすぐに現れるか、後で期待されるかにかかわらず、それが有益で楽しいと考えるときだけであることは否定できない事実です。 しかし、そのものの利益や喜びは一時的なものであり、後で有害になると知っている場合、そのものへの欲求を終わらせたり、それを避けることは難しいことではありません。 たとえば、蜂蜜の味はよく知っていても、毒が混ざっていることが明らかになったら、決して使用しません。 欲望や傾向を消し去る簡単な方法は、一時的な[一時的な]利益を無視し、その将来の害を[目の前に]置いておくことです。 もし[神のしもべ、すなわち人間]が誇示の害を知り、派手な人はこの世で善行(永遠の永遠の命の資本である)を行う能力を欠いており、来世における神の親しみを奪われていると知った場合、 審判の日に苦痛の苦しみを受け、神様の不快感に値すると言われ、「罪人」や「欺瞞者」という称号で呼ばれて公然と屈辱を受け、「神様の従順(礼拝)と引き換えに世俗的な富や財産を稼ぐことを恥じなかったのか」と恥をかかされるでしょう。あなたは[神のしもべたちに感銘を与えるようなことをして]考え、神の礼拝を冗談で言いました。 あなたは神から遠ざかることによって[神の]しもべ(つまり、仲間の人間)の愛されるようになりました。 あなたは彼らのために自分自身を飾り、[その結果]汚物で自分自身を汚しました。 あなたは神から距離を置くことで彼らの親密さを見つけました。 あなたは、しもべたちから賞賛を得るために神の非難を取るに足らないものだと考えていました。」 [神の]しもべがこの屈辱について考え、[儚い、短命の]世俗的な利益と来世での損失を比較するとき、人は少しも誇示する傾向にはならないでしょう。誇示による[正しい]行いの喪失は、小さな損失ではありません。 誠実な行いが善行の天秤に重くのしかかることは驚くべきことではありませんが、それが誇示と混ざり合うと、それは罪に含まれ、罪の天秤が重くなります。 誇示がたった1つの崇拝の喪失を引き起こすとしても、それはそれほど悪いことではありません。 天秤が善行に重くのしかかると仮定すると、それでも、他のすべての正義の行いに関係なく、ある派手な行為は預言者、聖人、グノーシス主義者のカテゴリーに含まれることを許しません。

これは、宗教や神への道の喪失の説明であり、世俗的な喪失も同様です。 人々の心を[どう思うか]を考慮することは、いずれにせよ心配や不安の原因となります。 人々の承認は、簡単に到達できない限界です。 誰かがあなたの行動に満足している場合、同じ行動であなたに腹を立てている人がいます。 他の人を怒らせることで喜ぶ人もいます。 神(創造主)の不承認よりも被造物の不承認を好む人は、ある人を不快にし、他の人を

1人を不快にさせます。 では、創造物からの賞賛の利益が何であるかについては理解されていません。 なぜ人々は、彼らの賛美が人の栄養を増やすことも減らすこともないにもかかわらず、神の不承認よりも[神の]しもべの賛美を好むのでしょうか。

人々の富と所有物への貪欲に関する限り、すべての心は神によって征服され、征服されていると考えるべきです。 神には、どんな心でも与えるように傾け、どんな心も与えるのを止める力があります。 すべての被造物は神の力に従属しており、栄養は神の手の中にあるだけです。 被造物からの栄養を求める貪欲な人は、屈辱から守られたままではいない。 たとえ目的を達成したとしても、好意の重荷から保護されたままではいない。 偽りの希望や空虚な考えのために、神の近さと神から与えられた栄誉を拒否することは愚かです。 さらに、自分の欲によって達成できる必要はありません。 ほとんどの場合、人は失敗に遭遇します。 たとえ成功したとしても、成功の喜びは、この好意の結果としての屈辱の痛みに比べれば、それ以上の幸福をもたらすことはありません。

人々の非難を恐れるのも愚かです。 彼らの非難による損失の増加はありますか? 運命の創造主が書いたことは、必ず起こるでしょう。 有罪判決は死を早めたり、維持を遅らせたりすることはありません。 楽園にふさわしいなら、人は[人々の非難のために]神に嫌われることはありません。 もし人が神の愛者であるならば、すべての人間は、利益も害もできず、生と死を支配する力も、死後の世界を支配する力も持たないので、神の前では無能力です。 このように熟考し、心と精神がこの熟考と熟考の線に向けられるなら、その心が誇示に傾く理由はありません。 だからこそ、知的な人は、利益よりも害を及ぼすものに対して何の傾向も持たないのです。 これは、心の中では見せびらかすのが大好きだが、舌で誠実さを表現する派手な人の内面の状態を人々が知るようになると、そのような人を憎み始めることも重要です。 神はいつかこの秘密を明らかにし、人が人々の目に嫌われ、神の前での自分の誇示と屈辱に気づくようにするでしょう。 人の誇示だけが人々に明らかになるのではなく、その人の誠実さも明らかになり、神はその人の誠実さによって、人々の間で愛され、人の心を征服し、彼らの舌に自分の賛美を語る力を与えます。 人々の賞賛や非難は重要ではありません。

来世の人生とその人生で達成される終わりのない至福と崇高な地位を常に意識の中に保持する人は、苦難と濁りが混ざり合った世俗的な生活の祝福を取るに足らないものと考え、自分の熟考と行動の力のすべてを神に集中させます。 人は、誇示の屈辱や人々の

心に苦痛を与えることから身を守るでしょう。 自分の誠実さの光の反射がその人の心に照らされ、それがその広がりを引き起こします。 心の広がりは、神への愛着と創造物からの距離を増す微妙な精神的な明らかに(*ムカシャファ*)の扉を開きます。 来世の世俗性と偉大さに対する嫌悪感は、心に創造物のための余地が残されないため、[心の中で]増大するでしょう。 [その結果]誇示の動機は心に生まれず、誠実さの道はますます自然に開かれます。

行動による誇示の治療

誇示の実際的な治療法は、心が神の知識と礼拝の認識だけで満足し、自分の低次の自己(*ナフス*)が神以外の誰の知識と認識の必要性を感じなくなるまで、礼拝行為を隠し、罪を隠すようにそれらを隠す習慣を身につけることです。 伝承によると、アブ・ハフス・アル・ハダッド(神が彼に憐れみあれ)の仲間が世俗性(*ドゥニヤ*)と世界の人々を非難し、彼はこう答えた。 今日以降は私と一緒に座らないでください」。 アブ・ハフスが小さなことを明らかにすることを禁じたのは、世俗性の非難を主張することは、世俗性からの自分自身の禁欲(*ズード*)と、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧(*タクワ*)の宣言であるため、これについて熟考してください。 自慢の隠蔽にこれほど効果的で成功した薬は他にありません。 霊的闘争(*ムジャハーダ*)の初期段階では、[崇拝]を隠しておくという行為は非常に困難です。 しかし、ある程度の忍耐力を行使し、無理をしてもその[隠蔽]を習慣にすれば、絶え間ない神の恩恵、祝福、能力、支援により、この行動の重荷は無効になり、安らぎがもたらされるでしょう。 しかし、ここでは(行動の面で)努力の成果が得られます。 努力を欠いては何も達成されません。 神はこう言われます。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُغَيِّرُ مَا بِقَوْمٍ حَتَّىٰ يُغَيِّرُوا۟ مَا بِأَنفُسِهِمْ

「まことに、神は人々自身が自分の[魂の]内面の状態を変えるまで、国家の状態を変えません。」 (クルアーン、第13章、11節)

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ ٱلْمُحْسِنِينَ

「まことに、神は義の行いに優れた人々のために神の報いを無駄にすることはありません。」 (クルアーン、9章、120節)

第二の方法 - 危険と障害の根絶: 言い換えれば、礼拝中に心に浮かび、神以外の人にふけるほのめかし(*ワスワア*)と不安な考え(*カワティル*)を根絶することです。 それを根絶する方法は学ぶべきです。 自分自身の低次の自己(ナフ)と闘い、闘い、満足の行為、貪欲の断絶、被造物の目から自分自身を卑め、賞賛と非難に気づかない人々は、心から誇示を根絶します。 サタンは礼拝中に彼らに従うのをやめず、代わりに彼らを誇示の考えで動揺させます。 彼らの低次の自己(ナフ)からのほのめかしの思考や欲望は完全には終わらず、代わりに精神的な闘争によってのみ鎮圧されます。 外的要因が彼らに再び活力を与えると、彼らは活性化し始めます。 そのため、誇示の危険性と原因を取り除き、その方法を知ることが不可欠です。

誇示の危険性: 誇示には 3 つの危険性があります (ここでの「危険」という言葉は侵襲的な不安な思考を指します)。 3つすべてが同時に現れ、1つの危険のように見えることもあれば、徐々に現れることもあります-最初は最初のもの、次に2番目、そして3番目の危険です。 第一の危険[誇示のしるし]は、崇拝者が[自分の崇拝について]知らされることを望み、自分が自分の崇拝に気づいていることに気づくことを望むことです。 その後、低次の自己は人々の賞賛、賞賛、地位、名声に傾くようになります。 その後、低次の自己はこれを[人々の賞賛と賞賛による自分の偉大さの]証拠として受け入れ、信じます。 最初の危険は「知っている」と呼ばれ、2番目の危険は「欲望と傾向」とも呼ばれる「状態」と呼ばれ、3番目の危険は「決意と意図」と呼ばれます。 第一の危険(侵襲的不安思考)を根絶するには、第二の危険が到来する可能性が残らないように、より多くの力(強さと努力)が必要です。 ですから、もし人の心が、被造物の知識の重要性と必要性について考え、その知識を知らされるなら、人は自問自答してそれを取り除くべきです。 彼らがあなたの礼拝に気づいているかどうかにかかわらず、それはあなたの礼拝を[神]が受け入れるか受け入れないかにどのような影響を与えますか? 神は[すべての事柄の現実]を知っており、受け入れる力も拒否する力も持っている方です。神以外の者を[あなたの崇拝]に気付くことに何の利益があるでしょうか?」 もし賛美への欲求が心に生まれるなら、人は誇示の害を熟考することによってこの欲求を根絶し、「もし私がこの[神への礼拝]行為を誠実に行わなければ、私は審判の日に神の不快と怒りに値し、[神の喜びと受け入れを得る]善い行いを奪われるだろうと考えるべきです。最も必要とされている」と述べています。 人々が私たちの崇拝に気づいていると、誇示の傾向と欲望が生まれることを知るのと同じように、同様に、誇示の害について言及すると、嫌悪感と嫌悪感が生まれます。 傾向は人を受け入れるように誘い、嫌悪感は[誇示の]拒否につながります。 ローワーセルフ(*ナフス*)は、より強く支配的なその誘いを受け入れます。

誇示の危険性の根絶:このことから、誇示の危険性(侵襲的思考)を取り除くためには、知識、嫌悪感、拒否という3つの事項が必要であることがわかっています。 [神のしもべ、つまり人間]は決意と誠実さを持って礼拝を始め、その後[心に]誇示の危険が起こり、それを受け入れます。 その時、人はそれまで心にあった知識と嫌悪感を覚えていません。 以前に存在していた来世の破滅の誇示と理解の害は、抑えられます。 そのたとえ話は、忍耐の考えを心に留め、怒りを悪いものと考え、怒りの原因が現れたら忍耐を用いるという決意を維持する個人のたとえ話ですが、その後、怒りの火が燃え上がり、以前の決意を考えると心から離れ、怒りの害が視界から消えます。 これは、欲望の甘さとまったく同じ状況です。 心が甘さで満たされると、グノーシスの光は隠されます。 突然エネルギーが湧き上がるこれらすべての欲望の状態も同様で、それらが自分の信仰と霊的な道(*イマーン*)に与える害は[その時点では]記憶されていません。 このことから、グノーシスが残らなければ、拒否感はグノーシスと深い理解から生まれるため、反発は表現されないことがわかっています。

時々、人間は自分の心に生まれる危険(危険で侵略的な不安な思考)が、神の不快につながる誇示の危険であることを思い出し、知っています。 しかし、欲望は人を支配しているので、深い理解にもかかわらず、それを主張し、*低次の自己*(ナフス)からの気まぐれで頑固な愚かさ(*ハワ*)になり、知性を曇らせ、得た快楽から離れることができず、心を慰めるために(後で快楽に完全に耽った後)悔い改めを言い訳したり、快楽の欠点(有害な結果)について熟考する機会を与えないようなことをしたりします。 一部のスコラ神学者や宗教学者(*ウレマ*)は、誇示に欠けた言葉を発さず、彼らもそれを認識していますが、それにもかかわらず、彼らはそれを避けず、代わりにそれを主張します。 この主張は、彼らが破壊的であることを知りながらも、誇示を実践しているため、[審判の日に]彼らに対する[不正行為の]途方もない証拠となるでしょう。 知識と理解だけでは十分ではありませんが、それに伴い、[誇示への]嫌悪感も必要です。 時には理解と嫌悪感の両方を持っていることもありますが、それにもかかわらず、(誇示に対する)嫌悪感は欲望の力に比べて弱いため、人は誇示の刺激物を受け入れ、それに従って行動します。 そのような嫌悪感は、そのような行為をやめることであるため、何の利益もありません。 利益は、理解、嫌悪感、拒否という3つの問題の複合効果にのみ存在します。 拒否は嫌悪感の果実(結果)であり、嫌悪感は深い理解の反応です。 信仰と知識の照明(内なる光)の強さの範囲で、グノーシスとスピリチュアルな照明(*マリファ*)[神の臨在に導く]は強いでしょう。 心の中にこの世の愛(世俗性)を持っている限り、人は来世を無視するでしょう。 神の恵みから顔をそらし、世俗的な生活の害に気づかないままである限り

、人は[来世の]永遠の命の永遠の恵みを避け、その程度まで、その人のグノーシスと霊的な照明(*マリファ*)[神の臨在に至る]は弱くなります。 これは、リンクが互いに接続されているチェーンです。 いくつかは他のものの成果と結果です。 これらすべての起源は、世俗への愛と欲望の支配にあります。 これがすべての罪と過ちのまさに根底です。 それは、名声や地位の喜び、そして世俗的な恵みへの愛が人間の心を奪い、信仰の内なる照明の力を根絶するからです。 人はこの喜びに夢中になりすぎて、来世を瞑想の対象にすることも、神の書物(*クルアーン*)と預言の道(*スンナ*)*の啓蒙に参加することもできません*。

誠実さと誠実さのしるし

[宗教的な]学者や説教者における誠実さ、誠実さ、そして誇示とは距離が遠い兆候は何であり、彼らは自分の知識や説教で誇示していないのかという問題に関する限り。 その兆候がいくつかあることを知っておく必要があります。 1つの兆候は、誰かが一人よりも優れた説教をし、一人よりも優れた学者であり、一人よりも人々に人気がある人の前に来た場合、その人は嫉妬ではなく幸せであるべきであるということですが、畏敬の念を抱くことは何も悪いことではありません。 畏敬の念は、自分自身に同様の知識を望んでいることです。 もう一つの兆候は、著名な人々が集まりに来ても、説明のスタイルを変えるのではなく、以前と同じように話し続けるべきだということです。 すべての人は目から見て平等であるべきです。 もう一つの兆候は、市場や小道で自分の後ろを歩き、その人に従うという人々からの願望を持っていないということです。 自分の誠実さや誇示を知るための兆候は数え切れないほどあり、それらを列挙するのは困難です。 これらは、[神の]しもべの内面の状態を知るためのいくつかのしるしと兆候です。 [宗教]学者がお互いに嫉妬し、敵意を抱いているのを見るとき、彼らが来世と引き換えに地上の命を買ったことを知ってください。

サタンと低次の自己からのほのめかしの治療法: これらはすべて、サタンと低次の自己(Nafs) からのほのめかしです。 彼らの治療法は、このような状況で自分の思考や熟考に別の方向を与えることであり、人々が自分の偽善に気づき、自分の意識の状態に気づいたら、どれほど憎むかを考えるべきです。 [神の]しもべ、つまり人間がそのような状態であるならば、すべてに気づき、すべての知識があり、自分の内なる自己のあらゆる

状態に気づいている神の状態とは何でしょうか? 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

تَعَوَّذُوا بِاللهِ مِنْ خُشُوعِ النِّفَاقِ

「偽善から謙虚さから神の避難所を求めなさい」。 (ナレーション: *アブ・バクル・アル・シディクの権威によるハディース集* バイハキ [神が彼を喜ばれますように])

偽善から生まれた謙虚さとは、身体の臓器は[大げさな表現で]震えているが、心には微塵の効果がない[真の謙虚さがないため]ないということです。 この[預言的な戒め]は、神の罰と怒りから避難し、悔い改めることについてです、なぜなら、この行為は、時には神を恐れ、そのことをしたことに対する自分の罪と後悔の記憶によって引き起こされ、時には誇示のために引き起こされるからです。 これらの異なるほのめかしの考えが心に降り注ぎ、互いに似ています。 だからこそ、そのような考えがあなたの心に降り注いだとき、その考えやほのめかしがなぜそこにあるのか、そしてそれがどこから来たのかを見てください。 もし考えが神から来たのなら、それを起こさせてくださいが、誇示はあまりにも静かに攻撃し、しばしば気づかないので、恐れも持ってください。 あなたが誠実に始めた行為(行動、行為、努力、特に神の喜びと承認を求める義の行為)が、見栄えによって汚されている可能性があります。 ですから、神はあなたのすべての状態とすべての状態を知っていると考えて恐れてください。 あなたの行為がたまたまわずかな誇示と混ざり合った場合、あなたは神の怒りと不快の対象となるでしょう[神は神の憐れみ、優しさ、許し、寛大さを体現しているだけでなく、個人および集団の幸福に有害な故意の違反、行き過ぎ、不正行為、抑圧、有害な行動に対しても責任を負います。 そしてそれも神の憐れみと正義からです]。 アリ・ビン・アル・フセイン(神が彼に憐れんでくださいますように)は、この嘆願[神への祈り]をしました。 私は、人々の目には私の外見が良いことからあなたの避難所を求め、孤独で彼らから離れているとき、私の内面はあなたの前では悪いものです。わたしは、人々に誇示するための自分の行いを守り、あなたのためだけの行いを破壊し、私の最悪の行いをしてあなたの前に出て、義の行いを通して人々との親密さを求め、悪行をしてあなたの前に来て、あなたの怒りを買う。 おお神様!この誇示と偽善から私を守ってください」。

これらは誇示の害です。 [神の]しもべはこれらの害に目を光らせ、よく知るべきです。 予言的なナレーションによると、70の誇示の扉があり、それらのいくつかは他のものよりも繊細で控えめであり、いくつかの形式の誇示は、アリの動きのように非常に目立たないほどです(予言的なナレーションによると、暗い夜の暗い黒い岩の上)そして、ア

リの動きよりもさらに目立たないものもあります。 どうして誰かがそれを認識できるのでしょうか? そのためには、継続的な警戒心と集中力が必要です。 低次の自己を継続的に精査し、検査せずに、誇示の害について知らされることは非常に困難です。 神が私たちをこれらの害から守ってくださいますように!

誇示に関しては、サタンからのほのめかし(*クスクア*)や欺瞞があまりにも多く、書面では含めることができません。 これらのほのめかしを取り除く方法は、あなたが神以外のすべてを心から取り除き、あなたの人生を通して、あなた自身(*ナフ*)が神の罰に巻き込まれることを好まない以外にありません。 その代わりに、あなたは、世俗的な祝福や快楽をすべて手に入れているが、体が病気に悩まされているためにそれらを享受せず、これらの[地上の]快楽にふけると破滅を引き起こすのではないかと常に不安に思っている王のように生きるべきです。 [一方]、予防を行使し、低次の自己に対して[欲望をコントロールするために]霊的な闘いを行った場合、人は長生きし、自分の王国は長く続くでしょう。 そう考えて、医者やフレグランス売りの会社に付き添い、食料不足で体が弱くなるとしても、下の自分に苦い薬を飲むことに慣れさせますが、薬の予防と継続的な使用について規律を守れば、感染しているこの病気を完全に取り除くことができます。 たとえ低次の自己が欲望を要求したとしても、最終的な目的が死であるすべての病気は、具現化された形で人の前に現れるでしょう。 苦い薬を使うことが自分に負担がかかるときは、その薬によって与えられる健康や、体が病気から解放され、心が心配事から解放される、安楽で豊かな人生となる人生について必ず考えます。 これは、来世を望み、来世の破壊を引き起こす可能性のあるものや、世俗的な(地上的または肉的な)快楽や欲望よりも来世でより破壊的なものを避ける信者の状態でもあります。 信者は世俗的な快楽を避け、少しの量で満足します。 人は、神の怒りが自分に降り注がれず、破壊が自分の運命にならないように、弱さ、憂鬱、孤独、悲しみ、恐怖、そして創造物への執着を放棄するのが好きです。 そのような人は、世俗的な(地上的または肉的な)快楽に気づかないことによって救いを得ることを期待しています。 この恐れと期待は、世俗的な快楽を避けることに忍耐力を持つ力を与え、自分に残る富は神の受け入れと承認(リダ)であることを知っています。 そのとき、人はまた、神が慈悲深く慈悲深い方であり、神の命令に従って行動し、憐れみと愛をもって彼らに対処する[神の]しもべを助けてくださることも知っています。 神が望むなら、神は彼らをすべての悲しみや苦難に気づかせることができますが、神は[神の知恵から、そして彼らを永遠の幸福と永遠の成功の道に導くために][試練、苦難、苦難を伴う人間]を試し、神の知恵と正義で彼らの意図と真実性を試します。

人間が[神の臨在に導く霊的な道の]苦難を受け入れるとき、人は神から完全な助けを得られ、その困難は容易になり、忍耐の強さが利用可能になり、[神]に懇願し、[神の]従順の行為において、他のすべての[地上的および肉的な]快楽を取るに足らないものに見せるまで、[神の]従順は愛される行為になります。 そして肉体は、すべての世俗的な快楽を消し去る強さを獲得します。 憐れみ深い方(神)は、祈求者の努力を無駄にせず、懇願する人を手ぶらで御扉から出させません。 彼は[預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の伝統に従って]、「私に向かって手を伸ばして進む人は、私も腕を伸ばして進みます。 歩いて私のところに来る者は、走っている人のところへ行きます。」 神は[別の預言的なナレーションによると]「人々は私と会いたいと望んでおり、私は彼らと会いたいともっと望んでいます」と言われました。 初めに、[神の]しもべは自分の[霊的]闘争において誠実さと誠実さを示すべきであり、その後、慈悲深い主がどれほど身近に、愛と憐れみを注いでくださるかがわかるでしょう。

第10章 傲慢さと自惚れの害

*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一にある10冊目で最後の本*は、個人、コミュニティ、そして国家全体を悩ませているすべての霊的病気の中で最も破壊的な2つ、傲慢さと自惚れ(または独善)を扱っています。 傲慢さは、自分自身が他人よりも誤った優越感を持っていると認識していると確信させ、その所有者と、人種、民族、宗教、国籍、イデオロギー、物質的な所有物、奇形、過失、不利益、社会的地位のために見下されている人々との間に障壁を作ります。 傲慢さは、見下されている他の人や人々のグループの視点を学ぼうとする試みの扉を完全に閉ざし、厳しい感情、敵意、公然とした対立、そしてその結果としてすべてを破壊する無政府状態につながります。 独善的であること、または自分自身がすべてについて正しいと高く評価することは、真実の探求の扉を完全に閉ざし、その結果、虚偽の状態に没頭し、それが全存在を包み込んだ後、根絶することがますます困難になります。 これらの傲慢さと独善の弊害は、真実を見つけるために必要な謙虚さの崇高な内面の性質に対する忌まわしいものです。 ガザリのこれらの否定的な傾向の見事な治療と、謙虚さ、自己改革、そして人生をより良い方向に好転させる健康的な状態をもたらすそれらの治療法は、次のように凝縮された形で提示されています[16]。

傲慢さ(*キブル*)と自尊心(*ウジュブ*または独善)は、2つの致命的な病気です[それらは内なる存在と人が持つ可能性のある霊的願望を破壊するため]。 傲慢で独善的な人は、神の敵であり、神の怒りの下にある病気の患者です。 この[「神への道の知識の復活」の[第3]巻では、内なる破壊的な性格特性、資質、気質、気質が説明されているので、傲慢さと自惚れに光を当てることが不可欠です。 この2つは、(人間の内面と魂の)最悪の破壊的な性質の一つに数えられています。 この本(ガザリの4巻の*最高傑作*「神への道の知識の復活」の40冊のうちの1冊)は、2つの章に分かれています。

傲慢さの害

神はクルアーンの中でこう言われています。

سَأَصْرِفُ عَنْ ءَايَٰتِيَ ٱلَّذِينَ يَتَكَبَّرُونَ فِي ٱلْأَرْضِ بِغَيْرِ ٱلْحَقِّ

「わたしは、わたしの聖句(しるしと真理)の理解から、この世で不当に傲慢さを実践する者たちを阻止します(つまり、傲慢さは内面の盲目と、その実践者が真理の光を見ることを妨げる深刻な精神的ブロックを引き起こし、その結果、彼らは彼らの存在全体を包み込む虚偽の完全な暗闇に浸ります)。」 (クルアーン、第7章、146節)

كَذَٰلِكَ يَطْبَعُ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ قَلْبِ مُتَكَبِّرٍ جَبَّارٍ

「このようにして、神はすべての傲慢で抑圧的な人々の心を封印します[そのため、その人の心は導きと真理の正しい道を認識できなくなります]。」 (クルアーン、40章、35節)

إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلْمُسْتَكْبِرِينَ

「まことに、(神は)傲慢な民を愛していません。」 (クルアーン、16章、23節)

لَقَدِ ٱسْتَكْبَرُوا۟ فِىٓ أَنفُسِهِمْ وَعَتَوْ عُتُوًّا كَبِيرًا

「これらの人々は(偉大さや自己誇大の考えを抱き、他人を見下すことによって)心の中で傲慢であり、[傲慢さを避け、謙虚さを身につけるよう人々に勧める人間の良識と神の限界]の限界を超えています。」 (クルアーン、25章、21節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

لَا يَدْخُلُ الْجَنَّةَ مَنْ كَانَ فِي قَلْبِهِ مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِنْ خَرْدَلٍ مِنْ كِبْرٍ وَلَا يَدْخُلُ النَّارَ
مَنْ كَانَ فِي قَلْبِهِ مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِنْ خَرْدَلٍ مِنْ إِيمَانٍ

「あの人は、マスタードシードの大きさの傲慢ささえ心に持っている人は楽園には入りません。 マスタードシードの大きさの信仰さえ心に持っている人は地獄には入らないでしょう。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・ビン・マスードの権威によるハディース集サヒー・ムスリム*[神が彼を喜ばれますように])

لَا يَدْخُلُ الْجَنَّةَ بَخِيلٌ وَلَا جَبَّارٌ وَلَا سَيِّئُ الْمَلَكَةِ

「けちで傲慢な人、または自分の臣民(責任を委ねられた者)を虐待する人は誰も楽園に入ることはありません」。

「[神の]最悪のしもべ、つまり人間とは、残酷さと抑圧を解き放ち、最も強力で最高の支配者(神)を忘れる人です。最悪のしもべとは、大いなる世話人(神)を抑圧し、誇り高く、忘れる人です。最悪の使用人は、怠慢や無駄な時間の無駄な活動に耽り、墓の土の中で腐敗する現実を忘れている人です。最悪のしもべとは、反逆、辛辣さ、敵意の限界を超え、[地球上の人間の存在の]始まりと終わりを忘れる人です」。 (ナレーション: *アスマ・ビント・アミーシュの権威に基づくハディース集ティルミディ [神が彼女を喜ばれますように])*

イエス(神の祝福と平安あれ)は、「神が御書の知識を与え、傲慢さから守られ続けた人に喜ばしい知らせがある」と言われました。 ムハンマド・イブン・フセイン・イブン・アリ(神が彼に憐れみあれ)は、「心の傲慢さの量に比例して、知性は低下する」と言いました。 誰かがサルマン・アル・ファルシ(神が彼を喜ばれますように)に、その前では善行が有益ではない悪について尋ねました。 彼は「傲慢だ」と答えた。 かつて、素敵な服を着た若者がハサンのそばを歩きました(神が彼を喜ばれますように)。 彼はその若者を呼んで自分のところに来て言った、「男は自分の若さとハンサムさを誇りに思います。たとえあなたがたは自分の体が墓にそれを隠したかのようで、あなたの行いがあなたの前に来たと考えるべきであるにもかかわらず。 行ってあなたの心を治してください。 神は、しもべたちの心が改められることを望んでいるだけです。」 伝承によると、ムトラフ・イブン・アブドゥッラー・アル・シャキール(神の憐れみあれ)は、絹の服を着て誇らしげに歩いているムフルブ(政府高官)を見たという。 彼は彼に言った、「おおアブ・アブドゥッラーよ!この歩みは神とその使徒を不快にさせます。」 ムフルブは彼に「おそらくあなたは私が誰であるかを知らないでしょう」と言いました。 彼は言った、「なぜだめですか? 私は[あなたが誰であるか]を知っています。 初め(あなたの起源において)あなたはただの不潔な精子の一滴でしたが、あなたの最後は、あなたは不潔な死骸になります。 そして今、あなたは[始まりと終わりの2つの状態の間で]、

汚れを[胃の中に]運びながら歩き回っています。 ですから、自分の現実を知ることで、人間は謙虚さ以外の何も持つべきではありません]」と述べています。 それを聞いて、ムフルブは立ち去り、あの[傲慢で誇り高いスタイル]の歩みを去りました。

謙虚さの卓越性

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

مَازَادَاللّٰهُعَبْدًابعَفْوٍإِلَّاعِزًّاوَمَاتَوَاضَعَاَحَدٌلِلّٰهِإِلَّارَفَعَهُاللّٰهُ

「神は、人の赦しによってしもべの尊厳と名誉を高めます。 神のために謙虚さを採用する者、神はそのような者をより高い[霊的]ランクに引き上げます。」 (ナレーション: *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づくサヒー・ムスリム* [神が彼を喜ばれますように])

مَنْ تَوَاضَعَ لِلّٰهِ رَفَعَهُ اللّٰهُ وَمَنْ تَكَبَّرَ وَضَعَهُ اللّٰهُ وَمَنِ اقْتَصَدَ اَغْنَاهُ اللّٰهُ وَمَنْ بَذَّرَ
أَفْقَرَهُ اللّٰهُ وَمَنْ أَكْثَرَ ذِكْرَ اللّٰهِ اَحَبَّهُ اللّٰهُ

「神のために謙虚さを身につける人、神は人を高い地位に引き上げ、傲慢な人を引き上げ、神は(謙虚な経験によって)人を貶め、浪費家である人を、神はそのような貧乏人を作り、神をたくさん覚えている人を、神は人を彼の最愛の人にします。」 (ナレーション: *ハディース集 タルハ・イブン・ヤヒヤの権威に基づくバザール [神が彼に喜ばれますように])*

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「私は[神から][神の]奴隷であり預言者になるか、王と預言者になるかの選択を与えられました。 何を選べばいいのかわかりませんでした。 天使たちの中から[大天使]ガブリエルは私の友人であり(預言者は23年間にわたるクルアーンの神の啓示の主要な手段であったガブリエルによって頻繁に訪れていたため)、私は彼を見ました。 彼は私に『あなたの主のために謙虚さを取りなさい』と言いました。 それから私は『私は(神の)奴隷であり預言者になるのが好きです(神への奴隷は霊性の典型であり、奴隷の地位は奴隷の地位に具現化された謙虚さによって達成される神の前での最高の地位です)』と言いました。 (ナレーション: *ハディースは、アイシャ*[神が彼女に喜ばれますように]の権威に基づいて*アブ・ヤラを、アブドゥッラー*

・イブン・アッバース[神が彼に喜ばれますように])の権威に基づいてタバラニ を集めています))神は預言者モーセに神の啓示を啓示しました(神の平安と祝福あれ)、「私は私の偉大さの前にひれ伏している人の祈りのみを受け入れます。 私のしもべよりも優越感を抱かず、心に私の恐れを抱き、私の思い出に一日を過ごし、私のために低次の自己の欲望を控えない人」。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

اَلْكَرَمُ التَّقْوىٰ وَالشَّرَفُ التَّوَاضُعُ وَالْيَقِيْنُ الْغِنٰى

「高貴さ[と崇高さ]は、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏敬の念(*タクワ*)を持ち、名誉は謙虚さ(*タワドゥ*)にあり、富は確信(*ヤキーン*)にある(神と神聖な永遠の真実の中)」。 (ナレーション: *ハディースは、イブン・アビ・アル・ドゥニャとハキムをサムラの権威に基づいて集めています*[神が彼を喜ばれますように])

イエス(神の祝福と平安あれ)は言われました、「喜ばしい知らせは、審判の日に説教壇に座る謙虚な人々のためのものであり、喜ばしい知らせは、審判の日に楽園の相続人となる人々の間の平和の仲介者のためのものです。喜ばしい知らせは、神のビジョンに到達するために、すべての世俗的な汚れから心を清め続ける人々のためのものです。審判の日」。 預言者のナレーションによると、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「神が友人として持っておられる人々だけが達成できるものは4つあります。第一は礼拝の始まりである沈黙、第二は神への信頼、第三は謙虚さ、第四は世界への執着のなさ(地上の喜び、 快楽ともつれ)」と書かれています。 (ナレーション: *ハディースは、アナスの権威に基づいてタバラニとハキムを集めています*[神が彼を喜ばれますように])

アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)は、「あなたたちは最も優れた礼拝、つまり謙虚さを怠っている」と言いました。 ユスフ・イブン・アスバート(神が彼に憐れみあれ)は、「多くの義行に比べれば、少しの神への畏れで十分であり、多くの霊的闘争に比べれば、少しの謙虚さで十分です」と言いました。 誰かがフダイル・イブン・アヤド(神に憐れみあれ)に謙虚さについて尋ねたところ、彼はこう答えました、「謙虚とは、真理の前にひれ伏し、真理に従順であり、たとえ子供から真実を見つけたとしてもそれを受け入れ、無知な人からさえそれを聞いたとしても、 あなたはそれを受け入れます」。 アブドゥッラー・イブン・ムバラク(神が彼に憐れんでくださいますように)は言いました、「本当の謙虚さとは、世俗的な祝福においてあなたに比べて恵まれていない人を、そのような人が世界(世俗的な手段、地位、権力)のために自分よりも優れているわけではないという確信を得るまで、あなた自身よりも好むことです。 【さらに、】謙虚

さとは、世俗的な恵みにおいて自分よりも多くのものを持っている人よりも、そのような人が世俗的な手段によって優位性がないことを理解するまで、自分自身を悪いと考えることです。」

伝統によれば、イエスへの神の啓示(神の祝福と平安あれ)には、「私があなたに祝福を送るとき、謙虚にそれを受け入れなさい。私はあなたにその祝福を完成させます」と言いました。 カーブ(神が彼を喜ばれますように)は、「もし個人が[神から与えられた]祝福を受け、それに対して神に感謝の意を表し、謙虚な個人として生きたなら、神はその祝福の利益をこの世に授け、来世でも階級を上げるでしょう。 そして、もし個人が[神から与えられた]祝福を受けても、[神に]感謝せず、代わりに[それに基づいて]人々よりも優れていることを表明した場合、そのような人はその祝福の利益(利益)を奪われたままになり、来世で罰に直面するでしょう。」 預言者ソロモン(神の祝福と平安あれ)は、毎朝、裕福な人々やエリートたちと大まかな会合をし、彼らと会い終わると、貧しい人々の集まりに来て座り、「貧しい貧しい人は、貧しい貧しい人々としか人生を過ごすことができない(地上の広大さにもかかわらず、私の貧しさと神への困窮のせいで)と言っていました。神の支配とは比較にならない王国]」と述べています。 ジヤド・ナメイリは、「謙虚さのない(世俗的な)禁欲者は、実のない木のようなものである」と言いました。

傲慢な人々が楽園に入ることが禁止される理由は、善良な道徳、マナー、性格、内面の性質、資質(*イクラク*)は、傲慢さと自尊心(プライド)によって閉ざされる楽園への扉だからです。 [神の]しもべは、傲慢さのために、輝かしい道徳、マナー、性格、内面の性質、資質を奪われたままであり、[そのような人は]特に、神を畏れる人々の人生の資本であり泉であり、彼らの[崇高な]性格特性の基礎である謙虚さを[奪われている]。 人は謙虚さ以外の他の良い道徳、マナー、性格、内面の気質、資質を奪われたままです。 たとえば、傲慢さとともに敵意を捨てることができず、誰かのアドバイスに注意を払うことができず、誰に対しても誠実さを持つことができず、人々を辱めたり品位を傷つけたりすることを避けることができず、陰口や欠点探しから身を守ることができなくなります。 実際、すべての良い道徳、マナー、性格、内面の性質、資質は終わりを迎え、悪い道徳、マナー、性格、内面の性質、資質が生まれます。傲慢な人には存在しない悪い道徳、マナー、性格、内面の気質、資質はありませんが、代わりに、傲慢な人は、そうしないと偽りの自尊心[と見当違いのプライド]を維持することができないため、あらゆる悪や悪い性格特性からサポートを受けることを余儀なくされます。 傲慢な人が、良い道徳、マナー、性格、内面の気質、資質が、その[誤って認識された尊厳と]尊敬の

感覚を奪うと考える(信じる)ために、傲慢な人が奪われない良い資質は一つもありません。 これが、傲慢な人が楽園に入ることができない理由であり、多くの悪くて邪悪な道徳、マナー、性格、内面の気質、および資質が傲慢さに不可欠であるということです。 それに加えて、ある邪悪な性質は、他の多くの邪悪な性質や性格特性の前兆です。

最悪のタイプの傲慢さは、知識(特に永遠の真実について)の恩恵を受けることを妨げ、真理を受け入れる際の障害となり、真理に従うことを奪う傲慢です。 この種の傲慢さについて[クルアーンから]多くの[神聖な]聖句があります。

وَٱلْمَلَٰٓئِكَةُ بَاسِطُوٓا۟ أَيْدِيهِمْ أَخْرِجُوٓا۟ أَنفُسَكُمُ ۖ ٱلْيَوْمَ
تُجْزَوْنَ عَذَابَ ٱلْهُونِ بِمَا كُنتُمْ تَقُولُونَ عَلَى ٱللَّهِ غَيْرَ ٱلْحَقِّ
وَكُنتُمْ عَنْ ءَايَٰتِهِۦ تَسْتَكْبِرُونَ

「[傲慢な人々が死ぬとき]天使たちは手を差し伸べて、『あなたの魂を取り出せ! 今日、あなたは神について嘘をつき、神の聖句に対して傲慢だったので、屈辱的な罰が与えられるでしょう。」 (クルアーン、第6章、93節)

سَأَصْرِفُ عَنْ ءَايَٰتِىَ ٱلَّذِينَ يَتَكَبَّرُونَ فِى ٱلْأَرْضِ بِغَيْرِ ٱلْحَقِّ

「私は、地上で不当に傲慢さを実践するそのような人々を、私の聖句(クルアーン)の真の理解から遠ざけます(傲慢さは、神の導きを理解し、真理を認識することができなくなる心を封印するからです)。 (クルアーン、第7章、146節)

クルアーン注釈の学者は、クルアーンへの理解が心から引き上げられることを意味すると書いています。 いくつかの注釈では、それは心が天の支配を目撃することを止めることを意味すると書かれています。 イブン・ジャリー(神が彼に憐れみあれ)は、彼らは聖句について熟考し、熟考し、そこから教訓を引き出すことはできないだろうと言いました。 だからこそ、イエス様(神の祝福と平安あれ)は、「耕作は岩ではなく、柔らかい土の上に植えられる。 同様に、知恵は謙虚な心に影響を与えます。 傲慢な心はそこから少しも影響を受けません。」 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は、傲慢さは必然的に真理の拒絶と結びついていると呼び、次のように述べています。

اَلْكِبْرُ مَنْ سَفِهَ الْحَقَّ وَغَمَصَ النَّاسَ

「傲慢なのは、真実を拒否し、人々の欠点を見つける人です」。 (ナレーション: アブドゥッラー・イブン・マスードの権威に基づくハディース集サヒー・ムスリム[神が彼を喜ばれますように])

傲慢さが表れるもの

その人だけが自分自身を高く評価する傲慢であり、自分自身を高く評価する人は、完璧の資質から資質の1つの主張者です。 そして、この完全性は世俗的であると同時に宗教的でもあります。 宗教に関連する完璧さの資質は知識と行動です。 完璧さの世俗的な性質は、血統、美しさ、権力、富、そして豊富な支持者です。 次に、傲慢さの7つのタイプと原因は次のとおりです。

傲慢さの最初の原因 - 知識: 傲慢さの最初の原因は知識です。 学者(スコラ神学者)はすぐに傲慢さに巻き込まれます。 学者は、まず、自分の知識の完璧さと美しさを心の中で認識します。 そうすると、人は自分自身を優れていると考え、他人を劣っていると考えています。 人は他人を価値あるとは思わず、牛のように見ます。 人は彼らを無知だと考え、彼らが最初に挨拶することを期待します。 万が一、人が率先して他の人に挨拶したり、挨拶や挨拶に親切に応えたり、立ち上がって挨拶したり、招待を受け入れたりした場合、これは自分が彼らに与えている好意であると考え、たとえ彼らがそれに値しなかったとしても、この[良い]扱いによって他の人を尊敬したと考えます。 だからこそ、彼らに好意を寄せているからこそ、彼らが人に仕える必要があるのです。 傲慢な学者には、人々が彼らに会いに行くという習慣がありますが、彼らは誰にも会いに行かず、人々は彼らが病気になったときに彼らを訪ねに来ますが、彼らは病気の人を訪ねません。 親しい人に対しても態度が良くない。 彼らは彼らに仕えさせ、彼らの過ちを許しません。 彼らは人々を教育することが彼らの好意であると考えており、彼らが彼らに知識を与えたのだから、彼らに奉仕するのは彼らの権利であると考えています。 これが世俗的な事柄における彼らの実践であり、彼らの気質の堕落は来世に関する事柄において最高潮に達している。 これらのいわゆる「学者」は、知識が自分たちを神の前で高い地位に引き上げたと考えているので、今や彼らは神の報復や説明責任を恐れるべきではありません。 彼らは自分自身のことを恐れているのではなく、信徒を恐れて

いるのです。 彼らは自分たちの改革については何の心配もしていませんが、信徒の改革については動揺しています。 そのような人々は学者ではなく、むしろ無知です。 それらは知識と何の関係があるのでしょうか? 真の知識とは、神を認識し、自分の低次の自己についての深い霊的洞察を獲得し、自分の[避けられない]終焉の危険性を認識し、神の強い説明責任が学者とともにあるという信念を持つことです。 真の知識は、神への畏れ、謙虚さ、そして神への従順さをさらに高めます。 [神の寛大さと好意から]この知識を獲得する人は、自分の低次の自己(*ナフス*)を優れているとは決して考えず、他の人よりも多くの質問にさらされるため、誰もが自分よりも優れていると考えています。 知識は途方もない祝福であり、知識のある人々はそれに対して[神に]感謝を表すことができません。 アブ・ダルダ(神が彼を喜ばれますように)は、「より多くの知識を持っている人は、より多くの苦痛を抱えています(神の途方もない恩恵と祝福に十分に感謝することができない)」とよく言っていました。

知識が傲慢の源になる理由は、[神のしもべ、つまり人間]が知識を獲得し始める理由を[調べる]ためです。[この場合]人の内なる存在は[内なる]悪の中心であり、より低い基盤の自己(*ナフス*)は汚物の住処であり、その人は悪い道徳、マナー、性格、内面の気質(*イクラク*)を持っています。 知識の谷に足を踏み入れる前に、低次の自己(*ナフス*)を文明化し、心と魂を浄化するためにさまざまな精神的な闘争を経験することが不可欠であり、その主を崇拝するように低次の自己を訓練する必要がありました。 このような状況(必要な第一歩として心と魂を文明化することが切実に必要とされている)では、行動は心の中で尊厳のある場所を持たないため、知識は有益である可能性はあり得ません。 それ(知識)は穢れの中で生きることを余儀なくされており、その果実は有益ではなく、それらに目立つように見える良い兆候もありません。 ワハブ・イブン・ムナッベ(神が彼に憐れんでくださいますように)は、その最良の例を示しています。 彼は言いました、「知識は雲からの水のようなもので、本質的に純粋で、清潔で、甘いものです。 木はそれを静脈で吸収し、それをありのままに変換します。 木の葉や果実が苦いと水の味も苦くなり、甘いと水の味も甘いままになり、むしろ甘くなります。 知識の状態も同様です - 人々はそれを吸収し、一口ずつ飲み、自分の意図や決意を望むようにします。 傲慢な人はさらに傲慢になり、謙虚な人は謙虚になります。 傲慢さを持つことを意図し、無知だった人は、その後知識を得て、今では傲慢の源になり得るものを達成しました。 したがって、そのような人にとって、傲慢さはさらに高まりました。 同様に、[神を]恐れていた人は知識を獲得し、知識が[神への]恐れを確認したため、この恐れ、神の行動に対する強い不安、謙虚さ、謙虚さはさらに高まりました。」 結論として、これが傲慢さの最大の原因の1つであるということです。

傲慢の第二の原因 – 敬虔な行為と神聖な崇拝: 崇拝と[敬虔な]行為は傲慢の第二の原因です。 [世俗性から]禁欲し、崇拝する人には、名誉、名声、傲慢、人々の心を自分に傾けるなどの悪がないわけではありません。 彼らはまた、世俗的な問題と宗教的な問題の両方でこれらの悪を表現しています。 世俗的な事柄では、自分たちを訪ねてくる人を、自分たちを訪ねるよりも優れていると考えるように表現します。 彼らはまた、人々が彼らのニーズを満たし、尊重し、集会で彼らのためのスペースを作り、綿密さと神への畏れの資質を持って彼らについて言及し、あらゆる事柄において彼らを優先することを望んでいます。 これは、あたかも彼らが[神への]崇拝と霊的な闘争を被造物への好意と見なしているかのようです。 宗教的な問題では、彼ら自身が惨めであるにもかかわらず、彼ら自身が惨めであるにもかかわらず、彼らの状態はそのようなものです。 人々の惨めさを主張することは、彼らの卑劣さの反映です。 この人は自分の言葉で人々を卑下しただけでなく、神に対して誇りを持ち、神の罰と威厳を恐れません。 好意とみなして崇拝し、被造物を卑下する崇拝者と、その崇拝と服従によって被造物を愛し、尊敬し、神の前に自分には期待できない地位を期待する人の違いがどれほど途方もないでしょうか。

伝統に従って。イスラエルの子らには二人の男がいました。 そのうちの1人は、その波乱万丈な性質と邪悪な行動のために、反抗的として有名になり、2番目の男は、彼の豊富な崇拝のために崇拝者として有名になりました。 彼はあまりにも多くの礼拝をし、神の前で非常に高い地位にあったので、いつも雲が彼を覆っていました。 反抗的な男は、「私はとても評判が悪い。この崇拝者は、とても神を恐れ、崇拝する人間です。もし私が彼の近くに座れば、神が私に慈悲を下してくださるかもしれません。」 崇拝者は「私は崇拝者です。 どうしてこの悪い男が私の近くに座っているのでしょうか?」したがって、反抗的な男が崇拝者の近くに座ろうとすると、彼は彼に対する憎しみを表明し、彼が彼の近くに座ることを許しませんでした。 神は当時の預言者(同じくイスラエルの子らの出身)に神の啓示を送り、反抗的な人の罪をすべて赦し、崇拝者のすべての敬虔な行いを無効にしたので、敬虔な行いをやり直すように二人に告げました。 この後、雲が[以前の]反抗的な男を覆い始めました。

この事件から、神がしもべたちの心を求めていることがわかります。 無知な罪を犯した人が、神を恐れて謙虚さを保ち、神の威厳にひれ伏し始めた場合、それはその人が心から神に従ったことを示しています。 むしろ、傲慢な宗教学者や誇り高き崇拝者よりも偉大な崇拝者であることです。 ごく少数の崇拝者や[世俗性からの]禁欲者が身を守る

もう一つの害があり、それは、誰かが彼らを軽蔑したり傷つけたりした場合、彼らはそれを許されない犯罪と見なすということです。 彼らは、そのようなことをした人は神に赦されず、神の怒りに値するものになったと考えています。 同じ扱いが他の人にも与えられても、その人はこのような不快な反応をしません。 それは、彼らが高い地位と地位を主張しているからであるが、この主張はもっぱら無知に基づいている。 一部の人々の愚かさは、「これやこれや悪い結末を迎えるだろう」とか「これこれやはそれで罰せられるだろう」などの主張を強いる。 万が一、犯人が致命的な病気にかかった場合、人はそれを自分の奇跡と考え、神が自分の復讐をしてくれたと言います。 不信者が神とその使徒を呪い、預言者を傷つけ、さらには殺したことには気づかない。 それにもかかわらず、神はこれらの犯罪者のほとんどに猶予を与え、この世に何の罰も与えませんでした。 その代わりに、彼らの多くは[神によって]真理に導かれ、この世で罰を受けず、来世でも罰を受けることはありません。 この無知で傲慢で自己欺瞞的な崇拝者は、自分は神の前で非常に高い地位にあるので、預言者に対してもこれが行われていないのに、神は神のために復讐したと考えているのでしょうか? おそらく、人はこの傲慢さと独善のせいで自分が神に認められていないことさえ知らず、自分自身の[霊的]破壊に気づいていないのでしょう。 この信念は、知性を奪われた傲慢な人々のものです。 二人の差はどれほど大きいのでしょうか? ある人は、自分の内面と外面の両方に神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧心を持ち、自分の低次の自己を[その否定的で有害な傾向のために]心配し、自分の[正しい]行いを[謙虚さから]取るに足らないものと見なし、それを改革するための闘いに常に忙しいです。 第二の人は、誇示、傲慢、嫉妬、欺瞞の汚物を隠し、サタンのおもちゃとなり、その上、自分の[正しい]行動によって神に恩恵を与えていると考えています。 これは、自分が神のしもべよりも優れているという信念を抱いている人は、この無知のせいで[善、義、高貴な]努力の全資本を無駄にしているという事実です。 無知は最悪の罪であり、人を神から遠ざけるほど大きなものはありません。 自分が他人よりも優れていると自分について判断することは、単なる愚かさと無知であり、神がこう言われたにもかかわらず、神の責任に対する恐れ知らずの表れです。

فَلَا يَأْمَنُ مَكْرَ اللَّهِ إِلَّا الْقَوْمُ الْخَاسِرُونَ

「神の考案と戦略を恐れない人は誰もいません(*マクル*)驚くべき損失の危機に瀕している人々のグループを除いて。」 (クルアーン、7章、99節)

要するに、傲慢さは非常に災難であるため、神が神の世話をしてくださる神のしもべだけが安全であり、そうでなければ、人々は一般的にこの災難に悩まされます。

傲慢の第三の原因 – 血統(人種、民族、国家、部族、コミュニティ): より高い血統(善良で、立派で、著名で有名な家族の出身という点で)を持つ人は、このより高い血統を奪われている人々を見下します。 [この議論は、あらゆる形態の人種、民族、宗教、宗派、部族、コミュニティ、言語、政治、イデオロギー、ナショナリズムの誇り、傲慢さ、優越感、そしてその結果生じる憎しみ、またはこれらの特徴を共有していない人々を見下し、劣っていると見なす。 真のしもべであり、神の親密な人は、自分の色を持たない人であり、代わりに、愛、思いやり、憐れみ、正義、平等、誠実さ、利他主義、無私の奉仕、他人の利益、人々の苦しみを自分のものと見なすなど、多数の神の名前に代表される神の資質に染み込むことによって神の色を採用します。 など]。 時々、この人の傲慢な状態は、謙虚な出自や背景を持つ人々を奴隷や使用人と考え、彼らと交流し、食べたり飲んだりすることを嫌悪するようなものです。 人は、攻撃的な名前で他人を呼んだり、「あなたは誰ですか?」、「あなたの父親は何でしたか?」、「私はこれこれの[偉大な人物]の子供または孫です。 あなたのような取るに足らない人間が、どうして私に話しかけたり、私を見たりできるのでしょうか?」 直系のプライドを持つすべての人は、より低いベースな自己にこの秘密の神経を持っていますが、怒りの火が猛威を振るい、この神経の凍った血液が溶け、内なる光の照明が消えると、人は自分の血統や系図に言及して[品位を傷つけ、屈辱的な方法で]話し始めます。 この[屈辱的で品位を傷つける行為]は、[神の]謙虚な奴隷からは想像すらできません。 アブ・ダール(神が彼に喜ばれますように)が語り、「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が[私の近く]にいたとき、私はたまたまある男性と口論になり、怒りのあまり彼を『黒人女性の息子』と呼びました。 [私からこれを聞いて]預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は私に話しかけてこう言いました。

طَفِ الصَّاعَ طَفِ الصَّاعَ لَيْسَ لِابْنِ الْبَيْضَاءِ عَلَى ابْنِ السَّوْدَاءِ فَضْلٌ

「両方の天秤は等しい。 白人の息子は黒人の息子よりも優れているわけではない[すべての人間は神の目には平等であり、したがって、人種的誇りや傲慢さを表現することは当然ではない]」。

預言者からこれを聞いたとき、私は地面に横たわり、その男に立ち上がって私の頬を踏んでくれと頼みました[その紛争の状況で現れた私の人種的プライドと傲慢さを根絶するために、私は悔い改め、このように怒らせた人と償いをすることでこの罪を償いました]」。 (ナレーション: ハディース集 *Sahih Bukhari*、*Sahih Muslim*、 *Musnad Ahmed*)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が、自分の白人であることを自分の優位性の原因と考えていたアブ・ダールに、この過ちについてどのように知らせたかを見てください。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、イスラム教では白人も黒人も平等であると彼に告げ、このような考えや想像力を持つことさえ罪であり、無知であると告げました。 また、預言者のこの警告がアブ・ダール(神が彼を喜ばれますように - 預言者の霊的な監視と訓練を受け、その訓練の結果として自分自身を学び、改革していた預言者の仲間)にどれほど直接的な影響を与えたかも見てください。 [すぐに]悔い改め、その木が「傲慢」と呼んだのは、[彼が不当に扱った]人の足の裏によって彼の心の表面から根から取り除かれました。 彼はその瞬間、名誉の根絶(この場合はプライドと傲慢)は屈辱によってのみ達成されることを学びました。 同様の伝統に従って、二人の人が預言者の前で誇りを表明しました。 そのうちの一人はもう一人に言った、「私は某某、某某の息子です。 お母さんが滅びますように、あなたは誰ですか?」 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「二人の男が預言者モーセ(彼に神の祝福と平安あれ)の前で誇りを表明しました。 そのうちの一人は、9人の先祖の名前を数えるまで、「私は某某、某某の息子です」と言いました。 神は預言者モーセ(彼に神の祝福と平安あれ)に啓示を送りました、その9人の先祖は地獄の住人であり、あなたは10番目の住人です[したがって、あなたとあなたの先祖の傲慢さはあなたたち全員を最悪の場所に陥れました]」。 (ナレーション: *ハディース集 ムスナド・アフメド*)

傲慢さの第四の原因 – 美しさと容姿: 美しさによる傲慢さは通常、女性によって行われますが、これらに限定されませんが、女性は他の女性の欠点を表現し、彼らに対して陰口を言うことを余儀なくされます。 したがって、アイシャ(預言者の妻である神が彼女を喜ばれますように)は、「ある女性が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)を[霊的なアドバイスのために]訪ねてきました。 彼女が去った後、私は彼女がどれほど背が低いかを手でジェスチャーしました。 預言者は私にこう言いました:『あなたは彼女に対して陰口を言った』」。 彼女の批判の目的は、もし彼女自身が背が低かったら、相手の女性を背が低いとは呼ばなかっただろうから、密かな傲慢さ(彼女自身が気づかなかった心の中に隠され、潜在していた)でした。 これは、あたかも彼女が自分の身長が好きで、他の女性を背が低いと考え、彼女を「ドワーフ」と呼んだかのようです。 [預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、愛する妻のこの否定的な考えを即座に正すことを躊躇しませんでした。彼女もこの愚かさをすぐに理解し、この間違った考えを心から取り除き、また、これからの永遠の人々の改革のために、自費でこの預言的な教えを正直に報告しました。 彼ら自身の精神的な高揚、改革、変容のために]。

傲慢さの 5 番目の原因 – 富: この傲慢さは、王は宝物、ビジネスマンは商売や資産、農地は農民、そして裕福な人はドレスや乗り物のために行われます。 裕福な人は貧しい人を卑しいと考え、彼らに対して傲慢になり、「あなたは物乞いであり、貧乏人であり、貧しい人です。 私が望むなら、あなたのようなものを購入して、あなたを私の召使いにすることができます。 あなたは誰で、何を持っていますか? 私の家には、あなたが持っていたものよりも多くの商品があります。 私は1日に多くのことを費やし、1年では使えないほど多くのことを費やしています。」 金持ちがこれらすべてのことを言うのは、この人が自分の目には富にとって途方もない重要性と偉大さを持っており、貧困を嫌うからです。 気づいていたら、あんな風に話さなかったでしょう。

傲慢さの第六の原因 – 権力: この傲慢さは、弱い人に対して強力な人によって行われます。 [傲慢の基礎となるこの力は、肉体的、政治的、物質的、精神的、知的な力であり、神の律法において同様に非難されるべきものです]。

傲慢さの第七の原因 – ヘルパー、サポーター、崇拝者、親戚の豊富さ: 学生、ヘルパー、親戚、フォロワー、サポーター、崇拝者が多いために傲慢さを持つ人もいます。 王は軍隊の規模のために傲慢さを持ち、教師は生徒の豊富さのために傲慢です。

このすべての議論の核心は、傲慢さ(美、権力、富など)の原因は、それが現実に完璧であるかどうかに関係なく、完璧と呼ぶことができる祝福であるということです。 この信念は無知に基づいていますが、自分の行動が自分たちが持っている[ある種の]完璧さに相当すると考えているため、アルコールの摂取と交尾の多さについて同時代人に対する誇りを表明する人もいます。 これらは傲慢の原因となる[前述の]種類のものであり、これらの[特徴]を欠いている人、または比較的程度が低いものの、それらを持っている人に対して行われます。

謙虚な人々の道徳、マナー、性格特性、内面の性質、および傲慢さや謙虚さの影響を示す行動の説明: 傲慢さは、軽蔑的または怒った顔をしたり、目の端を通して見たり、胸に頭を乗せたりするなど、個人の習慣やマナーにあることを知っておく必要があります。 枕に座っていること、または声のトーン、手紙や言葉の伝え方、[人々に返す]返

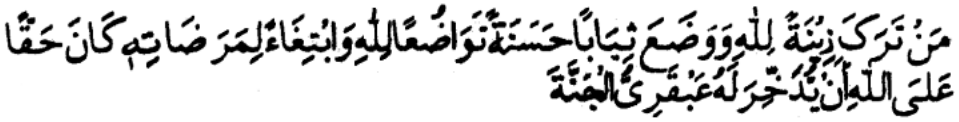
答のスタイルなど、発話の中にあります。 傲慢さは、歩く、起き上がる、座る、体の動きやジェスチャーにも表れています。 自分の状態(存在や表現の)を変えることも、傲慢さの表現になる可能性があります。 傲慢な人の中には、行動や言葉のすべてで傲慢さを表現する人もいれば、傲慢な人もいますが、ある事柄では傲慢でありながら、他の事柄では謙虚です。 以下では、いくつかの習慣[および傲慢さの表現]について説明します。

たとえば、[権威者への敬意、名誉、または従順のしるしとして]手を縛って他の人に自分の前に立ってもらいたい人もいれば、到着したときに他の人に立ち上がってもらいたい人もいます。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は、「地獄の人を見たいなら、座っている人を見てください。しかし、多くの人がその人の前に敬意を持って立っています」と言いました。 アナス(神が彼を喜ばれますように)は、預言者の仲間たちが預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に対して、他の誰に対しても持っていなかったほどの愛を持っていたと[預言的伝統で]語っています。 彼らはイエスに会ったとき、彼が自分たちがイエスのために立ち上がることを好まないことを知っていたので、[イエスへの愛と尊敬から]立ち上がることはなかった。

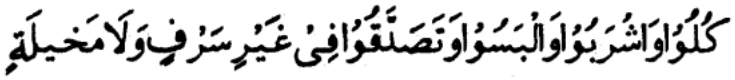
傲慢な人の中には、後を追ってくれる人がいるまで歩き始めるのが好きではない人もいます。 アブ・ダルダ(神が彼を喜ばれますように)は、「[神の]しもべは、後ろに歩いている人がいる限り、神から遠く離れている」と言いました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が仲間たちと一緒に歩くとき、彼は彼らに先を行くように頼み、自分も彼らの後ろを歩きました。 (ナレーション: *ハディース集* ***Abu Mansur al-Daylami*** *と* ***Musnad al-Firdous***)

この目的は、預言者の仲間を教育することか、このようにして、彼は傲慢さと自己誇大化の悪魔のほのめかしを自分自身から取り除きたかったのです(*ナフス*)。 自分に比べて社会的地位が低い人の隣に座りたくないが、自分の前に丁重に座ってほしいのも傲慢な人の習慣だ。 これは謙虚さのマナーにも反しています。 アナス(神が彼を喜ばれますように)は、メディナの少女が来て預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の手を握り、彼が[どこかに行くために]道を歩いている間、そこに立っていたと語っています。預言者は子供たちに対する愛情を持っていました]。 これは、患者の近くに座ることを避け、患者から遠く離れるという傲慢な習慣でもあります。 これも傲慢です。 ある時、ある男が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところに来ましたが、その人の顔は鶏の

箱のにきびでいっぱいで、そこから水が出ていました。 その時、預言者と一緒に座って食事をしていた人もいました。 彼が来ると、預言者は立ち上がって彼を隣に座らせました[そして彼の病気の状態に嫌悪感を表明せず、代わりに彼の魂を癒し、心を落ち着かせるものとして愛情と共感を示しました]。 自分の手で家事をするのが好きではない人もいます。 これも謙虚さに反する。 傲慢な[人々]の中には、自分のものを持って歩くのが好きではない人もいます。 この方法は謙虚な人の習慣にも反します。 服を着たり着たりすることは、謙虚さと傲慢さの両方を表現することができます。 イエス(神の祝福と平安あれ)は言われました、「衣の華やかさは心に誇りを生む」。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「謙虚さから神のために装飾、装飾、派手な飾り(*ジーナ*)を残し、神の承認を求めるために立派な服を残す人は、そのような人のために楽園から最高のドレスを保管する神の義務です。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・イブン・アッバースの権威に基づく*ハディース*集アブ*・ナエム[神が彼を喜ばれますように])



「食べたり、飲んだり、ドレスアップしたり、過剰(無駄)でも傲慢でもない慈善活動を施しなさい」。 (ナレーション: ハディース集 *ティルミディ* 彼の祖父からのアムル・イブン・シュアイブの権威による)

イエス(神の祝福と平安あれ)は仲間たちに言われました。 あなたたちは僧侶の服を着て、胸に獣の心を持っています! 王の服を着て、神を恐れて心(低次の自己)を殺しなさい」。 謙虚さの習慣の 1 つは、誰かが呪ったり、苦痛を引き起こしたり、権利を奪ったりするとき、その人は寛容で寛容であり、謙虚さを表現することです。 それが本当の謙虚さです。 私たちは、美しい道徳、マナー、特徴、内面の特徴と気質(*イクラク*)と謙虚さの頂点が、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)の美しい行動パターンであることを要約として言及します。 このようにして、彼の美しい模範に従うことが不可欠であり、これらを[霊的な道の]教師と導きにする必要があります。

傲慢さの治療法と謙虚さの獲得方法

前のページで述べたことから、傲慢さは致命的な病気であり、この病気から守られる人はほとんどいないことがわかっています。 その場合、この病気は単なる意図と希望によって根絶されるのではなく、代わりに、それを根絶できるそのような薬の治療と使用が必要です。 傲慢さの治療は2つの方法で行われます。 1つの方法は、この病気の根を心臓から引き抜くことです。 2番目の方法は、一人を傲慢にする原因を取り除くことです。

傲慢さを治す最初の方法: この治療法には、知識ベースと実践の 2 つの形式があります。 この治療法の両方を使用しなければ、完全な治療法(回復とそれに続く健康)は達成されません。

知識に基づく治療法:人間は、自分自身(ナフス)と自己の創造主(つまり、神)*のグノーシス(完全な理解と認識)を達成するということです。* 真のグノーシス(*マリファ*)に到達すれば、傲慢の病気が払拭されることが期待されます。 なぜなら、人間が自己を深く理解すれば、必ず自己は極めて屈辱的で卑劣なものであるという結論に達するからです。それにふさわしいのは、謙虚さ、屈辱、柔和さだけです。 もし人が自分の主のグノーシスに到達するなら、偉大さや威厳のような特徴は神の栄光にふさわしいだけであるという確信が必ず[心に]生まれるでしょう[したがって、人間にとって最善の行動方針と存在状態は、謙虚で神の威厳に従順であり続けることです]。 主のグノーシスと主の偉大さと崇高さについての詳細な議論があります[ガザリの知恵の大要「神への道の知識の復活」に]。 自己を知るというテーマは、それほど詳細ではありませんが、それにもかかわらず、私たちは[神の栄光、壮大さ、威厳の前で]謙虚さと柔和さの特徴を生み出すのに十分な量だけをここに書きます。 そのために、長い議論の代わりに、クルアーンを一節だけ審議のテーマにします。

قُتِلَ ٱلۡإِنسَٰنُ

مَآ أَكۡفَرَهُۥ ﴿١٧﴾ مِنۡ أَيِّ شَيۡءٍ خَلَقَهُۥ ﴿١٨﴾ مِن نُّطۡفَةٍ خَلَقَهُۥ فَقَدَّرَهُۥ ﴿١٩﴾ ثُمَّ

ٱلسَّبِيلَ يَسَّرَهُۥ ﴿٢٠﴾ ثُمَّ أَمَاتَهُۥ فَأَقۡبَرَهُۥ ﴿٢١﴾ ثُمَّ إِذَا شَآءَ أَنشَرَهُۥ ﴿٢٢﴾

「[神に]これほど恩知らずな人間に災いあれ! 神は何で一人(人間)を創造したのでしょうか? 精子の滴で創造され、その形を作り、尺度を持って器官を作り、その道を人に容易にし、一人に死を与え、そして墓に連れて行かれ、神が望まれるときに、神は人を復活させます。」 (クルアーン、第80章、17-22節)

この聖句では、人間の始まり、終わり、そしてその間の状態がほのめかされています。人間が自分の始まりと終わり、そしてその間の人生の状況に目を向ければ、この神聖な聖句の意味が理解できるでしょう。 人間の始まりとは、人が絶滅し、絶滅の始まりさえ知らないほど長い間(永遠から)絶滅のベールの中にとどまったので、[誕生前]に何の言及もなかったということです。 絶滅し、そばにいないことほど屈辱的で卑劣なことがあるでしょうか? そして、神は極めて卑しく汚いものを創造された。 言い換えれば、神は最初に土で一つを作り、次に精子で一つを作り、次に血で一つを作り、次に血で凝固した形を作り、次に骨を作り、その骨の上に肉を置きました。 これが人類創造の始まりです。 [最初の]創造の後も、人は最初から完全に創造されたわけではなく、聞いたり、見たり、動いたり、知覚したり、知ったり、理解したりする力と能力を持たず、生命のない石のようだったため、悪い構成にとどまりました。 人は、生よりも死(絶滅)、能力と力よりも弱さ、知識よりも無知、見る前に盲目、聴覚よりも耳が聞こえない、話す前に愚かさ、導きの前に誤導、富よりも貧困、強さと能力よりも無力感と無能さから[人生の旅]を始めました。

その後、神は神のしるしと不思議の現れである身体器官を創造されました。 これらの臓器を奪われたとき、人は切実に必要とされていましたが、神は人を裕福にしました[それらを求める能力を持つ前から、素晴らしい肉体的、精神的、知的、霊的な能力を与えることによって]、人は飢えていましたが、神は胃の栄養を与え、人は裸でしたが、神はその人を覆い、人は見当違いでしたが、神は一つの導きを与えました。 神がどのような計画で人間を創造し、[それを求める真理に]導かれたのかを見て、人間の反抗心を見てください。 人はなんと恩知らずで、なんと無知な人なのでしょう。 神様の祝福と恵みに目を向けてください! 神はどのようにして人間を屈辱、卑劣さ、汚物から引き離し、高尚さと偉大さへと昇天させたか[人間の存在の核心であり、グノーシスを達成し、真理を達成し、源であり起源である神に到達するための神に授けられた主要な手段である魂の高尚さによって]、 そして絶滅からの存在を認めた。 無と非存在ほど取るに足らない、より卑しいものがあるでしょうか? 絶対絶滅(非存在)よりも低い程度はありますか? 神は、まず足元で踏みにじられた卑劣な土から、自分の存在の卑さに気づき、自己の知識と理解を保つように、人を[すべての人間に対する神の最大の恩恵である命

の賜物で]存在にしました(*ナフ*)。 それから神は、これらの神の恩恵に照らして自分の主を認識し、知り、神の栄光、名誉、壮大さのグノーシスを獲得し、偉大さと偉大さが神にのみ適していることを知ることができるように、人に彼の恩恵を完成させました。

人間の世代が絶え間なく続くことができるように配偶者が生まれました。 その始まり(起源)の状態がこれであり、その状況がそのようなものである人、そのような人が自慢し、横柄で、誇り高く、傲慢になる権利があるでしょうか? 人は確かに、卑しい者の中では極端に卑しく、弱い者の中では極端に弱い。 しかし、取るに足らない卑しい人の習慣は、表向きは高い地位(名声、富、権力などによって)高い地位に達すると、自分自身を偉大だと考えること自体が卑劣であるにもかかわらず、自分自身を偉大だと想像し始めるのです。 力、強さ、名誉、偉大さはすべて神だけのためです。 しかし、人間が完全に(神の関与なしに)創造され、自分の事柄をすべて人に委ねられ、自分の存在を維持する能力があるとしたら、人は反抗的になり、自分の始まりと終わりを無視する権利があるでしょう。

人間が自分の喪失に同意するかどうかにかかわらず、人は[この地上の存在で]飢え、喉が渇き、病気になり、死ぬことを余儀なくされます。 人は自分の損益を所有することができません。 人は自分の良いものの所有者でも悪いものの所有者でもありません。 人は何かについて知識を得たいが無知しか得られず、何かを思い出したいがそれを忘れてしまい、重要な事柄で心を忙しくさせたいが、ほのめかしが人をつかみ、心配と不安の無限の海に深く潜ることを余儀なくされます。 人は自分の心をコントロールすることも、自分自身をコントロールする力も持っていません。 自分の破滅が密かに埋め込まれているものを常に望み、自分の人生が結びついているものを憎む心です。 人は多種多様な食べ物を楽しんでいますが、これらの食べ物は人にとって致命的ですが、薬は病気から病気と健康を体に与えてくれますが、薬を嫌います。 昼も夜も、聴覚が奪われたり、視力が奪われたり、臓器が麻痺したり、知性が破壊されたり、魂が去ったり、この世の好きなものからすべてが奪われたりするという危険から守られるでしょうか? 哀れな人間は、卑劣な無力感の化身です! 高貴な創造主(神)が人を[休息]に残すなら、人はとどまり、[自分の命]を奪うと、人は絶滅します。 人は、自分では何もコントロールできず、他人の行動をコントロールすることもできない、買われた奴隷のようなものです。 それ以上に謙虚なことがあるでしょうか? そのような人にふさわしい傲慢さはどこにあるのでしょうか? 人間の結論は死です。 言い換えれば、魂は人間から奪われます。 聴覚、見る力、知識力、力、感覚力、知覚力、動き力など、すべての力と能力が奪われます。 人は石のようになり、以前の自分と同じようになります[つまり、無と消

滅の状態にある生命のない存在]。 臓器の形は[最初は]残りますが、動きや感覚はありません。 その後、それは[墓の]土に置かれます。 その後、不潔で凝固した肉の形で、出生前と同様の不潔で臭い死骸になります。 その後、臓器は腐敗し、その構成要素はバラバラになり、骨は粒子に分解されます。 昆虫は体の肉をすべて食い尽くします。 彼らは最初に目の眼窩に入り、それらを仕上げ、次に頬を攻撃してそれらをきれいにします。 これらの昆虫の胃に入った後、汚れにならない体のどの部分も残りません。 人間のより良い状態は、かつての自分のようになる、つまり腐って腐った後、再び土になることです。 存在した後、まるで存在しなかったかのように再び絶滅します。

地上のパッチになった後、人はこの状態にとどまりますが、審判の日に復活という形で別の革命が待っています。 分散した体の粒子はすべて再び体に結合し、審判の日の恐怖に立ち向かうために墓からよみがえります。 審判の日が始まり、宇宙が綿球のように空中に散らばり、地球はすべて変容し、山々が飛び交い、月、太陽、星はこの光を失い、周囲はすべて暗く、あちこちに厳格な天使の翼が見えるでしょう。 地獄はすべての住人を呼び寄せ、犯罪者(あらゆる種類の犯罪、行き過ぎ、悪を犯した)は後悔の念を抱いて天国を見つめ、行為登録簿(すべての人間に1つ)が公開され、犯罪者は行為登録簿を読むように言われるでしょう。 人間が地上で存在している間に行われた]。 彼らは「その証書の登録簿には何が入っているのですか?」と尋ねるでしょう。 彼らは、「あなたがとても幸せで誇り高かった世俗的な生活の中で、二人の天使があなたたちに任命されました。彼らは、大小を問わず、あなたの言葉や行い、食べたり飲んだり、起き上がったり座ったり、すべてがこれらの行いの記録に書かれていました。 あなたは忘れてしまいましたが、神はあなたのあらゆる動きとあなたのあらゆる事柄を[この行為の記録に]捉えてくださったのです。 来て説明責任を果たし、(あなたの行為に)答える準備をしなさい、そうでなければ罰を受ける準備をしてください。」 これを聞くとすぐに、行為登録簿がまだ開かれていないにもかかわらず、心は恐怖で震えるでしょう。 彼らが彼らを見ると、彼らはこう言うでしょう。 これらの証書登録簿には、すべてが含まれています。 大小を問わず、すべての罪がここに列挙されています!」

これが人間の最終的な終わりです! この状態の人が傲慢さや優越感を持つことは許容されますか? 存在の初期と中間期(この世での生活と呼ばれる)における人間の状態は知られています。 もし終焉の状態も知っているなら、人は人間ではなく豚や犬になりたいと思って、演説を聞いたり、(審判の日の)罰に直面したりすることさえありません。 現実には、人間が神の裁きで地獄に行くに値するのであれば、豚は豚よりもはるかに優れています - 以前は塵であり、また塵になり、責任の段階を経ることも、いかなる罰にも

直面することはありません。 結末がそのような人、傲慢になる権利があるでしょうか? どうすれば誇りに思い、自慢できるのでしょうか? はい、神が人を許してくださるなら、それは別の問題です(その時点で人は幸せで誇りに思うことができるからです)。 自分の優位性と卓越性を確信させるものは何でしょうか? 罪を犯さず、神の報復に値する者である[神の]しもべは、神の寛大さと優しさから人を赦してくださる以外にはいません。 神の憐れみから、神が赦してくださることが望まれています。 自分の最終的な結末がどうなるかはわかりません。 審判の日の責任について恐怖と悲しみの状態にあり、その日の屈辱と卑下を待つだけで十分です。 これが知識に基づいた傲慢さの治療法の詳細でした。

傲慢さの実際的な治療法: 傲慢さの実際的な治療法は、神のために、神の被造物に対する謙虚な人々の行動を採用し、義人の状態に言及しながら、この謙虚さの性質に十分な光が当てられているので、それを粘り強く続けることです。 誰かがサルマンに「なぜ新しい服を着ないのですか?」と尋ねました。 彼は答えた、「私は[神の]奴隷です。 解放(自由)の宣言を[神から]受け取る日、私は新しい服を着ます。」 彼は来世の自由(人生の試練と吟味に合格し、神の責任の終わりに審判の日に成功したと宣言することによって達成される)を指摘しました。 謙虚さは[謙虚さの]行動によって完成(染み込む)のです。 だからこそ、傲慢なアラブ人(預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の時代にはまだ無知の時代から抜け出していたが、彼らは彼らを完全な霊的変容へと導いていた]が[神]を信じることと同時に[神に]祈るように命じられ、祈りは神への道の基礎であると言われた理由です(*ディーン*). 祈りには特定の秘密と神秘があり、それに基づいて、祈りを信仰の基礎と呼ぶのは正しいことです。 これらの秘密の中には、祈りが謙虚さの最良の表現であるということです。 両手を前に縛り、神の前に立って[祈りの状態]、お辞儀をし、ひれ伏すことはすべて、謙虚さを完全に表現する行為です[祈りの間も心が存在する場合]。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)が出現する前、アラブ人は誰の前でも頭を下げることを好まない気質を持っており、彼らにとって祈りのあらゆる行為は屈辱と卑劣さの象徴でした。 [異教徒]アラブ人は[祈りの状態で神に]ひれ伏す行為を屈辱(謙虚さ)と卑さの極みと見なしました。 ですから、彼らは最初に[神への]信仰の後に祈りを捧げるように命じられ、この[祈りを行う]行為が彼らのプライドと傲慢さを打ち砕き、謙虚さが心に生まれるようにしました。

結論として、グノーシス(神への道の知識と理解)を達成した人は、傲慢を暗示するすべての事柄や原因に目を光らせ、その反対に行動し、謙虚さに慣れるようにそれらの行動を粘り強く行うべきであるということです。

心は、知識と行動の両方の泉で灌漑されるまで、美しい道徳、マナー、性格特性、内面の気質(*イクラク*)の庭にはなりません。 それは、[身体]器官が目に見える領域(*アラム・アル・ザヒル*または目に見える世界)に関連しており、心[または魂]は天使の領域(*アラム・アル・マラクート*または霊的な領域)に属しているからです。 2つの領域の間には秘密の領域があります。 だからこそ、臓器の働きは確かに心臓の影響を受けます(心臓は人間の存在の支配者であるため)。

傲慢を治す2番目の方法:それは、前述の7つの原因に関連する傲慢に関連しています。 真の完全性は知識と[善、敬虔、正義]の行動で構成されており、それら以外のものは、表向きは完璧に見えても滅びるに違いありません。 知識と行動以外では、すべての完璧さは想像上の完璧さです。 傲慢さの7つの原因すべてに対する知識に基づく実践的な治療法を以下に説明します。

傲慢さの第一の原因 - 血統: 自分の血統や系図のために傲慢になった人は、2つの問題をより深く理解することによって心を癒す必要があります。 この種のプライドと傲慢の意味は、他人の[認識された]完璧さから名誉を得ようとするということです。 血統のために傲慢な人が自分の個人的な資質に欠けているなら、どうすれば先祖の完璧さと偉大さによって自分の不足を補うことができるでしょうか? 第二に、自分の本当の血統を知るべきであり、言い換えれば、自分の父親と祖父の本当の紹介を知るべきです。 父親もまた、不潔な精子の一滴でできており、祖父(または曽祖父)は今やほこりです。 人間の起源は、足元で踏みにじられる土です。 土(土)でできた人間は傲慢さを実践すべきでしょうか? 人間を土に帰属させることは非常に遠いと言われるなら、私たちは「それなら、精子の滴であるあなたが帰属しているものを非常に注意深く見るべきだ」と言うでしょう。 この点で、人は自分自身を卑しいと考えるべきです。 これについて熟考してください! 父も祖父も貴族出身ではありません! 彼らの子孫の貴族はどこから来たのでしょうか? 人の起源は土であり、1人は精子から来ています。 これが本当の血統であるならば、それは非常に悪いことです - 一方(汚れ)は足の下で踏みつけられ、もう一方(精子)は体に触れた場合は洗う必要があります。 この血統の現実を認識している人は、決して傲慢になることはありません。 人間が土と血で構成されているという事実よりも卑劣なものは何でしょうか?

傲慢さの第二の原因 - 美しさ: 傲慢さの第二の原因は美しさ [またはハンサムさ] です。その治療法は、動物が見るように自分の外側を見るのではなく、自分の内面に知的な視線を投げかけることです。 内面に目を向ける人は、自分の欠点、非難されるべき特徴、自分の[外見]美しさに傷をつける欠点に気づきます。 さらに、人間の臓器は汚物でいっぱいです。 これが、人の存在の中間部分(つまり、生まれた後のこの世俗的な生活)の状態です。 人の始まりは、精子と経血の組み合わせから始まったとすでに説明されています。 [それはまた、人間が自分の出自において非常に謙虚であることを示しています]。 それにもかかわらず、自分は穢れから生まれ、穢れとともに生き、死後は穢れになるというこの現実に目を光らせている人は、自分の美しさを誇りに思うことはできません。 人間の美しさの類似性は、ゴミの山の上に生えている植物であり、その起源は汚物であるにもかかわらず、表向きは楽しいように見えます。 あるいは、人間の美しさの類似性は、見栄えが良さそうに見えますが、しばらくすると[乾いた]風が吹くと粉々に散らばる荒野の花や植物です。 たとえ人間の美しさが[生涯にわたって]永続的で永続的で、すべての傷がなかったとしても、自分の美しさが個人的なものではないのと同じように、他人の美しさの欠如もまた個人的なものではないため、美しくない人に対して誇りに思ったり傲慢にしたりする権利はありません。 美しさは耐久性や長持ち性ではありません。 ニキビ、怪我、その他の病気によって消えたり消えたりするのではないかという心配が常にあります。 私たちは毎日夜、人々が美しさを失った状況に遭遇します[したがって、美しさのような儚く儚いものに対してプライドと傲慢さを持つことは、まったく愚かで嫌悪感を抱きます]。

傲慢さの第三の原因 – 権力と強さ: 権力と強さも傲慢さのもう一つの原因です。 その治療法は、人間に課せられた病気や病気について熟考することです。 人間の無力さのサンプルを見る必要があるとすれば、それは、小さな身体の器官が痛みの影響を受け、すべての無能者よりも無能で、すべての絶望的な人々よりも絶望的になるときに見ることができます。 人間の無力感の状態は、ハエが何かを奪っても取り戻せないようなものです。 取るに足らない昆虫、蚊、アリが耳や鼻に入ると、死なずに殺します。 とげが足や体の他の部分に刺さると、歩くことができなくなります。 1日続く発熱は、長年の栄養ではそれを補うことができないほど体力の低下を引き起こす可能性があります。 とげに耐えることさえできず、蚊と戦うことも、ハエから身を守ることさえできない人が、自分の力と強さを誇りに思い、自慢すべきでしょうか? 人間がいくら強くても、ロバ、牛、象、ラクダよりも強くなれません。動物が優れている特性に誇りを表現できますか?

傲慢さの4番目と5番目の原因 – 富の豊富さと多数の支持者、助け手、信奉者、崇拝者: 傲慢さの原因の1つは富の豊富さです。 もう一つの原因は、友人、ヘルパー、フォロワー、崇拝者の豊富さです。 また、王(政府当局)が授与する階級による傲慢さも含まれる。 この傲慢さは、美しさと強さは人間の本質的な特性の一部であり、富と多数の友人はそれらから排除されているため、美しさと強さに対する傲慢とは異なります。 このような傲慢さは、まるで自分の馬や家に対する傲慢さを表現するかのように非常に悪いです。 さて、馬が死んだり、家が取り壊されたりすると、この傲慢さは終わり、屈辱を受けることになります[人は本質的な個人的資質を奪われているため、それらはより儚いものになります]。 王から地位や名誉を得た後に傲慢さを表現する人は、本質的な資質を奪われ、[沸騰した]鍋よりも動揺した心に頼ることになります。 王の心はすぐに変わります。 彼らは誰かに幻滅したとき、その人をひどい状態に陥らせるために何もやめません。 自分の本質の一部ではない何かに傲慢な人は、純粋な無知です。 たとえば、富は人に固有の特性ではなく、泥棒に一瞬で盗まれ、裕福な人を屈辱的で困窮させる可能性のある区別です。 人に固有のものではなく、永続的なものではなく、むしろ来世での苦難と罰の源になります。 これらの資質を誇りに思うのは無知です。 さらに、これらは人間の手ではなく、これらの資質を与えた神の手の中にあります。 神が望むなら、神はあなたのためにそれらを保持することができ、もし神が望むなら、それらをつかむことができます。 あなたは何に対しても力を持っていないので、買収された奴隷にすぎません。 これらの事実に精通している人は傲慢を犯すことはできません。 その状態にある人(すべてが神の手の中にある)人は、自分の能力、富、権力、完璧さに誇りを表明したり、自分自身を屈辱を受けたと見なしたりできるでしょうか? これが、鋭い洞察力(バセラ)を持つすべての知的な人の状態です。 そのような人は、自分は自分自身の所有者でも、自分の体、臓器、富の所有者でもないことを理解しています。 それにもかかわらず、人は常に自分の破滅を脅かす危害、欲望、苦しみ、病気に悩まされています。 これは、人間の本性に内在していない傲慢さの原因を治す方法です。

傲慢さの第六の原因 – 知識: [持っている]知識に対して傲慢になることは致命的な病気です。 時々その治療は非常に困難になり、この病気からの回復には激しい努力と闘争が必要です。 その理由は、知識の名誉が神にとって大きいのと同じように、同様に[神の]しもべたちにとっても大きいからです。 知識に比べれば、富と美しさは取るに足らない地位にあり、むしろ[知識に基づく]知識と行動の光が彼らに感謝と名誉を与えます。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「学者の間違いは大衆を誤解させる」と言いました。 神の法には、非常に多くの優れた知識がリストされているため、学者が自分自身を高く評価せず、自分の地位を無知者よりも高いと考えないとは想像しがたいです。

知識に対する傲慢さの治療法は、学者が2つのことについて考え、熟考する必要があるということです。 一つは、神の証明は学者(またはスコラ神学者)にとってより完全で確固たるものであるということです。 さらに、無知者から容認されるもの、その10分の1でも学者からは容認されないのは、知識とグノーシスの後に神に不従順な人は、神の知識の祝福の権利を支払わないという最悪の罪を犯すからです。 神はクルアーンの中でこう言われています。

وَٱتۡلُ عَلَيۡهِمۡ نَبَأَ ٱلَّذِيٓ ءَاتَيۡنَٰهُ ءَايَٰتِنَا فَٱنسَلَخَ مِنۡهَا

「そして、われが聖句(神のグノーシスから発せられる神のしるし、知識、知恵)を与えたが、そのような者は[自分自身に対する神の祝福に感謝せず、代わりに、一時的で短命な世俗的な利益を求めて、卑劣で卑劣な欲望を追い求めたため]彼らから抜け出した人の状態をこれらの人々にリハーサルしなさい。」 (クルアーン、第7章、175節)

次の聖句で、神は同じ人についてこう言われました。

فَمَثَلُهُۥ كَمَثَلِ ٱلۡكَلۡبِۚ إِن تَحۡمِلۡ عَلَيۡهِ يَلۡهَثۡ

「それで、この人の状態は、殴ると息を切らし、放っておくとまだ息を呑む犬のようになったのです。」 (クルアーン、第7章、176節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、[上記の2つの聖句の説明で]バラム・バウラ(預言者モーセ[神の祝福と平安あれ]の時代にイスラエルの子らから出てきた高い霊的能力を持つ聖人)は神のグノーシスを与えられたが、それを[評価せず]結局、それよりも世俗的な欲望を好むことになったと言いました。 そして神は彼をあらゆる状況で息を切らす犬に似ていました。 バラムもまた、知恵の宝がどれほど(神の寛大さと寛大さから)与えられても、与えられなかったとしても、いかなる状況においても欲望を手放さなかったため、犬のように振る舞いました。 まさにこの危険は学者にとって最大の危険であり、学者は[預言の時代の終わり後に預言者の後継者であり、人々を真理と永遠の幸福と無限の成功に導く道に導く責任を負っている人々である、大衆に永続的な影響を与える自分の行為と悪行について]より多くの説明責任と清算にさらされるでしょう]。 人々に義を勧めた学者が誰でないでしょうか? 自分の地位が無知者よりも優れていると考える学者は、自分の地位が無知者よりも優れているにも

かかわらず、そのような学者と比較して、学者は[大衆よりも高い道徳的立場に立ち、大衆に倣うべきより高い模範を示すことが期待されるため]より危険な状況にあると考えるべきです。 【実現】この危険は、それ自体が(知識をめぐる)傲慢さの障害です。

来るべき危険について熟考すれば、傲慢さは微塵も残らず、創造物の中から偉大な人物になるとは思わないでしょう。 そのたとえ話は、主人からいくつかの仕事をするように命じられた奴隷のたとえ話です。 [すべての人間は神の奴隷であり、神は彼らの至高の主であるため、このたとえ話は非常に適切です]。 彼はそれらの仕事を始めましたが、そのうちのいくつかは残しました。 それらの仕事の中には、不十分な方法で行われたものもあれば、完了したものもありますが、彼は主人の希望通りにそれらを実行できたかどうか疑問に思い続けました。 その際、情報提供者が彼に「あなたの主人があなたを呼んだ。彼はあなたの所有物を奪い、あなたを辱めるでしょう。 彼はあなたを暑さの中で強い日差しの中、彼のドアの外に立たせます。 あなたが極度に取り乱し、無力になったとき、彼はあなたの責任を果たします。 あなたが正しく完了しなかった、またはまったく完了しなかったタスク、彼はそれらについてあなたを尋問し、あなたの罰に対する彼の決定を宣言します。 そうすれば、あなたは暗いダンジョンに閉じ込められ、そこでは常に生き、少しも休息も得られません。」 その奴隷はまた、主人が多くの奴隷に同じ扱いを与えたことも知っていますが、その中には許された奴隷もいます。 しかし、彼は自分がどの奴隷グループに属しているのか、つまり激しい刑罰に巻き込まれている人なのか、許しの宣言を与えられた人なのかを知りません。 この現実について熟考することで、低次の自己は謙虚な状態に保たれます。 傲慢さは粉々に砕け散るでしょう。 自分の目には取るに足らないものになってしまいます。 悲しみと恐怖が人の心と精神を支配し、被造物の中から謙虚で取るに足らない人に対して傲慢な態度をとることができなくなり、代わりに、他の人が[差し迫った]神の報復の時に[潜在的な]執り成し者になることができるという希望を持って、すべての人に謙虚に接するでしょう。 罪を犯すことによって神の戒めに違反した量を見ると、深い熟考の扉は学者に開かれています - 罪を犯す手段として外部器官を使用しただけでなく、自分の内面は、誇示(リヤ)、嫉妬(ハサド)、うぬぼれ(クジュブ)、偽善(ニファク)を伴う罪[と違反]の中心となっています). 表向きは、[そのような学者やスコラ神学者の]最終的な結末は良くないように思われます。 学者がそのような方針に沿って考えれば、傲慢さの奴隷状態から解放されるでしょう。

学者が考えなければならない第二のことは、傲慢さ(壮大さと威厳)は神にふさわしいものであるということです。 もし人が傲慢であるならば、その人は神の不快感を受ける

に値し、神の捨てられた奴隷と呼ばれるでしょう。 神は一人に謙虚さを望んでいます。 それは神の言葉の一つです、「あなたが自分の心に自分自身の価値がない限り、あなたの価値は私とともにあります。 もしあなたが自分自身の価値を考えるなら、あなたは私の近くに何の価値もありません。」 このことから、学者は神が好む行い(行動)だけを自分自身から取るべきであることは明らかです[そして、神と神の道の学者は大衆よりも高い道徳的および倫理的基準を持つことが期待されているので、神が嫌うすべてのものからやめるべきです]。 この現実について熟考することは、たとえ学者が罪を犯していない、または罪を犯さないだろうと想像したとしても、傲慢さを根絶することが期待され、それはまた、自分の心から傲慢の闇を取り除くでしょう。 この種の熟考、洞察、熟考は、預言者から傲慢さを取り除くのに役立ちました。 彼らは、神の栄光、壮大さ、威厳というこの属性において神に匹敵する人は、神によって降格(下げられる)という確信を持っていました。 神の近くでの地位を高めるために、自分の低次の自己を卑しく取るに足らないものと見なすことが神の戒めです。

傲慢の第七の原因 – 神への恐れ: 神の服従と崇拝の行為に対する傲慢さは途方もない苦難(*フィトナ*)であり、治療の方法は、すべての被造物に対して謙虚さを持つことを自分自身に義務付け、知識のある人が自分の知識に基づいて行動する際にどれほど傲慢であろうとも、その人に対して傲慢になるべきではないことを知ることです。 クルアーンはこう言います。

قُلْ هَلْ يَسْتَوِي ٱلَّذِينَ يَعْلَمُونَ وَٱلَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ۗ

「(ムハンマドよ)言え! 知っている人(知識を持っている人)と知らない人(無知な人)は平等になれるのでしょうか?」 (クルアーン、39章、9節)

この聖句以外にも、知識(特に神の知識)の卓越性を証明する聖句や預言的伝統が数多くあります。 もし、敬虔な人が、これらの聖句は、罪を犯す学者についてではなく、自分の知識に基づいて行動する学者[誠実で、すべての傷、欠点、偽善を欠いている]学者について啓示されたと言うなら。 それに対する答えは、あなたはこの聖句(クルアーンから)を考慮していないということです。

إِنَّ ٱلْحَسَنَٰتِ يُذْهِبْنَ ٱلسَّيِّـَٔاتِ ۚ

「まことに、善行は悪行を消し去ります[自分の過ち、悪、過ち、罪を根絶するために神が指示した方法は、人生を好転させることによってそれらを消すことです。 それは

、神を信じ、善で、正義で、高貴で、誠実で、役に立ち、有益な努力をすることで、この信念の意味に基づいて行動し、あらゆるレベルで他の人を助けることによって起こります。」 (クルアーン、11章、114節)

学者が自分の知識のために責任を問われる可能性があるのと同じように、同様に、その知識が学者の救いの手段となり、罪の贖いの手段になる可能性もあります。 崇拝者は学者にどのような扱いが与えられるか、説明責任があるのか、それとも救いが与えられるのかを知らないので、崇拝者が学者を貶めることは有効ではありません。 代わりに、学者に対して謙虚であり続けるべきです(学者が持つ知識への敬意から)。 このようにして、知識の所有者([宗教]学者またはスコラ神学者)に、知識が崇拝よりも優れているため、崇拝者よりも優れており、[それに基づいて]傲慢さを犯す機会が与えられていると言えます。 崇拝者が学者に対して傲慢さを持てはならないのと同じように、同様に学者も傲慢さを控えるべきであり、両者とも自分の低次の自己(ナフ)について不安を持つべきです。 人間は、低次の自己を監視し、その正しい訓練に責任を負うように[神によって]任命されています。 だからこそ、すべての人が自分の低次の自己を心配することは適切であり、他人に関する問題では、希望と前向きな考えが支配的であるべきです。 時々、身体の外臓だけで礼拝することもありますが、ある種の隠された罪が心の中に生まれ、そのために神の報復に値するようになります。 [たまに]個人は明らかに悪に関わっていますが、心の中には神の愛、誠実さ、神への畏れ、尊敬の灯が照らされています。 神は人の心の状態を罪の贖いに変えてくださいます。 その結果は審判の日に現れ、多くの公然と邪悪な人々が多くの[敬虔な]崇拝者よりもはるかに良い生活を送れるでしょう。 それは可能であり、これらの問題において、人は遠い可能性を近くの可能性として考えるべきであり、その状態は、あなたが[自分自身]より低い自己を恐れるときに発達します。

知性は、他人に何が可能かに注意を払わないことを要求しますが、懸念の原因となる自分自身に関する問題については熟考する必要があります。 それは、すべての人が自分の罪の罰に直面し、さらに、他人の神の報いによって自分の神の報いが減ることはないからです。 この方法を採用した場合、自分が他の誰よりも優れている、または優れているとは思わないでしょう。 人には2つのタイプがあり、あなたよりも優れている人もいれば、あなたよりも悪い人もいます。 あなたはこの両方のグループに対して謙虚さを持つべきです。 もし誰かがあなたよりも優れているなら(内面的な性格特性、個人的な資質、善良さ、正義、霊性において)あなたはそのような人に会って幸せになり、神があなたをそのようにしてくださるという願望を持つべきです。 もし誰かがもっと悪

いなら、あなたは、おそらくこの人は救いを得るかもしれないが、あなたはそうではないかもしれないと考えるべきです - おそらくそのような人は、自分の内面で何か良いことをして、その人にとって良いことをしているかもしれませんし、あるいは、神がその人に憐れみを施し、その人の悔い改めを受け入れ、美しい行動で良い結末を与えるかもしれない良い習慣を持っているかもしれません。 私の正しい行いは、私にとって良くない外見的なもの(神に対する誠実さの欠如による内面の卓越性がない)だけかもしれませんが、代わりに、これらの崇拝行為(私の外見的な宗教性や見せかけで誇示したり、世俗的な利益を得たりするなど)に害が潜んでおり、報酬(神の赦しという観点からの神の報い、 その礼拝の受け入れと近さ)。 このようにさまざまなグループの人々と接した後にのみ、知性は完成され、[善において優れていることによって][道徳的]指導的役割に値するようになります。 それにもかかわらず、運命の書き手(神)が自分の運命に悲惨さを書いたかもしれないように、途方に暮れる可能性を良心的に考えている人は、決して傲慢さを持つべきではありません - 恐怖がそのような人を支配し、その結果、他の人全員を一人よりも優れていると考えることが望ましいです。

自己うぬぼれとその害の非難

自己うぬぼれ[または独善]の悪は、神の書と、神が言われている預言的な語りの中で証明されています。

وَهُمْ يَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ يُحْسِنُونَ صُنْعًا

「そして彼らは、自分たちは良いことをしてきた[そして、彼らによって何も悪いことはできない]というまさにこの考え(妄想)にとどまりました。」 (クルアーン、第18章、104節)

この聖句では、人間は自分の行動について[常に]良い考えと独善を持っていると言われています - 間違っているときも、間違っていないときもあります。 ある預言的なナレーションの中で、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

ثَلَاثٌ مُهْلِكَاتٌ شُحٌّ مُطَاعٌ وَهَوًى مُتَّبَعٌ وَإِعْجَابُ الْمَرْءِ بِنَفْسِهِ

「3つのことが破壊的です。信奉者であるケチ、信奉者である低次の自己からの卑劣な欲望、そして[自己うぬぼれの状態で]自分自身を偉大だと考える人です」。

アブドゥッラー・イブン・マスード(神が彼を喜ばれますように)は、「破壊には絶望と独善の二つがある」と言いました。 彼がこれら 2 つを組み合わせたのは 、*サーダ*(永遠の幸福と無限の成功) は努力、探求、努力なしには達成できないからです。 絶望した人は努力も苦労もしません。 独善的な人は、自分の望む目標を達成したという信念を持っており、この信念のために努力すらしません。 すでに存在しているもの(または存在していると信じられているもの)は求められず、不可能なものも求められません。 独善的な人は永遠の幸福と無限の成功を手に入れたと考え、絶望した人はそれを求めることは不可能だと思う。 神のことわざは次のとおりです。

فَلَا تُزَكُّوٓاْ أَنفُسَكُمۡۖ

「[内なる]純粋さ、神聖さ、敬虔さを自分自身に帰してはならない。」 (クルアーン、第53章、32節)

誰かがアイシャ(神が彼女を喜ばれますように)と尋ねました、「人はいつ悪くなるのですか?」と尋ねました。 彼女は「『私は良い』と思うとき」と答えました。 独善の害は数え切れないほどあることを知っておく必要があります。 とりわけ、それは傲慢さを生み出し、傲慢さから多くの害が生じます。 これらの害は人々にあります。 神に関連する事柄において、独善の害は比較的多くあります。 たとえば、独善に陥っていると、罪を忘れて注意を払いません。 人はいくつかの罪を完全に忘れてしまい、その中から何かが思い出されたとしても、「私は正しい行いをしているだけだ」と考えて、それを根絶するために何もしません。 私の「罪」は罪ではありません。 もし存在するとしても、それらは非常に取るに足らないものなので、修正や償いを必要としません。」代わりに、自分の大小の罪は神様に赦されたと思っています。 人は自分の崇拝と義行を高く評価し、それに対して誇りと傲慢を表わし、むしろそれらを神に恩恵を施す人だと考え、神の寛大さと恩恵によって義行を行うことができたことを忘れます。 人間が自分の行動に対して独善を表明するとき、人はその害から目を閉じますが、これは自分の努力のすべてが無駄になっていることを示しています。 外的な行いが浄化されず、すべての汚染が[悪から]なされなければ、その利益はほとんどありません。 [神が]人を支配することを恐れる人だけが、独善の害について知ります。 独善に苦しむ人は、自分の低次の自己(*ナフス*)を誇りに思い、神に対して誇りを持ち、神の前に地位があり、

偉大さを持っているので、自分は安全で神の罰から守られていると考え、むしろ、神が自分の行動に対して神が持っている権利があり、その報いを与えます。 いわゆる神への恩恵は、実際には神の祝福であり、人への賜物である。 独善は、自分自身を賞賛し、内なる純粋さを自分自身に帰することを余儀なくされます。

自分の意見、行動、知性に独善的で自己誇大的な態度をとっているとき、人は他人から利益を得ることも、誰にも相談せず、代わりに自分の意見を主張し、知識のある人に尋ねることを侮辱とみなします。 時には、他人の心ではなく、自分の心の中で起こったという理由だけで、心の中に間違った考えに対して独善的になることで幸せを感じ、その後、戒め者のアドバイスに耳を傾けず、説教者の説教を受け入れず、自分の正しい考えや間違った考えを主張することもあります。 代わりに、人は他人を無知であるかのように見て、自分の間違いを主張します。 世俗的な事柄で間違った意見が表明された場合、人は自分の目的を奪われ、信念に関連する事柄でそれが起こると、人は永遠に傷つけられます。 もし、自分の[誤った]意見を信頼せず、クルアーンの光から啓発を受けず、宗教学者に助けを求め、知識の研究と知恵の集まりに粘り強く取り組み、知識と知恵を持つ人々から法的問題(*マサイル*またはスコラ神学)に関する質問に対する答えを求める行為を続けたなら、 そうすれば、人は確かに真実にたどり着いたでしょう。 独善の最大の害は、成功の推測(仮定または幻想)にふけり、それゆえに努力や努力を怠惰になり、たとえ[正しい]行いに気づかず、特定の破壊が自分の運命であるにもかかわらず、[霊的道]ですべての[正しい]行動を必要としていないと考えることです。 私たちは、*神に従順な神から能力の賜予*(フスン・アル・タウフィーク)の美しさを求めます。

独善の原因とその治療法

傲慢さの原因は独善の原因でもあることを知っておく必要があります。 傲慢さの原因は以前にも説明されています。 時々、独善は、自分の無知のために自分にとって良いように見える自分の誤った意見に対する独善など、傲慢を引き起こさない原因によって生じることがあります。 独善と自賞の原因は8つあります。

第一の原因:自分の身体の美しさ(身体組成)、容姿、健康、筋力、臓器のバランス、顔の美しさ、声の美しさなどの身体的資質や特徴に対して独善的で自尊心を持ち、その結果、肉体的な身体の美しさは衰退し滅びるしかない神の祝福であることを忘れてしまうことです。 その治療法は、傲慢さの章で書いたことと同じで、自分の美しさを傲慢に考える人は、自分の始まりと終わりの汚れを想像し、どれだけの美しくハンサムな人々がその土地で眠り(死後、墓に埋葬された)、花のような顔が墓の中で汚物の山になったと考えるべきである。

第二の原因: 自分の強さと力に対して独善と自賞を持っており、それが戦争で[最初に]攻撃し、自分自身を破壊し、[戦いで]最初に敵を殺したいという欲求を植え付けることです。 その治療法は以前、熱の一日が壮大な考えをすべて取り除き、誇りを持って歩き回る原因となる力をすべて消散させると考えるべきだと以前に述べました。 自分の力や強さに対して独善的で自尊心を持っているなら、神が個人[または人々や国家のグループ全体]に災いを課し、この[彼らの傲慢さを煽っている]強さと力を奪う可能性があります。

第三の原因: 自分の知性、知恵、洞察力、先見性に独善的で自己賞賛し、世俗的で宗教的な事柄の背後にある機微や内なる知恵に精通していると考えることです。 そのような人は自己主張的(自分の意見に夢中)で、誰にも相談せず、代わりに、すべての人を自分の意見に反対する絶対的な無知者と考えます。 そのような人は、知識や洞察力のある人々とはほとんど関係がなく、むしろ「私は自分の意見と知性が完全であり、誰の指導も必要とせず、むしろ知識のある人は皆私よりも劣っており、私に比べて卑劣で卑劣である」ことを証明するために人々の話に注意深く耳を傾けることさえありません。 この[傲慢、独善、自尊心]の治療法は、神が一つの知性と理解を与えてくださったことに感謝することです。 また、精神疾患に苦しんだ場合、知的で洞察力のある人であると主張できるだろうかと考えるべきでしょうか? すべての意識や意識に気づかない病気に感染し、(その結果)[子供っぽく]街を歩き回り、小さな子供たちが自分の行動を見て、それを面白いと考え、笑う可能性があります。 自分の知性を自尊心や傲慢さを持ち、知性の付与者(神)に感謝しないことで、知性が奪われる可能性があります。 信者は、たとえ知覚があり、知的で、教育を受けており、幅広い情報の輪を持っているとしても、自分の知識と知性を小さいと考えるべきです。 また、人間は豊富な知識と膨大な情報を持っているにもかかわらず無知であり、他の情報は他の人が知っているものであることも事実です。 これが他の人間と比較して自分の知識の状態であるとき、底知れぬ海よりもはるかに広い知識を持つ神と比較して、その人の知識の状態はどのようなもの

になるでしょうか。 自分の知性を欠いていると考えること[そして自分の知識をほとんどない]ことは、まさに知恵です。 ほら

他の人は彼らの愚かさを笑うにもかかわらず、他の誰も自分よりも賢いとは考えていない愚か者に対して。 自分自身で独善と自己賞賛を実践して、愚かな人のリストを増やさないでください。 知的に欠陥のある人は、自分の知性の欠如に気づかず、自分の愚かさから、自分が知的であると考えます。 他人の意見、特にバラ色の絵を描き、偽りの賞賛によって独善と自己賞賛を増大させる友人の意見を信用せず、自分の知性を客観的に評価する方が良い。

第四の原因:ハシュミの血統の一部の人々のように、自分の血統に対して独善と自己賞賛を持っていることです(バヌ・ハシムは預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]が属していた部族です)。 彼らの多くは、自分たちの血統の偉大さが彼らの救いの保証人であり、彼らの先祖(敬虔さと道徳的卓越性の模範であった)のために許されるだろうというこの自己欺瞞的な考えを抱いています。 貴族の血統を持つ人の中には、すべての人が自分の使用人であり奴隷であると考える人もいます。 これに対する治療法は、「私は先祖に逆らい、愚かさから自分が先祖と同等になったと思い始めた。これは私の間違いであるにもかかわらず。 私は彼らの足跡をたどることで彼らのようになることができますが、私は彼らに従っていません。」 彼らは独善を実践したのでしょうか? 彼らはどこに独善を持っていたのでしょうか? むしろ、彼らは完全な謙虚さの体現者でした。神への畏れは彼らの血管と彼らの存在そのものの繊維に埋め込まれていました。 彼らは、最も低いものの中で最も低いものを自分たちよりも優れていると考えました。 彼ら自身の自己(*ナフ*)は、血統のせいではなく、知識、神の服従、謙虚さ、そして彼らのような他の美しい[内なる]属性のために、彼ら自身が[霊的な地位において]より高いにもかかわらず、彼ら自身の目には卑しく、卑劣でした。 彼らのようになるためには、彼らに従い、彼らの良い習慣を取り入れることが不可欠です。 神は人間の血統と系図について次のように言われています。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنَّا خَلَقْنَٰكُم مِّن ذَكَرٍ وَأُنثَىٰ

「おお、人々よ! 私たちはあなた方全員を一人の男性と一人の女性から(つまり、アダムとイブ[神の祝福と平安あれ])から創造したので、人類という実体は、初めから終わりまで同じ血統を持っています)。」 (クルアーン、49章、13節)

それは、あなた方の血統(人種、民族、肌の色、系図、部族、コミュニティ、国家)に関して、あなた方の間に違いがないことを意味します[神の目には皆平等であり、人種、肌の色、地域、文化、国籍、その他の属性に基づいて誰も誰よりも優れている人はいないからです]。 あなた方一人一人が、一人の男性と一人の女性から生まれました。 この[聖句]の後、神は血統の恩恵(知恵)を説明します。

وَجَعَلْنَٰكُمْ شُعُوبًا وَقَبَآئِلَ لِتَعَارَفُوٓا۟ ۚ

「そして、神はあなたたちをさまざまな国や部族に造られたので、お互いを認識し、知り合うようにしました。」 (クルアーン、49章、13節)

[人種、民族、肌の色、地域、部族、国家主義の違いの背後にある神の知恵は、お互いを知り、感謝し、尊重し、愛し、正義と平等に基づいて心のこもった調和のとれた関係を築くことです]。 その後、神は、区別と名誉は血統ではなく、神に対する敬虔な畏敬の念、恐れ(*タクワ*)に基づいていると言われます。

إِنَّ أَكْرَمَكُمْ عِندَ ٱللَّهِ أَتْقَىٰكُمْ ۚ

「神の目に、あなたがたの中でより名誉ある方は、神に対してより大きな畏敬の念、畏敬の念、畏惧を抱く方です[神はその裁き方であり、あなたはそうではありません]」。 (クルアーン、49章、13節)

第五の原因:残酷な支配者(権威と権力を持つ人々)の助け手や支持者に自分自身を帰し、信仰と[霊的]知識を持つ人々との親和性(血縁関係や霊的つながりの観点から)をまったく重要視しないことで、独善と自己賞賛を持っているということです。 その治療法は、残酷な支配者とその仲間の屈辱的な行為を一瞥し、彼らが神のしもべたちにいかに抑圧を解き放つか、そして彼らが神への道にどれほど恥ずべきことに混乱をまき散らしているかを見ることです(*ディーン*)。 これらの人々は神の怒りの下にいます。 もし地獄で、汚物に満ちた顔と悪臭の波が出てくるのを目撃することができれば、人はあまりにも多くの嫌悪感と嫌悪感を抱き、名前さえ言わず、代わりに彼らとのつながりをすべて赦し、彼らと付き合う者を非難するでしょう。 もしそれが彼らに明らかになったら、この残酷な人々が審判の日にどれほどの屈辱に耐えているか、天使たちが彼らの髪を引っ張って地獄に引きずり込んでいる、人は自分自身を犬や豚のせいにしたいが、邪悪で邪悪な内面を持つ人間に誰も帰せたくないでしょう。 残酷な人々の子孫の権利は、

神が彼らを抑圧から守ってくださるなら、神(ディーン)への道の安全について神に感謝し、彼らが信者であることを条件に先祖の許しを神に懇願することです。

第六の原因:メッカの不信者がかつて行っていたように、子孫、使用人、親戚、友人、助け手、信者の豊富さに対して独善と自賞を表明することです。 その治療法は、自分自身と、豊かさが人を誇りに思う人々の弱さを考慮する必要があるという傲慢さに関して言及されたのと同じです。 さらに、すべての個人は、自分の利益の所有者でも損失の所有者でもない、貧しい取るに足らない人間であると考えるべきです。 それに加えて、死とともに[一人から]離れるこれらの人々のために、独善と自画自賛を表現することには何の利益があるのでしょうか? 一人で自分の墓に行くことになる。 友人も悲しみを分かち合う人もいないでしょう。 同情的な身近な人も、父親も子孫もいないでしょう、自分の民族は自分の手で墓に一人を置き、昆虫、ヘビ、サソリに渡すでしょう。 その時は、そのすべてが必要になるが、役に立たないだろう。 同様に、彼らは審判の日に目をそらし、代わりに[審判から]逃げるでしょう。 その日の風景はクルアーンによって次のように描かれています。

يَوْمَ يَفِرُّ ٱلْمَرْءُ مِنْ أَخِيهِ ﴿٣٤﴾
وَأُمِّهِۦ وَأَبِيهِ ﴿٣٥﴾ وَصَٰحِبَتِهِۦ وَبَنِيهِ ﴿٣٦﴾

「その日、人は兄弟、母親、父親、配偶者、子孫から逃げるでしょう。」 (クルアーン、第80章、34-36節)

切実に必要とされているときに何の役にも立たず、[最も必要なときに]避ける人々の存在に誇りを表明したり歓喜したりすることには何のメリットがあるのでしょうか? 墓の中、審判の日、そしてシラートの橋の上(地獄に架かる狭い橋の反対側には楽園があり、髪の毛よりも細く、剣よりも鋭く、預言の教えで説明されているように、審判の日にはすべての人がその橋を渡らなければなりません)。 人間は自分の[敬虔で正しい]行為と神の恵みからのみ恩恵を受けます。 自分の損益を支配する力も、自分の生死をコントロールすることもできない人は、他の誰かにどのような利益を与えることができるでしょうか?

第七の原因: 人は自分の富と物質的な所有物に対して独善と自己賞賛を表現することです。 その治療法は、富と物質的な所有物の害、そして貧しい人々の卓越性と楽園に入る際の彼らの優先順位を一瞥することです。 さらに、富は行き来するものであり、永続性はないことを理解する必要があります。 また、富は多くの不信者がより多くの富を持っているため、信者に特有の特性ではありません。 アブ・ダール(神が彼を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)と一緒にモスクに入り、彼にこう言ったと語っています。 頭を上げてください!」 そうすると、とても身なりの良い男がいました。 しばらくして、彼は再び頭を上げ、服が非常に古い男に目が落ちました。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

هَذَا عِنْدَ اللَّهِ خَيْرٌ مِنْ قِرَابِ الْأَرْضِ

「この人は、神の目には、全地よりも優れている」。 (ナレーション: *ハディース集 イブン・ヒバン・フィ・サヒハ アブ・ダールの権威に基づく* [神が彼を喜ばれますように])

これと、世俗からの禁欲、世俗の害、富の害に関する以前の本(章)で言及された他のすべての同様の伝統は、裕福な人々の地位の低下と貧しい人々の名誉の明確な証拠を提供します。 これらの伝統を考慮すると、イスラム教徒[または誰か]が自分の富に対して独善的で自画自賛することは想像すらできません。 代わりに、信者が富を持っている場合、そのような人は富を持つ権利と義務を果たせないかもしれないという恐れを持つべきです。 このような独善的で自尊心のある人は、その富は自分自身にとって屈辱に他なりません。

第八の原因: 自分の間違った意見に対して独善と自賞を表明することです。 神はこう言われます。

يَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ يُحْسِنُونَ صُنْعًا

「これらの人々は、自分たちが良いことをしているという考え(間違った推測)に陥っています(しかし、彼らはそうではありませんが)。」 (クルアーン、第18章、104節)

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、独善と自分の意見に対する自己賞賛について次のように述べています。「この国(審判の日以前の世界の最後の段階)にとって、[時

の]終わりに向かって、人々が独善的で自分の意見を自賞する傾向が支配的になるでしょう。 以前の国々は、この傾向のせいで破壊され、[宗派]グループに巻き込まれ、すべての国(*ウンマ*)が多くの宗派に分裂し、すべての宗派が自分の信念が正しいと考えていました。」 (この伝統は、 *ハディースは*、アブ・タラバ[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*アブ・ダウド*と *ティルミディ* を収集します)

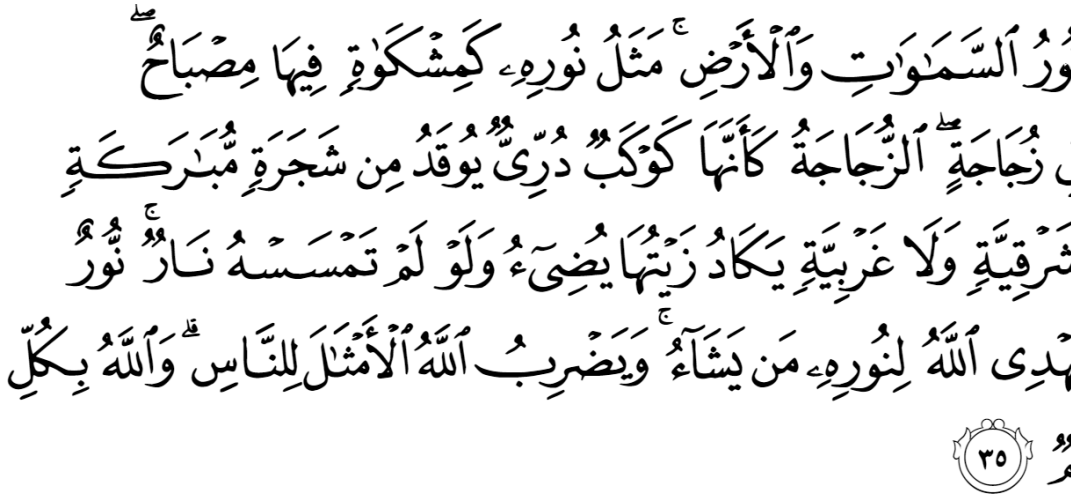
宗教的な問題における革新(*ビダ*)と誤導(*ダララ*)のすべての人々は、自分の意見に独善と自己賞賛を持っているため、これら[2]ことに固執します[そしてこの傲慢さは宗派間の分裂につながりました]。 *宗教的な事柄の革新(*ビダ)に対する独善と自己賞賛(*ウジュブ*)の意味は、その行動がより良いものであり、それは自分の欲望によって生み出されたものであり、自分の思考の中では正しいと考えることです。 このような独善の治療法は非常に難しいが、間違った意見を持った人は自分の過ちを熟知できず、その病気はよく知らない人には治せないからだ。 無知は理解されていない病気です。 しかし、グノーシス主義者(神を知る者)は、無知な人に自分の過ちを知らせることができ、この病気を取り除く源になる可能性がありますが、その無知者が自分の無知を誇りに思っているなら、そのグノーシス主義者は何ができるでしょうか? グノーシス主義者の話に耳を傾け、自分の病気を発散させることができる人にさえ注意を払わない人は、まったく逆の道を進み、グノーシス主義者を非難します。 神は、自分の間違った意見を誇りに思い、破壊的な災いを人に課しましたが、それを祝福として考えることに喜びを感じます。 そのような病気の治療法さえ不可能であることは明らかです。 自分自身の区別の源と見なすものをどうして嫌悪できるでしょうか? その高レベルの治療法は、常に自分の意見を疑わしいものと見なすこと、言い換えれば、自分の意見が間違っている可能性があると考え、自分の意見の信憑性に頼らない(信頼)することです。

人生のあらゆる瞬間を教育と教育に捧げることができない人は、宗教的な問題(さまざまな法的問題に関する*マサイル*または法学的立場)に巻き込まれる必要はありません。 人は、神の唯一性、そして神にはパートナーはおらず、誰も神のような存在ではない、ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は真実に神の預言者であり、彼がもたらしたものは真実であるという信念を持つべきです。 さらに、敬虔な先人たちの方法に従って行動し、議論や議論なしにクルアーンと預言の道を受け入れ、疑問を抱くことなく、神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧を抱き、罪から遠ざかるべきです。 そして[自分自身と他人の利益のために]善行にふける。 [深い知覚的]知識が欠如しているにもかかわらず、宗教的な議論にふけり、信念の偏見や革新(確立された原則に違反するビダまたは宗教問題における新しいもの)や誤導(*ダララ*)の汚染から身を守らなければ、人はいつ

の間にか破壊されてしまいます(精神的に言えば、物質的な存在にも深い意味を持ちます)。 知識に専念する人々の責任も同様です。 まず、議論や条件に精通する必要があります。 この親しみやすさを得る段階は非常に詳細に指向されているため、真実を知ることが困難になることがあります(真実の道には、理解するのに生涯の粘り強い努力を必要とする微妙な点があるため)。 知識にしっかりと根付いており、知識の神聖な照明の光(内なる魂を照らし、内なる闇をすべて取り除く)を持っている人々だけが、この底知れぬ海の海岸に到達します。 そんな人はほとんどいません。 ほとんどの人は学者の外見を採用していますが、彼らの内面では無知が支配しています。

高慢と軽率さの非難

[魂の中にあるすべての悪の侵入に対して]警戒し、警戒することは、人間にとって永遠の幸福と無限の成功の原因であり、プライドと無頓着(人生の真の目的と、最終的に内なる存在を完全な暗闇に沈める悪の侵入に対する怠慢と無関心)に浸ることは、永遠の悲しみと天罰の原因です。 神(人間)の奴隷にとって、信仰とグノーシス(*マリファ*または神との親密さと親密さ)よりも大きな祝福はなく、この祝福を達成する手段は心の拡大(*シャラ・サドル*)です[これは内なる存在を浄化するための霊的闘争の結果である内なる照明によって起こります]。 それとは反対に、不信仰と違反(罪や神の限界を超えること)ほど悪いものはなく、この悪は無知と心の闇の濁りに沈む人々の運命になるだけです。 洞察力のある人々の心(内なる照明)の例は次のようになります。



「神は天と地の光です。 神の光の例は、ランプが入っているニッチのようなもので、ランプはガラスの中にあり、ガラスはあたかも東でも西でもない祝福されたオリーブの木の油から照らされた真珠のような[白い]星のようで、その油は火に触れられなくてもほとんど輝きます。光に光。 神はご自分の望む者をご自分の光に導きます。 そして神は人々に模範を示し、神はすべてのことを知っておられます。」 (クルアーン、第24章[光]、35節)

不注意な人々の心の状態は、この聖句で明確にされています。

أَوْ كَظُلُمَٰتٍ فِي بَحْرٍ لُّجِّيٍّ يَغْشَىٰهُ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ مَوْجٌ مِّن فَوْقِهِۦ سَحَابٌ ۚ ظُلُمَٰتُۢ بَعْضُهَا فَوْقَ بَعْضٍ إِذَآ أَخْرَجَ يَدَهُۥ لَمْ يَكَدْ يَرَىٰهَا ۗ وَمَن لَّمْ يَجْعَلِ ٱللَّهُ لَهُۥ نُورًا فَمَا لَهُۥ مِن نُّورٍ ﴿٤٠﴾

「あるいは、波に覆われた計り知れない海の中の暗闇のようなもので、波の上に波があり、その上に暗闇の雲があり、そのうちのいくつかは他の雲の上にあります。手を差し出すと、ほとんど見えません。そして、神が光を与えなかった人には、そのような人のための光(心と魂の内なる照明)はありません。」 (クルアーン、第24章[光]、40節)

洞察力のある人々[神秘的な目によってすべての事柄について深い内面の認識を持っている先見の明]は、神が導きを与え、神に服従する状態のために彼らの心の扉を開く人々です。 不注意の人々(人生の真の目的と永遠の真理に対する怠慢と無知)は、神が[彼ら自身が意図的に抱き、大切にし、育てることを選んだ自分の魂の闇のために]誤解させ、真実と導き(神の光への)ために心を狭めようとしている人々です。 彼らは、洞察の扉が開かず、代わりに、より低いベースな自己(ナフ)からの自分自身の欲望と悪魔の熟考と思考をガイドとリーダーと見なす不幸な人々です。

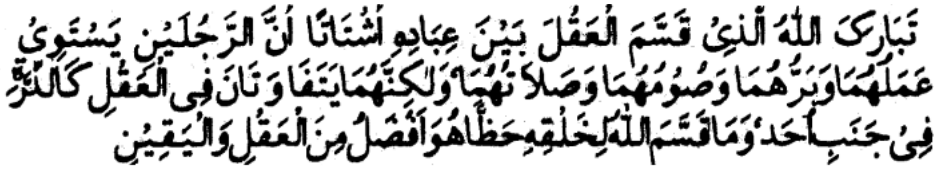
なぜ高慢と無頓着の非難が必要なのでしょうか?それは、高慢と無頓着が、すべての永遠の悲しみと天罰の源であり、すべての破壊の源泉だからです。 だからこそ、プライドが入る機会を提供する道の説明と、プライドがたくさんある状況を詳細に説明することは、探求者がそれらの道を見つけることができ、それによって低次の自己(ナフ)がその道を歩くのを防ぐことができるように必要です。 私たちは、あらゆるグループの人

々の不注意に光を当てます。 これらのタイプはたくさんありますが、他のタイプでも警告を受け取れるように、例として挙げます。 プライドと無頓着さにふけっている[人々の]グループはたくさんあります。 ただし、4つのグループがすべてのグループを代表します。 彼らは学者であり、世俗を禁欲し、精神的な旅行者であり、エリート(裕福で、権力があり、影響力のある)です。

間違いや妄想を避けることは可能です: 勇気のある人は、[スピリチュアルな]道のあらゆる困難を乗り越え、正しい意図を持っていれば、その道の隠れた障害を発見し、それらを克服するための戦略を見つけます。 人間が望むなら、何マイルも離れていても、外空を飛んでいる鳥を降ろすことができます。 同様に、深海から魚を取り出したいなら、山を掘って金、銀、その他の貴金属を抽出し、ジャングルから野獣を檻に入れ、ライオン、ゾウ、その他の獰猛な獣を克服し、ヘビやニシキヘビを制御し、口から毒を抽出することができます。 桑の木の葉から絹を作ることができ、地球に立っている間、数字の知識によって星の数とその長さと幅を見つけることができます。 人間は戦略の宝庫です。 人間の戦略で解決できないような難しさはなく、人間がその戦略で服属させ、自分の目的に利用できない創造物は世界に存在しない。 人間は乗馬に馬、狩猟に犬、鳥を捕食する鷹、魚を捕まえる網など、この世界ではこのような戦略が無数に目撃されています。 これらの戦略はすべて、目的と目的を達成できるように採用されています。 人間が世俗的な目的を達成するためにさまざまな方法と戦略を採用するとき、心[人間の存在の議論の余地のない支配者である]の改革のためにも同じことをできないでしょうか? それはただの人間の迷信であり、難しいことや不可能なことは何もなく、条件は勇気だけです。 霊的闘争のいばらの道に足を踏み入れ、一歩も下がらなかった無数の人々が亡くなりました。 彼らは心の改革を不可能または考えられないとは考えず、それに打ち負かされませんでした。 彼らは「敬虔な先人」(*サラフ・アル・サリヒーン*)と呼ばれた人々です。 そして、誠実な心で彼らの足跡をたどり、彼らも成功を収めた彼らの追随者や弟子たちがいます。 今でも、確固たる決意と確固たる意図、そして完全な勇気を持って、(任務の巨大さに)落胆することなくこのいばらの谷を横断する人は成功するでしょう。 残念なのは、人々が世俗的な仕事のために採用する戦略や計画の量、そしてそのために示す勇気と決意の量が、来世に関連する仕事にはその10分の1さえ使っていないことです。

間違いや妄想を避けるためには、3つのことが必要です。 人間が間違いや妄想を避けたいのであれば、知性、知識、グノーシス(*マリファ* または深い洞察、視覚の明晰さ、神の近さと親密さに伴うすべての疑いや曖昧さの除去)の3つのものを必然的に持ってい

る必要があります。 知性とは、人間が物事の現実を知覚する本来の光と生来の原始的な人間性[濁りや濁りに陥らず、神がそのように元の形で創造した]を指します。 知性と鋭さも人間の本性と関連があり、愚かさと密度も本来の本性と関連しています。 密度の高い人は妄想から守られ続けることはできません。 したがって、人間は本質的に知的で鋭い必要があります。 個人が知性の性質を持っていない場合、元の知性が存在する場合を除き、その獲得は不可能です。 その場合、知性は経験によって高められ、研ぎ澄まされる可能性があります。 このことから、永遠の幸福と無限の成功のすべての[状態]の基礎は知性と知性にあることが知られています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「神の存在は、さまざまな方法で知性をしもべたちに分配した神の存在は幸いです。 二人の人は、その行いにおいて平等です - 彼らの敬虔な行為、断食、祈りはすべて平等ですが、ウフド山の隣の粒子のように、知性において[まだ]非常に異なります(つまり、粒子を巨大な山に例えるように、彼らの知性には世界の違いがあります)。 神は[永遠の真実とすべての真理の問題において]知性と確信よりも大きな祝福を創造したのではありません。」 (この伝統はタウスによって語られ、ハキーム・ティルミディによって報告されています。 *ナワディル・アル・ウスル*)

知性、理解力、固有の知性はすべて神の大きな祝福です。 もしこの[神の]祝福が[人に]与えられず、代わりに愚かさと愚かさが[人間の]固有の性質に置かれているなら、それを軽減することはできません。 間違いや妄想から守るための2番目のことは、グノーシス(*マリファ*)です。 グノーシスとは、自己を知ること(*ナフス*)、神を知ること、世界の現実を知ること(*ドゥニヤ*)、来世を知ること(*アキラ*)の4つの事柄を知ることを指します。 自己を知るということは、自分のしもべであることと[神の命令によって支配される物事の全体的な計画において]自分の本質的な無能さと無力さを告白することを意味します。 さらに、「私はこの世の旅人であり(神の臨在における永遠の命の最終目的地に向かって)、これらの欲望は私の気質と相容れないことを知っておく必要があります。 私の気質にふさわしいのは、神のグノーシスと神聖なビジョンだけです。」 [神のしもべ、つまり人間]が自分自身と主について深い内なる理解を育むまで、人はこの現実を知ることができません。 このグノーシスを達成するにはどうすればよいでしょうか? この点に関して、「魂の神秘」(第1章)と「神の感謝」(第12章)の章で詳細に議論され

ているトピックを参照する必要があります。 これらの章では、この問題について十分な指針を提供する低次の自己とその特性について言及してきました。 グノーシスの完成段階(*カマル*)はその後に来る。 それは、この本のトピックではないスピリチュアルな除幕の知識(*'Ilm al-Mukashafa*)に関連しています(スピリチュアルな除幕の難解な知識は、ルミやイブン・アル・アラビのような他の偉大なスピリチュアルマスターによってカバーされています。 ガザリは主に、一般の人々が取り組むことができる実践的なスピリチュアリティに焦点を当てており、それは人を内なる精神的な浄化と変容に導いています。 それは、スピリチュアルな旅行者の内なる探求の誠実さと、それを可能にするために不可欠な神の寛大さにより、永遠の真理のスピリチュアルな啓示に人を導く可能性があります)。

世界と来世の現実を知るためには、「世俗からの禁欲」(第14章)と「自分の死を熟考する」(第20章)の章に助けを求め、世界が来世とは比較にならないことを知る(学ぶ)必要があります。 4つの事柄すべてをより深く理解すると、妄想や間違いから身を守るチャンスが明るくなります。 神聖なグノーシスは、(心と魂の最も奥深いところに)神聖な愛をかき立て、推進し、来世を知ることは人をそれ(来世)に傾け、世界(世俗性)を知ることはそれに対する嫌悪感を引き起こすでしょう。 その行為は、人を神に駆り立て、来世で有益である最大の行為と考えるでしょう。 この意図が心を支配するとき、その意図はすべての事柄において正しいものになります。 人間の必需品をすべて世話したり、食べ物を食べたり、ドレスアップしたりする際の意図は、来世への霊的な道をたどる際に彼らに助けを求めることです。 妄想や間違いは、自分の下心に魅力を見出し、富、名声、名誉に傾倒し、意図を弱体化させることから生まれるからです。 人が来世よりも世界を好み、神の承認よりも自分の欲望に取って代わるまで、人はこの妄想に囚われたままになります。

スピリチュアルな道を歩むにはどうすればよいでしょうか? 人は、自分の知性によって、低次の自己(ナフス)と自己の創造主(神)*についての知識と理解を獲得し*ます。 この理解は、神の愛が心に支配をもたらし、霊的な道を歩む方法を知るという第三のこと、つまり神に近づいたり遠ざかったりする行動は何ですか? さらに、来世の道にはどのような障害があり、人が経験しなければならない困難な段階はいくつあり、それらの障害を取り除く方法は何であり、これらの困難な段階をどのように克服するか。 これらすべての質問は、[ガザリの傑作本]「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」で答えられています。 神の礼拝の条件は、礼拝に関する章[この編集には含まれていない「神への道の知識の復活」の第1巻または四分の一にある]に

見られ、それらを遵守し、正しく行わないことの害を研究し、それらを[神の受け入れと近さを達成するための誠実な心をもって]研究し、それらを避けるべきです。 [社会的および公的]取引に関する章[この編集には含まれていない「神への道の知識の復活」の第2巻または四半期にある]では、[生計を立てることと]経済に関連する法的問題を研究する必要があります。 必要なものは神の法に照らして手に入れ、不要なものは神の法に定められた方法に従って控えるべきです。 内なる破壊的な性質に関する章[「神への道の知識の復活」の第3巻または四分の一にあるものは、すべて第2部のこの編集に簡潔に含まれています]では、神への道を横断するのを妨げるすべての障害についての知識を習得する必要があります。 神の臨在に到達する際の障害は、非難されるべき(否定的、邪悪、破壊的な)内面の特徴、資質、気質、傾向、気質です。 だからこそ、それらを認識し、その治療法について調べる必要があります[この編集でも簡潔にまとめられていますが、ガザリの原著に全文が記載されています]。 内なる建設的で回復力のある資質に関する章[本「神への道の知識の復活」の第4巻または四半期にあり、すべて第III部のこの編集に簡潔に含まれています]から、肯定的な内なる賞賛に値する特性、資質、気質、傾向、気質の知識を学ぶ必要があります。 それは、非難されるべき性質が心から消されたとき、それを称賛に値する良い内面の性質に置き換える必要があるからです。 これらすべてを知ったとき、私たちが言及したあらゆる種類の間違いや妄想から身を守ることができることが期待できます。 ここでの問題の真実は、神の愛がスピリチュアルな旅人(サリク)の心を支配するべきであり、世界への傾き(世俗性)が少しもあってはならず、自分の意志は強くなければならないということです[回復力をもたらす神の受容、近さ、臨在を達成するという最終目標に到達するために、 ポジティブさ、楽観主義、心の平和、永遠の幸福、そして永遠の成功]、意図は健全(しっかり)であるべきであり、これは私たちが[ここに]書いたことを知ったときに起こります。

パート 3: 内なる建設的で回復力のある特性- 回復力、積極性、楽観主義、内なる平和、幸福、永遠の至福、そして永遠の成功を植え付けるポジティブな内面の資質は、個人的および集団的な人間の永遠の成功をもたらします

計り知れない善の源は、ポジティブな内面の資質、気質、傾向を持ち、それが人生に対するポジティブな見方を吹き込み、人生においてポジティブで建設的で有益なことをするためのポジティブなエネルギーを醸し出すことです。 前の8章でネガティブな内面の特徴を深く見て、それらを取り除くという観点から、今度は個人と国家全体を変革するポジティブな内面の資質、つまりガザリが最初の説明で「永遠の至福の錬金術」、または人生をより良い方向に変え、善の縮図に変えるための変革の媒介と呼んでいる資質に目を向けます。 ガザリの「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻と最終巻でガザリが言及した10の章または本は、個人および集団のリバイバルと変容に必要なこれらの前向きな内なる資質について詳しく説明しています。 これらの非常に有益な10章は、次のように凝縮された形で提示されます。

第11章 – 自分の過ち、過ち、行き過ぎを認識し、悔い改め、許しを求め、犯した過ちを償う

*ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第4巻または四分の一の最初の本*は、自分自身の過ち、欠点、不正行為、仲間の人間に対して犯された行き過ぎを認識し、悔い改めを求め、彼らに対して犯した過ちを償うことを何よりも扱っています。 自分自身に対して。 他人に対して犯された過ちは、人の精神性を奪い、自分自身に重くのしかかるため、自分自身の心と魂にダメージを与えます。 自分自身や他者に対する過ちに忍耐すると、人は鈍感になり、それらに慣れ、自分自身の最終的な破壊と内なる意識の死への道が開かれます。 それらは心の奥深くに重くのしかかっており、心の平和と静けさを奪います。 私たちがいる宇宙には因果関係があり、あらゆる行動は、私たちの行動の積極性と否定性の広大さに見合った、好ましい結果または不利な結果を生み出します。 したがって、自分自身の過ちと、それが自分自身や他人にどのような影響を与えるかを認識することは、感情的、心理的、精神的、スピリチュアルな存在のあらゆるレベルで自分自身の幸福にとって不可欠です。 ガザリは、自分自身を改革するためのこの最初のステップをより深く見ていきますが、ここでは次のように凝縮された形で提示されています[17]。

罪を悔い改め、目に見えないものの知り方と過ちの隠蔽者(神)に目を向けることは、霊的な道の最初のステップであり、[霊的道の][最終]目的地に到着する人々にとって貴重な商品です。 神聖なグノーシスの道を歩むスピリチュアルな旅人は、まず悔い改めの道を歩みます。 悔い改めは、[人生の平凡なルーチンに没頭し、内なる存在の暗闇に没頭し、低層の自己の不屈の揺さぶりによって]人生の本当の目的への道を見失った人々にとって、忍耐の鍵です。 神の臨在に近づいた人々は、悔い改めによって[神との]親密

さと親密さを求めます。 [神の]預言者は、それを通して永遠の幸福と永遠の勝利(*サーダ*)を達成し、特に[全人類の]私たちの父アダム(神の祝福と平安あれ)にとって、それは救いの手段となり、[霊的な道]におけるより高い段階の[達成]となりました。 子孫が先祖の足跡をたどることは、[地上の存在の滞在から終わる前に行ったすべての善において]にふさわしいことです。 一人(全員)が過ちを犯した者であるアダム(彼に神の平安と祝福あれ)の子孫であるために、誰かが罪を犯しても驚くべきことではありません。 しかし、父親は[神に]悔い改めによって自分の過ちを贖い、償ったので、息子[と娘]は両方の点で父親に似ることが不可欠です。 アダム(神の祝福と平安あれ)は間違いを犯しましたが、非常に長い間、後悔と後悔の涙を流しました。 もし誰かが、間違いを犯しただけで自分を自分の指導者と見なし、悔い改めにおいて彼に従わないなら、そのような人は見当違いで、不従順で、[神に]反抗的であり、自分自身を自分の父親(アダム)に帰し、彼の追随者であると主張する権利はありません。 問題の真実は、善と高貴なものと完全に一致すること[そしてそれに完全に没頭すること]が[神の]天使の特徴であり、悪に完全に浸ることがサタンの[永遠の]占領であるということです。

悪に巻き込まれたり、悪につまずいたりして、自分の愚かさに気づき、善に目を向けるのは、自分の本性の中に善と悪の両方の性質を持つ人間の仕事(性質または独特の特徴)です。 今や、人間になるか、悪魔(サタン)のせいになるかは、完全に自分自身にかかっています。 もし、ある人が罪を犯した後に悔い改めた場合、その人は自分の人間性の証拠を提供したと言われます。 [個人的および/または集団の幸福を危険にさらす人間の良識の限界を超える違反行為によって]反逆を主張する人、そのような人については、自分自身をサタンのせいにしたいと言われるでしょう。 自分自身を天使に帰するという問題に関する限り、善行だけを行い、罪を犯さないという人間の可能性の輪から除外されています。 それは、人間の構成[または生来の原始的な人間の本性]には、善と悪の両方がしっかりと混ざり合い、融合しているため、後悔の熱によって、または地獄の火によってのみ、それらの間に分離され得るからです。 サタンの狡猾さと悪から人間の本質(*ジャウハール*)を浄化するには、2つの熱のいずれかに浸すことが不可欠です。 今、どの熱を選択するかは人の特権です。 どの暑さに耐えられると考えるとしても、それに進むべきです、そうでなければ死後には機会はありません - あちらでは、その人の住まいは天国か地獄のどちらかになります。 悔い改めはディーン(神への道)において非常に重要な地位を占めています。 だからこそ、この本のセクション(現在の作品の第3部とガザリの「神への道の知識の復活」の第4巻)で、救いの資質について、その現実、状態、兆候、原因、兆候、果実と結果、害と障害、霊的旅行者のための治療法の詳細、すべてが[霊的な旅人にとって]明らかになります。 これらすべての事項を、以下の4つの章(セクション)に分けて説明します。

悔い改めの現実と定義

悔い改めは、この順序で見られる3つのものの名前です:第一に、知識、第二に[存在]の状態、第三に[結果]行動。 この場合、1番目は2番目に必要で、2番目は3番目に必要です。 この順序と順序は、目に見えるものまたは物質的なもの(*ムルク*)と目に見えないものまたは精神的なもの(*マラクート*)の領域における神の方法に従っています。 3つとも以下のように解説します。

知識とは、罪には[その性質上]、罪には途方もない害があることを知ることです。 彼らの最大の害は、罪がしもべ(人間)と愛する者(神)の間のベールになることです。 この現実が、人間が最愛の人に到達し、出会うことを奪われるという心を支配するとき、この認識は、愛する人との分離を決して容認できないため、痛みを引き起こします。 だからこそ、人は、自分(つまり恋人)と自分の最愛の人の間のベールとなった人から発せられた[罪深い]行為に後悔を表明します。 この後悔は恥ずかしさと呼ばれ、それが悔い改めの第二のこと、つまり[存在の]状態です。 この後悔が心を支配すると、特定の行動をとろうとする意図と呼ばれる別の状態が生まれます。 この行動は、3つの期間(過去、現在、未来)すべてに関連しています-以前に犯していた罪を離れるように、現在があります。その罪(または否定的、有害、有害、邪悪、または道徳的に非難されるべき行為)を来世に残すことを[固く]決意するという意味での未来は、最愛の人と出会う際の障害となるでしょう。罪が償われる場合、罪によって引き起こされた損害を償うことができるように、過去と付き合います。

意図と行動の状態の源泉は、信仰(*イマーン*)と確信(*ヤキーン*)と呼ぶことができる知識です。 信仰とは、罪が致命的な毒であるという現実の確証であり、確信は、疑いの余地がなくなるような方法で、この確証を心にしっかりと根付かせるものです。 信仰と確信の光が心の地平線を覆うとき、この光の照らしの中で、ある[罪深い]行為のせいで最愛の人から遠ざかっていることがわかるので、後悔、悲しみ、恥の火が燃え上がります。 暗闇の中にいると、突然夜明けの光が現れたり、雲が遠ざかって日の出が出て、突然死の危機に瀕している最愛の人が見えたりするように。 それを見て、愛の火が心

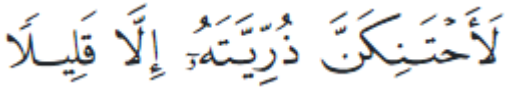
の中で燃え上がり、その熱は、(最愛の人を救うために)何らかの戦略を確実に採用するように人を説得します。 同様に、罪が破滅に近づくとき、信仰と確信の光が人に出口を示します。 要するに、知識、恥ずかしさ、そして現在と未来において、罪を捨てる意図、過去の過ちを贖い、償う意図の組み合わせを悔い改め(*タウバ*)*と呼び*ます。

悔い改めの義務の意味:必要かつ義務的とは、永遠の幸福と永遠の成功(サーダ)を達成するための手段であり、永遠の破滅からの救いの手段であるものだけであることを[最初は]学びます。 それは、何かをするかしないかを決めることは、永遠の至福(*サーダ*)や永遠の天罰(*シャクワ*)に関係しないにしても、義務という点では意味がないからです。 私たちの現在と将来の目的に関係のないものにふけることは意味がありません。 このことから、義務とは永遠の幸福と永遠の成功を達成するための手段であるものだけであることを学びます。 これは、義務の意味を知り、審判の日に神のビジョンほど大きな幸福と成功はないことを知るときです。 さらに、この最高の成果(神のビジョンを達成するという)ことを奪われた個人は、その人の不幸と失敗に疑いの余地はありません。 神のビジョンの最高の成果を奪われた人は、自分自身と神の間のベールとなる下層の自己(ナフス)からの欲望の囚人であり人質である人です。 そのような人は、別れの火(心の奥深くで燃え、内なる苦悩と悲しみのために平安を得られない火である最愛の者から)と地獄の火に苦しむでしょう。 しもべは、低次の自己からの欲望に巻き込まれ、儚い領域(世界)に執着し、救いのために避けなければならないものに陥るとき、しもべは神との出会いや神のビジョンから遠く離れていることを学びます。 神のビジョンに近づいている人は、自分の心の関係(執着)をこの世の輝きから断ち切り、神に完全に注意を払い、神の記憶への執着を育もうとし、自分の能力と神の愛に従って、神の威厳と美のグノーシスを見出す人です。

そのような人は、罪によって神から逸脱するのと同じように、罪人、不従順者、呪われたサタンの信奉者と呼ばれることと同じ理由で、神との出会いからベールをかぶる権利があり、[真理への]道を失った人と呼ばれることを理解しています。 これらすべての事柄を知った後、神の親密さのためには、そこから遠ざける道から逸脱する必要があるという現実を疑うことはないでしょう。 [神への]遠い道からの逸脱は、知識、恥(後悔または後悔)、および決意と呼ばれるこれら3つのものなしには不可能です。 だからこそ、罪が最愛の人から遠ざかる理由であることが知られるまでは、後悔は起こらず、遠い道を歩む痛みを感じることはなく、(最愛の人との別れの)痛みを感じる道を歩むまでは、(神聖な親密さの道への)回帰を想像することさえないでしょう。 [最愛の人の道に戻

る]ということは、罪を捨てる決意を意味します。 このことから、最愛の人に到達するには、これら3つの手段(知識、恥、決意)が必要であることがわかっています。

知性はいつ完成しますか?知性の現実は、サタンが人間を誤解させる手段として用いる欲望、怒り、そして非難されるべきすべての内的性質が完全に縮小されるまで、完成されません。 人間の知性は40歳で完成しますが、知性の起源は思春期に達すると完成します。 その兆候は7歳で現れ始めます。 欲望はサタンの軍隊であり、知性は天使の軍隊です。 これら2つの軍隊がある場所に集まると、一方の軍隊が他方の軍隊の前で陣地を守れなくなるまで[互いに]衝突します。 どちらも正反対です。 昼と夜と同じように、光と闇は集まらず、一方が支配すれば、他方の存在はいかなる形や形でも残りません。 欲望は、知性が完成する前の幼少期と青年期に人間を支配するので、サタンの足は[人間の人生の初期段階で]事前に固くなります。 それが、心が通常、欲望の愛と執着によって征服され、それを取り除くことが非常に困難になる理由です。 その後、神の党であり軍隊であり、神の友人(グノーシス主義者)にとって救いの代となる知性が現れると、それは徐々に彼らを神の敵の手から救い出します。 だからこそ、知性に力と完全さがなければ、サタンはその仕事をし、この戦いの勝者となるでしょう。



「ごく少数を除いて、私は彼(アダム)の子孫(サタンがアダムの子孫、つまり人類を滅ぼそうとする反逆的な動機を神に告げます。神が裁きの日まで彼に休息を与えたとき、神の知恵から、純粋な傲慢さからアダム[神の祝福と平安あれ]にひれ伏すことを拒否した後、神の臨在から追い出される前に、 嫉妬とエゴイズム)」と書かれています。 (クルアーン、17章、62節)

知性が確固たるものになり、完成したとき、その最初の仕事は、欲望の束縛を打ち破り、[古い固くされた悪い]習慣を手放し、気質を強制的に神の崇拝に傾け、悪魔の軍隊に壊滅的な敗北を渡すことです。 人間はサタンを指導者とし、欲望を導く道から逸脱し、代わりに神に導く道を歩むという悔い改めの意味です。

欲望は知性に取って代わる: すべての人間において、欲望は知性が存在する前に存在します。 [人間の気質にとって]知性の貴重さは、欲望の貴重さに取って代わります。 だからこそ、欲望に従うために行われたすべての行動について、預言者であろうと庶民であろうと、すべての人間が欲望から悔い改める必要があるのです。 悔い改めはアダム(

彼に平安あれ)の特異な特徴であると考えるのではなく、人類のすべての人に書かれた永遠の戒めです。 それに反対する何かを想定することは、神の道が変わるまで不可能です。

大人になってから不信感や無知に陥っていた場合、そこから悔い改める義務があります。 もし、ある人が両親のせいでたまたまイスラム教徒であり、イスラム教の現実(平和の道と、自分自身の霊的刷新と変容のための神の意志への服従)を知らない場合、自分の無知と怠慢から悔い改める義務があります。 この悔い改めは、イスラームの現実を理解し、自分自身がイスラム教徒になるまで親のイスラームから恩恵を受けられないことを知るために[努力する]方法です。 このことを知ると、欲望への執着や無頓着への愛から悔い改め、[道徳的正しさと神の導き]正しい道を歩むことも必要になります。 言い換えれば、神の法による正しい行動の限界を遵守し、それが[他人に]与えるか[他者から]受け取るか、何かをするかしないかにかかわらず、義務的な義務(祈り、断食、慈善などの*ファライド*)を履行することであり、この段階は悔い改めの最も困難な段階です。 ほとんどの人は、悔い改めたいと願っても悔い改めることができなかったため、この段階で破壊されました。 このことから、悔い改めはすべての個人に個人的に義務付けられていることが証明されています。 [以降]アダム(神の祝福と平安あれ)のような決意の強い預言者が[それに気づかないままでいる]ことができなかったように、人間はそれに気づかないままでいることはできません。

欲望は心に錆を引き起こす: 人がどのような欲望に関わっていても、口から出てくる蒸気から鏡に暗闇が投げかけられるのと同じように、ある種の闇が心に投げかけられます。 欲望が追われ続けると、何層にも重なる闇によって心の闇が深くなり、鉄の錆のようなものが生まれます。 欲望によって引き起こされる心への錆の押し付けは、クルアーンに次のように述べられています。

كَلَّا ۖ بَلْ ۜ رَانَ عَلَىٰ قُلُوبِهِم مَّا كَانُوا يَكْسِبُونَ

「むしろ、彼らが(彼ら自身の邪悪で卑劣な行為に関して)行ったことのせいで、錆が彼らの心に定着したのです。」 (クルアーン、第83章、14節)

錆が深くなると、長期間放置すると磨く能力がなくなる鏡の上の錆と同様に、心を封印(閉じ込める)と解釈され、鏡は役に立たないと宣言されます(元に戻すことができないため、消えたケース)。とはいえ、鏡を掃除するだけでは錆びないようにするのと同じよ

うに、過去にすでに錆を取り除く必要もあります。. 同様に、心が将来の欲望に従うことから悔い改めるだけでは十分ではなく、過去に犯した罪も悔い改め、過去の罪の闇が消されないように[贖い、償い、償い、正し、過ちをできるだけ取り消す]必要があります。 罪で心が暗くなるのと同じように、同様に、心も義の行いで明るくなり、照らされます。 神の従順は罪の闇を払拭し、光が広がります。 これが、次の預言的な語りでほのめかされている現実です。

أَتْبِعِ السَّيِّئَةَ بِالْحَسَنَةِ تَمْحُهَا

「人は罪の後に正しい行いをすべきです。正義の行いはその罪を消し去ります(この寛大な譲歩は、殺人、窃盗、他人の正当な権利の簒奪などの重大な罪には適用されません。贖いと贖いは、それ自体が寛大な神の慈悲であり、それ自体が寛大な神の慈悲であり、適切な償いとともに神の赦しの輪から排除されていません)」。 (アブ・ダール[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ハディース*集*ティルミディ*によって語られています)

悔い改めの受け入れは、その条件の充足にかかっています

もしあなたが悔い改めの意味を理解しているなら、この問題において、すべての正しい悔い改めには[神の]受け入れがあることに疑いの余地はないはずです。 深い洞察力(*バセラ*)の光で見て、クルアーンを照らす恩恵を受ける人々は、すべての健全な心(すべての傷や卑劣な内面の状態を除いた)が神の前に受け入れられることを知っています。 それは来世で神が近づいているという喜びと喜びを見出し、永遠の目で神のビジョンを持つでしょう[それは来世で人間の目を世俗的な存在から置き換えるために与えられます]。 彼らはまた、すべての子供が「フィトラ」(神の意志に完全に一致する人間の真の生来の本質的な本来の性質)に基づいて生まれるという予言的なナレーションで言及されているように、その起源のすべての心が健全に創造されているというこの現実に精通しています[そして、世俗的な生活を進歩し、正しさの道から逸脱し始めるにつれて、後に獲得するすべての傷や卑劣な内面の状態が欠けています。 神聖な現実と永遠の普遍的な真理であり、人間が明らかに一神教と神のグノーシスに恵まれているという神聖な信頼に向かっています。 (このナレーションは予言的なナレーション集によって報告されています *サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*は、預言者の仲間であるアブ・フライラ[神が彼を喜ばれますように])の権威に基づいています。

心の健全さは、罪の闇と悪行の塵によって根絶されます。 彼らはまた、恥と後悔の火がこの塵を燃やして灰にすることを知っています。 義の光は、心の顔から罪の闇を消し去ります。 罪の闇は、義の行いの照らしに耐えることができません。 夜の暗闇が日の光の前にとどまることができないのと同じように、汚物が石鹸の前にとどまらないのと同じように、皇帝が自分のために汚れた服を選ぶのが好きではないのと同じように、同様に、本当の皇帝(神)は自分自身との親密さと親密さのために汚れた汚れた心を選ばないのです。 そして、汚れたことをするために服を使う(着る)と服が汚れ、石鹸とお湯で洗わないときれいにならないのと同じように、同様に欲望にハートを使うと、心が汚れて汚れ、涙と後悔の水がなければ、浄化され、浄化されません。 このように清められ、浄化されたすべての心は、清潔な服が好まれるのと同じように、[神の宮廷で]受け入れられ、好まれます。 したがって、[心と魂の]浄化は、神が定めた運命に従って神に受け入れられるという名誉を得るために、あなたに課せられています。 この受け入れはクルアーンでは救いと呼ばれています。

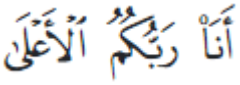
قَدْ أَفْلَحَ مَن زَكَّىٰهَا

「確かに、救いを得た人はそれを浄化した人(つまり、魂)です。」 (クルアーン、第91章、9節)

悔い改めとは罪を捨てることを意味することを知らせてください。 何かを放棄することは、理解を深めるまでは不可能です。 悔い改めは必須ですから、悔い改めを達成する手段も必須です。 このことから、罪の理解が必須であることがわかっています。 罪の意味は、何かをするかしないかという神の命令に反対することです。 いくつかの種類の罪とその相互のつながりについて言及します。 神だけが、神の憐れみと寛大さによって導きを得る能力を与えてくださいます。

人間の特性による罪の種類: 人間は、魂の神秘の解説(第1章)で説明されているように、無数の特徴と資質を持っています。 しかし、罪[と悪行]を扇動する[人間の]特性と内面の性質は、神の性質、悪魔的な性質、獣の性質、動物的な性質の4つのタイプに分けられます。 その理由は、人間の構成はさまざまな要素で構成されており、すべての要素が人間の中に独自の影響を望んでいるからです。 これら 4 つの性質は、人間の中にそれぞれ個別の影響を示しています。 たとえば、神の資質は、傲慢さ、プライド、強引さ、賞賛への欲求、富、名誉、影響力、権力を持ち、人間の存在がその状態の舌から

呼びかけるように、すべての創造物よりも優れていることを望むことを伴います(これらの資質は、存在するすべてのもののマスターであり創造者にのみふさわしいものです)。



「私はあなたの主です、至高者です。」 (クルアーン、79章、24節)(一部のスピリチュアルガイド、聖人、グノーシス主義者は、上記の聖句で言及されているファラオによって宣言されたものを自分の内なる存在に持っていない人間はいないと言っています)

この性質から、非常に破壊的で、他の数え切れないほどの罪を生み出しているにもかかわらず、人々が気づかず、罪に数えないほどの巨大な罪が生まれます。 第3巻[「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」、またはこの本書の第1章から第10章]では、これらの罪について非常に詳細に説明されています。
第二の性質は、嫉妬、反逆、言い訳、欺瞞、詐欺、論争、混乱を生み出す悪魔です。 まさにこの性質に基づいて、人間は宗教的な事柄において[自分自身と他者]邪悪、偽善、革新、斬新さ(*ビダ*)に命じます[主に自分のエゴと低級な自己から発せられる神が定めていないもの]、不正直、その他の転覆[自分の内面の存在]。 第三の性質は動物的であり、貪欲、貪欲、胃や陰部の欲望、窃盗、孤児の財産の横領、神の法に従わない努力に使用するために富を蓄積したいという欲求など、無数の過ちを生み出します。 第四の性質は獣であり、怒り、恨み、人を殴り、人を罵り、殺害し、所有物を破壊するなど、無数の忌まわしい事柄を助長し、これらの罪は他の無数の罪にまで及びます。

4つの[人間の]資質の自然な順序: 出生に関して言えば、これらの4つの資質は[人間の中に]徐々に生まれます。 まず、動物的な性質が支配的であり、その後、獣のような性質が支配的です。 その後、両方の資質が組み合わさって、知性は詐欺、欺瞞、言い訳の道に歩みます。 この時点で、サタンの資質が上昇し、最終的には主権の資質(神の資質)が上昇します(神の資質は高貴な神にのみ属し、世俗的な生活で謙虚で卑しくいるべき奴隷にはまったくふさわしくありません)。 言い換えれば、人間はすべての被造物に対する優位性と支配を獲得するつもりになり始めます。 したがって、人はあらゆる場面で見当違いのプライドを表現し、優越感と傲慢さを表現し、自分の名誉と偉大さを表現するために他人を侮辱し、要するに、すべての罪の源泉と起源がこれら 4 つの性質です。 罪は彼らから発せられ、[人間の]手足や臓器に広がります。 不信、革新(神が定めた事柄)、偽善など、心に関連する罪もあります。 恨みや嫉妬などの目や耳に関連する[罪]もあれば、胃や陰部に関連するものもあり、手や足、その他の身体の臓器によって

犯される[罪]もあります。 これらの罪はすべて明らかなものなので、詳細に説明する必要はありません。

巨大な罪の分布: 私たちは、神の法の証拠と(グノーシス主義者や他の霊的に啓発された個人が持っている)霊的な照明の光から、すべての神の法の目的は、被造物を神に近づけ、[魂の目で]神のビジョンを[達成]するという名誉によって育まれることであることを知っています。 しかし、神の親近性とビジョンの区別を達成するには、人間が神の経典(本来の変わらない形で)と預言者から神の存在と属性(性質)を理解することが不可欠です。 クルアーンは、次の聖句でこの現実をほのめかしています。

وَمَا خَلَقْتُ ٱلْجِنَّ وَٱلْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ

「私(つまり神)は創造しました *ジン* そして人間は私を崇拝するためだけに。」 (クルアーン、第51章、56節)

つまり、ジン(地上に存在する超自然的な目に見えない生物)と人間が創造された目的は、神のしもべになることだ。 しもべは、自分の主の主権と、自分自身(ナフス)の[神への]しもべ性について深く理解し、主が誰であり、自己(*ナフス*)が何であるかを理解するまで、真に[神の]しもべにはなりません。 預言者は、この非常に崇高な目的[人間を主と、神への奉仕性とそれに伴う義務と義務という観点から、自分自身の現実に精通させる]ために派遣されました。 しかし、この目的は、この世俗的な人生の[終わり]の後に達成されません[この崇高な目的は、その人の永遠の命と永遠の幸福と永遠の成功がそれに依存しているため、まさにこの世俗的な存在で達成される必要があるからです]。だからこそ、預言的なナレーション(預言者ムハンマドのハディース[神の祝福と平安あれ])では、世界は来世の農地として描かれています[この農地の耕作は、良くも悪くも、耕うん人の喜びや悔しさのために来世で収穫される]のです。 このことから、神の命令に従う目的は、世俗的な生活を守ることであることがわかっています[そのためには、内なる平和、幸福、充実感に満ちた健全な生活を送ることができます]、なぜなら、世俗的な生活は神への道の手段であるためです(*ディーン*)。 この世では、来世に関係する2つのものは富と自己です。 このように、[この儚い世俗生活における人間の達成には]3つの段階があります:第一に、心の中で保護されている神(*マリファ*またはグノーシス)の知識と親密さの[達成]の程度です[これは人間の達成の頂点であり完成であるため]。第二に、身体[人間の肉体的存在]に関連する自己の保護です。第三に、人々に関連する富と物質的所有物の保護[および人類の文明が生き残り繁栄するために必要な商業と経済の形での彼らの集団の幸福]です。

罪の分類も同じ線に沿っています。 言い換えれば、最大の罪は、[人々のために]神聖なグノーシス(*マリファ*)の扉を閉ざすことです。 その後、最大の罪は、人々の生活を困難にし、窮屈にすることです。 その後、最大の罪は、国民に経済の扉を閉ざすことです。 それにもかかわらず、[善い義の行い]には、心の中の神の知識と親密さの保護、身体の命の保護、神のしもべ(つまり人間)の財産の保護の3つの段階があります。 これら3つのことはすべて、神の律法(*シャリーア*)の目的です。 [人種的、民族的、文化的、宗教的多様性によって特徴付けられるこの世界で]、これらの[目的]に同意しない国は想像できません。 それは、神が神(*ディーン*)と彼らの世界(世俗的な生活)に関連する被造物の問題の改革のために預言者を遣わし、神と彼の預言者を知る道に障害を生み出したり、人々の生活を破壊したりするようなことを彼らに命じることを知性は受け入れることさえできないからです。 または、その財産を破壊します。

神のグノーシスは感覚の領域から排除されています:五感による真実の確認は五感に限定されていると考えるなら、あなたとロバの違いは何でしょうか? ロバでさえ、五感によって物事を知覚します。 あなた(おお人間!)は、あなた自身の中にある繊細さ(つまり、魂)のためにロバと区別されます[神が最初に「フィトラ」の状態でそれを創造した生来の原始的な形、つまり、神の意志、神聖な現実、神聖な存在、永遠の普遍的な真理と完全に一致し、人間が明確に与えられている神聖な信頼に向かう素因である人間の真の生来の本質的な本来の性質、 つまり、一神教と神のグノーシス]。 それは、最初に天、地、山に提示されたのと同じ機微であり、彼らはこの機微に伴う負担に責任を負うことができないと表明しました。 この繊細さは、人間[世俗的な滞在の前に、魂の領域でそれを受け入れた]人間に提示されました。 これはクルアーンで次のように説明されています。

إِنَّا عَرَضْنَا ٱلْأَمَانَةَ عَلَى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱلْجِبَالِ فَأَبَيْنَ أَن يَحْمِلْنَهَا وَأَشْفَقْنَ مِنْهَا
وَحَمَلَهَا ٱلْإِنسَٰنُ ۖ إِنَّهُۥ كَانَ ظَلُومًا جَهُولًا ﴿٧٢﴾

「私たちは天と地と山に信頼を捧げましたが、彼らはそれを運ぶことを拒否し、それを恐れました。人間は、(その権利を果たさなかったために)確かに不当であり、[この信頼が何を意味するのか]無知であったのです。」 (クルアーン、第33章、72節)]

これは、感覚の輪(領域)から排除されたものを知覚できるのと同じ繊細さです。 動物や獣にはこの繊細さがありません[したがって、彼らはグノーシスや神の知識と親密さを達成することができません]。 この繊細さを使わず、それを無駄にし、知識と情報の限界は感覚によって知覚されるものだけであり、動物や獣の同じ[カテゴリー]に含まれると宣言する個人は[なぜなら、そのような人は人間であることの意味に立ち上がることができず、人生の真の目的に立ち上がることができなかったからです。 その達成は、永遠の幸福と永遠の成功につながります]。

おお、イスラームの兄弟たちよ! あなたは[特に][無謀で、無頓着で、快楽主義的な態度で行動することによって]そのようになってはいけません! 感覚だけで物事を知覚する人は、神の存在が感覚を通して知覚されないため、神のことを忘れます。 神を忘れる者、神は[順番に]自分自身(*ナフス*)を忘れさせます[その結果、人はこの世俗的な存在とその物質的な闘争の荒野に迷い込み、内なる平和と充実感の欠如という点で、自分自身に不利益をもたらし、自分の人生の本当の目的と、その結果としての永遠の幸福と無限の成功を完全に知らず、気づかなくなります]。 そうすると、人は「至高の地平線」(神聖な臨在)に昇ることができず、(自分の不注意と怠慢による霊的領域で)動物の地位に降り、この[低い]地位に満足するようになります。 そのような人は、実際には、神から与えられたこの神の信頼の横領者であり、神の祝福を拒否する者(または拒否する者)であり、神の報復に身を委ねる者です。 そのような人の状態は動物よりも悪いです。 動物は死んでもすべてを免除されますが、人間は死後も[責任]を免除されません。 代わりに、人間に与えられた信頼は、その所有者(神)に返す必要があります、なぜなら、この[神の]信頼は神に引き寄せられ、神だけに住まいを見つけるからです。 [神がすべての人間、つまり魂に与えた繊細さである神の信頼は、この世俗的な滞在の終わりに、元々持っていた原始的な形でその所有者(神)に返す必要がありますが、さらに、世俗的な生活で獲得する任務を負ったグノーシスが授けられています。 それは、最愛の者との完全な調和、平和、親密な状態で創造主を知る形です。 魂は、天の起源、創造主に戻る道を見つけるためにこの世に送られました。 それは、魂が世俗的な生活で獲得したあらゆる形態の卑劣さ、悪、否定性から浄化され、神聖なグノーシスに恵まれた原始的な崇高な状態に魂を戻すための勇敢な精神的闘争を通じて浄化されたときに起こります。

この[神聖な]「信頼」とはどのようなものですか? この信頼は、永遠の地平線から昇り、この人間の体に沈んだ輝かしい太陽のようなものです[真実を探求し、魂を神の臨在に昇天させるためのひるむことのない闘いを開始することによって、人間によって再発見される]。 この体のシステムが[死の直前に]ひっくり返るとき、この太陽は西から昇

り(審判の日の到来の最大のしるしの一つは、太陽が東ではなく西から昇ることです)、その創造主であり創造者の御前に旅します。 暗闇の状態にあるか、その輝きと照明が増したかのどちらかです。 輝かしい太陽はベールなしで主の宮廷に届きます。 暗闇に包まれた太陽でさえ、神の存在がすべての最終的な帰還場所であるため、[神の臨在に]到達しますが、それは下を向いて到達します。 その方向は、「*アーラ・イリェン*」*(人間の達成の頂点を指す高みの最高点)の頂点ではなく、「アスファルス・サフィリーン」(最低層の*最低層)に向かって下を向くことになります[人間には、最低の最下の状態から自分自身を抹消する道徳的および精神的な責任があるため、代わりに、 [霊的に]高い方の高みに向かって上昇してください]。 クルアーンはこう言います。

وَلَوْ تَرَىٰٓ إِذِ ٱلْمُجْرِمُونَ نَاكِسُوا۟ رُءُوسِهِمْ عِندَ رَبِّهِمْ

「見てみると、奇妙な状態が見えてきます。 これらの犯罪者は神の前に頭を下げられるでしょう。」 (クルアーン、32章、12節)

この神聖な聖句は、審判の日には、罪人も神聖な法廷に出席するが、神の従順な奴隷のようにではなく、代わりに顔が後ろ向きになり、[霊的な地位とその結果としての神聖な近さにおいて]上向きに上昇する傾向がある代わりに、地上に向かって下向きに下降する傾向があることを証明しています[欲望と欲望を追いかけるという点で、世俗的な生活における下降軌道に見合った頑固な間違った愚かさとして現れる低層の自己の]。 しもべはそれに対して何の力も持たないでしょう[これは、彼らが地上で存在している間に行ったことに対する神の報いとなるからです]。 善を行うための神の力を奪われた人(*タウフィーク*)は、神の導きの道を前進させることができない方法で、神の戒めが人に施されるでしょう。 その代わりに、人は道に迷い、誤った道の谷をさまようことになります。 私たちは、誤った導きから、また無知な仲間入りから神の避難所を求めます。

救いの達成者(真の成功):これらは、神の知識と親密さ(グノーシス)を獲得した人々です。 彼らは「最先者中の最前線」(*ムカラビーン・アル・サビキーン*、または人類の最高の達成者である精神的エリートであり、人類の達成の頂点に達し、永遠の幸福と永遠の勝利の人生を歩み始めたとき)。 *グノーシス主義者のように義の道を歩む*ことなく、義人(ムカラディーン)の足跡をたどった人々も成功するでしょうが、彼らは「右手の民」(*アシャーブ・アル・ヤミン*)と呼ばれるでしょう。 「第一の第一者」に与えられる神の報いは、言葉では言い表せないでしょう。 クルアーンに寓意的な言及として言及されていることについて言えるのは、次のとおりです。

فَلَا تَعْلَمُ نَفْسٌ مَّآ أُخْفِىَ لَهُم مِّن قُرَّةِ أَعْيُنٍ

「[義に優れ、神を人生の唯一の目的とした人々の]目の冷たさのために[神によって]秘密にされてきたことを知っている人は誰もいません。」 (クルアーン、32章、17節)

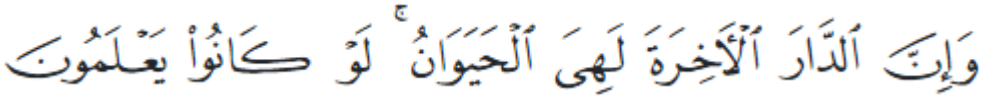
それは、彼が神から伝えた「ハディース・クッシ」*(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝統)*に述べられています。

أَعْدَدْتُ لِعِبَادِيَ الصَّالِحِينَ مَا لَا عَيْنٌ رَأَتْ وَلَا أُذُنٌ سَمِعَتْ وَلَا خَطَرَ عَلَى قَلْبِ بَشَرٍ

「私は、私の義なるしもべのために、目も聞き取らず、人間の心に思いついたことさえなかったことを用意しました。」

グノーシス主義者は、人間の心には思いつかなかったまさにその状態の探求者です。彼らは天の配偶者、果物、牛乳、蜂蜜、ワイン、宝石、衣服、その他の天のものに貪欲ではありません。 たとえこれらのものを与えられたとしても、彼らはそれに満足せず、代わりに、永遠の至福と終わりのない勝利(*サーダ*)の頂点であり、喜びと喜びの頂点である神のビジョンの喜びを求めるでしょう。 ラビア・アル・バスリ(神が彼女を憐れんでくださいますように - すべての女性聖人とグノーシス主義者の第一人者でした)は、誰かから「あなたは天国で何に傾倒し、何を望んでいますか?」と尋ねられました。彼女は「まず住居の所有者、次に住居の所有者」と答えました。 これらの人々は、[天の]住まいの持ち主(つまり神)への愛が住まい(すなわち楽園)の愛に気づかず、むしろ神以外のすべてに気づかなくし、自分自身の存在に気づかなくなったのです。 彼らのたとえ話は、最愛の人の顔を見たいと願った恋人のたとえ話のようなもので、それに夢中になっているため、自分のためにさえ、心の中に他の気遣い、考え、欲望はありませんでした。 その代わりに、人は体のあらゆる怪我を含むすべてに気づかず、最愛の人の顔からベールが剥がれるのを待ちます。 この状態は「恋の絶滅」(*Fana fi al-Hubb*)と呼ばれます。 言い換えれば、人は最愛の人の愛に没頭しすぎて、最愛の人以外には何も見えないのです。 すべての思考と想像力の焦点は、たった一つの焦点にすぎません。自分の心と精神に他の人のための余地すら残されていません。 神の記憶の中でその[内なる霊的]状態を持っているとき、人は来世で[神の慈悲と寛大さから]そのような[注がれ出す]恵みを与えられ、それらの考えさえ人間の心には思い浮かびません。 耳が聞こえない人や盲目の人が色の形や音の性質を知らないのと同じように、目と耳のベールが

持ち上げられれば、色と音の形と性質を知り、そのとき(ベールが剥がれるその日以前は)自分の心の中で想像すらできなかったことを知ることができます。 この世界もベールです。 そのようなことが、世俗生活では想像すらできなかった、持ち上げられるときに明らかにされるでしょう。 そうすれば、人は純粋で美しい人生の喜びを得て、この聖句の主題が明らかになります。

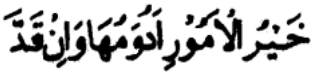


「そして、来世の命だけが永続し、永遠に残るのです。もし彼らが知っていたなら。」(クルアーン、29章、64節)

軽罪はどのようにして大罪になるのでしょうか?

軽罪は、次の理由により大罪になることを知っておく必要があります。

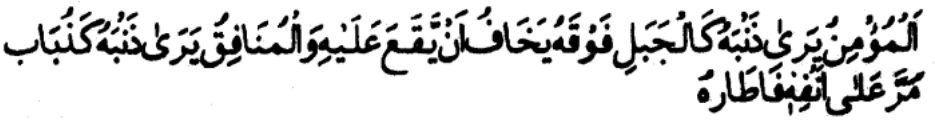
第一の理由 - 主張と粘り強さ: 第一の理由は、人が小さな罪を主張し、しつこくすることです。 だからこそ、この有名なことわざには、「しつこくても軽微な罪はなく、悔い改め(赦し、贖い、償いを求めることを含む)大罪も残らない」とあります。 このことわざの結論は、誰かが大きな罪を犯した後に立ち止まり、別の大きな罪を犯さないようにすれば、その人の罪が赦されるという希望があるということです。 それとは対照的に、小さな罪に関連する問題は、粘り強さ[と忍耐]がある厳しいものです。 この類似性は、水が一滴一滴滴落ちる岩のようなものです[この持続的な滴りの結果として、長い時間にわたって岩に跡や穴さえも生じます]。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「最良の問題とは、たとえ数が少なくても、粘り強さと忍耐力を持って行われるものです。」 (ナレーション: *ハディースは、アイシャの権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを集めています*[神が彼女を喜ばれますように])

それは、物事がその反対のものによって認識される[そしてその重要性が評価される]からである[例えば、光は闇のために評価され、善は悪のために評価され、知識は無知のために評価され、正義は抑圧のために、優しさは厳しさのために、美しさは醜さのために評価されるなど]。 したがって、この預言的伝統は、執拗に行われる少量の[義の]行いがより有益であることを証明しています。 また、一度に行われる多くの[正しい]行いは、自己の改革と心の浄化にとって[たとえ数が少なくても]長期間にわたって粘り強く行うことほど有益ではないことを証明しています。 同様に、小さな罪を犯し続けると、心を暗くする上でより強力になり、致命的になります。 これは、以前に小さな罪を犯したことのない限り、大きな罪を犯さないという事実です。 たとえば、姦淫者は突然姦淫を犯すのではなく、最初に姦淫する意図があります。 同様に、殺人者は突然殺人を犯すのではなく、最初に敵意と恨みがあります。 すべての大罪は、その前兆として小罪が見出されるという状態を持っています。 もし、その前兆として、何の小さな罪もなく、突然起こった大罪を想定できるなら、人生のすべてに固執してきた小さな罪と比較して、その赦しの希望はある。

第二の理由 – 罪を小さくて取るに足らないものと考える: 小さな罪が大きな罪になる原因となる第二の理由は、自分の罪を取るに足らないもの(そして、いかなる注意や心配にも値しない)と考えることです。 [神のしもべ、つまり人間]が心の中で大きく考えるすべての罪は、神の近くでは小さくなり、取るに足らないと思われる罪は、神の目には大きくなります。 だから、罪を大きく考えるということは、自分の行動を心から間違っていると考え、嫌悪感を持って見ることを意味します。 したがって、この嫌悪感と嫌悪感のゆえに、人はその罪の影響を多く受け入れません。 それとは対照的に、罪を取るに足らないものと考えるということは、罪に対する愛と傾向があることを意味します。 その結果、人はその罪から多くの影響を受け入れます。[すべての良心的な人間の]目的は、神の服従によって心を照らすことです。 罪で心を暗くし、汚すことは[神に]禁じられています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

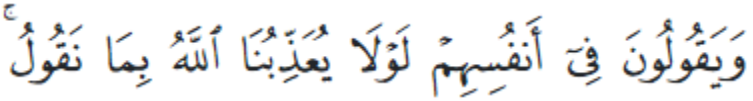


「信者は自分の罪を、倒れようとしている頭の上の吊り下げられた山と見なします。偽善者は、鼻を通り過ぎて飛んでスワイプしたハエよりも自分の罪を重要視しません。」(ナレーション: *アブドゥッラー・ビン・マスードの権威に基づくハディース集サヒー・ブハーリ*[神が彼を喜ばれますように])

信者は小さな罪でも大きな罪と見なします。 その理由は、神の素晴らしさ、力、能力についての知識です。 神は一人の預言者に「贈り物の不足を見なさではなく、代わりにあなたに贈り物を送った方の偉大さを見なさい。自分の罪を取るに足らないものと見なさず、代わりに、あなたが罪と競い合った神の存在の偉大さと素晴らしさを考えてください。」 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の仲間(神が彼ら全員を喜ばれますように)の中には、信者(*タバエーン*)に「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の時代には致命的だと考えていたにもかかわらず、あなたは髪の毛よりも細い行為をしています(つまり、取るに足らないものと考えられており、心配する必要はありません)」と言いました。 その理由は、仲間たちが神の威厳をよく知っていたからです。 したがって、神の威厳に比べると、軽い罪でも彼らの目には大きな罪に劣りませんでした。 それが、無知な人は小さな(重要ではない)ものを無視するが、学者(知識のある人)は同じことを重要だと思う理由です。 素人から無視されるいくつかのことは、グノーシス主義者からは許されません。

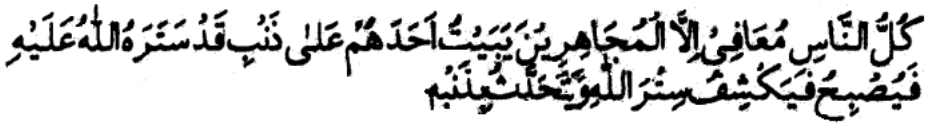
第三の理由 – 罪を犯すことによる幸福: 小さな罪を大きな罪にする第三の理由は、罪を犯した後に幸せを感じ、それを誇りに思い、自分がしたことは神の特別な恵みと寛大さによるものだと考えることです。 さらに、この行為が欠点であり、神の不快感の原因であり、実行者にとって邪悪な前兆であったという事実にも注意を払いません。 その中で喜びを見出すのにふさわしく、小さな罪が大きな罪になり、その程度にその闇が心に浸透します。 一部の罪人(悪事者)は、自分の罪(悪行)を称賛を求め、誇りを表現し、それを自慢しているように見えます。 たとえば、「私が彼をどのように台無しにしたかを見なかったのですか?」と言う人はいます。 討論者や議論者は、「私が対戦相手に屈辱を与えた様子を見ましたか?私は彼の欠点を暴露して彼を恥じさせました。 彼は満員の聴衆の前で屈辱を受けた。 それから私は彼が想像もできなかったような方法で討論会で彼を騙しました。」 あるトレーダーは、「私は彼に偽造通貨を与えて彼をだまし、彼に大きな損失を与えました。 だまされて損失を被ったのはとても残念だ」と語った。 これらとそのような話は、小さな罪さえも大きな罪に変えます。 罪は破壊的です。 もし人がそれらに耽溺し、サタンの影響を受け、最終的に罪や悪行を犯すことを余儀なくされてしまうなら、ここは悲しみと後悔の場所であり、幸福[と誇り]の場所ではありません。 敵に征服されることを自分の偉大さと考え、自分の敗北を誇りに思う人を見たことがありますか? さらに、良心的な人間は、最愛の人(神)を不幸にするこの種の[邪悪な]ことをした後、幸せになれるでしょうか? そのような人の類似性は、薬瓶が壊れたときに喜ぶ患者のようなものです。 そのような患者は薬なしで回復できる候補ですか?

第四の理由 – 神の戒めからサポートを受ける: 軽微な罪を大きな罪にするもう一つの理由は、神が(純粋に神の慈悲から公の場で屈辱を受けるのを救うために、自分の罪や悪行を覆い隠し、寛容と緩い鎖を)支持[または利用]し、[神の]緩い鎖を利用することが[罪を犯すよう誤って受け入れることによって]神の不快の原因であることを知らないことです。 自分の罪や悪行が神の摂理と憐れみの象徴であると考えるなら、それはその人の無知、誇りを表現するための適切な場所[と時間]の無知、そして神の支配と手の届くところを大胆に恐れないことに等しいのです。 そのような人々の気質のたとえ話は、次の聖句で表現されています。



「そして彼らは心の中でこう言います。『なぜ神はこんなことを言った私たちを罰しないのですか?』 (クルアーン、第58章、8節)[そのような人々は、自分の悪行や罪に対する神の罰はすぐには明らかでなく、すぐには現れるわけではないので、何をしても悪いことは起こらないという証拠だと考えています。 彼らはこれを励ましであり、この世でもあの世でも、最終的に捕まるまで、何の罰も受けずに間違ったことをし続けるための許可として受け止めています]

第五の理由 – 罪の表現と発表: 小さな罪が大きな罪になる理由の 1 つは、人が罪を犯し、人々が見ている場所で自分が何をしたか、または何をしたかを人々に話すことです。 そのような人は、神が[神の憐れみから]自分の罪を覆ったベールを細断し、それについて知らされた、またはその罪を犯した人々を扇動して[同じまたは類似の]罪を犯させたいと思っています。 この場合、以前から1つの罪があり、さらに2つの罪が加算されたので、この罪は大きな罪になります。 もし人が人々を挑発して、それを表に出したり明らかにしたりする以外に、同じ罪(または悪行)を犯すなら、それは第四の罪であり、非常に致命的になります。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「罪を明かして歩き回る者を除いて、すべての人は[神に]赦されるでしょう。 ある人が罪を犯した後、ベッドに横たわり、神はその罪を夜の暗闇に隠します。 しかし、朝になると、神が隠しておいた罪を明らかにし、それについて人々に伝えます。」 (ナレー

ション: *ハディースは*、アブ・フライラの権威に基づいて*サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム*を収集します[神が彼を喜ばれますように])

神の神聖な資質と恩恵に含まれる理由は、神が[人々の]良い資質を明らかにし、悪行を隠し、誰の秘密も明らかにしないからです。 自分の欠点[と罪]を暴露する人は、この神の祝福に対して恩知らずで、実際に[自分の行動によって]この神の性質を拒否している人のようなものです。 あるグノーシス主義者は、「第一に、(神の)しもべは罪を犯すべきではないが、罪を犯すなら、他の人を説得すべきではない。そうでなければ、二つの罪を犯すことになる」と言いました。 偽善者の特徴は、お互いに説得して悪を犯すのです。 クルアーンはこう言います。

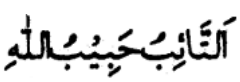
ٱلْمُنَٰفِقُونَ وَٱلْمُنَٰفِقَٰتُ بَعْضُهُم مِّنۢ بَعْضٍ ۘ يَأْمُرُونَ بِٱلْمُنكَرِ وَيَنْهَوْنَ عَنِ ٱلْمَعْرُوفِ

「偽善者の男性と偽善者の女性、ある人は他の人を悪に向かわせ、善行を阻止し合う。」 (クルアーン、9章、67節)

第六の理由 – 指導者または著名人が罪を犯す: 一部の罪は、宗教的な法的問題で人々が従う人によって犯されたため、人々が自分の行動に従うために重大になります。 たとえば、絹を着たり、金の[メッキ]輸送車に乗ったり、王[または政府高官や政治権力者]から疑わしい富を奪ったり、自分の悪行に気づかせないことで彼らを助けたり、純粋に名声のために知識にふけったりします。 これらは、単純な考えを持つ人々がそれらに従う種類の罪です。 そのような学者はいつか死ぬでしょうが、彼らの悪は世界中に広がり続けるでしょう。 罪が[死の時に]一人と一緒に埋葬された人は、どれほど幸運なことでしょうか? [宗教]学者(または人々が尊敬し、多くの支持者を抱えている指導者やトレンドセッター)に関連する問題は、大きな責任を負っているため危険です。 彼らが善行をするとき(または人々の間に良い傾向を立てるとき)、誰かがそれに従うならば、彼らの神聖な報酬は増加します。 学者が世俗的な華やかさを捨てて嫌悪感を抱き続け、必要なものだけに満足し、無限の神の力に頼り、自分のために古い服を好み、人々が良い習慣で人に従うなら、人は自分の[善行]に対して神の報酬を得るだけでなく、その人に従ったすべての人[そのような善行]を得るでしょう。 彼らの報酬は、[信者に対する神の報いから何も減らすことなく]一人にも与えられます。 もし人が世俗的な華やかさに傾倒し続けているなら、その地位の低い人は、その点でその人に似せようとするでしょうが、経済状況のせいで成功することはできません。 彼らは王[または政治的または経済的に強力な人々]に仕え、彼らの欲望を満たすために違法な資金源から富を稼ぐことを余儀なくされるでしょう。 このようにして、一人だけが彼らのすべての行動(邪

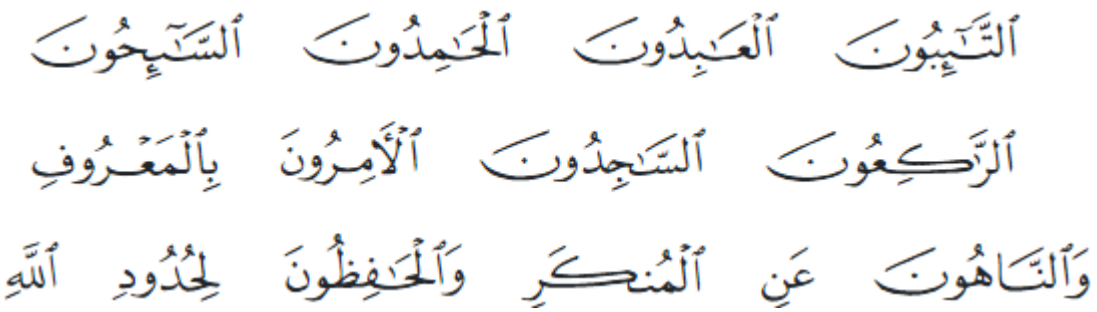
悪または有害な傾向の信奉者の)存在理由として宣言されるでしょう。 どちらの州でも、学者(またはリーダーまたはトレンドセッター)であることから利益があるのと同じように、害もあり、どちらも目に見える影響があります。

罪の闇はどのようにして心から取り除かれるのでしょうか? 罪の闇(犯した過ち)は、2つのことから取り除かれます:第一に、後悔と恥の火です。第二に、霊的な闘争の激しさです。 [これらは両方とも悔い改めを伴います]。 悔い改めにはさまざまな程度があります。 彼らの最初の学位も利点に満ちています。 後の学位は、卓越した高貴なレベルにあります。 サール・ビン・アブドゥッラー・アル・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「奴隷(人間)は、あらゆる状況や状態において主を必要としています。 良いか悪いかにかかわらず、あらゆる状態で神に立ち返る方が良いです。 たとえば、もし人が罪を犯しているなら、その人は「おお神よ!どうか私の罪にベールをかぶせてください。 罪を終えたら、人は祈るべきです。私の過ちを許してください」。 悔い改めた後、「私を二度と罪を犯さないように守ってください」と祈るべきです。 何か良いことをするなら、人は祈るべきです。私のこの仕事を受け入れてください」。 誰かが彼に、「どの悔い改めが罪を赦すのですか?」と尋ねました。 彼は答えた、「悔い改めの始まりは[神への]悔い改めであり、神に立ち返ることであり、そして悔い改めです。 悔い改めとは、手足の行動を指し、神に立ち返ることは心の行動を指し、神への悔い改めとは、被造物に気づかず、神に完全に注意を払い、自分が耽溺している罪に対して神の許しを求めることであり、さらに、神の祝福を拒絶したり、神への感謝を放棄したりするなどの過ちから許しを求めることです。 その後、人が赦され、すべての宇宙の主のもとに避難所を見つけることが望まれます。」 悔い改めた後も段階があります。 最初の段階は孤独であり、次に忍耐、次に知識の追求、次に熟考、次に[神への]懇願、次に[神との]上昇、次に[神との]調和、そして[神との]秘密の会話です。 しかし、これらすべての状態は、その栄養が[神の]知識であり、維持が神の記憶であり、信頼が神の承認であり、仲間が[神への]信頼である奴隷の心に降り注いでいます - そのような心に、神は特別な注意を払い、それを玉座に持ち上げ、そこで神の玉座の担い手の中に場所を見つけます。 誰かが預言者ムハンマドの次の言葉(神の祝福と平安あれ)について彼に尋ねました。



「悔い改める人は神に愛されている人です」。

彼は答えました、「悔い改めた人は、次のような特徴が見出されるとき、神の愛者になります。



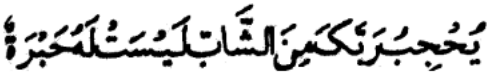
彼らは悔い改め、神を崇拝し、神を賛美し、断食し、神にひれ伏し、神にひれ伏し、人々に善と高貴さを勧め、悪を行わないように思いとどまらせ、神の限界を守る人たちです(道徳、礼儀正しさ、礼儀正しさの神が定めた限界を超えないように)。」 (クルアーン、第9章、112節)

人は、愛する人に従順で、愛されている人が嫌うものにさえ近づかないとき、「最愛の人」と呼ばれます。 この説明の目的は、悔い改めには二つの利点があるということです。第一の利益は、罪が消去され、あたかも罪を犯さなかったかのようになることです。第二の利点は、人が[神の]愛される者になる程度まで、神の近さの程度に達することです。 そして、罪の贖いと贖いにはさまざまな程度があります-いくつかの罪は、あたかも存在しなかったかのように消去され、いくつかの罪は悔い改めに見合ったように減らされますが、それは罪の根絶において同じ効果をもたらします。

ジャファル・アル・サディク(神が彼に憐れみあれますように)は言いました、「神は他の4つのことに4つのことを隠しました。[神への]従順における[神の]承認です。だからこそ、たとえ些細な従順の行為でも取るに足らないものとは考えないでください。罪に対する[神の]怒り、だからこそ、たとえ小さな罪であっても取るに足らないものとは考えないでください。[神の]しもべのグノーシス、だからこそ、しもべ(人間)を取るに足らない(卑しい、または軽蔑する)と見なさないでください。[神への]嘆願における[神の]受け入れ、だからこそ、いかなる機会にも神への嘆願(祈り)を放置しないでください、そこに[神の]受け入れがあるかもしれません。」

悔い改めの医学と罪への固執を癒す方法

人には2つのタイプがあることを知っておく必要があります:1つは、悪への傾向を持たず、善と高貴さに基づいて育てられ、悪から遠ざかることが、その人の気質(性質または内面の構成)そのものにあることである。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「あなたの主は、悪への傾向を持たない若者に驚いています。 しかし、そのような人はまれです。」 (ナレーション: *ハディースは*ムスナード・アフメド*と*タバラニ*を*ウトバ・イブン・アミール[神が彼に喜ばれますように]の権威に基づいて集めています)

2番目のタイプには、罪を犯す人々が含まれます。 さらに、悔い改める人と罪を主張する人の2種類に細分されます。 この章では、罪を主張する治療法と、この病気を根絶し、回復を与えるのにどの薬が効果的であるかを説明したいと思います。

悔い改めは回復であり、この回復は薬によって達成されることを明確に知っておくべきです。 薬に慣れるためには、病気を認識することが不可欠です。 医学とは、病気の存在を引き起こした原因に逆らうことを意味します。 特定の病気を治したいのであれば、その病気を引き起こした理由を根絶する必要があります。 さらに、すべてがその反対によって無効になることも確立された事実です。 この原理に照らして見ると、罪にこだわる原因は怠慢(怠慢)と欲望である。 無頓着の反対は知識であり、欲望の反対は、人間が[情熱と]欲望を扇動する要因に対して忍耐強くいるということです。 怠慢(または不注意)は罪の根源です。 不注意を治すために準備される薬には、知識の甘さと忍耐の苦味が混ざり合った成分があります。

宗教学者の義務: 罪を犯した人が自分が罪を犯したことに気づいたとき、あるいは知ったとき、学者(人類を悩ませる内なる霊的な病気や病気について知識のある霊的教師)の手によって癒される必要があります。 自分の病気を認識していない場合は、学者がそれを診断する必要があります。 それを実現する方法は、1人の学者が1つの国、都市、近所、マスジド(人々が神とのつながりと関係を求めて神を崇拝し、栄光を讃える場所)、または人々のグループを担当し、神への道(ディーン)について教育し、彼らに有害な

ことを説明することです。 彼らにとって[霊的に]有益なことについて彼らに知らせ、*サーダ*(永遠の幸福と無限の成功)と*シャカワ*(永遠の天罰と完全な失敗)につながる要因を詳細に説明してください。 学者は、人々が尋ねるのを待ってから導くべきではなく、学者[および霊的指導者]は預言者の相続人であるため、人々に訪れるか、訪問し、正しい道に導くよう呼びかけるべきです。 導きと教育において、[神の]真の預言者たちは、自分自身を回り、人々を呼びかけ、すべての家に行き、彼らを真理の道に招き、神への道について彼らに忠告する一人一人を見つけることが常に[神の]道でした。 通常、人々は自分の心の病気に精通していないので、学者自身が率先して指導する必要があります。 外の[身体]の病気に関連する問題では、たとえば、白斑(色素沈着していない皮膚の斑点を特徴とする皮膚病)を患っている場合、または顔に跡がある場合、鏡を見ることで自分の病気の状態を知ることができます。 しかし、誰もが鏡を持っているわけではなく、他の人がそれについて教えてくれるまで、自分の病気を知ることはできません。これは、すべての学者に個人的に義務付けられている(*ファルド・アル・アイン*)[人々を霊的な病気から積極的に助け、導く]ことです。 人は生まれつき無知であるため、神の道(ディーン)の原則と詳細に関連する問題について人々に手を差し伸べることが不可欠です。 世界は病人の住まいのようなもので、地表下にいる者は死んでおり、地表にいる人は病気です。 心の病気は体の病気よりも多く、だからこそ、この世の病院では、霊的な病気の患者が身体の病気の患者を上回っているのです。 学者[およびスピリチュアルガイド]はこの病院の医師であり、政府関係者はその組織者[および管理人]です。 もし、ある患者が自分の主治医の勧めを受け入れず、(医師が)処方した薬を服用しない場合、他の人を[伝染病]から救うために、政府当局に引き渡されるべきである。 予防を守らない患者が気が狂うか、看守に引き渡されて看守を投獄し、自分自身や他の人を[伝染病]病気から守ることができるのと同じように。

なぜ心臓の病気はもっと多いのですか? 身体の病気に比べて、心臓の病気は数多くあります。 その理由は3つあります。第一の理由は、患者が自分が感染している病気を知らないことです。 第二の理由は、この(心の病気)の結果はこの世では[一般的に]目に見えないのに対し、身体の病気の結果はこの世で目に見え、[時には]死に至るからです。 したがって、人々は自分自身を治さなければ、死によって地球上から姿を消すことを知っているため、身体の病気を恐れています。 心の罪(病気)の結果は心の死です。 しかし、この世(世俗生活)ではそれについて知らないので、罪に対する憎しみは少ないのです。 人間は自分が罪を犯したことを知っていても、自分の罪をあまり重要視せず、悔い改めと赦しを求めることに関連する事柄を神に頼っています。 しかし、人は身体の病気を神に頼るのではなく、医者から医者へと走り回ります。 第三の理由は最も重要で根本的なものですが、むしろそれ自体が不治の病であり、心臓の医師が[ほとんど]存在

しないということです。 これらの病気にかかっている人たちは宗教学者ですが、彼ら自身が今日最悪の[霊的]病気に感染しています[彼ら自身は霊的な完全性と、その結果として霊的な病気の人々を治すのを助ける専門知識が欠けているため]。 自分自身を治すことができないのに、どうやって他人を治すことができるでしょうか? これらの[心の][霊的]病気は蔓延しており、それらから救われる人はめったにいません、だからこそ、学者のこの欠点は明らかになりず、彼ら(学者)は[霊的な道から]創造物を思いとどまらせ、この病気を増加させる種類のものを彼らに話します。 これらの病気の中で最も破壊的なのは、世界への愛(世俗性)であり、それは神への道の医師(*ディーン*)を支配しています。 そのため、彼らは他の人に治療法を提案していますが、彼ら自身はこの病気にふけって、この病気を非常に蔓延させており、むしろ流行の規模を想定しています。

[霊的な病気の]医師の不足は、被造物を破壊する原因となっています。 医師、治療者であるはずの人々が、単純な心の創造物を強奪し、さまざまな方法で誤解させるために、さまざまな戦術を使用しています。 彼らが彼らのために良いことをすることができないなら、彼らは彼らに対して不誠実になるべきではありません、もし彼らが改革をもたらすことができないなら、少なくとも彼らは彼らを悪化させるべきではありません。 代わりに、彼らが口を開くたびに、彼らの目的はますます多くの人々に来てもらうことであり、その目的は、彼らが人々に許しの誤った希望を与え、神(リジャ)への希望の原因を好み、神の憐れみの議論に言及する場合にのみ達成できるので、静かにしている方が良いです。 そして、人々が神の罰を恐れさせられた伝統について、(悪行と悪に対する)神の怒りについて言及することを意図的に避けてください。 人々はそのような説教に多くの満足感を見出し、これらのことは彼らの耳に甘さを注ぎ込み、心に財産を与えます。 これらのいわゆる「学者」の集まりから人々が戻ってくると、罪を犯す大胆さはさらに高まり、神の寛大さへの依存はさらに高まります。 医師が無知で不誠実であれば、健康を与える代わりに、患者を死の淵に押し込む致命的な薬を患者に与えることになることは確立された事実です。 それは、患者に必要な薬が与えられず、その薬が与えられるべき(投与される)方法で与えられていないからです。

罪の原因の治療法: ここで、罪の原因(悪と不正行為)の治療法について説明します。 「罪の罰はすぐには見えない」という第一の原因の治療法は、将来起こるに違いないことが起こるだろうと考えることです(たとえそれが遅れていて、世俗的な生活では見られないかもしれませんが)、その日はそう遠くなく、代わりに、それを見る目を持つ人のすぐ近くにあるのです。 さらに、死は[履いている靴の]靴ひものように人間にとても近いものです。 審判の日が近づいており(死は死後の世界と審判の日への旅の始まりであ

るため)、しばらくしてから起ころうとしているのかもしれません。 また、人間は生まれつき、自分の将来の改善のために一生懸命働き、苦難に耐え、例えば、海路(貿易、商業、教育などのための長くて困難な旅)を旅し、これらの旅を通じて得られる利益が将来の人生に役立つことを期待して砂漠を歩き回ることを考えるべきです。 それだけでなく、病気になり、信者ではない医師が、冷水は健康に有害であり、死に近づくことさえあると告げた場合、冷水は非常に心を落ち着かせますが、触れることさえしません。 非信者のアドバイスで[喉の渇きを癒すために冷たい水を飲む]世俗的な喜びを放棄することは考慮する価値があります。 医師が優れている可能性は十分にありますが、医師が常に正しいレベルの医療専門知識を持っているという確立された奇跡はありません。 一方、[神の]真の預言者の真実性については、確立された奇跡があります。 人は、非信者を信じることはできますが、[神の][真の]預言者が[人類の向上のための神の導きの観点から]もたらしたものを信じることはできないと考えるべきです。

2番目の原因は同様の方法で治療できます。 罪の快楽にこだわる支配があるなら、わざわざそれを捨てて、数日に値する世俗的な生活の快楽を離れることができないなら、どうして永遠に続く永遠の命の快楽から離れることができるのかと考えるべきです。 もし、この人生で数日の価値のある痛みに耐えられず、この小さな苦難に我慢できないなら、どうして地獄の苦しみに耐えることができるでしょうか。 さらに、不快な余波に満ちた世俗的な祝福[と喜び]に忍耐できないのであれば、どうして来世の純粋で清い祝福に忍耐できるでしょうか。

第三の原因、すなわち、悔い改めを受け入れることを期待して悔い改めをすることの治療法については、地獄の住人が叫ぶ理由そのものが、この[悔い改めの]遅れであると考えるべきです。 なぜなら、死に至る罪からの悔い改めを遅らせてしまうからです(寿命が期待されているにもかかわらず、死の時期が不明で、あらゆる年齢の人々がさまざまな原因で死ぬため)、その後、悔い改めの機会が残されなくなります。 悔い改める前に死ぬ可能性はあり、たとえ生きたとしても、罪を捨てない理由が今存在する罪を捨てない理由は後にも存在する可能性があるため、今は罪を捨てることができないことをどうやって知ることができますか。 間違ったことをし続けることで、後で習慣が固まってしまう可能性さえあります。 習慣を身につけていない人は、それを捨てたいのであればそれを捨てるのが簡単ですが、定着した(そしてしっかりと確立された)習慣を持っている場合、欲求にもかかわらずそれを捨てるのは難しいと感じます。 言い訳者の例は、木を伐採したいが、木が丈夫で簡単に取り除くことができず、来年それをするためにそうしてしまう人がいるというものです。 木がどれだけ長く留まっても、その根は伸

びて強くなり、年齢を重ねるにつれて弱くなることはよく知られています。 体力があるにもかかわらず、比較的弱い木を取り除くことができないのに、弱い状態でどうやって強い木を取り除くことができるという愚かなことでしょうか?

神の憐れみと恵みを待つという第四の原因の治療法は、以前に説明しました。 その例は、自分の富と所有物をすべて慈善活動に捧げ、家族を貧困にし、神が目に見えないものから一つの糧を送ってくださるのを待ったり、[辺鄙な荒れ果てた]不毛の土地で一つの宝物を与えたりする人の模範のようなものです。 [悔い改め、贖い、償いなしに]罪が赦される可能性は、宝物を見つける可能性のそれに似ています。あるいは、そのような人の類似性は、白昼堂々と物が略奪される都市に住んでいるときに、自分の物を前庭に置いておいて、たとえ安全な場所に保管できたとしても、自分の物を[略奪から]守ってくれる神を信頼していると言う人のようなものです。 これらの例では、宝物を見つけたり、盗み犯から自分の商品を守ったりすることは不可能です。 そのような信頼(または見当違いの期待)のために生計を立てるものを離れたり、不用意に自分の商品をそのような[危険な場所に]置いたりする人は、大愚か者です。 同様に、自分の罪を赦すことは可能ですが、赦しを期待して罪を犯し続け、(その期待のために)悔い改めないことは極度の無知です。

第五の原因、つまり[神の]真の預言者の真実性を疑うことの治療法は、預言者の真実性と真実性を証明する要素です。 疑っている人間は、「自分たちが真理の上にあることの証拠である奇跡を起こした預言者たち。この領域(世界または物質領域)とは別の来世の領域があり、死後、人はその領域と結びつくことになると私たちに告げた預言者。このニュースの真実性を確信していますか、それとも人が同時に2つの場所にいることは不可能であるかのように不可能ですか?」 もし[預言者が真理に基づいていたことは]不可能だと思うと答えるなら、そのような人と議論しても無駄です。 もし人がそれについて疑問を持っていると言うなら、「見知らぬ人が、あなたが調理済みの食べ物を残して家を出たとき、蛇があなたの食べ物に口を入れ、その毒と混ぜたと告げたら。 もしあなたがこの見知らぬ人の真実性を信じるなら、たとえそれがすべての食べ物の中で最も美味しかったとしても、あなたはまだその食べ物を食べるか、それともそのままにしておくでしょうか?」 それに対して、「私はそのような食べ物を食べません。たとえその見知らぬ人が嘘をついていても、私は予防策からそれを食べません。 せいぜい、その食べ物は無駄になるでしょう(見知らぬ人が嘘をついている場合に備えて)。 しかし、もしその見知らぬ人が真実を語っているのなら、この食べ物を食べることは私にとって致命的です。」 そして、そのような人に、「あなたは見知らぬ見知らぬ人を信じて

、このニュースを信じて食べ物を捨てます。たとえその見知らぬ人が何の議論も証拠も持っていないとしても、嫉妬してこれを言ったか、あなたを心配させるためにこれを言った可能性があります。 一方、奇跡によって裏付けられた預言者の言葉があり、聖人、学者、賢明で知的な人々の間にコンセンサスがありますが、あなたは預言者の言葉を受け入れたり、預言者によって伝えられたニュースを受け入れたりしません。 大衆の中で無知な人はこの議論の対象ではありませんが、知的な人の中に審判の日を信じず、賞罰を確信していない人がいるでしょうか? その外観には違いがあるかもしれませんが、その存在についてはすべての知性の人々の間で満場一致のコンセンサスがあります。もし彼らの知らせが本当なら、あなたは永遠に続くような[神の]罰に近づいたでしょう、そしてたとえ彼らが嘘をついていたとしても、あなたには大きな損失はありません、あなたが持っている唯一の損失は、あなたがこの世のいくつかの喜びを達成できないことです。」 宛先がほんの少しでも知性を持っていれば、世俗的な命がどれほど長くても、それは永遠の命に相当するものではないため、悔い改めを少しでも遅らせることはありません。 もし私たちが[世界が穀物で満たされている]と仮定し、鳥が100万年後に一粒を盗み、100万年後に別の穀物を盗み、そしてこのように続けたと仮定すると、その場合でも、すべての穀物は[ある日]完成しますが、永遠の命は減少しません。 それゆえ、知性を持つ人が、数日に値するこの[一時的な]人生の喜びに忍耐強く、永遠の幸福と永遠の命(サーダ)の無限の勝利を達成することにおいて、どうして怠惰を示すことができるでしょうか? だからこそ、アリ(神が彼を喜ばれますように)は、そのような事柄を調査したり認識したりすることができない知性を持つ人に、「もしあなたが真実を語っているなら(来世はなく、この人生は私たちのすべてである)、そうすれば、あなたも私も救われるでしょう。 しかし、もし私が真実を語っているなら(来世の存在と、永遠の幸福か永遠の天罰かの永遠の命について)あなたは[来世で]滅ぼされるでしょうが、私は救いを得るでしょう。」 それにもかかわらず、知的な人間は、あらゆる状況において平和と予防の道を歩むべきです。

第12章 逆境、試練、苦難に直面したときの忍耐、そして祝福と人が持つすべての良いものへの感謝による回復力

浮き沈みは人生に欠かせないものです。 個人的および集団的な悲劇、事故、疫病、災害、愛する人の喪失、物質的損失、人生の挫折と課題、病気、悲しみ、苦難、戦争、飢餓、貧困、失業、混乱、社会の混乱と不安、絶望、内面と外面の平和の欠如、不安、危険、他人の行き過ぎに対する怒りなどは、この世俗的な存在における人間の経験の避けられない部分です。 これらすべての不快で不快な状況は、それらを防ぐために最善を尽くしたにもかかわらず発生する可能性があります。 自分の最善の行動を保つことができれば、他の人は同じことをすることができず、その結果、怒り、葛藤、その他のさまざまな否定的な感情、そして人間の内面と外側の状態が生じる可能性があります。 そのようなネガティブなことに屈し、心が折れ、絶望し、打ちのめされ、ネガティブな感情、怒り、悲しみ、絶望、憂鬱に巻き込まれるのはいつも簡単です。 このような不快な状況が発生したときに効果的に対処する唯一のツールは、忍耐力と忍耐強い忍耐力を最大限に発揮することです。 忍耐の美徳は数え切れないほどあり、その結果、個人および集団の人間の幸福に計り知れない利益をもたらします。

忍耐の鏡像は、食べ物、空気、呼吸、健康、繁栄、平和、安全、幸福、極端な気象条件から身を守るために着る服や頭に屋根があること、友情、人間関係、家族、そして自分の心、心、知性を損なわないなど、当たり前だと思われているものであっても、自分の祝福を数えることである感謝です。 感謝とは、自分が持っているすべての良いことに感謝し、感謝することです。 忍耐と同様に、感謝と感謝は、人間の個人的および集団的な幸福に計り知れない精神的な利益をもたらします。 ガザリは、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活

」の第4巻または四分の一の第2巻の第2巻から、これらの計り知れない人間の資質を見事に扱っており、ここでは次のように要約された形で紹介されています[18]。

信仰(*イマーン*)には、半分の忍耐と半分の感謝(感謝)の2つの部分があります。 これらは神の資質からの 2 つの資質であり、神の名前からの 2 つの名前です - *サブール* (完璧な忍耐力を持つ者) と *シャクール* (完全な感謝を持つ者) です。 忍耐と感謝の現実に精通していないということは、信仰の両方の部分に精通していないことであり、神の二つの性質[または神の属性]について無知であるということです。 信仰がなければ、神の近さは達成されず、信仰を持つ必要がある存在を知らずに信仰の道をたどることはできません。 このことから、信仰の忍耐と感謝の両方の部分に光を当てることが不可欠であることがわかっています。 [信仰の]これらの部分は両方が統合されているので、両方を同じ本で7章に分けて説明します。

忍耐の説明

忍耐の卓越性: 神は忍耐強い人々の無数の資質を説明してくださいました。 クルアーンは70か所以上で忍耐について言及しています。 これらの聖句では、多くのより高い[霊的]程度と善が忍耐に起因しています。 たとえば、神はこう言われます。

وَجَعَلْنَا مِنْهُمْ أَئِمَّةً يَهْدُونَ بِأَمْرِنَا لَمَّا صَبَرُوا۟

「われは、彼らが忍耐を行使したとき、彼らの中から多くの指導者(従うべき模範)を作り、われの命令によって人々を正しい道に導いた。 (クルアーン、32章、24節)

وَتَمَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ ٱلْحُسْنَىٰ عَلَىٰ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ بِمَا صَبَرُوا۟

「そして、あなたの主の美しい言葉(約束)[おおムハンマド!]イスラエルの子らを支持することは、彼らの忍耐のおかげで成就した。」 (クルアーン、7章、137節)

وَلَنَجْزِيَنَّ ٱلَّذِينَ صَبَرُوٓا۟ أَجْرَهُم بِأَحْسَنِ مَا كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ

「そして、忍耐強く忍耐する者たちには、われは必ず彼らの善行の報いを与えるであろう。」 (クルアーン、16章、96節)

أُولَٰئِكَ يُؤْتَوْنَ أَجْرَهُم مَّرَّتَيْنِ بِمَا صَبَرُوا۟

「そのような人々は忍耐力のおかげで二重の報酬を得るでしょう。」 (クルアーン、28章、54節)

إِنَّمَا يُوَفَّى ٱلصَّٰبِرُونَ أَجْرَهُم بِغَيْرِ حِسَابٍ

「忍耐の民には、無限の[神の]報いがあるでしょう。」 (クルアーン、第39章、10節)

この聖句の中で、神は忍耐に対して無限の神の報いを与えると約束されました。 すべての義行の中で、これ(忍耐)は、神の報いが無限である唯一のものです。 神は忍耐を働かせている人々に、神は彼らとともにおられることを約束されました。

وَٱصْبِرُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلصَّٰبِرِينَ

「そして辛抱強く待ってください。 まことに、神は[あらゆる困難、災難、逆境に直面しても忍耐を行使し、神が彼らに安らぎの扉と出口を開くまでその状態で忍耐する]人々とともにおられます。」 (クルアーン、8章、46節)

ある場所で、慈悲、祝福、導きの性質が忍耐の人々のために組み合わされています。 これら 3 つの性質が組み合わさって、他の崇拝者には起因していません。

أُولَٰئِكَ عَلَيْهِمْ صَلَوَٰتٌ مِّن رَّبِّهِمْ وَرَحْمَةٌ ۖ وَأُولَٰئِكَ هُمُ ٱلْمُهْتَدُونَ

「彼ら(忍耐の人々)には、主からの挨拶(祝福)と憐れみがあり、彼らは[神に][主のもとへ]導かれる人々です。」 (クルアーン、第2章、157節)

忍耐の[美徳と卓越性]に関する預言的な伝統は数多くあります。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

اَلصَّبْرُ نِصْفُ الْإِيمَان

「忍耐は信仰の半分です」。 (ナレーション: *ハディースは*アブドゥッラー・イブン・マスードの権威に基づいて*アブ・ナエムと カティーブ*を収集します[神が彼を喜ばれますように])

ある伝承では、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「あなたに与えられた量が少ないものには、確信(*ヤキーン*)と忍耐(*サブル*)が含まれます。 夜の(*タハジュド*)の祈りと超エロガタリー(任意)断食に大きな分け前がなくても、両方からより大きな分け前を受け取った人は、心配する必要はありません[確信と忍耐が自分に有利に重くのしかかっているので]。 あなたが今日置かれている現在の[貧困と困窮]の状態において、もしあなたが忍耐を行使するなら、あなたがた全員が一緒に行っているような多くの善行をもたらすよりも、私にとってよりましです。 しかし、私がいなくなった後、世界があなたのために開かれ、あなたがたはお互いを悪いと考え始めるのではないかと心配しています。 その時、天の住人(天上の存在)はあなたを悪い人だと思うでしょう。 この状態(貧困、困窮、困難、逆境)で忍耐を行使し、[すべての過ちに対する自己省察と自己説明責任の状態で]自分自身に責任を負わせる人は、[神から]完全な報酬を得るでしょう。」 その後、彼は次の聖句を暗唱しました。

مَا عِندَكُمْ يَنفَدُ ۖ وَمَا عِندَ ٱللَّهِ بَاقٍ ۗ وَلَنَجْزِيَنَّ ٱلَّذِينَ صَبَرُوٓا۟ أَجْرَهُم

「あなたが持っているものはすべて滅びるに違いありませんが、神にあるものはすべて永遠で永遠です。 そしてまことに、われは忍耐強い者たちに、彼らがこれまでに行った最善のことに応じて、大きな報いを与えるであろう。」 (クルアーン、16章、96節)

神は預言者ダビデ(神の祝福と平安あれ)に「私の性格を採用してください。私の性格の特徴の一つは、私が非常に忍耐強いことです」という啓示を送りました。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が *アンサール*(迫害を避けるためにメッカから逃れてきたイスラム教徒を受け入れたメディナの原住民)を訪ねたとき、彼らに尋ねたと語っています。 誰もが黙っていた。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は「はい、私たちは信者です」と答えました。 預言者は「あなたの信仰(イマーン)のしるし(しるし)は何ですか?」と尋ねました。 アンサールは、「私たちは繁栄しているときに[神に]感謝し、逆境に直面しているときに忍耐を持ち、[神の]決定(神の命令)を受け入れています」と答えました。 彼は言った、「*カバ*の主よ!あなたがたは信者です[これらが真の信者の特徴であるため]」。 (ナレーション: *ハディース集 タバラニ*) イエス(彼に神の平安と祝福あれ)は、「嫌いなこと

に忍耐力を行使すれば、好きなことを達成できる」と言われました。 ウマル・ビン・アル・ハッタブ(神が彼を喜ばれますように)は、アブ・ムサ・アル・アシャリ(神が彼を喜ばれますように)に詳細な手紙を書き、その中にとりわけ次のように書いています。 人類の向上のための神の知恵は、たとえそれが望ましく楽しいように見えるかもしれませんが]。 忍耐が信仰の核心であり、*タクワ*(敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏れ筋)がすべての正しい行いの中で最も優れており、それは忍耐から来ているからです(*タクワ*は忍耐から生まれます)」と語った。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は、「信仰の基盤は、確信、忍耐、闘争(特に内なる霊的闘争の観点から)神の道における闘争、そして正義(すべての人に対して、そしてすべてにおいて公平)の4つの柱にあります」と言いました。 知的には、忍耐力は依然として良い資質ですが、忍耐の現実とその意味を説明するまで、これは完全には理解できません。

忍耐の現実と意味

忍耐 - 神への道の駅(*ディーン*)、霊的闘争の目的地(*スルク*):忍耐は神への道の駅の中から駅であり、霊的旅行者の目的地の中から目的地であることを知っておく必要があります。 神への道のすべての駅は、次の 3 つの問題にあります。第二に、[内なる霊的]状態。第三に、行為または[外側の]身体的]行動。 その中でも、理解は[霊的]状態を生み出し、それが[高貴な]行動を生み出す基本的な問題です。 3つすべての中で、理解は木に似ており、状態は枝に似ており、行動は果実に似ています。 スピリチュアルな旅人の目的地はすべてこんな感じです。 忍耐は、理解と[内なる霊的]状態の組み合わせの名前です。 行為は、これら両方の存在(理解と内なる精神状態)の結果として生まれる果実です。 次に、3つの問題すべてに光を当てます。

グノーシスまたは理解:天使、人間、動物の間に存在する順序(秩序)の理解がなければ、忍耐の理解は達成できません。 忍耐は人間の独特の特徴です[物事の全体的な計画における他の創造物には共有されていません]。 動物や天使には忍耐さえ想像できません - 動物ではその固有の欠点のために、天使ではその固有の完璧さのために。 この詳細は、動物に欲望が押し付けられ、動物が動物に征服され、その動きや静けさの原因が単なる欲望であるということです。 彼らには、自分の中にあるこの欲望を抑制し、この目的から妨げるような内なる力はありません。 欲望と戦う上で、抑制と反対の力を保持することが忍耐です。 天使は、雄大な主(神)を切望し、神との距離の近さと近さを喜ぶ

ためにのみ創造されました。 神の近さと壮大な主の存在の程度の憧れから彼らを遠ざけるような欲望は彼らに置かれていません。 また、神の臨在から彼らを思いとどまらせる力を圧倒し、征服させる軍隊も必要としていません。 それは、神の臨在から人を思いとどまらせる力は欲望であり、欲望はその中に創造さえされていないからです。 一方、人間は欲望と、人間が欲望を圧倒できる力に恵まれています。 人間は創造の初めに、動物のように欠点(欠点、欠陥、弱さ)を持って創造されてきたので、人は自分が必要としている食べ物への欲望以外に他の欲望を持っていませんでした。 しばらくして(人生が進むにつれて)、遊び(スポーツ)、装飾、美化への欲望が一つに生まれました。 その後、人生がさらに進歩し、思春期に達するにつれて、結婚への欲望が生まれました。 これらの欲望は特定の順序で現れます。 最初は、自分の中に忍耐の力がありません。 だからこそ、忍耐とは、それぞれの目的と目的の衝突により、ある軍隊が別の軍隊の間で戦争が起こっているときに、他の軍隊に対して毅然と立ち向かい、粘り強く立ち向かう名前です。 子供に存在する唯一の軍隊は、動物にも存在する欲望です。 しかし、神は神の寛大さと慈悲から人間の地位を[他のすべての創造物よりも]優れているようにし、その地位を動物よりも高く保っておきました。 だからこそ、人の存在が完成するとき(人間は思春期に成熟し、身体的に発達する年齢に達しますが、精神的、心理的、感情的、知的発達の本格的な発達は40歳頃に起こります)、神は一人一人に二人の天使を任命します。 この二人の天使[そして、彼らが割り当てられた人に対して行う仕事]のせいで、人間は動物と区別されます。 それ以外にも、人間には他にも特異な特徴があります - 第一に、神のグノーシスを持ち、彼の預言者を理解するという特徴です[ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)と、彼がもたらした神のメッセージは、地球上の人類の歴史を通じて他のすべての神によって定められた預言者によってもたらされたのと同じメッセージの集大成です)。 第二に、すべての事柄の展開とその最終的な結末に関連する[神の]知恵と理由を理解するという特徴です。 これら 2 つの資質または特性は、[正しい道] を導き、導く責任がある天使からも得られます。 動物は神とその預言者のグノーシスを持っておらず、最終的な終わりも知りません。 代わりに、彼らは特定の時間に自分が望む道だけを見て、おいしいと思うものをただ待ちます。 これは、病気になって有益な薬を与えても、それを受け入れず、その恩恵を受けないほどの状態です。

人間は、[内なる神の]導きの光から、欲望に従うことは、その最終的な結論(終わり)の観点から(それが人を陥れる望ましくない状況の観点から)人にとって有害であることを知っています。 しかし、これ(欲望に従うことは人間にとって有害であるということ)を知っているだけでは十分ではなく、有害なものをすべて捨てる力を持つべきです。 人間は、病気[および健康に害を及ぼす楽しい食べ物、飲み物、物質]など、自分に害を及

ぼすものには精通していますが、それらを放棄したり予防したりする力はありません。 その場合、人は欲望を取り除く能力と力を必要とし、それに伴い、低次の自己(ナフ)との摩擦、議論、敵意が終わるように、非常に多くの精神的な闘争を行うことができます[その結果、低次の自己はすべての善に従属するようになります]。 この目的のために、神は人を導きの道に留め、人には見えない[神の力の]軍隊で人を助け、支援する天使を任命されました。 欲望の軍隊と戦い、彼らを撃退することは、これらの軍隊の義務です。 これらの[天使の]軍隊は、時には弱くなり、時には強く立ち上がる。 彼らの弱さまたは強さは、神からどれだけの助けを受けたかによって異なります。 それは[神の]創造物に対する導きの光の強さまたは弱さのようなものです。

神道の力と欲望の力: 理解しやすいように、欲望を征服する動物よりも人間に優位性を与える性質を「神への道の力」と呼び、その意味を探求する欲望を「欲望の力」と呼びます。 今、私たちは、神の道の力と欲望の力との間に戦争が起こっていることを理解する必要があります。 最初の[力]が2番目の力に打ち勝つこともあれば、2番目の力が最初の力を打ち負かすこともあります。 この戦争の戦場は[人間の]心臓です。 神への道の力は、神の党の助け手である天使たちの助けを得て、欲望の力は、神の反対者の助け手であるサタン[とその党]から助けを得ます。 忍耐とは、神への道の力が、欲望の力に対してしっかりとしつこいままであり続けることです。 [神のしもべ、つまり人間]が粘り強く相手(欲望の力)を打ち負かし、常にそれに反対することに熱心であり続けるなら、それは神の党を助けることに等しく、忍耐強い人々のグループに含まれることになります。 しかし、欲望の力が人を征服し、忍耐できなくなるまで弱くなり、敗北し、(欲望の力に屈して)忍耐できなくなると、その人はサタンの一党に加わることになります。

霊的状態とその果実: この説明の結論は、欲望を捨てることは忍耐の状態で生まれる行為であるということです。 つまり、忍耐状態の果実は欲望の放棄です。 さらに、忍耐は、欲望の力に対してしっかりとした神の道の力です。 神への道の力の継続と永続は、欲望とそれに反対する理由を理解することによって達成される状態です。 欲望は神の敵であり、[神の]導きの道の盗賊であるという確信を持つとき、神の道の力は強化されます。 この確信は、「信仰」(イマーン)として解釈される理解です。 神の道の力が強いとき、人は忍耐力を揺るがすことはなく、欲望の影響に反対するそれらの行動が自動的に実行されます。 このことから、欲望の力とは反対の神の道の力を理解せずには、欲望を捨てる段階は完了できないことが証明されています。

私たちの目的に戻る: [要約すると]忍耐とは、低次の自己からの欲望の力との戦いにおける神の道の力の忍耐です。 この戦闘[争いと絶え間ない闘争]は、人間の特有の特徴です。 だからこそ、「*キラマン・カティビーン*」(すべての人間の両肩に乗った二人の天使は、善悪を問わず、その個人のすべての行いを、審判の日に神の前に提示される生涯にわたる人間の行為の記録に記録し、その個人に対する永遠の幸福の達成者または永遠の天罰の達成者のいずれかになる)は、狂っている人(精神能力を失い、医学的な意味で何も残っていない)、子供(思春期に達していない人、その時点で識別力を獲得し、自分の行動に対して神に責任を負うようになる)は、自分の行動を記録しません。 天使たちが[すべての事柄において善を行うという良心的な決断を下し、その決定の結果に基づいて行動するという点で]天使たちから恩恵を受けることに注意が払われるなら、天使たちはそれを善行として記録し、彼ら(天使たち)が[あらゆる事柄において悪を行うという良心的な決断を下し、その決定の結果に基づいて行動するという点で]避けられるなら、 彼らはそれを[生涯の行為の記録に]悪として書きます。 狂った子供たちは、それら(天使の力や神への道の力)から恩恵を受ける能力を持っていません[彼らはすべての事柄において善悪についての識別力を持っていないため]、だからこそ、[天使の力や神の道の力]に注意を払ったり避けたりすることは、彼らから想像できません。 彼らは、それらに注意を払ったり、回避したりできる人々の行為のみを記録します。

しかし、導きの光の夜明けは幼い頃(子供が恥のことを知り始めるとき)に始まり、この光は識別の年齢(思春期)までに完成し、完成することがあります。 しかし、この導きは完成しておらず、その意味に基づいて行動しなければ、来世に害はありませんが、世俗的な害を避けることはできません。 子供の保護者または責任者であり(親のように)、また[その子供に]親切で愛情深く、「*キラマン・カティビーン*」のように[本質的に]気さくな人は、善と悪のすべての想像力(基準または考慮事項)を子供の心の本に刻印する必要があります。 その後、この本が広がり、子供が良いことをすれば子供を褒め、子供が悪いことをすれば、子供は戒められ、叱責されます。 自分の世話と訓練の下でこの種の子供を扱う保護者または責任ある個人は、天使の習慣を受け継ぎ、彼らの[高貴な]性格特性の信頼できる担い手です。 子供の利益のために天使の性格特性、資質、習慣を採用することによって、そのような個人は天使のように神に近づき、預言者や神の親しい人々(*シディキーン*または聖人、グノーシス主義者)のグループに含まれるでしょう。

忍耐の3つの段階:欲望が終わり、神への道の力が支配的になり、絶え間ない霊的闘争と[その道]での忍耐の延長の後、忍耐が容易になるとき、[神の]しもべは「*リダ*」または

神の意志の受け入れと呼ばれる[霊的]地位に到達します。 これについては、「神の意志の受容」(第16章)の書で詳しく説明します。 一部のグノーシス主義者は、忍耐の人には3つの段階があると言っています。 1つの程度は、欲望の放棄、または悔い改めの人々の程度です。 もう一つの(第二の)程度は、神の意志を受け入れることであり(災難が降りかかるように)、それは禁欲の人々の程度です(ザヒディーンとしても知られる低次の自己の欲望から)。 第三の段階(これは最高の程度でもあります)は、神が人に与える扱い[それが良いか悪いか、望ましいか望ましくないか、安らぎか苦難か、繁栄か逆境か]を愛することです。 これは、神の友人や親しい人(*シディキーン*)の程度です。 私たちは、[神の]愛の書(第16章)で、[神の]愛の[霊的]立場は、神の意志を受け入れる[霊的]立場よりも優れており、それは今度は忍耐の[霊的]立場よりも優れていることを説明します。

忍耐は、義務的(ファルド)、*スーパーエロガティブ(オプションまたはナフィル/ナフィラ)*、*望ましくない(マクル)*、*禁止(ハラム)など、神の法の命令の観点からさまざまなタイプに分類できることを知っておく必要があります。* したがって、[神の法]で禁止されているもの、望ましくないもの[*マクル*はあるが禁止されていない]ことに対しては超強制的または任意なものに対して忍耐を行使することが義務付けられています。 神の律法で禁じられている痛みを与えることに対して忍耐することは禁じられています。 たとえば、誰かが誰かを殺したいと思っている場合、それを知っている人はそれに我慢すべきではなく、それを防ぐために必要なことをすべきです。 それに忍耐を持つことは違法です(それは神の法に違反するので)。 同様に、誰かが妻に嫌がらせや痴漢をして怒りや名誉感を煽ったが、忍耐のためにそれを表現せず、妻に起こっていることを黙って見守っている場合、この忍耐は禁じられています(神の法則では、人は必ずそれが起こらないようにする義務があります)。

この分類の目的は、忍耐に関する神の律法の基準を理解することです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の預言的伝統では、忍耐は信仰の半分と呼ばれてきました。 それは、すべての種類の忍耐が賞賛に値するという意味ではなく、むしろ、神の法の目から見て良い忍耐が良いという意味であり、そうでなければ、理由もなく体に苦難を与えたことに対する神の報酬や報酬はありません。

しもべはすべての州で忍耐を必要としています

人生で遭遇する状況には、自分の欲望に合致しているものか、望ましくないものかの2種類があり、嫌いであることを知っておく必要があります。 使用人は、これらの両方の状態で忍耐を必要としています。 望ましい状態には、健康、富、名声、親戚、友人、助け手、信奉者の豊富さ、富と所有物の過剰さ、世界のすべての喜びと祝福が含まれます。 このような状況では、たとえこれらの快楽が許されているとしても、低次の自己(*ナフス*)を抑制せず、すべての世俗的な快楽や喜びの中で解放されたままにしておくと、それ(低次の自己)が反抗的で自慢するのではないかという不安があるため、使用人は忍耐を切実に必要としています。 クルアーンによれば、これは、繁栄しているときに反逆に傾倒するという人間の気質の特異な特徴です。

كَلَّآ إِنَّ ٱلْإِنسَٰنَ لَيَطْغَىٰٓ ٦ أَن رَّءَاهُ ٱسْتَغْنَىٰٓ ٧

「本当に、人間は、自分自身が豊かで、自給自足で、自立していると見なすとき、(良識と道徳的正しさの限界を越えることによって)反抗に訴えます。」 (クルアーン、第96章、6-7節)

そのため、一部のグノーシス主義者は、信者は苦難の中で忍耐を行使するが、神の親密な人(シディク)は幸福(平和と繁栄)の状態で忍耐を行使すると言います。 サール・ビン・アブドゥッラー・アル・トゥスタリ(神が彼に憐れみあれ)は、「幸福の状態(平和と繁栄)に忍耐強くあることは、困難に忍耐するよりも難しい」と言いました。 [預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)]の預言者の仲間たちに世俗的な富と所有物の扉が開かれたとき、彼らはこう言いました。 今、私たちは富と繁栄によって[神に]試されています。私たちはそれに忍耐力を持てないかもしれないし、(そうなれば)私たちは(そのテストに)失敗するだろう」と語った。[預言者の仲間たちは、預言者の死後、神への恐れから繁栄にふけるのを自制できなかったことへのこの懸念を表明しました。 彼らは、逆境と繁栄の両方において、神の道を歩み続けるために忍耐が必要であることを認識していたため、その点でも勝利を収めました]。

2番目のタイプには、自分の欲望に従わない状況が含まれます。 これらの状況には、善行や悪行など自分のコントロール下にあるもの、第二に苦難や事故(災害)など自分のコ

ントロールできないもの、そして第三に、最初は自分のコントロールの及ばないものの、後で何かをすることができるものの3つのタイプがあります。

自分の葛藤や苦難を隠すことは忍耐の完成です:忍耐の完成とは、自分の病気、貧困、その他すべての逆境を[すべての人から]隠すことです。 忍耐のこれらの分類から、忍耐はすべての状態と行動において義務付けられていることがわかります。 欲望から身を守るために孤独を受け入れる人は、どの程度一人でいるかに関係なく、忍耐に気づかないことはできません。 それは、悪魔のほのめかし(*ワスワア*)が心に影響を及ぼし、これらのほのめかしによって引き起こされる動揺と苦痛は、孤独の中でさえ[内なる]平和[または心の平安]を得ることを許さないからです。 心には、失ったものや償いの方法がないものについて、または将来手に入れることができるものについての2種類の考えが起こります。 思考は、(過去に)失われたものであれ、将来得られると期待するものであれ、どちらの場合も時間を無駄にします。 心は人間の道具であり(たまたま人間の存在の本質であり)、人の生涯はその資産です。 もし人の心が一瞬でも神の記憶(*ディクル*)と熟考(*フィクル*)を怠ったままなら、それは大きな損失となるでしょう。 記憶とは、神(すべての人間の最終目的地である神)への憧れと神との親密さを育む心の行動を指します。 瞑想とは、神のグノーシスを獲得し、そのグノーシスを神の愛を達成するための手段(*ワセラ*)にするための[心の]行動を指します。 それは、心の思考が許容される事柄(生計手段やそれを達成するのに役立つすべてのものなど、世俗的な生活に必要なもの)にあるときに可能です。 しかし、ほとんどの場合、それは当てはまりませんが、多くの場合、心の思考には欲望とそれを達成するための戦略が含まれています[それらの思考の焦点です]。 この人は、一度でも自分の意思に反して行動した人や、自分に逆らうことができるという迷信(疑い)を持っている人と常に争いの状態にあります。 代わりに、一人に対して極めて誠実で献身的で利他的な態度をとり、自分の好意を得るために一生忙しくする人々は、この人は彼らを自分の敵とさえ考え、彼らを征服し、心から一人に反対するすべての考えを消すための戦略を考えます。 要するに、これは彼らの永遠の耽溺であり[彼らは絶えずこれらの否定的な考えに氾濫しているため]であり、彼らの昼と夜はこれらの[否定的で敵対的な]熟考に費やされています[それは彼らの霊的な道と幸福に有害です]。

サタンの二つの軍隊:これらはすべてサタンの陰謀です。 実際には、サタンには2つの軍隊があり、1つは飛ぶ軍隊、もう1つは歩く軍隊です。 飛ぶ軍隊はほのめかしを指し、歩く軍隊は欲望を指します。 その理由は、サタンは火から、人間は土(塵)から創造されたからです。 この土にも火が入っています。 気質に静けさがあり、火の気質は動き

です。 したがって、燃え盛る火が動かないことは想像できません。 代わりに、それはその固有の性質に沿って絶えず動いています。 火で創造された呪われたサタンは、塵から創造された[神の]創造物(つまり、人類の父アダム[神の祝福あれ]に代表される人間)の前にひれ伏すように命じられました。 しかし、サタンはその神の命令を受け入れることを拒否し、傲慢と不従順を行使し、「私は火で創造されたが、アダム(人類の父)は塵で創造された[したがって、私は彼よりも優れており、劣った者に謙虚を示すのは上位者に当然ではない]」という神の命令に従うことを拒否した理由を表明しました。 では、この邪悪な者(呪われたサタン)が私たちの父アダム(神の祝福と平安あれ)にひれ伏さなかったとき、彼はどのようにして自分の子孫(人類)にひれ伏すのでしょうか? 子孫の前にひれ伏す目的は、子孫が彼らの心に生み出すほのめかし(*ワスワア*)を控えることです。 サタンが自分の行動を止めるなら、それは人間の恐怖から自分の間違った行動を放置することによって、人間に従属することに等しいでしょう。 ひれ伏すことの魂(本質)は服従と服従です。 額を地面に置くのは、その体(外見)です。 額を地面に置く行為は、ひれ伏しと呼ばれます。 もしこの行為が謙虚さと謙虚さのために使われたとしたら、それはこの行為によって想像されたことだけです。

[問題の核心:] それにもかかわらず、あなたは貝殻による真珠、肉体による魂、皮(外殻)による髄(芯または本質)を怠ってはいけません。 その点に留意することが重要です。 あなたが外の領域(物事や物事の外見)に閉じ込められ、目に見えない[霊的]領域[すべてのもの、すべての事柄の核心または本質を知る]ことを怠ってはなりません。 あなたが外側の(目に見える)領域だけに閉じ込められ、目に見えない領域を怠ってしまわないようにしてください。 あなたは、サタンがあなた方を誤解させるための休息を与えられた永遠の敵であることを知っています。 あなたのすべての思考と熟考が単一の焦点を持ち、あなたが神の熟考に完全に没頭しているときを除いて、神があなたの従順を受け入れたり、あなたの心にほのめかしを植え付けたりすることを控えることは、今では想像できません。 その場合、呪われたサタンは、確かにあなたに到達する方法を見つけることはできず、あなたは誠実で、この呪われた者の支配の外にいる神の奴隷の中に含まれることになります。 あなたの心に神の熟考がなく、またあなたの心に悪魔のほのめかしがないということはあり得ません。 このサタンは、血液循環のように人間の静脈を循環する流体要素です。 液体の物質で満たされたカップのようなものです。 誰かがカップに液体物質と空気を保持したい場合、それは不可能です。 それも表向きは不可能であり、むしろ、液体物質がカップに存在しない限り、その程度まで空気がカップを満たすことになります。 それは心の状態でもあります。 もしそれ(心)が良い熟考で満たされていれば、それはサタンの干渉から守られたままであり、そうでなければ、それが[神の熟考の]怠慢なままである限り、サタンがそれに干渉するでしょう。 これは、

一瞬でも怠慢すれば、その怠慢の瞬間にサタン以外には仲間がいないほど起こる。 だからこそ、神はこう言われました。

وَمَن يَعْشُ عَن ذِكْرِ ٱلرَّحْمَٰنِ نُقَيِّضْ لَهُۥ شَيْطَٰنًا فَهُوَ لَهُۥ قَرِينٌ

「そして、最も慈悲深い方(神)を思い出すことから盲目になった者、われはそのような者にサタン(悪魔)を課し、その人が常にその人と一緒に暮らすようにする[彼は、あらゆる形の善から人を思いとどまらせ、あらゆる形の否定的なものへと連れて行くために、その人をほのめかす仲間となる]」。 (クルアーン、43章、36節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

إِنَّ اللَّهَ تَعَالَى يُبْغِضُ الشَّابَّ الْفَارِغَ

「まことに、神は怠惰な若者(何もせずに時間を費やしたり、時間を無駄にしたりしている若い男女)を嫌われます[彼らの時間と若さのエネルギーが、間違った、否定的で、非生産的で、怠惰で、時間を無駄にする努力に利用されているからです]。

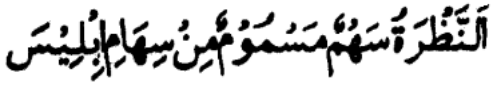
怠惰な若者を嫌う理由は、勉強や生計を立てるなど、許される事柄に心を忙しくさせないとき、あるいは神道(*ディーン*)に関する思索に耽溺しているとき、表向きは怠惰に見えるが、実際にはサタンは人の心に住み着き、子孫を増やすという目標や目的を[繁殖地]で追求しているからです怠惰な若者の心の]。 サタンはすべての動物と比較して最も繁殖しますが、その本質には火があり、乾いたものが火の邪魔をすると(荒れ狂うかどうかにかかわらず)、急速に拡大し続けます。 若者の心の中にある欲望の存在は、火の前に乾いた草がやってくるようなものです。 そうすれば、火(乾いた木)の食べ物(燃料)が存在しないと火が静かになるのと同じように、同様に欲望がなくなったら、サタンは何もできず、自分の手で自分の住まいを焼き払うことを余儀なくされるでしょう。 これを熟考すれば、あなたの最大の敵は、あなたが欲望と呼ぶ心の質であることが十分に明らかになるでしょう。

忍耐の薬とそれに対する助けを得る方法

この病気を与えた方は、その薬についても知らせ、回復を約束されたことを知らせてください。 忍耐は非常に難しい行為ですが、知識と行動のマグマ(組み合わせ)によって忍耐を達成することは可能です。 知識と行動は、心のすべての病気の薬を準備するために使用される2つの薬です。 病気の種類によっては、それに応じた正しい知識と行動が必要になります。

忍耐の妨げとなる理由にはさまざまな種類があります。 すべての理由は、その反対によって治されます。 病気を引き起こした原因を根絶する努力がなされます。 治療方法を決定する例をいくつか挙げることができます。 たとえば、ある人は姦淫を犯したいという欲望から忍耐を望んでいます。 しかし、人は私的なものをコントロールできない、あるいは私的なものはコントロールしているが、目はコントロールできない、あるいは目はコントロールできないが、心はコントロールできない、それは常に欲望の中心であり続け、神の記憶から人を思いとどまらせます。 善行への熟考と粘り強さ。 これは病気であり、その治療法の詳細は、以前に説明したように、忍耐は神の道の力と欲望の力の間の戦いの名前です。 どちらか一方が成功するのを見たいのであれば、その力を強化して支配的になり、もう一方の力を弱めて征服させる必要があります。 この問題(例)では、神の道の力が支配的になり、欲望の力が弱くなることを望んでいます。

欲望の力はどのようにして弱くなるのでしょうか? 性欲の力を弱める方法は3つあります。 一つは、その本力を調べて、どこから力を得ているのかを見ることです。 これを熟考してみると、豪華な食べ物からその強さを得ていることがわかります。 その治療法は絶食を続けることであり、断食を破るときは、欲望を煽らない少量の[単純な]食べ物を食べるべきです。 たとえば、肉は避けるべきです。 2番目の方法は、すぐに欲望を扇動するすべての原因を放棄することです。 欲望は目によって扇動され(通常は情熱を活性化する禁じられたものを見ることによって)、目は心の動きを引き起こし、心は欲望を刺激し、刺激します。 だからこそ、まず目を限られることが、それを実現する方法は、(直接見るだけでなく、間違ったものを見る原因となるものの使用を避けるという点でも)孤独を取り入れ、美しい顔を見る機会がある機会を避けることです。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「[間違った禁じられた]視線は、毒に浸されたサタンの矢の中から来ている」。

サタンは、この矢を決して的を外さないように放ちます。 目を閉じるか、ターゲットから離れる以外に、この矢の集中砲火を止めることができる盾もありません。 サタンは、美しい顔(外見、生々しい画像、ディスプレイ)によってこれらの矢を放ちます。 そのような外見の影響から抜け出すことができれば、これらの毒矢から身を守ることができます。 第三の方法は、欲望を満たすために許容される手段を採用することです。 姦淫から身を守る簡単な方法は、結婚することです[そして、すでに結婚している人は結婚生活に集中し、忠実であり続けることです]。 このようにして、低次の自己(*Nafs*)は満足するでしょう[そして、間違った手段で自分自身を満足させようとはしません]、なぜなら、低次の自己が望んでいるものは、許容されるもの(つまり、この例では結婚)にすでに存在しているからです。 大多数の人にとって、良い食べ物の摂取をやめ、他の必須食品を減らすことは健康に影響を与え、他のことをするのが怠けてしまう可能性があるため、これは最も有益な治療方法です。 したがって、これらは治療の3つの原因です:食物を減らすことである最初の治療法は、反抗的な動物の食物を終わらせて、それが弱くなり、その力が弱まり、消滅するようなものです。セカンド・キュアの例は、犬の前から肉を取り除き、[家畜]の前から飼料を取り除くようなもので、犬が肉を見たとき、動物が飼料を見たとき、彼らの内なる存在に扇動がないようにするようなものです。3番目の治療法は、犬が興味を持ち、それを満足させるものを与えるようなもので、犬がしつけと訓練に忍耐強くいられる十分な力が残るようにします。

神への道の力を強化する: 前の議論は、欲望の力を弱めることについてでした。 次に、神の道の力の強化について議論します。 神の道の力は、2つの手段によって強化することができます:1つは、自分の信仰と世俗的な事柄に対する霊的闘争の恩恵とその成果(前向きな意味合い)について、低次の自己にインセンティブを与えることです。 それを奨励する方法は、忍耐の卓越性にリストされている伝統を通して、そして世俗的な事柄の最終的な結論の卓越性、および神への道に関連する問題について私たちが書いたことをさらに熟考することです。 [予言的な]伝統によれば、逆境に対する神の報いと報酬は[泣き言を言ったり不平を言ったりすることなく忍耐強く耐える限り]、[その逆境の結果として]失われたものよりも大きいです。 したがって、洞察力と内なる目(または知恵)を持つ人々は、苦しんでいる人が失ったものは、滞在することを意図していなかったので、今日ではないにしても、明日(将来)に消えてしまうに違いないからです。 この例は、欠陥のある製品を売り払って、見返りに良いものを得るようなものです。 明らかに、悪い製品の終焉を後悔する必要はありません。 この[物事の現実に対する一種の見方、そうでなければ後悔と後悔を引き起こす]は、*信仰*(イマーン)からのグノーシス(マリファ)に関連しています。 このグノーシスは弱い時もあれば、強い時もあります。 強くなれば、神への道の力も強く、大きく元気になります。 弱ければ神への道の力も弱い

。 このグノーシス、つまり[神への]信仰の力は、確信とも呼ばれます。 この確信は、揺るぎない忍耐の動機です。 しかし、(世界の)人々の中で、確固たる信念と忍耐の粘り強さと決意を与えられた人はほとんどいません。

第二の方法は、欲望の力と低次の自己からの欲望を、神聖な道の力の支配を徐々にもたらし、勝利の味を味わったときにすぐに大胆になり、それを支配する程度まで、徐々にこの戦いに慣れさせることです。 この支配(欲望の力と低次の自己に対する)を達成することは難しくありません。 激しい作業と継続的な練習に慣れることで、その作業を行う臓器が強化されます。 だからこそ、重量物を持ち上げる人、農民、兵士は、仕立て屋、香水売り、学問神学者(*フカハ*)、霊的旅行者(*スーフィー*)よりも強い力を持っています。

要約すると、忍耐力がなく、精神的な闘争を少しもしない人は、欲望を支配するには弱すぎるほど神道の力が弱くなります。 一方、欲望に反対することに慣れている低次の自己を作る人は、いつでも欲望を支配します。

世界と来世の支配:律法、福音書、詩篇、クルアーン、モーセとアブラハムの巻物(神の平安と祝福あれ)とすべての天の書物は、[神の]創造物を永遠の支配に招き、彼らにこの世で王として生き、来世でも王になるよう忠告するために[本来の形で]啓示されました。 世界の王権は、禁欲(*ズード*)[世俗性と所有するすべてのものからの切り離し]を採用し、より少ない物質的な所有物で満足することです。 来世の王権とは、*神の近さに到達した後、消滅のない生存*(*バカ*)を達成することであり、屈辱の影響を受けない名誉を達成し、この領域(世界)に隠され、自己がそれに気づいていない目の冷たさを達成することです。 サタンが被造物(人類)をこの世の支配に招き入れるのは、この世の支配を追い求めている人々が来世の支配権を得られないことを知っているからです。 それは、世界と来世は二人の共同妻のようなものであり、一方が他方の存在下で生きることができないからです。 さらに、サタンは、誰かが世界(世俗的な富、所有物、魅力、権力)を手に入れた場合、それはとどまらないことを知っているので、彼は世界を[人間に]奨励し、それだけでなく、誰かが世界を手に入れたとしても、平和に暮らすことを許しません。 代わりに、彼は人に嫉妬し、さまざまな方法で人を心配させ、新たな論争を引き起こします。 これがすべての世俗的な富と所有物の状態です - 第一に、それらは入手が難しく、もし手に入れたとしても、それらを保持し、極度の困難に耐えるために多く

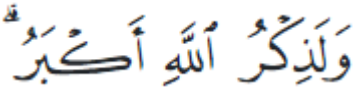
の戦略を考え出す必要があります。 支配者であろうと被支配者であろうと、誰にとっても死から逃れることはできないため、それは絶滅(終わり)に至るでしょう。

なぜ禁欲は支配なのでしょうか? 禁欲の意味は、自分の欲望と怒りをコントロールできるようになり、その両方が神の道の力と信仰(イマーン)のジェスチャー(手招きと呼びかけ)に従属するようになるということです。 これが本当の支配です。 真の支配の意味は完全な自由です。 人間は、怒りや欲望から身を守ることができれば「自由」と呼ばれるに値しますが、そうでなければ、欲望の囚人になると、自分の陰部の奴隷になることもあれば、他人の目的の奴隷になることもあります。 むしろ、人は自分の存在を支配する力を持たない一種の動物になり、代わりに首輪を首に付け、好きなように、好きな場所で奪う他人(人間)の手に征服されます。 [動物的で獣的な本質を持つ低次の自己からの卑劣な欲望の奴隷]になった後、自分が所有者[自分の運命と存在の主人]であると考え、自分の欲望の奴隷になった後、主権の資質が自分の中に生まれたと考える人は、どれほど大きな欺瞞でしょうか? そのような人は、この世で屈辱を受け、来世でも屈辱を受けます。 現実には、禁欲が真の支配であり、この支配によって、人は来世の[永遠の成功と永遠の]支配を達成するということです。 サタンに騙された人々は、この世と来世の両方で損失を被り、神から与えられた忍耐の能力(*タウフィーク*)を与えられた人々は、この世でもあの世でも成功し続けました。

感謝の説明

この章[感謝について]には3つの要素があります:第一に、感謝の卓越性、その現実の説明、種類、命令です。第二に、特別なものか一般的なかの観点から、祝福とその種類の現実です。第三に、忍耐や感謝から優れているものの説明です。

第一要素 - 感謝とその卓越性: 一方で、クルアーンは神の記憶を次のように称賛しました。



「そして、神を思い出すことは途方もない問題です。」 (クルアーン、29章、45節)

一方、[神の]感謝は、[神の]記憶と並んで言及されたこの[大きな]名誉を与えられました。 したがって、次のように言われました。

فَاذْكُرُونِيٓ أَذْكُرْكُمْ وَٱشْكُرُواْ لِي وَلَا تَكْفُرُونِ

「わたしを覚えておいてください、わたしは[あなたのすべての苦しみと苦難の中で]あなたを覚えていて、あなたの救い手となるでしょう。[あなたが求めなくても、私があなたに与えた数え切れないほどの祝福に対して]私に感謝し、[わたしを拒絶したり無視したりするほど]恩知らずではありません。」 (クルアーン、第2章、152節)

神の記憶と並んで感謝に言及することは、その卓越性の完成を主張します。 クルアーンはこう言います。

مَّا يَفْعَلُ ٱللَّهُ بِعَذَابِكُمْ إِن شَكَرْتُمْ وَءَامَنتُمْ

「もしあなたが[神に]感謝し、[神を]信じているなら、神はあなたを罰して何をするでしょうか?」 (クルアーン、第4章、147節)

وَسَنَجْزِي ٱلشَّٰكِرِينَ

「そして神は人々に感謝の気持ちをいち早く報いてくださいます。」 (クルアーン、第3章、145節)

ある場所で、神は神の祝福への感謝は祝福の保持と増加につながると断固として述べました。 それに例外はありませんが、繁栄を与える、祈りを受け入れる、栄養を与える、許しを与える、悔い改めを受け入れるなどの他の祝福には例外がありますが、すべて例外の言及が伴います。 これらはすべて神の御心に付随しています。 これらの聖句から、感謝は素晴らしいものであることがわかっており、だからこそ、神はそれをご自分の御心に付随させるのではなく、[心からの感謝に基づいて]祝福を増やすことを断固として約束されたのです。 感謝は[神の]神聖な資質の中からの資質であるため、感謝が良い[内なる]特性であることにどうして疑いの余地があるでしょうか。 それ以来、神はご自身のためにこの性質について言及しました。

وَاللَّهُ شَكُورٌ حَلِيمٌ

「そして神は非常に感謝し(たとえ欠点に満ちているとしても、私たちが善と義の道でなんとかできる些細なことに感謝します)、寛容の持ち主です。」 (クルアーン、第64章、17節)

アッタ(神の憐れみあれ)は、アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の妻)の死後、予言的な知識を求めて訪ね、「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の状態で見た最も奇妙なことについて教えてください」と頼んだと語っています。 彼女はこれを聞いて泣き、「彼のどんな状態が奇妙でなかったのか? ある夜、彼は私のところに来て、私の体が私の体に触れるまで、毛布の下で私のベッドに一緒に横になりました。 その後、彼は言った、「おお、アブ・バクルの娘よ! 私が主を崇拝できるように、私を離れてください』と言いました。 私は言いました、『おお神の使徒よ! 私はあなたの親密さを望んでいますが、それはあなたの願いです。」 それから私は彼に許可を与えました。 彼は水の容器に行き、水をたくさん使わずに清めを行った。 その後、彼は立ち上がって[神に]祈りを捧げました。 祈りの間、彼は涙が胸に流れ始めるまで泣き始めました。 それから彼はお辞儀をし、泣いてお辞儀をしました。 それから彼はひれ伏し、そこでも泣きました。 彼はひれ伏した状態から頭を上げ、再び泣いた。 彼は夜明けまで泣き続け、ビラル(神が彼を喜ばれますように)が早朝(ファジュル)の祈りについて彼に知らせに来ました。 私は彼に尋ねました、『おお神の使徒よ! 神があなたの過去と未来の罪をすべて赦してくださったのに、なぜそんなに泣くのですか?」 彼は答えました、「私は[神への完全な奴隷の状態で、神への深い感謝からこれをしているので]神の感謝のしもべになるべきではありませんか? そして、神がクルアーンで以下の聖句を啓示されたとき、私はどうして泣かないでしょうか。

إِنَّ فِي خَلْقِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱخْتِلَٰفِ ٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ
وَٱلْفُلْكِ ٱلَّتِي تَجْرِي فِي ٱلْبَحْرِ بِمَا يَنفَعُ ٱلنَّاسَ وَمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ
مِنَ ٱلسَّمَآءِ مِن مَّآءٍ فَأَحْيَا بِهِ ٱلْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا وَبَثَّ فِيهَا
مِن كُلِّ دَآبَّةٍ وَتَصْرِيفِ ٱلرِّيَٰحِ وَٱلسَّحَابِ ٱلْمُسَخَّرِ
بَيْنَ ٱلسَّمَآءِ وَٱلْأَرْضِ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿١٦٤﴾

「まことに、天と地の創造と昼夜の交代、人類の利益のために海を航行する船、神が空から降ろされる水(雨)と、死んだ地にもたらされる命の中で、 神が地上に散らばったあらゆる種類の動物、そして空と地の間を自由に歩き回る風の変化や雲の中には、まさに知性、理性、理解力のある人々のしるしです。』 (クルアーン、第2章、164節)(ナレーション: *ハディース集* アイシャの権威に基づく *サヒー・ムスリム* [神が彼女を喜ばれますように])

この[預言的]伝統から、人はどんな状況でも[神の前で]泣くのをやめてはいけないことを学びます。 しもべの(人間の)心は岩のように硬く、むしろその硬さが硬いです。 この硬さは、泣くことによってのみ取り除かれますが、それは[神への]恐れから泣くか、[神への]感謝から泣くかにかかわらずです。

感謝の現実: 感謝は、霊的旅行者 (Salikeen*) の駅の中から [霊的] 駅です。* このステーションは、知識、行動、および[内なる霊的]状態の[3つの原則]で構成されています。 3つのうち、知識がこの駅の原点です。 知識は[内なる霊的]状態を生み、状態は[高貴な]行為を生みます。 知識の意味は、与える者からの祝福を認識することであり、状態は、その祝福を得た後に得られる幸福であり、行動は、祝福を与える者の承認(神の命令)に従って行動することです。 この作用は、心臓、[体の手足]と臓器と舌、つまりその3つすべてに関連しています。

第一原理 - 知識:この点で、人は3つの事柄についての知識を持つべきである:1つは祝福について、2つ目は、この祝福が自分に有利な祝福であるという認識について、3つ目は、与える者の存在と、報酬を与え、それを[巧みかつ完璧に]完成させる[神聖な]資質

についての知識である。 神に関しては、すべての祝福は神からのみであり、神は真の与え者であり、すべての中間の手段は神の支配と征服下にあることを知らなければなりません。 これは、*神聖な栄光(タクディーズ)と神聖な一体性(タウヒード)*に次ぐ最高のグノーシス(マリファ)ですが、ランクは最高です。 信仰のグノーシスの中で、最初のものは神の栄光であり、神がすべての不完全さ[あらゆる種類の制限、弱点、欠陥、欠点、傷]の上にあることを知ることであり、その後は、すべての不完全さから解放されていると理解されている存在は一つであり、パートナーや共同共有者がいないことを知ることである神の一体性です。 その後、存在の領域に存在するすべてのものは、まさに一つであるこの存在の創造物であり、[被造物の中で]一人に与えられたものは、神からの報酬として一人に与えられることを知ることです。 このグノーシスが前の2つのグノーシス[神の栄光と神の一体性]の後に来ることは明らかであり、だからこそ、そのランクは前の2つよりも高いのは、神の栄光と一体性の告白[と内なる受容]に加えて、力の[神の]完全性と発明と創造的繊細さの完全性の告白を持っているからです。

中道の手段は神の命令に従うことを余儀なくされています。それにもかかわらず、もし人が他の手段で神の祝福を受けるなら、神がこの他の人にご自分の意図を押し付け、その人に与えることを余儀なくされたすべての要因を創造したため、この他の人がこの祝福を自分に届けることを余儀なくされたことを理解すべきです。 そして、彼はこれを心に込めて、「私にとってこの世と来世のすべての善と幸福は、一人に与えることにかかっている」と言いました。 この考えが神から心に生まれるとき、この考えの意味に基づいて行動する以外に選択肢はありません。 したがって、相手があなたに何かを与えているのであれば、それはあなたの利益のためではなく、彼/彼女自身の利益のために[意図的に]あなたに与えられていることを理解する必要があります。 他の人があなたに与えることに何の利益も得られなかったら、彼または彼女はあなたに与えなかったでしょう。 もし他の人が自分の利益があなたの利益に組み込まれていることを知らなかったら、そのような人は決してあなたに利益をもたらすことはなかったでしょう。 さて、あなたに利益を与えることによって、相手は彼または彼女自身の利益を望んでいることになり、彼または彼女はあなたの[本当の]恩人または与える人ではなく、代わりに彼または彼女はあなたを自分自身に期待される祝福のためのパイプ(手段)にしました。 本当の与える者は、あなたのために見かけ上の与える者を征服し、その祝福をあなたに伝えることを余儀なくされるような信念と意図を心に植え付けた別の誰かです。

これらの事柄をこのように理解すれば、あなたは神の存在と行動のグノーシスに到達し、一神教徒となり、[神の]感謝の気持ちを支配する力を持つでしょう。 感謝の気持ちは

、すべての祝福は神からのものであるというグノーシスを持つことが必要ですが、そこに少しでも疑いがあれば、その[神の]祝福の権利も、それを与える主の権利も果たすことができません。 人間は、見かけの与える者に頼ったり、それを自慢したり誇りに思ったりしてはなりません(祝福)、そうでなければ、それは自分の知識の欠如であり、知識の欠乏は正しい行動の喪失につながる可能性があります。

第二の原則 - 状態: この[内なる霊的]状態は、祝福の起源のグノーシス(*マリファ*)によって達成されます。 それは、謙虚さ、謙虚さ、そして恐ろしい心で[祝福の]与え者を喜ばせることを意味します。 この状態も、グノーシスが感謝の状態と呼ばれているのと同じように感謝ですが、状態は、そのすべての条件を包含するときに感謝と呼ばれます。その中でも最も重要な条件は、(人が持つ祝福に対する)幸福は、祝福や報酬ではなく、与える者にのみあるということです。 おそらく、あなたはこれを理解するのが難しいでしょう。 したがって、例を挙げて説明します。 旅に出る王がいます。 彼は報酬として誰かに馬を与えました。 この人は、馬を手に入れた後、3つの理由で幸せになることができます。 その理由の一つは、馬という報酬だけで幸せになるのは、馬が貴重な(高価な)報酬であり、自分の希望に沿った良い乗り物を得ることができるからです。 明らかに、この[タイプの]幸福は、王を気にしない人だけが経験するものであり、代わりに、人の唯一の目的は馬だけです。 もし森の中でこの馬を見つけたら、同じように幸せだっただろうとします。 第二の理由は、馬を手に入れただけで幸せなだけでなく、この馬が王の慈悲と優しさの証であるため、幸せになるからです。 それは、王が心の中に一人の居場所を持っていることを示しています。 もし森の中でこの馬を見つけたり、王以外の誰かに与えたりしたとしても、馬を必要としていないか、王の心に居場所を獲得するなど、望むものは馬よりもはるかに大きいため、少しも幸せを感じられないでしょう。 第三の理由は、王に仕えるために馬に乗りたいから、あるいは旅の苦難に耐え、王に近づくために馬に乗りたいから、馬を手に入れることに満足しているからかもしれません。 [王の宮廷で]大臣になるために絶え間ない努力の末に進歩する可能性があります。 この人は、王の心に余地を設けることにあまり争われず、その代わりに、王が民に与えるものは何でも、人を仲介者にすることによってそうします[そして、この仲介者によって人々に与えます]。 明らかに、そのようなランクは、非常に親しく信頼できる人にのみ与えられますが、その上、人は奉仕を求めるのではなく、王の近く、王の信頼、そして王の継続的なビジョンの名誉だけを望んでいます。 もし[そのような]人に、奉仕と[王との]近接のどちらかを選択させられたら、人は近接を選ぶでしょう。

これらは[感謝の]3つの段階です。 その点で、第一学位は、馬という点ですべての注意の焦点として何の役にも立ちません。 人は馬を手に入れることに満足し、王であろうと下級者であろうと、与える人には気づかない。 同様に、祝福を受けた後、それが自分の目的に適していることに気付いた後、祝福に迷い込む人は、感謝からかけ離れています。 第二度は、祝福を受ける人が与える人を喜ばせるという意味で感謝の意味に含まれますが、この幸福は与える人の存在にあるのではなく、むしろ、与える人が祝福に値すると考え、将来より多くの祝福を与えることが期待できるからです。 これは、[神の]罰を恐れて善行を行い、[神の]報酬を望み、[神への]感謝を表す敬虔な[神の]しもべの状態です。 完全な感謝は第三度です。 言い換えれば、祝福を受ける人は、祝福を神の近くに到達する手段にするという考えに満足しています。 そのしるしは、人が世界に満足しておらず、代わりに、世俗的な生活を助けることができる多くの世界に満足しているということであり、崇拝を怠り、真実の道から人を思いとどまらせる世俗的な祝福を後悔しています。 それは、馬の受け取り手が馬が頑丈で速く走るから喜ばなかったのと同じように、祝福が目的ではなく、王のビジョンと近さの名誉を継続的に獲得できるように、王の前で到達する手段であると考えたからです。 だからこそ、シブリ(神が彼に憐れみあれますように)は、「感謝は祝福を与える者のビジョンであり、祝福のビジョンではない」と言いました。 この高い[霊的]地位は、この世のすべての快楽が胃と陰部に限定され、知覚の輪が色と音に限定されている人には達成できず、[代わりに]心はすべての[物質的な]快楽を欠いており、すべての[肉欲]知覚に精通していないはずです。 心が健全であれば、神の記憶、グノーシス、そして[神の]臨在にのみ喜びを見出します。 その心は、悪い習慣によって[悪影響を]受けているこれらのもの(神の記憶、グノーシス、プレゼンス)から喜びを見出しません。

上記のように、人は神に感謝すべきです。 もし、その[最高の]程度で感謝の気持ちを持てないなら、その人は第二の程度と争わなければならない。 第一学位の重要性はありません。 2度と3度の間にも大きな違いがあります。 第二等級の人の目的は王であり、王は馬を与えることができ、第三等級の人は馬であり、王に近づくための手段にすることができるように、目的は馬です。 一人が神に祝福を与えるために神を求める者であり、二人目が祝福を求める者であり、その手段によって神に到達できるように祝福を求める者であるという両者の間には、どれほど大きな違いがあるでしょうか。

第三の原則 – 自分の幸福に応じた行為: 第三の原則は、与える者のグノーシス(マリファ)から受け取った幸福の意味に基づいて行動することです。 この行為は、心臓、舌、身体の臓器の3つすべてに関連しています。 心の作用の意味は、[神の]しもべがすべて

の被造物に対して善を意図し、[自分の心に]善を隠した(埋め込まれた)ということです。 舌による行動の意味は、感謝を表す神の賛美によるものです。 [身体]器官を通した行動の意味は、神の祝福を従順に用い、罪を捨てるために神の祝福に助けを求めることです。 したがって、目を通しての感謝は、一瞥した信者のあらゆる欠点を隠すことです。耳を通しての感謝は、耳で知るようになる信者の欠点をすべて覆うことです。舌による感謝とは、神様を喜ばせるような言葉を発することです。 臓器がそのように使われるなら、それは[神に]定められた[これらの臓器を持つことの]これらの[神の]祝福への感謝になります。

神の一体性(タウヒード)*または自己の消滅(ファナ)*のイデオロギー:これについては2つの信念があります。 一つは、神の一体性[または統一性]のイデオロギーと呼ばれます。この点で完成された人々は、感謝と感謝の気持ちを込めた恋人と最愛の人は、同じ存在の2つの名前であると考えています。 彼らの見解では、神以外には何も存在しません。

كُلُّ شَيْءٍ هَالِكٌ إِلَّا وَجْهَهُ

「彼の存在を除いて、すべては滅びつつあります[なぜなら、彼は永遠で、永遠で、始まりも終わりもなく自存する唯一の存在であり、他の存在もなしに存在し、他のすべての存在が彼を通して存在する者だからです]。」 (クルアーン、28章、88節)

この宣言は彼らの心の声です。 このイデオロギーは現実に基づいており、始まりのない永遠の「始まり」と終わりのない永遠の「終わり」に関する両方の真実がそこにあります。 それは、神以外に単独で存在する存在は存在せず、むしろ[神以外の]誰も、何物でも、そのような存在を持つことは不可能だからです。 現実の存在とは、それ自体の存在を通して存在しているものです。 それ自体の存在によって存在することができなかったもの、その存在はそれ自体の存在を通してではなく、代わりに他の[存在]と関連付けられるでしょう。 それは、もしそれ自体の存在を、他者への依存なしに見なすならば、それ自体の存在は不確実である。 現在はそれ自体で存在するものであり、それ自体の存在によって存在する存在は、他のすべての存在が存在しなくなったとしても、それ自体の存在は影響を受けないようなものです。 もし、それ自身の存在によって存在し、他のすべての存在もそれ自身の存在によって存在するのであれば、それは「*カイユム*」(自己存在)と呼ばれ、「*カイユム*」はこの唯一の存在(私たちが神と呼ぶ)以外の何ものでもあり得ません。 この性質は、その唯一の存在にのみ属します。 この観点から見ると、すべての源と依存は彼だけ、唯一の存在であることは明らかです。 だからこそ、感謝する方は神だけであり、感謝の受け手は神だけであり、恋人であるのは神だ

けであり、愛する者は神だけであるのです。 したがって、ハビーブ・イブン・ハビーブ(神が彼に憐れみあれ)がこの聖句を暗唱したとき、

إِنَّا وَجَدْنَٰهُ صَابِرًا ۚ نِّعْمَ ٱلْعَبْدُ ۖ إِنَّهُۥٓ أَوَّابٌ

「まことに、われは彼(預言者アイユブまたはヨブ[神の祝福と平安あれ])[彼が神から定められた災難に苦しんでいたとき]忍耐強く、彼は[神の]非常に良いしもべであり、彼はしばしば[すべてのことについて]神に立ち返った。」 (クルアーン、38章、44節)

彼は言った、「神に栄光あれ! このことは、何と素晴らしいことでしょう。 彼は[預言者ヨブに]忍耐の力を与えた方であり、彼を賛美する方です。彼は愛であり、最愛の者です。 これは高いランクです。 知性の限界に近い例を挙げれば理解できます。 その例は、作家が自分の文章を好きになるとき、その人は自分自身を好きになったと言われます。 同様に、創造主が自分の創造物を好きになるとき、それはあたかも自分自身を好きであるかのようです。 あるいは、父親は、そのような人が自分の子供であるという意味で、あたかも自分の存在が好きであるかのように、自分の子供が好きです。 神以外のこの世にあるすべてのものは、すべて神の書き物であり、創造物です。 もし彼がご自分の著作や創造物を愛しているなら、それはあたかも彼自身の存在を愛しているかのようです。 これが神の一体性のイデオロギーです。 *スーフィー*(精神的な旅人または真実の探求者)は、それを「自己の消滅(*ファナ*)」と解釈します。 その意味は、しもべは自分自身の存在から、そして神以外のすべてのものから消滅し、人はどこにでも唯一の真の存在しか見えないということです。 これらの[霊的]現実を理解していない人は、それらを否定し、「4ヤードの長さの影があり、一日に1キロか2キログラムの小麦粉を食べるのに、どうして人間が絶滅するのでしょうか?」と言います。 無知のために無知で、自己の消滅(ファナ)の主張を笑う。 領地主義者が無知な人々が彼らの言葉を理解できず、彼らを嘲笑し、嘲笑の矢で彼らの心を傷つける運命を持っているのは残念です。

目的に戻る: [神の] [真の] 預言者が来る目的は、神の唯一性の完成に到達するよう人々に招待することです。 しかし、神の一体性の完成に導く道には無数の障害があり、長くて困難な旅が特徴的です。 神の法則は、この困難な道を歩み、この厳しい旅を完了する方法を示しています。 感謝の気持ちが神にとって何の利益をもたらすかという質問に関する限り、その答えは、神は感謝の気持ちから何の利益も得られず、それは純粋に[神の]しもべの利益のためであるということです。 この点を例を挙げて説明します。 王が遠く離れた場所に住んでいる自分の召使いに乗り物、衣服、頼りを送り、旅行後に

王に近づくようにしたとします。 王が召使いを近づけたいと思うケースは2つあります。 まず、王が召使いを近づけたい目的は、召使いに王に仕えさせることであり、キャンペーンに参加することで王国の力の源になるということです。 第二のケースは、王がこれに関して個人的な利益を得ていない可能性があり、使用人も王をすべての心配から解放するような奉仕をすることができないということです。 要するに、使用人は、不足するか増加するかにかかわらず、王の支配に何の違いも与えないような存在であり、その場合、王が使用人に乗り物、衣服、旅行のための準備を提供する場合、それは王の王室の寄付(寛大さと寛大さ)です。 そこにあることができる唯一の目的は、使用人がこれらの資源を使用して王に近づき、王室の存在にいるという名誉を得ることです。 キング自身の利益は目的ではありません。 [神の]しもべ、つまり人間の状態も同じです。 彼らが神から受け取るものは何でも、彼ら自身のより高い地位を達成するためであり、神の利益のためではありません。

この例の最初のケースでは、(旅行後に)王に近づいたしもべは、しもべがしもべから受けるべき奉仕を提供するまで、感謝することはできません。 2番目のケースでは、使用人は感謝することも拒否者でもあります。 この場合の感謝の方法は、王が与えた恩恵を、王が好きなように使う努力に使うことです。 拒絶の方法は、これらの祝福を王が嫌いなことに費やしたり、召使いを王から遠ざける旅に費やしたりすることです。 したがって、もしもべが服を着て馬に乗り、王が旅の途中で送った[旅の食料]を使ったとしたら、しもべは王の好きなことにこれらすべての[王から与えられた]ものをすべて使ったので、しもべは王に感謝を表したと言われます。 しかし、もし召使いが王の服を着て馬に乗ったが、王の反対方向に進む道を選び、王に近づける代わりに、王を遠ざけたとしたら、召使いは祝福を拒否し、王に逆らって使ったと言われるでしょう。 同様に、その人(しもべ)も、王の恵みを利用しず、[王から送られた]服を着ず、乗り物に乗らず、その旅で旅行者の食料を取らずに、彼らを怠惰に座らせる祝福の拒否に関与しています。 この人の拒絶は最初の人よりも少ないです。

これが創造物の様子です! 神は人間を創造されました。 最初は、体が完全に発達するように欲望を使う必要があります。 欲望の使用は彼らを神の近さから遠ざけますが、永遠の幸福と永遠の成功(サーダ)の幸福(最高の達成)は神の近さにのみあります。 だからこそ、神は彼ら(人間)を神に近づけ、それを使う能力を与えるような祝福を創造されたのです。 クルアーンは、人間の神との距離と距離を次の言葉で説明しています。

لَقَدْ خَلَقْنَا ٱلْإِنسَٰنَ فِىٓ أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ

「私たちは最高の型で人間を創造しました。」 (クルアーン、第95章、4節)

ثُمَّ رَدَدْنَٰهُ أَسْفَلَ سَٰفِلِينَ ﴿٥﴾

إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ﴿٦﴾

「その後、私たちは[神への信仰と神への信仰の一部である永遠の真理]を信仰し、善行、敬虔で正義の行いを行った人々を除いて、最も低い者に降りていきます。彼らには決して止まらない強力な神の報いがあります。」 (クルアーン、第95章、5-6節)

このことから、神の祝福は、その手段によって、[神の]しもべが、永遠の幸福と永遠の成功(サーダ)の幸福の地位に向かって進歩するような道具であることが知られています。 神はしもべのためにこれらの道具を創造され、人が神に近づくかどうかは気にしません。 しかし、しもべには、[神の]服従または罪(不服従)のいずれかを助けるためにこれらの道具を使用する特権があります。 もし人が従うなら、人は主の承認を望んでいたので、感謝していると言われるでしょう。 従わないと、主に嫌われることを犯したため、拒絶者または恩知らずと呼ばれるでしょう。 しもべが神の恵み(祝福)を[神の]従順でも不従順でも使わなかったことによって、神の恵み(祝福)を中断したままにしたとしたら、それは神の祝福を拒否したことでもあります。 この世に創造されたすべてのものは本質的にしもべ(人間)にとって道具であり、その手段によって、しもべは来世の永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の幸福と神の近さを達成することができます。 従順なしもべは皆、自分の従順に見合った神の祝福に感謝しており、これらの祝福を使わなかった人や、神から距離を置くために祝福を使った罪人は、神以外の愛において恩知らずの拒絶者であり、限界を超えています。

感謝に値する祝福

感謝の2番目の要素は、感謝に値する祝福です。 ここでは、祝福の現実、その種類、ランク(等級)について説明します。 さらに、特別な祝福を構成するものと、共通の祝福を構成するものについても説明します。 神は神が言われたように、数え切れないほど多くの祝福をしもべに与えました。

وَإِن تَعُدُّوا۟ نِعْمَتَ ٱللَّهِ لَا تُحْصُوهَآ ۗ

「そして、神の祝福(無限で数え切れないほどの)を数え始めると、それらを数えることができなくなります。」 (クルアーン、第14章、34節)

祝福の現実とその種類: すべての善、すべての喜び、すべての幸福、求められているすべてのもの、効果的で役立つすべてのものは祝福ですが、本当の祝福は来世での永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)であることを知らせてください。 来世での永遠の幸福と永遠の成功を除いて、祝福と呼ばれるものはすべて、そう言うのは間違っているか、[祝福」という用語の]寓話的な用法です。 たとえば、来世の役に立たない世俗的な祝福は、祝福と呼ぶのは正しくありません。 この言葉を、一つまたは複数の手段によって来世での永遠の幸福と永遠の成功に到達する源となるものすべてに適用するのは正しいことです。 来世の永遠の幸福と永遠の成功を達成するための手段である、またはそれを助けるための祝福と喜びについては、それらを説明するためにいくつかのタイプに分けます。

第一の祝福の分け目:もし私たちがすべての事柄を自分自身に帰するなら、(私たちに関係する)事柄は4種類ある:第一に、知識や美しい道徳、マナー、性格、内面の気質など、世と来世の両方にとって有益な事柄(*フスン・ウル・クルク*)。第二に、無知や悪い道徳など、世と来世の両方に有益でない事柄、 マナー、性格、内面の気質。第三に、欲望に喜びを見出すなど、世界にとって有益だが来世には有益ではない事柄。第四に、欲望をコントロールし、低次の自己に対抗するなど、世界には有害だが来世には有益な事柄。 世と来世の両方に有益な最初のタイプは、知識と美しい道徳、マナー、人格、内面の性質などの真の祝福です。 両方において有益でない[2番目の]タイプは、知識の反対である無知であり、美しい性格特性の反対である悪い性格特性である本当の苦難です。 世には有益だが来世には有益ではない[第三]タイプで、洞察力と知恵の人々はそれを純粋な苦難と呼び、無知な人々はそれを祝福と見なします。 そのたとえ話は、毒を含んだ蜂蜜を見つけるようなものです。 毒に精通している人は蜂蜜を災いと見なすでしょうが、それを知らない人はそれを祝福と見なすでしょう。 世には有害だが来世には有益である[4番目の]タイプで、知性[と知恵]の人々はそれを祝福と見なし、無知を苦難と見なします。 そのたとえ話は苦い薬のようなもので、一時的な悪味がありますが、それによって得られる健康は歓迎され、長続きします。 子供に苦い薬を与えて飲ませれば、子供が強制的に飲まなければならない場合以外は、それを苦労とみなし、服用することに同意しませんが、意識が高く文明的な人間は苦い薬を喜んで飲みます。 それ

だけでなく、薬やその成分を提供したり、その準備を手伝ったりする人に感謝し、そのような人に感謝し、その恩恵を感じ、そのような人に近づきたいと思い、贈り物を浴びせます。 現実には、無知な友人は知的な敵よりも有害です。 すべての人間は自分の低次の自分の友人ですが、それは無知な友人であり、だからこそ、敵ですら扱わないように人を扱います。

祝福の第二部門: 世俗的な手段には、良いものと悪いものの両方が混ざり合っています。 悪の存在なしに善だけが存在するような手段はほとんどありません。 富、名声、子供、親戚、その他すべての[世俗的な]手段は、善と悪の両方を含んでいるようなものです。 そのような手段はさらに3つのタイプに細分されます。最初のタイプは、自分のニーズに応じて富や名声など、害よりも利益が多い原因です。 2番目のタイプは、多くの富を持っている、広く名声を持っているなど、大多数の人々にとって利益よりも害が大きい原因です。 3番目のタイプは、利益と害が等しい原因です。 これらは個人によって異なる問題であり、たとえば、敬虔な人は、たとえそれが慈善と与えによって神の道に費やすほど多額であっても、良い富から恩恵を受けます。 神から与えられたこの能力を持っている人は、豊かな富がその人にとって祝福となるでしょう。 不運な人の中には、少額の富によって被害を受ける人もいます。 言い換えれば、彼らはそれを取るに足らないものと考え、常に主に不平を言い、より多くのことを貪欲に思っています。そのような人にとって、確かにこの富は屈辱と苦難の原因です。

第三の祝福の分け目:善行に関係するすべての事柄は、一つの側面で三つのタイプに分けられる:第一に、それ自体で求められるもの、第二に、他のもの(そして自分自身ではない)ために求められるもの、そして第三に、自分自身と他のものの両方を求められるもの。 それ自体が求められ、愛されている最初のタイプには、神のビジョンの喜びと神との出会いが含まれます。 これは来世の永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の幸福であり、永遠に続くものです。 この永遠の幸福と永遠の成功の幸福は、その手段によって他の何かを達成するために求められるのではなく、それ自体が追求され、それ自体が目的です。 他のものに求められる問題の2番目のタイプまたは例には、*ディルハム*と*ディナール*(古い通貨であった金貨と銀貨、言い換えればお金と富)が含まれます。 もし世俗的な欲求を満たすために他の何かが任命されていたら、金、銀、石の間に何の違いもなかったでしょうが[それらはすべて価値と重要性において等しいからです]が、それら(お金と富)は[世俗的な]快楽を達成するための手段であり、その手段によって世俗的な快適さは簡単かつ便宜的に得られます。 だからこそ、彼らは無知な人々に愛されるようになりました。 彼らは、それらを蓄積し、地面に埋め(他人の手の届かないところや知識

の届かない多数の場所に密かに安全に買いだめし)、派手に使い、お金と富がそれ自体が目的であると考えるほど、無知な人々に愛されるようになりました。 そのような人々のたとえ話は、他の人と恋に落ちた人であり、そのためにお互いのメッセージを伝え、出会いの手段となるメッセンジャーも愛し始めます。 その後、メッセンジャーの愛は、本当の愛する人を忘れて、一生愛する人の名前すら持たず、代わりにメッセンジャーの愛と彼または彼女に仕えることに忙しくなるほど大きくなります。 これは極度の無知であり、あからさまな誤った指導です。 3番目のタイプには、それ自体だけでなく、健康や安全などの他のものでも求められている問題が含まれます。 また、人間は健康を見つけた後、神の記憶と熟考を行い、それが神に導く能力を獲得するため、それらも求められています。 さらに、その手段によって、人間は世俗的な快楽も得ます。 健康自体も追求されていますが、時には徒歩で歩きたくないからです(乗り物や交通手段の使用に慣れているため)、それにもかかわらず、両足は歩く手段であるため、安全を求める必要がありますが、安全自体が愛されているので、両足は大丈夫であることを望んでいます。 それが求められている理由です。

これら3つのタイプにおいて、真の祝福は最初のタイプ、言い換えれば、それ自体が求められる来世の永遠の幸福と永遠の成功の幸福です。 それ自体が求められているものも、他のものでも祝福ですが、最初の祝福と比べるとランクは低いです。 それ自体が求められるのではなく、お金や富など他のものを求められるものは、それ自体が祝福であるため、祝福とは呼ばれず、代わりに手段であるために祝福と呼ばれるでしょう。 したがって、それらはそれらなしでは自分のニーズを満たすことができない人だけのための祝福です。 個人の目的が知識と崇拝であり、必要に応じた富(財源)を持っている場合、そのような人にとっては、金と石の両方が同等であり、その存在にも存在しないことにも興味がありません。 もしそれらが人を熟考し、[神を]崇拝することを妨げるなら、それらは苦難の[前兆]であり、人にとって祝福にはならないでしょう。

祝福の第四の分け目:善に関連するすべての事柄[感謝に値する祝福]は、別のタイプに分類できます。 良いものには、有益なもの、楽しいもの、美しいものの3種類があります。 楽しいとは、その利点がすぐにわかるものです。 有益とは、最終的な結末の点で有益なものです。 美しいとは、あらゆる状況において良いものです。 悪には、損失を引き起こす、醜い、有害な3つのタイプもあります。 善において、3種類の善すべてが1つに蓄積されているものは、知識と知恵であり、知識と知恵の人々の目には有益であり、また楽しくて美しいものです。 悪において、その例は無知であり、それは損失を引き起こし、醜く、有害です。 無知な人は「私は無知だが、この相手は知識がある」と悟

ったときに痛みを感じ、その時の自分の欠点を認識し、それに苦しむ。 この時点で、知識の快楽への欲求が頭を上げますが、嫉妬、傲慢さ、肉体的な欲望が自分の道の障害になります。 その結果、対立する二つの力が一方を二つの反対の方向に引っ張り、どちらの状況でも苦しみながら魂が束縛される——知識を身につける場合、傲慢さを捨てて教育の屈辱に耐えなければならず(それはあらゆる段階で自分の無知を襲うため)、そして何よりも、そのための欲望を捨てる必要がある。 知識を身につけなければ、自分の無知に気づいた人は、自分の不足を自覚し続けます。 そのような人は、常に罰に耐えています。

祝福の第五部: この祝福はすべての喜びに適用されます。 快楽には、知的、一部の動物に共通する肉体的、およびすべての動物に共通する肉体の3つのタイプがあります。 知的喜びの例には、この喜びは目、耳、鼻、味覚、胃、または陰部では知覚されず、代わりに、その喜びは知性と呼ばれる[人間の]資質(特異性)に固有のものであるため、心によってのみ知覚されるため、知識と知恵が含まれます。 すべての快楽の中で、これはすべての快楽の中で最も優れているにもかかわらず、最も見つかりません。 その不足の理由は、知識の喜びは学者(知識の所有者)だけが知覚することができ、知恵の喜びは賢者(内なる照明の所有者またはグノーシスの所有者)だけが知覚できるからです。 知識と知恵を持った人は何人いますか? (多くないことは)誰もが知っています。 [知識が豊富で賢明であると主張する、または評判がある]ほとんどの人は学者であり、名前も外見も賢明です[ただし、実際には、真の知識と内なる啓発が欠けています]。

知識の卓越性と区別の理由は、その喜びが常に人と一緒にあり、現世でも来世でも決して衰えることはありません。 それは常に1つに同行する仲間であり、知識のある人はそれに飽きません。 他のすべての楽しみは人を疲れさせます。 例えば、お腹いっぱい食べると体に怠惰が生じ、交尾が終わった後は疲れや重さを感じますが、知識(特に神の知識)と知恵の海でいくら泳いだり、深みに潜ったりしても、気質に重さを感じることはなく、体は疲れの餌食になりません。 このような特徴的で優れたものを成し遂げることができるにもかかわらず、劣ったものに落ち着き、数日分の快楽の背後に無力にさまよう人、そのような人の狂気と不幸を誰が疑うことができるでしょうか? なぜ素人が知識の喜びを知覚できないのかという問題に関する限り、その理由は、彼らが知識に対する好意(*ダウク*)すら持っておらず、好意を持たない人は理解も強い欲望も持たない(*ショーク*)からです。 激しい欲望は好意に従属します。 愛情がなければ、欲望すらなく、欲望の追随は彼らの気質に激変を引き起こし、心に病気を引き起こしました[知識と内なる啓発に感謝することさえ]。

肉体的であり、支配、優越性、最優先であることの喜びなど、一部の動物と共有される2番目のタイプの喜び。 この種の喜びでは、ライオン、チーター、その他の強力な動物などの一部の動物も人間と共有します。 身体的ですべての動物と共有される3番目のタイプの喜びには、胃(食べ物と食事)と陰部の喜びが含まれます。 これらの喜びは、すべての喜びの中で最も低く、最も安価であるにもかかわらず、最も広く一般的です。 したがって、地球上のすべての生き物は、小さな昆虫でさえ喜びを感じるほど、人間と共有しています。 この[最低の形の]快楽を乗り越える人は、支配と権力(他者に対する統治または権威)の喜びの餌食になります。 この喜びを上回った人は、知識と知恵の喜びが支配的になるまで、第三の(この説明の最初の)快楽に耽溺し、特に*神の存在(*ダート)のグノーシス(*マリファ*)と資質(*シファート*)は、他のどのものにも見られないような喜びを与えます。 これは、神に近づいた人々(*シディキーン*またはグノーシス主義者)のランクです。

4種類の心:この説明に照らして、心には4つのタイプがあります。 あるタイプの心はもっぱら神を愛し、神のグノーシスの増加が続くまで静けさを見出しません。 第二に、心は神のグノーシスに存在する喜びの種類さえ知りません。 それは名声、支配(権威と権力)、富、そしてすべての肉体的な喜びと喜びにのみ喜びを見出します。 第三の心は、ほとんどの場合、神の記憶(*ディクル*)、熟考(*フィクル*)、グノーシス(*マリファ*)によって神との親密さを見出しますが、時には人間の特性がそれに影響を与えます。 第四の心はしばしば人間的な特徴が支配的ですが、時には知識とグノーシスの泉の恩恵を受けることもあります。 その中で、最初のタイプの心臓は不可能です。 それが可能であると仮定すると、それらは存在しないに近い数が非常に少ないです。 世界は第二のタイプの心でいっぱいです。 3番目と4番目のタイプのハートは存在しますが、数は少ないため、レアと呼ぶ方が適切です。 預言者の時代に近い当時、そのような心は豊富にありました。 預言の時代が徐々に遠ざかるにつれて、このタイプの心の数も減少し、この[完全に消滅するわけではないが減少する]プロセスは審判の日まで続くでしょう。

祝福の第六分割: この分割は、すべての祝福[種類と分割]を支配しています。 この区分の要約は、祝福には2つのタイプがあるということです - 1つは、それ自体が目的の頂点である祝福であり、それは来世の永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)であり、その中には4つの事項が含まれています:消滅に直面することのない存在と生存(*ファナ*))、悲しみ

が混ざり合わない幸福、無知を伴わない知識、貧困を伴わない富と豊かさ。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

لَا عَيْشَ الْأَعَيْشَ الْآخِرَة

「来世の生活と快適さ以外には、いのちと慰めはありません[永遠の至福と永遠の勝利の状態での神の臨在の中で]」。 (ナレーション: *ハディースは*、アナスの権威に基づいてサヒーブハーリ *とサヒームスリムを収集*します[神が彼を喜ばれますように])

彼は、低次の自己(ナフス)*が世俗的な幸福に満足せず、この人生の来世にも終わりのない人生があることを考える(認識する)*ために、幸福の機会にこのことを言及しました。

導きの段階: [真実と永遠の真実への] 導きは、それなしでは誰も永遠の幸福と永遠の成功を求めることができない現実です (*サーダ*)。 [指導は感謝に値する最大の祝福の一つです。 人間は来世の幸福が埋め込まれたものを望むことができますが、自分の救いがどの物質に埋め込まれているのかさえ知らず、(内側と外界の両方で)混乱を引き起こす事柄を自分の改革の[行為]として考えるなら、単に善を行おうとする意図だけでは利益を得ることはできません。 導きがなければ、(人が持っている良いことをする)意図、能力、手段は何の役にも立ちません[したがって、導きは、幸福、救い、永遠の幸福と無限の成功の道に向かって正しい方向に推進し、導くために不可欠です]。 ガイダンスには 3 つの段階があります。 第一段階は善と悪の理解です。 神はすべてのしもべにこの祝福を与えました - ある人には知性[善悪を識別する手段であり、この能力は世界中の人間に与えられている]ことによって、ある人には預言者によって[神の]メッセージを送ることによって授けられました。 天の書物(本来の純粋な形で)、高貴な預言者(神とその教えについて)、内なる洞察と知恵(神が周囲の人間に授けた)は、導きの手段です。 これらの手段から誰も止めることはできません。 傲慢さ、嫉妬、世界への愛を心に欠けている人々だけが、これらの手段の達成に基づいて行動します。 心が傲慢、嫉妬、世界への愛に満ちている人、または目が明るく(見える)にもかかわらず、知性にベールをかぶせる手段に囚われている人は、クルアーンは次のように述べています。

فَإِنَّهَا لَا تَعْمَى ٱلْأَبْصَٰرُ وَلَٰكِن تَعْمَى ٱلْقُلُوبُ ٱلَّتِى فِى ٱلصُّدُورِ

「現実には、目は[真実を見るために]盲目になるのではなく、代わりに胸の中にある心が盲目になり、理性と知覚の能力を失います。」 (クルアーン、22章、46節)

知性と知覚にベールをかぶせるものには、習慣、自分の伝統[および育ち]への執着、先祖の[知的およびイデオロギー的]遺産を保護[または保持]したいという願望が含まれます。 クルアーンはそれを次の言葉で説明しています。

إِنَّا وَجَدْنَآ ءَابَآءَنَا عَلَىٰٓ أُمَّةٍ وَإِنَّا عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِم مُّقْتَدُونَ

「(一部の人々は)この方法(生き方や思考プロセス)で祖先を見つけ、また[必ずしもその背後にある理論的根拠なしに]彼らに従っているだけです。」 (クルアーン、第43章、23節)

傲慢さ、嫉妬、優越感は、心を盲目にし、導きの道を歩むのを妨げるような問題です。導きの第2段階は第1段階の後に起こり、霊的な闘争(ムジャハーダ)の結果として達成されます。 神はあらゆる状況下で導きをもってそれを与え(報酬)します。 神は[例外なく全人類への約束として]こう言われます。

وَٱلَّذِينَ جَٰهَدُوا۟ فِينَا لَنَهْدِيَنَّهُمْ سُبُلَنَا

「われの道で[精力的に]努力する者たち、われは必ず彼らをわれの道(導きの道)に導く。」 (クルアーン、29章、69節)

ガイダンスの第3段階は、第2段階の後です。 この導きは、霊的な努力の完成の後、預言者の領域と[神の]導きの領域で輝く[霊的および内なる]光(照明)です。 この光(内なる照明)によって、人は知性によって知ることができないものを知ることができ、それは神の律法、命令、禁止事項が依存しているものであり、それを通して知識の獲得が可能である。 このガイダンスは絶対ガイダンスと呼ばれます。 それ以外に、他のすべてのガイダンスは、その序文(最初のステップ)とベールです(本当のガイダンスから)。 この導きは、すべての導きの源が神の存在であるため、神がそれを具体的にご自身に帰したようなものです。 神はこう言われます。

قُلْ إِنَّ هُدَى ٱللَّهِ هُوَ ٱلْهُدَىٰ

「(ムハンマドよ!)と言ってください。間違いなく、導きの道は神からの道です。」 (クルアーン、第2章、120節)

この[神からの導き]は「いのち」と呼ばれます。

أَوَمَن كَانَ مَيْتًا فَأَحْيَيْنَٰهُ وَجَعَلْنَا لَهُۥ نُورًا يَمْشِى بِهِۦ فِى ٱلنَّاسِ

「以前に死んでいた人が、その後、われは生き返らせ、その光で人々の間を歩き回るような光(内なる霊的光)を授けた。」 (クルアーン、第6章、122節)

次の聖句は同じことを指しています。

أَفَمَن شَرَحَ ٱللَّهُ صَدْرَهُۥ لِلْإِسْلَٰمِ فَهُوَ عَلَىٰ نُورٍ مِّن رَّبِّهِۦ

「神が御心に服従する道を歩むために心を開いた人は、主からの光(内なる光)の上にいます。」 (クルアーン、39章、22節)

魂 - より大きな祝福: 身体の臓器や手足、知覚、強さの恩恵が、心臓を中心(住居)とする微妙な蒸気に依存し、そこから伸びた静脈を通って全身を循環していることを考えてみましょう。 それが体内の器官に到達するとすぐに、それはその中に感覚、知覚、動き、強さを生み出し、まるで[暗い]家の中で動き回る[光を与える]ランプのように、このランプが到達するところならどこへでも、この光はそこに届きます。 したがって、このランプが届く家の隅々は、そこに光が届く原因となります。 この光は神の創造と発明ですが、神は神の知恵からランプをその原因としました。 この微妙な蒸気は、医師の用語では「魂」と呼ばれています。 その住処は心臓です。 心に関するたとえ話は、魂がランプの炎に似ており、心は器のようなものであり、心の中の黒い血は芯のようであり、そのための供給(食べ物)はランプの油のようなものであり、それによる全身の命は、 ランプによる家の中の光のようなものです。 ランプの油が消費されるとランプが消え、同様に、供給の摂取が中止されると魂のランプが消えます。 さらに、ランプに油が満ちているにもかかわらず、芯が燃え尽きて灰になり、油を吸収する能力がなくなる場合、同様に、心臓の熱によって心臓の血液が燃える可能性があり、供給にもかかわらず、魂のランプは、魂の継続的な存在を保証する供給を受け入れる能力がもはや存在しないため、消えます。 さらに、ランプが油が消費されたり、芯が燃え尽きたりするなどの内部的な理由で消えるのと同じように、同様に、風などの外部の理由によっても消灯します。 同様に、魂は何らかの内的な理由によって絶滅することがあり、時には殺戮などの外的な理由によって絶滅し、魂に終止符を打つこともあります。 ランプが消えたのは、油が消費されたか、芯が燃えてしまったか、誰かが灯したか、風の道に乗って来たか、どのように消えても、これらすべての事柄は、神によって定められた神

の命令によって存在します。 人間の魂も同様です。 それがどのように消滅するか、どのように消滅するかにかかわらず、それは神の知識の中にあり、神の永遠の命令に従っています。 保存されたタブレット(過去、現在、未来の知識を含む神の記録の本)には、すべての魂に最終的に指定された時間があります。 この時間が経過すると、魂と肉体の関係は終了し、この終了は運命の書き手(神)が書いた(叙階された)ようにのみ起こります。

ランプが消えると家が暗くなるのと同じように、魂が体から出ると暗闇が全身に広がり、魂から得られていた照明の過程、つまり「生命」という言葉に含まれるすべての事柄の感覚、知覚、意図、照明が途絶えます。 魂も秘密であり、神の祝福への明確な暗示であり、この主題の真実性の[神の]宣言です。

قُل لَّوۡ كَانَ ٱلۡبَحۡرُ مِدَادٗا لِّكَلِمَٰتِ رَبِّي لَنَفِدَ ٱلۡبَحۡرُ قَبۡلَ أَن تَنفَدَ كَلِمَٰتُ رَبِّي وَلَوۡ جِئۡنَا بِمِثۡلِهِۦ مَدَدٗا

「(ムハンマドよ!)『もし海がわが主の言葉を書くための墨になるなら、たとえわがそのようなものを補足として持ってきたとしても、海はわが主の言葉が尽きる前に枯渇するだろう』と言いなさい。」 (クルアーン、第18章、109節)

これらすべてのことを知っているにもかかわらず、神の祝福を認めることを拒否し、それらに感謝しない人は、非常に不幸であり、神の慈悲から遠く離れており、神の罰に近いものです。

なぜ人々は感謝の気持ちを持たないのか

知的な人間の視線が何かに落ちたり、何かの考えが心に浮かんだりすると、人はその中に神の祝福を求めます。 心と目が怠慢と無知の厚いベールで覆われている人々は、神の祝福を祝福とは考えていないため、人々は無知と怠慢(不注意)のために神に感謝していないことを知っておく必要があります。 彼らが祝福さえ知らないのに、どうしてそれに感謝できるでしょうか? もし彼らが祝福を理解しているなら、彼らが知っている感謝の道は、 *アル・ハムドゥリラ*(すべての賛美は神にあれ)または *アル・シュクララ*(すべての感謝は神に)を舌で言い、それで十分だと考えることです。 彼らは、感謝の意味が、その祝福に関連する知恵(目的と意図)の完成に祝福を使用することであり、その

知恵が神の従順であることを知りません。 もし人々がこの二つの理解を持っていても、神に感謝していないとしたら、その理由はサタンの支配と欲望に他なりません。

祝福を伴う過失の原因: 祝福を伴う過失の原因はたくさんあります。 その原因の一つは、人々が無知のせいで、人々が一般的に持っている祝福を祝福として考えていないため、感謝の気持ちを抱かないことです。 彼らにとって、祝福は特別なものであるべきであり、言い換えれば、誰かが特別に持っているものがあれば、それは祝福と呼ぶことができます。 食べ物や飲み物、または身体システムの卓越性(さまざまな身体器官の能力と有用性、そしてそれらがすべての個人をどのように助けるか、それなしでは人生は非常に困難になる可能性がある)に関する限り、すべての大きな人、小さい人、金持ち、貧しい人、著名な人、卑しい(社会的に取るに足らない)[個人]には共通点があります。 だからこそ、どうしてこれらが[彼らの誤った見方で]祝福となり得るのでしょうか? これが、彼らが新鮮な空気を祝福とは思わない理由です。 誰かの喉が一瞬圧迫され、新鮮な空気の通過が止まった場合、新鮮な空気が入らないと死を受け入れる可能性があります。 同様に、大浴場(ハマム)や熱風だけが通る場所に閉じ込められたり、湿気で空気が重い深い井戸に落ちたりすると、窒息死することができる。 もし誰かが熱い銭湯や深い井戸の閉じ込めから抜け出すことができ、あなたがそのような人に新鮮な空気の価値と貴重さについて尋ねたとしたら、それは[大きな]祝福とみなし、それに感謝するでしょう。 人々が祝福を奪われたときにのみ祝福と見なすのは極度の無知です。 その祝福が再び返されることもあれば、そうでない場合もありますが、人はあらゆる状況下で感謝の気持ちを持つべきです[不足か豊かさか、持っているか持っていないかにかかわらず、今日私たちが持っているものが当たり前だと思われているものは、明日は失われる可能性があるため]。

たとえそれが大きな祝福であるにもかかわらず、自分の目に対して神に感謝を表明する見る人を見たことがないはずです。 しかし、目の光がなくなり、盲目になったとき、人はこの祝福を大切にします。 幸運にも視力が戻った場合、その人には感謝の気持ちを表しますが、見る目を持つまでは、一般的に世界では目があるので、それを祝福とは考えません。 これほど一般的なことなのに、どうしてそれが祝福になることができるでしょうか? そのたとえ話は、礼儀作法を欠き、横柄さのせいでいつも殴られる横柄な奴隷のたとえ話です。 殴打がしばらく止まれば祝福とみなし、完全に止まると傲慢になり、感謝の気持ちを捨てるでしょう。[このたとえ話は、誰もが自分の主人である高貴な神への礼儀作法と忠実を必要とする神の奴隷であるため、すべての人に当てはまります。 人々の状態は、その富が多かれ少なかれ、周囲の他の人々と何らかの区別を与

える富(または特異性)にのみ感謝するようなものです。 それ以外は、他のすべての祝福を無視し、感謝の気持ちも持たない。

貧乏人の苦情の話: ある貧しい男性が、心の人(グノーシス主義者または神の親密な人)に、自分の貧しさと大家族がいることについて不平を言い、「私は自分の悪い状況のためにとても心配で動揺しています」と言いました。 グノーシス主義者は彼に、「1万*ディルハム*(古い金の通貨で、この金額は莫大です)を持って盲目になることができますか?」と尋ねました。 彼はノーと答えた。 グノーシス派は再び尋ねました、「一万*ディルハム*を受けて、愚かになることに同意できますか?」 彼はノーと答えた。 グノーシス主義者は「一万*ディルハム*を受け取って足が不自由になるのが好きですか?」と尋ねました。 彼は再びそれを拒否した。 グノーシス主義者は「1万*ディルハム*を持って手札を失いますか?」と尋ねました。 彼もそれを受け入れなかった。 グノーシス派は「一万ディルハムのために正気を失いたいですか?」と尋ねました。 彼はノーと答えた。 するとグノーシス主義者は言った、「あなたの主はあなたに5万*ディルハム*の富を与えましたが、それでもあなたは自分の貧困と窮屈な状況について泣いています!」

イブン・サマク(神に慈悲あれ)は、当時コップ一杯の水を持っていた*カリフ*(政治的権威)のところへ行きました。 *カリフ*は彼にアドバイスを求めた。 彼は言った、「あなたが非常に喉が渇いていて、このコップ一杯の水があなたから奪われ、あなたがすべての財産を手放さない限り、それはあなたに返されないと言われたとします。 コップ一杯の水のために、自分の財産をすべて放棄しますか?」 彼は「間違いなく、私はすべての富を手放すつもりです」と答えました。 イブン・サマクは尋ねた、「そして、もしあなたの領土全体を放棄するという条件があなたに設定されているなら?」 *カリフは*「その状態では、私の領土全体を放棄することを躊躇しない」と言いました。 彼は、「あなたが持っている支配の状態は、コップ一杯の水のためにそれをあきらめることができるようなものであり、それについてあまり喜ぶべきではない」と言いました。 このことから、喉の渇きの時に、水を一飲むことは、その達成のために全世界の支配権さえも犠牲にすることができるほど大きな祝福であることは明らかです。

神の特別な祝福: [人間の]気質は、それらの祝福を自分に特有の祝福と見なすので、一般的な祝福を祝福とは見なしません。 だからこそ、私たちは、ある点であなた方に特有の祝福のいくつかをほのめかしています。 一人に特有の、すべての人に見られるわけではなく、一人だけがそれらを持っているか、ごく少数の人がそれらに分け前を持っ

ているわけではなく、これらの祝福をいくつか持っていない人間はいません。 したがって、誰もが自分の特殊性や特殊性を確信し、それを自賛する事柄が3つあります。 それらは、知性、内面の資質(性格特性、マナー、内面の気質など)、および知識です。

知性に関する限り、すべての人は、神が人をこの世の非常に知的な人間に造り、それを持って生まれさせたことに満足しています。 [祈りや嘆願の中で]神に知性を求めるような人はほとんどいませんが、そうでなければ、一般的に人々は自由に使える知性の量に満足しているようです。 これが知性の特異性であり、知性を持たない人はそれに満足しているように見え、それを持っている人はまた幸せであり続ける。 それにもかかわらず、もし個人が自分がすべての人々の中で最も知的であると考え、それが現実でもあると考えるなら、人はこの最大の祝福を授けてくださった神に感謝すべきであり、現実にいないとしても、世界で最も知的な人であっても、この祝福が自分の中に存在していることに感謝する義務があります。

性格特性の状態は、他人の欠点に目を光らせず、同じ欠点が存在する場合でも、他人に対する嫌悪感(嫌悪感)を表明しない人が周りにいないようなものです。 しかし、人は他人の過ちを非難するのは、自分が他人の過ちから解放されていると考えているからです。 現実の個人が、他の人が関わっている過ちがないのであれば、他の人がその悪に巻き込まれている間、神がその悪から人を守ってくださったことを、神に感謝すべきです。

知識に関する限り、誰もが自分の秘密の状態(他人に隠されている)と心の中に隠された考え(他人に隠したほうがよい)に精通しています。 それらの状態や考えは、人々に明らかにされれば、その人の評判がすべて破壊されるようなものです。 同様に、すべての人は、自分以外に誰も知らないいくつかの事柄について知識を持っています。 このような状況では、神が自分の欠点を覆い隠し、その良い資質を際立たせてくださったことに、誰もが感謝すべきです。 これらは、すべての人が自分の特殊性と特殊性を確認し、告白する3つの問題です。

信仰と確信こそが真の富です:神が深い内なる洞察(バセラ)を授けた人は、*グノーシス(マリファ)、確信(ヤキーン)[神と永遠の真実]、信仰(イマーン)の富によってのみ幸せになるはずです。* むしろ、西から東までの支配者を支配しているすべての富、助手、信

者を与えられ、知識の見返りにそれらを受け入れるように求められ、知識のすべてを放棄したくないのであれば、そのほんの一部を放棄するような学者を私たちは知っています。 彼らはその申し出を受け入れないだろう。 それは、知識の祝福が来世における神の近さと近さをもたらすものであることを知っているからです。 代わりに、「あなたが来世で期待している完全性は、それにもかかわらずあなたによって達成され、それに減少は期待されていませんが、私たちが望んでいるのは、あなたが知識に耽溺した結果として得られる喜びを私たちに与え、それに代わって世俗的な喜びを取ることです」と言われた場合。 彼らはそのような交換に同意しません。 それは、知識の喜びが永遠であり、決して止まらず、永遠に残り、盗むことも、奪うことも、減らすこともできず、汚れが混ざり合わない清浄で純粋な喜びである一方で、世俗的な喜びや喜びには欠点があることを知っているからです。 彼らには濁りと心配があり、彼らの恐怖は彼らの中で得られる満足感よりも多く、彼らの悲しみは彼らの喜びよりも多く、彼らの悲しみは彼らの快適さよりも大きいです。 この[世俗的な]喜びは、私たちが説明したとおりであり、今後もそのままです。

世俗的な喜びや快楽は、欠陥のある知性の持ち主が網に閉じ込められ、欺瞞に耽るように作られただけであり、彼らが欺瞞に陥ると、これらの喜びや快楽は彼らから逃げ出し、彼らに近づくことを拒否します。 これらすべての心配と困難は、光景の欺瞞にだまされてしまったので襲い掛かります。 もし人が知性を使い、視線を下げて[世の華やかさやきらめきなどの不必要なものを見ないため]、[不必要なものを見る]喜びを卑しいと考えていたなら、人は一生安全であり続けていたでしょう。 また、世界(自分の内なる存在のすべてを吸い取って消費する世俗的な快楽、喜び、耽溺)を避ける人々が忍耐の苦痛に悩まされている(世俗的な快楽から遠ざかるための)忍耐の苦痛に悩まされていると言うのもまったく正しくありません。 感情的、心理的、精神的な苦しみ)。 時々、彼らは世界(世俗的な快適さ、喜び、喜び)を望んでいますが、それは彼らから遠く離れています。 時々、計り知れない闘争と努力の末に、彼らは世界(世俗的な快適さ、喜び、喜び、物質的な成功)を達成しますが、それを守ることを心配し続けます。 私たちは、この世を避けている人は、この苦難の後に忍耐の苦難に耐えなければならないことを受け入れますが、なぜあなたはその苦難が達成しようとしている慰めを忘れるのでしょうか? 世俗的な快楽を追い求める人々は、ここ(この世で)苦しんでおり、来世の苦しみも彼らを待っています。 彼らは、低次の自己(ナフ)の上に次の聖句を暗唱する必要があります。

وَلَا تَهِنُوا۟ فِى ٱبْتِغَآءِ ٱلْقَوْمِ ۖ إِن تَكُونُوا۟ تَأْلَمُونَ فَإِنَّهُمْ يَأْلَمُونَ كَمَا تَأْلَمُونَ ۖ

وَتَرْجُونَ مِنَ ٱللَّهِ مَا لَا يَرْجُونَ ۗ

「そして、敵対する国(グループ)を追いかける勇気を失ってはいけません。 あなたが苦しんでいるなら、あなたが苦しんでいるように、彼らも苦しんでいます。 そして、あなたは彼らが望まないようなことを神から望んでいます。」 (クルアーン、第4章、104節)

怠慢で不注意な心の治療法: この詳細から、感謝の道が人々には外的と内面的、共通の祝福と特別な祝福に馴染みがないために制限されていることは明らかです。 ここで疑問が生じます:この怠慢と不注意の治療法は何でしょうか? 処方できる何らかの治療法があるに違いなく、それによって、人々が神の祝福を感じ始めることができるように、不注意な心の怠慢を取り除くことができます。 この認識の後、彼らは[神の]感謝の気持ちを持ち始める可能性があります。

この質問に対する答えは、内なる洞察(バセラ)を奪われていない心は、前のページでほのめかした[さまざまな]種類の共通の祝福について熟考することが、その治療法であるということです。 鈍い心の持ち主は、祝福が自分に固有のものであるか、それが彼らから奪われて後で彼らに戻されない限り、祝福を祝福とは見なしません。

そのような心の治療法は、彼らが常に自分より低い人々(世俗的な地位や物質的な所有物において)に目を向け、 病院に行くことが日常の日課であるスーフィー(内なる完全性と人生の真の目的の達成のための神聖な道を歩む精神的な旅人であり努力者)の足跡をたどることです。 墓地と刑務所。 彼らは病院を訪れて、そこで治癒している患者を見て、彼らの病気について調べ、彼らが同じ病気を持っているかどうかを確認しました(心を慰め、彼らのために祈る以外に)。 自分自身にそれらを見つけられない場合、彼らは安全と健康を与えてくださった神に感謝していました。 彼らは刑務所を訪れ、囚人の状態や彼らが直面している刑罰を見て、彼らを罪から救ってくださった神に感謝し、そうでなければ刑務所の囚人の代わりになれたかもしれません。 彼らは墓地(墓地)を訪れ、墓を見ると、たとえ一日であっても、何とかこの世に帰ってほしいというお願いを抱く墓の住人たちを想像していました。 罪を犯した人たちは、生きている間に犯した罪を償うために、この世に帰りたいと願っています。 従順だった人たち(もはやこの世にいない神のしもべたち)は、裁きの日が喪失の日であるため、義の行いを増やしたいので、自分の義行いを増やしたいので、従順な人は、その日に達成できたこと、そして

もたらしたこと以上のことができると知ったとき、自分の喪失に気づくでしょう。 あああ！彼らは貴重な時間を無駄にし、何千もの貴重な瞬間を単なる許されることに費やしました[主を喜ばせ、主への距離とグノーシスを高めるために正義の行いに秀でる代わりに]。 [審判の日に]罪人の喪失は自明です。

墓地に行き、故人の墓を訪れるとき[彼らに敬意を表し、主からの許しを祈り、死後の生活が安らぎますように]、その墓にいるすべての人々は、善人であろうと悪人であろうと、悪行を償うか、善行を増やすためにこの世に戻りたいと願っていることを心に留めておく必要があります。 「神様が私に過去の過ちを償い、神様への従順の行為を増やす機会を与え続けてくださったのは幸運です。 私は残りの人生を神様の従順の中で過ごすべきです。 私の一息一息は神の祝福です。 私はこの祝福に感謝すべきです[そして、神のグノーシスによって永遠の幸福と永遠の成功という形で私の人生の目的を達成するのを助け、この地上の人生で彼に近づくのを助ける、私の主を喜ばせる行いにこの祝福を使用することによって、それに応じて行動すべきです]」。 人間は祝福を理解して初めて祝福に感謝する。 したがって、人生を祝福として理解するなら、確かに人は人生の残りの日々をすべて、自分が創造されたために働いていることに費やすでしょう。 実際、人生は、来世への信頼または規定(ザード)を達成するために創造されました。 人間がこの[命の]祝福に感謝するなら、人はその目的を怠ることは決してないでしょう[そして正義以外は何も持たないでしょう]。

世俗的な苦難の5つの側面: 貧困、病気、恐怖など、世界に存在する苦難や災難が何であれ、知的な人が喜び、感謝すべき5つの側面があります。 この5つの側面のうちの1つは、この時期に降りかかった苦難や病気、それよりもはるかに深刻な災難や致命的な病気は、神が定めた運命に誰も干渉できないので可能であるということです。 もし彼が災いを倍増させたり、病気の重症度を増したりしたとしたら、誰がそれについて何かできるでしょうか? 神がそうすることを禁止したり、神の行く手に障害を作ったりすることはできません。 ですから、神の慈悲と憐れみから、神はこれ以上の災いを送らなかったと考え、感謝すべきです。

第二の側面は、この苦難や災難が世俗的な事柄に降りかかったということです。 また、あなたの信仰に災難が降りかかり、信仰に多大な損害を与えた可能性もありました。 したがって、ある男がサール・ビン・アブドゥッラー・アル・トゥスタリ(神に憐れみあれ)に、泥棒が彼の家に侵入し、彼の所有物を略奪して逃げたと告げたとき、サール

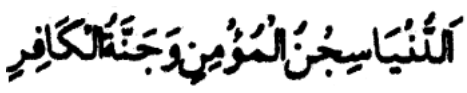
は言いました。 もしサタンが泥棒の代わりに入ってきて、家の代わりにあなたの心に入り、神とその唯一性(タウヒード)へのあなたの信仰を台無しにしたとしたら、あなたはどうしたでしょうか?」 だからこそ、イエス(神の祝福と平安あれ)は、この言葉で神の保護を求めていました。私の信仰に関連する災いで[私]を苦しめないでください」。ウマル・ビン・アル・ハッタブ(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「4つの神の祝福がなかった苦難は私に降りかかりません。第一に、それは神(ディーン)への私の道で起こりませんでした。第二に、それは量を超えません。第三に、私はそれを[神の命令として]受け入れることを奪われていません。第四に、私はそれに対する神の報いを期待しています。

苦難に感謝する第三の側面、つまり理由は、すべての罪に対する罰は来世まで遅らせることができ、これは神がその罪を償うためにこの世に苦難を送った神の優しさです。その場合、世俗的な苦難は小さくて軽いままですが、来世の罰は永遠ですが、永遠ではないにしても、その刑罰は減りません。 この世には、(苦難に耐えているとき)満足の手段はまだありますが、来世では、世俗的な悪行で罰に直面している人々の満足の手段はすべて断ち切られるので、そこでは[神の報復]が減ることはありません。 また、預言的なナレーションでも、この世で[罪のために][神の]罰に耐えている人は、来世では罰せられないことが証明されています。 苦難に対する感謝の第四の側面または理由は、「私に降りかかった苦難は保存された石板(神の命令によって定められた)に書かれており、必ず来るので来たのです。 この災難は、これまで起こったものよりも大きかった可能性があります。 ですから、起こらなかったことは私にとって祝福であり、そのことについて神に感謝すべきです。」 第五の側面、つまり[苦難に対する感謝の理由]は、苦難に対する神の報いは、苦難そのものよりも[はるかに]大きいということです。

この世の災難と苦難は、来世への成功の[手段または]道です:この世の苦難は、2つの理由から、来世への[成功の手段または]道です。 第一の理由は、患者に苦い薬を与えられ、子供たちが遊ぶのを妨げられる根拠は、苦い薬がこの苦難の後に慰めを見つけることができるので、患者にとって祝福であるということです。 同様に、子供たちが[常に]遊ぶのを防ぐことは、子供にとって祝福であり、もし人が[心の欲望に]遊ぶ完全な自由を与えられたら、知識やエチケットを[習得]することから、残りの人生で途方に暮れることになるからです。 富、財産、家族や親戚、友人、臓器などの状態も同様です。 これらすべては人間にとって愛されています。 時には、知性は非常に貴重で優れたものですが、そのために破壊を受けなければなりません。 審判の日には、彼らは神への道を知性で混入させないように、狂気や子供になりたいと願うでしょう。 これらの手段で

悪の側面だけを持つ必要はありません。 特に神の道(*ディーン*)に関して、人間にとっては改善が見られます。 これらの事柄(富、財産、家族や親戚、友人、臓器など)が、神への道において、神に至る道において改善の原因であると考えるなら、神の知恵は計り知れず、神はしもべにとって何が彼らよりも良いことをよく知っているので、神に感謝すべきです。 裁きの日、神のしもべたちは、この世で耐えた苦難や災いが報われているのを知るとき、神に感謝するでしょう。 神が送られた苦難や災いは、正しい礼儀作法(人生と神への道)を教える方法です。 神のしもべに対する寛大さと優しさは、親の子供に対する優しさと慈悲よりもはるかに大きく、はるかに完全で永続的です。

第二の理由は、(人間の)致命的な過ちの中で一番上にあるのは、世の愛(世俗性や世俗的な執着や絡み合い)であり、救いの原因の中で一番上にあるのは、世の愛から心を遠ざけることだからです。 もし世俗的な祝福を求めずに達成され、それを達成するのに何の困難もなかったなら、心は世に傾き、世俗的な手段に執着し、世界が彼らにとって楽園のようになっていたでしょう。 死と[世界からの]分離の瞬間が近づいたとき、心はそれからの分離に耐えられなかったでしょう。 しかし、時々苦難が訪れ続け、心配事に対処し続けると、心は世界に飽きて執着しなくなります。 むしろ、容赦ない苦難は、人を刑務所と見なし、この世を去ることは、刑務所から解放され、そこに解放されるようなものになります。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は次のように述べています。



「世界は信者にとっては牢獄であり、不信者にとっては楽園である」。 (ナレーション: *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づく*サヒー・ムスリム [神が彼を喜ばれますように])

神を避け、世界だけを求め、それを達成することに満足し、その喜びを見つけることに満足しているとき、人は不信者と呼ばれます。 信者は、心が世間から疎遠になり、この牢獄から解放されるために忙しい人です。 不信仰(*クフル*)は明白であると同時に秘密でもあります。 この世の愛が心の中に残っている限り、その限りにおいて、仲間を神に帰属させること(*シャーク*)は[心の奥底に]秘密(隠されている)ままです。 絶対一神教者は、絶対者(神)を愛する者にする人です。

これらは、人が苦難に対して幸福を持つべき理由です。 苦難を後悔するのは自然なことです。 そのたとえ話は注射が必要であるというものです。 [投与する資格のある]人が無料で投与する場合、または一部の患者が苦い薬を服用する必要がある場合、明らかに、注射を受けることや苦い薬を服用することに痛みがあります。 それにもかかわらず、注射を投与する人と医師に感謝します。 その理由は、この困難のそばには幸福もあり、言い換えれば、病気を取り除くことができるからです。 だから、注射と苦い薬を飲んだ後、痛みがあるところに幸福も得られます。 世の中の苦難はそう考えるべきです。 苦い薬や体の手術に似ています。 それらによって引き起こされる一時的な痛みはありますが、最終的には安らぎと慰めが得られます。

忍耐と感謝の程度: 忍耐には多くの程度があります。 最高の程度は、困難を悪いものと見なし、それについて文句を言わないことです。 すべての高低を網羅するすべての忍耐の程度の後は、神の意志(リダ)を受け入れる程度であり、次に、困難に対して神に感謝する程度です。 その理由は、忍耐には痛みの感覚があり、神の意志(リダ)を受け入れることで痛みも幸福も得られないのに対し、感謝には幸福がないわけにはいかないからです。 忍耐に無数の程度があるように、感謝にも数え切れないほどの程度があります。私たちはその最高度についてのみ言及しました。 忍耐の度合いはたくさんあります。 同様に、感謝にも多くの程度があります。私たちはその最高度について説明しただけです。 それは、すべての祝福が正当な権利なしに神から得られるというこの現実を確認することであり、神に感謝を表明することも祝福であることを知り、謙虚さを保つことであり、これらすべての事柄は感謝であり、程度の点では互いに異なります。 同様に、物事に反対し、与える者を美しい礼節で扱い、すべての祝福をよく受け入れ、小さな祝福を大きなものと考えるなど、すべて感謝です。 要約すると、すべての行い(行い)と霊的な状態は忍耐と感謝の中に含まれており、それらは無数にあり、程度は互いに異なります。

第13章 – 人ができるすべての過ちに対する断固たる抑制として神を恐れ、積極性と楽観主義の道具として神に希望を持つ

人間の行動は簡単に制御不能になり、個人、仲間の人間、そして世界全体に苦しみを与える可能性があるため、抑制する必要があります。 自分自身や他人に対して犯すことができる過ちに対する内面と外面の拘束が必要です。 心の奥深くに根ざした神を恐れることは、考え、言葉、行動におけるあらゆる形態の悪行や否定的な行為に対する途方もない内なる抑制です。 神が私たちの存在のあらゆる繊維に常に見守られ、私たちの最も内側の考えや感情さえも知っており、神が私たちの間違った行動を妨害し、私たちから発せられるネガティブな何かに対して私たちを任務に導くことができることを知ることは、思考、言葉、感情、行動、 そして存在の状態。

神への恐れの鏡像は、神への希望です。 それは、絶望や悲しみの状況における計り知れない内なる助けと強さの源です。 一見絶望的な状況であっても、神がすべてを正すことができることを知ることは、困難な状況でも前向きな行動に向かい、間違った状況になった後に物事を正すよう駆り立てる計り知れない励ましとインスピレーションの源となります。 恐怖と希望のバランスをとって、一方が個人をネガティブなものから抑制し、他方がポジティブな方向へと駆り立てるようにする必要があります。 ガザリは、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻または四分の一の第3巻の第3巻で、この重要な主題を巧みに扱っており、次のように凝縮された形で提示されています[19]。

[神への]畏れ(*カウフ*)と[神への]希望(*リジャ*)はそのような翼であり、彼らの助けを借りて、神の親しい人々が飛んで高い[霊的]地位に上昇することを知らせてください。 それらは、それらに乗ることによって、来世の危険な道を横断するような乗り物です。 神の親密さの目的地と楽園の住まいは遠く離れており、[それらに通じる]道は危険に満ちており、これらの道を歩む[霊的な]旅人を疲れさせ、[肉体の]臓器や手足を苦難に陥らせます。 同様に、地獄の恐ろしい火と[来世で自分の悪行に対する]悲劇的な罰から身を守ることは、[神への]恐れなしには不可能です。 したがって、両方の現実、それらの卓越性、両者の間の[明らかな]矛盾、およびそれらを組み合わせることを説明する必要があります。 したがって、この[恐れと希望について]は2つの章に分かれています。 まず、(神に対する)希望の状態を説明し、次に第2章では、(神に対する)恐れの状態を説明します。

希望の現実、その卓越性、希望のための薬とそれを得る方法

希望の現実: 希望は、霊的な旅人や努力家(サリケン)の駅の中から来た*駅*(マカーム)であり、[神の]探求者の状態の中から来た状態であることを*知らせてください*。 人の[内面の]性質が[魂の中に]とどまり、確立される場合、それは「ステーション」(*マカーム*)と呼ばれ、その性質が一時的ですぐに消えてしまう場合、それは「状態」(*ハール*)と呼ばれます。 心の内なる性質には、この区分[霊性の重要な用語であるステーションと状態]があります。 状態は急速に変化するため、状態と呼ばれ、これは心のすべての性質で経験されます。 知識は状態の原因であり、状態は[正しい霊的および肉体的]行動の原因であるため、[内なる霊的]状態、知識と行動、これら3つすべてによって完成されますが、全体として、希望は状態の名前にすぎません。 この詳細は、嫌いな(望ましくない)または愛されている(望ましい)と感じたものは、3つの状態から自由ではないということです - それは現在に存在するか、過去に存在していたか、または将来それを待っているかのどちらかです。 過去に起こった存在について心の中で考えが生じた場合、それは記憶または言及と呼ばれます。 それが現在に存在する場合、それは知覚と呼ばれ、その存在が将来に期待され、それがあなたの心を支配している場合、それは期待と待機と呼ばれます。 [将来]期待されている、または待っていることが望ましくなく、それが心に痛みを引き起こす場合、それは恐怖(*カウフ*)と呼ばれ、それが望ましいものであり、それを待つことに喜びと幸福を見出す場合、それは希望(*リヤ*)と呼ばれます。 このことから、希望(*リヤ*)は、それが[将来起こる]のを待っている間、あなたを幸せにしてく

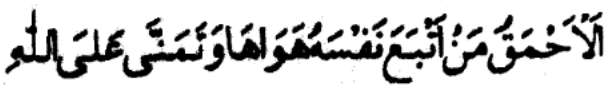
れるものの名前であり、あなたにとって愛されていることを学びます。 しかし、あなたがあなたにとって愛されているものを待っていて、それを手に入れることを考えて幸せを感じているなら、確かにあなたはそれらの手段によってあなたが最愛の人に到達できるようなリソースを持っているでしょう。 もしそれがそのようなものなら、それは希望(ノヤ)であり、もしあなたが[そこに到達するための]手段を持っておらず、愛する人との出会いを期待しているだけなら、それは自己欺瞞であり、愚かです。 手段の有無が分からない場合、そのような待機は、*その中に理由のない待機が見つかるため*、願いや虚しい欲望(タマンナ)と呼ばれる。

希望はどこに適用されますか? 希望と恐れは、存在が確実ではないものに適用され、代わりに疑わしいものであり、希望は存在が確実なものには適用されません。 例えば、日の出と日の入りの存在は確かだから「日の出に期待している」と言うのは正しくありませんが、「雨が降るのを期待している、または(将来の)干ばつを恐れている」と言うのは正しいです。

この現実は、世界は来世の農地であり、心のたとえ話は土地のたとえ話のようであり、信仰は種のたとえ話のようなものであり、神の従順は土地を耕し、[雑草のような不要な成長を取り除くことによって]きれいにするようなものであることが、心の人々(照らされ、悟りを開いた個人)に明らかにされ、明確に明らかです。 水路を掘り、それを使って農場を灌漑する。この世に没頭し、その快楽に耽る心は、種を保持しない[または発芽しない]不毛の土地のそれのようなものです。裁きの日は、この世の生活に蒔かれたもの(または植えたもの)をその日に正確に収穫するので、収穫を刈り取る日です。 来世の[良い]収穫は、[神と永遠の真実への]信仰の種なしには不可能であり、心の悪や悪い道徳、マナー、性格特性、内面の性質の存在下では、信仰はほとんど利益を得ません。 不毛の土地に種がいくら水を灌いてもとどまらない(発芽)のように、だからこそ、[神の]しもべ、つまり人間が[神の]赦しの希望を持っているなら、その希望を農夫の希望に委ねるべきなのです。 したがって、農耕に適した(肥沃な)土地を選択し、そこに良い種を植え、種子が地表の下から[健康な]植物[または作物]の形で立ち上がるようにあらゆる可能な手段を講じ、時間通りに[農地]に栄養を与えたり灌漑(水を)与えたり、雑草を取り除き、植物の成長に影響を与えたり作物に害を及ぼしたりするすべての障害を取り除きます。 その後、農夫は神から、天と地の災害から自分の耕作を守ってくださるという期待を抱き、そのような待ちと期待を希望と呼びます。 もし人が、水が届かなかったので、灌漑する手段がない標高にある硬くて岩だらけの土地に種を蒔き、さらにそれを育てず、代わりに作物の収穫を待ち始めたとしたら、これは[正当な]待つことで

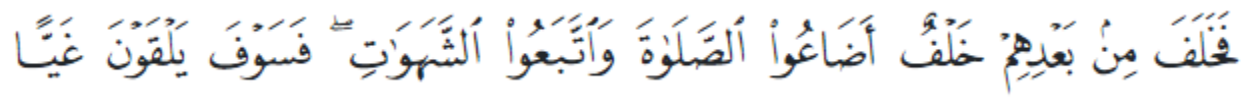
はなく、むしろ、それは高慢であり愚かであり、希望ではありません[正当化するためにそれを達成するために可能なすべての手段を講じなかったので、希望]。 同様に、良い[肥沃な]土地に種を蒔いたが、その後のすべての[栽培]段階で怠慢をし、水をやらず、代わりに雨が降るのを待って、雨が降らないか、雨が降るが農業のすべてのニーズを満たすのに十分ではないような気象条件や場所で雨が降ると予想した場合、 そのような待ちは[無駄な]欲望(*タマンナ*)と呼ばれ、それは希望(*リヤ*)*ではありません*。

この詳細から、希望という用語は、しもべの管轄範囲内にあるあらゆる手段が用いられる、しもべの管轄範囲外にある手段だけが残っている(除外された)最愛の[または望ましいもの]の待ち時間にのみ適用できることがわかっており、その[手段]は神の恵みであり、それが[すべての事柄]に含まれる場合、 すべての障害やネタバレは[それらの問題から]遠ざかります。 これが[神の]信じるしもべの状態です - もし人が心の地に信仰の種を蒔き、[神の]崇拝の水でそれを灌漑し、悪い道徳、マナー、内面の性格特性や気質のいばらからそれを守り(*Su ul-Khulq*)、そして神の恵みから自分の信仰が死ぬまで続くことを期待するなら、 そして心の収穫は裁きの日に収穫の準備をします。 もしそうなら、この待ち時間は真の意味での希望(*リヤ*)であり、優れた資質(内面の特性)です。 この希望は、人が自分の信仰を保持し、[神聖な]グノーシスの時に救いを確実にするためにあらゆる育成手段に継続的に行動することによって、それを細心の注意を払って育むようにします。 しかし、心の地に種を蒔いたが、その後、水をやらずに種が乾いたり、過度の雨や道徳、マナー、内面の性格や性質の雑草やとげによって台無しになったり、作物を追い越したり、世俗的な快楽の害虫に襲われたりするまで、 そして、これらすべての怠慢と欠点にもかかわらず、人は許しを待ち望み、期待し続けましたが、この待ちと期待は愚かさと傲慢です。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「愚か者とは、自分自身を自分の低い欲望に従属させ、神に期待する人です。」

神はこう言われます。



「彼ら(預言者とその真実の信奉者)の後、祈りを台無しにし、低次の自己からの卑劣で低い欲望に従う、そのような価値のない人々(霊的知識と知恵の予言的継承に値しない)が生まれました。 そのような人々はすぐに(自分の悪行から発せられる)欠点に気づくでしょう。」 (クルアーン、第19章、59節)

それにもかかわらず、神の従順に努力し、罪を控える[神のしもべ]は、神の慈悲と寛大さから[神の]祝福が完成するという希望に値し、祝福の完成は楽園に入ることです。 悔い改め、自分の過ちを贖い、償う罪人は、自分の悔い改めを受け入れる希望を持つ権利があります。 もし、悔い改める前の自分の罪を悪いと考え、自分の善行に満足し、自分の低次の自己(*ナフス*)を非難し、悔い改めを望んでいるなら、罪を悪いと考え、悔い改めを望むことは、悔い改めに向かって推進する手段であるため、悔い改めの能力が[神に]与えられることへの希望を持つべきです。 希望の段階は、クルアーンが言うように、(希望の)手段の完成の後にやって来ます。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱلَّذِينَ هَاجَرُواْ وَجَٰهَدُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ أُوْلَٰٓئِكَ يَرْجُونَ رَحْمَتَ ٱللَّهِ

「まことに、信仰を持つ人々と移住した人々(内なる移住は悪から善へ、低い性格から高い性格へ、物質主義から非物質的または霊的なものへ)であり、神の道で努力した人々、彼らは神の憐れみへの希望の候補者です。」 (クルアーン、第2章、218節)

この聖句の意味は、彼らはまさに神の憐れみに対する希望の権利を持っている人々であり、希望がこれらの人々に固有のものであるという意味ではありません。 しかし、頭からつま先まで嫌悪感に浸っている人は、自分を悪いとは思わず、悔い改めて神に帰る決意も持っていません。 ヤヒヤ・イブン・ムアド(神が彼に憐れんでくださいますように)は言いました、「私にとって最悪の自己欺瞞(妄想)は、個人が赦しを期待して、恥も後悔もせずに罪を犯し続け、何の[神の行為]従順もなく神との親密さを期待し、火の種を蒔いた後、楽園の実を待ち、従順な[神のしもべ]の住まいを求めることです。 楽園)は、罪や悪行によって、神の報いを求め、いかなる行動もせずに神の報いを求め、抑圧や過剰にもかかわらず(他人の権利を侵害し、簒奪するという点で)神からの善の扱いを[誤って]望んでいます。」

希望を追い求めて努力する: 私たちは希望の現実に多くの光を当ててきました。 要約すると、問題の核心は、それが[それに至る]ほとんどの手段の発生後に知識の結果として

生じる状態であるということです。 この状態の要求は、満たされていない手段は、残りのすべての手段の完成(利用)にあらゆる方法で努力する必要があるということです。 農業の例では、肥沃な土地に良い種を蒔き、必要に応じて灌漑する人は、そのような人の希望は真実であり、そこに生えている雑草やとげを掃除し、定期的に水をやり、収穫まで怠慢を持たないようにして、その土地(農場)の世話をするように説得するでしょう。 その理由は、希望の反対は絶望と絶望であり、何かに絶望しているなら、そのために奮闘して自分自身を苦難に陥らせないからです。 何かを手に入れる希望を持っているのは、その人だけが苦労しています。 したがって、自分の土地が不毛で、種が役に立たず、水がその土地の届かないところにあることを知っている人は、その土地の維持から確実に遠ざかるでしょう。 希望は行動を促すので賞賛に値し、絶望は人が何かをすることを妨げるので非難されるべきです(適切な行動)。 [神への]恐れは[神への]希望の反対ではなく、むしろ、霊的な努力(スルク)の旅におけるパートナーであり、むしろ行動の主体です。 しかし、その方法は異なります - 希望には[何かをしたい]願望があり、恐怖には[悪行の]防止があります。 誰かが自分自身に希望の状態を持っている場合、それは内なる霊的状態の変化に関係なく、善行へのより多くの努力と神の従順の行為における忍耐力を要求します。 長期にわたる霊的な努力と、良い行いの忍耐によって神に集中することで、人は神への懇願に喜びを見出し、柔らかさ(謙虚さ)とつながりを持って神に自分の必要を求めるでしょう。 もし人がこの状態を持っていないなら、その人は[神への]希望の[霊的]位置から離れており、代わりに傲慢さと[無駄な]欲望(タマンナ)の峡谷に取り囲まれていることを理解する必要があります。 これらは、希望についての詳細、希望をもたらす知識、そして希望から生まれる行動です。

希望を持つための希望と説得の卓越性:[神に]希望を伴う行動は、[神への]恐れを伴う行動よりも優れていることを知ってください。 そのたとえ話は二人の王のたとえ話のようなもので、そのうちの 1 人は寛大さへの希望から仕えられ、もう 1 人は恐れから仕えられています。 最初のものが2番目のものよりも愛されるのは明らかです。 したがって、神の律法には、死の時に神について希望(*リヤ*)と良い意見(*フスン・アル・ドゥン*)を持つという多くの説得があります。 神はこう言われました。

لَا تَقْنَطُوا۟ مِن رَّحْمَةِ ٱللَّهِ

「神の憐れみに絶望しないでください!」 (クルアーン、39章、53節)

この聖句では、絶望は[この神の戒めによって]完全に禁じられています。 預言者ヤコブ(神の祝福と平安あれ)の状況において、神は彼に「なぜ私があなたとヨセフ(彼の最も愛

する息子たち)との間に別れたのか知っていますか?」と尋ねた神の啓示を送ったことが伝えられています。 なぜなら、あなたは彼の兄弟たちに[ヨセフ(神の祝福と平安あれ)を彼らと一緒に遊びに出かけるように頼んだとき、純粋な嫉妬から彼を永遠に追放する策略から]と言ったからです。

وَأَخَافُ أَن يَأْكُلَهُ ٱلذِّئْبُ وَأَنتُمْ عَنْهُ غَٰفِلُونَ

「あなたたちが[遊びのせいで]彼を怠っている間に、彼がオオカミに食べられるのではないかと心配しています。」 (クルアーン、12章、13節)

なぜあなたはオオカミを恐れ、私に希望を持たなかったのですか? ヨセフの兄弟たちの怠慢を見て、なぜわたしの保護を見なかったのですか?」

ハディース・クッシ(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の伝承)の中で、神はこう言われました。

أَنَا عِنْدَ ظَنِّ عَبْدِي بِي فَلْيَظُنَّ بِي مَا شَاءَ

「わたしもべがわたしについて考えるように、わたしももべとともにいる(わたしの人間との付き合いはわたしに対する自分の意見に従っている。したがって、人は神について良い意見を持ち、神に最善を期待すべきであるが、神に対する良い意見を神に喜ばれる努力と努力で裏付けるべきである)。 ですから、人は私について望む意見を持つべきです。」 (この伝統は、 *ハディース集 イブン・ヒバン* ワティラ・イブン・アル・アスカの権威に基づく (神が彼を喜ばれますように)]

ある時、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、死の苦しみの中にいる人のところに行き、「あなたはどのような状態にありますか?」と尋ねました。 彼は答えました、「私は心の中で[私が犯した]罪に対する恐れと、主の憐れみを望んでいます」。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「心の中でこの両方のもの(希望と恐れ)が組み合わさった人、神はその人の希望に従ってそのような人に授け、恐れているものから人を守ってくださる」と言いました。 (この伝統は、 *ハディースは*、アナスの権威に基づいて*ティルミディ*、*ナサイ*、 *イブン・マジャ*を集めています(神が彼を喜ばれますように)]

ある男は、罪の過剰さゆえに激しい絶望状態にあった。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は彼に言いました、「あなたの最大の罪は、あなたが神の憐れみに絶望していることです」。 預言的なナレーションによると、神は預言者ダビデ(神の祝福と平安あれ)に「私を愛し、私を愛し、人々の間で私を愛する者としてください」という神の啓示を送りました。 彼は「どうすればあなたを人々の間で愛されるべきですか?」と尋ねました。 神は「人々の間で私についてよく言及し、私の恩恵と祝福について言及し、それを思い出させてください。そうすれば、彼らは私の恩恵だけに精通し続けることができます。」 ヤヒヤ・イブン・アクタム(神の憐れみあれ)を夢の中で見た人もいました。 彼は「神はあなたをどのように扱ってくださったのですか?」と尋ねられました。 彼は答えました、「神は私を神の前に立たせて言われました。『おお、悪い老人よ! あなたはあれこれの罪を犯したのです!」 [生前に行った]私の行為の記録を聞いたとき、私は神の畏敬の念に圧倒されました。 それから私は言いました、『おお神よ! *ハディース*(預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の語り)には、あなたについてこのように語られていなかったでしょうか?」 神は「何が語られたのか」と尋ねられました。 私は答えた、「アブドゥル・ラザクは私に語りました、彼はモアンマルから語り、ゼーリから語り、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から語り、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から語りました。

أَنَا عِنْدَ ظَنِّ عَبْدِي بِي فَلْيَظُنَّ بِي مَا شَاءَ

「私のしもべが私を考えているように、私は私のしもべと一緒にいるので、人は私について望む意見を持つべきです」、そして私はあなたについて、あなたは私を罰しないだろうという推測(意見または期待)を持っていました。」 神、威厳、名誉ある神は、「ガブリエルは真実を語り、私の預言者は真実を語り、アナス、モアンマル、ゼーリは皆真実を語り、あなたも真実を語った」と答えました。 その後、私は名誉のローブを与えられ、天のしもべが私を楽園に導きました。 その時、私は『これがいわゆる幸せだ!』と自分に言いました。」

希望を得る方法と方法: 希望は二人に必要であることを知らせてください。 第一に、悲しみと絶望に支配され、礼拝を放棄する人です。 第二に、[神への]恐れに支配され、[その結果]礼拝に固執しすぎて、自分が動揺し、家族も動揺する人です。 どちらの個人も節度の限界を超えており、[2つの反対の]両極端に傾いています。 どちらも、節度の道に導くような治療法を必要としています。 しかし、赦しに値するようなことを何もせずに[神の]服従を放棄したにもかかわらず、[神の]赦しを望んでいる自己欺瞞的な罪人は、そのような人にとって希望は致命的です。 蜂蜜が冷たい気質の人には治療法で

すが、熱い気質の人には有害であるのと同じように。 [神への]恐れだけが、そのような人にとって有益であり、恐れを生むような手段です。 だからこそ、人々に助言し、助言する人は、病気とその病気の原因に目を光らせ、病気を改善する代わりに病気を増やすようなものではなく、すべての病気とは反対の方法で治療を行うべきです。 それは、目的が節度であり、すべての[人間の]資質と特性において、節度の程度が好まれており、この程度が最高だからです。 [人間の]資質や特性が、過剰か不足かにかかわらず、節度の程度から逸脱している場合、それは節度の程度に戻るための治療の必要性です。 節度の程度からさらに逸脱させる治療法は必要ありません。

アリ(神が彼を喜ばれますように)は、「学者とは、人々を神の憐れみに絶望させたり、神が彼らを[清算のために]任務に連れて行くことを恐れないようにしない人です」と言いました。 私たちは希望の原因を語ることを確信していますが、すべての個人のために語るのではなく、むしろ神の憐れみに絶望した人、または神への恐れに支配されている人のためにのみ語ります。 クルアーンと預言的なナレーションは、どちらもさまざまなタイプの患者を治すためのすべての手段を構成する恐怖と希望に基づく教えを含んでいるため、同じ意味を伝えます。 これらの手段の知識とそれらを使用する方法が[神的に]預言者の後継者である学者に伝えられているため、[個人的および特定の]ニーズに応じて、彼らは賢明で経験豊富な医師のようにこれらの手段を使用し、患者に適した治療法を提案することができます。 その病気が何であれ。

恐怖の現実

恐怖の現実: 恐怖とは、将来予想される困難の考えから生まれる心の痛みと悪化であることを知っておいてください。 希望の説明では、恐怖の現実も明らかになった。 神への憧れと親しみやすさを持っている人は、真理が人の心を支配し、常に神の美しさを目撃することに没頭しているので、未来に注意を払わず、[その結果]心に[未来]への恐れも希望も持たず、代わりに、自分の[内なる]状態は恐怖と希望の両方の状態よりも優れています。 なぜなら、この2つの状態(恐怖と希望の)は、低次の自己(ナフス)の野生の馬が節度から逸脱することを許さない2つの手綱のようなものであり、心の中の恐怖と希望の欠如は、低次の自己の[神への]従順を提唱しているからです。 ワスティ(神が彼に憐れみあれますように)は、「恐れは神と神のしもべの間のベールである」と言いました。 また、「真実が心に明らかにされれば、希望も恐れも許されない」とも言いま

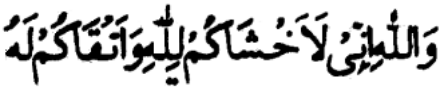
した。 したがって、愛する人を目撃している間に、恋人の心が[最愛の人から]離れることを恐れているなら、人は最愛の人の美しさのビジョンを楽しむことができず、自分のビジョンは欠乏したままになりますが、すべての[霊的]ステーション(マカマート)の頂点は永遠の[神聖な]ビジョンを持つことであり、利益(利益)の希望と危害の恐れはそれを断ち切るものではありません。

恐怖の成分の構成: 希望と同様に、恐怖も知識、[存在の][内面]状態、および行動の3つで構成されています。 知識とは、害を及ぼす原因の認識を指します。 たとえば、誰かが王に無礼を表明したり、王の戒めに反抗したりして、後に逮捕され、王の前に出頭したとします。 この状況では、確かに殺されるのではないかという恐怖があるでしょうが、王が許したり、何らかの形で釈放されたりする可能性もありますが、心の中で殺されるのではないかという恐怖は確かにあります。 その場合、その恐怖は、たとえば、犯罪の重大さ、敵意と嫉妬を抱いている王、復讐心のある王、王に復讐を扇動する人々に囲まれていること、とりなし者を奪われていることなど、殺害を正当化する理由の強さに比例して強くなります。 あるいは、キングの怒りを終わらせたり、心の中の復讐の火を消したりするすべての資源を奪われること。 これらすべての理由が収束し、被告人もそれらについて知っている場合、間違いなく、殺されることへの恐怖が心の中で非常に強いでしょう。 これらの原因が弱いかそれ以下である限り、恐怖の痛みは少なくなります。

時々、恐れている人は犯罪を犯したから恐れているのではなく、むしろ恐れられている人の何らかの特徴が恐怖を植え付けることです。 たとえば、誰かが獰猛な獣の爪に閉じ込められた場合、獣は確かにその獣を恐れるでしょう、なぜなら、その獣の獣の性質と特徴を認識しているからです、そして獣姦がその最愛の特性であることを知っているので、この特性は裁量的(非強迫的)です。 時には、非裁量的(強迫的)であり、流れの速い水に落ちたり、火事に閉じ込められたりするなど、恐れられる人の性質に固有の特性による恐怖があります。 人間が水と火を恐れるのは、水の本来の性質は溺死することであり、火の本来の性質は燃えることです。

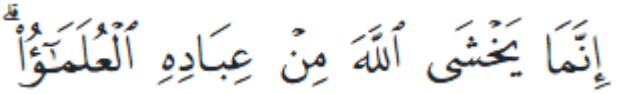
要約すると、悪の原因をより深く理解すると、心に苛立ちと悪化が生じ、内なる存在に痛みが生じます。 この悪化と内なる痛みは恐怖と呼ばれます。 同様に、神を恐れるのは、神の存在のグノーシス(マリファ)と、神が全世界を絶滅させたとしても、神は気にせず、誰もそれを止めたり、この消滅のために神を非難したりするなどの属性によるも

のです。 時々、[神のしもべ、つまり人間]は自分の罪のために恐れ、時にはこの二人が一緒になって[恐怖の状態を引き起こす]。 そして、そこにあるものは何でも、神の手の中にあり、神は何も、誰も必要としていない、神が何をしようとも、神に任務を負わせる人は誰もいないという確信が固まる限り、しもべ(人間)はあらゆる状況において[神の]説明責任の段階を経るだろう、その程度まで恐怖は増大するだろう。 このことから、自分自身に精通している人は、神をより恐れると結論付けられます。 だからこそ、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言っています。



「神よ!私はあなた方全員の中で最も神を恐れています。」 (この伝統は、 アナスの権威に基づくハディースコレクション *Sahih Bukhari* (神が彼を喜ばれますように)]

これが、クルアーンに次のように述べられている理由です。



「知識に恵まれた神のしもべの中から、神に対する[敬虔な畏敬の念、恐れ』を持っている人だけが神に対する[敬虔な畏敬の念、恐れを抱く]神の臨在を吹き込む神のグノーシスの真の知識が導かれ、その所有者がその崇高な霊的状態に反する思考、感情、言葉、行動、そして存在の状態にふけることを不可能にするからです。」 (クルアーン、第35章、28節)

[神への]恐怖の影響: このグノーシス(*マリファ*)[神の存在と属性、そして自分の罪について]完了すると、それは人の心に恐怖を生み出し、自分の内なる存在に悪化し、この悪化の影響は心臓から体の他の器官に移ります。 この悪化と恐怖は、身体の衰弱、青ざめ、泣き声などの形で現れます。 時には、この状態の熱が非常に大きな影響を及ぼし、絶望と絶望の状態に変換されます。 身体の器官は、過去の過ちを償い、将来に備えるために(道徳的および倫理的に正しい生活を送るために)罪から守られ、従順な行為に従属するという恐怖の効果を持っています。 したがって、[神]を恐れる人は、泣いて涙を拭う人ではなく、[神の]罰を恐れるものを捨てる人であると言われています。 アブ・アル・カシム・ハキーム(神の憐れみあれ)は、「何かを恐れる人はそこから逃げるが、神を恐れる者は神の慈悲深い抱擁に避難する」と言いました。 ドゥン・ヌーン・アル・ミスリ(神が彼に憐れみあれますように)は、「しもべが[神を]恐れるのはいつですか?」と尋ねられました。 彼は「死を恐れて病気が危険で有害な食べ物を防ぐ患者のよ

うになるとき(有害なものに対する予防の欠如により病気を悪化させることによって引き起こされる)」と答えました。 [神への]恐れが自分の特性(特徴と内面の資質)に及ぼす影響は、欲望が根絶され、世俗的な快楽が[人の目には]卑劣になり、それまで愛されていたすべての罪が悪く見え始めることです。 蜂蜜が好きだが、その中に毒が混ざっていることを知ると、この傾向が嫌悪感に変わるのと同じように、同様に、[神]の恐れの熱が欲望を燃やし、[身体]器官は[文明的な]エチケットを発達させ、心は謙虚さ、謙虚さ、敬虔さなどの資質を発達させ、傲慢、敵意、嫉妬などの非難されるべき資質は取り除かれます。 人の焦点は自分の[神]の恐れに向けられ、他の場所に一瞥する感覚は残っていません。 人は霊的な闘争(*ムジャハダ*)、自己省察、または自分の悪行に対する責任(*ムハサバ*)、そして常に神の熟考(*ムラカバ*)で忙しくなります。 人が持つすべての瞬間、一歩一歩、発するすべての言葉は、無駄にしないほど貴重になります。 代わりに、人は彼らを非常に守るようになります(それらを失わないように保護することによって)。 自分の状態は、獰猛な獣の爪に閉じ込められ、一瞬の過失を利用してそこから逃げられるのか、それともその餌になって爪の中で死ぬのかわからない状態になります。 もし人がそのような状況に閉じ込められたら、その人の心と精神、外側と内側の存在は自由を見つける方法に執着しているだけで、他の考えさえ思い浮かびません。 これが[神への]恐れに支配されている人の状態です。 一部の預言者の仲間(*サハバ*)とその追随者(*タバエーン*)は、[神への]恐れが彼らの存在のあらゆる血管とあらゆる繊維に支配しているというまったく同じ状態を持っていました。

行動における[神への]恐れの程度:人の恐れが強い限り、神の威厳の属性のグノーシス(*マリファ*)と低次の自己の欠点の理解があり、その程度まで、霊的な闘争(*ムジャハダ*)、自己省察または自分の悪行の責任を負うこと(*ムハサバ*)、そして神への熟考(*ムラカバ*)が存在します)がより強力です。 自分の行動における恐怖の影響の最下位は、神の律法の命令によって禁じられていること(*ハラム*)を行わないようにすることです。 神の律法の禁止事項から遠ざかることは、綿密さ(*ワラ*)と呼ばれます。 恐怖が固くなれば、神の律法で禁じられている可能性がわずかにある事柄からも遠ざかる、言い換えれば、禁じられていることが確実に知られておらず、したがって疑わしい事柄からさえ、人は揺さぶられることになります。 この程度の[神への畏敬の念]は「*タクワ*」(神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧)と呼ばれ、疑わしい事柄を放棄し、確実に許容される事柄に基づいて行動することを意味します。 時々、一見問題ないように見える事柄を放置し、疑わしいかもしれないという恐れからそのままにしてしまうことがあります。 この程度の[神への畏敬の]程度は「*シドク・フィ・アル・タクワ*」(神への敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧における内なる誠実さと誠実さ)と呼ばれます。 本当に必要なもの(そして確実に許されるもの)だけを使ってこの程度を次のレベルに引き上げると、たとえば

、住むつもりのない余分な家を建てたり、消費しない食べ物を蓄積したり、世俗的な傾向を持たない、 そして、世界は自分から切り離されるものであり、[その結果]神以外のことを考えるのに一息も無駄にしないことを知っているので、この程度は「*シドク*」(真実性または真実への完全な献身)と呼ばれます。 そのような人を「*シディク*」(真実の人、グノーシス主義者、または親密で神の友人)と呼ぶのは完全に適切です。 この取り決めによれば、真実性(*シドク*)は神への畏れ(*タクワ*)に含まれ、神への畏れは綿密さ(*ワラ*)に含まれ、綿密さには貞操と純粋さ(*イファ*)が含まれます。

神への恐れが目的である: 実際には、神への恐れが目的です。 もし神の目的が[しもべたちを]ご自分の存在を恐れさせることでなかったなら、神はしもべたちを圧倒して罪を犯すことを許さなかったでしょうし、彼らが罪を犯しやすくすることも、彼らに罪を犯す手段を提供しなかったでしょう。 それは、罪の手段を提供することは、神の憐れみから人を遠ざけることに等しいからであり、その根拠に基づいて罪に値すると宣言され、罪の手段が人にとって容易になったであろう[最初の]罪の前に、しもべが犯した罪はなかったからです。 同様に、従順の[最初の行為]の前に、しもべには、人を[さらに]義の行いに値し、義の道を照らすような義の行いがありませんでした。 これらはすべて、同意するかどうかにかかわらず、神が定めた運命の秘密です。 その存在の[何にも]執着しないということは、何の事前の理由もなく、神は、何の事前の理由もなく、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に、これまでに与えられたすべての階級の中で最も崇高な地位を授けたので、被造物の中から誰も彼と競争すると主張することはできません。 その一方で、神はアブ・ジャールを、彼の[以前の]過失なしに、最下位の地位に到達させました。 その無知の状態[そして誰にも何にも執着しない]状態がそのような存在であるなら、陛下と威厳を恐れることが不可欠です。

神への畏れの卓越性とその勧告: [神への]恐れの卓越性は、論理的演繹(*カヤス*)とクルアーン、聖句、預言的伝統の両方から証明されています。 物事の素晴らしさを見るための論理的演繹の方法は、それが永遠の幸福と神のビジョンの無限の勝利(サーダ)に向かって人を駆り立てるのにどれほど役立つかを見ることです。 だからこそ、何かが永遠の幸福と永遠の成功に到達するのを助けることができる限り、その程度までは卓越性のレベルを持つでしょう。

来世で神と出会い、永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)を獲得することは、神への愛と憧れなしには不可能であり、愛は神の記憶(マリファ)なしには達成できず、神の記憶の永

続性なしには神のグノーシスは達成されず、神の記憶(*ディクル*)と瞑想(*フィクル*)で忍耐するためには達成できないと以前に説明しました)、心を世から切り離すことが不可欠であり、心の世への執着は、しもべが世俗的な快楽と欲望を捨てたときにのみ断ち切られ、欲望を根絶するには[神への]恐れの火が必要です。 [神への]恐れとは、欲望を燃やして灰にする火であり、だからこそ、欲望を燃やし、罪から人を守り、[神の]従順を勧める恐れだけが優れているのです。 そうすれば、欲望が燃え上がる限り、罪は減少し、[神の]従順が現れる(増加する)限りにおいて、それ(永遠の幸福と永遠の成功)が優れているでしょう。 これが、神を恐れる程度の違いの現実です。 なぜ[神への]恐れが優れているのでしょうか? しもべはそれを通して、貞操、純粋さ、綿密さ、謙虚さ、霊的な努力などの性格特性を達成します。 これらの性格特性の素晴らしさは疑いの余地がありません。 したがって、恐怖の卓越性は、論理的な推論だけでなく、[神聖な]聖句や伝統からも証明されます。

[神に対する]恐れの卓越性における聖句と伝統: 恐れの卓越性には無数の[予言的]伝統があります。 [神への]恐れの素晴らしさに関して、神が楽園に至る4つの[霊的]ステーション、すなわち[神の]導き、[神の]憐れみ、[神の]知識、[神の]知識、[神の]承認をすべて次の3つの聖句に蓄積したことを知るだけで十分です。

هُدًى وَرَحْمَةٌ لِّلَّذِينَ هُمْ لِرَبِّهِمْ يَرْهَبُونَ

「主を恐れる者には、(主から)導きと憐れみがあった。」 (クルアーン、第7章、154節)

إِنَّمَا يَخْشَى ٱللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ ٱلْعُلَمَٰٓؤُا۟

「知識を持っている者だけが神を恐れる。」 (クルアーン、第35章、28節)

رَّضِىَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا۟ عَنْهُ ۚ ذَٰلِكَ لِمَنْ خَشِىَ رَبَّهُۥ

「神は彼らを喜ばれ、彼らも神を喜ばれています。 それは主を恐れる者のためです。」 (クルアーン、第98章、8節)

最初の節には導きと憐れみがあり、2番目の節には知識があり、3番目の節には神の承認があり、それらはすべて神を恐れる人々のために用意されています。 [神聖]知識は[神への]恐れの結果です。 預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)は、「神を恐れる人々は至高の仲間(*ラフィーク・アル・アアラ*、つまり神)の仲間を持ち、誰も彼らのこの[崇高

な霊的]ランクに参加しないだろう」と言いました。 なぜなら、神への畏れは[神の]知識を持つ人々によってのみ実践されるからです[神の]知識を欠いている、またはそれに気づいていない人々、何の罰も受けずに悪行を行っているように見える人々として]、預言者の相続人である知識のある人々はこの交友関係の権利を持ち、預言者は至高の仲間の仲間を持つでしょう。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、彼の死に至ったこの病気の間、望むならこの世にとどまるか、望むなら神のもとに戻るかの選択を[神から]与えられ、それに対して彼はこう言いました。

اسالكالرفيقالاعلى

「私はあなたに至高の仲間をお願いします(私はあなたに永遠の仲間をお願いします)」。 (この伝統は、 *ハディース*がアイシャの権威に基づいて*サヒー・ブハーリ*と*サヒー・ムスリム*を集めています(神が彼女を喜ばれますように)]

フダイル・イブン・アヤド(神が彼に憐れみあれ)は、「神を恐れる人は、人をあらゆる種類の改善に導く」と言いました。 シブリ(神が彼に憐れみあれ)は、「私が神を恐れるたびに、これまで見たことのない新しい知恵と客観的な抑止力の教訓(イブラ)の扉が私に開かれました」と言いました。 預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)は、「神は審判の日にこう言われるでしょう。『今日、私が責任を負わない人はいません。しかし、綿密な人々(自分の考え、感情、言葉、行動のすべてに責任を負う人々)は、このことから免除されます。 彼らの説明責任と清算(ムハサバ)を行うことを恥ずかしく思います。 彼らは説明責任を乗り越えてきました(彼らはすでに世俗的な生活の中で自発的にそれを行っていたので)」と述べています。 神への恐れは、綿密さと敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏れ心に基づいています。

恐怖と希望の支配、または両方の中程度のレベルが優れていますか?

[神への]希望と[神への]恐れは、心を癒す二つの薬です。 これらの薬自体には賞賛に値する性質はありませんが、病気を治すのに有益である限り、その範囲では優れた性能を発揮します。 したがって、心が恐れを知らないという病気を患っており、この人が神の罰から守られていると思いながらも、世俗的な快楽や喜びに耽り続ける危険があるな

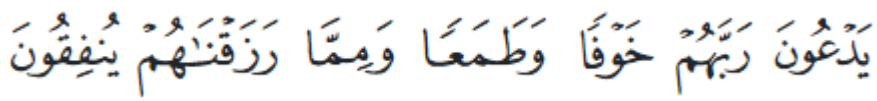
ら、この場合、恐れは優れています。 もし心が失望と絶望に支配されているなら、(神に対する)希望は優れているでしょう。 同様に、もし[神の]しもべが罪に支配されているなら、(神への)恐れが優れているでしょう。

また、パンがレモネード(レモンや酢と蜂蜜を他の天然ハーブと一緒に使って作った伝統医学の薬用飲料である「*シカンジャビーン*」として知られている)よりも優れているのと同じように、恐怖は絶対に優れているとも言えますパンは空腹の病気を治し、*シカンジャビーン*は肝臓から胆汁物質を治します。 (レモネードよりも)パンが必要であるため、空腹の病気が優勢であり、したがってパンの方が優れています。 この点で、人々は罪と自己欺瞞に支配されているため、その支配的な必要性のために[神への]恐れが優れていると言えます。 恐れと希望の源を一瞥すると、希望の源は[神の]憐れみであり、恐れの源泉は[神の]怒りであるため、希望は優れていると言わざるを得ないでしょう。 神の優しさと寛大さを支持するこれらの[神の]資質について熟考する人は、心の中で神への愛をさらに育み、[神の]愛の地位よりも高い[霊的]地位はありません。 [神への]恐れの場合、しもべの焦点は、神の怒りと不快感について議論する神の性質にあります。 畏敬の念は、これらの[神の]資質の結果として増大し、人は[神への]希望によって達成されるほど多くの神の愛と憧れを得ることはできません。

優れたものではなく改革的: 実際には、恐怖と希望はそれ自体に必要ではなく、目的でもありませんが、他の何かのために必要です。 私の意見では、他の人に必要なものは、彼らにとって「優れた」ではなく「改革的」という言葉を使用する方が正しいです。 この原則が受け入れられるなら、ほとんどの人は罪に支配されており、恐怖の鞭によってしか罪を捨てることができないため、ほとんどの人にとって、恐怖は希望よりも改革的であると言えるでしょう。 希望は彼らを大胆にすることができます-外側と内面の存在が浄化された神を恐れる-恐れ、節度と恐れと希望の間のバランスは改革的です。 だからこそ、この名言は「信者の恐れと希望を天秤にかければ、平等に出てくる」という言葉がとても有名です。 アリは息子の一人に、「神を過度に恐れ、世の善行をすべて持っていれば、それらは[神に]受け入れられないと考え、多くの希望を持ち、たとえ世の罪をすべて集めても、 彼はまだあなたを許してくれるでしょう」。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「もし一人を除いてすべての人が地獄に行くと発表されたら、私はその一人の人間になるという希望を持つでしょう。そして、一人の人を除いてすべての人が天国に行くという発表がなされたら、私はその一人の人間になることを恐れるでしょう」と言いました。 これは[神に対する]最も高い畏れと[神への]希望です。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)の希望と恐れだけが同等です。 罪を犯した人が、一人を

除いてすべての人が地獄に行くというこの発表を聞くと、地獄行きを免除された人が自分だと思い込んで自己欺瞞に陥ることができる。

心が強く、グノーシス(*マリファ*または神との親密さ)において完璧さを持っている人は、恐怖と希望が等しく、希望だけに支配されるわけではありません。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は非常に[驚くべき霊的]状態にあったので、彼は常に自分の心を調査し、彼の心の秘密の病気を見つけるのに細心の注意を払っていましたが、フダイファ(神が彼を喜ばれますように)に尋ねました。 彼は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が偽善のしるしの知識を彼に打ち明けたからだと尋ねました。 偽善や隠れた多神教(回避、またはパートナーを神に帰す、またはもっぱら神に帰すべきことを神以外のものに帰する)から心を清め、浄化する今日、誰がいるでしょうか? もし人が自分の心が[すべての悪と過ちから]清められたと決めたなら、その人はどこまで神の清算から救われることができるでしょうか? 神が[自分の悪行と卑劣な内面の状態に対する神の報復として][内なる]浄化を心に置いたが、現実はそれとは反対である可能性はあるのでしょうか? たとえ誰かが実際に心の浄化を持っているとしても、どうして人生の終わりまでその状態を保つと決心したのでしょうか? このような状況になると、どうして恐れを知らぬことができるでしょうか? だからこそ、信者は恐れと希望の両方を持つ必要があり、両者の間にはバランスと平等が必要です。 希望が素人に支配されていることは、彼らの理解と知識の欠如の証拠です。 したがって、クルアーンは、[神の]しもべの[崇高な]資質が言及されている2つの資質を組み合わせています。



「彼らは希望と恐れをもって主に懇願し、わたしが糧として与えてくださったものを[慈善活動に]費やします。」 (クルアーン、32章、16節)

しかし、ウマル(神が彼を喜ばれますように)のような高い[霊的]決意を持ち、希望と恐れの間で平静を保つことができる人々はどこにいるのでしょうか? だからこそ、現代では、恐怖が絶望に陥ったり、正しい行いを捨てたり、絶望に陥ったりしないという条件で、人々にとってより適切であるのです。 自分は罪人であり、赦しの望みがないことを恐れて、義の行いを捨てて罪に浸ったままになる人もいます。 そのような恐怖は有益ではなく有害です。 有益な恐怖とは、人に敬虔で正しい行為を促し、欲望に嫌悪感を引き起こし、世界に傾くことを許さないもの(世俗性)です。 ある考えが心に浮かび上がり、臓器に影響を与えずに過ぎ去り、悪行に対する憎しみを引き起こしたり、正しい行いをするように説得したりすることは恐れではありません。 [神への]恐れも絶望の原

因ではありません。 [賢者と預言者の]すべてのことわざの要約は、2つの[希望と恐れの性質]の組み合わせが望ましいということです。 しかし、死が来るまでは恐れがより有益で適しており、死の時には神の憐れみに対する希望と良い期待がより適切です。 なぜなら、恐怖はしもべに正しい行動を促す鞭であるが、死にかけていてもはや[敬虔で正しい]行動を行う能力を持っていない人、または恐怖が[死にゆく人の]心を沈め、人を死に近づけるように恐怖の手段に耐えるのに対し、希望は心を強め、その人の存在のあらゆる血管と繊維に神の愛を吹き込むからです。 [神のしもべ、つまり人間]にとって永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)は、神の愛の灯が心を照らし、神との出会いを望むことです。 神との出会いを望む人、神はそのような人との出会いを望んでいます。 愛、憧れ、[最愛の者との]出会いを望み、神のビジョン、知識、そして[正しい]行動を望む目的は、神のグノーシス(*マリファ*)であり、グノーシスの果実(結果)は愛です。 魂の所有者(人間)は死後、神のもとに戻るに違いなく、そこに人の最後の住処であり目的地があります。 愛する人と会う人は、自分の愛に見合った幸福の程度を経験します。 最愛の人から離れる人は、自分の愛に見合った痛みの程度を経験します。 誰かの心が配偶者、子供、家、土地、財産、友人、親戚の愛で支配されている場合、それは愛するもののすべてが世界にあるそのような人です-楽園は、自分の好きなものと愛するものをすべて組み合わせた特定の場所の名前であるため、世界は人の楽園です。 そのような人の死は、死が自分と愛するものの間のベールになるため、楽園からの追放のようなものであり、苦労でしか耐えられない苦しみです。 それは、世俗的な人々が死を恐れ、この世を残して去ることを好まないからです。

愛する人が神であり、神の記憶、熟考、神のグノーシスへの執着と憧れしか持っておらず、世俗的な障害やつながり(執着)を自分自身にとって有害であると考えている人が、そのような人にとって、世界は牢獄であるのに対し、ここでは一瞬たりとも静けさを見出せず、常にこの牢獄からの解放を見つけ、最愛の人と会おうと努力します。 ここで、囚人が刑務所から解放されたときに、最愛の人と会ったときに抱く感情を考えるべきです。 これは、信仰するしもべが肉体の閉じ込めから解放された後、最初に見つける幸福です。 この[幸福]は、神がしもべのために取っておいた神の報いとは別のものです。 この神の報いとは何でしょうか? それは、目も耳も聞いたこともなく、心に思いついたことさえないものです。 神は、この世の生活よりも来世の生活を好み、それに満足し、それに満足する人々のために、この神の報いを用意しました。 同様に、不信者がこの世を去ったときに経験する痛みは、神が不従順なしもべのために取っておかれた罰とは別のものです。 その中には、さまざまな種類の苦しみ、鎖、罠、屈辱と軽蔑の手段があります。 私たちは、神の御心に服従した状態で(地上のすべての人にとって避けられない神の選択の時に)死を与え、義人と加わってくださいと神に祈ります。 この

祈りを受け入れる希望は、神の愛を得なければそこにはなく、神以外の愛が心から離れ、神の愛の達成を妨げているすべての障害に対する心の執着が切り離され、富など断ち切られるまで、神の愛は達成されません。 名声、祖国など。 それにもかかわらず、死の時の希望の支配は、[神の]愛を生み出し、欲望の火が消え、心から世界の愛を取り除くので、改革的です。

不吉な結末に対するグノーシス主義者の恐怖

[人々の不吉な結末について]すべての聖句や伝統を聞いた後、恐れを知らない愚か者や無知な人しかいないでしょう。 希望の柔らかな風でグノーシス主義者の心を新鮮に保つことは、神の大きな恩恵です。 そうでなければ、彼らの心は恐怖で燃えていたでしょう。

悪い結末や不吉な結末の意味: バッドエンドには、一方が他方よりも難しい 2 つの程度があります。 第一に難しいのは、人が死の苦しみの中にいて、心が死に支配されているとき、神に疑いを持ち始めたり、神を拒絶し始めたりして、その状態で死ぬことです。 この疑いと拒絶は、人と神の間に永遠にベールを作り、永続的なベールは人を神からの遠ざけと[来世の]罰に導きます。 第2度のバッドエンドは、最初のものよりも程度が低いことですが、死の時に、人の心は世俗的な事柄や世俗的な欲望から支配され、心と精神を曇らせ、すべての感覚がそれに耽溺する程度です。 その状態では、欲望以外のもののための余地は[心と精神に]残されません。 その状態で魂が奪われて(死ぬ)としたら、心の耽溺(世俗的な欲望や欲望に)耽溺して、神以外のことに集中していたでしょう。 これは、人と神の間のベールの形です。 [神からの遠いことを象徴するこのようなベール]は[神の]罰を招きます、なぜなら神によって灯される火は[神の遠い]ベールの人々のためのものだからです。 健全な心を持ち(内なる霊的な病気がなく)、世(世俗性)に気づかず(世俗性)[世俗における自分の責任を除いて]、心から神に集中している信者、この火はそのような人にこう言います。[平和に]私を通り過ぎてください。 あなたの照明が私の炎を消しました。」

バッドエンドの原因: バッドエンドに至る原因は無数にあり、網羅することはできませんが、まとめて次のようにほのめかすことができます。

第一の原因 - 疑いと拒絶: 神、神の預言者、神の[啓示された]書物への単純な信仰を奪われ、議論や議論にふける人は、私たちがほのめかした[不吉な結末を迎える]危険に直面していることを確実に知っておく必要があります。 そのような人物の類似性は、船が海の真ん中で転覆し、今や反抗的な海の波に悩まされている人のことです。 これらの波はどこにでも動き回ります。 ほとんどの人がその状況で死ぬ(溺れる)ため、[そのような状況で]無事に海岸にたどり着くことはめったに起こりません。 だからこそ、神聖な存在と属性の現実を探求することは純粋な無知であり、危険の海に押し込むことに等しいのです。 しかし、知性の限界から抜け出し、預言者とグノーシスの地平線を照らす霊的な啓示(イルミネーション)の光にアクセスできる人々は[安全な海岸に首尾よく到着します]。 このレベルに到達する人はほとんどいないため、すべての素人がこの完璧に到達することは不可能です。 したがって、議論と議論の道は多くの危険に満ちています。 地獄の火を恐れて単純な人々がこれらの危険から守られたら、神の服従で忙しくなります。 彼らは不必要な議論に時間を無駄にしません。

疑いや拒絶による[悪い]結末の原因の第二の形は、現実への信仰が弱く、世界への愛が心を支配することです。 信仰の弱さの程度には、神への愛も弱くなりますが、その程度には、世俗的な愛も強くなります。 この強さは、神の愛のための能力を心に残さなくなる程度にまでであり、むしろ、この愛は、ほんの一瞬生まれて終わる一過性の思考の状態をとるでしょう。 その影響は、低次の自己に対抗し、悪魔の道から逸脱させるほど強くありません。 この状況の自然な結果は、人間が心が固まって暗くなるほど、頭のてっぺんからつま先まで欲望に浸ってしまうことです。 そして、この暗闇と硬さは罪に比例して増大し、かすかな光を放っていた信仰のランプが突然消え、心に信仰の光が残っていないとさえ感じなくなるほどです。 [その結果、]闇は人の本性、気質、目的になります。 死の苦しみの中で、神への愛のこの弱さは、差し迫った世界からの分離、つまり自分の心を支配する最愛の人であることに気付くため、さらに増大します。この[来るべき]別れの認識は、人に痛みを感じさせ、そのとき、死のために自分と世界の間の分離が起こり、死は神からのものであるという考えが心に生まれます。 したがって、人は死を悪いものと見なし、ここには、世界への愛への情熱の中で神と敵意を持ち始める危険があります。 その例は、息子にはある程度の愛を持っているが、彼の富には大きな愛を持っている男性の例です。 このような状況で、息子が財産を無駄にすると、息子に対するわずかな愛が憎しみに変わり、息子を敵とみなすようになります。神に対する憎しみや敵意が心に湧き上がる瞬間に魂を奪われれば、不吉な結末を迎え、永遠に滅びることが明らかだ。 この詳細から、この状況では、自分の心が世俗の愛に

支配され、世俗的な手段に傾倒し、信仰に弱さがあり、そのために神の愛も弱かったため、悪い結末を迎えたことが証明されます。 このことから、たとえ世の愛が心の中に存在しているとしても、世の愛が征服され、神の愛が心の中で支配的であることに気付くなら、その人はこの[悪い結末の]危険からは程遠いことがわかります。

第二の原因 - 罪: ここで、バッドエンドの第二の原因について言及します。 この原因は、[神への]疑いと拒絶の状態で死ぬことに比べると比較的軽く、地獄で永遠に生きることを保証するものではありません。 この結末の原因は二つあります - 一つは信仰が強いのに罪が多いこと、二つ目は罪が少ないのに信仰が弱いことです。 最初の[サブ]原因である罪の多さについての詳細は、欲望に支配され、憧れと習慣のために欲望が心にしっかりと根付くために罪を犯すということです。 一生慣れ親しんでいたことが、その瞬間に頭に浮かびます。 したがって、もし人が[神の]服従に傾いているなら、人は死の時でも[神の]服従に注意を払い続け、それを思い出し、言及します。 罪に傾倒している人は、死の時でさえ心を支配します。 また、自分の心が世俗的な欲望や罪に支配されているときに、そのような状態で魂が奪われることも起こります。 このようにして、人は神からベールに包まれ、自分に有利な不吉な結末を迎える大きな危険があります。

心に神への恐れがない場合、その理由は、その人が多くの悪行を持っているからではなく、その人の心に欲望や渇望がないわけではないからです。 むしろ、人は低次の自己(ナフ)の欲望に従属し、不幸が(自分の怠慢と悪行のために)支配的であり、心の無注意を目撃することができず、[最終的な]死に近づいても目覚めず、豊富な罪は自分の内なる存在に動揺を引き起こしません。 恐れる[神のしもべ]の状態を見ても、心には何の影響も与えませんし、悪い結末を恐れても罪を犯すことは妨げません。 世俗的な富を蓄積したいときに、耕作し、苗木を植え、商売をし、海で船を操縦し、砂漠で馬を疾走し、旅の苦難や苦しみに耐えるのは奇妙です。 同様に、私たちが知的な地位を望むなら、私たちは知識を求め、一晩中起きて[知識のポイント]を繰り返して暗記し、自分の栄養を探すために努力し、苦労し、私たちに栄養を与えるという神の約束に自信を持たず、家に座って栄養を待たず、単に祈るだけではありません。 「おお神様! 私たちに食料を与えてください!」 しかし、[来世の]永遠の支配についての質問が私たちの前に来たり、楽園について言及されたりすると、私たちは単に舌でこう言うだけで満足します。私たちを許してください、私たちを憐れんでください!」、私たちが信頼している高貴な存在は公然と宣言しています。

وَأَن لَّيْسَ لِلْإِنسَٰنِ إِلَّا مَا سَعَىٰ

「そして、人間は自分が努力したものだけを手に入れることができます。」 (クルアーン、第53章、39節)

وَلَا يَغُرَّنَّكُم بِٱللَّهِ ٱلْغَرُورُ

「欺く者(サタン)があなたを神について妄想の状態に陥らせないようにしてください。」 (クルアーン、第35章、5節)

[残念ながら、]これらすべての聖句は、私たちに事前に警告したり、傲慢さや[単なる]願いの谷から私たちを連れ出すものでもありません。 実際には、行動をせずに救いを望み、必要な行動を行った後に救いを得たという確信を持つことは、大きな損失の問題です。

自分の内面を注意深く見てみると、そこには怒り、欲望、敵意、嫉妬、傲慢、独善など、さまざまな種類の野獣や有毒な生き物が満載であることがわかります。 これらすべての内面の資質(性格特性と内面の気質)は、怠慢の状態で常に人を攻撃する獣です。 しかし、人間は、これらの内なる獣や有害な動物の獣姦による拷問を感じたり、認識したりしません。 [死時に]ベールが剥がれるとき、あなたはこれらの[内なる]獣があなたにどれほどのダメージを与えたかを見るでしょう。 その時、なぜこれらの内なる獣から身を守るように忠告されたのかがわかるでしょう。 これらの[内なる]獣をコントロールしたり、これらの有害な動物を殺したりしたいのであれば、死ぬ前に彼らをコントロールする必要があり、あなた自身がこの世から滅びる前に彼らを根絶するための手配をする必要があります。 これを行わなければ、最終的には彼らがあなたを消費することを覚えておいてください。

第14章 神の前での絶対的な困窮の謙虚さを教え込み、貧困に耐え、世俗と物質主義的な執着からの禁欲

貪欲と物質主義は、個人レベルと国家レベルの両方で、私たちの時代の 2 つの伝染病です。 これら 2 つの魂の内面の病気は、個人や国家を終わりのない貪欲へと駆り立て、魂の空虚さにつながり、紛争や戦争が他者に正当に属するものを不当に奪い取って奪い、相互の敵意を助長し、その結果、個人レベルでは内なる平和と静けさ、集団レベルでは国家やコミュニティ間の友好性を許しません。 そのような貪欲さは、ある人には貧困と絶望を助長し、他の人は贅沢を楽しむ。 これら 2 つの衰弱させる個人的および集団的な病気の治療法は、神の前での私たちの困窮を認識し、恵みと忍耐強い忍耐力で貧困に耐え、世俗性と物質主義からの禁欲を教え込むことです。

神の前で絶対的な困窮を抱える謙虚さ、忍耐力を持って貧困に耐え、自分自身の向上のために忍耐し、世俗性や物質主義的な執着を控えることは、魂の寛大さにつながる偉大な内面の美徳と精神的な資質であり、そこで人は誰からも見返りを望むことなく、言葉のあらゆる意味で計り知れない寄付の源となります。 他人が持っているものに気づかないそのようなことは、誠実さ、誠実さ、寛大さ、貧困や欠乏からの恐れを知らず、神への信頼と信頼、特に貧困における忍耐強い忍耐と正直な努力、人々と国家の間の内面と外面の平和、その他多くの前向きな内面の資質につながります。 ガザリは、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻または四分の一の第4巻の第4巻で、この重要な主題を巧みかつ洞察力に富んだ扱いを提供しており、ここでは次のように凝縮された形で紹介されています[20]。

世界(世俗性)は神にとって不快であることを知っておく必要があります。 多くの人がその欺瞞に陥って見当違いに陥り、多くの人がその欺瞞に陥ってつまずいてきました。 その友情は罪と悪の根源であり、それに対する反対はすべての善行と善の源です。 ここでは、世俗性から遠ざかり、禁欲することの素晴らしさを説明しますが、これは内なる建設的で回復力を与える資質(*ムンジヤート*)の中心であり、[個人および集団レベルで前向きな内面の変革をもたらす]からです。 心が世界から完全に切り離されるまで(この世とあの世の問題から)解放される希望はなく(世俗的な執着)、それには2つの形態があります:世界が貧困と呼ばれるものから遠ざかるか、禁欲(ズード)と呼ばれる世俗性から自発的に切り離すかのどちらかです。 これらの形態は両方とも、永遠の幸福と永遠の勝利(*サーダ*)、成功(世俗生活)と救い(死後の世界)の達成を助ける上で、[霊性において]程度が異なります。 まず、貧困[霊的および物質的]と[世俗性からの]禁欲の現実、それらの種類、条件、および[神の]命令について説明します。 最初の部分では貧困について説明し、後番目の部分では禁欲について説明します。

神の前での物質的および精神的な貧困または絶対的な貧困の現実と霊的旅行者の内面の状態

貧困とは、必要なものが不足していることの名です。 必要のないものが不足していることは貧困とは言えません。 同様に、必要なものがあり、困っている人がそれらをコントロールできる場合、そのようなものは貧しいとは言えません。 この点を理解しているなら、神以外のすべての存在が貧しいという事実を疑うことはないでしょう。 それは、存在する必要性があり、何かの存在や存在は神の恵みと意志に絶対的に依存しているからです。 何かが存在の領域にあり、それ自体の存在のために他の存在を必要としないなら、それは絶対的に豊かであり[または、すべての人、すべてに気づかない自給自足者]であり、そのような存在は神の存在である唯一の存在です。 神の存在は自給自足であり、神の存在は誰にも何にも依存せず、神以外のすべてのものは、自分自身の存在のためにこの唯一の存在を必要としています。 神はクルアーンの中でまさにこの現実を指摘されました。

وَٱللَّهُ ٱلْغَنِىُّ وَأَنتُمُ ٱلْفُقَرَآءُ

「そして神は豊かで自給自足です(誰も何も必要とせず、存在するすべてのものを所有する人も何も必要としていません)が、あなた方は皆貧しい貧しい人々です[神の前では、あなた自身の存在そのものが神に依存している限り、あらゆるもののために神を必要としています]。」 (クルアーン、47章、38節)

ここでの私たちの目的は、神の前での貧困や貧困の絶対的な意味を掘り下げることではなく、代わりに、私たちの目的は、富と物質的な所有物の貧困を具体的に説明することです。 したがって、富や物質的な所有物を所有していない人は、持っていないがそれを必要としている物質に関して貧しいと言います。 次に、それを熟考すると、人間には貧困状態にある5つの状態があることがわかります。

最初の州: これは[いる]のに最適な州です。 その結果、富を手に入れると、その富について気分が悪くなり、その存在に動揺し、それを受け入れることをためらい、悪いと考え、その悪から身を守ろうとするということです。 この状態は禁欲(*ズード*)と呼ばれ、この状態を持つ人は禁欲(*ザヒド*)*と呼ばれ*ます。

第二の状態: 富を手に入れることに満足するほど富への欲求を持たず、それを手に入れることに苦しむほど富に対する嫌悪感を抱いていないということです。 その代わりに、人はそれを手に入れたら、それを離れることができるほどの勇気を持っています。 そのような状態の所有者は、[神の意志に]同意していると呼ばれます。

第三の状態: 心には富への傾向があるので、富を得ないよりも富を得ることを好むということですが、それを求めて努力させるのはそれほど強くありませんか? むしろ、苦労や努力なしにそれを手に入れれば、人はそれを喜ぶが、それを手に入れるのに苦労に直面しれば、それを求める耽溺をやめる。 そのような状態にある人は、自分にあるものに満足しており、より多くの[富]を手に入れたい傾向があるにもかかわらず、存在しないものを手に入れるのに苦労しなかったため、満足していると呼ばれます。

第四の状態: 人は自分の無能さや弱さのために富を求めない、そうでなければ心に存在し、たとえそれが困難を引き起こすかもしれないとしても、富を得ることができるあら

ゆる戦略を実行するか、富を求めているが、努力しても得られないということです。この状態の所有者は貪欲と呼ばれます。

第五の状態: 人は、奪われている必要性から富[および物質的な所有物]を必要としているということです。 お腹が空いてもパンがない人や服がない人と同じように。 この状態にある人は、求める欲求が弱いか強いかにかかわらず、必要性に駆られたと呼ばれます。 必要に迫られている状態にあり、自分が強制されていることに傾いていないことはめったに起こりません。

これらは[貧困の観点から見た人間の]5つの状態です。 これらの状態の中で最高の状態は禁欲(ズード)であり、[必要による]強制が禁欲と組み合わさる場合、それは[物質的な所有物における霊性の]非常に高い状態です。 次に、これら 5 つの状態すべてよりも高い状態があり、それは使用人が富と物質的所有物の存在または欠如を同等と見なす状態です。 富を得た場合、心はそれによって喜ばず、苦しむこともありませんし、同様に、富を得られなければ、心はそれによって喜ぶことも苦しみもありません。 もし人が、世のすべての宝物が集められ、一人に渡されるこの状態を持っているなら、たとえそれらが自分の管理(所有)下にあるとしても、すべての宝物が神のものであることを理解しているので、その人によって害を受けることはありません。 したがって、2つの[物質的な所有物を持っているか持っていない状態]の間に違いはありません。 そのような人は、富や物質的な所有物を持っているか持っていないかに気づいていないため、気づかないと呼ばれます。 忘却と豊かさは、異なる意味を持つ2つの言葉です。 [言葉]金持ちまたは自給自足は神に当てはまり、多くの富を所有する神のしもべにも当てはまります。 これらの人々は、この富を自分たちと一緒に保持する必要があるため、富の豊富さに満足しています。 その点で、彼らは貧しいと言えます。 しかし、気づかない人は、富が自分の所有物になることを気にしませんし、この富が自分の所有物から[他の人に]離れることも気にしません。 それは、富を持っていることによる痛みを感じてそれを取り除く必要が生じたり、富を保たざるを得ないほど富を喜ばせたりしないからであり、富を持っていないからこそ、富を保ちたいと願うわけでもありません。 この(富に気づかない)人を金持ちまたは自給自足と呼ぶのは適切ではありません、なぜなら、人は気づいていないにもかかわらず、多くのものを必要としているからです(富に気づいていない状態を維持するための神の助けなど)。

禁欲と無知: [世俗性からの] 禁欲は途方もない[霊的]程度であり、むしろ、それは義人と敬虔な人の最高の程度と呼ぶことができますが、一方、無知な人(富を持っているか持たないかを平等と見なす)は神の親密な人(グノーシス主義者)の一人です。 この点で、禁欲は気づかない人にとって有害であり、なぜなら(ことわざにあるように)「敬虔な人の正しい行いは、神の親しい人々にとって罪に相当する」からです。 その理由は、世界を愛する人が世界に耽溺し、神以外のものに耽溺することが人と神の間のベールであるのと同じように、世界への嫌悪感(世俗性)は禁欲の中に見出され、それは禁欲に耽溺することと同じだからです。 あなたと神の間には、この遠隔性を「ベール」と呼ぶことができるほど遠ざかる場所はなく、代わりに、神はあなた自身の頸静脈よりもあなたに近い方です。 また、天と地があなたと神の間のベールになるように、神はどんな場所や場所にも制限されていません。 代わりに、神以外のものに関連するあなたの婚約[および強迫観念]はベールです。 自分の低次の自己と欲望に耽溺することは、神以外の他者への耽溺にも似ています、なぜなら、あなたは常に自分の自己(*ナフ*)と欲望に耽溺しているので、あなたは神からベールに包まれているからです。 要約すると、自己愛(*ナフス*)にふけっている人は神から逸脱しており、同様に、自分自身を憎むのに忙しい場合、そのような人も神に焦点を合わせていません。 そのたとえ話は、ライバルが入ってくるところに恋人と最愛の人の両方が出席する集まりのものです。 恋人の心が愛する人のライバルに集中し、ライバルのことを悪く考え始めると、恋人がライバルを恨むのに忙しい状態で、愛する人を見る喜びを奪われていると言われます。 もし恋人が愛する人の愛に没頭していたら、ライバルに対して少しも注意を払わなかったでしょうし、ライバルの邪魔にも注意を払わなかったでしょうし、(ライバルに対する)嫌悪感を表現するのに時間を無駄にすることもなかったでしょう。 したがって、愛する人の前で愛されていない人を愛で見たり、愛されていない人に注意を払ったりするのと同じように、恋愛のパートナー(*シャーク*)を帰属させることに等しく、恋人の過ちです。 [愛の]完全とは、好きでも嫌いでも、愛されていない人に注意を払わないことです。 2つの愛が心の中で同時に結合できないのと同じように、同様に敵意と愛は同時に結合することはできません。 この世への愛にふけっている人は、怠慢な状態で[神へ]遠い道を歩んでいることであり、それに気づいていない人(つまり、世俗性)は、神の臨在の状態に到達することが望まれているように、神に近づく道を歩んでいるのです。

これらの詳細から、あなたは合計6つの段階(貧困の観点から見る人間の)レベルがあり、その最高のレベルは、無知で禁欲し、同意し、満足し、最終的に貪欲な人に属していることがわかったでしょう。 強制された[人]に関する限り、禁欲、神の意志への同意、そして満足、それらはすべて想像できるので、強制された人の程度はそれに依存します。 貧しいという言葉は、5 度すべての人々に当てはまります。 忘却者を物質的な意味

で貧しいと呼ぶのは正しくありませんが、忘却者はすべての事柄全般において、特に物質主義に対する忘却を持つことで、人は神を[絶対に]必要としているという深い理解を持っているので、そのような人にこの用語を適用するのは正しいです。 気づかない人を貧しいと呼ぶことは、しもべという言葉が一般的にすべての被造物に当てはまるにもかかわらず、神の前で自分のしもべであることを理解している人を[神の]しもべと呼ぶようなものです。 神の前で自分の貧困と絶対的な困窮を深く理解している怠慢で不注意な個人と比較して、貧しいという言葉を人に適用する方が適切です。 したがって、貧しいという言葉は、物質的な所有物の欠如と神への絶対的な困窮の両方の意味で一般的です。

神の前での貧困の卓越性、または物質的および精神的な貧困の卓越性

アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が仲間たちに人々の中で誰が善人か尋ねたところ、彼らは「[慈善活動で]与えることによって)自分自身で[神の道で努力することによって]神の権利を果たす裕福な人」と答えたと語っています。 預言者は、「そのような人は良いが、私が尋ねているのはこの人ではない」と言いました。 仲間たちは尋ねました、「おお神の預言者よ!では、どちらの方が優れていますか?」 預言者は「勤勉さから与える貧しい者」と答えました。 (ナレーション: *ハディース*集アブ・マンスール・アッド・ダイラミ)。 有名な伝承の中で、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

يدخل فقراء امتي الجنة قبل اغنيائهم بخمس مائة عام

「私の国の貧しい人々は、金持ちより500年前に天国に入るでしょう[金持ちは、彼らの富と、それをどのように使ったか、または使わなかったかについての神の責任のために差し控えられるでしょう]」。 (この伝統は、 アブ・フライラの権威に基づく *ハディース*集*ティルミディ* [神が彼を喜ばれますように])

この伝統は、禁欲している貧しい人は、富を欲しがる金持ちの500年前に天国に入ることを意味します。 伝承によると、大天使ガブリエルは預言者ムハンマド(彼に神の祝福

と平安あれ)を訪ね、神からのメッセージを伝えました。神はあなたに挨拶を送り、『あなたが住んでいる場所はどこにいても、山を金に変えて、山はあなたと一緒に移動することを望んでいますか』と尋ねます。」 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は頭を下げてこう言いました。

يَاجِبْرَئِيلُ إِنَّ الدُّنْيَا دَارُ مَنْ لَا دَارَ لَهُ وَمَالُ مَنْ لَا مَالَ لَهُ وَلَهَا يَجْمَعُ مَنْ لَا عَقْلَ لَهُ

فَقَالَ يَا مُحَمَّدُ ثَبَّتَكَ اللَّهُ بِالْقَوْلِ الثَّابِتِ

「おおガブリエル! 世界は家を持たない人の家であり、富を持たない人の富であり、知性を持たない人によって蓄積されるものです。」 ガブリエルは言った、「おおムハンマド! 神はあなたを確固たる言葉に固くしてくださいました」。 (この伝統は、 アブ・ウママの権威に基づく *ハディース・コレクション・ティルミディ*[神が彼を喜ばれますように]。 *ハディース集ムスナド・アフメドにも語られています*)

ある伝承では、イエス(神の祝福と平安あれ)は、旅行中に地面で眠っていた男のそばを通り過ぎました。 彼は彼を起こして言った、「おお、眠っているあなた! 起きて神を思い出してください!」 彼は答えました、「私に何を望んでいますか? 私は世界の人々のために世界を去りました!」 イエスは答えました、「その場合、友よ!眠り続けてください」。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に神が啓示されました。

وَلَا تَمُدَّنَّ عَيْنَيْكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعْنَا بِهِۦٓ أَزْوَٰجًا مِّنْهُمْ زَهْرَةَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا لِنَفْتِنَهُمْ فِيهِ ۚ وَرِزْقُ رَبِّكَ خَيْرٌ وَأَبْقَىٰ

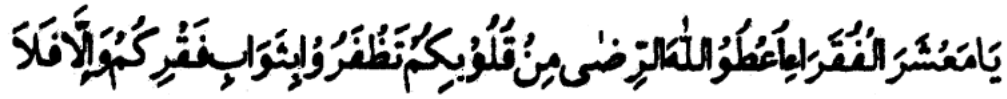
「そして、われがさまざまなグループに恩恵を与えてくださったものを、彼らにとっての試練として、目を上げてはならない。 そして、あなたの主からの糧ははるかに良く、永遠です。」 (クルアーン、20章、131節)

特定のタイプの貧しい人々の卓越性 – 同意し、争い、真実: 預言者ムハンマド (神の祝福と平安あれ) は次のように述べています。

طُوبَى لِمَنْ هُدِيَ إِلَى الْإِسْلَامِ وَكَانَ عَيْشُهُ كَفَافًا وَقَنَعَ بِهِ

「嬉しい知らせは、神の意志に服従する道に導かれ、その経済が自分のニーズに応じた人のためのものであり、それで満足している人のためのものです。」 (この伝統は、

ファダラ・イブン・ウバイドの権威に基づくハディース集ティルミディ[神が彼を喜ばれますように])



「おお、貧しい人々の集団よ! 貧困の神の報いを得るために、心の中で神と同意しなさい、そうでなければあなたはそれを得られないでしょう。」 (ナレーション: *ハディース集 アブ・マンスール・アッド・デイラミ アブ・フライラの権威による* [神が彼に喜ばれますように])。

神は預言者イシュマエル(彼に神の祝福と平安あれ)に「心の傷ついた人々が私を探し求めてください」という神の啓示を啓示されました。 彼は「彼らは誰ですか?」と尋ねました。 神は「彼らは[神の前で]卑劣な困窮において)誠実な貧しい人々です」と答えました。

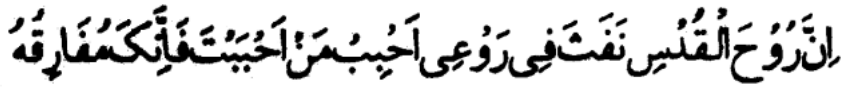
満足の反対が貪欲であることは隠されていません。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「貪欲は貧困であり、人々に失望する(彼らに何の期待も持たない)ことは裕福です。 人々の富や財産に期待を持たず、満足感を抱く人は、それらに気づかない(執着しない)ままです。」 アブ・マスード(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「毎日、天使が[神の]玉座の下から叫びます。『おお、アダム(人間)の子よ!あなたが満足している小さなことは、あなたを反抗的にする多くのものよりもましです」。 アブ・ダルダ(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「自分の知性に欠点がない人はいません。ですから、自分の世界(世俗的な所有物や富)が増えると、昼も夜も、自分の時代(人生)の宮殿を壊すのに忙しく、それに対する後悔がないにもかかわらず、そのことに非常に満足します。 この不幸な人は、自分の[残りの]寿命が[年齢が上がるにつれて]減少した場合、物質的な所有物を増やすことに何の利益があるのかを知りません。」 ある賢明な人が「富とは何か?」と尋ねられたところ、その人は「それはあなたの願望や欲望を減らし、必要な(必要不可欠なもの)だけで満足するあなたの[行為]です」と答えました。

貧困と豊かさの間で優れているものの現実: 忍耐に関する議論でこの原則について言及しましたが、それ自体は目的ではなく、他の何かを達成するための目的であるものは、その卓越性と完全性は、目的の卓越性と完全性から判断できます。 目的のあり方は、

その目的を達成するための手段と同じです。 だからこそ、世俗的な富や所有物は、[神のしもべ、つまり人間]が神に近づくのを妨げるため、思いとどまらないのです。 同様に、貧困もそれ自体が目的ではありませんが、神に到達することを妨げる障害を取り除くために求められます。 しかし、預言者ソロモン(神の祝福と平安あれ)、[預言者の仲間]ウスマーン・ビン・アファン(神が彼に喜ばれますように)、アブドゥル・ラーマン・ビン・アウフ(神が彼に喜ばれますように)のように、富によって神から距離を置かなかった裕福な人々がたくさんいます。 一方、貧困のせいで[神を求める]本当の目的から遠ざかっている貧しい人もたくさんいます。 この世における[人間の]本当の目的は、[神の]しもべが神を愛し、神に愛着を持ち、神に憧れることです。 この目的は、神のグノーシス(神聖な近接性、親密さ、知識)を獲得したときにのみ達成でき、グノーシスの領域に足を踏み入れてそれを横断することは、[世俗的な]関与や絡み合いの存在下では不可能です。 富が障害になる可能性があるのと同じように、貧困も[神に近づく道を歩む上で]障害になる可能性があります。 実際には、グノーシスと神の親密さを達成する上での本当の障害は、神の愛と組み合わせることは不可能な世界への愛[と世俗性]です。

心の中に何かへの愛を持っている人は、その分離に浸っているか、その存在に浸っているかにかかわらず、それに没頭します。 そうすると、別れに没頭する人もいれば、すべては状況や傾向の違いに依存するため、[愛する人や物の]存在に没頭する人もいます。 世界は怠慢な者(存在の真の目的に生きていない者)の愛のものです。 最愛の人から離れている人は、[最愛の人との親密さの]達成の熟考に没頭し、最愛の人の親密さを達成した人は、その保護に没頭し、それとの親密さを最大限に楽しむことに没頭します。

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「聖霊(大天使ガブリエル)は私の心にこれを置いてくれました。あなたが望む人(または何でも)愛しなさい、あなたは必ずそこから離れるでしょう」。

この預言的なナレーションでは、最愛の人との別れは[常に]胸が張り裂けるような非常に激しい出来事(経験)であると語られています。 だからこそ、あなたは、あなたが引き離す必要がなく、その愛する人は、あなたから決して離れることのない神[そして他ならぬ神]であり、どんな状況下でもあなたから離れるに違いないもの、つまり世界を愛

すべきです。 もしあなたがこの世を愛していたなら、あなたは[来世で]神と出会うことを好まないでしょう。 同様に、あなたの死はあなたが悪いと考える状態になり、死によって、あなたの愛する人とのつながり(世俗的なもの、世俗的なもの、執着、人間関係、富、所有物)が[永久に]断ち切られます。 そして、愛する人との別れは、心がそれに対する愛着、憧れ、愛を持っている限り、苦痛です。 世界(世俗的な手段と資源)を持っている人は、それに執着しています。 世界(世俗的な手段や資源)すら持っていないが、それでもそれを求めることに貪欲な人と比較して、そのような人は世界から離れるとより多くの痛みと苦悩に遭遇することは明らかです。 私たちの意図は、貧困が優れており、2つの例外を除いてすべての創造物により適しているというこの詳細な説明によって、今頃明確になっているはずです:第一に、[世俗性に対する]人の無知は、富の有無が両方とも1つに等しいようなものです。第二に、貧しいときは、生命の継続に必要な量だけに助けを求めます。 これは、貧困と豊かさの間で何が優れているかについての議論です。

貧困状態における貧しい人々のエチケット: 貧しい人には内面のエチケットと外的なエチケットがあり、それらは自分の行動や人々との出会いに関連しています。 すべての貧しい人々がこれらのエチケットを守る必要があります。

内なるエチケット: 内なる存在のエチケットは、自分が苦しんでいる自分の状態(貧困の)状態を軽蔑しないことです。 言い換えれば、神がそれを行う者であるという点で、神の行動(自分の貧困状態に関して)を悪いと見なすべきではありません。 自分の低次の自己(*ナフ*)は貧困を悪いと見なすことができますが、それが神の行為だからではありません。 むしろ、人は時々神に感謝します。 これは[貧しい人々と貧困のエチケットの]最低の程度であり、貧しい人々がそれに基づいて行動することが義務付けられており、貧困に対する神の報いの無駄を引き起こすため、その反対の行動をとることは[神に]禁じられています。

これよりも高い程度は、自分の貧しさに同意するということです。 それよりもさらに高い程度は、富の災難と害に精通しており、神を完全に信頼し、必ず自分の[神が定めた]栄養を得るという確信を持っており、自分の必要以上のものを求めず、必要な量以上のものを持つことを好まないため、貧困を求める人であり、貧困に満足しているということです。 アリ(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「神は貧困によって罰し、報います。 神の報い(報酬)を与えることが誰かに向けられている場合、その指標は、

その人が良い性格特性、道徳、マナー、内面の気質を持ち、神に従順であり、自分の状態について文句を言わず、代わりに自分を貧しくしてくれた神に感謝しているということです。 貧困によって罰せられている場合、その兆候は、その人が性格が悪くなり、気性が悪くなり、主への従順を放棄し、主に不従順になり、自分の状態について不平を言い、神の決定に対する不快感と嫌悪感を表明することです。」 このことから、すべての貧しい人が良いわけではなく、貧しい人が自分の貧困に不満を抱くのではなく、その代わりにその恩恵に満足し、満足しているのは賞賛に値するということだけであることが証明されています。 [神の]しもべが[物質的な所有物や富の]何かを与えられたとき、それは、耽溺、心配、不安、そして[審判の日の神への]説明責任の3つで受け取るように求められるという有名なことわざです。

外側のエチケット: 貧しい人が守るべき外側のエチケットには、貧しい手を誰の前にも差し伸べないこと、人々が困窮していると思わないように外見を良くすること、自分の状態を誰にも文句を言ったり、自分の貧しさを表に出したりせず、むしろ、できるだけ秘密にし、自分の貧しさを秘密にしていることを隠すことが含まれます。 行動におけるエチケットは、貧しい人は富を理由に金持ちの前で謙虚さを表現すべきではなく、むしろ金持ちの前で威厳を保つべきであるということです。 少なくとも、貧しい人は金持ちと一緒に座るべきではなく、金持ちが隣に座ることを望んではいけません。

世俗からの禁欲の説明

禁欲の現実: 禁欲 (Zuhd) [物質主義と世俗性からの] は、霊的な旅人や神の探求者の駅の中で重要な [霊的] 駅であることを*知らせてください*。 このステーションは、他のステーションと同様に、知識、[存在の]内面の状態、および行動で構成されています。 状態とは、禁欲と呼ばれる状態を指し、その意味は、人は何もの(世俗的または物質主義的)にも傾倒を残さず、それ(傾向)はそれよりも優れたもの(他の)ために発達するということです。 人が傾倒を終わらせたものに関しては禁欲と呼ばれ、その人が今望み、傾倒しているものに関しては、その状態は愛と呼ばれます。 それは、禁欲には2つのことが必要であることを意味します-1つは逸脱する必要があるもの、もう1つは傾倒する必要があるものです。 また、人が傾倒するものは、石やレンガのようなものではなく、

金や銀などに傾くことができることも必要です。 また、2番目のものは、それへの傾向が支配的になるように、最初のものよりも優れている必要があります。 来世のために世界を売る者はこの世を禁欲し、来世のために来世を売る者は来世を禁欲する。 しかし、禁欲という言葉は、世の中から禁欲している人にのみ使用するのが通例です。 禁欲が愛するものを離れることであることが証明されたとき、それは自動的に証明されます [愛するもの]を離れる人は、それよりもさらに大きな何かを達成することが証明されます。

禁欲の程度の違い:楽園への貪欲すら持たないほど、神以外のすべてから切り離されている人は、神だけを愛する人です。 そのような人は「絶対的な禁欲」(*ザヒド・ムトラク*)と呼ばれます。 あらゆる世俗的な快楽から遠ざかるが、天の配偶者、土地、小川、果物などの来世の快楽に傾倒している人、そのような人も禁欲的ですが、最初の人よりも程度が低いです。 世界のいくつかの楽しみを放棄し、他のいくつかの楽しみを放棄しない人、たとえば、富への貪欲さはないが名声への貪欲さはあり、たくさん食べないがもっと自分を美しくする人は、そのような人は「絶対的な禁欲」と呼ばれるに値しません。 禁欲者の間でそのような人の程度は、悔い改めた人の中に、ある罪からは悔い改め、他の罪からは悔い改めない人の程度のようなものです。 この[タイプの]禁欲も、悔い改めは[神の法に従って]禁じられたものを放棄することを意味し、禁欲は低次の自己に慰めと喜びを与える許容されるものを放棄することを意味するため、いくつかの罪から悔い改めることが有効であるのと同じように有効です。 禁じられたものを残すことが理解を超えないわけではないのと同じように、同様に、許されるものを放棄し、他のものを放棄することは知性に反するものではありません。 しかし、禁断されたことを[放棄]することに落ち着くだけの人は、この言葉が特に許されるものを[放棄]することに関連しているため、禁欲とは呼ばれません。 [したがって、]このことから、用語的には、禁欲とは、自分の傾向(欲望)を世から取り除き、来世に向けること、または神以外の関係を断ち切って神との関係を[単独で]確立することを意味することがわかります。 これは非常に高い学位です。

私たちは以前、禁欲する人が捨てたものよりも望むものの方が優れているべきだと書いたことがあります。 同様に、自分が放棄するものは、自分がコントロールできないもの、それを放棄する意味はなく、欲望の衰退は物を放棄したときにのみ起こるため、放棄するもの、それをコントロール(力、能力、または管轄権)を持つことも必要です。 したがって、誰かがイブン・アル・ムバラク(神が彼に憐れんでくださいますように)に禁欲者と呼んだとき、彼はこう答えました、「禁欲者とは、世界が両手を組んで[従順に]

前にやって来たウマル・ビン・アブドゥルアジズ(広大な帝国に対する計り知れない政治権力と権威を持っていたにもかかわらず、敬虔さと禁欲で知られていた正義のカリフ)です。 しかし、彼はそれに顔を向けることさえしなかった。 私はどんな禁欲をしたのですか?」

知識の意味: [前に説明したように、禁欲は知識、内面の状態、行動で構成されています。 [内なる霊的]状態の原因であり、その結果である状態である知識は、禁欲している人が、放棄されているものが望まれているものに比べて取るに足らないものであるという現実に気づいているということです。 神と共にあるものは永遠であり、来世はより良く、永続的であることを知っている人、言い換えれば、その喜びはそれ自体が善であり、永遠であり、貴重な宝石が美しい氷片よりも優れていて耐久性があり、氷片の所有者が宝石としてそれらを売ることに何の困難もないのと同じように、その喜びはそれ自体が善であり、永遠である。 つまり、氷の持ち主が宝石と引き換えに氷片を配ることを申し出られた場合、人は喜んでそれに同意するでしょう。 これがこの世と来世のたとえ話です。 世界は太陽(太陽の光)に置かれ、徐々に溶けて完全に消滅し、完全に消滅しそうになった氷のようなもので、来世は消滅しないその宝石のようなものです。 世界と来世の間のこの違いについてこの確信を持っている限り、その範囲で人は永続的で永遠なもの(来世)への願望を持っています。 禁欲について必要な知識はこれだけであり、言い換えれば、来世がより良く、永遠であることを知るだけで十分です。 時には、知識と確信の弱さ、欲望の支配、サタンによる征服、またはサタンの偽りの約束に騙されたために、死が彼らを奪い取るまで世俗性を捨てることができない人々が、この現実に気づいていることがあります。 そうすれば、彼らには後悔し、失ったものを嘆く以外に道は残されません[人生の真の目的とその結果としての永遠の幸福と永遠の勝利を達成するために、生涯に利用できなかった機会という点で]。

行動の意味: ここで、禁欲状態で行われる行動について説明します。 この行動の核心は、あるものを置き去りにし、残されたものよりも優れた別のものを採用することです。 禁欲は、禁欲しているものを完全に放棄することを要求し、禁欲すべきことは、そのすべての手段と兆候を含む世界です。 禁欲的な人は、この世の愛(世俗性)を自分の心から取り除き、その代わりに、その中に神の服従の愛に入るべきです。次に、心から取り除いたもの、目、手、および残りのすべての[身体]器官から同じものを取り除き、これらの器官を神の服従の粘り強さと忍耐のために使用する必要があります。 単に[心から]世の愛を取り除くだけでは十分ではなく、代わりに神の服従も必要です。

禁欲の卓越性

神はさまざまな機会に禁欲を称賛し、神のしもべ(人間)に禁欲を採用するよう説得されました。 彼は言った:

وَقَالَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ وَيۡلَكُمۡ ثَوَابُ ٱللَّهِ خَيۡرٞ لِّمَنۡ ءَامَنَ

「そして、知覚と理解に恵まれた人々は、こう言い始めました。『あなたには災いあれ! 神からの報いは、[神への]信仰を持つ人にとって、[富と物質的な所有物を追い求めるよりも]はるかに優れています。」 (クルアーン、28章、80節)

この聖句では、禁欲は学者(真の学識と深い理解を持つ人々)に帰され、禁欲は知識の質(属性と内面の特徴)に帰属しています。 これは高い評価です。 別の場所で、彼はこう言われました。

أُوْلَٰٓئِكَ يُؤۡتَوۡنَ أَجۡرَهُم مَّرَّتَيۡنِ بِمَا صَبَرُواْ

「これらの人々は、忍耐のおかげで倍の報酬(そして神からの報い)を得るでしょう。」 (クルアーン、28章、54節)

クルアーン注釈の学者は、これは禁欲に対して忍耐を働かせた人々を指すと説明しています[したがって、2倍の報酬に値するようになりました]。 ある場所で彼はこう言われました。

إِنَّا جَعَلۡنَا مَا عَلَى ٱلۡأَرۡضِ زِينَةٗ لَّهَا لِنَبۡلُوَهُمۡ أَيُّهُمۡ أَحۡسَنُ عَمَلٗا

「われわれは、地上の物事をその装飾と美化の原因としてきた。それは、誰が善行を行っているかを[世の]人々に試すためである。」 (クルアーン、18章、7節)

クルアーン注釈の学者の中には、この世でより禁欲をする者を指すものとして解釈し、そのような者の禁欲を「善い行い」と呼んでいます。 別の機会に、彼はこう言われました。

وَلَا تَمُدَّنَّ عَيْنَيْكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعْنَا بِهِۦٓ أَزْوَٰجًا مِّنْهُمْ زَهْرَةَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا لِنَفْتِنَهُمْ فِيهِ ۚ وَرِزْقُ رَبِّكَ خَيْرٌ وَأَبْقَىٰ

「そして、われがさまざまなグループに恩恵を与えてくださったものを、彼らにとっての試練として、目を上げてはならない。 そして、あなたの主からの糧ははるかに優れており、永続する(永遠の)ものです。」 (クルアーン、20章、131節)

ٱلَّذِينَ يَسْتَحِبُّونَ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا عَلَى ٱلْءَاخِرَةِ

「彼らは来世よりも世界の生活を好む人たちです。」 (クルアーン、14章、3節)

この聖句では、不信者の性格特性が言及されています。 このことから、信者はそれとは正反対の性格特性(資質)を持つ人であり、言い換えれば、世界と比較して、来世を愛する人であることがわかっています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

وَمَنْ أَصْبَحَ وَهَمُّهُ الدُّنْيَا شَتَّتَ اللهُ عَلَيْهِ أَمْرَهُ وَفَرَّقَ عَلَيْهِ ضَيْعَتَهُ وَجَعَلَ فُقْرَهُ بَيْنَ عَيْنَيْهِ وَلَمْ يَأْتِهِ مِنَ الدُّنْيَا إِلَّا مَا كُتِبَ لَهُ وَمَنْ أَصْبَحَ وَهَمُّهُ الْآخِرَةُ جَمَعَ اللهُ لَهُ هَمَّهُ وَحَفِظَ عَلَيْهِ ضَيْعَتَهُ وَجَعَلَ غِنَاهُ فِي قَلْبِهِ وَأَتَتْهُ الدُّنْيَا وَهِيَ رَاغِمَةٌ

「朝起きて、この世の心配事や執着に没頭する人は、そのような人の事柄を散らし、すべてをまとめることができなくなり、心配や不安に没頭してしまいます。経済的な事柄が難しくなり、その人の困窮と貧困を目の前に浮かべます。 そして、人は[神に]自分に運命づけられた世界からしか得られません。 そして、来世の熟考に没頭した状態で目覚めた人は、その人の勇気を集めて(勇気と決意で人を鼓舞します)、自分の経済(経済問題)を守り、豊かさ(自信と豊かさ)を心に置いてくださり、世界はそのような屈辱を味わってやって来ます。」 (ナレーション: ハディース集 *イブン・マジャ* ザイド・ビン・タビットの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

إِذَا رَأَيْتُمُ الْعَبْدَ وَقَدْ أُعْطِيَ صَمْتًا وَزُهْدًا فِي الدُّنْيَا فَاقْتَرِبُوا مِنْهُ فَإِنَّهُ يُلَقَّى الْحِكْمَةَ

「沈黙を与えられ(静かで、おしゃべりしたり、あまり話したりしない)、この世で禁欲に恵まれている[神の]しもべを見たら、そのような人に近づきなさい。なぜなら、そのような人は知恵を[神に]教えられ、指導されているからです。」 (ナレーション: イブン・ハラドの*権威によるハディース集*イブン・マジャ [神が彼を喜ばれますように])

高貴な神はこう言われました。

وَمَن يُؤْتَ ٱلْحِكْمَةَ فَقَدْ أُوتِيَ خَيْرًا كَثِيرًا

「[神の]知恵に恵まれた者は、途方もない善を受け取ったのです。」 (クルアーン、第2章、269節)

したがって、この世で40年間禁欲を実践した人は、神は人の心から知恵の泉を発し、同じ知恵の言葉が舌から現れるという有名なことわざがあります。 預言者の仲間の中には、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に尋ねたと語る人もいます。どちらが良いですか?」 彼はこう答えた。

كُلُّ مُؤْمِنٍ مَخْمُومُ الْقَلْبِ، صَدُوقُ اللِّسَانِ

「心が清められ、清められ、誰に対しても憎しみ、敵意、嫉妬、恨みを抱かない清められた心を持つ者)であり、舌に真実である(真実だけを話す)すべての信者」。

私たちは尋ねました:「おお神の使徒よ!『心が清められた』とは誰を指しているのでしょうか?」 彼は「不正直、裏切り、欺瞞、虚偽、人工性、反抗心、嫉妬を一切持たない、敬虔で心の清い人間」と答えた。 私たちは「それよりも優れた人は誰ですか?」と尋ねました。 彼はこう答えた。

ٱلَّذِي يَشْنَأُ ٱلدُّنْيَا وَيُحِبُّ ٱلْآخِرَةَ

「世俗を嫌い、来世を愛する人は、真に禁欲しているのです。」 (ナレーション: ハディース集 *イブン・マジャ* サール・イブン・サードの権威による [神が彼を喜ばれますように])

別の伝承では、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

إِنْ أَرَدْتَ أَنْ يُحِبَّكَ اللَّهُ فَازْهَدْ فِي الدُّنْيَا

「神にあなたを愛してもらいたいなら、あなたはこの世で[生きている間は]禁欲すべきです。」 (ナレーション: *ハディース集 イブン・マジャ サール・イブン・サードの権威による* [神が彼を喜ばれますように])

この預言的な物語では、禁欲が神の愛[達成]の原因として宣言されており、現実には、神を愛する人々[および神が愛する人々]にとって、禁欲は[神への道における]最高の[霊的]地位の中からの地位であるため、高い[霊的]地位があります。 別の伝統では、彼はこう言いました。

مَنْ آثَرَ الدُّنْيَا عَلَى الْآخِرَةِ ابْتَلَاهُ اللَّهُ بِثَلَاثٍ هَمًّا لَا يُفَارِقُ قَلْبَهُ أَبَدًا وَفَقْرًا لَا يَسْتَغْنِي أَبَدًا وَحِرْصًا لَا يَشْبَعُ أَبَدًا

「来世よりも世界を好む人、神はその人に三つのものを与えます。心から離れることのない悲しみ、豊かさに変わることのない貧困、そして決して満たされない貪欲です。」 (ナレーション: *アブドゥッラー・イブン・マスードの権威に基づくハディース集タバラニ*[神が彼を喜ばれますように])

別の伝統では、「しもべの信仰は、名声よりも匿名性が愛され、物の豊富さよりも物の不足が愛されるまでは完全ではない」と彼は言いました。 (ナレーション: *ハディース集 ムスナード・アル・フィルドゥス アリ・イブン・タルハの権威による* [神が彼に喜ばれますように])預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました、「神は私に、私が望むなら、メッカのベトハの谷全体が金に変わるという選択肢を与えてくださいました。 私は神に懇願しました。 ある日はお腹を空かせて、別の日にはお腹いっぱい食べたいと思っています。 お腹が空いたままの日、私はあなたの前で泣き、懇願し、その日にはお腹いっぱい食べ、あなたに感謝し、賛美します』」と述べています。 アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、ある日預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)がどこかに行っていて、大天使ガブリエルが彼と一緒にいたと語っています。 彼はサファ山(メッカの*カバ*の近く)に到着したとき、こう言いました。 私はあなたに真実を送ってくださった存在によって誓いますが、ムハンマドの家族は、[パンを作るための]大麦や小麦粉を一握りも持っていないような状態で夜を始めました。」 彼はかろうじてそう言ったとき、空の向こうから大きな雷鳴が聞こえ、彼は恐怖を感じた。 彼はガブリエルに尋ねました、「この音は何ですか? 神は審判の日

の到来を命じられたのでしょうか?」 ガブリエルは答えた、「いいえ、あなたの言葉を聞いて降りてきたのは*イスラフィル*(審判の日を知らせるためにラッパを吹く天使)です」。 *イスラフィル*は預言者のところに来て言った、「あなたが言ったことを神は聞いて、地のすべての宝庫をあなたがたに授けるために、地の鍵を持って私をあなたのところに遣わし、あなたが望むなら、*ティハマ*の山々(アラビア半島の紅海沿岸平野を指します)をエメラルド色に変えるように私に命じました。 どこへ行っても行けるベリル、金、銀。 そして、もしあなたが望むなら、あなたは預言者の王になることができます(預言者ダビデやソロモンのように[神の祝福と平安あれ])、もしあなたが望むなら、あなたは[神の]預言者の奴隷として残ることができます。」 ガブリエルは預言者に、神のために謙虚さを持ち続けるように身振りをしました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、これを3回[強調して]言いました、「私は預言者であり、神の奴隷であり続けたいと思っています(神の前での最大の地位と名誉は、神との最高レベルの親密さと親密さの状態である神の奴隷です)」。

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はさらに次のように述べています。

إِذَا أَرَادَ اللَّهُ بِعَبْدٍ خَيْرًا أَزْهَدَهُ فِي الدُّنْيَا وَرَغَّبَهُ فِي الْآخِرَةِ وَبَصَّرَهُ بِعُيُوبِ نَفْسِهِ

「神が誰かに良いことを意図するとき、神はその人をこの世で禁欲させ、来世に傾け、その人の低次の自己の欠点(内なる存在の欠点、欠点、間違い、悪)について知らせます。」 (ナレーション: *ハディース コレクション ムスナード・アル・フィルドゥス*)

ازْهَدْ فِي الدُّنْيَا يُحِبَّكَ اللَّهُ وَازْهَدْ فِيمَا أَيْدِي النَّاسِ يُحِبُّكَ النَّاسُ

「この世で禁欲をしなさい、神はあなたを愛し、人々が持っているものを禁欲し、人々はあなたを愛するでしょう(つまり、この世から心を切り離すことは神の愛の達成につながり、人々が持っているものから心を切り離し、彼らに何の期待も持たないと、彼らはあなたを愛するようになります)」。

生活必需品における禁欲の詳細:人々が耽溺するものには2つのタイプがあることを知っておく必要があります。 それらのいくつかは役に立たず、いくつかは迷信的です[他のものは必要または重要です]。 重要なものには食べ物や飲み物が含まれます。 役に立たないものに関しては、無数にあるため詳細を提供することはできませんが、必要なものは簡単に数えることができます。 必要なものの量、種類、タイミングに、無駄なもの

を含めることが可能です。 したがって、ここでは禁欲の方法について説明しています。 人生に必要なものは、食、服、住、家庭生活の手段、家族、富の6つです。

最初の必需品 - 食べ物: 最初の必需品は食べ物です。 必要なのは、体力とエネルギーを保持できるだけの食べ物です。 禁欲には、その長さと幅を減らす必要があります。 長さは年齢に応じたものです。 一日食べている人はそれに満足せず、代わりにもっと食べたいと思っていることが一般的に観察されています。 幅は、食料の量、種類、タイミングに関係します。 長寿への希望を減らすことで、食料を[買いだめする]期間を短縮できます。 食物の禁欲の最小限の程度は、空腹感を感じ、病気になる危険性があるときに空腹感を軽減するために必要な量で満足することです。 この状態にある人は、日中に食べた食べ物から夜に何も保持しません。 これは非常に高度な[禁食]です。 第二度は、1か月または40日間の食料を蓄積することです。 3度は、最長1年間食物を蓄積することであり、これは最も弱いタイプの禁欲者の状態です。 1年以上貯蔵する人は、いかなる程度でも禁欲とは見なされません。 それは、人が1年以上生きることを期待しているからであり、それは長寿への希望を抱くことであり(これは、人々がしばしば他人を犠牲にして、買いだめ、盗み、横領し、収集するように促す霊的な病気の1つです)、長い希望を持つ人は禁欲することはできません。 しかし、定期的な収入源がなく、人々からお金を受け取る傾向がない場合は、1年以上富を保管しても害はありません。 しかし、神を信頼する条件を置き、禁欲を[遵守]するそれらの人々は正しいとは考えていません。

第二の必要性 - 衣服: 人間の第二のニーズは衣服であり、衣服の最低限度は、寒さや暑さから身を守り、体を覆うドレスを持つことです。 一部の賢者は、「服装は庶民が着るようなもの(素朴な服)で、有名になったり、人に見られたりするような服を着てはいけない」と言っています。 アブ・スレイマン・アル・ダラニ(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「衣服には3つのタイプがあります。1つは神のためだけのものです。それは[神の律法によって規定されているように]合法的に体を覆う服です。2つ目は、その柔らかさのために着用されるドレスです。そして3つ目は、外見の美しさと装飾を目的とするドレスです。」 あるグノーシス主義者は、「服が薄い人は、神への道も薄い(薄手の服を着ているため、宗教性と精神性が欠けている)」と言いました。

第三の必要性 - 住宅: 要約すると、必要のために[住宅]を求める人は、必要の範囲を超えてはならないと言えます。 必要の範囲内にあるこの世のすべてのものは、神(ディー

ン)への道の道の道であり、それへの手段であり、必要を超えるものは神への道に反対するものです。 この原則を前面に置いて、住宅の目的は、暑さ、寒さ、雨から守られ、人々の目から遠ざかり、彼らの危害から守られることです。 この目的を達成するために家が必要であることがわかっている限り、それ以上のものは役に立たず、役に立たないものはすべて世俗の命令の中にあり、役に立たないものを求めたり、それを求めて努力したりする人は、禁欲から遠く離れています。

第四の必要性 – 家庭用品: これにはさまざまな程度の禁欲があります。 最高の程度は、イエスの状態(神の祝福と平安あれ)は、櫛とボウルしか持っていなかった状態です。ある時、指でひげをとかしている男を見て、彼は櫛を捨てました。 二度目に彼に会ったとき、彼は素手で小川の水を飲んでいました。 イエスは、もう必要ないと思ったので、その鉢を捨てました。 これが、家庭のニーズに関連するすべての商品の状態です。 求められている目的のためにはすべてが必要です。 あるものに目的がなく、それなしで自分の欲求を満たすことができるなら、それはこの世と来世の両方にとって困難の源です。 絶対に必要なものは、目的に十分かどうかを確認するという、その程度の低さに満足すべきです。 その程度は、すべての作業に個別のツールを使用することですが、ツールは普通の品質です。 同じものに複数のツールがある場合、またはそれらが高品質である場合、1つは禁欲のすべてのカテゴリーから除外され、役に立たないことに関与していると見なされます。

第五の必要性 – 家族と結婚: 真実は、状況によっては、結婚しない方が優れているということです[ガザリの *最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の社会的取引に関する第2巻で説明されているように、現在の作品ではスキップされています]。 この場合、結婚しないことは禁欲です。 しかし、欲望が支配的で、結婚なしではそれを軽減できない場合、結婚は義務付けられます。この場合、結婚しないことは禁欲ではありません。 しかし、結婚しないことに何の問題もなく、結婚によって災いが降りかかることがなく、心が配偶者に傾いて結婚しない場合、配偶者に愛着を持ち、心が神の記憶を怠るようになる場合、この状況では、結婚しないことは禁欲です。 配偶者が神の記憶を怠らないという確信があるにもかかわらず、交際や交尾を避けるために結婚しないのであれば、これは確かに禁欲ではありません。それは、子孫が人類の存続と預言者の信奉者の増加の目的であるだけでなく、それは崇拝の行為であり、喜びが唯一の目的ではない限り、交尾で得られる喜びは有害ではないからです[他の目的には、罪から遠ざかること、貞操を守ること、 謙虚さと霊性、神の崇拝のための力を見出し、罪深いものを見ることから視線を下げ、家族に仕えることで

神への道を歩む]。 食べたり飲んだりすることに喜びがあるからといって、飲食をやめる人のようなものです。 結婚しないことが人類を無駄にするのと同じように、これは人間の体を浪費する(害を及ぼす)禁欲ではないことは明らかです(人々が結婚をやめれば人類は終焉を迎えるからです)。 したがって、交尾の喜びを避けるために結婚しないことは許されません。 ジュナイド(神が彼に憐れみあれますように)は言いました、「初心者のスピリチュアルな旅行者の場合、私は心を 3 つのことに置かないのが好きです。 そうしないと、自分の状態が変化します。第二に、預言的なナレーションを求めること[この知識は歴史的に名声と名声の源であったため]。結婚で3番目」。

6番目の必要性 – 富と名声: これらのことは両方とも、前述の 5 つのニーズをすべて満たす手段です。 名声とは、人の心をつかむこと、つまり、人の心の中に自分の居場所を作り、自分の行動や目的を手伝うことです。 名声や人々の心に余地を作る必要性は、利益を得るため、害を取り除くため、または誰かの抑圧を取り除くためのいずれかです。 利益を得ることに関する限り、富を持っている場合、その目的のために名声は必要ありません、なぜなら、その人を尊重しているかどうかにかかわらず、自分のすべてのニーズを満たすために人々のサービスを受けるためにお金を払うことができるからです。 危害を撃退する問題に関しては、言い換えれば、予想される損失から身を守るために必要であることは、正義の遵守がない国、または抑圧的な隣人に囲まれている国で必要です。 名声を求める人は、破壊の道を歩む旅人です。 人の心に余裕を持たせる努力をしないのが禁欲者の道です。 人が崇拝に耽溺し、神(*ディーン*)への道を歩むこと自体が人々の注目を集め、心に名誉と威信を生み出し、人々の危害や抑圧から守られ、あらゆる宗教の人々が自分を愛し、尊敬する感情を持つでしょう。

この結果、ある程度の富と名声を必要とすることは禁止されていませんが、代わりに、必要以上の量の富と名声は致命的な毒であるということです。 これら 2 つの利点は、ニーズの範囲を超えない場合にのみ得られます。 神(*ディーン*)への道を純粋に保ち、疑わしいことを避け、自己の心理に作用し、それをニーズの範囲内に制限する人は、慎重さと慎重さの道を歩み、確かに救いに運命づけられたグループに含まれます。

第15章 人間が直面するあらゆる事柄に対する神の一致、全能、絶対的な力を悟り、神への信頼を育む

神は全能で、全能で、すべてに臨在し、全知、全視、全聴、全愛、全慈悲、全容、全能、抑圧され、弱く、謙虚で、不当な扱いを受けた人々に代わって、ふさわしい報復と正義を課す能力が十分にあることを知っています。 それは、たとえそれが絶望的で絶望的で落胆しているように見えるかもしれないが、私たちが置かれている見かけ上の状況に関係なく、最終的には神の保護と包摂の中に、私たちは最終的に良い手の中にあり、神の保護と包摂の中にいるという計り知れない自信と自信を与えてくれます。 摂理と寛大さ。 この自信と自信は、悪行者や抑圧者の見かけ上の力は、神が彼らの行動を試すために差し伸べたひもにすぎず、最終的には彼らの行動の責任を負わなければならないという認識によってさらに強化されます。 彼らの手によって苦しむ人々は、この世ではないにしても、この世の直後に始まる神の支配と力で、霊的な盲目のために世俗的な生活の多くの人には明らかではなかった神の支配と力が、神の創造物に対して過ちや行き過ぎを犯すことを大胆にしたすべての人にはっきりと見える、この世の直後に始まる人生で、神によって尊敬され、力を与えられるでしょう。 この内なる盲目性のために明らかに不処罰されています。

この神の統一と力への信念と確信は、人々と国家の間の関係を損なう傲慢さを根絶する上で重要な役割を果たすことに加えて、仲間の人間を扱う際の穏やかな性質である謙虚さをもたらします。 それはひいては、相互尊重、相互の権利と責任の認識、そして共通の利益のために平和と調和の中で働く推進力を促進します。 個人レベルでは、絶望、憂鬱、悲しみ、士気の低下から抜け出し、障害や課題にもかかわらず、人生に対する前向きな見方と、最高の能力を発揮するための不屈の精神を吹き込みます。 また、自分自身の限界を示し、自分の人生や社会全体で達成しようと努めるすべての事柄の最終結果について、神に頼り、信頼することを示します。 神への

信頼は、逆境に直面しても不屈の精神を持って決意を固め、物事が思い通りに進まなかったときの悲しみや欲求不満を防ぎます。 ガザリの*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻または四分の一の第5巻の第5巻におけるこの重要な主題の見事で洞察力に富んだ扱いは、次のように凝縮された形で提示されています[21]。

神への信頼(*タワクル*)は、神(*ディーン*)への道の目的地の中からの目的地(*マンジル*)であり、[神にあって]確信の人々の駅の中からの[霊的]駅(*マカーム*)であることを知らせてください。 むしろ、それは神聖なグノーシス(*マリファ*または神との親密さと近さ)の高度な人々からの高度な学位です。 神への信頼は、知識的には深く、幅広く、行動的には極めて難しいものです。 その理解という点では、物質的な手段に重点を置き、それを信頼することは、*神の統一と一体性*(タウヒード)において神(*シャーク*)のパートナーに帰属することに等しいです。 それを完全に怠ることは、預言的な方法と神の律法を批判することに等しいです。 手段を無視するだけでなく、手段に自信を持っていることは理解できません(神への信頼は、あらゆる可能な物質的手段を用いてそれを計画することと密接に関係していますが、その結実のために神に信頼と信頼を抱くことです)。

神への信頼の意味を理解して、それが神の一体の要件に合致し、知性と神の法に反しないようにすることは、非常に困難で微妙です。 それはその繊細さと隠蔽性のため、知識に恵まれ、その目に真実の光を持っている人々だけがその現実を知らされることができるのです。 他の人は、これらの問題の現実を認識する能力を持っていません。 現実は真の学者(神秘的な霊的洞察力を持っている)に明らかにされ、彼らはそれを他の神のしもべに説明します。 この章では、まず導入として神への信頼の卓越性を説明し、次に神の一致[および神への信頼を植え付けるためのその意味]を説明します。

神への信頼の卓越性

神はこう言われます。

وَعَلَى ٱللَّهِ فَتَوَكَّلُوٓاْ إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ

「そして、あなたが信者であるなら、神を信頼しなさい。」 (クルアーン、第5章、23節)

وَمَن يَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱللَّهِ فَهُوَ حَسۡبُهُۥٓ

「神を信頼する者は、神はそのような人で十分です。」 (クルアーン、第65章、3節)

إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلۡمُتَوَكِّلِينَ

「まことに、神は神を信頼する人々を愛しています。」 (クルアーン、第3章、159節)

到達した者は誰でも神の愛を獲得し、神が自分の世話人となるという[霊的]地位の偉大さについて何が言えるでしょうか。 なぜなら、神が十分であり、神が愛し、守る人は、そのような[神の]愛する者は[神の]罰を受けず、神から距離を置かれ、ベールに覆われることもないので、非常に成功した人だからです。 神以外のものから十分を求める人は、神への信頼を捨てた人です。 別の場所で、神はこう言われます。

وَمَن يَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱللَّهِ فَإِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٞ

「そして、神を信頼する者は、間違いなく神は圧倒的で賢明です。」 (クルアーン、8章、49節)

言い換えれば、神はあまりにも圧倒的であるため、神の保護を受ける者は、そのような人が屈辱を受けることを許さず、法廷で嘆願する人は、自分の嘆願を拒否せず、神の戦略に自信を持っている人は、それに失望しません。 神以外のすべては[神の意志に]服従しています。 すべてのしもべは、あなたと同じように、神に依存しており、神の前で困っています。 だからこそ、どうやって頼りになるのでしょうか? ある節では次のように書かれています。

إِنَّ ٱلَّذِينَ تَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ لَا يَمۡلِكُونَ لَكُمۡ رِزۡقٗا فَٱبۡتَغُواْ عِندَ ٱللَّهِ ٱلرِّزۡقَ وَٱعۡبُدُوهُ

「あなたが神以外に崇拝してきた者には、あなたに何の糧も与えない力がありません。ですから、彼から栄養を求め、彼だけを崇拝しなさい。」 (クルアーン、29章、17節)

وَلِلَّهِ خَزَآئِنُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَلَٰكِنَّ ٱلْمُنَٰفِقِينَ لَا يَفْقَهُونَ

「そして、天と地のすべての宝は神に属していますが、偽善者は知りません。」 (クルアーン、63章、7節)

クルアーンにおける神の一体性についての説明では、神以外の者は頼るべきではなく、唯一無二の者と[すべてのものを征服する]抗いがたい方(神)だけが信頼され、信頼されるべきであると警告されています。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

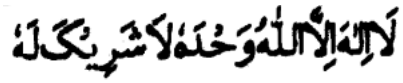
「神に属する者、神はそのような者をあらゆる苦痛と苦難から守り、想像もできなかった場所から糧を与えてくださいます。そして、この世に属する者、神はそのような者をこの世に引き渡します[それは、人が死ぬまで動揺し、心配し、不安になり、当惑し、落ち込み、落ち着きのない状態を保ちます]」。 (この伝統は、 *ハディース集 タバラニ・サギール* イムラン・イブン・アル・フセインの権威に基づく [神が彼を喜ばれますように])

「すべての人の中で最も裕福になりたい人は、目の前にあるものよりも神を信頼すべきです」。 (この伝統は、 *ハディース*がアブドゥッラー・イブン・アッバース[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて*ハキム*と*アル・バイハキ* を集めています)

神は預言者ダビデ(彼に神の祝福と平安あれ)に啓示を送りました、「被造物の代わりに私のロープを握っている[私の]しもべに、私は天と地の欺瞞からそのような唯一の解放を与えます」。 イブラヒム・ビン・アダム(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「私は[キリスト教の]僧侶に尋ねました。『どこから食事をしますか?』 彼は答えました、『これは私の頭痛ではありません。主がどこから私を養ってくださっているのか尋ねてください!』 あるグノーシス主義者は、「神を私の世話人(*ワケル*)にしたとき、私はあらゆる善への道を見つけた」と言いました。

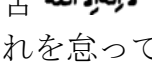
神への信頼の起源の現実、つまり神の一体性:神への信頼は、知識、[内なる霊的]状態、および行動で構成される信仰の扉の一つであることを知っておく必要があります。 同様に、神への信頼は、まさにこの三つのこと、つまり起源である知識、果実(結果)である行動、そして神への信頼の目的である状態から得られます。

知識:知識は本来のものであり、*信仰は確証を意味し、心のすべての確証は知識と呼ばれ、この知識が強くなると確信*(ヤキーン)と呼ばれるため、用語的に信仰(*イマーン*)と呼ばれるものです。 確信には多くの種類がありますが、ここでは、神への信頼が依存するタイプについてのみ説明し、そのタイプは神の統一と一体性(*タウヒード*)と呼ばれ、これはこの声明が意味するものです。



「神以外は神ではなく、神は一つであり、パートナーはいません」。

この声明には、神の唯一性の告白があり、このタイプの[確信]には、神の力[すべてに対する]確かさの確証があります。 この証しによって、神様への信頼の基礎となる信仰が完成します。 信仰の完成の意味は、この言葉が心の必要な特性であり、それが支配的な特性になるということです[人生のあらゆる事柄、つまりそこから発せられる思考、感情、言葉、行動に神への信頼を吹き込むことによって]。 神の統一と一体性に関する限り、それは真の[根底にある]原則です。

神の一体性の4つの段階:神の統一性と一体性(*タウヒード*)には4つのランクがあります: 最初のランクは穀粒(コア)、2番目のランクは穀粒の核、3番目は内皮の核、4番目は外殻です。 これをクルミの例で説明します。 それは2つの皮を持ち、次に穀粒があり、穀粒の中には穀粒の穀粒と呼ぶことができる油があります。 神の一体性の最初のランクは、しもべが舌  で言う(神以外に神はいない)が、偽善者の神の一体性の[証言]のように心がそれを怠っていることです。

第二の地位は、普通のイスラム教徒が行うように、この声明[神の統一と一体性の肯定]の意味を確認することです。 これが信徒の神の一体性と彼らの信念です。 第三のランクは、真実の光によって、その意味が明らかにされ、[確信の内なる神秘的な霊的目で]人によって目撃されるということです。 これは、神に近づいた人々(*ムカラビーン*、グノーシス主義者、または神の友人や親しい人々)の[霊的]立場です。 この除幕の意味は、人は多くのものを見て知識を獲得しますが、すべての源と起源を唯一、抗いがたいもの、全能の(神)の存在と見なすということです。 第四のランクは、人は[魂の内なる目で]その唯一の存在(神)の存在を目撃するだけであり、すべてのものの中に神の存在だけを見るということです。 これが、神に近づいた人々(グノーシス主義者)の神聖な一体性です。 *スーフィー*(神への道を歩むスピリチュアルな旅人)は、それを「*ファナ・フィ・アル・タウヒード*」(神の統一と一体性における低次の自己の消滅)と呼び、言い換えれば、これらの人々は、自分自身の低次の自己(*ナフ*)と他のすべての創造物は、神の存在の前に絶滅し、消滅したと考えています。 一人称は、舌だけで神の統一と一体性を信じる人です。 第二に、この肯定の声明の意味を確認する心の観点から、神の統一と一体性を信じる人ですが、心の中にあるそれに反する信念は、それらに反論しません。神の統一に対するこの種の信念は、心の照明と拡大を許さない心の結び目です。 第三の

ランクは、神の統一性と一体性を信じる者で、[自分の人生、自分の周り、そして世界で起こっているすべてのことについて]ただ一人の実行者を目撃する人、言い換えれば、この真実の問題が人にとって明らかになり、人はただ一人の実行者を見始め、人はすべての事柄の現実を見始めます[知恵の扉と新しい照明の展望が人に開かれるとき]。 第四のランクは、唯一の存在だけを目撃する人であり、人は神以外の存在を見ず、豊かさと多様性によって世界のものを見るのではなく、統一によってそれらを[神の行為である]と見なす人です。 これは神の統一と一体性(*タウヒード)の最高位です。*

これらは、神の統一と一体性を信じる人々の4つのランクと[霊的]立場です。 4番目(最高)のランクに関する限り、それは外部の事柄の知識(エキゾテリックな知識または「*イルム・ムアムラ*」)の領域の外にあります[むしろ難解な知識の領域(「*イルム・アル・ムカシャファ*」または霊的啓蒙の知識)]]、したがって、ここでの議論のトピックにすることは無意味です[それは本書の目的ではないため]神への信頼(*タワクル*)はこれに基づいているのではなく、代わりに神への信頼の状態は、第三のタイプの神の統一と一体性によって達成されます。 最初のタイプは偽善であり、第二のタイプは単なる確信であり、神への信頼がそれに基づいているため、現在では第三のタイプしか残っていません。 それは、神への信頼のためには、単に心の確認だけでは十分ではなく、代わりに霊的な啓示(*カシュフ*)と目撃(*ムシャハダ*)も必要だからです。

神の統一と一体性の第三のランクは、この問題が神以外に実行者は存在しないことをあなたに明らかにし、創造、栄養、与え、[物質的および非物質的な祝福の]差し控え、生、死、豊かさ、貧困などの事柄は、どんな名前でも与えることができ、その創造者であり創始者は神だけであり、他ならぬ神です。 この事柄があなたに明らかにされたとき、あなたは神以外の誰にも何も見ず、神だけを恐れ、神からのみ希望を持ち、神だけを信頼し、神のみを信頼し、神[そして他ならぬ神]だけを信頼するようになります。 そして彼は発明者です。 神以外のすべての存在は[神の命令と意志に]征服され、征服され、創造主の意志に反して、天地の支配から取るに足らない粒子さえも動かす力を持っていません。 霊的な啓蒙の扉が誰かに開かれると、それは[霊的な]証しによってさらに明らかになります。

心の持ち主とペンの会話

次に、神への信頼(*タワックル)を説明するためのペンの例を示します。* 心が神の光で照らされた霊的な旅人(*サリク*)は、以前は白かったが、後に黒くなった紙を見ました。 彼は新聞に「なぜ顔が黒くなったのですか?」と尋ねました。 「あなたのこの質問は公平性に基づいていません。 私は一人で顔を黒くしたわけではありません。 インクに聞い

てください。 それはその住処であるインクポットに住んでいました。 それからインクはその国を離れ、私の顔を目的地にし、抑圧と力で私に住むようになりました。」 スピリチュアルな旅人は「あなたは真実を語っています」と言いました。 そしてインクに「なぜ紙を黒くしたのですか?」と尋ねました。 そこには「あなたは私に正義を果たしていません。 私は静けさでインクポットに座っていて、そこから出てくるつもりはありませんでした。 ペンはその邪悪な貪欲のために私を抑圧し、私を祖国(家や居所)を離れるように強制し、私をホームレスにし、団結を散らし、私をこの白い野原(紙)に散らばらせて私を滅ぼしました。 だから、私の代わりにペンに頼むべきです。」 スピリチュアルな旅人は「あなたは真実を語っています」と言い、ペンの抑圧について質問し、「なぜあなたはその国からインクを追い出し、愛する人から引き離したのですか?」と尋ねました。 それは答えました、「手と指に尋ねるべきです。 私はただ緑の葦(茎)の形をした小川のそばに立っていました。 一人の男がナイフを持って私のところにやって来て、私の皮を剥がし、服から引き裂き、根元から引き抜き、バラバラに切り裂きました。 それから彼は一枚を取り、それを彫り、その頭を切り取って[細くして]、苦い黒いインクに私を浸しました。 彼は私から奉仕を受け、私に頭の上を歩くことを強制します。 私の全身はすでに彼の手に怪我をしています。 今、あなたは私の怪我にあなたの質問の塩をまき散らして、さらに炎症を引き起こしています。 だからこそ、私から離れて、私を足と手のないものにした男にこの質問をしてください。」 霊的旅人もペンの真実性を確認し、その手に尋ねました、「なぜあなたはペンを自分の願いのために使おうと、ペンの願いを無視してペンをそんなに抑圧するのですか?」と尋ねました。 ハンドは答えた、「私は肉、骨、血の組み合わせにすぎません。 抑圧できる肉片や、勝手に動く体を見たことがありますか? 私はライダーが乗る乗馬用マウントにすぎません。 その乗り手は能力(クドラ)と呼ばれます。 そのライダーは私を動かし、地球上のさまざまな場所を回らなければなりません。 木や岩は、誰かが動かすまで、その場所から勝手に動かないことがわかりますか? 私の手と死んだ人の手は、その形も形も同じように見えます。 では、死んだ人の手がペンを拾わずに、私の手がペンを拾うのはどうしたのですか。 このことから、ペンとは何の関係もないことが分かっています。 この質問は能力に問いかけるべきです。 私は騎手が鞭の力で強制的に動かす乗馬にすぎません。」

スピリチュアルな旅人は、手からの答えを信じて、能力に「あなたには手を使う権利があるのですか? なぜそれを目的のために使用し、なぜ強制的に動かすのですか?」 アビリティは「私を責めないでください。 多くの場合、責めている人自身は責められるに値し、責められた人は無実であることが証明されます。 私の状態はあなたに明らかにされていません。 どうして私が手に乗って間違ったことをしたと言えるのか? 動く前から(手)乗っていましたが、静かに眠っていました。 私の沈黙と睡眠の状態は、人々は私を死んだか絶滅したと考えるほどでした。 言い換えれば、メッセンジャー(扇動者)がやって来て私を動かし、あなたが私を非難の対象にしている仕事を強制するまで、私は一人で活動しておらず、他の何も動かさなかったのです。 私の中には、その命令に逆

らう力がありませんでした。 私はその欲望に従って働くことを余儀なくされました。 そのメッセンジャーの名前は意図(*イラダ*)です。 私はその名前と行動でしか知りませんが、ある日、それが私を攻撃し、深い眠りから目覚めさせ、手を動かすことを強制しました。 私はその命令に従って行動する以外に方法を見つけられませんでした。」

スピリチュアルな旅人は「あなたは真実を語っています」と言いました。 それから彼は意図を尋ねました、「あなたは(眠っていた)静かで満足のいく能力を乱し、あなたの命令に従う以外に出口がないように強制的に動かしたのですか?」 インテントは「そんなに急いで私を責めないでください。 私がそうせざるを得なかったのに、あなたは理由もなく私を責めているだけかもしれません。 私は自分で起きたのではなく、起き上がるようにさせられたのです。 私は自分で目覚めたのではなく、代わりに、巨大で抗いがたい力によって目覚めました。 知性の舌による知識の使者が心の法廷から私のところにやって来て、能力を目覚めさせるように命じました。 そのため、強迫性で能力を目覚めさせた。 私は知識と知性に征服され、征服されていますが、私のどの罪のために知識と知性に従属させられ、彼らの従属者であり、それらに従順であると宣言されたのかはわかりません。 この強力な使者が私のところに来るまで、私は静かで平和でした。 今、これは私の支配者であり、それが公正であろうと抑圧的であろうと、私はその命令に従うことを余儀なくされています。 それが私に何かを命じたとき、私にはそれに対抗する力がありません。 私は自分の人生で誓い、それが心配したり躊躇したりしているときは、沈黙を保ちますが、私の注意はそれにあります。 それが最終的な決定を下すとき、私はそれに従い、能力を目覚めさせなければならないという私の本性の要求に駆られるようになります。 今、あなたは知識を求め、批判を私から遠ざけるべきです。」

スピリチュアルな旅人は「あなたは真実を語っている」と言い、知識、知性、心に向き直り、能力を扇動するために意図を征服したと彼らを非難しました。 知性は「私は自分で点灯(照らされた)のではなく、他の誰かが私を照らしてくれた[光を与える]ランプです」と答えました。 ハートは「私は一人で広がったのではなく、他の誰かが私を広げたタブレットです」と答えました。 知識は、「私は、知性のランプが点灯した後、心の板の白さに刻印される碑文です。 私は自分自身で刻まれるのではなく、他の誰かが私に刻まれます。 だから、私に刻まれたペンに聞いてみるべきです。」 この闘いの後、スピリチュアルな旅行者は、満足できるような答えを見つけられません。 したがって、霊的旅行者は当惑し、動揺し、「私は長い間この道を歩んでおり、多くの目的地を横断してここに到着しました。 途中で誰に出会っても、私は同じ質問をしました。 みんな私を他の人に引き渡しました(紹介しました)。 すべての答えが合理的で心を納得させたので、私はこの闘争に満足していましたが、この最後の答えは私の理解を超えています。 知識は「私はペンの下から生まれた碑文である」と言いますが、ペンは葦でできており、タブレットは鉄または木でできており、碑文は黒または赤のインクでできており、ランプには火が灯されています。 ここでは、石板、ランプ、碑文の話を聞い

ていますが、どれも見当たりません。」 それに対して知識は、「あなたの資本(富)は少なく、あなたの[旅のための]準備は限られており、あなたの乗り心地は弱く、あなたが進む道には無数の危険があります。 だからこそ、この道を離れて別の道を歩む方が適格ではないので、あなたにとって良いのです。 何かにふさわしい人には、それに到達する手段が与えられます。 本当にこの道の旅を終えたいなら、これを注意深く聞いてください。

3つの領域:あなたのこの旅には3つの領域があることを忘れないでください。 1つは、神の全能性と力の出現の領域としても知られる「*アラム・アル・ムルク・ワ・アス・シャハダ*」の領域です。 紙、インク、ペン、手などは同じ領域に属します。 あなたはこれらのことから徐々に前進しました。 第二に、私の後にやってくる天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)です(つまり、知識)。 あなたが私を超えるとき、あなたはこの領域の目的地に到達するでしょう。 どうやって安全を保てるのかわかりません。 第三に、絶対的な神の広大さまたは主権の領域です(***'Alam al-Jabarut***)。 あなたはその最初の3つの目的地、つまり能力、意図、知識を横断しました。 この領域は、最初の 2 つの領域の間の手段として機能します。 地上を歩く人は、*アラム・アル・ムルク・ワ・アス・シャハーダ*[または神の全能性と力の出現の領域]を歩きます。

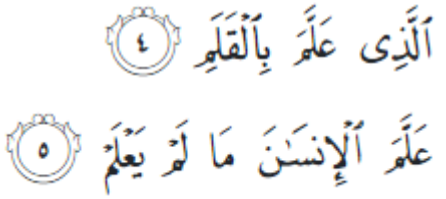
天使の領域の始まり (*'Alam al-Malakoot*): 天使の領域の始まりは、心の石板に書くペンを目撃し、水の上を歩くことが達成される確信を得ることです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の言葉を聞いたことがあるはずですが、イエス(神の祝福と平安あれ)が水の上を歩いていたと彼に言及されたとき、彼は言いました。

لَوْ ازْدَادَ يَقِينُنَا لَمَشَى عَلَى الْهَوَاءِ

「もし彼がもっと確信を持っていたら、彼は空中を歩いていただろう」」と述べた。

この知識のスピーチを聞いて、霊的旅人はこう言いました。 あなたが指摘した道の危険性に心が震えます。 あなたが指摘した広大な危険な地形を渡ることができるかどうかはわかりません。 ペンの兆候を教えていただけますか?」 知識は言いました、「それには兆候(しるし)があります。それは、あなたが目を開けて、その光を集めて私を見ることです。 心のタブレットに声明を書くために使用されたペンを見た場合、絶対*的な神聖な広大さまたは神聖な主権の領域*(アラム・アル・ジャバルト)から天使の領域に進む人は、そのペンを見始めるので、あなたは天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)に適格であると呼ばれます。 だからこそ、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が預言者としての初めに、次の神聖な聖句が啓示されたとき、彼はそのペンを目撃しました。

اقْرَأْ وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ ﴿٣﴾



『読んでください、そしてあなたの主は威厳があり、名誉ある方であり、ペンで教え、人間が知らないことを教えました。』」 (クルアーン、第96章、3-5節)

スピリチュアルな旅人は、「私は目を大きく開いて、集中して見ようとしましたが、まだそのペンもタブレットも見ていません。 ペンを見たことがあるとすれば、それは書くために使用される外部ペンです。」 知識は言いました、「あなたの言っていることは奇妙です! 家の所有者のやり方は、家の中の商品のやり方であると聞いたことがありませんか? 神の存在は、他の存在とは似ていないことを知らないのですか? 彼の手は他の手とは異なり、彼のペンは他のペンに似ておらず、彼のスピーチは他のスピーチと似ていません。 これらは神聖な事柄であり、天使の領域に関係しています。 神は肉体でも場所の中にいないが、他のすべてのものは肉体であり、その場所にある。 彼の手は、肉と血と骨が組み合わさった他の手とは対照的に、肉でも血と骨でもありません。 彼のペンは葦でできていませんし、彼のタブレットは木でできていません。 彼の言葉は文字や音でできているわけでもなく、彼の印は刻印でできているわけでもなく、彼のインクは染料でできていません。 もしあなたが物事をありのままに見ていないなら、あなたは欠陥があるのです。 実際には、完全な人間とは、神を上に考え、いかなる体も持たずに清められた人々であり、欠乏しているのは、神を体に似ている人々です。 あなたは2つの[グループ]の間にいて、ここにもそこにも属していません。 あなたがどのようにして神を肉体と[人間の]性質から免除したか教えてください。 あなたは、文字も音もないイエスのスピーチをどのように考えましたか? あなたは神の手、ペン、タブレットについて躊躇しています。 神を目に見える体に似ていると考える人は、単に類似性をしているだけであり、それを洞察の目でしか目撃できない内なる意味として解釈する人は、神をこれらの[人間の]類似性の上にあり、神の栄光と賛美の道を歩む旅人であるという表れです。 今、人は道を歩み、心の奥底で神の戒めに耳を傾けるべきです、そうすれば、神の光の道を幸いに見つけることができるでしょう。」

スピリチュアルな旅人がこの洞察力に富んだ話を聞いたとき、人は自分の過ちを知らされ、自分は[神の体に]似ていることと神の栄光の間で宙に浮いていることに気づきました。 この認識により、自分自身に対する怒りの火が心の中で燃え上がり、心の[照らす]ランプには、火がなくても燃える準備ができている、非常に浄化された澄んだ油があったので、知識の火が到達すると、それは光の上に光が現れました。 これを見た知識は、スピリチュアルな旅人に「この機会を利用して目を開けてください。おそらく導きが見つかるでしょう」と言いました。 したがって、人は目を開け、そのすべての特徴を備えた神のペンが、神の栄光に不可欠なものに現れました。 葦でできていてもなく、

木や鋭利な刃でできているわけでもありません。 それは人間の心にさまざまな種類の知識を書くのに忙しいです。 その先端はすべての心臓の表面にありますが、表向きは先端がありません。 スピリチュアルな旅人はこれを見て驚き、「実際には、知識は確かに最高の仲間です(知識がなければ、私たちは皆無知です)」と言いました。 神が最高の報いを与えてくださいますように。 それが私に教えてくれたペンのすべての特性が、すべて見えるようになりました。 今、そのペンは私にとって他のペンとは違うのです」。 その後、スピリチュアルな旅人は知識に別れを告げ、感謝の意を表し、「私は長い間あなたと一緒にいました。今、私はペンに行ってその状態について尋ねる決意をしました」と告げました。

スピリチュアルな旅人とペンの会話: したがって、スピリチュアルな旅人はペンにやって来て尋ねました。 なぜ、その知識が意図を煽り、能力が上昇し、自発的な行動がなされるまで、常に人々の心に知識を書き続けるのですか?」 ペンは、「神の全能性と力の領域で見たものを忘れていませんか?」と頼りました。 ペンから聞こえた反応を無視していませんか? 私の記憶では、それは[心に]書く責任を受け入れず、代わりにそれを神に委ねました。」 スピリチュアルな旅人は、「私はそれを忘れていませんし、ペンからの反応を無視したこともありません」と言いました。 ペンは答えました、「神がご自分の姿でアダム(人類の父)を創造されたと聞いたことがありませんか? 王様の右から私の状態について尋ねてください。 私は神の支配下にあり、神は私を動かしてくださる方であり、私は神の支配下にあります。 つまり、神のペンと人間のペンの間には、どちらも征服されるという点で違いはありません。 違いがあるとすれば、それは外見の違いにすぎない」と述べた。 霊的な旅人は「王の右手とはどういう意味ですか?」と尋ねました。 ペンは答えました、「その意味は、以下の聖句で言及されていることです。

وَٱلسَّمَٰوَٰتُ مَطْوِيَّٰتُۢ بِيَمِينِهِۦ

「そして天は彼の右に包まれるでしょう。」 (クルアーン、39章、67節)

同様に、ペンも彼の右手にあり、彼はそれを望むように動かします。

スピリチュアルな旅行者の右手への旅: この会話の後、スピリチュアルな旅行者は右[神の摂理の手]に旅を始めました。 そこでは、驚くべき驚異が見られました。それに比べて、ペンにはそれらのほんの一部さえありませんでした。 これらの驚異は言葉では説明できないほどで、むしろ何千冊もの本で説明しても、その100分の1でさえ説明できませんでした。 要するに、それは右手ですが、他の右手とは違います。 腕はありますが、他の腕とは異なります。 指はありますが、他の指とは少しも似ていません。 スピリチュアルな旅人は、右手で動かされるペンを見て、ペンが表現したことがすべて正しいことを理解しました。 実際には、これはすべて右手のゲームです。 したがって、スピリチュアルな旅人は右手に、なぜペンの周りを動くのか尋ねたところ、右手はこう答

えました、「私の答えは、神の全能性と力の出現の領域から手によって提供されたものと同じです(*'Alam al-Mulk wa as-Shahada*)[またはこの目に見える物質世界]、言い換えれば、この動きは能力(クドラ)に帰したのです。). 私も同じことを言います - これは能力のゲームです。」 これを聞いて、スピリチュアルな旅人は能力のところへ行き、そこでこれまで見たことのないような驚異を見ました。 怯えた人は「なぜ右手を動かすのですか?」と尋ねました。 能力は答えました、「私は単なる特性です。あなたはこの特性の所有者(所有者)に尋ねるべきです - この特性によって特徴付けられた者 - 全能者。 この特性の所有者だけが理由について知らせることができます。 この特性は、その所有者に従属しているだけです。」 この答えを聞いた霊的旅人は、絶対的な力者(神)にあえて尋ねることに足を曲げそうになりましたが、[しかし]人は[真理の道に]自分の足の堅固さを与えられ、絶対的な力者の法廷からの呼びかけを聞きました。

لَا يُسْئَلُ عَمَّا يَفْعَلُ وَهُمْ يُسْئَلُونَ

「イエスが何をしようと、他の誰もが[彼らの行動について]質問される一方で、誰もイエスに疑問を抱くことはできません。」 (クルアーン、21章、23節)

これを聞いた霊的旅人は震えと畏敬の念に打ちひしがれ、意識を失いました。 一人は長い間それに苦しんでいました。 意識を取り戻すと、人はこう言いました。あなたは、すべての不完全さ、欠点、欠点、弱さよりも高められています。 あなたの栄光は壮大です! 私はあなたに悔い改め、あなただけを信頼し、あなたが唯一無二で、抵抗できず、支配的で、圧倒的な強力な支配者であるというこの現実への信仰を受け入れます。 私はあなた以外の誰も恐れませんし、あなた以外の誰にも希望を持っていません。 私はあなたの寛大さの中であなたの清算から、そしてあなたの受け入れにおいてあなたの怒りから避難を求めます。 私の前には、完全な謙虚さをもってあなたに祈る以外に、私の前には道はありません。あなたを知ることができるように、私の心を開いてください。 私の舌の結び目を開けて、あなたを賛美し、栄光を讃えてください!』 この嘆願(祈り)に応えて、神の臨在からの宣言が来ました。これ以上進めないでください! 栄光と賛美に貪欲になってはいけません。 神の使徒[ムハンマド](神の祝福と平安あれ)に仕えに行き、彼があなたに与えるものを受け取り、彼があなたを止めるものをやめなさい! そして、彼があなたに言わせたことを言ってください。 彼が神の法廷でこの[嘆願]を嘆願したのを見てください。

سُبْحَانَكَ لَا أُحْصِي ثَنَاءً عَلَيْكَ أَنْتَ كَمَا أَثْنَيْتَ عَلَى نَفْسِكَ

「あなたに栄光あれ!あなたは、すべての不完全さ、欠点、欠点、弱さよりも高められています。 私はあなたを完全に褒めることさえできません。 あなたはあなたがご自身を賛美したとおりです!」

スピリチュアルな旅人は「おお、すべての宇宙の主よ! 舌がこの限界を超えることが許されないなら、心はあなたのグノーシスに貪欲なのでしょうか?」 「グノーシス主義者さえも超えたいのか! 最も偉大なグノーシス主義者(*シディク・アル・アクバル*)[アブ・バクル(神が彼を喜ばれますように)は、すべての預言者に次いで神の近接性とグノーシスにおいて最高の地位を持っています]のところに行き、彼に従いなさい。 あなたは彼の言ったことを聞いたことがありませんか?

「知覚を知覚できないことが知覚である」。

わたしの臨在からのあなたの分け前は、あなたがわたしの臨在を奪われているということです。 あなたには[神聖な]厳しさ(*ジャラル*)と[神聖な]美しさ(*ジャマル*)を目撃する力がありません。」

これを聞いた霊的旅人は、自分が通った道を歩きました。 ペン、知識、意図、能力などからどんな質問をしても、人は彼らに謝罪し、自分の無知を告白し、「許してください、私はこの道に見知らぬ人(新しい)人でした。 見知らぬ人は[新しい領域を]恐れるようになります。 私はあなたを拒否しました、それは完全に私のせいであり、無知です。 私は今、あなたの言い訳について知らされ、すべての領域[神の全能性と力の出現の領域(*'Alam al-Mulk wa as-Shahada*)、天使の領域(*'Alam al-Malakoot*)、そして絶対的な広大さまたは神の主権の領域(*'Alam al-Jabarut*)]、抵抗できない方の戒めだけが施行される。 あなたがたは皆、神の動くという行為によって動き、神のすべてを包み込む力によって征服され、征服される。 彼は最初の者(*アル・アウワル*)であり、彼は最後の者(*アル・アーキール*)であり、彼はマニフェスト(*アル・ザヒル*)であり、彼は隠された者(*アル・バティン*)です。」

最初と最後、顕在性と隠されたものの間の対立: スピリチュアルな旅行者が、神の全能性と力の出現の領域(*'Alam al-Mulk wa as-Shahada*)または目に見える世界の住人にこれらの詳細を説明すると、彼らは驚いて尋ね始めました。 最初である者は最後ではなく、隠れている者は顕在化しない」。 その答えは、「すべての存在は、すべての存在が彼の存在からの秩序によって存在したからです。 なぜなら、神は[霊的な]道を歩む人々にとって、神は彼らの最終目的地だからです。 もし彼らがその道のある目的地から次の目的地へ進んでいるなら、彼らの道と旅の集大成は神の存在にあります。 このように、神は最後に証しされるのですが、最初に存在するのです。 これが、隠された者であり、顕在化しているという彼の状態です。 目に見える世界(第一界)に住みながら、五感を使って神を知覚したいと願う人たち、神は彼らのために隠されています。 心の光を照らして神を探す者、神は彼らのために顕現されるのです。」 これは、神の統一と一体性(*タウヒード*)が実際に作用していることの実際的な意味です。 言い換えれば、真

の実行者はただの一つの存在であるという現実が明らかにされた人々にとって、これが神の統一と一体性を達成するための彼らの方法です。

神への信頼の状態と行動

神への信頼の[霊的]ステーションは、知識、状態、行動で構成されています。 知識は以前にも言及されました。 さて、実際には神への信頼である状態について、これを聞いてください。 知識はその起源であり、行動はその果実(結果)です。 神への信頼は信託統治から来ること、つまり、自分の仕事を誰かに委ね、誰かを信頼していることを知っておく必要があります。 自分の仕事を任せられた人が受託者であり、仕事を引き継ぐ人は受託者と言われますが、条件は、委託者が受託者を全面的に信頼し、能力がないと見なさないことです。 したがって、託された人、信頼に心の信頼があるはずです。 世俗的な紛争で任命された弁護士も同じ条件を持っています。 したがって、誰かがあなたを冤罪で告発したり、あなたが所有するものを不当に奪ったりした場合、あなたはこの抑圧を終わらせるために弁護士を任命し、裁判官の法廷であなたの代弁者となり、告発者(原告)の不正と欺瞞からあなたを救おうとします。

あなたが4つの問題を信じるまで、あなたはあなたの弁護士(管財人)を信頼しているとは見なされず、信託統治に満足しているとは見なされません:第一に、管財人が[あなたのために正しいことをするための]高いレベルの指導を持っていること、第二に[あなたのために必要なことを行う受託者の]能力、第三に[あなたの訴訟を擁護する]高いレベルの雄弁さです。 そして第四に、[受託者の][あなたに対する]完全な愛情と慈悲です。 受託者が、明らかではない(そしてあなたに危険をもたらす)微妙な点を見る程度に、欺瞞の場所を認識できるように、ガイダンスが必要です。 受託者が勇気をもって真理を宣言し、(受託者が託された事柄に関連する)ことを躊躇せず、誰も恐れず、誰からも敬遠せず、臆病さを持たないようにするには、能力と強さが必要です。 多くの場合、受託者は相手の欺瞞の理由を見つけましたが、恐怖、臆病、恥ずかしがり屋、またはその他の理由により、それを表現できず、真実を宣言するのが弱くなります。 弁論者は、舌に関係していますが、能力の一種でもある効果的に表現するためには雄弁です。 雄弁さによって、人間は聞き手が感銘を受けるような方法で心の問題を表現することができます、そうでなければ、誰もそれを発見した後に相手の欺瞞を暴露し、聞き手を納得させるような方法で真実を言語化する必要はありません。 受託者(弁護士)が委託者のために全力を尽くし、一人に必要なことを控えないようにするためには愛情が必要です。 欺瞞的な主張を自覚し、真実を表現する能力を持ち、雄弁の真珠を広げるだけでは、受

託者が委託者の存在と状況に関心を持ち、その事案を自分のものとして考えるまでは、事件(委託された任務)の成功には十分ではないからです。 お金を稼ぐことが唯一の目的である場合、受託者は、委託者が勝つか敗北するか、あるいは自分の権利を達成するか失うかを気にしません。

委託者がこれら4つの事項のうちの1つでも疑問を抱いて、その問題において受託者が弱いと考えたり、相手方の受託者が自分の受託者と比較して4つの問題すべてで強いと感じた場合、自分の受託者(弁護士)に完全な満足と信頼を持つことはできません。 人は心の中で常に疑いと躊躇のままで、相手方の利益を排除できるように、自分の受託者からその過ちを取り除こうとします。 委託する人が四つの事柄すべてにおいて自分の受託者を信じている限り、その限りにおいて、人は心の中に自信と満足感を持つでしょう。 人々の信念や推測に関する限り、長所と短所は同じではなく、代わりに言葉では言い表せない違いがあります。 したがって、[受託者]を委託する人々が、自分の信念[または信頼のレベル]と、その結果として[受託者に対する]信頼と満足度に大きな不一致を持っていることは驚くべきことではありません。 ある人は受託者を信頼していないが、別の人の信頼はそこに弱点が残っていないレベルに達している可能性があります。

あなたは今、この説明によって信頼の現実を知っており、そこから神への信頼(*タワックル*)を推測することができます。 信仰(***I'tiqad***)と霊的な明らかに(***Kashf***)によって、神以外に実行者はいないということがあなたの心にしっかりと根付くようになります。 また、神はしもべの状態と状況をよく知っており、彼らにとって十分であり、神の慈悲は天と地のすべての創造物とあらゆる粒子を網羅し、それらをすべて[排除することなく]含んでいると信じてください。 神の能力と力には制限がなく、神の知識にも制限がなく、神の慈悲と寛大さには制限がなく、それを超える慈悲と寛大さはないというこの信念も持ってください。 神についてのこれらすべての信念と考えがあなたの中にしっかりと根付いているなら、あなたは確かに神を信頼し、あらゆる状況や状態において神に注意を向け、神以外の誰にも注意を払わず、自分自身の存在にも、力がないからといって自分の力や強さにも注意を払わないでしょう。 神以外の動かし、力。

神への信頼が欠如する理由: もし人の心が神を信頼している状態を持っていない場合、その理由は2つあり得ます-4つの事柄のうちの1つ(または複数)の確信が弱いか、その理由は心の弱さ、臆病さ、心配な考えである可能性があります。 時には、確信は弱くはありませんが、迷信が心を支配し、内なる気質(神への信頼を持つことに対する)反発と欠点を生み出します。 たとえば、知性のある人が、死体を墓に置いて横たわるように頼まれた場合、死体は石のように生気がなく、動かず、危害を加える力がないことをよく知っていても、決して同意しません。 また、神には生き返らせる力がありますが、死後に誰かを生き返らせることも神の道ではありません。 それは、神がペンを蛇に、猫をライオンに変えることはできるが、作家の手にあるペンを蛇に変えたり、猫をライオンに変えたりしないという事実と同じである。 このことから、知性のある人は、死者が害を及ぼすことはできないという確信を持っているが、他の生命のない物質的な物

体を恐れていないにもかかわらず、死体をベッドに置いて眠ったり、墓の中で一人で夜を過ごしたりすることに同意しないことがわかります。 実際には、これは臆病さと恐怖であり、一種の弱さです。 そのような弱点がない人はほとんどいません。 一部の人々は、彼らの臆病さが病気の形をとるほどますます臆病になり、彼らは一人でいるという単なる想像に恐怖を感じ、死者と二人きりになることを忘れます。

満足と確信: この議論の結果は、神への信頼の完全さを達成するためには、心と確信の両方の強さが必要であり、それが心が満足と平安を受けるときであるということです。 そうすれば、心が強さを持つまでは、確信の強さだけでは十分ではなく、満足の源にもなりません。 実際、心の満足と確信は別の(別個の)ものです。 時には、確信はあるが満足感は得られないこともあります。 それは、確信はあるが、[自分の目で真実を直接目撃することによって]得られる満足感と静けさはそこにないことを意味します。 最初は、確信は満足を生み出さないが、徐々に平和な魂(*ナフス・アル・ムトマイインナ*)を形成していく[つまり、卑劣な欲望と否定的な性質を持つ低次の自己は、神と、そして以前は考えられなかったすべての善と平和な自己に変容する]。 多くの人は、確信を持っていないが満足感を持っているような人たち、例えば、何の確信も持っていない間違った有害な信念に従っているが、間違った有害な信念に反するすべてのことを頑固に無視して、それでも満足している。 このことから、臆病さと大胆さは人間の気質の一部であり、それらの存在下では確信は役に立たないことがわかります。 これは、信頼に必要な前述の4つの事項のうちの1つ(または複数)の確信が弱いのと同じように、神への信頼に反対する理由の1つでもあります。 確信と満足のすべての原因が組み合わさるとき(信頼に必要な4つの事項を含む)、人は神への絶対的な確信を育みます[したがって、神への完全な信頼を持つ]。

神への信頼の3つの段階: 前のページでは、神への信頼の現実と神への信頼の状態について説明してきました。 次に、この状態の程度について説明します。 神への信頼の段階は、神への信頼状態の強さまたは弱さに基づいて、合計3つあります。 第一級とは、今説明したこと、つまり、しもべ(人間)の信頼は神であり、信頼する人が自分の受託者(または依頼人が弁護士に対して抱く)の信頼のようなものです。 第一の段階よりも高い第二の段階は、神を信頼する人の状態は、母親との赤ん坊の状態のようなものであり、赤ん坊は母親以外の誰かを知らず、認識することも、母親以外の誰にも懇願したり、他の誰にも信頼を持たないということです。 赤ちゃんが母親を見ると、母親にしがみつき、たとえ殴っても、赤ちゃんは母親の中に避難所を求め、赤ちゃんの存在または不在中に何かが起こった場合、赤ちゃんの唇には母親の名前だけが浮かび上がります(つまり、赤ちゃんは母親のために泣くだけです)、母親の考えだけが赤ちゃんの心に浮かび、母親の抱擁が赤ちゃんの唯一の避難所です。 赤ちゃんは、母親の世話、十分さ、そして知覚を欠かさない愛情に対して完全な自信と確信を持っています。 赤ちゃんが識別力を持っている限り、赤ちゃんはそれを知覚します。 お母さんへの自信と確信が赤ちゃんの天性になっているようです。 しかし、赤ちゃんがこの習慣や性質について尋

ねられた場合、赤ちゃんはそれを説明することも、その詳細を頭に浮かべることもできません。

心が神に集中している人は、そのような人を見るのは神の優しさにのみあり、神の与えと寛大さに自信を持つでしょう。 人は、赤ちゃんが母親に対して抱くような、神に対する強烈な愛(*イシュク*)を持つでしょう。 実際には、これは神を信頼している人です。赤ちゃんは母親も信頼しています。 この(第二)の[神への信頼]と以前の(第一の)程度の違いは、この程度の人は神への信頼の実践者であるため、この信頼の中で消滅(消滅)するということです。 そのような人は、神への信頼の現実に傾くのではなく、むしろ、信頼が置かれている存在であるというものに傾倒し、そのような人の心には神以外の誰にも余地が残っていませんが、神への第一段階の信頼の人は神への信頼を抱こうと努めます。 これは努力と闘争によって神を信頼する人であり、二級の人は生来の性質によって信頼される人です。 第一の人は、神への信頼に傾いており、それを意識的に認識しているので、神への信頼が消滅することはありませんが、それが信頼されている方(神)を見るための障害です。

神への信頼の第三の段階は、また最高度でもありますが、信頼する人は、神の前での動きや静けさにおいて、水浴び(埋葬前に死体を洗う)の手に握られた死者のようなものであり、言い換えれば、死体が意のままに動かされるのと同じように、自分の低次の自己を、永遠の能力(神)によって動き回る死人として考えることです入浴者。そのような信頼できる人は、動き、能力、意図、知識、そしてすべての資質の源泉はただ一つの存在であり、すべては[創造主の意志によって]意志なしに生まれるという確固たる確信を持っています。 この人は、予期せぬことが起こるのを待っており、母親を追いかけ、衣服を引っ張って懇願する赤ん坊とは異なりますが、この人は、母親が自分の衣服を抱かなければ、母親が自分で探しに出かけることを期待している子供のようなものです。彼女はまだ子供を膝の上に持ち上げますが、子供が食べ物を求めない場合でも、彼女は率先してそれを提供します。 この程度の神への信頼は、神の摂理と注意を信頼する人が、自分自身に何も求めず、求めなくても神が授けてくださるという確信を持っていること、むしろ、求められていることを神ご自身がそれよりもよく授けてくださることを要求します。 したがって、神はすでに無数の祝福を授けておられましたが、誰もそれを求めたり、それを受ける権利を持たなかったりします。 これは最後で最高の[神への信頼]の要件であり、第二の段階は神以外の誰にも尋ねるのをやめることを要求します。

神を信頼する人の3つの段階: 神を信頼する人には3つの段階があります。 第一級は霊的エリートとグノーシス主義者に属し、彼らは何の食料も取らずに、険しく人けのない場所やジャングルを歩き回り、神に頼ります。 その間、ジャングルでお腹を満たすものを見つけたら、それを受け取り、そうでなければ、彼らは忍耐強く神の意志に同意し続けるでしょう。 時には、食料を持って行っても飢えてしまうことがありますが、それは紛失したり、使い果たされたり、間違った道に逸脱して食料が使い果たされたりし

ます。 死は否定できない現実です。それは、備えのある人にも、備えのない人にも及ぶので、神の備えに頼って死ぬ方が良いのです。

第二の段階は、自分の家や、人口が住む都市や村の場所に閉じ込められ、そこに住んでいる間、神の記憶と熟考に従事することです。 この程度は第一段階よりも低いですが、これは神への信頼でもありますが、これは神への信頼でもあります。 この人は、都市や村の人々ではなく、都市の人々に栄養を与える存在に目を向けています。 そのような人に注意を払い、世話をしてもらうのも神の恵みです。

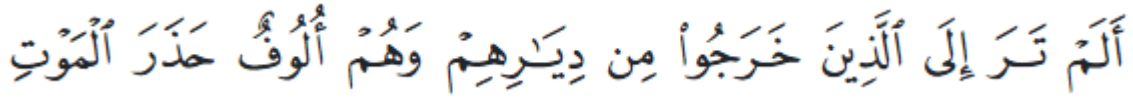
第三度は、家に閉じ込められず、代わりに外に出て、生計を立てる書(ガザリの *最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン」*または「神への道の知識の復活」の第2巻)に記載されているすべての条件を備えて、生計を立てるために奮闘することです。 そのような人は、自分の十分性、力、地位、またはスキルに頼らないという条件で、神への信頼と信頼の枠から外れることはありません。 神と比較して、王の手にあるペンのように稼ぐための自分の十分性、能力、強さを考慮する必要があります。 王の仲間の目は、王のペンではなく、王がどのような考えを持ち、誰に注意を払い、決定するかについての彼の心にあります。

自分の子供のために、または貧しい人や困窮している人々のためにお金を使うために稼ぐ人は、自分の体から稼いでいるが、心から切り離されている人です。 そのような人の状態は、家に座っている人よりも良く、賞賛に値します。 これに対する議論は、条件が満たされ(世俗的な執着や貪欲に囚われずに生計を立てるため)、神への知識と神との親密さに気を配る場合、生計を立てることは神への信頼に反しないということです。

伝染病における神への信頼に関するウマルの事件(神が彼を喜ばれますように)

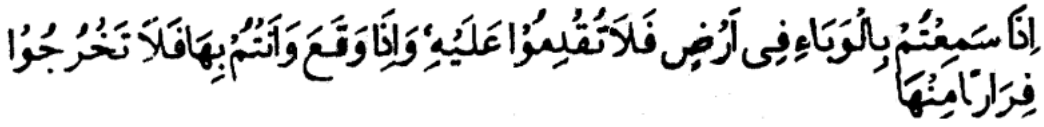
ここでは、神への信頼をさらに明確にするために、ウマル・ビン・アル・ハッタブ(神が彼を喜ばれますように)の歴史的な出来事を紹介します。 かつて彼は他の預言者の仲間たちと一緒にシリアに旅行しました。 彼がダマスカスに近いヤビヤに到着したとき、彼らはシリアが疫病(腺ペスト - 毒性があり壊滅的な伝染性または伝染性の伝染病)の蔓延によって深刻に受けられていたことを知りました[その地域で多くの死者を出していました]。 さて、彼らがシリアに入るべきかどうかという疑問が生じた。 この質問により、預言者の仲間は[それに対して何をすべきかという点で]2つのグループに分けられました。 あるグループは、「腺ペストのせいで、(このような状況下で)そこに行くこ

とは、燃え盛る火の中に飛び込むのと同じだから、私たちはそこには行かない」と言いました。 他のグループは、「私たちは神に行き、神を信頼し、私たちに(神的に)運命づけられたものは何でも、それを避けることはなく、死を恐れることも、神が言われた人々のグループには含まれません。



『死を避けるために何千人もの人々の家を去った人々の話を知らないのですか?』」 (クルアーン、第2章、243節)

どちらのグループもウマル(神が彼を喜ばれますように)のところに来て、この問題について彼の意見を求めました。 シリアへの入国を主張したグループは、「私たちは神の運命から逃げるべきではない」と言いました。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「はい、私たちは神の運命から神の運命に向かって逃れるでしょう」と言いました。 その後、彼は例を語り、「あなた方の誰かがヤギと、放牧のために連れて行く2つの谷を持っているとします。 それらの谷の 1 つは緑豊かで、もう 1 つは乾燥して不毛です。 もしこの人が緑豊かな谷を養子にするなら、彼は神の運命と命令によってヤギを放牧させる人であり、もし彼が乾燥した不毛の谷に行くなら、彼は再び神の運命と命令によってそうする人になるでしょう。」 預言者の仲間たちは、その言葉の真実を確認した。 その後、彼はアブドゥル・ラーマン・イブン・アウフ(神が彼を喜ばれますように)を使者によって彼のところに連れて来るように頼みました。 彼は一日後に到着し、この意見の相違点が[彼自身の意見のために]彼に提示されました。 アブドゥル・ラーマン・イブン・アウフ(神が彼を喜ばれますように)は、「この件に関して、私の意見は、神の使徒預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)の舌から聞いたことと同じです」と言いました。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「神に栄光あれ! 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の指示がこの問題に関して存在するのであれば、この問題について意見の相違の余地は残されていません。 彼が何を言ったか教えてください」。 アブドゥル・ラーマン・イブン・アウフ(神が彼に喜ばれますように)は言いました、「私は預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)の舌から、彼が言ったことを聞きました。



「どこかで流行が起こっていると聞いたら、そこに行かないでください(感染する可能性があり、その結果、他の人にさらに広がる可能性があるため)、それ(流行)が以前から

すでに存在している場所で発生(開始)した場合は、そこから逃げないでください[これにより、広範囲に広がり、封じ込めることが困難または不可能になるからです]」。

ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、この預言的な語りを聞いて非常に喜び、この問題に関する彼の意見が預言的な導きに沿っていることに神に感謝の意を表し、彼はすべての預言者の仲間をジャビアから連れて帰りました(流行地帯に入ることなく)。 (この伝統と事件全体は、 *ハディース コレクション Sahih Bukhari*)

ここで注目に値するのは、すべての預言者の仲間が [猛威を振るう伝染病に関連する問題において]タワクル(神への信頼)を行わないことに同意したことです。 これの説明は、彼らは単に「私は神を信頼しています」と言って流行地域に入ったのではなく、代わりに、伝染病の蔓延を止めるために伝染地帯に入らないという預言的な導きによって知られている最善の方法を使用し、その成功のために神に頼ったということです。 したがって、彼らはこのように神への信頼を示しました]。 このことから、このような問題では、*タワックル*(つまり、「私は神を信頼しています」と言って、必要なことをしない)は必須ではないことがわかります[このような生命を脅かす状況では、代わりに、生命と人間の幸福を維持するためにあらゆる可能な手段を講じ、その成功を神に頼る必要があります]。

疫病地帯から逃げてはいけないという命令:ここで疑問が生じますが、神への信頼に有害なものから身を守ることが含まれていないのなら(つまり、必要なことをせずに「私は神を信頼している」と言うだけです)、なぜあなたが住んでいる土地から逃げることが禁止され、そこで伝染病が発生するのでしょうか? 医学では、流行の原因は空気であると宣言されています。 (このような状況では)空気が有害であり、有害なものを控えることが最善の治療法であることは明らかですが、なぜ流行地域からの脱出の許可が下りていないのでしょうか? この質問に対する答えは、有害なものから身を守ることは、神を信頼することに反対するのではなく、[学術的な]コンセンサスによるものであるということです。 たとえば、手術は有害なものから身を守るために行われます。 しかし、伝染地帯からの脱出は別の問題のようだ。 流行の原因が空気であることは事実ですが、単に空気が外体に当たるだけでは空気の原因にはならず、むしろ腐敗した悪い空気が呼吸によって体内に入ると、心臓、肺、体内の膜に有害な影響を残します。 このことから、伝染病は外体に影響を与えるのではなく、むしろ体の内部システムに影響を与えることがわかります。 そのため、誰かが都市に住んでいて、そこで伝染病が発生した場合、その影響から守られていなかった可能性が高くなります。 また、流行が1人にあまり影響を与えない可能性もあります。 その場合、流行から逃れることは、流行から身を守るための迷信的な理由になります。 しかし、それが流行地域から脱出する唯一の理由だったら、それでも大丈夫だったでしょうが、禁止には他にも多くの理由があります。 その理由には、健康な人々が流行地域を離れることを許されれば、病人と患者

を除いて市内に誰も残されず、彼らに食料、水、薬を与えることができる市内の誰も残らず、彼ら自身の病気のために、彼らは自分のニーズを満たすことができないだろうという理由が含まれています。 その場合、健康な人々が都市から逃げることは、健康な人がそこにとどまり、必要な適切なケアを提供することを条件に回復する可能性があるため、病人や病人を殺すことに等しい。 イスラム教徒は、[預言的伝統]では、[建物の]一部が他方の部分を支える建物として説明されてきた[その結果、建物全体が立っている]、あるいは体に例えられ、その一部が痛みを感じると、体の他のすべての部分がその痛みを感じます。 私たちの評価では、脱出を禁止する理由は、まさにこの相互の協力、思いやり、愛情、兄弟愛です。 それには、神が最もよく知っている他の理由もあるかもしれません。 しかし、都市[または疫病や伝染病に苦しんでいる地域]に入っていない人々には、腐敗した有毒な空気が彼らを襲わず、都市の病人も彼らを必要としていないので、彼ら(部外者)が入らなければ、 彼ら(病人と患者)は、彼らの世話をする人々が以前からすでに存在しているため、死にます。 しかし、患者の世話をし、食料、水、薬の世話をしてくれる人が街に残っていなければ、その場合、何人かの人々が街(または流行地帯)に入って彼らを助けることができ、彼らのこの行為が賞賛に値する行為と呼ばれるのは驚くべきことではありません。 それは、危害の心配は迷信的な問題であり[起こるかもしれないし、起こらないかもしれないが]、人々を危険から救うこと[したがって命を救う]ことは[確かに必要であるため]特定の問題だからです。 腺ペストや伝染病から逃げることが戦場から逃げることであると宣言されている理由です(ハディース集ムスナド・アフメドはアイシャ[神が彼女を喜ばれますように]の権威で語られています)伝染病に苦しんでいる都市[または地域]から逃げることは命を破壊することと同じだからです。

これらは微妙で複雑な問題です。 それらを無視し、預言的な語りの外側の言葉や意味だけを見る人は、これらの問題について誤りや誤解に陥ることがよくあります。 崇拝者や[世俗性から]禁欲している[必ずしも知識がない]人は、知識の欠如と近視眼のために間違いを犯すため、これらの間違いに頻繁に遭遇します。 そのような問題において、知識のある人が視覚の欺瞞に囚われず、代わりに、一見異なるものを組み合わせて[あらゆる状況における導きの]正しい道を見つけることは、知識の名誉です。

第16章 – 神との愛、憧れ、親密さ、そして神の意志と命令を受け入れることは、心の平和、静けさ、幸福を育むための必須事項です

すべての高貴な人間の内なる資質の中で、愛はすべての中で最も優れています。 それはすべてを征服し、否定的で卑劣で破壊的なものすべてを根から消し去り、根絶する特性です。 それは、深いスピリチュアルな意味合いを持つ、すべてを征服し、すべてを解放する内なる性質です。 しかし、ここで言及されている愛は、愛の最高の形であり、神の愛、または神への愛です。 この神聖な愛は、仲間の人間や仲間の被造物が排除されることなく神の家族の一部であるため、彼らの愛に注がれています。 もっぱら肉欲の欲求を愛する愛は、そのような地位に上がることはできません。 人々と国家の間に相互愛があるとき、正義と紛争解決は必要ありません。 それは、否定的で卑劣なものすべてを征服し、魂が霊的な上昇において最高の高みに舞い上がるのを抑制するすべての束縛を打ち破るために、人間に与えられ、贈られた神の属性です。 人間が自分自身と、そして自分の内面と平和な状態は、仲間の人間への愛を生み出します。 憎しみを克服し、魂を押さえつけている手から魂を解放し、神聖な臨在に昇天させるのは愛です。 神の愛が仲間の人間への愛に変わり、魂の奥底で切望する内面と外面の平和と静けさにつながります。 愛はすべての善の道を照らします。 神への憧れと神との親密さ(*ショークとウン*)は、永遠の至福と終わりのない勝利につながるスピリチュアルな道の大きな推進力です。 たとえそれが自分の好みに合わなくても、たとえ受け入れるのが難しいとしても、神の決定(リダ)に同意し、神の意志に心から身を委ねることは、すべての不安、心配、悲しみ、絶望から人を解放します。 それは、物事をより良い方向に好転させるための新しい方法を見つけ、物事を行う新しい方法を見つけ、人類が直面する個人的および集団的な問題を解決するために既成概念にとらわれない思考を採用するよう促します。 ガザリは、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻の

第6章または本で、愛、憧れ、神との親密さ、そして神の命令との平和について、深く洞察力に富んだ見事な説明を提供しました。 ここでは、次のように要約された形式で提示します[22]。

愛は[霊的]ステーションで非常に高いランクを占めており、愛の後のすべてのステーションは、憧れ(*ショーク*)、親密さ(***Uns***)、神の受容(*リダ*)など、それに従属しており、悔い改め、忍耐、禁欲(世俗性からの)など、その前のすべてのステーションは、[神聖な]愛につながるすべての要因です。 神の愛を信じることは非常に難しいです、なぜなら、一部のスコラ神学者は、その可能性を否定し、神の愛の意味は、神の服従と崇拝を[単に]忍耐することであり、真の[神の]愛に関する限り、神の愛を信じることであると表現しているからです。 なぜなら、そのような愛は、(他の人間のように)同族の誰かとしか達成できないからです。 これらのスコラ神学者は、[神の]愛を達成する可能性を否定しただけでなく、親密さ、憧れ、神に懇願する喜び(マナジャット)など、愛の他の主要な要因も否定しました。 だからこそ、私たちは[記録を正し、]問題の現実(真実)を解明することが不可欠になっています[この問題に関するすべての誤解と知識の欠如を合理的な方法で取り除き、すべての人にそれを明確にするために]。

この本では、まず神聖な(神聖な)法則から[神聖な]愛の証拠を提供し、次にその現実と原因に光を当て、次に愛の権利はもっぱら神に属し、すべての最大の喜びは神聖なビジョン(神を目撃する)の喜びであり、この喜びは神聖なグノーシス(マリファ)を持つ人々にとって何倍にも増大することを説明します- 神との知識、親密さ、親密さ)を世界で(世俗的な生活の中で)。 その後、神の愛を強め、推進する(力を与える)原因、この点で人々が異なって見える理由、そしてなぜ人々が神聖なグノーシスを達成できないのかを説明します。 愛について詳しく議論した後、(神への)憧れ(*ショーク*)の意味と、しもべ(人間)の神への愛のしるしを説明し、次に神への憧れ(***Uns billah***)の意味を説明します。 その後、神の意志(リダ)を受け入れることの意味と卓越性について言及します。 最後に、神を愛する人々とその言葉についての伝統が言及されます。

神聖な律法からの神の愛の議論と証拠:イスラム教徒の間では、[神の]しもべが神と預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)を愛することが義務付けられているという完全な合意があります。 問題は、愛が義務であるなら、どうしてその存在を拒絶できるのかと

いうことです。 そして、あなたが[神の]愛を神の服従の忍耐力として解釈(解釈)した人たち、服従は愛の果実(結果)であり、愛に従属しているので、最初に愛があり、次に最愛の人の服従があるのです。 まず、引数を次のように提供します。 神はこう言われます。

يُحِبُّهُمْ وَيُحِبُّونَهُۥٓ

「彼は彼らを愛し、彼らも彼を愛しています。」 (クルアーン、第5章、54節)

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَشَدُّ حُبًّا لِّلَّهِ

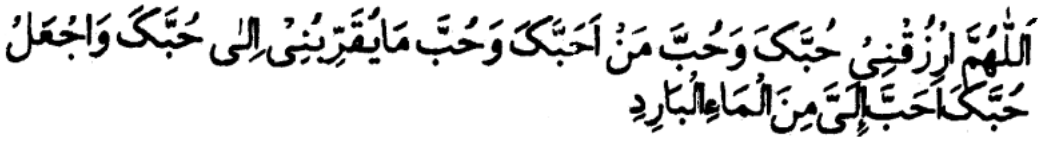
「そして、信者である人は、神への愛が強いのです。」 (クルアーン、第2章、165節)

これらの聖句は両方とも、愛の存在を証明するだけでなく、愛の激しさと不足の証拠も示しています。 多くの預言的伝統において、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、信仰の条件として神への愛を宣言しました(*イマーン*)。 ある伝承では、アブ・ザリーン・アキーリ(神が彼を喜ばれますように)は「おお神の使徒よ! 信仰とは何ですか?」彼はこう答えた。

أَنْ يَكُونَ اللَّهُ وَرَسُولُهُ أَحَبَّ إِلَيْهِ مِمَّا سِوَاهُمَا

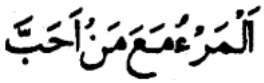
「それは、神とその使徒が、彼ら以外のすべての人と比較して、しもべにとってより愛されるようになるということです。」 (この伝統は、*ハディース集 ムスナド・アフメド*)

有名な預言者の伝承によると、預言者アブラハム(神の祝福と平安あれ)は、(死の時に)自分の魂を奪いに来たとき、死の天使に「友人を殺す友人を見たことがありますか?」と尋ねました。 神は彼に神の啓示を送りました、「おおアブラハム!最愛の人に会いたくない恋人を見たことがありますか?」 預言者アブラハム(神の祝福と平安あれ)は死の天使に「さあ、私の魂を連れ去りなさい!」と言いました。 しかし、この問題は、心から神を愛し、神を切望する神のしもべの心にしか現れません。 死が最愛の人との出会いの原因であることを知ったとき、彼らの心は彼に引き寄せられます。 彼らには、彼らが感じるような魅力や魅力を感じるような最愛の人が他にいません。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は嘆願の中でこう言いました。



「おお神様!あなたの愛とあなたを愛する人々の愛、そして私をあなたの愛に近づけるものへの愛を私に与え、あなたの愛を冷たい水の愛よりも私にとって愛してください。

砂漠の住人(通常は遊牧民または人里離れた砂漠の村の出身で、生活や生計において苦難に耐えることに慣れており、都市の人々が慣れ親しんでいるマナーに気づいていない素朴な人々)が預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のところに来て尋ねました。審判の日はいつ来るのか?」 預言者は彼に「審判の日に向けてどのような準備をしましたか?」と尋ねました。 彼は答えました、「私はあまり祈りを捧げたわけでも、断食もあまりしていませんが、私は神とその使徒を愛しています。」 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「あなたは愛する人と一緒にいるでしょう」。

アナス(神が彼を喜ばれますように)[これを語った]は、これを聞いた預言者の仲間たちが、その日ほど幸せなのを見たことはないと言いました[彼らは神とその使徒に対して計り知れない愛を持っており、神が彼らを受け入れることを条件として、永遠の命で永遠に彼らと一緒にいることを知っていたので、 彼らにとって計り知れない喜びの源でした]。 (この伝統は、 *ハディースは*、アナスの権威に基づいてサヒーブハーリ*とサヒ*ームスリム*を収集*します[神が彼を喜ばれますように])

アブ・バクル(神が彼を喜ばれますように)は、「神を愛する人々が得る喜びは、彼らが世界(世俗性)を求めることを妨げ、すべての人間に執着しなくなる」と言いました。 アブ・スレイマン・アル・ダラニ(神が彼に憐れみあれ)は、「神の被造物の中には、楽園とその祝福によって神から妨げられていない人々がいます。それに、どうして彼らを世界によって神から防ぐことができるでしょうか?」と言いました。 イエス様(神の祝福と平安あれ)は、体が弱く青ざめている3人の人のそばを通り過ぎました。 彼は彼らに尋ねました、「何があなたのこのような状態を引き起こしたのですか?」 彼らは「地獄の罰を恐れて!」と答えました。 彼は答えました、「神は必ずそれを恐れる者をそれか

ら守ってくださるでしょう!」 それから彼は道を進み、最初の三人よりも弱くて青白い人をさらに三人見かけ、「あなたのこのような状態の原因は何ですか?」と尋ねました。 彼らは「楽園への欲望と憧れがこれを引き起こしたのです!」と答えました。 彼は言った、「神は、あなたがとても切に望んでいるものを必ず与えてくださるでしょう!」 その後、彼はさらに道を進むと、以前に出会ったすべての人に比べてさらに弱く青ざめている3人を見ました。 彼は彼らに尋ねました、「何があなたのこのような状態を引き起こしたのですか?」 彼らは答えました、「私たちは神を愛しています![そしてその愛の中で、私たちは他のすべてに気づかなくなってしまいました。」 彼は言いました、「あなたがたは神の親しい人たちです! あなた方は神の親密な人たちです!」

ハーレム・イブン・ハイヤン(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「信者が自分の主を認識し、彼を愛し、彼を愛するとき、人は彼に集中し、注意を払います。そして、その集中と注意の甘さを見出すとき、人は欲望を持って世界を一瞥することさえせず、来世を一瞥することさえありません。 そのような人は、肉体とともに、そして来世の魂とともにこの世に生きています。」 ヤヒヤ・ビン・ムアド(神が彼に憐れみあれますように)は言いました、「神の赦し(*クフ*)はすべての罪を包含します。神が受け入れられる状態はどうなるでしょうか? 彼の受け入れ(*リダ*)はすべての希望を網羅していますが、彼の愛はどのような状態になるでしょうか? 彼の愛(*ハブ*)は人を知性と意識に気づかせませんが、彼の愛の愛情の状態はどうなるでしょうか? 彼の愛情深い愛情(*ムワッダ*)は、神以外のすべてを忘れさせますが、彼の慈悲深い優しさ(*ルトフ*)の状態はどうなるでしょうか?」 ヤヒヤ・ビン・ムアド(神が彼に憐れみあれ)は、「私の意見では、神の愛のほんの一部は、[神の]愛を欠いた70年間の崇拝よりも優れています」と言いました。 次に、愛の意味には複雑さがあるため、愛の現実について説明します。

愛の現実、その原因、そして神のしもべに対する愛の意味

このテーマは、愛の現実とは何か、その原因と条件は何か、神のしもべにとっての愛の意味は何かを説明するまでは、明確で理解しやすいものではありません。 まず、基本的な事項をいくつか説明します。

愛の現実:まず第一に、人間は知覚できるものしか愛できないので、深い理解と知覚があるまで愛は想像することさえできないということです、なぜなら、この性質は、知覚も理解も持たないため、無生物には見られず、代わりに、生きた知覚的存在である人の性質(固有の特性)です。 その後、知覚は知覚的存在(人または個人)の気質に好意的で適切であり、1つの喜びを与えるか、それに反対する(気質)して、快楽の観点からも害の観点からも知覚的存在に影響を与えないため、それに害を及ぼします。 このように、知覚には3つのタイプがあります:知覚的な存在の気質に合致し、それらを愛する人にとって楽しいもの。それらに苦しんだり、嫌悪したりする知覚的な存在に嫌われているもの。そして、喜びも苦痛も引き起こさず、愛されることも嫌悪されることもない認識。要約すると、人にとって楽しいものは、人にとって愛されるものです。 人にとって何かが愛されるという意味は、その気質がそれに傾くことであり、何かが嫌悪感を抱くという意味は、その気質がそれを嫌悪したり嫌うことである。 言い換えれば、愛とは、人が喜びや喜びを感じるものに対する[人間の]気質の傾向です。 この傾向がしっかりと激しくなると、それは激しい愛(*Ishq*)と呼ばれます。 同様に、嫌悪[または嫌悪または反発]は、気質が痛みを引き起こすものに嫌悪感を抱くことです。 この憎しみが激しくなると、それは反発になります。

感覚と愛の知覚: 第二に、愛が知覚と理解に従属するようになると、その分裂は知覚と感覚に対して行われるのと同じ方法で行われるということです。 それは、すべての感覚について、知覚されるものの中から特定のものの知覚があるからです(たとえば、目に存在する視覚は、物体の形や形を知覚します)。 あらゆる感覚は、いくつかの知覚(それに特有の、それに好意的なもの)から喜びと喜びを見出し、この喜びは気質をそれに傾けさせ、健康な気質のために、それらの知覚は愛されます。 たとえば、目の喜びと喜びは、美しいものや美しい顔など、目で知覚される知覚にあります。 耳の喜びと喜びは、メロディアスな歌やさわやかな音など、耳が知覚する知覚にあります。

鼻の喜びと喜びは、心地よい匂いなど、鼻を通して知覚される知覚にあります。 同様に、味覚の喜び(舌で知覚される)は食べ物にあり、触覚の喜びは柔らかく滑らかなものにあり、知覚されるこれらのものは感覚に喜びを与えるためであり、そのため、それらは愛されていると見なされ、健康的な気質はそれらに傾倒しています。 五感の喜びや喜びに関する限り、動物も人間とともに五感に参加しています。 したがって、人が愛を五感の知覚に限定し、神は五感で知覚されていないと言うなら、神を愛することは不可能です。 この場合、私たちが想定している(仮定している)人間の特異性(特殊性)は間違っており、人間が五感以外に持っている第六感は役に立たなくなり、その根拠に基づ

いて人間は動物よりも優れており、第六感は知性として解釈(類似または比較)できる。 [内なる]光、心、またはそのような他の言葉。 しかし、[神は五感で知覚されていないので、神を愛することは不可能である]と言うのは、内なる洞察[と照明]が外的な理解よりも強力で強力だからです。 目と比較して、心はより多くのものを知覚し、知性によって行われる意味の美しさの知覚は、目によって知覚される外側の形の美しさの[知覚]よりもはるかに大きいです。 したがって、神聖な神事についての心の知覚は、五感の知覚の輪(境界または限界)から排除された完全な喜びと喜びを提供し、健康な気質と正しい知性はそれらにさらに強く傾き、愛の意味そのものは、心がその知覚が楽しく楽しいものに傾くことです。 これの詳細は近日中にお知らせします。 この結果、動物のレベルにあり、[五つの外的]感覚の知覚を超えることができない神の愛を否定できるのは、その人だけです。

愛の理由: 第三に、人間は自分の低次の自己(*ナフス*)を愛し、時には自分の低次の自己のために他の[人や物]を愛するということです。 さて、疑問が生じます:ある人は、自分の低次の自己のために愛することなく、他人の存在(ダート)のために他人を愛することは可能でしょうか? [霊的に]弱い人に関する限り、彼らはこの質問に否定的に答えます。 彼らにとって、人間が他人の存在のためだけに他人を愛することは不可能であり、この愛は自分自身の存在とは何の関係もありません(つまり、見返りを望まずに他人を愛すること)。 問題の真実は、そのような愛は可能であり、存在しているということです。 そこで、ここでは恋愛の理由(原因)とその種類について解説します。

すべての生きている[人]にとって、最初に愛されるのは自分自身であり、自分自身であることを知っておく必要があります。 自己愛とは、自分の気質が自分自身の存在の永続性と、自分の非存在と死への嫌悪感に傾いていることを意味します。 本質的に、恋人にふさわしいものだけが愛されており、その永遠の存在よりも自己にとって有利なものは何でしょうか、そして自分自身の非存在と死よりも不利なものは何でしょうか? だからこそ、人間は生を愛し、死を憎むのです。 この憎しみの主な理由は、誰も自分の死に同意せず、死を悪いと考えているからです。 しかし、人生で途方もない苦難に直面し、苦しみに耐えるなら、死で苦しみが終わっても大丈夫かもしれませんが、それは死を愛らしいからではなく、自分の苦しみや苦難の終わりを望んでいるからです。 要約すると、人間は生来の性質上、死と非存在を嫌い、存在の永続性を愛します。 永遠の存在が愛されるのと同じように、不完全な者には完全性がなく、喪失さえも完璧さに比べれば存在しないようなものであるため、存在の完全性も愛されます。 非存在は、それが[内面の]性質であろうと存在であろうと、憎むに値します。 存在の永続性が愛さ

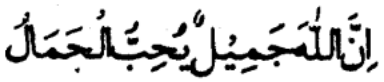
れるのと同じように、同様に、完璧さの質の存在も愛される。 これは、神が人間の内なる性質に与えた性質に固有のものです。 神の道は変わりません。

この結果、人間の最初の愛されるのは自分自身であり、次に自分の身体の臓器、富、子孫、家族、親戚の安全が愛されるということです。 臓器の安全性が愛されるのは、存在の完全性と永続性が器官に依存しているからであり、富が愛されるのは、存在の永続性の道具だからです。 他のすべてのことはそのように推測できます。 人は自分の子供を愛しますが、それから何の利益も得られず、苦難に耐えなければなりませんが、子供は死後も自分の代わりになり、自分の後代は去った後も続き、それは自分自身の存在の継続に等しく、その中に自分の永遠の存在を見出すからです。 自分の親戚や親戚も同様で、自分の自己が完璧であることから愛し、その自分が強いと考え、その完璧さが誇りの源となるからです。 富、人間関係、外的要因は、人間を完成させる人間の腕のようなものです。 したがって、存在の存在、完全性、永続性は人にとって愛されており、それとは反対のものはすべて嫌悪感を抱くものとして嫌われます。 これが **愛の最初の理由** です[それは自分自身の存在の完全性と永続性です]。

愛の第二の理由 は好意です。 人間は人への好意や善行を愛し、人に好意を寄せる人を愛することは、人の生来の性質に[神によって]入っています。 自分に与えられた恩恵のために誰かを愛する人は、恩人の存在を愛するのではなく、むしろその恩恵を愛します。 好意は恩人の行為であり、それがとどまらなければ、愛もとどまりませんが、あたかも愛の豊かさか不足かが好意の豊富か不足かに依存するかのように、恩人の存在はとどまります。

愛の第三の理由 は、その存在から得ようとしている利益や利益のためではなく、その存在そのものが利益であるために何かを愛することです。 これが本当の永遠の愛であり、この愛は永遠に続くと自信を持って言えますが、それはその存在から来ようとしている利益や利益のためではなく、その存在そのものが利益です。 これが本当の永遠の愛であり、この愛は永遠に続くと確信を持って言えます。 すべての健康的な気質は、美しい花、絵、美しい音を聞く鮮やかな色の鳥などから喜びを得ます。 多くの人がこれらのものを見るのを楽しんでいます。 それにもかかわらず、これらすべては楽しくて楽しいものであり、そのようなものはすべて愛されています。 すべての美しさの知覚は楽しいものです。 神が美しいことが証明されれば、神は神の威厳と美しさが明ら

かにされたすべての人に愛されるでしょう。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「神は美しく、美を愛する」。 (この伝統は、*アブドゥッラー・イブン・マスードの権威に基づくハディース集サヒー・ムスリム*[神が彼を喜ばれますように])

愛の第四の理由 は美しさです。 美しさも愛の重要な理由です。 しかし、美しさとは何でしょうか? それを説明することが重要です。 外見に目を光らせ、感情や知覚の囚人である人々は、美しさとは、人間がバランスの取れた臓器、良い顔の特徴、赤みがかった明るい顔色、そして良い身長を持っていることだと考えています。 一般的に、そのような人々は、目で見る特徴であるため、美しいと呼ばれます。 だからこそ、目で見ることができず、思考に包まれず、良い顔色や顔立ちを欠いており、美しくなく、似ていない、望ましいレベルにさえ達しないものは、たとえそれが間違った考えであるにもかかわらず、彼らはこの推測を持っています。 美しさは、目で見えるものや、身体組成のバランス、または淡い赤みがかった肌に依存しません。 私たちはこの文字が美しい、この音が美しい、この馬が良いと言いますが、むしろこの布が美しく、この道具が美しいと言うところまで行きます。 声、文章、その他すべてのものの美しさには何の意味があるのでしょうか? もし美が顔にしか存在しないのなら、目は美しい文章に喜びを見出し、耳は美しい歌に喜びを見出すことはよくわかっていますが、この世のすべての知覚は良いか悪いかのどちらかです。 これについて少し光を当てます。

すべての美しさは、それにふさわしい、または可能な完璧さがその中に蓄積されるという問題にあります。 もし、その可能な完璧さがすべて物事に蓄積されるなら、それは美しいと呼ぶに値し、ある完璧さがそこにあり、あるものが存在しないなら、そのものは、そのものが持つ完璧さの程度まで美しくなるでしょう。 一例として、すべての馬が美しいと言えるわけではなく、その馬だけが良い馬に必要なすべての特徴(外観、構成、色、速度、手綱への反応の美しさなど)を備えている美しいと言われます。 美しい文章とは、文字と言葉のバランス、流れ、配置、構成の美しさなど、文章に関連するすべての完成度が蓄積されたものです。 すべてのものには、それに特有の完全性があり、他の何かに特有のものではなく、むしろ、別のものにその完全性がないことは、他のものの美しさと呼ばれます。 このことから、すべての美しさは、それに特有の完璧さにあることがわかります。 だからこそ、馬が善と呼ばれる根拠となる完璧さは、人間

が善と呼ばれる根拠と同じではなく、文章が善と呼ばれる根拠となる特性は、馬を善と呼ぶのと同じではないのです。 すべての事柄は、この原則に基づいて推論することができる。

ここで、今述べたものは、目だけでなく、他の感覚に関連する声(耳を通して知覚される)や味覚などの他の感覚によっても知覚されていると言えます。 意味がありません。その答えは、美は感覚や感情の知覚だけに依存しているのではなく、感覚では感じられないものや知覚できないものにも美しさがあるということです。 例として、この性格特性が良い、この知識が良い、この資質が良い、これらのマナーが良いと言われています。 美しい性格特性とは、知識、謙虚さ、勇気、神への畏れ、優しさ、思慮深さ、思いやり、その他の良い性格特性、内面の気質、気質を指します。 これらはいずれも五感によって知覚されるのではなく、内なる洞察(バセラ)の光または照明によって知覚されます。 これらの美しい性格特性はすべて愛されており、それらを持っている人は、これらの性格特性に精通している人にも愛されています。 この証拠は、預言者や預言者の仲間[および高貴な性格特性を持つ他の義人]を、たとえ彼らを見たことさえなく、彼らがどのように見えたかさえ知らなかったとしても、彼らを愛することが人間の気質に組み込まれているということです。

一部の人々は、(過去の歴史から)宗教指導者を激しく愛し、彼らを守るためにすべての財産を費やし、彼らを批判する人々に反論するためにできる限りのことをします。 このことから、人は彼らの外見や外見のために彼らを愛したのではなく、むしろ彼らの内面(つまり、彼らの知識、理解、高貴な性格特性、神との親密さなど)を目撃することによって彼らを強く愛したことがわかります。 彼らの外見は[墓の]塵と混ざり合った後、塵になりましたが、信仰、神への畏れ、知識の広がり、宗教の微妙さに精通し、神の道の知識を広めるために奮闘するなどの内面の性格特性と資質のために、人は今でも彼らを愛し、彼らに献身しています。 これらすべての事柄は美しく、これらすべての資質は優れています。 感覚はそれらを知覚することができないため、彼らの美しさの知覚は内なる洞察の光によってのみ起こります。 これが、アブ・バクル・アル・シディク(神が彼を喜ばれますように)を愛する人々の状態です。 彼を愛する人は、彼の骨、肉、皮膚、臓器、形、外見を愛するのではなく、これらのものが絶滅したり[他の何か]に変容したりしたからではなく、アブ・バクル・アル・シディク(神が彼を喜ばれますように)神の親密さ、近接性、親密さ、そしてグノーシスの地位に達した[非物質的で非物質的な]ものが残っているのです(*マリファまたはシディキア*))、言い換えれば、彼の高貴

な性格特性と美しい内面の資質です。 彼への愛は、外見の形は絶滅しましたが、まさにこれらの資質によるものです。

これらすべての美しい内面の性格特性の起源と理由は、知識と能力(*クドラ*)であり、言い換えれば、これらの高貴な人々は、低次の自己からの欲望と欲望を制御した後、物事の現実の知識を獲得し、美しい内面の資質、気質、気質で自分自身を飾ることができるようになりました。 他のすべての内なる資質は、まさにこの知識と能力から発せられ、この2つは、いかなる外的な感覚によっても知覚されず、目に現れ、その結果として愛されていると見なされる外的な形、形、色を持っていません。 この結果、美しさは内面の性格や習慣の中に存在するということです。 知識と能力が美しい内面の性格の源泉でなかったら、このことが愛の理由にはならなかったでしょう。 このことから、本当の愛は、賞賛に値する性格特性と美しい資質と呼ばれる美しい内面の性格の表現であり、その源泉は知識と能力であることが証明されています。 この表現は、人間の本性に愛されていますが、[外側の]感覚では知覚されません。 だからこそ、人々はハティム・アル・タイの寛大さとハリド・ビン・ワリード(神が彼を喜ばれますように)の勇気の話を聞くと、ハティムの寛大さは目では認識されず、ハリドの勇気の質は目では見えず、この愛は彼らの外見を見て生まれるわけでも、期待される利益のために起こるわけでもありません彼らを愛する人々に届くことができるもの。 このことから、愛には必要ない、最愛の人が恋人に何らかの好意を寄せることは証明されており、むしろ最愛の人は、最愛の人の存在のために愛されています(愛する人のあり方のためであり、他の何のためでもありません)、たとえ最愛の人への好意が恋人に届かなかったとしても。 すべての美しさが愛されているので、最愛の存在は愛されています。 フォームには、外側と内側の2つのタイプがあります。 外見や外見は目で見られ、内面の姿は内なる洞察(*バセラ*)によって知覚されます。 内なる洞察を欠いている人は、それ(内なる美しさ)を知覚することも、そこから喜びや喜びを得たり、愛したり、それに傾倒したりすることもありません。 内なる洞察力が外的な感覚よりも強く、外的な意味よりも内なる意味を好み、それらを愛していると考える人。 二人の間には大きな違いがあり、一方は外見の美しさのために壁に描かれた絵を愛し、もう一方は内面の美しさのために預言者を愛しています。

愛の5番目の理由は、恋人と愛する人の間に存在する秘密の適合性(相性)です。 美しさやその他の利点のためではなく、魂の相性のために、2人の人間の間に強いつながりや関係が生まれることがあります。 私たちは、このことについて、愛情と兄弟愛の書(al-Ulfa *wa al-Akhuwwa*)[ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン」

*または「神への道の知識の復活」の第2巻または四分の一の第5巻の第5巻*で、この論文には含まれていません]に光を当てました。

この[愛の理由の完全な説明]の要約は、愛には5つの理由があるということです。 第一に、人間は自分の存在と永続性、そして完璧さを愛しているということです。 第二に、一人に好意を寄せ、その人の存在と永続を助け、一人の無知に抵抗する人を愛することです。 第三に、何の恩恵もしていないが、他の人が恩恵を受けている人を愛することです。 第四に、外見であれ、内面であれ、形であれ意味であれ、自分自身の存在において美しい人を愛することです。 5つ目は、秘密の相性のある人を愛することです。この5つの理由がすべて一人の人に蓄積されれば、その人の愛は完全であり、非常に高いレベルになります。 誰かの子供が美しく、礼儀正しく、知識が豊富で、賢く、人によく接し、人によく仕え、従順であれば、親はその子供に対して計り知れない愛を抱いており、これらの性格特性が完成する限り、この愛はより強く、より広くなります。 ここで、これらすべての[愛の]理由の完成と蓄積は、神の存在の中でのみ可能であり、実際には、神は愛に値する方であることを説明します。

神は愛に値する唯一の方です

もし人が神に傾いていないが、神以外のことに傾いているなら、それはその人が理解していないこと、そして神のグノーシスから遠く離れていることの証拠です。 実際には、内面の深い洞察を持つ人々にとって、神以外に愛に値する人は誰もおらず、他に誰も愛する者と呼ばれる資格はありません。 この主張には証拠がないわけではなく、愛の5つの理由すべての組み合わせは神の存在においてのみ可能であることを次のページで証明します。 神以外の誰もせいぜい1つか2つの[愛の]理由を持っているように、それは誰にも不可能ですが、それも寓意的な意味で、むしろ自分の[単なる]推測と思考の意味でです。 一方、神におけるこれら[5つの]理由の蓄積と組み合わせは、現実です。 この問題を詳細に説明するとき、神への愛は不可能であるという愚かで愚かな人々の考えは正しくないことが、洞察力のある人々に明らかになるでしょう。 むしろ、問題はそれに反しており、神以外の誰も愛されるべきではありません。 ここで、これらの[愛の5つの理由]のそれぞれを個別に調べてみます[誰かを愛するこれらの5つの理由はすべて、神にのみ当てはまり、それ以外には当てはまらないことを証明します]。

第一の理由: 説明されている第一の理由は、人間は自分自身を愛されていると考え、その永続性、永続的な存在、完璧さを望んでいるということです。 人は破壊、非存在、欠点、完璧さの障害を憎みます。 これらのものは、生きている人間の本来の性質の中に見られます。 自分自身(*ナフス*)を知り、自分の主を認識する人は、自分の存在はそれ自体ではなく、代わりに自分の存在、永続性、完全性の存在であり、すべてが神に依存し、神によるものであることをよく知っています。 神は人の存在の創造者であり、人の存在を維持する方であり、完璧の性質を創造し、それらを完成させる方であり、人を完璧に導く手段を創造する方であり、これらの手段を使用するように人を導く導きを創造する方であり、そうでなければ、しもべ(人間の)存在は何もありません - それは単なる非存在です。 神がその行動によって人を創造せず、創造した後、神が恵みを与えなければ、人は滅ぼされ、もし神がそれ(彼の恵み)を完成しなければ、人は欠乏したままになります。 この結果、世界にはそれ自体によって存在する存在は存在しないということです。 すべての存在は、この生きている、自立している(神)の存在によって存在し、その存在は彼自身の存在によって存在します。 神を知る者(*アリフ*またはグノーシス派)が自分自身の存在を愛するなら、人は、神を創造者、現在者、[すべての創造物と存在の]進化者、[すべての創造物と存在の]番人、そして彼自身の存在によって存在する者であると考える限り、自分自身の存在が依存し、恩恵を受け、存在を得ているその存在に対しても愛を持つでしょう。 そのような存在に対する愛がなければ、人は自分自身も主も知らないと言われるでしょう。 愛は[神]または神聖なグノーシス(マリファ)を知ることの果実(結果)です。 愛がないときはグノーシスがなく、このグノーシスが弱いほど愛は弱くなり、グノーシスが強いほど愛は強くなる。 個人が自分自身を愛しているのに、自分の主を愛していないというのはどうしてあり得るのでしょうか? 太陽の苦しみに耐える人も日陰を愛し、日陰を愛する人は、日陰が確立され存在する木々も愛します。 すべての現在の(既存の)ものと神の能力との関係は、木々との日陰のようなものです。 日陰の存在は木々によって行われ、光の存在は太陽によって行われます。 つまり、日陰は木々にその存在に従属し、光の存在は太陽に従属する。 同様に、存在するすべてのものの存在は、その唯一の存在に従属しています。 すべてのものは神の能力と創造性の模範です。

人間が自分自身を愛する必要があるなら、存在を受けた存在を愛することも必要であり、その場合、その人の現実、内面の性質、内面と外側の存在、内面の意味と物理的構成において、人は永続性を受け取りました[この人生の後に始まる永遠の命の形で]。 しかし、この愛は、上記のように説明されているように現実を知っている人だけが経験する

ことができます。 心が低次の自己の欲望に耽り、創造主や主に気づかず、神の愛を心に持たず、欲望と外見だけに目を光らせている人は、言い換えれば、区別のない目に見える世界(物質的な領域)の領域に囚われたままです。 むしろ、動物もそれに参加しています。 天使と似ている天使の領域(*'Alam al-Malakoot*)にいるのは、その人だけです。 動物の領域にいて、この領域で低いところに降りる人は、その程度まで天使の領域から距離を置くことになります。

第二の理由: 愛の第二の理由は、好意を寄せてくれる人を愛し、お金で助けてくれる人、あらゆる問題で助けてくれる人、常に助ける準備ができている人、敵から人を守ってくれる人、嫉妬する人の悪から人を守る人、自己、子孫、家族、親戚に関連するすべての目的を助けることです。 そのような人は、通常、最愛の人です。 この[愛の]理由は、神以外に誰も愛されてはならないことも要求します。 神の権利の理解が正しく発展すれば、好意を寄せるのは神だけであることが明らかになります。 神のしもべに対する神の恩恵に関する限り、それらは書面で網羅することはできません。これらの恩恵は、神ご自身が言われたように、数え切れないほどあります。

وَإِن تَعُدُّواْ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ لَا تُحۡصُوهَآ

「神の祝福を数え始めると、数え切れないほど数え切れないほどです。」 (クルアーン、第14章、34節)

あらゆる事柄において、神の恩恵は数え切れないほどです。 [神のしもべ、つまり人間]は、寓意的な意味での[他人に行う]好意の観点からのみ言及できます。 真の恩人は神だけである。 誰かがあなたに自分の宝物をすべて与え、あなたに使う完全な特権を与えたとします。 誰かがあなたに宝物を渡し、あなたに使う特権を与えることであなたに多大な恩恵を与えたと思い始めたら、それは間違った考えです。 まず、4つの問題を熟考し、そうすれば好意の現実が明らかになります。

1つ目は、宝物を与えてくれる人の存在です。 第二に、1つで富の存在。 第三に、それを完全にコントロールすることです。 第四に、富をあなたに引き渡すという心の中にある考えです。 ここで、私たちはあなたに尋ねます、「誰がその人を創造したのですか? 誰が富を与え、それに対する支配権と能力を与えたのでしょうか? 富を引き渡すためにあなたを選ぶ意図を心に持ったのは誰ですか? 誰があなたの愛を心に込めたのですか? この世と次の世での自分自身の向上と幸福は、あなたに好意を寄せることであると

いう考えをどのようにして得たのでしょうか? 人はあなたに富や財産を与えるという心の主張に従うしかなく、それに反対することはできませんが、その理由は何ですか?」あなたがそれを熟考すれば、これらすべての質問に対する答えが得られ、真の恩人は、人にあなたに恩恵を施すことを強制し、あなたのために[人の心を]征服し、人に恩恵を施す要因を押し付けた神だけであることがはっきりと明らかになるでしょう。 好意を施す人の手は、神の恵みを神のしもべに届けるための手段にすぎません。 その点では、水を流さざるを得ない水路のように、人は強制されます。 仲介者を恩人と見なし、その人に感謝の気持ちを持ち始めたら、それはあなたが現実に馴染みがないことを示しています。

人間が[他人に]好意を施すときはいつでも、それは自分自身に行うものであり、[神の]創造物に対してそれを行うことは不可能です。 人は好意の形をとっていますが、世界が自分のために征服されたり、従属してその人をたくさん褒めたりするなど、世界にあっても、その寛大さの話が広く広まり、人々は服従と愛の花を浴びせ始めます。 あるいは、来世で神から可能な限り最大の報酬(神の報い)を得る。 誰も理由もなく自分の富を川に投じないのと同じように、同様に、何の[下心]動機(目的)もなく自分の富を他の手に渡すことはありません。 その動機が目的です。 誰かがあなたに富を与えた場合、あなたはその人の目的ではなく、むしろ、この目的がこの世での言及、評判、名声、名誉、偉大さ、または来世での名誉、偉大さ、神の報いであろうと、あなたは自分の目的を達成するための手段にすぎません。 この人は、あなたに富を渡すことによって目的を達成しました。 だからこそ、人はあなたの恩人ではなく、自分自身の恩人(*ナフス*)なのです。 人は富の見返りに、それよりも優れていると思う何かを手に入れたいと思っています。 もしそれがもっと良くなかったら、人は自分の富をあなたに費やさなかったでしょう。 考えてみれば、人は感謝や愛に値しませんが、それには 2 つの理由があります。 その理由の一つは、神から恩恵を受けるよう促した要因を押し付けた後、その富[または財産または物質的な所有物]を与えることを余儀なくされ、それに反対することができなかったからです。 このたとえ話は、王の会計係が王の会計係であり、王は王の報酬を与えるように命じられています。 その報酬を受け取った人は、その王の戒めを受けた後、会計係はそれに従うことを余儀なくされ、それに反対することができなかったため、会計係を自分の恩人と見なすことはできません。 もし王が会計係の意志で報酬の問題を延期したとしたら、会計係はそれを与えなかったでしょう。 同様に、もし神が恩人を自分の意志に任せるなら、偽造硬貨を使うことには同意しないでしょうが、まず自分の富を捧げる理由と動機を心に植え付け、次に富を捧げることのこの世とあの世の利益を心に生み出しました。 この与えにかかっており、それがそれを与える理由です。 第二の理由は、富を与え、その見返りとして、自分の意見では富よりも

優れているものを受け取ることです。 この場合の例は、トレーダーやビジネスパーソンであり、富を与える対価を受け取っているため、トレーダーは恩人になることはできません。 [金銭的または物質的な報酬を受ける代わりに]賞賛または神の報酬のいずれかを補償として受け入れるのは別の問題です。 報酬には、それが感じられる[または見られる]必要はなく、むしろ、喜びと利益が[報酬として]富に取って代わり、時には富に対する最良の報酬になることができます。

実際には、好意とは、何の報いも受けないものであり、言い換えれば、与える人は、与える人がそれに何の喜びも得たり、それから何の利益も得たりしないような方法で与えるものであり、このような好意が人間に生まれることは不可能です。 神だけがこの種の恩恵と、神が被造物に対して行った[無数の]恩恵の源であり付与者であり、それらには神への秘密の利益はなく、すべての恩恵は被造物によって達成されます。 この詳細から、神以外の人に好意という言葉を使用することは嘘か、単なる寓話的な言及であることは明らかです。 闇と光が組み合わさることが不可能なのと同じように、神以外の中での好意の存在は不可能です。 神は、他のすべての属性と同様に、神のこの神聖な属性(性質)において唯一であり、唯一です。 このことから、神を知る者(アリフまたはグノーシス主義者)は、本当の恩恵を施すことさえできない見かけ上の恩人ではなく、神を愛すべきであることを学びます。 真の恩人は神だけであり、神だけがこの愛に値する唯一の方です。 神以外の恩人と考えている人が、そのような恩恵を愛するなら、それはその人の無知であり、恩恵の意味と趣旨に精通していない証拠です。

第三の理由: 人間は恩人を愛しているのですが、その恩恵はある人ではなく他の誰かにあったとしても。 これらは人間の気質に見られます。 たとえば、正義を実践し、(責任のある人々の問題を)よく知っており、親切で寛大に人々に接し、謙虚に接するリーダーについて聞かされた場合、そのリーダーはあなたから何千マイルも離れたところにいても、あなたは心の中でこのリーダーを愛し始めます。 一方、抑圧で知られ、傲慢で邪悪で、トラブルメーカーで、自分から最も遠い国の指導者である指導者について聞くと、あなたはあなたから遠く離れているにもかかわらず、その指導者を憎みます。 あなたの心はこの二人のリーダーに対して異なる感情を持っており、この違いは非常に顕著です。あなたは一方に対して極端な傾向を持ち、もう一方に対して極度の憎しみを持っています。 この愛と憎しみの状態は、一方の指導者の寛大さを奪われ、もう一方の指導者の抑圧から安全であり、その公正な指導者または不当な指導者が支配する場所に行く可能性が明らかにないときです。 しかし、あなたが正義の指導者を愛するのは、単にこの指導者が恩人であるという理由によるものであり、あなたが何らかの恩恵を受

けたからではありません。 この理由はまた、あなたが神を愛すること、むしろ神以外の誰とも愛さないことを必要とします。 それは、すべての被造物に恩恵を施し、恵みと寛大さから神の寛大さを与える者は、神だけであり、他に誰もいないからです。 まず、神は彼らに存在の豊かさを与え、次に彼らに器官を与え、彼らに必要な手段を与えることによって神の恩恵を完成させました。 さらに、イエスは彼らに、必要の輪(球)には入らないが、その中に必要性の痕跡がある安らぎと安らぎの手段を与え、その後、必要としてカウントされないより多くの恩恵を与えました。 人体に必要なものの例は心臓、肝臓、頭、必要な臓器は目、足、手であり、美化のための余分なものには、アーチ型の眉毛、唇、頬、アーモンド型の目などがあります。 これらは、存在しなくても、(人間の外見の)美化にのみ関係しているため、人間のニーズや必需品には影響しません。 非肉体的なものの中で、必要なものの例は水と食べ物であり、必要なものには薬、肉、果物、余分なものには木の緑と美しさ、花と花芽の美しさ、食べ物と果物の味が含まれます。 これらは[余分な]ものであり、存在しなければ、いかなるニーズや必需品も満たしません。 必要で必要なこの3種類の[神の]祝福と、余分な[美化]のものは、すべての生き物に存在します。 むしろ、それらは地球上の粒子から神の玉座の高みに至るまで、すべての創造物に存在します。 だからこそ、恩人は神だけであり、神以外には恩人にはなれないのです。 人間が恩人であるならば、その恩恵は神の創造物の良いものの中から良いものです。 彼は美の創造主であり、恩人の創造主であり、恩恵の手段の創造主です。 この点で、神以外の愛は単なる無知であり愚かさです。 これを知っている人は、神以外の誰も愛しません。

第四の理由:人は、その物が美しいという理由だけで、そのものが美しいという理由だけで、その本来の美しさ以外に[愛の]目的はないということです。 前述したように、それは生来の人間の本性に固有のものです。 美は2つのタイプに分類され、第一は目で知覚される美しさ、第二は必然的に内なる洞察の照明を必要とする美しさです。 第一の美は子供でも知覚され、むしろ動物や鳥でも知覚されるが、第二の美は「心の人」と呼ばれがちな人だけが知覚する。 他の人々は、世俗的な生活の外側だけを見て、目に見えるもの以外は何も見ない彼らとこの称号を共有していません。 美しさは、それを知るすべての人に愛されています。 心から美を認識する人は、美を心から愛されていると考えています。 この例は、預言者や真の学者(聖人やグノーシス主義者)の高い(崇高な)性格特性と美しい資質に対する愛です。 彼らの愛は心の中にありますが、彼らの顔や外見は目から隠されています。 これは、感覚では知覚されない内面の形の美しさが意味するものですが、人はその高い性格を示す兆候を知覚します。 心がそれを確信するとき、心は彼らに傾き、彼らを愛します。 したがって、作家の文章、詩人の詩、芸術家の絵、建築家の建設を見ると、その作家、詩人、芸術家、建築家の内面の資質が、

これらの作品を生み出した人物に明らかになります。 彼らの作品の核心は、彼らの知識と能力です。 そうすれば、彼らについて知られていることの偉大さ、美しさ、優位性の範囲で、その範囲まで彼らの知識は優れており、完全になります。 能力者の状態はこんな感じです。 能力を持った存在の高い名誉と地位の程度で、その程度まで能力は優れており、完成するでしょう。 なぜなら、既知のものの中で、最高かつ最も偉大なものは神の存在だからです。 だからこそ、最高の存在(神)に関連する知識は、神のグノーシス(マーリファ)の知識であるすべての知識の中で最も高く、最も偉大なものとなるのです。 次に、ランクごとに、それらのものは、神のグノーシスに特有の、またはそれに近い名誉と優位性を持っています。 物事が神のグノーシスと密接に結びついている限り、その物事は偉大さ、名誉、区別を持つでしょう。

グノーシス主義者の美しい性格特性、内面の資質、気質、気質は、3つのもので構成されています。 第一に、これらの人々は神、天使、啓示された[神の]書物、そして神の律法についての知識を持っています。 第二に、彼らは自分自身と他の神のしもべの自己を改革し、浄化し、彼らを霊的に改革し導く能力を持っています。 第三に、彼らは人間を善と義の道から思いとどまらせ、悪の道を歩むことを強制する悪、内なる欠点、欲望から浄化されています。 これら[3]つの問題により、人々は預言者、その後継者、[神の道の]学者、そして公正で寛大な指導者を愛します。

知識、能力、純粋さ: それでは、これら3つの問題を神の属性(資質)に関連して見てみましょう。 知識の状態は、以前に来て、現在ここにいて、そして将来来るすべての人々の[人類によって集合的に知られている]すべての知識が、神の知識とは比較にならないようなものです。 神の知識は存在するすべてのものを網羅しており、神のすべてを網羅する知識の外には何もありません。 神はこう言われます。

لَا يَعْزُبُ عَنْهُ مِثْقَالُ ذَرَّةٍ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَلَا فِي ٱلْأَرْضِ

「天と地から、彼[と彼の知識]から一粒も欠けていません。」 (クルアーン、第34章、3節)

ある節では、創造物全体が取り上げられています。

وَمَآ أُوتِيتُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ إِلَّا قَلِيلًا

「そして、あなたには知識が与えられていますが、それはごくわずかです。」 (クルアーン、17章、85節)

むしろ、たとえ天と地のすべての住人が団結して、アリや蚊がどのように創造されたかについての神の知識を包含したとしても、彼らは神の知識のほんの一部にも到達できず、神が彼らに達成することを望んでいる知識の量しか得られないでしょう。 被造物が持つ小さな知識は、神の教育によるものです。 クルアーンはこう言います。

خَلَقَ ٱلْإِنسَـٰنَ ﴿٣﴾

عَلَّمَهُ ٱلْبَيَانَ ﴿٤﴾

「彼は人間を創造し、話すこと(雄弁さ、自分自身を説明する能力、複雑で微妙な事柄の表現、他人の話し方や表現から学ぶこと)を教えました。」 (クルアーン、第55章、3-4節)

この結論から言うと、知識の美しさと区別が愛されている場合、またはそれ自体でそれを飾っている人にとっての装飾と完璧である場合、その点で、人間は神のみを愛すべきであるということです。 学者の知識は、神の知識と比較して、単なる無知にすぎません。 神の知識には限界がないのに対し、被造物の知識には限界があり、終着点があるため、神の知識はすべての被造物の知識を合わせたものよりも想像を絶する優位性を持っています。

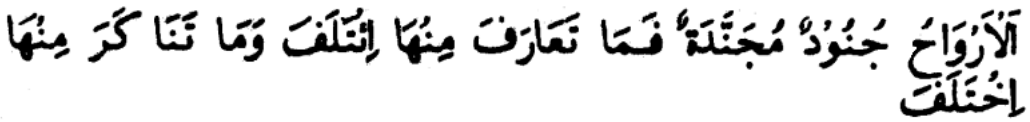
能力(クドラ、または何かを成し遂げたり、それを実現したりするための力、強さ、手段、ノウハウを持っていること)も完璧さの属性であり、それに比べて無能は欠点または欠点です。 すべての完璧さ、偉大さ、区別、優越性は愛され、人はその認識に喜びを見出します。 だからこそ、同時代のアリ(神が彼に喜ばれますように)とハリド(神が彼に喜ばれますように)の勇気と卓越性について聞くと、幸福の感情が人の心を揺さぶります。 彼らの勇敢な冒険について聞くだけでとても幸せになりますが、もし彼らの冒険を自分の目で[直接]目撃していたら、彼らの幸せはどんなものだったでしょうか? さて、神のしもべの能力と勇気を神の能力と勇気と比較してください。 被造物の中で最も強力で、最も広い支配権と権力を持ち、すべての人の中で最も低い自己からすべて

の悪を根絶する能力を持ち、自分と他人の自己に関連する事柄(魂に関連する隠された事柄)に対する最も深い洞察を持ち、それらを制御する完全な能力を持っている人を選び出す。 この人を取り上げてみると、そのような人は、途方もない力、力、広範囲の支配力、能力を持っているにもかかわらず、自分の死、生、死後の復活、利益、損失を制御できず、そのような人は視力、耳の喪失を防ぐことさえできないほど、 舌の発話、そして体の病気。 自分の能力にかかわる事柄において、人間が自分や他人のために何もできない事柄は無数にあります。 そして自分の能力に関係のない事柄は、ハエの翼ほどの大きさのことはできない。 それでは、人が自分自身にも他人にも持つ能力は、自分自身が行うものでもなく、自分自身によって存在するものでもなく、代わりに、神が人を創造したように、同様に、神は人の能力とその手段を創造し、人に自分の能力に関連することをできるようにしました。 能力、政治、支配、統治、権力の完成のために、神のしもべの中から誰かを愛し、神を愛さないことは不可能ですが、その力と力は、すべてのものの中で最も支配的で偉大な神にのみ適しています。 彼は圧倒的であり、すべてを支配し、すべての知識を包括し、すべての能力の所有者です。 天は神の右手に包まれており、地の上や下にあるものはすべて神の支配下にあり、すべての被造物の手綱は神の手にあります。 もし神が地上に存在するすべての創造物を破壊するなら、神の支配から一銭も微粒子も減らないでしょう。 神のしもべの中で、能力や力を持っている人は誰でも、それはすべて神の最高の能力と力のしるしから来ています。 彼には、美しさ、威厳、偉大さ、支配、至高性、優越性が属しています。 だからこそ、その人の能力のために誰かを愛されていると見なすことが可能であるならば、この愛に値するのは、すべての能力の持ち主である神、高貴な方だけなのです。

すべての傷、欠点、悪から低次の自己(ナフ)*を洗練し、浄化*することは、人に[その所有者]を愛することを強制する属性(品質)です。 これも美しさであり、内面の形に関係しています。 すべての預言者とグノーシス主義者は過ち、罪、悪を超越していましたが、浄化の神聖さと完全性は、純粋で威厳、壮大さ、名誉の持ち主である唯一の存在にのみ可能です。 他のすべての被造物にはいくつかの欠点があり、むしろほとんどの被造物は欠点や欠点を具現化しているように見え、むしろ、それらが被造物であり、[多くのこと]が不可能であり、[神の力によって]征服され、困窮しているという事実そのものが、それ自体が欠点であり欠点です。 したがって、完璧さは神にのみ与えられています。 神以外の誰かが完全性を持っているとしたら、それは神の賜物でもあります。 完璧の頂点を持つ最低の程度は、[神の]しもべがもはや[神の力によって]征服されず、もはや自分の存在のために[神に]依存せず、神以外に誰もこの属性を持っていないことであるため、完全の頂点に到達することは人間の範囲内にありません。 むしろ、神以外の[誰も]この属性を達成することは不可能です。 彼はこの区別を完璧に持ち主とし、す

べての欠点のない方であり、すべての悪から清められる方です。 神聖さとすべての欠点からの浄化も美しさと完全さと見なされ、この属性が愛の原因であると考えられているなら、実際にはこの属性は神だけに排他的なものです。 神以外の[誰か]がこの属性の分け前を受け取った場合、それは他の[被造物]と比較してのみ完全性と呼ばれます。

第五の理由: 愛の第五の理由は、他の人に似た何か(または誰か)がそれに傾倒しているため、互換性と類似性です。 したがって、子供は子供に傾き、大人は大人に傾き、すべての動物は自分の種類に傾き、別の種類から逃げていることがわかります。 知識のある人は皆、知識において同様の背景を持つ人に傾倒し、大工は農民ではなく別の大工に傾倒します。 これは、証拠の確立を必要としないそのような現実ですが、経験と観察がその明確な証拠です。 相性が愛の重要な原因であることを示しています。 しかし、相性は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったように、お互いに会ったこともお互いの富に貪欲でもないにもかかわらず、偶然ある問題で団結するなど、外見的なものもあれば、必ずしも気づいていない隠れた事柄にあることもあります。



「魂は連合した軍隊(グループ)です。 彼らのうち[この世に来る前の魂の領域で]お互いを知っている人たちは、集まり[この世でも仲良くしています]。 [魂の領域にいた以前は]見知らぬ人だった人々は、互いに分離されたままです[そして、霊的平原では相性がないため、この世で物質的な領域で結合したり、出会ったり、集まったりしません]」。

この伝統では、「馴染みのある」は「互換性」を意味し、「見知らぬ人」は「互換性がない」を指します。 それにもかかわらず、相性は[神のしもべ、つまり人間]と神の間の愛の重要な理由でもあります。 この相性は外見的なものではなく、顔と外見が同じで、代わりに内面的な相性があります。 この相性は、本に書ける事柄にもあれば、書いて本に記録することが不可能な事柄にもあって、神の嫉妬(ガイラ)のベールの後ろに隠されたままである[神の秘密を守るために、彼ら自身の低い霊的野心のためにそれらにふさわしくない人々から、 スピリチュアルな道の失敗、そして神聖な臨在への高いスピリチュアルな道を前進するという正しい意図と高い決意を持っていないこと]、そしてそれらの隠蔽は正しいので、グノーシスの道を歩む旅行者が目的地に到着したとき、これらの秘密は彼ら自身によって[神の恵みによって]明らかにされます。 神と人間の間に互換性があり、本に書くことができる事柄は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あ

れ)の預言的伝承に述べられているように、しもべが神に近づいているという内面的な性格特性と属性を指します。

تَخَلَّقُوا بِأَخْلَاقِ اللَّهِ

「神の性格で身を飾りなさい(つまり、真に敬虔になりなさい)」。

言い換えれば、正義、知識、他人に親切であり、彼らに思いやりを持つこと、寛大さ、優しさ、良いアドバイス、他の人に導きの道を示すこと、悪から彼らを止めること、これらすべてが神の律法の命令である、そのような美しい性格特性、内面の気質、気質が採用されるべきです。 人はそれらを達成することによって神に近づきます。 この近さは場所や体の近さではなく、むしろこの近さは神が飾られている内なる性質と属性のものです。 本に書くことを許されていない事柄は、次の聖句で神によってほのめかされています。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلرُّوحِ ۖ قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ أَمْرِ رَبِّى

「彼らは魂についてあなたに尋ねます。 魂はわたしの主の命令によるものだと彼らに告げなさい。」 (クルアーン、17章、85節)

この聖句では、魂は神の問題であり、人間の知性を超えていると言われています。 (この聖句とその他の関連事項の見事な説明については、この本の第1章「魂の奥義の説明」を参照してください)。 魂のせいで、天使たちはクルアーンに述べられているようにアダム(神の祝福と平安あれ)にひれ伏すように命じられました。

إِنَّا جَعَلْنَٰكَ خَلِيفَةً فِى ٱلْأَرْضِ

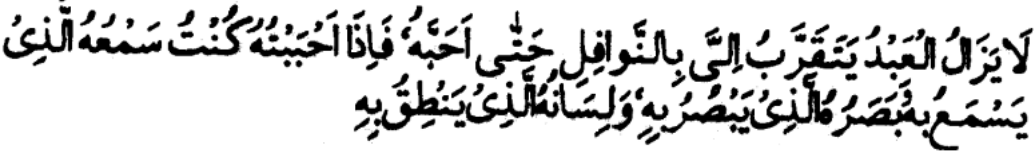
「われは、あなた(人間)を地上における神の代理にした。」 (クルアーン、38章、26節)

したがって、人間はこの互換性のために神の副官に値するようになりました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、この問題について次のように述べています。

إِنَّ اللَّهَ خَلَقَ آدَمَ عَلَى صُورَتِهِ

「神はアダム[そしてひいてはすべての人間を創造しました。アダム(神の祝福と平安あれ)は全人類の父です]ご自身の姿で創造されました。」

この伝統に基づいて、知性の低い一部の人々は、形(またはイメージ)は感覚によって知覚される外側の形のみを指すと考えてきました。 彼らのこの推測により、彼らは神の体と器官を[誤って]想像し、神を[感覚によって知覚される]他のものと比較しました。 神がこの知性の欠如から私たちを避難所で守り、彼らを導いてくださりますように。 この[人間と神の間]の互換性は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のこの伝統でほのめかされています。 神は預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)に「私は病気でしたが、あなたは私を訪ねませんでした!」と言われました。 モーセは答えました、「どうして私はあなたを訪ねることができたでしょうか[そもそもどうしてあなたは病気だったのでしょうか]」。 神は言われた、「わたしのしもべが病気だったのに、あなたは彼を訪ねなかった。 もしあなたが彼を訪ねていたら、あなたは彼の近くにわたしを見つけたでしょう。」 しかし、この互換性は、人間が[最初に][神の]崇拝の義務的な行為を行い、その後[神に近づく正義の行いと道に優れていることによって]超(任意)の崇拝行為を行うときに現れます。 *ハディース・クドシ*(その源を神に帰したとされる預言的な語り)の中で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は次のように述べています。


لَا يَزَالُ الْعَبْدُ يَتَقَرَّبُ إِلَيَّ بِالنَّوَافِلِ حَتَّى أُحِبَّهُ فَإِذَا أَحْبَبْتُهُ كُنْتُ سَمْعَهُ الَّذِي
يَسْمَعُ بِهِ وَبَصَرَهُ الَّذِي يُبْصِرُ بِهِ وَلِسَانَهُ الَّذِي يَنْطِقُ بِهِ

「私のしもべは、私が愛するまで、超(任意、追加、神の義務の観点から要求される以上の)行為によって[崇拝、献身、奉仕]によって私に近づきます。 私が人を愛し始めると、私は人が聞く耳になり、人が見る目になり、人が話す舌になります(つまり、神の助け、救い、近さは、最大限の誠実さとひたむきさで神の道を歩み、努力した結果、人生のあらゆる側面に含まれます)」。 (この伝統は、 *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づくサヒー・ブハーリ [神が彼を喜ばれますように])*

この説明をまとめると、その理由の中でも相性が最も重要な恋愛の理由であるということです。 これは正当で強力な理由ですが、その存在はほとんどありません。 熟考してみると、これら 5 つの理由 [誰かを愛したり愛したりする] すべてが、実際には神のみに組み合わされており、寓意的で比喩的な意味や暗示によって組み合わされていることがわかります。 なぜなら、内なる洞察力を持つ人々の目には、合理的で受け入れられる愛だけが神のみのものであるのに対し、近視眼的な人々の目には、本当の愛は神以外

の愛であるため、これらすべての理由は神において非常に高いレベルで組み合わされています。

また、あなたは特定の理由で誰かを愛し、別の人が同じ理由でその愛の共有者であり、したがって、あなたも他の人を愛しているので、創造物の愛を分かち合うことができることも考慮する価値があります。 愛の共有は一種の欠点であり、最愛の人が完璧さから脱線している証拠です。 また、あなたの最愛の人は何らかの品質においてユニークであり、どうやら他の誰も最愛の人に存在するその品質を共有していない可能性もあります。 そのような人がそこにいる場合、(その性質の)共同共有者が存在し、あなたがそれに気づいていないか、将来別の人にそのような性質が存在する可能性はあります。 しかし、神のすべての属性と資質は最高のレベルとランクにあり、神の威厳と美しさのこれらの属性を共同で共有する人は誰もいません - そのような人は今存在しませんし、そのような人が将来存在する可能性もありません。 このことから、神の愛を分かち合うことはあり得ないことを学び、だからこそ、神の崇高な属性を分かち合うことができないのと同じように、神には何の欠点もありません。 したがって、神は真の愛と愛の完全さに値する唯一の方であり、この[神の]権利は、誰もそれを共有できないようなものです。

神聖なグノーシスと神聖なビジョンの喜び

このタイトルの下で、最高レベルの喜びは神聖なグノーシスと神聖な顔のビジョンであり、この喜びを他のどの喜びよりも好むことは不可能であることを説明します。 この[神聖なグノーシスと神聖なビジョンの喜びよりも世俗的な快楽を好む]この好みは、この[至高の]喜びを奪われた人によってのみ与えられます。

人間の気質とその快楽: すべての快楽は、人間に蓄積されている知覚や多くの力や気質に従属していることを知っておく必要があります。 すべての力と気質には、別々の喜びがあります。 この喜びの意味は、すべての気質や気質が、それが創造された目的を達成するということです。 人間の気質は理由もなく作られたのではなく、むしろ、すべての気質はその目的である事柄のために形成されています。 たとえば、怒りの気質

は、満足と復讐のために作られてきました。間違いなく、その喜びは支配を見つけることや強制的な復讐です。 この復讐と満足がその目的です。 食べたいという欲求の気質は、食べ物を獲得し、それによって[肉体的な]存在の継続を見つけるために創造されました。間違いなく、その喜びはその目的である食べ物にあります。 聞く、見る、嗅ぐ気質の状態も同様です。 すべての気質は、その目的を達成することに喜びを見出します。 その目的を達成することに喜びを見出さない気質は一つもありません。 同様に、心には神の照明と呼ばれる気質があります。 この気質は、内なる洞察、信仰の光、確信とも呼ばれます。 ただし、用語は異なる場合がありますが、意味は重要です。 それにもかかわらず、心臓は、意味(物事の現実性)を知覚するその属性により、他のすべての身体器官とは別の地位を持っています。 これらの意味は想像力に富んでおらず、感じることもできません。 たとえば、宇宙の創造と、神聖な属性で飾られた永遠で賢明な創造主への宇宙の必要性です。 この気質は、一般的に人々は知性をこれらの意味で使用するため、討論や議論に関連する方法で使用される力や能力の観点から知性を考えてはならないという条件で知性とも呼ばれます。 実際には、知性は人間を動物と区別する資質であり、その手段によって、人は神聖なグノーシスを知覚します。 優れた品質であることは明らかです。

心の気質: この気質は、すべての事柄の現実をその手段によって認識できるように作られました。 この気質の目的は、知識(*イルム*)と神聖なグノーシス(*マリファ*)であり、その喜びは、他の気質の喜びが目的であるものにあるのと同じように、その喜びにあります。 知識の喜びと神聖なグノーシスに関する限り、誰もそれに反論することはできません。 取るに足らないことについて理解や知識を得た場合、人はそれに満足し、たとえそれが取るに足らないものであっても、ある事柄に馴染みのない人は悲しみのままになることがあります。 人々は取るに足らないものを理解することに誇りを示し、彼らの舌は彼らが知っているすべてを表現します。 それは、彼らがその知識に大きな喜びを得て、それを自分の存在の完成と見なすからです。 知識は、神の主権(*ルブビヤ*)の属性の中で最大の属性であり、完璧の頂点です。 したがって、人が知識によって賞賛されるとき、人はそれを非常に喜ぶ、なぜなら、このようにして、人は自分の存在の完成と知識の完成について聞くことができ、それを誇りに思い、そこに喜びを見出すからです。

国家運営(国の行政)や政治戦略の知識で得られる喜びの量は、農業や植栽の知識ではそれほどの喜びは得られません。 同様に、神の存在と属性、天使、天と地の秘密の知識から得られる喜びの量は、文法や詩の知識から同じレベルの喜びが得られるわけではあ

りません。 この点に関する問題の事実は、知識の喜びは、その名誉と卓越性に見合ったものです。 知識の名誉は、その主題の名誉から認められます。 知識と理解において、最も優れた理解または知識は、最も多くの喜びを与えるものであり、その名誉は[その知識と理解の]主題の名誉に依存します。 私たちは、すべての創造主である神ほど名誉があり、優れており、崇高で、威厳のある神をこの世で知りません。 支配、美しさ、完璧さ、威厳のあらゆる高みをすべて網羅する神の法廷以外に、法廷が存在する可能性はあるでしょうか? 神の威厳の原因を想像することも、国家の驚異を網羅することも不可能です。 賛美する人の舌は沈黙し、ペンは疲れているように見えます(神の驚異について書くことができません)。 もしあなたがこの真理に疑問を抱いているなら、神の主権の秘密と、すべての存在を包含する神の事柄の組織についての知識が、すべての理解の中で最も優れており、最も楽しく、最も純粋であるという問題に疑いを持つべきではありません。 この知識を獲得すれば、その人は自分の存在を卓越性と完璧さに恵まれていると考え、それを喜び、誇りに思う正当な権利を持っています。 したがって、このことから、知識は楽しいものであり、すべての知識の中で最も楽しいのは、神の存在、属性、行動、そして地球と神の玉座の間に広がる計り知れない支配の知恵と管理についての知識であることがわかっています。 グノーシスの快楽(その知識のごく一部しか持たない)は、すべての快楽の中で最も偉大であり、欲望、怒り、その他の感覚の他のすべての快楽と比較して、最も効果的で、確固たる、永続的な快楽です。

現実には、世俗的な存在で神を認識しない人は、来世で神を見ることができません。 世俗的な生活において神のグノーシスに喜びを得ない人は、来世で神のビジョンの[喜び]を享受することはできません。 それは、もし人が世俗的な生活から何かを自分自身で取り除くことができなければ、(霊的な努力、努力、そしてその結果としての神聖なグノーシスの達成に関して)、そこには何も新しいものは存在しないからです。 蒔くまで、どうやって収穫を刈り取るのか。 すべての人は、自分が死んだのと同じ[霊的]状態[またはその欠如]で[審判の日に]復活し、その人生を生きてきた状態で死ぬでしょう。 したがって、人が神聖なグノーシスに頼る(提供)を持っている限り、人は喜びを見出すでしょう、そして同じグノーシスは、喜びを多倍に増やす神聖なビジョンで最高潮に達するでしょう。 それは、愛する人を見ると何倍にもなる恋人の喜びのようなものです。 まず、人は思考に没頭し、そこに喜びを見出していましたが、突然、最愛の人の顔が目の前に現れ、今見つける喜びは何倍にもなります。 楽園の状態は、そこに入る人は誰でも、自分が望むすべての祝福を得るでしょうが、神との出会いだけを望む人は、他のことに喜びを見出すことはできません。 要約すると、自分の心が神の愛で照らされ、愛が神聖なグノーシスに見合った範囲で、人は楽園の祝福を得るでしょう。 それは、永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の本当の[原因]は神のグノーシスであることを意

味します。 神の法はそれを信仰(*イマーン*)と解釈しています[しかし、信仰は実際にはグノーシスを指します]。

神の愛を完成させる手段: 来世で最も幸せで最も繁栄している人は、神への愛において最も確固たる人です。 それは、来世の意味が神のもとに来て、神と出会う栄誉を持つことだからです。 恋人が出会いを長年望んだ後、最愛の人のところに来て、障害もなく、喜びを台無しにするものもなく、敵も、羨望も、敵も、敵も、このビジョンが断ち切られる恐れもないような状態で、[最愛の人の]ビジョンの幸福を永遠に達成することは、これ以上の祝福でしょうか。 しかし、この祝福は愛の力(強さ)に比例します。 愛の程度は快楽の程度になります。 [神のしもべ、つまり人間]は、信仰のある人には愛が欠けていないので、神の理解のある程度がすべての信者の心の中にあるため、世俗的な生活において神の愛の恩恵を受けます。 しかし、「激しい愛」(*イシュク*)と呼ばれるものは、すべての個人に存在するわけではなく、むしろ[圧倒的]大多数の人々に存在するわけではありません。 この[神の]愛の頂点は、2つの手段によって達成されます。

最初の手段 - 世俗的な執着やもつれを断ち切る: 最初の手段とは、しもべが世俗的な執着やもつれから自分の関係を断ち切り、神以外の愛を心から奪うことです。 ハートは容器のようなもので、それを満たしている水が取り除かれない限り、酢を入れる能力はありません。 [心の中にある]神の愛が世俗的な執着と共存できると期待すべきではありません。 それは、神が人間の胸に二つの心を創造したのではないからです。 愛の完成とは、心の奥底で神を愛することです。 人が神以外のものに傾倒し続けるまで、心の一部は神以外のものに耽溺したままになります。 神以外の人に耽溺する限り、その限りまで愛は欠けているでしょう。 すべての悪から心を清め、あらゆる種類の愛を空にすることは、神から命じられています。

[神の統一と一体性]の証明(لا إله إلا الله 神以外に神はいない)は、神以外に崇拝に値する者はいない、また、しもべ(または奴隷)の意味は、人が投獄され、主は恋人が投獄されている人であるため、愛されている人はたまたま神(または主)であるため、神以外に愛される者は存在しないという同じことを意味します。 すべての恋人は、最愛の人の囚人です。 だからこそ、神はこう言われたのです。

أَرَءَيْتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ

「自分の欲望から神を作り、それを追いかけている人を見たことがありますか?」 (クルアーン、25章、43節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

أَبْغَضُ إِلَهٍ عُبِدَ فِي الْأَرْضِ الْهَوَى

「地上で崇拝されている最悪の神は、低次の自己からの欲望です[それは地上のすべての悪、トラブル、苦しみ、争い、混乱の根本原因であるため]」。

別の伝承では、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

مَنْ قَالَ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ مُخْلِصًا دَخَلَ الْجَنَّةَ

「『神()以外に神はいない』と誠 لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ 実に言う者は、楽園に入るでしょう」。

誠実さの意味は、しもべが自分の心を神だけに捧げ、神以外の心に余地を残さず、神だけが崇拝に値する神となり、心の最愛の者となり、心の目的となるということです。 その状態にある人にとって、世界(世俗性、世俗的な執着、もつれ)は、人と最愛の人のビジョンとの間の障害であるため、牢獄に劣りません。 最愛の人が一人だけいて、長い間最愛の人との会いを強く望んでおり、最愛の人のビジョンを心待ちにしていた人を想像してみてください。 突然、人は刑務所から解放されます。 そのとき、人の幸福の強さはどれくらいでしょうか? 愛する人と永遠に暮らすという考えは、(その自由と解放の状態で)とても心を落ち着かせ、さわやかにするでしょう。

それにもかかわらず、世の愛の強さ(世俗性と世俗的な執着)は、神の愛の弱さの重要な理由です。 世の愛には、配偶者、子供、親戚、土地、動物、庭、娯楽などへの愛が含まれます。 そのような人は、この世の愛に閉じ込められ、その祝福に傾倒しており、そのために神の愛の喪失に耐えます。 人がこの世に憧れを持っているほど、神への憧れは薄れていきます。 人が世界で分け前を得る限り、その程度まで来世での自分の分け前は減少し、西に近づくほど東から遠ざかるのと同じように。 世界と来世は東と西

のようなものです。 心の人(スピリチュアリティ)の人々は、世俗的な愛を心から根絶するためには、禁欲(ズード)の道を歩み、*忍耐の忍耐(イスティカマ)を持ち*、恐怖と希望をもって神の服従を持つことが不可欠であることを目で目撃してきました。 前の章では、悔い改め、忍耐、禁欲、[神への]恐れ、[神への]希望の[霊的]立場について説明しました。 これらの地位に到達するために努力することは、神の愛を達成するための2つの手段のうちの1つであり、その手段は、神以外の何かまたは誰かの心を空にすることです。 それ(つまり、内なる変容)は、恐れと希望を生み出す神、審判の日、天国と地獄への信仰を持つことから始まります。 その後、[悪行に対する]悔い改めと[義と霊的努力の道を歩む際に直面する逆境に対する]忍耐が生まれます。 徐々に心の状態が変化し、富、物質的な所有物、世俗的な快楽への傾きが少しも残らず、むしろすべての悪と濁りから浄化され、神の愛の浄化されたランプが心の中で照らされ、神のグノーシス(マリファ)と神の愛(マハーバ)の能力が生まれます). 悔い改めや忍耐などの霊的なステーションは、心の浄化の最初の促進剤です。 この浄化は、神の愛の2つの手段のうちの1つです。

第二の手段 – 神聖なグノーシスを固める: 神聖なグノーシス(マリファ)*を固め[または強化]*し、それを心にしっかりと広めることは、心の中で神の愛を強化する第二の手段です。 それは、心が世俗的な執着や関与をすべて浄化したときに可能になります。 そのたとえ話は、種を蒔く前に土地から雑草を取り除くというものです。 これが[神の]愛の第二の要素です。 この種[すべての不純物と悪の心を浄化した後、神への道で霊的な努力という形で]蒔かれ、世話をされるとき[絶え間ない水やり、生えている雑草を取り除き、天候による被害から守るという点で]世話をすると、そこから徐々に愛と神のグノーシスの苗木が生まれます。 そしてそれは絶えず大きくて強い[そしてしっかりと根付いた]木に成長し、それは純粋さの高貴な声明(*カリマ・タイイバ*)[心にしっかりと定着する]と呼ばれています。 クルアーンはこれをたとえ話として述べています。

ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلًا كَلِمَةً طَيِّبَةً كَشَجَرَةٍ طَيِّبَةٍ أَصْلُهَا ثَابِتٌ وَفَرْعُهَا فِى ٱلسَّمَآءِ

「神は、それはしっかりと深い根を持つ高貴な木のようで、その枝は空高く伸びているという、純潔さの高貴な声明のたとえ話を語ります。」 (クルアーン、14章、24節)

この高貴な声明は、クルアーンの中でさらに次のようにほのめかされています。

إِلَيْهِ يَصْعَدُ ٱلْكَلِمُ ٱلطَّيِّبُ وَٱلْعَمَلُ ٱلصَّـٰلِحُ يَرْفَعُهُۥ

「良い言葉は神に届き、善行は彼らを神に[神の臨在へ]引き上げます。 (ここで私たちは、彼らが神の臨在に昇り、実行者の霊的なランクと程度を高め、神のグノーシスと人生の真の目的の達成に至り、それに続く永遠の幸福と永遠の成功に至るにつれて、正義の行いにおいて努力し、優れた努力と優れていることの秘密と知恵を学びます)。」 (クルアーン、第35章、10節)

「純粋さの高貴な声明」はグノーシス(*マリファ*)への言及であり、善行はその導管やしもべのようなものです。 心は善行によって浄化され、この内なる純粋さと清らかさは永遠の命の達成をもたらします。 善行が止まると、心の純粋さも終わります。 善行(神の道における霊的な努力を含む)の目的はこのグノーシスであり、知識はこれらの行いの性質を知ることです。 それは、知識が[神聖なグノーシスの達成において]最初で最も重要なものであることを意味します。 第一知識は、外部の事柄に関する知識(エキゾテリックな知識または「*イルム・ムアムラ*」)であり、その目的は行動と行為です。 この知識によって、心はすべての悪と不純物から浄化され、真実の照明を受け取ることができるようになり、神聖なグノーシスの知識で飾られます。 神聖なグノーシスの知識の別名は「霊的に明らかにされた知識」(*'Ilm al-Mukashafa*)であり、これは2番目の知識[人を神聖な臨在に導く精神的な照明に必要]です。

神のグノーシスの知識を獲得するとき、人は必然的に[神の]愛[神が人を愛し、人が神を愛する]ことを達成します。 それは、穏やかな気質の人が美しいものを見ると、それに傾倒し、その[耽溺]に喜びを見出すようなものです。 快楽は自然に愛に従属し、愛はグノーシスに従属します。 [神の]しもべは、世俗的な関与(もつれや執着)との関係を断ち切ったときにのみ、このグノーシスに到達することができ、この関係の断絶は、思考の無精通、神の記憶の永続性、そして神の存在、属性、支配、そして神のすべての創造物[神の行動の現れである]への継続的な熟考なしには不可能です。 この程度[霊的達成と完全性]に達する人々は、最初に神のグノーシスに到達し、神によって他のすべてを認識し、知っている強い人々の2つのタイプがあります。そして、グノーシスが[善い)正しい]行いと行動から始まり、そこから進歩し、すべてのことを行う者に到達する弱い人々。

[2番目のタイプ]ほとんどの人にとって、この方法は簡単です。 クルアーンは、その多くの聖句で、人々に熟考、熟考、検討、そして[いたるところに広がる神のしるしからの教訓の]導き出しを促し、[人類]をこの[真理に到達する]方法に導いてきました。 もし

あなたが今、これらの方法の両方があなたにとって難しいように思われ、より簡単な方法を説明してもらいたいと言うなら、神によって創造物の理解が達成される最初の方法は、実際には困難で、微妙で、一般の人々(素人)にとっては理解できないと言うでしょう。 これは、ほとんどの人の知性によって理解される第二の方法を私たちに残すだけです。 もし人々がこの[簡単な]方法を難しいとさえ考えるなら、それはこれが本当に難しいからではなく、むしろ本当の理由は、彼らが熟考したり熟考したりすることさえせず、低次の自己からの世俗的な欲望や肉欲の快楽に耽り続けているからです。 この方法は、天の高みから地の深みまで、神の能力の完成、知恵の完成、威厳の頂点について議論しない粒子がないため、広範で計り知れないトピックであり、数え切れないほどの種類(サブブランチ)があるため、この方法については詳細な議論を行うことはできません。 そして偉大さの頂点。これらは数え切れない粒子であり、すべての粒子には、それ自体に埋め込まれた神の不可算の証明があります。

قُل لَّوْ كَانَ ٱلْبَحْرُ مِدَادًا لِّكَلِمَٰتِ رَبِّى لَنَفِدَ ٱلْبَحْرُ قَبْلَ أَن تَنفَدَ كَلِمَٰتُ رَبِّى وَلَوْ جِئْنَا بِمِثْلِهِۦ مَدَدًا

「[おおムハンマド!人類に教えることによって]、『もし海がわが主の言葉を書くための墨になるなら、たとえ私たちがそのようなものを補足として持ってきたとしても、海はわが主の言葉が尽きる前に枯渇するでしょう。』 (神は、難解な霊的知識と経験の底知れぬ海の広大さをほのめかしています。 (クルアーン、第18章、109節)

この[難解な霊的]知識にふけることは、「*イルム・アル・ムカシャファ*」の海、つまり霊的啓示の知識の海に飛び込むことに等しく、それをエキゾテリック・知識(*イルム・アル・ムアムラ*)の分類の下に書くことも適切ではありません。 しかし、いくつかのたとえ話で簡単に説明できます。

神の行動の理解による創造主のグノーシス: 実際には、上記の方法の中で、神の行動の理解によって神のグノーシスを達成するのが簡単な方法です。 他の多くの神の行動に比べて小さなものも含めて、神の行動を一瞥する必要がありますが、それにもかかわらず、それらは神の能力(クドラ)の驚異に満ちています。 地球とその上に住む創造物は、天使や天の支配に比べれば非常に小さく、取るに足らないものです。 地球の質量と大きさを考えてみましょうが、地球は明らかに広大ですが、私たちには小さく見える太陽は、地球の何千倍も大きいです。 一方では、太陽の広大さを見て、他方では、それが一部である宇宙の広大さを見てください。 太陽の広大さと宇宙の広大さの間には比較の余地がありません。 私たちが見ることができるのは最初の天の限界であり、この天

はその上の天に比べるとかなり小さいです。 そして、これらの七つの天は、神の座(威厳、権力、支配、支配、主権の)と比較すると、広大な砂漠に置かれた鉄片のようなものであり、神の座と神の玉座(*アルシュ*)と比較すると、神の座と比べると、七つの天のようなものです。 太陽、宇宙、神の座、神の玉座の広大さを覗き込み、それらを地球と比較して、この地球がどれほど小さく、取るに足らない、そして卑劣であるかを確認してください。 むしろ、地球(地球上の陸地)は地球の海に比べて非常に小さいです。

人間が神の驚異について熟考すれば、前述の方法に比べて達成しやすいグノーシスを達成できます。 グノーシスが増えると[神]愛も増える。 もしあなたが神と出会いたいと願い、それを切望し、神のビジョンの永遠の幸福を望むなら、世俗的なもの(世俗的な華やかさ、きらめき、執着、もつれ)を求めるのを控え、神の記憶と熟考を自分自身に義務付ければ、絶え間ない霊的努力によって、あなたは神のグノーシスと愛の分け前を得ることができます。 世俗的な快楽を離れることで、想像以上に広大で永遠の支配権を手に入れることができることを忘れないでください。

神の愛における人々の違いの理由: すべての信者は、基本的な愛(神のすべての被造物に対する神の存在から発せられる愛)の共同分かち合い者です。 しかし、愛にはさまざまな程度があり、これらの違いは、人々が理解とグノーシス、そして世界への愛において異なるために存在します。 物事の違いは、それらの物事の背後にある[起源の]原因によるものです。 神の愛の原因はグノーシスです。 グノーシスが多かれ少なかれであれば、確かに愛の増加または不足があるでしょう。 ほとんどの人は、神の名前(それぞれの名前は神の性質を表しています)と属性に関して聞いたり暗記したりした以上の神について知らず、理解不足のために、神が彼らをはるかに上にいるというそれらの[誤った]意味を想像します。 これらの神の名前や属性の現実について十分な知識を持っていない人もいますが、それらの間違った意味を想像することもせず、代わりに、信仰の問題として耳を傾け、受け入れ、議論や議論に巻き込まれることなく(神の崇拝に関して)行動に忙しくします。 これらの人々は、[安全と最終的な救いを得た]「右手」の人々です。 間違った意味を想像する者は誤った道を歩んでおり、[神の名前と属性の]現実を知っている人は神の親密な人であり[そして神の近接性とグノーシスにおける全人類の最先者です]。

人は事例から物事を理解するので、まず例を挙げて、同じものへの愛において人がどのように異なるかを説明します。 著書によって著者を高く評価し、著者の卓越性と文章

の完成度を信じ、同じ著者の別の本が最初の本よりもさらに優れたものになると、確かに、その著者への愛はさらに高まり、著者の卓越性と完璧さをさらに確信するようになります。 すべての知識とスキルがその状態にあります。 グノーシスを所有し、その中で増える人は、それに比例して愛が増えます。 一方、悪行者(良いことに関心がなく、悪いことに傾倒する人)がいて、それを聞くと、その人は良い本を書いた作家であるということだけを聞きます。 そのような人は、それらの本にどのような知識が隠されているかを知らず、(著者の本に対する)理解は表面的なものにすぎず、愛も最小限です。 内なる洞察力のある人は、単に聞くだけでは満足せず、代わりに、著者の本のページを読み、知識の光沢のある真珠を探し、自分の努力によって、これらの本全体に散りばめられている驚異に親しみたいと考え、これらの努力に成功すると、創造物や文章が創造主と創造主の卓越性と完璧さを主張するため、その人の愛は多岐にわたります。著者。 別の例に照らしてこれを考えてみましょう。 この世界は神の創造であり、著された書です。 普通の人間はこの知識と信念を持っていますが、それは表面的で大雑把なものにすぎませんが、内なる洞察力のある人はその詳細を知りたがり、知性を困惑させる取るに足らないものの中に不思議を探すほど熟考します。 この詳細な研究は、[神の]属性の神の威厳、壮大さ、完全性を高め、その点で神の愛を心の中で増大させます。 そして、[神についての]知識が増すにつれて、その人のグノーシスと[神への]愛も増大します。

神の驚異の海は、海岸のない底知れぬ海です。 したがって、このグノーシスの担い手が[彼に対する]愛において異なっても驚くべきことではありません。 [のレベル]愛もまた、以前に説明した5つの理由のために(人によって)異なります。 言い換えれば、神が彼らに報い、恩恵を与えてくださる方だから、神を愛する人もいます。 明らかに、この愛は神の存在とは一緒ではないので弱く、弱さのしるしは、[彼らが神から受ける]好意の変化により、彼らの愛の[レベル]も変化することです。 したがって、彼らの愛の状態は、逆境の時と安らぎや安らぎの時とは異なります。 神の存在を愛する人、または神が完璧さ、美しさ、嫉妬のためにそれに値するから愛する人(*ガイラー*)[神の秘密を守るために、自分自身の低い霊的野心、霊的道の失敗、そして神の臨在への高い霊的道を前進する正しい意図と高い決意を持っていないために、神の秘密に値しない人々から神の秘密を守るため]、そして威厳があり、神の恩恵の違いによるこの愛に違い(変化)はありません。 これらが、人によって神の愛のレベルが異なる理由であり、来世の永遠の幸福と永遠の成功も、神の愛のレベルの違いによって異なることは言うまでもありません。

神への憧れ

神への憧れの意味: 愛する人が目的である場合、憧れは必要な[特性]であるため、神への憧れを否定すべきではありません。 このトピックの下で、グノーシス主義者は確かに神を切望しており、むしろ神(最愛の者)を切望せざるを得ないことを説明したいと思います。 私たちはこの主張を2つの方法で証明します:第一に、経験と観察に基づいて、第二に、伝統によって。

経験と観察による最初の方法: これについては多くを語る必要はありませんが、むしろ、愛について書いたことは、この点で十分であるはずです。 最愛の人が目から消えてしまった場合、最愛の人のビジョンに憧れるのは自然なことです。 最愛の人が人の前にいる場合、または愛する人の存在に到達した場合、憧れは[最愛の人]を求める名前であり、達成されたものは求められないため、憧れはそこにありません。 知覚できないものは憧れません。 したがって、ある人を見たことがなかったり、聞いたりしたことがなければ、そのような人を切望することは想像できません。 知覚の完璧さはビジョンの中にあります。 最愛の人が常に視界の中にいるなら、人は最愛の人への憧れを抱くことはありません。 例を挙げて説明します。

常にそのことを考えている人から最愛の人が消えてしまうと、最愛の人のビジョンによって自分の考えを完成させることを切望するでしょう。 しかし、愛する人の思いが心から消え去り、それを忘れてしまうと、憧れすら存在しません。 また、憧れの意味は、ビジョンによって自分の心の中の考えの完成を求めているからです。 時々、人は暗闇の中で最愛の人を見て、その時、光の中で最愛の人を見ることで自分のビジョンを完成させたいという切望を抱きます。 また、最愛の人の顔は見えても、髪の毛やその他の特徴は見えない可能性もあります。 その場合でも、これまで見られなかった最愛の人の特徴をもっと見たいという憧れを抱くことができます。

神の場合、どちらの場合も想像できますが、むしろグノーシス主義者は必然的に2つの理由から神を切望します。 それは、グノーシスの人々に明らかにされる神事は、一見明晰で明るいように見えますが、実際には非常に微妙で複雑であり、薄いベールの向こ

うから見られたため、いくつかの事柄が隠されたままになり、視覚の完成が達成されなかったと言えます。 むしろ、ビジョンは想像力と混ざり合い、グノーシス主義者の心に濁りと濁りを引き起こしています。 その上、世俗的な生活(すべての問題やもつれを伴う)が影を落とすと、このグノーシスの喜びはすべて消え去ります。 明確なビジョンの完成は、ビジョン(*ムシャハーダ*)と霊的照明の稲妻(*タジャリ*)の組み合わせから起こりますが、これは来世の前には不可能です。 グノーシス主義の目的は、神のビジョンと霊的な照明の稲妻を達成することであり、したがって、心がそれに憧れを持っている必要があります。 言い換えれば、人は、その主要な要因の理解が世俗的な生活の中で達成されたもの(グノーシス)の完成への憧れを持つべきです。

これは[神への]憧れの最初の必要な要件でした。 さて、第二の必要な要件は残っていますが、それは、他の特定のものを見た後、特定のものに憧れることですが、これは神の場合にも可能です。 神の事柄は無数にあり、それらに制限はありません。 すべての[神聖な]事柄が[神の]しもべ、つまり人間に明らかにされるわけではなく、むしろ、いくつかの事柄は明らかにされ、一部(多く)はその複雑さと繊細さのためにベールに包まれた[または隠された]まま残されています。 グノーシス主義者はそのような事柄の存在を知っており、自分が知っていることに比べて、自分が知らない事柄がはるかに多いと告白します。 したがって、人(グノーシス主義者)は、残りの事柄を自分の知識の領域に持ち込むことを切望しています。 最初の憧れに関する限り、人は完全な明晰さと光をもって神のグノーシスを達成し、来世で完了(完全な充足)によって達成されます。 「ビジョン」、「出会い」、または「見る」[神]と呼ばれる最初の憧れの意味では、この世(世俗的な生活)でこの憧れを完成させることは不可能です。

[自分の憧れの対象について]すべての知識を獲得するという切望の第二に必要な要件は、この切望の完成(完全な実現)は、しもべが神の美しさに関連するすべての事柄を明らかにする方法で望まれるからです。 神が知っている素晴らしさ、属性、知恵、行動ですが、これは不可能です。 それは神の知識が無限だからです。 しもべは、神の美しさと素晴らしさから、明らかにされていないそのような事柄がたくさん残っていることを常に知っているでしょう。 したがって、特に、現在の[霊的]視点からより高い[霊的]度を見て、より多くの[霊的]度を望む人は、その人の憧れは完了しません。

伝統による第二の方法: 神への憧れを肯定する第二の方法は、伝統によるものです。これに関して多くの伝統が見られます。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、懇願の中で神に懇願していました。

اَللّٰهُمَّ إِنِّي أَسْأَلُكَ الرِّضَا بَعْدَ الْقَضَاءِ وَبَرْدَ الْعَيْشِ بَعْدَ الْمَوْتِ وَلَذَّةَ النَّظَرِ إِلَى وَجْهِكَ الْكَرِيمِ وَالشَّوْقَ إِلَى لِقَائِكَ

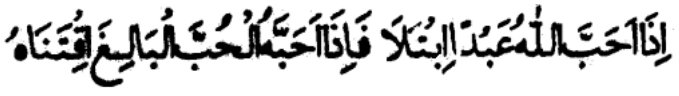
「おお神様! 私はあなたに、あなたの決断に満足してくださるようお願いします。

アブ・ダルダ(神が彼に喜ばれますように)は、カーブ・アバール(神が彼に喜ばれますように)(二人とも預言者ムハンマド[神の祝福と平安あれ]の著名な仲間であり、カーブ・アバールは預言者の仲間になる前はユダヤ人の律法学者であり、ラビでした)に律法の一節を語るように頼みました。 彼は、神は「敬虔な人々は私と会うことを強く切望しており、私も彼らと会うことを強く切望している」と言われたと言いました。 カーブ・アバール(神が彼を喜ばれますように)は、同じ主題について律法の別の聖句を語りました、「わたしを探求する者はわたしを見つけ、わたし以外の求道する者は私以外のものを見つけるでしょう」。 アブ・ダルダ(神が彼に喜ばれますように)は、「私は預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の舌から同じ主題を聞いたことを証言します」と言いました。 預言者ダビデ(彼に神の祝福と平安あれ)の伝承には、神が彼にこう言われたと語られています。 私は私を愛する人の最愛の者であり、私は私の仲間である人の仲間であり、私は私の記憶に親しい人の親密な者であり、私は私の友人になる人の友人であり、私は私を好きな人が好きであるという私のメッセージを地球の人々に伝えてください。 そして、わたしに従う者には従属する。 私は、わたしを愛する人の心の状態をよく知っており、そのような人を私のために受け入れ、そのような人を愛しているので、わたしの被造物の中から、そのような人よりも好まれる人は誰もいない。 おお、地球の人々よ! 世俗的な傲慢さのベールを細断し、私の驚異、交際、私とともにあり、私と親密になろうと、私はあなたと親密になり、あなたを愛する上で最優先になります。 私は、私の友人アブラハム、私が話したモーセ、そして私が清めたムハンマドの性質と気質から、私の友人の内なる性質と気質を創造しました。 わたしは、わたしを望む人々の心を、わたしの光から創造し、わたしの威厳によって、彼らを育てたのです。」

あるグノーシス主義者は、神が友人の一人に「私のしもべの何人かは、彼らが私を愛し、私も彼らを愛し、彼らも私を切望し、彼らも私を懐かしみ、彼らも私を覚えていて、

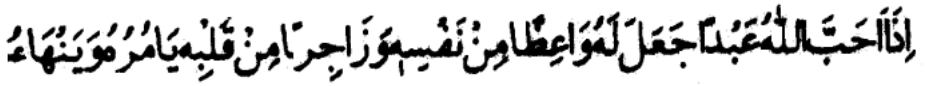
彼らも私を見て、私も彼らを見ている。 もしあなたが彼らの道を歩むなら、私はあなたを愛し、もしあなたが彼らの道から逸脱したら、私はあなたを不快に思うでしょう。」 彼は尋ねました、「おお神よ! 彼らの兆候は何ですか?」 神は言われました、「彼らは、思いやりのある羊飼いがヤギを見守るように、その日の日陰を見守っています(彼らは神に近づくために一日のすべての瞬間を守り、怠惰なおしゃべりや無駄な努力に無駄にさせません)。 彼らは夕方の巣を切望する鳥のように夕暮れを切望しています[敬虔な献身で夜を神に捧げることができます]。 夜が腕を伸ばし、暗闇が降り注ぎ、ベッドが広がり、秘密が明らかになり、恋人が最愛の人の腕に手を伸ばすと、彼らは私のために歩みを進め、私の前に頭をひれ伏し、私の会話(*カラム*または神が啓示した書物)で私にささやき、彼らへの私の報酬(物質的および非物質的の両方)によって私に懇願します。 彼らの中には、叫び声を上げて泣く者もいれば、静かに泣く者もいれば、大騒ぎを起こす者もいれば、わたしの前に立って[わたしから遠いことを]不平を言っている者もいれば、座っている者もいれば、立っている者もいれば、お辞儀をする者もいれば、ひれ伏す者もいる。 彼らの不平不満、懇願、努力はすべて、わたしの目には多大な尊敬の念を抱いています。 まず第一に、わたしは彼らに三つのことを与える:第一に、わたしが彼らの知らせを[天の存在に]伝えるように、彼らもわたしの知らせを[他の人に]伝えるように、わたしの光を彼らの心に当てる。第二に、もし彼らと天地との間にあるものが[戦いにおいて]彼らに敵対するなら、私は彼らのためにそれを卑しいとみなします[そして、いかなる方法、形、形でも彼らを傷つけることを許しません]。第三に、私は私の神聖な顔を彼らに向けます、そしてあなたは私が私の顔を向けている彼らに何を与えたいかを知っています!」

神のしもべに対する愛:要約すると、神のしもべ(つまり人間)に対する神の愛とは、神が人を世俗的な罠や罪から遠ざけ、世俗的な不純物(悪、過ち、欠点、欠点)から人の内面を清め、しもべが心から神を目撃していると感じるまで、心からベールを取り上げて神に近づけてくださいます。 そして、しもべの神への愛は、人が奪われている[内なる霊的]完全性を達成する傾向があるということです。 人が奪われたもの、人はその達成に憧れを持ち、それを達成した後にそこから喜びを得ることは明らかです。 さて、もしもべに対する神の愛は疑わしい問題であり、しもべが自分が神の愛されていることをどうやって知っているのかと言うなら、その答えは、自分に有利に主張する愛の兆候がいくつかあるということです。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はこう言いました。

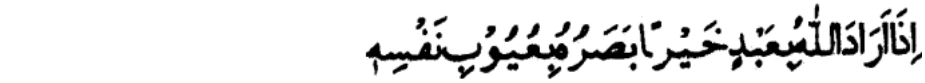


「神はしもべを愛するとき、その人に[苦難を]与え、その人を激しく愛するとき、神はその人をご自分のために特別なものにする」。

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はさらにこう言いました。



「神がしもべを愛するとき、神は自分自身の中に戒め者(助言者)を任命し、その人の心にストッパーを作ります。 彼らは一人を命令し、一人を[すべての悪と悪から]止める」と述べた。 (ナレーション: *ハディース集 ムスナード・アル・フィルドゥス* アナス・ビン・マリクの権威による [神が彼を喜ばれますように])



「神がしもべに良いことを意図するとき、神は自分自身の低次の自己にある欠点の1つを知らせます[内面の洗練と魂の浄化によってより高いレベルの霊性に上昇できるように、それらを取り除くのに忙しくさせる]」。 (ナレーション: *ハディース集 ムスナード・アル・フィルドゥス* アナス・ビン・マリクの権威による [神が彼を喜ばれますように])

すべてのしるしの中で最も重要で特別なしるしは、しもべが神を愛しているということであり、まさにこのしるしから、神がしもべに対してどの程度の愛を持っているかが理解できます。 そして、しもべの最愛の人が神であることを証明する行動は、神だけがしもべの外側と内面、隠された、開いたすべての事柄の世話人であり、神だけが[しもべ]に助言する方であり、[しもも使の心の中で可能な限り最善の方法で人生を営む]方法を注入する方であるということです。 美しい性格と気質の装飾品で人を飾る方であり、敬虔な仕事で臓器を忙しくする方であり、内面と外面の存在を正しい道に導く方であり、すべての思考を中心点に集中させる方です。 彼は人を世俗から遠ざける方であり、人を自分以外のものを否定させる方であり、人を彼に慣れさせるために孤独の中で彼に懇願する喜びを与えてくださる方であり、人と彼のグノーシスの間のベールを剥がす方です。 これらや他の同様のしるしは、しもべの神への愛を主張しています。

神の決定、その現実と卓越性に同意する: 神の決定(*リダ*)に同意することは、[神の]愛の果実から得られる果実(結果)ですが、大多数の人々はその現実を明らかにしていません

。 その意味に存在する疑いと曖昧さは、解釈の知識(*タウィール*)と神への道の理解(*ディーン*)を神から授けられた人々だけがそれに気づいています。 自分の望みに反する問題についてどうやって同意できるのか理解できないため、神(リダ)に同意することを否定する人もいます。 彼らはまた、すべての命令、すべての決定、すべてが神の働きであるために同意する必要があるのであれば、[神の]しもべも罪と不信仰(神の拒絶)に同意する必要があるとも言います。 一部の単純な人々は、神の決定に同意することを拒否する人々のこの言葉にだまされ、罪や悪に同意し、不信仰や罪を拒絶したり反対したりしないことが、神の命令を受け入れ、神の決定に同意する[霊的]立場であると考え始めました。 これらの[問題]は神の秘密です。 もし、神への道の秘密が、人間の外側の行動に関係する[神の]戒めを研究するだけで明らかにされたり、[クルアーン]を唱えることによって明らかにされたりするなら、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)のために次のような嘆願を捧げなかったでしょう。

اَللّٰهُمَّ فَقِّهْهُ فِي الدِّيْنِ وَعَلِّمْهُ التَّاوِيْلَ

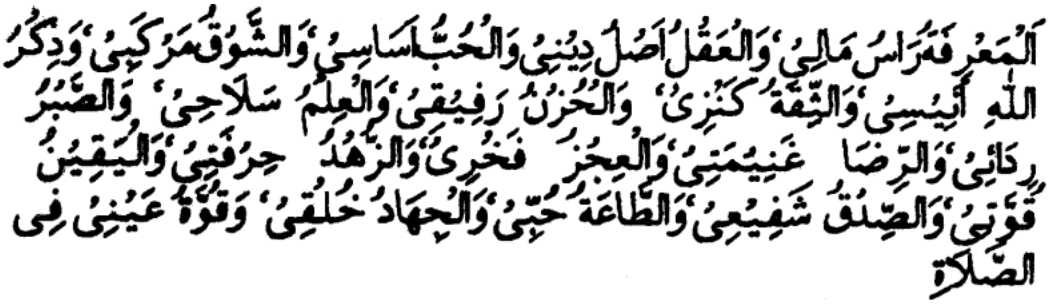
「おお神様! 彼にあなたの道の理解と解釈の知識を与えてください(*タウィール*)!」 (ナレーション: *ハディース*集 *Sahih Bukhari*、*Sahih Muslim*、*Musnad Ahmed*)

欲望に反する事柄や苦難には忍耐しか不可能であり、神の決定に同意することは不可能だと言う人は、実際には[神の]愛を否定しているのです。 神の愛が[前述の]で証明され、人間が勇気を尽くして神の愛に浸ることができることが明らかになったとき、恋人が[内なる衝動または原動力によって]最愛の人のあらゆる行動と言葉に同意することを余儀なくされていることも隠されたままではありません。 この同意は2つの方法で起こります:第一に、怪我や苦しみを負っても、少しの痛みも感じないほど、悲しみや痛みを感じないということです。 そのたとえ話は、心がある問題に完全にふけり、その結果、他の何も知覚しない人の話です。 愛や愛する人のビジョンに完全に耽溺し、この愛に没頭したために拷問的な出来事に耐える恋人の状態も同様です。 そうすれば、恋人は、その実行者が最愛の人以外の誰かまたは何かであるときに、何の痛みも気づきません。 このことから、最愛の人が恋人の存在に何らかの苦痛を与えた場合、どうやってそれを認識できるのかが推測できます。 心の愛への耽溺は重要な耽溺です。 普通の愛の中で、わずかな痛みを感じないとき、どうして大きな愛の中で大きな痛みを感じることができるでしょうか? 痛みの強さを持つことができるように、愛の強さも可能であり、五感で知覚する美しさが強いように、愛も同様に、内なる洞察によって内面の美しさを目撃することで生じる強いものです。 神の美しさと威厳を他の美しさと威厳と比較

することはできません。 神の美しさと威厳のごく一部が明らかにされた人は、感覚と意識を失い、それに酔いしれて、自分のすべての状態(痛みや苦しみを含む)に気づかなくなります。

最愛の者の行動に同意する第二の方法は、痛みや苦難を認識するが、[それらについて文句を言わないという点で]それらに同意し、むしろそれらに対する願望と意図を持っているということです。 これは、(商売の)利益を得るために旅の苦労に耐え、その苦労を気にしない人の状態と似ています。 神のしもべの状態は、彼らが神からの災難に苦しんだとき、彼らが達成する神の報いが[それの代わりに]彼らのために蓄えられているという確信を持っているので、彼らはこの確信による[神が定めた]災難に同意し、それに傾倒します。 むしろ、彼らはそれを愛し、それに対して神に感謝しています。 これは、災難の見返りとして神の報いを心に留めておく場合に起こります。 もし人が神の報いを心に留めておらず、むしろ愛が支配的であり、最愛の人の承認を得ることが唯一の目的であり、神だけが求められ、愛される者であり続け、人は[神の]報いを望まず、むしろそれについて考えることさえせず、愛する人の受け入れを得ることが唯一の目的と目的になります。

ハーレム・イブン・ヒバン(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「信者が自分の主を知り、認識するとき、人は主を愛し、彼を愛するとき、人は彼に集中し、彼に焦点を合わせることに喜びを見出すとき、人は欲望の目で世界を見たり、怠惰の目で来世を見たりしません。 そのような人は自分の肉体でこの世に生き、その魂は来世[天と霊的な領域]にあります。」 アリ(神が彼を喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)に自分の生き方について尋ねたところ、彼はこう答えたと語った。



「[神の]グノーシスは私の資本(資産)であり、知性は私の信仰の基礎であり、[神の]愛は私の基盤であり、[神への]憧れは私の乗馬(私の霊的探求において私を運ぶ手段)であり、神の記憶は私の親密な友人であり、[神の道における]確固たる足取りは私の宝であり、悲しみは私の仲間であり、知識は[無知と悪の闇に対する]私の武器です。 忍耐は私の

ショールであり、謙虚は私の誇りであり、禁欲は私の職業であり、[神と永遠の神の真実における]確信は私の力であり、誠実さは私の執り成しであり、[神の]従順は私の愛であり、神の道で努力することは私の内なる性格と気質であり、私の目の冷たさは[神への]祈りにあります。」

ドゥン・ヌーン・アル・ミスリ(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「魂の軍隊を創造し、グノーシス派の魂を雄大で天上のものにした存在は、それゆえ、彼らは神を切望し、信者の魂を霊的なものにし、それゆえ、彼らは天に傾いており、怠慢な(人生の本当の目的と永遠の幸福と永遠の勝利の探求を無視する)人の魂を肉欲的なものにしました。 したがって、彼らは世界(世俗性)に傾倒している[彼らを完全に消費する世界に浸り、沈める]」。 また、[神への]憧れは、神が親しい友人(グノーシス主義者、真に誠実な神を求める者)の心に火を灯し、心の中に存在する[神以外の]意図、思考、罠、必要を燃やし、彼らの心にそれらの存在(痕跡)が残っていないとも言われています。 愛、執着、憧れ、神への受容についてはこれで十分な詳細があり、これに落ち着きます。 そして、神だけがすべての善と義を可能にする者です。

第17章 利己的な動機を一切持たない純粋な意図、あらゆる事柄への誠実さ、真実への献身を教え込む

下心のない純粋な意図は、神の喜びだけを求めることは、物事を正しく行うために神が受け入れ、助けることを確実にする強力な要素であり、すべての人にとって計り知れない利益と祝福の源です。 世俗的な利益という下心の利己的な動機を持って行われたことは、そこに意図された実や利益をもたらすことはめったにありません。 それは神の秘密であり、その後のガザリによる解説で最もよく説明されるでしょう。 同様に、物質的であれ非物質的であれ、世俗的な利益という下心を持たずに、誠実さや神の喜びだけを求めることを行うことは、人を霊的な道での上昇に駆り立てます。 純粋な意図と誠実さは、神が行い、祝福を受け入れ、結果を大幅に増やすことをもたらすため、たとえ小さな成果であっても、長期的には計り知れない利益と善の源となり得ます。 どちらも(純粋な意図と誠実さ)は、神聖なグノーシス(マリファ)とその結果としての永遠の幸福と無限の成功につな

がるスピリチュアルな道の駅である途方もないスピリチュアルな資質です。 スピリチュアルな道への深い影響に加えて、これらの資質は人の人生に途方もないポジティブなエネルギーを吹き込み、解き放ちます。

一時的であろうと永遠であろうと、あらゆる事柄において真実(シドク*)に献身*し、それを求め、それに従って生きることは、スピリチュアルな旅行者の本質的な資質であり、世俗的な存在や仲間の人間との関わりに大きな意味を持ちます。 これらの崇高な内面の特徴に関するガザリの詳細な分析は、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」[23]の第4巻の第7章または本から次のように凝縮された形で提示されています。

信仰の内なる洞察とクルアーンへの啓発によって、知識と行動なしには永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の達成は不可能であることを心の人々に明らかにしたことを知らせてください。 それは、知識の民を除いてすべての人が回復不可能な損失の危機に瀕しており、すべての知識の人々は[知識による]行為の民を除いて回復不可能な損失の危機に瀕しており、誠実な人々を除いてすべての行為の人々は回復不可能な損失の危機に瀕しているからです。 純粋に神の顔を求める利己的で邪悪な下心]、そしてすべての誠実な人々は[崇高な霊的道における低次の自己とサタンの罠により]大きな危険にさらされています。 意図のない行動は苦難であり、誠実さのない意図は誇示であり、偽善であり罪であり、真実の検証と調査のない誠実さは視覚の欺瞞です。 したがって、神はクルアーンの中で、神以外の意図と混ざり合った行動について次のように言われました。

وَقَدِمْنَآ إِلَىٰ مَا عَمِلُوا۟ مِنْ عَمَلٍ فَجَعَلْنَٰهُ هَبَآءً مَّنثُورًا

「われわれは、彼らが(世俗的な生活で)行った働きに目を向け、あたかも散らばった塵のように役に立たないものにするだろう。」 (クルアーン、25章、23節)

私たちは、意図の現実をよく知らない人がどうやって心を正すことができるのか、意図を正したが誠実さを理解していない人がどうして誠実になれるのか、そして真実の意味を知らない下の自分にどうして真実を要求できるのかを知りません。 神に従い、神を崇拝したいと願うすべての[神のしもべ]は、最初に[正しい]意図を持つことの知識を身につけ、次に救いと安全の原因である真実と誠実さを深く理解し、その後[誠実な]行動

によって意図を正すという責任があります。 これら 3 つの問題については、3 つのセクションに分けて説明します。

卓越性と意図の現実性

意図の卓越性: 神はこう言われます。

وَلَا تَطْرُدِ ٱلَّذِينَ يَدْعُونَ رَبَّهُم بِٱلْغَدَوٰةِ وَٱلْعَشِىِّ يُرِيدُونَ وَجْهَهُۥ

「朝晩、主の顔(神の近さ、親密さ、受容)を求め、望んでいる人々を[あなたの仲間から]押しのけないでください。」 (クルアーン、第6章、52節)

この聖句では、求めることと望むことは、彼らの[高貴で断固たる]意図を指します。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

إِنَّمَا الْأَعْمَالُ بِالنِّيَّاتِ وَلِكُلِّ امْرِئٍ مَا نَوَى فَمَنْ كَانَتْ هِجْرَتُهُ إِلَى اللَّهِ وَرَسُولِهِ فَهِجْرَتُهُ إِلَى اللَّهِ وَرَسُولِهِ وَمَنْ كَانَتْ هِجْرَتُهُ إِلَى دُنْيَا يُصِيبُهَا أَوِ امْرَأَةٍ يَنْكِحُهَا فَهِجْرَتُهُ إِلَى مَا هَاجَرَ إِلَيْهِ

「行動は意図に依存します。 すべての個人は、自分の[真の内なる]意図に従って[行動の目に見える外観と、その知覚された善と高貴さに関係なく]神の報酬を得るでしょう。 神とその預言者[ムハンマド(神の祝福と平安あれ)]のために移住した人は、その人の移住は神とその預言者のためであり、世界(世俗的な利益、利益、見苦しい動機)のために、または女性と結婚するために移住した人は、その人の移住は[実際には]その人が移住したもののためです。」 (ナレーション: *ハディースは*ウマルの権威に基づいてサヒーブハーリと *サヒームスリム*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

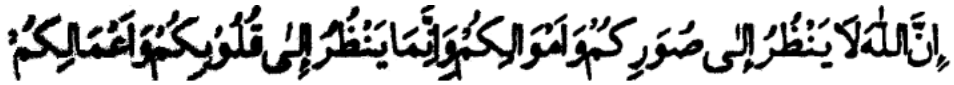
神はクルアーンの中でこう言われました。

إِن يُرِيدَآ إِصْلَٰحًا يُوَفِّقِ ٱللَّهُ بَيْنَهُمَآ

「もし二人の人(夫婦の立場と妻の側で、夫婦の争いや意見の相違が結婚生活の破綻につながる可能性がある)を和解させようとしている人が、(夫婦の状況の改革と、夫婦間の平和的で友好的な和解を最大限の誠実さで)望んでいるなら、 そうすれば、神は[和解

しようとしている二人の高貴で敬虔な意図の祝福によって]彼ら(夫と妻)を和解させてくださるでしょう[彼らの結婚生活を救い、平和、調和、相互愛と尊敬の中で再び会うことによって]」。 (クルアーン、4章、35節)

この聖句では、意図の[純粋さと高貴さ]が[神の恵みによる和解を達成する]成功の原因と呼ばれています。 ある伝承では、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「神はあなたの顔や富を見るのではなく、むしろあなたの心とあなたの行動を見てくださいます[心の状態によって支配される]」。 (ナレーション: *ハディース集　アブ・フライラの権威に基づく*サヒー・ムスリム [神が彼を喜ばれますように])

神は心が意図の座であるため、心を見ます。 アブドゥッラー・ビン・ウマル(神が彼に喜ばれますように)が語った伝承の中で、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「世界を求めることだけを意図している人は、その人の両目の間に貧困を置き、そのような人は世界に傾くようになると世界から切り離されます。 来世を意図する人は、神は人の心に豊かさを創造し、その人のために富を集め、そのような人は[世俗性から]禁欲したものとして世界を去ります。」 (ナレーション: *ハディース集 イブン・マジャ* ザイド・ビン・アスラムの権威に基づく [神が彼に喜ばれますように])

意図の現実: 意図とは、知識と行動という 2 つの問題に囲まれた心の状態であることを知っておく必要があります。 知識は、それがこの状態(心の)状態の基礎であるため、最初に来て、行動は知識の果実(結果)であるため、その後に来ます。 その理由は、すべての行動(自発的な動きまたは静止)は、知識、意図、能力の3つの要素によって完了するからです。 人間は、自分が知らないことに意図を持つことも、意図のない行動をすることもできないからです。 したがって、このことから、意図が必要であることがわかります。 意図とは、自分の状態や物質的な所有物に適した問題に対して心の中で動きがあることを意味します。 人間は、ある事柄は[人間の気質と幸福に]適切で、ある事柄は適切でないように創造されてきました。 したがって、適切な事柄の達成に傾き、[人間の幸福]に反する、または不適切な事柄を取り除く必要があります。 適切と不適切を区別するには、物事[および事柄]を理解する必要があります。 したがって、目に見え

ない食べ物を摂取することはできません。 だからこそ、神は、外的感覚と内面の感覚と呼ばれる理解と導き、そしてそれらを達成するための手段を創造されたのです。

食べ物について知っていて、その適合性に気づいたり、目で見たりするだけでは十分ではなく、むしろ食べ物への欲求、低次の自己の傾向、そして食べ物への欲望もそこにある必要があります。 したがって、病気の人は食べ物を見て、それが自分に適していることを知っていますが、それにもかかわらず、[内からの]原動力の力がなく、心に[病気のせいで]欲求が欠けているため、それを食べません。 そして、この欲望と原動力[または欲望]も十分ではなく、代わりに、食べ物を見て食べたいと思っても、何らかのハンディキャップ[または無能力または無能]のために食べることができないことがあります。 したがって、食物消費のプロセスを完了するために、能力と活動器官が[神に]創造されました。 臓器は能力によって動き始め、能力は知識や理解、あるいは意見や信念に従属する内なる原動力を待っています。 言い換えれば、ある事柄が自分に適しており、それを行う必要があることがわかり、それに反対する勢力が存在しないとき、意図が生まれ、傾向が現れます。 意図があるとき、能力はあたかも能力が意図のしもべであり、意図は信念と理解の命令に従属するかのように臓器を動かします。 そして、この詳細から、意図は中間的な特性の名前であり、その核心は、自分の目的と調和する事柄と、心の傾向の誕生に向けて、これらの事柄が現在または最終(将来または死後の世界)に適しているかどうかにかかわらず、自己の傾向を持つことが証明されます。 ここで、最初の原動力は求められている目的であり、それは「原因」または「推進力」と呼ばれるものであり、まさにこの目的が意図された目的であり、立ち上がる行為は「目的」および「意図」と呼ばれます。 能力が意図に奉仕するために臓器を動かすことを「行動」と呼びます。 しかし、行動を実行する能力は、時には1つの原因や推進力によってかき立てられ、時には2つの原因によって同時に、時には2つの原因によってかき立てられますが、2つの原因のうちの1つが能力をかき立てるのに十分であり、時には1つの原因で十分ですが、2番目の原因がその助っ人になります。 このように、次のように説明される4つのタイプの意図があります。

最初のタイプ - 純粋な意図: 最初のタイプの [意図] は、[行動] の原因または推進力が 1 つだけあるということです。 たとえば、野獣が人を攻撃します。 したがって、それを見ると、突然立ち上がります。 ここでは、獣を見て自分に有害だと考えたので、獣から逃げる以外に原動力はありません。 したがって、獣を見ると、心に逃げたいという動機が生まれ、欲望(傾向)が生まれます。 このため、運転手と欲望は能力に応じて行動してきた。 この場合、この人の意図はあくまでも獣から逃げることであり、他に立ち

上がる意図はないと言われるだろう。 そのような意図を「純粋な[意図]」と呼び、この意図に従って行動することを「誠実」と呼びます。 言い換えれば、それは[単一の意図以外に]他の何ものも包含、参加、組み合わせないそのような行為です。

2番目のタイプ-2つの駆動力または原因の結合: 2番目のタイプの[意図]は、2つの駆動力または原因が結合され、両方がそれ自体の権利において能動的な[原因]であり、一方の原因が他方に依存していないことです。 目に見える領域からのこの例は、誰かの貧しい親戚が、要求者が貧しくなかったら、親族関係のために必要を満たしていただろう、または要求者が[親族関係に関して]親密でなかった場合、貧困と親密な親族関係のために親戚のニーズを満たす人に助けを求めることです。 [要求者の]貧困のために、まだ必要を満たしていたでしょう。 同時に、たとえ裕福な親戚が頼んだとしても、人は必ず助けただろうし、貧しい見知らぬ人が頼んだとしても、助けることを拒否しなかっただろうという確信を心に抱いています。 この場合、2つの要因または原因が偶然に結合され、一方に行動を促します。 ここでは、一方の原因が他方の原因の助っ人であるため、それを「2つの原動力の結合」と呼びます。

3番目のタイプ - パートナーシップ: 3番目のタイプの[意図]は、2つの原因またはドライバーのいずれも単独で行動を扇動できないということです。 代わりに、この 2 つの組み合わせが能力を [行動に] かき立てます。 目に見える領域におけるその例は、2人の弱い個人が、最善の努力で個別に持ち上げることのできなかった重いものを持ち上げるためにお互いに助け合うことです。 別の例は、誰かの裕福な親戚が来て、その人が与えることを拒否するお金を要求することです。 その後、貧しい見知らぬ人がやって来て、同じ金額を要求しますが、その人は再び与えることを拒否します。 その後、貧しい親戚がやって来て、親族関係と貧困という2つの原因や原動力が組み合わさった後、行動に駆り立てられたかのように、拒絶しない同じ金額を要求します。 このタイプの意図は、パートナーシップ(2つ以上の原動力または原因が1つを行動に駆り立てる)と呼ばれます。

4番目のタイプ - 協力: 4番目のタイプ[意図]は、2つの原因または推進力のうちの1つだけが確実に存在する場合、2番目の原因は信頼できない間、それは依然として行動の扇動者になります。 しかし、2番目の原因が最初の原因と結合している場合、それは確かに役に立ち、それを簡単にするのに効果的です。 目に見える領域でのその例は、弱い個人が強力な人が重い重量を持ち上げるのを助けることです。 もし力のある人が一人

でいたら、弱い人は力のある人を助けることができても、自分では持ち上げることができないかもしれません。 これの別の例は、祈りを捧げ、慈善活動を捧げるルーチンがあり、その特定の時間に何人かの人々が訪ねてくるが、ルーチンに従って献身を続けることです。 もし来客が来ていなかったら、気質に多少の重さはあっても、自分のルーティンをこなしていたでしょうが、来客が来て彼らを見ることで、いくらかの安らぎと軽減が生まれ、その結果、そのルーティンはタフなにもかかわらず軽くなりました。 たとえ、もし訪問者が来なかったら、時間通りに自分の日課を行っていただろうし、この日課がなかったら、名声を求めるために[訪問者の前で]何も実行しなかっただろうという確信があるにもかかわらず。 このタイプの[意図]を「協力」と呼ぶことができます。 最後の3つのタイプ(タイプ2番目から4番目)のこの区分の結果は、2番目のドライバーまたは原因は、仲間、パートナー、またはヘルパーになるということです。

ここで意図の種類を列挙している理由は、行動は意図に従属し、[行動]は預言の伝統で語られているように、意図に従属し、[行動]は意図から命令を受けるためであり、あたかも行動が意図に従属しているかのように、地位は指揮官(意図)に属しているため、従属者(行動)の重要性はないからです。 良くも悪くも]。

[神への]従順の行為は、心の糧であり栄養です。 これらの栄養の目的は、心を癒し、心が来世の生存(バカまたは永遠の存在)と安全を見つけ、祝福と永遠の幸福と神との出会いの永遠の成功に恵まれることに他なりません。 したがって、神に会う本当の目的は、永遠の幸福と永遠の成功(サーダ)の喜びを達成することです。 神の愛とグノーシスによって死ぬ人だけが、神と出会う栄誉を持っています。 そして、グノーシスを持っている人だけが神を[真に]愛することができ、神を豊富に覚えている人だけが神への執着(*Uns*)を得ることができます。 [神への]執着は、神の記憶の永続性によって達成され、グノーシスは[神への]熟考と愛の永続性によって達成されます。 心は、世俗的な関与(罠)から解放されるまで、神の記憶と熟考を永続的に行う自由はなく、低次の自己の欲望がそれから切り離されるまで、世俗的な関与から自由になることはできません。

すべての善行と従順の行為から求められるのは来世であり、すべての悪から求められるのは来世であり、来世ではありません。 すべての善とすべての悪からの脱却に対する自己の傾きは、神の記憶と熟考のために心を解放します。 しかし、善行や従順な行為を粘り強く行うと永続性が得られ、臓器と心の間には関係があるため、臓器は罪を控えます。 それは、一方が他方に影響を与えるこの関係によるものです。 臓器と心臓の違

いは、心臓が支配者や指揮官の役割を担い、臓器は臣下や召使いのようなもので、奉仕と服従によって心の資質がしっかりと根付き、固まることです。 要約すると、心は目的であり[意図は主な原動力である心に生まれるため]であり、器官は道具であり、[両方の]手段で[意図された]目的に到達します。

卓越性、現実性、誠実さの程度

誠実さの卓越性: 神はこう言われます。

وَمَآ أُمِرُوٓاْ إِلَّا لِيَعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مُخۡلِصِينَ

「彼らは、神のみのために神への道で誠実さを保つように神を礼拝するように命じられていました。」 (クルアーン、第98章、5節)

أَلَا لِلَّهِ ٱلدِّينُ ٱلۡخَالِصُۚ

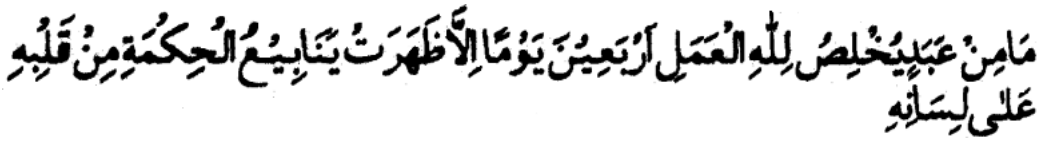
「神への礼拝と道は、純粋かつ誠実に神だけのためであり、それ以外には何もないことを忘れないでください。」 (クルアーン、第39章、3節)

فَمَن كَانَ يَرۡجُواْ لِقَآءَ رَبِّهِۦ فَلۡيَعۡمَلۡ عَمَلٗا صَٰلِحٗا وَلَا يُشۡرِكۡ بِعِبَادَةِ رَبِّهِۦٓ أَحَدَۢا

「自分の主との出会いを望む人は、(神のみのために誠実に)義の行いを続け、礼拝においていかなるパートナーも神に帰すべきではありません。」 (クルアーン、18章、110節)

この聖句は、神のために[善行]を行っているが、[同時に]人々からの賞賛[感謝、認識、およびそれに伴う世俗的な物質的利益]を望んでいる人々のために啓示されました。 ハサン(神に憐れみあれ)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のこのハディース・クッシ(その源を神に帰した預言的な語り)について言及し、彼は次のように述べています。 私はそれを、私が愛する私のしもべの中からその人の心に与えます。」 (イマーム・アブル・カシム・アル・クシャイリの著書「*al-Risala Qushairiya*」アリ・イブン・アビ・タリブより [神が彼を喜ばれますように])

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。


مَامِنْ عَبْدٍيُخْلِصُ لِلّٰهِ الْعَمَلَ اَرْبَعِيْنَ يَوْمًا اِلَّا ظَهَرَتْ يَنَابِيْعُ الْحِكْمَةِ مِنْ قَلْبِهِ عَلٰى لِسَانِهِ

「40日間、純粋に神のために自分の行動を清める[神の]しもべは、知恵の泉が心から舌に湧き出る(この誠実さの結果として)」。 (ナレーション: *ハディース集 イブン・アディ アブ・ムーサの権威に基づく* [神が彼を喜ばれますように])

イスラエルの子供たちの伝統には、礼拝者は長い間神の礼拝に忙しかったと書かれています。 ある時、何人かの人々が彼のところに来て、「ここには神の代わりに木を崇拝する国がある」と言いました。 これを聞いて崇拝者は怒り、斧を手に取り、木の根元から切り落とそうと木に向かって歩き始めました。 途中、彼は実際にサタンに変装した老人に出くわし、「どこへ行くのですか?」と尋ねました。 彼は「この木を切り倒したい」と言いました。 サタンは答えた、「あなたはそれと何の関係があるのですか? あなたは理由もなく礼拝を離れ、[敬虔な]婚約を終えました。」 崇拝者は「これも礼拝だ」と言いました。 サタンは「いかなる状況でも、この木を切ることを許すことはできません」と言いました。 そう言って、自分を地面に投げつけて胸の上に座った崇拝者と格闘を始めた。 サタンは「私を手放してください、私はあなたに何かを伝えたいのです。あなたが私を手放すとあなたに利益をもたらすことを伝えたいのです」と言いました。 礼拝者は立ち上がった。 サタンは彼に言った、「神はあなたにこの木を伐採する義務を負わせたわけでもありませんし、この木を崇拝するこの国を導く責任もあなたにあります。 世界には神の預言者がたくさんいますが、神が望むなら、預言者を送ってこの木を伐採させることができます。」 参拝者は「この木を必ず切ってあげる」と言いました。 サタンは交渉が役に立たないのを見て、戦闘(戦い)を宣言しました。 こうして二人の間で再び戦いが始まり、崇拝者は再び彼を倒し、地面に平らに倒し、胸の上に座りました。 サタンは、出口がないのを見て、「あなたにとってもっと良いことを言いたいのです」と言いました。 崇拝者は彼に言いたいことを言ってほしいと頼んだ。 サタンは崇拝者にまず胸から出るように頼み、彼は従いました。 サタンは言った、「あなたは貧しい人間で、貧しい人間です。 あなたには何もありません! あなたはあなたのニーズを満たす人々の重荷です。 あなたの心は、兄弟を助け、隣人をよく扱い、お腹いっぱい食べるのに十分な財産を持ち、人々を必要としなくなり、彼らの支援のために自給自足できるようにしたいと願っています。」 崇拝者は「それは確かに私の心の願いです!」と言いました。 サタンは言った、「もしこれが問題なら、家に帰っ

てください。 毎晩、あなたのベッドサイドに2*ディナール*(金貨)を置きます。 そのお金を自分自身と家族に使うことができます。 これは、私があなた方に提示したあなた方と他のイスラム教徒にとって、その場所にとどまるこの木を伐採するよりも良い提案です。 この木を伐採しても、崇拝者に損失はもたらさず(崇拝する別の木が見つかるので)、その木を保持してもイスラム教徒には利益がありません。」 礼拝者はサタンからのこの提案を熟考し、心の中でこう考えました。 私は[神の]預言者ではないので、この木を切る必要もありませんし、切り取らなければ罪を犯すことになるように、神は私にこの木を切るように命じたわけでもありません。 老人の提案の方が有益です!」 そこで、彼は老人(変装したサタン)と取引をし、木を伐採しないと誓いました。 その後、彼は礼拝所に戻り、そこで夜を過ごしました。 朝、彼は約束通りベッドサイドに二*ディナール*が置かれているのを見ました。 2日目も同じことが起こりました。 3日目になっても、彼は何も見つかりませんでした。 彼はとても怒り、その状態で斧を手に取り、肩に乗せて歩き始めました。 途中、彼は「どこに行くつもりですか?」と尋ねた同じ老人に変装したサタンに出くわしました。 礼拝者は「あの木を伐採するよ!」と言いました。 サタンは言った、「神よ! あなたは嘘つきです! そこに行くことも、その木を伐採することもできません!」 これを聞いた参拝者は老人を捕まえて地面に投げつけようとした。 サタンは「(あなたにはできると)このような考えをしてはいけない」と言いました。 その後、サタンは崇拝者をつかみ、地面に投げつけて胸の上に座り、崇拝者は両足の間に閉じ込められた鳥のように羽ばたき始めました。 崇拝者は自分のレベルを最善を尽くしましたが、自由になることはできませんでした。 彼は諦めて「行って、私が以前どのようにあなたを克服したか、そして今回どのようにあなたが私をどのように克服したかを教えてください」と言いました。 サタンは言った、「初めて、あなたは神のために怒りを強め、あなたの意図は来世であり、世俗的な利益や利益ではありませんでした。だからこそ、神は私をあなたに服従させました。 今回、あなたは低次の自己と世界(世俗的な利益)のために怒ったので、私はあなたに打ち勝ったのです!」 この出来事は、神の次の言葉を裏付けています。

وَلَأُغْوِيَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٣٩﴾

إِلَّا عِبَادَكَ مِنْهُمُ الْمُخْلَصِينَ ﴿٤٠﴾

「[サタンは言った:]私は、誠実な彼らの中に誠実なあなたのしもべを除いて、彼ら全員を一緒に誤解させます。」 (クルアーン、第15章、39-40節)

人間は、サタン[とサタンの罠、ほのめかし、陰謀、人間の命の破壊]を[神への]誠実さによってのみ取り除くことができます。

誠実さの現実: すべてに他のものが混ざり合っていると想像できます。 何かが欠けて他のものから浄化されたとき、それは「純粋」と呼ばれ、その浄化をもたらす行為は「誠実」(*イクラス*)と呼ばれます。 私たちは意図の現実を説明しましたが、その議論の核心は、意図とは、自分の目的に適した原因(または扇動者)の動きであるということです。 原因が 1 つであり、その行為がこの 1 つの原因によってのみ実行された場合、その原因が自分の目的と調和している限り、それは誠実さと呼ばれます。 「誠実」という言葉は、神の近くを求めるためだけに行われ、神以外のすべてのものの不純さを完全に欠き、浄化された行為に特に使用されます。 行為の原因が誇示である人は、[霊的]破壊の危険にさらされています。 ここで私たちは、神との親密さを求める意図(ニヤ)のために動く[または扇動する]原因[または扇動者]が、この第二の原因が誇示(リヤ)からであるか、見せびらかさないことからであるかにかかわらず、その中に別の原因が混ざり合うこと(*最初の*原因)について議論したいと思います。

その例は、神の親密さを求める意図で断食するが、その目的は[健康関連の]予防を守ることでもある人、または巡礼(*ハッジ*)を行う人、または巡礼に伴う[身体的]運動のために穏やかな気質を発達させるために[神の親密さを求める意図で]行う人、または[巡礼を行う]自分の国で置かれている危険から身を守るため、または遠ざかるため[巡礼を行う]人です敵から、または配偶者や子供にうんざりして、巡礼のために彼らから離れたいと願っている、または[長い仕事に関連する]婚約にうんざりした後、いくらかの安らぎを望んで[巡礼を行う]、または家を守るために起きている目的で、深夜または早朝(夜明け前)の祈り(*タハジュド*)を祈ります。 あるいは、自分の富と財産を守り、貪欲な人々の悪から身を守るために[神の親密さを求めるつもりで]知識を身につけたり、退屈のために教えや説教の集まりを組織したり、退屈して話すことの喜びを得たいと思ったりします。 または、精神的な旅行者(*スーフィー*)や学者を支援して、彼らが心の中で高い尊敬を抱いており、一般の人々も敬虔な人々を支持しているので敬意を持って見て寛大に扱ったり、書くことで手書きが継続的に改善されるためにクルアーンを書いたり、清めを行ったりします(*Wudu*)[神の親密さを求めることを意図して、また]清めをすることで体に心地よい安らぎを与えるため、またはお風呂に入る[再び、身体の純粋さで神の親密さを求める意図で]体臭を取り除くため、または預言的伝統を語り[神の親密さを求める意図で]人々に高い場所で自分の名前を口にさせるため、 またはモスク(*I'tikaf*)に住んでいる[神の親密さを求めるつもりで]家賃を節約したり、[神の親密さを求めるつもりで]

料理の努力から身を守るために断食したり、食べても何かを成し遂げられないと考えたり、物乞いの必要を満たしたりして[神の親密さを求めるつもりで]物乞いの必要を満たしている物乞いは、病気のときに人や親戚が訪ねるように頼んだり、病人を訪ねたり、人々がこれらの行為について言及し、一人を称賛し、そのせいで名声を得るためにこれらのことをしたりします。 これらすべての場合において、意図がこれらの[他の]目的のいずれかとともに神の近くを求めることである場合、その人の行動は誠実さの定義から外れ(つまり、その行動はもはや誠実なままではなくなる)、その行動が純粋に神のために行われたとは言えません。 むしろ、多神教や神以外のものと混ざり合うでしょう。

要約すると、世俗的な快楽からの快楽が、低次の自己がそれに傾き、それを望み、行動の中に居場所を見つけるようなものである場合、この喜びのために、誠実さは[悪影響]を受けます。 それは、人間は常に低次の自己と欲望の快楽に没頭しており、これらの快楽と欲望を欠いている行動や崇拝はめったに起こらないからです。 したがって、これらの行動や崇拝は誠実であると宣言することはできません[神のためだけに誠実に行われたわけではないので]。 したがって、純粋に神のためであるそのような瞬間をたった一つだけ達成すれば、その瞬間はその人の救いと安全に十分であると言われています。 それは、(低次の自己からの)不純物や快楽から心を浄化し、浄化することは極めて難しいため、誠実さの存在の希少性によるものであり、むしろ、純粋で誠実な行動は、その原因と原動力が神の近くを求めることに他ならないようなものです。 これらの快楽と欲望がこれらの行為の唯一の原動力であり原因であるならば、それらの行為を行う人はそれらの行為のために苦難に直面するでしょうし、これは明らかですが、これらの行為の意図が神に近づくことであり、これらの快楽への欲望もそれと混ざり合っている場合、その行為はもはや神のために純粋なままではありません。 [純粋に神のために行われるべきだった]行動に[世俗的な]快楽への欲望を加えることは、3つの形をとることができます:その追加は、結合、パートナーシップ、または協力の形をとり、これらの形式は以前に説明されました。

誠実さの意味は、行動には(利己的で邪悪で間違った意図や動機の)不純物が少なく多様であろうと、それを行う唯一の意図は神の近くにあり、他の原因はないということです。 このような純粋で誠実な行動は、神を愛し、来世への努力に没頭している人々からしか想像できず、食べたり飲んだりするのが好きではないほど、世の愛(世俗性)の余地が心に残っていません。 彼らの飲食の傾向は、人間の必要と人体の要求である自然の呼びかけを満たすようなものです。 同様に、食べたり飲んだりすることも、人間であることに対する人間の必要性と要求です。 彼らは、食べ物であるからといって食べ物

に傾倒するのではなく、むしろ食べ物が体にエネルギーと力を与え、それが神を崇拝し従う能力を与えるので、食べ物に傾倒します。 彼らは飢えの悪を取り除きたいと願っているので、食べる必要さえありません。 彼らの心は不必要な必要に傾倒せず、代わりに必要な量に満足し、それを神への道の必要性だと考えています。 自分の思考や行動のすべてにおいて神だけに焦点を当てている人は、食事をしたり、自然の呼びかけに答えたりするようなことをするときでも、その人の行動は純粋であり、すべての動きと静けさにおいて、その人の意図は正しいです。 したがって、この人は礼拝のための力を得て、将来の従順な行為のために体を休ませるために眠ります。 その場合、眠りも礼拝の行為となり、誠実な者(*ムクラシーン*)の地位が与えられ、この状態を持たない人は、行動における誠実な扉が閉ざされます。 そのような人から誠実さが明らかになることはめったになく、そうでなければ一般的に言えば、人の崇拝はすべて世俗的な目的のためです。 神と来世の愛が支配的な人は、その効果の支配によってすべての動きと静けさが誠実になり、その人のあらゆる行動が誠実に現れます。 一方、世の愛、世俗的な権力、統治が支配している人がいますが、そのような人は神以外のものに対する全体的な傾向を持っており、この[神以外の欲望の]内なる性質は、人のすべての動きと静けさを支配し、祈りのような崇拝はありません。 断食と慈善活動は、それから守られたままです。

誠実さの欠如の治療法:この詳細から、誠実さの欠如は病気であり、その治療法は、低次の自己(*ナフス*)の快楽を根絶し、世界との貪欲を断ち切り、来世に執着して心を支配し始めることであることがわかります。 そうすることで、人にとって誠実さは簡単になります。 人間が疲れや苦難に耐え、自分の考えが間違っていても、純粋に神のために何かをしていると考える行為がどれほどあるでしょうか。 このような自己欺瞞の理由は、この転覆の原因を知らず、自分の行動をすべての奇形を浄化したと考える誤解を持っているからです。 あるグノーシス主義者が30年間祈りを繰り返したのは、ある日、モスクに到着したとき、会衆の祈りがすでに始まっていたのに、1列目に席が見つからず、2列目で祈らざるを得ず、恥ずかしがり屋だったからです。 この出来事の後、彼は、人々が彼を(祈りの最前線に立っていることとして)見ていたので、彼が幸せになったので、1列目で祈ったことに気づき、それが彼が2列目に立つのを恥ずかしがり屋に感じた理由です。 この考えで、彼は[モスクでの]30年間の祈りが無駄になったことに気づき、それを繰り返す必要があることに気づきました[今回は純粋に神だけのためであり、下心やそれ以外の誰のためでもないことで、純粋に神だけのために祈りを捧げる]。 これは微妙な大惨事であり、誰もがそれを理解できるわけではありません。 人々が[敬虔な]行動で奇形から守られ続けることはめったになく、神から善を行う能力を与えられた人々だけが奇形に気づき、自分自身を守ることを考えるようになります。 怠慢

な人は、彼らの善行が来世で無駄になったことに気づくでしょう。 クルアーンの次の節は同じことを指しています。

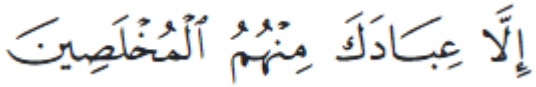
قُلْ هَلْ نُنَبِّئُكُمْ بِالْأَخْسَرِينَ أَعْمَالًا ﴿١٠٣﴾

ٱلَّذِينَ ضَلَّ سَعْيُهُمْ فِي ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَهُمْ يَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ يُحْسِنُونَ صُنْعًا ﴿١٠٤﴾

「彼らに(預言者ムハンマドよ!)言ってください。『行動に関して完全に失われている人々について話すべきでしょうか? 彼らは、この世での努力が無駄になり、善行をしているという[誤った自己欺瞞的な]考え(思い込みと推測)を持っている人々です。」 (クルアーン、第18章、103-104節)

この大惨事の最大の標的は[宗教]学者またはスコラ神学者(*ウレマ*)です、なぜなら、ほとんどの学者は信仰を広めるために働いており、彼らは[他の大多数の人がしていないことをしているから]他人を支配することに喜びを見出し、[他の人の心を支配する]力を持ち、従うことに幸福があるからです。 そして、賞賛と感謝は喜びで心を跳ねさせます。 サタンは、この[説教]の問題を彼らにとって疑わしいものにし、[心のほのめかしによって彼らに、社会における自分の立場を誇りに思い、傲慢にさせる]、「あなたの目的は、神の道を広め、預言者ムハンマド(彼に神の平安と祝福あれ)に啓示された神の律法を守ることです」と言います。 一般大衆と政府指導者の改革に向けて働くことが自分の好意であると考える説教者が周りにはたくさんいますが、人々が彼らの意見に耳を傾け、彼らのアドバイスに従って行動するとき、彼らの幸福は限界を知りません。 神が神の道と創造の改革を助けるために彼らを選んだので、彼らが幸せであるというのが彼らの主張ですが、彼らの状態は、単純な心の人々が彼らのような他の学者のところに行って恩恵を受けると、悲しみと嫉妬が彼らを殺すようなものです。 もし彼らの目的が人々に忠告し、助言することであったなら、神はそれを他の人に転嫁することで彼らを大きな責任から救い、繊細で危険な義務から彼らを守ってくださったので、彼らはそのことに感謝したでしょう。 サタンはこの時も彼らを放っておかず、「あなたが悔い改める本当の理由は、あなたが神の道の伝播、知識の保護、被造物の改革という神の報いを奪われたからだ」と告げる。 この哀れな人は、神の決定の前に頭を下げることが、被造物を導くことによって得られるものよりもはるかに大きな神の報いがあることを知りません。 サタンと低次の自己の欺瞞に気づき、自分の低次の自己を[誠実さの有無について]テストし続ける人々だけが、このテストに忍耐します。 それにもかかわらず、誠実さ(イクラス)の現実を知り、それに基づいて行動することは深い海です。 多く

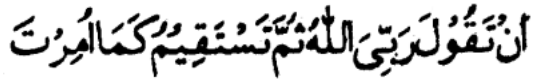
の人がそれに溺れ、そこから救われることはめったにありません。 これらは、例外として次の聖句で言及されている人々です。



「[サタンは神との会話の中で、アダムの創造(神の祝福と平安あれ)の余波で、天使とサタンに自分の前にひれ伏せなさい、サタンがあからさまに従うことを拒否し、サタンを永遠に慈悲から遠ざけるという神の戒めの余波で、すべての人を誤解させるだろうと言っています。誠実な人(純粋に神のためであり、誰のためでもない)のために物事を行う人)を除いて下心や低次の自己からの欲望)からあなたのしもべたち(私(サタン)が影響を与えることができないのは彼らだけです)から」と述べています。 (クルアーン、15章、40節)

[神の]しもべは、不注意な状態でサタンの追随者にならないように、これらの微妙な事柄に深く目を光らせなければなりません。

誰かが預言者ムフマド(神の祝福と平安あれ)に誠実さについて尋ねたところ、彼はこう答えました。



「それは、あなたが『神は私の主です!』と言い、あなたが[神の]命じられたように[この信念を持って]しっかりと立つことによって、それを忍耐することです。」 (ナレーション: *ハディース コレクション ティルミディ*)

言い換えれば、あなたは低次の自己(*ナフス*)からの欲望を崇拝することも、低次の自己を崇拝するのではなく、ただ主を[一人]崇拝し、[神から]忍耐するように命じられているように、忍耐強く固く保ち続けてください。 この預言的伝統は、神以外のすべての人からすべての希望を断ち切ることをほのめかしており、実際には、これが誠実さ(*イクラス*) です。

誠実さを濁らせる危険と障害:誠実さを濁らせる危険(スポイラー)はたくさんあります。 これらの中には、顕在化するものもあれば、隠されているものもあり、弱さを伴っ

て現れるものもあり、強さで隠されているものもあります。 しかし、それらの程度の違いは例なしでは理解できないため、最初に誇示の例に言及します。 誠実さは、誇示や誇示によってより危険にさらされます。 たとえば、礼拝者は祈りに忙しく、最大限の誠実さをもって祈りを捧げています。 その間、数人または誰かが祈っているところにやって来ました。 サタンはそれを良い機会だと考え、そこにたどり着き、「あなたを見ている人々が良い印象を与え、あなたを正しいと考えてあなたを尊敬し、軽蔑したり、陰口を言ったりしないように、よく祈りなさい」と告げ始めました。 [心のほのめかしによってサタンから]これを聞くと、人は器官に[外側の]謙虚さを採用し、より静けさを持って祈り続け、祈りの中でより多くの外見の美しさを創造します。 これは、初心者のスピリチュアルな旅行者にも明らかな外見の誇示です。 これが第一度の誇示です。

第二の段階は、スピリチュアルな旅行者(崇拝者)がこの危険を認識し、それから身を守るための戦略を採用することです。 この霊的な旅人は、サタンに従わず、サタンに注意を払わず、代わりに、人々が到着する前と同じように祈りにふけり続けます。 サタンは[再び]善と義の装いを着て一人のところにやって来て、「人々はあなたに従い、あなたの足跡をたどり、あなたの一つ一投足に目を光らせます。あなたが何をするにしても、彼ら自身の行動に影響を与え、彼らはあなたのすべての行動を従う価値のあるモデルとして想像します。あなたがうまく行動すれば、あなたは彼らの[善行]に対しても神の報いを得るでしょう。 そして、もしあなたが自分の行動にたるみを感じたら、あなたは彼らの行動の[たるみ]に対しても責任を問われることになります。 したがって、他の人の前ではうまく振る舞う必要があります。 幸いにも、彼らは謙虚さをもって、そして彼らの[正しい]行動を美しくするために、あなたに従うかもしれません。」 この程度は、最初の程度よりも微妙で複雑です。 サタンの最初の工夫に騙されない人は、2番目の工夫に騙されることがあります。 これは、誠実さを無効にする誇示の[一形態]でもあります。 それは、謙虚さと[神の]崇拝の美化に人の目に善があり、人々がそれを奪われることを望まないのであれば、なぜ孤独にこの[崇拝の行為]をしないのでしょうか? さらに、他人の自分が自分よりも愛らしく、自分よりも他人の良さを望んでいることは受け入れられません。 それは、人をだまして信奉者を抱かせ、[その結果]人を誇示させている悪魔の勧告にすぎません。 従われることができ、自分自身に固執し(不正に屈しない)、心が照らされ、その光の光が他者に届き、彼らも[内側から]照らす人です。 その場合、従われることに対しては必ず神の報いを得るでしょうが、[先ほど述べた]悪魔の説得は単なる欺瞞的な勧告にすぎませんが、従う者は必ず従うことに対して神の報いを得るでしょうが、従われている人はこの勧告に[不当に]屈服した責任を負い、自分にもない特性を[欺瞞的に]示したために[神に]罰せられることさえあります。

第三度は、自分自身の低次の自己を試し、サタンの欺瞞に気づき、私的状態と公的状態(内面と外面)[霊的]状態の違いは単なる見せかけであり、私的な祈りは他人の前と同じであるべきであり、試みるときに自分自身と神の前で恥ずかしいと感じるべきであることを知ることです他の人のためだけに謙虚さを採用すること。 代わりに、孤独の中で自分自身に集中し、他人の前での祈りで生み出すのと同じ善と美しさを自分の祈りに創造するように努めるべきです。 これも隠された(秘密の)誇示の一形態ですが、人は孤独でよく祈り、他の人の前でよく祈ることができるため、明らかに実現されていません。 人と動物が目に平等になると、動物の前で自分の崇拝を美化しないのと同じように、他人の前でもそれをしてはいけないほど、誠実さはそこにあります。 誇示を避ける唯一の方法は、それが公的であろうと私的であろうと、創造物に対する傾向が石に対する傾向と同じであるべきであるということです。 これはサタンの極めて巧妙な欺瞞であり、そのことを知らされることはめったにありません。

第四の段階は、すべての程度の中で最も微妙なものですが、人が公共の集会で祈っているとき、サタンはその欺瞞に囚われないことを知っているので、謙虚さを身につけるように説得しないということです。 しぶしぶ、サタンは一人に、「神の威厳と威厳、そしてあなたが礼拝の前に立っている神の存在の神聖さについて熟考し、あなたが神に注意を払わない間に神があなたの心を見ているのを恐れなさい」と告げます。 これを聞くと、人はすぐに心に注意を払い、自分の臓器に謙虚さと謙虚さを採用し、たとえそれが純粋な欺瞞であっても、この行為は純粋な誠実さであると考えます。 それは、孤独の中で謙虚さと心の存在を取り入れ、特に公の集まりではなく、神の威厳について熟考したであろうからです。 この欺瞞から身を守る一つの方法は、公の集まりのように、孤独の中で神の記憶に心を忙しくし続けることです。 人が到着すると、孤独なときと心の状態が異なり、それまでは誠実とは思われないはずです。 人が見ているときと動物が見ているときの心が違う限り、人は誠実さの清らかさから遠ざかり、暗い夜に暗い黒い岩の上を這う暗黒のアリの這いよりも隠された誇示の隠された多神教で内面が汚れます。 預言者ムハンマドの伝統(彼に神の平安と祝福あれ)で言及されているように。 洞察力が深く、神から保護、成功、導きを与えられた人だけが、サタンから守られ続けることができます。 そうでなければ、サタンは神の礼拝を行うことを決意した人々を滅ぼそうと躍起になり、彼らに誇示を強要するまで、一瞬たりとも怠慢ではなく、大きなことにおいてもそうするだけでなく、むしろ(彼らを欺いて誇示するために)世俗的な事柄さえ惜しまないほど、神のしもべたちのあらゆる行動を厳しく監視します。

卓越性と真実の現実

真実の卓越性: 神はこう言われます。

رِجَالٌ صَدَقُوا۟ مَا عَٰهَدُوا۟ ٱللَّهَ عَلَيْهِ ۖ

「神と契約を結んだとき、(文字と精神で契約を果たすことによって)真実であったような[高い決意を持つ]人々がいます。」 (クルアーン、33章、23節)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。

إِنَّ الصِّدْقَ يَهْدِي إِلَى الْبِرِّ وَالْبِرُّ يَهْدِي إِلَى الْجَنَّةِ وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَصْدُقُ حَتَّى يُكْتَبَ عِنْدَ اللَّهِ صِدِّيقًا وَإِنَّ الْكَذِبَ يَهْدِي إِلَى الْفُجُورِ وَالْفُجُورُ يَهْدِي إِلَى النَّارِ وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَكْذِبُ حَتَّى يُكْتَبَ عِنْدَ اللَّهِ كَذَّابًا

「真実(*シドク*)は人を正義に導き、正義は人を楽園に導きます。 そして、[高い決意を持つ]人は、神の前で真実(シッディーク)として書かれるまでは、[言葉、考え、行動において]真実です。 そして、偽りは人を悪に導き、悪は人を地獄に導きます。 そして人は、神の前で嘘つきとして書かれるまで嘘をつきます。」 (ナレーション: *ハディースは*、アブドゥッラー・イブン・マスード[神が彼を喜ばれますように]の権威に基づいて、*サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム*を収集しています)

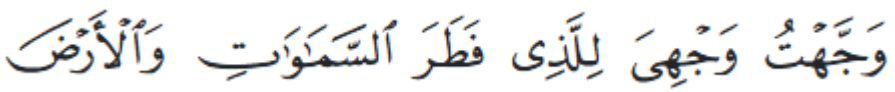
アブドゥッラー・イブン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、「人が持っているなら、救いを得る4つの資質があります。誠実さ、内気さ(謙虚さ)、美しい内面の性格特性と資質、そして感謝の気持ちです」と言いました。 ムハンマド・イブン・アリ・カナフィ(神が彼に憐れみあれ)は、「私たちは、神への道は、第一に真実、第二に真実、第三に正義と公平という3つの要素に基づいていることを発見しました。 正義は心に関係します。真実は器官に関係し、真実性は知性に関係します。 神は預言者ダビデ(神の祝福と平安あれ)に「自分の内なる存在(*バティン*)で私を確認する者、私はすべての創造物の前でその人を公に確認します」と明らかにしました。 シブリ(神の憐れみあれ)の[霊的]集会にいた一人の男が[*ワジド*または霊的な恍惚の状態で]叫びながら立ち上が

り、すぐにチグリス川に向かって走って飛び込みました。 シブリ(神の憐れみあれ)は、「もしこの男が真実であるなら、神は預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)に救いを与えたように、彼に救いを与えるでしょう。そして、もし彼が嘘つきであるなら、 [世俗的な動機のために人々の目に良く見えるように霊的なエクスタシーの状態を装って]、 神はファラオを溺れたように彼を溺死させるでしょう」。 ワハブ・イブン・ムナッベ(神が彼に憐れみあれ)は言った、「私は律法の脚注に書かれた22の文章を見ました。イスラエルの子らの義人が集団で読んでいました。 それらの文章は、知識よりも有益な宝物はなく、知識よりも有益でない所有物はなく、怒りほど品位を傷つける血統はなく、[正しい]行動よりも美しくなる仲間はなく、無知よりも過ちを犯す友人はいない、神を恐れるほど大きな名誉はない、気まぐれを捨てることよりも優しい優しさはない、熟考に勝る行動はない、 忍耐に勝る敬虔な行為はなく、傲慢ほど屈辱的な悪はなく、柔らかさ(寛大)よりも柔らかい薬はなく、愚かさよりも苦痛な病気はなく、真理よりも正義志向の預言者はおらず、真実よりも教訓的な議論はなく、貪欲よりも屈辱的な貧困はなく、買いだめほど屈辱的な豊かさはありません。 健康に勝る人生はなく、純粋さよりも楽しい経済はなく、謙虚さよりも優れた崇拝はなく、満足よりも優れた禁欲はなく、沈黙よりも守る保護者はなく、死よりも近い不在はありません。」

真実の現実、その意味と程度: 真実性(*シドク*)という言葉は、言葉の真実性、意図の真実性、決意の真実性、決意の真実性、決意の真実性、決意の完成における真実性、行動の真実性、神の道(ディーン)のすべてのスピリチュアルなステーション(マカマット)を調査する際の真実性の6つの意味に適用されます). これら6つの意味において真実性に帰属する人は、真実である(*シディーク*、グノーシス主義者、または神の親密な人)[この説明は、これら6つの問題においてそれに従うことによって、その全体としての真実性が、人間の達成の頂点と、人間が達成できる最高の精神的ランクに導くことを示しています。 逆に、嘘と、欺瞞、不正、不正、憎しみなどのそのすべての症状に固執すると、人は最低の最下層の深いところへと下がり、完全な闇と悲惨な失敗につながります。そして、真実の程度はたくさんあります。 ある事柄に真実である人は、その事柄に関して真実と呼ばれ、その事柄に関しては真実であると呼ばれ、その事柄の中に真実が見出される。 次に、これらすべてのタイプについて説明します。

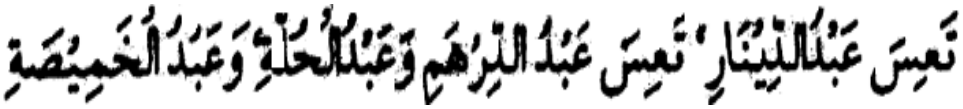
第一度の真実性は言葉にあります：この真実性は、ニュースを伝えることと、ニュース(または出来事)を伝えることに関する言葉です。 ニュースは過去だけでなく、現在や未来にも関係しています。 約束を果たすことも含まれます。 [神のしもべ、つまり人間]は、自分の言葉を守る義務があり、舌で言葉を発するときは、真実をもってそうしな

ければなりません。 これは最も明るく、最も明確なタイプの真実です。 自分の舌を[偽りから]守り、物事の現実に反するようなことを言わない人は「真実」と呼ばれるでしょう。 しかし、この真実性には2つの側面があります:1つは、ほのめかしによって伝えられた嘘は嘘ではないと言う人もいるので、ほのめかしを避けることです。 ほのめかしを避けることは、嘘の代わりとして使用されるため、この種の真実性の完成です。 嘘が禁止されているのは、(嘘の中で)事実に反する方法で物事が説明されるからです。 それにもかかわらず、舌(言葉)による真実の完成とは、あからさまな嘘や暗示(意図的に二重の意味を伝える言葉や、人々を間違った結論に導く微妙な嘘)から遠ざかることであり、第二の完全とは、何を言おうと、その意味にも配慮しなければならないということです。 たとえば、次の聖句を読んだ場合:



「私は天と地を創造された方に顔を向けました。 (クルアーン、第6章、79節)

しかし、[神への祈りによって上記の聖句を言いながら、しかし]自分の心が神から逸脱し、世俗的な欲望や希望にふけっているなら、この人は嘘つきです。 同様に、もし人が「あなただけが私たちが崇拝します」(クルアーン、第1章、5節)と言ったり、「私はあなたのしもべです」と言ったりしても、神への隷属という点では何もなく、代わりに、自分の低次の自己、世界、または世俗的な欲望を自分の神と見なす場合、 そうすれば、そのような人は自分の言葉では真実とは見なされません。 何かに隷属している人は、そのしもべになります[そしてその結果、真の自由を失います]。 イエス(神の祝福と平安あれ)は、彼の国の反抗者に「おお、世のしもべたちよ!」と呼びかけていました。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「破壊はディナール*(金貨)*のしもべ、破壊はディルハム*(銀貨)*のしもべ、 ドレスのしもべ、食べ物のしもべのためである」。 (ナレーション: *ハディース集 アブ・フライラの権威に基づくサヒー・ブハーリ [神が彼を喜ばれますように])*

この預言的な物語では、人々は自分が従属しているものに属しているとされています。 神の真の僕は、神以外の神から最初に解放される人です。 この自由を得た後、心は[神以外の]空っぽになり、神への奉仕の信念がしっかりと根付くでしょう。 この信念は人を神の愛に浸し、神以外のあらゆる投獄と罠から解放された後、その人の外側と内なる

存在は神の服従に忙しくなり、その人の目的は神以外のものとして残りません。 この霊的立場に到達した後、人は「解放」と呼ばれるより高い精神的立場に上昇し、言い換えれば、人は自分自身で神に対する意図を持つことから解放され、むしろ、神が人に意図するものが何であれ、それが親密であろうと遠くであろうと、人はそれに満足し、自分の意図は消滅します(*ファナ*)神の意図で。 そのような人は二度解脱します:1回目は神以外のものから解放され、2回目は自分自身の低次の自己(*ナフス*)から解放されます。 そのとき、人は*自分の低次の自己に関して*消滅し(ファナ)、自分の主に関して存在する(*バカ*または存在する)、つまり、主が人を動かすときは動き、神が人を静止させるときは静止したままになります。 もし神が人に災いを与えたとしても、人はそれに満足したままであり、何かを求めたり、望んだり、要求したり、懇願したり、反対したりする能力が残っておらず、むしろ、水浴び者(埋葬前に死体を洗う儀式を行う責任がある人)の手にある死体のように神の前に立つことになります。 これは、神への隷属における真実の強さです(***Sidq fi al-'Uboodiyyah***)。 真理の人とは、自分の低次の自己のためではなく、主のために存在する人です。 これはグノーシス主義者、または神の友人であり親密な人(*シディキーン*)の程度であり、神以外の人からの解放は神の友人や親密な人の仲間入りであり、その後、神への隷属が達成されます。 この学位以前は、誰も*サディク*(真実または真実に捧げられる)と呼ぶことはできません。

第二の真実性は意図と意図にあります: 意図と意図の真実性の核心は誠実さです。 言い換えれば、[神の]しもべは、一人のあらゆる行動、あらゆる動きや静寂においてのみ、神に対する意図を持っています。 低次の自己(*ナフ*)の快楽がそれと混ざり合うと、意図の真実性は無効になり、そのような人は嘘つきと呼ばれることができますが、預言者のナレーション[預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)]の誠実さについて、学者は審判の日に自分の知識に従って行動したかどうかを学者に尋ねられると言われています1人が達成した仕事。 神はそれに対して、「あなたは嘘をついている。むしろ、人々があなたを『学者』と呼んでほしいと願っていたのです」と言うでしょう。 ここでは、学者の行動は反論されたり否定されたりせず、代わりに、その人の意図が反論されました(純粋に神のためにそこにあったわけではないので)。 あるグノーシス主義者は、意図における神の統一の健全性(完全な臨在)は、(世俗的または下心的な利己的な動機ではなく、純粋に神のためであるという点で)真実であると言いました。 真実性の一つの意味の結論は、意図は純粋であるべきであり、それがまさに誠実であるということです。 誠実な人は誠実であることが必要です。

第三の真実性は決意にあります: 時々、人は何かに対して決意を持っていて、[たとえば]心の中でこう言います。もし神が私に[政府の]権威を与えてくださるなら、私は公正かつ正義を持って公的な責任を果たし、抑圧を犯したり、被造物(人々)に対して不公平で偏った態度をとったりして神に逆らうことはありません。」 一人の決意(*Sidq fi al-'Adhema*)の誠実さは、決意(達成したいことに対する)強く、意図がしっかりしています。 これらの意味で「真実」と言うとき、それは善に関連する事柄において(悪とは関係なく)決意が完全で強く、そこに逸脱(方向転換)、弱さ、躊躇がない人を指します。

第四の真実性は、決意を果たすことにあります:時には、そうするのにそれほど[努力]はかからないので決意を下しますが、その決意に従って行動する時が来て、それを実行する能力も持っているとき、低次の自己(ナフ)からの欲望[と欲望]が力を得ます。 すべての決定が取り消される原因となります。 この状況は、決意を果たす上での真実性に反します。 神はこう言われます。

رِجَالٌ صَدَقُوا۟ مَا عَٰهَدُوا۟ ٱللَّهَ عَلَيْهِ ۖ فَمِنْهُم مَّن قَضَىٰ نَحْبَهُۥ وَمِنْهُم مَّن يَنتَظِرُ ۖ

「神と契約を結び、それを果たした人もいますが、彼らはその点で誠実でした。 そして、彼らの中には、誓いを終えた人もいれば、誓いを果たすのを待っている人もいます。」 (クルアーン、33章、23節)

神との契約に違反した人も何人かいて、彼らについて次の聖句が明らかにされました。

وَمِنْهُم مَّنْ عَٰهَدَ ٱللَّهَ لَئِنْ ءَاتَىٰنَا مِن فَضْلِهِۦ لَنَصَّدَّقَنَّ وَلَنَكُونَنَّ مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿٧٥﴾

فَلَمَّآ ءَاتَىٰهُم مِّن فَضْلِهِۦ بَخِلُوا۟ بِهِۦ وَتَوَلَّوا۟ وَّهُم مُّعْرِضُونَ ﴿٧٦﴾

فَأَعْقَبَهُمْ نِفَاقًا فِى قُلُوبِهِمْ إِلَىٰ يَوْمِ يَلْقَوْنَهُۥ بِمَآ أَخْلَفُوا۟ ٱللَّهَ مَا وَعَدُوهُ وَبِمَا كَانُوا۟ يَكْذِبُونَ ﴿٧٧﴾

「彼らの中には、神が神の恵みから彼らに[多くの富]を与えてくださるなら、彼らは慈善活動に惜しみなく費やし、[その富で]多くの正しい行いを行うと神と誓う人もいます。 ですから、神が彼らに恵みを与えたとき、彼らはそれにケチになり、そのような逸脱に慣れています。 それゆえ、神は罰として、彼らの心の中に偽善を定め、それは彼らが神との契約を破ったという理由と、彼らが嘘をついていたという理由で、彼らが[死後神のもとへ]帰る日までそこに残るでしょう。」 (クルアーン、第9章、75-77節)

ここでは、決意は契約として、契約の違反は嘘として、契約の履行は真実として解釈されています。 この真実性は、時には低次の自己(*ナフス*)が決意を下すが、行動する時が来ると、欲望のかき立てとその手段の利用可能性が、決意(決意)を達成し、実行することを思いとどまらせるため、第三の真実性よりも強い。 アブ・サイード・アル・ハザーズ(彼に憐れみがありますように)は夢の中で二人の天使が天から降りてくるのを見て、「真実性(*シドク*)とは何ですか?」と尋ねました。 彼は「契約を果たすことが真実である」と答えました。 天使たちはそれを確認し、天に昇りました。

第5度の真実性は行いと行動にあります:行動(または行い)における真実性とは、自分の外的な行動が、自分の内なる存在にさえ持っている何かを支持して[誤って]主張しない状況を避けようと常に努力することです。 行動の真実性は、行動(または行い)が放棄されるべきであることを意味するのではなく(自分の真の内面の現実と比較して外側に現れるものの偽善への恐れのため)、むしろ自分の内面(*バティン*)が外側の存在(*ザヒル*)*を確認するようなものであるべきです。* 派手な人とは、自分の[外見の]行動が示すものに基づいて、賞賛に値する内面の資質に恵まれていると人々に考えてもらいたい人のことです。 祈る人の多くは、祈りの中で謙虚な姿をしていますが、その目的は人々に見てもらうことではありませんが、祈りの間、彼らの心は[神に]注意を払いません。 それらを観察している人は、自分が神の前に立っていると思います[神の威厳の前で謙虚さと従順な状態で祈りを捧げているが、自分の内なる存在の中で市場に立っていて、何らかの欲望に浸っている。 行為や行いは、その存在の状態から、彼らの内なる存在の[知覚された]状態を反映していますが、実際には、それは彼らの内なる存在の[真の]状態ではありません。 したがって、彼らは嘘に没頭し、行動の真実性が要求されます。 内面には落ち着きも静けさもないにもかかわらず、非常に落ち着き、静けさ、威厳を持って歩く人もいます。 これらの人々は、創造物に傾倒しておらず、派手な誇示が目的でもないにもかかわらず、行動においても誠実ではありません。 その人だけが、内面と外側の存在が同じであるか、内面の存在が外側の存在よりも優れている行動の虚偽から保護され続けることができます。 この[偽善と誇示への]恐れのせいで、誰も自分の外見を使って自分の内面の善を主張できないように、自分の外見を悪いものとして、服を埃っぽく保ちます。 内面が外見に見合って良くなく、人々が彼らを良く考えているなら、それは嘘です。 外なる存在が意図的に内なる存在と反対である場合[お世辞の悪い内面の現実に反して、外側は良く見えるように]、それは誠実さを根絶する誇示と呼ばれ、意図せずにそうした場合、真実性は失われます。 真実とは、外側と内側の存在が互い

に調和し、調和しているということです。 この詳細から、この外側と内面の調和も一種の真実であることがわかります。

第六度の真実性はスピリチュアルなステーションにあります:これは非常に高く、まれな程度の真実性です。 それは、[神への]恐れと[神への]希望、[神への]神聖さ、[人の目から見た]神の神聖さ、[世俗性からの]禁欲、[神の意志を受け入れる]、神への信頼、神への愛など、*神の道*(ディーン)の霊的なステーション(*マカマット*)に関連しています。 人々が真実性の要素を持っているとき、そしてこれらの要素が[これらの霊的立場の現実の達成という形で]明らかにされるとき、この用語(精神的立場における真実性)が彼らに当てはまります。 これらの要素に加えて、[これらの霊的立場における真実性の]いくつかの意味と現実があります。 これらの事柄の現実に到達する人は、完全に真実な人です。 何かが一つの中で支配的になり、その現実が一つの中で完成されるとき、それに恵まれた人は真実と呼ばれます。 たとえば、霊的な努力では、ある人は真実である、つまり、精神的な努力が1つで支配的であると言われています。 あるいは、神を恐れることで、ある人は真実であると言われる、言い換えれば、神を恐れるという現実は一つで完成する。 神はこう言われます。

لَّيْسَ ٱلْبِرَّ أَن تُوَلُّوا۟ وُجُوهَكُمْ قِبَلَ ٱلْمَشْرِقِ وَٱلْمَغْرِبِ وَلَٰكِنَّ ٱلْبِرَّ مَنْ ءَامَنَ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ وَٱلْمَلَٰٓئِكَةِ وَٱلْكِتَٰبِ وَٱلنَّبِيِّۦنَ وَءَاتَى ٱلْمَالَ عَلَىٰ حُبِّهِۦ ذَوِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْيَتَٰمَىٰ وَٱلْمَسَٰكِينَ وَٱبْنَ ٱلسَّبِيلِ وَٱلسَّآئِلِينَ وَفِى ٱلرِّقَابِ وَأَقَامَ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَى ٱلزَّكَوٰةَ وَٱلْمُوفُونَ بِعَهْدِهِمْ إِذَا عَٰهَدُوا۟ ۖ وَٱلصَّٰبِرِينَ فِى ٱلْبَأْسَآءِ وَٱلضَّرَّآءِ وَحِينَ ٱلْبَأْسِ ۗ أُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ صَدَقُوا۟ ۖ

「義とは、顔を東や西に向けることではありません。 代わりに、義とは、神と裁きの日と天使と[神が啓示した]書物と[神の]預言者に確信を持ち、神の愛のために、親戚、孤児、貧しい人、旅人[旅行の結果として自分の富や財産から離れ、貧しい]旅人に[人道的努力と慈善活動で]富を与えることです。 要求者(必要から助けを求める人)は、投獄された人々を解放し[その時点から悪を捨てて正しい生活を送ることを条件に、彼らが不当に扱った人々に補償することによって彼らを救済するため]、そして[そのような]人は定期的に祈りを捧げ、強制的な貧しい支払額(*ザカート*)を支払い、契約を履行します(約束、 誓い、約束)契約が結ばれるとき。 そして、これらの人々は、貧困(苦難)、病気、戦争(侵略者によって課せられた場合)に辛抱強く耐える人々です。 彼らは真実な人たちです。」 (クルアーン、第2章、177節)

真実の程度:この説明全体の結論は、これらの[さまざまな]霊的ステーションには数え切れないほどの程度の真実性があるということです。 [神の]しもべは、ある事柄では誠実さを持っていても、他の事柄では真実ではないことがあります。 すべての事柄において真実であるなら、そのような人は現実において真実です(*シディーク*)。 神が預言者モーセ(彼に神の祝福と平安あれ)に「わたしが自分のしもべを私の最愛の人にするとき、私はその人にそのような苦難と苦難を送ります。もし彼らが山に送られたとしても、彼らはそれに耐えられないでしょう。 そして、わたしの苦難に真実さを受け入れる方法がわかります。 もし人が忍耐を働かせれば、私はその人を私の友人であり最愛の人にし、もし誰かが大騒ぎして私についての被造物に文句を言うなら、私はその人を恥じ、そのような人のことは気にしません。」 真実性のしるしは、苦難と[神への]従順の行為の両方が[人々の目と知識から]隠されており、被造物がそれらに気付くことは悪いことだと考えることです。

第18章 – あらゆる欠点、否定性、悪徳に自分自身を課すための自己省察と自己評価

正直かつ客観的に自己評価し、自分自身や他人に対して犯された行き過ぎに対して自分自身を責めることによって、自分の行動を詳しく見つめることは、人間の核の完璧さへのスピリチュアルな道を前進させるために不可欠な、神の導き、正義、公平性、自己改革、魂の浄化を求める途方もない方法です。 吟味されていない人生は、同じ過ちや悪行を何度も繰り返すのを見ます。 一方、自分自身の欠点、欠点、間違い、悪行を見つけるための批判的な自己評価は、まず自分自身のために、次に仲間の人間のために物事を良い方向に好転させるための道です。 相互関係を改革し、強化し、人々と国家間の調和と平和を促進します。 人間が求める平和は内側から始まり、自己評価はそれを自分の内側から始まります。 自己評価と自分自身を任務に取り組むことは、真実の道を歩むスピリチュアルな旅行者にとって不可欠な資質であり、個人レベルと集団レベルの両方で改革に不可欠なツールです。 ガザリは、第4巻の第8章または本の最高*傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」で、この主題について洞察力に富んだ説明を提供しています。 ここでは、次のように要約された形式で提示します[24]。

自己検査(*ムラカバ*)と自己評価(*ムハサバ*)の解説

高貴な神はこう言われます。

وَنَضَعُ ٱلْمَوَٰزِينَ ٱلْقِسْطَ لِيَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ فَلَا تُظْلَمُ نَفْسٌ شَيْـًٔا ۖ وَإِن كَانَ

مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِّنْ خَرْدَلٍ أَتَيْنَا بِهَا ۗ وَكَفَىٰ بِنَا حَاسِبِينَ

「審判の日には、誰にも不正が加えられないように、バランスの尺度が確立されます。そして、もしその人の[善行、敬虔、正義の]行いがからし種ほどの大きさであるならば、われはそれをそこに提示し[世俗生活における善行が集まった悪行を上回るかどうか、あるいはその逆であるかどうかを確認するために]、われはすべての人に責任を負わせ、[世俗滞在における彼らの行いや悪行について、それに応じて絶対的な正義と公平さで報いる]のに十分である。」 (クルアーン、21章、47節)

وَوُضِعَ ٱلْكِتَٰبُ فَتَرَى ٱلْمُجْرِمِينَ مُشْفِقِينَ مِمَّا فِيهِ وَيَقُولُونَ يَٰوَيْلَتَنَا
مَالِ هَٰذَا ٱلْكِتَٰبِ لَا يُغَادِرُ صَغِيرَةً وَلَا كَبِيرَةً إِلَّآ أَحْصَىٰهَا ۚ
وَوَجَدُوا۟ مَا عَمِلُوا۟ حَاضِرًا ۗ وَلَا يَظْلِمُ رَبُّكَ أَحَدًا

「[審判の日に][識別の年齢に達した後、すべての人のために常に集められる]行為の記録が前に置かれるとき、あなたは犯罪者がそこに書かれていることを恐れて言うでしょう。『私たちに災いあれ! この行為の記録は非常に奇妙で、それが小さな罪であろうと大きな罪であろうと、記録されることを惜しまず、彼らが[世俗的な生活で]行ったことは何であれ、彼らはそれがそこに存在していることに気付くでしょう、そしてあなたの主は誰も不正を行ったり抑圧したりしません。」 (クルアーン、18章、49節)

يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ ٱللَّهُ جَمِيعًا فَيُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوٓا۟ ۚ أَحْصَىٰهُ ٱللَّهُ وَنَسُوهُ ۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ شَهِيدٌ

「神がすべての人を復活させる日には、(世俗的な生活で死んだ後、すべての人を生き返らせることによって)その日、神は彼らがしたすべてのことを彼らに告げられるでしょう。 神は、これらの人々が[世俗滞在中の行いと悪行に関して]忘れていたすべてを保存してくださいました。 そして神は、すべてのもの(善か悪かにかかわらず、この世で秘密裏に行われるか公然となされるか)の証人です。」 (クルアーン、第58章、6節)

يَوْمَئِذٍ يَصْدُرُ ٱلنَّاسُ أَشْتَاتًا لِّيُرَوْا۟ أَعْمَٰلَهُمْ ٦
فَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُۥ ٧
وَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُۥ ٨

「その[審判の]日には、人々はグループで戻ってきて、全員が自分の行い(世俗的な生活

で行った)を見ることができます。 ですから、一粒の善行をした人はそれを見るでしょうし、一粒[重り相当の]悪を行った人もそれを見るでしょう[したがって、誰もこの世で行われた善悪を当然のことと考え、何の意味もないと考えるべきではありません。 (クルアーン、第99章、6-8節)

ثُمَّ تُوَفَّىٰ كُلُّ نَفْسٍ مَّا كَسَبَتْ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ

「そうすれば、誰もが自分のしたことに対して完全な補償を受け、その中でいかなる種類の不正や不公平も受けることはないでしょう。」 (クルアーン、第2章、281節)

يَوْمَ تَجِدُ كُلُّ نَفْسٍ مَّا عَمِلَتْ مِنْ خَيْرٍ مُّحْضَرًا وَمَا عَمِلَتْ مِن سُوٓءٍ تَوَدُّ لَوْ أَنَّ بَيْنَهَا وَبَيْنَهُۥٓ أَمَدًۢا بَعِيدًا ۗ وَيُحَذِّرُكُمُ ٱللَّهُ نَفْسَهُۥ ۗ

「その日(審判の日)には、誰もが目の前で行った善行と悪行に気づき、その日との間に途方もない距離を置きたいと思うでしょう。 そして神はあなたに神の[力強く、圧倒的で、すべてを包み込む]存在を恐れさせてくださいます[そうすれば、あなたは自分自身と他人に対するすべての過ちやあらゆる害をやめることができます]。 (クルアーン、第3章、30節)

وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِىٓ أَنفُسِكُمْ فَٱحْذَرُوهُ

「そして、神があなたがたの心に埋もれている秘密を知っていることを知り、確信しなさい。だから、神を恐れなさい[そして、あなたがたの心に埋もれている秘密についての神の知識と、あなたを止めて、あなたを彼らのために任務に連れて行ってくださる神の能力を恐れなさい]。」(クルアーン、第2章、235節)

これらの高貴な聖句に照らして、内なる洞察力を持つ人々(*バセラ*)は、神が御自分のしもべ(人間)を常に見守っておられることを学び、彼らは自分の行為に責任を負い、[彼らが世俗的な生活で行った]あらゆる小さなことについて尋ねられるでしょう。 彼らはまた、これらの危険から解放される唯一の方法は、低次の自己(*Nafs*)[そのすべての思考、感情、意図、言葉、行動、および存在の状態において]説明責任を負い、その行動を真実に監視し、低次の自己を任務に引き受けることによって、すべての呼吸とすべての動きに責任を負わせることであることも知っています。 なぜなら、もし人が[審判の日]に[神の]説明責任を負う前に、低次の自己の説明責任を負うことができれば、審判の日の説明責任は減少し、[その日に尋ねられた]すべての質問に対する答えが事前に心に存在し、(神の裁きに基づく)最終的な目的が最善になるからです。 低次の自己(*ナフ*)に[思考、感情、意図、言葉、行動のすべてについて]責任を負わせない人は、常に後悔に囚われ、審判の日の責任の期間は長くなり、自分の罪(悪と不正行為)の屈辱に沈み、神の不快感を得るでしょう。 内なる洞察力のある人々は、審判の日の屈辱を防ぐ唯一の方法

は、神が従うように命じられたすべての事柄において神の従順であり、神は[逆境と欲望に対して]忍耐と[すべての悪、否定的、悪に対して]警戒を命じられたことを知っています。

彼ら(内なる洞察力を持つ人々)は、低次の自己を条件に服従させることによって見守り、その状態を[厳格に]監視し、それから責任を負わせ、次に[その悪行に対して]罰し、次に[その改革、精錬、浄化、そして神の臨在への昇天のために]霊的に努力し、次に[その罪に対して]厳格に対処しました。 したがって、彼らは6つの警戒ステーション(自己省察と自己評価)を通過しました。 この6つのステーションを解明し、この警戒心の現実と素晴らしさ、そしてそれを実現するために必要な行動を説明しましょう。 これらすべてのステーションの起源は、低次の自己(*Nafs*)をその状態の条件と監視にさらした後に達成される自己説明責任であり、説明責任が損失(低次の自己が犯した行き過ぎや過ち、その結果として自分の霊的生活、神聖な道、神の前に立つ損害)を明らかにした場合、それは不快感と罰にさらされます[それを正直の道に戻すために、 ガイダンス、洗練、および内部照明]。

低次の自己を精査する最初のステーション - それに条件を設定する: ビジネスや貿易に従事し、ビジネス商品のパートナーである人々、彼らの目的は利益に他なりません。 ビジネスパーソンが、まずビジネスの商品をパートナーに渡してビジネスを行うことで、自分のビジネスパートナーの助けを借りて、次に会計を行うのと同じように、知性は来世のビジネスパーソンであり、その目的は利益と呼べるものであり、自分の救いと成功がそれにかかっているので、魂の浄化です。 神はこう言われます。

قَدْ أَفْلَحَ مَن زَكَّىٰهَا ﴿٩﴾

وَقَدْ خَابَ مَن دَسَّىٰهَا ﴿١٠﴾

「まことに、それを浄化した人は成功[すべての害と損失からの救いと解放]を達成し、落胆した敗者はそれを[罪、悪、悪徳、過ち、そしてあらゆる形態の否定性で]破壊した人です。」 (クルアーン、第91章、9-10節)

自己は正義の行いによって成功し、解放を達成し、知性は、ビジネスパーソンが商取引を担当するビジネスパートナーから助けを受けるのと同じように、そしてビジネスパートナーと同じように、このビジネスにおいて自己から助けを得て、それを利用し、その浄化に依存する仕事のためにそれを征服します。 利益への欲求から、最初にいくつかの条件を課したいと考え、次にそれを監視し、次に会計処理を行い、会計に矛盾や不正が見つかった場合に影響を課します。 同様に、知性はこれら同じ4つの事柄を自己から求めます。 まず第一に、知性(知性)は、それ(自己)にいくつかの条件と義務を設定し、成功への道を示し、この道から逸脱せず、忍耐力を持ってそれを横断し続けるように指示する必要があるということです。 第二に、少しでも怠慢をすれば、それは(定められ

た任務から逸脱することによって)不正を犯し、実際の[事業投資]資本さえも無駄にしてしまうので、いつでもそれ(自己)を見守ることを怠ってはなりません。 自己は、ビジネス商品を任された不誠実な従業員のようなもので、商品と二人きりになっても不正行為を思いとどまらせません。 第三に、自己は、設定されたすべての条件を満たしているかどうかを確認するために説明責任を負う必要があります。 これはそのような取引であり、その利益は、楽園の形で、*そしてシドラトゥル・ムンタハ*(人間が到達できる神の前での霊的上昇の最高点)での預言者の交際という形で与えられます。 この取引の会計処理(説明責任)は、細部まで細かく見て綿密に行うべきであり、世俗的な利益はこれに比べて非常に取るに足らないものであるため、世俗的な利益のために行うことよりもその利益に目を光らせる必要があります。 さらに、世俗的な利益は、どんなに多くても、とどまりません。 善の中に永続的ではない何の良いものがあるのでしょうか?

したがって、神と終わりの日(審判の日)を信じるすべての人は、自分自身に説明責任を果たし、そのすべての動き、傾向、思考、喜びに厳格さを行使する必要があります。 永遠に終わることのない貴重な宝物を購入することができます。このような貴重な息(瞬間)を無駄にしたり、破壊的な行動に使ったりすることは、知的な人が耐えられないほど重大な損失だ。 ビジネスパーソンがビジネスパートナーと会ってビジネス商品を引き渡す前に条件を設定するのと同じように、朝の義務を終えた後、毎朝少し時間を過ごし、自分自身に条件を設定する孤独を採用する必要があります。 この会議で、知性は自己に「私には自分の人生以外に資本はない。それが無駄になったら、すべてを失い、貧困で剥奪されたままで、ビジネスをして利益を得る希望は残らないだろう。 今日は新しい日です、神は再び私に機会を与え、私の人生により多くの[時間]を与え、それゆえに私に大きな報酬を与えてくださいました。 もし私が死んでいたら、あと一日だけこの世に戻って、(この世に)戻ったときに良い行いをし、自分の過ちを償うことを望んでいたでしょう。 ですから、あなた[おお自己!]は自分自身を死んだと考え、[生き返った後]この世に送り返されたと考えるべきです。 注意！ この日を[間違った、または無駄な努力、またはまったく何もしない]ために無駄にしないでください。 [私が行う]すべての呼吸は、非常にエレガントな宝石であり、貴重です! おお、自分よ! 昼と夜(昼の間)には24の瞬間があり、昼と夜の間に24の宝物が[1つの前に]広げられていると預言的な語りで語られていることを知っておく必要があります。 これらの宝物の 1 つが目の前で開かれ、その宝物がその瞬間に行った義行の輝かしい光で満たされているのが見えます。 主権を有する雄大な支配者(神)に近づくための手段であるこれらの照明を目撃することは、人に途方もない幸福を与えます。 そして、悪臭と強烈な闇を持つもののために暗い宝物が開かれます。 それは、人が罪を犯し、その宝物を見て恐怖を感じるその瞬間の宝物です。 その後、眠っていたり、怠慢だったり、世俗的な仕事で忙しかった別の宝物が開かれます。 その宝物が空っぽになっているのを見て、人は後悔と剥奪感を感じ、大企業で大きな損失を被ったかのように、その損失を望めば避けられたはずであるにもかかわらず、非常に後悔します。 人生の瞬間のこれらの宝物は、生涯を通じて開かれるものであり、したがって、人は自分自身に「今日の宝物を埋める努力を

し、[永遠の]支配権を達成するための手段である善行の貴重な宝石を放置しないようにしてください。 怠惰、無気力、快適さを求めることを捨てて、あなたの支配権を奪われて他の誰かに引き渡され、後悔だけが残されないようにしてください。 たとえあなたが楽園に到達したとしても、怠惰によって被ったであろう損失は、たとえこの落ち着きのなさが地獄の落ち着きのなさよりも小さいとしても、あなたが平和を得ることを許さないでしょう。」 あるグノーシス主義者は、「罪は赦される可能性があるが、(罪が赦された後でも)義人の[崇高な霊的地位と]程度に達することはできないことを私たちは認めます」と言いました。

これは、時間を[有益な努力に賢く]使うことについての自己へのアドバイスでした。 その後、目、耳、舌、胃、陰部、手、足の七つの器官すべてについてアドバイスする必要があります。 人はこれらの器官の制御を自己に委ねるべきであり、「これらの器官は[あなたが支配している]あなたの臣民であり、この取引におけるあなたのしもべであり、この取引の頂点は彼らの協力によって起こるでしょう」と言うべきです。 地獄には7つの扉があり、すべての器官は1つの扉に結びついています。 これらのドアは、これらの器官によって神に従わない者のために任命されています。 人は、神に逆らうために[さまざまな罪、悪、過ちを犯すことによって]関連器官が使用されたドアから地獄に入るでしょう。 これらの臓器を罪や不正行為から守るように自分自身にアドバイスする必要があります。 たとえば、目が見ることが許されないものや間違っているものを見たり、誰かの私的なものを見たり、信者を軽蔑の目で見たりしてはいけない、むしろ[自分の世俗的またはあの世の利益のために]必要のないものを見ないように守るべきだと目に伝えるべきです。 なぜなら、神は無駄な話について質問するのと同じように、無駄な視線に対してもしもべに責任を負わせるからです。 それなら、これらの問題から目を抑えるだけでは十分ではなく、むしろ、この取引に役立つ問題に目を向けることも必要です。

これらの事柄は、神の被造物を[創造物に対する神の知恵と、創造主、陛下、栄光、知恵、力]を導き出す目で神の創造物を見たり、それらに従うことに関して正しい努力を見たり、神の書物や預言の道を見たり、その恩恵を受ける目的で知恵の書を研究したりするなど、彼らのために目が[神に]創造されたようなものです。 他の機関も同様の方法でその義務について知らされるべきであり、神の道(ディーン)に関連する取引に害を及ぼす事項から抑制されるべきです。 特に、舌と胃は自然に動き続け、舌は[言いたいことは何でも話したり言ったりして、結果を考慮せずにそうすることが多い]、その動きには苦労がないため、舌と胃に注意する必要があります。 陰口を言ったり、陰で文句を言ったり、内面の純粋さを主張したり、仲間の被造物を非難したり、批判したり、人の病気を祈ったり、他人に危害を加えることを祈ったり、冒涜的な言葉を発したり、下品な言葉を発したり、これらすべての問題において、舌の罪は非常に深刻です。 これらすべての事項は、「舌の害の書」(第4章)と呼ばれる章で説明されています。 舌は通常、これらの事柄を追いかけていますが、その創造の[神の]目的は神の記憶であり、被

造物に神の記憶に従事するようアドバイスし、教育的な議論に参加し、神のしもべに神への道について教育し(*ディーン*)、導きの道を示し(*ヒダヤ*)、何らかの問題で相互に敵意を抱いている二人のイスラム教徒[またはそのことに関しては誰でも]和解させ、[相互の平和と社会の調和を促進する]、 そして、同様の正しい事柄を[舌を使って邪悪で傷つける、有害な事柄を行うのではなく、舌を使って]行いなさい。 これはまた、信者のスピーチは神の記憶であり、人の目は[地球全体に散らばる神のしるしから、私たちの相互の取引の中で、 そして私たちの魂の中で]、そして[信者の]沈黙は[神の]崇拝であるべきです。神はこう言われます。

مَّا يَلْفِظُ مِن قَوْلٍ إِلَّا لَدَيْهِ رَقِيبٌ عَتِيدٌ

「近くに素早い監視者がいるとき、人は一言も発しません(*キラマン・カティビーン*あるいは、思春期を迎えたすべての人間に同行し、その人のすべての言動を自分の行為の記録に記録する責任があり、審判の日に神に提示され、その人を地上での人生の試練の成功または失敗として判断し、それに応じて永遠の命で報いる)は、それを記録する準備ができています。」 (クルアーン、第50章、18節)

胃は貪欲を捨てるように忠告され、許容される(*ハラール*)食品を少なく食べ、疑わしい食べ物を抑制し、欲望を止め、必要な量だけで満足するように訓練されるべきです(貪欲に食べるのではなく)。 この点で、自己は、胃に関する命令に違反した場合、胃のすべての欲望から[意図的な飢えによって]停止され、この方法で、そしてそれ以上の方法で達成した欲望を失うだろうと脅迫することができます。 すべての臓器は、[それらに適した]同様の条件で設定する必要があります。 さまざまな器官の罪は隠されておらず、その[神の]従順の行為も隠されていません。 したがって、条件は簡単に設定でき、すべての器官は罪の放棄と正しい行いの規則性によって訓練され、服従することができます。 その後、自己は日中に何度もこれらの[神の]従順の行為を思い出すことができ、次に、自分が豊富に行うことができる超性(オプションの)崇拝行為(*ナワフィル*)について自己に戒めるべきです。 超エロゲージ的な礼拝行為の性質と手段についての詳細は、自己のために明確に説明する必要があります。 これらの条件は毎日必要ですが、人間がそれらに慣れ、自己もこれらの条件を満たすことに協力するとき、これらの条件を設定し続ける必要はありません。 自己は怠慢と怠惰を恐れさせられ、自己は本質的に反抗的で、神の服従を軽蔑し、[神の]隷属から逸脱しているため、反抗的な人のように戒められるべきです。 しかし、戒めと懲戒は効果的です。 そのような条件を課すことは、自己の育成と育成の始まりの段階です。 これは、行動を行う前に説明責任を果たすために自分自身を任務に就かせることであり、この説明責任は行動の後に行われることもあります。 損益とその金額を決定するために行われる評価は、説明責任(*ムハサバ*)と呼ばれます。 同様に、神のしもべが自分の行動を監視して、自分が不十分だったか、行き過ぎ(過ち)を犯したかどうかを判断する場合、それは自己説明責任に含まれます。 ウマル(神が彼を喜ばれますように)は、「[神の前で]責任を問われる前に自分自身に責

任を持ち、天秤にかけられる前に[あなたの行為]を天秤にかけ、そして[永遠の救いまたは永遠の天罰の達成に関するあなた自身についての大きな裁きのために、裁きの日に神の法廷]に出席する準備をしてください」と言いました。 人はすべての問題を比較検討し、よく熟考し(最終的な結果を見て)、それに基づいて行動する必要があります。

低次の自己を精査する第二段階 - 熟考: 人間が自己を戒め、上記のような条件を設定したとき、熟考に注意を払うべきであり、言い換えれば、自分の行動を熟考し、深く見つめ、[すべての過ちから]自己を守るという観点から自分自身を厳しく見守るべきです。 なぜなら、自己が[気まぐれに]放っておくと、反抗的になり、有害で、有害で、衰弱させるような行動をとってしまうからです。 熟考についてさらに議論する前に、その卓越性を説明しましょう。

熟考の卓越性: 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は大天使ガブリエルに *イフサン* (卓越性、美しさ、完璧さ)について尋ね、彼はこう答えました。

أَنْ تَعْبُدَ اللَّهَ كَأَنَّكَ تَرَاهُ

「あたかも神を見ているかのように神を礼拝しなさい[そして、あなたがまだ神を真に見ていない間、神はあなたを見ている]」。 (ナレーション: *ハディースは*ウマルの権威に基づいてサヒーブハーリと *サヒームスリム*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

[「イフサン」または霊性は預言者の言葉によって象徴されています:「あたかも神を見るかのように神を崇拝しなさい。そして、あなたが神を見ている間はまだ[生きた永遠の意識を持っていない]、本当に神はあなたを見ている」。 これは、完成された人間が魂の目で神を目撃している状態にあるか、そのような崇高な霊的状態に到達できない場合、人は永遠に神の目の中にいることを絶え間なく熟考している状態にあることを意味します。 このスピリチュアリティは、怒り、憎しみ、嫉妬、嫉妬、傲慢、貪欲、不正、焦り、利己主義、人種差別、狂信、過激主義、独善、復讐、心の固い、無知、臆病さ、邪悪な考え、名声/支配/権力への欲望、およびすべての否定的な特性と傾向。そして、愛、忍耐、感謝、許し、優しさ、思いやり、寛大さ、謙虚さ、高貴さ、神とすべての人間への誠実さ、神への信頼、神の記憶、内なる純粋さ、すべての前向きな特性と傾向など、すべての良い[内なる]資質を教え込むことによって魂を美しくし、その結果、神との親密な関係を発展させ、人生のあらゆる事柄において神の保護と導きを受けます。それは、魂の中の闇を完全に排除し、その結果、私が誰であるか、どこから来たのか、どこに向かっているのかなど、人生のすべての質問に対する答えを見つけることによって、人間の可能性を最大限に実現するために、到達しようと努める人間の達成の最高レベルです。 人生の目的は何なのか、なぜ神がすべてを創造したのか、そして本当に真の幸福と成功とは何か。 これは、神を誠実に探求する人々が、霊的達成の頂点である

神の悟りまたはグノーシスの状態に到達し、完全な内なる平和、無限の幸福、そして永遠の成功をもたらします。 神はこう言われます。

أَلَمْ يَعْلَم بِأَنَّ ٱللَّهَ يَرَىٰ

「この人は、神が(常に外側と内側の両方で)見守っておられることを知らないのでしょうか。」 (クルアーン、第96章、14節)

إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلَيْكُمْ رَقِيبًا

「まことに、神はあなたについて完全に親密に知っており、常に見守っています。」 (クルアーン、4章、1節)

アブー・ウスマーン・アル・マグリビ(神が彼に憐れみあれ)は、「霊的な道において、最も重要なことは熟考、自己説明責任、そして知識による行動の政治(つまり、正しい知識に従って自分の行動を管理する)です」と言いました。 彼はさらに、「あなたが人々の間に座るとき、自分自身と心を諭して座り、[彼らが間違った考え、感情、言葉、行動で逸脱しないように]、そして人々があなたの集会を訪れることに騙されないようにしてください。 神はあなたの内面(内なる存在)を見つめてくださいます」と述べています。 ムハンマド・イブン・アリ・ティルミディ(神が彼に憐れみあれ)は、「あなたが消えていない存在のために熟考し、あなたから祝福が途絶えない方に感謝し、あなたが気づいていない方と従順な関係を持ち、その支配と力を避けられない方に対して謙虚さを持ちなさい」と言いました。 あるグノーシス主義者は、「神は、常に自分の心を守り、(自分から発せられるすべてのことについて)責任を負わせて自分自身を任務に引き受け、来世への旅に頼る準備をする人々を承認するだろう」と言いました。 ドゥン・ヌーン・アル・ミスリ(神の憐れみあれ)は、「[神の]しもべはどうやって楽園に到達するのでしょうか?」と尋ねられました。 彼は答えました、「五つのことによって、逸脱のない[霊的な努力の]忍耐、怠慢のない努力、公的にも私的にも神を熟考すること(つまり、神の心に絶え間ない視線を感じること)、[神の道を誠実に努力することによって]その準備をして[避けられない]死を待つこと、 そして、自己が[神に]責任を負わされる前に、自己の説明責任によって」と述べています。

熟考の現実とその程度

熟考の現実は、人が監視者(神)の世話をし、神に完全な注意を集中することです。 *スーフィー*(スピリチュアルな旅人であり、神の道を歩む努力家)によれば、瞑想(*ムラカバ*)

は、一種のグノーシス(神の知識と近接性)によって達成される心の状態です。 この状態により、いくつかの行動は臓器から出て、いくつかは心臓で生まれます。 その状態は、心が常に監視者(神)を見つめ、神に甘やかされ、神に傾倒し、神に注意を払っている状態です。 この[内なる霊的]状態を生み出す理解は、神が心の秘密とその隠された事柄を知っておられ、神のしもべたちの行動に常に注意を払い、彼ら自身から発せられるすべての行動に気づいているという知識[と認識]です。 心の秘密は、人の外見が人間に明らかであるのと同じように、神には明らかであり、むしろそれよりも神にはさらに明らかです。 この理解がすべての疑いを欠いた確信になると、それは心を支配し、心を包み込むようになります。 この[確信の]支配は、人間が確信を持っている事柄はたくさんあるが、死の確実性の知識はそこにあるが、それが心を支配しないのと同じように、心を支配しないからです。 したがって、深い理解(グノーシス)が心を支配するとき、それは人を監視者(神)に敬意を払うように傾け、自分の存在全体の方向を監視者に向けます。 このグノーシスにおいて確信を得た人々は、神の友人であり、親密な関係です。

神の親密な者(グノーシス主義者)の程度:神の親密な人には、*シディク*(グノーシス主義者)と*アシャブ・アル・ヤミン*(右手または正義の人々)の2つのタイプがあります。 だからこそ、彼らの思索も2度です。 1度はグノーシス主義者(シディキーン)である神の親密な人々に属します。 これは神の偉大さと威厳の黙想です。 この熟考の結果、心は神の威厳の証しに没頭し、神の畏敬の念に打ち砕かれ、神以外の方に傾く能力が少しも残っていないということです。 この熟考の行為は心に埋め込まれたままであり、[身体]器官に関する限り、彼らは[喜びと快適さの]許されるものに対してさえ何の傾向も持たないのに、どうして彼らは禁じられた違法な(非倫理的で間違った)ものに傾くことができるでしょうか? 臓器が神の従順な行為で活発になるとき、それらは訓練を受け、[霊的な道で優れている]準備ができているようです。 したがって、彼らを正しい道に導くための戦略[または努力]は必要なく、むしろ、主題を所有する人が自分で改革します。 心は[人間の存在の]所有者であり、主に浸っているとき、臓器は努力せずに主の道を歩みます。 しかし、これはすべての人の状態ではなく、この状態は、ただ一つの心配事を持ち、神によって他のすべての心配事から人を救った人のものです。 この程度に到達した人は、創造物に気づかなくなり、目が開いていても近くの人々さえ見えず、耳が聞こえなくても彼らの話が聞こえなくなります。 これらの状態は、世界の王(政治当局)に対する敬意に満ちている人々の中に見られます。 王の召使いの中には、王を尊敬し、仕えることに夢中になっているため、自分に何が起こっても何も気づかず、何も感じない人もいます。 そして、この状態は、これらの人々だけに限られたものではなく、むしろ、世俗的な仕事に夢中になっている人、考えているうちに道に迷うほど思考に没頭している人、目的地から遠く離れてどこへ行ったのか、どのような目的で出かけたのか覚えていない人もいるのと同じ状態です。 あるグノーシス主義者は、「(スポーツとして弓を使って)矢を放っている人たちの前を通り過ぎました。 一人の男が彼らから少し離れたところに座っていました。 私は彼と話すつもりで彼に近づいた。 彼は[私の意図を感じ取って]『私は[あなたと話すよりも]神の記憶の方が好きです」と言いました。

私は彼に『あなたは一人で座っているのよ!』と言いました。 彼は言った、「私は私の主と[私の行動を記録する責任がある]二人の[守護]天使を伴っています」。 私は彼に『矢を放つ人々の中で誰が勝てるのか?』と尋ねました。彼は「神が赦してくださる者」と言いました。 私は彼に『(街に向かう)道はどこですか?』と尋ねました。 彼は空を指さし、立ち上がって立ち去り始め、こう言いました。 あなたの創造物のほとんどはあなたに注意を払っていません!』と言いました。 これは、神様を証しすることに没頭し、神様と話すだけで、神様についてしか聞かない人の言葉です。 そのような個人は、臓器は心臓の命令で動くので、舌や臓器の熟考を必要としません。

第二の[熟考の]は、右の民(義)の中から綿密な民に属します。 これらの人々は、神が彼らのすべての外側と内面の状態に気づいているが、神の素晴らしさと威厳を目撃し、彼らを酔わせるのではなく(感覚の知覚から彼らを連れ出す)、むしろ、彼らの心は節度のレベル(感覚の知覚による禁酒)にとどまり、行動と状態に傾いたままであるという確信を持っている人々です。 むしろ、彼らは自分の行動に粘り強く、熟考がないわけではありません。 しかし、神に対する恥ずかしがり屋が依然として支配的であり、[その結果]彼らは立ち止まって熟考せずにあえて何もせず、[正義で敬虔な行為として行われなければならない]ことを躊躇しません。 さらに、彼らは審判の日に屈辱にさらされるあらゆる行動をやめます。彼らは審判の日を待つのではなく、むしろ世界を終わりの日の畑とみなし、神が自分たちの状態を認識していると考えています。

これらは、神に関するしもべ(人間)の間での熟考の程度の違いです。 この学位を持っている人は、自分の動き、静けさ、思考、瞬間、能力のすべてに目を光らせる必要があります。 この監視は、アクションの前に 1 回、アクションの後に 2 回行う必要があります。 行動を起こす前に、自分がとっている行動が神のために特別に行われているのか、それとも低次の自己からの欲望に従うために行われるのか、それともサタンに従うために行われたのかを確認する必要があります。 この時点で、真理の光によって正しいことが明らかになるまで熟考する必要があります。 自分の動き(行動)が低次の自己の欲望のためであるなら、人は神に対して恥ずかしがり屋を感じ、それをやめてから、それに傾いている自分を非難し、その行動を悪く考え、神の前で自分を辱めようとする試みを非難する必要があります。

低次の自己の精査の第三の駅 - 行動後の自己の説明責任: マイムン・イブン・アビ・ムラン(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「ビジネスパーソンがビジネスパートナーに対して行うのと同じように、自分自身に説明責任を果たすまで、[神の]しもべは神を畏れる者には含まれません。 つまり、双方が事業を行った後に会計を行い、損益を決定するのです。」 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)は、「信者は自分自身を守り、神のためにその責任を果たします。 [審判の日]説明責任の重荷は、この世で自己の説明責任を果たす者には軽く、そうしない者にとっては激しいものになるだろう」。

その後、彼は自己説明責任を「信者は何かが好きで、『私はあなたのことが好きで、あなたが有益だと思うが、あなたと私の間には障壁(熟考と説明責任)が立ちはだかっている』と説明しました。 この説明責任は行動の前に行われます。 時々、信者は間違いを犯し、その後、自分自身に立ち返って、「この行動(または行為)の意図は何でしたか? 神よ!あなたからはいかなる言い訳も受け入れられませんし、神の御望なら、私はこの[間違い]を二度と繰り返すことはありません』」と語った。 彼はさらに、以下の聖句を説明する際にこう言いました。

وَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلنَّفۡسِ ٱللَّوَّامَةِ

「『自分自身を責める自己によって!』 (クルアーン、第75章、2節)

信者は自分自身を非難し、非難します。「この言葉の意図は何でしたか? これを食べたときの意図は何でしたか? この飲み物の目的は何でしたか?」 一方、悪事を犯した人は、[好きなものはすべて]進み、いかなる事柄でも自己を責めません[そして、それが正しいか間違っているか、有益か有害か、合法か違法かにかかわらず、やりたいことは何でもします]」。 マリク・ビン・ディナール(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「神が自分のしもべ(人間)を憐れんでくださいますように。『あなたはあれこれの間違いを犯していませんか? あなたはあれこれの罪を犯していないのですか?」と言い、それを叱責し、ひもを付けて、神の書物に服従させ、それをガイドにします。」 これは自己を非難する方法でもあります。

低次の自己を精査する第四の駅 - 悪を犯した後の自己を罰する:[神の]しもべが自分の責任を負い、罪(過ち)を犯すことから逃れられず、神の権利を完全に果たしていないこと、そしてその状態に放置しておくと、その状態を放っておくべきではないと判断したとき、 罪(過ち)を犯すことは意志にとって容易になり、自己は罪から離れることが非常に困難になるほど罪に慣れます。 これは、自己が罪の習慣を身につける完全な破壊に等しい。 したがって、それを罰する必要があります。 たとえば、疑わしい一口(許容が疑わしい、または完全に禁止されている食べ物)を欲望を持って食べた場合、その(自己の)罰は空腹のままになることです。 見ることが許されない誰かや何かを見るなら、何も見ないことで目を罰すべきです。 すべての身体器官を同様に罰することによって、その欲望を止めるべきです。 これが来世に向かって旅するスピリチュアルな旅行者の方法論でした。 ハッサン・イブン・アビ・シナン(神の憐れみあれ)は、新しい建物の前を通り過ぎ、[誰か]に「いつ作られたのですか?」と尋ねました。 その後、彼は自分自身に注意を向け、それに言いました、「あなたは無駄な質問をしました。 1年間の断食を宣告します!」 したがって、彼は丸一年[夜明けから夕暮れまで毎日]断食しました。 マリク・イブン・ダイガム(神が彼に憐れみあれ)は言った、「ラバ・アル・カイシ(神が彼に憐れみあれ)は、*アスル*(日没前の午後遅く)の祈りの後、私たちのところに来て、私た

ちの父について尋ねました。 私たちは彼に、彼が寝ていると言いました。 これを聞いて、彼は言いました、『今は寝る時間ですか? なぜ彼はこの時間に眠っているのですか?」 と言って立ち去った。 私たちは急いで男を追いかけ、父が望むなら起こすと伝えました。 その男は戻ってきて言った、「彼(ラバ・アル・カイシ)は何かの考えに夢中になっていたので、私の言うことさえ聞こえませんでした[しかし、それでも私はメッセージを伝えるために彼についていきました]。 彼が墓地(墓地)に行き、自分を叱責し始めて言ったのを見ました。 そう言う義務はありましたか? 人はいつでも眠ることができます。 それを疑問視するのは誰ですか? 今が寝る時間かどうかは何を知っていますか? あなたはよく知らない事柄について口を開いた。 あなたはひどい間違いを犯しました、そして私は必ずあなたを罰します、そしてその罰は、病気が私に降りかかったときや正気を失ったときを除いて、背中を床につけて眠らせないことです。 あなたには災いあれ! 恥ずかしくないのですか? いつまで人々を叱り、自分の誤った行為を怠ったままになるのですか?」 彼はそう言って泣き始めた。 彼は私にさえ見えませんでした(気づきませんでした)。 私は彼をその状態のままにして、戻ってきました』」と語った。

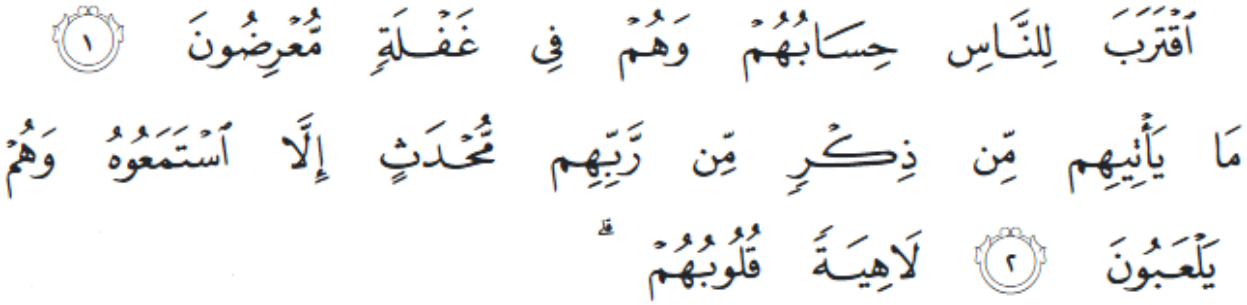
ワハブ・イブン・ムナッベ(神が彼に憐れみあれ)は、長い間神を崇拝し、神から必要としている人がいると言いました。 彼は、一週間に乾燥ナツメヤシを七個しか食べず、昼も夜も神を崇拝するような方法で、70週間の霊的闘いをしました。 70週間後、彼は自分の必要を神に祈りましたが、それは[神に]満たされませんでした。 それから彼は[問題の現実に気づき、]自分に言い聞かせました、「もしあなたの中に何か良いものがあったら、あなたの嘆願はきっと受け入れられたでしょう」。 その時、天使が人間の姿で彼のところに来て言った、「アダムの子よ! あなたのこの瞬間(悟りと自己の欠点を責める)瞬間は、過去の崇拝のすべてよりも優れています。 神は[今]あなたの必要を満たしてくださった[この認識の結果として、そしてそれが属するべきところに責任を負わせた]」と述べた。 アブ・タルハ(神が彼を喜ばれますように)は、[メディナの果樹園で]祈りながら、鳥の美しいさえずりを聞いた後、鳥について考え始めました。 祈りを終えた後、彼は自分の過ちの償いとして果樹園を慈善活動で手渡しました。 賢明で先見の明のある人々は、このように自分自身を罰していました。 人々が他人の過ちや悪行を罰し、許せば反抗的になり、制御不能になると考えるのは驚くべきことですが、その一方で、あなたは自分の中にある自己をその気まぐれに任せていますが、それはあなたの最大の敵であり、その反抗ははるかに多く、その反抗によってもたらされるダメージははるかに大きいです。 他の人はせいぜいあなたの世俗的な生活に問題を引き起こすことができますが、あなた自身はあなたの来世の[永遠の命]の破壊者です。 もしあなたが豊かな知性に恵まれているなら、来世の[永遠の]命以外に[本当の]命はなく、永遠で永遠の祝福があり、[あなた自身の]自己はこの世の破壊者であり、だからこそ、それはより罰に値することをよく知っています。

低次の自己を精査する第五駅 - スピリチュアルな闘争: スピリチュアルな闘争 (*ムジャハーダ*) とは、自分自身に責任を果たし、自己が何らかの罪(不正行為)を犯したのを見たとき、以前に述べた罰をそれに与えることです。 自己がスピリチュアルなルーチン(*アウラドと ワザイフ*- 神の記憶、祈り、超エロゲータリーな祈り、神の書物の朗読、神の親しい人々の知恵と教えの研究、その他の崇拝や献身の行為)を行うのに怠惰であることがわかったら、より多くの霊的な仕事を重荷にかけ、他の連祷や祈りにコミットさせてください(*アウラド*)を補うために、過去のミスと損失を補う。 神のために努力する人々は、かつてそうしていました。 あなた自身があなたに従わない、または定期的に連祷、祈り、霊的な努力を行うことに同意しないという疑問が残る限り、それを治す方法は何でしょうか? その答えは、霊的に努力する人々の卓越性を物語る伝統を教えることであり、最も有益な治療法は、礼拝に一生懸命働く神のしもべの中から神のしもべの仲間を採用し、そのような人の話に注意深く耳を傾け、それに基づいて行動し、そのような人の行動を観察し、彼らに従うことです。

低次の自己を精査する第六駅 - 自己を非難する: あなたの最大の敵はあなたの中にあり、それが自己です。 それは、その創造物とその固有の性質において、悪を命令し、悪に傾き、善から逃れると[神に]書かれています。 それは、それを[改革し]清め、その曲がりくねったものを取り除き、抑圧や嫌悪感を抱かせるものから防ぐように[神に]命じられてきました。 リードを緩めると反抗的になり、制御不能になり、手が届かなくなります。 もしあなたがそれを叱り続け、神の報復を恐れさせるなら、同じ自己は、神が誓った自分自身を非難する自己(*ナフス・アル・ラワマ*)になります。 [改革と変容の段階的なプロセスによって]、この自己はさらに進化し、神が喜ばれ、神が喜ばれるように、神の誠実なしもべのカテゴリーに含まれるように神から命じられた平和な自己(*ナフス・アル・ムトマインナ*)になることが期待できます。 [これらはすべて、前述のように霊的な努力によって変容した後、反抗的な実体から神が喜ばれる実体への自己の進化と変容の段階です。 したがって、いつでも自己を怠らず、代わりに、自己を理性づけ、助言し、叱責してください。 自分自身に諭し、説教しない限り、他人に諭したり説教したりしてはなりません。 神はイエスに神の啓示を送りました(神の祝福と平安あれ)、「おおマリアの子よ! まず自分自身に助言し、それが終わったら、それから人々に助言し、そうでなければ私に恥ずかしがり屋を感じなさい。」

その方法は、あなた自身に注意を払い、それにこう言うべきです、「あなたはどれほど愚かで愚かであるか、あなたは知的で、賢明で賢明だと思っているのに、来るべき[永遠の]人生について何も計画していません。 楽園と地獄が目の前にあり(向かい合って)、すぐにそのうちの1つに行くことになります。 それにもかかわらず、あなたは幸せになり、大声で笑い、無駄な努力にふけりますが、すぐに危険な段階(世俗的な存在の終

わり)に遭遇します。 死があなたを待っています。今日または明日、それがあなたをその手に閉じ込める可能性があります。 あなたは死はあなたから遠いところにあると考えていますが、神の知識では死が非常に近い可能性があります。 死が突然あなたを捕まえることを知らないのですか? 使者は来ず、いかなる[事前の]情報も来ない。 また、特定の日時に約束も、死の到来に特定の季節もありません。 それは昼夜に限定されるものではなく、若者や老年期に限定されるものでもありません。 むしろ、人間のすべての呼吸が最後になる可能性があり、すべての瞬間が死の前兆になる可能性があります。 死が突然来なければ、病気が突然起こり、死に至ります。 では、頸静脈よりもあなたに近い死に備えていないのは、あなたにとって何の問題ですか? あなたがたは、これらの神の言葉を熟考しないか。



「人々の説明責任の時が来ましたが、彼らは依然として怠慢にふけり、それに気づいていません。 主から来た新鮮なアドバイスは、彼らがそれを嘲笑するような方法でそれに耳を傾け、彼らの心はそれに傾いていません。」 (クルアーン、21章、1-3節)

もしあなた(おお自己!)が神があなたの行動を見守ってくれないと信じて、あえて神に対して罪を犯すなら、これはあなたの不信仰(*クフル*)であり、神があなたの行動を見守っていると考えた後でも罪を犯すなら、それはあなたにとって大きな恥と恥ずべき問題です! おお、自分よ! もしもべや弟があなたに従わなかったら、あなたはどれほど怒り、どれほど悪いことだと思いますか? では、どうして神の不快と罰に立ち向かう準備ができているのでしょうか? あなたは神の罰に対処できると思いますか? 絶対にだめです! これはあなたの誤解です。 私たち(ガザリ)の言うことを信じられないなら、それを自分で体験して、灼熱の太陽の下にしばらく立ったり、しばらく熱い公衆浴場に閉じこもったり、火の炎に指をかざして、この痛みに耐える力があるかどうかを確認してください。 あなたは、神の恵みを受ける権利があるというあなたの信念にだまされていませんか(あなたが悪に関して何をするかに関係なく)、または神はあなたの崇拝を必要としていないというあなたの信念に騙されていませんか? もし私たちが考えていることが正しいなら、なぜあなたは世俗的な事柄において神の恵みに頼らず、なぜ個人的な戦略[そして世俗的な目標を達成するための計画と努力]を思いつくのかをあなたに尋ねます。 お金なしでは不可能な世俗的なニーズがあるとき、必要なお金を手に入れるためにできる限りのことをします。 私たちはあなたに尋ねますが、なぜその時、神の恵みに頼らずに、神があなたに何らかの[隠された]宝物の情報を与えたり、あなたの助けのために

神のしもべの一人を征服したりしないのでしょうか? 神は来世でのみ親切で寛大で、この世ではそうではないと思いますか? あなたは、神のやり方(この世と来世の間の神の行動の違いという点で)変化がなく、世界の所有者であり、来世は一つであることをよく知っています。 また、人間は努力しなければ何も得られないことも知っています。 おお、非難された自己よ! あなたの偽善は不可解であり、あなたの虚偽の主張は驚くべきものです。 あなたは舌で信仰を主張しますが、偽善の影響はあなたに明らかです。 今、あなたは骨を噛むのに忙しい犬のように世界を探すことに夢中になり、周囲の環境にまったく気づかず、欺瞞的なプライドで来世を完全に無視し、[避けられない]死後の[強力な]出来事を取るに足らないものとして無視しています。 これは信仰のしるし(表示)ではありません。 審判の日を信仰していないようで、死後、すべての監禁と苦難から解放されると考えています。 あなたのこの推測は間違っています。 神はこう言われました。

أَيَحْسَبُ ٱلْإِنسَٰنُ أَن يُتْرَكَ سُدًى ﴿٣٦﴾

أَلَمْ يَكُ نُطْفَةً مِّن مَّنِىٍّ يُمْنَىٰ ﴿٣٧﴾ ثُمَّ كَانَ عَلَقَةً فَخَلَقَ فَسَوَّىٰ ﴿٣٨﴾ فَجَعَلَ مِنْهُ

ٱلزَّوْجَيْنِ ٱلذَّكَرَ وَٱلْأُنثَىٰٓ ﴿٣٩﴾ أَلَيْسَ ذَٰلِكَ بِقَٰدِرٍ عَلَىٰٓ أَن يُحْۦِۦَ ٱلْمَوْتَىٰ ﴿٤٠﴾

「人間は、(この世での自分の行動に責任を負わずに)放っておかれると考えているのでしょうか? この人は、後に[子宮内の]凝固した血のかけらになる[子宮内の]精子の一滴ではないでしょうか。 それから神はそれを[人間に]造り、臓器を形成し、そしてそれを男性と女性の2つのタイプにしました。 神は[審判の日に]死者を復活させる能力はないのでしょうか?」 (クルアーン、第75章、36-40節)

もしあなたが、自分が手つかずのまま放っておかれると思っているなら、それはあなたの無知であり、不信です。 自分がいつも今のようだったかどうか、考えてみてください。 あなたの現実は何でしたか? あなたはただの精子の滴でした! あなたはあの[精子の滴]からあなたの存在を手に入れました。 それでは、神が死後、あなたに命を与えることは不可能ですか? 死後の世界を信じているなら、それに備えてみてはいかがでしょうか? 子供があなたの服にサソリが入っていると言ったら、その瞬間に服を取り出して捨て、証拠を求めたり、議論を求めたりしないのを見ると、私たちはショックの驚きを感じます。 預言者、学者、賢者、グノーシス主義者の言葉は、世界中のすべての人々が経験が浅く、完全な知性に欠けていると呼んでいる子供の言葉があなたの目に映るほど重要ではないのでしょうか? これは知性であり、賢明な人間の行動と呼ぶことができますか? あなたの状態が動物に明らかにされたら、動物はあなたを嘲笑し、あなたの知性と知覚を嘆くでしょう。

おお、不幸な自分よ! これらすべてを信じ、真実だと考えるなら、死が待ち伏せしているにもかかわらず、なぜそれらに基づいて行動するのですか? 悔い改める機会を与えず

にあなたを奪う可能性があります。 もしあなたが死について確信を持っていて、それが突然訪れる可能性があることを知っているなら、なぜあなたは手をつないで(何もしない)怠惰に座っているのでしょうか? もし私たちが神があなたに百年の人生という形であなたに休息を与えてくれたことを受け入れるなら、この百年の長い期間は闘争なしに完了できるでしょうか、そして実際にそれをしなくても何かが自動的に行われるでしょうか? もし私たちが、人生の最後の部分(老年期)に霊的な努力と努力が有益であり、その人を高い霊的な程度に導くと受け入れるとしたら、それを達成するためにあなたに人生が残っていることをどうやって知ることができるでしょうか? 私たちは、あなたが欲望をやめたくないと考えており、欲望から自分自身を止めることに苦労を感じています。 欲望に反対する日が苦痛にならない日を待っているなら、そのような日は来ません。 神はそのような日を創造しておらず、創造されるつもりもありません。 楽園は不快で嫌いなこと、苦難や苦しみに囲まれており、これらのことは自分自身にとって簡単ではありません。

おお、自分よ! あなたは[あなたの敬虔な]行いを明日に延期してきました。 すでに明日が来て今日に変わりましたが、あなたは(永遠の命の準備について何かをすることに向けて)少しも動かず、明日への約束でまだ忙しいのですか? 私たちは、あなたが明日に行動できるとは思いませんが、むしろ、欲望は日に日に根が強くなっていく木のようなものなので、あなたはいかなる[正しい]行いもできないと思います。 それが単なる[小さな]植物や弱い木であるにもかかわらず、根こそぎにされて捨てられた場合、それは何の問題もありません。 しかし、それが巨大な木になり、その根が土に広がり、その枝が空に向かって広く高く伸びると、もはや根こそぎにするのは簡単ではありません。 それは、若者が木を根こそぎにしようとして、年をとるまで毎日それを明日に延期し続け、老いて木を根こそぎにしようとしても、それができないようなものです。 第一に、人が年をとったから、第二に、木が土地にしっかりと根を下ろしたからです。 このことから、若い頃には根こそぎにできなかった木を、老後には根こそぎにすることができないことがわかっています。 現実には、老後の霊的な闘争は途方もない苦難です。 おお、自分よ! これらの明確な事柄を理解できず、言い訳(先延ばし)を習慣にしているなら、なぜ自分を賢明だと考えるのでしょうか? はっきりと明らかな事柄を理解していないことほど、もっと愚かなことでしょうか? おそらくあなたは、「私は欲望の快楽に貪欲で、苦難や苦しみに忍耐することは私にとって非常に難しいので、義行に固執することはできない」と言うでしょう。 あなたのこの言葉は非常に愚かです。 もしあなたが欲望や快楽に貪欲を持っているなら、なぜあなたは、永遠にとどまり、さらに、それらにはすべての不純物や濁りがない欲望と快楽を探してみませんか? しかし、これらの欲望は世界ではなく楽園にあり、それらを達成する方法は、この世の欲望を無視することであり、そうでなければ、時には、一口の[疑わしい]一口のために多くの一口を奪われる必要がある。 いくら長生きしても、来世の無限の永遠の命に比べると、この世の命は限られています。

あなたにとっての避難所があるとすれば、それは神の中の避難所です。 救いへの道があるとすれば、それは神に向かって行く道です。 彼はあなたの唯一の避難所であり救い主です。 神はあなたの目的を果たすことができる唯一の方であり、あなたの懇願に応えることができる方です。 神の前に頭を下げ、神の前に謙虚さと謙虚さを持ちなさい。 あなたがたに無知があり、罪[と悪行]がある限り、その限りにおいて、神の前で泣き、神の前でへりくだる者であるのは、神が憐れみを授けている人だからです。 神は[神に]助けを求める人を助け、強制され困っている人の嘆願を受け入れます。 今日、あなた方は[窮屈な状況と人生の課題によって]神に近づかざるを得ず、神の憐れみを必要としています。 他のすべての道は塞がれ、他のすべての道は狭くなっています。 自分自身を非難することも効果的ではありません。 あなたが求める方は親切で憐れみ深い方です。 彼の憐れみは無限の広がりを持っています。 彼の寛大さは終わりがなく、彼の赦しはすべてを網羅しています。 さて、両手を広げて[嘆願して]言いなさい、「おお、慈悲深い方の最も慈悲深い方よ! おお慈悲深い! おお寛容な人よ! おお雄大な! おお、親切だ! 私は罪人であり、悪行を行う者であり、過ちを犯す者です。 私の反抗心は限界を超えており、恥知らずなほど罪を犯しています。 おお神様! どこからでも絶望した後、私はあなたの法廷に立ち、謙虚さ、謙虚さ、貧困、貧困で泣いています。 どうかあなたの助けを私に急いで送り、私の苦難を取り除き、あなたの憐れみのしるしを私に示し、あなたの赦しを与え、あなたの保護の力を私に与えてください!」 おお、自分よ!あなたの父アダム(彼に神の平安と祝福あれ)に従って、泣きながらあなたの恥と後悔を[神に]表現してください。」

これは、敬虔な先人たちが従った仕事に自己を連れて行く方法です。 彼らの神への懇願の目的は神の受け入れを勝ち取ることであり、自分自身を仕事に取り組む目的は自己に警告することでした。 神への懇願を怠り、自己を仕事に引き受けることを怠る人は、自己の助け手ではなく、それに対する神の不快感もすぐに明らかになります(通常は、窮屈な状況と人生に耐え難い課題を課すという形で)。

第 19 章 – 深い内なる反省と熟考は、内なる平和と精神的な変革の不可欠である

内省は、自己認識と心の平和につながるもう一つの重要なスピリチュアルな資質です。 既知のものへの反省と熟考は、未知の認識の新しい展望を開き、それによって問題に対する新しい洞察を発展させます。 霊的な事柄は、真理の夜明けとともに反省した状態で明らかになります。 内省は深い内なる認識、知識、理解、知恵を育みます。 反省する人は良心的な人であり、すべてのステップの前に熟考し、誰にも危害を加えないように気を配っているため、人間関係におけるそのプラスの影響を過小評価することはできません。 この主題に関するガザリの素晴らしい説明は、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻の第9巻から次のように要約された形でここで提供されています[25]。

深い内面の反省 (*Tafakkur*) と熟考 (*Tadabbur*)

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の伝統では、一瞬の深い内なる反省と熟考は、一年の礼拝よりも優れていると語られています。 神は*フィクル*(深い内面の反省、または心の光であり、魂の栄養であり、霊的な変容と上昇の道を照らす知識の本質であるため、主題について深く、体系的に、そして非常に詳細に考えること)、*タダブール*(真実に到達するための熟考または問題を深く調べる)、証言、 そして確信。 反省は[スピリチュアルな]照明の鍵であり、内なる洞察の出発点(*バセラ*)、知識を捉えるための網であり、スピリチュアルな宝石(マーアリフ)と深い内なる意味(マーアニ)を狩る手段であることを明確にしましょう。 人々は一般的に、どのように反省すべきか、何を反省すべきか、なぜ反省するのか、反省から何を求めているのか、それ自体が求められているのか、それとも何らかの結果の目的なのかを知りません。 もしそれが結果に必要なのなら、その結果とは何でしょうか - それが知識なのか、内なる[霊的]状態なのか、あ

るいはその両方なのか。 これらすべての事実を解明することは遠征です。 まず審議の現実を説明し、次にその結果について話し、次に熟考の対象となる問題に光を当てます。

反省の卓越性: 神は本の多くの場所で熟考と反省を命じ、反省の人々を称賛されました。 彼は言った:

ٱلَّذِينَ يَذْكُرُونَ ٱللَّهَ قِيَـٰمًا وَقُعُودًا وَعَلَىٰ جُنُوبِهِمْ وَيَتَفَكَّرُونَ فِى خَلْقِ ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ رَبَّنَا مَا خَلَقْتَ هَـٰذَا بَـٰطِلًا

「彼らは、立ったり、座ったり、横になったりしながら神を思い出し、天と地の創造について熟考する人々です[そして、この反省の成果を得るとき、彼らは確信と確信を持ってこう言います]。『おお、私たちの主よ! あなたはそのどれも無駄に創造したわけではありません[代わりに、その創造後に存在するすべてのものの背後には、強力な目的と神の知恵があります]』」 (クルアーン、第3章、191節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼を喜ばれますように)は、一部の人々が神の存在について熟考していると言いました。 彼は彼らに、「神について正しい評価を思いつくことができないので、神の創造物について熟考しなさい」と言いました。 (ナレーション: ハディース コレクション *Abu Na'eem fi al-Hilya*)

オバイド・イブン・ウマイル(神が彼に憐れみあれ)は、アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)[預言者の妻]に、「預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)について最も奇妙なことを教えてください」と尋ねました。 アイシャ(神が彼女を喜ばれますように)はこれを聞いて泣き始め、「彼のすべてが奇妙でした! ある夜、彼は私の体が彼の体に触れるまで私のところに来て、こう言いました。 私が主を崇拝できるように、私を離れてください』と言いました。 その後、彼は革の袋に入った水で清めを行い、祈りを捧げて立ち上がり、ひげが濡れるほど泣きました。 その後、彼は(祈り中にひれ伏した場所)の地面が濡れるまでひれ伏して泣きました。 それから[祈りを終えた後]、ビラル(神が彼を喜ばれますように)が早朝(夜明け後、日の出前)の祈りについて彼に知らせるために[彼のドア]に来るまで、彼は横向きに横たわって[少し休むように]しました。 彼は尋ねた、「おお神の使徒よ! なぜ泣くのですか? 神はあなたの過去と未来のすべての罪を赦してくださいました。」 彼は答えた、「おおビラル! なぜ私は泣いてはいけないのでしょうか? 今夜、神は[神の啓示によって]この聖句を私に啓示されました。

إِنَّ فِي خَلْقِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱخْتِلَٰفِ ٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ لَءَايَٰتٍ لِّأُو۟لِى ٱلْأَلْبَٰبِ

まことに、天と地の創造、そして昼夜の交代には、知性の人々のためのしるし(証拠)があります。」 (クルアーン、第3章、190節)

そして彼は『この聖句を読んでも反省しない人には大きな損失がある』と言いました。(ナレーション: *ハディース集 サヒー・イブン・ハバン* ラバの権威 [神が彼を喜ばれますように])

フダイル・イブン・アヤド(神が彼に憐れみあれ)は、「反射は、あなたの敬虔で悪行を見る鏡である」と言いました。 イブラヒム(神が彼に憐れみあれ)は、「よく考え、熟考してください」と尋ねられました。 彼は「熟考は知性の核心です」と答えました。 スフヤン・イブン・アイェニヤは、「人間が反省を持っているなら、人はあらゆるものから教訓を引き出すことができる」とよく言っていました。 タウス(神が彼に憐れみあれ)は言いました、「イエスの弟子たち(神の祝福と平安あれ)は彼に尋ねました。『おお、神の霊よ! 今日、地球上にあなたのような人はいますか?」 彼は答えました。 その人は私と同じで、その言葉は神の記憶であり、その沈黙は反省であり、その視覚は教訓(『*イブラ*)』を導き出しています(『イブラ][人が見たものから]」)。」 バシャール(神が彼に憐れみあれますように)は、「もし人々が神の素晴らしさを振り返るなら、彼らは決して神に不従順を犯さないだろう」と言いました。 ハサン・アル・バスリ(神が彼に憐れみあれ)は、「知性のある人々は、心から知恵が発せられるまで、神の記憶によって反省することに慣れ、反省によって神の記憶に慣れる」と言いました。 ジュナイド(神が彼に憐れみあれますように)は言いました、「最も優れた集まりは、反省の馬が神の一体性(*タウヒード*)の野原を疾走し、神のグノーシスのそよ風が楽しみ、神の愛の海から愛のワインが飲まれ、良い意見の一瞥(*フスン・アル・ドゥン*))は神に投げかけられている」と述べています。 イマーム・シャファイは、「物事を正しく見ることは間違いから救い、(事実に基づく)意見の固さは後悔から救い、熟考と熟考は[それを使う人の]知恵と慎重さを示し、知的な人々との相談は忍耐力と確固たる洞察力を育みます。したがって、[何かをする]決意する前に熟考し、実行する前に熟考し、達成する前に相談してください」と述べました。

反省の現実とその成果:反省の意味は、2つの理解が心の中に存在し、それらが3番目の理解を生み出すことです。 その例としては、世俗的な生活を好む人が、来世を養う方が世界を養うこと(世俗的な生活に完全に没頭する)よりも優れているという理解を持ちたいと願う人の場合、その理解を得るには4つの方法があります。 第一に、他の誰かから、来世を好む方が世界を好むよりも優れていると聞き、そのようなものに従い、その現実を理解せずにそれを確かめ、自分の行動によって、単にこのことを言う人に信頼を持て、来世に傾くことである。 これは「理解」(*マリファ*)ではなく、「従う」(*タクリード*)と呼ばれます。 第二の方法は、残るもの(永続するもの)を好む方が良いことを知り、その後、来世が[永遠に]残ることを知るべきである。 これら 2 つの理解により、達

成される 3 番目の理解は、来世を好む方が優れているということです。 この[3番目の]理解は最初の2つなしでは不可能であり、これら2つの[理解]を心に提示して3番目の理解を生み出すことは、「反省」、信念、一時停止(熟考)、熟考と呼ばれます。 熟考、一時停止、反省に関する限り、これらは同じ意味を暗示する異なる言葉です。 振り返りの利点は、知識を増やし、以前は存在しなかった理解を与えることです。 知識と知恵のポイントが心に集まり、特定の順序で集まるとき、それは新しい理解を生み出します。 言い換えれば、ある理解は別の理解の成果または結果であり、新しい理解が別の[以前の]理解と組み合わさると、そこからさらに別の新しい理解が生まれます。 これらの成果と果実、知識、理解、反省は、死によって終わりを告げるか、この道を妨げる特定の障害が現れるまで、このように増加します。 この方法は、知識から利益を得て、内省の方法に精通している人にとって有益です。 ほとんどの人は、資本を持っていないため、つまり、他の[新しい]理解を生み出す理解を持っていないため、豊富な知識を失っています。 このたとえ話は、商貨を持たず、[その結果]利益を得ることを奪われたままの人の話です。 理解の資本を持っている人もいますが、その正しい用法に精通しておらず、他の理解を育むために正しい順序でそれらを配置する方法も知りません。 したがって、彼らは資本を増やすことができません[したがって、資本が停滞します]。 この資本を使用し、それを使って理解を別の理解から推測する方法は、預言者に明らかにされたように、神の照明によって心の中で自然に明らかにされますが、これは今日ではまれになっています。 【理解の資本の正しい使い方】練習や学習によって生まれることもありますが、これは現在最も一般的な方法です。 反省している人は、理解と、それらの理解の結果と成果を持っていますが、それを達成した感覚を知らず、表現する能力を失っているために、それを他の人に表現する方法を知らないことがあります。

反省の成果と結果: この議論の要約は、反省の意味は、3番目の理解を達成するために2つの理解を心に持ち込むことであるということです。 熟考の果実(結果)は、知識、内面の状態、または[善、高貴、正義]の行動、またはこの3つすべてである可能性があります。 しかし、その特別な結果は知識にすぎません。 確かに、知識が心によって獲得されると、心の状態が変化し、心の状態が変化すると、[身体]器官から発せられる行動も変化し、あたかも行動は[内]状態に従属し、状態は知識に従属し、知識は反省に従属し、反省はすべての善の起源であり、それらの鍵であるかのように変化します。 これは反省の素晴らしさを証明しており、反省には追加の何かとともに神の記憶[固有の]ものがあるため、反省が神の記憶よりも優れていることもこのことから知られています。 しかし、(舌だけでなく)心の神の記憶は、手足の行動よりも優れています。 それにもかかわらず、反省はすべての行動よりも優れているため、反省の瞬間は一年の礼拝よりも優れていると言われています。 一部の知恵のある人々は、反省の人とは、心を非難されるべきもの(資質と性格特性)から賞賛に値するもの(性質と性格特性)に移し(動かし)、貪欲から禁欲(世俗性から)そして満足に変える人であると言います。 瞑想とは、[心の目で神](*ムシャハダ*)と神に対する敬虔な畏敬の念、畏敬の念、畏惧(*タクワ*)*を目撃することを指すと言う人もいます。*

あなたが反省によって状態の変化の条件を知りたいのであれば、その例は来世に関して前述のものと同じです。 その例を熟考することで、来世を好む方が良いことがわかります。 この理解が確実に私たちの心にしっかりと根付くと、彼ら自身が来世への愛と、この世の[世俗性からの]禁欲に傾くようになります。 私たちはこの傾向を[内なる霊的]状態で解釈してきました。 この理解が生まれる前は、心の状態は、儚く儚いもの(世界)を好み、それに傾倒し、来世に幻滅し、それに対する傾向がほとんどないようなものでした。 しかし、この理解が達成されたとき、心の状態は完全に変わり、その意図と傾向に変化が起こりました。 その後、意図の変容により、器官は世界を脇に置き、来世の行動に傾くようになりました。

5度の反射

反省には5つの段階があります - 第一に、つまり、[以前から]2つの理解を心にまとめることです。第二に、最初の2つの理解から、目的である新しい理解を達成するための反省です。第三の段階は、求められている理解を達成し、それで心を照らすことです。第四度は、理解の照明を受けた後、心臓が以前の状態から変化し、変化することです。そして第五段階は、心臓の変容状態に応じて[身体]器官が心臓に奉仕することです。 石を鉄にぶつけると、暗い場所を光で照らす火が発生し、以前は見えなかったのに目が見え始め、器官が目覚めて行動するように、理解の照明の火石の状態も同様です。 この火石の名前は、火と石の組み合わせのように、2つの理解を組み合わせた反射で、両者の間に特定の組み合わせが使われ、鉄が特定の方法で石を叩くように理解の光を作り出す。 鉄から火が生まれ、心がその光によって変化し、それまで傾いていなかった方向に傾くように、この火の光の中で、目はそれまで見えなかったものを見ることができます。

それにもかかわらず、反省の成果は知識と状態の両方です。 知識に制限はありませんし、心に降り注ぐ[内なる霊的]状態にも制限はありません。 だからこそ、スピリチュアルな旅行者が反省の余地がある事柄を網羅したいのであれば、反省の機会は無数にあり、その成果には限界がないため、そうすることは不可能です。 しかし、それは、私たちが*反省の機会について知らされるように*、神の道(ディーン)での努力に関連するすべての機会を書面で簡単に捉える試みです。

反省の機会または経路: 反省は、神の道 (ディーン) に関連する事柄で起こることもあれば、神の道に関係のない事柄で起こることもあることを知っておいてください。 ここでの私たちの関心事は、神の道に関連する問題であり、したがって、ここでは他の問題を無視します。 神の道とは、しもべと主の間の問題を指します。 [神の]しもべのすべ

ての反映は、自分自身の内面の資質や内面の状態に関連しているか、神または神の神聖な属性と行動に関するものです。 神への道を歩み、神との出会いを望んでいる人は、その状態は恋人の状態に似ています。 真の恋人を仮定して、完全に愛に没頭している人、そのような人の反射は最愛の人または自分自身に関連しているとしましょう。 愛する人について反省するなら、人は愛する人の美しさを振り返るか、愛する人の存在を振り返ってその反省から喜びを得るか、愛する人の善と完璧さと見なされる資質を振り返って、反省の喜びをさらに増すかのどちらかです。 もし人が自分自身を振り返るなら、それは2つの状態を欠いているわけではありません:一つは、最愛の人の近くでは良くなく、最愛の人の目には屈辱を与え、貶める[個人的な]資質を振り返るか、あるいは、最愛の人に近づける最愛の人に好まれる資質を振り返るかのどちらかです。 これら以外の事柄について熟考することは、愛から排除され、喪失の原因となるのは、真の恋人は、心の中に他の考えや反省の余地が残っていない限り、愛する人の愛に完全に没頭し続ける人だからです。 神を愛する人もまたそうであるべきであり、その人の目と反射は最愛の人を超えてはなりません。

最初のタイプの反省 - 自己に関連する: [神の、つまり人間]のしもべの反省が上記の 4 つのタイプに焦点を当て続ける限り (すべての人間の反省は、自分自身の内面の資質や状態に関連しているか、神または神の神聖な属性と行動に関するものです)、人は [神の] 愛の目的から切り離されることはありません。 次に、4つのタイプすべてを個別に調べます。 良いものと悪いものを見分けることができるように、自分自身の状態や資質(内面の性格特性)を振り返ることに関連する最初のタイプを見てみましょう。 したがって、神が好む事柄や嫌いな事柄には、神の従順や罪の行為などの外的な行為と、救いの内面の性質や破壊的な内面の性質(心の性格特性)などの内面の行為の2つのタイプがあります。 これらすべての内なる資質の中心は心です。 服従と罪の行為の中には、七臓に関連するものもあれば、親に逆らったり、許されない場所で暮らすなど、全身に関連するものもあります。 神が嫌うものは、次の三つの方法で考えるべきである:第一に、神はこれらのものを好むか好まないか。 何か[悪い]ことに対する嫌悪感がすぐには現れず、物事を細かく(深く)見る必要があります。 第二に、これらの事柄が神に嫌われているなら、それを避ける方法は何であるかを考えるべきである。 そして第三に、自分が今持っている嫌いな性質を、どうやってそれを離れるべきか、将来それを手に入れようとしている場合、または過去に持っていたので、それをどのように補償(償い)するかを熟考する必要があることを反省する必要があります。 同様に、この3つの方法で愛するものを振り返るべきです。 [まとめると]私たちは、この[自己に関連する]反省の[最初の]タイプを、従順の行為、罪、破壊的な性質、救いの性質の4種類に含めました。 スピリチュアルな旅行者がここから他のすべてのタイプを推測できるように、あらゆる種類を例を挙げて説明し、反省の扉が広く広大なフィールドに開かれるようにします。

第一種 - 罪: 毎朝、人間は 7 つの器官と体の残りの部分全般について詳細に説明責任を負わなければなりません。 もし彼らが罪に関わっているなら、人はそれを捨てるべき

です。昨日罪に巻き込まれたなら、人はそれを[贖罪によって]補償すべきです。そして、明日それに巻き込まれるつもりなら、それを防ぐ準備をし、それに近づかないようにする必要があります。 たとえば、舌の[行動]を調べて、舌が常に陰口、嘘、自己誇大(プライド、傲慢、利己主義、独善の要素である自尊心、自己宣伝、自己投影)、他人を嘲笑し、人々の会話を遮断し、他人を悪く呼び、無駄な事柄に干渉していることを想像する必要があります。 まず第一に、神はこれらのことを激しく嫌っているという心をしっかりと根付かせ、次に[これらの悪と過ちに対する]神の報復について事前に警告するクルアーンと預言的な語りを熟考し、次に、自分自身の罪のために神の報復に値するようになろうとしていることを理解する必要があります[したがって、自分自身以外に責める人は誰もいません]。 その後、これらの罪から自分自身を救う方法を熟考し、孤独を採用し、神に嫌われるすべてのスピーチに対して人を任務に導く敬虔で神を恐れる人と一緒にいる以外に、これらの罪から身を守る方法はないことを知る必要があります。

同様に、その手段によって、陰口、嘘、無駄な話、下品な言葉、神の道(*ディーン*)の革新(*ビダまたは本物の伝統からの逸脱*)が聞こえる耳について考えるべきです。 これらの話は非常に一般的であり、誰からでも聞くことができるので、孤独で、または正しいことを諭し、間違ったことを勧めることによって、それらから身を守る必要があります[知恵、優しさ、美しさで、これらは事態を悪化させる厳しさとは対照的に、正しい点を正しく伝えるための不可欠であるため]。 胃の罪は食べたり飲んだりすることにあることを考えてください。 時にはもっと食べるせいで、神が暴食を嫌うので許される食べ物であるにもかかわらず、神の敵サタンの武器である欲望を増大させ、禁じられた疑いのあるものを食べて罪を犯すこともある。 食べる前に、食べ物がどこから来ているのか(純粋で合法的な手段から来ているのか、それとも不純で違法な手段から来ているのか)を確認する必要があります。 そして、これは食べ物だけに限ったことではなく、服装や住居を振り返って、これらが合法的な手段によって、あるいは禁止されている、または疑わしい手段によって利用可能になったかどうかを確認する必要があります。 また、収入源についても検討して、それらが合法であるかどうかを確認する必要があります。 もしそれらが違法であるならば(または詐欺、窃盗、欺瞞、強盗のような非倫理的である)、収入を得るための合法的な手段を熟考し、禁じられた(ハラーム)事柄から遠ざかる方法を見極め、崇拝の基礎は許された食べ物を食べることである[または許された合法的な手段から生計を立てること]であるため、禁じられたものを食べることによって[または違法な収入を自分の利益のために利用する]ことによって、すべての[神聖な]崇拝が無駄になると自分自身を納得させる必要があります。 同じような方法ですべての臓器について考えるべきです。ここで説明した内容で十分です。 反省によってこれらの状態を正しく真に理解した人は、一日中これらの臓器を見守り、この監視が臓器を罪から守ることが望まれます。

第二の種類 - 服従の行為: 神の探求者または霊的旅行者 (*サリク*) は、義務付けられた行動を熟考すべきです、言い換えれば、それらを実行する方法、欠点や欠点から保護する方法、そしてそれらに欠陥が発生した場合、超エロゲージ的な崇拝行為によってそれを補うにはどうすればよいかを検討する必要があります (*ナワフィル*)、すべての臓器について考え、それらから神がどのような行為を好むのかを考えてください。 たとえば、目は、見たものから教訓を学び、天と地の神聖な素晴らしさを目撃し、神の書と預言者ムハンマド(神の平安と祝福あれ)の言葉を研究するために作られたと考えるべきです。 すべての器官、自分の肉体、所有物、富、使用人、子供などを同様の方法で調べるべきです、なぜなら、これらすべては神に従うことができる道具だからです。 深い反省によって、人は神の服従[奴隷と献身]の方法を見つけ、それらの問題を探し、そして神の崇拝に傾くべきです。 次に、意図の誠実さを熟考し、[正しい]行動があらゆる点で純粋で清いものになるようにする必要があります。

第三の種類 - 破壊的な性質: 第三の種類には、心を中心とする危険な性質 (内面の性格特性、気質、気質) が含まれます。 これらには、欲望と貪欲の支配、怒り、ケチ、傲慢、独善、誇示、嫉妬、他人に対する悪い考えを抱くこと、怠慢、プライドなどが含まれます。 人は自分の心を調べて、これらの[非難に値する否定的な特徴]が心に見られるかどうかを確認する必要があります。 心臓がこれらの性質から浄化されていると思うなら、心臓をテストする方法について考え、その評価を確認する兆候を探す必要があります。 もし自分自身が謙虚さと傲慢さからの免除を主張しているのであれば、バザールに行き、薪のパックを頭にかぶせて(昔は謙虚さと謙虚さのしるし)、その謙虚さを試すべきです。 昔は、人々は(スピリチュアルな道で努力している)そのように自分自身を試していました。 この反省の目的は、心がこれらの望ましくない性質と関連しているかどうかを[自分の目で]確認することです。 兆候がこれらの[非難されるべき内面の]性質の存在を明らかにした場合、人はこれらの性質を自分自身に悪く見せる問題について熟考する必要があり、これらの性質の源泉が無知、無注意、そして内なる悪であることが明らかになります。 もし人が自分の中に傲慢さを悟っているなら、その愚かさを自己に知らせ、「あなたは自分の自己(*ナフス*)を[尊厳と名誉において]大きいと考えている。むしろ、神の目に大きい人は大きいであり、これは死後にのみ、どの人が神の目に[尊厳と名誉で]大きいかを知るだろう」と説明すべきである。 傲慢さは致命的であり、その起源は愚かさであることが知られているとき、人はその治療法を熟考し、謙虚な人々のやり方を採用するという治療法を採用する必要があります。 同様に、もし人が自分の中に食べ物への貪欲と欲望を持っているなら、これが獣の性質(特徴)であると考えるべきです。 もし食べ物への欲望や交尾への欲望に何らかの完璧さ[善と卓越性]があったとしたら、それは知識や能力のような神と天使の属性であり、動物にはそのような性質が与えられなかったでしょう。 この欲望が人を支配する限り、その人は動物に似ていて、神に近い天使から距離を置くでしょう。

第四の種類 - 救いの資質: 救いの資質(崇高な内面の性格特性、気質、心を中心とする気質)は、悔い改め、罪に対する後悔と恥、逆境における忍耐、祝福に対する感謝、神への畏れ、希望、この世での禁欲、誠実さ、神の従順における真実性、神への愛と神を敬う、神の行動の受け入れ、神への憧れ、謙虚さ、 謙虚さなど。 [神のしもべ、つまり人間]は毎日自分の心を見つめ、神に近づける資質の中からどの資質が必要かを見極めるべきです。 特定の資質が必要であると学ばれるなら、これらの資質は[内なる]状態であり、状態は知識の成果(結果)であり、知識[と理解]は反省の成果であると考えるべきです。 ですから、自分の罪を悔い改め、後悔する状態を自分のために持つつもりなら、まず自分の罪をすべて吟味し、反省し、すべてを自分自身にまとめて、心の中で大きく考える必要があります。 次に、罪に関する神の律法に与えられた非難を一瞥し、罪が継続的に存在し、罪に固執するため、神の不快感を買おうとしているという確信を心に抱く必要があります。 人は、恥と後悔の状態が心に現れるまで、この反省を続けます。 同様に、もし人が[心の中で]感謝の境地に到達したいのであれば、まず神の祝福と恵みを研究(深く調べて)し、神が自分の罪に美しい覆いをかぶってくださったと考えるべきです。 神への愛と憧れの状態を発展させたいとき、神の美しさと威厳、そして神の偉大さと崇高さについて熟考する必要があります。 そのための方法は、まず神の素晴らしい知恵(私たちの状態、生活、創造物、自然、そして私たちの周りのあらゆるものや私たちの内なる存在の中で私たちの周りに明らかである)を見て、神の美しい神聖な性質(属性)を見てから、神の威厳と美しさについて熟考することです。 神を恐れる状態が望まれるなら、まず自分の内側と外側の罪を見てから、自分の死を振り返るべきであり、死後に遭遇する出来事や見方(預言の伝統で非常に詳細に明記されているもの)を振り返るべきです。 死後に訪れる天使(*ムンキール・ナキール*)の尋問、墓の罰、ヘビ、サソリ、昆虫との遭遇を振り返り、ラッパが吹かれ、終わりの日の野原が広がり、あらゆる粒子(世俗的には取るに足らないと考えていた些細なこと)に対して責任を問われるその日の恐怖と説明責任の強さを熟考する必要があります滞在)。 クルアーンが地獄について語ったことを思い出すべきです。 希望の状態が望まれるなら、楽園、その庭、木々、小川、そしてその住人の祝福と快適さを熟考し、これらすべての祝福と快適さが永遠であることを熟考する必要があります。

これは、エキゾテリックまたは啓示された知識(*クールーン・アル・ムアムラ*)と、良い内面の性質と悪い内面の性質を反映する方法です。 初心者のスピリチュアルな旅行者は、自分の心が高貴で崇高な内面の資質、特徴、気質、気質で飾られ、高貴なスピリチュアルなステーションで照らされ、自分の内面と外側の存在がすべての望ましくない特性から浄化されるまで、これらの反省に時間を費やし続ける必要があります。 この時点で、これらの問題を熟考することは素晴らしい礼拝ではあるが、これらは本当の目的ではないことをここで覚えておくべきである。 グノーシス主義者と神の親しい人々の本当の目的は、神の威厳と美しさを熟考し、彼らが自分自身からさえ消滅(ファナ)するようにこの反省に没頭することであり、言い換えれば、彼らは自分自身を無視します。 彼ら自身の状態、彼ら自身の精神的な立場、彼ら自身の内面の資質、そしてすべて。

最愛の人を映し出す彼らの状態は、最愛の人を目撃した真の恋人の状態のようなものです。 その時、人は自分の状態を一瞥し、自分の資質に注意を払う意識すらなく、むしろ唖然として自分のすべてを忘れてしまう。 これは[真の最愛の人]の恋人たちにとって最高の喜びです。

ここで議論されている反省は、崇高な内面の資質、特徴、気質、気質で心を飾り、[神の]親密さと最愛の者との出会いの喜びを達成する事柄に関するものです。 もし人が人生のすべてを心の改革に費やすなら、いつ親密さと[最愛の者との]出会いの喜びを得るのでしょうか? 神における絶滅(*ファナ*)は、神を求める人々の真の目的であり、グノーシス主義者や神の親密な人々にとっての快楽の頂点です。 霊的な旅人は、前述で説明したように、反省をルーチンとし、昼夜を問わずそれに基づいて行動し、常に自己、神から遠ざかる[非難されるべき内なる]性質、そして神に近づける[内なる霊的]状態を怠ってはなりません。 むしろ、すべてのスピリチュアルな旅行者は、自分の良い性質と悪い性質、罪、[神の]従順の行為をすべて書き留めるためのノートを保管し、毎日それらを試して自己を試すべきです[すべての悪い性質を飼いならして根絶し、すべての良い性質で自分の心と魂を飾ることにおいて、自分が良くなっているかどうかを確認するために]。

破壊的で救いの内面の資質: 破壊的な資質は無数にありますが、救いの資質も同様です。 しかし、10の破壊的性質と10の救いの性質を注意深く監視するのであれば、それで十分です。 これらの10の破壊的な性質は、けちさ、傲慢さ、自惚れ、誇示、嫉妬、怒り、暴食、過度の欲望、富への愛、名声と権力への愛です。 これらから身を守る者は、[すべての]非難されるべき資質から身を守ることができることが望まれます[これら10はすべての悪、悪徳、否定の源泉であるため]。 そして、救いの資質[人に積極性、高貴さ、崇高さ、静けさ、善と成功を吹き込む]のは、罪[と不正行為]に対する恥と後悔、逆境における忍耐、善悪を問わず神の意志を受け入れること、すべての祝福に対する感謝、神への恐れと希望のバランス、この世における[世俗性のあらゆる現れからの]禁欲、行動における誠実さ、 神のすべての創造物、神の愛、そして神のための謙虚さをよく扱います。 これらの20の資質がスピリチュアルな旅行者のノートにリストされているならば、治療は難しいままではありません。 治療法は、この20の事柄のうちの1つを熟考することから始めることです。 ある悪い性質が根絶されたとき、人はそれをノートに消し去り、それについて心配するのをやめ、神がその悪から解放され、その心を清めてくださったことに感謝し、神が与えられた能力と助けだけでその悪の心を清めたことを知ることができます。 もし神が自分に任せていたら、人は自分の心から悪のほんの少しも消すことはできなかったでしょう。 その後、残りの事項に注意を払い、それぞれを反省して削除する必要があります。 そうなったら、すべての破壊的な性質から解放されるまで、ノートでそれを消す必要があります。 そして、救いの内面の資質についても同じことを行い、これらの崇高な資質を一つずつ採用し、それが起こったときにノートでそれらを取り消し、すべての崇高な内面の資質が達成されるまで、ノートでそ

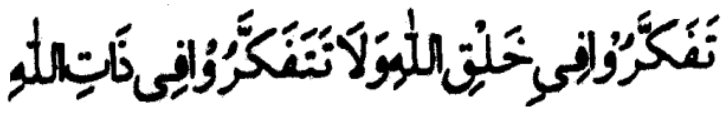
れらを消す必要があります。 これは、アクティブなスピリチュアルな旅行者(ムリード)のルーチンであるべきです。

これは、敬虔な人々や学者によって採用されたエキゾテリックな知識(*ウルム・アル・ムアムラ*)における反省の方法でした。 この方法を使い終えると、彼らは自分自身への傾向が残らず、代わりに、これらの反省から進歩して、神聖な輝きと威厳を振り返り、心の目で、神聖な美しさを目撃する喜びを振り返りました。 しかし、この反省は、人間がすべての破壊的な性質から切り離され、すべての救いの崇高な性質で飾られているときにのみ達成されます。 たとえそれ(証言)がその前に現れたとしても、それは欠陥があり、輝いてから[その直後に]消える稲妻のように儚いものになるでしょう。 破壊的な特徴を取り除くことなく、救いの[性質]で内なる存在を崇拝することなく、神の反省に従事する人は、[途方もない努力の末に]愛する人と孤独を見つけた恋人のようなものですが、その時、蛇やサソリが服の中を這い回り、噛みつきます。 明らかに、これらの有害な生き物に噛まれた痛みは、この孤独のすべての喜び(途方もない努力と苦しみの末に愛する人との)を失い、すべての喜びを台無しにするでしょう。 破壊的な性質はヘビやサソリのように有害でもあり、神聖な美しさを目撃する喜びを破壊します。 これらの破壊的な性質のために、墓場で[この世からの避けられない死の後]経験する[魂の奥底の]痛みは、ヘビやサソリに噛まれて[苦しむ][肉体的な]痛みよりもはるかに大きいでしょう。 この詳細は、[神の]しもべが自分自身の望ましい性質と望ましくない性質をどのように熟考すべきかを示しています。

第二のタイプの反省 - 神の威厳、偉大さ、壮大さ: 第二のタイプの反省は、しもべが神の威厳、偉大さ、壮大さを振り返ることです。 この反省には2つのステーションがあります。優れた最初のステーションは、神聖な存在と属性を振り返り、神の名前の意味を熟考することです[各神の名前は、そのあらゆる側面と現れにおいて存在のすべての領域に浸透する1つの特定の神聖な性質または属性を表しています]。 [ただし、]これは、[預言的なナレーションで]「神の創造物に反映し、神の存在に反映してはいけない」と言われているように、[素人にとって]禁止されているステーションです。 それは、知性が[神の存在の反映に]驚いているので禁止されています。 グノーシス主義者と神の親しい人々だけが、あえてそれに目を向けることができます。 しかし、彼らでさえ、この光景を永続させる勇気を持っていません。 被造物の目と比較した神の威厳の状態は、太陽の光と比較したコウモリの目の状態のようなものです。 コウモリは太陽の光に耐えられません。したがって、日中は隠れたままで、夜は太陽の残りの光の中で飛び回ります。 そして、グノーシス主義者や神の親しい人々(クルアーンの命令に従って預言者に次いで最高の[霊的]地位を持つシディキーン)の状態は、太陽を見ることができる太陽の中の普通の人間のようなものですが、人はこの視力の永続性に対する寛容さを持っておらず、むしろ、太陽を見続けることで視力を失う危険が残っています。 (太陽を)意図的に見つめることは、たとえそれが短時間であっても、目に損傷を与える原因となります。 同様に、神の存在を[心や魂の目で]見ると、驚きと驚きが生まれ、知性が動揺しま

す。 だからこそ、多くの知性はこの反射に耐えられないため、神聖な存在と属性を自分の反射の中心にしない方が良いのです。 しかし、学者たちが明確に認めた[神の存在についての]わずかな考察は、神は場所、環境、方向性から自由であり、宇宙の中にも宇宙の外にもおらず、宇宙に執着しておらず、宇宙から分離されていないということです。 一部の人々の知性は、この点に関して非常に驚き、動揺し、これらのことを聞いたり理解したりする力がなかったため、受け入れることを拒否しました。 これより低いレベルの説明すら耐えられない人もいた。 それゆえ、神は頭、足、手、目、その他の[人間のような]器官、またはある程度の量や大きさに収まる体を持つためにこれよりも高められていると彼らに言われると、これらの人々はそれさえ受け入れることを拒否し、これは神の偉大さと威厳の欠点であると言い始めました。 これらの愚かな人々は、偉大さと壮大さは[人間のような]器官を持つことにあると信じていました。 この[誤った信念]の理由は、人間は自分の体を知り、それを偉大だと考えており、その性質において自分自身と同等ではないものは、それらを偉大とは考えていないからです。 ほとんどの人の知性はそうです。 実際には、人間は抑圧的で、無知で、恩知らずなので、神は預言者の一人に「私のしもべたちに、私の属性について話さないでください。なぜなら、彼らはそれを受け入れることを拒否するからです。むしろ、彼らが理解し、理解できることを彼らに話してください」と言われました。 [神]への敬意、神の法則、そして[神の]創造物(人類)の改革は、私たちが神の存在を追い求めないことを要求します[私たちは限られた知性ではそれを理解することができないので]。

[神の威厳、偉大さ、壮大さについての反省の]第二の駅は、私たちが神の行動、神の能力、力、創造性の驚異、そして神の創造物に対する神の素晴らしい扱いに関連する問題について熟考することです。 これらの事柄は、陛下、偉大さ、壮大さ、優越性を証明しています。 彼らはまた、神の知識の完全性、知恵の完全性、神の能力の完全性、そして神の御心の実行についても議論します。 私たちは、太陽を見ることができないのと同じように、神の属性を見る力がないため、神の属性ではなく、神の属性の効果と顕現に目を向けるべきです。 地球の照明は太陽の光の影響によるものであり、効果は、影響を与えている人が見えなくても、影響を与えている人を指します。 地上に存在するすべてのものは、神の能力の効果または指標であり、神の存在の照明からの照明です。 無や無よりも大きな闇はなく、存在よりも明確な照明はありません。 万物の存在は神の存在の光であり、万物は神の存在を通して存在し、神の存在はそれ自体で存在するからです。 存在するものの光が太陽によるものであるように[太陽の光で見えるようになるので、そうでなければ完全な暗闇に浸ってしまうでしょう]、太陽はそれ自体で照らされます。 太陽が昇るにつれて、太陽が昇るにつれて、水に目が留まるので、容器に入れられた水にその像が見え、まるで太陽の輝きが水によっていくらか低下しているかのように、その像を見ることができます。 同様に、神の行動は、それらの行動を行う者(神)を目撃する手段でもあります。 私たちは神の資質を目撃し、神の存在の光に驚くことはありません。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は次のように述べています。



「神の創造物を振り返るのは、神の存在を振り返らない」。

欲望と自尊心の欺瞞に囚われて、あなたは天地の支配を見ることを怠り、今やあなたの目には、支配の所有者であり主人(神)の美しさにさえ重要性が残っていません。 あなたのたとえ話は、壮大な宮殿に家(アリの穴)を作ったアリのようなものです。 その宮殿は高く、美しく、力強いです。 その美しい部分には使用人が立っており、貴重な品物が満載です。 そのアリが穴から出て妹と会い、話す能力さえ得たら、その住居は美しい宮殿の中にありますが、暗くて狭い住居、ほとんど食料の提供、経済状況以外の話題について話すことさえできません。 それがすべきだったことは、壁が金ででき、床が銀でできている壮大な宮殿に住んでおり、上質で貴重なもので飾られた美しい人々で賑わっていることを姉妹に伝えることでした。 しかし、この哀れなアリは宮殿について何も知らず、近視眼的なせいでそれらの事柄を超えることができないため、その視力は住居や食べ物を超えていません。 しかし、あなたの強迫観念は何ですか? なぜあなたは、狭くて卑しい家に住みながら、神の広大な宮殿、その高い屋根、そしてその美しい品物や装飾品を無視しているのでしょうか? あなたは、神の天に住む神の天使たちをよく知りません。 アリが住居の天井について知っているのと同じくらい、あなたは天について知っています。 天使に対するあなたの親しみやすさは、アリがあなたや家の他の住人に親しんでいる程度にすぎません。 しかし、アリにはそれ以上の理解力がなく、その小さな知性では宮殿の驚異を理解することができません。 それとは対照的に、あなたには天の支配で反省の馬を走らせ、その驚異を理解する能力があります。 この能力を活用してみてはいかがでしょうか。

ここで、ペンは反射についてこれ以上言及するのを止めます。 制限のないテーマです。 たとえ私たちが長い生涯をその言及(説明)に費やしたとしても、私たちが知っていることは学者や神の親しい人々の知識に比べれば非常に小さく、学者や神の親しい人々が知っていることは、神の尊敬される預言者の知識に比べれば非常に取るに足らないものであるにもかかわらず、神が私たちに与えてくださったグノーシス(マリファ)を解明することはできません。 そして、名誉ある預言者が持っているものは、神の近くにいる天使たちのグノーシスの前には何もありません。 そうすれば、すべての天使、ジン、人間の知識をすべて神の知識の前に置くと、それを知識と呼ぶことすら正しくなく、むしろ、当惑、驚愕、欠点、欠点、実体の欠如以外の何とも呼べないでしょう。 すべての不完全さよりも高揚されるのは、グノーシス(*マリファ* - 神の知識、親密さ、そして神への近さ)を授け、彼らに次のように告げた存在です。

وَمَآ أُوتِيتُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ إِلَّا قَلِيلًا

「あなたたち(人間)は知識を与えられてきましたが、ほとんどありません!」 (クルアーン、17章、85節)

これは、人々が考えるべき方法についての大まかな議論でした。 ここでは、神の存在を振り返る方法については言及されておらず、むしろ創造主(神)のグノーシスを達成し、神の偉大さ、畏敬の念、能力の理解が[心に]生まれるように、[神の]創造物の反映だけが言及されています。神の創造と創造の驚異のグノーシスが高まる限り、その程度まで、神の威厳、壮大さ、偉大さのグノーシスも高まるでしょう。 それは、自分の知識に基づいて学者を愛し、その知識を理解しているようなものです。 その学者に関する他の知識、詩のユニークな詩、その他の美しい本、ある学者からの新しい研究に出会った場合、その学者への愛はさらに高まり、尊敬と名誉はさらに倍増します。 そのような人の一文、詩の一節、そして研究は、あなたの心の中でその人の名誉と賞賛を高め、その人の地位をさらに高めます。 同様に、神の創造物についても熟考する必要があります。 この天国(宇宙とその向こう側)と地、そしてその間に存在するすべてのものは、神の本であり、著者としての膨大な作品です。 あなたは一生それを学ぶことができますが、それは決して終わることはなく、毎日、新しい啓示と新しい理解の扉と道があなた方に開かれます。 しかし、真実は、すべての人が、神が[人の努力、霊的努力、誠実さ、忍耐力、そして何よりも神の意志に応じて]神の最高の知恵から)一人に割り当ててくださった[神の美の素晴らしさ]を熟考し、目撃することに、その分しか持っていないということです。

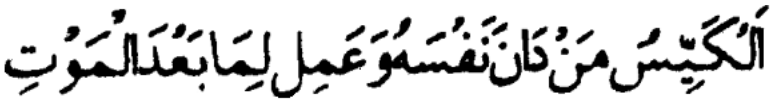
この議論はここで終わります。 「感謝の書」(第12章)では、私たちの主題は神の創造物でした。 しかし、それは神が私たちに授けてくださったものは何でも、神の恵み、報酬、恵みであるという事実に関しては存在し、ここにはそれが神の行為であり、私たちがそれを熟考すべきであるという事実に関して存在します。 ここで私たちが熟考したことは哲学者によっても熟考されますが、神から与えられた能力と成功(*タウフィーク*)を与えられた人の反省は、導き(*ヒダヤ*)と永遠の幸福と永遠の成功(*サーダ*)の導管になります。 天と地には、神がある人を導き、他の人を誤解させるために使わない粒子は一つもありません。 それにもかかわらず、これらの事柄を神の行いや属性であるという観点から熟考する者は、神の威厳と壮大さのグノーシスを受け取り、そこから導かれます。 そして、すべての原因、結果、手段の創始者(ムサビブ・アル・アスバブ)とは何の関係もなく、あるものが原因であり、別のものが結果であることに目を向けている人は、見当違いになります。 私たちは、誤った導きから神の避難所を求め、神が純粋に神の優しさと恵みから、無知な者の足が方向転換される[彼らを奈落の底にたどり着く]あらゆる機会から私たちを救ってくださるように神に祈ります。

第20章 自分の死と世俗的な人生の終わりを熟考し、決して見失わず、永遠の命に備える

この世俗的な人生は永遠の命への通路にすぎないことを認識し、自分自身の死、誤りの可能性、そして自分の最終的かつ避けられない終わりに気付くことは、自分の人生の本当の目的に対する無注意、怠慢、無自覚、そして富の蓄積、物質主義的な執着、不正、他人に行われた悪、そして一時的で儚い世俗的な存在の間に行われる仲間の人間との対立に対する強力な解毒剤です。 時々、仲間の人間に解き放たれる利己主義と抑圧の行為は、これが私たちの次の世代のために行われているという利他主義を装っています。 それも誤謬であり、同じ結末が私たちを待っているのと同じように、次の世代を待っています。 高貴な目的は高貴な手段によってのみ達成でき、目的は手段を正当化しないため、卑劣な手段では達成できません。 最終的な帰郷は永遠の住まいの中で神のみに帰ることであり、そこでの状態は、この世俗的な生活のこの一時的な存在における人の行いや悪行に見合ったものであることを認識することは、あらゆる形や現れの悪に対する強力な抑制です。 自分の終わりを見据えることは、この人生が終わった直後に始まる永遠の命を損なうために、長寿への希望を短くすることで、物事を正しい視点に見せます。 それは私たちが今持っている瞬間や機会を最大限に活用し、私たちを正直さと自己改革の道に導くのに役立ちます。 この主題に関するガザリの解説は、彼の*最高傑作*「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」の第4巻の第10巻で最後の本から次のように要約された形でここに提供されています[26]。

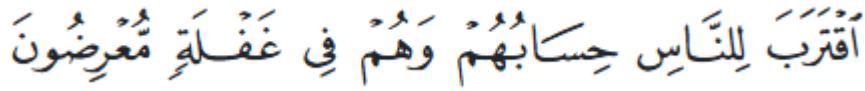
[人生の最終章で]死に打ち負かされ、最後の安息の地は墓であり、その仲間はヘビ、サソリ、昆虫であり、約束の場所は審判の日であり、その[最終的な]目的地は天国か地獄のどちらかであり、(つまり、例外なく地上のすべての人間にとって)、 そのような人は、死について考え[永遠に乗り出すための世界を旅する終わり]、それを自分自身に言及

し[物事を正しい視点で考えることを思い出させるものとして]、それに備え、熟考し、それを切望するのが適切です。 そして、ここにいない人は皆、すでにその余波に直面しており、今その余波に対処している]、それを待ちます[それは永遠への道であり、もし人がそれを切望し、働き、闘ったなら、最愛の人と出会うことなので。 そのような人にとって、これから来るものは近くにあり、遠いものは来ないものであるため、自分自身(*ナフス*)は生前に死んだと考えるのが適切です。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「知的な人は、(欲望や欲望を追って暴れることから)自分自身を抑圧し、死後の人生のために働く人です。」

あることが記憶されなかったり、繰り返し言及されたりしなければ、その物事に正しく準備することができないのは事実です。 死について私たちに思い出させる事柄に注意が払われるまで、繰り返し言及することは起こり得ません。 したがって、死、死への準備、死に関連する事柄、来世、地獄と楽園の状況について言及し、[神]のしもべがこの旅の時が来たので、人生は日に日に短くなっているので、私たちはそれに備えることができます。 今、短い寿命が残っていますが、人々はそれに注意を払っていません。 神はこう言われます。



「人々に説明責任を果たす時が近づいていますが、彼らは怠慢と怠慢に没頭しています。」 (クルアーン、21章、1節)

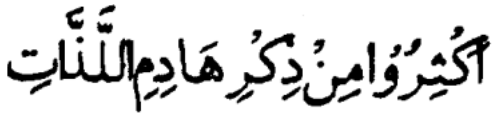
まず、その前の生涯からラッパを吹くまでの死に関する事柄を解説します。 これは8つのトピックで構成されています。

世界旅の締めくくりに向けた準備

自分の死について言及し、それを豊富に思い出す:この世に耽溺し、その欺瞞に没頭し、その欲望の愛に浸っている人は、そのような人の心は確かに死を怠っており、死についての言及は決して自分の舌に出てこないし、その考えが心に浮かび上がることもないことを知っておくべきである。 誰かがそのことを前で言及すると、憎しみと嫌悪感で顔をそむけ、その言及を激しく嫌います。 そして、個人には3つのタイプがあります:世界に完全に没頭している人もいれば、悔い改めている人もいれば、強烈なグノーシス

と理解を持っている人もいます。 最初のタイプの人々は死について言及せず、たまたまそれについて言及した場合、それを世界からの分離に対する後悔と結びつけ、それに奉仕し始めます[彼らの生涯を利用して、より没頭し、そこから最大限の楽しみを得ることによって]。 このように死について言及すると、彼らは神からより遠く離れ、距離を置くことになります。 悔い改める[第二のタイプ]の人々は、自分の死を深く覚えていて、恐怖と恐怖が心から取り除かれ、悔い改めを完了します[自分の過ちを償い、罪を償い、神の礼拝に優れ、人生の終わりまでに神の道を歩むことによって]。 時には死を嫌うこともありますが、それは単に、悔い改めが完了する前に、そして創造主に帰る旅のために神の道で善行の準備を集めることができる前に、死が彼らを[この世から]奪うためだけです。 そのような人は、断固として嫌いではなく、自分の罪[と悪行]のために神との出会いを奪われることを恐れているため、それを嫌うのは許されます。 これは、愛する人との出会いを奪われることを恐れている人が、その出会いの準備をし、愛する人の願望に従って自分自身を飾っているのと同じです。 そのような人について、最愛の人と会うのが好きではないとは言われず、その兆候は、最愛の人との出会いの準備に忙しいことであり、それを除いて、他の婚約はありません。 グノーシス主義者または神の親密な人は、常に死を思い出し、死後に最愛の人と会うことを[十分に]知っていてそうする人です。 恋人は最愛の人との出会いの時間を決して忘れません。 そのような人は、多くの場合、死の到来をもっと早く望み、罪の住処を取り除き、すべての宇宙と存在の主(*ラブ・アル・アラミーン*)の近くに移ることができるように、死の到来を喜びます。 悔い改めた人は死を嫌うことが許され、この人も死を好むことが許されます。 この二人の中で、霊的な地位において最も優れたのは、自分のことを神に委ねる人です。 言い換えれば、人は自分自身のために死も生も好まず、代わりに、自分の主に愛されているものだけが自分に愛されるのです。 神の愛の強さにより、そのような人は神の意志を受け入れるという高貴な[霊的]立場に達します。 これが望ましい目的であり、達成の頂点です。 それにもかかわらず、自分自身の死を思い出すことには、大きな卓越性と神の報いがあります。 世界に沈んでいる人でさえ、死を思い出すことからこの恩恵を得ることができ、死をその世界(世界)から遠ざけ始め、この思い出は快楽に対する幻滅を生み出し、快楽と欲望を台無しにすることは救いと解放の手段の一つです。

自分の死を思い出すことの卓越性: 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は言いました。



「快楽の消しゴム(つまり死)をもっと覚えておいてください」。

それは、あなたの心が死を避け始め、神に集中し始めるまで、死を思い出すことによって喜びが濁るべきであることを意味します。 この世は信者にとっての牢獄であり、こ

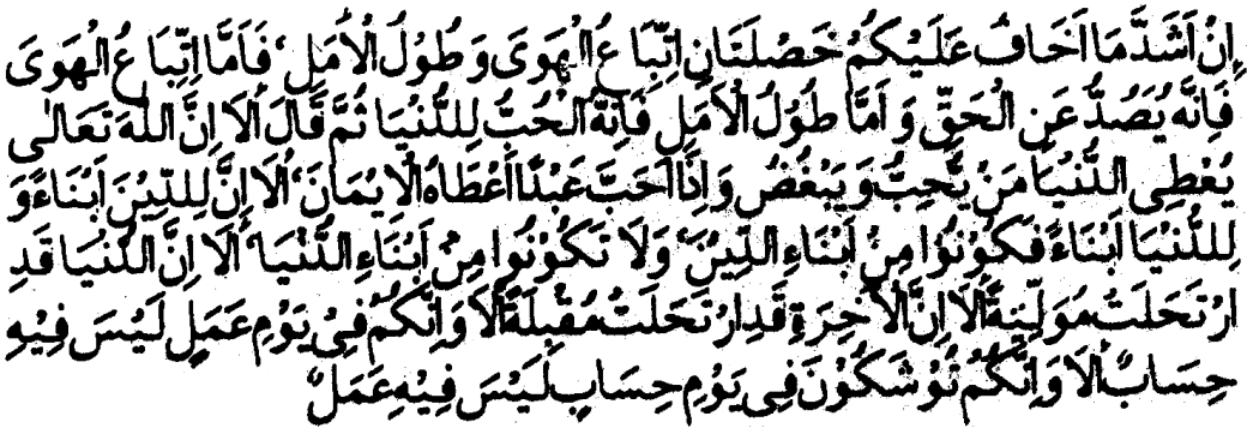
の世の牢獄に閉じ込められている限り、人は自己を懲らしめ、サタンに抵抗し、欲望から距離を置くことにおいて、さまざまな種類の苦難に耐えることになります。 死は人をこれらの苦難から解放します。

自分の死の記憶をしっかりと根付かせる方法:人々はそれを反省し、記憶に従事しないため、それを無視し、怠慢であり、たとえ言及しても、解放された心でそうするのではなく、むしろ世俗的な欲望にふけった心でそうします。 したがって、それについて言及しても心臓には何の影響も与えません。 自分の死の記憶をしっかりと染み込ませる方法は、この記憶以外のすべてから心を空にし、旅行者が危険な谷を通り抜けたり、海を航海したりするように、常に死が目の前にあるかのようにこの考えを持つことが旅に完全に集中することです。 したがって、そのように自分の最期を思い出すのが心に残っているなら、それが心に影響を与えることが期待されます。 死を思い出す有益な方法は、同年代の同年代で、同じような人で、人生の活動で忙しそうに見えても、今は土のベッド(墓)にいる人々のことを考えることです。 彼らはどれほど素晴らしい階級を持っていたか、どれほど裕福だったか、汚れによって階級と称号がすべて消され、配偶者は未亡人や未亡人になり、子供たちは親を亡くし、富[と彼らが残した財産]はすべて失われ、[社交]集まりには、まるで彼らが生まれていなかったか、存在しなかったかのように、今では誰も彼らについて言及することさえないほど、彼らが欠けています。 [亡くなった人について知っている人]すべての人がそのように調べられ、彼らの状態、死の状況、外見と外見、活動、[人生における]他の仕事が心に浮かび、彼らがどのように人生に没頭し、死を忘れていたかを考え、彼らは[人生で成功し繁栄するために必要な]すべての手段を持っていると[誤って]考え、彼らの強さと若さは終わりはありません。 したがって、彼らはスポーツ、遊び、娯楽に忙しく、急速に近づく死を怠ったままでした[これらすべてと彼らが信じていた誤謬にもかかわらず、彼らは依然として最終的に最期に直面し、もうここにはいません]。 そのような人の一人を見て、快楽や楽しみに耽っていたのに、今は足が折れ、体が崩壊して散らばっています。 以前は生活の中でよく話し、笑いを広めていましたが、今では虫が舌を食べ、汚れが歯を食い尽くしています。 人は、自分自身と死の間にわずか1か月の距離があり、それに対する認識すらなかったにもかかわらず、自分自身のために良い[将来の]計画を立て、次の10年間は必要のないより良い取り決めをますます行っていましたが、死は予想もしなかった時間を一つずつ掴んでしまいました。 突然、死の天使が一人の前に現れ、(魂を奪う前に)耳元で天国か地獄かを告げました。

この時点で、人は自分自身を見つめ、自分は彼ら(亡くなった人、たまたま同時代人だった人)と同じであり、怠慢で怠慢な状態は彼らと同じであり、自分と同じ結末をたどる危険があることを見なければなりません。 アブドゥッラー・イブン・マスード(神が彼を喜ばれますように)は、「幸福と成功の人は、他人[および彼らの人生]から教訓を得る人です」と言いました。 これらの考えや反省とともに、墓地に行って病人を訪ねることを日課にすれば、心に新しいままになるでしょう。 そして物事を正しい視点で捉

える]。 この状況で、人は死に備え、欺瞞に特徴付けられる世界を脇に置くことが望まれます。 単に死について言及し、表面的に覚えているだけでは、あまり有益ではありません。 何か良いものの考えが心に生まれるときはいつでも、いつかそれからの分離に直面するだろうと考えるべきです。

長寿への希望を持つ、希望を短くする、長い希望の理由、そして治療法:アリ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと語りました。


إِنَّ أَشَدَّ مَا أَخَافُ عَلَيْكُمْ خَصْلَتَانِ اتِّبَاعُ الْهَوَى وَطُولُ الْأَمَلِ، فَأَمَّا اتِّبَاعُ الْهَوَى
فَإِنَّهُ يَصُدُّ عَنِ الْحَقِّ وَأَمَّا طُولُ الْأَمَلِ فَإِنَّهُ حُبُّ الدُّنْيَا ثُمَّ قَالَ أَلَا إِنَّ اللَّهَ تَعَالَى
يُعْطِي الدُّنْيَا مَنْ يُحِبُّ وَيُبْغِضُ وَإِذَا أَحَبَّ عَبْدًا أَعْطَاهُ الْإِيمَانَ أَلَا إِنَّ لِلدِّينِ أَبْنَاءً وَ
لِلدُّنْيَا أَبْنَاءً فَكُونُوا مِنْ أَبْنَاءِ الدِّينِ وَلَا تَكُونُوا مِنْ أَبْنَاءِ الدُّنْيَا أَلَا إِنَّ الدُّنْيَا قَدِ
ارْتَحَلَتْ مُوَلِّيَةً أَلَا إِنَّ الْآخِرَةَ قَدْ ارْتَحَلَتْ مُقْبِلَةً أَلَا وَإِنَّكُمْ فِي يَوْمِ عَمَلٍ لَيْسَ فِيهِ
حِسَابٌ أَلَا وَإِنَّكُمْ تُوشِكُونَ فِي يَوْمِ حِسَابٍ لَيْسَ فِيهِ عَمَلٌ

「私はあなたから2つのことを最も恐れています。1つは自分自身の気まぐれ(低次の自己からの欲望)に従うこと、もう1つは長い希望(または長寿への期待)を持つことです。 気まぐれに従い、真実の道から立ち止まり、長い希望を持つことは、世界への愛を意味します。 [その後、彼は言った]神は、愛する人も嫌いな人も、すべての人に世界を与えますが、神は愛する人に[神と必然的に神と結びついている永遠の真実への]信仰を[ただ]愛する人に与えてくださいます。 神の道(ディーン)の息子(完全な献身)である人もいれば、世界の息子である人もいることに注意してください。 世界の息子ではなく、神聖な道の息子になりなさい。 来世があなた方に正面からやって来ていることに気づいてください。 今日、あなたは[来るべき永遠の命のために十分に準備するために]行動できる日であり、そこには説明責任はありません。 間もなくあなたは説明責任の日(裁きの日)に来るでしょうが、その中には何の行動も起こらないでしょう(世俗的な旅の終わりに行動する時間が過ぎたため)」。 (ナレーション: *ハディースコレクション イブン・アビ・アル・ドゥニヤ*)

長い希望(または長寿への希望と期待)の理由は2つあり、1つは無知、2つ目は世界への愛(世俗性)です。 この世を愛する意味は、人がその欲望、快楽、婚約に慣れると、この世から離れることが非常に重くなり、死がこの[自分自身と世界の間の]分離の原因であるため、[差し迫った]死について考えることを妨げるということです。 人間は本質的に、嫌いなものから何かを遠ざけます。 人は常に偽りの希望や欲望に悩まされているのが人間の本性であり、それは自分の欲望に沿ったものです。 したがって、この世にと

どまることは、まさに自分の欲望に沿ったものです。 だからこそ、人は常にそのことを考え、配偶者、子供、家、友人、親戚、乗り物、そして世界のあらゆる手段など、生活に必要なものすべてを自分のために想定します。 人の心はこの心配に夢中になりすぎて、死を怠り、死が近づいているのが好きではなく、死の考えが心に浮かび、死に備える必要があると思い浮かべたら、言い訳をし、まだ時間は十分にあると自分に約束します、私は大人になったら悔い改めます。 人が成長すると、老後まで延期します。 年をとると、「家を建てたり、旅行から戻ったり、子供の将来のために何かをしたり、敵に対処したりしたら、悔い改めるだろう」と言います。 なぜなら、自分が関わっていることが、遅れがどんどん長くなり、新しい婚約が生まれ、それを完了するためのインセンティブが力強く上昇し、約束された時が来て、死が想像もしなかった時間に人を奪い取るまで、そのように自己を言い訳し、悔い改めを終わりのない連鎖に遅らせ続ける(延期)し続けるからです。 その時、自分の後悔と悲しみは見るべきです。 世の中で忙しい人は、いつかはきっと自由な時間が得られると思います。 これは単なる誤解にすぎませんが、人は世界から完全に切り離されたときにのみ自由な時間を得ることができます。

無知とは、自分の若い頃に大きな自信を持ち、若い頃には死が来ないと考えることですが、これは純粋な愚かさと無知です。 周囲を調べてみると、老人の数はそれほど多くないことがわかります。 その理由は、老齢になる前に起こる死が多いからです。 老人が死の扉をノックする頃には、すでに何千人もの若者や子供たちが死を受け入れています。 時々、人は自分の健康の観点から死を遠く離れていると考え(健康は人をだまして、老いになる前に死なないと信じ込ませます)、突然の死を重要視しません。 突然死が不可能ではないことを知りません。突然死が不可能であると考えられるなら、突然の病気は不可能であるとは考えられず、むしろ病気が突然現れ、病気になったとき、死が遠くないと誰が言えるでしょうか? この怠慢で不注意な人が、死に特別な時間はないが、子供時代、青年期、老年期、冬、夏、春、秋、昼夜を問わずいつでも訪れる可能性があると考え、理解しているなら、死が人の目に重要視され、その準備を完了できることが期待されます。 しかし、これらの事柄に馴染みがなく、世界への愛が目の前にあり、それが自分に起こるとは思っていません。 人は葬儀に行きますが、(いつか)人々が自分の葬儀にそのように歩くことを理解していません。 実際には、葬儀に行くことが習慣化されており、人が死んでいるのを見ることがあまりにも頻繁に起こったため、慣れてしまいました。 今、葬儀を見ても、自分の死の認識を呼び起こすわけでも、それについて考えることもありません。 しかし、死は一度だけ訪れる、それが最初で最後になるだろう。 それにもかかわらず、言い訳をすることは単なる無知と愚かさです。

自分自身の死を遠いものと考える理由が、無知と世界への愛(世俗性)に等しいことが明らかになったら、その治療法を知ることも不可欠です。 病気は、その原因を取り除くことで治すことができます。 無知の治療は、思考を明晰にし、浄化された心からの知恵の言葉に耳を傾けることによって行うことができます。 しかし、この世の愛の治療

法は難しい。 それはそのような病気であり、その治療法は最初と最後の人々(前世代と後の世代の賢者)を疲れさせました。 その治療法は、終わりの日(審判の日)と、報いと罰の観点からそこにあるものすべてに信仰を持つ[神の]しもべに他なりません。 終わりの日に確信が完成するとき、優れたものへの愛は、心から劣ったものへの愛を消散させるので、世界への愛は心から離れるでしょう。 ここには、一方ではすべての問題を抱えた世界があり、他方では、その繊細さ、美しさ、栄光のすべてを備えた来世があります。 人間が心の明晰さ、清らかさ、明晰さで両方を振り返るとき、東から西への政府を与えられたとしても、世界への傾き(世俗性)は少しも残っていません。 それは、人がこの広い世界のほんの一部を受け取ったとき、それも泥だらけがないわけではないからです。 来世への信仰が心にしっかりと根付いている人、そのような人はどうして心にこの世の愛を固めることができるでしょうか? 人はいつも自分の手足を一瞥し、それがどれほど美しく、生き生きとしていて、強いかを振り返るべきですが、すぐに墓の中の昆虫がそれらを食べ物にします。 昆虫が食べない体の部分は一つもありません。 もし何かが残されるとしたら、それは正しい知識と正しい行いです。 これらの問題を熟考するとともに、墓の罰、天使の尋問(*ムンキール・ナキール*)、裁きの日、復活、終わりの日の出来事、そしてその力強い日の法廷への出廷と[神の前での]説明責任など、他の関連事項について熟考する必要があります。 これらの事柄は、振り返ってみると、死の記憶が[心の中に]新鮮に残り、それに備えたいという願望があるようなものです。

長い希望と短い希望の観点から見た人々の程度: この点で人々は異なります (長寿または短命に対する希望と期待の観点から)。 自給自足を望み、この世に永遠に住みたいと願う人もいます。 神はそのような人々について次のように言われています。

يَوَدُّ أَحَدُهُمْ لَوْ يُعَمَّرُ أَلْفَ سَنَةٍ

「彼らの中には、千年の人生を望んでいる人もいます。」 (クルアーン、第2章、96節)

老後まで生きたいと思う人もいます。 これは、観察される極端な年齢です。 これらの人々は、世界への強い愛に囚われています。 したがって、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は次のように述べています。

اَلشَّيْخُ شَابٌّ فِي حُبِّ طَلَبِ الدُّنْيَا وَإِنِ الْتَفَّتْ تَرْقُوَتَاهُ مِنَ الْكِبَرِ إِلَّا الَّذِينَ اتَّقَوْا وَقَلِيلٌ مَا هُمْ

「年老いた人は、たとえ老いによって手足が曲がってしまったとしても、世界を求める(または追い求める)ことを愛する点では若いが、そのような人々は神を恐れず、彼ら(つまり、敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏れ心を持つ人々)の数は非常に少ない」。 (

ナレーション: *ハディースは、アブ・フライラの権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを*収集します[神が彼を喜ばれますように])

ある人は、一年以上期待しない。それゆえ、彼らは一年の必需品を手配し、冬には夏に向けて蓄積し、夏には冬に向けて蓄積する。 したがって、彼らが1年間[生存]するために物を集めることができたとき、彼らは神の崇拝に従事します。 1年未満の寿命を期待する人もいます。 彼らは今シーズンで来シーズンに向けて準備をしていない。 一日以上生きることを期待していない人もいます。 彼らは今日だけ準備し、明日の準備には従事しません。 イエス(神の祝福と平安あれ)は言われました、「明日の糧を心配しないでください。明日があなたの人生に来たら、明日の糧もそれとともに来ます。あなたの人生に明日が存在しないなら、他の人の人生を心配する必要はありません。消えます]」と述べています。 [人生と生活に対する]期待が一瞬を超えない人もいます。 預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)が言ったように、「おおアブドゥッラー[ビン・ウマル]! 朝になったら夕方を心配せず、夕方になったら朝を心配しないでください。」 一瞬に頼らない人もいたので、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、自然の呼びかけを果たした後、すぐにほこりによる清め(*タヤムム* - 預言者が常に外側と内面の純粋さの状態を維持していたため、水がない、または遠く離れた場所で、外側の純粋さのために行われる清め)を、たとえ水が遠すぎず使用されていなかったとしても、その瞬間に行われました「おそらく私は水にたどり着けないでしょう[そして、私の魂はその前から奪われるでしょう]」と言うこと、あたかも死が彼の目の前にあり、彼にやって来ようとしているかのように。 そのような人は、あたかもそれが自分の最後の祈りであるかのように[神に]祈ります[神の前で最大限の誠実さと心の臨在をもって行われます]。 ムアド・イブン・ジャバル(神が彼に喜ばれあれ)も同じ状態にあったので、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が彼に信仰の現実について尋ねたとき、彼は「私は次の一歩を踏み出せるだろうと推測したとき、私は一歩も踏み出していません」と答えました。 (ナレーション: *ハディース*集 *Abu Na'eem fi al-Hilya*)[アフリカの偉大な聖人]アスワド・ハブシ(神が彼に憐れみあれ)について語られているのは、彼が夜に祈るとき、あちこちを見回していたと語られています。 誰かが彼になぜそんなことをしたのか尋ねると、彼は「死の天使がどこから来るのかを見るために周りを見回します」と答えました。

これは、さまざまな階級と程度の人々の[長生きへの希望と期待の観点から]の説明です。 彼らはその程度に応じて神から報いを受けています。 [人生や生活に対する]希望と期待が一ヶ月である人は、たとえそれが一日多であっても一ヶ月以上である人とは異なり、どちらも同じ程度ではありません。 神には正義と公平があり、神はそれらを同一視することによって不正を犯しません[なぜなら、彼らはこの問題において平等ではないからです]。 彼は言います:

فَمَن يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُۥ

「原子の重さに相当する善を行う者は、それを[神の前で]見るでしょう。」 (クルアーン、99章、7節)

[長生きへの]希望と期待が短くなる効果は、[真剣に][正しい]行いを[行う]ための進歩から明らかです。 [神からの]能力と成功のしるし(*タウフィーク*)は、死が目の前にあるべきであり、一瞬たりともそれを怠らず、常に自分の最終的な終わりに備えているということです。 もし人が夕方まで生きているなら、その人は、神が従順の機会を与えてくださったので、神に感謝し、一日が無駄にならなかったことを喜ぶ、むしろ、その分け前を神の道で得たものと、そこから得た分け前を手に入れた。 来世のために保管(安全預け)されています。 そして、同じ感謝の気持ちで朝を始め、[導きと正しい助言]と神の従順に耳を傾けます。 心が明日の[心配、不安、計画、戦略]から解放され、明日何が起こるかを心配しない人だけが、これを簡単に行うことができます。 そのような人は死後も永遠の幸福と無限の勝利(*サーダ*)を達成し、生前は死後の世界への準備と神への懇願の喜び(*マナジャート*)により幸せであり続けるでしょう。 そのような人にとって、死は永遠の幸福と永遠の成功(*サアダ*)を達成するための手段であり、人生は永遠の幸福と永遠の成功を高めるための手段です。 おお、人間よ! 自分の終わりの考えを常に心に留めておいてください。 人生はあなたを[世界から]飛ばし、あなた自身は[世界]の怠慢に耽っています。 幸いなことに、あなたの[この世界を巡る人生の]旅が終わりに近づき、あなたの[最終]目的地が近づいているかもしれません。 [善、敬虔、高貴、正義の]行動に向かって前進することによってのみ、目的地の快適さを得ることができます。

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は言いました、「あなたがたは、人を反抗的にするような豊かさ(豊かさや繁栄)や、神の服従を怠るような貧困、あるいは人を肉体的に無力にする病気、あるいは知性を無効にする老い以外には待たない。 あるいは、間もなく来ようとしているそのような死のために、あるいは*ダジャル*(反キリスト)にとって、*ダジャル*が待っている失踪者として最悪の人であり、あるいは審判の日と審判の日が非常に辛くて苦いためです。」 (ナレーション: アブ・フライラの権威に基づく*ハディース集ティルミディ* [神が彼を喜ばれますように])。

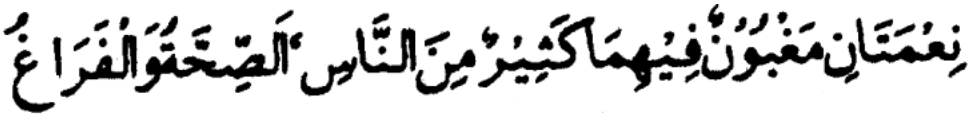
アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと語っています。

اِغْتَنِمْ خَمْسًا قَبْلَ خَمْسٍ شَبَابَكَ قَبْلَ هَرَمِكَ وَصِحَّتَكَ قَبْلَ سُقْمِكَ وَ غِنَاكَ قَبْلَ فَقْرِكَ وَفَرَاغَكَ قَبْلَ شُغْلِكَ وَحَيَاتَكَ قَبْلَ مَوْتِكَ

「5つのことよりも5つのことを大切にし、それらを正しい努力に賢く使う。老いの前の若さ、病気の前の健康、貧困の前の繁栄、婚約前の自由時間(忙しい時間)、そして死

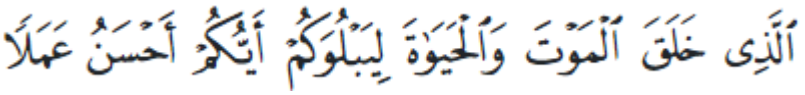
ぬ前の人生」。 (ナレーション: *ハディース コレクション イブン・アビ・アル・ドゥニヤ*)

別のナレーションで、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)はこう言いました。



「ほとんどの人が(正しくフルに活用しないことで)損失を被るような2つの祝福があります。それは健康と自由な時間(休息または休息)です。」 (ナレーション: *ハディース徴収 サヒー・ブハーリ* アブドゥッラー・イブン・アッバースの権威により[神が彼を喜ばれますように])

この預言的な物語の意味は、人間はこれらの祝福の両方を[神に]与えられているが、両方を利用することはできないが、それらがなくなると、その価値と重要性に気づくということです。 神はこう言われます。



「[神は]あなたがたの中で誰がより善な[高貴で正しい]行い(努力、努力、成果)を行うかを[彼らの道と挑戦で]試すために[彼らの道と挑戦で]あなたを試すために死と命を創造された方です。」 (クルアーン、第67章、2節)

死の苦しみの痛み: 死の苦しみの痛みは、この段階を通過した人だけが正確に推定できることを知っておいてください。 この痛みを経験したことがない人は、時々到達した痛みや逆境を推測したり、最後の瞬間の激しさで人々を観察することである程度の推定を行うことができます。 論理的な推論から、魂を持たない[身体]器官または手足は痛みを経験せず、魂が存在する場合、痛みの感覚もそこにあると主張できます。 このことから、痛みは魂によって知覚されることがわかります。 したがって、人が怪我をすると、その衝撃は魂に届き、魂に届く限り、痛みは肉、血、体の他の部分に広がるので、その程度まで痛みを感じます。 そのため、魂は痛みを経験しませんが、痛みや不快感の中心が特に魂であり、魂以外の何ものでもない場合、痛みの深刻さは想像できます。[人生の最後の瞬間に]死の苦しみとは、魂の実体に降りかかり、そのすべての構成要素に広がり、この痛みが貫通して到達していない場所に魂のどの部分も残らないまで、魂のすべての構成要素に広がるまさにこの痛みを指します。死の苦しみは魂の実体を攻撃し、魂のすべての部分に広がります、なぜなら魂(魂)はすべての静脈、すべての関節、すべての部分から取り除かれているからです。 このことから、魂が耐えなければならない痛みや苦しみの量を評価することができます。

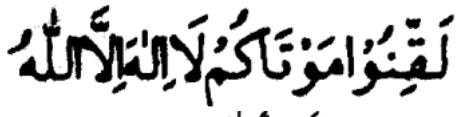
質問に関する限り、「人間は怪我をしたり、殴られたりするとよく叫びますが、死の苦しみで経験する痛みはもっと大きいと言っていますが、死の時は悲鳴を上げません。 [その理由は何ですか?]」 答えは、過度の衝撃のせいで死にゆく人の舌が封印され(話すことができない)、悲鳴を上げることができないということだ。 痛みは非常に激しいため、この攻撃によって心臓、脳、体がすべて無力化されます。 すべての力がなくなり、すべての臓器が弱くなり、嘆願する力がなくなり、知性が分離し、言葉が舌から奪われ、臓器が動かなくなり、心の鬱積した感情を発散し、痛みや悲しみから少しでも癒される安らぎを見つけるために大声で叫びたいのですが、叫ぶことはできません。 (死にゆく人の)左に力が残っていると、魂が去るとき、喉と胸が鬱積した[ゴロゴロとガタガタと]音を発し、あたかもその塵が現れたかのように色がほこりの色に変わり、それが人間の起源であり、内側のいたるところに痛みがあるため、すべての静脈が引っ張られ始めます。 目が上に移動し、唇が縮み、舌が中に引き込まれ、指が緑色に変わります。 すべての静脈が引っ張られている体の状態について何を尋ねますか? 体の1つの静脈が引っ張られると、痛みの強さのために叫ぶことを余儀なくされます。 ここでは、すべての静脈が引っ張られ、徐々にすべての臓器が死に始めます。 両足が死に、最初に両足が冷たくなり、次にすね、次に太ももが冷たくなり、次にすべての臓器で次から次へと痛みが起こり、次に魂が引っ張られる間に喉に到達するまで、次から次へと激しさに直面します。 その時、人は世と世の人々から目を背け、悔い改めの扉は閉ざされ、悲しみと恥は曇ります。 要するに、死の苦しみの厳しさ、痛み、苦い思いは言葉では言い表せません。 したがって、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は[全人類を教える方法によって]神に懇願しました。

اَللّٰهُمَّ هَوِّنْ عَلٰى مُحَمَّدٍ سَكَرَاتِ الْمَوْتِ

「おお神様! ムハンマドにとって死の苦しみの厳しさを楽にしてください!」

普通の人々(素人)は、これらの苦しみを何の重要視もせず、実際に起こる前の物事の認識は、預言者の光(*ナブワ*)と神との親密さの光(*ウィラヤ*)によって起こるため、彼らから[神の]避難所を求めません。 したがって、預言者や神の親しい人々(グノーシス主義者)は、死をより恐れています[なぜなら、彼らは死が何を伴うかを事前に知っているのに対し、残りの人類はそれを知らず、自分自身でそれを経験するまでそれに気づかないからです]。

死の際の行動は? 死の時に起こり得る良いことは、死にゆく人が平和であり、証言の言葉(「神以外に神はいない[]」)の朗読が لَا إِلٰهَ إِلَّا اللّٰهُ 舌に残り、心には神に対する良い意見と感情があることです(*フスン・アル・ドゥン*)。 この証言の発話は良い兆候です。 アブ・サイード・アル・フドリ(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言ったと言いました。



「死にゆく人々に『神以外に神はいない』と唱えるよう勧めなさい。)'".

ウマル(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「あなたが[目撃]していないような事柄を[その時]目撃したので、死にゆく人々を訪ねて彼らに助言し、彼らに『神以外に神はいない』と唱えるように勧めてください」。 勧める人は、死にゆく人の舌が動かないことがあるので、自分の勧告を主張したり、優しさを使ったりすべきではありません。

この説明の結論は、人間が死を受け入れるとき、心の中に神以外のものを持てはならないということです。 もし心の中で神以外に何も求めないなら、その人の死は[神の愛の状態で、神の愛の状態で、それに包まれ、永遠への道を素晴らしい経験にする]最愛の人に行くための[手段]であり、最愛の人のところに行くことほど大きな祝福を得ることはできません。 もし人の心が世に夢中になり、その快楽から切り離されて悲しみ、「神以外に神はいない」という[神の証言]を唱 えるだけで、心はそれを確かめないのであれば、神が祝福を授け、その人の単なる言葉を受け入れる以外に、その人の事柄には危険がないわけではありません。 しかし、その時は神に対して良い意見を持つ方が良いです。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、死にかけている若者を訪ねました。 彼は彼に「どうしてこの時期にこのような状態になっているのですか?」と尋ねました。 彼は「私は神に希望を持っており、自分の罪を恐れています」と答えました。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「この二つのものが[神の]しもべの中に[同時に]集まるとき、神は人が[神に]期待するものを与え、人が恐れるものから救いを与えてくださいます」と言いました。 死の時にしもべ(死にゆく人)の善行について言及して、神に対して良い意見を持てるように(人生の旅の終わりに神に希望を持つという点で)良いでしょう。

死の苦しみの中で死にゆく人の状態、埋葬前と埋葬後の死者の状態について説明しました(簡潔にするために、ここではガザリのこの説明の一部をスキップしました)。 故人が[自分の悪行とその厳しさのために]神の怒りを受ける人々の中にいる場合、人は墓の暗闇と虫、墓の中の天使たちの尋問、そして墓の罰に直面することになることを以前に説明しました。 神の報復のさらに困難な段階は、ラッパの吹き[終わりの日の到来を告げる]、裁きの日の復活、神の前に提示される[神の正義と公平さによる説明責任のために]、多かれ少なかれ[世俗的な生活の中で物事を公正かつ公正に行わなかったことに対する人の悪行に関して]物事について[神の法廷で]質問するなど、墓の後に直面する段階です。 天秤で行動を天秤にかけ[良いか悪いか、実体があるか空虚なふりかの観点からその価値を判断するため]、次にかみそりのように細いシラートの橋を渡り、永遠の幸福と永遠の成功(サーダ*)または永遠の天罰と失敗(シャカワ)のいずれかの達成についての[最終的な]決定を待ちます*). これらの危険と脅威を理解し、確かめて[心に]しっかりと根

付かせ、それらに長い反省と熟考をし、これらの[差し迫った]危険を回避するための準備を完了する動機と推進力があなたの心に生まれるように、それらを信頼することが不可欠です。

神のビジョンと神の顔を目撃する: 神はクルアーンでこう言われています。

لِّلَّذِينَ أَحْسَنُوا۟ ٱلْحُسْنَىٰ وَزِيَادَةٌ ۖ

「[神に受け入れられた義の行いに関して]うまく行った人には、余分な善とともに善(楽園とその永遠に衰えることのない豊かさ)があります。」 (クルアーン、10章、26節)

この余分な善は、神のビジョンであり、神の祝福された顔の証しです。 これは非常に至高の喜びであるため、楽園の住人は、それを受けると、他のすべての喜びと祝福を忘れるでしょう。 「神の愛の書」(第16章)では、この神のビジョンの現実性が説明され、神の書と預言の道からの証拠とともに、[伝統的な方法論の]拒否者と否定者の信念を否定するものが提示されています(*アール・アル・ビダ*)。 ジャレル・イブン・アブドゥッラー・アル・バジャリ(神が彼を喜ばれますように)は言いました、「私たちは預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)と一緒に座っていました。 彼は十四夜(満月)の月を見て言われました、「あなたはこの月を見るのと同じように、あなたの主を見るでしょう。 月を見るためにお互いに倒れる(押す)ことはありません。 可能であれば、日の出前と日没前の祈りの前に疲れず、[警戒心と完全な献身をもって]祈りをうまく実行してください』。 それから彼は次の聖句を暗唱しました。

وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ قَبْلَ طُلُوعِ ٱلشَّمْسِ وَقَبْلَ غُرُوبِهَا ۖ

『そして、太陽が昇る前と沈む前に、賛美をもってあなたの主の栄光を讃えなさい。』(クルアーン、20章、130節)(ナレーション: *ハディース コレクション サヒー・ブハーリ* そして *サヒー・ムスリム* ラバの権威に基づいて[神が彼を喜ばれますように])

イマーム・ムスリムのハディース集『サヒー・ムスリム』では、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が「[神に受け入れられた義行において]うまくやった者には、余分な善(神のビジョン)とともに善(楽園とその永遠の減少しない豊かさ)がある」と語り、こう言いました。 「楽園の人々が楽園に入り、地獄の人々が地獄に入ったとき、叫び声が宣言するでしょう。『楽園の住人よ! あなたに対する神の約束があり、神は今あなたに成就したいと願っています!」 楽園の人々はこう言うでしょう。 神は私たちの[善行の]重みを[バランスの天秤]重くしたのではないでしょうか? 神は私たちの顔を照らしてくださったのではないでしょうか? 神は私たちを楽園に入れたのではないでしょうか? そして、神は私たちを地獄から救われなかったのですか?」 その後、ベールが取り除か

れ、彼らは神の祝福された顔、高貴な方を見つめるでしょう。 そして彼は『彼らにとって、それ(神聖なビジョン)ほど愛されるものはないだろう』と言いました。」

神を目撃するという預言の伝統は、多くの預言者の仲間によって語られてきました。 神聖なビジョンの栄誉は、すべての善、すべての卓越性、そしてすべての祝福の頂点であり、集大成です。 楽園の祝福について言及した前のページでは(この作品ではスキップされています)、この最高の祝福に比べれば取るに足らないものになります。 神と出会う幸福と、彼らが達成する神聖なビジョンの永遠の幸福と無限の勝利(*サーダ*)は、無限の[永続的で永遠]であり、むしろ、楽園の喜びとこの喜びの広大さを比較することはできません。 このトピックは「神の愛、憧れ、神の意志の受容の書」(第16章)で詳細に議論されているので、ここではこれ以上議論したくありません。 ここで私たちは、楽園を持つ[神の]しもべの目的は、そこで自分の真の所有者であり最愛の人(神)と会う名誉以外の何ものでもないと言います。 楽園の残りの祝福では、牧草地で放牧している動物でさえ、あなたの分かち合いであり、共同で分かち合う者です。

本の終わりに、神の憐れみの広がりを嬉しい知らせとして言及する

預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、喜ばしい知らせを伝えるのが好きでした。 私たちは、神がこの世とあの世で私たちに良い結末を与えてくださることを願うべきです。 私たちはこの本(「神への道の知識の復活」)を、神の憐れみの広がりについての喜ばしい知らせで締めくくりたいと思います。 神はこう言われます。

قُلْ يَٰعِبَادِيَ ٱلَّذِينَ أَسْرَفُوا۟ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ لَا تَقْنَطُوا۟ مِن رَّحْمَةِ ٱللَّهِ ۚ
إِنَّ ٱللَّهَ يَغْفِرُ ٱلذُّنُوبَ جَمِيعًا ۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلْغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ

「彼らに言いなさい(おおムハンマドよ![神はあなたに言います:]おお、魂を不当に扱ったわがしもべたちよ! 神の憐れみに絶望しないでください。まことに、神はすべての罪を赦してくださいます! 本当に、彼は赦し、途方もない憐れみを持っておられます。」(クルアーン、39章、53節)

وَمَن يَعْمَلْ سُوٓءًا أَوْ يَظْلِمْ نَفْسَهُۥ ثُمَّ يَسْتَغْفِرِ ٱللَّهَ يَجِدِ ٱللَّهَ غَفُورًا رَّحِيمًا

「何か悪いことをしたり、自分の魂を抑圧したりした人は、神に許しを求めると、神は

非常に寛容で非常に慈悲深い方であることに気づくでしょう。」 (クルアーン、第4章、110節)

私たちは、この本や他の本でペンで犯したすべての間違いに対して神の許しを求めます。 また、自分の行動と一致しない言葉に対しても神の許しを求めます。 私たちはまた、理解と知識の主張から、神の承認を意図したが、その意図に神以外のものを混ぜてしまったすべての知識と行動から、私たちが自分自身に交わした約束[それを改革し、浄化する]がそれを果たすことができなかったこと、私たちが与えられたすべての祝福にもかかわらず、それを罪に使用したことから、神の赦しを求めます。 私たち自身が関与したにもかかわらず、明示的または寓意的に他人のせいにした過ちと、本やスピーチや教育を執筆する動機となった考えのために、それは単に人々に見せびらかすため、または人工的で、または何らかの独創的な理由であった。 これらすべての問題について神の赦しを求めた後、私たちは神がこの本を読んだり、書いたり、聞いたりする人々に赦しと祝福を与え、神の優しさが一般的(広範囲に及ぶ)、神の憐れみは広範囲であり、すべての被造物が神の賜物に含まれるため、私たちの外見的および内面の罪のすべてに対して寛大であることを願っています。 私たちも神の創造物です。 私たちには、神の寛大さと寛大さ以外に[試練、苦難、生と死の大きな挑戦から]救われる手段はありません。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「神には憐れみと祝福が百に分かれています(神は慈悲を百に分けました)と言いました。 その中から、神はジンと人間、動物、鳥、昆虫、這い回る者に[百のうちの]一人の憐れみを下されました。 [地上に存在する]この[神の]慈悲の一部のために、彼らは愛と与えをもってお互いに対処します。 そして、慈悲の99の部分をご自身に留保し、審判の日に彼らに憐れみを示すために、それらを神のしもべに使用します。」 (ナレーション: アブ・フライラとサルマン・アル・ファルシの権威に基づくハディース集サヒー・ムスリム[神が二人を喜ばれますように])預言的な伝統では、神が神の玉座の下から文字を引き抜かれ、そこに「私の慈悲は私の怒りに取って代わり、私はすべての慈悲深い者の中で最も慈悲深い者である」と書かれていると語られています。 その後、楽園の2倍の地獄の人々が連れ出されるだろう」と語った。 (ナレーション: ハディース集 サヒー・ブハーリとサヒー・ムスリム) 神は審判の日に信者たちに「私との出会いはあなたにとって愛されていましたか?」と尋ねます。 彼らは「はい、私たちの主よ」と答えるでしょう。 神は「なぜ?」と尋ねるでしょう。 彼らは「私たちはあなたの寛大さと赦しに希望を持っていました」と答えるでしょう。 神は「私は赦しを自分自身に課した」と言われます。 (ナレーション: ハディース集ムスナド・アフメドとタバラニ)

預言的な伝統では、神が審判の日に命じられると語られています)、「どこかで私を思い出したり恐れたりした人をすべて地獄から連れ出せ」と語られています。 (ナレーション: アナス・ビン・マリクの権威に基づくハディース集ティルミディ[神が彼に喜ばれますように])預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「神は母親の子供への愛情よりも、しもべ(人間)に対してさらに愛情を持っています」と言いました。 (ナレーショ

ン: *ハディース集は、ウマルの権威に基づいてサヒー・ブハーリとサヒー・ムスリムを収集しています*[神が彼に喜ばれますように])ジャビル・ビン・アブドゥッラー(神が彼に喜ばれますように)は、「審判の日、善行が罪を超える者は責任を負わずに楽園に入るでしょう。善行と罪が同等である人は、何らかの責任に直面し、その後、楽園に入ることができます。 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)のとりなしは、自分自身を破壊し、罪の重みで背中を曲げる(過重な負担を負う)人のためのものです。」

長い預言的伝統の終わりに、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は審判の日について言及し、*シラート*の橋はこう言いました。 天使たちはそのような人々を連れ出し、このようにして数え切れないほどの人々が出てくるでしょう。 天使たちはこう言うでしょう。 あなたが私たちに命じた人々を、私たちは彼らから誰も残さなかったのです。」 そうすれば神は『戻って、心の中に粒子ほどの大きさの善を持っている人を地獄から連れ出せ』と言われるでしょう。 したがって、地獄から無数の被造物(人々)が出てくるでしょう。 天使たちはこう言うでしょう。 あなたが命じた人々は、誰も地獄に残っていません」。 アブ・サイード・アル・フドリ(神が彼を喜ばれますように)は、この伝統を語った後、よくこう言いました。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَظْلِمُ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ ۖ وَإِن تَكُ حَسَنَةً يُضَٰعِفْهَا وَيُؤْتِ مِن لَّدُنْهُ أَجْرًا عَظِيمًا

「まことに、神は粒子ほどの大きさの抑圧を犯さず、もし人が正しい行いをしたなら、神はそれを何倍にも増やし、神からさらに強力な報いを与えてくださいます。」 (クルアーン、4章、40節)

アブドゥッラー・ビン・アッバース(神が彼に喜ばれますように)は、ある日預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が[預言者の仲間のグループ]に来て、こう言ったと語った。 そして、別の預言者がたった十人(人)を連れて通り過ぎ、別の預言者がたった五人(人)を連れて通り過ぎ、別の預言者が一人で通り過ぎた。 そして、私は大勢の人々を見て、おそらく彼らは私の国(ウンマ)の出身ではないかと思っていましたが、ここは預言者モーセ(彼に神の平安と祝福あれ)の国であると言われました。 それから私は見るように頼まれました。 地平線を覆う大勢の群衆が見えました。 私はそのように見え続けるように頼まれました。 したがって、私は巨大な創造物を見ました。 私は『彼らはあなたの信者であり、彼らの前にいる7万人の(人々)は、彼らの口座を清算することも、いかなる罰も受けないだろう』と知らされました。」 その後、人々は立ち去り、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、この7万人の人々が誰になるかを語らなかった。 それに対して仲間たちはお互いに言い始めました、「私たちは多神教で生まれましたが、後に神とその使徒を信じるようになりました。 これらの人々は、(不信に生まれたのではない)私たちの子供たちに違いありません。」 預言者はこの会話のニュースを聞きました[そして、何の清算も説明責任も負わずに楽園に入るこれらの人々が誰であるかについてのこれらの推測に対処することにしました]。 彼は言った、「彼らはかつて、烙印(焼灼)で自分自身を扱ったり、死霊術(魔法)の聖歌を唱えたりせず(人々に邪悪な呪

文をかけて彼らを傷つけるため)、物事に邪悪な前兆を見ず、彼らは彼らの主を[ただ]信頼していました。」 それを聞いて、ウカシャ・ビン・ミフサンは立ち上がって(預言者に)言いました、「私を彼らの一人にするために神を呼びかけてください」と言いました。 彼は言った、「神よ!彼をその一人にしてください」。 すると別の男が立ち上がって(預言者に)言いました、「どうか神に祈って、私も彼らの一人にしてください」と言いました。 彼は「ウカシャはあなたに先立っていました」と言いました。 (ナレーション: *アブドゥッラー・イブン・アッバースの権威に基づくハディース集サヒー・ブハーリ* [神が彼を喜ばれますように])

アブ・ダール(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が言った、「[大天使]ガブリエルはハラー(アラビア北西部の休火山砂漠地帯)の方向から私のところに来て言った。『神と関係のない状態で死ぬ者をあなたの国に伝えてください。 そのような者は楽園に入るでしょう」。 私は彼に尋ねました、「窃盗や淫行をしたのに?」 ガブリエルは『たとえ盗みや淫行をしたとしても、はい』と言いました」。 この質問と回答は3回繰り返されました。 (ナレーション: *ハディース集 サヒー・ブハーリと サヒー・ムスリム*)アブ・ダール(神が彼に喜ばれますように)のナレーションで、預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は次の聖句を朗読しました。

وَلِمَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ جَنَّتَانِ

「主の前に立つことを恐れた者は、(そのような人にとって)2つの楽園がある。」 (クルアーン、第55章、46節)

別の予言的伝統によると、遠征中に野営地が行われ、後に小さな男の子が発見されました。 その日はとてつもなく暑かったです。 突然、テントから一人の女性が出てきて、彼が立っているその子供に向かって走ってきました。 彼女の家族は彼女のすぐ後ろにいました。 女性は子供を持ち上げ、しっかりと抱きしめた。 それから彼女は岩の表面に横たわり、暑さから子供を守るために再び子供を抱きしめ、こう言い始めました。私の息子!」 人々はこれ[子供に対する強い母性の愛と愛情]を見て涙を流し始めました。 その後、人々は立ち去りました。 一方、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)が来て、人々はこのことを彼に知らせました。 彼は彼らの思いやりと憐れみに喜びました。 それから彼は彼らに喜ばしい知らせを与え、「この女性が彼女の子供にあふれ出た憐れみと憐れみに驚いていますか?」と言いました。 人々は「はい、確かにそうです」と言いました。 彼は、「神は、この女性が自分の子供に対して行うよりも、あなた方全員に対してより慈悲深く、憐れみ深い方です」と言いました。 その後、人々は途方もない幸福と素晴らしい喜ばしい知らせ(すべての人に対する神の愛、憐れみ、思いやりについて)を持ってそれぞれの道を歩みました。 (ナレーション: *ハディースはウマルの権威に基づいてサヒーブハーリとサヒームスリム*を集めています[神が彼を喜ばれますように])

これらの伝統と「希望の書」(第13章)で説明したことは、神の慈悲の広大さと広大さの喜ばしい知らせを私たちに伝えてくれます。 私たちは、神が(私たち自身の過ち、弱さ、悪行、違反、行き過ぎ、抑圧のために)私たちにふさわしい扱いをしてくださるのではなく、むしろ神が神の素晴らしさと威厳にふさわしい方法で私たちを扱い、慈悲、恵み、憐れみ、寛大さに満ちていることを望んでいます。

第21章 時間、場所、状況に関係なく、心の平和、静けさ、幸福を見つけるために自分自身を解放するための知恵

ガザリの最高傑作「イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン」または「神への道の知識の復活」の第4巻と最終巻の最終巻の終わりに、回復力、積極性、内なる平和、静けさ、永遠の幸福、そして終わりのない勝利を達成するための内なる変容のための精神的な闘争の重要なポイントを調べる価値があります。 この目的のために、ガザリの時代を超越した知恵は、人生の真の目的を達成する方法を説明する重要なナレーションの形でここでも活用されます。 ガザリは、ガザリの3巻の短編本集「Majmu'a Rasa-il Imam Ghazali」または「Collection of Short Books by Imam Ghazali」*に収録されている著書*「Ayyuhal Walad」または「My Dear Beloved Son」の中で、このナレーションについて次のように言及しています[27]。

学生や *ムリード*
(すべての邪悪な欲望や傾向から魂を浄化することを通じて霊的な完成と悟りを求める弟子たち)の間では、霊的指導者の指導の下、訓練と指導を通じて魂の浄化と神の前での高い地位を完全に達成したと言われています。
そして別のスピリチュアルガイドの近く)は、ハティム・アル・アスム(神が彼に憐れんでくださいますように)という名前の学生であり弟子でした(神が彼に憐れんでくださいますように、彼は後にシェイク・シャキークのスピリチュアルな訓練と指導を通じて偉大なスピリチュアルマスターになりました)。
ある日、シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れんでくださいますように)は彼に言いました。

「おおハティム!
どれくらいの期間、私の仲間(霊的近接)にいて、私の言っていること(教えること)に耳を傾けてきましたか?」

ハティム・アル・アスム(神が彼に憐れんでくださいますように)は「33年!」と答えました。

シェイク・シャキーク・バルキはこう尋ねた。

「その長い期間に、あなたは私からどのような利益を得ましたか?」

ハティム・アル・アスム(神が彼に憐れみあれますように)はこう答えました。

「[私は]あなたから8つの利益を得ました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれ)はこう答えた。

「*インナ・リラヒ・ワ・インナ・イライヘ・ラジウン*。」
「私たちは神に属しており、神に帰るでしょう(これは、喪失と悲しみの時になされるクルアーンからの嘆願です)」。

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)はこう言いました。

「おおハティム! 私は生涯を教育と訓練に費やしてきましたが、あなたは私から 8 つの恩恵を得たばかりですか?」

ハティム・アル・アスム(神が彼に憐れみあれますように)はこう答えました。

「おお、私の先生よ!
もしあなたが[私に]真実を求めたなら、現実は私があなたに言ったことです。
私にはこれ以上の[利益]は必要なく、知識からのこれらの利益は、これらの8つの利益を通して、現世と来世で救い[と成功]を達成すると確信しているので、十分です。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれ)は彼に尋ねました。

「わかりました! 教えてください、その8つの利点は何ですか?」

ハティム・アル・アスムによる利点のナレーション

「おお、私の先生よ! **最初の利点**
は、この世界の人々を見て、誰もが最愛の人を持っていることがわかったことです。
しかし、これらの[世の]人々の最愛の人たちは、彼らの何人か(つまり、最愛の人々)が死をもたらす病気まで彼らと一緒にいること、ある人は死ぬまで彼らと一緒にいて、何人かは墓に着くまで彼らと一緒にいて、埋葬後、すべての最愛の人たちはそこから戻ってくるようなものです。
彼らの最愛の人は誰も、墓に一緒に行き、そこで一緒に暮らし、[墓の暗闇、孤独、狭さ、恐怖の中で]彼らの仲間を提供しません。
私はこのことを熟考し、墓に一緒に行き、恋人と一緒に暮らし、仲間を提供し、墓を照らし、審判の日とその目的地(埋葬後審判の日まで通過する駅)のパートナーとなる善良な最愛の人だけだと自分に言い聞かせました。
私は、これらの[良い]資質を持っている唯一の最愛の人は、私の善行(敬虔で正義な)行いであることを知りました。
この[決意と認識]の後、私は自分の善行を最愛の人にし、それが私の墓に一緒に行き、私に仲間を提供し、私の墓で照らされたろうそくとなり、来世の人生のあらゆる段階で私のパートナーとなり、決して私から離れることはないでしょう。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。

「よくやった、おおハティム! あなたはとても良いことを言ってくれました。
次に、2番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ! **2番目の利点** は、私が世界の人々をちらっと見て、誰もが *ナフ* (悪を犯すように指示する低次の自己)からの快楽と欲望に従っており、[すべての人が]低次の自己からの欲望に従属していることがわかったことです。
それを見て、私は次の聖句(クルアーンから)について熟考しました。

وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ وَنَهَى ٱلنَّفْسَ عَنِ ٱلْهَوَىٰ ﴿٤٠﴾

فَإِنَّ ٱلْجَنَّةَ هِىَ ٱلْمَأْوَىٰ ﴿٤١﴾

「しかし、自分の維持者の臨在を恐れて立ち、自分の内なる自己を卑劣な(卑劣で邪悪な)欲望から抑制してきた人は、楽園が[この人にとって]安息の地となるでしょう。」
(クルアーン、第79章、40-41節)

私は、賢明なクルアーンが正しく、神の書が真理であるという確信を育みました。
それから私は自分の *ナフ*
ス(低次の自己)に反対する戦線を確立し、それに反対することを決意しました。
私はそれ(つまり、私の低次の自己)を、高貴な神への崇拝に平和[と満足]を見出すまで、その欲望を一切満たさないような形に形づけました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれ)はこう答えた。

「高貴な神があなたの善行に祝福を与えてくださいますように。
次に、3番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ!
第三の利点は、私が人々を一瞥したとき、誰もが大きな苦痛と努力を伴い、この死すべき世界の所有物(お金、富、財産)を蓄積するのに忙しく、多くの財産と物質的な所有物を持っていることに非常に満足していることがわかりました。
しかし、豊かなクルアーンからの次の聖なる聖句を熟考したとき:

مَا عِندَكُمْ يَنفَدُ ۖ وَمَا عِندَ ٱللَّهِ بَاقٍ ۗ

「あなたがたと共にあるものはすべて終わりを迎えるに違いないが、神と共にあるものはすべて永遠である。」(クルアーン、16章、96節)

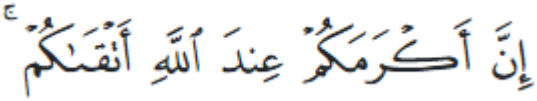
そして、私がこの世に蓄積した[物質的な所有物]は、敬虔な貧しい人々や物乞いに分配することで、それを神の道で使い果たし、それ(私が神の道で分配した物質的な所有物)が私の信頼として高貴な神に預けられ、計り知れない善と身代金の源となるでしょう(つまり、 救い)を来世に。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。

「おおハティム!
神があなたに報酬(神の道で費やしたことに対する報酬)を与えてくださいますように!
あなたはとても良いことを言いましたし、とても良いことをしました。
次に、4番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ! **4つ目のメリット**
は、世界の人々を見て、壮大さや名誉は大きくて強力な国や部族(グループ)のものだと

考えている人もいるので、自分の部族(国やグループ)に誇りを表明していることがわかりました。
彼らの中には、その壮大さは豊富な富、物質的な所有物、家族、親戚によって得られると考える人もいるので、自分の富と子供に誇りを表明している人もいます。
一部の[人々は]、怒り、殴打、殺害、殺人、略奪を表明することに自分たちの威厳と名誉があると考え、それに誇りを表明します。
一部の[人々は]、自分の壮大さは無駄な支出にあると考えるようなもので、だからこそ、無駄な支出を名誉の源と考え、それを誇りに思っています。
しかし、私は、高貴な神がこう言われているこの聖句について熟考しました。



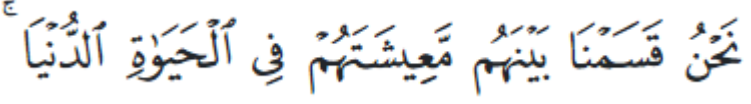
「まことに、あなたがたの中で神の目に最も高貴な者は、神を最も深く意識し、恐れている人です。」 (クルアーン、49章、13節)

したがって、これは正しい真実であり、創造物の考えは誤りで間違った推測です。
だからこそ、私は *タクワ*
(敬虔な畏敬の念、意識、畏敬の念、畏敬の念、神への畏れ心、畏惧)を採用し、神の目から見て最高の地位を持つ者、つまり高貴な者として数えられるようにしました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。

「おおハティム! 神があなたを喜ばれますように。
あなたはとても良いことを言っています。 次に、5番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ! **5つ目のメリット**
は、お互いに文句を言っている人たちを見たことです。
彼らは嫉妬、嫉妬、敵意のためにこれらすべてを行っており、その主な原因は偉大さ、壮大さ、[物質的な]所有物、富、知識に対する[欲望と競争]であることが判明しました。 私は聖クルアーンから次のように書かれている次の聖句について熟考しました。



「この世の生活において、彼らの生計手段(食料)を彼らに分配するのは私たちです。(クルアーン、第43章、32節)

それから私は、祝福され、高貴な神は、(創造の)最初の始まりから所有物と階級を定めており、この問題に関して誰もコントロールしたり発言したりできないと考えました。

したがって、私は誰とも競争したり嫉妬したりせず、神の[世俗的な恵みを世の中のすべての人々に]分配することと[神が定めた]運命に同意し、[神のすべての被造物に対するすべての嫉妬と敵意を放棄することによって]全世界と[うまく]仲良くしました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。

「おおハティム! あなたは真実を言っており、正しいことをしています。
次に、6番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ! **6番目の利点**
は、人々をちらっと見たとき、誰もが何らかの理由で他の誰かと敵意を抱いていることがわかったことです。 それから私は次の聖句について熟考しました。

إِنَّ ٱلشَّيْطَٰنَ لَكُمْ عَدُوٌّ فَٱتَّخِذُوهُ عَدُوًّا

「本当に、 *シャイタン*
(サタン)はあなたの敵ですから、彼をあなたの敵として扱いなさい。」
(クルアーン、第35章、6節)

その後、私は神の言葉が真実であり、*シャイタン*(サタン)以外の誰とも敵対してはならないという確信を育みました。
それ以来、私はサタンを敵とみなし、サタンの命令に一切従わなかった。
その代わりに、私は[神への]従順を育み、高貴な神の戒めに従い、神の崇拝と奉仕のみを採用しました。
正しい道は、崇高な神ご自身が言われたように、*シラト・アル・ムスタキーム*(曲がりくねったことのない神の導きのまっすぐな道)です。

أَلَمْ أَعْهَدْ إِلَيْكُمْ يَٰبَنِىٓ ءَادَمَ أَن لَّا تَعْبُدُوا۟ ٱلشَّيْطَٰنَ ۖ إِنَّهُۥ لَكُمْ عَدُوٌّ مُّبِينٌ

「私はあなたからこの約束を得ていませんか、おおアダムの子らよ! *決してシャイタン*
(サタン)に従わないでください。
間違いなく、彼はあなたの公然とした(公然とした)敵であり、これがまっすぐな道だから、私だけを崇拝してください。」 (クルアーン、36章、60節)

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。
あなたはとても良いことをし、とても良いことを言いました。
次に、7番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ!
7番目の利点は、私が人々を見て、すべての人が自分の生計と栄養の追求に気を取られ、激しい闘争に巻き込まれていることがわかったことです。
この点で、ハラール(許可)とハラム(禁止)を区別することさえできず、代わりに、疑わしいハラム(禁止)の収入で屈辱を受けています。
それから私は次の聖句について熟考しました。

وَمَا مِن دَآبَّةٍ فِي ٱلْأَرْضِ إِلَّا عَلَى ٱللَّهِ رِزْقُهَا

「そして、養い物が神の責任ではない生き物は地球上にいません。」
(クルアーン、11章、6節)

それから私は、賢明なクルアーンが真理であり、正しいものであり、私も地上に存在する[神の]生き物の中にいるという確信を育みました。
こうして私は神への礼拝に従事し、神が私に食料を与えると約束されたので、神が私に糧を与えてくださるという確信を育みました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れみあれますように)は言いました。

「あなたはとても良いことをし、とても良いことを話しました。
次に、8番目の利点を語ってください。」

「おお、私の先生よ! **8番目の利点**
は、人々を見ると、すべての人の信頼(または信頼)が誰かまたは何かにあることがわかったことです。
自分の[物質的な]所有物を信頼している人もいれば、他の人を信頼している人もいます。
したがって、私は、祝福され、高貴な神が言われているこの聖なる聖句について熟考しました。

وَمَن يَتَوَكَّلْ عَلَى ٱللَّهِ فَهُوَ حَسْبُهُۥٓ

「そして、神を信頼するすべての人にとって、神だけで十分です。」
(クルアーン、第65章、3節)

「*ワ・フワ・フスビ・ワ・ナイマル・ワケル*。」
「そして、彼は私にとって十分であり、最高の助け手です。」

[したがって、私はあらゆる問題において神を完全に信頼し、信頼しました。」

シェイク・シャキーク・バルキ(神が彼に憐れんでくださいますように)がこれらの[8つの]恩恵を聞いたとき、彼はこう言いました。

「おおハティム! 神があなたに彼の*タウフィーク*(つまり、あなたが正しい行いを行い、彼の道を歩むことを可能にする)を与えてくださいますように。 あなたはとても良いことを話しました。 私は、*タウラート*(律法)、*インジル*(イエスの福音書[神の祝福と平安あれ])、*ザブール*(詩篇)、そして賞賛に値する善悪の区別(つまり、聖クルアーン)で、これらすべての[神の]本がこれらの8つの利益について言及している、つまり、彼らの教えの4つの本すべてがこれらの8つの利益を[私たち]に語っているのを見てきました。 これら[8つの原則]に基づいて行動する者は、あたかも4つの[聖なる]書すべてに基づいて行動したかのようです。」

第4部:ルミの三王子寓話を通して、内なる存在の完成と人生の目的の実現への精神的な道

一般にルミとして知られるマウラナ・ジャラルディン・ルミ(西暦1207-1273年)は、ペルシア語で「Mathnavi-e-Ma'navi」または「Couplets of Deep Spiritual Meanings」として知られる6巻の詩集の中で、スピリチュアリティ、内なるスピリチュアルな道、グノーシス、そして神の愛の傑作を書きました」は、人類文明全体の主題に関する最も壮大な詩です。 この傑作の終わりに向けて、彼は比類のない美しさで知られる娘と結婚するために中国皇帝に会う旅に出た3人の王子についての寓話の形で精神的な道全体を要約しました。 ルミは最初の二人の王子の物語を語り、第三王子の物語を未完成のままにしたため、「マトナヴィ」は未完成のままにして次のように述べました。

心の地平線から太陽が沈んだとき [1]

マトナヴィは*[*未完成*]*に終わり、神が一番よく知っています。

ルミはさらに次のように予測した。

---

[1]
これは、この傑作「マトナヴィ」の主題がルミの心に神からインスピレーションを受けたことを示しています。
それは6巻を書いた後に止まったので、それは彼にとって、本を未完成のままにしておく時が来たという神の合図です。
これは、息子のマウラナ・バハ・ウル・ミラット(本名はバハ・アルディン・ワラドでしたが、一般にスルタン・ワラドとして知られています)によってさらに詳しく説明され、本の最後に彼自身の詩の締めくくりの詩を追加し、父親が予言したと述べています。
話しかけられることなく、生きた(悟りを開いた)魂を持っている人」。
ルミの予言通り、何人かの悟りを開いた魂が「マトナヴィ」の結末に触発されました。
そのうち、インドの聖人マウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィーによる結論は、ルミが6巻に続き、ルミが6巻に続き、3人の王子の物語と、ルミが父親がカディの世話に遺産を残した3人の兄弟についての未完成の別の物語とともに美しく締めくくられているため、この偉大な傑作に最も近いと考えられています(裁判官)は、最も怠惰な息子に相続財産を遺贈するよう求めています。
この本書のこの最後のセクションでは、ルミの未完の三人の王子の物語、父親がなぜ「マトナヴィ」を未完成のままにしたのかについての息子マウラナ・バハ・ウル・ミラットの結論、そしてマウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィによる「マトナヴィ」の最終結論は、ルミが予言したように神の霊感を受けたときに物語と本を締めくくったときのものです。

*[*三人の王子の物語の*]*残りの部分は、話しかけられることなく、人の心に入ってきます。

生きた*(*悟りを開いた*)*魂を持っている人。

「マトナヴィ」*の最後の部分に登場する3人の王子の物語*と、ルミが予言したこの物語の完成は、内面の完全さ、精神的な変容、人生の真の目的の達成、そしてその結果としての永遠の幸福と無限の勝利のために取らなければならない道を要約するためにここに提示されています[28]。

皇帝の伝統と、3人の息子たちに自治領のさまざまな地域を旅行し、行政とセットアップに関する具体的な指示を与え、特定の城に行かないように指示し、その周りを回らないように指示した

*3*人の息子を持つ皇帝がいました

*3*人とも賢明で賢明でした。

どれも賞賛に値するものでした

寛大さ、戦争、そして壮大さにおいて。

彼らは皆、皇帝の前に立った

それは皇帝の目の冷たさだった。

息子の目からは、秘道がある

父のナツメヤシの木は、その秘密の道から水を汲み上げて灌漑します。

息子の小川の水が

父と母の庭に流れ込みます。

両親の庭は新鮮で灌漑されたままです

秘密の小川が流れている子孫の目から。

この流れが*[*子孫から親に流れる*]*が*[*子孫の*]*病気のために弱まるとき

ナツメヤシの枝や葉は枯れてしまいます。

ナツメヤシの乾燥がはっきりと語る

木は子孫から*[*生命と幸福の*]*水を抽出します。

同様に、多くのシークレットストリーム

おお怠慢だ*!*あなたの魂に執着している*[*あなたの存在の木を灌漑する*]*。

おお、ここで語りかけられたあなた*!*素材は天と地から引き抜かれました

あなたの体がそれらから形成されている程度に。[2]

あなたは世界の構成要素から体を盗んだ

あちこちから一枚一枚切り取ってきました。

地、太陽、天から

あなたはそれらの断片を*[*この世から*]*体と魂に貼り付けました。

注意してください*!(*それをしたことで*)*無料で逃げられると思いますか*?*

あれもあれもあなたから取り戻されないのか*?*

盗品は長持ちしません

彼らは泥棒を絞首刑に処される場所に連れて行くことができます。

この*[*体*]*は借りた材料でできており、*[*体が永続的であるかのように*]*足を接地してはいけません[3]

なぜなら、あなたが借りたものは返すべきだからです。

「私は人間の中に私の霊を吹き込んだ」*(*[4]魂*)*は神から来たものです

*[*あなたはより良い*]*他のすべては役に立たないので、魂に属します。

私はそれらを魂との関係で役に立たないと呼んでいます

[2] 人体の組成は、世界の多くの材料で構成されています。

[3] 肉体は、地球から借りた物質でできており、借りた物質でできておらず、天の神聖な起源を持つ魂を除いて、借りた物質は必ず元の場所に戻さなければならないので、いつか人生が終わったときに地球に戻す必要があります。

[4] クルアーン(15:29)の一節は、魂の天の起源と神との密接な関係を指摘しています。

そうでなければ、それ*(*人間の身体または物質的な存在*)*も強力な創造主によって造られたものです。[5]

父親の支配下にあるさまざまな国に向かう三人の王子は、彼らに別れを告げ、驚くべき城に入らないようにというアドバイスを繰り返しました

*3*人の息子は、確固たる意図を持って、旅に出る道を歩むことを決意しました

父皇帝の国々に向かって。

彼らの都市や城のツアーで

行政を監督し、収入を増やすための戦略を立てる。

*[*困難な*]*道を歩もうとしたとき、彼らは皇帝の許可を求めました

彼は彼らに確固たる決意を見たので、彼らに許可を与えた。

彼らは皇帝の手にキスをし、皇帝は別れを告げた

すると皇帝王は彼らに言いました。

あなたの心が行きたいところならどこへ行きたいと思っているのか、あなたの意図を作れ

神の加護の中で、前進してください。

「驚く」と呼ばれる城を除いて

それは王冠の志望者にとって人生を窮屈にするからです。

神のために、写真が満載のこの城から

近づかず、危険を恐れてください。

前面、背面、アーチ、天井、床

どれも絵や版画、形でいっぱいです。

彼女の写真でいっぱいのズライカの家のように

---

[5] したがって、肉体は役に立たないわけではなく、この地上の存在において魂の仲間となり、魂が天の起源に戻り、永遠の幸福と永遠の成功の人生において神の近く、愛、親密さへの道を見つけるのを助けるなど、神が定めた目的のために創造されました。

*[*預言者*]*ヨセフが彼女を見ることを余儀なくされるように。[6]

ヨセフは彼女の方を見なかったので、

彼女は狡猾に家全体をいたるところに自分の写真で埋め尽くしました。

だから、その美しい顔*(*ジョセフ*)*がどこを見ても

知らず知らずのうちに彼女の顔を見てしまうだろう。

悟りを開いた目を持つ者、唯一の神のために

六つの方向を作り、神の*[*存在、広大さ、壮大さ、壮大さの*]*証拠の現れを作りました。

成長する動物や物が何であれ、彼らは見ます

彼らは神聖な美しさの庭園から栄養を見つけるでしょう。[7]

だからこそ、神はこのグループ*(*悟りを開いた目と魂*)*に告げたのです

どこを向いても、神の顔が見えるでしょう。

喉が渇いてコップから水を飲む場合

彼らは水の中に神を見ます。

人は水の中で見る恋人ではありません

おお、洞察力のあるあなた*!*自分の顔。

恋人の顔が彼の中で消滅したとき

教えてください、そのような人が水中で誰を見るのですか*?*

天の仲間の顔に、彼らは神の美しさを見ます

水に映る月のように、恋に落ちた共有者を好まない方の傑作です[8]。

6

ズライカは、彼女を見ようともしない預言者ヨセフを誘惑し、彼に見させようとするために、彼女の写真を家のあちこちに貼りました。

7

聖人、グノーシス主義者、神の親しい人々が宇宙における神の完全性と卓越性を目撃するとき、暗闇を消滅させる昇る太陽のように、疑いと不信のあらゆる影を超えて確信を深めるのに役立つため、彼らのグノーシスと神の知識は増加します。

8

神を心から愛する人は、決して美しい天の仲間を意図せず、その美しさの中でも神の美しさを目撃します。
彼らの意図は、神だけへの愛において、混じりけのない共同分かち合い者と純粋に神だけのためです。
グノーシス主義者で神の親密な人は神の最愛の人であるため、神が愛の共有者を持つことを嫌うのは、

神が愛の中に共同分かち合いを持つことを嫌うのは、恋人と真実の人だけのものです

この嫌悪感は、サタンや牛のためのものではありません。

たとえサタンが*[*神の*]*恋人になったとしても、彼は賭けに勝つでしょう

彼は*[*大天使*]*ガブリエルになり、サタンは死ぬでしょう。

その場所に現れた「サタンはイスラム教徒になった」

ヤジドが彼の優しさと寛大さによってバヤジドになった場所[9]。

この事柄*(*永遠の宝に相当する*)*に終わりはない、おお*[*悟りを開いた目と魂を持つ*]*集団よ*!*

注意！あの*[*驚くべき*]*城から顔を守ってください。

注意！貪欲に迷わないでください

それで、あなたは永遠の天罰に陥りました。

危険から身を守ることはすべての人の義務です

この私の心からのアドバイスに耳を傾けてください。

安らぎを求めては、頭の中の知性が鋭い方が良い

苦難の狭くて暗い隠れ家よりも予防が良い。

あの父親がそう言わなかったら

そして、彼が彼らにあの城から身を守るように頼まなかったら。

彼らは自分たちであの城に向かって前進することはなかったでしょう

彼ら自身の傾向はそれに向かわなかったでしょう。

無名で人けがなかったから

愛する人が神以外の誰にも目を向けないことを要求します。

[9] 預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)はサタンについて次のように述べています。他の人と同じように、私と一緒にサタンもいますが、神は私を助けてくださったので、彼はイスラム教徒(神の意志に服従する人)になりました。」
ルミは言う:「この預言的伝統は、たとえサタンが悔い改めたとしても、ヤズィドのような残酷な抑圧者がバヤジド[アル・ブスタミ –
偉大な聖人、グノーシス主義者であり、神の親密な人]のようなグノーシス主義者になるのと同じように、彼はグノーシス主義者になることを意味します。悔い改め、償いをし、神の寛大さによって神の道を横断します。

他の城や小道から遠く離れていました。

彼は彼らにそれを禁じたので、その話で彼らの心は

貪欲に陥り、思考の路地に陥った。

この禁止は彼らの心の中に願望を呼び起こしました

その秘密の実体を探ること。

それは誰で、誰が止められたものから遠ざかっているのでしょうか?

その代わり、人間は禁じられたものに貪欲です。

敬虔な畏敬の念、畏敬の念、神への畏れの念を持つ人々は、禁じられているものを嫌悪するようになります

低次の自己の欲望を持つ人々にとって、禁止はインセンティブになります。

だからこそ、「多くの人が迷う」と言われているのです。

目覚めた者たちがそれに導かれているからです[10]。

プリンセス氏はサービスを提供すると述べた

私たちは「聞いて従った」に基づいて行動します。

私たちはあなたの命令から逸脱しません

あなたの好意に注意を払うことは、不信感に等しい。

しかし、彼らは「インシャアッラー」*(*神の御心であれば*)*とは言わず、神を讃えませんでした

彼らは自分自身に依存していたので、神の恩恵は彼らとは別のものでした。

すべての道の目的は、たった一つの住居にすぎません

この何千もの穀物は、***1***つの穀物から生まれています[11]。

10

クルアーンには、クルアーン自体が証明しているように、心が暗い多くの人がクルアーンに導かれ、目覚めて情報に基づいた心を持つ人々がクルアーンに導かれているという性質があります。

11

世界中の人々が祈りのためにカバに目を向けるので、彼らの最終目標は同じであるため、彼らの中に団結があります。
何千もの穀物は1つの穀物から生まれるため、同じ起源を持っているため、それらには統一性があります。

多彩なタイプの食品

深く調べれば、すべては一つのことです。

*1*つの食品で満腹になったとき

他の*50*個の食料品は役に立たなくなります。

空腹の中で、あなたは一つのことに多様性を見始めています

あなたはそれを何千人と見なします[12]か。

皇帝の息子たちが城に向かうのは、禁止されているものに貪欲になるのが人間の本性だからです。 彼らは父の忠告を完全に無視して苦難の溝に落ち、責めながら「前兆者があなたのところに来なかったのか?」と言い、泣きながら恥じて言いました。

このトピックには限界がありません。その*[*息子たち*]*のグループ

*[*禁断の*]*城への道を歩みました。

彼らは禁断の木の近くに到着しました

そして誠実な者たちの輪から出てきました。

尊い天皇の命令に反して

彼らは忍耐力を破壊し、感覚を吹き飛ばす城に向かって進みました。

彼らは助言する知性のアドバイスに反して到着しました

彼らは昼から暗い夜に背を向けた。

美しい絵がいっぱいの城に向かって

*5*つのドアは海に向かって、*5*つのドアは陸に向いていました。

*5*つは色と匂いの外部感覚のようでした

*5*つは真実を探求する内なる感覚のようでした[13]。

12

私たちの周りに散らばる神の創造物に現れた多彩な形は、唯一の創造主、現実を見る内なる目を持たない誰かを指しているにもかかわらず、多様性として現れます。

13

5つの外のドアは人間の5つの外的感覚のようなもので、5つの内側のドアは5つの内なる感覚のようなものです。 これらの感覚の影響下で、人間は時々、知性を失います。
同様に、これらの扉から城に入った人々は、精神と知性を失いました。

何千もの写真やアートワークのおかげで、

彼らは(芸術的な傑作を次々と見るために)楽しそうに衝動的に歩き回っていました。

写真のワイングラスに酔いしれない[14]

あなたが偶像作りや崇拝者にならないようにするためです。

写真やフォームのワイングラスを超えて、それらに立ち止まらないでください

ワインはワイングラスの中にありますが、ワイングラスからではありません[15]。

このワインを授けた方に向かって耳を大きく開いてください

だからそこから声や音が聞こえます。

形のない方は、あなたの中に驚きを生み出します

道具のないものは、無数の道具を作ります。

手のないものは手をつくる

魂の魂は人間を芸術家にします[16]。

インフルエンサー(神)は影響力と似ていますか?

音と泣き声は悲しみに似ていますか?

泣きは形であり、悲しみは形がない

人は手のない悲しみから自分の手を噛みます。

おお、証拠の語り手であるあなた! これらの例は適していません

これが、驚くべき城に通じるこれらのドアの特徴でした。

[14] 現実を知らずに外の目に見える外形や形。

[15] 間違いなく、これらの外的な形の美しさは、酔わせるようなワインを生み出します。
しかし、この美しさは彼ら自身のものではなく、むしろ借りたものです。
あなたは本当の美しさ、つまりこれらの形に美しさを与える方に目を向けるべきです。
その外形のワイングラスには、神聖な美しさのワインが入っています。
それに注意を払えば、心に霊的な光が当たるでしょう。
神の愛のワインを見つけたとき、この宇宙のすべての原子が神の顕現となるので、あなたは外側の形に限定されることはありません。

[16] 道具や形のない存在は、無数の形と道具を[私たちの周りの創造物の形で]創造します。
肉体的な手を持つことを超えた存在は、無数の手を創造しました。
すべての魂の魂である神の存在は、人間の中に芸術家を創造したので、彼は本当の者であり、形を持つすべてのものの起源であり創始者です。

それはそれをすべての人に説明しようとする弱い試みにすぎません[17]。

形のない方の創造力は、形を創造する

感覚と道具で身体を創造します。

そのため、どのような形であれ、納得のいくものが何であれ

体を良いか悪いかの状態に導くでしょう[18]。

それが祝福の形であれば、人は感謝するようになります

*[*祝福を受けるのに*]*遅れがある場合、人は忍耐強くなります。

それが慈悲と優しさの形であれば、人は幸せになります

それが悲しみの形であれば、人は悲しくなります。

それが都市の形であれば、人はそれに向かって旅します

矢の形であれば盾を拾う。

美しい人の姿なら、人はそれを楽しむ

目に見えない領域からの形であれば、人は孤独を採用します。

それがニーズの形であれば、人は*[*生計や商売*]*を稼ぐことに向かいます

自分の体力の形なら、ひったくりと賛美を生み出します。

それは、いかなる制限や推定の範囲外です

人々にさまざまなアイデアや考えによって物事を行わせる。[19]

無数の宗教と職業

すべては思考やアイデアの形の影です。

*[*建物の*]*上層階にグループが立っています

地面に落ちている一人一人の影を見てください[20]。

---

[17] インフルエンサーである神と、その影響である宇宙、これらはそのほんの一例です。
形のない方は、形のある多くの創造物を創造します。

[18] 神は、形と顔が内面の状態に合わせて体に良いことも悪いこともできるように創造されました。

[19] それは、善と悪の両方のさまざまな人間の行動、努力、事業の推進力と原動力となる無数の種類の思考やアイデアは、いかなる評価の枠外です。

[20] 思考が原因であり、行動がこれらの原因の結果であることを理解するには、建物の上層階に立っている

思考の形は高尚な上層にある

そして、結果として生じる行動は、手足に現れた影のようなものです。

行動は手足にありますが、手足を動かす思考は隠されています

しかし、どちらも一斉に効果を引き出すという点でつながっています。

さまざまな食品の形態の結果

形のない力と強さです。

これらの形が形のない方に従属するとき

なぜ一部の人はイエスを拒絶するのでしょうか*?*

これらの形は、形のない者にその存在を負っています

では、なぜ形のある者は、そもそも人を存在させたそのような方を拒絶するのでしょうか*?*

すべての家の天井と壁の形

建築家の熟考の影です。

思考と思索が起こる場所ですが

*[*建物の*]*石、木、レンガには見えません。

すべての絶対的な実行者は確かに形がない

形は神の手にある道具のようなものです。

形のない方、時にはベールの向こうから

神の寛大さから形のある者にご自身を現します[21]。

あらゆる形が神の助けを求めるように

彼の完璧さ、美しさ、そして全能の力を通して。

形のない方が*[*形を持つすべての人から*]*ご自身を隠したとき

それらの人々は、慈善団体として色と匂いのレベルにまで降りました[22]。

人々がその下の地面に影を落とす例を考えるべきです。
同様に、思考の形態は上位にあり、行動は人間の手足に落とされた影のようなものです。

[21] 神聖な照明が稲妻のように受容的な心に点滅します。

[22] 神聖な照明が止まると、人々は人間であることの必需品に戻ります。
完璧は、形のない方からのみ達成されるべきである。

形のない方を、謙虚に懇願し、泣き、そして彼の存在を消滅することによって、形のない方を探し求めなさい

なぜなら、思考による形以外には何も来ないからです。

形のない内なる幸せがなければ

そうすれば、あなたが知覚する形が何であれ、あなたにとってより良いものになります[23]。

進む都市

おお旅人よ!あなたは形のない欲望によってそれに引き寄せられます。

内面的には、実際には、時間も場所も形もない欲望に向かっています

なぜなら、たとえあなたがこの目的に気づいていなくても、幸福には時間と場所がないからです。

実際には、神はすべての人の主です

なぜなら、その道を歩むのは欲望によるもの[24]だからです。

しかし、尾に向かって目を向けた人もいます

頭は本物であり、すべてが依存していますが、彼らは頭を失いました。

しかし、見当違いの人のために頭が失われます

しかし、彼は頭によって与えられるべきものを尾によって与えます。

1つは頭から授けられ、もう***1***つは尾から授与されます

足と頭の両方を失った人もいます。

すべてが失われたので、彼らはすべてを見つけました

ある形態が別の形態から[霊的]完全性を達成しようとするのは、神が人類の導きのために選んだ神とグノーシス主義者の親しい人々を除いて、誤った導きです。
そうでなければ、形はそれ自体が困窮しています。必要性を別の形に提示することは意味がありません。

23

たとえ霊的な努力の後、形なしで神を呼び起こすことはできなかったとしても、形なしで神を呼び起こすことができるようになるまで、想像力なしに目の前に現れるあらゆる形を代替手段として利用してください。

24

欲望は人間のすべての努力の目的であり、すべての道を歩むことは欲望によるものであり、欲望を叶えることは神の機能であることが前述で証明されているので、神はすべての人の主です。

この喪失のせいで、彼らはすべてに向かって走った[25]。

その絵が飾られた城の中で、王子たちは中国皇帝の娘の写真を見て、全員が意識を失い、試練や苦難にさらされ、それが誰の写真なのかを調べ始めました

この問題には終わりがありません、この*[3*人の王子の*]*グループ

美しく壮大な絵を見ました。

彼らはもっと美しいものを見た

しかし、彼らは*[*その写真とともに*]*底知れぬ海に降りていきました。

この杯を通してアヘンを受けたからだ

カップは見られたが、アヘンは隠されていた[26]。

驚くべき城はその役割を果たしました

それは彼らを艱難の深い井戸に置いたのです。

美しさとスタイルの矢が彼らの心を貫いた

おお、平和の賜物よ*!* この限りない悲惨さから私たちに避難所を与えてください。

生気のない絵が彼らを内側から焼き尽くした

それは彼らの信仰と心に燃えるような火をつけました。

25

神を崇拝する人や探求する人が異なれば、神との関わりも異なります。本当の目的が神の存在(*ダート*)であるにもかかわらず、それが現実の存在であり、偶発的な存在であるすべての起源であるため、神の行動に注意を向ける人もいます。
彼らはまた、神の存在から恩恵を受け、彼らの注意も神に受け入れられます。
別の崇拝者のグループは、真理と正義の行動によって真理に注意を向け、求めています。
これは一般の崇拝者レベルのレベルです。 ここでの「尻尾」とは、神の行為を指します。
「頭」とは神の資質を指します。
[より高いレベルの霊性]崇拝者の別のグループは、ここで「頭」と呼ばれる神の資質を通じて霊的な恩恵を受けます。 このレベルは[霊的]エリートに属します。
次に高いレベルの霊性は、エリートのエリート、または最先のエリート(クルアーンが「*アル・ワキア*」(56:10)という章で言及している「*ア・サビクーン、ア・サビクーン*」)に属します。
彼らは神の行動や資質を目的にしなかったので、代わりに神の存在を目的とし、したがって、彼らは神の存在に到達しました。

26 ここでは美がアヘンに似ています。 ここでのカップとは、外見や外見を指します。
形は見えますが、そのアヘン(魅惑的な影響)は隠されています。
驚くべき城は、3人の王子を苦難に陥らせることでその役割を果たしました。

もし絵に魂があったら、どうなっていたでしょうか?

その苦難は毎秒異なる種類のものだったでしょう。

王子たちの心の中の絵への愛以来

短剣のように痛かった。

彼らは皆、雲のように大量に涙を流していました

それぞれが手を噛んで「ああ!」と言いました。[27]

私たちが今見ているものは、皇帝はすでに以前に見ていた

その比類のないものは、私たちに多くの忠告を与えてくれました。

だからこそ、預言者は*[*私たちに対して*]*多くの権利を持っています

彼らは*[*私たちの行動の*]*すべての結果を明確に私たちに知らせたからです。

あなたが今蒔いているものは、いばら以外には何も生えません

今、あなたが飛んでいるところには、飛ぶ場所が見つかりません[28]。

私から種を取り、豊富な農産物を与えてください

苦難の矢があなたを打つ前に落ちるように、私の翼で飛んでください[29]。

あなたはそれらに従う必要性を感じていません

結局、そうする必要があったとも言うでしょう。

彼らが「あなた」と言ったとき、それはあなたであり、体である「あなた」ではありません

代わりに、物質的な領域の上にいるのは「あなた」であり、本当の「あなた」です[30]。

27

彼らは、その時自分たちが見たり経験したりしていたことを悟り、この城に行かないように大声で執拗に諭した皇帝にすでに見られていたことに気づき、後悔でいっぱいでした。

28

神の預言者は、低次の自己(ナフ)からの欲望、情熱、欲望に従うことは、とげ(不幸、痛み、苦しみ)を成長させるだけであるとすでに私たちに教えてくれました。
あなたの方向とスピードは世俗に向かっており、そこには救い、本当の成功、真の幸福はありません。

29

預言者たちは、そうすることで無数の[物質的および非物質的な]利益があり、試練と苦難の矢があなたを打つにははるかに及ばないので、私たちは彼らの道に従うべきだと私たちに告げました。

30 「あなた」には2つの部分があり、1つはあなたの体であり、もう1つはあなたの魂です。
有益な預言者に従うことは、肉体の機能ではなく、時間と空間の限界を超えた魂の機能です。

あなたが「あなた」と考える外側の「あなた」

*[6]*方向から来ていますが、本当の「あなた」はすべての方向の上にあります。

おお真珠よ*!* なぜ殻に震えるのか*?*

「あなた」をあなたと見なすのではなく、その中にあるものを本当の「あなた」と見なしてください[31]。

自分自身に気づかなくなってしまうのは「あなた」です

自分の「あなた」を達成し、*(*自分自身の中にある*)*二元性を乗り越え[32]てください。

外側の「あなた」よりもあなたの本当の「あなた」

それを警告し、神の近さに到達するために来ました。

あなたの本当の「あなた」は、もう一人の「あなた」に埋もれています

私は自分の本当の「あなた」を見る人の奴隷です。

私たちは父の命令を脇に置いてください

私たちは彼の限りない寛大さに反抗するようになりました。

私たちは皇帝のアドバイスを取るに足らないものだと考えました

彼の比類なき寛大さとともに。

私たちは皆、今や溝に落ちています

私たちは戦争なしに倒れ、負傷しています。

私たちは知性と知恵に依存していました

私たちがこの苦難に見舞われるまでは。

*[*霊的な*]*ガイドの影は、神の記憶よりも優れています

何千もの食事や料理よりも、*1*つの満足感がましです[33]。

---

[31] あなたは、それが単なる外殻であるにもかかわらず、体の端(死)に震えています。
本当の「あなた」とは、殻の中の真珠である魂です。

[32] あなたの魂である本当の「あなた」に到達し、あなたの体を現実と見なすこの二重性を止めてください。

[33] スピリチュアルガイドと付き合うことで、誠実さ[と目的の真実性]と、落とし穴に陥ることなくスピリチュアルな道を前進する能力が生まれます。
それはまた、神聖な記憶を効果的にし、スピリチュアルな旅行者に満足感と忍耐を植え付けるための条

見る目は三百六十本の棒よりも優れています

そのような目は真珠と小石を区別します。

悲しみのせいで、私たちは*(*終わりのない*)*闘争に巻き込まれました

この世界、これは誰の壮大な絵なのでしょうか*?*

彼らは*[*この内なる状態で*]*旅を前進させ、多くの闘いの末に*[*謎を解き明かす*]*ために前進しました

深い洞察力を持つスピリチュアルガイドが、この秘密を彼らに明らかにしました。

ガイドは伝聞によって現実を知ったのではなく、代わりに知識は内なる神の照明によって知られました

なぜなら、この秘密はベールを剥がすことで明らかになるものではなかったからです。

彼は、その写真は最も美しい写真でもうらやましいものだったと語った。

中国の王女の絵です。

中国王には比類のない娘がいます

個人的な特徴、卓越性、外見の美しさにおいて。

彼女は妖精と魂のように隠されています

彼女は城の隠されたベールの中にいます。

男性も女性も彼女に近づくことはできません

王は彼女をあらゆる困難や苦難から守るために彼女を隠しました。

誰の口からでも彼女の名前を聞くだけでも、王は興奮します

王女が住んでいた場所では、鳥でさえ羽をひっくり返すことはできませんでした。

そのような愛を与えられたその群れは運命づけられています

神がそのような愛が誰にも与えることを許さないように。

それは愚かさの種を蒔いた者に対する罰です

そして、健全なアドバイスは偽物であり、取るに足らないものとみなされます。

そのようなものは、自分自身の戦略にかかっていた

件であり、神聖な記憶の何千もの食事よりも優れています。

自分の知性で*[*すべての状況*]*を乗り越えるだろうと考えました。

*[*スピリチュアルガイドの*]*注意の半分の粒子の方が良いです

それを通して知性の計画は*300*倍保護されます。

おおリーダーよ*!* 自分の計画を任せる

集中して前に進み、幸せに魂をあきらめ[34]てください。

これは、あなたの知性が思いついたいくつかの熟考に等しくありません

あなたが*[*スピリチュアル・ガイドの存在において*]*消滅しない限り、そして消滅するまで、これらの熟考は何の役にも立ちません。

あなたが*[*霊的指導者の存在において*]*消滅しない限り、あなたは*[*霊的指導者の*]*利用はできないでしょう

この消滅を手に入れて、スピリチュアルガイドの存在を利用してください。

事件をさらに調査する三王子と長兄の対話

この苦難に見舞われた三人とも、お互いに立ち返りました

*3*人とも同じ痛み、悲しみ、悲しみを持っていました。

三人とも同じ熟考と思考の仲間でした

*3*人とも同じ病気と悲しみで病気でした。

沈黙の中で、三人とも同じ考えを抱いていた

会話の中で、*3*人とも同じ議論をした。

時には*3*人とも涙を流すこともありました

患難の食卓の上で、彼らは血を振りかける者たちでした。

時には、心の燃え盛る炎のせいで、*3*つとも

暖炉の燃えるように息を吸った。

[34] あなた自身の計画を放棄し、スピリチュアルガイドの注意を引くために前進してください。
あなたの限られた計画よりもはるかに有益である真のスピリチュアルガイドの導きの中で、あなた自身の計画を消滅させてください(ファナ)。

一番年長の人は言いました:おお兄弟たちよ!

私たちはお互いに諭し合う人間ではなかったのでしょうか?

私たちの支配の人々の中から、私たちに文句を言う人は誰でも

苦難、恐怖、貧困、地震について。

私たちはそのような人に、そのようなくびれに落胆しないように言っていました

忍耐力は拡張の鍵であるため、忍耐力を行使してください。

この忍耐の鍵はどこに行ったのでしょうか?

悲しいかな、なんて驚きでしょう! 法律は廃止されたのでしょうか? どうされました。

私たちは紛争の状況でそう言っていましたか?

火の中でもたっぷり笑う。

私たちは戦闘中のすべての兵士にアドバイスしました

注意！ 顔の色が変わってはいけません。

私たちは兵士たちに命令しました

支配する槍のように前進すること。

私たちは忍耐の行方を全世界に知らせました

なぜなら、忍耐は永遠に照らされたランプであり、導きの光であったからです。

私たち自身の番が来たとき、どうして私たちはこれほど驚いたのでしょうか?

醜い個体のように、私たちは隠れるシーツになりました。

おお心よ! あなたは全員を任務に積極的に取り組ませました

今すぐアクティブに行動し、そのように振る舞うことを恥じてください。

おお舌よ! あなたはみんなに[辛抱強く忍耐するように]アドバイスした人でした

なぜあなたが[私たちに助言する]番になったのに沈黙したのですか?

おお知性よ! あなたの甘いアドバイスはどうなりましたか?

今度はあなたの番ですが、あなた(そしてあなたの計画)に何が起こったのでしょうか?

おお知性よ! あなたは心から無限の苦悩を取り除いていました

あなたの番が来ました、[私たちが今置かれている]苦しみを取り除いてください。

あなたが他の人の痛みの治療法だったとき

ゲストとして痛みが訪れたとき、あなたは沈黙しました。

それは軍隊に挑戦するあなたの方法でした

今、誰があなたの挑戦と声をつかみましたか?

*50*年かけて知性で織り上げたもの

その織りの服を一着だけ着てください。

あなたはいつも頭でした、今は自分を尻尾にしないでください

足、手、口ひげ、あごひげを失わないでください。

チェス盤の上の動きはあなたの特権です

今、良い気質と爽快感を身につけて*(*次の一手を勝ち取ってください*)*。

議論を終え、心の状態を述べた後、三王子は、最愛の人に会う道が閉ざされていたにもかかわらず、目的にできるだけ近づくために、最愛の人に会うための壮大な旅に出ました

三王子が愛で無力化される状況に遭遇したとき

愛は彼らを多大な屈辱を与えました。

彼らはこう言ってすぐに進みました

おお友よ*!* 何が起こらなければならなかったとしても、すでに起こった。

彼らは忍耐を取り入れ、真実な人々、神の親しい人々の中に加わりました

その後、中国の都市に向かって進みました。

彼らは両親と国を去りました

隠された最愛の人に通じる道を歩みました。

イブラヒム・アダムのように、王位から*[*彼らは相続するつもりだった*]*

愛は彼らを無力で貧困にしました[35]。

[35] イブラヒム・ビン・アダムは偉大な聖人であり、グノーシス主義者であり、かつて中央アジアの中世の王であった神に親しい人物でした。

あるいは、偉大な預言者アブラハムのように

彼は自分自身を火の中に置いた。

あるいは、聖別され忍耐強いイシュマエルのように

彼は激しい愛とその鋭いナイフの前で地面に頭を突きつけた。

首都である中国の都市にとどまり、隠れて忍耐力を使い果たした後、長兄はせっかちになり、中国の王に身を委ねたいと思い、2人の兄弟が彼に与えたアドバイスから何の利益も得られませんでした

私の一歩が私の目的を達成するかのどちらかです

あるいは、私は心のように頭をそこに置きます(未達成の愛のための犠牲として私の命を捨てます)。

私の足が私を目標に向かって推進するかのどちらかです

あるいは、心のように、自分の手で頭を下げます。

おお、恋人たちの集団を非難するあなたたちよ! このグループは放っておいてください

神に導かれていない人は、どのように導きますか?

一番上の人は言いました:おお、私の兄弟たちよ!

待ち時間のせいで魂が唇に届きました。

もう気にしない、私には忍耐力が残っていない

この忍耐力は私を火の中に座らせました。

忍耐力を行使することは今や私の力を超えています

私の話は、恋人たちが学ぶべき教訓になりました。

(最愛の人との)別れによる人生にうんざりしています

別れた状態で生きていることは偽善です。

彼は永遠の真理、人生の意味と目的、そして神との親密さと近さを探求するために王国を後にしました。

彼の自己犠牲は神に受け入れられ、彼は彼が掲げた目的を達成し、最も偉大なグノーシス主義者の一人であり、神の親しい人になりました。

この別れの痛みはどれほど私を殺すでしょうか*?*

愛が私に新しい頭を与えてくれるように、私の頭を取り除いてください[36]。

私の信仰は私の愛のおかげで生きています

この人生と頭で生きていくのは、私にとって侮辱です[37]。

体のほこりが取り除かれると、私の月が輝いていました

私の魂の月は純粋な水を飲みました[38]。

私の魂はドレイクであると主張しました

嵐やハリケーンに対抗するのはいつですか*?*

なぜアヒルは船が壊れて沈むのを恐れるのでしょうか*?*

水上の船は*[*安全な場所まで泳ぐ*]*足です。

この主張は私の魂と体を生かし続けました

この主張について黙っているにはどうすればよいでしょうか*?*

他の*2*人の兄弟は長兄にアドバイスしようとした

そうすることの危険性に気づかないようにするためです。

彼らの怪我に塩を塗らないために*[*彼らも愛に打ちのめされ、その後、彼らは長兄との別れに耐えることになるだろうから*]*

急いで疑いのためにこの毒を食べないこと。

意識の高いスピリチュアルガイドの知恵がなければ

見る心がないのに、なぜその道を歩むのでしょうか*?*

知性は個人にとって翼のようなもので、*[*精神的な高みに登るのを助ける*]*

知性を持っていない場合は、スピリチュアルガイドの知性を使いましょう。

---

[36]神(ファナ*)の中で消滅した後*、神(バカ*)に生存する状態が来*ます、言い換えれば、最愛の者(神)の愛と意志の中で低次の自己の欲望が根絶されると、終わりのない永遠の命である新しい命がやって来ます。
この物語を通して、ルミはスピリチュアルな道、その落とし穴、そしてその中での成功の秘訣を解明しています。

[37]
私は[深い霊的]意味のある人生を達成したいのですが、[物質的な領域での]外側の生活は私にとって対処するのが難しいです。

[38] 魂が肉体の束縛から解放された後、魂は照らされ、啓発されます。

*[*二人の弟が長兄を諭す*]*注意！これを恐怖で見る

そのような主張をしたり、そのようなことをしたりしないでください。

あなたは私たちの人生を悲惨なものにするでしょう

おお兄弟よ*!* 誰があなたにそうするように説得しているのですか*?*

道に精通していない人は、百年も絶え間なく旅をするかもしれません

それは無駄です*!*

武器なしで戦場に行かないでください

気にしない人のように自分自身を破滅に陥らせないでください。

彼らはこれらすべてを言いましたが、せっかちな長兄は言いました。

私はこれらのことに嫌悪感を感じています。

胸は暖炉のように火で満たされている

作物の準備ができて、収穫の時が来ました。

胸には忍耐がありましたが、もうありません

激しい愛が忍耐を火に置き換えました。

この激しい愛が生まれた夜、私の忍耐力は死んでしまいました

それは死んでしまいましたが、あなたが命に恵まれますように。

おお、危険について語っているあなた

私はそれを上回ったので、冷たい鉄を叩いてはいけません。

私は逆さまにしました、気をつけて、私の足を放してください

私の体のどこに理解が残っているのでしょうか*?*

私は私の旗を地面に置きます

私は頭を失うか、最愛の人の顔を見つけるかのどちらかです。

大好きな人との出会いでスッキリしない目

そのような目は盲目である方が良いです。

兄弟は長兄に再びアドバイスし、彼はそれに耐えられず、狂った恋人として、そして狂気の人として王の宮廷に行き、不正行為のためではなく、愛の強さのために許可を求めました

二人の兄弟は彼にこう言いました。

空の星のように*[*あなたの苦難に対する*]*答えです。

もし私たちがそう言わなかったら、それはあなたにとって不公平だったでしょう

そう言ったら、心が痛くなります。

彼は立ち上がって言った*:*おお、私のものよ*!* お別れ

この世界とその中のすべては一時的なものです。

彼は弓から矢を放つように抜け出した

話すことが何も残っていなかったからです。

彼は制御不能に中国の王の前にやって来ました

彼は王の目の前で衝動的に地面にキスをした。

彼の存在のあらゆる状態は、王には明らかに明らかでした

悲しみの始まりと終わり、そして彼の躊躇。

羊は放牧地で忙しい

しかし、羊飼いはその状態を認識しています。

「あなたたちは皆羊飼いです」という理由で、彼は群れの誰を知っていましたか

草を食む者であり、*(*群れの他の動物と*)*戦っている人[39]です。

彼*(*王*)*はこのグループの痛みと苦難を知っていました

しかし、慎重さから沈黙を守り、自分が知っている秘密を明かさなかった。

その尊敬する者は彼らの魂の間にいた

39

長兄と王の状態は、仕事に忙しい羊とその羊飼いの状態に似ていましたが、羊飼いはそれを注意深く見守っており、少しも怠りません。
預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)は、「あなた方は皆羊飼いであり、審判の日に彼らの群れ(臣民と彼らの幸福と世話に責任がある者)について尋問され、責任を問われるでしょう」と言いました。
羊飼いは、群れの中で誰が草を食んでいて、誰が戦っているかを知っています。

しかし、意図的に自分を馬鹿にした。

火の形は鍋の下にあります

火の内面の現実は鍋の中にあります。

その形は外側にあるが、内面の現実は内側にある

恋人の内なる現実、つまり魂は、血のように血管の中にあります[40]。

王子は敬意を持って王の前に座った

紹介者は王子を王に紹介しようとしていました。

王は以前からすべてを知っていたにもかかわらず

しかし、紹介者にはまだ紹介を許可しました。

内なる存在におけるグノーシスの照明の粒子

おお、尊敬される者よ*!* *100*人の紹介者よりも優れています[41]。

紹介者の声に耳を傾ける

ベールに包まれ、推測状態にあることを示しています。

心の目を持つ方

そのような目は綿密な検査を行います[42]。

そのような人は、伝えられたニュースと争うことはありません

代わりに、人が持つ確信は心の目から来ます。

その後、紹介者が王様に言及した

王子様の様子。

彼は言った:陛下*!* 彼はあなたの好意を必要としています

彼があなたにすべての希望を託しているので、あなたの名誉にふさわしい王室の扱いを彼に与えてください。

---

[40] 魂は愛する人のようなものです。
それは体とは別のものですが、その影響は静脈の血液循環のように静脈にあります。

[41] グノーシスの粒子が一粒でも心の中にある場合、それがもたらす霊的な啓示(*カシュフ*)は、紹介者や情報提供者によって提供される情報よりもはるかに優れています。

[42] 心の目が開かれた人は、現実を認識し始め、問題の根底にたどり着きます。

彼はあなたと関係を築いてきました

苦しんでいる彼の頭に優しさの手を置いてください。

王は言った:どんな位置と土地でも

彼は要求しました、彼は私からそれを受け取るでしょう。

彼が残した国は、その20倍を彼に与えます

私は彼にそれを与え、彼に対する私の優しさはそれの上にあります。

紹介者はこう言いました:あなたの素晴らしさが彼の中に激しい愛の種を蒔いて以来

あなたを望む以外に、彼には他にどんな欲望が残っていますか?[43]

あなたへの奴隷制は彼にとってとてもふさわしいものでした

支配への欲求が彼の心から一掃されること。

彼は王族と王子の生活を失いました

あなたのために、彼は旅行と和解しました。

霊的なエクスタシーで雑巾を捨てたスーフィー

彼はどこから別のぼろきれに注意を払っているのでしょうか?[44]

そんなことを考えることすら恋人とはかけ離れている

そのように考えるなら、その頭にほこりをかぶせるべきです。

地球の支配は、身体の崇拝者に許されます

私たちは無限の愛の支配の奴隷です。[45]

彼は愛の地位保持者です、どうか彼を退位させないでください

43
王子は、豊かさ、権力、支配、その他すべてを置き去りにした後、貧困を受け入れ、あなたへの願望以外に心には何も残っていません。
これは、物質的な利益や損失を気にすることなく、自分の運命を神だけと心から結びつける奴隷の神への愛のたとえ話です。

44 王子は、ここでは「スーフィー」のぼろきれに例えられている王国を残しました。
一度捨てられると、彼は決して受け取らないでしょう。
1つのぼろきれを捨てて、後でそれをしたことを後悔し、他の人から別のぼろきれを受け取り、それに熱心になることは、スピリチュアルなエクスタシーのためにぼろきれを失うことを損失と見なすのと同じです。 このスピリチュアルなエクスタシー(*Wajd*)は貴重であり、それだけの価値はありません。

45 恋人たちは神の愛の無限の支配権を持ちたいと思っています。

あなたの愛以外のことで彼を忙しくさせないでください。

王子は内なる状態の舌でこう言っています:あなたのビジョンから私を止める位置

実質的には証言録取であり、名ばかりの立場です。

彼があなたのところに来るのが遅れた理由

*[*霊的*]*能力の欠如と体の弱さでした。

準備なしで鉱山に行くと

粒子を一つも把握できなくなります。

そのようなものは、油と芯のないランプのようなものです

その光は小さくも大きくもありません。

海の中にいる陸地の鳥のようなものです

それは損失と破壊以外に何を見つけるのでしょうか*?*[46]

それは、挽く小麦なしで粉砕所に到着した人のようなものです

彼には、あごひげと髪がほこりっぽく白髪になる以外に何の報酬も与えられません。

小麦のない者、天の粉砕機

髪の白髪と背中の弱さを彼らに与えます。

しかし、小麦を所有している人にとって、この粉砕機は

支配、*[*神聖な*]*働き、王族の授与者となる[47]。

46

紹介者は、王子の前に来るのが遅れたのは、愛の強さが欠けていたからではないことを王に知らせています。 むしろ、彼は霊的能力を高めるのに忙しく、さらに弱かった。
その状態では、彼は霊的な利益(*ファイル*)を得ることも、肉体的な厳しさと強さを必要とする奉仕を行うこともできませんでした。
[人生の]目的を達成する霊的能力がない限り、そしてそれまで、その努力は無駄です。
したがって、スピリチュアルな旅行者は、スピリチュアルな道に進み、最終的には神の臨在の中にいるために、スピリチュアルな能力と強さを必要とします。
これもまた、グノーシスの状態、つまり神との親密さの中で神の臨在の中にいるために必要なものについてのたとえ話です。

47

スピリチュアルな旅行者やスピリチュアルな道の初心者がスピリチュアルなガイドのところに行くとしたら、そのような人は、挽く小麦なしで稼働している粉砕機に行く人のようなものです。
そのようなものは、すべての髪がほこりで白髪に見えると戻ってきます。
霊的能力のない人々は、時が経つにつれて、年をとり、灰色になり、弱くなる以外に何も得られません。 天の粉砕機は、正しい信念と正しい行動の小麦を持っている人にのみ利益をもたらします。

これに終わりはありません、探さないでください

行って、*(*前進する*)*能力を手に入れてください。

彼はあなたのところに来る前に、能力に達するのを待った

*[*あなたのビジョンに対する*]*彼の願望の強さはすべての限界を超えましたが、能力は達成されませんでした。

彼は、能力は王を通しても達成されると言いました

魂がなければ、体はいつ能力を持つようになるのでしょうか*?*[48]

王の優しさが彼の悲しみを折りたたんだ

彼は王を狩りに来ましたが、自分自身を追い詰められました。

彼はあなたの罠に閉じ込められ、追い詰められました

獲物を捕まえなかったことで、彼自身も餌食になってしまいました。

確かに富を望む人

まずはそれによって投獄される[49]。

世界の表面のマークは、見た目とは反対だと考えてください

世界の奴隷の名は、世界の主と呼ばれます。

おお、理解力が低く、反対の道を歩む体よ*!*

あなた方は何百万人もの自由な魂を投獄しました[50]。

*[*富と名声を得るために*]*すべての言い訳をしばらく残してください

死ぬ前に、数時間自由な生活を送ってください。

おお、忙しい体よ*!* ***1*** 人にしてください

---

[48]
紹介者はこう言いました:彼は自分の能力を高めようとしていたので、今まであなたから離れていました。 まだ達成されていませんが、あなたへの愛の強さのために、彼は強制的で無力になりました。
彼は今、能力の達成も王を通して起こるだろうと考えました。
完全な能力の達成は、魂が体に入った後に起こり、それがあなた(つまり王)が与えるものです。
明らかに、あなたを捕食したい人は、自分自身も餌食になります。

[49] 人間はそれを手に入れるのではなく、まず愛するものに身を委ねるのが愛するもののルールです。
世俗的なものは、見た目とは正反対だと考えてください。
この世の囚人である者は、この世の金持ちと呼ばれます。

[50] 肉体は何百万人もの自由な魂を投獄してきました。

あなたは私の人生を台無しにしたので、他の誰かを探しに行きます[51]。

外国の王子に栄誉を授与する中国の国王

その結果、王は彼に賞金を与えていた

その太陽を通して、彼は月のように溶けていました。

恋人たちの溶けは増えるばかりだ

還元の段階にある月のように新鮮さ。

薬に対するすべての病人の希望

この病人は*[*神の愛をもって*]*この病気が増えるように祈っています。

すべての患者は回復のための薬を探していますが、これは

*[*神への強い愛から*]*、より多くの悲しみ、痛み、そして泣きを求めます。

この飲み物よりも優れた毒は見たことがありません

この病気に勝る健康はありません。

彼はそのように王の前に残っていた

心は焼き尽くされ、魂は*[*王に捧げられる*]*大皿に載せられました。

彼は、王は娘への願望を表明した人の首を切り落としたと言いました

しかし、私は王のせいで毎瞬間犠牲になっています。

愛の場では、二本足だけでは走れません

愛のチェス盤では、頭が片方だけでは動きません。

誰もが*2*本の足と頭を持っています

何千もの足と頭を持つ体が焼き尽くされます。

この愛の目的は無限にあるので、

この愛の熱の激しさの前では、地獄の熱は取るに足らないものです[52]。

---

[51] ルミはこれを言い、自分の滅亡を正確に予測し、予言している。
私の自由(この世からの終焉)の時が来ました。 私を解放し、投獄する他の人を見つけてください。
[52] 王子は言いました:私はすでにこの愛を得るために自分の富と頭を犠牲にしました。
低次の自己(ファナ)からの自我と欲望が消滅し、消滅した後、人は神の存在(バカ)を通して生存を達成し

永遠の住まいの最終目的地に到達するために誰もが歩く細くて鋭い橋がある地獄の声明のナレーション、信者への地獄の声明のナレーション、信者の広大な照明がそれを消し去らないように、急いですぐに渡るように、そしてその声明、「おお信者よ! 私を通り過ぎてください! まことに、あなたの光は私の火を消しました」

おお、尊敬される者よ! だからこそ、信者のイルミネーション

地獄を弱くして消滅させる。

それはこう言っています:おお、名誉ある者よ! 早く私を通り過ぎてください

そうでなければ、あなたの*[*神の愛の*]*火が私の火を消してしまうでしょう。

不信仰*(*世俗生活における卑劣な行為に現れる*)*は地獄の火薬にすぎません

それが信者の内なる光によってどのように消滅するかを見てください*[*世俗滞在における高貴な行動に現れます*]*。

火薬をすぐに*[*霊的指導者または完成された者に*]* 渡してください

だから、地獄はあなたやその火花を踏みつけることはありません[53]。

そのような者は天から尋ねられます:そよ風のように私の上を通り過ぎてください

そうしないと、私が所有しているものは偽物になってしまいます。

なぜなら、あなたは農地の所有者であり、私はその穀物を摘む人にすぎないからです

あなたが中国の領土である間、私は偶像にすぎません[54]。

ます。
普通の人々は、神の愛を得るのに十分ではなく、2本の足と頭しか持たないため、この愛を奪われています。
人間の愛(つまり、男性が女性を愛し、その逆も同様です)は、両足と頭がなくなったとき(つまり、人生が終わったとき)に終わる騒動を引き起こします。
しかし、真の愛(つまり神の愛)の騒動は日に日に激しさを増すばかりです。
この愛の最終的な結末と目的地は無限であり、時間や場所にとらわれず、永遠であるため、この本当の愛の熱は計り知れない強さであり、耐え難い激しさで知られる地獄の熱さえも小さくします。

53
審判の日に地獄の上を通り過ぎると地獄の怒りを引き寄せるこの火薬(陰性、邪悪、卑劣な傾向や傾向)をあなたの内なる存在から取り除いてください。
この銃の力の素材を、あなた方の心の奥深くから、完成された人間、スピリチュアルなガイド、グノーシス主義者、または神の愛の持ち主に手渡し、地獄の火と怒りを引き寄せる魂の中に何も残らないようにしてください。 人間は自分自身の天罰と救いの種を自分の中に抱えています。
永遠の悲しみと苦しみという形での天罰と、永遠の幸福と無限の勝利という形での救い。

54

信者よ、あなたとともに! 地獄は恐怖の中にあり、天国も同様です

これもあれも、誰もあなたと平和ではありません。

3人の王子のうち、最年長の王子が亡くなり、2番目の兄弟が王の仲間を迎えました

治す時間を見つけられず、彼の人生は終わりました

忍耐力はあまりにも衰弱し、彼の魂はそれに耐えることができませんでした[55]。

長い間、彼はそれを恐怖で耐えていた

彼の目的と目的を達成せずに人生は終わりました[56]。

最愛の人の顔が彼から消えた

彼は死に、最愛の人の内なる現実の仲間になりました[57]。

彼は言った:最愛の人のドレスは絹でできているにもかかわらず

ベールや分離をせずに神聖な美しさを受け入れる方が良いでしょう。

私は肉体を奪われ、肉体は*[*地上の*]*愛する人についての考えを欠くようになりました

私は今、*[*真の*]*最愛の人との真の出会いの道を着実に、そしてスムーズに歩んでいます。

これらの議論は、この時点までのみ述べられるべきです

その後に来ることは秘密にされなければなりません[58]。

信者であり、誠実な神聖な恋人の崇高さと地位は天国よりも高く、そのような人の心は神聖な存在の顕現の場所です。
天国にはこのような性質がないので、地位の低い人は地位の高い人に対して恥ずかしがり屋を感じます。 要するに、信者は霊的地位において天国や地獄よりも高みです。

55 長兄と王子は最愛の人と会う方法を見つけられず、その状態で人生を終え、別れに耐えられず、目的に向かって粘り強く努力する忍耐力も保たれませんでした。

56 長い間、彼は愛を表現することを恐れ、結局、最愛の人に会わずにこの世を去りました。

57 神の愛の顕現であった最愛の人は、彼の死とともに彼の視界から消え、彼はその顕現に明らかな神の美と統一されました。
したがって、彼はベールや分離なしに現実を受け入れたため、創造物の中で神聖な美しさと神聖な現実を見る必要はなくなりました。

58 議論ではこれだけを言葉で表現でき、これを超えるものは真の最愛の者(神、高貴な方)との出会いであり、それは経験的なものであり、言葉で説明することはできません。

馬と手綱のレースは川まで

その後、あなたの乗り物は木でできた乗り物です。

木乗り(ボート)は陸上では役に立たない

しかし、これは特に川の人のためのガイドです。

この沈黙は木の乗り物です

[神の愛の]海の人々のために、沈黙が主張されてきました[59]。

あなたを怒らせる沈黙

[神の]愛のスローガンを掲げます。

私は、他の人がそれに気づかない中で、そのスローガンの騒音のせいで耳が聞こえなくなりました

[世俗的な事柄について]鋭い聴覚を持つ人々は、この話に耳を傾けません。

夢の中で一人の人が大声でスローガンを掲げている

何万もの講演や討論を行っています。

もう一人は最初のもののすぐ隣に座っており、まったく気づいていません

そのような人はそれに眠っていて、最初に聞こえた音や叫び声に耳が聞こえません[60]。

木造の乗り物(ボート)が転覆した人(海の真ん中で)

水に沈み、自分は魚になってしまった[61]。

結論として、(最年長の)王子が世界を去ったということです

59

言語の人(素人)は、陸上では役に立たない船のように、内なる霊的状態の人々にしか理解できない内なる霊的状態を説明できません。
沈黙は、内なる霊的状態の人々にとっての話であり、この内なる状態の話に耳を傾ける耳を持っているので、彼らに対する[神の]愛のスローガンです。

60

世俗性にふけった人々は、内なる霊的状態を持つ人が経験する神の愛の音に気づかず、耳を傾けません。
このたとえ話は、夢の中で多くのことを聞いた人が、隣に座っている人はそれをまったく知らないようなものです。

61 これまで、議論は真の内なるスピリチュアルな経験を持つ人(*ダウク*または*ザウク*)についてでした。
神聖な存在(ファナ)に消滅し、その中に深く浸っている人は、内なる経験も消滅であることに気づきます。 そのような魚は、この底知れぬ海の深さと幅を泳ぐ魚のようなもので、ボートを必要としません。

彼が去ったとき、彼の魂は苦しみ、悲しみ、そして温かかった[62]。

末っ子の弟として長兄の葬儀に来た二番目の兄は病気で横たわっており、王は二番目の兄に惜しみなく下ろし、王の目で数十万の内外の富を得た

末っ子は病気で、真ん中の子供は病気でした

ちょうど長兄の葬儀に来ました。

王は彼を見て、わざと尋ねました:それは誰ですか?

同じ海に属していたし、魚でもあるからだ。

紹介者は言いました:彼は同じ父親の息子です

この兄弟は亡くなった兄弟よりも若いです。

王は彼に惜しみなく*[*彼の寛大さ*]*を授け、こう言いました:あなたはユニークです

彼は寛大さで彼を食い物にした。

そのユニークな王の恵みのため

彼は自分の中に、他の人生以外の人生を見ました。

彼は心の中で壮大な音と興奮を見ました

これは、スーフィーが何百もの精神的な努力の中でさえ見つけられないものです[63]。

彼は自分の心の中に*[*グノーシスと神の親密さの*]*壮大な世界を見つけました

それは*[*霊的な努力のために*]*何百回も孤独を過ごした後でも達成できません。

野原、城壁、山、岩が輝いていました

彼の目の前では、熟したザクロが裂けたようだった。

彼の目の前では、すべての粒子が太陽のようでした

62

長兄の状態をまとめると、彼は[達成されていない]愛の痛みと悲しみとともにこの世を去ったということです。

63

王が二番目の兄の心に霊的な関心を寄せたため、彼の内面の状態は劇的に変化し、彼は心に新しい命を感じました。
彼は、スーフィー(スピリチュアルな道の努力家)が何百もの精神的な厳しさと努力(主に長期間にわたって隠遁して激しい神の記憶と熟考を行う)でさえ見つけることのできないような神の愛への興奮と活力を心の中に見ました

あらゆる瞬間、何百もの方法で、それはかつては精神的な開口部を提供していました。

ドアは時には開口部のようになり、時には光線のようになりました

ほこりは時には小麦になり、時には大きな栄養になります。

目の前の天国*(*空*)*は古くした乾いた肉のようだった

彼の目の前には、常に新しい創造物がありました[64]。

美しい魂が肉体の牢獄から解放されるとき

まことに、神の運命によって、それは目に恵まれています。

目に見えない領域から来た何十万ものが彼の前に現れた

秘密に詳しい人々の目が見ることができるものは何でも、彼は見ました。

彼が本で読んだものは何でも

彼は彼らの内なる現実に目を開けた。

あの偉大な王の行列の塵から

彼はビジョンを明確にし、ビジョンを高めるコールを見つけました。

彼はそのような庭で服を引きずっていました

彼のあらゆる繊維が「もっとあるの*?*」と叫ぶために使われた場所。

花から育った庭は終わりを迎えます

心から育つ庭は永遠に続きます[65]。

64

神の照明の豊かさにより、全世界が照らされ、スピリチュアルな意味が明らかになり始め、すべてが神の資質と完璧さの現れとして現れ始めました。
今や、世界のあらゆる粒子が霊的な啓示(*カシュフ*)の源となり、扉や知識、そして内なる霊的意味が彼に開かれ始めました。 その知識の扉は、時には知識の源となり、時には知識そのものにもなりました。
さて、物質的な物質的領域(*アラム・アル・ナスート*)は、目の前にある天使の領域(*アラム・アル・マラクート)と同じように、彼には無価値に思えました*。

65 第二王子の霊的啓示は、驚いたり驚いたりするものではありません。
[本質的に]美しい魂が肉体の監禁から解放されるとき、それが根強い精神的な闘争(*ムジャハーダ*)*によって解放されるか、または完成された精神的指導者(シェイク・アル・カミル)の付き合いによって*解放されるかにかかわらず、それはあらゆる種類の精神的な啓示を達成します。
王子は、自分の存在の核心に大規模な内なる精神的変容をもたらすことができる、完成された精神的指導者のたとえ話である王の仲間によって、この崇高な内面の状態を達成しました。
王子は、スピリチュアルな道を歩く他の達成者と同じように、あらゆる内なる知識の庭を散歩し、より多くのものを求めていました。
物質的な知識は、グノーシス(マリファ)の庭からのほんの数本の花束です。

私たちは***1***つか***2***つの花束に支配されています

なぜなら、私たちは庭への扉を閉ざしたから[66]です。

そのような鍵は、いつもパンと引き換えに

ああ、私の魂よ*!* 指から落ちています。

しばらくパンに不安を感じたら

服、肉欲、女性に夢中になります。

あなたの中に欲望が湧き上がるとき

国と街全体が女性とパンでいっぱいになりたいの[67]です。

あなたはかつてはヘビでしたが、おそらく今はドラゴンになりました

あなたは頭が一つだったヘビでしたが、今は頭が七つです。

七頭龍は地獄

あなたの貪欲は穀物のようなもので、地獄はあなたにとって罠として設置された網のようなものです。

網を引き裂いて穀物を燃やす

この家の新しい扉を開けてください[68]。

おお恥知らずな貧乏人よ*!* 恋人じゃないので

あなたは山のような未知の音を持っています[69]。

自分を改心しながら、

神の報復はあなたの前に隠されています

66

私たちは、現実や霊的な領域の知識に気づかなくなったため、物質的な知識に夢中になってしまいました。

67 お腹がいっぱいになると、陰部の性欲に魅了されます。
そうすると、人間の貪欲はさらに増大し、人は富と手段に満ちた国や都市全体を追いかけ、増え続ける限界のない欲望と貪欲を満たします。

68

罠にかかってしまう穀物や網のような貪欲や欲望から身を引かせてください、そうして初めて、深い内なるスピリチュアルな意味と神の知識への扉があなたのために開かれるでしょう。

69

もしあなた方がそのような神の知識に伴う神の愛を持っていなければ、あなたは音をそらし、それに気づかない山のようなものです。
言い換えれば、この状態にあるあなたの物質的知識は、山からそらされた音のようなものです。

あなたは両方の世界*(*この世界と次の世界*)*の所有者と裁判官になります。

永遠の王国があなたの前に現れるでしょう

それは、借りた、人生の病気に満ちた*2*日間ではありません。

強制労働から解放され、自分の仕事をするようになります

あなたは自分の王になり、自分のラッパを吹くでしょう[70]。

喉が私たちの人生を締め付けているとき

あああ！ 喉と口はほこりを食べます。

この口はほこりを食べる

しかし、色とりどりになったあのほこり。

このケバブ、ワイン、砂糖

おお、子供よ*!* カラフルで装飾されたほこり以外の何物でもありません。

食べ終わって血肉になったら

それは肉の色を受け取り、それも路地のほこりです。

地球上の色はほこりで行われます

そうすると、すべてが*[*再び*]*塵になります[71]。

インド人、キブチャキトルコ人、ローマ人、エチオピア人

墓の中で同じ色になります。

すべての色とマークが

ベール、欺瞞、借りたもの。

---

[70] 神の罰が猛烈な勢いとともにあなたの前に迫ったとき、悔い改めて償うには遅すぎます。
神の報復が隠れていてそれを見ていないときに、自分自身を改心し、修正するなら、その人は王のようなものであり、誰もそのような人を悩ませることはできません。
目に見えないものへの信仰がこのように存在するとき、人は恒久的な王国を受け取り、奴隷生活をやめ、代わりに自由を得るでしょう。 口と喉のこれらの味覚と喜びは私たちにとって致命的です。
神の報復の時、人は彼らを後悔し、代わりにほこりを食べたかったと思うでしょう。
おいしいものを含め、この世で食べているものは、色に覆われたほこりに過ぎず、世の中のすべての珍味は色とりどりのほこりです。

[71]
最初、この塵は食べ物や果物の色をしていましたが、次に消費されて肉と血の形で体の一部となり、最後には再びその肉と血が地球の塵になります。
それ自体が塵である体は塵で養われ、最終的には墓にたどり着くと再び塵になります。

なぜなら、長続きする唯一の色は神の色であり、他には何もないからです

他のすべては、*(*牛の動物に*)*鐘のように縛られていると考えてください[72]。

真実の色、神への恐れ、そして神の確信

神のしもべと崇拝者の上に永遠にとどまります。

疑い、不信、偽善の色

不従順な魂に永遠にとどまるでしょう。

狡猾なファラオと彼の暗い悪行のように

色は残っていますが、体は消えています。

真実の人たちの美しい顔に宿る素晴らしさと輝き

彼らの体が消えても審判の日まで耐えるでしょう。

神は塵に色、スキル、ユーモアを与え、

彼らのために、幼稚な気質を持つ人々は戦争に従事します。

ラクダやライオンが小麦粉で作ったパンを焼く

子供たちは貪欲に舐めます。

ライオンとラクダは口の中でパンになります

これは子供には何の影響も与えません。

子供のように、私たちはほこりで満たされています

*[*人生の目的を達成するために*]*実際の手段と手段を採用しようとする試みは、私たちの頭から消え去りました。

子供は愚かさ、推測、疑いに夢中になっている

ありがたいことに、子供は体力がほとんどありません[73]。

72

人間はどこから来たのか、儚い地上の生活の中でどんな肌の色をしていたのか、死んだ後は同じ色の同じ塵になります。
誰にとっても同じエンディングの目的は、肌の色、人種、文化、国の違いはすべて一時的なものであるというメッセージを伝えることです。 実際には、人間の起源と最終的な目的は同じです。
永遠に残る唯一のものは、この儚い地上の存在の中で、人が正しい行いによって達成される神の色です。 「キプチャク」は、遊牧民のトルコ人が住むユーラシアの砂漠です。
家畜や牛に結ばれた鈴は、その所有物ではなく、借りたものです。

73

後悔は、老後や高齢に耐えている子供たちのためのものです

彼らは足を引きずりながら*[*世界*]*を支配しているアリです。

子供は百回の喧嘩や喧嘩をします

神に感謝します、子供は戦略も武器も持たず、誰にも本当の危害を加えることはできません。

後悔は、大人の大人である無礼で礼儀の悪い子供たちのためのものです。

彼らが持っている力と支配力*(*世界を衰弱させる真の危害を加え、紛争をまき散らす*)*ために、彼らを見守っているすべての人にとって悲惨な原因となっています[74]。

無知と武器が合わさったとき

専制政治と抑圧で世界を滅ぼすファラオになる。

おお、かわいそうな人よ*!* この*[*富の欠乏*]*について神に感謝しなさい

それがあなたを抑圧と不信から救ったということ。

自分が抑圧されているのではなく、抑圧されていることに感謝しなさい

あなた方は専制政治やあらゆる悪の源から守られています。

空腹は神性を主張していません

なぜなら、自分の中のこの火は燃料によって助けられないからです。

空腹はサタンの牢獄です

なぜなら、パンを見つけるという心配が狡猾さや欺瞞から防ぐからです。

果物が古い場合、生になるまで

それは*[*木にどれだけ長く留まっても*]*未熟と呼ばれます。

その生の*[*人*]*が百年になっても

小麦粉でできたラクダやライオンは本物のラクダやライオンではないと小さな子供たちに説明しようとしても、彼らはそれを受け入れません。
また、子供のように埃で満たされ、人生の本当の目的を達成するために何をすべきかに気づかなくなってしまいました。

74

子供にはあまり力や力がないので、子供の無知や愚かさは有害ではなく、それが喧嘩につながる場合、それは実際の害を及ぼさない小さな戦いです。 残念なのは、子供のように振る舞う大人の高齢者です。 実際には、彼らは[社会政治的]権力と富を持っている足を引きずるアリであり、彼らの無知は私たちの周りと世界に多大な危害と破壊を引き起こします。

すべての理解者にとって、それは子供であり、生です。

髪の毛やあごひげが白髪になっても

一人はまだ同じ子供時代、恐怖、そして希望の中にいます[75]。

この物質的な領域の上の領域にあるものはすべて霊的です

要約の要約であり、敬虔です。

【アウター】形は影であり、内面の意味は太陽です

影のない光は人けのない場所でのみ見られます。

なぜなら、そこにはレンガの上にレンガがないからです

月には悪い影は残っていませんでした。

レンガは金でできているにもかかわらず、取り除くに値します

レンガの代わりに、霊的な啓示と照らしがあります[76]。

---

[75] 世俗的な物質主義的な人々の老いは、彼らを子供時代(未熟さと無知)から取り除くことはありません。老後になっても[成熟、慎重さ、知恵、人生の真の目的のために努力する点で]知的にならなければ、老いで髪が白髪になっても、幼稚な行動のせいで子供のままです。
恐れと希望は2つのタイプの人々に属します:第一に、神の律法の目的であるのは霊的に完成された人々です。
この現実は、人は神の律法を遵守し、その命令と禁止事項を熱心に守り、自分の善行を神に受け入れるに値するほど小さいと考え、それを恐れるということです。
同時に、人は神の憐れみに目を光らせ、神の受け入れの候補者であり続けます。
そのたとえ話は、土地を耕し、種を蒔き、神の慈悲によって雨を待つ農夫のたとえ話のようなものです。
希望と恐れの第二の人は幼稚で、何の仕事(義行)もせず、収穫のための耕作という形で神の憐れみを望んでいます。 これは実際には傲慢であり欺瞞です。
子供じみた恐れと希望の第二のタイプの別のたとえ話は、神の威厳を恐れて、自分の行いが小さすぎると考え、仕事をするのをやめ、神は憐れみ深く、働かない人にも恩恵を与えると言うことです。
これは恐怖ではなく、むしろ臆病です。
これは、良い結果を得るために働かない人々が採用する恐怖と希望であり、それは単なる幼稚な行動にすぎません。

[76] すべての行動の要約は、スピリチュアルな道(*タリカ*)での闘争です。
神が人をご自身に引き寄せるとき(*ジャドブ*または*ジャズブ*)、人は神の中で消滅(*ファナ*)を達成し、その後、人は神の中で生存(*バカ*)を獲得します。
体の外的な形や行動は影のようなもので、それらの行動の霊的な意味は太陽のように照らされています。
神(*ファナ*)における消滅、つまり、より低いベースな自己(ナフス)の欲望と性質を取り除くとき、人は影のない照明を獲得します。
人間の性癖、弱さ、低次の自己のレンガの影が取り除かれると、スピリチュアルな照明はもはや影によって遮られることがなくなります。レンガを取り除くと照明が衰えることがない場合は、これらのレンガを取り除く価値があります。

影を取り除くために、バラバラに分割された*[*シナイ*]*山

この神聖な光のためにバラバラに砕くことは小さなことです。

神の光が山の外側に降り注いだとき*[*シナイ*]*

それは、神の光もその中に届くように、バラバラに裂けました。

飢えに苦しんでいる人がパンを手に入れるとき

欲のために、口を開けて目を大きく見開きます[77]。

それ*(*シナイ山*)*が何十万もの破片に分裂するのに適しています

おお、地球よ*!* 天国の間にある場所から離れてください。

天の光が影を焼き尽くすように

おお、今日の敵よ*!* 夜はあなたの影があるからです。

この地球は子育てのためのものです

大人のための狭い場所があります。

神は地球が子供を育てると命じられました

その中で、彼は子供たちのために牛乳を飛ばしました[78]。

ゆりかごの数が多すぎるため、家はくびれています

おお神様*!* この子供たちを早く大人にしてください。

ゆりかごよ、気をつけろ*!* 場所を狭く締め付けないでください

大人の人が自由に歩き回れるように。

子育てのための家を窮屈にしない

---

[77] 空腹に苦しんでいる人は、パンを手に入れ、口を大きく開けて、急いで一口ずつ食べます。
同じことがエジプトのシナイ山でも起こり、預言者モーセ(神の祝福と平安あれ)が神と会話するためにそこに行き、神に神の一瞥を見せてほしいと頼んだとき、神は「あなたは私を見ることができません」と答えました。
その後、神はシナイ山に神の光からたった一つの光を見せ、それは粉々に砕け散り、モーセは意識を失いました。

[78] 人体は地球のようなもので、影の原因となり、太陽の光の妨げとなり、夜が始まります。
肉体と物質的な領域は、子供のような世俗的(物質主義)の人々にとってゆりかごであり、大人にはゆりかごが小さすぎます。 したがって、霊的に完成された人は、世俗的な生活に窮屈さと狭さを感じます。
これらの子供たち(精神的に成長しておらず、物質的および肉体的な存在に執着している)にとって、地球は物質的な利益を提供し、ここでは「ミルク」と呼ばれます。

大人が広がりを見つけることができるように。

第二王子のほのめかしの考えは、王のせいで心の中で受けていた自給自足の感覚と精神的な啓示によって引き起こされ、このほのめかしの結果として、彼は王に反抗することを計画しており、王に恩知らずであり、王は心の啓示によってそれを知り、それは彼の心を苦しめ、王子がそうであるように彼の魂を傷つけました気づいていない

売買をせずに、恒久的になったとき

王の内なる存在からの王子の魂の賃金。

彼は王の魂からの照明から霊的な栄養を得ていました。

彼の魂の月は、太陽から光を得る月のように。

模範のない王から、霊的な賃金

常に彼の魂に届くように使われていました。

普通の人が食べるものではない

むしろ天使が食べる栄養。

王子は自分の中に独立と自給自足を*[*王から*]*誤って見ていた

この独立は*[*王からの*]*反乱を引き起こしました。

それは、私は*[*私自身の権利で*]*王と王子ではないのでしょうか*?*

なぜ私はこの王に*[*私の命の*]*手綱を委ねたのですか*?*[79]

私の明るい月が地平線に現れたとき

それでは、なぜ私は塵に従属しなければならないのでしょうか*?*

私の小川には水があり、*(*私が何者であるかを*)*誇りに思う時が来ました

79

第二王子は、月が太陽から光を得るように、王(完成されたスピリチュアルガイド)から霊的な恩恵と祝福を引き出していました。 彼の魂は毎日王から一定量の霊的糧を受け取りました。
それは普通の人が受ける栄養ではなく、天使が受ける霊的な栄養でした。
王から受けていた霊的な恩恵と祝福のおかげで、王子は自分が霊的な完成度に達し、もはや王に仕え、従う必要はないと信じ、考え始めました。
この間違った考えとほのめかしの結果、王を通して受けていた彼の霊的な恩恵はすべて彼から奪われました。
彼の中で扇動された反乱は、彼が王であり王子である、つまり、彼は霊的な完成を達成し、もはや王を必要としておらず、王に手綱を渡すべきではないというほのめかしによるものでした。

私は今独立しているのに、なぜ他人のプライドを容認しなければならないのでしょうか*?*

頭痛が残っていないのに、なぜ頭にバンドを巻かなければならないのでしょうか*?*

濡れた目と青白い顔の時間は残っていません。

– 私が今、月のような甘い唇と頬を持っているとき

別の店を開くべきです[80]。

彼の低次の自己がエゴイズムで膨らみ始めたとき

彼は無駄な発言をたくさん発し始め[81]ました。

すべての水*(*川と小川*)*の出会いの場である王の海

なぜ流れや流れの中に何があるのかを知らないのでしょうか*?*

彼の考えは王の心に傷を与えた

彼の霊的な贈与と寄付に対する恩知らずのためです。

王は独り言を言った*:*おお、卑劣で礼儀の悪い者よ*!*

驚いたことに、これは私の寛大さに対する罰です*!*

この良い宝からあなたのために何をしたのですか*?*

そして、あなたの邪悪な習慣のせいで私に何をしたのですか*?*

私はあなたの天国へのはしごになりました

あなたは私と一緒に戦うために弓矢になりました*!*

王に香の痛みが現れた

キングの痛みの反射が彼の内面に浸透した。

富の鳥は彼の怒りで痙攣しました

---

[80] 私が完全になったのに、なぜ他の人の言うことを聞かなければならないのでしょうか。
魂の内なる病気がなくなったのに、なぜスピリチュアルガイドと一緒にいなければならないのでしょうか? 私自身もスピリチュアルガイドになるべきです。

[81]
霊的状態のこの段階で独善と利己主義が生まれたとき、彼は退行と衰退を引き起こすほど、彼の霊的状態に有害な多くの間違ったことを言い始めました。
内なる精神的な変容と改革を達成した後でも、そのような利己的な思考を楽しませて後退する危険性がまだあります。

それは傍観を計画している者のベールを打ち砕いた[82]。

その若者が自分の内面を見たとき

彼は自分の暗い行為の影響を目の当たりにした。

その優しさと祝福の報酬は失われました

彼の幸せの住処は悲しみで満たされました。

最愛の者の道で自分自身を見つめた者は誰でも

穀粒を残して外殻だけを見ました。

神が私の敵に自分の内面を見させませんように

なぜなら、そのような人には混乱と破壊以外には何も期待できないから[83]です。

世界ではアルコールが禁止されている

なぜなら、あなたはすぐに自分の内面を見つめる人になるからです。

あなたの想像の中では、あなた自身以外にこれ以上の人はいません

これらすべては、低次の自己によってあなたの中に生まれます[84]。

おお、お前*!* 自分自身を低次の自己から切り離す*(Nafs)*

いつまで、あなたはそれに閉じ込められたままになるでしょう。

おお、最愛の人よ*!* あなたの魂を最愛の人に引き渡す

あなたの心を動揺させ続ける友人を見るために。

あなたの魂を最愛の人に引き渡し、解放されなさい

そのために正しいことをして、幸せを手に入れましょう[85]。

82

王が寛大な施金をした後も王子が反抗的だったため、王は傷つきました。「富の鳥」、つまり王子の心の内なる精神的状態は、王を脇に追いやろうとする彼の計画によって打ち砕かれました。

83 ルミは、霊的完成とグノーシスの道で傲慢な人は、霊的道の現実性を欠くことになると言います。これは、敵に望んでいないほどの損失と破壊です。

84

アルコールが禁止されているのは、クルアーンに「サタンはアルコールとギャンブルであなた方の間に無政府状態と不和をまき散らしたい」と書かれているため、敵意の原因は通常、利己主義、独善、そして自分の内面を見つめ、自分が他の誰よりも優れていると考えることです。
アルコールはその有害な内面状態の一因となります。 それが王子に起こったことです。

85 あなたが持っているすべてを最愛の人(神)に渡せば、あなたは[魂の目で]ビジョンを持つでしょう。低次の自己に征服され、その欲望を奪ってはいけません。

低次の自己に支配されないでください

ミルクから離乳します。

すべてに酔わせる効果があります

牛乳でもワインでも、蜂蜜でも。

おお、人間よ*!* 小麦の中毒を知る

それはアダムを*[*神に気づかせられた後*]*気づかなかったのです[86]。

王子はアダムのように天国から引き離されました

雄牛と一緒に農業のために畑を耕していた人。

彼は*[*自分の内面に与えられた害について*]*涙を流してこう言いました。

あなたはライオンを雄牛の尻尾の囚人に変えました。

おお、邪悪で冷たい自己よ*!* あなたはやりました

親切な王との悪癖。

小麦への貪欲さの中で、あなたは網を選んだ。

あなたにとって、餌として使われるすべての小麦粒はサソリになりました。

エゴイズムの空気が頭を満たしました

さて、足元に*50*トンの鎖がかかっているのを見てください。

王子はそのように自分自身に泣いていました

なぜ私は王の敵対者になったのでしょうか*?*

彼は*[*無知と傲慢から*]*意識を取り戻し、悔い改めました

最愛の人との別れの痛み

憐れんでください*!* 不治の病です。

---

[86] 賞賛して自分自身を見つめる酔いは、人を傷つけます。
それが許されるか禁止されるかにかかわらず、それを引き起こすものは何であれ、避けるべきです。
すべては、その人のスピリチュアルな旅に照らして評価する必要がある、酔わせるような効果をもたらす可能性があります。
小麦(アダムが天国にいたときに神によって禁じられていた)を食べることで、アダムが気づかされた後、それに騙され、あらゆる種類の快適さを備えた天国の住まいを失い、地上に押しやられ、そこで途方もない苦難と苦労を経験したかを見てください。

おお神様*!* 人間の状態が改善されないように

忍耐の状態が終わると、人はエゴと卓越性を発見します。

人間に危害を加える力を持たせないでください*!*

なぜなら、その時、人は*[*自分を抑制する*]*信仰や*[*自分が歩んでいるかもしれない*]*自己改革の道を気にしなかったからです。

悩みに悩まされている人間は良い

なぜなら、低次の自己は*[*神の*]*祝福を拒否し、*[*害と悪に傾いているため、人生の正しい道から*]*誤って導かれているからです。

試練と苦難の中の人間はより良いです

なぜなら、そのような人は屈辱を受け、謙虚で、無力だからです*[*したがって、抑圧されても、自分自身は抑圧者にはならない*]*。

反乱で自分に大きな損失と被害を与えた王子が王の心から傷つき、霊道を終えずに世界を去ったという話に戻る

話を短くすると、盲目の低次の自己の意見

1年後に王子を墓に連れて行きました。

王が霊的吸収*(スクル)*から回復*(サフ)*に戻ったとき

彼の火星のような怒りはすでに血を流していた[87]。

この比類なき者が彼の矢のコレクションを見たとき

彼は矢が***1***本欠けていることを発見した。

彼はその矢がどこにあるのか尋ね、神に尋ねました

彼は言われました*:*彼を打つのはあなたの矢です。

87

王がグノーシスの海で霊的に吸収された内面の状態から戻ったとき、彼は王子が怒りのために死んだことに気づきました。 火星は赤いため、怒りのたとえ話としても使われます。
預言者とグノーシス主義者の怒りは、彼らに代わって神の報復の理由となります。
キングが内面から回復すると、怒りは収まりました。
彼は神に帰り、怒りを和らげる理由を神に懇願しました。
彼は、その理由は彼の怒りのために報復が起こったからであると神から知らされました。

寛大で豊かな王はすでに彼を許しました

しかし、矢はすでに命中し、血を流していました。

彼は亡くなり、王は彼の死を嘆いた

彼はすべてです。彼は命を奪い、*[*保護する*]*友人でもあります[88]。

両方が存在しなければ、神がすべてではありません

神は被造物の滅亡者であり、被造物を弔う者でもあります[89]。

あの青白い顔の殉教者*(*王子*)*は神に感謝していました

彼*(*王*)*は魂ではなく肉体を打ったのです[90]。

外側の体は、最終的には*[*運命の時に*]*消え去るに違いありません

魂は生き続け、終わりのない永遠の中で永遠に幸せであり続けるでしょう。

その怒りが作用されたとしたら、それは皮膚にのみ作用した

友人は何の痛みも苦しみもなく、友人の元に戻りました。

王子は王を霊的な道を歩むための手段にしていましたが

邪眼は*[*神への霊的上昇への*]*道を閉ざしました。

そして三皇子は二人の兄に比べて遅かった

彼は*[*霊的道の*]*外的な形と内面の意味の両方を*[*首尾よく*]*達成しました。

王女、支配権、統治、彼はそれらすべてを奪いました

あなたがそれに驚き、困惑し続けるのは適切です[91]。

88

王子が亡くなり、王は泣き始めたが、たとえ王子が死の原因となったとしても、彼は依然として彼の友人であり、彼の顧問であり、彼の保護者であり、彼の内なる精神性を使って王子の内なる変化をもたらすのを助けたからです。

89

神が命を奪うという資質と、守る友人であり助け手であるという資質の両方を備えていなければ、神の完全性は存在できません。

90

来世の王子は、自分の過ちに対する罰が自分の体だけに与えられ、彼の魂と信仰がいかなる報復からも守られたことを神に感謝しました。
肉体は一時的なものであり、いつかは滅びるに違いありません、もし魂が死んだり傷つけられたりしたら、それは完全な破壊になっていたでしょう。 怒りが体に降りかかり、彼の魂は魂の魂に戻りました。

91

3人の王子のうちの末っ子は、最年長の兄のように最愛の者との出会いを[道の最終目標を達成するため

物語の長引くことに悩まされている

私は深い霊的な意味の海に浸っていますが、あなたは性急です[92]。

そしてその時、*[*低次の自己の*]*屈辱、謙虚さ、そして*[*完成された霊的指導者への*]*綿密な遵守によって、

第三王子は、私たちの仕事を成し遂げ、私たちを目的に到達させてくれる親切な方から目的を見つけました[93]。

ルミのマトナヴィの終わり – 深い精神的な意味の対句[94]

私は忍耐を霊的な次元への上昇のためのはしごとしています

そうすれば、私は努力の中で成功の崇高に到達します。

すべての忍耐の最終結果は成功です

苦味のたびに、甘さが見つかります。

彼の臨在中に私の心に何かが起こったとき

*[*詩の*]*詩や世俗的な事柄に関係のないもの。

私はそれらが神によって私に向かって送られたものだと考えています

に]霊的な道を急ぐことも、真ん中の兄のように完璧さを主張しませんでした。

[92] ルミはこう言っています:私はこの話が長引くことに腹を立てています。
それは、この物語のあらゆる部分が、私をその部分の深い内面の意味と精神的な秘密に導き、そこに没頭していることに気づくからです。

[93]
忍耐強い忍耐力、霊的な努力、屈辱に耐える忍耐力、絶対的な謙虚さ、真の誠実さ、目的のひたむきさ、どんな状況であっても最終目標に集中すること、そしてスピリチュアルな道の学生や旅人に必要なその他の偉大な資質により、他の二人の兄弟が霊的闘争の欠点と間違いのために失敗した最終目標を達成することができました。
結局、彼らはまた、たじろぐ前に最善を尽くしたので、欠点はあったものの、彼らが行った努力が神に受け入れられました。 最年少の王子は、神の近さ、親密さ、受容の富を獲得しました。
この名誉は、神の寛大さと寛大さによってのみ可能になります。

[94]
ルミは、第三王子の物語と彼がどのようにして霊的な道の果実を実現したかを詳しく説明することなく、これらの最後の詩で彼の偉大な傑作を突然締めくくりました。
彼は、父親が裁判官に遺産を残し、誰が最も怠惰なかを判断し、遺産を引き渡すという別の物語とともに、この物語を完成させる生きた魂が彼の後にやって来ると予言しました。

イエメンで見られる輝く星のような神の心から。

私は彼の素晴らしさと神聖さの前に*[*謙虚に*]*頭を下げます

私は心の奥底から神に感謝するようになります。

私の心の中にあるこの事柄は、神から来たものである

ある心から別の心へと穴*(*道*)*があるからです。

今、私の心の窓から霊的なインスピレーションの太陽が沈んだので、

それ*(*マトナヴィ*)*は終わり、神が一番よく知っています[95]。

ルミの息子グノーシス主義者、完成されたスピリチュアルガイド、マウラナ・バハ・ウル・ミラットが父親 *と話し合い、父親が言ったことを報告した後*、マシュナヴィの深い精神的意味の対句の結論[96]

父*(*ルミ*)*が長い間このマトナビと付き合っていたとき

沈黙を保ちながら、私は彼に言いました*:*おお、生きている魂よ*!*

何のために話さないのですか*?*

なぜ、あなたは神から人の心に入ってくる知識の扉を閉ざしたのでしょうか。

王子たちの物語は終わっていません

---

[95] 私は神に焦点を当てた霊的な瞑想の状態で座ります。
私の頭に浮かんだ考えが何であれ、それが世俗的な考えでなければ、それらは神が私の心に送られたものだと考えます。
神の意識の反射が私の心に降り注ぐとき、私は神の素晴らしさと神聖さを確信し、神に感謝し、心の中のこれらの考えは、ある心から別の心への道があるように、神から来たものであると考えます。
この時点で、この「マトナヴィ」(深い霊的意味の対句)の主題のインスピレーションの太陽は、神の現実に向かって開いた窓から私の心に入ってきましたが、今や沈み、これらの主題は来なくなりました。
その結果、私はこの本をここで終わりますが、神はすべての背後にある神の知恵を知っています。
ルミは、この傑作の源として、この傑作の源として神のインスピレーションをここで明らかにしており、この傑作は、時代の終わりまで人類文明全体の霊的な道を歩み、その結果としての神の愛の達成をテーマにした最高の本です。
また、クルアーンが将来にわたって全人類に捧げる意味とメッセージの核心を最もよく解明するものとも考えられています。

[96] ルミの息子、マウラナ・バハ・ウル・ミラット(本名はバハ・アル・ディン・ワラド)は、第三王子の物語を未完成のままにしたまま、父親がこの偉大な本を突然終わらせた理由を詳しく説明するために、「マトナヴィ」のこの結論を書きました。
ルミは彼に、物語と本を完成させる生きた魂が彼の後にやって来ると言いました。

三皇子の真珠は糸に縛られることなく残りました。

ルミは言った:その後、私の話す能力はラクダのように眠りに落ちました

審判の日まで、誰とも*[*「マトナグィ」と三人の王子の物語について*]*会話は行われません。

その解明は残っていますが、*(*私の*)*内側にあります

閉まっていて出てきません。

その場所の私のスピーキングの教員はラクダのように眠りに落ちました

その教員はこう言います:私は話すのを口に閉じました。

わたしは*[*この世から*]*去り、*[*永遠のいのちの*]*流れに飛び込む時が来ました

彼の存在を除いて、すべては滅び、終わりに近づいています。

この*[*物語*]*の残りの部分は、舌で語られることなく来るでしょう

生きた魂を持つ人の心の中にあります[97]。

問題は終わり、私の人生も終わりました

肉体から解放されたという喜ばしい知らせが*[*私の最愛の人から*]*私に届きました。

私は魂の領域の広大さに到達します

私はこの湿気の一滴を通り抜け、底知れぬ海にたどり着きます[98]。

この湿気のおかげで、この世界は生き生きとしていて、見た目が気持ちいいからです

この水分は海から来たので、それは良いことであり、幸せです。

土と湿りの間に魂が生きているとき

海の世界ではどうなるでしょうか*?*[99]

---

[97] ここでルミは息子に、物語を完成させ、本を完成させる誰かが彼の後に来ると予言しています。
それは、生きた魂、つまり神聖な存在とグノーシスを持って生きている魂を持っている人によって行われます。
以前、ルミもこの儚い地上滞在から離れようとしていることを驚くべき予言し、永遠の存在で最愛の人に会いたいという熱意を表明しました。

[98] 私は今、魂の領域(*アラム・アル・アルワ*)に到達します。
この海に比べれば、私たちがいる物質的な領域(*アラム・ナスート*)は、ほんの一滴の湿気に過ぎず、魂の領域の影響はほとんどありません。

[99] この魂は、土と塵、そして物質領域の少量の水分の間で生きています。
魂の領域におけるその人生がどれほど広大であるかは推測できます。

海は都市のようなもので、湿気は*[*その都市への扉*]*のようなものです

水分を一滴と考えれば、海は計り知れず、無限です[100]。

命のようなこの湿気を通して、中へ入ってくる

最愛の者の海に入り、あなたが*[*終わりなしに*]*生存できるように[101]。

*[*世俗的な存在の*]*こちら側には、生命の海からの水分があるからです

あなたは魂を通してその偉大さを求めます。

塵の粒子のあらゆる部分が墓場に連れて行きます

魂の海からの波は、人を最愛の人へと連れて行きます[102]。

心と魂を込めて最愛の者との出会いを求めてください

*[*心によって*]*舌と唇を使わずに神の御名を覚えておきなさい。

ですから、あなたはこの*[*肉体の*]*投獄とこの儚い世界から自由を得ることができます

ですから、あなたはいつでも魂の領域にとどまることができます。

不毛の地に蒔かれた人生の種

最終的にはそれがあなたの終わりをもたらすように、あなたによって[103]。

この尊い美しい命

なぜ*[*良い*]*補償なしにそれを無駄にするのですか*?*[104]

おお、勤勉な人よ*!* あなたは喪失に耐えませんか*?*

庭をあきらめてとげのある土地を占領するとき*?*

限られた命を捧げるとき

100

物質的な領域(私たちがいるこの世界)は、魂の領域と天使の領域(*アラム・アル・マラクート*)の都市に通じる扉のようなもので、前者は一滴のようで、後者の2つは海のようなものです。

101 魂の存在と存続は、それが生まれた最愛の者の海に溶け込むかどうかにかかっています。

102 塵でできた人体は墓に行き着きます。 魂は人を最愛の人(神)のところに連れて行きます。

103

体の世話をするだけで人生を無駄にしないでください、さもなければそれはあなたの破滅をもたらすでしょう。

104

自分の永遠の必要に気を配らずに世俗的な雑用に費やすだけの人生の一部は無駄になってしまいました。この世の限られた命を神を求めることに費やすなら、それは人を永遠の永遠の命に導きます。

神を求めて努力する道では、それは無限になります。

無数、無限、無数になります

神の奴隷として過ごす*10*日間の長い人生。

注意！ このバザールで取引をしてください

とげ一つと引き換えに、数十万本の花を奪います。

あなたが蒔いた*1*つの種に対して、あなたは得ることができます

豊かな方の祝福によって何十万粒もの穀物がもたらされました。

カウントは終わりがあるところでのみ行われます

神がおられる側には、数え切れないほどあります。

おお、分離された部分*!* あなたのすべてに向かって行きなさい。

エゴを乗り越えて、神の避難所に駆け込みます。

人間の行動や言葉から

魂がどうであるかが明らかになります。

魂はどの霊的な程度にあり、それは何でしょうか*?*

信者か、不信者か、それともグノーシス主義者か*?*

海の助けを借りずに水容器に水を入れないでください

甘い水が不快にならないように。[105]

何の助けもなければ、静かな水は悪くなります

その良い色、香り、味は消えます。

預言者ムハンマド*(*彼に平安あれ*)*は言いました*:2*日間が同じ人

負けていて疑わしい。

私の愚かさの中で、私は確信を持たずに生きています

空気で満たされた空の袋のように[106]。

---

[105] 魂の水は魂の魂の海とつながっている必要があり、そうでなければ静かな水は不快になります。

[106] 永遠の真実に確信を持たない人は、霊的な道で絶えず退行し、[神聖な美の]海とのつながりがないため、魂の水は汚れます。

その悲しみは刻一刻と増大している

刻一刻と悪化し、弱くなっている。

それは神の臨在から拒絶され、地獄に向かいます

海の甘い水がなければ、それは火と罰に向かって進みます。

あなたの問題が*[*後戻りできない*]*そのポイントに達する前に

そして、怠慢の息を吐くたびに、あなたは後ろ向きに歩きます。

預言者アブラハムのように、原点に立ち返りなさい

星と青空の上を通り過ぎます。

太陽と月に勇気の一歩を踏み入れてください

*[*神の意志に服従した状態で*]*その法廷に頭を置きなさい。

神への奉仕にエゴを費やす

あなたがサタンのように*[*神の憐れみから*]*切り離されないようにするためです。

魂の海で、魂の水を空にしなさい

そうすれば、岸のない果てしない海になるでしょう。

私がカーテンの向こう側に行ったので、物語を簡単にしましょう

はい、静かにしてください、そして神が一番よく知っています。

神に感謝します*!* この本は主題の終わりに達しました

現金は失われず、兄弟たちに届いた。

この*[*マトナヴィにおける知恵と神聖なグノーシスの詩集*]*は、天国へのはしごです

登って登る人は誰でも屋根にたどり着きます。

緑の天国の屋根ではありません

代わりに、天よりも高いのは屋根です[107]。

この天の屋根は、神の臨在から栄養を見出します

その絶え間ない回転は、その無限の愛を見つけたいという願望によるものです[108]。

---

[107] 神の臨在。

[108]ルミの息子による「マトナヴィ」*(深い精神的意味の対句)の結末*はここで終わります。

ルミのマトナヴィの終わりの始まり – 深い精神的な意味の対句、ルミが予言したように、それは生きた魂によって完成され、それはマウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィによって行われた[109]

マウラナ・フサムディンの精神性と欲望の激しさの魅力[110]

私を*[*マトナヴィ*の]結論に引っ張*っています。

「深い霊的意味の対句」を結論に向けて進めるために

魂をまっすぐな道に引き寄せています。

*[*詩の*]*詩は、*[*私からの意識的な努力なしに*]*いつの間にか唇から落ちています

おおフサムディン*!*やりたいことは何でもしてください。

私の知性の手綱はあなたの手にあるので

好きなところに引っ張ってください、私の魂はあなたに酔いしれています。

太陽の反射が水面に落ちたとき

ウォーターは、この素晴らしい贈り物を太陽に感謝しました。

マウラナ・ジャラルディン・ルミの魂

知識の海であり、グノーシスの月であるのは誰ですか。

彼が私の心のシナイ山に彼の姿を映したとき

ほこりと水でできた私の体が照らされました。

ルミが予言したように、次のことは、インドのグノーシス主義者マウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィによってたまたま完成されたこの偉大な本の結末です。

109

この時点から、マトナヴィの結論は、ルミが未完成のまま残したマトナヴィの2つの未完の物語を、3人の王子の物語の結末を含めて終わらせたマウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィによって提供されます。

110

マウラナ・ジア・ウル・ハク・フサムディンはルミの弟子であり、ルミの生涯で完成されたスピリチュアルガイドにもなりました。
そもそもルミにマトナヴィを書くよう説得したのは彼であり、ルミに紙、ペン、インクを提供して書き続け、この偉大な傑作を編纂し、できる限り広めた人でした。
ルミは、*マウラナ・フサムディンの精神性を称賛し*、マシュナヴィを書いたインスピレーションを彼に帰することから、マトナヴィの6巻のそれぞれを始めました。
マウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィはまた、マウラナ・フサムディンの魂の引力を、*マシュナヴィの結論を書いた原動力として挙げています。*

– その高く天国の月は、あらゆる瞬間に

今、私の心の扉にそれを合図します。

マトナヴィの終わりを始める

密封された封筒を開けてください。

言わずに*[*未完成*]*のままのあの話を言ってください

糸に繋がらずに残った真珠をひもでつなぐ。

糸にすばやくひもでつなぎます

私たちのスピリチュアルなつながりはきっとあなたに届きます。

私は自分の霊的な学位を見ることができなかったので、沈黙を保ちました

私は彼のドアに頭を向けました。

真珠を壊すよりも王の命令を破るのが難しいので

私はためらうことなく彼の命令を遂行し始めました。

…

二番目の兄弟の死後、王の近さ、親密さ、そして知恵を獲得した第三王子の状態のナレーション

他のことは置き去りにしましょう、なぜなら第三王子は

次兄の死を聞いたとき。

王の宮廷にやって来た

最愛の人にとって苦痛の状態で、強烈な欲望を持つ探求者として。

儀礼として、紹介者は*[*王に*]*こう言いました。

この三番目の兄弟は、あなたの憐れみに値します。

彼の両腕はあなたの愛の中で弱くなっています

敗北時には包帯が必要だ。

王は彼を憐れみ、出て来るように頼みました

王室の親切を込めて、玉座の隣に座るように頼みました。

彼は霊的なインスピレーションを通じて王子の*[*内面*]*状態を知っていましたが

奇妙な方法で、彼に自分の状態を尋ね続けました。

彼の優しさで、彼をとても慰めました

彼がその痛みと悲しみを魂から取り除いたこと。

彼は死んだ弟を埋葬した

彼の魂を生きているものと結びつけました。

数日後、王室の会社は本格化しました

王の心は彼に和らぎました。

彼は大小の国庫をすべて彼に渡しました

王室のもてなしを彼に開放した。

魂を与える王の寛大さの海の寛大さから

彼の心のつぼみが咲き始めた。

彼の心にはたくさんの*[*霊的な*]*秘密が眠りました

二兄のようにイルミネーションの化身となった。

神の近接とグノーシスの段階で

彼の学位は次兄よりも増えました。

彼は霊的に努力し、霊的な道を歩んでいました

彼はかつて*[*誠実な*]*努力をし、彼の内なる光はますます高まっていました。

しかし、彼自身は教訓を学んだ

彼は両方の兄のアドバイスを受け入れました。

彼は霊的な道の峡谷に精通していた

彼は細心の注意を払い、とても気さくでした。

彼は、最初の兄弟が*[*霊的な道で*]*性急さのために自分の命をあきらめたのを見ました

そして*2*番目の人は、自己うぬぼれ、自己中心性、利己主義のために墓場に送られました。

人間は、最愛の人の道を歩むべきです

段階的に、忍耐強く、寛容な方法で努力してください。

預言者ムハンマド*(*彼に平安あれ*)*はこう言いました。

おお若者よ*!* 柔らかく、ゆっくりと、段階的で忍耐強いアプローチ *(Rifq)* は知恵の根源です。

イブン・マスードは預言者ムハンマド*(*彼に平安あれ*)*から次のように語っています。

おお敬虔な人よ*!* 忍耐は信仰の半分です。

そうでなければ、最愛の人の美しさは完全な照明です

心の目は彼の美しさの中で打ち砕かれます。

あなたには突然の神聖なビジョンに耐えることはできません

*[*あなたの心の*]*鏡を徐々に磨き*[*無知、無頓着、悪の塵をすべて取り除き、あなたの内なる性格と存在の美しさで輝かせてください*]*。

この段階的なアプローチは、自分の霊的能力を高めるためのものです

彼のお披露目された美しさはいつその扉を閉めたのでしょうか*?*

最愛の人は天の真ん中にある太陽のようなものです

しかし、おおコウモリ*!* あなたの目はどこにありますか*?*

行って、まずあなたの目を産んでください

次に、最愛の人に向かって開きます。

そうしないと、その鮮やかな照明と輝きに耐えられなくなります

その太陽があなたの星を沈めます。

死ぬか狂って完全に正気を失うかのどちらかです

これが、多くの人がマジドゥブ*(*神の美しさに耐える精神的な能力を最初に発達させることなく、神の美しさを目撃して正気を失った人々*)*になった理由です。

わらは山の重さに耐えられない

この悲しみと悲しみには、霊的な完成度を達成した人が必要です。

彼の最初の兄は急いでいました

彼は恐怖とけいれんの状態で最愛の者とのベールを剥がした出会いを達成しました。

最愛の人との純粋な出会いは彼には適していなかったからです

彼はけいれんを起こし始め、壊れて亡くなりました。

この体のベールが取り除かれないまで

最愛の人との公開された出会いはいつできるのでしょうか*?*

しかし、激しい愛のライオンが突然走っていくと

恋人は生肉のように犠牲者になります。

激しい愛の動揺は、人を急いでしまいます

海の底にある貝殻のように、人は*[*雨*]*の滴に口を開けます。

しかし、雨が降る前に口を開けるには

痛みと苦難以外には何も成し遂げない。

月経中ではなく、思春期に達していない女性

*[*生殖のために*]*精子を取り囲むことができません。

第三王子の状態と、外側と内面の完全性を達成し、必要性を表現し、目的を達成するために忍耐力を行使した彼の状態のナレーション

そして、その*3*番目の代償は、*100*の予防策と忍耐によって

グノーシスの海から雨雲のように派生するために使用されました。

毎晩王の精神的な付き添いによって

毎朝、神の唯一性の光が彼の心を駆け巡っていました。

霊的能力の達成と知恵の豊かさ

王の仲間のおかげで、彼のために毎瞬間現れました。

常に王様のように月の方向から心の中で

朝晩、新しいイルミネーションが彼の心に降り注いだ。

彼は目的以外のために呼吸すらしなかった

彼は慈悲深い王の心に火花を散らし続けました。

そんな優しさと寛大さに満ちた王様

なぜ私は自分の必要性の言葉を彼の前に持っていかなければならないのでしょうか*?*

彼の慈悲は、求めなくても、無数の祝福を与えます

どうして私の心があえて尋ねるのだろうか*?*

私たちの王は、澄んだ磨かれた鏡の心のようなものです

王の心の中には、私にとって危険な場所もあります。

私が本当にその貴重な真珠に値するなら

王はご自身の恩恵によって、それを私に与えてくださるでしょう。

彼の慈悲は、霊的能力を持つすべての人に与えられます

まことに、自分の内なる霊的状態に従ってください。

能力と資格のある人

王室の贈与は、尋ねることなく王から来ます。

針の頭すら隠されない王

なぜ自分の目的を求めてさまざまな道を走らなければならないのでしょうか*?*

なぜ私は役に立たないものを彼に提示しなければならないのでしょうか*?*

なぜ私は彼に自分の必要性を明らかにする必要があるのでしょうか*?*

私たちの王は明るく、意識があり、意識しています

結局、彼は心の欲望を叶えます。

おお心よ*!*それが幸せの鍵なので、辛抱強くいてください

そこにはたくさんの快適さと幸せがあります。

ある日、王はこう言いました*:*おお、優しさの魂よ*!*

あなたは忍耐と寛容の海であり、慈悲の鉱山です。

私は支配権と帝国の責任に悩まされています

私の心は、本当に神の一体性*(*統一*)*の崇高な玉座とつながっています。

私の後継者になって*[*帝国の*]*仕事をしてください

心を悩ませているものを取り除くことができるように。

孤独に向かいたい

会話から沈黙したいです。

私の心は心配事からなくなるでしょう

それは神聖な照明の顕現となるでしょう。

熟考の瞬間は、一年の礼拝に値する

この瞑想は、神聖な美しさの驚異です。

王子がこの話を聞いたとき

王への敬意の礼儀から、王の頭を足に乗せてください。

神は禁じられています! 君主を手放す時は来ないかもしれない

または、人里離れた部屋で孤独を迎え入れてください。

歌詞の意味: 私の頭にあなたの影がありますように

審判の日まで覆い続けてください。

おお神様! 私の人生がそんなに多すぎないようにしてください

私は王の治世の終わりを見ています。

その方針に沿って多くの議論がありました

しかし、王は王子を試すことによって[真理を]探していました。

彼の心の中に名声と権力への欲求があるかどうかを確認するために

あるいは、王のような帝国と支配の素晴らしさ。

心の中に傲慢さやプライドはありますか?

それとも、彼の内なる存在は神への憧れのワインに酔っているのでしょうか?

王は王子が頭の中で何のアイデアも作っていないのを見ました

彼の存在の木では、従順と誠実の実以外に何も熟しませんでした。

それが地位と支配への愛、貪欲と欲望であったかどうか

彼の頭の中では、最愛の人への憧れ以外に何も見つかっていません。

神と神の特別な奴隷への愛以外に

他のことを考えると彼の心には入り込む方法がありません。

王は、スピリチュアルな道の要件に従って自分の内面の状態を見つけました

彼は自分の一歩一歩を神の律法の高速道路に見出しました。

彼の心には支配に対する傾向はありません

彼は*[*神聖なグノーシスの*]*海の探求者であり、*[*世俗的な手段と目的の*]*船に縛られていません。

彼はさまざまな規模の試験で彼をたくさんテストしました

純金以外には何もありませんでした。

王は仲間や助手たちに、この若者は

魂のような女の子以外の何も受けるに値しません。

月と太陽の組み合わせが良いです

体と魂の関連性はより良いです。

彼と彼女はお互いにふさわしい存在であり、互換性があります

彼ら一人一人が、仲間よりも優れています。

そんな女性がそんな男性に向いている

そのような宝石はその指輪に適しています。

*[*王の*]*民は皆、そのような意見を称賛した

彼らは皆、「急いでください、絶好の機会です」と言いました。

王は命じ、彼らは美しい集まりを手配しました

素晴らしい結婚式の集まりが準備されました。

永遠にお互いを望む二人の心と魂が一つ

彼らの関係を許すという受け入れの誓いが起こりました。

彼らの祝福された結合は起こりました

魂と魂、心と心がつながった。

徐々に忍耐強く、両世界の事柄は秩序を保ちます

なぜなら、急いでいるのはサタンから生まれるからです。

神は忍耐をすべての事柄の決意の源として宣言されました

忍耐強い人は間違いなく自分の欲望を達成します。

苦難に耐えた人は宝物も手に入れました

怠け者になった人も悲惨な死にました。

しかし、怠け者については、世界にとって怠惰な方が良い

世俗的な事柄を急ぐのは悪いことです。

忍耐強く、世界を神に引き渡してください

神はあなたにとって何が良くて何が悪いかをあなたよりもよく知っています。

世界のための怠惰な人は、神の道で活動しています

三番目の王子のように。

三王子の物語の解釈と意味の詳細、そしてそれを解釈し、グノーシスの度数と結びつける(*イルファン/マリファ*)–人生の真の目的の達成と、その結果としての永遠の幸福と無限の勝利につながる神の近さ、親密さ、知識の状態

この物語から完全な教訓を引き出す

この物語を最大限に活用できるように。

人間はやるべき仕事をすべきです

彼らは物語に頼るべきではありません。

あなたは人生のすべてを物語に費やし、無駄にしてきました

朝が近づいてきたので、眠りから目覚めてください。

老いの朝が到来し、出発の時間です

*[*どこにも行けない*]* 物語にふけってはいけません。

*[*永遠への旅の*]*道の準備となる働きをしなさい

あなたの墓の暗闇と孤独の中で、あなたがたのために月のように明るくなることをしなさい。

夕方になり、日が沈みました

もう遅いですから、早く家に帰ってください。

長い間、パンやお菓子を食べてきました

そこから、あなたの内なる存在に何か宝庫が見られたことがありますか*?*

あなたは自分の下の自分を持ち上げ、それは雄牛になりました

最終目的地に向けていつ一歩を踏み出しましたか*?*

だから今、避けられない出発に備えてください

物質的な領域から、内なる現実に向かって行きます。

心の光を増すものを食べる

そうすれば、あの世への窓が開かれます。

あなたの大切な人生は怠惰で終わりました

数日が残ったが、あなたはまだ注意を払っていない。

何が起こったとしても、あなたはまだ友人のところに来ることができます

フレンドの路地でより早く歩みを上げてください。

残ったものは何でも無駄にしないでください

たとえ頭で歩かなければならないとしても、最愛の人の足の上に頭を乗せてください。

おお、お前*!* たとえあなたが百年にわたって神に従わなかったとしても

ドアをノックするとまだ開いています。

魂とは何ですか*?* 神聖な高貴な性質を持つ鳥です

それはグノーシス*(*神との接近*)*を達成するために*[*体の*]*檻に閉じ込められています。

魂とは何ですか*?*それは神聖な*[*神聖*]*血統の鳥です

それは稼ぐために刑務所の中にあります。

オウムは教えられるために檻の中にいます

だから、甘い声で口笛を吹くことを学ぶことができる。

魂は貿易のために無から生まれた

その方向は常に永遠に向かっています。

あなたの低次の自己は、訓練に関しては、*[3*人の王子の*]*父親のようなものです

それはあなたがあの驚くべき城に入るのを防ぎます。

悪に傾く低次の自己は、あなたを罪に向かって歩かせます

それはあなたを悪、不信*(*神聖な現実への神聖な道への*)*不信仰、そして反逆へと呼びかけます。

写真でいっぱいの城に入るのを防ぎます

それは世俗的な知性を抹殺するからです。

預言者ムハンマドの道の神聖さが染み込んだ城

人生で学んだ教訓による物質主義的な考え方にとっては驚くべきことです。

この城には王とその娘の写真があります

そこには天の仲間、天国と美しい愛が言及されています。

「私たちは結婚で大きな目の天の仲間を与えた」と神によって宣言されて以来、

心の真珠は貪欲の糸で結ばれています。

人間は永遠に創造されてきたので、

*[*彼らは傾倒している*]*利益を得て、すべての害を撃退することを目指します。

だからこそ、神の法の城で

人間に欲望と恐怖の両方をさせるために絵が作られてきました。

時々、人々は貪欲によって*[*天国、天の祝福と仲間、支配権などのさまざまな報酬のために*][*神の*]*道を歩ませられます。

時には地獄の深淵を恐れさせられることもある。

恐怖によって、反抗的な低次の自己

強制的に王の元に連れて行かれる。

そのため、この低次の自己*(ナフス)*は、幸せに、または強制的に悪行に傾倒しています

王と彼の娘に慣れる。

しかし、三王子のように、言い換えれば、人間は

おお、見る目を持つ者よ*!* 霊的な道に関しては *3* つのタイプがあります。

一人は自分の魂を抑圧する人で、もう一人は*[*スペクトルの両端*]*の真ん中にいる

第三に、義と善行において最前線に立とうと努力するように造られた人です。

第一王子は自分の人生を破壊した

彼は自分の魂を抑圧する集団に属していました。

彼の人生の真珠は*[*激しい愛の*]*熱のために手から落ちました

彼は霊的な努力とグノーシスの正しい方法を重要視しませんでした。

しかし、王の慈悲が彼を助け、

【結局】彼は(人生が終わった後)神に受け入れられた人の一人になりましたが、それは驚くべきことです。

神のために命を与える者、神はそのような唯一の命を神から与えます

エメラルドを一つ与える者は、鉱山全体(エメラルドでいっぱい)を与えられます。

彼は炎を浴びた蛾のように火傷を負った

彼は狂ったように井戸に落ちていた。

愛の戦いでは、勇敢な人が必要です

そうすれば、人は自分の能力に応じて愛で満たされるのです。

死んでも友達を見つけることができたら

神の道はとても簡単でした。

[神聖な]愛には、あらゆる瞬間に、さまざまな種類の死があります

その苦い思いで、死は百の危険を感じます。

第二王子は霊的な努力と努力をしました

しかし、傲慢さと内面の混乱に巻き込まれました。

彼は自分自身を太陽の共同分かち合い者(完成された霊的指導者)にしました

「私は真実である」と主張し始めました。

その後、彼は障害物にぶつかりました

死の目的地が目の前にやってきた。

彼はこの道の完璧さ(内なる悪徳を前進させることを許さない)のために道で立ち止まった。

彼はまだその道の美しさから生水を飲んでいた。

キングの慈悲は、彼の魂を神に受け入れさせました[彼は間違いを犯すまで道を歩み続けたため]

彼は[世俗的な人生が終わった後も]最愛の人に会いました。

それは彼の能力や権利によるものではありませんでした

それはすべて、すべての創造主である王の優しさと慈悲でした。

そして、第三の代償は、*[*彼の霊的努力において*]*最も重要なものであった

二人の兄を凌駕した。

彼はグノーシスへの道に気付くようになりました

彼は王の現実の仲間になりました。

彼は霊的な努力と努力を行い、神の知識が彼にやって来ました

刻一刻と、神の近さは増えていました。

信仰の人々から、インセンティブが与えられたら道を歩む

彼らは王の娘への愛のために王に向かって走ります。

しかし、彼らの目が王ご自身に当たったとき、彼らは自分たちの愚かさに気づきました

そして、彼らは隠された娘への愛を、王への愛に従属させました。

王は彼に*[*道の完全性に到達するという点で*]*完全な*[*霊的*]*能力を見出したので

その知識を持って娘を結婚させました。

他の二人の王子は神の寛大さに受け入れられたにもかかわらず

しかし、彼の前のその*[*霊的*]*学位と、最年少の王子が受けた神の近さのレベルはどこにあったのでしょうか*?*

不完全な者も、王が彼らを自分の隣の玉座に座らせたときに、王によって尊敬されました

彼は彼らを自分のものと呼び、富を注ぎ込みました。

年上の王子自身も自分の欠点を恥じています

玉座に座っている間、悲しくて恥ずかしい。

自分の失言とミスで心にとげがある

本人の欠点のために苦痛に耐えている。

だからこそ、すべての創造物の中で最高のもの*(*預言者ムハンマド*)*はこう言いました。

天国には、*(*神の記憶と神の道を歩むことによる*)*怠慢を除いて、悲しみはありません。

罪人に天国への道が与えられているなら

王城とローブが与えられた場合。

彼らは醜い足を見て、孔雀のように見ています

*[*後悔して*]*頭を下げて恥じています。

醜い人にとってのガラスの宮殿の利点は何ですか*?*

そのような人には、嫉妬の鏡がいたるところにあります。

おじさん*!* この問題の広大さに終わりはありません

*[*三人の王子*]*に加わった王の話を聞かせてください。

王国を後にして旅に出る3人の王子に加わった王の伝統

おお、ジア・ウル・ハク・フサムディン・ハサンよ*!*

*[*物語の*4*人目の*]*王の状態を私に語ってください。

彼が王国を放棄した誰かになったとき

彼は貧しい状態で王子たちと一緒に残りました。

彼は王国を置き去りにし、彼らの仲間となりました。

彼は彼らと一緒に道を歩んでいました。

彼は一斉に彼らに仕えることに積極的でした

すべての偽善を浄化した純粋な心で。

彼らの*[*神の*]*愛が*[*彼の魂に*]*反映されたことが彼を魅了しました

彼らの旅の中で、彼は三人の*[*王子*]*と一致を示しました。

激しい愛には、そのような効果がたくさんあります

それらは自由を持つ心の鎖です。

恋人の付き合いは、あなたを恋人にする

罪人の仲間はあなたを罪人にします。

すべての人は、他の人から道徳と人格を獲得します

マスクメロンは、別のマスクメロンから*[*甘い*]*香りを獲得します。

*[*他人の*]*会社の影響力を否定する人は愚か者です

良い会社から逃げる人は怠慢です。

マスクメロンは別のマスクメロンからその色をキャッチします

なぜ他の人間との付き合いは効果を生み出さないのでしょうか*?*

あの犬は洞窟の人々の仲間になりました

犬の特徴が完全に離れるまで。

敬虔な民の足の塵となる

そうすれば、あなたは彼らの月から*(*照らされた内なる性質のように*)*照明を受け取ることができます。

だからこそ、預言者ムハンマド*(*彼に平安あれ*)*はこう言っています。

信者*(*人格と敬虔さのある人*)*以外の人と付き合ってはいけません。

香りが容器を香り豊かにする

肥料は土地に悪臭を与えます。

花に油を費やしたとき

それは花の香りの容器になりました。

その王は王子たちと一緒にいました

*3*人の兄弟のうち*2*人が命を捧げたとき。

彼は*3*番目の仲間になりました

彼は真の帰依者のように常に彼の前にいました。

*3*番目が中国王の婿になったとき

彼は彼の特別なエリートの一人でした。

中国の王が彼の途方もない愛と献身を見たとき

そして、彼の最愛の人との特別な関係。

彼は二人とも魂が一つ、体が二つあるのを見つけた

*[*中国の*]*王は友情的に彼に傾いた。

彼は親切から王子にこう言いました。

あなたのこの仲間は、すべての使用人の誇りです。

神は*[*あなた*]*に仕える以外の傾向や心の願望を持っていません

彼はあなたの考えに夢中になりすぎて、この世の他のすべてを欠いています。

彼のような人にご褒美をあげる必要があります

自分の低次の自己の欲望を枯渇させる人。

あなたの欲望の中で自分の欲望を失った方

そのような人はたくさん報われるべきです。

王子は彼の足にキスをして言いました。

私たちに隠されていることは、あなたには明らかです。

あなたの会社を見つけたいと思っているとき

私は旅に出るために祖国を離れました。

この男は、自国の非常に成功した王でした

当社採用に積極的でした。

彼は私たちのために祖国と富を捨てました

彼は一斉に、ひるむことのない私たちを支持し、心の中で旗を掲げました。

私たちのために、彼は多くの変遷に耐えました

彼は国を離れ、私たちの友人になりました。

陛下の慈悲には要求があります

寛大さと慈悲の場です。

国王は彼に別の国を与えると言った

彼は彼の地位にふさわしい方法で授与されます。

王は彼に、以前に見積もられていたよりも多くの城と国を与えました

第三王子のために、彼のために連れ出されました。

彼の目には見えなかったものが彼に与えられた

彼の耳には聞こえなかったものが彼の前に置かれました。

その*4*人目*(*人*)*も目的を達成しました

依頼人と弁護士のように、ゲストとホストのように

その高貴な富(霊的な富を持つ、つまり預言者ムハンマド(彼に平安あれ)は言いました:それはそのような国であり、彼らの仲間でさえ奪われたままではありません[111]。

心を守り、他者に奉仕する

あなたを奉仕される者にし、あなたに成功を与えます。

特に神の民(神に真に献身する)に仕えること

あなたに優れた神の受け入れを与え、あなたを神に近づけます。

神様の親しみを受け取った人々の親しみを得る人

そのような人には、神の親しみが神の親しい人々の手を通して費やされます。

神様の親しみを受け取った人々の親しみを得る人

神の慈悲と寛大さに値するようになります。

神の友人や親しい人に優しさを示した人

彼らの奉仕に熱心になりました。

神の恩恵を受けるに値するようになりました

そのような人は、神の支援と救済の受け手となりました。

イブン・マスード(神が彼に喜ばれますように)は、預言者ムハンマド(神の祝福と平安あれ)から語りました。

おお敬虔な人よ! 人は愛する人と一緒にいるでしょう。

ある国を愛した者は、その国から数えられる

神の友人や親しい人々の愛は魂の光になります。

神のためだけに愛したり嫌ったりすることを自分の存在の一部にしてください

そうすれば、あなたは最愛の人のドアで受け入れられるように。

彼らの仲間の王が霊的な闘争をしなかったとき

111

預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)の預言的なナレーションはこう言っています:神やグノーシス主義者の友人や親しい人は、彼らの仲間を迎える人が[霊的道の恩恵を]奪われたままになることはありません。

清められた人々の愛が彼の道にランプを置きました。

霊的な努力、能力、努力を持たなかった人

スピリチュアルな道の人々と付き合うことが彼の助けとなり、それだけです。

あなた自身が神に受け入れられるように努力してください

あるいは、神に受け入れられた人々と関わってください。

*[*霊的*]*道の努力者になるか、道の努力者を中心に回るかのどちらかです

小さな宝物も大きな宝物も、そのユニークな人間からあなた方のところにやって来ます。

おお魂よ*!* あなたがこの*2*つのいずれかに属しない場合

あなたは審判の日に屈辱を受けて立ち上がるでしょう。

だからこそ、神はクルアーンでこう言われました。

導きに関しては、あなた自身がそれへの手段を模索すべきです。

トレーナーなしで果物のジャムを食べた人はいますか*?*

教えてください、鳥は翼なしでどうやって飛ぶのでしょうか*?*

*[*人間の命の*]*ジャングルは、血、罠、そして*[*獰猛な*]*野獣に満ちています

あらゆる方向で、間違い*[*と誤導*]*の道が開かれています。

ジャングルはヘビでいっぱいで、いたるところに緑があります

保護の魔法の言葉を唱える者の助けなしにそれを踏んではいけません、そうでなければあなたはイライラして*[*それに足を踏み入れることができない*]*でしょう。

この世界は緑豊かな土地であり、下層の自己*(*ナフス*)*はヘビです

神の道は危険に囲まれたジャングルだと考えてください。

ヘビに噛まれたら、あなたは壊れて後悔するでしょう

あなたは魔法の言葉を暗唱する人なしで満足しています、あなたは愚か者です。

あなたの心の足がとげに当たって突き刺さったら

針の先端がなければ、どうやって取り出すのでしょうか*?*

針先を気にし、魔法の言葉を覚える

*[*困難なく、何の間違いにも陥ることなく*]*困難な道を歩むことができるように、*[*完成された霊的*]*ガイドを見つけてください。

ジャングルはとげでいっぱいで、四方八方に道があります

ほら、一歩一歩に溝があります。

ジャングルは恐ろしく、強盗はそこに隠れています

*[*完成された霊的*]*ガイドを見つけて、そのようなガイドに従ってください。

*[*霊的な*]*道は非常に困難で、足の速い超常現象*(*サタン*)*がいたるところにいます

途中で何百ものハープとタンバリンを演奏しているのは誰ですか*[*あなたを気をそらし、神の道から遠ざけるために*]*。

道のりは険しく、あなたの前には暗い夜が待っています

誰の手も握らなければ、あなたはいなくなってしまいます。

おお、最愛の人よ*!* この問題の広大さに終わりはありません

「マトナヴィ」は今や終わりを迎えるはずだ。

おお、子供よ*!* 神の働きに終わりはありません

「マトナヴィ」は終わらせるべきだ。

「深い霊的意味の対句」の完成

今ではマウラヴィ*(*ルミ*)*から受け取った霊的寄付によって起こり、卓越したグノーシス主義者である彼に帰せられています。

結語

真理を探求する人は真理に没頭し、真理の具現化となる

そのような者は神の慈悲の*[*具現化*]*であり、神のそよ風です。

悪魔の悪行をしてはならないし、サタンになってはいけません。

誰かの魂の塵に*[*知恵と神聖なグノーシスの*]*水を注ぎ、*[*浄化し、浄化する*]*。

真理*[*そして、あなたを真理に導く霊的な道*]*以外のことに、あなたの*[*かけがえのない*]*時間を無駄にしてはならない

お腹を満たして魂を飢えさせないでください。

*[*あなたの心の中にある*]*彼以外の姿は、真理からのあなたのベールです

すべての存在において、*[*実在する*]*彼以外には誰もいません。

*[*低次の自己の性質を取り除くことによって*]*神の存在の中で消滅する者になり、そうすれば、あなたは神からの生存、つまり永遠で終わりのない人生を獲得するでしょう

朝の主があなたの魂の中に現れるでしょう。

*6*巻で、「マトナヴィ」は*1*つの声を持っています

その本質は、神の存在*(*ファナ*)*の消滅の海に飛び込むことです。

もしあなたが神の道*(*神ご自身に通じる*)*を探しているなら、警戒しなさい

怠慢と無関心を自分の内側から取り除き、目を覚ましてください。

まず、神の律法に忍耐しなさい*[*礼拝の行為と仲間の人間との善い取引を伴う神の命令と併せて、外見的な生活を営むこと*]*

次に、魂を改革し、浄化するための努力と努力を通じてスピリチュアルな道を歩みます。

最初のステップでは、神の法にしっかりと足を踏み入れてください

その後、霊的な闘争の道を歩みましょう。

「タリカ」*(*美しい内なる資質を獲得し、低くて卑劣な資質、不完全さ、傷、否定的で邪悪な傾向のすべてから魂を浄化するための精神的な努力の道*)*によって魂を飾ることは不可欠です

神聖なグノーシス、近接性、親密さ、知識*(*マリファ*)*の海をうまく渡ることができるように。

この問題に終わりは決してありません*[*その広大さ、重要性、そして全人類に真の平和、永遠の至福、そして永遠の成功を与える上で関連性があるため*]*

ですから、スピーチを簡潔にして*[*ここで「マトナビ」を終わらせてください*]*。 神から与えられた平和があなたにあれますように*!*[112]

112

この時点で、ルミの偉大な傑作「マトナヴィ」または「深い精神的意味の対句」は、マウラナ・イラヒ・バクシュ・カンデラヴィによる結論が追加された後に終了しました。

結論

人間の存在の核心は、私たちの人生におけるすべての否定性と肯定性、幸福と悲しみ、悲惨と安らぎ、成功と失敗、収縮と広がり、暗闇と照明の所在と起源です。 この核は人間の「心」または「魂」と呼ばれ、回復力、積極性、楽観主義、内なる平和、静けさ、幸福、永遠の至福、そして無限の勝利を発散するために、激しい内なる精神的な闘争によって変容を必要とします。 この論文は、人類文明全体の最も優れた指数の一人の時代を超越した知恵に基づいており、回復力、積極性、楽観主義、内なる平和、静けさ、幸福の達成に向けて、人間の存在の核心にあるすべての障害を体系的に解体し、この不安の時代における永遠の至福と終わりのない勝利という形で人間の達成の頂点に到達する方向に人を駆り立てます。 乱気流、そして混乱。

周囲の世界で起こっている出来事は悲惨に思えます。 しかし、私たちは、個人的であれ集団的であれ、自分が置かれているさまざまな状況に対する自分自身の反応に影響を与える可能性があります。 私たち一人一人は、存在の最も奥底や核の奥深くにある自分自身の内なるスピリチュアルな資源の貯蔵庫に深く引き込み、それらと自分自身のユニークな状況や課題を利用して、自分自身をポジティブに変容させることで、それらに積極的に対処することを選択できます。 このスピリチュアルな変容は、すべてのネガティブなものを完全に排除し、さまざまな形ですべてのポジティブなものを吹き込み、個人から最高のものを引き出し、人生の課題に効果的に対処できるようにします。 この内なる変化は私たちの真の可能性を解き放ち、ひいては私たちの周りに前向きな変化をもたらします。 このように最初に自分自身を助けることは、最終的に他の人を助け、個人の内なる光と照明が強まると、それは周囲の激動の世界で止められない善の力になります。 しかし、千マイルの旅はどこかから始まる必要があり、それが自分自身の自己実現、人生の真の目的の達成、そしてその結果としての永遠の幸福と永遠の勝利に乗り出すために必要な一歩です。 この本は、真実を求めるす

べての人を自己実現の道に導きます。 あなたに必要な一歩は、前向きな変革への願望であり、そのためには、これまで未知の領域を探求するために、心と心を開く必要があります。 そうすることを選択した人は誰でも、結果に満足するでしょう。

この永遠の真実の底知れぬ海の嵐の海を航海し、真の自己実現、人生の真の目的の達成、そしてその結果としての永遠の幸福と永遠の命の永遠の成功、人間を不滅にするための旅において、あなたが神に守られ、導かれますように。

さらに勉強におすすめの本

この論文は、人生の本当の目的とそれを達成するための道を簡潔に扱っており、それがひいては、不安、混乱、混乱の状態に関係なく、回復力、積極性、楽観主義、心の平和、静けさ、幸福、永遠の至福、そして無限の成功につながります。 主題の広大さと激しさは、それについて詳しく説明し、人類の道を照らすために、過去数世紀を通じて永遠の真実の偉大な知識者やグノーシス主義者によって書かれてきたほどです。 この論文は、人類がこれまでに生み出したこの知識の最も偉大な指数の一人であるムハンマド・アル・ガザリ(神が彼に計り知れない祝福を授けてくださいますように)の精神性と啓発された著作に照らして、その広大さを垣間見ることを試みました。 この主題に関する、すべての人にとって深い関連性と利益をもたらす、すべての真実の探求者が恩恵を受けることができる最も偉大な作品のいくつかをリストすることは最も重要です。 この時点で、「人生の目的と永遠の幸福と無限の成功を達成する方法に関する関連する知識をどこから得ることができるのか、そうすれば、その道は明晰になり、照らされ、広がり、その知識に基づいて行動することで、実際に人生の目的に到達し、永遠の至福と無限の成功の状態に浸ることができますか?」と問うのは当然です。 幸いなことに、この素晴らしい知識は、今日ではほとんど知られていませんが、その恩恵を受けたい人なら誰でも利用できます。 それは、すべての誠実な真実の探求者のための道を照らす次の推奨される素晴らしい作品から得ることができます。

一. ガザリが著書「ジャワヒル・アル・クルアーン」または「クルアーンの宝石」*で説明したクルアーン10の目的に照らして、優れた注釈の助けを借りてクルアーンを徹底的に研究することを通して*。 これら 10 の目的を研究し、理解し、内面化し、これら 10 の目的を念頭に置いてクルアーンを研究することで、理解と内なる精神的な照明の新しい展望が開かれます。

二. ガザリの著書 「*ミンハジ・アル・アビディエン・イラ・ジャンナトゥ・ラブ・アル・アラミーン*」または「神の崇拝者のための最良の道:すべての宇宙と存在の主の楽園に彼らを導く」 、または略称「崇拝者のための最良の道」。 この本は、人生の目的と、永遠の幸福と無限の成功を得るための道について簡単に説明しています。

三. ガザリがペルシャ語で書いた本「*キミヤ・エ・サアダット*」(または「*キミヤ・アス・サアダ*」)の注目すべき紹介、または「永遠の幸福と無限の成功の錬金術」は、人間の永遠の幸福、不死、真の成功を説明しています。 この本の残りの部分を読んで、この道を進むために必要な40のステップを簡単に学ぶこともできます。 この本の注目すべき紹介は、この論文の最初の部分で顕著に取り上げられています。

四. ガザリによる4巻の知恵の大要は、「*イヒヤ・アル・ウルム・アッド・ディーン*」または「神への道の知識の復活」であり、「宗教科学の復活」としても知られています。 この巨大な本は、40冊の短い本に分かれており、それぞれが神聖なグノーシスまたは「マリファ」へのスピリチュアルな道の一歩を表しており、人間の人生の目的と永遠の至福を達成する道について詳細に説明しています。 この素晴らしい本の第 3 巻と第 4 巻は、この論文の第 2 部と第 3 部で多用されています。

五. 最後になりましたが、東洋と西洋の両方で最も売れている詩人、マウラナ・ジャラルディン・ルミ(通称「ルミ」)は、「*マトナヴィ・エ・マナビ*」または「深い精神的意味の対句」と呼ばれる、神のグノーシスと神の愛に関する人類史上最大の詩を書きました。 最大限の利益を得るために、適切な翻訳と学術的な説明で勉強することをお勧めします。 この素晴らしい本は、コーランの深い内なる知恵を引き出します。 その助けを借りて、人は人生の目的を達成し、その結果として永遠の幸福と無限の成功を達成することができます。 この素晴らしい本の結末は、この論文の最後の部分を飾りました。

永遠の幸福の達人、つまりグノーシス主義者や永遠の真理と神の知恵の知識者によって残された時代を超越した知恵の宝物は膨大であるため、おすすめの本のリストは膨大になる可能性があります。 しかし、千マイルの旅はどこかから始まる必要があり、この短いリストは、永遠の幸福と無限の

成功を追求するためのこの偉大な旅の出発点であり、集大成となるでしょう。 次の本は、この永遠の真実の計知れぬ広大な海の嵐の海を乗り越え、内なる照明、自己実現、人生の真の目的の達成、そしてその結果としての永遠の幸福と永遠の勝利への旅をするのに役立ちます。

Tafsir al-Tustari (聖クルアーン大注釈) サール・イブン・アブド・アッラー・アル・トゥスタリ (著者)、ユセフ・メリ (編集者)、アナベル・キーラー (翻訳者)、アリ・キーラー (翻訳者)

出版社:フォンス・ヴィータ(2011年4月13日)

ISBN-10: 1891785192;ISBN 13: 978-1891785191

厳選された聖句からなるこのクルアーン解釈は、神の啓示のより深い意味に入り込み、その奥深くに埋め込まれた宝石を引き出します。

*クルアーン:ムハンマド・アサド(編集者、翻訳者)による*並列音訳を伴う啓示されたアラビア語テキストの完全な説明

出版社: 図書財団;改訂版(2008年12月1日)

ISBN-10: 1904510353;ISBN 13-978-1904510352

これはクルアーンを完全に解釈または説明したものです。

すべての世界の主の園への崇拝しもべの道(ミンハジ・アル・アビディン) イマーム・ガザリ著

出版社: アルバズ出版米国 (2011)

ISBN-10: 1882216261;ISBN-13: 978-1882216260

イマーム・ガザリの最後の本は、精神的な完成と啓発のための7つのステップの道を概説しています。

アル・ガザリ幸福の錬金術2 Vol. イマーム・ムハンマド・アル・ガザリ (著者)、ジェイ・R・クルック (翻訳者)、ライレ・バクティアール (序論)

出版社:株式会社カジ出版(2007年1月1日)

ISBN-10: 1567446744;ISBN-13: 978-1567446746

イマーム・ガザリの傑作「キミヤ・エ・サアダット」は、永遠の幸福と無限の成功の変革の主体を概説しています。

宗教科学の復活 (Ihya al-Uloom ad-Deen) イマーム・ムハンマド・アル・ガザリ (著者)、ムハンマド・マフディ・アル・シャリフ (翻訳者) による 4 巻セット

出版社: Dar Al-Kotob Al-Ilmiyah、ベイルート、レバノン (2011)

SKU 1010021;ISBNコード:9782745159458

http://jamalon.com/en/1010021.html

イマーム・ガザリの 4 巻の知恵の大要は、人生の目的の達成とその結果としての永遠の幸福と無限の成功につながるスピリチュアルな道のあらゆる側面を分析しています。

マスナビ(6 巻) マウラナ・ジャラルディン・ルミ著。R.A.ニコルソン(翻訳者)

http://www.dar-al-masnavi.org/about_nicholson.html

ルミとして広く知られる米国のベストセラー詩人による「*Mathnavi-e-Ma'navi*」または「深い精神的意味の対句」は、コーランの深い内なる知恵

、人生のより深い意味と目的、そしてその結果としての永遠の幸福と無限の成功を引き出す壮大な6巻の本です。 これは、神の愛の底知れぬ海に浸り、水没し、溺れて、これから永遠に人類全体の導きの光であるスピリチュアルマスターによって、グノーシスと神の愛について書かれた最高のスピリチュアルな詩です。

書誌

[1] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: ナクシュバンディ、ムハンマド・サイード。 *Kimiya-e-Sa'adat* (錬金術または永遠の幸福と無限の成功のための変革のエージェント)。パキスタン、ラホール:プログレッシブブックス、1999年。33-37ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[2] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳:ビラル、ムハンマド・アシム。 *Kimiya-i-Sa'adat* (永遠の至福の錬金術)。パキスタン、ラホール:Kazi Publications、2001年。 1-47ページ。 *コンパイラによって要約され、説明されています。*

[3] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳:ビラル、ムハンマド・アシム。 *Kimiya-i-Sa'adat* (永遠の至福の錬金術)。パキスタン、ラホール:Kazi Publications、2001年。 48-68ページ。 *コンパイラによって要約され、説明されています。*

[4] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳:ビラル、ムハンマド・アシム。 *Kimiya-i-Sa'adat* (永遠の至福の錬金術)。パキスタン、ラホール:Kazi Publications、2001年。 77-90ページ。 *コンパイラによって要約され、説明されています。*

[5] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳:ビラル、ムハンマド・アシム。 *Kimiya-i-Sa'adat* (永遠の至福の錬金術)。パキスタン、ラホール:Kazi Publications、2001年。 91-140ページ。 *コンパイラによって要約され、説明されています。*

[6] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳:ビラル、ムハンマド・アシム。 *Kimiya-i-Sa'adat* (永遠の至福の錬金術)。パキスタン、ラホール:Kazi Publications、2001年。 141-142ページ。 *コンパイラによって要約され、説明されています。*

[7] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 1 巻、16-34、38-43、51-87 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

不安、激動、混乱の時代における回復力、ポジティブさ、永遠の至福、そして終わりのない成功

[8] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 2 巻、87-133 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[9] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 3 巻、133-135、137、139-147、157、158、160-164、172 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[10] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 4 巻、174-258 ページからの選択。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[11] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 5 巻、258-260、262-264、266、268-269、271-274、277-279、284-287、291-292、294-299、302-314 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[12] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 6 巻、361-364、319-320、323-324、326-327、333、340、342、344-348、352-356、358-361 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[13] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 7 巻、361-364、367-371、373、375、377-382、383、392-397、399-401、403、405-410、418、423 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[14] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 8 巻、425-426、430-435、438、442-449、451-452 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

不安、激動、混乱の時代における回復力、ポジティブさ、永遠の至福、そして終わりのない成功

[15] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 9 巻、452-456、457-460、475-480、502-507、512 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[16] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 3 巻第 10 巻、513-520、522-534、536-541、544-559、561-577、627-629 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[17] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 1 巻、17-18、21、27、29、33、37-38、41、56、60-64、75、85、88、90、99、101-103 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[18] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 2 巻、104-108、113、118、126-129、130、133、136-139、141、142、144-145、148、165-167、169-170、177-179、188-189、201、202、204-205、209、211-212、227 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[19] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 3 巻、228-234、245-247、251、253、258-262、270-271、274-277、288-290 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[20] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 4 巻、290-297、302-303、306-307、311-312、328-331、333-335、339-340、349、351、355、357、359、360 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[21] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 5 巻、366-

380、391-395、404-405、437-438 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[22] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 6 巻、441-462、470、472-476、482-486、492-493、516、521-522、541-542 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[23] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 7 巻、542-550、563-565、567-570、572-573、577-586 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[24] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 8 巻、587-596、603-605、606-610、622-626、631-632 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[25] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 9 巻、632-642、645-646、665-666 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[26] アル・ガザリ、ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: アル・ワジディ、ナディーム。*Ihya al-Uloom ad-Deen*(神への道の知識の復活)。パキスタン、カラチ:Darul Ishaat、1999年。第 4 巻第 10 巻、666-668、670-671、676-681、683-684、688-690、749-750、789-794 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

[27] アル・ガザリ、ムハンマド。英語翻訳(ウルドゥー語翻訳から):ハサン、イルファン。*アイユハル・ワラド*(私の親愛なる最愛の息子または娘)。 *Majmu'a Rasa-il Imam Ghazali* (イマーム・ガザリの短編本コレクション): カラチ、パキスタン: Darul Isha'at、2004 年。第 1 巻、13-17 ページ。英語の翻訳は http://www.ghazali.org/books/My%20Dear%20Beloved%20Son.doc から取得

[28] ルミ、マウラナ・ジャラルディン・ムハンマド。ウルドゥー語翻訳: フセイン、カジ・サジャド。*Mathnavi-e-Maulavi-e-Ma'navi* (深い精神的な意味の対句) 6 巻。パキスタン、ラホール:アルファイ

不安、激動、混乱の時代における回復力、ポジティブさ、永遠の至福、そして終わりのない成功

サルブックパブリッシャーズ。公開日は不明です。ウルドゥー語翻訳は1974年に完成しました。第 6 巻、342-344、347-363、373-374、381-382、389-391、421-426、441-442、443-460、466-467、472-478、505-506、508-511、520-526、530 ページ。 *ウルドゥー語から英語への翻訳とコンパイラによる選択。*

不安、激動、混乱の時代における回復力、積極性、内なる平和、永遠の至福、そして終わりのない勝利

この本は、無力な人々への救いとなり、苦しみに耐えられない苦しみに苦しんでいる人々への援助となり、絶望、憂鬱、悲しみ、欲求不満、内なる空虚という形で内なる苦しみに浸っている人々への安らぎとなり、暗闇に囲まれた人々への光となり、人生の真実、目的、意味を探求する人々へのガイドとなるでしょう。 そして、より良くなり、自分自身、家族、地域社会、国、そして世界のために物事を好転させたいと願う人々のための道です。